

- J1647 驥(き・廬ろ/栗崎くりさき、別名;元驥、字;千里、栗崎道意男/廬草拙の婿養子)1707-5549 長崎通事、詩文;1520崇福寺の謙光寂泰門、1525稽古通事/43小通事、531養父の遺志継承し長崎人物伝「先民伝」編、「韓客贈酬日記」編  
[驥の通称/号]通称;千之助/伝次郎、号;勉斎/蘭圃、法号;晋徳院
- T1671 機(き・小野おの、) 1794 - 185663 備中浅口郡船穂の書家/南画;黒田綾山門、上京;絵師;同郷の四条派絵師柴田義董門/師没後は岸駒門、同門の大原吞舟と交流、丹波亀山藩の飛地の玉島長尾住;亀山藩御用絵師/士格に準ず、山水画・花鳥画を能くす、  
[機(;名)の字/通称/号]字;世張、通称;貞三郎、号;雲鵬/湘雲
- J1648 驥(き・森下もりした、字;千里/通称;松亭/号;翫翠園)1764-184380 近江彦根藩医、

「文政七麻疹録」  
「簸揚はよう傷寒論」著

驥(き・武井、字;千里)	→	樗斎(ちよさい・武井、儒者)	K 2 8 3 7
驥(き・平山/平)	→	千里(せんり・平山ひらやま/平、和算家)	N 2 4 2 6
驥(き・牧)	→	詩牛(しぎゅう・牧まき、詩人)	Q 2 1 1 3
驥(き・重松しげまつ)	→	篤太夫(とくだゆう・重松/張、藩士/記録)	L 3 1 1 7
驥(き・中田)	→	錦江(きんこう・中田、千里、藩士/漢学)	Q 1 6 9 3
驥(き・多賀谷)	→	酔雪(すいせつ・多賀谷たがや、幕臣/絵師)	E 2 3 7 7
騏(き・都築/畠中)	→	胴脈先生(どうみやくせんせい、畠中観斎、狂詩)	3 1 2 2
祺(き・増田)	→	紫陽(しやう・増田ますだ、藩儒/尊攘/詩)	G 2 2 4 6
几(き・内山)	→	眞龍(またつ・内山うちやま、国学者)	4 0 3 0
木(き)	→	童木(わらわぎ、重頼女、後拾遺歌人)	5 3 6 3
希(き・一万田)	→	如水(じすい・一万田いちまだ、医者、漢学)	M 2 2 6 2
沂(き・人見)	→	桃源(とうげん・人見ひとみ/野、幕府儒官)	D 3 1 4 2
規(き→まどか・中島)	→	棕隠(そういん・中島なかじま、漢学/詩人)	2 5 0 4
規(き・岩原)	→	恵規(よしのり・岩原いわはら、藩士)	G 4 7 0 2
器(き・杉野/片山)	→	恒斎(こうさい・片山/杉野、藩士/儒者)	F 1 9 0 3
器(き・畑井/田/蒔田)	→	暢斎(ちやうさい・蒔田/田/秦/畑井、書家)	I 2 8 3 7
紀(き・永原)	→	南山(なんざん・永原ながはら、儒者)	J 3 2 0 4
紀(き・中根)	→	鳳河(ほうか・中根なかね、藩儒者)	3 9 2 5
奇(き・宮崎)	→	筠圃(いんぼ・宮崎みやざき、儒者/書画)	E 1 1 7 0
希(き・沢田)	→	織部(おりべ・沢田さわだ、儒者)	D 1 4 3 6
暉(き・松井)	→	輝星(くわいせい・松井まつい、易占家)	B 1 6 3 6
輝(き・池田)	→	輝(てる・池田いけだ/一条いちじやう、廷臣室/歌人)	F 3 0 2 9
翬(き・萩原)	→	秋巖(しゅうがん・萩原はぎわら、書家/詩)	W 2 1 8 7
熙(き・高原)	→	東郊(とうこう・高原、儒者/詩)	D 3 1 8 8
熙(き・松浦)	→	熙(ひろむ・松浦まつら、藩主/農地改革)	H 3 7 4 5
熙(き・長川ながかわ)	→	東洲(とうしゅう・長川、儒者)	E 3 1 9 8
熙(き・国造)	→	塵隠(じんいん・国造くにのみやつく/くにづくり/国、儒者/医者)	D 2 2 4 6
熙(き・村松)	→	春甫(しゅんぼ・村松むらまつ、俳人/画)	K 2 1 4 4
熙(き・寺沢)	→	明(阿支羅あきら・寺沢、国学)	E 1 0 2 0
熙(き・加藤)	→	桜老(おうろう・加藤、儒/国学/尊王派)	C 1 4 7 3
熙(き・田代/長川)	→	東洲(とうしゅう・長川ながかわ、儒者/教育)	E 3 1 9 8
熙(き・河田)	→	熙(ひろむ・河田、幕臣/渡欧)	F 3 7 9 4
熙(き・山田)	→	復軒(ふっけん・山田やまだ、藩士/儒者)	D 3 8 3 2
熙(き・小林/佐藤)	→	西山(せいざん・佐藤/小林、儒者/北辺警備)	I 2 4 5 0
熙(き・上野)	→	梅塙(ばいこう・上野うえの、書家/詩歌)	J 3 6 7 6
熙(き・高橋)	→	静斎(せいさい・高橋たかはし、藩士/儒者)	O 2 4 0 4

畿(き・横山/千坂)	→	畿(みやこ・千坂ちさか/横山、幕臣/儒者)	F 4 1 9 2
畿(き・大西)	→	重女(じゅうじょ・上田うえだ、大西/長沢、歌人)	N 2 1 4 9
機(き・小山/館)	→	柳湾(りゅうわん・館たち/小山、役人/詩人)	F 4 9 9 3
機(き・松本)	→	交山(こうざん・松本/上条、茶屋/絵師)	J 1 9 3 1
機(き・後藤)	→	松陰(しょういん・後藤ごとう、儒者/詩人)	F 2 2 2 0
璣(き・安田/山県)	→	璣(たまき・山県/穴戸、藩士/儒者)	S 2 6 2 3
琦(き・南合)	→	果堂(かどう・南合なんごう、藩士/儒者)	H 1 5 5 1
毅(き・藤村)	→	直弘(なおひろ・藤村、書画・俳諧)	C 3 2 3 0
毅(き・三木)	→	雲門(うんもん・三木みき、儒者)	E 1 2 0 9
毅(き・芳野)	→	復堂(ふくどう・芳野よしの、儒者)	B 3 8 6 2
毅(き・川田)	→	蘊江(おうこう・川田かわた、儒者)	B 1 4 6 5
毅(き・鈴木/亀田)	→	鶯谷(おうこく・亀田かめだ/鈴木、儒者)	C 1 4 1 3
毅(き・木村)	→	芥舟(かいしゅう・木村きむら、幕臣/日記)	I 1 5 7 2
毅(き・渡辺)	→	葭谷(かこく・渡辺わたなべ、儒者/詩歌)	H 1 5 4 2
毅(き・井岡)	→	公毅(こうき・井岡いのおか、医者)	I 1 9 2 0
毅(き・渡辺)	→	弘堂(こうどう・渡辺わたなべ、儒者)	K 1 9 8 0
毅(き・布施)	→	胤毅(たねたけ・布施ふせ、幕臣/典故)	R 2 6 8 4
毅(き・三島)	→	中洲(ちゅうしゅう・三島みしま、藩士/儒者)	G 2 8 2 3
毅(き・長尾)	→	鳳翔(ほうしょう・長尾ながお、儒者)	B 3 9 7 2
毅(き・豊島)	→	洞斎(とうさい・豊島てしま、儒者/勤王)	E 3 1 3 5
器(き・田/蒔田)	→	暢斎(ちようさい・蒔田、書家/篆刻)	I 2 8 3 7
基(き;一字名・毛利)	→	隆元(たかもと・毛利もうり、武将/守護)	N 2 6 3 7
基(き・川口)	→	道斎(どうさい・川口、医者)	E 3 1 4 3
基(き・杉崎)	→	天年(てんねん・杉崎すぎさき、儒者)	E 3 0 1 5
基(き・松原)	→	基(もとい・松原、藩士/儒者)	C 4 4 1 0
基(き・菅)	→	基(もとき・菅すげ、藩士/儒者)	C 4 4 4 1
基(き・田島)	→	基(もとい・田島、和算家)	C 4 4 0 9
基(き・五十川)	→	基(もとい・五十川いかわ、藩医者)	C 4 4 1 1
基(き・奥)	→	劣斎(れつさい・奥おく/源、医者;産科)	5 1 8 3
喜(き・青木)	→	徳峯(とくほう・青木、詩文/歌)	L 3 1 3 9
喜(き・福島)	→	芳翁(ほうおう・福島ふくしま、医者;古医方)	3 9 2 3
喜(き・永井)	→	如瓶子(じょへいし・永井/大江、書家/狂歌)	C 2 2 9 5
熹(き・谷口・前野)	→	良沢(りょうたく・前野まえの/谷口、蘭学/医)	I 4 9 8 1
嬉(き・賀来)	→	正臣(まさおみ・賀来かく、藩士/歌人)	O 4 0 7 3
軌(き・福井)	→	敬斎(けいさい・福井ふくい、儒/幕府医官)	E 1 8 6 7
輝(き・中谷)	→	雲漢(うんかん・中谷なかに、儒者)	D 1 2 6 5
輝(き・月田)	→	蒙斎(もうさい・月田つきだ、藩儒;崎門学)	4 4 5 4
輝(き・酒井)	→	貞輝(さだてる・酒井さかい、藩士/地誌家)	I 2 0 7 2
揆(き・井上)	→	桜塘(おうとう・井上いのうえ、儒者/詩)	C 1 4 6 0
揆(き・小菅)	→	香村(こうそん・小菅こすげ、儒者/詩人)	K 1 9 4 3
撫(き・本庄)	→	星川(せいせん・本庄/本荘ほんじょう、藩儒)	C 2 4 4 7
徽(き・北川/香川)	→	琴橋(きんきょう・香川かがわ、儒者)	Q 1 6 8 0
徽(き・浅野)	→	元甫(げんぼ・浅野あさの、医者)	M 1 8 2 6
徽(き・沢)	→	熊山(ゆうざん・沢さわ、漢学/教育者)	B 4 6 9 9
徽(き・久永)	→	松陵(しょうりょう・久永ひさなが、藩士/儒者)	B 2 2 9 8
龜(き・岡田/岩垣)	→	月洲(げつしゅう・岩垣いわがき、儒者)	E 1 8 7 8
龜(き・河村)	→	文鳳(ぶんほう・河村かわむら、絵師)	G 3 8 4 8

T1666 宜(ぎ・小川おがわ、別名;慶亮/布和)1837-1900<sup>64</sup> 駿河府中の医者、儒学;塩谷岩陰とういん門、  
 [宜;(名)の字/号]字;土慶/三宜、号;三宜園/清斎  
 義(ぎ・松井) → 峯山(がざん・松井まつい、絵師) L 1 5 7 4

義(ぎ・西郷/平尾) → 芹水(きんすい・平尾ひらお、儒者/詩) J 1 6 0 3  
 義(ぎ・志賀/原) → 徳斎(とくさい・原はら、儒者/紀行) K 3 1 7 2  
 儀(ぎ・松浦) → 霞沼(かしょう・松浦まつうら/修姓松、儒者) F 1 5 1 2  
 儀(ぎ・中山/秋山) → 玉山(ぎよくざん・秋山、藩士/儒者) 1 6 4 1  
 儀(ぎ・小山) → 儀(ただし・小山、儒/国学) F 2 6 1 1  
 儀(ぎ・多田ただ) → 東溪(とうけい・多田、書/儒者) D 3 1 0 8  
 儀(ぎ・渡辺) → 桃源(とうげん・渡辺、商家/俳人) D 3 1 4 5  
 儀(ぎ・由良) → 箕山(きざん・由良ゆら、医/儒者) K 1 6 5 7  
 儀(ぎ・安井) → 金竜(きんりゅう・安井やすい、藩士/儒者) J 1 6 0 8  
 儀(ぎ・伊藤/伊東) → 好義斎(こうぎさい・伊藤/伊東、儒者) I 1 9 2 4  
 儀(ぎ・吉田/山県) → 守雌斎(しゆしさい・山県/吉田、藩士/儒者) Y 2 1 8 6  
 儀(ぎ・野中) → 祺明(よしあき・野中のなか、幕臣/歌人) O 4 7 4 4  
 儀(ぎ・小山) → 儀(ただし・小山こやま、国学/儒者/詩人) F 2 6 1 1  
 宜(ぎ・伊藤) → 宜謙(ぎけん・伊藤いとう、医者/辞書) F 1 6 2 8  
 宜(ぎ・多湖) → 松江(しょうこう・多湖たこ/湖、儒者/詩人) S 2 2 1 3  
 宜(ぎ・吉雄) → 忠次郎(ちゅうじろう・吉雄よしお、通詞/シホ<sup>ホ</sup>外事件連座) G 2 8 4 6  
 宜(ぎ・安藤) → 竜淵(りゅうえん・安藤あんどう、幕臣/書家) D 4 9 0 4  
 誼(宜ぎ・沢/服部) → 大方(たいほう・服部/沢、藩士/儒者) C 2 6 2 0  
 誼(ぎ・よしみ・原沢) → 文仲(ぶんちゅう・原沢はらさわ、医者) G 3 8 1 7  
 祇(ぎ・藍沢) → 南城(なんじょう・藍沢あいざわ、儒者) J 3 2 2 0  
 祇(ぎ・大原) → 美能理(みのり・大原おおはら/公地、国学/歌) I 4 1 4 9

B1698 其阿(きあ・ごあ) ? - ? 南北期; 亀井山円福寺の時宗僧/連歌作者:

1423熱田社法楽連歌「参加(宗匠格; 12句)、  
 [滝浪たきなみやきこえぬ風にかかるらん](熱田社法楽; 賦何山初表5/無風静寂の中の轟音、  
 前句; 宮寿丸; ゆふべのみねか雲しづかなる)

J1649 其阿(きあ・ごあ) ? - ? 越前時宗僧/連歌作者:

1476「後美濃千句[表佐千句]」参加(宗祇と)、新撰菟玖波集入

1600 其阿(きあ・ごあ) ? - ? 室町後期伊予時宗宝巖寺住持/連歌作者:  
 「大山祇社法楽連歌」作者(1480通直らと千句/82万句)

1667 其阿(きあ・ごあ) ? - ? 時宗僧/連歌作者、

1743「御賀おんが千句」入(吉宗60賀)

快存と同一? → 快存(かいぞん・時宗僧・遊行50世) I 1 5 9 1

J1614 其阿(きあ・ごあ、仏天) 1487 - 157185 時宗僧; 一峰門/遊行上人25世、藤沢(他阿)上人?  
 「遊行十六代四国回心記」著

其阿(きあ、一蓮精舎) → 快存(かいぞん、時宗僧・遊行50世) I 1 5 9 1

其阿(きあ、賞山) → 賞山(しょうざん・月峰、時宗僧) J 2 2 1 9

其阿(きあ、夢々庵) → 心阿(しんあ; 号・泰道、時宗僧/俳人) N 2 2 2 7

其阿(きあ; 法名) → 益政(ますまさ・神じん/物部、武家/連歌) J 4 0 2 1

宜愛(ぎあい・鈴木) → 松江(しょうこう・鈴木、藩儒) I 2 2 7 8

義愛(ぎあい・友田) → 眞澄(ますみ・友田ともだ、神職/歌人) R 4 0 1 0

1668 喜阿弥(亀阿弥きあみ、亀夜叉)?-? 田楽新座名手、「申楽談儀」に入、「熱田」著

J1650 喜安(きあん、名; 蕃元、別称; 喜安入道/喜安親方) 1566-165388 泉州堺の茶人; 庚印門、  
 1600琉球渡航、尚寧王の茶頭/1609島津藩の侵攻で尚寧王が捕虜となり江戸に随行、  
 1611琉球へ、数寄屋惣奉行、「喜安日記」著

J1651 喜庵(きあん・佐々木ささき、村松景家男) 1640-171475 信州伊那吉岡村の生、  
 1669(寛文9)千木村の佐々木家を相続、郷土史家; 伊那の豪族の事蹟研究、「下条由来記」著、  
 [喜庵の通称/法号]通称: 助兵衛、法号; 月照明見庵主

1670 徹庵(きあん・称好軒しょうこうけん、夢梅軒章峰しょうほうの弟)?-? 江前期通俗本作者、  
 明の甄偉「西漢通俗演義(西漢演義伝)」の翻訳「通俗漢楚軍談」8巻; 1695刊(兄の没後継承)、

1699「通俗両漢紀事」著

- I1642 **毅庵**(きあん・江村えむら、名; 棕簡そうかん/簡、訥齋男) 1666-1734<sup>69</sup> 伯父江村樸齋の嗣、京の儒者; 家学、丹後宮津藩儒; 程朱、藩主青山幸秀に随従; 江戸滞在中病没、「毅庵吟稿」「東遊記」「青甸集」著、[毅庵の字/別号]字; 易従、別号; 青甸せいいでん
- 1669 **僖庵**(きあん・中堀) ? - ? 俳人、1718連俳書「萩のしをり」編
- J1652 **喜安**(きあん・辻つじ、名; 尚行、尚成男) 1766-1833<sup>68</sup> 富山藩医; 吉益南涯門、「坐右葉鑑録」「杏園卑記」著
- J1653 **毅庵**(きあん・手島てしま、名; 宗精、齋庵男) 1790-1838<sup>49</sup> 京の心学者; 手島心学道統継承; 五洛舎入、明倫舎主宰、曾祖父; 堵庵とあん、訥庵とつあんの養父、「教のかなめ」「手島毅庵先生大学講義」著、[毅庵の字/通称/別号]字; 惟一、通称; 靱負ゆげい、別号; 惶齋こうさい
- 希庵(きあん・浜田) → 杏堂(きょうどう・浜田/名和、医者/絵師) D 1 6 4 5
- 季安(きあん・伊地知) → 季安(すえやす・伊地知いぢち、藩士/記録) F 2 3 7 2
- 規庵(きあん; 道号) → 祖円(そえん; 法諱・規庵、臨濟僧) D 2 5 3 6
- 喜庵(きあん・岡本) → 宣就(のぶなり・岡本おかもと、兵法家) C 3 5 5 8
- 喜庵(きあん・小島) → 尚質(なおかた・小島/小嶋、幕府医官) 3 2 9 5
- 寄庵(きあん・山田) → 寄齋(きさい・山田やまだ、儒者/詩文) K 1 6 4 7
- 毅庵(きあん) → 直興(なおおき・熊谷/丹、絵/勤王) 3 2 7 9
- 熙安(きあん; 号) → 澹空(たんくう; 法諱・旭応; 字、浄土僧) T 2 6 2 9
- 熙庵(きあん・山下) → 玄和(はるかず・山下やました、医者) G 3 6 1 1
- J1654 **宜庵**(ぎあん・井沢いざわ、文礼男/本姓; 志富田) 1823-65<sup>獄死</sup> 43 紀伊の生/大和五条住、漢学; 頼山陽・篠崎小竹門、1843長崎で医学修得、1863天誅組に参加、転戦後捕縛; 獄中死、詩歌/書/弁舌、「井沢卓詩」著
- [宜庵(; 号)の名/字]名; 卓、字; 子立
- 宜庵(ぎあん・入谷) → 永濃(えいのう・入谷、法橋/歌人) U 1 3 5 7
- 宜庵(ぎあん・岡本) → 宣就(のぶなり・岡本おかもと、兵法家) C 3 5 5 8
- 誼安(ぎあん・須賀) → 精齋(せいさい・須賀すが/賀、儒者) B 2 4 5 4
- 夔庵居士(きあんこじ) → 阮甫(げんぼ・箕作みつくり、蘭学者/幕臣) D 1 8 0 3
- 喜安入道(きあんにゅうどう) → 喜安(きあん、名; 蕃元、茶人) J 1 6 5 0
- 1671 **徽安門院**(きあんもん・寿子内親王、花園天皇皇女) 1318-58<sup>41</sup> 光厳院后妃、母; 正親町実明の女実子、歌人; 後期京極派、1343院六首歌合・49光厳院36番歌合など参加; 隱名新大納言、「法華和歌」等参、勅撰32首; 風雅(30首52/70/120/204/235/318以下)新千載(290/898)、[つくづくとながき春日に鶯のおなじねをのみ聞き暮らすかな](風雅集; 春52)
- 徽安門院一条(きあんもんいんのいちじょう) → 一条(いちじょう・徽安門院女房) B 1 1 2 1
- 徽安門院小宰相(きあんもんのごさいじょう) → 小宰相(こさいじょう・徽安門院) C 1 9 5 9
- 徽安門院二条(きあんもんいんにじょう) → 二条(にじょう・徽安門院女房) 3 3 2 8
- 紀伊(きい) → 祐子内親王家紀伊(ゆうしなしいんのうけのきい) 4 6 0 3
- 紀伊(きい) → 新院紀伊(しんいんのきい、崇徳院家出仕) W 2 2 2 3
- 紀伊(きい・小河原) → 重麿(しげまる・小河原おがわら/藤原、神職) N 2 1 6 0
- 紀伊(きい・野口) → 光胤(みつよし/みつやす・野口のぐち、神職/歌) K 4 1 0 4
- 紀伊(きい・籠黒) → 秀彪(ひでたけ・籠黒のぐろ/太田、神職/国学) K 3 7 5 9
- 紀伊(きい・吉永) → 千秋(ちあき・吉永よしなが/藤原、神職/画) N 2 8 7 9
- 季昵(きい・伊地知) → 季昵(すえちか・伊地知いぢち、藩士/詩人) B 2 3 8 3
- 基維(きい・六角) → 基維(もとこれ・六角ろっかく/藤原/波多、廷臣/書) L 4 4 8 5
- 義維(ぎい・佐竹) → 義維(よしつな・佐竹さたけ、官吏/国学者) N 4 7 0 8
- 義慰(ぎい/よしり・箱石) → 清左衛門(せいざえもん・箱石はこいし、藩士/砲術) I 2 4 3 9
- 紀伊権守(きいごんのかみ・清岡) → 長親(ながちか・清岡きよおか/五条、廷臣/学者) E 3 2 2 8
- 紀伊式部(きいしきぶ) → 紀式部(きのしきぶ、上東門院女房) B 1 6 6 7
- J1655 **基一**(きいち・後藤ごとう) ? - ? 江前/中期1688-1748頃美作の和算家; 1744岐阜滞在、1704「算経本義」著
- J1656 **帰一**(きいち・杉山すぎやま、翁助男) 1798-1861<sup>64</sup> 駿河吉原の蘭医; 野呂天全門/長崎でシーボルト門、



京森下町で開業医/1836帰郷、「甲寅地震記」著

J1657 **規一**(きいち・長谷川はせがわ) 1807-1865<sup>59</sup> 下総大室村の和算家:石橋規天・内田五観門、天文;実川定賢・馬場正督門、帰郷後門弟指導、「成田山額面算題」著、「眞積算梯解義」編 [規一の通称/号]通称;伝次郎/善四郎、号;東穹とうきゅう

V1651 **喜一**(きいち・安井やすい、名;重賢しげかた) 1835-1914<sup>80</sup> 尾張名古屋藩士、国学者;植松茂岳門

喜一(きいち・船山) → 輔之(すけゆき・船山ふなやま、藩士/和算家) D 2 3 5 3

喜一(きいち・入江) → 杉蔵(すぎぞう・入江いりえ、尊攘活動) F 2 3 9 1

喜一(きいち・溝口) → 義平(よしひら・溝口みぞぐち、歌人) L 4 7 1 0

喜一(きいち・上柳) → 久林(ひさしげ・上柳うえやなぎ/関島、国学) I 3 7 6 0

喜一(きいち・横田) → 常富(つねとみ・横田よこた、国学者/歌人) G 2 9 6 9

貴一(きいち・下河) → 東里(とうり・下河しもかわ、藩士/儒者/詩) I 3 1 1 1

鬼一(きいち・森/道体) → 氏継(うじつぐ・森/道体どうたい、和算家) C 1 2 4 7

揆一(きいち・小菅) → 香村(こうそん・小菅こすげ、儒者/詩人) K 1 9 4 3

亀一(きいち・秀島) → 鼓溪(こけい・秀島ひでしま、庄屋/儒/教育) M 1 9 2 8

希一(きいち・野田) → 笛浦(てきほ・野田のだ、藩士/儒者/詩文) 3 0 1 0

季一(きいち/すえかぎ?・山本) → 季鷹(すえたか・賀茂かも/山本、神織/歌人) 2 3 0 6

義一(ぎいち・山鹿) → 義一(よしかず・山鹿やまが、藩士/兵学者) C 4 7 4 8

義一(ぎいち・脇屋) → 義一(よしかず・脇屋わきや、歌人) K 4 7 8 4

義一(ぎいち・宇山/鳥山) → 義所(ぎしょ・鳥山とりやま、儒者/尊王派) K 1 6 8 9

義一(ぎいち・牧) → 東海(とうかい・牧/橘、儒/兵学/脱藩) B 3 1 9 1

義一(ぎいち・秋田/津田) → 鳳堂(ほうどう・秋田/津田、和算家) C 3 9 4 1

義一(ぎいち・三谷) → 義一(よしがず・三谷みたに、神職) P 4 7 3 2

義市(ぎいち・松井) → 乗運(じょううん・松井/牧野、仏師/歌) V 2 2 2 3

己一郎(きいちろう・松岡) → 内平(うちひら・松岡、国学者/歌) D 1 2 1 0

紀一郎(きいちろう・毛利) → 元世(もとよ・毛利もうり/堀田、藩主/歌) I 4 4 7 8

紀一郎(きいちろう・山岡) → 静山(せいざん・山岡やまおか、旗本/槍術家) N 2 4 8 5

記一郎(きいちろう・辻橋) → 見直(みなお・辻橋つはし、藩士/国学) J 4 1 7 8

希一郎(きいちろう・野田) → 笛浦(てきほ・野田のだ、藩士/儒者/詩文) 3 0 1 0

鬼一郎(きいちろう・式守、行司) → 焉馬(2世えんば・鳥亭うてい、狂歌/戯作) B 1 3 3 4

喜一郎(きいちろう・大黒屋) → 完伍(かんご・伊藤/伊東、商家/俳人) Q 1 5 3 5

喜一郎(きいちろう・稲葉) → 英昌(ひでまさ・稲葉いなば、国学者/歌人) I 3 7 5 3

喜一郎(きいちろう・中村) → 清旭(きよあき・中村、藩士/尊王派) N 1 6 0 4

喜一郎(きいちろう・小野/三国屋) → 剛(ごう・小野おの/鶴見、国学者) Q 1 9 4 4

喜一郎(きいちろう・加島) → 一(はじめ・加島かしま、国学者) J 3 6 8 7

喜一郎(きいちろう・勝) → 信義(のぶよし・勝かつ、国学/歌人) H 3 5 9 2

喜一郎(きいちろう・村尾) → 景経(かげつね・村尾むらお、神職/国学) U 1 5 9 9

喜一郎(きいちろう・二渡) → 信経(のぶつね・二渡ふたたり、歌人) J 3 5 9 1

喜市郎(きいちろう・阿部) → 雪麿(ゆきまろ・阿部あべ、俳人) F 4 6 6 5

儀一郎(ぎいちろう・吉松) → 文山(ぶんざん・吉松よしまつ、藩儒) F 3 8 4 1

儀一郎(ぎいちろう・脇) → 蘭室(らんしつ・脇わき/脇屋、儒者) 4 8 1 0

儀一郎(ぎいちろう・浅井) → 正賛(まさとし・浅井、藩医者) E 4 0 5 2

儀一郎(ぎいちろう・瀬見) → 為善(ためよし・瀬見せみ、国学者) X 2 6 7 4

儀一郎(ぎいちろう・吉田) → 親辰(ちかとき・吉田ちかとき、大庄屋/国学) N 2 8 7 8

1601 **紀逸**(初世きいつ・慶けい、本姓;椎名いな、名;土佐/件人かずひと、椎名兵庫男) 1695-1762<sup>68</sup> 江戸の人、

御用鋳物師、俳人;不角・風琴子白峰・祇空門、万句興行/点者;江戸座宗匠、

1750-61「武玉川」1-15編刊、1733祇空追善「六物集」39「飛鳥山」、40「平河文庫」著、

1741「吾妻舞」53「夜寒碑」54「雑話抄」、55「梅五歌仙」57「俳諧歳花集」60「黄昏日記」著、

「梅華集」「俳諧近道」著、

[二夜ふたよ啼なくひと夜は寒しきりぎりす](夜寒碑/江戸返事)、

[紀逸の別号] 竹尊者・硯田舎・倚柱子・不知仏・短長斎、法号;自生庵、

- [庵号] 四時庵、十明庵、自生庵、石霜庵2世、 兄伊予[許人]・妻れん女も俳人、  
 兄 → 許人(きよじん・椎名、俳人) D 1 6 2 4
- 1672 **紀逸**(2世きいつ・慶けい、四時楼[庵]英窓、本姓;井上)?-?1780頃 江戸俳人;3世湖十門、  
 1771-74「武玉川むたまがわ」16篇-18篇編、1773馬卯「双猿路談そうえんろだん」入;3世湖十中心  
 [花にくれし眼ぞあかつきやほととぎす](双猿路談)、  
 [紀逸2世の別号] 風也・晋恕・蔓窓
- 1673 **紀逸**(3世きいつ・是非庵平什・奇々庵、本姓;卷)?-? 江戸俳人・6世湖十門、1798より紀逸を名乗る、  
 1768-雪成せつせい「俳諧觸はいかいけい」入
- 1677 **紀逸**(4世きいつ・奇々庵、本姓;藤)?-? 江戸俳人、1768-1831雪成せつせい「俳諧觸はいかいけい」入
- E1694 **希逸**(きいつ・川口かわぐち、字;子寿)?-? 尾張臨濟僧;幼少時に父死亡;赤貧の中に出家、  
 詩人・岡田新川門、1779「臥遊園詩集」1832「養老泉志」著、  
 [希逸の号] 乾城/延寿道人/霜溪道人
- E1695 **其一**(きいつ・鈴木すずき、名;元長/字;子淵)1796-1858<sup>63</sup> 父は江戸の紫染職人、  
 姫路藩士鈴木蠣潭の養嗣、妻;蠣潭の姉りよ、養父没後姫路藩士、  
 養父同様の酒井抱一ほういつの付人、琳派絵師:抱一門、琳派の革新、  
 「夏秋溪流図屏風」画、1825藐庵「花街漫録」画、1828師抱一の没後諸国行脚、  
 1833「癸巳西遊日記」/35「紅叢紫籙こうそうしよく」36「狂歌三宝集」画、37「狂歌柳花集」画、  
 「狂歌三才拾遺」「百蝶図」「錦葉集」「椿に薄図屏風」「群鶴図屏風」「朝顔図屏風」画、  
 [其一の通称/別号]通称;為三郎、別号;必庵/菁々/噲々かいがい/為三堂/庭柏子/祝琳斎
- J1658 **帰一**(紀一きいつ・平たいら、名;涯/字;光雅/別通称;甚三郎、盛明男)?-1873 羽前白鷹の西洋兵学者、  
 医/兵学;1854下曾根信敦の膺懲館に寄寓/上総一宮藩士;蕃書調所教授方、1854「火枝範」訳
- 希逸(きいつ・山内) → 香雪(こうせつ・山内やまうち、藩士/書家) K 1 9 1 6  
 亀逸(きいつ・村尾) → 景経(かげつね・村尾むらお、神職/国学) U 1 5 9 9  
 義逸(ぎいつ・坂上) → 義逸(よしはや・坂上さかがみ、医者/歌人) N 4 7 1 8  
 帰一堂(きいつどう) → 南窓(なんそう・武村たけむら、書家) J 3 2 2 4  
 帰一堂(きいつどう) → 文献(ぶんげん・各務かがみ、医者/整骨科) F 3 8 0 9
- J1659 **帰一坊**(きいつぼう・雨後庵、通称;駒屋善右衛門)?-? 福井俳人;祐阿門/安田以哉坊系、  
 1817「雁の行先」編、「発句集」著
- 紀伊入道(きいにゅうどう) → 素意(そい、歌人) 2 5 3 8  
 紀伊守(きいのかみ・比志島) → 国貞(くにさだ・比志島ひしじま、藩家老) E 1 7 4 5  
 紀伊守(きいのかみ・山角) → 定勝(さだかつ・山角やまかど、武将/日記) I 2 0 0 3  
 紀伊守(きいのかみ・東条) → 行長(ゆきなが・東条/源、武将/連歌) F 4 6 1 4  
 紀伊守(きいのかみ・畠山) → 基祐(もとすけ・畠山はたけやま、幕府高家) L 4 4 0 0  
 紀伊守(きいのかみ・上月) → 為彦(ためひこ・上月こうつき、神職/国学者) X 2 6 0 7  
 紀伊守(きいのかみ・高水) → 眞井(まない・高水たかみず/斎部、神職/歌) Q 4 0 7 3  
 紀伊守(きいのかみ・行弘) → 正貞(まささだ・行弘ゆきひろ/中原、神職/国学) T 4 0 6 4  
 紀伊権守(きいのごんのかみ・清岡) → 長親(ながちか・清岡きよおか/五条、廷臣/学者) E 3 2 2 8  
 紀伊式部(きいのかみ・比志島) → 紀伊式部(きのしきぶ、上東門院女房) B 1 6 6 7  
 紀伊掾(きいのかみ・西田) → 惟恒(これつね・西田にしだ、国学者) O 1 9 5 4  
 紀伊少将(きいのかみ・藤原) → 公重(きんしげ・藤原、廷臣/歌人) E 1 6 0 9  
 紀伊典侍(きいのかみ・藤原) → 朝子(ちようし・藤原、信西妻/歌人) I 2 8 4 9  
 紀伊局(きいのかみ・藤原) → 朝子(ちようし・藤原、信西妻/歌人) I 2 8 4 9  
 紀伊殿人(きいのかみ・山田) → 尚忠(ひさただ・山田、藩士/国学) B 3 7 3 1
- 1674 **紀伊内親王**(きいのないしんのう/紀内親王きのないしんのう、桓武天皇皇女)799-886<sup>88</sup> 平安前期歌人、後撰769、  
 [津の国のなには立たまく惜しみこそすくも焼たく火の下に焦がるれ](後撰集;恋769)、  
 (難波と名には立たまく[評判が立つこと]を掛ける)  
 紀伊二位(きいのに) → 朝子(ちようし・藤原、信西妻/歌人) I 2 8 4 9
- J1660 **希尹**(きいん・田中たなか、名;登/字;岸卿、清三郎男)1675-1750<sup>76</sup> 豊後臼杵の儒者;伊藤仁斎門、  
 1709越前府中の邑主本多長員の厚遇/13府中住;領内の子弟教育、歌人、「雨中夜話」著
- 1676 **希因**(きいん・大越おおごえ/和田わだ、通称;綿屋彦右衛門)1700-50<sup>51</sup> 加賀金沢の酒造業「綿屋」の主人、

俳人;初め北枝門/のち支考・乙由門、北陸俳壇の伊勢派の重鎮;その居を暮柳舎と号す、  
「希因百句」/1748「百題集」著、「暮柳舎句集」著(息子後川編)、  
「ゆめのあと」著(車大編)、遺稿「北時雨」(13回忌追善;弟如本刊)、  
追善集;「石の声」(陰曹編)、門人;五竹坊/涼袋(建部綾足)/麦水/關更/二柳ら、  
[桐の実のふかれふかれて初しぐれ](暮柳発句集)、[名月や風さへ見えて花すゝき]、  
[希因(;号)の別号]機因(;初号)/紀因/暮柳/暮柳舎/百鶴園、申石子、法号;釈祐律

弟 → 如本(じよほん・大越/館屋、松裏庵、俳人) C 2 2 9 8

息 → 後川(ごせん・小寺/和田/暮柳舎2世、俳人) B 1 9 5 7

J1661 **箕隠**(きいん・松原まつばら、名;徳義)?-? 幕末期紀伊湯浅の詩人・海莊古碧吟社友、  
「古碧吟社小稿」著

季尹(きいん・月輪) → 季尹(すえまさ・月輪つきのみ/藤原、歌・連歌) B 2 3 4 4

紀員(きいん・山田) → 百梅(ひやくばい・山田やまだ、商家/俳人) E 3 7 7 5

喜蔭(きいん・佐々木) → 喜蔭(よしかげ・佐々木ささき、神職/歌人) N 4 7 0 1

亀陰(きいん・松平) → 頼恭(よりたか・松平まつだいら、藩主/詩歌) I 4 7 9 0

亀陰(きいん・大熊) → 秦川(しんせん・大熊おおくま、眼科医/詩人) P 2 2 1 3

1675 **義因**(ぎいん;法諱) ? - ? 1744存 天台僧;豪雲門、「親経融解」編

1678 **祇尹**(ぎいん・小笠原おがさわら、名;長堅)?-1800 幕臣;先手与力、四時観派俳人;祇徳/玄武坊門、  
1769「深川三会」編、

[祇尹の通称/別号]通称;理右衛門、別号;槿花坊/此花仙/松蔭舎、法号;祇勤院

宜尹(ぎいん・片岡) → 志道(しどう・片岡、藩士/見聞記) V 2 1 3 1

宜胤(ぎいん・金子) → 宜胤(よしたね・金子かねこ、国学者) M 4 7 2 5

義尹(ぎいん) → 寒巖(かみがん・義尹ぎいん、曹洞僧) Q 1 5 8 6

義胤(ぎいん/よしたね・志賀/原) → 徳斎(とくさい・原はら、儒者) K 3 1 7 2

義胤(ぎいん/よしたね・川上) → 静庵(せいあん・川上かわかみ、国学者) H 2 4 2 2

義胤(ぎいん/よしたね・土生) → 玄昌(げんしょう・土生はぶ、眼科医) J 1 8 9 8

義胤(ぎいん・富野) → 義胤(よしたね・富野とみの/香川、医者) E 4 7 3 6

義胤(ぎいん/よしたね・湊) → 長安(ちやうあん・湊みなと、蘭方医者) H 2 8 1 4

義胤(ぎいん・善方) → 義胤(よしたね・善方よしかた、国学者) Q 4 7 1 0

義寅(ぎいん・西山) → 退溟(たいめい・西山、藩士/儒/詩人) L 2 6 0 9

槻蔭舎(きいんしゃ・小保内) → 定知(さだとも・小保内おほない、神職/国学) O 2 0 0 6

崎允明(きいんめい) → 淡園(たんえん・戸崎、儒者/詩人) H 2 6 9 4

D1664 **喜雨**(きう) ? - ? 江前期俳人;1691「若みどり」入、  
[こそぐれば靨くぼのひづむ笑ひ泣き](若みどり/前句;其方そなた次第とうちもたれぬる)

E1696 **其雨**(きう・壺長人) ? - ? 筑前篠栗俳人;浮風門、1787「諸九尼続発句集」編;7回忌

義于(ぎう・丹羽) → 義于(よしゆき・丹羽にわ、国学/歌人) O 4 7 2 9

喜雨斎(きうさい) → 何用(かげい・立林たてばやし、絵師) F 1 5 7 7

E1697 **支于助**(きうすけ・奈川ながわ)? - ? 浄瑠璃作者、1796「讐報春住吉」著

喜宇助(きうすけ・福森) → 久助(初世きゆうすけ・福森、歌舞伎作者) 1 6 2 7

喜宇助(きうすけ・福森) → 久助(3世きゆうすけ・福森、歌舞伎作者) M 1 6 7 3

喜雨亭(きうてい) → 有隣(ゆうりん・本間ほんま、俳人) E 4 6 1 0

宜雨堂(ぎうどう;塾号) → 蘭室(らんしつ・神保じんぼ、儒者) C 4 8 4 5

喜雨廬(きうろ・桑原) → 如則(じよそく・桑原くわばら、藩医/文学) M 2 2 6 7

1679 **基運**(きうん;法諱) ? - ? 1380存 南北期法師/歌人;慶運(けいん)門/1369古今伝授を受、  
慶雲男説(;了俊歌学書)あり/慶雲の高弟説が有力;慶雲の実子慶孝の後見役、

1380.5月土岐頼康家歌合参加(;講師)、新後拾遺975、

[消えはてんむなし煙の末までもなびくかたとは人に知られじ](新後拾遺;恋975)

1602 **喜雲**(きうん・中川なかがわ、名;重治、重定男) 1636-1705?70? 丹波馬路の医者;慶雲門、  
俳諧;貞徳・貞室門/1648頃から地方歴遊;安藝広島・京などに住;医・俳を業とす、  
仮名草子を著作、1658名所案内「京童」/59「鎌倉物語」「私可多咄」/62「案内者」著、  
1667「京童跡追」71「都案内者」著、1676西鶴「誹諧師手鑑」82風黒「高名集」入、

後行方不明;1705(宝永2)没説あり、  
[上差うはさしや月の弓射るうつば草](手鑑/高名集/広嶋滞在中の句、月の弓;三日月、  
鞞草;穂状の花を箆に差す上差の雁股の鐙矢に見立てる)

[喜雲(;剃髮号)の通称/別号]通称;吉左衛門、別号;山桜子さんおうし

E1698 帰雲(きうん・菅谷すがや/すげのや、名;清成、清乗男)1757-182367 上州高崎藩士/父の遺跡;槍持奉行席、  
気性激しく藩主の勘気;1790武州野火止に謫/容赦;1807異国船漂着取調方;銚子に派遣、  
儒/詩;平沢旭山・沢田東江門、江湖詩社参加;市河寛斎の影響を受けた、  
「帰雲山房詩集」「銚海客談」、1810「唐宋古詩格」16「帰雲山房絶句鈔」著、  
[帰雲の字/通称/別号]字;伯美、通称;門次/喜兵衛、別号;松夢/五痴、法号;静憲松夢

J1663 起雲(きうん;字・岡おか、名;猶竜/通称;中書)?-? 江中期1772-89頃京の儒者、  
1782「和漢統詩学解環」編

U1690 希雲(きうん・中川なかがわ、)1798-185457 近江栗太郡瀬田橋本の醸造業、歌人・俳人、  
頼山陽と交流;瀬田川渇水時に入手した唐橋の古柱木に山陽が[蠡山いざん]と命名、  
珍本蒐集家、  
[希雲(;)号)の名/通称]名;保民、通称;六左衛門/自得

J1664 帰雲(きうん;号) ? - ? 江戸末期茶人:茶道普及、1859「木の芽のすさび」著

起雲(きうん・水谷) → 雄琴(ゆうきん・水谷/水之谷みずのや、源、易占) B 4 6 2 8

帰雲(きうん・藤堂) → 高克(たかかつ・藤堂とうどう、藩家老/教育) Y 2 6 3 9

旗雲(きうん;道号) → 祖旭(そぎょく;法諱・旗雲、曹洞宗僧) J 2 5 4 3

輝雲(きうん;道号) → 秀旭(しゅうぎょく;法諱・輝雲、曹洞宗僧) W 2 1 9 2

喜運(きうん・広瀬) → 喜運(よしゆき・広瀬/三浦、郷土史家) H 4 7 9 2

J1665 義雲(ぎうん;法諱) 1253 - 133381 鎌倉期曹洞僧、永平寺5世・中興祖、初め天台華嚴修学、  
禅門;1276越前宝慶寺寂円門/宝慶寺住持、1314永平寺住持;宗学興隆、  
「永平頂王三昧記」「正法眼蔵品目頌」「義雲和尚語録」著

1680 義運(ぎうん;法諱/初め;増詮、足利満詮男)1386-? 1457存 室町期天台僧;増珍門、伯父尊氏猶子、  
実相院門跡/1413園城寺長吏/大僧正/法印/42准三后、歌人、家集「花の宿」、  
「後福照院殿御詠草」、新統古(8首114/538/676/1043/1373/1602/1849/1859)・新苑8句入、  
[咲きそむる一もとゆゑに山の端の雲をみながら花かとぞみる](新統古今;春114/初花)

E1699 義運(ぎうん) ? - ? 仮名草子作者;鈴木正三しょうさん門、  
1661「因果物語片かな本」編

岐雲(ぎうん・岩瀬) → 忠震(ただなり・岩瀬/設楽、幕臣/詩/画) Q 2 6 3 7

儀雲(ぎうん;道号) → 示教(じとん;法諱・儀雲;道号、臨濟僧) F 2 1 3 4

宜運(ぎうん;法諱) → 滄海(そうかい;道号・宜運、臨濟僧) G 2 5 4 8

義運院(ぎうんいん;法号) → 倫綱(ともつな・朽木くつき、藩主) P 3 1 8 3

起雲軒(きうんけん) → 清友(きよとも・青木、俳人) P 1 6 9 9

F1601 起雲誰(きうんすい) ? - ? 俳人、1719雑俳撰集「花火船はなびるね」編(内山勘兵衛板)

帰雲坊(きうんぼう) → 松後(しょうご・佐々木、町役人/俳人) C 2 2 8 4

起雲廬(きうんろ) → 綾山(りょうざん・黒田くろだ、絵師) E 4 9 2 2

F1647 喜栄(きえい) ? - ? 俳人;1691不角「二葉之松」入、

[我が足りにならぬ心の駒の力りき](二葉之松;458/心の駒は欲望/欲の強さは不満を招く)

F1602 其齋(きえい・朝山あさやま) ? - 1727? 俳人・才磨門、1716江戸浅草に東下の師の説聴講、

1716「才磨語録」筆録(:1718椎本才美編「椎本先生語類」入)、

1周忌追善「紫むらさきの糸」東蝶庵可叟編(;辞世朝顔の句に因み諸家の朝顔の句入/1728刊)

季英(きえい・柳田/草場) → 允文(いんぶん・草場/柳田、藩士/書家) G 1 1 0 7

季英(きえい・岸畑) → 季英(すえひで・岸畑きしはた、詩人) F 2 3 5 9

季栄(きえい・正親町/四条) → 隆叙(たかのぶ・四条、廷臣/日記) M 2 6 6 8

季栄(きえい・賀茂) → 季栄(すえひで・賀茂かも/山本、神職) F 2 3 5 8

其映(きえい・有馬) → 頼僅(よりゆき・有馬ありま、藩主/和算家) J 4 7 9 3

基栄(きえい・片桐) → 源一(げんいち・片桐かたぎり、歌人) H 1 8 7 0



義永(ぎえい・小峯) → 政朝(まさとも・小峯/結城/白川/藤原、武将/連歌) E 4 0 6 4  
 義栄(ぎえい・足利) → 義栄(よしひで・足利あしかが、室町將軍) G 4 7 3 6  
 義栄(ぎえい・山名) → 義栄(よしひで・山名やまな/源、旗本/歌) K 4 7 8 7  
 義英(ぎえい・三好) → 義英(よしひで・三好みよし、国学者) G 4 7 4 2  
 義英(ぎえい/よしひで・佐竹) → 義厚(よしひろ・佐竹さたけ/源、藩主/歌) K 4 7 5 1  
 葵衛足山人(きえいそくさんじん) → 三碩(さんせき・戸坂とさか、医者/俳人) M 2 0 5 0

U1607 宜益(ぎえき;法諱、俗姓;橋村はしむら) 1678-1755 78 近江滋賀郡の臨濟僧、伊予大洲の曹溪院7世、国学者、

[宜益の通称/号]通称;桂麿、号;桂峯(;道号?)

桂麿(かつらまろ・橋村) → 宜益(ぎえき、臨濟僧/国学) U 1 6 0 7  
 義益(ぎえき・村瀬) → 義益(よします・村瀬むらせ、和算家) H 4 7 1 8

F1600 喜右衛門(きえもん・辻林つじばやし、修姓;衢く、名;富芳) ?-? 江中期和泉三林の本草家、1774「救病不邪秘方」/83刊「妙薬手引草」著、[喜右衛門の号]申齋/独妙

J1666 喜右衛門(きえもん・村井むらい、名;信重、弥兵衛男) 1752-1804 53 周防櫛ヶ浜の漁師;長崎香焼島で鰯漁、長崎港内オランダ沈船引揚に成功、萩藩から苗字帯刀、「蛮喜和合楽」入、正純まさずみの祖父

喜右衛門(きえもん・後藤) → 光信(みつのお・後藤ごとう、金工/白銀師) E 4 1 3 5  
 喜右衛門(きえもん・榎並/鯛屋) → 海音(かいおん・紀さの、浄瑠璃作者/狂歌) 1 5 0 1  
 喜右衛門(きえもん・田辺) → 整斎(せいさい・田辺/上毛野、藩儒/記録) B 2 4 5 2  
 喜右衛門(きえもん・田辺) → 晋斎(しんさい・田辺/上毛野、整斎男/藩儒/記録) E 2 2 1 6  
 喜右衛門(きえもん・田辺) → 損斎(そんさい・田辺たねべ、晋斎男/藩士/儒者) F 2 5 3 8  
 喜右衛門(きえもん・熊谷/田辺) → 簡斎(かんさい・田辺、損斎の養嗣/藩士/儒者) Q 1 5 5 4  
 喜右衛門(きえもん・唐金) → 梅所(ばいしょ・唐金からかね/倉野、商家/詩文) B 3 6 5 3  
 喜右衛門(きえもん・初世鶴屋、書肆) → 鶴右衛門(つるえもん・小林) E 2 9 5 4  
 喜右衛門(きえもん・鋏屋) → 未雷(みらい・滄浪亭そうろうてい;号、俳人) 4 1 4 5  
 喜右衛門(きえもん・釜屋/善野) → 徳成(とくなり・通用亭、狂歌/戯作) L 3 1 2 6  
 喜右衛門(きえもん・油屋) → 千里(ちり・苗村なえむら/粕屋、俳人) K 2 8 4 8  
 喜右衛門(きえもん・浦野) → 直勝(なおかつ・浦野、藩士/文筆家) B 3 2 0 5  
 喜右衛門(きえもん・白井) → 鳥酔(ちようすい・白井しらい、俳人) 2 8 2 4  
 喜右衛門(きえもん・菅) → 里翠(りすい・菅、松毬庵/俳人) B 4 9 2 9  
 喜右衛門(きえもん・田畑) → 吉正(よしまさ・田畑/田端/源、幕臣/系譜) H 4 7 0 8  
 喜右衛門(4代きえもん・岩室) → 子饒(しじょう・岩室いわむろ、醸造家/詩) L 2 1 0 0  
 喜右衛門(5代きえもん・岩室) → 楽々(らくらく・岩室、醸造家/俳人) D 4 8 3 7  
 喜右衛門(6代きえもん・岩室) → 松宇(しょうう・岩室、醸造家/俳人) L 2 1 2 6  
 喜右衛門(7代きえもん・岩室) → 斗斎(とさい・岩室、醸造家/俳人) S 3 1 7 1  
 喜右衛門(きえもん・斎藤) → 彝斎(いさい・斎藤さいとう、藩士/儒者) F 1 1 4 5  
 喜右衛門(きえもん・川北) → 温山(おんざん・川北かわきた、儒者/詩文) B 1 4 6 1  
 喜右衛門(きえもん・玉屋) → 海門(かいもん・上野うえの、儒者;古文辞) J 1 5 0 9  
 喜右衛門(規右衛門きえもん・松村) → 宗悦(そうえつ・松村、茶人/歌人) G 2 5 2 8  
 喜右衛門(きえもん・森) → 鼎(かなえ・森もり、藩士/儒/砲術) O 1 5 2 6  
 喜右衛門(きえもん・天川) → 友親(ともちか・天川あまかわ/赤松、郷土史家) P 3 1 7 7  
 喜右衛門(きえもん・小代) → 布水(ふすい・小代こじろ、藩士/儒詩) C 3 8 8 2  
 喜右衛門(きえもん・根岸) → 典則(つねのり・根岸/中原/岸、商家/歌/禅) D 2 9 1 7  
 喜右衛門(きえもん・鷹野) → 素風(そふう・鷹野たかの、俳人) E 2 5 2 9  
 喜右衛門(きえもん・原) → 喜鶴(きかく・原はら、将棋士) J 1 6 8 1  
 喜右衛門(きえもん・鶴屋初世) → 鶴右衛門(つるえもん・小林、書肆) E 2 9 5 4  
 喜右衛門(きえもん・藤森) → 文輔(ぶんぼ・藤森ふじもり、紺屋/俳人) G 3 8 4 3  
 喜右衛門(きえもん・永島) → 拾山(しゅうざん・永島ながしま、俳人) X 2 1 4 2  
 喜右衛門(きえもん・深野) → 致陳(むねのぶ・深野ふかの/三浦、国学者) E 4 2 2 0  
 喜右衛門(きえもん・森) → 祐信(すけのぶ・森もり、藩士/兵学者) G 2 3 8 5

喜右衛門(きえもん・岸) → 章彬(ふみあき・岸きし/岩切/村野、藩士/故実) I 3 8 1 5  
 喜右衛門(きえもん・宮部) → 義淳(よしあつ・宮部みやべ、藩士/歌人) C 4 7 1 1  
 喜右衛門(きえもん・宮部) → 義正(よしまさ・宮部みやべ、藩士/歌人) H 4 7 0 4  
 喜右衛門(きえもん・石山) → 雅朝(まさとも・石山いしやま/毛内、絵師/歌人) N 4 0 6 1  
 喜右衛門(きえもん・今掘) → 眞中(まなか・今掘いまぼり、禅僧/歌人) N 4 0 8 1  
 喜右衛門(きえもん・上柳) → 久林(ひさしげ・上柳うえやなぎ/関島、国学) I 3 7 6 0  
 喜右衛門(きえもん・若林) → 豊彦(とよひこ・若林わかばやし、国学/歌) W 3 1 9 6  
 喜右衛門(きえもん・吉田) → 貞(ただし・吉田よしだ、藩士/歌人/絵師) 2 7 3 0  
 喜右衛門(きえもん・枅屋/湯浅) → 正順(まさのぶ/まさより・古高/枅屋、商家/尊攘) S 4 0 3 7  
 喜右衛門(きえもん・丹下) → 光精(みつきよ・丹下たんげ、歌人) I 4 1 5 8  
 紀右衛門(きえもん・井上) → 童平(どうへい・井上いのうえ、酒造業/俳人) H 3 1 0 6  
 幾右衛門(きえもん・大堀) → 正輔(まさすけ・大堀おおほり/源、藩士/歌) O 4 0 4 5  
 幾右衛門(きえもん・武知) → 方穫(まさかり・武知たけち、藩儒/詩人) P 4 0 1 6

U1677 儀右衛門(ぎえもん・津久井つくい) 1752-181463 上野山田郡如来堂村(相生村)の代々名主、国学者、  
 1783(天明3)7月浅間山噴火により火山灰降下被害、歌人、

天明年間(1781-88)渡良瀬川洪水厄除のため京の賀茂神社分霊勧請し相生賀茂神社創建

義右衛門(ぎえもん・吉川) → 秀道(ひでみち・吉川よしかわ、伊豆諸島探査) D 3 7 8 7  
 義右衛門(ぎえもん・松田) → 義雄(よしお・松田まつだ、藩士/詩歌) P 4 7 1 4  
 義右衛門(ぎえもん・油屋) → 永興(ながおき・吉田よしだ、商家/国学) P 3 2 3 0  
 義右衛門(ぎえもん・広瀬) → 保水(ほすい・広瀬/北脇、実業家) E 3 9 3 5  
 義右衛門(ぎえもん・近藤) → 安堅(やすかた・近藤こんどう/進藤、国学/歌) F 4 5 9 2  
 儀右衛門(ぎえもん・内藤) → 丈草(じょうそう・内藤なとう、藩士/俳人) 2 2 2 5  
 儀右衛門(ぎえもん・松浦) → 霞沼(かしよう・松浦まつら、儒者) F 1 5 1 2  
 儀右衛門(ぎえもん・蓮沼) → 由道(よしみち・蓮沼はすぬま、藩士/神道家) H 4 7 3 5  
 儀右衛門(ぎえもん・唐物屋) → 岑延(みねのぶ・竹内、自安/商家/歌人) F 4 1 5 1  
 儀右衛門(ぎえもん・小山) → 樹徳(じゅとく・小山、農/商家/俳人) 2 1 7 6  
 儀右衛門(ぎえもん・夏目/井筒屋) → 成美(せいび・夏目、札差/俳人) 2 4 1 2  
 儀右衛門(ぎえもん・吉田) → 宅紹(たくしゅう・吉田よしだ、兵法師範) O 2 6 0 5  
 儀右衛門(ぎえもん・戸板/新井) → 雨窓(うそう・新井あらい、儒者/詩歌) C 1 2 0 2  
 儀右衛門(ぎえもん・太田/池守) → 秋水(しゅうすい・池守/太田、儒者) X 2 1 7 0  
 儀右衛門(ぎえもん・富田) → 一孝(かずたか・富田、藩士/日記) M 1 5 2 6  
 儀右衛門(ぎえもん・石井) → 豊洲(ほうしゅう・石井いし、儒者/藩儒) B 3 9 4 7  
 儀右衛門(ぎえもん・中山/秋山) → 玉山(ぎよくざん・秋山、藩士/儒者) 1 6 4 1  
 儀右衛門(ぎえもん・宮川) → 禄斎(ろくさい・宮川みやがわ、農業/詩・書) 5 2 8 1  
 儀右衛門(ぎえもん・久木) → 政壽(まさひさ・久木ひさき、藩士/国学/歌) G 4 0 5 9  
 儀右衛門(ぎえもん・渡辺) → 以親(ゆきちか・渡辺わたなべ、和算/測量家) E 4 6 8 5  
 儀右衛門(ぎえもん・渡辺) → 閑哉(かんさい・渡辺わたなべ、名主/農村開発) S 1 5 9 3  
 儀右衛門(ぎえもん・鳥山) → 俊斐(としあきら・鳥山とりやま/源、歌人) T 3 1 4 8  
 儀右衛門(ぎえもん・福田) → 太華(たいか・福田、藩士/武術/絵師) B 2 6 0 9  
 儀右衛門(ぎえもん・羽生) → 重意(しげのり・羽生はにゅう、国学者) Z 2 1 7 1  
 儀右衛門(ぎえもん・田中/からくり儀右衛門) → 久重(ひさしげ・田中、発明家) B 3 7 1 3  
 宜右衛門(ぎえもん・中島) → 宜門(よしかど・中島/幸田、藩士/歌人) C 4 7 9 6

J1668 喜淵(きえん; 法諱・円珠房えんしゅぼう; 号) 1254-1319?66? 天台宗大原流声明家; 覚淵・宗快門、  
 来迎院住、真言系声明にも精通、声明本/楽理書を著述、  
 1289「尊勝唱礼」、「音律事」「声明書目録」「楽拍子」「例時作法口伝」「羅漢供次第管絃」著、  
 「如法経筆立次第」「如法現修作法」「如法経御料紙并水迎次第」外著多数

1603 洪園(きえん・柳沢やなぎさわ/修姓; 柳、初姓; 曾禰、柳沢保格やすただ2男) 1704-5855 母; 今井氏、  
 1710甲府で柳沢吉保家に出仕/24吉保の転封に従い大和郡山藩士、27大寄合、  
 1729寄合衆筆頭、文武諸芸に通ず、文人画; 祇園南海門/儒; 谷口大雅門/詩; 元淡門、  
 俳; 沾徳門/書; 細井広沢門、能; 観世新九郎門/天文学; 杉村甚四郎門、好んで客人を留む、

「ひとりね」「玉桂百話」「姿絵」「鬢鏡」「柳沢先生一筆」著、「青楼夜話」(散佚)、「雲萍雑誌」?  
[春宵いつこく女房自慢にてくらす所がたのしみ也](ひとりね)  
[淇園(;)号)の名/字/通称/別号]名;貞貴/里恭さとたか/さとも、字;公美、  
通称;権之助/帯刀/九左衛門/図書/下野/権太夫、  
別号:玉桂/竹溪/郡山散人/郡玉山房/円福室(室号)、法号;竹窗院、  
一時;宇佐美九左衛門を名乗る

- 1604 **淇園**(きえん・皆川みながわ、名;愿、成慶[春洞しゅんどう]男)1734-1807<sup>74</sup> 父は京骨董商/儒者;伊藤錦里門、  
経学;開物学を創始、古学四大家の1/1759私塾開塾;教育;門弟3千余、1805学館弘道館建設、  
詩文/書画、栗山・滄洲・儋叟らと三白社結社、「淇園詩集」「淇園文集」「淇園詩話」「易原」、  
「莊子釋解」「名疇めいちゅう」「実字解」「助字詳解」「問学挙要」外著多数、富士谷成章の兄、  
[心を用ゆるの難は 力を用ゆるに倍す](1774問学挙要)、篁斎の父、  
[皆川淇園の字/通称/別号]字;伯恭、通称;文蔵、  
別号:筇斎こうさい/筇斎きょうさい/筠斎いんさい/有斐斎/呑海子、諡号;明経先生/弘道先生
- J1669 **淇園**(きえん) ? - ? 江中期播州加古川の俳人・山李坊青蘿の社中、  
1773「しぐれ会」入集/73几董「あけ鳥」1句入、  
[さしわたし六尺ばかり梅の月](あけ鳥;172)
- J1670 **葵園**(きえん・青木あおき、長沼忠清5男/青木忠栄の養嗣子)1748-78<sup>31</sup> 周防徳山藩士、  
儒者;国富鳳山門/江戸で滝鶴台門;徂徠学を修学、学館助教/目付役/1777江戸勤務/病死、  
「葵園集」編/「葵園遺稿」、  
[葵園(;)号)の名/字/通称]名;節、字;和卿、通称;源蔵
- 1683 **奇淵**(きえん・菅沼すがぬま/修姓;菅)1762-1834<sup>73</sup> 泉州堺出身/大阪俳人;不二庵二柳門/松風会継承、  
大坂蕉門の拡大;法眼、芭蕉終焉地花屋付近に住、1802「季寄大全」03「不二庵終焉記」著、  
1809「西国七部集」11「芭蕉袖草紙」11-16「花市会」編/16「ふと鯨」20「枯野の夢」著、  
1833「両食集」編、「蓬路」「俳諧四部栗」「ひこ鯛」著、「奇淵七部集」、1772几董「其雪影」入、  
[毛氈もうせんに寐ねたる心の小春かな](其雪影;巻尾393/桃序号)、  
[奇淵の別号] 奇中/七杉堂/奇淵坊/茅渚翁/桃序/大黒庵、花屋庵/花屋裏
- I1643 **葵園**(きえん・皆川みながわ、名;正本/字;理卿/通称;嘉平)1773-1813<sup>41</sup> 越後帯織村儒者;藍沢北溟門、  
江戸;松下葵岡(一斎)門、浅草に開塾/帰郷;北溟の家塾継承、「葵園遺稿」
- J1671 **枳園**(きえん・高階たかしな、名;経宣/字;子順、法眼東逸男)1773-1843<sup>71</sup> 医者・1817典薬大允、  
1821安藝守/正四下、「国字類聚略方譜」「枳園合薬房方譜」「瘍医活談」「証治要訣伝」著
- J1672 **葵園**(きえん・田中たなか、美矩男)1782-1845<sup>64</sup> 母;辻重意女、佐渡相川下京町の生、奉行所地役人、  
儒者・1793西川恒山門/軍学・武術も修学、1802(享和2)佐渡奉行所出仕(地役人)、  
1805師没後;七軒屋に社友と広業堂建設;文学・武芸を研鑽、1810亀田鵬斎の講義聴講、  
1813(文化12)奉行所内に素読所設置/1812(文化9)父没;家督継嗣;従太郎を称す、  
1819(文政2)江戸赴任/儒;林述斎/佐藤一斎門、20帰郷;家塾広業堂を開く、詩歌人、  
1823広恵倉(こういそう;米価調節)設置;物価安定/窮民救済に尽力、修教館創建;子弟教育、  
妻;酒匂多左衛門女のかつ、実斎・千齡の父、  
1823(天保9)佐渡一国一揆に連座、のち復職;奉行所広間役、  
1841(天保12)焼失した学問所を再建、「佐渡志」西川明雅と編纂(藤木実斎が完成)、  
「葵園詩鈔」「南冠集」「富士百首集」/1835「佐渡奇談」著、「葵園遺稿」、  
[葵園(;)号)の名/字/通称/別号]名;美清よしきよ、字;士廉、通称;安五郎(初称)/従太郎よたろう、  
別号;北溟/雪顛/空谷居士、法号;白蓮社、諡号;弘道先生
- J1673 **寄園**(きえん・榊原さかきばら、名;近知/通称;東太夫)1790-1848<sup>59</sup> 伊勢宮後の狩野派絵師;野村釣玄門、  
「榊原寄園先生画手本」著
- J1674 **龜淵**(きえん・古森こもり、名;厚孝/字;徳元、俳人厚光[省吾]男)1800-44<sup>45</sup> 伊勢山田書家、  
篆刻;小俣蝮庵門、俳諧、1837「偏類六書通」編、  
[龜淵の通称/別号]通称;内記、別号;蕭々亭しょうしやうてい/南浦なんぼ
- F1603 **枳園**(きえん・森もり、名;立之たつゆき/弘之、幸三男、祖父恭忠の嗣)1807-85<sup>79</sup> 江戸八丁堀竹島町医者、  
;伊沢蘭軒門/本草;佐藤中陵門/国学;狩谷椽斎門、1822祖父の家督;備後福山藩医(養竹名)、  
1837免職;相模を流浪/48赦免/54幕府医学校躋寿館講師、書誌学、「医心方」校刻助校、



「福山植物志」「干魚一観録」、1856「枳園雑説」「経籍訪古志」64「遊相医話」67「枳園叢攷」、  
 「日本古今著書目録」「桂川医話」「蝦夷通信」「蘭軒医談」外著多数、約之のりゆき父  
 [枳園の別号]五禽[堂]/醒齋/節齋/二端道人/水谷山人/浴仙/詠齋かいさい/自言居士/竹窓主人、  
 医号;養眞/養竹

- I1644 **葵園**(きえん・坂本さかもと、名;亮、白蓮居士)1827-81<sup>55</sup> 儒者:岡田鴨里・杏村門、「白蓮池館詩鈔」著  
 其園(きえん・佐々木)→ 竜原(りゅうげん・佐々木/国重、藩儒員) D 4 9 6 6  
 基延(きえん・持明院) → 基延(もとなが・持明院/藤原、廷臣/歌) D 4 4 5 6  
 季遠(きえん・四辻) → 季遠(すえとお・四辻/藤原、大納言/連歌) F 2 3 5 0  
 季遠(きえん・源) → 季遠(すえとお・源みなもと、武将/歌人) B 2 3 2 5  
 弁腕(きえん・千野) → 良岱(りょうたい・千野せんの、藩奥医) I 4 9 7 9  
 汎園(きえん・草鹿) → 玄泰(げんたい・草鹿、医者/詩人) K 1 8 9 1  
 淇園(きえん・原) → 元寅(もとのぶ・原はら、藩士/儒者/詩人) D 4 4 7 1  
 淇園(きえん;剃髮号) → 宣義(のぶよし・林/寺嶋、歌人) D 3 5 9 3  
 淇園(きえん・能勢) → 春臣(はるおみ・能勢のせ/源、磋工/歌人) K 3 6 5 4  
 葵園(きえん・長井) → 在寛(ありひろ・長井、藩士/儒者/書) F 1 0 7 1  
 葵園(きえん) → 厩元(あげん、真宗僧/歌人) 1 0 9 1  
 葵園(きえん・賀茂) → 経樹(つねき・賀茂/岡本、神職/日記) C 2 9 0 1  
 葵園(きえん) → 北溪(ほっけい・魚屋ととや、魚商/絵師) E 3 9 6 0  
 葵園(きえん) → 溪栖(けいせい・葵岡、絵師;北溪門) G 1 8 2 0  
 葵園(きえん・山本) → 梅逸(ばいつ・山本やまもと、絵師) 3 6 5 3  
 葵園(きえん・黒川) → 春村(はるむら・黒川、商人/狂歌/国学) 3 6 3 8  
 葵園(きえん・中川) → 景山(けいざん・中川ながわ、藩士/詩歌) F 1 8 7 8  
 葵園(きえん・宮本) → 元甫(元甫げんぼ・宮本/田結たゆい、蘭医) M 1 8 2 7  
 葵園(きえん・大国/野之口) → 隆正(たかまさ・大国/山本/野之口/今井、国学/歌) 2 6 1 7  
 葵園(きえん・池田) → 木蔭(こかげ・池田いけだ、狂歌) Q 1 9 3 2  
 葵園(きえん・岡崎) → 勝海(かつみ・岡崎おかざき、藩士/国学) U 1 5 0 0  
 葵園(きえん・本多) → 俊民(としたみ・本多ほんだ、藩士/神職/歌) V 3 1 3 5  
 葵園(きえん・山田) → 弁道(べんどう・山田やまだ、修験/国学) S 2 7 5 7  
 葵苑(きえん・岩沢) → 幸年(ゆきとし・岩沢いわさわ、藩士/歌人) G 4 6 5 8  
 希淵(きえん・曾我) → 簡堂(かんどう、曾我そが、儒者) R 1 5 5 7  
 槻園(きえん・大沢) → 稻彦(いなひこ・大沢おおさわ/松尾、庄屋/歌) K 1 1 0 4  
 槻園(きえん・高山) → 茂樹(しげき・高山たかやま、神職/国学) Z 2 1 3 1  
 機園(きえん・藤井) → 承基(つぐもと・藤井ふじい、商家/国学) G 2 9 2 7  
 輝延(きえん・大河内) → 輝延(てるのぶ・大河内おこうち/松平、藩主/老中) F 3 0 0 5  
 輝淵(きえん・高) → 良斎(りょうさい・高こう/山崎、蘭医;眼科) H 4 9 6 4  
 禧園(きえん・石川) → 依平(よりひら・石川いしかわ、国学/歌人) 4 7 3 5  
 禧園(きえん・原川) → 方教(よりのり・原川はらかわ、依平門歌人) O 4 7 6 6  
 亀園(きえん・山本) → 清樹(きよしげ・山本やまもと、歌人) V 2 6 5 8  
 亀淵(きえん・服部) → 盛章(もりあき・服部はっとり、歌人) L 4 4 0 2  
 驥園(きえん・紀) → 邦基(くにもと・紀き、江戸期文筆家) D 1 7 2 6
- 1681 **義円**(ぎえん・法師、内大臣三条[藤原]公親[1222-88]男?)?-? 鎌倉期僧/歌人、報恩院住?、  
 続千載集1511、  
 三条公親男とすると太政大臣実重/大僧正実超/房子(後深草院皇子久明親王母)と兄弟、  
 [うきながらいまはかたみの夜はの月せめて涙にくもらずもがな](続千載;恋1511)
- 1682 **義演**(ぎえん;法諱、一字名;山、灌頂院、二条晴良男)1558-1626<sup>69</sup> 母;貞敦親王女、將軍義昭の猶子、  
 真言僧;1564醍醐寺入;雅厳門、76大伝法院座主/醍醐寺80世/79大僧正/85准三后、  
 三宝院門跡32世;三宝院中興の祖、1598秀吉の醍醐寺花見催行;寺観一新、家康に接近、  
 1596「義演准后日記」1604「下清滝宮類聚」編、「大地震記」「五八代記」著、  
 連歌;1621何人百韻



- J1675 **義円**(ぎえん;法諱、野宮宰相男)?-1802 東寺住真言僧;金勝院潮海門/随心流師伝を類聚、「随流重口説」「随流別伝」「随流伝法水灌頂諸支度類聚」、1781「伝授分齊」著  
 祇円(ぎえん) → 祇円(しえん・禅溪;道号、曹洞僧) P 2 1 7 1  
 義円(ぎえん・法名) → 義教(よしのり・足利/源、室町將軍/歌) 4 7 2 4  
 義延(ぎえん→よしのぶ・北条)→ 因水(だんすい・北条、俳人/浮世草子) 2 6 9 2  
 義延(ぎえん・朝山) → 義延(よしのぶ・朝山あさやま、廷臣/歌人) L 4 7 2 1  
 蟻園(ぎえん、阿里園) → 世南(せいなん・高橋たかはし、俳人) J 2 4 3 4  
 宜袁(ぎえん・杉山) → 宜袁(よしなが・杉山すぎやま、家老/郷土史) F 4 7 3 0  
 宜焉齋(ぎえんさい) → 俊山(春山しゅんざん・吉田、絵師/鑑定) K 2 1 8 4  
 義焉子(ぎえんし) → 去来(きょらい・向井、俳人) 1 6 5 4
- J1676 **義延親王**(ぎえんしんのう、名;幸嘉/法号;十如院、後西天皇皇子)1662-1706<sup>45</sup> 天台園城寺実相院門跡、母;清閑寺共綱女共子(東三条局)、1682一身阿闍梨、「補陀落山長尾寺縁起」著  
 期速亭(きえんてい) → 常如(じょうにょ;号・光晴;法諱/東本願寺15世、俳人) B 2 2 0 8  
 亀園入道(きえんにゅうどう) → 良本(よしもと・林はやし、藩家老/歌人) H 4 7 7 0  
 義淵坊(ぎえんぼう) → 靈典(れいてん、華嚴高山寺僧) 5 1 5 4  
 奇淵坊桃序(きえんぼうとうじょ) → 奇淵(きえん・菅沼、俳人) 1 6 8 3
- V1625 **幾百**(きお・こお・松平まつだいら、朽木、出雲松江藩主松平宗衍むねのぶ女)1756-1809<sup>54</sup> 江戸生/歌人、松平治郷はるさと(不昧/1751-1818)の妹、福知山藩主朽木昌綱(1750-1802)正室;のち離縁、[幾百(;名)の別名/通称/法号]別名;幾万、通称;幾百姫/幾百女きおじよ・こおじよ、法号;蓮池院きお(浅井) → きを(浅井、心学者) Q 1 6 6 1
- F1604 **龜翁**(きおう・多賀谷たがや、通称;万右衛門、岩翁男)1677-? 江戸俳人;其角門、1690一夏百句を吟、1691「花摘追加」15歳;勸進牒入、91「猿蓑」94「句兄弟」入、[春風に脱ぎもさだめぬ羽織哉](猿蓑四;余寒の当座)  
 鬼翁(きおう・加藤/牧野) → 西鬼(さいき・牧野、一得/俳人) 2 0 6 9  
 龜翁(きおう・大蔵) → 永常(ながつね・大蔵おおくら、農政家) E 3 2 5 4  
 龜翁(喜翁きおう・富谷) → 休圃(きゅうほ・富谷とみたに/保見やすみ、歌人) M 1 6 8 8  
 龜翁(きおう・橋本) → 甫人(ほじん・橋本はしもと、俳人) E 3 9 3 0  
 喜翁(きおう) → 国貞(初世くにさだ・歌川、3世豊国/絵師) 1 7 2 9  
 葵翁(きおう;号) → 忍激(にんちやく;法諱、浄土僧) G 3 3 7 0  
 機翁(きおう;号) → 玄俊(げんしゅん・里村、幕府連歌師) D 1 8 9 2
- J1677 **義鷗**(ぎおう) ? - ? 越後三条の俳人、1690言水「新撰都曲みやこぶり」入 [常ながら念仏唱えぬ師走かな](新撰都曲)
- V1646 **宜応**(ぎおう・毛内もうない、名;茂肅げとし、茂巧げよし男)1736-1804 江中後期;陸奥弘前津軽藩士、1758(宝暦8)父が閉門/家督嗣;300石/手廻組/1768目付/69諸手足軽頭、1779(安永8)持筒足軽頭;82(天明2)致仕;長男茂幹に家督譲渡;隠居、茂幹・石山雅朝の父、1784(天明4)大飢饉発生;藩士の帰農土着政策を提案;藩主津軽信明に直談判;計画実施;自ら水木村に土着;農作業に励む;屋敷名は拳長亭or拳長館、和漢学修学/菅江真澄と交流、しかし帰農政策は藩士や農民の軋轢を生ず;1798廃止、のち毛内家も弘前に戻る、[宜応(;隠居号)の初名/通称/別号]初名;茂長、通称;有右衛門/弥藤太/左衛門、別号;伯恭/拳長館  
 義央(ぎおう・吉良) → 義央(よしなか・ひさ・吉良きら/源、幕臣) F 4 7 2 3  
 義翁(ぎおう・箕田/服部) → 中庸(なかつね・服部/箕田、医/国学) E 3 2 4 8  
 宜翁(ぎおう) → 日可(にっか・竹庵院、日蓮僧) D 3 3 7 3  
 奇応観(きおうかん) → 山陽(さんよう・芝の屋、狂歌) G 2 0 0 9
- F1605 **淇奥堂主人**(きおうどうしゅじん)?- ? 狂文、1813?「春窓秘辞」編  
 奇屋(きおく・渡辺) → 為綱(ためつな・渡辺わたなべ、国学者) 2 7 4 7  
 幾百女(きおじよ/幾百姫・松平) → 幾百(きお・松平まつだいら、歌人/不昧妹) V 1 6 2 5
- 1684 **幾音**(初号;器音きおん・中堀なかほり、柳和軒、初知しよちの弟)?-? 大坂梶木町の俳人・宗因門、のち尼崎町住、1669「百五十番発句合」右方参加、1673西鶴「哥仙大坂俳諧師」、1673西鶴「生玉万句」入/75「大坂独吟集」巻頭百韻入/76西鶴「古今俳諧師手鑑」入、

1681賀子「山海集」入、1682「俳諧発句家土産いづと」編、1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、狂歌；1666行風「古今夷曲集」8首入、

[驚飛びて白魚躍る水際みぎは哉](古今俳諧師手鑑)

[庭の苔数寄屋の畳剃りたての頭も青き茶の湯なりけり](夷曲集/青尽くし；未熟、楽隠居し頭を丸め茶室を造った俄茶人の未熟な茶の湯を諷刺)

亀音(きおん、俳名) → 宗十郎(そうじゅうろう・2世沢村) B 2 5 8 8

亀音(きおん；俳名) → 高助(2世たかすけ・助高屋、歌舞伎役者) C 2 6 9 1

其音(きおん・園) → 其音(もとね・園/藤原、権大納言/歌) M 4 4 1 6

其音(きおん・竹奥舎) → 寛(ひろし・羽仁はに、藩士/俳人) L 3 7 5 4

徽音(きおん・近藤) → 眞琴(まこと・近藤こんどう、洋学/海軍) 4 0 8 0

義音(ぎおん・松平/杉浦) → 比隈満(ひくまら・杉浦、神職/国学) 3 7 4 9

**祇園三女**(ぎおんさんじよ、京祇園社鳥居そばの茶店女主人とその家族、歌人)

→ 玉瀾(ぎよくらん・町女まちじよ) P 1 6 4 0

→ 百合女(ゆりじよ、町女母) G 4 6 1 6

→ 梶女(かじじよ、祇園の梶/百合女の養母) C 1 5 0 8

F1606 **其瓜**(きか) ? - ? 俳人、寛政1789-80頃「其角句解抜書」著

其雫(きか・梅津) → 其雫(きてき・白雲洞、梅津忠昭、家老/俳人) B 1 6 5 5

基家(きか・藤原) → 基家(もといえ・藤原、廷臣/陸奥守) M 4 4 2 3

基家(きか・藤原) → 基家(もといえ・藤原、廷臣/日記) 4 4 1 1

基家(きか・九条) → 基家(もといえ・九条/藤原、廷臣/詩歌) C 4 4 1 2

基夏(きか・齋藤) → 基夏(もとなつ・齋藤/藤原、武家/歌人) D 4 4 5 9

紀家(きか・紀) → 長谷雄(はせお・紀、廷臣/漢学者) 3 6 1 9

喜遐(きか・木原) → 宗円(そうえん・木原きはら、俳人) 2 5 7 1

季華(きか・林) → 毛川(もうせん・林はやし、藩士/藩政改革) 4 4 5 9

季擘(きか・古賀) → 侗庵(とうあん・古賀、儒者) 3 1 0 2

季駟(きか・安倍) → 季駟(すえとし・安倍あべ、楽人) F 2 3 5 1

基雅(きか・中山) → 基雅(もとまさ・中山/藤原、廷臣/歌人) E 4 4 2 7

基雅(きか・東園) → 基長(もとなが・東園ひがしぞの/藤原、廷臣/日記) D 4 4 5 2

義雅(ぎか・平賀) → 義雅(よしまさ・平賀ひらが、藩士/領主/和学) O 4 7 7 8

F1607 **喜海**(きかい；法諱・義林房ざりんぼう；号) 1178-1250 73 華嚴僧・1198明恵門、梅尾高山寺創建に助力、華嚴大疏抄の聴講完了；十無尽院初世/梅尾山の寺務総監/師没後に学頭、「華嚴祖師伝」著、「春日大明神御託宣記」「梅尾明恵上人伝記」「明恵上人臨終記」「華嚴宗名目」著

J1678 **熙快**(きかい・竜) ? - ? 伊勢の御師ごし/俳人；神風館系、

1679心友「伊勢宮笥」3吟百韻入、1679「杉の村立」入(；浦田正相せいしょう・足代弘氏ひろうじらと)

1685 **機外**(きがい；道号・坦道たんどう；法諱、号；雪庵、俗姓申淵) 1809-57 49 上野堀越村曹洞僧；

長昌寺全契門、1833上州厩橋隆興寺住持、詩文/書、「閑雲遺稿」編

鬼外(きがい・福内) → 源内(げんない・平賀、物産/発明家) 1 8 2 8

鬼外(きがい・菊池) → 武保(たけやす・菊池、文筆家) B 2 6 1 3

機外(きがい・山岡) → 次隆(つぎたか・山岡、儒者/詩) 2 9 5 2

徽外(きがい・木村) → 卓堂(たくどう・木村/源、儒者) O 2 6 1 6

V1672 **義海**(ぎかい；法諱、法師) ? - ? 江前期；禅僧、歌人、

1688浅井忠能ただり[難波捨草]入、

[難波の鉄元和尚(黄檗僧鉄眼道光か?)の経語を忠能と共に聴聞するころ、

忠能より《通ふらん心も深き難波瀉道に入江のあしもやすめず》の贈歌に返し、

よしあしの難波いとはずかりの世の法に入江の道もとむとて](難波捨草；雑788)

J1679 **義海**(ぎかい；法諱・沖黙ちゅうもく；字) ?-1755 浄土僧；江戸増上寺学寮で修学、岩槻浄国寺22世、

1750太田大光院34世、1725「蓮宗禦寇編」著(華嚴宗鳳潭「念仏明導劄」に反駁)、

1694「仏像幟義凶説」「浄土論註補正記」「蕉窓漫筆」「義海上人詩稿」著、「義海上人遺稿」、

[義海の法名] 騰蓮社空誉

義懐(ぎかい・藤原) → 義懐(よしちか/よしかね・藤原、中納言/歌) E 4 7 4 5

- 義介(義价ぎかい;法諱) → 徹通(てつう;道号・義介、曹洞僧) E 3 0 7 3  
 義海(ぎかい;字) → 日鏡(にちきょう;法諱・要伝院、日蓮僧) B 3 3 2 9  
 義海(ぎかい;法諱) → 松兄(しょうけい;号、本願寺派僧/国学) G 2 2 3 2  
 顛海(ぎかい;字) → 日亨(にちこう;法諱・遠沾院、日蓮僧) B 3 3 8 2  
 姫介叟(きかいそう) → 田鶴樹(たづき・浅見、俳人) 2 6 3 6  
 鬼外楼(きがいろう) → 内成(うちなり・福廼屋、狂歌) B 1 2 7 9
- J1680 季格(きかく・西川にしかわ/初姓清水しみず)?-? 江前期伊予の儒者:大洲藩主臣/1638脱藩、  
 近江の中江藤樹に從学、1697「集義和書頭非」著
- 1605 其角(きかく・榎本えのもと/宝井たからい、名;侃憲、医者竹下東順男)1661-170747 江戸医;草刈三越門、  
 儒;寛齋門/詩;大顛和尚門/画;英一蝶門/書;佐々木文山門、俳人・芭蕉門、1686立机、  
 1683「虚栗」87「続虚栗」90「花摘」編/91「猿蓑」序、93「萩の露」94「枯尾花」「句兄弟」編、  
 1697「末若葉」編、1701「焦尾琴」編/04「千疋猿」「昼の錦」、「五元集」「続五元集」外著多、  
 [諷うたいは俳諧の源氏なり][諷は謡曲/源氏は源氏物語、1992其角「雑談集」]  
 [日の春をさすがに鶴の歩み哉](五元集拾遺;春/新春の景)  
 [此木戸や鎖じやうのさゝれて冬の月](猿蓑)  
 [其角の通称/別号]通称;八十八/平助/源助/源蔵/順哲、  
 別号;螺舎・狂雷堂・狂而堂・六蔵庵・善哉庵・文合庵・宝晋齋・晋子・螺子・涉川・薯子・雷柱子
- M1660 鬼角(きかく) ? - ? 上州小幡の俳人;1693不角「一息」入  
 [相酌あひやくは仲違へとのあて事か](一息/相酌は互いに酌をしながら飲むこと)  
 (当時相酌は仲悪くなる飲み方とされた/女が打解け相酌したがもう来るなの意だったか)
- F1608 騎角(きかく・坂さか、号;如水軒)?-? 江前中期京白河のの浮世草子作者:  
 1701「好色河念仏」「娘知里計草」/02「都女品定」著
- S1636 起角(きかく) ? - ? 伊豆御菌村の俳人;1703不角「広原海わたつみ」入、  
 [色衣しきえ式朱黒衣こくえ式百の布施差別しやべつ](広原海/前句;世は名聞みやうもんで固めたりけり)、  
 (色衣は上位の僧/純粋な信仰でもお布施に2.5倍の差別/世間体にとらわれる風潮を批判)
- J1681 喜鶴(きかく・原はら、名;元善)?-? 江中期大阪将棋士:1717四段、  
 1717「将某図彙考鑑」21「象戯名将鑑」編(架空実践譜)、21「象戯訓」編、「将某綱鑑」著、  
 [喜鶴の通称/別号]通称;喜右衛門、別号;飛桂院/玄角、法名;日香
- J1682 鬼角(きかく・山本やまもと、名;善従)1774-183158 美作久米郡棚原の里正/俳人;宵灯房其風門、  
 のち松後門、諸国歴遊、1828「秋風塚」編、「鬼角集」「鬼角文」著、  
 [鬼角の通称/別号]通称;丈八/丈八郎、別号;巖峯亭がんぼうてい、法号;法光院
- V1627 其鶴(きかく・松室まつむろ、旧姓;小倉)1827-1856?30? 伊勢度会郡の国学者;足代弘訓ひろのり門、  
 [其鶴(;号)の名/通称/別号]名;忠誠ただまさ、通称;宗謙、別号;玄鶴斎げんれいさい  
 其角(4世きかく) → 万和(まんわ・拾葉庵、俳人) K 4 0 8 8  
 喜角(きかく・平田) → 可竹(かちく・平田ひらた、藩士/兵法家) N 1 5 1 2  
 季鶴(きかく・入江) → 石亭(せきてい・入江いりえ、書家/鑑定家) K 2 4 4 0  
 季愨(きかく・冢田) → 謙堂(けんどう・冢田つかだ、藩士/儒者) E 1 8 9 8  
 亀鶴(きかく・松井) → 素輪(そりん・松井まつい、俳人) E 2 5 5 4
- J1683 亀学(きかく・井田いだ、名;長秀)1756-180247 備中松山藩士/易学家;1788頃京住、  
 1786「歳卦断」88「易学余考」94「相学辨蒙」99「掌中疑卜辨」、「易学通解」著  
 [亀学の通称/別号]通称;要人、別号;潜竜堂
- J1684 姫岳(きかく;号・明洗みょうせん;法諱、俗姓;新渡戸)1760-182364 盛岡天台僧;峰寿院住持、  
 仏典;京聖護院で修学、諸国歴遊/俳人;蕪村門、詩歌/書/絵画、  
 1807「岩鷲縁起」、「向竜斎画談」「入木談」「天台教義」「姫岳句集」「粉引歌」著、  
 [姫岳の字/別号]字;弁珠、別号;和足峰寿/向竜斎/蘇民堂/佳句堂
- J1685 輝尊(きかく・関せき、名;定之丞/字;子萃/通称五太夫、儀右衛門男)1772-181241 信州小諸の富農、  
 和算;藤田貞資門/神谷藍水門、藍水の伝書を継承、門弟;上原信友/竹内武信ら、  
 「交等円累円廉術」「当流算法目録解」著
- I1645 磯岳(きかく石井いし、名;光致、片柳定保男/石井善兵衛養子)1784-184663 下野絹織業、儒;林門、

孝慈勤儉を主唱;山形村の疲弊を救済、1827「磁石論」28「害事論」30「和漢曆原考」外著多数、  
[磯岳の字/通称]字;子徳、通称;吉之進

- J1686 **亀岳**(きがく・松本まつもと、法諱;日観、通称;教覚) 1814-6249 江戸深川八幡境内絵師、  
笠亭仙果と交流、「北野累末御禁言」著、「随筆」編、  
[亀岳の別号] 大幻窟/梅之房  
梅之房教覚と同一? → 教覚(きょうかく・梅之房、社僧/連歌) C 1 6 3 2  
輝嶽(きがく;道号・隆杲) → 隆杲(りゅうこう;法諱、曹洞宗僧) D 4 9 8 4
- 1686 **祇角**(ぎかく) ? - ? 俳人・祇徳門、1764「橘中仙」撰  
義画(ぎかく・伊尾喜/沢田) → 静修(せいしゅう・沢田/伊尾喜、藩儒) I 2 4 6 4  
義核(ぎかく・佐竹) → 義堯(よしあか・佐竹さたけ/相馬、藩主) E 4 7 1 2  
義学(ぎがく;字) → 湛契(たんけい;法諱・義学;字、天台僧/廷臣) T 2 6 3 2  
其角堂(6世きかくどう) → 螺窓(らそう・穂積ほづみ、鼠肝/俳人) B 4 8 4 4  
其角堂(7世きかくどう) → 永機(えいき・穂積、俳人) 1 3 2 0  
喜鶴堂(きかくどう) → 酉生(ゆうせい・山口やまぐち、俳人) I 4 5 6 5  
義覚房(ぎかくぼう) → 六因義覚房(ろくいんぎかくぼう、華嚴僧) 5 2 7 6
- 1687 **戲家山人**(ぎかさんじん) ? - ? 洒落本作者、1799「仲街艶談」著、  
式亭三馬説あり → 三馬(さんば・式亭、戯作者) 2 0 5 5  
帰花仙(きかせん) → 巴文(はぶん・松村、俳人) F 3 6 6 1
- F1609 **季幹**(きかん・膝とう) ? - ? 漢詩;1768「竜門先生文集」第2篇編・校
- 1688 **亀貫**(きかん・其流斎) ? - ? 大阪雑俳点者、四徳庵梅州門、  
1833「冠附芦わけ道」、「なにはふり」著  
季寛(きかん・三上) → 季寛(すえひろ・三上みかみ/源、幕臣/記録) F 2 3 6 0  
紀寛(きかん・紀) → 長谷雄(はせお・紀、廷臣/漢学者) 3 6 1 9  
紀寛(きかん・前田) → 利寛(としひろ・前田まへだ、藩主男/和学) W 3 1 4 2  
希韓(きかん・南合) → 蘭室(らんしつ・南合なんごう、藩士/儒者) C 4 8 4 8  
希韓(きかん・南合) → 果堂(かどう・南合、蘭室男/藩士/儒者) H 1 5 5 1  
喜寛(きかん・海老原) → 喜寛(よしひろ・海老原えひら、商家/歌人) Q 4 7 4 6
- B1600 **鬼眼**(きがん・吉田/松まつ) ? - ? 江中期浄瑠璃作者、作品;1774「桜姫操大全」「振袖操大全」、  
1775「江戸自慢恋商人」77「驪山比翼塚」「伊達競阿国戯場」/78「裙重血紅跂」、  
1781「鎌倉三代記」など多数
- J1687 **僖丸**(きがん・香川かわわ、名;貫哉) 1816-8671 儒;林大学門、医;香川法順門、1851上州敷島で開業医、  
俳人;無満らと交流、1858「甘艸集」編  
希顔(きがん・内藤) → 閑斎(かんさい・内藤ないとう、儒者) H 1 5 6 1  
奇巖(きがん;道号) → 法泉((ほうせん;法諱・奇巖、曹洞僧) D 3 9 1 1  
起巖(きがん・巻) → 菱湖(りょうこ・巻まき/館、書家) H 4 9 4 2  
嬉丸(きがん・宇多楽庵) → 宇多楽庵嬉丸(うだらくあんうれしまる、滑作者) D 1 2 0 4
- F1611 **義観**(ぎかん) ? - ? 室町期;足利方の僧;大僧都、歌人、  
1451(宝徳3)「百番歌合」右方入(祐雅[飛鳥井雅世]判)、  
[それとなき草木の色も詠めわびぬ我が身ひとつを秋の夕暮](百番歌合;十九番右)
- J1688 **義観**(ぎかん;法諱・極妙ごくみょう;字、号;安楽院) 1722-9069 泉州真言律僧;東大寺戒壇院の慧光門、  
1734受明灌頂を受/江戸靈雲寺蓮光院住/依鉢戒具足戒を受/高崎大染寺5世/1779靈雲寺6世、  
1775「閑窓随筆」、「謫窓随筆」著
- J1689 **義観**(ぎかん;名、本姓;島田しまだ、字;円盛) 1723-8159 修験宗僧、周防徳山の教学院住職、詩人、  
「赤城詩集」著、「修験宗法具秘決精註」補筆、  
[義観の号] 役えき赤城せきじょう、松蔭
- J1690 **蟻冠**(ぎかん) ? - ? 俳人;1774美角「ゑぼし桶」1句入、  
[興じつゝ傾きし後のちの月を見る](ゑぼし桶;95/今年最期の秋月を楽しむ)
- U1656 **義観**(ぎかん;法諱・園村そのむら、義天2男) 1811-7161 陸奥津軽郡の真宗大谷派僧、  
鱒ヶ沢来生寺12世、国学者;西沢敬秀たかひで門、  
[義観の名/号]名;隆道、号;翠樹屏風舎/達成院



祇歛(ぎかん・中村)	→	祇歛(まさよし・中村なかむら、藩士/尊攘)	R 4 0 1 8
義観(ぎかん;道号)	→	元諦(げんたい:法諱・義観、黄檗僧)	L 1 8 5 4
義観(ぎかん)	→	知真庵(ちしんあん、義観、真言僧/心学)	E 2 8 4 8
義観(ぎかん;字)	→	弘現(こうげん;法諱・義観、真言僧)	I 1 9 6 8
義観(ぎかん;法名)	→	基勝(もとかつ・園その/藤原、廷臣/記録)	C 4 4 3 7
義貫(ぎかん・青柳)	→	高鞆(たかとも・青柳あおやぎ、国学者)	D 2 6 2 8
義貫(ぎかん・佐竹/那須)	→	資礼(すけひろ・那須/藤原/佐竹、幕臣)	C 2 3 6 4
義貫(ぎかん・志田/柿崎)	→	義貫(よしつら・志田しだ/柿崎、藩士/歌人)	L 4 7 3 1
義貫(ぎかん・栗本)	→	義貫(よしつら・栗本くりもと、国学/教育)	M 4 7 6 3
義慣(ぎかん・渡邊)	→	義慣(よしなる・渡邊わたなべ、歌人)	Q 4 7 4 3
義寛(ぎかん・斯波)	→	義寛(よしひろ・斯波しば/源、武将/系譜)	G 4 7 5 4
義寛(ぎかん・多田)	→	義俊(よしとし・多田、神道/故実/浮世草子)	4 7 1 8
義寛(ぎかん・平林)	→	義寛(よしひろ・平林ひらばやし、歌人)	K 4 7 8 2
義寛(ぎかん・佐竹)	→	義寛(よしひろ・佐竹さたけ/高倉、藩主/歌)	N 4 7 0 9
義寛(ぎかん・古岩井)	→	義寛(よしひろ・古岩井こいわい、国学者)	M 4 7 8 4
義巻(ぎかん・吉野)	→	義巻(よしまる・吉野よしの、名主/歌/国学)	Q 4 7 0 9
義幹(ぎかん・長崎)	→	義幹(よしもと・長崎ながさき、藩士/神職)	O 4 7 2 2
義監(ぎかん・津野)	→	文卿(ぶんけい・津野まつ、商家/儒者/詩)	I 3 8 4 9
義鑑(ぎかん;別法諱)	→	徹通(てつう;道号・義介、曹洞僧)	E 3 0 7 3
義顔(ぎかん・南部)	→	義顔(よしつら・南部なんぶ、藩家老/歌人)	E 4 7 7 7
希貫斎(きかんさい・吉村)	→	省(はぶく・吉村、文筆家)	F 3 6 5 9
晞顔斎(きがんさい・林)	→	春勝(はるかつ・林、鷲峰、羅山男/儒者)	3 6 3 0
晞顔斎(きがんさい・平岩)	→	仙山(せんざん・平岩/平巖/平、儒/詩人)	F 2 4 4 6
義貫斎(ぎかんさい)	→	長基(ちようき・有賀あるが、歌学者)	H 2 8 8 0
喜寛子(きかんし・号)	→	喜之(よしゆき・海老原えひら、商家/歌)	K 4 7 3 9
亀岩滝吉(きがんろうきつ)	→	雲山(うんざん・山崎やまさき、絵師/書)	D 1 2 7 3

J1691 帰奇(きき・橋本はしもと、名;善朴)?-? 土佐藩家老深尾家の茶坊主、俳人;美濃派、  
1813近畿中国行脚、1814「袖のしくれ」、「二笠日記」著、

[帰奇の別号] 鳥巢庵/素然坊そねんぼう

琦々(きき・江馬)	→	細香(さいこう・江馬えま、絵師/詩人)	2 0 7 5
希琦(きき・口羽)	→	杷山(はざん・口羽くちば/大江、藩士/儒)	E 3 6 3 4
熙季(きき/ひろすえ・正親町)	→	篤親(あつちか・中山/藤原、廷臣/歌)	E 1 0 6 7
熙貴(きき・山名)	→	熙貴(ひろたか・山名やまな、武将/歌人)	G 3 7 1 4
喜毅(きき・木村)	→	芥舟(かいしゅう・木村、幕臣/提督)	I 1 5 7 2
喜輝(きき・魏)	→	竜山(りゅうざん・魏ぎ、東京通事/語学書)	E 4 9 1 7
喜熙(きき・酒井)	→	喜熙(よしひろ・酒井さかい、藩士/文筆家)	G 4 7 6 6
基輝(きき・鷹司)	→	基輝(もとてる・鷹司/藤原/一条、廷臣)	E 4 4 8 9
基規(きき・持明院)	→	基規(もとのり・持明院/藤原、廷臣/放鷹)	D 4 4 7 9
基熙(きき・近衛)	→	基熙(もとひろ・近衛/藤原、関白/歌人)	E 4 4 0 9
季規(きき/すえり・四辻)	→	季遠(すえとお・四辻/藤原、大納言/連歌)	F 2 3 5 0
季記(きき・安富)	→	季記(すえり・安富やすとみ、家老/歌人)	J 2 3 3 2
季喜(きき・本間)	→	季喜(すえよし・本間ほんま、国学/歌/神職)	I 2 3 9 2
季熙(きき・すえひろ・四辻)	→	季経(すえつね・四辻/藤原、大納言/歌)	B 2 3 2 4
季熙(きき・すえひろ・小倉)	→	季種(すえたね・小倉/藤原、廷臣/歌人)	B 2 3 8 2
紀季(きき・高丘)	→	紀季(おさすえ・高丘たかおか、廷臣/国学)	D 1 4 9 9
亀季((きき・菱田/伊東)	→	藍田(らんでん・伊東いとう/東/菱田、儒者)	D 4 8 0 4
亀基(きき・大塚)	→	亀基(かめもと・大塚おつか/真坂、藩士/歌)	T 1 5 9 3
輝規(きき・大河内)	→	輝規(てるのり・大河内/松平、藩主)	C 3 0 8 5
暉熙(きき・柴田)	→	暉熙(あきひろ・柴田しばた、国学者)	H 1 0 7 1
其義(きぎ・宮川)	→	禄斎(ろくさい・宮川みやがわ、農業/詩・書)	5 2 8 1

- 貴義(きぎ・佐伯) → 貴義(たかよし・佐伯さえき、医者/歌人) X 2 6 1 3  
輝義(きぎ・田中) → 輝義(てるよし・田中/源、神職) D 3 0 0 5  
季義(きぎ・斎藤) → 季義(すえよし・斎藤さいとう、商人/歌人) F 2 3 7 5  
儀倚(ぎぎ・黒岩/中居) → 剛屏(ごうへい・中居なかい、商家/蘭学) L 1 9 0 7  
義熙(きぎ→よしひろ・足利) → 義尚(よしひさ・足利/源、室町将軍/歌) G 4 7 2 5  
義季(きぎ・近藤) → 義季(よしすえ・近藤こんどう、藩士/歌人) M 4 7 9 3  
宜義(ぎぎ・斎藤) → 宜義(のぶよし・斎藤、和算家) D 3 5 9 8  
宜義(ぎぎ・秋田/津田) → 鳳堂(ほうどう・秋田/津田、和算家) C 3 9 4 1  
義誼(ぎぎ/よしみ・原沢) → 文仲(ぶんちゅう・原沢はらさわ、医者) G 3 8 1 7  
奇々庵(ききあん) → 紀逸(3世きいつ・巻、俳人) 1 6 7 3  
奇々庵(ききあん) → 紀逸(4世きいつ・藤、俳人) G 1 6 6 1  
寄々園主人(ききえんしゅじん) → 精溪(せいけい・昌谷さかや/原田、藩儒) B 2 4 1 4  
杞菊園(ききくえん、杞菊軒) → 幹員(もとかず・佐藤さとう、詩人/俳人) C 4 4 2 7  
熙熙子(ききし・国造) → 塵隠(じんいん・国造くにのみやつこ/くにづくり/国、儒者/医者) D 2 2 4 6  
宜々叟(ぎぎそう・仲野) → 安雄(やすお・仲野なかの、庄屋/儒・神道) B 4 5 0 1  
F1612 規吉(きぎつ・児玉こだま) ? - ? 江前期江戸の俳人/長門住、  
1646立圃「底拔磨」に謡俳諧入、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
[花の枝をさすも亀井の浮木かな](手鑑/  
亀井;大坂四天王寺亀井の水/盲亀の浮木を掛る)  
季吉(きぎつ・滋野井) → 季吉(すえよし・滋野井/藤原/土/五辻、廷臣/連歌) F 2 3 7 4  
希吉庵(ききつあん) → 文東(ぶんとう・楓谷庵、俳人) G 3 8 2 9  
熙々堂(ききどう) → 枕山(ちんざん・大沼、詩人) K 2 8 7 6  
宜客(ぎぎやく・菌田) → 一斎(いっさい・菌田そのだ、禰宜/儒詩) E 1 1 1 8  
1690 氣求(ききゅう・大和田おおわだ、名;氏端うじまさ) ?-1672 京寺町通和泉式部前町の書肆、  
儒・国学;古典、俳諧;高瀬梅盛門、1653「字集便覧」刊行、  
自著;1656「伊呂波集韻」58「方丈記泗説」、1658「徒然草古今大意」「徒然草古今鈔」著、  
1667「大和家礼」、「玉篇音引」「字林玉篇大成」著、  
[氣求(;号)の通称/別号]通称;九左衛門/又三郎、別号;武門/真清翁、  
法号;理性りょう気求  
祈久(ききゅう・堀内) → 千崖(せんがい・堀内ほりうち、名主役/俳人) L 2 4 9 0  
紀宮(ききゅう・紀) → 長谷雄(はせお・紀、廷臣/漢学者) 3 6 1 9  
幾久(ききゅう・春廼屋) → 幾久(いくひさ・春廼家、嘶本/狂歌) F 1 1 3 4  
貴久(ききゅう・島津) → 貴久(たかひさ・島津しまづ、武将/守護) M 2 6 9 5  
基久(ききゅう・持明院) → 基久(もとひさ・持明院/藤原/正親町、廷臣/連歌) D 4 4 9 8  
基久(ききゅう・賀茂) → 基久(もとひさ・賀茂かも、神職/歌人) D 4 4 9 6  
基躬(ききゅう・大沢) → 基躬(もとみ・大沢おおさわ、幕臣/高家) J 4 4 5 3  
喜久(ききゅう/よしひさ・庄司) → 唸風(げんぷう・庄司しょうじ、俳人) R 1 6 1 4  
鬼丘(ききゅう・井上/小野原) → 琴水(きんすい・小野原おのほら、儒者) R 1 6 2 6  
F1614 其牛(きぎゅう) ? - ? 俳人、1783甘谷「むさし野三歌仙」入  
帰牛(きぎゅう) → 義導(ぎどう;法諱・福田、真宗僧) L 1 6 6 7  
蹠牛(きぎゅう;号) → 方充(ほうじゅう;道号・紹佗;法諱、臨濟僧) F 3 9 8 4  
1691 亘休(ぎぎゅう・中林なかばやし) ? - ? 江前期大阪の俳人;季吟門、  
1671俳諧選集「難波草」如貞と共編;133句入  
[亘休の別号] 浄貞/一安子  
T1630 義旧(ぎぎゅう・横地よこち、名;よしふる?/よしもと?) ?-? 江中期;歌人、近江彦根の人?、  
本居大平「八十浦の玉」上巻未入、  
[月よみは清く照らすを心なくたゆたふ雲の隠さふをしも](八十浦;270)  
義休(ぎぎゅう・近藤) → 義休(よしやす・近藤こんどう、幕臣/地誌家) H 4 7 7 7  
義休(ぎぎゅう・土屋) → 義休(よしやす・土屋つちや、勸農家) H 4 7 7 4  
義久(ぎきゅう)すべて → 義久(よしひさ)

- 耆求堂(ききゅうどう→しきゅうどう)→道建(どうけん・芦屋あしや、陰陽家/歌人) D 3 1 5 5  
 龜休板(ききゅうばん) → 湖十(初世こじゅう・曾/深川、俳人) 1 9 3 1  
 帰旧坊(ききゅうぼう、帰旧法子)→宗雨(そう・菊池さくち、俳人) G 2 5 0 4  
 寄居(ききよ→ごうな・近藤)→芳樹(よしき・近藤/田中、国学者/歌) 4 7 0 9  
 義許(ぎきよ・佐竹) → 義許(よしもと・佐竹さたけ/多賀谷、城代/書) N 4 7 0 6  
 箕踞庵(ききよあん) → 惟時(これとき・平松ひらまつ、国学者) R 1 9 1 9  
 箕踞庵(ききよあん) → 一芳(いっぽう・多田、読本作者) D 1 1 8 6
- J1692 喜慶(ききょう;法諱、三昧座主、俗姓;額田)889-96678 近江浅井の天台僧;叡山横川の相応門、  
 尊意より瑜伽法・長意より菩薩戒、964法性寺座主/965天台座主17世、「大日経義釈問答」著
- J1693 龜郷(ききょう) ? - 1777 京の俳人;几董門、1776几董「続明烏」6句入、  
 1776道立「写経社集」2句/77蕪村「夜半楽」入、  
 [ころもがへ歩行あるいて見たき心かな](写経社集)
- 1693 帰橋(ききょう・蓬萊山人ほうらいさんじん、河野こうの、名;通秀)1760?-89?30? 上州高崎藩士;  
 江戸桜田藩邸住、洒落本/黄表紙作者、狂歌;南畝・菅江と交流、  
 1778「更紗便覧」79「家暮長命四季物語」79「竜虎問答」80「遊婦里会談」81「通仁枕言葉」、  
 1782「富賀川拜見」85「間似合嘘言曾我」著、1785「後万載集」4首入、  
 1786「壁与見多細身之御太刀」;以後藩主の命令で筆を絶つ、  
 [こよひこの月は世界の美人にて素顔か雲の化粧だにせず](後万載集)  
 [蓬萊山人帰橋の通称/別号]通称;新右衛門、別号:大の鈍金無だいのどんかねし、  
 浮世遍歴斎道郎苦先生(1774「婦美車紫鹿子」著)と同一(1802「花折紙」説)?  
 → 浮世遍歴斎道郎苦先生(うきよへんれきさいどうらくせんせい) B 1 2 2 9
- 帰橋(2世ききょう・蓬萊山人)→焉馬(2世えんば・烏亭、狂歌・春本) B 1 3 3 4  
 帰橋(ききょう・井上) → 素良(もとよし・井上/藤原/梯、藩士/国/史学) J 4 4 1 4  
 寄節(ききょう・佐々木) → 季遊(きゆう・佐々木、閑空、俳人) M 1 6 1 7  
 基教(ききょう・鷹司) → 基教(もとのり・鷹司/藤原、廷臣) D 4 4 7 8  
 基教(ききょう・東園) → 基教(もとのり・東園ひがしぞの/園、廷臣/神楽) L 4 4 1 1  
 季恭(ききょう・河合) → 良温(よしはる・河合かわい、医者/儒者) G 4 7 1 1  
 紀教(ききょう・徳川/松平)→ 斉昭(なりあき・徳川、藩主/攘夷論) G 3 2 9 8  
 貴強(ききょう・松平) → 貴強(たかます・松平まつだいら、幕臣/紀行) N 2 6 2 4  
 輝教(ききょう・葛城) → 輝教(てるのり・葛城、奈良屋長兵衛/書肆) C 3 0 8 7
- 1692 幾曉(きぎょう、竹田?) 1694 - 175663 伊勢山田神職/俳;支考/乙由門、  
 1732頃出家;讃岐玄忠寺住、1734-47吟遊西国行脚;美濃派俳諧を広める、  
 1747「笈塵集」「冬籠」/51「百合野集」、「金毛伝」「誹諧閑伽桶集」「誹諧伊勢たより」編、  
 「俳諧さゝめこと」「初時雨」編、文藻舎春渚の兄  
 [幾曉の別号]幾曉庵/雲蝶(うんちよう)/安楽坊/春坡/躬行/朝鳥舎/星見庵/壺月庵、  
 幽誉上人/浜荻叟
- 季業(ききょう・原/寺島) → 静斎(せいさい・寺島/原、藩士/藩政改革) I 2 4 2 4  
 季嶮(ききょう・井内) → 南涯(なんがい・井内いうち、藩士/儒者) I 3 2 7 0  
 起業(ききょう・野口/山口)→ 起業(おきり・山口やまぐち、国学/神職) C 1 4 9 4
- J1694 義教(ぎきょう;法諱・了翁りょうおう;字、俗姓;小原)1694-176875 能登羽咋真宗僧;氷見西光寺安貞門、  
 越中氷見本願寺派円満寺住職/1755第六代能化職、自坊に学寮大心海設置;学生教育、  
 1738「浄土真宗論客編」、「真宗本尊義判談」「閑寮壁聞」「唯識論講録」外著多数、  
 [義教了翁の号]易往閣/影臨閣/大心海/訪導閣主、諡号;泰通院
- J1695 義鏡(ぎきょう;法諱・松堂;号、俗姓;小田)?-? 江中期1711-16頃安藝山県郡穴村真宗僧、  
 安藝安野本願寺派正覚寺住職/上京;学林修学;知空門、林江浄善寺住職/本山御前講義、  
 晩年帰郷し正覚寺で門徒教育、「排科十門辯惑論裨檢」著
- 義教(ぎきょう・足利) → 義教(よしのり・足利/源、室町将軍/歌) 4 7 2 4  
 義教(ぎきょう・佐々木) → 義教(よしのり・佐々木ささき/宮部、国学/歌) N 4 7 0 4  
 義恭(ぎきょう・海老名) → 義恭(よしたか・海老名えびな、役人/連歌) E 4 7 0 6  
 義恭(ぎきょう・多紀) → 義恭(よしやす・多紀たき、藩士/国学/歌) H 4 7 8 0

- 義恭(ぎぎょう・毛束) → 義恭(よしとか・毛束けつか、名主/神職/歌) M 4 7 6 7  
 義郷(ぎぎょう・上泉) → 義郷(よしさと・上泉かみいづみ/藤原、軍学者) D 4 7 4 0  
 義郷(ぎぎょう/よしさと?・新見) → 正路(まさみち・新見しんみ/源、幕臣/歌人) H 4 0 5 4  
 義郷(ぎぎょう・石井) → 義郷(よしさと・石井いしい、藩士/歌人) D 4 7 4 5
- J1696 義堯(ぎぎょう;法諱、法号;莊厳院、関白九条政基男) 1505-6460 将軍義植の猶子、  
 真言宗三宝院門跡、1521法印/34東寺長者/大僧正、1542「舞楽曼荼羅供」著
- 義堯(ぎぎょう・松平) → 義堯(よしとか・松平まつだいら、幕臣) D 4 7 9 9  
 義堯(ぎぎょう・佐竹) → 義堯(よしとか・佐竹さたけ/相馬、藩主) E 4 7 1 2  
 義暁(ぎぎょう・錦織) → 義暁(よしあき・錦織にしごり、商家/庄屋/日記) O 4 7 3 6  
 幾暁庵(ぎぎょうあん) → 幾暁(ぎぎょう・雲蝶、俳人) 1 6 9 2  
 幾暁庵(2世ぎぎょうあん) → 年緒(としお・菅谷、俳人) M 3 1 1 0  
 幾暁庵(ぎぎょうあん) → 古来(固来こらい・富川とみかわ、俳人) N 1 9 8 7  
 起行院(ぎぎょういん) → 海侃(かいかん:法諱、僧/歌人) U 1 5 1 9  
 桔梗園(ぎぎょうえん・菅沼) → 斐雄(あやお・菅沼すがぬま、歌人) B 1 0 5 8  
 帰郷子(ぎぎょうし) → 玄覚(げんかく;法諱、真宗本願寺派僧) I 1 8 2 2  
 桔梗舎(ぎぎょうのや) → 斐雄(あやお・菅沼、歌人) B 1 0 5 8  
 桔梗屋治介(ぎぎょうやじすけ) → 吞獅(どんし・杉/原はら、妓楼主人/俳人) S 3 1 2 4
- J1641 亀玉(ぎぎょく・亀玉堂ぎぎょくどう、姓;塩野、通称三升屋六兵衛) 1779-185880 江戸青山北町狂歌作者、  
 北斗連判者、「北斗連狂歌集」編、1853「俳諧歌集四季三十六花撰」編  
 [亀玉堂亀玉の別号] 三升鶴包
- 希頊(ぎぎょく;道号) → 周顯(しゅうせん;法諱・希頊、臨濟宗僧) H 2 1 9 0  
 亀玉(ぎぎょく、俳名) → 幸次(幸治こうじ・村岡、歌舞伎作者) F 1 9 0 6  
 希玉(ぎぎょく・草鹿) → 玄竜(げんりゅう・草鹿、医/詩人) M 1 8 9 2  
 季玉(ぎぎょく・横井) → 璨(さん・横井よこい、蘭方医者) L 2 0 7 3  
 義局(ぎぎょく・小川) → 義局(よしとか・小川おがわ、神職) E 4 7 5 4  
 義局(ぎぎょく・小川) → 義局(よしとか・加納かのう、藩士/歌人) M 4 7 1 4  
 義旭(ぎぎょく・宮部) → 義旭(よしあきら・宮部みやべ、藩老/蘭学) C 4 7 0 5  
 其玉斎(ぎぎょくさい) → 書堂(しよどう、俳人) C 2 2 8 6  
 奇玉堂(ぎぎょくどう) → 路圭(ろけい・博多屋、商家/俳人) B 5 2 2 8  
 亀玉堂亀玉(ぎぎょくどうぎぎょく) → 亀玉(ぎぎょく・亀玉堂、狂歌) J 1 6 4 1  
 箕踞散人(ぎぎょさんじん) → 南海(なんかい・祇園/祇/阮、儒/詩/画) 3 2 3 0  
 奇居虫斎(ぎぎょちゅうさい) → 敬直(たかなお・加藤かとう、和漢/考古学) M 2 6 5 2  
 奇々羅金鶏(ぎぎらきんけい) → 金鶏(きんけい・奇々羅、医者/狂歌) 1 6 6 0
- F1615 其琴(基琴ききん) ? - ? 上方音曲家;地歌・端歌、1716-36「吟曲古今大全」著  
 熙近(ききん・竜) → 熙近(ひろちか・竜りゅう/竜野、神職/神仏道) G 3 7 3 4
- 1606 季吟(きぎん・北村きたむら、名;静厚/信証、北村正元[宗円]長男) 1624-170582 近江野洲郡北村の医者、  
 祖父宗竜・父共に医者、京の三条山伏町で医者;武田道安門、古典学;如庵門、俳人;貞室門、  
 1642貞徳の直門、歌学;飛鳥井雅章門、貞室との確執;1656頃俳諧宗匠とし独立、  
 1683まで俳諧師とし活躍、1683京の新玉津島社の社司;古典や和歌の注釈活動;歌学者、  
 1689幕府和歌所(息子湖春と共に招聘);江戸下向、法印、1705(宝永2)江戸に没、  
 俳諧;1648「山之井」、49「師走の月夜」/56「いなご」著、60「新続犬筑波集」編、  
 1663「増山の井」著/64「俳諧両吟集」編、70「季吟俳諧集」73俳論「俳諧埋木」著、  
 1675「花千句」、「犬千句」76「岩つつじ」著「続連珠ぞくれんじゅ」編、等多数  
 注釈;1667「徒然草文段抄」73「源氏物語湖月抄」74「枕草子春曙抄」80「伊勢物語拾穂抄」著、  
 1686「万葉集拾穂抄」/1679-81「八代集抄」、1681「百人一首拾穂抄」著等多数、  
 歌;1684「季吟子和歌」「菟芸泥赴つぎねふ」など、一族の家集「向南家集」入、  
 仮名草子;1655「仮名列女伝」訳/63「女郎花おみなえし物語」など、湖春こしゅん/正立まさたつの父、  
 [咲くやこの今を春べと冬至梅とうじばい](新続犬筑波集)、  
 辞世[花も見つ郭公をも待ち出でつこの世後のちの世思ふ事なき]、  
 [季吟の通称/別号]通称;久助、



別号;慮庵ろあん/呂庵・湖月亭・拾穂軒しゅうすいけん・七松子・再昌院・向南亭・北叟翁

季吟 — 湖春 — 湖元 — 春水 — (養子)季春 — 季文 — 湖南 — 季元すえもと  
正立 — (養子)季任すえとう

義近(ぎきん・猿橋) → 義近(よしちか・猿橋さるはし、書家/狂歌) E 4 7 5 0

義近(ぎきん・田中) → 義近(よしちか・田中たなか、儒者/詩文) E 4 7 5 9

T1651 喜久(きく・今井いまい、岡見経道の長女)1771-1830<sup>60</sup> 常陸水戸の歌人/水戸藩士今井惟俊と結婚、  
長刀を修得、金右衛門の母

U1668 きく(・滝田たきた、号;有制、殻住からすみ女)?-1815 江中後期;信濃飯田の歌人;桃沢夢宅門、  
父の養子須田義制よしり(1776-1811)と結婚

父 → 殻住(からすみ・滝田、藩士/歌人) U 1 5 9 6

夫 → 義制(よしり・滝田/須田、歌人) N 4 7 7 9

T1628 菊(きく) ?- ? 江後期;歌人、茶屋の女、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(「茶汲女菊」名)、

[遠近をちこちの人の恵みの露しづくかかるこのめをいつまでか汲む](大江戸倭歌;雑1881)

菊(きく;一字名) → 雅庸(まさつね・飛鳥井/藤原、蹴鞠/歌/連歌) E 4 0 0 3

菊(きく;一字名) → 通勝(みちかつ・中院/源、廷臣/古典/歌人) 4 1 0 4

菊(きく;一字名) → 通村(みちむら・中院/源、廷臣/歌人) 4 1 2 1

菊(きく;一字名) → 基熙(もとひろ・近衛/藤原、関白/歌人) E 4 4 0 9

菊(きく・鈴木) → 柏子(はくこ・西川にしかわ/鈴木、歌人) D 3 6 0 4

きく(・北野/安斎) → 教子(のりこ・安斎あんざい/北野、歌人) H 3 5 1 9

規矩(きく・西) → 元哲(げんてつ・西にし、蘭外科医/奥医) L 1 8 6 3

J1697 亀具(きく・荒木、晩得2世)?- ? 江中期俳人・初世晩得[1731-92]門

基具(きく・堀川/源) → 基具(もととも・堀川ほりかわ/源、太政大臣/歌) M 4 4 1 3

義矩(ぎく/よしり・山鹿) → 素行(そこう・山鹿やまが、兵学者) 2 5 2 2

義矩(ぎく/よしり・大島) → 伴作(ばんさく・大島おおしま、国学/歌) H 3 6 7 2

菊阿(きくあ、菊阿仏) → 許六(きよろく・森川、俳人) 1 6 5 5

掬靄(きくあい・加藤) → 霞石(かせき・加藤かとう、医者/儒詩人) M 1 5 6 7

菊阿仏(きくあぶつ・森川) → 許六(きよろく/きよりく・森川、藩士/俳人) 1 6 5 5

鞠葦(きくあし・杉) → 孫七郎(まごしちろう・杉/植木、藩士/日記) 4 0 7 2

T1615 菊庵(きくあん・奈須なす、名;玄竹/別号;糞心道人)?-? 江後期;幕府医官、青磁研究、江戸本所に住、

青磁研究書「青甕説せいせつ」著、奈須恒昌つねまさ(玄竹、幕府医者)の子孫、

菊庵(きくあん;号) → 祐可(ゆうか;法諱・唯浄坊、真宗僧/歌) 4 6 8 7

規矩庵(きくあん) → 寥和(りょうわ・大場、俳人) J 4 9 6 6

きくみ(きくい・弦木/屋代) → 野川(のがわ;号・屋代やしろ、歌人) 3 5 5 9

S1661 菊院(きくいん) ?- ? 江中期俳人;

1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、

[足を裂凝やきのふのぬかり道](伊丹発句合;春)

J1698 菊尹(きくいん) ?- ? 俳人;1776几董「続明烏」2句/77蕪村「夜半楽」2句入、

[魚ふたつ試みがほや春の水](続明烏;57)

菊隠(きくいん;道号) → 瑞潭(ずいたん;法諱・菊隠、曹洞宗僧) E 2 3 8 2

菊隠(きくいん) → 蒙庵(もうあん・志村、儒者/詩人) 4 4 4 1

J1699 鞠塙(きくがきう・佐原さわら/北野、名;秋芳)1762-1831<sup>70</sup> 仙台生/1781-89頃江戸堺町芝居茶屋奉公、

1800頃独立;日本橋住吉町に骨董屋開店/1810所払/11剃髪、向島寺島村に園地造成、

酒井抱一が百花園と命名、俳人;道彦門、1804「盛音集」12「秋野七草考」「俳諧墨多川集」、

「花袋」「春秋七草考」「秋芳園展観目録」「梅屋花品」「菊着綿」「群芳暦」外著多数、

[鞠塙の通称/別号]通称;喜久七/平八/平蔵/北野屋平兵衛/菊屋卯兵衛/北平、

別号;菊宇/海隠居士/秋芳園/百花園/春秋花庵/菊亭/平々/鞠阜/掬黄

K1600 義空(ぎくう;法諱;号;求法ぐほう上人/如輪上人、藤原忠明男)1171-1241<sup>71</sup> 出羽天台僧;叡山澄憲門、

台密/俱舍論に精通、1227京の真言宗大報恩寺(千本釈迦堂)を建立、澄空の師、

「論議故実聞書」著

- G1648 **義空**(ぎくう;法諱・勝尾寺かつおじ)?-? 撰津三島郡勝尾寺の僧/俳人、  
1676西鶴「古今誹諧師手鑑」/82風黒「高名集」入、  
[露にうつる月や千種のうす眼鏡](手鑑/高名集、  
新千載;430光厳院/末遠き千草の露に影満ちて野辺こそ月は照りまさりけれ)  
以空の誤写か → 以空(いく;法諱、真言宗高僧[1636-1719]) F 1 1 2 7
- 1694 **祇空**(ぎくう・稲津いなづ、通称伊丹屋五郎右衛門)1663-173371 大阪薬種商/俳諧:惟中門、  
芳室/芳州の兄、1702江戸住;才磨・其角門、1707以後俳壇で活躍、  
1709関西・鎌倉行脚/1711隅田川畔に有無庵結庵、1714箱根早雲寺の宗祇墓前で剃髪;  
改号祇空、1716潭北と奥羽行脚/19京紫野に菩提庵を結ぶ、敬雨と改号、1724甲斐/江戸行脚、  
1731箱根に石霜庵を結ぶ/五色墨竟宴に一座、蔽牛へいぎゅうの父、  
1695「住吉物語」1709「大和紀行」「鎌倉紀行」/15「みかへり松」17「鳥糸う欄」「祇空落髮句」著、  
1719「雨の集」著、33祇徳・祇明「四時観」判、/1716風葉「江戸筏」独吟歌仙(清流名)入、  
鶏筑波・朽葉集入、追善「石霜庵追善集」弟芳室編/1748刊「敬雨十三回忌」(仲上法策編)、  
[秋風や鼠のこかす杖の音](吐糸「玄湖集」入)、  
辞世[この世をばぬらりくらりと死ぬるなり地獄潰しの極楽の助]、  
[祇空の別号]清流(;初号)/有無庵/竹尊者/菩提庵/敬雨/石霜庵/玉笥山人/阿桑門/空閑人
- K1601 **義空**(ぎくう;法諱) 1687 - 175367 天台;叡山法曼院僧/法印/1733大僧都、1720「天台座主記」、  
1725「独時省」26「行門還源記」44「大会講儀要略」、「生源秘記」「庵鎮家国法」外著多数  
疑空(ぎくう) → 叡空(えいく、叡山学僧/歌) 1 3 2 2  
帰空坊(きくうぼう) → 松後(しょうご・佐々木、町役人/俳人) C 2 2 8 4  
菊翁(きくおう・有田) → 正但(まさただ・有田ありた/石井、医者/歌) N 4 0 2 5  
菊江(きくえ・松尾) → 元珍(もとよし・松尾まつお、酒造業/歌人) L 4 4 3 6  
菊園(きくえん)すべて → 菊園(きくぞの)  
義空(ぎくう) → 無門(むもん;道号・原眞;法諱、臨濟僧) D 4 2 0 6  
祇空(4世ぎくう) → 祇徳(3世ぎとく・小西、俳人) J 1 6 3 2
- K1602 **菊英**(きくえい・東居斎) ? - ? 大阪雑俳点者、1808「俳諧意のしぼり」1819「冠附早苗取」著  
菊右衛門(きくえもん・金沢屋) → 解記(げき・佐藤、縮布商/和算家) G 1 8 8 6  
喜久右衛門(きくえもん・橋本) → 政方(まさみち・橋本はしもと、与力/記録) B 4 0 9 2  
喜久右衛門(きくえもん・橋本) → 政孝(まさたか・橋本/中条、政方の養子/与力/槍術) D 4 0 2 9
- K1603 **菊園**(きくえん・葛岡くずおか、名;政香まさか/字;仲英/通称;中榮、政道男)1808-6457 土佐出身/病弱、  
弟に家督譲り諸国の名医歴訪;大坂で産科医開業、詩文/国学・歌、  
「実験方意考」「活法一家説」著  
菊園(きくえん・水野) → 忠邦(ただくに・水野、藩主/詩歌) F 2 6 0 5  
菊園(きくえん・田中) → 躬之(みゆき・田中たなか、藩医者/国学者) G 4 1 0 4  
菊園(きくぞの・田中) → 猛之(たけゆき・田中/山村、躬之養子/国学) X 2 6 8 7  
菊園(きくえん・飯島) → 勝休(しょうきゅう・飯島いじま、藩士/故実) Q 2 2 9 3  
菊園(きくえん・河地) → 時雍(ときやす・河地かわち、国学者) U 3 1 8 7  
菊園(きくえん・熊谷) → 直茂(なおしげ・熊谷くまがい、国学者) L 3 2 9 6  
菊園(きくえん/幾久能垣内) → 安春(やすはる・牧野まさの/加藤、医者/国学) G 4 5 6 3  
菊垣(きくえん・志村) → 蒙庵(もうあん・志村、儒者/藩主侍講) 4 4 4 1  
菊腕(きくえん) → 公名(きんな・西園寺、太政大臣/歌) E 1 6 3 5  
鞠園(菊園きくえん) → 清春(きよはる・菱川、絵師) Q 1 6 1 7
- K1604 **菊男**(きくお・荒巻あらまき、名;雅陳、蘭里男)1757-181559 豊後杵築酒造業/俳人;蝶夢門、  
1792「俳諧時雨塚百回忌」編/98「宇良富士の紀行」編、  
[菊男の通称/別号]通称;為右衛門/楠屋、別号;益亭
- B1604 **菊雄**(きくお・閑樹園かんじゅえん) 1817-8468 江戸俳人、1852「俳諧六物記」57「青かつら」編、  
1861「俳諧つれつれ草」63「文久五百題」編/63「現存名家山海集」、「鬮くじまかせ」著  
菊夫(きくお→きくふ) → 菊夫(きくふ、鈴木すずき、俳人) K 1 6 2 3  
掬黄(きくおう・佐原) → 鞠塙(きくう・佐原/北野、商家/俳人) J 1 6 9 9  
菊翁(きくおう・歌川) → 国麿(こくせく・初世く・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 9 5

- 菊翁(きくおう) → 飛川(ひせん・深山みやま、俳人) C 3 7 4 4  
 菊翁(きくおう・戸田) → 信敏(のぶとし・戸田とだ/藤原、藩老/国学) F 3 5 9 0  
 菊丘臥仙人(きくおかがせんじん) → 文坡(ぶんば・大江/江、神道/戯作) G 3 8 3 1
- F1616 菊岡檢校(きくおかげんぎょう) 1792-1847 56 京の盲目の音曲演奏家;一山檢校門、  
 都名いちな;楚名、地歌三味線の大家/組歌・手事物を作曲、箏の八重崎檢校と組み合奏、  
 作曲;「茶音頭」「八重琴」など多数
- 菊雅(きくが・林) → 恵忠(しげただ・林はやし、農業/歌人) Z 2 1 7 3
- E1625 菊涯(きくがい・岡部おかべ、名;英/字;晩香/通称新吾、木奴2世) ?-? 江後期1820-45頃秋田藩士、  
 儒者・山本北山門/折衷学、詩/俳諧、1829「清新詩題」編/「日本外史拾遺」「菊涯外集」著、  
 「異称日本外史補遺」「菊涯葛原詩話遺考」「随手抄」著
- 菊花園(きくかえん) → 元華(げんか・内野うちの、儒者/農政) I 1 8 0 3  
 菊賀三味(きくがのさんみ) → 三味(さんみ・菊賀、狂歌) E 2 0 7 4
- K1605 菊圃(きくかん・高沢たかざわ、名;達/通称仙之助、順助男) 1806-63 58 金沢藩儒者/藩校明倫堂教官、  
 詩、広瀬旭堂と交流、「菊圃堂雜纂」編、1846「桜埒余尽」53「篋中集」校訂
- 菊貫(きくかん・真田) → 菊貫(きくつら・真田幸弘、藩主/歌/俳) 1 6 9 8
- F1617 菊逕(きくけい・岩田いわた) ? - ? 江中期駿河庵原郡の医者;上京;山脇東洋門、  
 帰郷し医業、菊を愛し菊園を開設;菊逕と号す/菊作りの名人、歌・俳諧を嗜む、50余歳没、  
 山梨稲川(1771-1826)「思旧漫録」に記事入
- K1606 菊谿(きくけい・小林こばやし、小林基頭[油屋7世依兮]男) ?-? 1803存 筑前飯塚の商人、俳人・蝶夢門、  
 1772几董「其雪影」入、1803父三回忌追善「ゆめのあきふゆ」編  
 [さむしろに機織虫はたおりむしの夜なべ哉](其雪影巻尾327)
- K1607 菊畦(きくけい・常松つねまつ、名;道/安之、由清男) 1783-1858 76 岩代鏡沼村の大庄屋/儒;昌平鬢出、  
 1802家督;農村振興に尽力、詩文;大槻磐溪・安積良斎と交流、1842「磨光編」編、  
 [菊畦の通称] 安三郎/金吾/善蔵/収蔵
- 菊溪(きくけい・内藤) → 尚賢(なおかた・内藤、本草家) 3 2 9 7  
 菊溪(きくけい・林) → 信亮(のぶすけ・林はやし、幕府儒官) B 3 5 6 8  
 菊溪(きくけい・築瀬) → 広記(こうき・築瀬やなせ、藩士/儒者) I 1 9 2 1  
 菊溪(きくけい・西村) → 筋(せつ・西村にしむら/橘、国学者) O 2 4 3 8  
 菊径(きくけい・原) → 方揚(まさあき・原はら、国学/歌人) R 4 0 9 3  
 菊卿(きくけい・鳥飼/大塚) → 毅斎(きさい・大塚おおつか、藩士/儒者) I 1 6 5 4  
 菊溪庵(きくけいあん) → 都雀(とじゃく・高城たかしろ、俳人) N 3 1 9 8  
 菊溪子(きくけいし) → 長安(ちやうあん・山科、医者) H 2 8 1 1  
 菊軒(きくけん) → 京伝(きやうでん・山東、戯作) 1 6 3 7  
 菊健(きくけん) → 西水(せいすい・菊池きくち、馬医) I 2 4 9 6
- U1625 菊子(きくこ・黒田くろだ、薩摩5代藩主の島津継豊女) 1733-1808 76 母;浄岸院(竹姫1705-72)、  
 1755(宝暦5)筑前福岡藩世嗣黒田重政の室、1762(宝暦12)夫が浮腫で早世(26歳)、  
 屋世姫(黒田治之の室)の母、国学、  
 [菊子(;名)の幼名/通称]幼名;菊姫、通称;真含院夫人
- T1605 菊子(きくこ・上田うえだ、字;瓊芝/号;琴風、光陳みつのぶ女) 1788-1843 56 周防吉敷郡の絵師、  
 父光陳は吉敷郡台道村の大庄屋、婿の光逸みつはの妻、喜代子(清子/琴波)の母、  
 漢学;杉山良哉門、国学・歌;近藤芳樹門、書;田村長統門、画;父の薫陶/丹清の技修得、  
 浦上玉堂・春琴と交流、1811「周南佐野阪上真景図」など著
- S1696 喜久子(きくこ・有田ありた) ? - ? 江後期;歌人、  
 歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [さかりなる花の木の間は鶯は鳴くねも匂ふこちこそすれ](大江戸倭歌;春96)
- T1623 起久子(きくこ・木下きのした) ? - ? 江後期;歌人、木下図書助と結婚、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [のどけさに春ならねども霞みけり霜の花咲く野辺のみわたし]、  
 (大江戸倭歌;冬1354/冬眺望)
- U1636 菊子(きくこ・近藤こんどう、旧姓;山田) 1832-95 64 江戸の生、国学者、

近藤瓶城へいじょう(宗元むねもと/1832-1901/史籍集覧編纂)の継室

菊壺(きくこ・藤井) → 茂権(もつゐ・藤井ふじ、俳人) B 4 4 8 1

菊后亭(きくごてい) → 秋色(あきしゅうしき・おあき、商業/俳人) 2 1 4 3

1607 菊五郎(初世きくごろう・尾上おのえ) 1717-83 67 歌舞伎役者、市村座の立役、「梅幸集」著、俳人;1782蕪村「花鳥篇かちょうへん」入;

[ちるはちるは花の外ほかには蝶ばかり](花鳥篇;73/花吹雪と蝶の夢の世界)

[尾上菊五郎(;号)の屋号/通称]屋号;音羽屋おとわや、通称;梅幸

1608 菊五郎(2世きくごろう・尾上おのえ、2世梅幸) 1769-87 夭逝 19歳 歌舞伎役者、若女方

1695 菊五郎(3世きくごろう・尾上、3世梅幸、初世松緑養子) 1784-1849 66 江戸小伝馬町建具屋仙次郎の男、歌舞伎役者;1788初舞台/1815菊五郎襲名/立役;和事・実事・濡事に優れる、4世南北の作品上演;四谷怪談お岩・千本桜権太など「梅寿型」好評、

1844名残狂言後一時餅屋開業/48大川橋蔵名で復帰;上京/49帰途掛川で没、

[菊五郎3世の通称/別号]通称;菊屋万平/植木屋松五郎、別号;尾上栄三郎(初世)/

1809尾上松助(2世)/14尾上梅幸(3世)/48大川橋蔵(初世)、

俳名;賀朝/三朝/梅寿/扇舎、屋号;音羽屋

F1618 菊五郎(4世きくごろう・尾上おのえ、扇屋梅幸) 1808-64 57 江後期歌舞伎役者、

1822合巻「玉藻前化粧姿見」文京代作

菊斎(きくさい・伊東) → 国珍(こくちん・伊東いとう、医者/詩) M 1 9 1 8

菊三郎(きくさぶろう・島津) → 忠良(ただよし・島津、武将/いろは歌) G 2 6 0 5

菊三郎(きくさぶろう・星野) → 癯軒(くげん・星野鶴水ていすい、儒者) B 1 7 3 4

菊三郎(きくさぶろう・鶴飼) → 拙斎(せつさい・鶴飼うかい、藩士/攘夷派) K 2 4 9 9

菊三郎(きくさぶろう・野呂) → 直貞(なおさだ・野呂のろ、陪臣/国学者) B 3 2 2 0

菊作(規矩作/喜久作きくさく・彦坂) → 範善(のりよし・彦坂ひこさか/田中、藩士/和算) G 3 5 3 3

S1663 菊山(きくざん) ? - ? 江中期俳人、

1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、

[幕かゝる雪の光や馬の鈴](伊丹発句合;冬)

V1631 菊山(きくざん・三木みき) 1849- 1928 80 周防岩国の国学者

菊山(きくざん・大槻) → 清雄(きよお・大槻おおつき、俳人/歌人) T 1 6 7 9

掬山(きくざん・江川) → 百洲(ひやくしゅう・江川えがわ、俳人) E 3 7 5 5

菊山老人(きくざんろうじん) → 長良(ながよし・菊池さくち、和算家) G 3 2 4 6

1696 菊子(きくし・静竹窓) ? - ? 江前期元禄1688-1704頃大阪の俳人;雑俳撰者、前句附撰集編纂;1692「咲やこの花」93「難波土産」編

K1608 菊二(きくじ・井口いづち、名;保孝) 1745-1815 71 江中後期近江大津の俳人;蝶夢門、

1796「かなしふみ」、「霜の鐘集」、「夏氷」著、

[菊二(;号)の通称/別号]通称;木綿屋喜兵衛、別号;晩節庵

菊治(きくじ・松岡) → 稻坡(とうは・松岡、藩士/俳/詩/書) G 3 1 9 0

菊次(きくじ・吉野) → 秀政(ひでまさ・吉野よしの、神職/地誌) D 3 7 8 1

喜久治(きくじ・丹羽) → 貴明(たかあき・丹羽にわ、家老/文武奨励) L 2 6 4 7

喜久治(きくじ・津田) → 眞道(まみち・津田つた、洋学者/法学) K 4 0 1 2

喜久七(きくしち・佐原) → 鞠塙(きくう・佐原/北野、商家/俳人) J 1 6 9 9

菊四眸(きくしぼり) → 夢仏(むぶつ・枝桑庵しそくあん、俳人;雑俳) C 4 2 9 6

喜久之助(きくのすけ・西河) → 梅庵(ばいあん・西河にしかわ、藩士/儒/詩) 3 6 5 1

K1609 鞠車(きくしゃ・無敵房、俳人陶習軒男) ?-? 江中後期寛政1793-1801頃;伊勢の俳人、

「芭蕉翁百回忌追善」「年乃久留万」著、四山亭幡水はすい「まほろし」に父陶習軒追悼句文入

菊舎(きくしゃ→きくや) → 其成(きせい・菊舎、書肆/俳人) B 1 6 3 7

菊舎(きくしゃ/きくのや) → 直女(なおじよ・平山ひらやま、彫金師、歌) O 3 2 5 4

菊車(菊舎きくしゃ) → 菊舎尼(きくしゃに、俳人) 1 6 1 1

V1681 菊若(きくわく;法諱・理趣院) ?-? 平安鎌倉期;大和の僧、歌人;1237檜葉集2首入、

[そらはなほふるあは雪にはれねどもつもればさゆる春の夜の月](檜葉;雑689)

[はつせ山花もいまはのゆふぐれはくれてもかなしいるあひのかね]、



(檜葉;雑694/はつせにすむ頃の詠)

- 1611 **菊舎尼**(きくしゃに・田上たがみ、名;道みち、長府藩士田上由永[本莊了佐]女)1753-1826<sup>74</sup> 母;豊田タカ、長州田耕村の生/1768(16歳)村田利之助と結婚/76(24歳)夫と死別、俳人を志す、1778五精庵只山より俳号[菊車]を受/81(28歳)真宗清光寺聞心院で出家;京西本願寺参詣、1782美濃の朝暮園大野傘狂門;一字庵の号を受/美濃派の俳脈をたどり北陸・奥羽を行脚、江戸に3年滞留;1784(32歳)冬に帰郷/1786再び諸国遍歴;九州4回、紫溟・琴山・南冥と交流、1794西園寺賞季より七弦琴に[流水]銘を受(塗師中村宗哲の漆銘入)、弹琴;平時章門、1796九州で華音;平野柄悟門/詩作、亀井南冥・大愚などと詩の応酬、書・画・茶・琴に通ず、1812法隆寺の太子尊像前で寺宝開元琴の弹奏を許可;南薫操一曲を弾、以後俳諧興行多数、1782「春の恵」84「旅情集」1812「手折菊たわりきく」13「都の玉衣」24「鳳尾蕉」25「山田遊行」、「旅情集」外著多数、交流した俳人・歌人・絵師・茶人・詩人など多方面多数、代表句;万福寺[山門を出れば日本ぞ茶摘み歌](手折菊/山内は異国風)、[菊舎尼の号] 菊車(初号)/菊舎/一字庵、法号;一字庵菊舎釈妙意
- K1610 **鞠洲**(きくしゅう・城じょう、名;由道/字;升卿/通称;允、医者城光由男)1800-70<sup>71</sup> 肥後の医者、3歳で父を失う/医員生となる/1830熊本藩の命により父の業を継嗣、1866(慶応2)熊本藩の外班官医、熊本藩医学助講;門弟370人余の門人教育、「医事或問」「傷寒論玉石辨」「金匱玉石辨」「論語講義」、「鞠洲詩文稿」著
- K1611 **菊十**(きくじゅう) ? - ? 江中期撰津灘の俳人;1782蕪村「花鳥篇」入、[さくら陰誰に研こだます山の神](花鳥篇49/満開の谷に研;桜木の精を呼ぶ声か)  
菊秀軒(きくしゅうけん) → 元賛(げんざん・陳、儒者/製陶) B 1 8 2 7  
菊守園(きくしゅえん) → 見外(けんがい・小林こばやし、俳人) B 1 8 3 7
- S1621 **菊壽老人**(きくじゅうろうじん) ? - ? 狂歌;1787「才蔵集」入;  
[老後述懐 おろかなる人は寝もせでおき炬燵浮世の樂をしらぬ湯たんぼ](才蔵集)
- K1612 **菊所**(きくしょ・木下きのした、名;元高/元喬/守直、順齋男)1633-1716<sup>84</sup> 江戸医者;1647家督嗣、59番医、1683麻布薬園の園監/1713致仕、詩:「烟草詩」1694「烟草唱和詩」、「菊所集」著、怨庵の父、[菊所の字/通称/別号]字;平之、通称;道円(代々)/大学、別号;好青館/休適、法号;慈賢院
- K1613 **菊所**(きくしょ・池上いけがみ、字;希白、通称;易中/衛守)1808-62<sup>55</sup> 伊勢山田の俳人;徳田椿堂門、詩/書に長ず、「しなかとり」編、1828「梅室附合集」編  
菊如(きくじょ・堀) → 若翁(じゃくおう・堀ほり、藩士/俳人) G 2 1 0 9
- K1614 **菊丈**(きくじょう) ? - ? 江戸中期江戸の俳人;  
雑俳点者・関八州で雑俳興行、「春興集」編、1749-58「菊丈評万句合」;「前句附万句合集」編  
菊如斎(きくじょさい) → 星池(せいち・秦はた、書家) J 2 4 1 9
- K1615 **菊次郎**(きくじろう・瀬川せがわ、仙魚)1715-56<sup>42</sup> 歌舞伎役者、俳人;仙鶴門、「その菊」:兄追善  
菊次郎(きくじろう・高木) → 忠任(ただたね・高木、幕臣/薬草園) P 2 6 7 8  
菊次郎(きくじろう・中井) → 柚園(ゆうえん・中井なかい、儒者) 4 6 8 1  
菊次郎(きくじろう・山本) → 昌信(まさのぶ・山本やまと、和筆/歌) L 4 0 7 1  
菊次郎(きくじろう・二川) → 昌意(しょうい・二川ふたがわ、藩医/歌人) V 2 2 2 0  
菊次郎(きくじろう・千屋) → 孝健(たかたけ・千屋ちや、勤王派志士) M 2 6 1 6
- 1697 **菊人**(きくじん) ? - ? 伊賀上野の俳人、1752「鳴沢たかね」編  
菊水亭(きくすいてい) → 了瑋(りょうけい・石井いひ、歌人/連歌) M 4 9 0 1
- F1619 **菊砌**(きくせい・児玉こだま) ? - ? 撰津の俳人、  
延宝五1677大坂生玉本覚寺で興行の[西鶴大句数おおくず]独吟千六百句の指合見さしあみ、(指合見は桑門順座と2人/執筆しゅひつ;青木友浄・水田西吟)  
菊栖(きくせい・戸谷) → 栄(さかえ・戸谷とや/上野、神職/国学) O 2 0 8 4  
菊井館(きくせいかん) → 鶴翁(かくおう・花月庵、田中、茶人;煎茶) J 1 5 5 9
- I1646 **菊泉**(きくせん・河合かわい、名;正修まさなが、)1699-1755<sup>57</sup> 常陸水戸藩士/儒者;安積澹泊門、1716彰考館入/40(元文5)彰考館総裁、1751「史館旧話」、「大日本史藝文志稿」「先達遺事」著、[菊泉の字/通称/別号]字;誠甫/子吉、通称;伝次、別号;白桃/桃華/風月間人  
菊川(きくせん・吉見) → 幸寛(ゆきひろ・吉見よしみ、廷臣/神道家) F 4 6 4 8
- K1616 **菊莊**(きくそう・西河にしがわ/初姓;浅井、名;瑛/景瑛かげてる)1734-94<sup>61</sup> 尾張海西郡十四山村の儒者、

尾張藩老志水甲斐の儒臣、1778「孝女曾与伝」81「尾藩孝子伝」、「孝女曾与略伝」著

I1647 菊叢(きくそう・神野じんの、名;景遠、仁右衛門男)1768-184073 江戸生/1789尾張藩士、賄頭当分支配、儒;山本北山門、書画/詩歌/兵法/医術/仏学、「随意草」「菊叢文集」著、「菊叢遺書」

[菊叢の字/通称/別号]字;志[士]寧/子宏、通称;清記/善左衛門、別号;鈍斎/雪丘/一無

K1617 菊叟(きくそう・岡村おかむら、名;忠輔ただすけ/忠香ただか、十郎兵衛忠鼎男)1800-8586 信濃高遠藩士、蘭学・砲術;坂本天山門;荻野流砲術総師範/大砲を铸造・洋式訓練を採用、国学;岡正武門/歌;前田夏蔭門、栗原信充・井上文雄・植松茂岳と交流、1840(天保11)藩家老、維新後も藩政参画;1872致仕/以後作歌活動、「菊の叢」「千曳の巖」「幽響音」「後度千首」著、[菊叟(;号)の通称/別号]通称;十郎兵衛、別号;鶯老/花隠逸

K1618 菊嗽(きくそう・布流庵) ? - ? 1801-04頃信州小諸の修験僧;玉林寺住、俳人・鶏山門、1787芭蕉95回忌句碑建立;「花に鳥」編、絵師松井岷山けんざんの父

菊叟(きくそう)	→	三惟(三以さい・菊谷、俳人)	E 2 0 0 9
菊荘(きくそう・小野)	→	寿(ひさし・小野おの、庄屋/詩人)	I 3 7 7 1
菊叢(きくそう・前田)	→	東溪(とうけい・前田/一色、儒/医)	D 3 1 0 4
菊叢(きくそう・細井)	→	広沢(こうたく・細井ほそい/辻、儒/書家)	1 9 1 4
菊増(きくぞう・中大路)	→	清為(きよため・中大路なかおじ/賀茂、神職/連歌)	P 1 6 8 7
幾久蔵(きくぞう・佐藤)	→	一斎(いっさい・佐藤、儒者)	1 1 2 2
喜久蔵(きくぞう)	→	菊の声色(きくのこわいろ、狂歌/声色)	J 1 6 1 6
菊園(きくぞの)	→	袖子(そでこ・菊池、歌人)	E 2 5 0 6
菊園(きくぞの)	→	近子(ちかこ・菊池きくち、袖子女/歌人)	M 2 8 4 4
菊園(きくぞの・田中)	→	躬之(みゆき・田中たなか、藩医者/国学者)	G 4 1 0 4
菊園(きくぞの・田中)	→	猛之(たけゆき・田中/山村、躬之養子/国学)	X 2 6 8 7
菊園(きくぞの・飯島)	→	勝休(しょうきゅう・飯島いじま、藩士/故実)	Q 2 2 9 3
菊園(きくぞの・脇)	→	蘭室(らんしつ・脇わき/脇屋、儒者/詩)	4 8 1 0
菊園(きくぞの・葛岡)	→	菊園(きくえん・葛岡くずおか、医者/歌人)	K 1 6 0 3
菊園(きくぞの・熊谷)	→	直茂(なおしげ・熊谷くまがい、国学者)	L 3 2 9 6
幾久園(きくぞの・大野)	→	章美(ふみよし・大野おの、国学/歌人)	I 3 8 0 7
菊村(きくそん・西島)	→	城山(じょうざん・西島/牧野/牧、漢学者)	J 2 2 3 7
菊存園(きくそんえん)	→	雲台(うんだい・宮崎、儒医/詩人)	D 1 2 9 2
菊忠(きくただ・高沢)	→	忠順(ただより・高沢たかさわ、藩士/記録)	R 2 6 4 2
菊大夫(きくだゆう)	→	長明(ちやうめい・鴨、歌人)	2 8 2 7
菊太夫(きくだゆう・竹本)	→	松長軒(しょうちやうけん・佐久間、浄瑠璃太夫/作者)	U 2 2 3 4
菊太郎(きくたろう・田中)	→	其成(きせい・菊屋太兵衛、書肆)	B 1 6 3 7
菊太郎(きくたろう・菊越)	→	国曆(こくれき・初世くしまる、歌川うたがわ、絵師)	B 1 7 9 5

B1601 菊潭(きくたん・吉弘よしひろ、名;玄仍/元常、字:子常、鎮則男)1643-9452 周防徳山の医者/儒者、1660上京/医;饗庭東庵門/儒;62山本泰順門、64常陸水戸藩儒;史館編集/88彰考館総裁、1691小姓頭;藩主世子の傳役、1694児玉数衛らと江戸の自宅で論争;相討となる、大日本史の「土御門天皇紀」「後醍醐天皇紀下」「足利義詮伝」を撰、「菊潭文集」「磐斎集」著、[菊潭の通称/別号]通称;左介、別号;磐斎/遜庵

F1621 菊潭(きくたん・木下きのした、名;汝弼/字;寅亮、順庵男)1667-174377 金沢藩士/儒詩;父門、1692徳川綱吉臣;99-1709近習番/綱吉没後金沢藩儒、「菊潭集」「班荊集」、「骨董録」編、1728(享保13)宝山板[諏訪浄光寺八景詩歌]入、[筑波茂陰;

層巒(そうらん)暈嶺(うんりやう)蔚(う)つとして陰(いん)を成す 秀色(しゆしき)蒨葱(せんそう)として古今(ここん)に亘(わたり)れり  
想(おも)ひ見る牛山(うしやま)夜気(よけ)を存(ぞん)し 朝朝(あさあさ)てうてう相對(たいたい)して良心(りんしん)を発(はつ)す]、  
(八景詩/木寅亮名/牛山;斉の景公が国土を賛美した国見の山)

[菊潭の通称/別号]通称;虎助/平三郎、別号;竹軒/春斎、諡号;貞簡

K1619 菊潭(きくたん・曾田そだ、名;迪/洋、通称左助、七左衛門男)?-? 江後期1818-44頃金沢藩士、

1823家督/24御近習詰/32定番御番頭/34御勝手方御用/37解任;逼塞、39明倫堂助教、  
儒者;古賀侗庵門/詩文に長ず、「菊潭遺稿」

菊潭(きくたん・吉田) → 長禎(ちやうてい・吉田よしだ、幕府医官) J 2 8 5 0

菊潭(きくたん・鷹取) → 周成(ちかしげ・鷹取たかとり、藩士/地誌) 2 8 9 6

掬月(きくつき・丸岡) → 莞爾(かんじ・丸岡まるおか/吉村、藩士/国学) V 1 5 8 0

鬼窟採瘤(きくつのだいりゅう) → 採瘤(さいりゅう・鬼窟、狂歌作者) F 2 0 0 3

1698 菊貫(きくくわん・真田さなだ、名;幸弘ゆきひろ、信安男) 1738/40-1815 78/76? 信州松代藩主/1752襲封、  
藩政財政改革、文武奨励;藩校稽古所設立、歌/俳諧;蓼太門/書、1798養子幸専に家督譲渡、  
1752「旅つづら」、1805「長夜や百韻」著、家集「花洛の草結」「菊畠集」「菊の分根」著、  
「青葉かげ」、「天真公御詠草」著、1808「幸弘七十賀集」編([千年ちとせの寿詞よこ]など)、  
[菊貫(;号)の幼名/別号]幼名;豊松/幸豊、法号;天真院覚源一無大居士、  
別号;白日庵/五白楼/象廬/馬逸/吹旭/雀阜かくふ/攀月観はんげつかん/吟松庵

菊亭(きくてい) → 兼季(かねすえ・今出川の祖/西園寺/藤原、廷臣/歌) C 1 5 7 7

菊亭(きくてい) → 今出川家の別姓

菊亭(きくてい・森) → 高雅(たかまさ・森もり、絵師) N 2 6 2 0

菊亭(きくてい・橋本) → 実盛(さねもり・橋本、神職/神典/書) L 2 0 4 5

菊亭(きくてい) → 京伝(きやうでん・山東、絵師/戯作) 1 6 3 7

菊亭(きくてい・佐原) → 鞠塙(きく・佐原/北野、商家/俳人) J 1 6 9 9

菊亭(きくてい・川崎) → 武則(たけのり・川崎かわさき、国学/歌) W 2 6 6 1

規矩亭(初世きくてい) → 有又(ありはる・滝川、和算) F 1 0 6 4

規矩亭(2世きくてい) → 友直(ともなお・滝川、有又男/和算) Q 3 1 0 3

喜久亭寿楽(きくていじゅらく) → 寿楽(じゅらく・喜久亭、嘶家) J 2 1 1 0

U1612 菊天(きくてん;法諱、俗姓;武者小路、) 1716-83 68 京の武者小路家の猶子;歌・管弦に通ず、  
安藝広島浄土真宗本願寺派の専勝寺8世、広島藩に出仕、  
藩主浅野宗恒より殊寵;日通寺の管絃祭に招聘され太平楽を拝聴し詠詩、  
[菊天の名]菊丸/公建

菊兎(きくと・夜話亭) → 白尼(はくに・武藤、俳人) D 3 6 7 7

J1628 菊童(きくどう・峽田はざまだ、露布庵、雨夜庵) ?-? 江戸の俳人;一漁座点者、  
1754竹翁「誹諧童の的」点句入

K1620 菊堂(きくどう・本間ほんま、名;簡/字;狂夫/通称:金松) 1803-77 75 越後蒲原郡紫雲寺村稻荷岡の儒者、  
諸国遊歴/幕末:尊攘派、晩年は郷里で子弟教育、「菊堂文稿」著

掬堂(きくどう) → 永我(えいが・盛/一浮齋、俳人) C 1 3 5 4

翹堂(きくどう) → 賀親(よしちか・室谷むろたに、商家/国学者) E 4 7 5 8

規矩堂(菊堂/鞠堂きくどう) → 意丹(いたん・長岡ながおか、医者/歌人) E 1 1 6 9

菊函坊(きくとぼう) → 祖英(そえい・菊函坊、俳人) D 2 5 3 4

T1656 菊苗(きくなえ・巖垣いわがき/旧姓;服部、) 1807-? 京の儒者;音博士/儒者巖垣東園(松苗)の養嗣子、  
[菊苗(;名)の通称] 大舎人少允

F1622 菊永検校(きくながけんぎやう、筆之都ふでのいち) 1791-1859 69 地歌:藤永検校門、  
1812「新增大成糸のしらべ」師と校訂

K1621 菊年(きくねん・藤井ふじい、名;正次郎) 1808-60 53 安藝広島大手町の紺屋業、俳人、  
1856多賀庵再興;多賀庵「やまかつら」復刊、芸備俳壇に尽力;一鳳と親交、  
[竹継ぎてやればのほるや蝸牛](1841「養花集」入)

[菊年(;号)の通称/別号]通称;茗荷屋新左衛門、別号;多賀庵5世、

J1616 菊の声色(きくのこゐろ、喜久蔵) ?-? 声色の名人、狂歌堺丁連、江戸和泉町住

S1619 菊酒壺(きくのさかづぼ) ?-? 狂歌;1787「才蔵集」入;

[霜やけに痛みもつよきあしの葉のおきふしならで枯れたちにけり]

1609 菊之丞(初世きくのじやう・瀬川せがわ、通称;浜村屋路考) 1693-1749 57 大坂の歌舞伎役者、  
初め道頓堀貝塚屋仁三郎抱えの色子;浜村屋吉次名、役者;瀬川竹之丞門;世川吉次名、  
修業を積み菊之丞と改名;1709若女形で初舞台/一時廃業;1720復帰/都万太夫座元兼任、  
1730江戸下向;41再下向以後江戸滞在;市村・中村座に勤務、女形すべての役に熟達、



三都随一の女形の称;特に道成寺など、「女方秘伝」著、  
[初世菊之丞(;号)の別号]浜村屋吉次/瀬川吉次/路考、

- 1610 **菊之丞**(2世きくのじょう・瀬川せがわ、通称;王子路考)1741-8343 武州王子の生/歌舞伎役者、若女形、初世の養子、「女方秘伝」著
- 1699 **菊之丞**(3世きくのじょう・瀬川、通称;仙女路考、振付師市山七十郎男)1751-181060 大坂歌舞伎役者、初世瀬川如臯の弟、初め色子;市山富三郎名/浜芝居に転ず、女形を演ず、1773江戸下向;2世瀬川菊之丞門;瀬川富三郎名/1774瀬川菊之丞3世襲名;俳名路考、1807仙女と改名/女形で座頭、世話物に通じ娘・傾城役を得意、「道成寺」など演ず、1795「四方の巴流」画、1804「仮名手本穿鑿抄」著、「野夫鶯」著、  
[3世菊之丞(;号)の幼名/通称/別号]幼名;市山七之助、通称;仙女路考/浜村屋大明神、号;市山富三郎/瀬川富三郎(初世)/瀬川路考/瀬川仙女/玉川ぎよくせん/東籬園屋号;浜村屋、法号;常篤院/浄篤院
- B1602 **菊之丞**(4世きくのじょう・瀬川、通称;猿屋路考、猿屋伊八男)1782-181231 江戸の歌舞伎役者、女形、「仮名手本穿鑿抄」著
- B1603 **菊之丞**(5世きくのじょう・瀬川せがわ、通称;多門路考、瀬川路三郎男)1802-183231 江戸の歌舞伎役者、3世瀬川菊之丞門;瀬川多門名/1806初舞台、4世瀬川菊之丞の女婿/1815菊之丞5世襲名、河原崎座立女形;時代・世話物の色女形を得意、1823(文政6)頃より合巻・人情本を著作、俳諧;寥松門、1823「忍弾仇汐汲」25「時雨の袖」「ふたり山姥」/26「伊勢参廻紀伊国」、1827「菊三升利生乗合」「和歌三人由来」/28「銀釵濫觴日傘由来色三味線」外著多数、  
[5世菊之丞(;号)の通称/別号]通称;多門路考/中山文斎、別号;芬路/路仙/路考
- 菊の戸(きくのど) → 見外(けんがい・小林こばやし、俳人) B 1 8 3 7  
きくの家 → 章美(ふみよし・大野おおの、国学/歌人) I 3 8 0 7  
菊舎(きくのや) → 菊舎尼(きくしゃに・田上たがみ、俳人) 1 6 1 1  
菊舎(きくのや) → 直女(なおじよ・平山ひらやま、彫金師、歌) O 3 2 5 4  
菊の屋(きくのや) → 正謙(まさかた・布川ぬのかわ、商家/国学/歌) R 4 0 4 6  
菊廼屋(きくのや) → 恒久(つねひさ・江刺えさし、藩士/国学者) D 2 9 4 0  
菊廼屋(きくのや・上田) → 仲敏(なかつし・上田、藩士/砲術/歌) E 3 2 7 6  
菊の屋延年(きくのやえんねん) → 真恵美(まえみ・菊廼屋きくのや、商家/狂歌作者) 4 0 4 4  
菊廼屋真恵美(きくのやまえみ) → 真恵美(まえみ・菊廼屋きくのや、商家/狂歌作者) 4 0 4 4  
菊坡(きは・吉田) → 恒重(つねしげ・吉田よしだ、国学者) G 2 9 7 1  
麴八郎(きはちろう・牧) → 冬映(ふゆえい・牧、俳人) B 3 1 2 9
- K1622 **菊彦**(きくひこ・柳屋やなぎや、号;萍亭柳菊へいていりゅうぎく)?-? 江後期江戸合巻作者;柳亭種彦門、1823「床飾錦の額無垢」24「新織續八丈」、35「上州機綾織」著
- 菊人(きくひと・東籬亭) → 東籬亭(とうりてい・菊人、読本作者) 3 1 2 7  
菊姫(きくひめ・黒田) → 菊子(きくこ・黒田くろだ、藩主夫人/国学) U 1 6 2 5
- K1623 **菊夫**(きくふ・鈴木すずき、通称;喜兵衛/柿商庵秀俊)1760-181253 陸中盛岡の俳人、1806「多可良の市」、「続句艸紙」著
- 鞠阜(きくふ・佐原) → 鞠塙(きくう・佐原/北野、商家/俳人) J 1 6 9 9
- K1624 **菊屏**(きくへい・多田ただ、名;固/通称準平)?-? 1910存 江末期播磨の儒者;1854姫路藩校好古堂教授、「晚香集」著
- K1625 **菊圃**(きくほ、伊予小松藩家老長谷部映門の妻)?-? 伊予の俳人、1858夫と死別、「別れ霜」編
- K1626 **菊圃**(きくほ、伊藤いとう、名;寛、字;子栗)1825-9268 仙台儒者、多賀城碑・雄島頼賢碑等を泥刻/木刻、1848「鳴盛集」編
- 菊甫(きくほ・乙骨おつこつ) → 耐軒(たいけん・乙骨おつこつ/鳥羽、儒/詩) B 2 6 3 0  
麴坊(きくぼう) → 無尽蔵(むじんぞう、本草家) 4 2 7 3  
菊馬(きくま・立川) → 雀庵(じゃくあん・加藤/田中/加田、俳/随筆) G 2 1 0 5  
菊松(きくまつ・大西) → 貞極(ていごく;法諱、浄土僧/道場開設) 3 0 7 5  
菊松(きくまつ・寒川) → 直方(なおかた・寒川さむかわ、神職/国学) N 3 2 2 6  
喜久松(きくまつ・加藤) → 里路(さとみち・加藤かとう、藩士/神職/歌) O 2 0 2 4
- S1651 **麴丸**(きくまる・五葉堂、本名;鈴木彦兵衛)?-1851or54? 江戸の武士;某藩の足軽/麴町住、



下見座(諸大名に雇われ江戸城の目付に詰める)の周旋方を業とする、川柳作者、1815頃より琴柱連で活動;五葉堂麴丸と号す(;御用を聞くの洒落)、麴町連再興、麴町連月並会を主催;冊子「小松会」編纂刊行、「誹風柳多留」の評者、[そうした黄葉をどうふなさる三杯酢](狂句百人集)

- K1627 **菊丸**(きくまる、田中たなか/清妻、名;延明、別号;東籬園)1806?-? 京の文筆家、「瑳囉瑳浪俗日記」著  
 菊丸(きくまる・豊ゆたか) → 時成(ときなり・豊ゆたか、咄本作者) J 3 1 6 7  
 菊丸(きくまる・武者小路) → 菊天(きくてん;法諱、真宗僧/詩歌人) U 1 6 1 2  
 菊麿(きくまる・小笠原) → 厳実(ごんじつ;法諱・小笠原、真宗僧/歌) Q 1 9 4 2  
 菊麿(きくまる・東) → 東菊麿(ひがしのきくまる、狂歌作者) H 3 7 8 6  
 菊麿(きくまる・中井) → 柚園(ゆうえん・中井なかい、儒者) 4 6 8 1  
 菊麿(きくまる・長嶺) → 将在(まさあり・長嶺ながみね、国学者/歌人) B 4 0 2 2  
 喜久麿(菊麿きくまる・喜多川) → 月麿(つきまる・喜多川/小川、絵師) 2 9 5 9  
 亀久麿(きくまる・正親町) → 実徳(さねあつ・正親町おおぎまち/藤原、権大納言) K 2 0 7 1  
 菊満(きくまん・高島/宇留野/山野辺/田中) → 江南(こうなん・田中/田でん、儒/医/投壺) G 1 9 4 3  
 菊満(きくまん・千秋廼家) → 徳光(のりみつ・橋本はしもと、町役/歌人) J 3 5 6 2  
 菊苗(きくみょう;字) → 日秀(にっしゅう;法諱・撰事院、日蓮僧) E 3 3 0 7  
 菊明(きくめい) → 一茶(いっさ・小林、俳人) 1 1 2 1  
 岐久守(きくもり) → 見外(けんがい・小林こばやし、俳人) B 1 8 3 7  
 菊舎太兵衛(きくやたへえ) → 其成(きせい・菊舎、田中保教、書肆/俳人) B 1 6 3 7  
 菊雄(きくゆう・文室) → 康貞(やすさだ・文室ぶんや、神職/国学) G 4 5 5 5
- F1624 **菊陽**(きくよう) ? - ? 俳人、1708格枝「斎非時ときひじ」入
- K1628 **菊亮**(きくりょう・是水叟・多仁田たにだ/谷田/谿田)?-? 読本作者、1811「絵本一休譚」1816「絵本薄紫」、1816「一休和尚一代物語図絵」19「小野篁八十島かげ」著  
 幾久若(きくわか・菌田) → 守約(もりかね・菌田そのだ/中川、神職) K 4 4 2 0  
 基君(きくん・松本) → 基君(もときみ・松本まつもと、本陣経営) L 4 4 4 0  
 季群(きぐん・井狩) → 雪溪(せつがい・井狩いかり、儒者) E 2 4 1 7  
 紀家(きけ) → 長谷雄(はせお・紀、漢学/詩歌) 3 6 1 9
- K1629 **紀計**(きけい) ? - ? 播磨姫路の俳人、1692才麿「椎の葉」3句入、[喩たとへ知る黒木優しゝ朝桜](椎の葉;97/黒木は蒸焼の薪/目立たぬ優しさの喩え)
- B1605 **其継**(きけい・竹部たけべ、照雲)?- ? 越中井波の妙蓮寺4世住職/俳人:浪化の侍者、1695浪化「有磯海・となみ山」七吟歌仙入
- 1612 **几圭**(きけい・高井たかい、速水はやみ/紅屋べにや、通称;伝左衛門)1687-1760?74 京商人/能;金春流太鼓打、俳人;巴人門、軽妙な俗談平語の俳風で人情句、1758剃髪、58「咄相人はなしあいて」59「春興」編、1732巴人「卯花千句」参加、几董「其雪影」82句入  
 [雪になるつらだましいや松の風](其雪影冒頭発句)  
 [几圭の別号]雷夫(;初号)/郢泉居/几圭庵/宋是、几董きとうの父
- F1625 **規慶**(きけい) ? - ? 出羽の俳人、1774重厚「落柿舎日記」序
- F1626 **其計**(きけい・高橋) ? - ? 江中期絵師:役者絵、1778「絵本続舞台扇」(伊水逸民序)著
- K1664 **其馨**(きけい・長屋ながや)1844 - 1918?75 美濃俳人;獅子門27世、「紅椽園句集」「反古籠」著、  
 [其馨の別号] 紅椽園/黙獅洞/丹砂井帰兮  
 其馨(きけい・中島) → 孝昌(たかまさ・中島なかじま、里正/俳人) D 2 6 7 3  
 其馨(きけい・秦) → 星池(せいち・秦はた、書家) J 2 4 1 9  
 基経(きけい・藤原) → 基経(もとつね・藤原ふじわら、撰関) 4 4 1 6  
 基敬(きけい・東園) → 基敬(もとゆき・東園ひがしの、廷臣/参議) L 4 4 1 2  
 基継(きけい・園) → 基継(もとつぐ・園その/藤原、廷臣/歌人) D 4 4 0 6  
 季瓊(きけい;道号) → 真蘂(しんずい;法諱・季瓊、臨濟僧) 2 2 3 6  
 季継(きけい)すべて → 季継(すえつぐ)  
 季経(きけい・藤原) → 季経(すえつね・藤原ふじわら、廷臣/歌人) 2 3 0 7  
 季経(きけい・四辻) → 季経(すえつね・四辻/藤原、大納言/歌) B 2 3 2 4

季景(きけい・源)	→	季景(すえかげ・源みなもと、廷臣/歌人)	B 2 3 0 9
季卿(きけい・青山)	→	延寿(のぶひさ・青山あおやま、儒者/槍術)	C 3 5 9 6
器慶(きけい・小山)	→	駿亭(しゅんてい・小山こやま、藩士/書家)	L 2 1 5 1
箕形(きけい・長松堂)	→	在色(ざいしき・野口、材木商/俳人)	2 0 8 0
貴慶(きけい・下河)	→	東里(とうり・下河しもかわ、藩士/儒者/詩)	I 3 1 1 1
喜慶(きけい→ききょう)	→	喜慶(ききょう; 法諱、天台僧)	J 1 6 9 2
喜卿(きけい・中村)	→	黒水(くすい・中村なかむら、藩士/儒者)	G 1 9 4 9
熙卿(きけい・東久世)	→	通禧(みちとみ・東久世ひがしくぜ、廷臣/尊攘)	C 4 1 0 1
紀卿(きけい・亀山)	→	士綱(ことつな・亀山、郷土史家)	N 1 9 2 7
軌景(きけい・溝口)	→	幽軒(ゆうけん・溝口みぞぐち、藩士/儒/詩歌)	B 4 6 4 4
毅卿(きけい・桑原)	→	幾太郎(いくたろう・桑原くわばら、藩士)	F 1 1 3 3
毅卿(きけい・矢野/楠本)	→	麓山(ごうざん・楠本くすもと、藩士/儒者)	J 1 9 3 7
毅卿(きけい・矢野)	→	蕉園(しょうえん・矢野やの、藩士/儒者)	H 2 2 2 9
毅卿(きけい・亀井)	→	曇栄(どんえい: 道号・宗暉、臨濟僧/詩)	S 3 1 0 3
毅卿(きけい・林)	→	自弘(じこう・林はやし、藩士/和算家)	T 2 1 4 0
毅卿(きけい・若林)	→	友之(ともゆき・若林わかばやし、藩士/砲術)	Q 3 1 8 3
毅卿(きけい・塚田/小山)	→	春山(しゅんざん・小山おやま/塚田、漢学者)	J 2 1 7 8
毅卿(きけい・宇留野)	→	静庵(せいあん・宇留野うるの、藩士/学者)	H 2 4 2 5
毅卿(きけい・雲谷)	→	任斎(じんさい・雲谷うんや/水野/兵藤、藩士/和漢学)	E 2 2 2 3
喜継(きけい/よしつぐ・加藤)	→	寛斎(かんさい・加藤、藩士/地歴/俳人)	Q 1 5 5 7
亀溪(きけい・曲直瀬まなせ)	→	玄鑑(げんかん・曲直瀬/今大路、医者)	I 1 8 3 1
亀溪(きけい・小林)	→	順堂(じゅんどう・小林こばやし/田淵、医者)	L 2 1 6 0
亀卿(きけい・山本)	→	亨斎(こうさい・山本やまもと、藩士/儒者)	I 1 9 9 3
騎鯨(奇鯨きげい、俳人)	→	葛三(かつさん・倉田くらた、俳人)	C 1 5 4 4

1666 義圭(ぎけい; 字・諦住たいじゅう; 法諱)?-1799 近江の真宗大谷派僧; 膳所響忍寺の生/高倉学寮修、唱導家、本願寺派功存と対立; 大谷派唱導談義を興す、1771-2「阿弥陀経依正譚」著、1773-84「二河白道護信録」76「現世利益辨」77「勸序考」80「即席法談」90「新撰即席法談」著、「うすひき歌信抄」「御伝鈔演義」「善光寺如来東漸録」「真宗安心芳談」「説法護念讚」外著多、[義圭の初法諱/通称] 初法諱; 法明、通称; 栗津義圭

U1608 義敬(ぎけい; 法諱、俗姓; 佐野/平松/本姓; 藤原) 1817-7357 下野宇都宮の佐野甚左衛門家出身、歌; 有栖川幟仁たかひと親王門、越前大野郡の天台宗平泉寺玄成院の20世院主(住職)  
[義敬の号] 無漏庵/如々/邦観/常応院/素鈍

義兄(ぎけい・小林)	→	義兄(よしえ・小林/藤原、歌/博物学)	C 4 7 2 4
義啓(ぎけい; 字)	→	尊祐親王(そんゆうしんのう、天台座主)	F 2 5 8 0
義啓(ぎけい・大橋/小森)	→	桃塙(とうやう・小森こもり、蘭方医/御典医)	B 3 1 1 8
義敬(ぎけい・静間)	→	義敬(よししたか・静間しずま、郷土史家)	E 4 7 1 0
義敬(ぎけい・藤井)	→	義敬(よしのり・藤井ふじい/源、廷臣/記録)	F 4 7 9 6
義敬(ぎけい・宮脇)	→	義敬(よししたか・宮脇みやわき、和漢学/歌人)	P 4 7 4 8
義景(ぎけい・安達)	→	義景(よしかげ・安達/藤原、武将/幕臣/歌)	C 4 7 4 3
義慶(ぎけい・畠山)	→	義忠(よしただ・畠山/源、武将/幕臣/歌)	4 7 1 4
義卿(ぎけい・林はやし)	→	東溟(とうめい・林、儒者)	H 3 1 3 6
義卿(ぎけい・松川/奥)	→	半山(はんざん・松川まつかわ、絵師)	H 3 6 8 2
義卿(ぎけい・吉田)	→	松陰(しょういん・吉田、藩士/軍学/教育)	2 1 6 7
義卿(ぎけい・毛呂)	→	義卿(よしのり・毛呂もろ、和漢学/仏典)	F 4 7 8 5
義卿(ぎけい・佐野)	→	皆雲(かいうん・佐野さの、儒者/詩)	H 1 5 1 4
義卿(ぎけい・大幸)	→	岱畎(たいけん・大幸おおさか/児玉、漢学; 古学)	T 2 6 9 4
義卿(ぎけい・小笠原)	→	敬斎(けいさい・小笠原、儒者/尊攘論)	E 1 8 7 0
義卿(ぎけい・藤堂)	→	高嶺(たかさど・藤堂、藩主/詩文)	L 2 6 9 1
義卿(ぎけい・小原)	→	正路(正道まさみち・小原おはら、藩士/歌)	M 4 0 0 4
義卿(ぎけい・長柄)	→	春菴(しゅんりゅう・長柄ながら、医者/狂歌)	L 2 1 9 9

- 義卿(ぎけい・山田) → 翠雨(すいう・山田、儒者/詩人/教育) 2 3 2 8  
 義卿(ぎけい・大塩) → 正路(まさみち・大塩おおしお、藩士/詩歌) O 4 0 3 1  
 義卿(ぎけい・富田) → 道彦(みちひこ・富田とみた、地役人/詩歌) J 4 1 8 7  
 義卿(ぎけい・松浦) → 詮(あきら・松浦まつら、藩主/書/茶人) I 1 0 4 4  
 義継(ぎけい・庄司) → 文螭(ぶんち・庄司しょうじ、絵師/篆刻/俳) G 3 8 1 3  
 儀卿(ぎけい・石井) → 豊洲(ほうしゅう・石井いし、儒者/藩儒) B 3 9 4 7  
 宜卿(ぎけい・人見) → 鶴山(かくざん・人見ひとみ、幕臣/儒詩) B 1 5 4 9  
 祇卿(ぎけい・今村) → 了庵(りょうあん・今村いまむら、山県、医者) G 4 9 0 9  
 其馨子蘭父(きけいしらんぶ) → 閑斎(かんさい・大井おおい、医者) Q 1 5 5 5  
 希傑(きけつ・大沢/印牧かねまき) → 君山(くんざん・大沢、儒者/詩文) D 1 7 6 4  
 B1606 貴月(きげつ) ? - ? 俳人; 初世紀逸きいつ門、1741紀逸「吾妻舞」入  
 義潔(ぎけつ・宮原) → 義潔(よしきよ・宮原みやはら/源、幕臣; 高家) D 4 7 1 8  
 其月齋(きげつさい) → 霞川(かせん・山岡、養蚕家) M 1 5 7 0  
 揮月堂(きげつどう) → 趙斎(ちようさい・関根、書家) I 2 8 3 9  
 戯月堂(ぎげつどう) → 義信(よしのぶ・山本やまもと、絵師) F 4 7 6 0  
 F1627 摠謙(きげん・中野なかの) 1667 - 172054 儒; 朱子学者、春台しゅんたい・安藤東野とうやの師  
 I1661 毅軒(きげん・松岡まつおか、名; 敏/時敏、甚吾男) 1814-7764 土佐藩士/高知住/儒者; 安積良齋門、  
 吉田東陽に拔擢; 藩主山内容堂の侍読/藩校致道館教授、東陽「海南政典」編纂参加、  
 藩史編纂参加、「南海史略」「南海襍志」「毅軒詩類」「毅軒文鈔」「毅堂文類」「画苑小伝」著、  
 [毅軒の字/通称/別号]字; 欲訥、通称; 七助、別号; 毅堂  
 I1648 毅軒(きげん・望月もちづき、名; 綱、東洲男) 1818-7861 下総績川の儒者; 17歳昌平黌入/詩; 野村篁園門、  
 1864昌平黌儒官/静岡の藩学問所教授、「皇統譜」著、  
 [毅軒の字/通称]字; 孟王/孟玉、通称; 万一郎  
 希賢(きげん・沢村/三輪) → 執斎(しっさい・三輪みわ/沢村/大村/真野、儒者/歌) E 2 1 8 8  
 希賢(きげん・田辺) → 整斎(せいさい・田辺/上毛野、藩儒/記録) B 2 4 5 2  
 希賢(きげん・由美) → 希賢(まれかた・由美ゆみ/稲富、儒者/詩) K 4 0 2 3  
 希賢(きげん・留守/遊佐) → 希斎(きさい・留守るす/遊佐ゆさ、儒者) I 1 6 5 2  
 希賢(きげん・桜田) → 古秀(こしゅう・八田はつた、絵師) M 1 9 7 5  
 希軒(きげん・大島) → 贅川(しせん・大島、儒者/藩儒) U 2 1 1 5  
 季顕(きげん・四辻) → 季顕(すえあき・四辻/室町/藤原、大納言) B 2 3 0 7  
 季顕(きげん・真崎) → 季顕(すえあき・真崎まさき、藩士/記録収集) F 2 3 3 4  
 季顕(きげん・小野) → 季顕(すえあきら・小野おの/原田、庄屋/国学) I 2 3 1 7  
 季兼(きげん・藤原) → 季兼(すえかね・藤原、廷臣/管絃郢曲) B 2 3 1 2  
 季虔(きげん・伊地知) → 季虔(すえのり・伊地知いぢち、藩陪臣/記録) L 2 3 2 7  
 季憲(きげん・芝山) → 重豊(しげとよ・芝山/藤原、廷臣/歌) C 2 1 5 5  
 季賢(きげん・源) → 季賢(すえかた・源みなもと、廷臣/歌人) B 2 3 1 1  
 季賢(きげん・太郎館) → 季賢(すえかた・太郎館たろうだち/荒木田、神職/国学) F 2 3 3 9  
 葵軒(きげん) → 春勝(はるかつ・林、鷲峰、羅山男/儒者) 3 6 3 0  
 崎乾(きげん・野崎) → 義也(よしなり・野崎のさき、名主/国学/歌) O 4 7 4 2  
 基顕(きげん・園) → 基顕(もとあき・園その/藤原、廷臣/歌人) B 4 4 9 3  
 基顕(きげん/もとあき・小林) → 依兮(いけい・小林こばやし、商人/俳人) C 1 1 2 0  
 基賢(きげん・東園) → 基賢(もとかた・東園ひがしぞの/藤原/園、大納言/歌) C 4 4 3 2  
 基建(きげん・富田) → 織部(おりべ・富田とみた、勤王家) C 1 4 0 0  
 毅軒(きげん・山本) → 操(みさお・玉松たままつ/山本、僧/国学/政治) J 4 1 7 2  
 V1686 基玄(きげん; 法諱、) ? - ? 平安鎌倉期; 南都の僧/権律師、  
 1237刊[檜葉集]2首入、  
 [さそひくるならの落葉にうづもれて嵐にたゆるたにのほそ道][檜葉; 冬292]  
 B1608 其諺(きげん; 法諱、号; 四時堂/肖菊翁) 1666-173671 京円山の時宗安養寺正阿弥の住職/  
 のち五条橋東隠棲、俳人; 宮河松堅門/貞徳三世を称す、漢和俳諧; 真珠庵如泉門、  
 1713歳時記「滑稽雑談」、24「御傘取柄抄」/30漢和作法「獬冠子こうこんじ」「漢和初心鈔」著、

- 「俳諧漢和金衣鳥」編、1730洞笑「杖の名ごり」方山追善百韻入
- S1637 **鬼言**(きげん) ? - ? 俳人;1703不角「広原海わたつみ」入、  
[門松や年の歩みの一里塚](広原海/前句;右と左と右と左と)  
(一里塚は1604慶長九年から日本橋を起点に作られた/年の区切りとしての比喩)  
(一休[門松は冥土の旅の一里塚めでたくもありめでたくもなし]は時代不合;江戸期の歌)
- B1609 **希言**(きげん・岩下いわした、平輔[平兵衛]男)1748or49-1810or1163歳 信州善光寺薬種商、  
俳人:士朗門/暁台門、画、1798「百物語」99「くきき花見」、文兆[親利]の弟、  
1805兄文兆追善集「かいくつ」(草司と共編)  
[希言(;号)の名/通称]名;親利(兄と同)、通称;平助/平兵衛、屋号;蔦屋
- |                  |   |                       |           |
|------------------|---|-----------------------|-----------|
| 兄                | → | 文兆(ぶんちよう・岩下いわした、俳人)   | G 3 8 2 1 |
| 希言(きげん・千葉)       | → | 葛野(かどの・千葉/大蔵屋、国学/歌)   | 1 5 7 1   |
| 希言(きげん・桂)        | → | 金溪(きんけい・桂かつら、藩士/儒者)   | I 1 6 9 8 |
| 希言(きげん・安斎)       | → | 希言(まれこと・安斎あんざい、町年寄/歌) | N 4 0 2 6 |
| 希言(きげん・倉科)       | → | 希言(まれこと・倉科くらしな、歌人)    | P 4 0 4 6 |
| 希玄(きげん・法諱)       | → | 道元(どうげん:道号・希玄、日本曹洞宗祖) | 3 1 0 7   |
| 希元(きげん/まれもと?・田辺) | → | 損斎(そんさい・田辺たねべ、藩士/儒者)  | F 2 5 3 8 |
| 鬼彦(きげん・横田)       | → | 鬼彦(おにひこ・横田よこた、藩士/歌人)  | D 1 4 7 8 |
| 其原(きげん・三村)       | → | 崑山(こんざん・三村みむら、儒者)     | G 1 9 1 5 |
| 其源(きげん・深野)       | → | 新兵衛(しんべゑ・深野/長見、藩士/俳人) | P 2 2 7 9 |
| 紀元(きげん・藤林)       | → | 普山(ふざん・藤林、医者/蘭学)      | C 3 8 3 3 |
| 紀言(きげん・児山)       | → | 紀言(のりこと・児山、歌人)        | E 3 5 4 7 |
| 季元(きげん・北村)       | → | 季元(すえもと・北村きたむら、幕府歌学所) | I 2 3 4 1 |
| 季厳(きげん)          | → | 季厳(きごん、歌人)            | K 1 6 4 0 |
| 季彦(きげん/すえひこ・松田)  | → | 竹里(ちくり・松田まつだ、藩医/詩文)   | D 2 8 9 2 |
| 季彦(きげん・葛)        | → | 蛇玉(じやぎよく・葛かつ、絵師)      | H 2 1 7 9 |
| 貴彦(きげん・松木)       | → | 貴彦(としひこ・松木/度会、神職)     | N 3 1 4 4 |
| 貴厳(きげん・吉島)       | → | 斐之(あやゆき・吉島よししま、商家/国学) | I 1 0 5 6 |
| 亀彦(きげん・岩沢)       | → | 幸年(ゆきとし・岩沢いわさわ、藩士/歌人) | G 4 6 5 8 |
| 徽言(きげん・韓/石井)     | → | 潭香(たんこう・石井、書家)        | T 2 6 4 7 |
- B1607 **義賢**(ぎげん;法諱、俗名;足利持満もちみつ、足利満詮男/本姓;源)1399-146870 足利義持の猶子、  
1410真言醍醐寺三宝院入室;満濟准后門/11法身院で受戒/26東寺長者法務/27伝法灌頂、  
1430三宝院門跡/33醍醐寺40世座主/48准三后、歌;新統古今582、  
[紅葉する生田の杜のいくしほもあかぬ色とやなほ時雨るらむ](新統古;秋582/百首歌)、  
[義賢の称]三宝院大僧正/後遍智院准后のちのへんちんじゅごう
- F1628 **宜謙**(ぎけん・伊藤いとう、別名;宜)?-? 京の儒医者、1693「初学便蒙」93「和漢俚諺集」、  
1714辞書「和漢新撰下学集」、「和漢俚諺便蒙集」著
- K1630 **義謙**(ぎけん・白井しらい、通称;享)1783-184361 岡山藩士/武道:一刀流;中西子啓門、  
近畿中国を武者修行/岡山に道場、兵学;滝川俊章門/寺田宗有門;2代目天真一刀流、  
天真白井流(天真伝兵法)を創始、「天真伝白井流兵法天真録」「明道論」「兵法未知志留辺」著
- K1631 **攝謙**(ぎけん;法諱・易往院;号)1806-6560 尾張安賀村真宗専養寺住職、1820名古屋藩校修学、  
1827出家;京真宗香樹院徳竜門/真言密教;智積院乙公文門、40専養寺住職、  
1847寺内に学寮開設;子弟教育、「愚禿鈔録」「言南無者録」、「阿弥陀経講辨」外講録多数、
- V1654 **義頭**(ぎげん;法諱・山田やまだ)1827-190276 大和の僧/国学者・歌人;伴林光平門、  
河内志紀郡柏原村の易往寺住職、1889(明治22)光平の[神楽の舎ささのや五百首]跋文執筆
- |                 |   |                        |           |
|-----------------|---|------------------------|-----------|
| 義見(ぎけん・戸村)      | → | 義見(よしあき・戸村とむら、藩家老)     | B 4 7 9 0 |
| 義見(ぎけん・津野)      | → | 滄洲(そうしゅう・津野つゐ、商家/詩/狂歌) | B 2 5 8 5 |
| 義賢(ぎけん・綾野)      | → | 義賢(よしあき・綾野あやの/香西、藩士)   | C 4 7 7 3 |
| 義賢(ぎけん・加藤)      | → | 豊年(とよとし・加藤/長坂、国学/地誌)   | U 3 1 6 8 |
| 義頭(ぎげん/よしあき・細川) | → | 道賢(どうげん:法名、細川、武家/歌人)   | D 3 1 5 1 |
| 義頭(ぎげん・木曾)      | → | 義頭(よしあき・木曾きそ/入江、藩士/国学) | M 4 7 3 7 |



- 義軒(ぎげん) → 信寿(のぶひさ・津軽つがる、藩主/詩歌) C 3 5 9 5  
 義兼(ぎげん・足利) → 義兼(よしかね・足利あしかが、武将/幕臣) 4 7 0 8  
 義兼(ぎげん・牧野) → 義兼(よしかね・牧野まきの、和算家) D 4 7 0 0  
 義謙(ぎげん・岡田) → 花邨(かそん・岡田おかだ、医者/儒) M 1 5 8 4  
 義賢(ぎげん・中野) → 敬斎(けいさい・中野なかの、儒者/医者) F 1 8 6 1  
 義賢(ぎげん;法諱) → 光天(こうてん;法諱・義彦;字、真言僧) K 1 9 7 4  
 義賢(ぎげん・磯貝) → 大愍(たいみん・磯貝いそがい、浄土僧/歌人) V 2 6 6 3  
 義建(ぎげん・松平) → 義建(よしたつ・松平/高須、藩主/歌) K 4 7 5 0  
 義健(ぎげん・古河) → 涼閣(りょうかく・新宮しんぐう/古河、蘭医) G 4 9 8 7  
 義憲(ぎげん・平賀) → 鳳台(ほうだい・平賀ひらが、儒者) C 3 9 2 1  
 宜見(ぎげん・菊池) → 正古(まさひさ・菊池さくち、医者/教育) G 4 0 6 2  
 宜軒(ぎげん・益田) → 厚(あつし・益田また香遠、篆刻家) I 1 0 4 2
- K1632 義元(義玄ぎげん;法諱、義賢) 668-757長寿90 修験者;小角五代弟子の第二、「大峯縁起」を相伝、大和石井郷に熊野権現を勧請、「役行者本記」著
- K1633 義源(ぎげん;法諱、号;成乗坊/真如金剛) ?-? 鎌倉後期天台学僧;明源/興円門、顕密二教に精通、記家(平安末以来の記録相伝の集成者)の中心、1309興円の12年籠山行に賛同し弟子となる、1303「法華読音」19「日吉山王秘伝記」、「延暦寺記録」、「都法秘録口決」著
- F1629 宜彦(宜彦ぎげん;号) ? - ? 三河俳人:曙庵秋挙門、1818「すかのをかさ」27「花済集」編/28「はなのわたり」、1847秋挙23回忌追善集「曙庵句集」東雅と共編
- 義元(ぎげん・今川) → 義元(よしもと・今川いまがわ/源、戦国大名) 4 7 2 6  
 義言(ぎげん・河/上河) → 淇水(きすい・上河うえかわ/河、心学者) B 1 6 3 0  
 義言(ぎげん/よしとき・磯谷) → 久英(ひさひで・磯谷いそがい、藩士/兵法家) B 3 7 8 3  
 義言(ぎげん・長野) → 義言(よしこと/-とき/-ゆき/-長野、藩士/国学者) 4 7 1 1  
 義言(ぎげん・福島) → 義言(よしこと・福島、浅田/乙葉、幕臣/日誌) D 4 7 3 1  
 義巖(ぎげん) → 義巖(ぎごん、18ct天台僧) K 1 6 4 1  
 義巖(ぎげん) → 義巖(ぎごん、19ct天台僧) K 1 6 4 2  
 義彦(ぎげん;字) → 光天(こうてん;法諱・義彦;字、真言僧) K 1 9 7 4  
 義彦(ぎげん・斎藤) → 義彦(よしひこ・斎藤/荒船、神道家/歌) G 4 7 2 0  
 義彦(ぎげん・政田) → 義彦(よしひこ・政田まさだ、文筆家) G 4 7 2 1  
 義彦(ぎげん・横山) → 義彦(よしひこ・横山よこやま、歌人/教育) G 4 7 2 2
- 其儼(ぎげん;道号・道徽どうき;法諱) → 大鵬(たいほう;道号・正鯤しょうこん;法諱、黄檗僧) C 2 6 1 7
- 義源院(ぎげんいん) → 頼永(よりとお・有馬ありま、藩主/詩文) J 4 7 1 3  
 危言狂夫(きげんきやうふ) → 興勝(おきかつ・青木、藩士/儒/蘭学者) C 1 4 8 7  
 希言子(きげんし・木村) → 忠貞(たださだ・木村きむら、読本作者) P 2 6 4 9  
 喜源次(きげんじ・鳥居) → 円秋(えんしゅう・鳥居とりい、藩士/天文学) E 1 3 8 9  
 摺謙先生(きげんせんせい;諱) → 長文(ちやうぶん・伊藤、儒者) J 2 8 7 8  
 喜源太(きげんた・久岡) → 幸秀(ゆきひで・久岡ひさおか、藩士/歌人) F 4 6 4 2  
 亀硯坊(きげんぼう) → 長隠(ちやういん・山田、俳人) H 2 8 2 5  
 帰元房(きげんぼう) → 曙庵(しやあん・神野/柴田、美濃派俳人) G 2 2 4 3  
 希古(きこ・窪島/田中) → 冠帯(かんたい;号・田中たなか、農政家) H 1 5 7 2  
 季護(きご・山本) → 季護(すえもり・山本やまもと/高木、官人/国学) J 2 3 3 6  
 義古(きご・平栗) → 義古(よしふる・平栗ひらぐり、陪臣/国学) O 4 7 7 9  
 義故(きご・山崎) → 義故(よしもと・山崎やまざき、藩士/書家) H 4 7 6 9  
 義悟(きご・新宮) → 凉哲(りやうてつ・新宮しんぐう、蘭医) J 4 9 0 4  
 義護(きご・長崎) → 義護(よしもり・長崎ながさき、藩士/歌人) O 4 7 2 3  
 希古庵何戎坊(きこあんかじゅうぼう) → 義苗(よしなね・大島おおしま、旗本/俳人) K 4 7 6 5
- F1630 幾弘(きこう・栗原くりはら) ? - ? 関東に住/連歌作者、1470心敬らと「河越千句」参加

- F1631 亀岡(きこう) ? - ? 京の書林亀岡堂の主人、  
1728雑俳撰集;雲峰「俳諧峯の嵐」編
- I1662 葵岡(きこう・松下まつした/葛山、名;寿/字;子福、松下烏石の甥) 1748-1823/76 幕臣/儒者・片山兼山門、  
師没後;師の説を継承;山子学と称す、  
「青蘿館漫筆」「一斎漫筆」「葛山寿文稿」「葵岡詩文集」著、  
[葵岡の通称/別号] 通称;清太郎、別号;一斎
- K1634 亀公(きこう) ? - ? 俳人;1773几董「あけ烏」入、  
[投げられて酒債さかて飛散る門角力かどずまふ](あけ烏;120/隣人集い負け方に投銭)
- F1632 亀好(きこう・玉縁斎、白縁斎梅好男) 1770-? 大阪の書肆/狂歌;父門、  
1780梅好「大津みやげ」入  
兄弟 → 寿好(じゅこう・玉縁斎、書肆/狂歌) I 2 1 6 7
- K1635 帰厚(きこう) ? - ? 俳人;1783維駒これこ「五車反古」1句入;417、  
[ともかくも時雨次第の高雄かな](五車反古;冬417/時雨しだいで紅葉の景色は変る)
- F1633 其考(きこう・亀井かめい、名;常卿/別号;底虚) 1695-1747/53 尾張愛知郡広井村の医者/俳諧・狂歌、  
俳;五条坊三逕門、1725「俳諧五雑俎」42「錢百集」44「歳旦集」59句集「紙帛かみぶくろ」編
- 亀幸(きこう・桜井) → 忠宝(ただとみ・松平、藩主/俳人) Q 2 6 1 1  
 亀岡(きこう・中村) → 守臣(もりおみ・中村なかむら、国学者/神道) F 4 4 2 3  
 亀岡(きこう・松浦) → 詮(あきら・松浦まつうら、藩主/書/茶人) I 1 0 4 4  
 希杲(きこう;法諱) → 東岡(東岡とうこう;道号・希杲、臨濟僧/開版事業) D 3 1 7 1  
 希庚(きこう・岩井田) → 昨非(さくひ・岩井田いわいだ、藩士/儒者) H 2 0 2 8  
 帰厚(きこう・松岡) → 帰厚(もとあつ・松岡/越智、国学者) C 4 4 0 6  
 紀光(きこう・柳原) → 紀光(もとみつ・柳原光房、廷臣/詩歌) E 4 4 3 9  
 紀孝(きこう・島村) → 紀孝(のりたか・島村しまむら、商家/国学) I 3 5 7 0  
 紀耕(きこう・辻) → 紀耕(のりただ・辻つじ、農業/商家/歌人) J 3 5 1 7  
 紀綱(きこう・樋口) → 紀綱(のりつな・樋口ひぐち、商家/儒者/歌) J 3 5 7 8  
 寄節(きこう/ききょう・佐々木) → 季遊(ききゅう・佐々木、閑空、俳人) M 1 6 1 7  
 其香(きこう・本多) → 忠憲(ただのり・本多、国学/故実/歌/俳) F 2 6 6 3  
 其行(きこう) → 鶴翁(かくおう・花月庵、田中、茶人;煎茶) J 1 5 5 9  
 喜広(きこう・小川地) → 喜広(嘉広よしひろ・小川地おがわち、神職) G 4 7 6 5  
 貴行(きこう・川上) → 貴行(たかゆき・川上かわかみ、和算家) N 2 6 6 3  
 貴光(きこう・堀) → 貴光(たかみつ・堀ほり、藩士/歌人) N 2 6 3 1  
 貴恒(きこう・中島) → 貴恒(たかつね・中島/植木、国学/歌人) M 2 6 3 1  
 葵岡(きこう) → 北溪(ほっけい・魚屋ととや、魚商/絵師) E 3 9 6 0  
 葵岡(きこう) → 溪月(けいげつ・葵岡、絵師;北溪門) F 1 8 4 8  
 葵岡(きこう) → 溪栖(けいせい・葵岡、絵師;北溪門) G 1 8 2 0  
 紀興(きこう・手塚) → 紀興(のりおき・手塚てづか、藩士/和算家) E 3 5 3 2  
 規綱(きこう・渡辺) → 規綱(のりつな・渡辺、家老/茶/陶芸) F 3 5 0 9  
 規弘(きこう/のりひろ・西) → 元哲(げんてつ・西にし、蘭外科医/奥医) L 1 8 6 3  
 祈綱(きこう・横田) → 祈綱(のりつな・横田よこた、商人/尊攘派) F 3 5 1 0  
 季光((きこう)すべて → 季光(すえみつ)  
 季好(きこう・千秋) → 季好(すえよし・千秋せんしゅう、神職/俳人) B 2 3 5 7  
 季好(きこう/すえよし・野田) → 白石(はくせき・野田のだ、醸造業/詩/狂歌) D 3 6 4 7  
 季弘(きこう;道号) → 大叔(だいしゅく;法諱・季弘、臨濟僧) B 2 6 5 6  
 季行(きこう・楊梅) → 季行(すえゆき・楊梅やまもも/藤原、廷臣/歌) B 2 3 5 6  
 季行(きこう・松田/三浦) → 蘭阪(らんぱん・三浦みうら/松田、医/本草) D 4 8 1 3  
 季広(きこう・源) → 季広(すえひろ・源みなもと、廷臣/歌人) B 2 3 4 1  
 季亨(きこう;道号・玄巖) → 玄巖(げんごん;法諱・季亨、臨濟僧) B 1 8 8 0  
 季孝(きこう・藤原) → 季孝(すえたか・藤原、廷臣/歌人) F 2 3 4 7  
 季綱(きこう・藤原) → 季綱(すえつな・藤原、廷臣/漢学/詩人) B 2 3 2 3  
 季綱(きこう・藤原) → 季綱(すえつな・藤原、廷臣/歌人) B 2 3 8 6

季康(きこう・安倍) → 季康(すえやす・安倍あべ、楽人; 箏篳) B 2 3 5 5  
 季興(きこう・河村) → 季興(すえおき・河村かわむら、諸大夫/尊攘) I 2 3 3 1  
 基行(きこう・持明院) → 基行(もとゆき・持明院/藤原、廷臣/歌) E 4 4 5 2  
 基光(きこう・藤原) → 基光(もとみつ・藤原、廷臣/絵師/歌人) E 4 4 3 7  
 基綱(きこう)すべて → 基綱(もつな)  
 基広(きこう・並河) → 基広(もとひろ・並河/並川/平、歌人) E 4 4 1 4  
 基弘(きこう・後藤) → 基弘(もとひろ・後藤ごとう、国学者) E 4 4 1 6  
 基幸(きこう・源) → 基幸(もとゆき・源みなもと、廷臣/歌人) E 4 4 5 3  
 基好(きこう・吉村) → 右京(うきょう・中条ちゅうじょう/吉村、尊攘派) C 1 2 1 2  
 基恒(きこう・斎藤) → 基恒(もつね・齋藤/藤原、幕臣/日記) D 4 4 1 5  
 基香(きこう・園) → 基香(もとか・園その/藤原、廷臣/記録) C 4 4 2 1  
 基康(きこう・樋口) → 基康(もとやす・樋口/藤原、大納言/歌) E 4 4 4 8  
 基衡(きこう・園) → 基衡(もとひら・園その/藤原、廷臣/歌) E 4 4 0 5  
 基孝(きこう・持明院) → 基孝(もとか・持明院/藤原、廷臣/書/連歌) C 4 4 7 8  
 危行(きこう・三輪田) → 高房(たかふさ・三輪田みわた、和漢学/神職) Z 2 6 7 2  
 輝光(きこう・日野) → 輝光(てるみつ・日野/藤原、廷臣/記録) C 3 0 9 9  
 輝高(きこう・松平) → 輝高(てるたか・松平まつだいら/源、藩主/老中/歌) E 3 0 8 6  
 輝綱(きこう・松平) → 輝綱(耀綱てるつな・松平、藩主/兵学/平曲) C 3 0 8 0  
 毅侯(きこう・矢島) → 立軒(りっけん・矢島やじま、藩儒) B 4 9 7 7  
 驥衡(きこう・富田/海東) → 駒斎(けいさい・海東かいとう、藩士/儒者) E 1 8 6 8  
 季剛(きこう・落合) → 東堤(とうてい・落合、儒者) G 3 1 5 8  
 鬼工(きこう・村林) → 源助(げんすけ・村林むらばやし、商家/和漢学) N 1 8 9 9

F1634 義剛(ぎこう; 法諱、依順いじゆん; 字、号; 豹隠子、俗姓; 河崎) 1665-1715? 和泉木島真言僧; 如林門、  
 眞賢/秀伝/靈雲寺浄巖門、高野山補陀洛院住、詩文、1687「長楽寺縁起」著、  
 1704「文館詞林弘仁鈔本」写、「一機集」「菩提心論教相記題釈」「菩提心論教相記蒙引」著

B1638 蟻巧(ぎこう) ? - ? 安藝広島の蕉門系俳人; 1705支考「三日歌仙」入、  
 1706涼兔「潮とろみ」/支考「東山万句」入

義行(ぎこう/よしゆき・源) → 聖覚(しょうかく、和学/歌人) L 2 1 7 6  
 義行(ぎこう・松平) → 義行(よしゆき・松平/徳川、藩主/和漢学) H 4 7 8 8  
 義行(ぎこう/のりゆき・佐野) → 義行(のりゆき・佐野その、幕臣/文芸) G 3 5 1 3  
 義行(ぎこう/よしゆき・佐々木) → 喜楽(きらく・佐々木ささき、郷土史家) Q 1 6 4 5  
 義行(ぎこう・速水) → 義行(よしゆき・速水はやみ、儒者) H 4 7 9 8  
 義行(ぎこう・後閑) → 義行(よしゆき・後閑ごかん/源、藩士/歌人) M 4 7 8 7  
 義光(ぎこう・源) → 義光(よしみつ・源、新羅三郎、武将) H 4 7 4 8  
 義光(ぎこう・最上) → 義光(よしあき/よしてゐる・最上もがみ/源、武将/藩主/連歌) B 4 7 8 6  
 義光(ぎこう・中川) → 義光(よしみつ・中川ながわ、儒者/歌人) O 4 7 1 6  
 義晃(ぎこう・森) → 義晃(よしあき・森もり、里正/国学/歌) P 4 7 6 6  
 義公(ぎこう; 諡号) → 光圀(みつくに・徳川/源、藩主/修史) 4 1 2 5  
 義公(ぎこう・新田) → 日信(にっしん・新田/杉岡、大僧正) H 3 3 3 0  
 義弘(ぎこう・大内) → 義弘(よしひろ・大内/多々良、武将/歌) G 4 7 5 3  
 義弘(ぎこう・島津) → 義弘(よしひろ・島津しまつ、武将/記録) G 4 7 5 5  
 義弘(ぎこう・根岸) → 義弘(よしひろ・根岸ねぎし、地誌家) G 4 7 6 1  
 義広(ぎこう・阿川) → 義広(よしひろ・阿川あがわ、国学・故実家) G 4 7 6 4  
 義広(ぎこう・逸見) → 義広(よしひろ・逸見へんみ、神職) G 4 7 7 1  
 義功(ぎこう・田中) → 正中(まさなか・千葉ちば/田中、庄屋/林業/歌) Q 4 0 8 9  
 義亨(ぎこう; 法諱) → 徹翁(てつとう; 道号・義亨、臨濟僧) E 3 0 7 6  
 義香(ぎこう・本間、自準亭6世) → 道偉(どうい・本間、医者/俳人) B 3 1 0 0  
 義高(ぎこう・斯波) → 義高(よししたか・斯波しば/源、武将/歌) D 4 7 9 0  
 義高(ぎこう/よししたか・源、「硯破」奥書) → 義澄(よしずみ・足利、將軍/歌人) D 4 7 8 2  
 義高(ぎこう/よししたか・畠山) → 桂花(けいか・畠山はたけやま、医/歌/鑑定) F 1 8 3 4

義高(ぎこう・錦織)	→	義高(よしとか・錦織にしごり、藩医/和学)	O 4 7 3 7
義高(ぎこう/よしとか・服部)	→	義高(よしとか・服部/笹本、官船頂)	E 4 7 0 5
義高(ぎこう/よしとか・桃井)	→	義高(よしとか・桃井もい、歌人)	K 4 7 7 2
義高(ぎこう・佐々木)	→	義高(よしとか・佐々木さき、歌人)	N 4 7 0 2
義興(ぎこう・大内)	→	義興(よしおき・大内/多々良、武将/歌学)	C 4 7 3 9
義興(ぎこう・鈴木)	→	義興(よしおき・鈴木すげき、村役/和学者)	N 4 7 4 9
義剛(ぎこう・上野)	→	海門(かいもん・上野うえの、儒者;古文辞)	J 1 5 0 9
義剛(ぎこう・秀島)	→	鼓溪(こけい・秀島ひでしま、庄屋/儒/教育)	M 1 9 2 8
義厚(ぎこう・佐竹)	→	義篤(義厚/義敦よしあつ・佐竹/源、武将/連歌)	C 4 7 0 7
義厚(ぎこう・佐竹)	→	義厚(よしひろ・佐竹さたけ/源、藩主/歌)	K 4 7 5 1
義孝(ぎこう) すべて	→	義孝(よしとか/のりたか)	
宜弘(ぎこう・柴崎)	→	宜弘(よしひろ・柴崎しばさき、神職/国学)	N 4 7 3 4
魏皓(ぎこう)	→	皓(こう・魏ぎ、鉅鹿おおが・楽人)	H 1 9 1 1
耆光軒(きこうけん/しこうけん)	→	道仙(どうせん・芦屋あしや、陰陽家)	G 3 1 1 9
希光斎(きこうさい)	→	遵路(ゆきみち・小寺こでら、藩士/儒者)	F 4 6 6 7
亀交山(きこうざん)	→	交山(こうざん・松本/上条、茶屋/絵師)	J 1 9 3 1
亀岡山人(きこうさんじん)	→	熙(ひろむ・松浦まつら、藩主/農地改革)	H 3 7 4 5
喜光寺(きこうじ;号)	→	覚実(かくじつ;法諱、法相僧)	J 1 5 9 4
寄傲舎(きこうしゃ)	→	淡々(たんたん・松木/曲淵、渭北、俳人)	2 6 9 4
義皇上人(ぎこうしょうにん)	→	一蝶(初世いちちよう・英はなぶさ、絵師)	C 1 1 0 8
季弘大叔(きこうだいしゅく)	→	大叔(だいしゅく・季弘、室町期僧)	B 2 6 5 6
帰厚堂(きこうどう)	→	良玄(よしはる・丸山まるやま、和算家)	G 4 7 1 0

U1681 義香尼(ぎこうに・田でん) 1664 - 1747 84 丹波柏原の歌人、田捨女の同族

B1613 其国(きこく・蘭秀舎) ? - ? 江中期上州高崎の雑俳点俳人、旧室門流、江戸風前句付の興行、1738「俳諧後の花」編

K1636 亀谷(きこく・伊藤/本姓;平たいら、名;震/縉、字;百里) 1720-60 41 幕臣/江戸の書家:松下烏石門、「香炉記」、1756「利休居士伝」著、  
[亀谷の通称/別号]通称;震六郎、別号;狼溪

K1637 鬼谷(きこく・谷たに、名;忠明/字;子陽、維揚男) 1757-1832 76 常陸水戸藩士/1794進仕、1820致仕、儒者/兵学者、1820「新能布乃多禰しのぶのたね」、「軍行録」「当戦考」「布陣録」「営舎録」著、「武田兵法伝系」「竹束考」著、  
[鬼谷の通称/別号]通称;佐之衛門、別号;揣摩堂しまどう

K1638 機谷(きこく・山路やまぢ、名;重济げなり、重信[忠平]男) 1817-69 63 備後藤江村の儒者;藤井暮庵門、備後沼隈郡藤江村の庄屋岡本屋山路家の一族、国学・歌;香川景樹・木下幸文門、1837大阪で儒;篠崎小竹門、帰郷後私財で社会事業(道路修理・舟運・孤児養育);福山藩士籍に列席、1858藤江村の銅採掘/生糸生産、妻;桑田三千子みちこ(歌人)、詩文;1856「未開牡丹詩」66「作文在邇」著、「白雪楼詩文稿」著、「白雪楼史記読本」編、  
[機谷の字/通称/別号]字;伯美、通称;熊太郎、別号;機国/三洲/白雪楼

季国(きこく・千秋) → 季国(すえくに・千秋せんしゅう、神職/連歌) F 2 3 4 0

亀谷(きこく・堀川) → 基俊(もととし・堀川、権大納言/日記) D 4 4 2 7

鬼国(きこく・新宮) → 凉庭(りょうてい・新宮しんぐう、蘭医) I 4 9 9 9

季穀(きこく・柚木) → 常盤(とさか・柚木ゆき、眼科医/本草学) K 3 1 3 6

喜国(きこく) → 巢兆(そうちよう・建部たけべ、俳人) 2 5 1 7

暉谷(きこく・白井) → 巖(いわお・白井しらい/原、神職/国学) K 1 1 3 2

箕谷(きこく・樽井) → 守城(もりき・樽井たるい、兵法家/歌人) F 4 4 3 4

K1639 蟻国(ぎこく) ? - ? 大阪の俳人;1690之道「江鮭子あめご」1句入、  
[色黒に成るをいとふな秋の月](あめ子;168/餞別;残暑の旅も美しい秋月が友となる)

義国(ぎこく・戸村) → 義国(よしくに・戸村とむら、家老/系譜作成) D 4 7 2 2

義国(ぎこく・佐々木) → 義国(よしくに・佐々木、砲術家) D 4 7 2 1

義克(ぎこく・松崎) → 義克(よしかつ・松崎まつさき、国学者) C 4 7 8 7



- 儀克(ぎこく・熊谷) → 儀克(よしかつ・熊谷くまがい、絵師) C 4 7 8 8  
 杞国迂叟(きこくうそう) → 公章(きみあき・山田、藩士/兵学) L 1 6 9 9  
 杞国迂叟(きこくうそう) → 義門(よしかど・佐伯さえき、本草家) C 4 7 9 5  
 喜国菜翁(きこくさいおう) → 巢兆(そうちよう・建部) 2 5 1 7  
 鬼国山人(きこくさんじん) → 凉庭(りょうてい・新宮しんぐう、蘭医) I 4 9 9 9  
 奇觚楼(きころう) → 成斎(せいさい・小島こじま、藩士/書家) B 2 4 6 0  
 喜五郎(きごろう・安田) → 信村(のぶむら・安田やすだ/太田、国学者) K 3 5 2 2  
 紀五郎(きごろう・松平) → 齐省(なりさだ・松平まつだいら、藩主養子/歌) K 3 2 6 8  
 季根(きこん・北村) → 湖元(こげん・北村きたむら、幕府歌学方) C 1 9 4 5  
 季崐(きこん・三村) → 石牀(せきしょう・三村、医者/本草家) K 2 4 1 6  
 義根(ぎこん・足利) → 義根(よしね・足利/源/平嶋、詩人) F 4 7 4 9  
 義根(ぎこん・長倉/佐竹) → 義根(よしね・佐竹さたけ/源/長倉、天文家) F 4 7 4 8  
 K1640 季巖(ぎこん) ? - ? 平安末鎌倉期の僧;法眼、  
 歌人;1191若宮社歌合(;法橋)/1200石清水若宮社歌合(;法眼)参加、  
 [深山への谷のこほりもうち解けて春知り顔に鶯ぞ鳴く](若宮社;六番右12/法橋季巖)  
 K1641 義巖(ぎこん;法諱) ? - ? 1751-64頃天台大僧都/叡山観明院住僧、  
 1758回峯一千日の行が成就、「勸学会雑記」著、1764「洛東南禅寺東照宮外正遷宮記」著  
 K1642 義巖(ぎこん;法諱) ? - ? 江後期天保弘化1830-48頃天台東叡山住心院住僧、  
 1847権僧正、凌雲院住;大僧正、1842「慈眼大師御年譜」45「幣帛辨」著、47「神道稽天録」編、  
 「東叡山日記」編、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [大井川くだす筏に降る雪は嵐の山の桜なりけり](大江戸倭歌;306川落花)  
 U1650 きさ(象きさ・下平しもひら、旧姓;片桐/林/小木曾、片桐源栄女) 1790-1841<sup>52</sup> 信濃伊那郡の歌人、  
 国学/歌;父源栄門/桃沢夢宅門、娘の小林壽賀すがも歌人、  
 [きさ(;名)の初名] きん  
 父 → 源栄(げんえい/もとひで・片桐、詩人) B 1 8 2 9  
 女 → 壽賀(すが・小林こばやし、歌人/夭逝) I 2 3 4 8  
 基佐(きさ・桜井) → 基佐(もとすけ・桜井、永仙、歌/連歌) 4 4 1 3  
 喜佐(きさ・喜佐姫・津軽/松平) → 信明室(のぶあきらのしつ・津軽つがる、藩主室/歌) J 3 5 1 1  
 儀左(ぎさ・宮田) → 椿岱(ちんたい・宮田、名主/俳人) K 2 8 8 7  
 I1649 寄斎(きさい・三宅みやけ、名;島、材木商の宗岩男) 1580-1649<sup>70</sup> 和泉堺の生;1590(11歳)で父と死別、  
 大徳寺寄寓;漢学の勉学/儒・漢唐の注疏、門人を指導、茶;千宗旦門、「寄斎文集」著  
 [寄斎(;号)の字/通称/別号]字;亡羊、通称;玄蕃、号;喜斎/江南/江南野水翁/松明  
 I1650 希斎(きさい・安積あさか、名;貞吉/字;恵吉/通称;介之丞、正信男) 1630-66<sup>37</sup> 常陸儒者;水戸藩儒員、  
 詩文、「祭礼私考」「希斎集」「酔吟稿」著  
 I1651 毅斎(きさい・市浦いちうら、名;惟直<sup>これなお</sup>/字;季清、六右衛門男) 1642-1712<sup>71</sup> 武蔵の儒者;京に遊学、  
 程朱学を修学、備前  
 岡山藩士となる;閑谷巒教授/督学/藩校総監、「聖学要旨」「毅斎文集」「自訟録」著  
 [毅斎(;号)の通称/別号]通称;清七郎、別号;愚斎  
 F1635 毅斎(きさい・梁田やなだ、勝秀男) 1671-1743<sup>73</sup> 江戸神田小川町の儒者、蛻巖ぜいがんの兄、  
 1694「近思録集解便蒙詳説」、「近思録詳説附録」「易学啓蒙解」「通俗二礼考」著  
 [毅斎(;号)の名/字/通称]名;勝信/忠、字;勝徳、通称;信輔、  
 I1652 希斎(きさい・留守るす/遊佐ゆさ、名;友信、遊佐木斎養子) 1705-65<sup>61</sup> 仙台儒者;遊佐木斎門;一時養子、  
 家を出て上京;三宅尚斎門/大阪で講説業、仙台留守職伊沢左近将監家景22世を自称、  
 「和漢文会録」、「俗語録」「括囊雑抄」「倭学通」、1757「称呼辨正」、「鬼神説」編、「括囊遺筆」著、  
 [希斎の字/通称/別号]字;希賢/士実/好実、通称;弁治/退蔵/武内、別号;括囊/霊神、  
 陸奥留守職伊沢左近衛将監家景22世を称す  
 I1653 幾斎(きさい・若槻わかづき/本姓;源、名;敬/字;子寅) 1744<sup>or46</sup>-1826<sup>83/81</sup> 大阪儒者;程朱学、  
 角倉家の属吏、致仕/1785聖護院村に隠棲;尊朱堂で教導、歌/音韻に精通、  
 1819「四書集註翼」21「畏庵随筆」、「千首和歌」「音韻おんえい」「承応遺事」著、  
 [幾斎の通称/別号]通称;源三郎/玄三郎、別号;畏庵/寛堂

- K1644 **棋斎** (きさい・能美のうみ、名;以成/通称;吉左衛門)?-? 江中期長門萩藩士/都濃郡・熊毛郡代官歴任、1781頃から当職手元役;藩政に参与、1784「葺櫃録」著
- K1645 **毅斎** (きさい・増子まに、名;淑茂/字;子栢/子陽/通称幸八郎、惟茂男)1761-1830 70 常陸水戸藩士、騎士隊長/郡奉行/書院番歴任、「里老伝」著
- I1654 **毅斎** (きさい・大塚おつか、初姓;鳥飼)1784-1827 44 磐城藩士/藩主命で大塚家を継嗣、儒者:昌平覺入/古賀精里・尾藤二洲門、白河藩出仕/1822藩校教授/23藩主移封;桑名住、1825病氣致仕、詩/書に長ず、「楓川集」、「毅斎詩稿」「毅斎先生詩稿別録」「苟完遺書」著、[毅斎(;)号)の名/字/通称/別号]名;直之、字;菊卿、通称;桂、別号;愚堂/古香/棗亭そうてい/木圭/苟完こうかん
- I1663 **毅斎** (きさい・菱田ひだ、名;重明/字;伯麗、李卿男)1784-1857 74 代々美濃大垣の農業/陶器販売、儒者;会田恒斎門/1805京の皆川淇園門、帰郷後家業を弟に譲渡/開塾;子弟教育、1837大垣藩校致道館開設に尽力/教授/侍講、士籍、藩主戸田氏正の命「戸田家系譜」選定、「本藩系譜」「観善録」「理気説」「毅斎詩文稿」著、「毅斎遺稿」、[毅斎の通称]清次
- K1647 **寄斎** (きさい・山田やまだ、名;守駿/駿、字;農師)?-? 江後期佐渡の儒者:円山溟北[1818-92]門、詩文/門弟指導、「寄所寄庵詩文稿」「奥州探討録」「蘆湾漁唱」著、[寄斎の通称/別号]通称;俊蔵、別号;北陞ほくせい/寄庵
- K1648 **喜斎** (きさい・桑野くわの、名;公克/字;子礼、喜庵男)?-1859 大阪医者:香川秀哲・吉益侗庵門、経学;清田氏門/歌:香川景樹門、俳、「喜斎和歌詠草」「帰斎詩稿」「眉山詩稿」「仁堂雑記」著、[喜斎の号] 熙斎きさい/帰斎/仁堂/眉山/無事庵/梅溪
- K1649 **簀斎** (きさい・岡村おかむら、名;酌中/字;士黄、権左衛門男)1815-73 59 萩藩士/経史・書;山県墨遷門、上京;牧百峰に従学、京で教授;勤王派、萩藩中士/山口館教授、「育材小言」著、「第玖集」編、[簀斎の通称/別号/変名]通称;熊七/熊彦、別号;覆簀斎/雲巖、変名;小原四熊
- K1650 **驥斎** (きさい・伊藤いとう、名;敬/通称;常次郎)1817-88 72 陸中一関藩士・1854藩命で西洋兵学修学、兵学;川勝広運門/1857帰藩:兵制改革、1844「遊東山太白記」61「兵術問答」著
- S1690 **僖斎** (きさい・飯塚いづか) ? - ? 江後期;歌人/水野家に出仕、歌:1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[月は今沖つ波間や出でつらんあらはれそむる浦のはつしま](大江戸倭歌;秋891)

季才(きさい・北村)	→	季才(すえのぶ・北村きたむら、神職/歌人)	I 2 3 4 2
机斎(きさい・村上)	→	忠浄(ただきよ・村上むらかみ、医者/歌)	E 2 6 4 4
希斎(きさい・秋山)	→	富南(ふなん・秋山あきやま、郷土/地誌)	D 3 8 5 7
器斎(きさい・久里)	→	元麿(もとまる・久里くり、僧/神職)	J 4 4 9 1
喜斎(きさい・岡本)	→	宣就(のぶなり・岡本おかもと、兵法家)	C 3 5 5 8
喜斎(きさい、立祥)	→	広重(2世ひろしげ・歌川/安藤、絵師)	G 3 7 0 4
喜斎(きさい・小木曾)	→	常春(つねはる・小木曾おぎぞ/島地、藩士/歌)	F 2 9 3 6
喜斎(熙斎/帰斎きさい・桑野)	→	公克(きみかつ・桑野くわの、国学/歌人)	U 1 6 2 9
喜哉(きさい・国井)	→	喜哉(よしなり・国井くに、藩士/国学)	M 4 7 5 5
歧斎(きさい・郡司)	→	筑海(ちくかい・郡司、儒者)	C 2 8 7 5
毅斎(きさい・木村)	→	高敦(たかあつ・木村、幕臣/巷談研究)	C 2 6 4 9
毅斎(きさい・神屋)	→	立軒(りっけん・神屋かみや、儒者/藩出仕)	B 4 9 7 1
毅斎(きさい・三宅)	→	友信(ともぶ・三宅、蘭学者)	Q 3 1 2 2
毅斎(きさい・高井)	→	中斎(ちゅうさい・高井、儒者/教育)	G 2 8 0 6
毅斎(きさい・晁ちよう/朝枝)	→	玖珂(きゅうか・朝枝あさえだ、藩士/儒者)	G 1 6 3 7
毅斎(きさい・江繫)	→	政陽(まさおき・江繫えつき、藩士/和漢学)	B 4 0 5 5
毅斎(きさい・鵜飼)	→	貞義(さだよし・鵜飼/岡田/石部、神職)	K 2 0 2 9
毅斎(きさい・田代)	→	政典(正典まさのり・田代たしろ、藩家老)	G 4 0 1 1
葵斎(きさい・千家せんげ)	→	俊信(としざね・千家/出雲、国学/歌人)	M 3 1 5 6
葵斎(きさい;号)	→	九淵(きゅうえん;道号・竜蹊りゅうちん、臨済僧)	M 1 6 3 0
葵斎(きさい・菅)	→	忠篤(ただあつ・菅すが、浜主/儒/神道)	X 2 6 6 8
愧哉(きさい・柏村)	→	直条(なおえだ・柏村、神職/連歌/歌)	3 2 7 6

- 己齋(きさい・本内) → 以慎(いしん・本内もとうち、儒者) F 1 1 6 9  
 熙載(きさい/ひろこと・松室) → 松峽(しょうこう・松室まつむろ、神職/白話小説) S 2 2 1 1  
 熙載(きさい・萱野) → 熙載(ひろのり・萱野かやの、藩士/国学) J 3 7 1 1  
 熙齋(帰齋きさい・桑野) → 喜齋(きさい・桑野くわの、医者/詩歌) K 1 6 4 8
- B1614 既在(きさい) ? - ? 安桃期江戸前期1575-1610頃連歌作者;紹巴門、  
 1578羽柴千句参加、1610昌俣と何人百韻、江村宗具[専齋せんさい]の父
- J1623 宜齋(きさい・小野おの) ? - ? 河内松原の俳人、1666吉竹「遠近集」入、  
 狂歌;1666行風「古今夷曲集」入、  
 [めでたいといへばめでたいといふこそ口真ねこまね正月の礼](古今夷曲;春歌12)
- K1651 義齋(宜齋きさい・飯岡いのおか/篠田、名;孝欽、忠嘉男/本姓源) 1717-89 73 大阪の儒者;鈴木貞齋門、  
 心学;石田梅岩門、「澹寧先生甲午録」著、  
 二女あり;頼春水の妻(姉;静子しづこ/梅颯ばいし)と尾藤二洲じゅうの妻(妹;直子/梅月)、  
 [義齋の字/別号]字;徳安、別号;澹寧
- K1652 誼齋(きさい・小林こばやし、別号;葛羅井/蔦蘿井) 1748-1815 68 越前岩本の俳人、「春之夜集」編、  
 没後;1820「誼齋追善集」
- 宜齋(きさい;茶人号) → 野水(やすい・岡田おかだ、商家/俳・茶人) 4 5 2 0  
 宜齋(きさい・伊藤) → 竜洲(りゅうしゅう・伊藤いとう/清田、藩儒) E 4 9 5 5  
 宜齋(きさい・草場) → 佩川(珮川はいせん・草場、儒者/詩画) B 3 6 7 0  
 宜齋(きさい・箕作) → 秋坪(しゅうへい・箕作みつくり/菊池、洋学者) Y 2 1 3 1  
 宜齋(きさい・和田) → 宜歳(よしとし・和田わた/和、商家/国学者) E 4 7 9 4  
 義齋(きさい・遠藤) → 鶴州(かくしゅう・遠藤、藩士/儒者) H 1 5 2 9  
 義齋(きさい・蓮沼) → 由道(よしみち・蓮沼はすぬま、藩士/神道家) H 4 7 3 5  
 義齋(きさい・古川) → 太無(たいむ・古川、俳人) C 2 6 2 2  
 義齋(きさい・松井) → 徳隣(のりちか・松井まつい、藩医/歌人) J 3 5 9 9  
 義齋(きさい・松平) → 康正(やすまさ・松平、藩家老/尊攘派) C 4 5 9 8  
 義齋(きさい・田辺) → 日峰(にちほう;法諱・義齋;字、日蓮僧) H 3 3 1 2  
 義濟(きさい・佐久間) → 義濟(よしなり・佐久間さくま/赤川/中村、藩士/尊皇) M 4 7 9 7  
 義材(きさい・難波) → 義材(よしき・難波なんば、医者/詩歌人) D 4 7 0 6  
 婦西子(きさいい) → 玄貞(げんてい;法諱、真宗仏光寺派僧) E 1 8 4 2  
 皇后宮○○(きさいのみやー) → 皇后宮○○(こうごうのみやー)  
 喜齋立祥(きさいりっしょう) → 広重(2世ひろしげ・歌川/安藤、絵師) G 3 7 0 4
- F1636 喜左衛門(きざえもん・三保みほ、名;福松) ?-? 江後期周防岐波村の船頭、兵庫の船主柴屋しばやに雇用、  
 1804-18頃樺太を往来し見聞を里人に口述;  
 (のち1832萩藩士布施虎之助[御牆みかき]が村長に命じ筆記させ記録評釈地誌「唐太話」を著)、  
 喜左衛門は晩年に村役人に推挙される、  
 [喜左衛門の別通称] 海幸翁、柴屋しばや虎五郎  
 参考 → 御牆(みかき・布施虎之助/1799-1856) 4 1 5 4
- K1653 喜左衛門(きざえもん・武田たけだ) ?-? 江戸期加賀金沢藩士、「道中ニ付江戸表伺之写」著  
 喜左衛門(きざえもん・伴) → 道雪(どうせつ・伴ばん、弓術家) G 3 1 0 5  
 喜左衛門(きざえもん・野間) → 重次(しげつぐ・野間のみ、幕臣/記録) M 2 1 3 3  
 喜左衛門(きざえもん・依田) → 誠廬(せいろう・依田よだ、儒者) D 2 4 2 1  
 喜左衛門(きざえもん・今村) → 正員(まさかず・今村/佐々木/源、兵法家) B 4 0 7 5  
 喜左衛門(きざえもん・今村) → 正相(まさすけ・今村、正員男/藩士/兵法家) C 4 0 9 0  
 喜左衛門(きざえもん・円城寺) → 嵐窓(らんそう・円城寺えんじょうじ、藩軍学師範/俳人) C 4 8 8 7  
 喜左衛門(きざえもん・大原) → 武明(たけあき・大原おおはら、儒者) O 2 6 2 1  
 喜左衛門(きざえもん・下山) → 鶴平(つるへい・下山、書籍商/俳人) E 2 9 6 7  
 喜左衛門(きざえもん・南;変名) → 杜国(とこく・坪井、俳人) L 3 1 7 1  
 喜左衛門(きざえもん・小林) → 風五(ふうご・小林こばやし、商家/俳人) 3 8 5 7  
 喜左衛門(きざえもん・宮竹屋/亀田) → 商齋(しょうさい・亀田/林、商家/詩歌) J 2 2 0 0  
 喜左衛門(きざえもん・財物屋/白井) → 信常(のぶつね・白井、国学/歌) C 3 5 1 9



喜左衛門(きざえもん・永田)→ 重昌(しげまさ・永田ながた、幕臣/和学) Z 2 1 5 9  
 喜左衛門(きざえもん・神谷)→ 克楨(かつさだ・神谷かみや、藩士/故実) N 1 5 3 2  
 喜左衛門(きざえもん・今井)→ 克復(かつまた・今井いまい、与力/紀行) N 1 5 8 9  
 喜左衛門(きざえもん・川井)→ 正之(まさゆき・川井かわい、幕臣/国学) O 4 0 9 9  
 喜左衛門(きざえもん・石原)→ 正明(まさあき/まさあきら・石原、国学者/歌) 4 0 0 4  
 喜左衛門(きざえもん・佐々木)→ 清(きよし・佐々木ささき、和算家) J 1 6 0 4  
 喜左衛門(きざえもん・河辺)→ 精長(きよなが・河辺かわべ、神職) Q 1 6 0 4  
 喜左衛門(きざえもん・田中)→ 五英(ごえい・田中たなか、書家) L 1 9 7 1  
 喜左衛門(きざえもん・船山)→ 輔之(すけゆき・船山ふなやま、藩士/和算家) D 2 3 5 3  
 喜左衛門(きざえもん・藤森)→ 文輔(ぶんぼ・藤森ふじもり、紺屋/俳人) G 3 8 4 3  
 喜左衛門(きざえもん・今成)→ 慮呂(慮呂りよる・今成、商家/俳人) J 4 9 8 3  
 喜左衛門(きざえもん・柏屋)→ 貞柏(ていはく・光縁斎こうえんさい、狂歌) B 3 0 5 7  
 喜左衛門(きざえもん・大河平)→ 隆棟(たかむね・大河平おこびら、藩士/国学) N 2 6 3 3  
 喜左衛門(きざえもん・八田)→ 知紀(ともり・八田はった、藩士/歌人) Q 3 1 2 6  
 喜左衛門(きざえもん・石河)→ 勝栄(かつひさ・石河いしこ/吉田、幕臣) T 1 5 6 6  
 喜左衛門(きざえもん・江繫)→ 政陽(まさおき・江繫えつぎ、藩士/和漢学) B 4 0 5 5  
 喜左衛門(きざえもん・平尾)→ 元義(もとよし・平賀、平尾/興津/犬丸、地誌/歌人) 4 4 2 4  
 喜左衛門(きざえもん・世古)→ 翠川(すいせん・世古/瀬古せこ、俳人) 2 3 0 3  
 喜左衛門(きざえもん・阿部)→ 雪麿(ゆきまろ・阿部あべ、俳人) F 4 6 6 5  
 喜左衛門(きざえもん・鳥山)→ 純昭(すみあき・鳥山とりやま、藩士/国学) I 2 3 8 6  
 喜左衛門(きざえもん・中沢)→ 在成(ありなり・中沢なかざわ、国学者) I 1 0 1 1  
 喜左衛門(きざえもん・板津)→ 吉金(よしかね・板津いたづ、藩陪臣/歌) L 4 7 5 4  
 喜左衛門(きざえもん・中村)→ 重樹(しげき・中村なかむら、国学者) Z 2 1 5 7  
 喜左衛門(きざえもん・長井)→ 盛良(もりよし・長井ながい、名主/神職) K 4 4 8 5  
 喜左衛門(きざえもん・志自岐)→ 小楯(おたて・志自岐じじき/鎌奥、藩士/歌) D 1 4 9 5  
 喜左衛門(きざえもん・横田)→ 篤門(あつかど・横田よこた、国学/歌人) J 2 3 3 8  
 喜左衛門(きざえもん・中島)→ 健彦(たけひこ・中島なかじま、藩士/軍人) Y 2 6 5 3  
 喜三右衛門(きざえもん・山田)→ 月洲(げっしゅう・山田、藩士/儒者/詩) E 1 8 8 1

J1667 儀左衛門(ぎざえもん・戸田とだ、名;正栄、玄泉堂)?-? 江中期撰津尼崎の書家、

1756「文章春秋」58「筆学要論」、62「農業往来」書/70「近江八景の文」71「教訓さしもぐさ」著

儀左衛門(ぎざえもん・高木)→ 亀伯(きはく・高木たかぎ、俳人/和算家) L 1 6 7 9  
 儀左衛門(ぎざえもん・大友)→ 久米満(くめまる・大友おおとも、歌人) D 1 7 4 7  
 儀左衛門(ぎざえもん・三宅)→ 尚斎(しょうさい・三宅/平出、儒者) S 2 2 2 9  
 儀左衛門(ぎざえもん・柏木)→ 素龍(そりゅう・柏木/藤原、書家/歌/俳) E 2 5 5 0  
 儀左衛門(ぎざえもん・西永)→ 広林(ひろしげ・西永にしなが、藩士/和算家) F 3 7 9 8  
 儀左衛門(ぎざえもん・宮田)→ 椿岱(ちんたい・宮田、名主/俳人) K 2 8 8 7  
 儀左衛門(ぎざえもん・坂原)→ 定敬(さだよし・坂原/都筑、幕臣) K 2 0 3 0  
 儀左衛門(ぎざえもん・添田)→ 貞俊(さだとし・添田そえだ、藩家老/武術) I 2 0 8 3  
 儀左衛門(ぎざえもん・川上)→ 東山(とうざん・川上、儒詩/史学者) E 3 1 5 7  
 儀左衛門(ぎざえもん・檜山)→ 雅昭(まさあき・檜山ひやま、藩士/文筆家) 4 0 9 8  
 儀左衛門(ぎざえもん・佐藤)→ 元知(もととも・佐藤、藩士/兵学/心学) D 4 4 3 5  
 儀左衛門(ぎざえもん・服部)→ 義路(よしみち・服部はっとり、藩士/歌人) O 4 7 5 5  
 儀左衛門(ぎざえもん・宮島)→ 則壽(のりひさ・宮島みやじま/藤原、大庄屋/国学) K 3 5 1 0  
 儀左衛門(ぎざえもん・樋口)→ 赤陵(せきりょう・樋口ひぐち、藩儒/詩文) K 2 4 5 4  
 儀三右衛門(ぎざえもん・岡島)→ 正義(まさよし・岡島/佐野、藩士/地歴) I 4 0 6 4  
 季朔(きさく・加藤) → 信成(のぶなり・加藤、儒/医/歌人) C 3 5 6 0  
 季作(きさく・加藤) → 以翼(よすけ・加藤かとう/松井、国学/歌) M 4 7 1 3  
 基作(きさく・三宅) → 公禮(きみひろ・三宅みやげ、庄屋/歌人) V 1 6 3 2  
 喜作(きさく・小野) → 正雄(まさお・小野おの/篠屋、商家/歌人) O 4 0 1 5



- 喜作(きさく・田中) → 盛令(もりり・田中たなか/丸山、藩士/歌) K 4 4 3 2  
 誼作(ぎさく・三浦) → 宗誼(そうぎ・三浦みづら、歌人) G 2 5 7 4
- F1637 **喜作兵衛**(きさくべい・老松おまつ)?-? 書肆:1710浮世草子「御入部伽羅女ごにゅうぶきやらおんな」[翫水序]刊  
 T1699 **象子**(きさこ・河合かわい、山中五百杵いおき女)1838-1909<sup>72</sup> 三河吉田の国学者;父門、  
 歌人;小中村清矩門、女学校教師、「河合象子歌集」著、  
 [鰻とるあまの釣りぶね漕ぎつれて細江を出づる朝なぎのそら](細江帰帆の文学碑)  
 [象子(;)名)の別名/号]別名;小牧/田鶴/喜左子、号;
- きさ女(きさじょ・下平) → 壽賀(すが・小林こばやし、歌人) I 2 3 4 8  
 喜佐子(きさこ/喜佐姫・津軽/松平)→信明室(のぶあきらのしつ・津軽つがる、藩主室/歌) J 3 5 1 1
- S1674 **喜察**(きさつ;法諱、仏眼寺ぶつげんじ)?-? 江前期撰津曹洞宗仏眼寺の僧、  
 俳人;1678西鶴「物種集」入、  
 [中将某ちうしやうぎ和哥吹上にさしかゝり](物種集/前句;取り捨てにする浦の貝殻、  
 和哥吹上は紀州和歌の浦吹上の濱/中将某;縦横12間駒数92枚の将棋;駒は取捨)
- 義察(ぎさつ・熊倉) → 吉葛(よしつら・熊倉くまくら/源、国学/歌) M 4 7 6 1  
 喜佐姫(きさひめ・津軽/松平)→信明室(のぶあきらのしつ・津軽つがる、藩主室/歌) J 3 5 1 1
- K1654 **喜三郎**(きさぶろう・五十嵐いがらし、号;道甫2世、初世道甫養子)?-?1702-15没 京の蒔絵師、  
 前田利常に養父と金沢に招聘、家督;道甫を継嗣/御門前町住、  
 「御道具目録」著、蒔絵師幸阿弥清三郎の弟
- 喜三郎(きさぶろう・小笠原)→ 貞慶(さだよし・小笠原、武将/故実家) K 2 0 2 0  
 喜三郎(きさぶろう・新井)→ 貞勝(ていしょう・新井、商家/和漢学) B 3 0 2 2  
 喜三郎(きさぶろう・茶屋)→ 六合(りくごう、2世多賀庵、商家/俳人) 4 9 7 1  
 喜三郎(きさぶろう・片山)→ 豊嶼(ほうしよ・片山かたやま、藩儒/詩人) B 3 9 6 7  
 喜三郎(きさぶろう・服部)→ 定清(さだきよ・服部はつとり、俳人) B 2 0 8 2  
 喜三郎(きさぶろう・安東/富田)→ 正鉄(まさかね・井上/富田、神道家) C 4 0 1 7  
 喜三郎(木三郎きさぶろう・大竹)→ 政文(正文まさふみ・大竹、藩士/神道学者) H 4 0 2 5  
 喜三郎(きさぶろう・大野屋)→ 元木綱(もとのむくみ・渡辺/、狂歌師) D 4 4 7 5  
 喜三郎(きさぶろう・片岡)→ 喜平治(きへいじ・片岡かたおか、藩士/経済) L 1 6 8 6  
 喜三郎(きさぶろう・奥山)→ 良和(よしかず・奥山おくやま、幕臣/国学者) M 4 7 0 8  
 喜三郎(きさぶろう・福住)→ 清風(せいふう・福住/長瀬、商家/歌人) J 2 4 5 3  
 喜三郎(きさぶろう・福住)→ 松年(まつとし・福住、清風男/商家/歌) S 4 0 2 4  
 喜三郎(きさぶろう・稲葉)→ 通邦(みちくに・稲葉、藩士/礼法/故実家) B 4 1 4 2  
 喜三郎(きさぶろう・伏見屋)→ 貞躬(さだみ・味羽あじは/源、国学・歌人) N 2 0 7 2  
 喜三郎(きさぶろう・益田)→ 就祥(なりよし・益田ますだ、家老/国学) O 3 2 7 9  
 喜三郎(きさぶろう・宮城)→ 玄魚(げんぎよ・梅素亭、絵師/狂歌) B 1 8 5 4  
 喜三郎(きさぶろう・門阪)→ 誠愚(せいぐ・門阪かどさか、商家/国学/歌) F 2 4 7 8  
 喜三郎(きさぶろう・今津)→ 桐園(とうえん・今津、儒者/詩文) B 3 1 5 0  
 喜三郎(きさぶろう・石野)→ 寛氏(ひろし・石野いしの、藩士/記録) B 3 7 8 6  
 喜三郎(きさぶろう・奥村)→ 城山(じょうざん・奥村おくむら、暦算家) S 2 2 6 1  
 記三郎(きさぶろう・梶川)→ 正安(まさやす・梶川かじかわ/宮崎、藩士) O 4 0 8 2  
 紀三郎(きさぶろう・中村)→ 宗顕(むねあき・田村たむら、藩主/  
 棋三郎(きさぶろう・南部)→ 信民(のぶたみ・南部なんぶ/源、藩主/歌) G 3 5 6 8  
 亀三郎(きさぶろう・佐竹)→ 義堯(よしたか・佐竹さたけ/相馬、藩主) E 4 7 1 2  
 亀三郎(きさぶろう・阿部)→ 掠亭(りょうてい・阿部あべ、庄屋/儒者) J 4 9 0 0  
 義三郎(ぎさぶろう・桃/桃井)→ 西河(せいか・桃井/桃/脇坂、藩儒/詩) 2 4 7 9  
 義三郎(ぎさぶろう・山部)→ 懋徳(よしり・山部やまべ、国学者) P 4 7 9 2  
 儀三郎(ぎさぶろう・陶)→ 半窓(はんそう・陶すえ、医者/儒/教育) I 3 6 3 2  
 儀三郎(ぎさぶろう・鬼沢)→ 大海(おおみ・鬼沢おにさわ、国学者/歌) C 1 4 8 4  
 儀三郎(ぎさぶろう・二宮)→ 正禎(まさただ・二宮のみや、医者/国学) L 4 0 8 0  
 儀三郎(ぎさぶろう・佐野/岡島)→ 正義(まさよし・岡島/佐野、藩士/地歴) I 4 0 6 4  
 儀三郎(ぎさぶろう・石渡)→ 延美(のぶよし・石渡いしわた、神職/国学) H 3 5 3 6

- 宜三郎(きさぶろう・古森) → 痴雲(ちうん・古森こもり、書家/俳人) 2 8 4 1  
象麿(きさまる・左八) → 定長(さだなが・左八さほち/藤波、神職/国学) O 2 0 5 3  
如月庵馬丈(きさらぎあんばじょう・伏見屋) → 馬丈(ばじょう・如月庵、華道) E 3 6 6 0
- S1645 其三(きさん) ? - ? 安藝可部の俳人;野坡系門人、  
「水馬あめんぼや塵喰ふて行橋おろし」(1752野坡追善「十三題」入)  
寄三(きさん) → 寄三(きそう・河田・斎藤、俳人) B 1 6 4 3  
喜三(きさん・松川) → 東山(とうざん・松川まつかわ、儒者) E 3 1 5 5
- 1613 箕山(きざん・藤本ふじもと/畠山・笠原、名;常次) 1626-1704<sup>79</sup> 畠山上総之介源泰国の後裔と称す、  
京の紅染屋に生/古筆鑑定家;平沢了佐門/俳人;松永貞徳門、色道探究;家業を捨て大阪住、  
色道太祖と自称、1656遊女評判記「満散利久佐まさりぐさ」65「名伝類纂」、78「色道大鏡」、  
1692「好色大鑑」、「明翰鈔」編、「顕伝明名録」「吉原飛鳥川」著、「日本名所好色大鑑」著?、  
俳諧;1651良徳「崑山集」58梅盛「鸚鵡集」入、  
[倩つらつら当道を考ふるに曝しられたるといふ根元は此道より起こりて万物に涉れる  
其の曝しられたるといふは格を越えて旧風を倣ふにあり]  
(旧風に留まらないのが色道の洒落;色道大鏡)  
[箕山(;)の字/通称/別号]字;盛庸、通称;七郎左衛門、  
別号;祥雨/了因(;)古筆家名)/哲斎、吞舟軒/遮莫堂/如幻斎、素仙(;)剃髮後)
- K1655 耆山(きざん;法諱・玄海:号、法名;清蓮社香誉、俗姓栗原) 1712-94<sup>83</sup> 江戸神田浄土僧;  
義誉/檀察門、清貧で1790青山梅窓院隠棲/称名念仏行、詩文に通ず、  
1786「青山樵唱集」、「耆山上人青山帖」著
- K1656 季山(きざん) ? - ? 大阪の俳人、1691賀子「蓮実」1句入;401、  
[長寝せし上天じやうてんの事は今朝の雪](蓮実;401/上天は空・とくに冬の天)
- F1639 箕山(きざん・種村たねむら/修姓;種、名;濟) 1722-1800<sup>79</sup> 近江彦根儒者;沢村琴所門/徂徠学、詩文、  
同門野村東皐と親交、「琴所稿刪」校刊、「詩学辨髦」「修辞指南」「白雲堂集」「魯軒筆記」著、  
[箕山の字/通称]字;元民、通称:新治/文安
- F1640 季山(きざん) ? - ? 大阪の俳人、1747-8灘連「兎の目」点者
- F1641 其山(きざん) ? - ? 江中期俳人、  
1754潘山(百子)「しぐれの碑」(;)貞因[貞柳貞峨の父]25回忌・貞峨13回忌追善集)入、  
[初霜や置けるを今日の橋供養](しぐれの碑;法橋貞峨[海音]の遠忌に)
- I1656 箕山(きざん・熊谷くまがい、名;尚之) 1729-99<sup>71</sup> 父;下野黒羽藩足軽小頭、儒者;井上金峨門、  
詩文/歌人、亀田鵬斎と交流/京を遊歴;京で教授、「通史捷覧」「史学挙要」「十志稿」著、  
1774「東遊漫稿」著、「南海漫遊稿」「箕山文集」「箕山漫遊稿」著、「箕山遺稿」、  
[箕山の字/通称/別号]字;履善、通称;平一郎、別号;樵父
- I1655 箕山(きざん・安藤あんどう、名;章/字;子憲/通称;庄助) 1738-81<sup>44</sup> 鳥取の儒者;徂徠に私淑/古学修得、  
1764伯耆米子に私塾開設、73鳥取藩主より士分;藩校教授、「仁説」、「仁義礼智信説」著
- B1615 葵山(きざん) ? - 1786 俳人;蓼太の「一夏百歩」の編を志す;弟蓼阿が完成
- K1657 箕山(きざん・由良ゆら、名;儀/字;彦鳳) 1739-1806<sup>68</sup> 豊後の儒者;江戸で徂徠学修得、医術修得、  
江戸・京・大阪で医業、のち廃業;大阪で講説業/晩年和泉堺に住、「麗藻」注、  
[箕山(;)の通称] 孫助/孫兵衛/禰助
- K1658 龜山(きざん・高浜たかはま、名;季文、医者高浜成常春安男) 1743-1804<sup>62</sup> 姫路藩士/経学;山口滄洲門、  
儒者;1760京の那波魯堂門、藩校好古館教授、  
「龜山詩集」「経義考抄」「忠経国字解」「反語雑抄」著、  
[龜山の字/通称] 字;周甫/周輔しゅうすけ、通称順蔵、
- K1659 龜山(きざん・柳井やない、名;義篤/字;仲貞、義雄男) 1764-1844<sup>81</sup> 上総久留里藩士、儒;昌平黌出、  
1797家中学問指南/98藩主侍講/1827用人/帰郷;家塾三近塾開;1842藩校となる、  
山鹿流兵法精通/書、黒田家系譜「丹治系譜」編纂、「房総紀行詩」「奉使余事」「皇華余事」著、  
[龜山の通称/別号] 通称;平次郎、別号;安宅、法号;江月院
- K1660 龜山(きざん・五車亭、津田つた、名;長/字;子敬) 1774-1844<sup>71</sup> 幕臣;御徒步/狂歌・南畝門、  
1821「狂歌集書」、24「狂歌養老集」編、「三才狂歌集」編/「狂歌冬こもり」編  
[五車亭龜山の通称/別号] 通称;新九郎、別号;石美眞志

- K1661 **己山**(きざん・垣内かきうち、名; 維則/成章、字; 君豹) 1783-1837<sup>55</sup> 紀州儒者; 海嶠門/医者; 和田東郭門、詩; 菊池海莊らと古碧吟社結、「医談雜記」「杏林摘葩」「梧窓隨筆」「間窓偶筆」著、「己山遺稿」、[己山の通称/別号] 通称; 全庵、別号; 棲霞
- K1662 **機山**(きざん・井口いぢり/初姓; 青山、名; 重基、字; 大業) 1786-1847<sup>62</sup> 越後十日市儒者; 江戸林述斎門、佐藤一斎門、井口氏を継嗣、山水画; 鈴木芙蓉門、「漢訳平語」「陋斎詩文稿」「和漢英雄契」著、[機山の通称/別号] 通称; 兵左衛門/祖右衛門、別号; 陋斎ろうさい/楓館/沢翁/眞葛屋眞風/裏風、法号; 聯譽院
- 1614 **箕山**(きざん・村田むらた、名; 常武つねたけ、字; 伯経) 1787-1856<sup>70</sup> 伊予松山藩士/右筆、儒; 池内仲立門、闇齋学/昌平学派と対立、歌学、詩/俳諧、「詩歌百首」「詩囊」「俳諧百首」「百俳草」、「古歌百首題」「歌仙啄艸」「捨小舟」「唐詩次韻」「四書私考」「祭祀來格私考」「詩経私講」著、[箕山の通称/別号] 通称; 平蔵、別号; 恥斎
- K1663 **岐山**(きざん・昇亭しょうてい、池田/修姓; 池) ?-? 江後期江戸下谷の読本作者、1815「松風村雨物語」「菖蒲草檐五月雨」/25「名月夜話」/29「巨慶三笑」「忠孝頭名録」著、[昇亭岐山(;号)の別号] 文東陳人/池岐山子/幻々笛げんげんどう
- K1664 **奇山**(きざん・長崎ながさき、名; 弘海/字; 子平、山本宗古2男) 1798-66<sup>69</sup> 長崎家を嗣/土佐藩士、勘定小頭、詩/歌/俳諧、大井漁隠・井上水石・細川清斎らと親交、1860「四老唱和小稿」著、[奇山の通称/別号] 通称; 茂平、別号; 長笑庵、法号; 釈奇山靈海神仙
- K1665 **岐山**(きざん・野沢のざわ、名; 颯かい/字; 鳳卿、滝右衛門男) 1800-35<sup>36</sup> 越後小千谷の儒者・朝川善庵門、詩人、故郷で子弟教育、「老子發揮」著、[岐山の通称/別号] 通称; 雄輔、別号; 梧庵
- K1666 **旗山**(きざん・児玉こだま、名; 慎/字; 士敬/通称; 三郎、玉双男) 1801-35<sup>35</sup> 加賀大聖寺の儒者; 坂井梅屋門、京の頼山陽の学僕、京で家塾、「旗山詩鈔」「旗山文鈔」、「山陽先生書後・題跋」編、「詳明字母」「問田歩」著、延年のぶとし弟、頼三樹三郎の師
- K1667 **箕山**(きざん・竹嶋たけしま) ? - 1837 大阪儒者・中井履軒著作編纂、「史記雕題削柿」編
- F1642 **其山**(きざん・相馬そうま、八千房はっせんぼう五世) ?-1854 俳人・一肖門
- J1611 **箕山**(きざん・塩谷しおのや、名; 誠/字; 誠之、桃蹊男/兄宕陰とういんの嗣) 1812-74<sup>63</sup> 江戸医者/儒; 慊堂門、1840水野忠邦に登用; 浜松藩儒、63幕府儒官/66甲府徼典館督学、ペリ来航時屢々上書、「箕山文鈔」「箕山詩集」「西遊簿」「叢語」「避暑録」「漂民録話」「山鹿素行伝」著、[箕山の通称/別号] 通称: 量平/修輔、別号; 晚翠園/楠蔭書屋、宕陰とういんの弟
- K1668 **其残**(きざん・山田/岩波、通称鉄三[鉄蔵]) 1815-94<sup>80</sup> 信州諏訪の俳人; 久保島若人門、画; 四条派、俳画/楽焼/篆刻を能くす、1848-60頃諸国巡遊/諏訪俳壇の中心、67「水せり」「草の餅」、89「曾良叟」著、[其残の別号] 蓼州/鸞友/天晋/尚胤/再庵/雪散屋/芒翁/芒老人
- K1669 **箕山**(きざん・猪飼いかい、名; 彦續げんざん/よしつぐ?、敬所養嗣) 1816-79<sup>64</sup> 伊勢浪見村儒者; 平松楽斎門、猪飼敬所門/養嗣子、1845津藩校養正寮副句読師/49時習館掛/52伊賀崇広堂副講師/開塾、「於多満幾」「榴陰雜誌」編/「猪飼彦續隨筆」「敬所年譜」「詩経集説」「四書浅釈」著、常吉の父、[箕山の字] 子統
- K1670 **焔山**(きざん・芥川あきたがわ、名; 濟/字; 子軫しん/、希由[玉潭]男) 1817-90<sup>74</sup> 越前鯖江藩儒、儒; 父玉潭ぎよくたん門、1861「膾炙絶唱」著、明治期; 城南読書楼教授/鯖江鬻教師、[焔山の通称/別号] 通称; 捨蔵/舟之、別号; 道濟/楽山園、法号; 真川院
- I1657 **箕山**(きざん・浜野はまの、徳蔵男) 1825-1916<sup>長寿92</sup> 備後福山藩の儒者/藩校教授、「猶賢臆断」、「懐旧記事」著
- I1658 **著山**(きざん・星野はしの、名; 文/字; 公質、医者良徴男) 1835-63<sup>早世29</sup> 安藝御手洗の儒者; 江木鱧水門、昌平鬻に修学/1862広島藩儒; 藩学問所教授、尊攘派; 脱藩未遂/切腹未遂/伏見で没、「著山遺稿」「著山人星野文平先生詩稿」、[著山の通称/別号] 通称文平、別号: 著山人/小眉山長/好問子
- K1671 **旗山**(きざん・梶かじ、名; 信次/利長/英古、通称: 眞悦、忠次男) ?-? 江戸後期1832徳島藩士、1849仲小姓格、奥坊主/茶道役、画; 鈴木芙蓉門/茶、「阿淡産志」画



K1672 **箕山**(きざん・田中たなか、名;遜之、字;志文、通称;升太郎/善兵衛)?-? 江後期大阪の儒者、詩/書に長ず、1858記録「近世奇蹟」著

機山(きざん・恵林寺)	→	信玄(しんげん・武田、武将/詩歌)	D 2 2 9 8
機山(きざん・志貴)	→	昌澄(まさずみ・志貴しき、神職/国学/歌)	D 4 0 0 1
機山(きざん・黒沢)	→	敬信(たかのぶ・黒沢くろさわ、藩士/国学)	W 2 6 8 2
岐山(きざん;初道号・道秀)	→	方秀(ほうしゅう;法諱・岐陽、臨濟僧)	3 9 5 5
岐山(きざん)	→	見叟(けんそう;道号・智徹;法諱、臨濟僧)	K 1 8 6 9
岐山(きざん・酒井)	→	忠恭(ただすみ・酒井、藩主/和漢学)	P 2 6 6 8
岐山(きざん・今津)	→	桐園(とうえん・今津、儒者/詩文)	B 3 1 5 0
岐山(きざん・松川)	→	東山(とうざん・松川まつかわ、儒者)	E 3 1 5 5
亀山(きざん・松平)	→	頼恭(よりたか・松平まつだいら、藩主/詩歌)	I 4 7 9 0
亀山(きざん・小堀)	→	永頼(ながより・小堀、藩士/詩人)	G 3 2 5 7
亀山(きざん・口羽)	→	杷山(はざん・口羽くちば/大江、藩士/儒)	E 3 6 3 4
亀山(きざん・中山)	→	俊彦(としひこ・中山なかやま、神職/国学)	V 3 1 9 4
奇山(きざん)	→	百亀(ひゃっき・小松、斬本作者/狂歌)	E 3 7 9 4
起山(きざん;道号)	→	師振(ししん;法諱・起山、臨濟宗僧)	E 2 1 1 8
起山(きざん・岡田)	→	泰雲(たいうん;法諱、真宗僧)	J 2 6 1 0
箕山(きざん・文亭)	→	文亭箕山(ぶんていきざん、大阪戯作者)	G 3 8 2 6
箕山(きざん・蒔田)	→	暢斎(ちようさい・蒔田/田、書家/篆刻)	I 2 8 3 7
箕山(きざん・江馬)	→	細香(さいこう・江馬えま、絵師/詩人)	2 0 7 5
箕山(きざん・山本)	→	学半(がくはん・山本やまもと、儒者)	K 1 5 3 9
箕山(きざん・興田)	→	吉従(よさむ・興田おきた、儒/神道/国学)	K 4 7 2 0
箕山(きざん・片山)	→	恒斎(こうさい・片山/杉野、藩士/儒者)	F 1 9 0 3
箕山(きざん・北原)	→	泰里(しんり・北原きたはら、藩士/詩/画)	Q 2 2 0 4
棋山(きざん・小田村)	→	素彦(もとひこ・楯取/松島/小田村、藩士)	D 4 4 9 5
帰山(きざん・永鳥)	→	秀実(ひでざね・永鳥ながとり/松村、国学者)	K 3 7 4 3
旗山(きざん・新見)	→	正典(まさのり・新見しんみ/源、幕臣/漢学)	G 4 0 3 3
耆山(きざん・梅之本)	→	宋路(そうろ・津田、俳人)	K 2 5 6 1
耆山(きざん・藤林)	→	守元(もりもと・藤林ふじばやし/三谷泰作、医者)	L 4 4 5 0
季山(きざん・三浦)	→	梅園(ばいえん・三浦、医者/哲学/詩)	3 6 0 2
貴山(きざん・宮杜)	→	藍斎(らんさい・宮杜みやもり、医者/詩人)	C 4 8 2 5
城山(きざん・内藤)	→	存守(ありもり・内藤ないとう、神職/国学)	F 1 0 9 0
毅山(きざん・桑本)	→	正明(まさあき・桑本くわもと、藩士/和算家)	B 4 0 1 1

K1673 **義燦**(義山ぎざん;法諱・慧曦えぎ;字、号;慧泰/無礙むがい堂)1679-174769 和泉宮古村の真言僧、母;心窓祐清尼、浄厳じょうごん/慧光門、関東各地で講筵、1727江戸湯島靈雲寺3世、「大統要記」「声字玄談」、「慧光大和尚行業記」「般若心経和解」「密軌問辨啓迪翼」著、「大日経疏伝授私記」「声字実相義誌要」「梵網戒疏愚問記」「冰雪集」外著多数

K1674 **義産**(ぎざん;法諱・実苗じつみょう;道号、号;天祐/秀順、渡部広光男)1775-183864 越後湯沢曹洞:観心門、小川鷗亭門、1812秋田天徳寺39世/42世、東光寺開、飢民救済に尽力、「実苗産和尚語録」著

K1675 **義山**(ぎざん;法諱・音識おんしき;字、俗姓;鹿野)1646-172277 伊予宇和島の真言僧;来振寺弘意門、1666智山派智積院に修学/94六波羅密寺15世/1709智積院12世/権僧正、1709「大疏第七行母録」著

K1676 **義山**(ぎざん;法諱・良照;字、三魔宣次男)1647-171771 京の浄土僧;大和郡山光伝寺で出家、江戸増上寺で修学;吞誉門/法然研究、宗典類の原典批判、1683帰京;本山知恩院で講学、「円光大師御伝随聞記」「当麻曼荼羅述奨記」「和語燈録日講私記」外講録など多数、[義山の法名] 禅蓮院信阿・円観

S1657 **祇山**(ぎざん) ? - ? 江中期撰津玉井の俳人、1754潘山(百子)「しぐれの碑」(;貞因25回忌・貞峨[紀海音]13回忌追善集)入、[日に埋れ十三峠むら時雨](しぐれの日/貞峨の高津菩提庵にて;発句)



- F1643 **宜山**(ぎざん) ? - ? 江中期俳人、  
1754潘山(百子)「しぐれの碑」(；貞因[貞柳貞峨の父]25回忌・貞峨13回忌追善集)入、  
[先手後手同じ手向や月の霜](しぐれの碑；貞峨と碁の友)
- I1659 **宜山**(ぎざん・鈴木すずき、名；圭/字；君璧、順節男)1772-183463 家学医者；父門/福山藩士/儒・医、  
藩校弘道館學術掛/御屋形講釈/1798藩儒医/1802藩儒者、茶山と「福山志料」編纂、  
江戸在番学問所詰：大目付/奥詰、山陽・棕隠・蘭軒らと交遊、「備府志」著、  
[宜山の通称] 圭/雲中圭輔/徳輔とくすけ
- 儀山(ぎざん；道号) → 善来(ぜんらい；法諱・儀山；道号、臨濟僧) N 2 4 2 3  
 義山(ぎざん・伊達) → 忠宗(ただむね・伊達、藩主/連歌) Q 2 6 9 6  
 義山(ぎざん・伊達) → 秀宗(ひでむね・伊達、藩主/連歌/狂歌) D 3 7 9 2  
 義山(ぎざん・松平) → 頼貞(よりさだ・松平まつだいら、藩主/武術) I 4 7 6 4  
 義山(ぎざん・小里) → 頼章(よりあき・小里おり、藩士/測量/兵学) I 4 7 3 3  
 義山(ぎざん；道号) → 亮勇(りょうゆう；法諱・義山、曹洞僧) J 4 9 6 0  
 義山(ぎざん・桜井) → 頼直(よりなお・桜井さくらい、尊攘家) N 4 7 2 0  
 曦山(ぎざん・上杉) → 斉憲(なりのり・上杉うえすぎ、藩主/歌) K 3 2 2 9  
 龜山山人(きざんさんじん) → 養存(ようそん；法諱・徳巖；道号、曹洞僧) B 4 7 4 3  
 喜三二(きざんじ・朋誠堂、黄表紙作者) → 岡持(おかもち・手柄、狂歌) 1 4 0 9  
 喜三二(2世きざんじ・三橋) → 長根(ながね・芍薬亭) 3 2 1 4  
 喜三二(きざんじ・石河) → 正養(まさかい・石河いしに/越智、藩士/国学) B 4 0 6 6  
 喜三次(きざんじ・田内) → 眞鎮(まじず・田内たのうち、国学者) I 4 0 8 8  
 毅三二(きざんじ) → 東野(とうや・国分/国府こくぶ、儒者) H 3 1 5 4  
 宜三小雲(ぎざんしょううん) → 痴雲(ちうん・古森こもり、書家/俳人) 2 8 4 1  
 紀山人(きざんじん) → 一九(2世いっく・十返舎、戯作者) B 1 1 3 7  
 著山人(きざんじん) → 蒼山(きざん・星野ほしの、儒者/尊王派) I 1 6 5 8  
 黄山人(きざんじん) → 自惚(うぬぼれ・黄山きやま、絵師/戯作) D 1 2 2 2  
 机山仙(きざんせん) → 可兮(かけい・蔭山かげやま、俳人) K 1 5 7 0  
 箕山叟(きざんそう) → 良超(りょうちゆう；法諱・北陽、修験/和学) M 4 9 4 4  
 季三太(きざんた・志賀/谷城) → 重信(2世しげのぶ・柳川やながわ、絵師) C 2 1 7 5  
 龜三太(きざんた・鎌田) → 政和(まさかず・鎌田かまた、陪臣/国学者) O 4 0 9 6  
 鬼散太(きざんた・関山) → 金満(かねみつ・関山せきやま、国学/歌人) U 1 5 8 3  
 鬼山蘂(きざんたく・小川) → 好幸(よしゆき・小川おがわ、神職/国学) L 4 7 7 9  
 箕山亭(きざんてい) → 忠敏(ただとし・長山ながやま、商家/歌人) Y 2 6 7 3  
 龜山道綱(きざんどうこう；号) → 政朝(まさとも・小峯/結城/白川/藤原、武将/連歌) E 4 0 6 4  
 岐山白頭(きざんはくとう) → 山厚(さんこう・奥寺おくでら、藩士/俳人) M 2 0 1 7  
 喜三平(きざんべい・太田) → 春興(はるおき・太田おた、歌人) J 3 6 4 7  
 義山亮勇(ぎざんりょうゆう) → 亮勇(りょうゆう・義山；道号、曹洞宗僧) J 4 9 6 0
- K1677 **貴子**(きし・藤原ふじわら、忠平女、小一条内侍)904-996長寿92 平安期女官、  
918皇太子保明親王に入内、保明親王没により重明親王と再婚、御匣殿みくしげどの別当となる、  
938(天慶元)尚侍ないしのかみに昇進、  
御匣殿別当を勤めたため典侍藤原明子あきらけいに(左大臣藤原仲平女は誤)と混同され易い、  
後撰集；1393(尚侍名/右大臣藤原師輔への返歌)/後撰集詞書(203/1392)、  
[結び置きし種ならねども見るからにいとゞ忍ぶの草を摘むかな](後撰；1393/返歌、  
私のための結び文の手紙ではないけれども見れと一層あの方を偲びます、  
右大臣藤原師輔が妻の女四の親王への没前に残した文に書付けした歌を尚侍に贈る、  
1394；種もなき花だに散らぬ宿もあるをなどかかたみのこだになからん、  
宿はここは庭を指す/花筐と形見・籠こと子を掛る、  
女四の親王は醍醐天皇皇女勤子内親王；938[天慶元]没34歳)
- F1644 **嬉子**(きし・藤原ふじわら、道長4女)1007-25天逝19歳 母；倫子(源雅信女)、1018(寛仁2)尚子、  
1021(治安元)東宮敦良親王(後朱雀天皇)妃/皇后、親仁親王(後冷泉天皇)の母；  
出産後間もなく赤斑瘡のため病没

- K1678 嬉子(きし・西園寺、今出河院、公相女)1252-1318<sup>67</sup> 鎌倉期龜山天皇皇后/  
女房歌人に;近衛・権中納言ごんちゅうなごんなど
- F1645 喜之(きし、母;井岡栄春[貞室門俳人])?-? 摂津の貞門系俳人、1657燕石「牛飼」25句入
- B1617 紀子(きし、月松軒) ? - ? 江前期大和の多武峯西院住僧、俳人;大矢数、  
1677西鶴に対抗し奈良元興寺極楽院で一昼夜1800句独吟成就(;実興行かは疑問)、  
1677「六百誹諧発句合」/78「大矢数千八百韻」(巻頭[山や錦神のまにまに大句数])、  
1678二葉子「江戸通り町ちよう」;桃青(芭蕉)/二葉子/卜尺と四吟歌仙入、  
1676西鶴「古今誹諧師手鑑」入、  
[波によるは藤の棚なし小舟かな](手鑑)
- S1676 亀之(きし) ? - ? 江前期大阪の女流俳人、1676西鶴「俳諧師手鑑」入、  
[若やぐや遊ぶにひまなき花見山](手鑑/厄の年いわみて:女の厄は19・33ここは33歳)
- B1618 喜至(きし) ? - ? 俳人;雑俳、  
1702(元禄15)「冠独歩行かんむりひとりあるき」撰(露月・一調らの冠附集:松淵と共撰)
- K1679 葵子(きし) ? - ? 俳人;1776樽良「誹諧 月の夜」1句入;126、  
[明月や松にたよらん終夜よすががら](月の夜;126/松に月を配する光景)
- B1619 鬼子(きし・片倉かくら、名;村典/村継)1758-1822<sup>65</sup> 陸前白石邑主、俳人;隣々麦羅門、几董交流、  
1784「古今句集」編
- 己巳(きし・清野/赤松)→ 三陀羅法師(さんだらほうし、狂歌作者) E 2 0 5 4  
 喜子(きし) → 昭慶門院(しょうけいもんいん、龜山天皇皇女) I 2 2 3 1  
 喜之(きし/よしゆき・丹羽)→ 木公(もっこう・丹羽にわ、俳人) B 4 4 8 8  
 喜之(きし・海老原) → 喜之(よしゆき・海老原えびはら、商家/歌人) K 4 7 3 9  
 喜之(きし・木村) → 喜之(よしゆき・木村きむら、幕臣/砂糖製造) H 4 7 9 0  
 喜之(きし・安達) → 喜之(よしゆき・安達あだち、博物学者) H 4 7 9 1  
 喜之(きし/よしゆき・小木曾)→ 義徳(よしのり・小木曾おぎぞ/成田、藩士/歌) L 4 7 8 1  
 喜之(きし・堀田) → 喜之(よしゆき・堀田ほった、国学者) O 4 7 9 9  
 基子(きし・高階) → 肥後内侍(ひごのないし、堀河院女房) 3 7 6 7  
 基子(きし・堀川) → 西華門院(せいかもんいん、後二条天皇母) H 2 4 8 1  
 基氏(きし)すべて → 基氏(もとじ)
- 基之(きし・細川) → 基之(もとゆき・細川/源、武将/歌人) E 4 4 5 4  
 基師(きし) → 基師(ごし、万葉歌人) C 1 9 7 3  
 基嗣(きし・近衛) → 基嗣(もとつぐ・近衛/藤原、関白/歌人) D 4 4 0 5  
 貴子(きし・藤原・儀同三司母)→ 貴子(たかこ、高階成忠女) 2 6 9 9  
 季子(きし・洞院/藤原)→ 顕親門院(けんしんもんいん、伏見天皇妃/歌) C 1 8 3 9  
 季子(きし・小倉/藤原)→ 公雄女(きんおのむすめ・小倉、顕親門院の姪) D 1 6 8 1  
 季氏(きし・藤原) → 季氏(すえうじ・藤原、廷臣・歌人) J 2 3 5 7  
 季資(きし・林/安倍) → 季資(すえすけ・安倍あべ、楽人) F 2 3 4 5  
 季趾(きし・竹内) → 東白(とうはく・竹内たけうち、蘭医/兵学) G 3 1 9 2  
 禧子(きし・西園寺) → 後京極院(ごきょうごくいん、後醍醐中宮/歌) C 1 9 3 3  
 祺子(きし・鷹司) → 新朔平門院(しんさくへいもんいん、女御/歌) O 2 2 6 1  
 器之(きし・為璠;法諱)→ 為璠(いばん・器之、曹洞僧) I 1 1 1 9  
 紀之(きし・海保) → 漁村(ぎよそん・海保かいぼ、儒者) D 1 6 2 8  
 軌子(きし・細川) → 軌子(のりこ・細川、清源院、歌人) 3 5 2 0  
 龜子(きし・山田/安藤)→ 龜子(かめこ・安藤あんど、歌人) D 1 5 2 7  
 輝子(きし/てるこ・勝田) → 喜世(きよ・勝田かつた、將軍家宣室、歌) N 1 6 0 0  
 輝子(きし・賀島) → 輝子(てるこ・賀島かしま、国学) F 3 0 0 7  
 輝之(きし/てるゆき・多田)→ 守保(もりやす・多田ただ、藩家老/武芸) G 4 4 7 0  
 輝資(きし・日野) → 輝資(てるすけ・日野/藤原/広橋、故実/連歌) C 3 0 7 6  
 希之(きし/まれゆき?・石野)→ 雲嶺(うんれい・石野、儒者) E 1 2 1 5  
 幾子(きし・神田) → 幾子(いくこ・神田かんだ、江戸幕臣妻/歌) J 1 1 5 5  
 徽子(きし・伊達) → 徽子(のりこ・伊達だて、綵姫、藩主室) I 3 5 9 1

其二(きじ、俳名) → 与三兵衛(よそべえ・鈍通、歌舞伎作者) I 4 7 1 3  
 基時(きじ・堀川) → 基時(もととき・堀川/源、廷臣/詩人) D 4 4 2 4  
 基時(きじ・持明院) → 基時(もととき・持明院/藤原、権大納言/書) D 4 4 2 5  
 希次(きじ・乃木) → 希次(まれつぐ・乃木のぎ、藩士/武家故実) K 4 0 2 4  
 季茲(きじ・久保) → 季茲(すえしげ・久保ぼ/源、幕医/国典) B 2 3 1 9  
 喜侍(きじ・大島) → 芝蘭(之蘭しらん・大島おおしま、和算家) M 2 2 9 3  
 喜時(きじ・中村) → 喜時(よしとき・中村なかむら、大庄屋/郷士) E 4 7 8 5  
 喜治(きじ・源) → 喜治(よしはる・源みなもと、歌人) Q 4 7 2 0  
 季時(きじ・源) → 季時(すえとき・源みなもと、廷臣/歌人) B 2 3 2 7  
 季尼(きじ・鶴嶺) → 戊申(しげのぶ・鶴嶺つるみね、国学者/歌人) C 2 1 7 3  
 暉児(きじ・古橋) → 暉児(てるのり・古橋ふるはし、名主、篤農) F 3 0 2 3  
 亀治(きじ・かめはる・介川) → 通景(みちかげ・介川すけがわ、藩士/詩文) B 4 1 3 1  
 熙時(きじ・北条) → 熙時(ひろとき・北条/平、幕府執権/歌人) 3 7 4 9

W1602 義子(ぎし/よしこ・藤原ふじわら、閑院太政大臣公季[957-1029]長女) 974-1053 80 母;有明親王女、平安中後期活動;996(長徳2)入内/一条天皇女御、従三位/1005正二位、通称;一条天皇弘徽殿女御、1025(万寿2)出家/53(天喜元)没、1041(長久2)弘徽殿女御歌合催(;袋草紙/但し時期不合;後朱雀天皇弘徽殿女御生子か)

B1616 儀子(ぎし・のりこ・よしこ、嘉楽門院;出自不詳) ?-? 南朝歌人、1381南朝;従二位/典侍二位すけのい、1365正平廿年三百六十首(点取三百首)和歌(於南朝住吉行宮)に参加、新葉集5首;71/258/906/987/1000、[有りどだに人に知られぬ忘水絶えての後も袖はぬれけり](新葉;恋1000)、[今はとて越路にいそぐ夕暮も名残したへと雁や鳴くらん](正平廿年歌;17/夕帰雁)

G1679 蟻思(ぎし) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」5句入 [人の気の鬼を討ちとる太刀は筆](二葉之松;184/人の心の鬼を切るのは手紙)

義之(ぎし・よしゆき・池田) → 通斎(つうさい・池田いけだ、医者/解剖) 2 9 3 6  
 義之(ぎし/よしゆき・南合) → 蘭室(らんしつ・南合なんごう、藩士/儒者) C 4 8 4 8  
 義氏(ぎし・中大路) → 義氏(よしうじ・中大路なかおじ/賀茂、神職) C 4 7 2 2  
 義嗣(ぎし・足利) → 義嗣(よしつぐ・足利/源、武将/歌人) E 4 7 6 2  
 義視(ぎし・足利) → 義視(よしみ・足利/源、武将) H 4 7 2 6  
 宜之(ぎし・桑原) → 黙斎(もくさい・桑原/山根、宿場取締/史家) 4 4 8 5  
 宜子(ぎし・井伊) → 宜子(よしこ・井伊い、有栖川宮幟仁たかひと親王女) L 4 7 3 4  
 義時(ぎじ・北条) → 義時(よしとき・北条ほうじょう、幕府2代執権) E 4 7 8 3  
 義持(ぎじ・足利) → 義持(よしもち・足利/源、4代将軍/歌) H 4 7 6 5  
 義治(ぎじ・六角) → 義治(よしはる・六角/源/佐々木、武将) G 4 7 0 6  
 義治(ぎじ・渡辺) → 義治(よしはる・渡辺わたなべ、藩士/和算家) G 4 7 1 6  
 義治(ぎじ・駒沢) → 義治(よしはる・駒沢こまざわ、歌人) K 4 7 6 8  
 義滋(ぎじ・森) → 義滋(芳滋よししげ・森もり、国学/歌人) P 4 7 6 7  
 祇治(ぎじ・高野) → 祇治(まさはる・高野たかの、藩士/歌人) Q 4 0 6 9  
 己巳翁(きしおう) → 信菴(のぶかつ・木村きむら、商家/歌/神職) I 3 5 1 0  
 岸大路右近将監(きしおおじうこんしょうげん) → 岸礼(がんれい;号、絵師) R 1 5 8 6  
 岸大路左近将曹(きしおおじさこんしょうそう) → 岸礼(がんれい;号、絵師) R 1 5 8 6

T1692 岸子(きしこ・春日かすが、漢城光基女、号;清操院) 1778-1860 83 久我家諸大夫春日仲恭と結婚、京の国学者/歌人、袖子・潜庵の母、夫仲恭と息子潜庵の尊王運動を支える

S1625 きし女(きしじょ) ? - ? 美濃神戸こうどの狂歌作者;1785「後万載集」入; [ひとりねの蚊帳かちょうのうちへ小夜ふけて桂男(月の異名)の入るは無遠慮]

S1626 岸女(きしじょ) ? - ? 江後期安藝仁方の俳人; [行く道のきまらでちかし花の宿](短冊)

徽子女王(きしじょおう/によおう) → 斎宮女御(さいぐうのによご、重明親王女) 2 0 0 4  
 熙子女王(きしじょおう/によおう) → 熙子女王(きしによおう、新古今歌人) F 1 6 4 6

儀七(ぎしち・徳田)	→	錦江(きんこう・徳田とくだ、藩士/儒者)	J 1 6 1 2
儀七(ぎしち・朝山)	→	嘉保(よしやす・朝山あさやま/勝部、神職/歌)	L 4 7 2 5
喜七郎(きしちろう・伊達)	→	村頭(むらあき・田村たむら/伊達、藩主)	D 4 2 8 8
喜七郎(きしちろう・大野)	→	茂則(しげのり・大野おの、庄屋/歌人)	N 2 1 8 0
喜七郎(きしちろう・武津)	→	周政(ちかまさ・武津むかつ、藩士/国学者)	N 2 8 3 8
喜七郎(きしちろう・前田)	→	貞国(さだくに・前田まえだ、藩士/歌人)	P 2 0 3 6
儀七郎(ぎしちろう・水月堂)	→	春燈斎(しゅんとうさい・岡田おかだ、銅板画)	L 2 1 6 5
儀七郎(ぎしちろう・小倉)	→	美孝(よしとか・小倉おくら/望月、藩士/国学)	L 4 7 8 2
季執(きしつ・白井)	→	固(かたし・白井しらい、藩士/歌人)	M 1 5 9 4
季昵(きしつ・伊地知)	→	季昵(すえちか・伊地知いぢち、詩人)	B 2 3 8 3
喜実(きじつ・宇野)	→	喜実(よしざね・宇野うの、講説/歌人)	D 4 7 5 3
輝実(きじつ・山根)	→	輝実(てるざね・山根やまね、国学者)	C 3 0 7 5
義質(ぎしつ・那須)	→	義質(よしかた・那須なす、藩士/馬術家)	C 4 7 7 9
義質(ぎしつ→よしかた)	→	楽軒(らくけん・貝原、儒者)	B 4 8 1 0
義質(ぎしつ/よしかた)	→	愿中(げんちゅう・斎藤さいとう、儒者)	L 1 8 2 6
義質(ぎしつ/よしかた・三浦)	→	竹溪(ちくけい・三浦、藩士/儒; 徂徠学)	C 2 8 8 4
義質(ぎしつ・常盤)	→	義質(よしなお・常盤とさむ、歌人)	O 4 7 0 1
義質(ぎしつ/よしかた・佐久間/新井)	→	滄洲(そうしゅう・新井/佐久間、藩儒/詩)	B 2 5 8 1
義質(ぎしつ・久坂)	→	玄瑞(げんずい・久坂くさか、藩士/奇兵隊)	C 1 8 4 2
義質(ぎしつ・吉武)	→	法命(ほうめい・吉武よしたけ、儒者/教育)	C 3 9 5 2
義質(ぎしつ・小泉)	→	義質(よしただ・小泉こいずみ、歌人)	M 4 7 6 9
義質(ぎしつ・後藤)	→	義質(よしただ・後藤ごとう、医者/国学)	M 4 7 8 8
義質(ぎしつ・村上)	→	松男(まつお・村上むらかみ/源、国学/歌)	T 4 0 1 0
義実(ぎじつ・六角)	→	義実(よしざね・六角/佐々木、武将)	D 4 7 5 0
其日庵(きじつあん)	→	素堂(そどう・山口、俳人/茶人)	2 5 2 6
其日庵(二世・葛飾派)	→	素丸(そまる・長谷川馬光、俳人)	2 5 2 9
其日庵(三世・葛飾派)	→	素丸(そまる2世、溝口、俳人)	E 2 5 3 6
其日庵(四世・葛飾派)	→	野逸(やいつ・加藤、俳人)	4 5 0 0
其日庵(五世・葛飾派)	→	白芹(はくきん・関根、俳人)	F 3 6 1 6
其日庵(六世・葛飾派)	→	南台(なんだい・鹿窪、俳人)	J 3 2 2 8
其日庵(七世・葛飾派)	→	列山(れつざん・関根、俳人)	5 1 0 7
其日庵(八世・葛飾派)	→	藜々(しんしん・馬場、俳人)	E 2 2 7 0
其日庵(九世・葛飾派)	→	錦江(きんこう・馬場、俳人)	1 6 6 1
其日庵(きじつあん・秋水)	→	秋水(しゅうすい・其日庵、俳人)	X 2 1 7 2
其日庵(きじつあん・一桃)	→	一桃(いっとう・木内、俳人)	H 1 1 7 2
其日庵(きじつあん)	→	有物(うぶつ・石原いしはら、俳人)	D 1 2 2 8
其日庵(きじつあん)	→	尺艾(せきがい・淀名和、俳人)	D 2 4 3 7
其日庵(きじつあん)	→	燕説(えんせつ・逢春軒、俳人)	B 1 3 1 8
其日亭(きじつてい)	→	政賢(まさかた・桜井さくらい田、神職/歌人)	Q 4 0 0 2
亀耳道人(きじどうじん)	→	岱年(たいねん・花守/早川/森、俳人)	K 2 6 9 2

- 1615 **規子内親王**(きし・のりこないしんのう、女四宮、村上天皇皇女) 949-986.38 母; 斎宮女御徽子女王きしによらう、975伊勢の斎宮/977母と伊勢へ/984退下/985帰京、歌人、972女四宮規子内親王家前栽歌合を主催、後拾遺1093( ; 異母姉の女三宮保子やた内親王が近くにいるのに消息しなかったので、姉よりの贈歌あり ; その返歌)、  
 [いはぬまはつゝみしほどにくちなしは色にや見えし山吹の花](後拾遺; 1093)、  
 (あなたから言わないうちは近くにいることを包み隠していたのに、  
 山吹の花はくちなしで染めた色に見えたのでしょうか、くちなしは[いはぬ]の縁語)、  
 (参考歌; 山吹の花色衣はないるごろも主や誰問へど答へずくちなしにして; 古今1012/素性)  
 (姉の贈歌「隔てけるけしきを見れば山吹の花心ともいひつべきかな」[斎宮女御集])、



〈花心は移り気/心を隔てて私のことなど忘れたのね〉

- B1620 **儀子内親王**(ぎし・のりこ・よしこないしんのう、花園天皇皇女)?-? 南北期京極派歌人、母;正親町実明女実子、1343院六首歌合/49光厳院36番歌合参加、勅撰27首;風雅(26首;96/130/264以下)新千1313、  
[吹くとなき風に柳はなびきたちてをちこちかすむ夕暮れの春](風雅集;春96)  
規子内親王家但馬(きしなしいんのうけたじま) → 但馬(たじま、女房歌人) E 2 6 6 5
- F1646 **熙子女王**(きしによおう、保明親王女)?-950 醍醐天皇の孫、平安中期歌人、937朱雀天皇女御、  
新古今1249(局に下がっている時に朱雀院から贈歌ありその返歌)、  
[思ひやる心は空そらにあるものをなどか雲みにあひ見ざるらん](新古今;恋1249)、  
(贈歌1248;たまぼこの道ははるかにあらねどもうたて雲井にまどふころかな)  
徽子女王(きしによおう) → 斎宮女御(さいぐうのによご、村上天皇女御/歌) 2 0 0 4  
幾地内子(きちのなしい/いくじのなしい) → 智恵内子(ちえのなしい、狂歌、元木綱女) 2 8 0 2  
岸廼舎(きののや) → 完和(さだかず・清水しみず/中島、藩士/歌) O 2 0 6 0  
季尺(きしやく) → 季尺(きせき、俳人) F 1 6 6 1  
季種(きしゆ・小倉) → 季種(すえたね・小倉/藤原、廷臣/歌人) B 2 3 8 2  
喜珠(きしゆ・朝山) → 嘉路(よしみち・朝山あさやま/勝部、国学者) L 4 7 1 8  
龜守(きしゆ・宮本) → 眞篤(ますず・宮本、虎杖庵4世/俳人) J 4 0 0 5
- S1624 **琪樹**(きじゆ) ? - ? 俳人;1686仙化「蛙合」入;  
[足ありと牛に踏まれぬ蛙哉]  
龜寿(きじゆ・泥江/古今園) → 延齡(えんれい/ながとし・平出、医者) C 1 3 2 4  
龜寿(きじゆ・谷口) → 勝盛(かつもり・谷口/谷梅、藩士/歌) V 1 5 0 5  
龜寿(きじゆ・林) → 信臣(のぶおみ・林はやし/岩田、名主/国学) J 3 5 6 6  
其樹(きじゆ;初号・皐月) → 平砂(2世へいさ・皐月さつき、俳人) 2 7 3 1  
義種(ぎしゆ・斯波) → 義種(よしたね・斯波しば/源、武将/歌人) E 4 7 3 3  
祇寿(ぎじゆ) → 祇寿(ぎず;遊女、歌人) S 1 6 5 5  
宜受(ぎじゆ・鈴木) → 松江(しょうこう・鈴木、藩儒) I 2 2 7 8  
宜孺(ぎじゆ・林) → 龜瑞(きずい・林はやし、国学者) L 1 6 0 0  
義寿(ぎじゆ・土生) → 玄碩(げんせき・土生はぶ、眼科医) K 1 8 5 1  
義寿(ぎじゆ/よしひさ・木下) → 幸文(たかふみ・木下、農業/歌人) 2 6 1 5  
義寿(ぎじゆ・清水) → 義壽(よしひさ・清水しみず、神職/国学) N 4 7 2 8  
義樹(ぎじゆ・武衛) → 義樹(よしき・武衛ぶえい/斯波、砲術家) D 4 7 0 2  
義樹(ぎじゆ→よしたね・桂山) → 彩巖(さいがん・桂山かつらやま、幕府儒官) 2 0 0 2
- B1621 **其秋**(きしゅう・湯本ゆもと、希杖さじょう男)?-? 俳人・一茶門(父と)、信州高井郡湯田中の湯元  
枳舟(きしゅう・自芳齋) → 貞麿(さだまろ・菊池きくち、里正/歌人) O 2 0 3 7  
幾秋(きしゅう・平元) → 正信(まさのぶ・平元ひらもと、藩士/俳人) F 4 0 6 8  
軌周(きしゅう・竹内) → 衛士(えいし/えいじ・竹内たけうち、藩士) C 1 3 8 3  
希周(きしゅう;初道号) → 澄彥(ちよういく;法諱・天章;道号、臨濟僧) H 2 8 2 3  
基修(きしゅう・壬生) → 基修(もとなが・壬生みぶ/庭田、廷臣/政治) L 4 4 5 5  
喜脩(きしゅう・小林) → 喜脩(よしなが・小林こばやし、商家/歌人) M 4 7 7 9  
淇洲(きしゅう・松田) → 立敬(たつり・松田まつだ/種谷、儒/詩歌) Z 2 6 5 7  
龜洲(きしゅう;字) → 深励(じんれい・子勗しきよく;字、大谷派学僧) Q 2 2 1 7  
龜洲(きしゅう・西川) → 吉輔(吉介よしすけ・西川にしかわ、国学者) D 4 7 8 0
- B1622 **箕十**(きじゅう) ? - ? 江前期元禄1688-1704頃美濃の僧/俳人:  
美濃関みのせきの三羽鳥の1、1702撰集「志津屋敷」・1705「夕暮集」編
- K1680 **其戎**(きじゅう・大原おおはら、四時園2世、其沢男) 1812-89 78 松山藩船手大船頭、俳;父門、子規の師、  
1830三津栄町恵美須神社に芭蕉句碑建立/上京;梅室門、80明栄社結成、1860「あら株集」編、  
[其戎の通称] 熊太郎/沢右衛門  
季重(きじゅう・北村) → 湖春(こしゆん・北村きたむら、歌人/俳人) 1 9 3 2  
季重(きじゅう/すえしげ・中江) → 常省(じょうせい・中江なかえ、漢学者) T 2 2 8 3  
紀重(きじゅう・春日) → 紀重(のりしげ・春日かすが、神職/国学者) H 3 5 9 1

- 規重(きじゅう・山内) → 規重(のりしげ・山内やまのうち、藩家老/儒) E 3 5 6 7  
 基重(きじゅう・紺野) → 基重(もとしげ・紺野こんの、藩士/文筆家) C 4 4 6 4  
 喜重(きじゅう・市川) → 玉置(たまき・市川いちかわ、国学者) V 2 6 6 7  
 J1662 磯舟(いしづな) ? - ? 江前期俳人; 1691不角「若みどり」入、  
 [福僧ふくそうに態わざと嫌ひの歳咄としばなし](若みどり/前句; 愛想もなく座を立ちて行く)  
 (裕福な俗僧に歳の話をして心残りでしょうと皮肉ると座を立てていった)  
 K1681 義秀(ぎしゅう; 法諱・晦堂; 道号、川崎)?-1799 越後曹洞; 空外門、1770貞祥寺21世、  
 1795「明菴了祥行状」、「晦堂義秀語録」著  
 U1642 義秀(ぎしゅう; 法諱・桜井さくらい、) 1798-1873 76 撰津豊島郡桜井谷村野畑の報恩寺住職、  
 国学; 伴林光平門・井上八十八門?、真宗本願寺派僧、  
 [義秀の字/号]字; 得聞とくもん、号; 千里/覚蓮房  
 義周(ぎしゅう・宮原) → 義周(よしちか・宮原みやはら/源、幕臣; 高家) E 4 7 5 2  
 義周(ぎしゅう・脇坂) → 義堂(ぎどう・脇坂わかさか、心学者) L 1 6 6 6  
 義周(ぎしゅう・寺門) → 義周(よしちか・寺門てらかど、藩士/和算家) E 4 7 6 0  
 宜周(ぎしゅう・森) → 宜周(よしちか・森もり甚左衛門、商家/歌) P 4 7 6 3  
 義秀(ぎしゅう・竹俣) → 義秀(よしひで・竹俣たけのまた/保科、家老) G 4 7 3 7  
 義就(ぎしゅう・佐竹) → 義堯(よしたか・佐竹さたけ/相馬、藩主) E 4 7 1 2  
 義脩(ぎしゅう・佐竹) → 義脩(よしなお・佐竹さたけ、軍人/系図) K 4 7 3 5  
 義脩(ぎしゅう・牧) → 義脩(よしなが・牧まき/藤原、官人/記録) F 4 7 3 3  
 宜修(ぎしゅう・秋山) → 號州(かくしゅう・秋山あきやま、医者) J 1 5 9 6  
 J1618 義重(ぎしゅう・長嶋) ? - ? 伊勢白子の俳人、  
 1690言水「新撰都曲みやこぶり」4句(145-148)入、  
 [狼やまいぬもおそろしからぬ花野哉](都曲; 147/花野[秋の草花の野])  
 義重(ぎしゅう・斯波) → 義重(よししげ・斯波しば、武将/管領/歌人) D 4 7 5 6  
 義重(ぎしゅう・築田) → 義重(よししげ・築田/梁田、家老/測量) D 4 7 6 0  
 義住(ぎしゅう・三浦) → 義住(よしずみ・三浦みうら、藩士/歌人) P 4 7 2 9  
 義従(ぎしゅう・三浦) → 義従(よしつぐ・三浦みうら、藩士/歌人) P 4 7 3 0  
 儀重(ぎしゅう・内藤) → 儀重(のりしげ・内藤ないとう、藩士/神職) J 3 5 3 2  
 宜重(ぎしゅう・笠井) → 宜重(のぶしげ・笠井、備後文筆) B 3 5 6 0  
 宜秋堂(ぎしゅうどう) → 琴山(きんざん・榎田くしだ、儒者) H 1 6 8 9  
 S1666 宜秋門院(ぎしゅうもんいん、藤原任子、九条兼実女) 1173-1238 66 母; 藤原兼子(秀行女)、  
 1190後鳥羽天皇の女御/中宮、良通(内大臣)・良経(摂政)・良輔・良平・良円らの姉妹、  
 女房に丹後ほか  
 宜秋門院丹後(ぎしゅうもんいんのたご) → 丹後(たご・宜秋門院、歌人) I 2 6 0 7  
 喜十郎(きじゅうろう・宮竹屋) → 鶴山(かくざん・亀田かめだ、商家/詩人) J 1 5 9 2  
 喜十郎(きじゅうろう・染山) → 宗十郎(初世そうじゅうろう・沢村、歌舞伎役者/俳) 2 5 1 0  
 喜十郎(きじゅうろう・花井) → 健吉(けんきち・花井はない、算学/測量家) I 1 8 4 1  
 喜十郎(きじゅうろう・広井) → 遊冥(ゆうめい・広井ひろい、藩儒者/和算) D 4 6 8 7  
 喜十郎(きじゅうろう・市川) → 玉置(たまき・市川いちかわ、国学者) V 2 6 6 7  
 喜十郎(きじゅうろう・越智) → 古声(こせい・越智おち、酒造業/俳人) D 1 9 0 7  
 喜十郎(きじゅうろう・岡崎) → 千兮(せんけい・岡崎/竹内、俳人) M 2 4 1 4  
 喜十郎(きじゅうろう・藤生) → 浮素(ふそ・藤生ふじお、国学者) I 3 8 6 8  
 喜十郎(きじゅうろう・大橋) → 昌尚(まさなお・大橋おおはし/平、藩士/国学) O 4 0 4 0  
 喜十郎(きじゅうろう・乃木) → 希次(まれつぐ・乃木のぎ、藩士/武家故実) K 4 0 2 4  
 生十郎(きじゅうろう・田島/寺尾) → 小八郎(こはちろう・寺尾てらお、藩士) N 1 9 4 7  
 季十郎(きじゅうろう・広瀬) → 宗栄(むねよし・広瀬/内海、藩士/心学) C 4 2 8 9  
 季十郎(きじゅうろう・跡部) → 良弼(よしすけ・跡部あとべ、幕臣/奉行/歌) K 4 7 9 5  
 K1682 義十郎(ぎしゅうろう・平井ひらい、名; 希昌/字; 元寧、森永もりなが年の男) 1839-96 58 肥前長崎通事;  
 1852稽古通事見習/唐通事平井家の養子/56唐稽古通事/59英語; 米国宣教師の門、  
 のち訳家学校洋学世話掛/英語稽古所学頭、1865済美館英語教授/69通弁御用頭取、

「咲咭喇新聞紙」訳

[義十郎の別通称/号]別通称;儀十郎、号;東阜

- 義十郎(ぎじゅうろう・奥村)→ 栄実(てるざね・奥村おくむら、藩士/和漢学) C 3 0 7 4  
儀十郎(ぎじゅうろう・松田)→ 録山(ろくざん・松田/源、銅版画師) 5 2 8 6  
毅叔(きしゅく・山崎) → 宗徳(そうとく・山崎/多紀、幕府/鍼医) I 2 5 5 9  
記主禪師(きしゅぜんじ) → 良忠(りょうちゅう;法諱、浄土宗第三祖) I 4 9 8 7  
記主禪師(きしゅぜんじ) → 顕意(けんい;法諱・道教;字、浄土僧) M 1 8 0 4  
義述(ぎじゅつ・よしのぶ・新井)→ 玉世(たまよ・新井あらい、絹商/狂歌師) V 2 6 3 0  
義術(ぎじゅつ・佐竹) → 義術(よしやす・佐竹さたけ、城代) N 4 7 0 5
- K1683 亀寿丸(きじゅまる・忽那くつな、式部少輔通著男/本姓藤原)?-? 伊予忽那島領主/武将、河野氏に出仕、1585小早川氏に敗北、1587「忽那島開発記」編  
亀寿丸(きじゅまる・六角) → 満高(みつたか・六角/佐々木/源、武将/守護) D 4 1 7 1
- K1684 基舜(きしゆん;法諱、初法諱;俊義、大智房)?-1164 真言高野山僧;良禪・兼賢門/中院流法脈、高野山大楽院開;その1世、「秘密蔵集」編、門下;融源/覚義/兼海ら
- F1648 喜舜(きしゆん;道号/禪師)? - ? 曹洞僧;越前大野の宝慶寺八世、1420道元「傘松道詠(永平集)」を集成(1468「建擿記けんせいき」入)
- K1685 喜春(きしゆん・愛甲あいこう、名;秀定/広隆)1605-97長寿93 薩摩志布志の医者;津田曲桃庵門、儒;僧泰岳門、如竹門、1640屋久島の本仏寺如竹から四書新註を学習、易学;江夏二閑門、鹿兒島で開業医、  
「易経私鈔」「四書私鈔」「家伝医方集要」「諸家脉法拔萃」「針灸明弁」「家訓傷寒論」著、  
[喜春の通称/別号]通称;平左衛門/諸兵衛、別号;玄德、法号;文嶺玄德居士
- F1649 基春(きしゆん・野田) ? - ? 山城俳人、1663梅盛「落穂集」入
- U1615 季春(きしゆん・北村きたむら、水戸藩士川口立安茂好男)1742-180362 北村春水しゆんすいの養子、国学者/歌人、幕府歌学方、季文きぶんの父、  
[季春(;名)の通称] 鏡次郎てつじろう
- I1660 帰春(きしゆん・諸葛もろくず、名;晃/字;君韜、琴台男)1783-184765 下野の儒者/播磨姫路藩儒、「詩韻通考」「古韻通考」「万葉集訳注」「曆理叢説」「古曆探微」「蘭文考」「悉曇啓蒙」外著多数、  
[帰春の通称/別号]通称;次郎太夫、別号;良軒
- 季春(きしゆん・四辻) → 季春(すえはる・四辻/藤原、大納言/歌・連歌) B 2 3 3 9  
基俊(きしゆん・藤原) → 基俊(もととし・藤原ふじむら、廷臣/歌人) 4 4 1 7  
基俊(きしゆん・堀川) → 基俊(もととし・堀川、権大納言/日記) D 4 4 2 7  
基春(きしゆん・持明院) → 基春(もとはる・持明院/藤原、廷臣/書家) D 4 4 8 9  
基春(きしゆん・戸坂) → 三碩(さんせき・戸坂とさか、医者/俳人) M 2 0 5 0  
熙春(きしゆん;道号) → 龍喜(りゅうき;法諱・熙春、臨濟僧) D 4 9 2 9  
帰春(きしゆん・田中) → 五英(ごえい・田中たなか、書家) L 1 9 7 1
- K1686 希純(きしゆん;名・横井よこい、号;晩生)?-? 阿波の郷土史家:「阿州奇事雑話」編  
毅順(きしゆん・藤村) → 直弘(なおひろ・藤村、書画・俳諧) C 3 2 3 0  
季順(きしゆん・北村) → 湖春(こしゆん・北村きたむら、歌人/俳人) 1 9 3 2  
季純(きしゆん・大谷木) → 醇堂(じゆんどう・大谷木おおやぎ、儒者/随筆) K 2 1 3 4  
徽淳(きしゆん・山崎) → 淳夫(じゆんぶ・山崎やまざき、儒者/医者) L 2 1 8 1
- F1650 宜春(ぎしゆん・仁木にき) ? - ? 俳人、方丈記研究、1664「両吟集」入、96「方丈記宜春抄」著
- B1623 義俊(宜俊ぎしゆん・大覚寺、近衛尚通男)1504-6764 母;徳大寺実淳女、真言大覚寺門跡、1516得度、1539大僧正/准三宮/51天王寺別当/62乱を避け越前へ;義昭支援で奔走;敦賀で客死、歌;三条西実隆・公条門、古今伝授、1562越前一乗谷歌合参、連歌;1555石山四吟千句参、1556公条催「大覚寺和漢千句」の発句;「金」名;「萩の葉やまたおどろかすけふの夢」、  
[義俊の号/称]号;禅意/称念寺、称;准三宮/大覚寺准后だいかくじじゅうごう
- 疑俊(ぎしゆん) → 叡俊(えいしゆん、法師/歌人) 1 3 3 2  
義俊(ぎしゆん・多田) → 義俊(よしとし・多田/桂/源、神道/故実/戯作) 4 7 1 8  
義春(ぎしゆん・源) → 義春(よしはる・源みなもと、歌人) G 4 7 0 3  
義舜(ぎしゆん;字) → 琢成(たくじゅう;法諱・義舜、真宗僧学匠) O 2 6 0 7

- 宜春(ぎしゆん;字) → 英岳(えいがく;法諱、宜春、真言僧) C 1 3 5 8  
 K1687 義純(ぎじゆん;法諱) ? - ? 鎌倉末期武州南葛飾木下川の浄光寺住職、  
 1327「木下川薬師仏像縁起」著  
 K1688 義順(ぎじゆん;法諱、俗姓;木全きまた) 1791-1858 68 美濃真宗大谷派智通寺住職、宝景門、  
 1841高倉学寮の寮司/1847高倉学寮擬講、「諸神本懐集講義」「唯識二十論述記」著、  
 [義順の号] 大通院/松洲  
 U1653 義準(ぎじゆん;法諱・鈴木すずき) ?-1892 三河宝飯郡小坂井村の浄土宗東林寺住職、国学者、  
 [義順の号] 仁翁/竹堂  
 義純(ぎじゆん・佐竹) → 義純(よしずみ・佐竹さたけ、藩主/壱岐守/歌) K 4 7 5 2  
 義淳(ぎじゆん・宮部) → 義淳(よしあつ・宮部みやべ、藩士/歌人) C 4 7 1 1  
 義遵(義純ぎじゆん・佐竹) → 義遵(よしゆき・佐竹さたけ、藩士;城代) I 4 7 0 0  
 宜順(ぎじゆん;字) → 日妙(にちみょう;法諱・本正院、日蓮僧) D 3 3 2 6  
 宜春庵(ぎしゆんあん) → 玄医(げんい・名古屋/名護屋、医者) H 1 8 6 8  
 宜春園(2世ぎしゆんえん) → 文竜(ぶんりゅう・石井いひ、俳人) G 3 8 6 9  
 宜春斎(ぎしゆんさい・葛野) → 美住(よしずみ・葛野かどの、商家/国学/俳) M 4 7 2 3  
 熙春堂(きしゆんどう) → 千春(ちはる・今泉、歌人) F 2 8 1 8  
 政徳(きしよ・天野) → 政徳(まさのり・天野/藤原、幕臣/歌人) G 4 0 1 2  
 F1651 亀如(きじよ) ? - ? 絵師、1777散人「浄瑠璃稽古風流」画  
 機女(きじよ・武谷) → 機女(はたじよ・武谷たけたに/井岡、歌人) J 3 6 4 0  
 磯女(きじよ)すべて → 磯女(いそじよ)  
 暉如(きじよ/てるゆき・西郷) → 暉隆(てるたか・西郷さいごう、藩士/歌人) C 3 0 7 8  
 F1652 義所(ぎしよ・樋口ひぐち、名;豊/字;太一、東里男) 1761-1819 59 周防岩国藩儒、儒;父門、  
 1786古義堂入、伊藤東所門、1790家督/藩校養老館講堂で教授/1803侍講、  
 「東里詩文集」編、「義所詩文集」「近譬録」「孝経考定」「尚書直旨」「論孟講習録」著、  
 [義所の通称/別号]通称;太一郎、別号;楓窓ふうそう、遯庵かいあんの養父  
 S1686 義所(義処ぎしよ・青木あおき/本姓;藤原、筑紫孝門2男) 1799-1860 62 母;青木氏の貞子、  
 青木家を継嗣、幕臣;1848(嘉永元)本多主税と国目付として秋田藩を巡見、  
 歌;1852蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、  
 [たはれきて遊ぶ小蝶の羽風にもなびくばかりの野路の若草]、  
 (大江戸倭歌;春166/路若草)、  
 [春の日も外山のかたにくれそめていよいよ花は雲となりにき](現存百人一首;66)、  
 [義所(;名)の通称/号]通称;新五兵衛、号;鶴山、  
 K1689 義所(ぎしよ・鳥山とりやま、名;正清/景清、宇山正質男) 1819-56 38 安房大川村漁業/質・雑貨商の家、  
 母;喜利、1838江戸/儒者;東条一堂門/遠祖の鳥山に改姓、京橋に開塾、30歳頃から兵学、  
 尊王派;松陰の下田事件連座/幽閉先の溝口邸で没、「安房志」「慎録」「房海私策」、  
 「和戦論大要」「和蘭文典笥」「軍制改革考」「国喪議」「鳥山家譜考」著、  
 [義所の字/通称/別号]字;義一、通称;新三郎、別号;確斎/蒼竜軒、法号;確斎斯馨居士  
 義助(ぎじよ・久坂) → 玄瑞(げんずい・久坂くさか、藩士/奇兵隊) C 1 8 4 2  
 義恕(ぎじよ・徳川) → 慶勝(よしかつ・徳川/源/松平、藩主) C 4 7 9 1  
 1616 其笑(初世きしゅう・八文字、通称八文字屋八左衛門、安藤、初世自笑男) ?-1750 京の書肆;  
 八文字屋2代主人;役者評判記/絵本出版、浮世草子作;自署名作は多く南嶺による代作?、  
 1740「忠盛祇園桜」「忠盛祇園桜」著、2世自笑(瑞笑)・3世自笑(素玉)の父  
 K1690 其梢(きしゅう) ? - ? 越後五日市の俳人;1777江涯こうがい「仮日記」入、  
 [菜の華や朱雀までなる老のたび](仮日記;6春/朱雀野[洛外島原・西七条一帯]まで歩く)  
 K1691 亀章(きしゅう・下郷しもと、名;亮雄/通称;金兵衛、亀世男) ?-1789 尾張鳴海医者/屋号;千代倉、  
 俳人、「千代倉日記」著、法号;寿齡斎肇翁亮雄  
 参考 → 鳴海の千代倉家(なるみのちよくらげ)  
 B1625 鬼笑(きしゅう・七文舎) ? - ? 江後期;滑稽本作者、1809「楽屋雑談」著  
 F1654 寄松(きしゅう) ? - ? 江後期;絵師、1814一溪「成年俄選」画  
 几掌(きしゅう・木田) → 万翁(まんおう・木田/鉄屋、商家/俳人) K 4 0 4 0



- 希昌(きしょう・森永/平井)→ 義十郎(ぎじゅうろう・平井、通事/英語翻訳) K 1 6 8 2  
 季昌(きしょう/すえまさ・金屋/佐藤)→ 月窓(げつそう・佐藤さとう、医者/歌人) H 1 8 1 7  
 季尚(きしょう・安倍) → 季尚(すえひさ・安倍あべ、楽人) B 2 3 4 0  
 季尚(きしょう・内藤) → 季尚(すえひさ・内藤、歌人) F 2 3 5 7  
 季祥(きしょう・賀茂) → 季祥(すえよし、賀茂/西池、廷臣) F 2 3 7 7  
 季韶(きしょう・風早/冷泉)→ 為訓(ためさと・冷泉/藤原、廷臣/歌人) S 2 6 4 2  
 倚松(きしょう→いしょう) → 倚松(いしょう・三好、俳人) F 1 1 6 6  
 其昌(きしょう・陳ちん:俗名)→ 独湛(どくたん;道号・性瑩;法諱、渡来黄檗僧) L 3 1 2 0  
 其章(きしょう・谷) → 其章(もとあき・谷たに、医者) B 4 4 9 8  
 其章(きしょう・沼尻) → 修平(しゅうへい・沼尻ぬまじり、書家) Y 2 1 3 0  
 其笑(2世きしょう・八文字)→ 自笑(3世じしょう・八文字、書肆/俳人) E 2 1 0 9  
 基勝(きしょう・園) → 基勝(もとかつ・園その/藤原、廷臣/記録) C 4 4 3 7  
 亀墻(きしょう・松井) → 梅左(ばいさ・松井、俳人) B 3 6 2 5  
 帰昌(きしょう・峯) → 貉丘(かくきゅう・峯みね、医者) J 1 5 6 6  
 喜尚(きしょう・広瀬) → 喜運(よしゆき・広瀬/三浦、郷土史家) H 4 7 9 2  
 喜昌(きしょう・宮坂) → 喜昌(よしまさ・宮坂みやさか、和算家/歌) H 4 7 1 7  
 喜昌(きしょう・小山) → 六郎(ろくろう・小山おやま、勤王家) B 5 2 2 0  
 喜章(きしょう・犬塚) → 喜章(よしあき・犬塚いぬづか、歌人) K 4 7 8 0  
 喜笑(きしょう・小田切) → 春江(しゅんこう・小田切おだぎり、藩士/絵師) J 2 1 6 3  
 喜勝(きしょう・中島) → 喜勝(よしかつ・中島なかじま/中村、砲術家) C 4 7 9 0  
 輝尚(きしょう・大沢) → 輝尚(てるひさ・大沢おおさわ、藩士/歌人) F 3 0 0 6  
 輝照(きしょう・大河内) → 輝声(てるな・大河内/松平、藩主/詩歌) B 3 0 4 6  
 輝昌(きしょう・野村/三河口)→ 輝昌(てるまさ・三河口/野村、幕臣/代官/日記) C 3 0 9 3  
 B1624 季讓(きしょう;法諱・在先ざいせん;道号)1335-1403<sup>69</sup> 越中臨濟僧;竜泉令涑門/法嗣、五山文学者、  
 1390山城普門寺住持、98東福寺62世、「北越吟」1402「無人和尚行業記」著、  
 「在先和尚語録」「在先有禪師疏」著、  
 [在先季讓の初諱/号]初法諱;知有、号;越絶子  
 F1623 希杖(きしょう) ? - ? 備中連島俳人/1776「墨のほひ」編(風律序)  
 B1626 希杖(きしょう・湯本ゆもと、巢鶯舎)1762-1835<sup>74</sup> 信州湯田中の湯元/俳人;一茶門、其秋きしゅうの父、  
 1829一茶没2年後の文政版「一茶発句集」編纂者14人の1、  
 [早介が虚空をつかむ螢かな](早介は孫の名か/一茶十哲句集入)  
 K1692 亀丈(きしょう、通称;亀屋/条吉)?-? 127存 信州長野俳人:道彦門、1827「麻蓬集」編  
 [亀丈の別号] 艦斎/般斎  
 季繩(きしょう・藤原) → 季繩(すえなわ/すえつな/すえただ・藤原、廷臣/歌) B 2 3 3 5  
 葵城(きしょう・戸田) → 忠恕(ただゆき・戸田とだ、藩主) R 2 6 2 0  
 季城(きしょう・山本) → 季護(すえもり・山本やまもと/高木、官人/国学) J 2 3 3 6  
 F1655 義昭(ぎしょう) ? - ? 847存 平安期元興寺真言僧、9c末説話「日本感霊録」編  
 F1656 義正(ぎしょう・杉山) ? - ? 伊賀上野俳人、1672芭蕉「貝おほひ」入  
 K1693 義性(ぎしょう;法諱・慧然えねん;道号、俗姓黒田)1692-1763<sup>72</sup> 播磨姫路の曹洞僧:1711掛錫門、  
 1715天桂伝尊門、39大令俊明門;法嗣/丹波円通寺27世1757常照寺3世、「永谷列祖伝」編  
 義将(ぎしょう・斯波) → 義将(よしまさ/よしゆき・斯波しば/源、武将;管領/歌人) G 4 7 9 6  
 義性(ぎしょう;法諱) → 随庵(ずいあん、空性法親王、詩歌) 2 3 2 4  
 義性(ぎしょう、大覚寺) → 尊信(そんしん;法諱、大覚寺門跡/連歌) F 2 5 5 7  
 義称(ぎしょう;字) → 乗因(じょういん;法諱・義称、天台修験僧) G 2 2 8 7  
 義称(ぎしょう;法名) → 義兼(よしかね・足利あしかが、武将/幕臣) 4 7 0 8  
 義昭(ぎしょう・足利) → 義昭(よしあき・足利あしかが、15代将軍) B 4 7 8 5  
 義尚(ぎしょう・足利) → 義尚(よしひさ・足利/源、9代将軍/歌) G 4 7 2 5  
 義尚(ぎしょう・佐竹) → 義敦(よしかつ・佐竹さたけ、藩主/書画) C 4 7 1 3  
 義勝(ぎしょう・武藤) → 義勝(よしかつ・武藤むとう/本庄ほんじょう、武将/城主) C 4 7 8 3  
 義勝(ぎしょう・櫛木) → 義勝(よしかつ・櫛木いちき/くぬぎ、砲術家) C 4 7 8 4

- 義勝(ぎしょう・三田) → 義勝(よしかつ・三田さんだ、藩儒/詩文) C 4 7 8 6  
義勝(ぎしょう・今村) → 竹堂(ちくどう・今村、儒者/家塾教育) D 2 8 5 9  
義昌(ぎしょう・木山) → 昌言(しょうげん・木山、社僧/連歌作者) I 2 2 6 0  
義昌(ぎしょう・木曾) → 義昌(よしまさ・木曾きそ、藤原、武将) K 4 7 9 7  
義昌(ぎしょう・宮部) → 義昌(よしまさ・宮部、義正男/歌人) H 4 7 0 5  
義昌(ぎしょう・錦織) → 義昌(よしまさ・錦織にしづり、藩医/和学) O 4 7 3 8  
義昌(ぎしょう・佐原) → 義昌(よしまさ・佐原さわら、藩士/歌人) N 4 7 1 6  
義昌(ぎしょう・宮田) → 義昌(よしまさ・宮田みやた/星野、国学/歌) P 4 7 4 6  
義邵(ぎしょう・坂本) → 義邵(のりよし・坂本さかもと/一色、藩士/神道) I 3 5 6 2  
義詳(ぎしょう;字) → 羊歩(ようぶ;法諱・義詳、本願寺派僧) B 4 7 5 4  
義章(ぎしょう・田沢) → 義章(よしあき・田沢たざわ、歌人/地誌) B 4 7 9 4  
義章(ぎしょう・森田) → 義章(よしあき・森田もりた、医者) B 4 7 9 6  
義章(ぎしょう・松沢) → 義章(よしあき・松沢まつざわ、商家/国学) C 4 7 0 6  
義章(ぎしょう・荒川) → 義章(よしあき・荒川あらかわ、藩士/歌人) L 4 7 3 2  
儀章(ぎしょう・萱野) → 考澗(こうかん・萱野かやの、藩士/詩/錢塘父) I 1 9 0 4  
宜昌(ぎしょう・革嶋) → 宜昌(よしまさ・革嶋かわしま、絵師) H 4 7 1 3  
宜祥(ぎしょう/まさよし・飯田) → 桂山(けいざん・飯田、醸造業/詩人) D 1 8 4 8
- B1627 祇丞(2世ぎじょう・三上みかみ、須臾庵/深月庵/浮山水)?-1763 蔵前札差、俳人・超波門/四時観派、其角座存義点者、1739桃桜ももさくら・江戸廿歌仙・新六歌仙などに入、41「ひとりすまふ」編、1742「田植唄」50「四夜稿」編/56「わかかな」序、59「座禅蚕」編
- K1694 宜成(ぎじょう;法諱・皆遵院かいじゆんいん) 1777-1861 85 豊後竹田真宗僧/河内金岡村大谷派光照寺住職、大谷派大十四代講師/高倉学寮入学;頓慧門/1858学寮講師、「往生礼讃丙午記」外講録多数
- K1695 義讓(ぎじょう;法諱・了淳りょうじゆん;字、俗姓;佐藤) 1796-1858 63 尾張領内村の生、6歳で儒;医者普斎門、漢学;鷺津有隣門/16歳;真宗大谷派僧;名古屋養念寺靈曜門、三河上横須賀村源徳寺住職、1820高倉学寮寮司/40擬講/48嗣講/52大谷派代13代講師、「示誨録」「真宗宗論録」「西洋暦日月交蝕図解」「タスケタマヘ不統論」「浄土論聞書」外著多、[義讓の号] 遊仙窟/本法院
- K1696 祇杖(ぎじょう・稲津いなづ) ? - ? 大阪俳人、1820「祇空九十回忌」編、1823「三津人みつんど追善集」編、[祇杖の別号] 榎江/梅江/梅江舎/清流洞4世
- 義丈(ぎじょう・大久保) → 蔵岳(ぞうがく・大久保おおくぼ、漢学;詩文) G 2 5 6 4  
義城(ぎじょう・伊藤/伊東) → 義足(よしたり・伊藤/伊東、商家/歌人) E 4 7 4 4  
戲笑(ぎしょう) → 献笑閣(けんしょうかく・戲笑、洒落本作者) C 1 8 2 8  
倚松庵(きしょうあん→いしょうあん) → 専斎(せんさい・江村、医者/歌/連歌) 2 4 3 0  
義上園(ぎじょうえん) → 兎士(とし・義上園、俳人) L 3 1 8 7  
喜称軒(きしょうけん) → 長興(ながおき・小槻おづき、廷臣/歌/連歌) 3 2 0 5  
戲場好人(ぎじょうこうじん→しばいこうじん) → 半兵衛(はんべえ・松好斎、絵師) I 3 6 5 1  
氣象天業(きしょうてんごう;戲号) → 政美(まさよし・北尾、絵師) I 4 0 6 0  
奇勝堂(きしょうどう) → 広沢(こうたく・細井ほそい/辻、儒/書家) 1 9 1 4  
寄松堂(きしょうどう) → 知木(ちぼく・鈴江、俳人) F 2 8 3 8  
宜松老人(ぎしょうろうじん) → 董堂(とうどう・中井/井、商家/詩/狂歌) G 3 1 7 8
- F1657 義湜(ぎじよく・小林こばやし) 1833-1875 43 江末期和算家:量地術修得、「算法阿釜団子二夾錐之編」「写形測器用法説」著
- 龜緒山人(きしよさんじん) → 常如(じょうにょ;号・光晴;法諱/東本願寺15世、俳人) B 2 2 0 8  
喜四郎(きしろう・三輪) → 月底(げつてい・三輪みわ、大工/俳人) H 1 8 2 6  
喜四郎(きしろう・村井) → 長世(ながよ・村井、藩士/文筆家) G 3 2 2 9  
喜四郎(きしろう・山田) → 半仙(はんせん・山田やまだ、商家/儒者/歌) K 3 6 9 3  
紀四郎(きしろう・吉田) → 平陽(へいよう・吉田、藩士/儒者/詩) 2 7 8 3  
喜次郎(きじろう・宮地) → 益躬(ますみ・宮地、藤原、神職/国学) J 4 0 2 5

喜次郎(きじろう・尾本) → 竜淵(りゅうえん・尾本おもと/大江、藩士/儒) C 4 9 9 9  
 喜次郎(きじろう・岩切) → 実積(さねかず・岩切いわきり、藩士/歌人) N 2 0 9 0  
 義四郎(ぎしろう・横山) → 隆従(たかより・横山よこやま、藩士) N 2 6 8 1  
 希眞(きしん・志村/伴) → 峰城(ほうじょう・古屋ふるや/伴、儒/書家) F 3 9 7 6  
 希辛(きしん・佐治) → 竹暉(ちくき・佐治さじ、儒者/彰考館総裁) C 2 8 8 1  
 希秦(きしん・鈴木) → 道順(どうじゅん・鈴木すずき、医者) F 3 1 1 6  
 希信(きしん・小野) → 顕栄(あきひで・小野おの、神職/国学) H 1 0 1 8  
 季信(きしん・平) → 季信(すえのぶ・平、廷臣/出羽弁の父) B 2 3 3 8  
 季信(きしん・藤原) → 季信(すえのぶ・藤原、歌人) B 2 3 3 7  
 季信(きしん・阿野) → 実藤(さねふじ・阿野あの/藤原、季信/大納言) N 2 0 6 7  
 季信(きしん→すえのぶ・梅田) → 年風(としかぜ/ねんふう・梅田、絵師/俳人) M 3 1 1 5  
 基親(きしん・持明院) → 基親(もとたか・持明院/藤原、廷臣/歌) C 4 4 9 9  
 基親(きしん・平) → 基親(もとちか・平たいら、廷臣/浄土僧) C 4 4 9 7  
 基親(きしん・小林/深川) → 元儻(もとよし・深川/深河/小林、本草家) E 4 4 7 9  
 基信(きしん・葉川/石山) → 師香(もろか・石山/藤原/葉川、廷臣/画) H 4 4 0 9  
 貴信(きしん/たかのぶ・森) → 周峰(しゅうほう・森もり、絵師) Y 2 1 4 0  
 記心(きしん・木山) → 紹完(しょうかん・木山きやま/源、社僧/連歌作者) H 2 2 8 2  
 帰信(きしん;法名) → 雄伝(ゆうでん・増田ますだ、幕臣/奥医) D 4 6 4 8  
 喜信(きしん・中村) → 喜信(よしのぶ・中村なかむら、藩士/国学者) O 4 7 2 1  
 喜信(きしん・矢田部) → 喜信(よしのぶ・矢田部やたべ、国学/歌人) P 4 7 7 2  
 暉眞(きしん・酒井) → 抱一(ほういつ・酒井、絵師/俳人、諸芸) 3 9 1 3  
 暉辰(輝辰きしん・松井) → 輝星(暉星きせい・松井まつい、易占家) B 1 6 3 6  
 槻人(きじん・大沢) → 稲彦(いなひこ・大沢おおさわ/松尾、庄屋/歌) K 1 1 0 4

B1628 義眞(ぎしん;法諱、諱号;修禪大師、俗姓;丸子[丸部]連) 781-833<sup>53</sup> 相模の生/大安寺僧:最澄門、  
 804師最澄入唐に訳語として随行/円頓戒・密教修学し帰国/823大乘戒壇で最初の伝戒師、  
 824延暦寺の初世天台座主、830「天台法華宗義集」を上進、  
 「大師隨身録」「維摩堂日記」「略教相」著

義真(ぎしん・宗) → 義真(よしざね・宗そう/平、藩主) D 4 7 5 1  
 義真(ぎしん・西村) → 真斎(しんさい・西村にしむら、藩医/詩人) O 2 2 4 9  
 義真(ぎしん・小森) → 義真(よしざね・小森こもり/和気、医者) D 4 7 5 4  
 義慎(ぎしん/よしちか・檜山) → 坦斎(たんさい・檜山、書画/花押) T 2 6 5 3  
 義慎(ぎしん・新宮) → 凉民(りょうみん・新宮しんぐう/柚木、蘭医) J 4 9 5 1  
 義臣(ぎしん・山田) → 義臣(よしおみ・山田やまだ/村井、藩士/神職) P 4 7 8 7  
 義信(ぎしん/よしのぶ・沼) → 梧窓(ごそう・沼ぬま、医者) N 1 9 0 0  
 義信(ぎしん・狩野) → 洞春(とうしゅん・狩野かのう、絵師) F 3 1 0 7  
 義信(ぎしん・三ヶ島) → 義信(よしのぶ・三ヶ島みかじま/宮野、神職) F 4 7 6 9  
 義信(ぎしん・小林) → 義信(よしのぶ・小林こばやし/樋口、天文家) F 4 7 5 6  
 義信(ぎしん・藤井) → 義信(よしのぶ・藤井ふじい、記録) F 4 7 7 5  
 義信(ぎしん・和田) → 義信(よしのぶ・和田わた、歌人) K 4 7 7 9  
 義信(ぎしん・佐々木) → 義信(よしのぶ・佐々木ささき、藩士/国学) N 4 7 0 3  
 義進(ぎしん・松岡) → 大蟻(たいぎ・松岡まつおか、藩士/俳人) B 2 6 2 1  
 義申(ぎしん・志村) → 東嶼(とうしよ・志村むら、儒者/詩文) F 3 1 2 0  
 義親(ぎしん・山田) → 義親(よしちか・山田やまだ、医者) E 4 7 5 3  
 儀信(ぎしん・陶山) → 槁木(こうぼく・陶山すやま、藩士/磯釣) L 1 9 2 7  
 儀信(ぎしん・黒河内) → 儀信(よしのぶ・黒河内くろこうち/羽入、藩士/歌人) M 4 7 6 4  
 宜親(ぎしん・志賀) → 青岡(せいこう・志賀しが、藩士/詩人) I 2 4 1 1  
 義尋(ぎじん) → 義視(よしみ・足利/源、武将) H 4 7 2 6  
 起信庵(きしんあん) → 即中(測中そくちゅう;法諱、浄土僧) J 2 5 4 8  
 己心院(きしんいん) → 孝覚(きょうかく/こうかく、法相僧/大僧正/歌) C 1 6 3 1  
 己心院前摂政左大臣(きしんいんさきのせつしょうさだいじん) → 己心院-(こしんいん) → 師教(もろのり・九条) H 4 4 7 0

- 揆辰軒(きしんけん) → 時憲(ときり・山本やまと、藩士/暦算家) J 3 1 7 8  
 宜信齋(ぎしんさい・箕作) → 秋坪(しゅうへい・箕作みつくり/菊池、洋学者) Y 2 1 3 1  
 葵心子(きしんし・安井) → 息軒(そっけん・安井やすい、儒者/教育) 2 5 2 5  
 祈親上人(きしんしやうにん) → 定誉(じやうよ;法諱、真言僧/高野復興) B 2 2 9 7  
 S1655 祇寿(ぎじ;遊女) ? - ? 平安後期;難波?の遊女/歌人、  
 1248成立「万代集和歌集」入;  
 中原師尚もろひさ(廷臣 1129or31-1197)が難波で「江辺三月尽」を詠むのに返しの詠、  
 [難波江の春のなごりにたへぬかなあかぬ別れはいつもせしかど](万代;2837)  
 B1629 季水(季翠きさい・祝原、朝三堂)?-? 筑前嘉麻郡鯉田の俳人;朱拙[1653-1733]門、  
 1704「土大根つちおね」編  
 J1629 器水(きすい) ? - ? 京の俳人;淡々門/蕉門系、  
 1691不角「若みどり」入/1728柳岡「万国燕ばんこくづばめ」8句入  
 [花早稲はなわせの雫になやむ親心](万国燕;716/早稲の花のように恋に泣く娘を気遣う親心)  
 G1680 其水(きすい) ? - ? 京の俳人;淡々門、1728柳岡「万国燕」入  
 [日を追ふて石へこぼるゝ蝶の雪](万国燕;紅葉之巻発句)(朝日に向い舞い降りた白蝶)  
 B1630 淇水(きすい・上河うへかわ/修姓河、名;正揚/義言、志賀盛言4男) 1748-1817 70 近江御園村の士族の生、  
 幼時に京に出る;心学者;手島堵庵とあん門/1767堵庵の養子;分家上河家4代を嗣ぐ/本姓藤原、  
 1791明倫舎舎主、全国の心学運動を統括、幕府の庶民教育と合致;40か国に弘布/講舎数81、  
 1780「四書類函」89「為学玉箒」編/93「聖賢証語国字解」1803「目覚し余音」、「心学承伝之図」著、  
 [淇水の字/通称/別号]字;子鷹、通称;文次/荘兵衛/愿蔵、別号;柿園  
 K1697 淇水(きすい・津下/久松、屋号;尾張屋)?-? 羽前酒田俳人、私塾を開/芦錐から文台を預かる、  
 廬元坊を最上まで案内、1766「袖の浦」編  
 [淇水の通称/別号]通称;長右衛門、別号;竹裡観/華耕園  
 K1698 淇水(きすい・万代閣、俳人右之男)?-? 江戸中期越後沼垂俳人、1773「西の旅」編  
 K1699 喜水(きすい) ? - ? 京の嵯峨の俳人;1776几董「続明鳥」入、  
 [入日さす鱸ずきの口や魚の店たな](続明鳥;乙524/芭蕉;塩鯛の歯茎も寒し魚の店 に倣う)  
 U1624 其水(きすい・黒川くろかわ、) ? - 1784 陸奥盛岡の国学者/歌人  
 B1631 既醉(きすい;号・寛海;法諱、葛松北丘)?-1790 下総真言大慈恩寺住職/俳人;初世茂蘭[日従]門、  
 1776「きくの香」、79茂蘭追悼集「きくの笠」編、82梅丸「茜堀あかねぼり」跋、「馬菱ばりょう牛刀録」、  
 [既酔の別号] 茂蘭もちん2世/啄木鳥庵2世/随月庵/俳瘦子  
 B1632 其水(きすい・不舍観) ? - ? 俳人、1797俳諧撰集「種ふくべ」編集、其雪庵桃李と交友  
 1800玄武坊3回忌「白山和詩集」を編集校訂  
 箕水(きすい・石川) → 桃蹊斎(とうけいさい・石川、国学/儒者) D 3 1 1 3  
 其水(きすい) → 黙阿弥(もくあみ・河竹・古河、歌舞伎作者) 4 4 0 2  
 淇水(きすい・奥村) → 邦秀(くにひで・奥村おくむら/橋、国学/茶人) E 1 7 0 8  
 淇水(きすい・船越) → 良弼(よしすけ・船越ふなこし/北条、剣術/歌) O 4 7 9 2  
 沂水(きすい・西郷/平尾) → 芹水(きんすい・平尾ひらお/西郷、藩儒) J 1 6 0 3  
 器水(きすい・林) → 定親(さだちか・林はやし、貞門俳人) C 2 0 0 2  
 亀水(きすい;号) → 了祥(りやうしやう;法諱、真宗大谷派学僧) I 4 9 1 6  
 磯水(きすい・袴田館) → 朝喬(ともたか・宮後みやじり、禰宜/歌人) P 3 1 6 6  
 既酔(きすい・久我) → 建通(たけみち・久我がが/一条、廷臣/歌) E 2 6 5 3  
 L1600 亀瑞(きすい・林はやし、名;宜橋/宣橋)?-? 江中期大阪国学者;白川家門人、  
 1768「小倉山荘色紙歌抄」、「千代の道」「花結の記」「聚遠雑記」「草木異名集」「文化議定詞」著、  
 [亀瑞(;字)の通称/号]通称;伊兵衛、号;聚遠亭  
 季随(きすい・安倍) → 季随(すえゆき・安倍あべ、楽人) F 2 3 7 3  
 U1657 義水(ぎすい;法諱・俗姓;田川たがわ、) 1836-1920 85 上野多胡郡下日野村の曹洞宗興春こうしゆん寺住職、  
 小暮村全林寺22世、  
 [義水の法名/号]法名;心源、号;水月堂  
 戲水(ぎすい・平山) → 莪(たすけ・平山/土田、藩士/地誌) P 2 6 0 4



- 義瑞(ぎずい;字) → 性慶(しょうけい;法諱、天台園城寺僧) I 2 2 2 0  
倚翠庵(きすいあん→いすいあん) → 松軒(しょうけん伊藤、歌人) M 2 1 3 4  
亀水庵(きすいあん・国分) → 高広(たかひろ・国分こくぶん、和算家) N 2 6 1 0  
洪水軒(きすいけん) → 知次(ともつぐ・青山、藩家老) P 3 1 8 1
- L1601 亀水軒浮木(きすいけんふぼく)? - ? 江後期大阪の滑稽・噺本作者、  
1821「おとし噺笑の種」「滑稽即席邯鄲枕」、「栄花の夢」著  
気吹舎(きすいしゃ→いぶきのや) → 篤胤(あつね・平田、国学) 1 0 2 2  
稀翠疎香書屋(きすいそこうしよおく) → 淳(あつし・平田ひらた、藩校学頭/歌) I 1 0 3 3  
既醉亭(きすいてい) → 太華(たいか・荻戸のぞき、藩士/藩政改革) B 2 6 0 7  
其水堂(きすいどう) → 甘谷(かんこく・長島、俳人) I 1 5 2 3  
器随坊(きずいぼう) → 元水(げんすい;号、善光寺僧/俳人) E 1 8 2 1  
基数(きすう・持明院) → 基数(もとかず・持明院/藤原、廷臣/連歌) C 4 4 2 4
- L1602 季助(きすけ・塩屋しおや) ? - ? 江後期大阪南久太郎町書肆、1826「昼夜重宝万年曆」補  
喜助(きすけ・大黒屋) → 完伍(かんご・伊藤/伊東、商家/俳人) Q 1 5 3 5  
喜助(きすけ・玉沢) → 久助(2世きゆうすけ・福森、歌舞伎作者) C 1 6 0 7  
喜助(きすけ・島) → 高麿(たかまる・島しま、国学者/歌人) X 2 6 5 0  
喜助(きすけ・田中) → 盛令(もりのり・田中たなか/丸山、藩士/歌) K 4 4 3 2  
義助(ぎすけ・梨本) → 稻長(とうちょう・梨本、俳人) G 3 1 4 6  
義助(ぎすけ・原) → 斗南(となん・原はら、儒者) O 3 1 6 2  
義助(ぎすけ・辛島) → 青溪(せいけい・辛島からしま、藩儒) B 2 4 1 0  
義助(ぎすけ・勇) → 忠美(ただよし・村上むらかみ/源/清水、医者/国学) U 2 6 1 2  
義助(ぎすけ・北浦) → 定政(さだまさ・北浦、藩士/陵墓測量) J 2 0 7 3  
義介(ぎすけ・向井) → 三鶴(さんかく・向井、兵法家/藩軍師) L 2 0 9 1  
儀助(ぎすけ・吉見) → 定丸(さだまる・紀、幕臣/戯作/狂歌) C 2 0 4 4  
儀助(ぎすけ・中島) → 金鴈堂本虎(きんがんどうほんとら、落語/俄) H 1 6 7 8  
儀助(ぎすけ・高田) → 茂敏(しげとし・高田たかた、商家/歌人) Z 2 1 2 8  
儀助(ぎすけ・月出/飯田) → 守年(もりとし・飯田/月出、国学者/歌) F 4 4 9 7  
木硯舎(きすずりのや) → 其道(きどう・木硯舎、俳人) L 1 6 6 4
- T1614 宜寸(ぎすん・市川いちかわ) ? - ? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[植ゑしより花咲くまでの月日さへげに長月の千代のしら菊](大江戸倭歌;秋947)  
宜寸(ぎすん・近藤) → 芳樹(よしき・近藤/田中、国学者/歌) 4 7 0 9
- U1692 幾世(きせ・中村なかむら、旧姓;河村) 1764-1843<sup>80</sup> 安藝広島生/備後鞆浦中村政善(1756-1818)の妻、  
夫は保命酒製造の酒造業、歌人;木下幸文門(夫と同門)、
- L1603 奇生(きせい) ? - ? 俳人、1689「あら野」1句入/1691不角「二葉之松」入、  
[蛛くもの井に春雨かゝる雫かな](あら野;正しくは蜘蛛のい[糸/巢])
- B1633 紀声(きせい) ? - ? 俳人、紀逸門、1741「吾妻舞」入
- B1634 亀世(きせい・下郷しもさと、名;元雄、知足男) 1688-1764<sup>77</sup> 尾張鳴海造酒業/農業、屋号;千代倉(4世)、  
兄蝶羽の嗣/俳人:素堂・淡々門(父・兄と)、1694(7歳);芭蕉より亀世の号、也有鳥酔と交遊、  
1726「てにをは乃大事」42「雪の旅」47「保曾根山」53「伊羅古の雪」編、「玉乃鑑」「生死辨」著、  
1763兄蝶羽23忌芭蕉70忌追善「冬のうちわ」甥蝶羅と共編、学海・亀章の父/常和の養父、  
追善一周忌「曾礼那良波」(常和編)七周忌「七種花」、  
[亀世の通称/別号]通称;辰之助/金三郎/次郎八、  
別号;鉄叟、蔵六岡ぞうろうこう/蔵六園/聞潮斎、法号;蔵六園鉄叟道肝  
参照 → 鳴海の千代倉家(なるみのちよくらげ)
- B1635 亀成(初世きせい・山本) ? - 1756 江戸南八丁堀俳人;存義門/江戸座/画、旨原の「五元集」謄写、  
1755「絵本見立百花鳥えほんみたてひやつかちよう」作・画;小舟(跋文の太井紋太ふといもた共に亀成の偽名)、  
[初世亀成の別号] 雨夜庵初世・漕川小舟ぎちかわしゅう・青特・古面堂
- L1604 亀成(2世きせい・山本・2世雨夜庵)?-1768 江戸俳人;初世門、朋誠堂喜三二きさんじ(手柄岡持)の師、  
1760「庚辰歳旦」-65「乙酉歳旦」編

- L1605 **稀声**(きせい) ? - ? 江中期大阪俳人、1776几董「続明烏」/道立「写経社集」3句入  
[烏濡れてたつや朝日の小萩はら](続明烏;乙508)
- B1636 **輝星**(暉星きせい・松井まつい) 1752-182271 大阪浄見町の易占家/博識、易筮法;眞勢中洲門、  
文化1804-18頃京住、随筆「它山石とやまのい初篇」「它山石次篇」、「易象深機」「周易象徴」、  
「易占揆方」「占筮活澆々」「棠陰傍観」「万仁万仁」「範圍秘鑰はいひやく」「読耕園稿」外多数、  
[輝星(;名)の別名/字/通称/号]別名:暉・暉辰/輝辰、字;賚黄らいおう、通称;甚五郎/七郎、  
号;羅州らしゅう/耕読園/臨照堂/金瓶先生
- B1637 **其成**(きせい・菊舎さくや、姓;田中たなか、名;保教) 1756-? 京三条書肆菊舎太兵衛;1781創業:俳書出版、  
俳人、1782「俳諧都枝折」83「雪のおきな」96「俳諧六家集」1802「七部拾遺」07「美人合」編、  
1809「蕪村七部集」24「士朗続七部集」28「俳諧七部集余録」編;外著多数、菊舎安兵衛の縁者?、  
[其成の通称/別号]通称;菊太郎/菊舎太兵衛、  
別号;一得斎/指月舎/風化房/推敲亭/醉庵/醉室/醉堂
- L1606 **希声**(きせい・磯野いその、名;公道/字;弘道、鶴齋男) 1772-184776 甲斐中村の医者;貉丘門、儒、  
江戸下谷堀小路住、1837「得医之辨記」著
- |                  |   |                           |           |
|------------------|---|---------------------------|-----------|
| 希世(きせい・平)        | → | 希世(まれよ・平、廷臣/歌人)           | K 4 0 2 7 |
| 希世(きせい;道号)       | → | 靈彦(れいげん;法諱・希世、臨濟僧/詩文)     | 5 1 0 1   |
| 希声(きせい・梅辻)       | → | 春樵(しゅんしゅう・梅辻/琴/祝部、神職/詩人)  | J 2 1 9 6 |
| 希声(きせい・木下)       | → | 蘭阜(らんこう・木下/豊臣/木、藩士/漢学)    | B 4 8 9 8 |
| 季成(きせい・桂)        | → | 南野(なんや・桂かつら、藩士/儒者)        | 3 2 4 1   |
| 季成(きせい・樋口)       | → | 元良(げんりょう・樋口ひぐち、医者)        | N 1 8 0 6 |
| 季成(きせい・田)        | → | 季成(すえなり・田でん、捨女の夫/俳人)      | I 2 3 8 4 |
| 季正(きせい・安倍)       | → | 季正(すえまさ・安倍あべ、楽人)          | F 2 3 6 1 |
| 季政(きせい・安倍)       | → | 季政(すえまさ・安倍あべ/東儀、楽人)       | F 2 3 6 2 |
| 季政(きせい・中塚)       | → | 季政(すえまさ・中塚べかなつか、商家/国学)    | I 2 3 9 1 |
| 季誠(きせい・岡田)       | → | 季誠(すえしげ・岡田おかだ、儒者;陽明学)     | B 2 3 1 8 |
| 季清(きせい)          | → | 季清(すえきよ、神職/連歌)            | C 2 3 0 6 |
| 季晴(きせい・三条)       | → | 季晴(すえはる・三条/藤原、右大臣/記録)     | F 2 3 5 5 |
| 紀成(きせい・児山)       | → | 紀成(のりしげ・児山、幕臣/歌/紀行)       | E 3 5 6 8 |
| 紀政(きせい/のりまさ・中島)  | → | 円弥(えんや・中島なかしま、儒者/歌)       | F 1 3 4 0 |
| 記政(きせい・小堀)       | → | 定明(さだあき・小堀こぼり、藩士/詩歌)      | H 2 0 6 4 |
| 輝声(きせい・大河内)      | → | 輝声(てるな・大河内/松平、藩主/歌)       | B 3 0 4 6 |
| 輝政(きせい・池田)       | → | 輝政(てるまさ・池田、武将/藩主)         | C 3 0 0 5 |
| 季清(きせい・市浦)       | → | 毅斎(きさい・市浦いちうら、儒者)         | I 1 6 5 1 |
| 規清(きせい・賀茂/梅辻)    | → | 規清(のりきよ・賀茂/梅辻、神道)         | E 3 5 4 4 |
| 規正(きせい/のりまさ・村井)  | → | 求林(きゅうりん・村井むらい、商家/和算家)    | M 1 6 9 9 |
| 規世(きせい・繁沢)       | → | 規世(のりよ・繁沢はんざわ/上領、藩儒者)     | J 3 5 7 4 |
| 貴正(きせい・肥塚)       | → | 貴正(たかまさ・肥塚こえづか、国学/開拓)     | X 2 6 1 0 |
| 貴正(きせい・佐々木)      | → | 貴正(たかまさ・佐々木ささき、神職/歌人)     | X 2 6 1 8 |
| 熙正(きせい/ひろまさ?・友部) | → | 忍廬(にんろ・友部、儒者)             | G 3 3 8 3 |
| 熙成(きせい/ひろしげ?)    | → | 後龜山天皇(こがめやまてんのう、南朝最後/歌)   | C 1 9 2 8 |
| 其正(きせい・山田)       | → | 梅東(ばいとう・山田やまだ/清水/源、神職/儒詩) | B 3 6 8 7 |
| 其声(きせい・谷)        | → | 琴峨(きんが・谷たに、篆刻家)           | Q 1 6 7 4 |
| 基正(きせい・石山)       | → | 基正(もとなお・石山いしやま、廷臣)        | J 4 4 2 6 |
| 基清(きせい・高階)       | → | 基清(もときよ・高階たかしな、武士/早歌作曲)   | I4448     |
| 基世(きせい・齋藤)       | → | 基世(もとよ・齋藤さいとう/藤原、廷臣/歌)    | E 4 4 6 3 |
| 基成(きせい・園)        | → | 基成(もとなり・園その/藤原、廷臣/歌人)     | D 4 4 6 0 |
| 基成(きせい・片岡)       | → | 如圭(じよけい・片岡かたおか、易学者)       | C 2 2 3 7 |
| 基政(きせい・大神)       | → | 基政(元正もとまさ・大神おおが/山井、廷臣/楽家) | E 4 4 2 6 |
| 基政(きせい・後藤)       | → | 基政(もとまさ・後藤/藤原、鎌倉幕臣/歌)     | 4 4 2 0   |
| 基政(きせい・高階)       | → | 基政(もとまさ・高階たかしな、廷臣/歌人)     | E 4 4 2 8 |

- 基盛(きせい・持明院) → 基盛(もともり・持明院/藤原、廷臣/故実) E 4 4 4 3
- L1607 儀成(ぎせい・大河戸おおかわと、名; 晋平)?-? 江後期; 国学者、  
1821-42屋代弘賢「古今要覧稿」編纂参加
- S1699 義生(ぎせい・よしお?・よしなり?・森川もりかわ、通称; 佐渡守)?-? 江後期; 歌人、幕臣?、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[なにとなく人の心もうきたちて花になり行く花の頃かな](大江戸倭歌; 春225)
- T1608 義生(ぎせい・よしお?・よしなり?・富田とみた)?-? 江後期; 歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[つれづれと過しかねたる五月雨も峰の嵐に晴るるけふかな]  
(大江戸倭歌; 夏515/五月雨晴)
- 義正(ぎせい・宮部) → 義正(よしまさ・宮部みやべ、藩士/歌人) H 4 7 0 4
- 義正(ぎせい・雨宮) → 義正(よしまさ・雨宮あめのみや/源、国学者) L 4 7 2 9
- 義正(ぎせい・尾崎) → 義正(よしまさ・尾崎おさき、和漢学/教育) L 4 7 9 0
- 義成(ぎせい・佐野) → 義成(よしなり・佐野さの、歌人) Q 4 7 2 4
- 義成(ぎせい・伊部) → 義成(よしなり・伊部いべ、藩士/歌人) F 4 7 4 3
- 義成(ぎせい・畠山) → 義成(よしなり・畠山はたけやま、藩士/留学) F 4 7 4 5
- 義性(ぎせい・大覚寺) → 義性(ぎしょう・大覚寺、僧/連歌) F 1 6 6 0
- 義政(ぎせい・北条) → 義政(よしまさ・北条/平、武将/連署/歌) G 4 7 9 4
- 義政(義成ぎせい・足利) → 義政(よしまさ・足利/源、8代将軍/東山文化) G 4 7 9 7
- 義政(ぎせい・岡田) → 義政(善政よしまさ・岡田おかだ、旗本/治水) M 4 7 0 4
- 義晴(ぎせい・足利) → 義晴(よしはる・足利/源、室町将軍/連歌) G 4 7 0 5
- 義清(ぎせい・平賀/源) → 義清(よしきよ・平賀ひらが、藩士/邑主/歌) O 4 7 7 7
- 義清(ぎせい・菊池) → 義清(よしのり・菊池きくち、詩人) G 4 7 0 1
- 義制(ぎせい・近藤) → 義制(よしのり・近藤、藩士/儒者/詩文) F 4 7 9 4
- 義制(ぎせい・滝田) → 義制(よしのり・滝田たきた/須田、藩士/歌) N 4 7 7 9
- 義制(ぎせい・牧) → 義制(よしまさ・牧まき/堀、幕臣/歌人) H 4 7 1 6
- 義制(ぎせい・砂川) → 義制(よしのり・砂川いさかわ/柴田、藩士/国学) L 4 7 5 1
- 義誠(ぎせい・神谷) → 義誠(よしのぶ・神谷かみや、文筆家) F 4 7 6 1
- 儀正(ぎせい・足達) → 儀正(よしまさ・足達あだち、藩士/歌人) L 4 7 0 3
- 宜生(ぎせい・岡田) → 新川(しんせん・岡田おかだ、藩儒/詩人) 2 2 4 4
- 宜青(ぎせい・長島) → 宜青(よしはる・長島ながしま、歌人) O 4 7 2 4
- 寄栖庵(きせいあん) → 氏頼(うじより・大森おおもり、武将) C 1 2 8 6
- 寄生庵(きせいあん) → 夜白(やはく・長谷川はせがわ、商家/俳人) D 4 5 9 6
- 義清院(ぎせいいん) → 義子(よしこ・前田まへだ/原、歌人) K 4 7 6 3
- 寄生園(きせいえん) → 末雅(すえもと・亀田/藤原/度会/福井/黒瀬、神職/詩文) F 2 3 3 5
- 寄生軒(きせいけん) → 貫魚(つらな・守住もりずみ/庄野、藩絵師) E 2 9 4 2
- 戯世軒庸世(ぎせいけんようせい) → 守行(もりゆき・高橋、庄屋/郷土史家) G 4 4 7 7
- 葵生斎(きせいさい) → 貞芳(さだよし・歌川うたがわ、絵師) F 2 0 5 7
- 希聖斎(きせいさい) → 紫山(しざん・浅井あさい、藩医者/詩・書) T 2 1 5 9
- 棄世道人(きせいどうじん) → 斉泰(なりやす・前田、藩主/謡曲) E 4 0 3 8
- 希声破人(きせいはじん) → 露秀(ろしゅう・佐々木、妓楼主人/俳人) B 5 2 6 7
- B1639 幾世風(きせいふう・季楽庵)? - ? 江中期俳人・1702俳諧作法書「俳諧和歌草」著
- 某聖法師(きせいほうし、橘良利) → 寛蓮(かんれん・真言僧、新古歌人) R 1 5 8 7
- 寄生林(きせいりん) → 素因(そいん・竹内たけうち、俳人) F 2 5 8 4
- 亀石(きせき・角院) → 角院亀石(かくいんのかめいし、童/歌人) W 1 5 4 6
- 1617 其磧(きせき・江島えじま、姓; 村瀬、村瀬庄左衛門正孝[俊秀]男) 1666-1735/70 京大仏餅屋の生、  
浄瑠璃作者、1699八文字屋八左衛門の依頼で浮世草子・役者評判記を執筆;  
1711八文字屋と対立/1718和解、  
1699「役者口三味線」1701「けいせい色三味線」/好色物; 11「傾城禁短気」、  
氣質物: 1715「世間子息氣質」17「世間娘氣質」、町人物; 「商人軍配団あきんどぐんばいうちわ」、

時代物;1716「出世握虎しゅつせやっこ昔物語」19「義経倭軍談」・「頼朝鎌倉実記」、外著多数、  
[江島其碩の通称]通称;権之丞/庄左衛門、

- F1661 **季尺**(きせき) ? - ? 俳人;雑俳、1718「誹諧置火燧」前句入
- L1608 **綺石**(きせき・久武ひさたけ、名;兼者/通称;権之助、別号;夏旨庵) 1755-1805 51 肥後熊本藩士;小姓役、俳人;熊本俳壇の中心/蝶夢とその門人と交流、「池の昔集」著(没後1806刊)
- L1609 **亀石**(起石きせき・寺島てらしま、名;吉時よとき) 1760-1842 83 讃岐香川郡伏石の国学/俳人、「亀石集」、「月花林」「平家物語聞書」「叢訓鼎三足」「古今家彫秘伝書」「三都亀遊戯譚」「農事心得」著、[亀石の通称/別号]通称;亦三郎/弥平、別号;起石/雪松軒/松蘿窟
- F1695 **其夕**(きせき・辻村つむら、辻村保兵衛[景山]の妻) ?-? 江後期安藝広島十日市の俳人;篤老[1778-1826]門、「其夕女句帖」著(篤老序)
- F1662 **其碩**(きせき) ? - ? 京の川柳作家/1851五世川柳選「柳風群燕」催主
- 其石(きせき・若林) → 豊彦(とよひこ・若林わかばやし、国学/歌) W 3 1 9 6
- 希績(きせき・熊谷/田辺) → 簡斎(かんさい・田辺たなべ、藩士/儒者) Q 1 5 5 4
- 季績(きせき・小橋) → 橘陰(きつゐん・小橋こばし、儒者) L 1 6 4 0
- 亀石(きせき・中務) → 高岳(たかおか・中務なかつかき、国学/歌人) Y 2 6 5 6
- 亀石(きせき・堀内) → 憲時(のりとき・堀内ほりうち、神職/国学) J 3 5 9 5
- 鬼石子(きせき・座光寺) → 南屏(なんぺい・座光寺ざこうじ、儒/医者) J 3 2 4 0
- 寄石店(奇石店きせきだな) → 梧山(ござん・重田しげた、俳人) M 1 9 6 3
- 亀石堂(きせきどう) → 貞幹(さだもと・藤とう・藤原、故実家) 2 0 2 7
- S1678 **きせ子**(きせこ・平賀ひらが) ? - ? 幕臣式部少輔平賀貞愛さだえの妻、歌;1798刊石野広通「霞関集」入、[野を広み尾花が末の露までもくまなく宿る月のはるけさ](霞関;秋458/野月)
- L1610 **喜勢子**(きせこ・稲村いなむら/旧姓;稲次、緑珠尼、) 1790-1860 71 上総木更津の歌人、国学・歌;江戸の岡田真澄まざみ門/上総の藤ふじ三本子(伊藤みほこ)門、歌史に精通、飯野藩医稲村素庵(君玉)と結婚し君津郡住、娘;織本永世の妻(儒者織本東岳の母)、稲次いねつぐ眞年ましの姉、「箱根日記」「かしま日記」「緑珠歌抄」「安房の日記」著
- T1624 **きせ女**(きせじよ・服部はつとり) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[さりともとはかなき事を頼みにていく春秋を過しつるかな](大江戸倭歌;恋1468)
- L1611 **其雪**(きせつ・鶴和、名;省吾/別号;柳後亭) 1788-1841 54 阿波海南町大里の金融業、美濃派俳人・徐風門、1841京双林寺での芭蕉150回忌に参加後に没、1819「柳の糸」/38「かへりみ種」著
- 其雪(きせつ・三木) → 幹斎(かんさい・三木みき、詩/書/俳諧) Q 1 5 7 1
- 機雪(きせつ;号) → 宗清(そうせい;法諱・以天;道号、臨濟僧) I 2 5 1 7
- 暉雪庵(きせつあん) → 黒駱(黒鶴こくらく・村岡むらおか、俳人) M 1 9 2 2
- B1640 **喜撰**(きせん・醍醐法師) ? - ? 平安前期宇治山の住僧、六歌仙の1、勅撰2首;古今983/玉葉400、「喜撰式」撰?/「倭歌髓脳」著? [わが庵は都のたつみしかぞすむ世をうち山と人はいふなり](古今983)、[喜撰の別表記] 其泉/窺詮/窺仙
- F1610 **亀泉**(きせん;道号・集証しゅうしょう;法諱、俗姓;後藤) 1424-93 70 美作の臨濟僧;季瓊真薬きけいしんざい門、1484相国寺蔭涼軒蔭涼職/93天竜寺151世、「蔭涼軒いんりょうけん目録」(後半部1484-93筆録)、「松泉集」「禅僧詩集」著、[亀泉集証の号] 松泉/松岳/雒滙らくぜい
- F1663 **奇仙**(亀仙きせん・植野うえの、芦翁舎) ?-? 江中期京の俳人:仙鶴門、1749仙鶴追善集「後しぐれ」編、54「負土畚」著
- B1641 **亀選**(きせん・六鹿庵/梅嶺樵、姓;吉浦) ?-? 江中期俳人、1763「硯あらひ」編(三葉庵大睡の八十賀)、73麦水「蕉門一夜口授くじゅ」跋
- 其川(きせん) → 旨原(しげん・小栗、俳人) D 2 1 4 9
- 基宣(きせん・園) → 基隆(もとたか・園その/藤原、廷臣/歌人) C 4 4 7 7
- 淇瞻(きせん・熊代) → 繡江(しゅうこう・熊代/神代くましろ、通事/絵師) H 2 1 3 6



- 希僊(きせん・世継) → 直員(なおかず・世継よつぎ、商家/絵師/歌) P 3 2 2 4  
 季詮(きせん・津軽) → 季詮(すえり・津軽つがる/村尾、幕府医者/国学) I 2 3 8 2  
 喜宣(きせん・西尾) → 喜宣(よしのぶ・西尾にしお、藩士/和算家) F 4 7 6 6  
 F1665 機禪(きぜん) ? - ? 江戸中期曹洞僧:無隠道費門、詩文に通ず、  
 1740道費「無隠禪師無孔笛」共編  
 季前(きぜん・賀茂) → 季前(すえさき・賀茂かも、神職) F 2 3 4 1  
 季然(きぜん・平松) → 惟時(これとき・平松ひらまつ、国学者) R 1 9 1 9  
 基前(きぜん・近衛) → 基前(もとさき・近衛/藤原、左大臣) C 4 4 4 3  
 亀全(きぜん、俳名) → 羽左衛門(うざえもん・十世市村) B 1 2 9 0  
 F1666 祇川(ぎせん・青灯火) ? - ? 近江日野俳人・治天門:許六の道統、  
 1764-72頃仙台岩沼歴遊、1764「影法師」編/65歳旦「松の種」編  
 祇宣(ぎせん・鈴木) → 八束(やつか・鈴木すずき、国学/歌人) G 4 5 0 5  
 宜然(ぎせん/ぎねん) → 入阿(にゅうあ、時宗僧/歌人) F 3 3 7 4  
 宜然(ぎせん/ぎねん;字) → 明道(みょうどう;法諱、真言僧) G 4 1 6 6  
 義詮(ぎせん・足利) → 義詮(よしあきら・足利/源、2代将軍、歌) C 4 7 0 3  
 義宣(ぎせん→よしのり・足利) → 義教(よしのり・足利/源、6代将軍/歌人) 4 7 2 4  
 義宣(ぎせん・佐竹) → 義宣(よしのぶ・佐竹さたけ、武将/藩主) F 4 7 5 5  
 義宣(ぎせん・→よしのぶ・杉本) → 左近(さこん・杉本/中臣/伊野原/三神、神職/歌) H 2 0 4 0  
 磯前家(きぜんか/いそまえや) → 長柄(ながら・照井/田村、医者/国学) G 3 2 6 0  
 愧然主人(きぜんしゅじん→ほれほれしゅじん) → 雲水(うんすい・頭陀楽、滑稽本作者) B 1 2 8 5  
 帰仙童(きせんどう) → 五竹坊(ごちくぼう・俳人;獅子門道統4世) D 1 9 2 6  
 己千堂(きせんどう・牧野) → 半陶(はんとう・牧野まきの、儒者) I 3 6 4 2  
 其然堂(きぜんどう) → 巴兮(はけい・得能、俳人) E 3 6 2 0  
 儀善房智観(きぜんぼうちかん) → 孝道(たかみち・藤原ふじわら、廷臣/楽人) D 2 6 8 0  
 希曾(きそ・野呂/会田) → 陶斎(とうさい・野呂のろ、儒者) E 3 1 2 4  
 希曾(きそ・安原) → 方斎(ほうさい・安原やすはら、儒者) 3 9 8 1  
 希曾(きそ・守村) → 抱儀(ほうぎ・守村[邨]、商家/俳人) 3 9 3 9  
 希曾(きそ・真野) → 守約(もりちか・真野まの/佐藤、商家/歌) L 4 4 2 7  
 輝祖(きそ・伊藤) → 霞台(かだい・伊藤いとう、儒者) M 1 5 8 9  
 義素(ぎそ・古川) → 豊彭(とよちか・古川ふるかわ/前田、神職) W 3 1 2 8  
 魏祖(ぎそ・鈴鹿) → 秀麿(ひでまろ・鈴鹿すずか/平佐、神職/歌) J 3 7 9 3  
 J1619 其槽(きそう) ? - ? 俳人、1691北枝「卯辰集」8句入  
 [菜の花に虻あぶしづかなり 朧月おぼろつき] (卯辰集;卷一107)  
 B1642 其叟(きそう) ? - ? 俳、1790撰集「落葉かく」編・麦水追善  
 B1643 寄三(きそう/きぞう・河田かわだ/初姓;斎藤) 1807-7266 武州熊谷生/江戸住/俳人;逸淵門/西馬門、  
 1864幹雄「標注七部集」校、64「西馬発句集」編(西馬7周忌/のち移柳上梓)、  
 「七部集連句早見」、「南々発句集」編、「寄三発句集」(:幹雄編)、  
 [寄三の通称/別号]通称:甚平/甚兵衛、別号:水石庵/不知庵  
 T1665 競(きそう・小笠原おがさわら/旧姓;奥瀬) 1821-9575 陸奥盛岡南部藩士;用人、国学者/歌人  
 [競(;名)の通称] 衛門/元旦/恭五郎  
 紀宗(きそう・平井/服部) → 聴雪(ちようせつ・平井/服部/平、儒/詩) J 2 8 2 5  
 記曾(きそう・野々村) → 良澄(よしずみ・野々村のむら、藩士/儒者) O 4 7 4 5  
 季宗(きそう・荒木田) → 季宗(すえむね・荒木田/船橋・中村・家田、神職/歌) B 2 3 5 1  
 其争(きそう・佐々木) → 定保(さだやす・佐々木、和算家) K 2 0 0 7  
 亀巢(きそう・生駒) → 万子(まんし・生駒いこま、藩士/俳人) K 4 0 6 0  
 亀巢(きそう・清水/銭屋) → 五兵衛(ごへえ・銭屋ぜにや、海運業) N 1 9 6 0  
 喜叟(きそう・駒井) → 乗邨(のりむら・駒井、藩士/国学/俳人) F 3 5 9 5  
 喜総(きそう・仲野) → 安雄(やすお・仲野なかの、庄屋/儒・神道) B 4 5 0 1  
 寄藻(きそう・彦坂) → 常征(つねゆき・彦坂ひこさか/藤原、神職) E 2 9 1 3  
 希藻(きそう・有持) → 桂里(けいり・有持ありもち、医者) G 1 8 7 8

- 希聡(きそう・鳥羽) → 台麓(たいろく・鳥羽とば、絵師) L 2 6 3 8  
輝宗(きそう・伊達) → 輝宗(てるむね・伊達だて、城主/連歌) D 3 0 0 0  
羈窓(きそう) → 団十郎(7世だんじゅうろう・市川、歌舞伎役者/合巻) 2 6 9 1  
季莊(きそう・北川) → 守貞(もりさだ・喜田川/北川/石原、商家/考証家) F 4 4 4 2  
季操(きそう・小倉) → 尚斎(しょうさい・小倉おぐら、藩儒/詩文) S 2 2 3 0  
喜蔵(きそう・木下) → 蘭阜(らんこう・木下/豊臣/木、藩士/漢学) B 4 8 9 8  
喜蔵(きそう・北川) → 守貞(もりさだ・喜田川/北川/石原、商家/考証家) F 4 4 4 2  
喜蔵(きそう・石野) → 広温(ひろはる・石野いしの、幕臣/記録) G 3 7 9 4  
喜蔵(きそう・中原) → 広江(ひろえ・中原/石野、広温の弟/幕臣/歌) I 3 7 2 2  
喜蔵(きそう・原田) → 等睡(とうすい・原田はらだ、庄屋/国学) W 3 1 1 5  
喜蔵(きそう・浅岡/浅井) → 芳所(ほうしよ・浅岡/浅井、藩儒) B 3 9 6 6  
喜蔵(器蔵きそう・遠山) → 長嶺(長峰ながみね・遠山とおやま、幕臣/歌) K 3 2 5 8  
喜蔵(きそう・有川) → 景形(かげなり・有川あらかわ/源/岩根、商家/歌) T 1 5 4 7  
暉三(きそう・横山) → 清暉(せいき・横山よこやま、絵師) O 2 4 4 3
- J1620 蟻想(ぎそう) ? - ? 京の俳人、1688言水「前後園」入、  
1690「新撰都曲みやこぶり」3句入、  
[涅槃の日ひ寺は深山みやまぞ哀れなる](都曲;上217/山深い寺こそ哀れさがまさる)
- L1612 義霜(ぎそう;法諱・善容ぜんよう;字)1780-1831<sup>52</sup> 越中永見真宗本願寺派西光寺11世・教育、  
三業惑乱派中心人物の一人とされ脱衣軽追放処分、「大寂定中所現録」著  
義宗(祇宗ぎそう・津田) → 正生(まさなり・津田つだ、商家/地誌家) F 4 0 4 0  
義総(ぎそう・畠山) → 義総(よしふさ・畠山はたけやま、武将/守護/城主) G 4 7 7 3  
義倉(ぎそう・樗田) → 義倉(よしくら・樗田くぬぎだ/柏木、国学) M 4 7 5 8  
蟻巢(ぎそう・賀集) → 惟一(これかず・賀集かお、製陶/国学) Q 1 9 6 1
- U1638 儀三(ぎそう・佐々木ささき、)1823-1898<sup>76</sup> 陸奥(陸中)和賀郡安俵おひょう村の生、  
和賀郡土沢町鍋屋佐々木辰五郎の養子、安俵高木通代官所に出仕;御物書、  
国学者;菊池正古まさひさ門、1858(安政6)招聘され下宮守村の河野文六の師/子弟教育、  
維新後;1873和賀郡第9区(安俵など11村)の戸長、新政府に建白書;農村減税/農業改良等、  
1875宮守村に再招聘;76宮守村鹿込学校最初の教師/宮守小学校第一分校訓導補/主任、  
「砥嶺神靈翁之夜話とれいしんれいおうのやわ」「滝の白糸真砂のをだまき」著、  
起早庵(きそうあん) → 稻後(とうご・小倉、俳人) D 3 1 6 9  
幾霜庵(きそうあん) → 魯白(ろはく・佐藤さとう、商人/俳人) C 5 2 3 2  
帰藏庵(きそうあん:号) → 連山(れんざん:道号・交易:法諱、曹洞僧) B 5 1 0 9  
喜三右衛門(きそうえもん・森本) → 一瑞(いちずい・森本もりもと、藩士/軍学) G 1 1 2 8  
亀蔵軒(きそうけん・富本) → 竹徳(たけのり・富本とみもと/杉野、神職/歌) Y 2 6 4 3  
喜惣左衛門(きそうざえもん・解良) → 榮綿(よしつら・解良けら、国学/榮重の父) K 4 7 3 8  
喜惣治(きそうじ・千葉原) → 胤充(たねみつ・千葉原ちははら/荻原、本陣/歌) Y 2 6 2 1  
喜惣治(きそうじ・東条) → 宗統(むねつぐ・東条とうじょう、国学者) E 4 2 0 1  
寄藻舎(きそうしゃ・時枝) → 重明(しげあき・時枝ときえだ/藤波、勤王/神職) Z 2 1 4 8
- F1667 蟻窓主人(ぎそうしゅじん) ? - ? 俳人:素外門?、1785「俳諧百貫樋」編
- L1613 喜三太(喜惣太きそうだ・有馬ありま、名;武春、八兵衛正光男)1709-69<sup>61</sup> 長門三谷の絵師;雲谷等達門、  
1722萩藩絵図方の雇員;62士籍を得る/郡方定役、「行程記」著
- F1668 亀足(きそく) ? - ? 南総の俳人:鳥明うめい門、  
1787鳥明「故人五百題」上梓助力  
亀息(きそく・中西/小林) → 秋水(しゅうすい・小林/中西、俳人) X 2 1 6 9  
亀足(きそく・中沢) → 常春(つねはる・中沢なかざわ、歌人) G 2 9 0 8  
基足(きそく・大藪) → 基足(もとたり・大藪おおやぶ、神職/国学) J 4 4 5 6  
基則(きそく・石川/佐藤) → 基則(もとのり・石川/佐藤/源、書家) D 4 4 8 5  
其則(きそく・酒井) → 魯斎(ろさい・酒井さかい、藩士/俳人) B 5 2 5 6  
貴速(きそく・松原) → 貴速(たかはや・松原まつばら/山県、藩士/神職/俳人) Z 2 6 6 2  
喜属(きそく・唐木) → 埴麿(はにまる・唐木からき、商家/国学/歌) J 3 6 9 6

- F1669 **蟻足**(ぎそく) ? - ? 俳人:1671重徳「新独吟集」下巻独吟入  
 義足(ぎそく・伊藤/伊東) → 義足(よしなり・伊藤/伊東、商家/歌人) E 4 7 4 4  
 義則(ぎそく・赤松) → 義則(よしなり・赤松あかまつ/源、武将/歌) F 4 7 7 7  
 義則(ぎそく・丹羽) → 義則(よしなり・丹羽にわ、藩士/歌人) O 4 7 2 8
- T1631 **亀蘇子**(きそこ) ? - ? 江後期;歌人、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [松に吹く嵐の音を訪とめ来れば散る雪寒き山陰の庵](大江戸倭歌;冬1305/雪中訪人)
- V1613 **帰素人**(きそと・藤基ふもと、旧姓;中尾、号;藤館)1840-190768 加賀金沢美川の藤塚神社祠官、  
 歌人、藤塚神社は海運漁業安全の産土神として崇敬;1859(安政6)刀比羅社建立  
 木曾次郎(きそこのじろう) → 義仲(よしなか・源、武将/平家追討) F 4 7 2 2  
 喜惣八(きそはち・矢田) → 誠(まこと・日下くさか、和算家) 4 0 7 8  
 喜三兵衛(きそべえ・吉田) → 平陽(へいよう・吉田、藩士/儒者/詩) 2 7 8 3  
 喜三兵衛(きそべえ・小島) → 敏言(としこと・小島こじま/村松、藩士/国学;) V 3 1 1 5  
 喜三兵衛(きそべえ・田端) → 年蔭(としかげ・田端たばた、大庄屋/国学) V 3 1 5 6  
 喜三兵衛(きそべえ・田端) → 春清(はるきよ・田端、年蔭男/大庄屋/国学) K 3 6 3 4
- F1671 **既存**(きそん) ? - ? 連歌師、1594昌叱「古今伝受開祝言百韻」入  
 季村(きそん・橋本) → 季村(すむら・橋本はしもと、廷臣) F 2 3 7 0  
 希孫(きそん・松崎) → 慊堂(こうどう・松崎まつぎ、儒者) 1 9 1 7  
 崎村(きそん・本庄/本荘) → 三郎(さぶろう・本庄/本荘、殖産家) L 2 0 5 0  
 義村(ぎそん・赤松) → 義村(よしむら・赤松あかまつ/源、武将) H 4 7 6 3  
 義村(ぎそん・佐竹) → 義村(よしむら・佐竹さたけ/小場、藩士/国学) N 4 7 1 2  
 義村(ぎそん・田中) → 義村(よしむら・田中たなか、神職/国学/歌) N 4 7 6 4  
 義尊(ぎそん・青柳) → 高鞆(たかとも・青柳あおやぎ、国学者) D 2 6 2 8  
 其雫(きだ) → 其雫(きてき・梅津、家老/俳人) B 1 6 5 5  
 季泰(きたい) → 季泰(すえやす、神職/連歌) 2 3 8 8
- F1672 **淇大**(きだい) ? - ? 江中期俳人、  
 1754潘山(百子)「しぐれの碑」(貞因[貞柳貞峨の父]25回忌・貞峨13回忌追善集)入、  
 [錦衣きて十月四日や故郷の日](しぐれの碑/法橋貞峨[紀海音]の命日)
- J1630 **季大**(きだい・野木本のぎもと、社日庵)?-? 江戸の俳人;来爾らい門、江戸乾什座尹督側点者、  
 1754竹翁「俳諧童の的」点句入
- L1614 **龜台**(きだい・高橋たかはし、名;喜与きよ、恵厚尼、沢田さむだ安信女)1736-181075 武州入間郡古市場の生、  
 1750同郡渋井村の薪炭商高橋安族と結婚、1751-64頃夫と江戸芝赤羽橋で薪炭業開店、  
 のち帰郷;1785夫没後蓮光寺で落飾(;恵厚尼)、俳:沾山門、1809「独発句」著  
 其台(きだい・上田) → 及淵(しきぶち・上田/平井、藩医/国学) Q 2 1 1 0  
 希大(きだい・尾藤) → 水竹(すいちく・尾藤びとう、儒者/幕臣) 2 3 8 0  
 宜泰(ぎたい・法諱) → 南雄(なんゆう;道号・宜泰、臨濟僧) O 3 2 1 7  
 義太(ぎたい・村上/久留島) → 義太(よしひろ・久留島くるしま/村上、和算) G 4 7 5 9  
 義泰(ぎたい・高橋) → 義泰(よしやす・高橋たかはし、藩士/和算家) H 4 7 8 4  
 義諦(ぎたい;字) → 尊証法親王(そんしょうほつしんのう、青蓮院門跡/書) E 2 5 9 2  
 義諦(ぎたい;法諱) → 聖僕(しょうぼく・義諦、臨濟僧) E 2 2 7 5  
 義諦(ぎたい;字) → 智達(ちたつ;法諱、真宗本願寺派僧) E 2 8 7 0
- F1673 **宜大**(ぎだい、吉川きつかわ、那波祐之男、五明の孫)1761-180545 秋田の商人、吉川春潮の養子、  
 俳諧:五明門、五明遺句集「佳気悲南多かげひなた」共編、  
 [宜大の通称/別号]通称;宗七、別号;扇雀/生有亭  
 祖父 → 五明(ごめい・吉川きつかわ、豪商/俳人) D 1 9 9 3  
 養父 → 春朝(春潮しゅんちよう・吉川きつかわ、俳人) K 2 1 2 6  
 喜代井(きだいせい・池田) → 喜代井(きよい・池田いけだ、歌人/文章家) N 1 6 0 9  
 喜多院御室(北院-きたいんおむろ) → 守覚法親王(しゅかくほつしんのう、経典/歌人) 2 1 5 1  
 北丘野人(きたおかやじん) → 徳雨(とくう、俳人) K 3 1 4 5  
 北尾葦斎政演(きたおせいさいまさのぶ;絵師) → 京伝(きょうでん・山東、戯作) 1 6 3 7

- 北川ト仙(きたがわぼくせん) → ト仙(ぼくせん、狂歌) D 3 9 6 4
- F1670 其沢(きたく・大原おおはら、四時園)?-? 松山藩船手大船頭/三津浜の俳諧宗匠、其戎きじゅうの父  
息 → 其戎(きじゅう・大原、四時園2世/俳人) K 1 6 8 0
- 義卓(ぎたく・関谷) → 義卓(よしとか・関谷せきや/源、国学者) N 4 7 5 9
- B1644 北里(きたさと・多治比部)?-? 越中砺波郡主帳/万葉集中人物:十八4138家持歌題詞
- F1674 北左農山人(きたさのさんじん、戯名)?-? 1770洒落本「南江駅話なんこうえきわ」著
- 喜多治(きたじ・田内) → 衛吉(ゑきち・田内たのうち、剣術/志士) D 1 3 6 7
- 北島務(きたじまつとむ;変名) → 懋(つとむ・池尻/井上、藩士/勤王家) 2 9 9 9
- 北白川宮(きたしらかわのみや) → 承覚法親王(しょうかくほっしんのう、天台座主/歌人) F 2 2 8 8
- F1675 喜多助(きたすけ・並木) ?-? 歌舞伎作者;初世並木五瓶門
- 希達(きたつ・堀江) → 半峯(はんぼう・堀江ほりえ、藩士/儒者) I 3 6 5 3
- 記達(きたつ・佐々木) → 宇考(うこう・佐々木、俳人) 1 2 1 8
- T1613 義達(ぎたつ・岸野さし) ?-? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、名の義達;よしかつ・よしき・よしさと・よしただ・よしのぶ・よしひろ・よしみち等不明、  
[秋風にからろの音もさやかなる月にとわたる浦のあまびと](大江戸倭歌;秋890、  
空艫;艫を水中に浅く入れて漕ぐこと/唐艫;中国風の長い艫、ここは前者)
- 義達(ぎたつ;字) → 獅絃(しげん;号・恵明;法諱/真宗僧/詩) T 2 1 2 4
- 義達(ぎたつ・宗) → 重正(しげまさ・宗そう、藩士/国学者) Z 2 1 2 4
- 北根津隠士裡町斎(きたねづいんしりちやうさい) → 燕十(えんじゅう・志水、戯作者) B 1 3 0 4
- 北野(きたの) → 道真(みちざね・菅原、漢学者) 4 1 0 5
- 北野(きたの・富士谷) → 御杖(みつえ・富士谷、成章男、国学/歌) 4 1 2 3
- 北院御室(喜多院-きたのいんおむろ) → 守覚法親王(しゅかくほうしんのう) 2 1 5 1
- 北院大僧正(きたのいんのだいそうじやう) → 済信(さいしん;法諱、真言大僧正) G 2 0 7 7
- 北野宰相(きたののさいしやう) → 輔正(すけまさ・菅原、漢学/詩人) 2 3 1 2
- 北野三位(きたののさんみ) → 輔正(すけまさ・菅原、漢学/詩人) 2 3 1 2  
→ 在良(ありよし・菅原、漢学/詩人) C 1 0 0 3
- 北野贈太政大臣(きたのぞうだいじやうだいじん) → 房前(ふささき・藤原) 3 8 0 6
- 北辺(きたのべ・富士谷) → 成章(なりあきら・富士谷、国学/歌) 3 2 2 7
- 北辺(きたのべ・富士谷) → 御杖(みつえ・富士谷、成章男、国学/歌) 4 1 2 3
- 北辺左大臣(きたのべのさだいじん) → 信(まこと・源、嵯峨源氏の祖/歌) 4 0 0 2
- 北政所(きたのまんどころ、杉原定利女) → 高台院(こうだいいん、ねね/秀吉正室/歌人) K 1 9 4 8
- 北向左武喜(きたむきさぶき) → 左武喜(さぶき・北向、狂歌) D 2 0 8 1
- 北室聖(きたむろのひじり) → 良禪(りょうぜん;法諱・解脱房、真言僧/検校) I 4 9 5 8
- 北山(きたやま) → 公経(きんつね・西園寺、太政大臣/歌) E 1 6 3 5
- 北山(きたやま) → 公宗(きんむね・西園寺さいおんじ、廷臣/歌) E 1 6 7 2
- 北山殿(きたやまどの) → 義満(よしみつ・足利/源、3代将軍/北山文化) H 4 7 5 0
- 北山僧正(きたやまのそうじやう) → 最守(さいしゅ;法諱、大僧正/連歌) E 2 0 9 5
- F1676 喜太夫(きだゆう・虎屋とらや)?-? 浄瑠璃太夫:虎屋源太夫門、江戸で活動、  
1656江戸浄瑠璃を京に移す;京四条河原で操り芝居を興行/58上総少掾を受領、  
上総少掾藤原正信/天下一上総を名乗る、語り物「大友のまとり」著、  
正本「公平法門諍きんぴらほうもんあらそい」著、  
[虎屋喜太夫の通称] 次郎兵衛/上総少掾藤原正信/天下一上総
- 喜太夫(きだゆう・井口) → 蘭雪(らんせつ・井口いぐち、儒者) C 4 8 8 1
- 喜太夫(きだゆう・菊田) → 子孝(しこう・菊田さくた、藩士/俳人) T 2 1 3 5
- 喜太夫(きだゆう・辛島) → 並樹(なみき・辛島からしま、藩士/神職) L 3 2 6 6
- 喜大夫(きだゆう・大井) → 盛信(もりのぶ・大平おおひら/大井、幕臣/国学) J 4 4 5 5
- 喜大夫(きだゆう・立石) → 惟直(これなお・立石たていし、藩士/国学) R 1 9 0 0
- 1618 義太夫(初代きだゆう・竹本たけもと) 1651-171464 大坂天王寺村農業/浄瑠璃太夫:清水理兵衛門、  
義太夫節の祖、1684竹本座創設/近松門左衛門と協力;「出世景清」[曾根崎心中]上演、  
1698?筑後掾を襲名、



[初代義太夫(；号)の通称/芸名]通称；五郎兵衛、  
芸名；天王寺五郎兵衛/清水きよみず理[利]太夫

- 1619 義太夫(二代ぎだゆう・竹本、播磨少掾はりまのしょうじょう、和哥竹政太夫) 1691-1744<sup>54</sup> 浄瑠璃太夫；  
義太夫節、1734二代目襲名；但し初代義太夫の息子の二代目説あり；  
以貫「竹本播磨少掾浮図」(墓碑銘)入

義大夫(ぎだゆう・松平) → 宗直(むねなお・徳川とくがわ/松平、藩主/歌) E 4 2 0 3  
義太夫(三代ぎだゆう・竹本) → 長門太夫(ながとだゆう) 3 2 1 3  
義太夫(ぎだゆう・中村) → 十竹(じちちく・中村なかむら、藩士/書画) U 2 1 9 3  
儀太夫(ぎだゆう・森本) → 一瑞(いちずい・森本もりもと、藩士/軍学) G 1 1 2 8  
儀太夫(ぎだゆう・上田) → 涼葉(りょうよう・上田うた、藩士/俳人) J 4 9 6 4  
儀太夫(ぎだゆう・中邨/寒川) → 辰清(とききよ・寒川さむかわ/かながわ、藩儒) J 3 1 1 0  
儀太夫(ぎだゆう・吉岡) → 信之(のぶき・吉岡、藩士/国学/歌) D 3 5 7 4  
儀太夫(ぎだゆう・坂尾) → 宗吾(そうご・坂尾/日向、藩士/武術家) H 2 5 2 8  
儀太夫(ぎだゆう・石尾) → 忠寛(ただひろ・石尾いしお/荒木、藩士/歌) V 2 6 5 9  
儀太夫(ぎだゆう・広田) → 憲寛(のりひろ・広田、藩士/蘭学者) F 3 5 6 6

- F1677 来留(きたる・今福いまふく、今福屋勇助)?-? 書肆、狂歌、1783赤良「めでた百首夷歌」出版

- T1674 来(きたる・大久保おおくぼ,) 1833-1906<sup>74</sup> 讃岐高松藩士/国学/歌；中村尚輔門、

[来(；名)の号] 交翠/翠窩

幾太郎(きたろう・大神) → 茂興(しげおき・大神おのが/大三輪、神職) N 2 1 7 3  
鬼太郎(きたろう・中尾) → 五百樹(いおき・中尾なかお、国学/藩士) K 1 1 4 9  
喜太郎(きたろう・曾我) → 古祐(ひさすけ・曾我そが、幕臣/故実) B 3 7 1 6  
喜太郎(きたろう・吉見) → 経武(つねたけ・吉見よしみ、藩士/弓術家) C 2 9 3 9  
喜太郎(きたろう・吉見) → 恒幸(つねゆき・吉見/菅原、神職) E 2 9 1 2  
喜太郎(きたろう・伊勢屋) → 百亀(ひゃっき・伊勢屋、札差) E 3 7 9 5  
喜太郎(きたろう・道工) → 彦文(ひこぶみ・道工どうく、歌人/紀行) 3 7 7 0  
喜太郎(きたろう・細田) → 富延(とみのぶ・細田ほそだ、国学者) O 3 1 9 1  
喜太郎(きたろう・辻/加藤) → 敦善(あつよし・加藤かとう、歌人) E 1 0 9 3  
喜太郎(きたろう・菅波/菅) → 茶山(ちやざん・菅/菅波、儒/詩/教育者) 2 8 4 0  
喜太郎(きたろう・稲葉) → 通故(みちひさ・稲葉いなば、藩士/兵法家) H 4 1 3 3  
喜太郎(きたろう・小宅) → 文藻(あやも・小宅おやけ、商人/国学/画) F 1 0 1 6  
喜太郎(きたろう・岡田) → 確堂(かくどう・岡田おかだ、藩士/儒者) K 1 5 3 2  
喜太郎(きたろう・沢田) → 源内(げんない・沢田、文筆家) E 1 8 4 6  
喜太郎(きたろう・小川屋) → 景範(かげのり・加藤かとう、儒/歌学者) B 1 5 9 0  
喜太郎(きたろう・柴田) → 義董(ぎとう・柴田しばた、絵師) G 1 6 0 2  
喜太郎(きたろう・五味) → 復義(またよし・五味ごみ、和算家) J 4 0 5 6  
喜太郎(きたろう・宿屋) → 空々(くうくう・宿屋やどや、音曲；琴法) B 1 7 2 4  
喜太郎(きたろう・石井) → 義郷(よしさと・石井いし、藩士/歌人) D 4 7 4 5  
喜太郎(きたろう・田口/石合) → 江村(こうそん・石合いしあい/田口/古畑、儒者) G 1 9 3 9  
喜太郎(きたろう・高野瀬) → 公光(きみみつ・高野瀬たかのせ/藤原、藩士/歌) U 1 6 6 5  
喜太郎(きたろう・松平) → 世軌(つぐのり・松平まつだいら、幕臣) G 2 9 3 8  
喜太郎(きたろう・大館) → 氏義(うじよし・大館おおだち、藩士/歌人) E 1 2 5 8  
喜太郎(きたろう・太田) → 秋満(あきみつ・太田おた、神職/国学) H 1 0 3 1  
喜太郎(きたろう・村上) → 正雄(まさお・村上むらかみ、藩士/国学者) T 4 0 0 8  
喜太郎(きたろう・佐藤) → 素栄(もとひで・佐藤さとう、国学者) K 4 4 0 1  
喜太郎(きたろう・加藤) → 礼文(ひろふみ・加藤かとう、国学者) I 3 7 9 8  
喜太郎(きたろう・加藤) → 以翼(よすけ・加藤かとう/松井、国学/歌) M 4 7 1 3  
喜太郎(きたろう・吉田) → 貞(ただし・吉田よしだ、藩士/歌人/絵師) 2 7 3 0

- F1678 其端(きたん、梢風尼の孫)?-? 梢風の句を記憶：1758洞秋ら共編「木の葉集」に入  
其湛(きたん・齋藤) → 其湛(つねやす・齋藤さいとう、酒造業/歌人) F 2 9 7 3

- 其タン(きたん・志太) → 野坡(やば・志太しだ/斎藤、俳人) 4 5 1 2
- L1615 義端(ぎたん・岡谷おかや、別名;次賢/字;充之)1661-174888 常陸水戸藩士/1688進仕、書;中村義竹門、  
「古今諸体」「書法纂要」編、「篆法指南」「隸字摘要」1721「書学指南」46「以呂波字辨」著、  
[義端の通称/号]通称;佐左衛門、号;勿斎(もつさい/ぶつさい)
- L1616 義潭(ぎたん;法諱・範濟はんさい;字)1668-173871 石見の真言律僧:上総竜尾寺玄隆門/1704慧光門、  
1707江戸湯島靈雲寺で大苾芻戒を受/靈雲寺吾智院3世・谷中廟所妙極院3世、  
「性相二宗戒脉」著
- L1617 儀丹(ぎたん・和田わだ) 1694 - 174451 下総佐倉の医者;菅野兼山門/儒者:稲葉迂斎門、  
のち崎門学;三宅尚斎門、「中庸口義」、「和田先生雑談録」著
- L1618 義端(ぎたん;法諱、俗名:脇坂(わきさか)義但、義空男)1732-180372 摂津住吉真宗靈松寺(父は11世)生、  
1747本山寛如上人(堯超)門/仏光寺派最高の学階・講師・靈松寺12世、儒:甘谷門、詩文、  
1764「庭賜詩稿」/75漢文笑話「善謔随訳」、78「三心字訓積義」86「扶桑考」90「扣鳴編」、  
「徂徠集便覧」「科文集」「文章蠲臭(ぶんしょうけんしゅう)」「赤穂四十六士論評駁」外著多数、  
[義端の字/号]字;勇進、号;空門子/墨浦/竜鱗翁/竜鱗庵/靈松道人、諡号;聞法院
- L1619 義端(ぎたん・永井ながい、字;廉卿/通称;澄二郎)?-? 江後期伊勢長島藩士/江戸の八代洲河岸住、  
詩人:1836「攬雲(けんうん)草」著、  
[義端の号] 三斎/風来閣
- T1617 義端(ぎたん・佐野さの) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[染め尽す後は嵐のさそふをも待たず紅葉の散るがあはれさ](大江戸倭歌;1092)
- 義端(ぎたん・林) → 文会堂(ぶんかいどう・林、書肆/浮草子作者) 3 8 2 0  
崎淡園(きたんえん) → 淡園(たんえん・戸崎) H 2 6 9 4
- L1620 きち(沢田さわだ、通称;お吉)?-? 江中期教育者/婦女子教育;絵入仮名文教訓、  
1678「女今川」、「女四季文章」著、「女筆手本」「女筆手本大全書」「女筆浅香山」書
- V1600 喜知(きち・荻戸のぞき、旧姓;小川)1761-182161 出羽米沢の歌人、  
出羽米沢藩士荻戸政以(まさもち)(1760-1816/太華[善政]男)の妻、  
1816(文化13)夫が奉行職中に没、喜知は1821(文政4)没  
夫 → 政以(まさもち・荻戸のぞき、藩老/改革) H 4 0 8 2
- U1660 吉(きち・高尾たかお、) ? - 1830 江中後期;伊勢四日市の素封家(地土)/国学者、  
後妻;本居宣長女の飛驒(1770-1849);共に再婚、2男4女の父、  
のち孫の信郷(1825-1900/宣長曾孫)が後継者の絶えた本居家を継嗣、  
[吉(;名)の字/通称/号]初名;余之、字;士常、通称;九兵衛、号;果亭/関古楼  
後妻の飛驒 → 飛驒(ひだ・高尾たかお/深草/本居、国学) K 3 7 1 0  
吉(きち・有木) → 雲山(うんざん・有木ありき、医者/儒者) B 1 2 1 4  
吉(きち・竹原) → 澧水(れいすい・竹原たけはら、医者/篆刻) 5 1 4 1  
吉(きち・山崎) → 雲山(うんざん・山崎やまさき、絵師/書家) D 1 2 7 3  
吉(きち・岡) → 敬安(けいあん・岡おか、医者) F 1 8 2 2  
季知(きち・三条西) → 季知(すえとも・三条西/西三条/藤原、廷臣/尊攘) B 2 3 2 9  
幾千(きち・堀田/松平) → 幾千女(きちぢよ・堀田ほった/松平、歌・書) V 1 6 1 6  
喜知(きち・宗) → 貞心院(ていしんいん、宗そう/松平、藩主室/歌) F 3 0 1 1  
義知(ぎち・壺井) → 義知(よしちか・壺井つばい、故実家) 4 7 1 9  
義知(ぎち・茂木) → 義知(よしとも・茂木もてき/大衡、藩士) F 4 7 0 1  
義知(ぎち・細川/糸田川/細) → 義知(よしとも・細ほそ/細川/糸田川、武術家) F 4 7 0 4  
義知(ぎち・久保田) → 義知(よしとも・久保田くぼた/源、幕臣/歌) K 4 7 4 2  
義知(ぎち・赤松) → 宗旦(2世そうたん・赤松、医者/地誌家) C 2 5 4 9  
義智(ぎち/よしとも・加藤) → 雪潭(せつたん・加藤かとう、藩士/絵師) L 2 4 2 1  
義智(ぎち・藤川) → 義智(よしとも・藤川ふじかわ、藩士/和算家) F 4 7 0 6  
義致(ぎち・佐野) → 義致(よしむね・佐野さの、和算家) H 4 7 6 0  
宜智(ぎち・高見) → 甚左衛門(じんざえもん・高見/大野、書肆/国学) O 2 2 6 0  
吉為(きちい・岸) → 吉為(よしため・岸きし、歌人) E 4 7 4 2  
吉一(きちいち・丸山) → 吉一(よしかず・丸山まるやま、藩士/歌人) P 4 7 2 7

- 吉胤(きちん)すべて → 吉胤(よしたね)
- 吉英(きちえい・小出) → 吉英(よしふさ・小出こいで、藩主/和学) M 4 7 7 2
- 吉英(きちえい・小町谷) → 吉英(よしひで・小町谷こまちや、農業/歌人) G 4 7 3 9
- 吉栄(きちえい/よしひで?・岩松) → 益男(ますお・岩松いわまつ、神職/国学) N 4 0 8 5
- 吉益(きちえき・中川) → 吉益(よします・中川なががわ、神職) H 4 7 1 9
- L1621 吉右衛門(きちえもん・寺坂てらさか、名;信行、吉右衛門男) 1665-1747<sup>83</sup> 赤穂藩士/義士間の連絡係、  
「赤穂実録」著
- L1622 吉右衛門(きちえもん・山内やまのうち、名;豊俊、治部左衛門俊忠男) 1681-1761<sup>81</sup> 代々会津滝谷組郷頭職、  
1700郷頭職/20藩預の会津南山御蔵入騒動の農民訴状の返答書起草、郷民教化に尽力、  
儒;横田何求門、「南山民乱治平記」「本朝百家伝記」「無枕雑補家宝記」「雑補辨略銘記」著
- F1679 吉右衛門(きちえもん・狩野かのう) 1723-? 江中期江戸の文筆家、肝煎きりり、  
1794江戸風俗随筆「昔ばなし」著
- 吉右衛門(きちえもん・久保) → 正元(まさもと・久保くぼ、幕臣/書記) H 4 0 8 8
- 吉右衛門(きちえもん・九保) → 正永(まさなが・九保、正元男/幕臣/書記) F 4 0 2 0
- 吉右衛門(きちえもん・金屋) → 似雲(じうん;法諱、俗姓;河村、真宗僧/歌人) 2 1 0 1
- 吉右衛門(きちえもん・初世中村) → 十蔵(じゅうぞう・初世中村、歌舞伎役者) I 2 1 0 0
- 吉右衛門(きちえもん・苧屋からむしや) → 志慶(しけい、甘棠居、商家/俳人) Q 2 1 5 8
- 吉右衛門(きちえもん・松井屋) → 万亀(ばんき・千鶴庵、読本/狂歌) H 3 6 3 6
- 吉右衛門(きちえもん・柏原) → 信好(のぶよし・柏原、博物学/鳥類) D 3 5 9 9
- 吉右衛門(きちえもん・万屋) → 貫四(初世かんし・松まつ、浄瑠璃作者) D 1 5 8 4
- 吉右衛門(きちえもん・賀来) → 玉淵(ぎょくえん・賀来かく、醸造家/儒者) O 1 6 8 0
- 吉右衛門(きちえもん・坪井屋) → 巽斎(そんさい・木村きむら、商家/博物学) E 2 5 8 3
- 吉右衛門(きちえもん・岩下) → 探春(たんしゆん・岩下いわした、儒者/詩) I 2 6 3 4
- 吉右衛門(きちえもん・沢) → 尚智(ひさとも・沢さわ、和算家) B 3 7 5 9
- 吉右衛門(きちえもん・勝) → 利章(としあき・勝かつ、詩) L 3 1 9 0
- 吉右衛門(きちえもん・小島屋) → 大梅(だいばい・小島/児島、詩/俳人) C 2 6 0 9
- 吉右衛門(きちえもん・野田) → 石陽(せきよう・野田、藩士/儒;徂徠学) D 2 4 9 3
- 吉右衛門(きちえもん・佐羽) → 淡斎(たんさい・佐羽さば、商家/詩人) I 2 6 1 6
- 吉右衛門(きちえもん・菊池) → 宗雨(そうう・菊池さくち、俳人) G 2 5 0 4
- 吉右衛門(きちえもん・西村) → 貞堯(さだたか・西村にしむら、歌人) I 2 0 3 6
- 吉右衛門(きちえもん・吉村) → 寛泰(ひろやす・吉村よしむら、藩士/儒者) H 3 7 5 5
- 吉右衛門(きちえもん・荒木) → 蘭阜(らんこう・荒木あらかき/富永、儒者/詩) B 4 8 9 9
- 吉右衛門(きちえもん・山田) → 友甫(ゆうほ;号・山田やまだ、俳人) D 4 6 7 5
- 吉右衛門(きちえもん・樋口) → 有柳(ゆうりゅう/うりゅう・樋口ひぐち、俳人) E 4 6 0 1
- 吉右衛門(きちえもん・高橋) → 仲善(ちゆうぜん・高橋、和算家) G 2 8 5 2
- 吉右衛門(きちえもん・藤田) → 貞栄(さだひで・藤田ふじた、暦算家) J 2 0 4 9
- 吉右衛門(きちえもん・坪井屋) → 石居(せききよ・木村、商家/兼葭堂2世) J 2 4 9 9
- 吉右衛門(きちえもん・服部) → 保行(やすゆき・服部はっとり、菓子商/歌人) G 4 5 4 3
- 吉右衛門(きちえもん・高戸) → 忠順(ただのぶ・高戸たかど、庄屋/国学) Y 2 6 0 1
- 吉右衛門(きちえもん・佐竹) → 忠邦(ただくに・佐竹さたけ、藩士/歌人) X 2 6 2 1
- 吉右衛門(きちえもん・蔵屋/花屋) → 鷺夫(わしお・大倉おおくら、商家/歌) 5 3 0 5
- 吉右衛門(きちえもん・松本) → 弘蔭(ひろかげ・松本、国学者/歌人) F 3 7 6 6
- 吉右衛門(きちえもん・佐野) → 正意(まさのり・佐野さの、藩士/国学者) P 4 0 9 1
- 吉右衛門(きちえもん・林) → 砂兄(さけい・魚うおの屋2世、林久有/狂歌) H 2 0 3 3
- 吉右衛門(きちえもん・山村) → 常恒(つねね・板屋/山村吉衛門、狂歌) C 2 9 5 4
- 吉右衛門(きちえもん・永田) → 直訓(なおふみ・永田ながた/森、国学/歌) O 3 2 1 4
- 吉右衛門(きちえもん・近江屋) → 三水(さんすい・莫作庵、俳人) M 2 0 4 2
- 吉右衛門(きちえもん・小川) → 真文(まさぶみ・小川おがわ、国学者) O 4 0 0 8
- 吉男(きちお・県犬養) → 吉男(よしお・県犬養宿禰あがたいぬかいのすくね、万葉歌人) C 4 7 3 0
- 吉男(きちお・五島) → 吉雄(よしお・五島ごとう、国学者) C 4 7 3 7

- 吉王(きちおう・四室) → 四室吉王(しつぎつおう、童/歌人) a 2 1 4 7  
 吉応(きちおう・小林) → 吉応(よしまさ・小林こばやし、謡/歌人) M 4 7 7 6
- L1623 材親(きちか・北島きたばたけ、初名;具方、政郷男/本姓源)1468-151750 武将;1486右少将/伊勢国司、  
 足利義材(義植)より偏諱を受;材親きちか名、1497弟師茂に勝利し北伊勢平定、1502参議、  
 1510権大納言/11出家;飯高郡大石村隠棲/天台僧眞盛上人に帰依、三条西実隆と親交、  
 「北島親房御伝記」/1510「多気窓螢」著、連歌;新撰菟玖波集2句入、  
 [材親の通称/法号]/通称;大石御所、法号;心江/浄眼寺無外逸方
- 吉偕(きちかい・宮崎) → 吉偕(よしとも・宮崎みやざき、神職/国学) P 4 7 4 0  
 吉葛園(きちかつえん・よしぐずえん) → 竹斎(ちくさい・竹川、商家/殖産家) D 2 8 0 6  
 漕川小舟(さうかわしょうしゅう) → 亀成(かめなり・山本、俳人/画) B 1 6 3 5  
 吉貴(きちき・島津) → 吉貴(よしたか・島津しまう、藩主) D 4 7 9 7  
 吉規(きちき・大野) → 吉規(よしのり・大野おのの、砲術家) F 4 7 8 1  
 吉紀(きちき・武藤) → 吉紀(よしのり・武藤むとう、藩儒者/侍講) F 4 7 8 7  
 吉祇(きちぎ・山田) → 吉祇(よしまさ・山田やまだ、神職/国学) P 4 7 8 4
- G1685 吉久(きちきゅう) ? - ? 京俳人;1633重頼「犬子集」105・791・910、  
 [夕だちは雲のはら切る気色かな](犬子集;三910)、  
 (夕だちは夕立と太刀・はらは原と腹を掛ける)
- G1686 吉久(きちきゅう) ? - ? 伊勢山田俳人;1633重頼「犬子集」840、  
 [花々のかたきとやなる美人草](諺;美女は悪女の仇かたき、犬子集;三840)
- 吉享(きちきょう・郡山) → 吉享(吉享よしゆき・郡山こおりやま、故実家) I 4 7 0 1
- F1680 淇竹(きちく・春洞しゅんどう) ? - ? 江後期江戸俳人、  
 1822俳諧作法書「道の便たより」共編(竹巢月居・生生瑞馬[常庸]と、須原屋茂兵衛刊)  
 倚竹(きちく・森) → 清子(せいこ・森もり/国島、国学/歌人) O 2 4 5 2
- L1624 義竹(ぎちく;号・中村なかむら、字;立節)?-? 江前期出雲の書家/常陸水戸徳川家出仕、「便蒙帖」、  
 「書法纂要」「書学指南」「墨池妙訣」著、徳川光圀命で「草露貫珠」編途中没;1696義端刊
- 宜竹(ぎちく;号) → 周麟(しゅうりん;法諱・景徐、臨済僧) P 2 1 4 5  
 起竹庵(きちくあん) → 文竜(ぶんりゅう・石井いせい、俳人) G 3 8 6 9  
 義竹軒(ぎちくけん) → 為広(ためひろ・冷泉れいせい、廷臣/歌人) 2 6 7 4  
 吉九郎(きちくろう・戸谷) → 猿左(えんさ・戸谷とや、俳人) B 1 3 7 4  
 吉景(きちけい・中山) → 吉景(吉影よしかげ・中山なかやま、国学者) O 4 7 2 5  
 吉榮(きちけい・本木/友沢) → 謙助(けんすけ・友沢ともさき、藩士/儒者) K 1 8 3 8  
 吉継(きちけい・大谷) → 吉継(よしつぐ・大谷おおたに、武将/城主/連歌) E 4 7 6 3  
 吉継(きちけい・村上) → 吉継(よしつぐ・村上むらかみ、武将/城主/連歌) G 4 7 8 6  
 吉恵(きちけい・菅沼) → 吉恵(よしえ;通称・菅沼すがぬま、文筆家) C 4 7 2 5  
 吉啓(きちけい・加藤) → 吉啓(よしひろ・加藤らかとう、藩士/国学者) M 4 7 1 2  
 吉啓(きちけい・堀内) → 吉啓(よしひろ・堀内ほりうち、歌人) P 4 7 0 0  
 吉謙(きちけん・山崎) → 鯉山(けいざん・山崎やまざき、儒者) F 1 8 8 1  
 吉賢(きちけん/よしかた・渡部) → 主税(ちから・渡部わたなべ、好事家/文筆) C 2 8 2 5  
 吉賢(きちけん・藤森) → 吉賢(よしかた・藤森ふじもり、商家/歌人) O 4 7 9 0  
 吉憲(きちけん・林/小町谷) → 吉憲(よしのり・小町谷こまちや/林、歌人) F 4 7 9 0  
 吉元(きちげん・犬上) → 吉元(よしもと・犬上いぬがみ/伊織、神職) L 4 7 6 1  
 吉言(きちげん・大友) → 吉言(よしとき・大友おおとも、神職/国学/医者) E 4 7 8 8
- S1680 幾知子(きちこ;女房名) ? - ? 江中期;一橋家の中老、歌人;賀茂真淵門、  
 [ふりはへて若菜摘みにと来しものを雪間も見えぬ春日野の原]、  
 (本居大平「八十浦の玉」;上21/1758[宝暦8]真淵家宴参加)
- V1617 幾知子(喜智子きちこ・堀家ほりけ、佐伯惟因女)1795-187480 備中足守の生、緒方洪庵(蘭医)の姉、  
 備中賀陽郡吉備津神社社家の堀家徳政のりまさ(1786-1823)の妻、歌人、  
 1823(文政6/29歳)夫38歳で没;養父堀家広政と2児(輔政8歳・高雅5歳)を養育、  
 堀家輔政すけまさ・藤井(大藤)高雅(高起)の母、



[玉椿八千代の花をまつ君はやそちの春もふた葉なりけり]

吉孝(きちこう・篠田) → 吉孝(よしとか・篠田しのだ、酒造業/風流人) E 4 7 0 1

吉孝(きちこう・小町谷) → 吉孝(よしとか・小町谷こまちや、農業/歌人) E 4 7 0 8

吉行(きちこう・中山) → 吉行(よしゆき・中山なかやま、神職/国学) O 4 7 2 6

L1625 吉五郎(きちごろう・渡辺) ? - ? 江後期武州良岐郡金沢の工匠: 柏木伊賀門、  
「方寸曲」著

吉五郎(きちごろう・春田) → 久啓(ひさとお・春田/根来、幕臣/梅栽培) B 3 7 4 7

吉五郎(きちごろう・里村/成井) → 昌周(しょうしゅう・阪/坂、幕府連歌師) S 2 2 9 1

吉五郎(きちごろう・牧野) → 忠利(ただとし・牧野/源、藩主) F 2 6 3 8

吉五郎(きちごろう・田村) → 斉義(なりよし・伊達だて、藩主) N 3 2 7 0

吉五郎(きちごろう・三浦) → 明喬(あきたか・三浦みうら、藩主) I 1 0 4 9

吉五郎(きちごろう・土肥) → 経平(つねひら・土肥/平、藩士/故実家) D 2 9 5 1

吉五郎(きちごろう・川上) → 雄享(おみち・川上かわかみ、幕府役人/国学) D 1 4 8 9

吉五郎(きちごろう・鶴屋) → 宿成(やどり・雪木庵、宿屋/狂歌) D 4 5 8 7

B1645 吉左衛門(きちざえもん・金子かねこ、俳号;一高) ?-1728 江前期1688-1704元禄期の上方歌舞伎役・作者、  
金子六右衛門の高弟/上方の代表的道外方、坂田藤十郎狂言制作に近松門左衛門と関与、  
1712大阪嵐三十郎一座で立役者;座元、「耳塵集」、1699「童女ケ淵」1701「小栗判官」、  
1713「今川俊秀卯花緘」16「大名今年暦」25「和合陰陽柱」26「大矢数四十七本」外著多数

L1626 吉左衛門(きちざえもん・沢田さわだ、名;亮采/字;白恵、正詔男) 1779-1837 59 金沢藩士/1807家督継嗣;  
馬廻組/能州御郡奉行/金沢町奉行、儒;陸原くがはら之淳ゆきあつ門/暦算家;稲垣詔門、  
「朔蝕実測記」著、

[吉左衛門の別通称/号]別通称;九内/義門、号;謙斎

V1650 吉左衛門(きちざえもん・矢野やの、名;静石しずし、旧姓;外池) 1811-63 53 近江蒲生郡日野の商家、  
国学・歌;彦根藩士大堀正輔門

吉左衛門(きちざえもん・佐方) → 之昌(ゆきまさ・佐方さかた/藤原、歌人/連歌) B 4 6 1 9

吉左衛門(きちざえもん・楽) → 常慶(じょうけい・楽らく/田中、楽家2世陶工) V 2 2 4 2

吉左衛門(きちざえもん・田中) → 左入(さにいりゅう・田中たなか、楽焼6世) K 2 0 6 4

吉左衛門(きちざえもん・塩屋) → 保友(ほゆう/やすとも・梶山、商家/俳人) E 3 9 7 8

吉左衛門(きちざえもん・越智) → 古声(こせい・越智、俳人) D 1 9 0 7

吉左衛門(きちざえもん・森本) → 百丸(ひやくまる・森本、俳人) 3 7 1 2

吉左衛門(きちざえもん・菱川) → 師房(もろふさ・菱川、絵師/縫箔師) H 4 4 8 7

吉左衛門(きちざえもん・田辺) → 政己(まさおの・田辺たなべ、藩士/記録) B 4 0 5 7

吉左衛門(きちざえもん・道明寺屋) → 芳春(ほうしゅん・富永、商家/和漢学者) B 3 9 6 4

吉左衛門(きちざえもん・伊勢屋) → 星岡住(ほしのおかづみ・酔松亭、狂歌) E 3 9 2 0

吉左衛門(きちざえもん・大坂屋) → 春爾(しゅんじ、大坂屋主人/俳人) K 2 1 9 0

吉左衛門(きちざえもん・渡邊/上野) → 霞山(かざん・上野うえの、儒者) L 1 5 6 9

吉左衛門(きちざえもん・住友) → 友信(ともぶ・住友3代目、商家/狂歌) Q 3 1 1 6

吉左衛門(きちざえもん・住友) → 友聞(ともか/ともひろ・住友9代/岡村、商家/国学) V 3 1 4 4

吉左衛門(きちざえもん・鉦屋/鈴木) → 桃鯉(とうり・鈴木、商家/俳人) I 3 1 0 3

吉左衛門(きちざえもん・中川) → 喜雲(きうん、俳人、仮名草子) 1 6 0 2

吉左衛門(きちざえもん・酉水すがい/原田) → 東岳(とうがく・原田、藩士/儒者) C 3 1 1 7

吉左衛門(きちざえもん・宮) → 徐々坊(じょじょぼう・宮みや、俳人) M 2 2 4 6

吉左衛門(きちざえもん・大貫) → 杜哉(とさい・大貫おおぬき、俳人) L 3 1 7 8

吉左衛門(きちざえもん・樽屋) → 六馬(ろくば、商家/俳人) B 5 2 0 3

吉左衛門(きちざえもん・能美) → 棋斎(きさい・能美のうみ、藩士/藩政参与) K 1 6 4 4

吉左衛門(きちざえもん・越智) → 古声(こせい・越智おち、酒造業/俳人) D 1 9 0 7

吉左衛門(きちざえもん・勝川) → 春潮(しゅんちゅう・勝川かつかわ、絵師) K 2 1 2 5

吉左衛門(きちざえもん・近藤) → 孟卿(たかあきら・近藤、幕臣/歌人) C 2 6 4 7

吉左衛門(きちざえもん・越前屋/宇野) → 柳壺(りゅうこ・宇野うの、俳人) D 4 9 7 1

吉左衛門(きちざえもん・三輪/田所) → 千秋(ちあき・田所/三輪、藩士/国学) 2 8 0 0

- 吉左衛門(きちざえもん・鵜飼)→ 拙斎(せつさい・鵜飼、藩士/攘夷派) K 2 4 9 9  
 吉左衛門(きちざえもん・伊予屋)→ 蘭陵(らんりょう・長門屋、俳人) D 4 8 3 9  
 吉左衛門(きちざえもん・三星屋)→ 壺仙(こせん・服部はつとり、商家/詩人) M 1 9 9 8  
 吉左衛門(きちざえもん・島崎)→ 正樹(まさき・島崎、庄屋/国学者) C 4 0 2 9  
 吉左衛門(きちざえもん・安部)→ 和貞(かずさだ・安部あべ、藩士/和学) T 1 5 3 1  
 吉左衛門(きちざえもん・安部)→ 春貞(はるさだ・安部あべ、藩士/連歌) J 3 6 5 6  
 吉左衛門(きちざえもん・福島)→ 清定(きよさだ・福島ふくしま、藩士/歌人) V 1 6 1 0  
 吉左衛門(きちざえもん・諏訪)→ 種義(たねよし・諏訪すわ/上原、藩士/国学) X 2 6 6 6  
 吉左衛門(きちざえもん・奥村)→ 邦秀(くにひで・奥村おくむら/橘、国学/茶人) E 1 7 0 8  
 吉左衛門(きちざえもん・清家)→ 信貞(のぶさだ・清家せいけ、国学者/歌) I 3 5 8 0  
 吉左衛門(きちざえもん・橋口)→ 春妙(はるとえ・橋口はしぐち、藩士) K 3 6 6 0  
 吉左衛門尉(きちざえもんじょう・安部)→ 春貞(はるさだ・安部あべ、藩士/連歌) J 3 6 5 6  
 吉作(きちさく・恩田) → 石峰(せきほう・恩田おんだ、絵師) K 2 4 4 8
- B1646 吉三郎(初世きちさぶろう・嵐)?- ? 歌舞伎役者/立役/2世[初世璃寛]の父  
 吉三郎(2世きちさぶろう・嵐)→ 璃寛(初世りかん・嵐あらし、歌舞伎役者) 4 9 5 0  
 吉三郎(きちさぶろう・亀井)→ 矩賢(のりかた・亀井、藩主/文武振興) E 3 5 3 8  
 吉三郎(きちさぶろう・諏訪)→ 頼久(よりひさ・諏訪すわ、幕臣/弓術) J 4 7 5 2  
 吉三郎(きちさぶろう・杉本)→ 清蔭(きよかげ・杉本/池田屋、商家/歌人) O 1 6 6 8  
 吉三郎(きちさぶろう・山脇)→ 元貞(もとさだ・山脇、藩士/国学・歌人) C 4 4 4 8  
 吉三郎(きちさぶろう・小島)→ 文器(ぶんき・小島こじま、藩士/俳人) E 3 8 9 5  
 吉三郎(きちさぶろう・石幡)→ 光重(みつげ・石幡いしはた、養蚕業) D 4 1 5 7  
 吉三郎(きちさぶろう・戸塚)→ 忠栄(ただひで・戸塚とつか、幕臣/奉行/歌) U 2 6 4 4  
 吉三郎(きちさぶろう・佐藤)→ 友信(とものお・佐藤さとう、国学/歌) V 3 1 1 3  
 吉士(きちし・麻場/中村)→ 柳坡(りゅうは・中村/麻場、医者/儒者) F 4 9 4 2  
 吉士(きちし・兼子) → 吉士(よしひと・兼子かねこ、医者/国学) M 4 7 2 6  
 吉之(きちし・内藤) → 吉之(よしゆき・内藤ないとう/山田、国学) O 4 7 1 2
- G1687 吉次(きちじ) ? - ? 江前期堺の俳人;1633重頼「犬子集」466・1162  
 [花見にや酔ひて管ぐだ捲く糸ざくら](犬子集;二466)
- S1669 吉次(きちじ・種村たねむら) ? - ? 江前期上方の俳人、  
 1673西鶴「生玉万句」第四螢第三句入、犬子集の吉次と同一?、  
 [濡縁の戸さゝぬ御代と納まりて](生玉万句;螢第三、  
 脇句治平;月のある夜は涼し学問)
- L1627 吉次(きちじ) ? - ? 伊賀上野の俳人;1689荷兮か「あら野」入  
 [散るたびに児ちごぞ拾ひぬ芥子の花](あら野)
- 1620 吉治(吉次きちじ・富士田ふじた、楓江)1714-1771<sup>58</sup> 長唄唄方;名人、富士田家の祖、  
 初め歌舞伎役者;佐野川千蔵を名乗/のち一中節太夫;都太夫和申と称す、  
 1759(宝暦9)長唄唄方に転じ藤田吉次郎と名乗る/1762富士田吉次;さらに吉治に改名、  
 従来の長唄に一中節・豊後節の曲節を加えた唄浄瑠璃を創始;新形式の掛合かけあいを考案、  
 「鞭桜宇佐幣むちざくらうのみてぐら」を大薩摩節との掛合で演奏し好評、名曲「吉原雀」「鷺娘」作曲、  
 その後6世富士田千蔵が2世吉治を名乗るがのち名跡は断絶
- 吉次(きちじ・常門じょうと孫四郎)→ 孫四郎(まごしろう・常門、能研究) 4 0 7 4  
 吉次(きちじ・金子) → 鶴村(かくそん・金子かねこ、漢学/藩儒) H 1 5 3 3  
 吉次(きちじ・藤原) → 左内(さない・藤原吉次、浄瑠璃太夫) C 2 0 7 6  
 吉次(きちじ・浜村屋/瀬川)→ 菊之丞(初世きくのじょう・瀬川せがわ、歌舞伎役者) 1 6 0 9  
 吉次(きちじ・菅沼) → 吉次(よしつぐ・菅沼すがぬま、藩士/歌人) N 4 7 4 5  
 吉二(きちじ・小島) → 文器(ぶんき・小島こじま、藩士/俳人) E 3 8 9 5  
 吉時(きちじ・山田) → 吉時(よしとき・山田2世、幕臣/据物斬) E 4 7 8 4  
 吉治(きちじ・安藤) → 吉治(よしはる・安藤あんどう、和算家) G 4 7 0 8  
 吉昵(きちじつ・杉木すぎき) → 吉昵(よしちか・杉木、神職) E 4 7 5 7  
 吉寿(きちじゅ・鴨沢/星川)→ 正甫(まさとし・星川ほしかわ、藩士/地誌家) E 4 0 4 9

吉寿(きちじゆ・栃内) → 与兵衛(よへえ・栃内とちない、藩士/兵法) I 4 7 2 7  
 吉重(きちじゆう) → 吉重(きつじゆう、俳人) S 1 6 7 2  
 吉重(きちじゆう・永原) → 吉重(よししげ・永原/藤原、武将/連歌) K 4 7 2 7  
 吉重(きちじゆう・沢村) → 吉重(よししげ・沢村さわむら、藩の重臣) D 4 7 5 7  
 吉重(きちじゆう・向井) → 吉重(よししげ・向井むかい、藩士/軍学者) D 4 7 5 9  
 吉重(きちじゆう・猿谷) → 吉重(よししげ・猿谷さるたに、国学者) N 4 7 2 3  
 吉従(きちじゆう・興田) → 吉従(よさゆ・興田おきた、儒/神道/国学) K 4 7 2 0  
 吉従(きちじゆう・尾崎) → 吉従(よしゆき・尾崎おさき、藩士/歌人) L 4 7 8 6  
 吉従(きちじゆう・矢島) → 吉従(よしより・矢島やじま、国学/歌人) P 4 7 7 1  
 吉従(きちじゆう・杉井) → 吉従(よしより・杉井すぎい、藩士/歌人) N 4 7 4 6  
 吉住(きちじゆう・山根) → 吉住(よしずみ・山根やまね/藤原、藩士/歌) P 4 7 8 9  
 吉十郎(きちじゅうろう・吉田) → 秀升(ひでのり・吉田/佐々木、幕臣/天文家) D 3 7 6 3  
 吉十郎(きちじゅうろう・西郷) → 近房(ちかふさ・西郷さいごう、藩家老) B 2 8 7 5  
 吉十郎(きちじゅうろう・西郷) → 近方(ちかかた・西郷、近房男/藩家老/神道家) 2 8 7 1  
 吉十郎(きちじゅうろう・西郷) → 近思(ちかかもと・西郷、藩家老/儒/国学) C 2 8 0 5  
 吉十郎(きちじゅうろう・佐瀬) → 与次右衛門(よじえもん・佐瀬させ、勸農家) C 4 7 2 7  
 吉十郎(きちじゅうろう・相沢) → 治信(はるのぶ・相沢あいざわ、測量家) G 3 6 7 0  
 吉十郎(きちじゅうろう・関) → 赤城(せきじょう・関せき、漢学者/地誌家) D 2 4 5 8  
 吉十郎(きちじゅうろう・市来) → 広貫(ひろつら・市来いちき/寺師、藩士/砲術) G 3 7 4 6  
 吉十郎(きちじゅうろう・山口) → 睦齋(ぼくさい・山口、和漢学者/教育) D 3 9 1 4  
 吉十郎(きちじゅうろう・小笠原) → 長厚(ながあつ・小笠原おがさわら、領主/歌) L 3 2 3 5  
 吉十郎(きちじゅうろう・内田) → 長麿(ながまる・内田うちだ、国学/歌人) L 3 2 3 1  
 吉順(きちじゆん・有田) → 吉順(よしより・有田ありた/源、幕臣/歌人) K 4 7 5 5

V1616 幾千女(きちじよ・堀田ほった、松江藩主松平治郷はるさと4女) 1805-63.59 母;お勝かつ、出雲の生;幾千姫、  
 1820(文政3/16歳)父没:下総佐倉藩主堀田正愛まさちかの継室;25夫没;謙映院を名乗る、  
 歌人/書家として活動/諸芸に通ず、  
 [幾千(;名)の号]号;謙映院/玉映(:書家名)/喜楽庵/閑雲/月主人/月川、  
 法名;謙映院殿貞淵徳應妙行大姉

吉昌(きちしょう・山田) → 吉昌(よしまさ・山田やまだ6世、幕臣/腰物方/鑑定) H 4 7 1 2  
 吉勝(きちしょう・藤田) → 吉勝(よしかつ・藤田ふじた、和算家) C 4 7 8 5  
 吉祥(きちしょう・武藤) → 虎峰(こほう・武藤むとう、藩士/儒者) G 1 9 6 7  
 吉仍(きちじょう・梶野) → 吉仍(よしあつ・梶野とがの、武家/連歌) C 4 7 0 8  
 吉祥子(きちしょうじ・狩野/岡田) → 為恭(ためちか・冷泉/岡田、絵師/歌) H 2 6 0 0  
 吉埴(きちしよく・中山) → 吉埴(よしたね・中山なかやま、神職/歌人) E 4 7 3 7  
 吉二郎(きちじろう・片岡) → 如圭(じよけい・片岡かたおか、易学者) C 2 2 3 7  
 吉次郎(きちじろう・安田) → 布旧(のぶもと・安田、郡奉行/記録) D 3 5 2 1  
 吉次郎(きちじろう・新見) → 正恒(まさつね・新見しんみ/源、幕臣) E 4 0 0 9  
 吉次郎(きちじろう・新見) → 正路(まさみち・新見、正恒孫/幕臣/歌) H 4 0 5 4  
 吉次郎(きちじろう・平尾) → 数也(すうや・平尾ひらお、藩茶道方茶人) F 2 3 3 2  
 吉次郎(きちじろう・古川) → 氏清(うじきよ・古川、幕臣/和算家) B 1 2 8 3  
 吉次郎(きちじろう・渡辺) → 三休(さんきゅう・渡辺わたなべ、藩儒) M 2 0 0 0  
 吉次郎(きちじろう・石川) → 清賞(せいしょう・石川/鯉淵、藩士/儒者) I 2 4 8 2  
 吉次郎(きちじろう・谷沢/油与) → 近嶺(ちかね・沢/谷沢、商家/歌文) B 2 8 5 0  
 吉次郎(きちじろう・青木) → 研蔵(けんざう・青木、藩士/医者) K 1 8 7 3  
 吉次郎(きちじろう・瀬能) → 正路(まさみち・瀬能せの、藩士/国学/歌) M 4 0 7 1  
 吉次郎(きちじろう・斎藤) → 明敏(あきとし・斎藤さいとう、藩士/歌人) H 1 0 6 6  
 吉次郎(きちじろう・安藤/司馬) → 江漢(こうかん・司馬しば/安藤、絵師/蘭学) 1 9 9 1  
 吉次郎(きちじろう・住友) → 友聞(ともか/ともひろ・住友すみとも/岡村、商家/国学) V 3 1 4 4  
 吉深(きちしん・石出) → 吉深(よしふか・石出いしで、幕臣/国学/歌) G 4 7 7 2  
 吉人(きちじん・安部) → 吉人(よしひと・安部あべ、廷臣/漢学/詩) G 4 7 4 3

- 吉人(きちじん・福田) → 半香(はんこう・福田ふくだ、絵師) H 3 6 5 9  
 吉人(きちじん・福島) → 隣春(ちかはる・福島/藤原、商家/絵師) B 2 8 6 6  
 吉陣(きちじん・西川) → 芝石(しせき・西川にしかわ、俳人) U 2 1 1 2  
 F1681 吉助(きちすけ・今村いまむら) ?- ? 江後期江戸歌舞伎作者;初世五瓶/初世久助/4世南北の助作、  
 1806「壮平家物語」08「松二大源氏」10「当糶八幡祭」助作/15初演「男作女吉原」  
 F1659 吉助(きちすけ・福森ふくもり;号)?- ? 江後期江戸歌舞伎作者、1815大阪で中村歌五郎座で創作、  
 1819江戸中村・市村・森田・河原崎座で活動、1819「いろは仮名随筆」22「敵討名歌曙」著、  
 1822如臯「御撰曾我閨正月」番付、22「色分限栄商」、23「法懸松成田利劔」著、  
 1835「後太平記栴錦幔」37「世界平氏梅顔競」著  
 吉助(きちすけ・竹中) → 重門(しげかど・竹中/源、武将/歌・連歌) C 2 1 0 9  
 吉助(きちすけ・南部) → 利視(としみ・南部なんぶ、藩主/俳人) N 3 1 7 8  
 吉助(きちすけ・三浦) → 益徳(ますのり・三浦みづら、藩士/国学者) J 4 0 1 4  
 吉甫(きちすけ・香山) → 適園(てきえん・香山かやま、儒者/詩人) B 3 0 8 7  
 吉甫(きちすけ・滝沢) → 馬琴(ばきん・曲亭きょくてい、読本作者) 3 6 0 7  
 吉甫(きちすけ・伊藤) → 冠峰(かんぼう・伊藤、詩文) H 1 5 7 3  
 吉甫(きちすけ・広瀬) → 旭荘(きょくそう・広瀬ひろせ、儒者/詩人) 1 6 4 4  
 吉甫(きちすけ・杉野) → 紫山(しざん・加治かじ/杉野、儒者/兵法家) D 2 1 7 8  
 吉甫(きちすけ・田中) → 秋浦(あきうら・田中/市村、役人/国学) H 1 0 8 3  
 吉正(きちせい・田畑/田端) → 吉正(よしまさ・田畑/田端たばた/源、幕臣/系譜) H 4 7 0 8  
 吉成(きちせい・堀田) → 吉成(よしなり・堀田ほった、和算家) F 4 7 3 8  
 吉成(きちせい・青根) → 吉成(よしなり・青根あおね/藤原、国学/歌) L 4 7 0 4  
 吉成(きちせい・朝山) → 吉成(よしなり・朝山あさやま/勝部、神職) L 4 7 1 9  
 吉政(吉正きちせい・平内) → 吉政(吉正よしまさ・平内/堀内へのうち、工匠) G 4 7 9 8  
 吉清(きちせい・太田) → 吉清(よしきよ・太田おおた、日記作者) D 4 7 1 5  
 吉晴(きちせい・小町谷) → 吉晴(よしはる・小町谷こまちや、歌人) M 4 7 8 3  
 吉晴(きちせい・佐々木) → 吉晴(よしはる・佐々木ささき、歌人) N 4 7 0 0  
 吉造(きちぞう・鶴棟) → 吉造(よしぞう・鶴棟つるむね、歌舞伎作者) D 4 7 8 9  
 吉蔵(きちぞう・柳沢) → 里之(さとゆき・柳沢やなぎさわ、藩主/俳人) K 2 0 5 7  
 吉蔵(きちぞう・近藤) → 正斎(せいさい・近藤、幕臣/儒/千島探検/歌) B 2 4 5 8  
 吉蔵(きちぞう・亀井/檜村) → 惟明(これあき・檜村/亀井、藩士/地誌) O 1 9 0 8  
 吉蔵(きちぞう・安部井) → 澹園(たんえん・安部井あべい、藩士/儒者) T 2 6 1 8  
 吉蔵(きちぞう・広江) → 秋水(しゅうすい・広江ひろえ、商家/詩人) X 2 1 7 1  
 吉蔵(きちぞう・金子) → 松洞(しょうどう・金子かねこ、儒者/詩人) R 2 2 5 8  
 吉蔵(きちぞう・伏見屋) → 素蛾(そが・瓊舎たまのや、狂歌作者) J 2 5 3 4  
 吉蔵(きちぞう・貞斎) → 泉晁(せんちやう・貞斎ていさい、絵師) G 2 4 3 9  
 吉蔵(きちぞう・川村) → 清纓(せいせい・川村かわむら、国学者) O 2 4 0 7  
 吉蔵(きちぞう・松井) → 益江(ますえ・松井まつい、藩士/本草/歌) S 4 0 6 1  
 吉泰(きちたい・小山田) → 吉泰(よしやす・小山田おやまだ、和算家) H 4 7 8 1  
 L1629 吉太夫(きちだゆう・西にし、通詞西善右衛門の養子)?-? 江中期江戸生/30歳で長崎;1612内通詞、  
 1708小通詞/江戸番小通詞/18通詞目付/45退役、野呂元丈「阿蘭陀本草和解」訳に助力、  
 「阿蘭陀方商売覚帳」著  
 吉太夫(きちだゆう・杉木) → 普斎(ふさい・杉木すぎき/荒木田、茶人) B 3 8 9 9  
 吉太夫(きちだゆう・山口) → 知貞(ともさだ・山口やまぐち、藩士/和算家) P 3 1 4 9  
 吉太夫(きちだゆう・佐藤) → 幹員(もとかず・佐藤さとう、詩人/俳人) C 4 4 2 7  
 吉太夫(きちだゆう・友近) → 駈(あつむ・友近ともちか、国学者・歌人) I 1 0 0 4  
 吉太郎(きちたろう・足立) → 稻直(いなお・足立あだち、国学/書) D 1 1 1 0  
 吉太郎(きちたろう・富増) → 完来(かんらい・大島・富増、藩士/俳人) 1 5 5 5  
 吉太郎(きちたろう・渡部) → 琴溪(きんけい・渡部/渡辺、藩士/儒者) Q 1 6 8 3  
 吉太郎(きちたろう・岩下) → 君恭(くんきやう・岩下いわした、儒者) D 1 7 6 2



- 吉太郎(きちたろう・荒木) → 李谿(りけい・荒木あき、字;儒者/詩/画) 4 9 8 8  
 吉太郎(きちたろう・村上) → 円方(まどかた・村上、国学者/歌人) J 4 0 9 2  
 吉太郎(きちたろう・大石) → 眞虎(まことら・大石おおい、絵師) J 4 0 9 5  
 吉太郎(きちたろう・高橋) → 知足(ともしり・高橋たかはし、藩士/和算家) P 3 1 7 2  
 吉太郎(きちたろう・浅井) → 正賛(まさとし・浅井、藩医者) E 4 0 5 2  
 吉太郎(きちたろう・平野) → 歌右衛門(4世うたえもん・中村なかむら、歌舞伎役者) 1 2 6 5  
 吉太郎(きちたろう・小泉) → 正房(まさふさ・小泉こいずみ、藩士/国学) P 4 0 5 7  
 吉太郎(きちたろう・藤井) → 右門(うもん・藤井ふじい、尊王論) E 1 2 7 5  
 吉太郎(きちたろう・山田) → 政平(まさひら・山田やまだ、藩士/神職) M 4 0 9 2  
 吉太郎(きちたろう・森本) → 信盈(のぶみつ・森本もりもと、国学者/歌) K 3 5 1 8  
 吉太郎(きちたろう・太田) → 保興(やすおき・太田おた/源、教育/歌人) F 4 5 5 4  
 吉太郎(きちたろう・寺田) → 清遠(きよとお・寺田てらだ、歌人) U 1 6 8 0  
 吉太郎(きちたろう・矢島) → 行康(ゆきやす・矢島やじま/海野、神職/国学) H 4 6 3 9  
 吉知(きちち・布施) → 吉知(よしとも・布施ふせ、神職) F 4 7 0 3  
 吉智(きちち・志村) → 吉智(よしのり・志村じむら、国学・歌人) N 4 7 2 5  
 吉忠(きちちゅう・山根) → 吉忠(よしただ・山根やまね、歌人) P 4 7 9 0  
 G1688 吉長(きちちよう) ? - ? 伊勢山田の俳人:1633重頼「犬子集」919・1226、  
 [風は手のほねより出づるあふぎ哉](犬子集;三919/扇の骨と扇製作の骨折を掛る)  
 吉長(きちちよう・浜野) → 吉長(よしなが・浜野はまの、歌人) K 4 7 9 6  
 吉直(きちちよく・曾原) → 吉直(よしなお・曾原そはら、神職) F 4 7 1 5  
 吉通(きちちゅう・山田) → 吉通(よしみち・山田やまだ/高橋、国学/歌) P 4 7 8 6  
 J1645 吉貞(きちてい) ? - ? 伊勢山田の俳人;1633重頼「犬子集」568・1341、  
 [藤こぶにたつるは松の葉針はばり哉](犬子集;二568/瘤治療の針に見立てる)  
 吉貞(きちてい・小倉) → 吉貞(よしさだ・小倉おぐら、和算家) D 4 7 3 7  
 吉迪(きちてき・大月) → 履斎(りさい・大月おおつき/藤原、藩儒) B 4 9 0 5  
 吉迪(きちてき・河津) → 吉迪(よしのぶ・河津かわづ/藤原、鑑定家) F 4 7 6 5  
 吉迪(きちてき・花房) → 吉迪(よしみち・花房はなぶさ、藩士/和算家) H 4 7 4 6  
 吉冬(きちとう・松村) → 吉冬(よしふゆ・松村まつむら、国学者) G 4 7 8 5  
 吉当(きちとう・奥村) → 立山(りつざん・奥村おくむら、暦学/和算家) C 4 9 0 0  
 吉棟(きちとう・西岡) → 訓棟(のりたか・西岡/谷/秦、国学/歌) H 3 5 8 0  
 吉道(きちどう・本多) → 吉道(よしみち・本多ほんだ/新保/妻戸、神職) P 4 7 0 2  
 吉得(きちとく・武藤) → 豊洲(ほうしゅう・武藤むとう、医者) B 3 9 5 0  
 吉徳(きちとく)すべて → 吉徳(よしのり)  
 吉年(きちねん・三俣) → 吉年(よしとし・三俣みつまた、文筆家) E 4 7 9 5  
 B1647 吉智首(きちのおびと・吉田よしだ) ? - ? (68歳没) 奈良期詩人、渡来系、719五位、医術、懐風藻56  
 L1630 吉之丞(きちのじよう・榎まき) ? - 1765 越後長岡藩士/槍術に長ず、「真木軍談」著  
 吉之丞(きちのじよう・檜垣) → 常生(つねお・檜垣ひがき/度会、神職) B 2 9 7 7  
 吉之丞(きちのじよう・千村) → 峒陽(とうよう・千村ちむら/木曾、儒者/詩) H 3 1 8 7  
 吉之丞(きちのじよう・佐瀬) → 林右衛門(りんえもん・佐瀬させ/長峯、勸農家) K 4 9 0 0  
 吉之丞(きちのじよう・小倉) → 正房(まさふさ・小倉おぐら/源、旗本幕臣) M 4 0 0 6  
 吉之進(きちのしん・片柳/石井) → 磯岳(きがく石井いし、絹織業/儒者) I 1 6 4 5  
 吉之助(きちのすけ・檜垣) → 常生(つねお・檜垣ひがき/度会、神職) B 2 9 7 7  
 吉之助(きちのすけ・檜垣) → 貞舎(さだいえ・檜垣/度会、神職) H 2 0 7 5  
 吉之助(きちのすけ・亀田) → 末雅(すえもと・亀田/藤原/度会/福井/黒瀬、神職) F 2 3 3 5  
 吉之助(きちのすけ・美濃部) → 貞休(さだやす・美濃部みのべ/柳沢、幕臣) P 2 0 5 2  
 吉之助(きちのすけ・広田) → 憲寛(のりひろ・広田、藩士/蘭学者) F 3 5 6 6  
 吉之助(きちのすけ・古川) → 氏清(うじきよ・古川、幕臣/和算家) B 1 2 8 3  
 吉之助(きちのすけ・篠山) → 光官(みつなり・篠山ささやま/伴、幕臣/武芸) E 4 1 4 7  
 吉之助(きちのすけ・志村) → 東嶼(とうしよ・志村じむら、儒者/詩文) F 3 1 2 0  
 吉之助(きちのすけ・中垣) → 謙斎(けんさい・中垣なかがき、藩士/儒者) I 1 8 9 7

吉之助(きちのすけ・成瀬) → 種徳(たねのり・成瀬なるせ、藩士/記録) R 2 6 9 4  
 吉之助(吉之介きちのすけ・国友) → 善庵(ぜんあん・国友くにとも、藩士/儒者) E 2 4 8 1  
 吉之助(吉之介きちのすけ・西郷) → 隆盛(たかもり・西郷さいごう、藩士/倒幕) D 2 6 9 2

L1631 吉兵衛(きちびょうえ・竹内たけのうち)?-? 江前期小西行長家臣、文禄慶長の役に戦功、  
 のち豊前小倉の細川家出仕、1634「竹内吉兵衛覚書」著

吉武(きちぶ・蜂須賀) → 吉武(よしたけ・蜂須賀はちすか/源、歌人) E 4 7 1 6  
 吉武(きちぶ・小町谷) → 吉武(よしたけ・小町谷こまちや、歌人) M 4 7 8 1  
 吉武(きちぶ・鳥居) → 吉武(よしたけ・鳥居とりい/平、故実家) K 4 7 6 4  
 吉武(きちぶ・西川) → 吉武(よしたけ・西川にしかわ/平、商家/国学) O 4 7 3 4  
 吉福(きちふく・小町谷) → 吉福(よしとみ・小町谷こまちや、農業/国学) M 4 7 8 0  
 吉平(きちへい・山田) → 良範(りょうはん・山田やまだ、役人/歌人) J 4 9 2 6  
 吉平(きちへい・奈良屋) → 夏北(かほく・梅川/藤原、銅版師) P 1 5 3 6  
 吉平(きちへい・田辺) → 政己(まさおの・田辺たなべ、藩士/記録) B 4 0 5 7  
 吉平(きちへい・金井) → 質直(ただなお・金井、藩士/蝦夷郡代) Q 2 6 2 5  
 吉平(きちへい・横井) → 千秋(ちあき・横井、藩士/国学者/歌) 2 8 0 1  
 吉平(きちへい・森野) → 森月(しんげつ・森野もりの、酒造業/歌人) V 2 2 3 7  
 吉平次(きちへいじ・須賀) → 精斎(せいさい・須賀すが/賀、儒者) B 2 4 5 4

F1683 吉兵衛(きちべえ・二朱判にしゅばん) 1684-1765 82 江戸橋町の幫間; 役者物真似/のち歌舞伎役者、  
 1713初舞台(; 中村吉兵衛)、立役/道化方、大尽舞で当る、1739役者廃業/再び幫間、  
 1736?「新吉原大尽舞(大尽語)」著、  
 [二朱判吉兵衛(; 号)の別号] 中村吉兵衛(初世)/鶯吉兵衛/一其(; 幫間)/西吉、  
 法号; 深入院

吉兵衛(きちべえ・村井) → 貞勝(さだかつ・村井/源、武将/連歌) I 2 0 0 4  
 吉兵衛(きちべえ; 通称) → 長政(ながまさ・黒田くろだ、武将/藩主) F 3 2 7 1  
 吉兵衛(きちべえ・上田) → 重秀(しげひで・上田うえた、馬術家) S 2 1 3 9  
 吉兵衛(2世きちべえ・西) → 玄甫(げんぼ・西にし、通詞/外科医) M 1 8 2 4  
 吉兵衛(きちべえ・黒田) → 光之(みつゆき・黒田、藩主/連歌) F 4 1 0 5  
 吉兵衛(きちべえ・高田) → 宗賢(むねかた・高田たかた、俳人/国学) B 4 2 2 2  
 吉兵衛(きちべえ・亀屋) → 子臈(しこう・亀屋、商家/俳人) T 2 1 3 2  
 吉兵衛(きちべえ・備前屋) → 盈枝(みつえ・吉田よしだ、商家/和学/連歌) K 4 1 9 2  
 吉兵衛(きちべえ・河原) → 貞頼(さだより・河原かわはら、藩士/測量術) C 2 0 6 8  
 吉兵衛(きちべえ・菱川) → 師房(もろふさ・菱川ひしかわ、絵師/縫箔師) H 4 4 8 7  
 吉兵衛(きちべえ・鸚鵡) → 鸚鵡吉兵衛(おうむきちべえ、幫間/軽口) C 1 4 7 1  
 吉兵衛(きちべえ・藤本) → 如臈(じょう・三代瀬川) C 2 2 4 6  
 吉兵衛(きちべえ・森本) → 百丸(ひやくまる・森本、俳人) 3 7 1 2  
 吉兵衛(きちべえ・武藤) → 安清(やすきよ・武藤むとう、幕臣/和学者) G 4 5 8 5  
 吉兵衛(きちべえ・松本/大山) → 為起(ためおき・大山/秦/松本、神職/国学) S 2 6 3 6  
 吉兵衛(きちべえ・菱河) → 師宣(もろのぶ・菱川、絵師) H 4 4 6 6  
 吉兵衛(きちべえ・加佐利屋) → 長吉(ちようきち・福岡、俳人) H 2 8 8 3  
 吉兵衛(きちべえ・伊藤) → 半山(はんざん・伊藤、郷土史家) H 3 6 7 6  
 吉兵衛(きちべえ・富永) → 謙斎(けんさい・富永仲基、思想家) E 1 8 8 3  
 吉兵衛(きちべえ・木崎) → 雅興(まさおき・木崎ささき、酒造業/歌学) B 4 0 5 1  
 吉兵衛(きちべえ・篠山) → 光官(みつなり・篠山ささやま/伴、幕臣/武芸) E 4 1 4 7  
 吉兵衛(きちべえ・榎本屋) → 榎本屋吉兵衛(えのもとやきちべえ、地本問屋) B 1 3 6 6  
 吉兵衛(きちべえ・三河屋) → 三鳥(さんちよう・古今亭、商家/戯作者) E 2 0 5 6  
 吉兵衛(きちべえ・三島) → 景雄(かげお・三島、商家/国学/歌人) 1 5 6 6  
 吉兵衛(きちべえ・白井) → 固(かたし・白井しらい、藩士/歌人) M 1 5 9 4  
 吉兵衛(きちべえ・西郷) → 隆盛(たかもり・西郷さいごう、藩士/倒幕) D 2 6 9 2  
 吉兵衛(きちべえ・原田) → 瓢廬(ひょうろ・原田はらだ、商家/俳人) F 3 7 3 9  
 吉兵衛(きちべえ・鈴木) → 李東(りとう・鈴木すずき、里長/俳人) C 4 9 2 9

吉兵衛(きちべえ・友鳴) → 松旭(しょうぎよく・知足館、読本作者) G 2 2 1 1  
 吉兵衛(きちべえ・志摩) → 好矩(よしかね・志摩/志麻、商家/和算) C 4 7 9 9  
 吉兵衛(きちべえ・橋本) → 竹下(ちくか・橋本/川口、儒者/詩人) C 2 8 7 4  
 吉兵衛(きちべえ・手塚) → 躬保(もとやす・手塚てつか、藩士/農政) E 4 4 5 0  
 吉兵衛(きちべえ・土佐屋) → 星譜(せいふ・河角、俳人) C 2 4 9 2  
 吉兵衛(きちべえ・高木屋/岩越) → 広当(ひろまさ・高木/岩越、和算家) H 3 7 1 4  
 吉兵衛(きちべえ・高木) → 允胤(みつたね・高木、広当男/和算家) D 4 1 8 3  
 吉兵衛(きちべえ・五十嵐) → 久貞(ひささだ・五十嵐いがらし/守本/恵川、神学) M 3 7 0 6  
 吉兵衛(きちべえ・中村) → 政善(まさよし・中村なかむら、酒造業/歌人) M 4 0 0 3  
 吉兵衛(きちべえ・中村) → 孟政(たけまさ・中村なかむら、酒造業/歌人) Y 2 6 6 3  
 吉兵衛(きちべえ・中村) → 政憲(まさのり・中村なかむら、酒造業/歌人) M 4 0 0 2  
 吉兵衛(きちべえ・中村) → 黄山(こうざん・中村なかむら、歌人) R 1 9 0 7  
 吉兵衛(きちべえ・安部) → 行貞(ゆきさだ・安部あべ、藩士/歌人) G 4 6 4 2  
 吉兵衛(吉平きちべえ・藤本) → 如臯(3世じょこう・瀬川せがわ、歌舞伎作者) C 2 2 4 6  
 吉兵衛(きちべえ・大和屋) → 春里(はるさと・掛川かけがわ、商家/国学) J 3 6 9 1  
 吉兵衛(きちべえ・橋本) → 徳光(のりみつ・橋本はしもと、町役/歌人) J 3 5 6 2  
 吉兵衛(きちべえ・今泉) → 泰風(やすかぜ・今泉いまいずみ、国学者) F 4 5 3 2  
 吉兵衛(きちべえ・安原) → 種友(たねとも・安原やすはら、国学/歌人) 2 7 0 8  
 吉兵衛(きちべえ・若狭屋) → 汲泉(きゅうせん・黒田くろだ、酒造業/彫刻) U 1 6 2 8  
 吉保(きちほ・玉木/玉置) → 吉保(よしやす・玉木/玉置たまき、武将) H 4 7 7 3  
 吉保(きちほ・柳沢) → 吉保(よしやす・柳沢/源/松平、藩主/歌) H 4 7 7 5  
 吉甫(きちほ/きちすけ・香山) → 適園(てきえん・香山かやま、儒者/詩人) B 3 0 8 7  
 吉甫(きちほ/きちすけ・滝沢) → 馬琴(ばきん・曲亭きょくてい、読本作者) 3 6 0 7  
 吉甫(きちほ/きちすけ・伊藤) → 冠峰(かんぼう・伊藤、詩文) H 1 5 7 3  
 吉甫(きちほ/きちすけ・広瀬) → 旭荘(きょくそう・広瀬ひろせ、儒者/詩人) 1 6 4 4  
 吉甫(きちほ/きちすけ・河津) → 祐之(すけゆき・河津かわづ/船橋、医者/歌) I 2 3 2 8  
 吉甫(きちほ/きちすけ・杉野) → 紫山(しざん・加治かじ/杉野、儒者/兵法家) D 2 1 7 8  
 吉甫(きちほ・宮路) → 吉甫(よしとし・宮路みやじ、国学者/歌人) P 4 7 4 3  
 吉輔(きちほ・林) → 吉輔(よしすけ・林はやし/桜井、商家/歌人) O 4 7 6 0  
 吉輔(きちほ・宮崎) → 吉輔(よしすけ・宮崎みやざき、神職/国学) P 4 7 3 9  
 吉睦(きちぼく・山田) → 吉睦(よしみつ・山田5世、幕臣/鑑定家) H 4 7 5 5  
 吉丸(きちまる・平野) → 三由(かづよし・平野ひらの、藩士/歌人) V 1 5 5 0  
 吉六(きちむ・波多野) → 西風(にししかぜ・波多野はだの、俳人) 3 3 1 9  
 吉六(きちむ・浅井) → 文友(ぶんゆう・浅井あさい、俳人) G 3 8 5 7  
 吉名(きちめい・物部) → 吉名(良名よしな・物部ものべ、歌人) F 4 7 1 3  
 吉明(きちめい・三田村) → 蘭谷(らんこく・三田村みたむら/藤原、儒/詩人) C 4 8 0 9  
 吉明(きちめい/よしあき・鈴木) → 澶洲(せんしゅう・鈴木/木、儒者) F 2 4 8 9  
 吉明(きちめい・竹村) → 吉明(よしあき・竹村たけむら、郷土史家) B 4 7 9 2  
 吉茂(きちも・田村) → 吉茂(よししげ・田村、名主;農業改良) D 4 7 6 5  
 吉門(きちもん・原) → 吉門(よしかど・原はら/藤原、神職/国学) O 4 7 6 4  
 吉文字屋(きちもんじや) → 庄右衛門(しょうえもん・野田のだ、書肆) F 2 2 6 4  
 F1684 吉弥(初世きちや・上村うへむら)?- ? 江前期延宝(1673-81)頃歌舞伎役者;若女方、吉弥結びの祖  
 吉弥(きちや・福嶋) → 東雄(はるお・福嶋、名主/国学/地誌) G 3 6 0 2  
 吉弥(きちや・飯田/橘) → 守部(もりべ・橘、国学者/歌人) 4 4 2 8  
 吉弥(きちや・服部) → 豊山(ほうざん・服部はっとり、藩士/儒者) B 3 9 0 7  
 吉哉(きちや・桂) → 青洋(せいよう・桂有彰、商家/絵師/狂歌) J 2 4 6 9  
 義茶亭(ぎちゃてい) → 敬雄(けいゆう・きょうおう;法諱・韶鳳;字、天台僧/詩人) D 1 8 6 5  
 吉有(きちゆう・久米) → 吉有(よしあり・久米くめ/水野、神職) M 4 7 5 1  
 奇中(きちゅう) → 奇淵(きえん・菅沼、俳人) 1 6 8 3  
 季仲(きちゅう・藤原) → 季仲(すえなか・藤原ふじむら、廷臣/配流/日記) B 2 3 3 0

- 季仲(きちゆう・賀茂) → 季仲(すえなか・賀茂かも、神職/歌人) B 2 3 3 1  
 季忠(きちゆう・冷泉/藤波) → 季忠(すえただ・藤波ふじなみ/大中臣、神職) B 2 3 8 1  
 季忠(きちゆう・六条) → 季光(すえみつ・六条ろくじょう/源、廷臣/歌) B 2 3 4 9  
 基仲(きちゆう・東園) → 基仲(もとなか・東園ひがしぞの/藤原、廷臣/歌) D 4 4 4 7  
 基忠(きちゆう) すべて → 基忠(もとただ)  
 希中(きちゆう・戸板/新井) → 雨窓(うそう・新井あらい、儒者/詩歌) C 1 2 0 2  
 規儔(きちゆう・飯田) → 百川((ひやくせん・飯田いいた、書家) E 3 7 6 3  
 軌忠(きちゆう・宮城) → 御楯(みたて・宮城みやぎ、藩士/国学/歌) K 4 1 7 1  
 L1632 宜仲(ぎちゆう) ? - ? 近江俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入  
 宜中(ぎちゆう・森) → 宜中(よしなか・森もり甚左衛門、商家/詩) P 4 7 6 4  
 義中(ぎちゆう;字) → 即明(そくめい:法諱、真言律僧) J 2 5 5 4  
 義仲(ぎちゆう/よしなか・田村) → 克成(かつなり・田村たむら、儒/藩政参画) N 1 5 6 9  
 義忠(ぎちゆう・藤原) → 義忠(のりただ・藤ふじわら、廷臣/詩歌人) E 3 5 9 1  
 義忠(ぎちゆう・畠山) → 義忠(よしただ・畠山はたけやま/源、武将/幕臣/歌人) 4 7 1 4  
 義忠(ぎちゆう・黒川) → 義忠(よしただ・黒川くろかわ、藩士/日記) E 4 7 2 3  
 義忠(ぎちゆう・西村) → 義忠(よしただ・西村にしむら/源、国学者) E 4 7 2 6  
 義忠(ぎちゆう・小野) → 義忠(よしただ・小野おの、藩士/日記) E 4 7 2 9  
 義忠(ぎちゆう・山田) → 義忠(よしただ・山田やまだ、国学者) P 4 7 8 8  
 其蝸庵(きちゆうあん) → 杜口(とこう・神沢、幕臣/俳人) 3 1 4 2  
 奇虫齋(きちゆうさい) → 敬直(たかなお・加藤かとう、和漢/考古学) M 2 6 5 2  
 季中子(きちゆうし) → 有一(ゆういち・三浦みうら、俳人) 4 6 5 5  
 義著(ぎちゆう・渡辺) → 義著(よしつぐ・渡辺わたなべ、藩士/歌/実業) Q 4 7 1 4  
 F1685 生重(きちゆう;俳名、初世大和屋甚兵衛/清左衛門、名代初世男) 1652?-170453 歌舞伎名代・立役者、  
 大阪座本、俳諧;1680遠舟「太夫桜」入、「道頓堀花みち」入、追善句集「梓あざき」  
 L1633 寄潮(きちゆう・渡辺わたなべ、通称;万右衛門、別号;旭天舎) ?-1784; 80余歳 名古屋藩士/  
 舟手定詰御殿番衆役、俳人;露川門、佐屋俳壇の古老として活躍/画;芭蕉像を描く、  
 1771「はるの道中」著、3回忌追善集「春の雪」  
 B1648 机鳥(きちゆう・李雪斎) ? - ? 江中期江戸雑俳点者;前句付、西舎住、  
 露丸・川柳(初代)と並称される、1765「春楽三評」(錦組連)、「誹風柳多留四篇」跋、  
 「机鳥評万句合」著、「誹風柳多留拾遺」に選句入  
 B1649 其蝶(きちゆう) ? - ? 上州住の俳人、1774「多胡碑集」ト全と共編  
 L1634 其朝(きちゆう・磯辺、通称;長太夫、藩士平井一快[其両]男) ?-? 筑前篠栗俳人:蝶夢門、未両の弟、  
 1793父3忌追善「ささ栗の露」:兄未両と共編、1805「ふくるま」編  
 父 → 其両(きりょう・久野/平井一快、藩士/俳人) H 1 6 6 9  
 兄 → 未両(みりょう・平井一益、俳人) 4 1 4 8  
 L1635 其兆(きちゆう・大谷、別号;文寿坊/竹旭廬/百柳舎) 1799-188082 美濃大垣俳人;獅子門16世宗匠、  
 東美濃・南信濃を歴遊/1842(天保13)大坂から近畿中四国を行脚/67(慶応3)北信濃を行脚、  
 行脚の度に俳書を編刊;1842「夏座敷」67「飛ぶ蝶」、「早咲の文」著  
 規長(きちゆう・甘露寺) → 規長(のりなが・甘露寺かんろじ、廷臣/故実) F 3 5 3 5  
 喜長(きちゆう;俳名) → 長十郎(4世ちちゆうじゅうろう・沢村、歌舞伎役者) I 2 8 7 8  
 喜徴(喜澄きちゆう・馬場) → 若水(じゃくすい・馬場ばば、藩士/詩) W 2 1 0 1  
 季長(きちゆう) すべて → 季長(すえなが)  
 貴長(きちゆう/たかなが・田中) → 与清(ともきよ・小山田おやまだ/高田、国学者) 3 1 6 0  
 基長(きちゆう・東園) → 基長(もとなが・東園ひがしぞの/藤原、廷臣/日記) D 4 4 5 2  
 基長(きちゆう・小笠原) → 基長(もとなが・小笠原おがさわら、藩士/記録) D 4 4 5 3  
 基長(きちゆう・藤原) → 基長(もとなが・藤原ふじわら、廷臣/歌人) D 4 4 4 8  
 希斎(きちゆう;初法諱) → 周斎(しゅうちゆう;道号・大周、臨濟僧/詩) I 2 1 1 1  
 城長(きちゆう・三芳野) → 順義(ゆきよし・沼田ぬまた、医術/国学) 4 6 2 7  
 帰潮(きちゆう・堀田) → 芋洗(うせん・一口舎/堀田、川柳作者) E 1 2 2 8  
 輝長(きちゆう・東坊城) → 輝長(てるなが・東坊城ひがしぼうじょう、廷臣/文章博士) C 3 0 8 2



- 輝澄(きやう・池田) → 輝澄(てるずみ・池田いけだ、藩主/日記) C 3 0 7 7  
 亀潮(きやう・入江) → 樵風(しょうふう・入江、製塩業/俳人) B 2 2 3 7  
 吉容(きやう・都筑) → 吉容(よしとみ・都筑つき/志村、商家/歌人) N 4 7 2 6  
 L1636 義澄(ぎやう;法諱) ? - ?36歳没 江初期大和唐招提寺能満院の律宗僧、  
 同寺の歴史故事に精通、1701「招提千歳伝記」編  
 U1610 義肇(ぎやう;法諱、号;叩月庵こうげつあん) 1666-1738 73 京の真宗仏光寺派西徳寺僧/歌人  
 F1686 魏朝(巍朝ぎやう・飯田いいた) ?- ? 儒/詩;千葉芸閣うんかく[1727-92]門、  
 1777「芸閣先生文集」(千葉玄之[芸閣]著、飯室昌符編校、飯田巍朝が出典略注)  
 U1609 義超(ぎやう;法諱・字;恭観) ?-1795 出羽大館の僧/出羽秋田郡の真言宗一乗院17世住持  
 宜重(ぎやう・笠井) → 宜重(のぶしげ・笠井、備後文筆家) B 3 5 6 0  
 宜長(ぎやう・斎藤) → 宜長(のぶなが・斎藤、農業/和算家) C 3 5 5 4  
 宜長(ぎやう・武) → 宜長(よしなが・武たけ、商家/歌人) N 4 7 8 1  
 義長(ぎやう・仁木) → 義長(よしなが・仁木につき/源、武将/守護/連歌) F 4 7 2 5  
 義長(ぎやう/よしなが・永井) → 鳳朗(ほうろう・田川たがわ/永井、俳人) 3 9 5 8  
 義長(ぎやう/よしなが・二山) → 時習堂(じしゅうどう・二山ふたやま、儒者) D 2 1 9 1  
 義長(ぎやう・牧野) → 義長(よしなが・牧野まきの、製菓/歌人) P 4 7 0 7  
 義朝(ぎやう・源) → 義朝(よしとも・源みなもと、武将/平治乱) F 4 7 0 0  
 義張(ぎやう・島津) → 華山(かざん・島津しまづ、儒者/詩) H 1 5 4 5  
 義暢(ぎやう・宗) → 義暢(よしなが・よしのぶ・宗そう、藩主) N 4 7 6 2  
 義暢(ぎやう・戸村) → 義暢(よしのぶ・戸村とむら、藩士/歌人) N 4 7 9 8  
 義徴(ぎやう・神野) → 嘉功(よしのり・神野じんの、藩士/武術) F 4 7 9 5  
 義澄(ぎやう・足利) → 義澄(よしずみ・足利/源/堀越、室町将軍) D 4 7 8 2  
 其蝸庵(きやうあん) → 杜口(とこう・神沢かざね、与力/俳人) 3 1 4 2  
 帰鳥園(きやうえん) → 邦彪(くにたけ・阿保あほ/中川、国学/画) D 1 7 9 3  
 義暢室(ぎやうしつ・宗) → 貞心院(ていしんいん、宗義暢室元姫/歌) F 3 0 1 1  
 季直(きやく・源) → 季直(すえなお・海老名/源、幕臣/連歌) F 2 3 5 2  
 季直(きやく・平住) → 専庵(せんあん・平住ひらすみ、医/儒/本草) E 2 4 7 9  
 貴直(きやく・植木) → 貴直(たかなお・植木うえき、神職) V 2 6 8 2  
 義直(ぎやく・一色) → 義直(よしなお・一色いっしき、武将/歌人) F 4 7 1 4  
 義直(ぎやく・徳川) → 義直(よしなお・徳川/源/松平、尾張初代藩主) 4 7 2 0  
 義直(ぎやく・宮部) → 義直(よしなお・宮部みやべ、藩士/歌人) F 4 7 1 6  
 義直(ぎやく・宮原) → 義直(よしなお・宮原みやはら、旗本/高家/歌) K 4 7 5 8  
 義直(ぎやく・竹下) → 義直(よしなお・竹下たけした、大庄屋/家訓) F 4 7 1 7  
 L1637 吉理(きちり/きつり/きり) ? - ? 連歌;1452「宝徳千句」連衆  
 吉里(きちり・柳沢) → 吉里(よしさと・柳沢/源/松平、藩主/歌) D 4 7 4 1  
 吉利(きちり・山田) → 吉利(よしとし・山田浅右衛門7世、後藤、幕臣;首斬職) E 4 7 9 3  
 C1651 吉隆(きちりゆう) ? - ? 伊勢山田俳人、1633重頼「犬子えのこ集」552、  
 [あたゝかに成るや手をのすかぎわらび](犬子集;二552/鉤が手に成長する早蕨)  
 吉隆(きちりゆう・谷岡) → 吉隆(よししたか・谷岡たにおか、藩吏/歌学者) D 4 7 9 8  
 吉倫(きちりん・志賀) → 吉倫(よしみち・志賀しが、藩士/和算家) H 4 7 4 3  
 吉令(きちれい・加藤) → 吉啓(よしひろ・加藤らかとう、藩士/国学者) M 4 7 1 2  
 吉連(きちれん・山田) → 吉連(よしつら・山田やまだ、神職) E 4 7 7 6  
 吉郎(きちろう・藤井) → 竹外(ちくがい・藤井、藩士/鉄砲/詩人) C 2 8 7 8  
 吉郎(きちろう・広江) → 秋水(しゅうすい・広江ひろえ、商家/詩人) X 2 1 7 1  
 L1638 吉郎右衛門(きちろうえもん・米谷まいや、名;貫通つらみち、貫年男) 1824-69 刑死 46 仙台藩士/兵学、  
 歌人;冷泉為理ためただ門、戊辰戦争で中隊頭で活躍;戦功、  
 1869(明治2)帰郷後に敗走中の旧幕府側兵士を厚遇;謀反と誣告され捕縛;斬刑、  
 1855「五段座備等」著  
 吉郎右衛門(きちろうえもん・杉本) → 近直(ちかなお・杉本すぎもと、商家/国学) M 2 8 7 1  
 吉郎右衛門(きちろうえもん・檜崎) → 員輸(かずもと・檜崎ならさき、歌人) V 1 5 2 7

吉郎次(きちろうじ・大館)	→ 信郷(のぶさと・大館おだち、国学者)	H 3 5 7 0
吉六(きちろく/きちむ・浅井)	→ 文友(ぶんゆう・浅井あさい、俳人)	G 3 8 5 7
吉郎兵衛(きちろべゑ・福田)	→ 敷雄(しきお/のぶお・福田ふくだ/瀬木、歌文)	P 2 1 9 8
吉郎兵衛(きちろべゑ・中川)	→ 友直(ともなお・中川なかがわ、国学/歌人)	V 3 1 9 0
希棟(きちん・速水)	→ 宗達(そうたつ・速水はやみ、医者/茶人)	I 2 5 3 9
基珍(きちん・大沢)	→ 基躬(もとみ・大沢おおさわ、幕臣/高家)	J 4 4 5 3
基陳(きちん・石山)	→ 基陳(もとのぶ・石山いしやま、権大納言)	J 4 4 2 7
軌鎮(きちん・土川)	→ 軌鎮(のりしづ・土川つちかわ、役人/国学)	J 3 5 1 8
喜珍(きちん・南雲)	→ 喜珍(よしはる・南雲なぐも/藤原、神職)	O 4 7 1 1
輝珍(きちん・橋野)	→ 輝珍(てるよし・橋野はしの、商家/国学)	F 3 0 1 9

F1687 **宜珍**(ぎちん/よしはる/よしたか・上田うえだ/本姓;滋野、武弼男)1755-1829<sup>75</sup> 肥後天草高浜村庄屋、儒;藪孤山門、国学・歌;本居大平門、測量術;伊能忠敬門、陶業家、「天草風俗」編、1802「天草島鏡」06「天草風土考」、「天草里言」「天草郡年表時録」著、歌;大平撰「八十浦の玉」下巻入;

[天地をはかりつくして万代の末につたへむ道はこの道]、  
 (八十浦;913/この天草に測量に来た伊能忠敬に会い詠む)

[宜珍の通称]通称;源作/源太夫、法号;俊倫院

義鎮(ぎちん/よしげ・大友)	→ 宗麟(そうりん・大友おおも、戦国武将)	D 2 5 1 9
義珍(ぎちん・島津)	→ 義弘(よしひろ・島津しまづ、武将/記録)	G 4 7 5 5
義陳(ぎちん・上杉)	→ 義陳(よしつら・上杉うえずぎ、高家旗本/歌)	Q 4 7 1 8
義陳(ぎちん・救二郷)	→ 義陳(よしのぶ・救二郷くにさと、藩士/和学)	M 4 7 5 2
義陳(ぎちん・大井)	→ 義陳(よしのぶ・大井おおい、藩士/歌人)	F 4 7 6 2
義陳(ぎちん・竜田)	→ 義陳(よしのぶ・竜田たつた、国学者/歌人)	N 4 7 8 5
宜陳(ぎちん・岡崎)	→ 宜陳(よしのぶ・岡崎おかさき、藩士/測量)	F 4 7 6 7

L1639 **喜津**(きつ・岡谷おかや、別号;茂登もと、岡谷門蔵勝熙の女)1777-1857<sup>81</sup> 上州館林の教育者、漢学、「教育いろは歌」著

吉(きつ) は	→ 吉(きち) も参照	
伎都(きつ・建部)	→ 紫苑(しおん、綾足の妻、歌/絵)	B 2 1 2 8
佶(きつ・福田)	→ 半香(はんかう・福田ふくだ、絵師)	H 3 6 5 9
佶(きつ・津島)	→ 北溪(ほくけい・津島つしま、医者/漢学)	E 3 9 6 1

F1688 **橘庵**(きつあん・北山きたやま、名;彰、元昌男/本姓;橘)1731-91<sup>61</sup> 河内の医者;橘元泰門、儒者;柳沢淇園門、徂徠古文辞学、「橘庵医牘」、1764「鶏壇嚶鳴」80「有菜集」著、「橘庵先生詩鈔」(;門人杏庵(伯裳)編)、

[橘庵の字] 元章/世美/友松子[長松子]、従兄;七僧(しちそう)、弟;元寧、息子;元恭

I1664 **橘庵**(きつあん・田宮たみや、名;純/悠[有])1753?-1815<sup>63?</sup> 京呉服商/23歳頃放蕩;破産;放浪、1785大阪住;文筆業、儒;原田越斎・久米訂斎門、儒書国書の講釈業、洒落本/随筆作者、1785「粹字瑠璃」86「つべこべ草」89「絹布重宝記」1801「橘庵漫筆」05「嗚呼矣おこたり草」著、1805「絵本歳時記」「随一小謡摩訶大成」編/06「字引大全」編/07「郭中掃除」33「愚雜俎」外多数、[橘庵(;号)の字/通称/別号]字;仲宣[中宣]ちゅうせん/鳳卿、通称;和泉屋太助/由蔵/朽索、別号;盧橘庵、楚洲(素州/素秀)/東隅(ゆう)子、大瘦堂/玉水館/玄卜/魯佶/呂佶/玉江漁隱/、橘潜夫/白舟子

佶庵(きつあん・三井)	→ 高敏(たかとし・三井みつゐ、商家/国学)	D 2 6 2 1
橘庵(きつあん・群牛)	→ 六窓(ろくそう・橘庵、俳人)	5 2 9 6
橘庵(きつあん)	→ 田鶴丸(たづまる・蘆辺あしべ/岩田、狂歌)	2 6 3 9
橘庵(きつあん・伊藤)	→ 篤吉(とよし・伊藤いとう、和算/航海術)	O 3 1 2 1
橘庵(きつあん・奥寺)	→ 山厚(さんこう・奥寺おくでら、藩士/俳人)	M 2 0 1 7
橘庵(きつあん・歌川)	→ 貞房(さだふさ・歌川/大沢、絵師)	F 2 0 5 1
亀槌(きつゐ・国司/浦)	→ 元襄(もとまさ・浦うら/国司、家老/日記)	E 4 4 3 2

T1647 **喜津一**(きついち・板花いたはな/板鼻、旧姓;福田、)1652-1721<sup>70</sup> 江戸の鍼医;杉山流/幕府奥医師、板花検校説話;某侯に随い姥捨山下に至り侯月色皎潔の奇景に感動;汝も好懐ありやと;

その問いに板花は「我が心慰めかねつ更科や姥捨山に照る月を見で」と濁音で献ず、  
但し説話は板津検校とする説もある

- 吉一(きついち・瀬口) → 善和(よしかず・瀬口せぐち、藩茶坊主/歌) N 4 7 5 2
- L1640 橘陰(きついん・小橋こばし、名; 勲、静学男) 1824-79<sup>56</sup> 讃岐香川郡円座村儒者; 岡内綾川・藤森弘庵門、  
詩文、1858江戸で私塾開、幕府内情を探索; 兄香水らに報告/越後与板藩賓師、「橘陰集」著、  
[橘陰の字/通称]字; 季績/小績、通称; 多助、香水/木内竜山の弟
- 吉員(きついん・小出) → 君徳(くんとく・小出こいで、医者/解剖) C 1 7 1 7
- 吉員(きついん・百瀬) → 吉員(よしかず・百瀬ももせ、国学/歌人) P 4 7 6 1
- 吉尹(きついん・東) → 恒軒(こうけん・東ひがし、儒者) G 1 9 3 0
- 吉蔭(きついん・下田) → 吉蔭(よしかげ・下田しもだ、国学/歌人) N 4 7 3 5
- 吉胤(きついん) すべて → 吉胤(よしたね)
- 橘陰(きついん・橋村) → 正環(まさあきら・橋村はむら/中山、和漢学) R 4 0 6 6
- 橘隠亭主人(きついでいしゅじん) → 鳳岡(ほうこう・林、幕府儒官/大学頭) 3 9 5 3
- 橘蔭道(きついんどう) → 有功(ありこと・千草、廷臣/歌人) B 1 0 6 8
- 橘隠老人(きついでんろうじん) → 花叔(かしゆく・春日かすが、俳人) L 1 5 8 8
- 季通(きつう) すべて → 季通(すえみち)
- 喜通(きつう・池田) → 喜通(よしみち・池田/松平、藩主) K 4 7 6 0
- 貴道(きつう・森) → 貴道(たかみち・森もり、神職/国学) 2 7 0 0
- 幾通(きつう・稲葉) → 幾通(ちかみち・稲葉いなば、藩主/日記) B 2 8 8 7
- 義通(ぎつう・高) → 義通(よしみち・高こう、薬師/万葉歌人) H 4 7 3 1
- 義通(ぎつう・橘) → 義通(よしみち・橘たちばな、廷臣/歌人) H 4 7 3 3
- 吉英(きつえい/よしひで?・宮) → 徐々坊(じょじょぼう・宮みや、俳人) M 2 2 4 6
- B1650 橘園(きつえん・三宅みやけ、名; 邦/字; 元興) 1767-1819<sup>53</sup> 加賀儒者; 1802皆川淇園門、漢学/字義研究、  
1811対馬で朝鮮通信使と唱和/12京で門弟教育、1812「鶴林情盟」「薄遊漫載」16「助語審象」、  
「威如齋詩文集」「聖学綱」「莊子辨疑」「論語解」「論語定書」、「橘園遺文初集」外著多数、  
[橘園の通称/別号]通称; 又太郎、別号; 威如齋/不知老齋、諡号; 文景先生
- L1641 橘園(きつえん・奥田おくだ、名; 誠美/字; 原卿、勾堆男) 1783-1819<sup>37</sup> 仙台藩士/勘定奉行、詩、  
「橘園詩鈔」著、[橘園の通称]民卿/市郎太夫
- F1689 橘淵(きつえん・畑はた) ? - ? 江後期漢学者/詩人、  
1833(天保4)王漁洋「漁洋詩話」の校閲; 和刻本刊行
- V1634 橘園(きつえん・水谷川みやがわ、近衛忠熙8男) 1848-1923<sup>76</sup> 母; 薩摩藩主島津斉興妹の興子、  
1852(5歳)奈良の一乗院門跡法嗣(42代)/興福寺別当; 法印大僧正、  
1868(慶応4)還俗、69華族; 興福寺系還俗の華族は総称し奈良華族と称される、歌人、  
1895[水谷川]家名を賜う; 春日神社宮司となる、妻; 堯子(大谷光勝女/歌人)、恭子の父、  
[橘園(;号)の名/通称/法名]名; 忠起<sup>ただおき</sup>、通称; 起丸、法名; 応昭
- 橘園(きつえん) → 斉裕(なりひろ・蜂須賀はちすが、藩主/歌人) I 3 2 0 8
- 橘園(きつえん) → 一丸(いちまる・十方舎、戯作者) G 1 1 4 1
- 橘園(きつえん) → 元紹(もとつぐ・古川ふるかわ、医者) I 4 4 5 5
- 橘園(きつえん) → 栄足(よしたり・浅野、能楽師/能楽研究) E 4 7 4 3
- 橘園(きつえん) → 政武(まさたけ・北川きたがわ、国学者/画) D 4 0 4 2
- 橘園(きつえん) → 清魚(きよな・広田ひろた/度会/宇治、神職) V 1 6 0 9
- 橘園(きつえん) → 資風(すけかぜ・白石正一郎、国学/勤王) G 2 3 1 6
- 橘園(きつえん) → 重光(しげみつ・大場おおば/藤原、神職/歌) N 2 1 8 1
- 橘園(きつえん) → 尋枝(ひろえ・田島たじま、商家/国学者) K 3 7 0 3
- 橘垣内(きつえんない・賀島) → 安河(やすかわ・賀島かしま、国学者) B 4 5 2 1
- L1642 橘翁(きつおう・平野ひらの、名; 重猷、通称; 川村容庵) 1784-1867<sup>84</sup> 江戸の心学者/1842三舎印鑑受領、  
1859参前舎8世舎主、39「心学道の話」編/65「心学聞取法門集」「心学孝行種」著、  
「石門性理叢書」編/「孝行道の栞」「孝のしをり」「心学一枚道話」著、「心学道如是我聞」編
- 橘翁(きつおう・寺部) → 宣光(のぶみつ・寺部てらべ/大伴、神職/歌) G 3 5 4 4

- 侘翁(きつおう・横井) → 久時(ひさとき・横井よこい、藩士/歌人) M 3 7 3 1  
 吉王(きつおう・四室) → 四室吉王(しつきつおう、童/歌人) a 2 1 4 7  
 吉屋(きつおく・下里/下郷) → 蝶羽(ちょうう・下郷/下里、醸酒業/俳人) H 2 8 2 6  
 喫霞楼(きつかりう・柳河) → 春三(しゅんさん・柳河/西村/栗本、洋学者) K 2 1 2 1  
 吉幹(きつかん・武村) → 南窓(なんそう・武村たけむら、書家) J 3 2 2 4  
 吉寛(きつかん・中村) → 仏庵(ぶつあん・中村、書家) D 3 8 2 4  
 橘館(きつかん) → 専庵(せんあん・平住、医者/儒者/本草) E 2 4 7 9  
 吉享(きつきょう・郡山) → 吉享(吉享よしゆき・郡山こおりやま、故実家) I 4 7 0 1  
 橘其葉(きつきよう) → 文豊(ふみとよ・長瀬ながせ/斎藤、国学者) D 3 8 9 5  
 吉近(きつきん・高田) → 吉近(よしちか・高田たかだ、藩士/地誌) E 4 7 5 6  
 V1676 **吉鶏**(きつけい・高橋たかはし、)? - ? 江前期;上方の歌人、  
 1670下河辺長流[林葉累塵集]2首入、  
 [秋ごとに咲かではあらぬ花なれど猶めづらしき庭の初萩](林葉累塵;秋418)  
 橘軒(きつけん) → 一洞(いちどう・杏きょう/村田、医/書) G 1 1 3 2  
 吉彦(きつげん・加藤) → 吉彦(よしひこ・加藤かとう、神職/国学/歌) M 4 7 1 1  
 橘軒散人(きつけんさんじん) → 元甫(げんぼ・辻原、儒/仮名草子) D 1 8 0 1  
 B1651 **吉子**(きつこ・村上むらかみ、字;一静、長治女) 1641-1712? 京の国学者/詩歌人、近衛家出仕;左近局、  
 徳川光圀の妻泰姫(近衛信尋養女尋子)に随従し水戸住、家集「蝶夢集」著、  
 [吉子の通称/号]通称;左近局、号;習之(;剃髮号)  
 吉公(きつこう・寺島) → 天祐(てんゆう・寺島たらしま、儒者) E 3 0 4 4  
 吉光(きつこう・土佐) → 吉光(よしみつ・土佐/藤原、絵師) H 4 7 4 9  
 吉光(きつこう・渡辺) → 吉光(よしみつ・渡辺わたなべ、武将) H 4 7 5 1  
 吉皓(きつこう・吉田) → 宗彦(そうたつ・吉田よしだ、幕府医官) I 2 5 3 8  
 橘香舎(きつこうしゃ) → 忠直(ただなお・近藤こんどう、神職/国学) V 2 6 3 6  
 橘香亭瓶吾(きつこうていへいご) → 瓶吾(へいご・橘香亭、断本作者) 2 7 2 7  
 橘湖斎白龍(きつこさいはくりゅう) → 白竜(はくりゅう・橘湖斎きつこさい、華道) E 3 6 0 9  
 橘湖亭(きつこうてい) → 白竜(はくりゅう・橘湖斎きつこさい、華道) E 3 6 0 9  
 L1643 **吉斎**(きつさい・奥山おくやま、別号;北堂山人)?-? 江後期1844-48頃大阪堂島儒者・易学、  
 「範圍図口訣」編  
 橘斎(きつさい・三宅) → 嘯山(しょうざん・三宅、商家/詩/俳人) S 2 2 5 0  
 橘斎(橘西きつさい・野村) → 秋足(あきたり・野村のむら、藩士/国学) D 1 0 5 0  
 橘斎(きつさい・野本) → 雪巖(せつがん・野本のもと、藩儒/詩人) E 2 4 1 2  
 橘斎(きつさい・大黒) → 泰然(たいぜん・大黒おおぐろ、医者/歌・俳) W 2 6 1 2  
 橘斎(きつさい・田中) → 世文(つぐふみ・田中たなか、医者) F 2 9 9 2  
 S1647 **橘三**(きつさん) ? - ? 安藝広島の俳人、  
 [日と月と左右において爆竹かな](短冊)  
 橘山(きつざん・山鹿) → 高厚(たかあつ・山鹿、剣術家/狂歌/俳) L 2 6 5 3  
 橘山(きつざん・波多野) → 正秀(まさひで・波多野はたの、神職) G 4 0 6 7  
 吉山(きつざん;道号) → 明兆(みんちよう;法諱・吉山;道号、臨濟僧/絵師) G 4 1 7 0  
 F1690 **吉子**(きつし・小野おの) ? - ? 平安期女官/仁明天皇の更衣、歌人、「小町」説あり  
 1621 **桔子**(かきこ・よこ・大宮院、西園寺実氏女) 1225-92? 後嵯峨院中宮、歌;「風葉集」撰を命令か  
 F1691 **侘子**(きつし、京極院、藤原実雄女) 1245-1272早世? 龜山天皇皇后、後宇多母、女房に;京極院内侍  
 B1652 **吉子**(きつし・洞院とういん/鷹司・従三位、洞院公賢さんかた[1291-1360]女)?-? 南北期歌人、鷹司師平室、  
 新玉津島30首入、勅撰2首;新拾880/新統古1478、藤葉集2首入、  
 [さらにまた立ちおくれじとしたふかな燃えし煙の跡を尋ねて](新拾遺;哀傷880)、  
 [難波渦みじかき葦のよの程にながめはすてじ夏の月影](藤葉;夏145)  
 S1654 **吉之**(きつし) ? - ? 伊賀上野の俳人;1672宗房(芭蕉)「貝おほひ」入、  
 [郭公ほととぎす谷から峯からこんゑをせい](貝おほひ;十一番左、  
 こんゑをせい(は)は声を出せの意/木遣音頭の歌詞;山から峰から谷から底から…)  
 F1692 **吉氏**(きつし) ? - ? 江前期俳人・松堅門、1662松堅「俳集良材」入



- F1693 **きつし** ? - ? 江中期俳人、1767丸窓「豆鉄炮」五句撰入  
 吉子(きつし→ねね・杉原) → 高台院(こうだいいん、秀吉正室) K 1 9 4 8  
 吉子(きつし・村上) → 吉子(きつこ・村上むらかみ、国学/詩歌) B 1 6 5 1  
 橘子(きつし・酒屋の) → 酒屋の橘子(さかやのきつし) F 2 0 1 0  
 橘次(きつじ・楠瀬) → 小枝(さえ・楠瀬くすせ、医者/歌人) O 2 0 3 4  
 橘治(きつじ・野田) → 治兵衛(次兵衛じへえ・橘屋、蕉門書肆) G 2 1 1 3  
 橘子叔(きつししゅく) → 恰(ゆたか・飯塚/平元、藩士/歌/狂詩) G 4 6 0 7  
 橘枝堂(きつしどう、儒者) → 沢(たく・河原、歌/嘶本) E 2 6 1 6  
 橘舎(きつしや・たちばなのや・服部) → 正樹(昌樹まさき・服部、藩士/国学/歌) C 4 0 2 7
- F1694 **橘洲**(きつしゅう・向井、三省) ? - ? 儒:順庵門:木門十哲の1/詩:1721用拙斎「八居題詠」入  
 1622 **橘洲**(きつしゅう・唐衣かごろも、小島こじま/本姓藤原/修姓藤、名;恭從/隆之/謙之) 1743-1802 60 幕臣;  
 田安家家臣/四谷住、和漢学;内山椿軒門/歌;萩原宗固門、狂歌;1769自宅で狂歌会、  
 四谷連の総帥、1770「明和十五番狂歌合」催(判者;椿軒/宗固)、82「狂歌若葉集」編、  
 家集;1800「金声集」02「狂歌酔竹集」、「狂歌南北集」「狂歌歳暮集」「狂歌二妙集」編、  
 「唐衣橘洲諺百首」/「狂歌三十六題集」編、「狂歌うひまなび」、万載/後万載入:  
 [菜もなき膳にもあはれは知られけり鳴焼茄子の秋の夕暮](本歌;西行の三夕の歌)  
 [物思へば川の花火も我が身よりぼんと出でたる玉やとぞ見る](万載狂歌集;恋)  
 (本歌;物思へば沢の蛸も我が身よりあくがれ出づる玉かとぞ見る[和泉式部])  
 [唐衣橘洲の字/通称/別号]字;子興/温之、通称;源之助、別号;橘実副/酔竹庵
- L1645 **橘洲**(きつしゅう・菅かん、名;定模/字;公規、定重男) 1810-1900 長寿 91 伊予小松藩士、  
 儒者;藩校養正館入学;近藤篤山門/昌平黌古賀侗庵門、武技;佐藤一斎門/甲州流軍学修得、  
 養正館学頭、詩、「唸酔庵詩稿」著  
 [橘洲の通称/別号]通称;善太郎、別号;芙蓉山人  
 橘州(きつしゅう;号) → 法海(ほうかい;法諱、真宗僧) 3 9 2 6  
 橘洲(きつしゅう;号) → 寿桂(じゅけい;法諱・月舟、臨濟僧/五山文学) I 2 1 6 3  
 橘洲(橘州きつしゅう・畑) → 柳泰(りゅうたい・畑はた/上林、医者/詩) F 4 9 1 1  
 吉周(きつしゅう・千本松) → 吉周(よしちか・千本松せんぼんまつ/菅原、神職/国学) N 4 7 6 0
- S1672 **吉重**(きつじゅう) ? - ? 江前期上方の俳人、  
 1673西鶴「生玉万句」第九衛ちどり脇句入、  
 [小夜風さむしむかふ看台かんたい](衛脇句/看台;見台けんたい、  
 発句夕夢;敷島しきしまや生玉の池友衛ともちどり)
- L1646 **橘樹園**(きつじゅえん・早苗さなえ、黒田くろだ、名;懿) ?-1855 相模橘樹郡出身/江戸で質商、歌人、  
 狂歌;六樹園(石川雅望)門、五側社中の判者、1824「吉原細見」39「花五百首」、  
 「桜花五百首」「花の十文附十論考」、「みやこの都々連」編、  
 [橘樹園早苗の字/通称]字;徳雅[賀]、通称;山田屋勝右衛門、法号;橘樹院  
 橘秀才(きつしゅうさい) → 逸勢(はやり・橘、書;三筆、詩文) 3 6 2 6  
 吉春(きつしゅん・横山) → 吉春(よしはる・横山よこやま、古流兵法家) G 4 7 0 7  
 橘女(きつじょ・建部) → 紫苑(しおん、綾足の妻、歌/絵) B 2 1 2 8  
 吉祥(きつしやう・武藤) → 虎峰(こほう・武藤むとう、藩士/儒者) G 1 9 6 7  
 吉章(きつしやう・高井) → 立志(2世りゅうし・高井たかい、俳人) E 4 9 2 7  
 吉章(きつしやう・平尾) → 数也(すうや・平尾ひらお、藩茶道方茶人) F 2 3 3 2  
 吉勝(きつしやう・藤田) → 吉勝(よしかつ・藤田ふじた、和算家) C 4 7 8 5  
 吉勝(きつしやう・山川) → 吉勝(よしかつ・山川やまかわ、俳人) I 4 7 3 1  
 橘廂(きつしやう・宍戸) → 眞激(まさもと・宍戸ししど/林、藩士/国事) H 4 0 9 6
- L1647 **橘襄**(きつじやう) ? - ? 俳人;1686仙化「蛙合」入:[蓑捨てし零にやどる蛙哉]  
 橘上(きつじやう) → 澄清(すみきよ・橘たちばな、廷臣/延喜式編) D 2 3 8 9  
 吉祥子(きつしやうし) → 妙音(みよおん;法諱、天台宗安楽律僧) G 4 1 2 0  
 橘次郎(きつじらう・奥村) → 尚寛(なおのぶ/なおひろ・奥村おくむら、藩年寄/歌) C 3 2 0 2  
 吉親(きつしん・中村) → 吉親(よしちか・中村なかむら、歌人) Q 4 7 2 9  
 吉親(きつしん・下里) → 知足(ちそく・下里しもさと、醸酒業/俳人) E 2 8 6 1

- 吉人(きつじん・安部) → 吉人(よしひと・安部あべ、廷臣/漢学/詩) G 4 7 4 3
- I1665 橘隧(きつすい・早野はやの、名;正己/字;子発、仰斎男)1778-1831<sup>54</sup> 大阪の儒者:中井竹山/履軒門、父継承;南堀江で講説業、「橘隧骨董」「聞記」「浴風雑詠」「水石画譜」編、「橘隧先生詩集」著、[橘隧の通称/別号]通称;三太郎/義三/義蔵、別号;反求/反堂/流水、諡号;節孝先生
- 吉政(吉正きつせい・平内)→ 吉政(吉正よしまさ・平内/堀内へのうち、工匠) G 4 7 9 8
- 橘井居(きつせいきよ) → 麦二(ばくに・小島こじま、鋳物師/俳人) D 3 6 7 8
- 橘井斎(きつせいさい) → 玄瑞(げんずい・近藤こんどう、医者) K 1 8 3 3
- 橘生堂(きつせいどう) → 兎月(とげつ・手塚、読本作者/俳) L 3 1 6 4
- 橘雪庵貫嵐(きつせつあんかんらん)→ 藤助(とうすけ・福松、浄瑠璃作/俳) F 3 1 8 8
- 01632 吉川(きつせん) ? - ? 江戸前期甲州の俳人、1694不角「へらず口」入
- L1648 橘仙(きつせん、平野屋、善兵衛)?-? 京室町の書肆橘仙堂主人/俳人;几董門、蕪村俳書を刊行、1774美角「ゑぼし桶」序/83維駒「五車反古こしやぼうぐ」入、[あながちにくれなみならぬ紅葉哉](五車反古;394/紅葉は必ずしも一色ではない)
- 橘仙(きつせん;法諱) → 独遊(どくゆう;道号・橘仙、曹洞僧) L 3 1 5 4
- 橘宣(きつせん) → 倚平(よりひら・橘たちばな、廷臣/詩人) J 4 7 5 9
- 吉仙(きつせん・小幡) → 太室(たいしつ・小幡おばた、医者/儒・詩) K 2 6 1 2
- 吉泉子(きつせんし) → 英寿(えいじゅ・景斎、絵師/戯作) C 1 3 8 9
- 橘仙堂(きつせんどう) → 五兵衛(ごへい・銭屋ぜにや/清水、海運業) N 1 6 0
- 橘潜夫(きつせんぶ) → 橘庵(きつあん・田宮たみや、戯作者/隨筆) I 1 6 6 4
- 橘窓(きつそう・土井) → 篤敬(とくけい・土井、医/儒者) K 3 1 6 1
- 橘窓(きつそう) → 経亮(つねあきら・橘/橋本、故実/歌) B 2 9 5 9
- 橘窓(きつそう) → 篤敬(とくけい・土井、医者) K 3 1 6 1
- 橘窓(きつそう) → 良載(よしのり・関島せきじま、医者/歌人) N 4 7 5 7
- 橘窓(きつそう) → 日々坊(にちにちぼう・尾崎、俳人) D 3 3 0 0
- 橘蔵(きつぞう・須田) → 肅(しゆく・須田すだ、藩医/歌人) O 2 1 9 8
- 吉村(きつそん・伊達) → 吉村(よむら・伊達だて、藩主/詩人) H 4 7 6 1
- 橘雫(きつだ、俳名) → 通笑(つうしょう・市場、黄表紙/噺本) 2 9 0 2
- F1696 吉大尚(きつ/きち・たいしょう) ? - ? 大和期;663百濟滅亡時に弟少尚らと渡来亡命、大友皇子の客員教授;医術・薬学・文芸に精通、671小山上しょうせんじょうの位を賜う、吉田きつた・きた氏の祖
- 橘多宮(きつたのみや) → 宗居(そうきよ;号、俳人) B 2 5 0 5
- 吉竹(きつちく/よしだけ・長愛子)→ 可玖(かきゅう・西村、俳人) B 1 5 2 8
- 吉忠(きつちゆう・二条) → 吉忠(よしただ・二条/藤原、関白/記録) E 4 7 2 5
- 橘中庵(きつちゆうあん) → 麦二(ばくに・小島こじま、鋳物師/俳人) D 3 6 7 8
- 橘中庵(きつちゆうあん) → 大必(たいひつ・梶山、藩士/俳/画) T 2 6 7 4
- 橘中居(きつちゆうきよ、日桓)→ 一瓢(いっぴょう・川原、日蓮僧/俳人) B 1 1 6 3
- L1649 吉兆(きつちよう・中田なかた) ? - ? 江中期1746/7頃京の歌舞伎作者/中村糸太郎座、1746「富館鸚鵡辞」/47「大矢数四十七本」「雛形勘介嶋」著
- 吉兆(きつちよう・雨森) → 章迪(しょうてき・雨森あめのもり、医者/書・詩) G 2 2 1 6
- 吉長(きつちよう・可児) → 才蔵(さいざう・可児かに、武将) G 2 0 8 9
- 吉長(きつちよう) → 吉長(きちちよう、俳人) G 1 6 8 8
- 吉長(きつちよう・浅野) → 吉長(よしなが・浅野あさの、藩主/詩文) F 4 7 2 9
- 吉長(きちちよう・浜野) → 吉長(よしなが・浜野はまの、歌人) K 4 7 9 6
- 佶長老(きつちようろう) → 元佶(げんきつ;法諱・閑室、臨濟僧) 1 8 1 0
- 橘蝶楼(きつちようろう) → 国麿(くにまろ・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 9 5
- 啄木庵(初世きつつきあん・初世茂蘭)→ 日従(にちじゆう、下総日蓮僧/俳人) C 3 3 2 0
- 啄木庵(2世きつつきあん・2世茂蘭)→ 既醉(きすい;号・寛海;法諱、真言僧/俳人) B 1 6 3 1
- 啄木鳥の茂蘭(きつつきのもらん)→ 日従(にちじゆう、日蓮僧/俳人) C 3 3 2 0
- L1650 橘亭(きつてい・川辺かわべ、名;清/字;士纓/通称清次郎、藤原幾右衛門男)?-1837 対馬府中藩士、1791家貧しく対馬藩の援助で就学/藩校小学校代用指南/儒;1801大浦東臯門/藩校学頭、

1828川辺姓を嗣、唐韓音に精通、朝鮮に使用する、林述斎の命で「津島紀事」を漢訳、「橘亭詩集」「橘亭文集」「眞常院実録」「宗氏始祖実録」「帰鶴流観」、「草梁日記」著

- 吉貞(きつてい・武田) → 吉貞(よしさだ・武田たけだ、国学者) N 4 7 8 3  
吉貞(きつてい・東) → 吉貞(よしさだ・東ひがし/林、神職/国学) O 4 7 7 0  
吉迪(きつてき・河津) → 吉迪(よしのぶ・河津かわづ/藤原、鑑定家) F 4 7 6 5  
吉迪(きつてき・花房) → 吉迪(よしみち・花房はなぶさ、藩士/和算家) H 4 7 4 6  
橘堂(きつどう) → 佐一郎(さいちろう・岸本・棋士) G 2 0 9 3  
橘堂(きつどう・北条) → 団水(だんすい・北条、俳人/浮世草子) 2 6 9 2  
橘堂(きつどう) → 斉裕(なりひろ・蜂須賀、藩主/歌人) I 3 2 0 8  
吉徳(きつとく)すべて → 吉徳(よしのり)  
橘墩(きつとん) → 専庵(せんあん・平住、医者/儒者/本草) E 2 4 7 9  
橘内(吉内きつない・山中) → 長俊(ながとし・山中、武将/連歌) E 3 2 8 1  
L1651 喜常(きつね・信田しのだ、石川いしかわ源徹)?-? 上州伊勢崎の狂歌作者;鹿都部真顔門、  
1815「笠松天満宮奉納額面」著  
橘能(きつのが・橘) → 正通(まさみち・橘たちばな、字;、廷臣/詩歌) H 4 0 3 8  
橘皮(きつび・中島) → 魚坊(ぎよぼう・中島、歌人/俳人) Q 1 6 3 0  
佶鄙生(きつびせい) → 惟朝(これとも・梅園/土師/菅原、神職/国学) F 1 9 9 8  
吉夫(きつぶ・青木) → 青城(せいじょう・青木あおき、儒者) C 2 4 2 7  
吉風(きつふう・山田) → 吉風(よしかぜ・山田/大江、神職/国学/歌) C 4 7 6 0  
吉風(きつふう・岩松) → 益男(ますお・岩松いわまつ、神職/国学) N 4 0 8 5  
吉平(きつへい・高寺) → 眞風流(眞古まふる・高寺たかでら、国学/歌) Q 4 0 6 6  
橘平(きつへい・浪岡/並木) → 黒蔵主(くろぞうす、浄瑠璃作者、雑俳) C 1 9 3 8  
吉甫(きつほ・菅/菅井) → 霸陵(はりょう・菅井すがい、儒者) F 3 6 8 7  
吉甫(きつほ・柴野) → 碧海(へきかい・柴野しばの/柴、儒者/詩文) 2 7 8 7  
吉甫(きつほ・安達) → 清河(せいが・安達あだち、修験/儒者/詩文) 2 4 8 0  
吉甫(きつほ・岡本) → 黄石(こうせき・岡本、藩家老/詩人) F 1 9 2 3  
吉甫(きつほ・佐々木) → 吉雄(よしお・佐々木ささき、国学/歌人) M 4 7 9 9  
吉輔(きつほ・西川) → 吉輔(吉介よしすけ・西川にしかわ、国学者) D 4 7 8 0  
吉豊(きつほう・種田) → 吉豊(よしとよ・種田たねだ、軍記作者) F 4 7 0 8  
吉明(きつめい/よしあき・小山田) → 春水(しゅんすい・小山田おやまだ、藩士/儒) L 2 1 1 5  
J1631 吉門(きつもん・津下つした、越人道こしにゅうどう)?-? 江戸俳人・3世湖十門、其角座平砂側点者、  
1754竹翁「誹諧童の的」点句入、67「野の錦」編  
I1666 橘門(きつもん・秋月あきづき/修姓;劉、名;竜/字;伯起、逍遙男) 1809-8072 日向高鍋儒者・広瀬淡窓門、  
亀井昭陽門/医術修得/1843豊後佐伯藩校四教堂教授/世子の侍講、詩文/書/歌、  
1864「橘門韻語」、「南留別志考」「好生問答」著、  
[橘門の通称/別号]通称;小相/之竜、別号;得生軒/桜水/牛門、水筑大可/変名:青木周馬  
橘丸(きつまる、狂歌) → 条門橘丸(じょうもんきつまる) B 2 2 7 3  
橘里(きつり・行友) → 清恕(きよひろ・行友ゆきとも、神職/国学) V 1 6 6 0  
吉理(きつり) → 吉理(きちり、連歌) L 1 6 3 7  
吉利(きつり・寺井) → 肇(はじめ・寺井てらい、藩士/故実家) E 3 6 4 1  
吉立(きつりつ) → 吉立(よしたち、歌人) Q 4 7 2 2  
吉鄰(きつりん・田中/沓掛) → 夢嶽(むがく・沓掛くかけ/田中、藩医) 4 2 3 4  
吉郎(きつろう・渡辺) → 三休(さんきゅう・渡辺わたなべ、藩儒) M 2 0 0 0  
吉郎(きつろう・広江) → 秋水(しゅうすい・広江ひろえ、商家/詩人) X 2 1 7 1  
F1697 憲亭(憲貞きてい・箕田みた)?-? 江戸下谷の武士、言語研究、  
1727辞書「志不可起しぶかき」著  
F1698 規亭(きてい) ?-? 江中期俳人、  
1754潘山(百子)「しぐれの碑」(;貞因[貞柳貞峨の父]25回忌・貞峨13回忌追善集)入、  
[初霜やまんさらしらぬ日でもなし](時雨の碑/十月四日貞峨[紀海音]の命日)  
B1653 葵亭(きてい・佐藤さとう、夜雨園、藤屋) 1769-2557 豊後日田の俳人:士朗門、

- L1652 **葵亭**(きてい・雛田ひなだ、名;義方)1787-184660 越後蒲原郡加茂青海神社祠官、幼少時両親没、江戸で苦学;国学者/帰郷後祠官を嗣;開塾;子弟教育、1822「拳睫」「答問鈔」著、「初学の心得」「加茂社由緒記」「玄会通論」「葵亭詩文稿」著、[葵亭の別号] 確坡/野鶴道人
- L1653 **葵亭**(きてい・松田まつだ、名;幸混/混/幸)1813-7361 伊勢宮後の儒者:東夢亭門、師遺稿「夢亭詩鈔」刊、詩文;広瀬旭莊門/文人画;宮崎青谷門、1865「作文便覧」著、[葵亭の字/通称/別号]字;原泉、通称;右兵衛、別号;九泉、秋池しゅうちの父、
- L1654 **淇亭**(きてい・上田うえだ、名;忱しん/小成、惟信男)1814-7663 大和農業、儒;谷三山門/1857大阪に開塾、1865大和高取藩出仕;藩校明倫館創設;教育、「論語拔萃」「神劍考」「石上布留神社縁起」著、[淇亭の字/通称]字;伯斐はくひ、通称;為右衛門
- L1655 **其程**(きてい・別号;壺天楼こてんろう/鹿毛)?-? 江後期筑後徳童の俳人、1808「月鹿毛集」編
- |                 |   |                            |           |
|-----------------|---|----------------------------|-----------|
| 季貞(きてい・平)       | → | 季貞(すえさだ・平たいら、伝記作者?)        | B 2 3 1 3 |
| 季貞(きてい・源)       | → | 季貞(すえさだ・源みなもと、武将/歌人)       | B 2 3 1 4 |
| 季定(きてい・藤原)      | → | 季定(すえさだ・藤原、廷臣/歌人)          | B 2 3 1 5 |
| 季定(きてい・中園)      | → | 季定(すえさだ・中園なかぞの/藤原、廷臣)      | F 2 3 4 2 |
| 希貞(きてい・上田)      | → | 雍洲(ようしゅう・上田うえだ、医者)         | B 4 7 1 1 |
| 倚貞(きてい・有沢)      | → | 倚貞(よりさだ・有沢ありさわ、藩士/日記)      | K 4 7 1 4 |
| 葵亭(きてい)         | → | 宣明(のぶはる・伏原、明経博士)           | C 3 5 8 7 |
| 葵亭(きてい・雛田)      | → | 義方(よしかた・雛田ひなだ、神職)          | O 4 7 7 4 |
| 貴蒂(きてい・直山)      | → | 大夢(だいむ・直山なおやま、俳人)          | C 2 6 2 3 |
| 規貞(きてい・鉅鹿)      | → | 皓(皓こう・魏ぎ・鉅鹿おおが、明楽みんがく)     | H 1 9 1 1 |
| 基定(きてい・持明院)     | → | 基定(もとさだ・持明院/藤原、権大納言/書)     | C 4 4 4 6 |
| 基定(きてい・辻本)      | → | 基定(もとさだ・辻本/源、書肆/図会刊)       | C 4 4 5 1 |
| 基貞(きてい・藤原)      | → | 基貞(もとさだ・藤原ふじら、廷臣/歌人)       | M 4 4 1 0 |
| 基楨(きてい・東園)      | → | 基楨(もとえだ・東園ひがしぞの、廷臣/日記)     | C 4 4 1 7 |
| 記定(きてい・浅井)      | → | 清足(きよたり・浅井あさい/菊地、庄屋/歌)     | T 1 6 3 9 |
| 喜貞(きてい・大岡)      | → | 喜貞(よしさだ・大岡おおおか、藩士/歌人)      | L 4 7 9 4 |
| 軌定(きてい・竹内)      | → | 軌定(のりさだ・竹内たけのうち、藩士/史家)     | E 3 5 5 3 |
| 輝貞(きてい・大河内)     | → | 輝貞(てるさだ・大河内/松平、藩主)         | C 3 0 7 2 |
| 輝貞母(きていのはは)     | → | 輝貞母(てるさだのはは・姓不詳、俳人)        | C 3 0 7 3 |
| 熙定(きてい・清閑寺)     | → | 熙定(ひろさだ・清閑寺せいかんじ、廷臣/日記)    | 3 7 1 8   |
| 亀亭(きてい・岡)       | → | 延年(のぶとし/えんねん・岡おか、商家/絵師)    | H 3 5 7 7 |
| 亀汀(きてい・堀口)      | → | 貞国(さだくに・堀口ほりぐち、国学者)        | P 2 0 3 2 |
| 義諦(ぎてい→ぎたい;字)   | → | 尊証法親王(そんしょうほうしんのう、青蓮院門跡/書) | E 2 5 9 2 |
| 義諦(ぎてい→ぎたい;法諱)  | → | 聖僕(しょうぼく・義諦、臨濟僧)           | E 2 2 7 5 |
| 義諦(ぎてい→ぎたい;字)   | → | 智達(ちたつ;法諱、真宗本願寺派僧)         | E 2 8 7 0 |
| 義定(ぎてい・平たいら)    | → | 義定(よしさだ・平たいら、幕臣/早歌作詞)      | K 4 7 1 0 |
| 義定(ぎてい/ぎじょう;法諱) | → | 志道軒(しどうけん、真言僧/講釈師)         | F 2 1 2 7 |
| 義定(ぎてい・藤原)      | → | 義定(よしさだ/のりさだ・藤原、廷臣/歌)      | D 4 7 3 3 |
| 義定(ぎてい・吉良)      | → | 義定(よしさだ・吉良きら/源、武将)         | D 4 7 3 6 |
| 義貞(ぎてい・橘)       | → | 義貞(よしさだ・橘たちばな、医者)          | D 4 7 3 5 |
| 義貞(ぎてい・小森)      | → | 義貞(よしさだ・小森こもり、和算家)         | K 4 7 3 7 |
| 祇貞(ぎてい)         | → | 祇徳(ぎとく・2世、俳人)              | B 1 6 6 1 |
| 宜貞(ぎてい・栗田)      | → | 宜貞(のぶさだ・栗田、幕臣/和算家)         | B 3 5 5 2 |
| 宜貞(ぎてい・谷)       | → | 一斎(いっさい・谷たに、儒;南学)          | E 1 1 1 7 |
| 宜楨(ぎてい;法諱)      | → | 綾山(りょうざん;道号・宜楨、臨濟僧)        | L 4 9 4 3 |
| 蟻亭(ぎてい・大井)      | → | 雪軒(せつけん・大井おおい、儒者)          | E 2 4 1 9 |
| 儀貞郎(ぎていろう)      | → | 五郎治(ごろうじ・中川、ロシア抑留/種痘法)     | P 1 9 0 8 |
- B1655 **其雫**(きてき/きか/きだ・梅津うめづ、名;忠昭、梅津憲忠の孫)1672-172049 秋田藩家老/1万石領有、俳人;其角門/同門紫紅を招き秋田俳壇興隆、撰集「籠前栽」編、



- [其雫の通称/別号]通称;千代松/小太郎/外記/半右衛門、別号;白雲堂/誹泉堂/撫松
- F1699 **紀迪**(きてき・朝もよひ、紀迪法師)?-? 江戸狂歌・橘洲門、1780赤良「万の宝」82橘洲「若葉集」入、1785「徳和歌後万載」1首/87「才蔵集」入、  
[鬼の住む嶋山までもゆくものは宝ほしさの心なりけり](才蔵集;515/桃太郎の裏心)
- 宜迪(きてき・岡本) → 黄石(こうせき・岡本、藩家老/詩人) F 1 9 2 3  
 義適(きてき・加藤) → 雄山(ゆうざん・加藤かとう、肝煎/神道家) B 4 6 9 6  
 貴適齋(きてきさい) → 間喬(かんきょう・岡おか、商家/諸芸) G 1 5 2 2  
 希哲(きてつ・富小路) → 任筋(にんせつ・富小路、坊官/勤王家) G 3 3 6 0  
 希哲(きてつ・戸崎/崎/源) → 淡園(たんえん・戸崎/崎/源、家老/漢学) H 2 6 9 4  
 希哲(きてつ・内藤) → 泉庵(せんあん・内藤ないとう、医者/詩文) L 2 4 5 1  
 希哲(きてつ・松島) → 素彦(もとひこ・楫取/松島/小田村、藩士) D 4 4 9 5  
 希哲(きてつ・渡辺) → 閑哉(かんさい・渡辺わたなべ、名主/農村開発) S 1 5 9 3  
 義鉄(きてつ・井田) → 義貫(よしつら・井田いた、藩官吏/勤王) L 4 7 4 1  
 義鉄(きてつ・藤本) → 千里(ちさと・藤本ふじもと/原、国学/歌) N 2 8 4 1  
 義徹(きてつ;法諱) → 長誉(ちやうよ;法諱、真言僧) K 2 8 0 3  
 喜典(きてん・遠藤) → 又左衛門(またざえもん・遠藤、藩士/ペリ-応接) J 4 0 4 2
- L1656 **義天**(きてん;道号、法諱;明詔/玄詔/玄承、俗姓;蘇我) 1393-1462 70 土佐臨濟僧;1407義山明恩門、尾張瑞泉寺日峰宗舜門、妙心寺住持/1453大徳寺39世/竜安寺没、「義天集」「偈集」著
- L1657 **義天**(きてん;法諱) 1790 - 1837 48 高野真言僧/国学;本居大平/村田春門門、播磨這田村在田寺住職、「仮名遣要語」「新撰仮名文字遣」著
- U1670 **義天**(きてん;法諱・俗姓;橘) 1815-1875 61 出雲武部村の農業、出雲能義郡安来町の真宗本願寺派徳応寺の僧;のち住職、農民の捨子・墮胎・乳児殺し等の悪習を憂い「捨子教誡のうた」制作:私財を投じ刊行、
- F1664 **義天**(きてん;法諱、号;孤竹/香華院、俗姓宮地、法順男) 1827-89 63 越中砺波真宗大谷派僧;眞敬寺住職、宗学;貫練・本法院義讓門/天文;天竜寺環中門/俱舍法相;智積院竜謙・義観門、嗣講/講師、1964「正信偈講義」、「御文講義」「十四行偈講義」「稟承余艸御札選要」著
- 義天(きてん;法諱・無雲) → 無雲(むうん;道号・義天、臨濟僧) 4 2 2 2  
 義天(きてん、義天院) → 日答(にっとう;法諱・観念、日蓮僧) F 3 3 4 8  
 義典(きてん/よしり・福田) → 誠好齋(せいこうさい・福田、剣術/医/神職) I 2 4 1 3  
 義典(きてん/よしり・三木) → 松斎(しょうさい・三木みき、和算家) J 2 2 0 7  
 義展(きてん・大島) → 有隣(うりん・大島おおしま、心学者) D 1 2 5 0  
 喜伝次(きてんじ・杉野) → 次義(つぐよし・杉野すぎの、藩士/儒/国学) F 2 9 8 5  
 其斗(きと・梅里亭) → 梅里亭其斗(ばいりていきと、紀行文作者) C 3 6 1 9  
 義都(ぎと・陳) → 元賛(げんいん/げんびん・陳、儒者/製陶/拳) B 1 8 2 7  
 義都(ぎと・山鹿) → 義都(よしくに・山鹿やまが、藩士/兵学者) D 4 7 2 3  
 義都(ぎと/よしくに・中野) → 借我(せきが・中野/平、兵法・神道家) J 2 4 9 8
- 1623 **几董**(きとう・高井たかい、通称;小八郎、几圭きけい男) 1741-89 49 京俳人;父門/1770蕪村門、詩;草廬門、1772父几圭追善「其雪影そのゆきかげ」撰(処女撰集)、73「初懐紙」編、73「あけ鳥」編、1773蕪村「一夜四歌仙(此ほとり)」参加、76「続明鳥」編、84「春夜楼撰集」「蕪村句集」編、1784洛東聖護院の塩山亭に隠棲;1786「統一夜松」(師の遺志嗣)/江戸の夜半亭襲名、これを機に再び活動;1787「統一夜四歌仙」催、1787「井華集」、88天明大火に類焼;上方へ、門人間を転々寄食;1789伊丹の土川宅で酒盃中急逝、「きくの宿」「遊子行」「吉野日記」、「宿の日記」「几董日記」「桃の雫」著、門人;紫暁/呂蛤らうら、追善集;几董終焉集「鐘筑波」(紫暁編)/「この時雨」(紫暁編)「金剛心」(呂蛤編)外、  
[短夜や空とわかるゝ海の色]/[絵草紙に鎮じおく店や春の風](井華集)、  
[几董の号] 雷夫/晋明、高子舎/春夜楼/春秋庵/夜半亭三世/塩山亭、法号;高秀院
- L1658 **岐東**(きとう) ? - ? 越後高田の俳人;1776樗良「月の夜」入、  
[天の川の中吹き過ぐる嵐哉](月の夜;68)
- S1649 **其桃**(きとう・田阪たさか、名;義勝、屋号;大原屋[4代目])?-1831 安藝御手洗の俳人、1830父松区の碑建立;[鷗啼く江の秋はさはりはさりかな]

- 其答(きとう・俳号) → 国太郎(初世くにたろう・沢村、歌伎役者/俳人) B 1 7 5 4  
 基当(きとう・田中) → 基当(もとまさ・田中たなか/藤原、藩士/歌) K 4 4 2 8  
 其桃(きとう・中村) → 良広(よしひろ・中村/中臣/樋口、書家/歌) G 4 7 6 9  
 跪東(きとう) → 雲庵(うんあん、洛東隠士、軍記作者) B 1 2 5 5  
 枳東(きとう) → 雲華(うんげ・大含だいがん、真宗大谷派僧) B 1 2 0 7  
 基冬(きとう・二条) → 基冬(もとふゆ・二条/今小路/藤原、大納言/歌) E 4 4 2 4  
 基董(きとう・葉川/石山) → 師香(もろか・石山/藤原/葉川、廷臣/画) H 4 4 0 9  
 希唐(きとう・三宅) → 鵬溪(おうけい・三宅みやけ、絵師/歌人) E 1 4 1 8  
 B1656 亀洞(きとう・武井) ? - ? 尾張名古屋の俳人;芭蕉門;  
 1687(貞享4)名古屋昌碧亭で師の直指で一座、越人門/露川と交流、  
 1686「春の日」2句/89「あら野」25句入/「曠野後集」「庭竈集」入、  
 [山や花塙根かきねかきねの酒さかばやし](春の日;春/難解句)、  
 [若竹のうらふみたるゝ雀かな](春の日;夏/雀が若竹の先端にとまり撓む動的描写)  
 S1644 規道(きとう) ? - ? 江中期備後尾道の俳人;野坡系門人、  
 「口切や梅の名の津の出合水」(1752野坡追善「十三題」)  
 L1659 其堂(きとう・常盤井ときかい) ? - ? 江戸歌舞伎作者;金井三笑門/1763より川井金治名で合作、  
 改名;1772常盤井其堂/74田平/77中村河七、のち上方で活動、1765「色上戸三組曾我」、  
 1769「今昔東山染」72「江戸容儀曳綱坂」75「花相撲源氏張胆」78「伊達錦対将」、  
 1781「時萌於江都初雪」「紅白粉四季染分」/82「春寿常曾我」86「大湊恋憶当」外著多数、  
 [常盤井其堂の別通称] 川井[川合/河井]金治/常盤井田平/中村河七  
 L1660 鬼道(きとう) ? - ? 山城伏見の俳人;1777江涯こうがい「仮日記」1句入、  
 [山寺の男閑古鳥の巢を見付けたり](仮日記;65)  
 B1657 亀洞(きとう・千代倉家6世・下郷いもさと、名;寛ひろし、亀世4男) 1746-9045 尾張鳴海の農業/醸酒業、  
 千代倉家5世常和の養嗣子、経史;西依成斎・宮崎筠圃門/書画;池大雅・市川鶴鳴門、  
 俳人;蝶夢門、歌;清水成利・日野資枝門、建部綾足の友人で後援者、常和追悼「春の笠」編、  
 1764「雅楽貴耳録」65「知多浦記」77「伊良真紀行」・蝶羅追善「蚊帳内」編、82「秋葉紀行」、  
 1782「鳴海歳旦」85「春の笠」編、「苺苔園ぼうたいえん蔵書記」「大登山行」「春雨」外著多数、  
 [亀洞(;号)の字/通称/別号]字;君栗、通称;千蔵/才右衛門/治郎八/千歳、  
 号;学海がっかい・百川・巴人・常川・楽山・苺苔ぼうたい園・知足斎・御柳園、屋号;千代倉  
 参考 → 鳴海千代倉家(なるみちよくらげ)  
 B1658 騏道(きとう・木村きむら、通称;新助) ?-1810 大津俳人;暁台門、1792幻住庵修理;俳諧興行、  
 榎亭と親交、1777/8「両節喰」編、92「椎か下」「新華摘」編、95「鉢かつき」編、1801「蒿」著、  
 [騏道の別号] 青雲居/珠林舎  
 L1661 亀洞(きとう・長崎ながさき、名;楽/字;由章/別号;竜岳、為貞男) 1767-183670 伊勢医者;中川材庵門、  
 1791一志郡八太村で医業/1833業績により久居藩主より無足人;帯刀、漢学/詩、  
 「桑寄生弁」「針治論」、「長崎氏詩集」著、「亀洞翁遺稿」  
 L1662 鬼洞(きとう・六角ろっかく、名;高堂/字;先民) ?-1836 信濃高島藩儒臣/藩政と合わず浪人、  
 安曇郡大町で寺子屋開;子弟教育/1825松本藩領の一揆赤蓑騒動を陣屋代官と鎮圧、  
 「赤蓑騒動記」著  
 L1663 其堂(きとう) ? - ? 江後期江戸俳人;白雄門、1800「春興」刊  
 L1664 其道(きとう・木硯舎) ? - ? 江後期仙台俳人、1827「木すゝり集」編  
 G1601 毅堂(きとう・鷺津わしづ、名;宣光/監、字;重光、益斎男) 1825-8258 尾張丹羽村儒者;父門(家学)、  
 昌平黌出・敬所門、1853上総久留米藩儒/54江戸開塾/65尾張藩主徳川義宜の侍読、  
 1866尾張藩校明倫堂教授/67督学;学風改革/朱子学;勤王派、詩、1852「薄游吟草ざんそう」著、  
 1862「親燈余影」、「錦旋八律」、「毅堂集」「金山仙史私記」著、妻;磯貝貞/外孫に永井荷風、  
 [毅堂の通称/別号]通称;郁太郎/貞助/九蔵、別号;蘇州/蘇水/泉橋外史  
 毅堂(きとう・松岡) → 毅軒(きけん・松岡まつおか、藩士/儒者) I 1 6 6 1  
 季道(きとう・橘) → 季通(きとうすえみち・橘たちばな、廷臣/歌人) B 2 3 4 6  
 紀堂(きとう・高島) → 米護(よねもり・高島たかばたけ、商家/国学) N 4 7 7 3  
 葵堂(きとう・大貫) → 杜哉(とさい・大貫おおぬき、俳人) L 3 1 7 8

- 亀洞(きどう・植田) → 方清(みちきよ・植田うた、庄屋/国学/歌) I 4 1 1 7  
 亀洞(きどう・横地) → 長重(ながしげ・横地よち、神職/国学) P 3 2 2 6  
 G1600 義藤(ぎどう) ? - ? 連歌、1470太田道真「川越千句」入  
 L1665 義陶(ぎどう;法諱、諡号;最親院)1740-1821<sup>82</sup> 三河真宗大谷派僧:高倉寮修学/1806嗣講、  
 岡崎満徳寺住職、「選択集聴記」「正像末和讃記」「帰命字訓辨釈」「末代無智御文記」著  
 G1602 義董(ぎどう・柴田しばた、字;威仲)1780-1819<sup>40</sup> 備前尻海の絵師;呉春[月溪]門;円山四条派、  
 人物画、「四条派画卷」画、息義峯も絵師  
 [義董の通称/号]通称;喜太郎、号;琴緒(きんしよ)/琴海  
 義統(ぎどう・大心) → 大心(だいしん;道号・義統;法諱、臨濟僧) K 2 6 4 1  
 義統(ぎどう・畠山) → 義統(よしむね・畠山、武将/守護/連歌) H 4 7 5 8  
 義稻(ぎどう・中尾) → 義稻(よしね・中尾なかお、藩士/国学/歌) F 4 7 5 0  
 義透(ぎどう・今宮) → 義透(よしすく・今宮いまみや、藩家老/記録) D 4 7 7 4  
 蟻塔(ぎどう・岡崎) → 千兮(せんけい・岡崎/竹内、俳人) M 2 4 1 4  
 I1667 宜堂(ぎどう・伊藤いとう、名;雅言/字;俊蔵)1792-1874<sup>83</sup> 伯耆江尾村の儒者;朝川善庵門、  
 1805鳥取藩老荒尾家出仕/08京の正親町おきまち三条家出仕、1825帰郷;  
 1835出雲塩冶村に郷校有隣塾開設;子弟教育、62鳥取藩に招聘;仕官、「周易包蒙」著、  
 1859「周易包蒙撮要」62「周易包蒙約解」、「宜堂詩文集」「続孝子伝」著、  
 [宜堂の別号] 木寿翁/不如及齋  
 B1659 蟻洞(ぎどう・前田また、島田三四郎男/前田宇洋養子)1802-82<sup>81</sup> 江州長浜俳人;貞美/乙也門、  
 美濃三光院で修業/1863義仲寺無名庵12世、「慶応洪水記」著、1867「芭蕉塚手向発句集」編、  
 [蟻洞の別号] 水月庵/鳳尾院  
 G1603 義道(ぎどう;法諱・号;縞庵(こうあん)/双五子)?-? 江後期桑名真宗大谷派長円寺住職、経史/詩文、  
 1802「久波奈くわな名所図会」、「桑名名勝志」「桑府年代記」「桑府什宝記」「縞庵随筆」著  
 L1666 義堂(ぎどう・脇坂(わきさか)、名;知足)?-1818 京の町人/心学者:手島堵庵・布施松翁門、堵庵に随行、  
 高槻城下で舌禍;破門、観相売ト/心学の通俗書著、寛政1789-1801頃江戸で諸侯藩邸で講、  
 1803人足寄場の教諭;道二の後を継承、金沢はじめ諸国遊説、晩年帰京/1817破門赦免、  
 「やしなひ草」1784初編・89二編、1790「今はかり」/96「売ト先生安楽伝授」「民の繁栄」著、  
 1798「かねもうかるの伝授」1802「銀のなる木伝授」11「心学教諭録」著  
 1717「長命になるの伝授」著、  
 [義堂の通称/別号]通称;庄兵衛、別号;義周/布袋庵/不学齋  
 L1667 義導(ぎどう;法諱・姓;福田、智願男)1805-81<sup>77</sup> 越後蒲原郡井土巻真宗大谷派僧;長生院智源門、  
 1837平沢村景清寺住職/44高倉寮で講義/56擬講、岐阜願性坊住職、66嗣講/80大講義、  
 1851「東遊雑記」54「北越奇蹟詠草」編/62「御宗名記」64「扶儒夫杖」、「京都奇話」外多数、  
 [義導の号] 帰牛/不思議庵、諡号;威力庵  
 蟻道(ぎどう) → 蟻道(ありみち・森本、酒造家/俳人) B 1 0 9 5  
 義堂(ぎどう;道号) → 周信(しゅうしん;法諱・義堂、臨濟僧/五山文学) 2 1 4 4  
 義道(ぎどう;字) → 日肇(にちじょう;法諱・大覚院、日蓮僧) C 3 3 4 9  
 義道(ぎどう;字) → 日奠(にちでん;法諱・妙心院、日蓮僧) C 3 3 9 5  
 義道(ぎどう;初法諱) → 明逸(みょういつ;法諱、真宗大谷派僧) G 4 1 1 3  
 義道(ぎどう/よしみち・中沢) → 道二(どうに・中沢なかざわ、神学者) 3 1 1 5  
 義道(ぎどう・牧) → 義道(よしみち・牧まき、幕臣) H 4 7 4 7  
 義道(ぎどう・矢野) → 拙斎(せつさい・矢野やの、儒者/教育) E 2 4 2 9  
 義洞(ぎどう;字) → 功存(こうぞん;法諱、真宗僧/三業帰命論) K 1 9 4 5  
 誼道(ぎどう→よしみち・戸板/新井) → 雨窓(うそう・新井あらい、儒者/詩歌) C 1 2 0 2  
 希唐菴(きとうあん) → 翠溪(すいけい・小松原こまつばら、絵師) 2 3 4 5  
 己桃軒(きとうけん) → 玄如(げんによ;法諱、浄土僧/歌人) C 1 8 8 8  
 亀道載(きどうさい) → 南冥(なんめい・亀井、儒/詩人) 3 2 3 7  
 儀同三司(ぎどうさんし) → 伊周(これちか・藤原、道長と政争) E 1 9 3 0  
 儀同三司(ぎどうさんし、新後拾作者) → 兼綱(かねつな・勘解由小路・広橋、廷臣/歌) C 1 5 8 6  
 儀同三司実(ぎどうさんしじね、新後拾遺・新続古作者) → 実音(さねおと・三条) C 2 0 9 4



儀同三司資(ぎどうさんしすけ・新続古作者) → 資教(すけのり・日野) C 2 3 7 7  
儀同三司入道(ぎどうさんしのにゅうどう) → 資任(すけのり・烏丸/藤原、廷臣/歌人) C 2 3 5 1  
儀同三司母(ぎどうさんしのはは) → 貴子(たかこ・高階、伊周母) 2 6 9 9  
帰洞子(きどうし) → 雪川(せつせん・松平、治郷の弟/俳人) E 2 4 4 8  
帰童仙(きどうせん) → 五竹坊(ごちくぼう・田中、獅子門4世/俳人) D 1 9 2 6  
喜藤太(きとうた・巻) → 菱湖(りょうこ・巻まさ/館、書家) H 4 9 4 2  
喜藤太(きとうた・佐々木) → 義教(よしのり・佐々木ささき/宮部、国学) N 4 7 0 4  
喜藤太(きとうた・近田) → 冬載(ふゆとし・近田ちかた、歌人) I 3 8 4 8  
義藤太(儀藤太ぎとうた) → 凶南(となん・劉りゅう/彭城さかき、通事/詩) O 3 1 5 7  
季徳(きとく・大沢) → 鼎斎(ていさい・大沢、儒者) 3 0 8 9  
季徳(きとく・近藤) → 峨眉(がび・近藤こんどう/藤原、儒者/書) P 1 5 2 0  
季徳(きとく・村瀬/田辺) → 石庵(せきあん・田辺たなべ/村瀬、儒者) D 2 4 3 3  
季徳(きとく・木村) → 聿(いつ・木村きむら、藩士/勤王/日記) G 1 1 7 1  
季得(きとく・加藤) → 以翼(よすけ・加藤かとう/松井、国学/歌) M 4 7 1 3  
貴徳(きとく・宍戸) → 謙堂(けんどう・宍戸ししど、易学家) L 1 8 7 6  
貴徳(きとく・平) → 貴徳(たかのり・平たいら、仕官/紀行) M 2 6 7 6  
帰徳(きとく・成島) → 錦江(きんこう・成島なるしま、幕臣/儒/歌) 1 6 6 1  
其徳(きとく・中川) → 壺山(こざん・中川ながわ、医者) M 1 9 6 1  
其徳(きとく・加藤) → 松斎(しょうさい・加藤かとう、藩儒/詩) S 2 2 3 5  
其徳(きとく・竹村) → 茂正(しげまさ・竹村たけむら、国学/歌/神職) Z 2 1 3 6  
基徳(きとく・田近) → 基徳(もとのり・田近たぢか、絵師/国学) K 4 4 2 6  
驥徳(きとく・小野) → 驥徳(としのり・小野おの、藩士/国学者) U 3 1 4 5

B1660 祇徳(初世ぎとく・仲、通称; 近江屋伝兵衛) 1702-5453 江戸蔵前札差、俳人; 祇空門、芭蕉への回帰、  
徂徠学(古文辞学)の影響; 俳諧[古学庸道]提唱(古学社中と称す); 1735「俳諧句選」編、  
1733「四時観」共編、38「竹馬集」41「一言庭訓」編、42家集「竹隠集」(自句集)、  
1744「句銭別」(; 芭蕉自筆を版下刊)、1752「俳諧芭蕉堂記」著、  
[りんとした寒さなりけり今朝の春](竹馬集/立春の朝)、  
[初世祇徳の別号] 慈尺(じせき・宇石(; 初号)/千朝/千潮/水光/水光洞/湖南/湖南亭/自在庵、  
竹隠子/遅日亭、法号; 祇徳院

B1661 祇徳(二世ぎとく・仲、初世祇徳男) 1728-7952 江戸の俳人; 父門、万句興行/存義側判者、  
画; 一蜂門、「大進夜話」画、1757「深川晴帖」74「祇徳俳諧集」76「此柱」77「角力百韻」、  
1779「越旦牒」「さいたん帳」編; 外歳旦編纂は多数、  
[二世祇徳の別号] 自在庵/祇貞/波光/北華斎、門弟; 成美せいび・5世団十郎・焉馬ら

J1632 祇徳(三世ぎとく・小西、祇空4世、自在庵) ?-? 江戸新和泉町玄冶店の俳人、  
1848沾山7世「俳諧鱗(はいかいけい)」30点句入

G1604 義篤(ぎとく・金子かねこ、号; 南楼) ?-? 絵師; 1798行長「阿蘭陀鏡」画、蒿蹊「閑田次筆」跋

義篤(ぎとく・佐竹) → 義篤(義厚/義敦よしあつ・佐竹/源、武将/連歌) C 4 7 0 7  
義篤(ぎとく・酒井/有馬) → 義篤(よしあつ・酒井さかい/有馬、医者; 人体解剖) C 4 7 1 4  
義篤(ぎとく・杉本) → 義篤(よしあつ・杉本すぎもと/藤原、医者) C 4 7 1 5  
義篤(ぎとく・白幡) → 義篤(よしあつ・白幡しろはた/源、国学者) N 4 7 3 7  
義徳(ぎとく・松田/三浦) → 蘭阪(らんぱん・三浦みづら/松田、医/本草) D 4 8 1 3  
義徳(ぎとく・小木曾) → 義徳(よしのり・小木曾おぎぞ/成田、藩士/歌) L 4 7 8 1  
祇徳(ぎとく・池永) → 祇徳(まさのり・池永いけなが、藩士/歌人) N 4 0 5 4  
熙徳院(きとくいん; 法号) → 正倫(まさとも・阿部あべ、藩主/歌人) E 4 0 7 4  
其独亭(きどくてい) → 忍雪(にんせつ・其独亭、俳人) G 3 3 5 9

J1633 義凸(ぎとく) ? - ? 俳人、1691?不角「二葉之松」3句入、  
[妄執(もうじゅう)は柱を廻る猫の綱](二葉之松; 301恋人との別れ)

岐戸舎(きどのや) → 信風(のぶかぜ・土岐とき/齋藤、国学者) J 3 5 2 5  
規敦(きとん・齋藤) → 規敦(のりあつ・齋藤さいとう、藩士/国学者) I 3 5 6 0



- 希曇(きどん/けどん;法諱・天海)→ 天海(てんかい;道号・希曇、曹洞僧) D 3 0 2 1  
 義敦(ぎとん・佐竹) → 義篤(義厚/義敦よしあつ・佐竹/源、武将/連歌) C 4 7 0 7  
 義敦(ぎとん・佐竹) → 義敦(よしあつ・佐竹さたけ、藩主/書画) C 4 7 1 3
- G1605 義曇(ぎとん;法諱・華嚴げん;道号) 1375-1455<sup>81</sup> 肥後曹洞僧;1582(10歳)海蔵寺梅巖義東門/嗣法、  
 諸国行脚/遠州随縁寺住寺;天竜川洪水で城域移転;普濟寺と改名、  
 「普濟寺疏回向雙紙」著
- L1668 喜内(きない;通称・飯泉いづみ、名;友輔、変名渡辺六蔵) 1805-59<sup>刑死</sup> 55 江戸浅草蔵前の商家の手代、  
 旗本曾我権右衛門の抱医師の飯泉春堂を婿養子とし以後飯泉姓を名乗る;士文となる、  
 勤王派;京三条家家士となる・一橋派として橋本左内と將軍家定の後継に関し密議、  
 1858(安政5)下田の露人陣營の探索で逮捕;家宅搜索/志士との交流判明;安政大獄へ発展、  
 1859(安政6)吉田松陰らと共に処刑、「飯泉喜内書簡集」「祈の一言」著
- L1669 喜内(きない・渡辺わたなべ) ? - ? 江後期加賀金沢藩士:藩主子女の祝儀作法の調査・  
 執行に関与し渡辺佐太夫と記録、1834?御祝式向御用主付に昇進、  
 1827「加賀守様溶姫君様御婚礼一件」29「寛姫様御婚礼一件留」、  
 1835「寿々姫様御婚礼一件留」36「亀丸殿御髪置記録」、「勇姫様御婚礼一件」外記録多数
- L1670 喜内(きない・根来ねごろ、名;斯文/字;遠人/号;晴浦)?-? 幕臣:1800寄合;本所深川火事場見廻、  
 1804使番/07小普請組支配/10甲府勤番頭/伊予守/11致仕、  
 1806「丙寅失火記」、「遊官紀聞」著
- 喜内(きない・大石) → 良雄(よしお/よしとか・大石おおい、家老/討入) C 4 7 3 6  
 喜内(きない・萩野) → 鳩谷(きゅうこく・萩野/孔平くびら、藩士/儒) I 1 6 7 4  
 喜内(きない・鴛田) → 魯斎(ろさい・鴛田ときた、藩儒/経史) B 5 2 5 4  
 喜内(きない・新居) → 繁勝(しげかつ・新居あらい、藩士/歌人) a 2 1 1 7  
 喜内(きない・久留島) → 義太(よしひろ・久留島くるしま/村上、和算) G 4 7 5 9  
 喜内(きない・滋野) → 瑞龍軒(初代ずいりゅうけん、滋野、講釈師/読本/狂歌) 2 3 9 3  
 喜内(きない・佐久間) → 義方(よしかた・佐久間さくま、儒者) C 4 7 6 5  
 喜内(紀内/紀那異きない・山本) → 通春(道春みちはる・山本やまもと、詩人) C 4 1 2 9  
 喜内(きない・小野) → 蘭山(らんざん・小野おの、医者/本草家) C 4 8 3 0  
 喜内(きない・赤井) → 直喜(なおよし・赤井あかい、藩士/文筆家) C 3 2 9 8  
 喜内(きない・中山) → 鶯室(おうしつ・中山なかやま、俳人) C 1 4 4 4  
 喜内(きない・潮田) → 為久(ためひさ・潮田うしおだ、藩士/歌人) V 2 6 8 4  
 喜内(きない・潮田) → 藻苅(もがり・潮田、為久男/藩士/国学) J 4 4 3 6  
 喜内(きない・的場) → 勝督(かつただ・的場まとは、藩士/歌人) V 1 5 7 9  
 喜内(きない・中村) → 実敬(さねたか・中村なかむら、陪臣/歌人) O 2 0 9 6  
 喜内(きない・赤松) → 利和(としかず・赤松あかまつ、里正/尊王) T 3 1 9 5  
 喜内(きない・有川) → 景形(かげなり・有川あらかわ/源、岩根、商家/歌) T 1 5 4 7  
 喜内(紀内きない・秋元) → 澹園(たんえん・秋元/秋本/鈴木、儒者/詩文) H 2 6 9 5
- B1692 義内(ぎない・林はやし/初姓;村上、名;貞亮/忠養、林家養子) 1716-76<sup>61</sup> 代々徳島藩士;致仕/大阪住、  
 医者/儒;子弟教育、浄瑠璃研究:1759「雑書大全以呂波引」、63「左伝字引」著、  
 1765「本草辨明」編、1767「五体文字本源」著、68浪速散人一楽「外題年鑑」を増補、  
 滑稽本作者;1771「八尾地蔵通夜物語」著、  
 [義内の字/別通称/号]字;嘉卿、別通称;儀内、号;九華/浪華散人/一楽子
- 義内(ぎない・服部) → 中庸(なかつね・服部/箕田、医/国学) E 3 2 4 8  
 木梨軽太子(きなしのかるのみこ) → 軽太子(かるのひつぎのみこ) 1 5 5 7  
 希楠(きなん・横山/千坂) → 畿(みやこ・千坂ちさか/横山、幕臣/儒者) F 4 1 9 2  
 希南(きなん・江村) → 如亭(じよてい・江村、儒者/本草家) C 2 2 8 2  
 祇南海(ぎなんかい) → 南海(なんかい・祇園/祇/阮、儒/詩/画) 3 2 3 0  
 紀南子(きなんし・秩都ちよと、戯作) → 東作(とうさく・平秩へづつ/平原屋、商家/狂歌) 3 1 1 3  
 鬼南子(きなんし) → 正阿(しょうあ/せいあ・河合、医者/俳人) Q 2 2 7 0  
 枳南舎(きなんしゃ) → 桃隣(2世とりのん・切部、2世太白堂、俳人) I 3 1 3 5  
 奇南楼(きなんろう) → 薫(かおる・蘭奢亭、狂歌/戯作) B 1 5 1 6

- 基任(きんに・齋藤) → 基任(もととう・齋藤/藤原、武家/歌人) D 4 4 2 2  
 基任(きんに・園) → 基任(もととう・園その/藤原、廷臣/歌人) D 4 4 2 3  
 季任(きんに・乙部/北村) → 季任(すえとう・北村きたむら/乙部、幕臣/儒者) F 2 3 4 8  
 喜任(きんに/よしとう?・阿部) → 櫛斎(れきさい・阿部あべ、医者/本草家) 5 1 7 5  
 熙仁(きんに/ひろひと) → 永助親王(えいじょしんのう、門跡/歌人) 1 3 3 6  
 季任(きんに) すべて → 季任(すえとう)  
 義任(ぎんに・松沢) → 義任(よしとう・松沢まつざわ、国学者) P 4 7 1 3
- B1662 義仁法親王(ぎにん/よしひとほつしんのう、名号;正親町宮/梅尾宮、光厳天皇皇子)?-1413 秦箏:母より伝授、母;徽安門院一条(正親町公蔭女;対の御方)、箏/琵琶秘曲を後小松天皇・三条西実清に伝授、梅尾とがのおに住、歌:1407内裏九十番歌合参加、新統古490  
 [雲のうへのなかばの月にひかれてや四絃よつのをまでも声はすむらん]、  
 (新統古今;四秋490、後小松天皇への返歌)
- B1663 絹(きぬ・略称か女性の名か不明)?-? 万葉二期歌人、卷九1723  
 [かはづ鳴く六田むつたの川の河楊かはやぎのねもころ見れど飽かぬ河かも](万葉1723)  
 (六田の川は吉野六田むつた付近の吉野川)  
 衣笠山人(きぬがささんじん) → 敬斎(けいさい・福井ふくい、儒/幕府医官) E 1 8 6 7  
 絹笠岡大納言(きぬがさのおかのだいごん) → 定能(さだよし・藤原、廷臣/神楽) C 2 0 6 4  
 衣笠前内大臣(きぬがさのさきのないだいじん:統古以下) → 家良(いえよし・衣笠) 1 1 0 3  
 衣笠内大臣(きぬがさのないだいじん、衣笠内府) → 家良(いえよし・衣笠、歌人) 1 1 0 3  
 衣笠山元策禅子(きぬがさやまげんさくぜんし) → 江岳(こうがく;道号・元策、臨濟僧) H 1 9 9 9
- S1641 鬼怒川(きぬがわ;組連) ? - ? 江中期総州の雑俳の組連、  
 取次;1746「雲鼓評万句合」入、取次例;[小便もめつたにはせぬ賭碁打かけごうち](万句合)、  
 (金銭が絡むので茶を控え心構えが違う)
- T1660 きぬ子(きぬこ・上杉うえずぎ)? - ? 江後期文政1818-30頃備後国沼隅郡鞆浦の歌人;  
 香川景樹門、鞆浦の豪商上杉清常の妻?/清憲の母?、木下幸文と交流、  
 1819(文政2)幸文に伊勢国の海音尼が来たことを告げる  
 鬼怒子(きぬし) → 雑華(ぞうけ;道号・蔵海;法諱、曹洞僧) G 2 5 8 6
- L1671 砧音高(きぬたおとたか、姓;鈴木、別号;月下亭)?-? 江戸住吉町狂歌;四方側判者、  
 1825「俳諧歌画讃集上」、「俳諧歌朱雀集」、「俳諧歌竹葉集」、「藻句聯乃玉」著
- L1672 砧音成(きぬたおとなり、姓;村上、通称;槌屋音吉/別号;擣衣庵)?-? 江戸四谷新宿洒落本作者、  
 狂歌;六樹園社中;判者、1794「遊里不調法記」
- B1664 吉年(きね・よとし・えとし、舎人、六人部)?-? 官女/万葉一・二期歌、万葉;二152天智帝大殯おあらし挽歌、  
 万葉;四492太宰赴任の櫛子に贈歌(493-5櫛子の歌)、  
 [492 衣手に取りとどこほり泣く子にも まされる我を置きていかにせむ]  
 参考 → 櫛子(いちに・田辺) B 1 1 1 4  
 杵蔵(きねぞう・臼井) → さん馬(初世さんば・翁家おきなや、落語家) E 2 0 6 1  
 杵屋仙女(きねやせんじょ) → 仙女(せんじょ・杵屋きねや、長歌/狂歌) G 2 4 0 4
- L1673 亀年(きねん;道号・禅愉ぜんゆ;法諱、照天祖鑑国師、俗姓;遠山)?-1561 但馬臨濟僧;特芳禅傑門、  
 月舟寿桂/雪嶺永瑾/大永宗休門、妙心寺住持、後奈良天皇より国師号、「法語集」著
- B1665 喜年(きねん) ? - ? 俳人、1809斗入著「夕月夜」編、  
 祈年(きねん・喜田) → 祈年(のりとし・喜田きた、大工/庄屋/国学) I 3 5 1 5  
 亀年(きねん・中西) → 耕石(こうせき・中西なかにし、絵師) K 1 9 1 0  
 亀年(きねん・菱田/伊東) → 藍田(らんでん・伊東いとう/東/菱田、儒者) D 4 8 0 4  
 宜然(ぎねん) → 入阿(にゅうあ、時宗僧/歌人) F 3 3 7 4  
 宜然(ぎねん;字) → 蓮阿(れんあ/れんな;法諱、真宗大谷派僧/歌) B 5 1 4 8  
 義年(ぎねん・津久井) → 義年(よしとし・津久井つくい、藩士/和算) E 4 7 9 1  
 蕨年堂(きねんどう) → 良庵(りょうあん・宇佐美うさみ、医者) G 4 9 1 1
- S1616 紀明輔(きのあきすけ) ? - ? 狂歌;1787「才蔵集」入、  
 [一寸も先へはゆかぬ早乙女のあとへあとへと急ぐたそがれ]
- G1606 紀有安(きのありやす) ? - ? 江戸狂歌、1782「後万載集」/87「才蔵集」入

[出来たてのふじのおぼこは水無月のすばしり口に参りてぞしる]

(武江年表;安永九年[1780]五月高田宝泉寺に石を積て富士山を築、今月成就す)

- 1624 **紀女郎**(きのいらつめ、名;少鹿女郎おしかのいらつめ、紀鹿人かひとの女)?-? 安貴王あきのおおきみの妻、歌人、  
万葉四期歌12首;家持と贈答(643-645/762-3/766/782/1452/1460-1/1648/1661、玉葉1106、  
[世の中の女をみなにしあらば我が渡る痛背あなせの川を渡りかねめや](万葉;643/怨恨の歌)、  
(痛背;男への痛恨の意を込めるか/普通の女なら渡りきれんだろうが人妻の私は…)  
季能(きのう・藤原) → 季能(すえよし・藤原ふじわら、廷臣/歌人) 2 3 1 8
- L1674 **紀尾佐丸**(きのおさまる・諫鼓堂)?-? 江戸狂歌、1804「年男笑種」20「戯場百人一首」著  
紀乎佐丸(きのおさまる) → 乎佐丸(おさまる・鶴廼屋/浅田屋、撰津狂歌) D 1 4 0 7  
紀少鹿女郎(きのおしかのいらつめ) → 紀女郎(きのいらつめ、万葉四期歌人) 1 6 2 4
- L1675 **紀之遅道**(紀乎曾道きのおそみち)?-? 大阪狂歌/滑稽本、1834「滑稽高野詣」著  
紀海音(きのかいおん) → 海音(かいおん・紀きの、浄瑠璃作者/狂歌) 1 5 0 1  
紀勝也(きのかつなり) → 恰(ゆたか・飯塚/平元、藩士/歌/狂詩) G 4 6 0 7
- S1617 **紀軽人**(きのかるんど) ?-? 狂歌;1787「才蔵集」入:238/451  
[秋風のふけばちらちらちりめんの小袖がうらのなほり(波折?)紅葉葉](才蔵集;238)
- S1618 **木の屑坊**(きのくずぼう・素月園) 1812-? 滑稽本/画:英泉門、1834「虚南留別志」著
- G1607 **紀野暮輔**(きのくれすけ) ?-? 狂歌、1785「徳和歌後万載集」1首入、  
[足引の山鳥の尾の長き日にせいくらべしてたつ雲雀哉](後万載;80/揚げ雲雀の様子)
- B1666 **器之子**(きのこ) ?-? 仮名草子作者、1666「花の縁物語」著  
気野行成(きのこうせい) → 鐘成(かねなり・暁あかつき、商家/戯作/絵師) C 1 5 9 3  
紀定丸(きのだまる) → 定丸(さだまる・紀、狂歌) C 2 0 4 4
- L1676 **紀暫計**(きのざんけい) ?-? 江前期美濃大垣仮名草子作者、  
1678「伊勢物語ひら言葉」著
- B1667 **紀式部**(紀伊式部きのしきぶ・きいしきぶ、紀伊守藤原俊忠女)?-? 平安後期女房歌人、  
上東門院彰子[988-1074]女房、  
歌;後拾遺404/新千載743、甲斐守隆経[1009?-72]と贈答(後拾遺;404);  
[いづかたと甲斐かひのしらねはしらねども雪降るごとに思ひこそすれ]  
木下山人(きのしたさんじん) → 田楽(でんがく・椒芽きのめ、戯作者) D 3 0 2 5  
木下花成(きのしたのはななり) → 明秋(あきとし・越石こしいし、藩士/歌人) H 1 0 5 7  
喜之七(きのしち・芳賀;変名) → 竹之介(竹之助たけのすけ・高橋、勤王派) T 2 6 8 8  
紀淑麿(きのしゆくまろ) → 春三(しゅんさん・柳河/西村/栗本、洋学者) K 2 1 2 1  
紀納言(きのしょうげん) → 長谷雄(はせお・紀、廷臣/漢学者) 3 6 1 9  
紀正直(きのしょうじき) → 正直(しょうじき・全亭、狂歌・読本作者) J 2 2 4 1  
紀上太郎(きのじょうたろう) → 上太郎(じょうたろう・紀、三井高業、商家/狂歌) 2 2 8 7  
紀之進(きのしん・のり・芳賀) → 猶昌(なおよさ・芳賀はが、国学者) O 3 2 2 7  
儀之進(ぎのしん・松岡) → 大蟻(たいぎ・松岡まつおか、藩士/俳人) B 2 6 2 1  
紀末茂(きのすえもち・漢詩人) → 末茂(すえしげ・紀) B 2 3 1 6  
紀之介(きのすけ・大谷) → 吉継(よしつぐ・大谷おおたに、武将/城主) E 4 7 6 3  
基之輔(きのすけ・奥村) → 立山(りつざん・奥村おくむら、暦学/和算家) C 4 9 0 0  
喜之助(きのすけ・檜垣) → 貞親(さだちか・檜垣/度会、神職) I 2 0 5 0  
喜之助(きのすけ・伊丹) → 康勝(やすかつ・伊丹いたみ、幕臣) B 4 5 1 5  
喜之助(きのすけ・歌川) → 国孝(くにたか・歌川うたがわ、絵師) C 1 7 8 3  
喜之助(きのすけ・堀) → 利正(としまさ・堀ほり、幕臣) N 3 1 7 0  
喜之助(きのすけ・小島) → 尚質(なおかた・小島/小嶋、幕府医官) 3 2 9 5  
旗之助(きのすけ・片岡) → 成斎(せいさい・片岡かたおか、家老/儒者) I 2 4 3 0  
紀雑色(きのぞうしき;号) → 成任(なりとう/しげとう・紀、地方官/文筆) J 3 2 8 0  
紀僧正(きのそうじょう) → 真濟(しんぜい;法諱、高雄僧正、真言僧) 2 2 3 9  
紀大納言(きのだいなごん) → 長谷雄(はせお・紀) 3 6 1 9  
紀斉名(きのただな・漢詩人) → 斉名(ただな・紀) 2 6 2 8
- G1608 **紀束**(きのたば) ?-? 天明期狂歌、高彦「狂風大人墨叢」詠草入



- G1609 **紀のたらんど**(きのたらんど)? - ? 狂歌;1782黒人「初笑不琢玉」・万載集入  
紀中葉(きのちゅうよう、浄瑠璃作者)→ 中葉(ちゅうよう・紀) G 2 8 9 0
- J1615 **記のつかぬ**(きのつかぬ、伊勢屋清左衛門)?-? 狂歌、本町連、小石川住
- S1623 **紀月兼**(きのつきかね) ? - ? 狂歌;1787才蔵集入;581、  
[かぎりなく飲みほし給へ味酒うまざけのみな百薬の銚子ぎりまで](才蔵;581/酒を贈る)、  
(酒は百薬の長;出典は漢書・食貨志下)  
記のつかぬと同一? → 記のつかぬ(きのつかぬ、伊勢屋清左衛門) J 1 6 1 5  
紀利貞(きのとしさだ) → 利貞(としさだ・紀、平安歌人) M 3 1 4 0  
紀の十子(きのとっし、「近江源氏湖月照」)→ 宗十郎(4世そうじゅうろう、沢村) B 2 5 9 0
- 1630 **紀内侍**(きのないし・貫之女)? - ? 平安中期歌人;歌の才能;大鏡・十訓抄に説話、  
[古今和歌六帖](紀家六帖/4千6百96首)の撰者説(袋草紙);現存は4503首、紀時文の姉妹、  
鶯宿梅の歌(大鏡);清涼殿の梅が枯れ村上天皇が貫之娘の庭の木を移植するとき、  
木に歌あり;[勅なればばいともしこし鶯の宿はと問はばいかかこたへむ]、  
天皇は感銘し返却した逸話  
紀内親王(きのないしんのう) → 紀伊内親王(きいないしんのう) 1 6 7 4
- G1610 **紀ノ長人**(きのながひと) ? - ? 狂歌;1800松好齋「劇場楽屋図絵」入  
紀納言(きのなごん) → 長谷雄(はせお・紀) 3 6 1 9  
紀名虎(きのなとら) → 名虎(なとら・紀) G 3 2 7 7  
紀二位(きのにい) → 朝子(ちようし・藤原、信西妻) I 2 8 4 9  
紀拔足(きのぬきあし) → 春足(はるたり・遠藤、狂歌/戯作) G 3 6 5 1
- G1611 **紀拔留**(きのぬける) ? - ? 狂詩、1805定雅「古今馬歌集」跋  
紀長谷雄(きのはせお・漢学者) → 長谷雄(はせお・紀) 3 6 1 9
- G1612 **紀春長**(きのはるなが) ? - ? 狂歌、1782後万載集冒頭1首入  
[初春と歳暮をいはふ門かどかざりわか松もありくれ竹もあり](徳和歌後萬載集;冒頭)
- B1668 **紀皇女**(きのひめみこ、天武天皇皇女、石田王の妻)?-? 母;蘇我赤兄の女大薙娘(おおぬのいらつめ)、  
万葉二期歌人390、穗積皇子の同母妹、兄弓削皇子に慕われる119-22、  
多感:高安王と恋[王は伊予守に左降];3098左注;多紀皇女と混同説あり、玉葉入、  
[軽の池の浦廻らみ行き廻みる鴨すらに玉藻の上にひとり寝なくに](万;390/譬喩歌)  
参考 母 → 大薙娘(おおぬのいらつめ、歌人) B 1 4 0 6  
恋人 → 高安王(たかやすおう、大原真人) D 2 6 9 6  
姉妹 → 多紀皇女(たきのひめみこ、天武帝皇女) E 2 6 1 3  
紀真顔(きのまがお) → 真顔(まがお・鹿都部しかつべの、戯作/狂歌) 4 0 0 1
- G1613 **紀躬鹿**(きのみじか、井上作左衛門)?-? 評定所役人、牛込御徒町狂歌;  
1785「徳和歌後万載集」6首/87「狂歌才蔵集」7首入;  
[あら玉のとしたちかへるあしたよりまたれぬものはかけとりの声](才蔵;春2)  
紀御依(きのみより) → 御依(みより・紀、漢詩人) H 4 1 0 7  
木芽亭田楽(きのめでいでんがく) → 田楽(でんがく・椒芽きのめ、医者/戯作者) D 3 0 2 5  
椒芽田楽(きのめのでんがく、このめ-) → 田楽(でんがく・椒芽、神谷、戯作者) D 3 0 2 5
- B1669 **紀乳母**(きのめのと、名;全子ぜんし、源澄or源蔭の妻?、陽成天皇の乳母)?-? 源益の母、平安初期歌人、  
877従五下/882従五上、883息子の益が殿上で格殺される;陽成天皇退位の遠因となる、  
平定文と交渉、勅撰4首;古今454/1028後撰530/648、  
[いさゝめに時待つ間まにぞ日は経へぬる心ばせをば人に見えつゝ]、  
(古今;十物名454/笹・松・枇杷・芭蕉葉ばせをば)  
紀望行(きのもちゆき・茂行とも) → 望行(もちゆき・紀、貫之父) B 4 4 7 6
- S1646 **其誹**(きはい) ? - ? 江中期安藝可部の俳人;野坡系、  
[跡を追ふ声や千鳥の波かすみ](1752野坡追善「十三題」入)
- L1677 **其梅**(きはい・野村のむら、通称文右衛門)1719-8870 京俳人;釜石/丈石門、1768「春興松のかすみ」編  
[其梅の別号] 伴松庵/穿江亭(せんこうてい)
- S1691 **紀梅**(きはい・長田ながた)1776 - 184974歳 甲斐の医者/長崎に修学;漢学・本草学を修得、  
[紀梅(;号)の通称/別号]通称;伊左衛門、別号;牛庵



- 倚梅堂(きばいどう) → 玄道(げんどう/はるみち・矢野、儒/国学者) C 1 8 8 4  
 伎倍廼舎(きばいのや→きべのや) → 豊秋(とよあき・有賀ありが/菅原、国学/歌/俳) U 3 1 0 2
- B1670 既白(きはく・無外庵・雲水房/雲樵)?-1772 曹洞僧/俳・希因門、金沢で庵;狐狸窟、蕉風復古運動、  
 1760「やふれ笠」66「蕉門むかし話」「菰一重」編、76几董「続明鳥」入
- L1679 亀伯(きはく・高木たかぎ、名;正房、正照男)?-1869 信州伊那神子柴の俳人:伯先門、和算家、  
 「吾妻の紀行」「駒ヶ嶽詣」著  
 [亀伯の通称/別号]通称;儀左衛門、別号;東朝軒
- 希白(きはく;法諱・虚室) → 虚室(こしつ;道号・希白、臨濟僧) M 1 9 6 9  
 規伯(きはく;道号・玄方) → 玄方(げんぼう;法諱・規伯、臨濟僧/国書改竄事件) M 1 8 3 2  
 奇白(きはく・竹下) → 下風(したかぜ・梅野、浄瑠璃作者) D 2 1 4 3  
 器伯(きはく・北条) → 時成(ときなり・北条ほうじょう/中臣、神職) W 3 1 3 4  
 己百(きはく) → 己百(きひやく、、日賢、日蓮僧/俳人) G 1 6 1 6  
 希白(きはく) → 菊所(きくしょ・池上いけがみ、俳人) K 1 6 1 3  
 基白(きはく・長坂/松森) → 胤保(たねやす・松森/長坂、藩士/博学) S 2 6 1 1  
 記博(きはく・角田) → 記博(のりひろ・角田つのだ、神職/国学) J 3 5 2 3
- G1614 其麦(きはく、夜白林) ? - 1756 江中期名古屋美濃派俳人:  
 1752「七化集」編/54「東山墨なをし」編、「三夕暮」著
- L1680 義伯(ぎはく・下村?) ? - ? 江中期1716-36頃岩代信夫の僧:「和歌集」編、「心経註」著、  
 1691不角「二葉之松」(104)入の義伯と同一か
- 祇伯(ぎはく・松田) → 何多羅方士(なんだらほうし、狂歌) J 3 2 2 9  
 宜白(ぎはく・秋芳軒) → 己百(きひやく/きはく、日賢、日蓮僧/俳人) G 1 6 1 6  
 宜白(ぎはく・鈴木) → 長温(ひさよし・鈴木すずき、商家/俳・歌人) J 3 7 9 7  
 義博(ぎはく・よしひろ・最上/水原) → 三折(さんせつ・水原/最上、医者) M 2 0 5 5
- 1625 宜麦(ぎはく・川路かじ、通称;弥三郎/平右衛門) 1757-1828 幕臣/俳人;蓼太門;号老鶯巢を受、  
 蓼太没後は雪門別派とも称す/画にも長ず、1782「吐月句集」99「今戸集」編、  
 1803「浅川早引集」08「さきの杖笠」10「絵歌仙」11「続絵歌仙」18「花くらべ」編、  
 1818「老鶯巢絵哥仙」、「老鶯巢句集」「初音富久路」著/「附合亀鑑」編、  
 「宜麦発句集」(門人青蛾編;1830)、[家毎に蕎麦うつ春の在所かな]、  
 [宜麦の別号] 老鶯巢/睡堂
- 既白山人(きはくさんじん) → 元賛(げんざん・陳、詩人) B 1 8 2 7  
 磯泊散人(きはくさんじん) → 政香(まさか・渡辺/源、神職/国学/歌) B 4 0 6 4  
 輝白亭静翁(きはくせいせいおう) → 雪湖(せつこ・加藤かとう、俳人) K 2 4 8 6  
 喜八(きはく・関) → 雁空(がんくう・関せき、俳人) Q 1 5 2 8  
 喜八(きはく・畑井/田/蒔田) → 暢斎(ちやうさい・蒔田/田/秦/畑井、書家) I 2 8 3 7  
 喜八(きはく・梶谷) → 守典(もりり・梶谷かじたに、医者/国学) J 4 4 6 5  
 季八(きはく・山県) → 洙川(しゆせん・山県/県、藩士/儒者) Y 2 1 9 4  
 幾八(きはく・多田/秩父屋) → 於保久旅人(おおくのたびと、旅館業/狂歌) B 1 4 7 1  
 季八郎(きはくちろう・鳥山) → 巴山(はざん・高橋、儒者) E 3 6 3 3  
 希八郎(きはくちろう・阪谷) → 朗廬(ろうろ・阪谷さかたに、儒者/詩文) 5 2 4 6  
 規八郎(きはくちろう・鈴木) → 延方(のぶかた・鈴木すずき、歌人) G 3 5 8 1  
 喜八郎(きはくちろう・宮地) → 春樹(はるき・宮地みやぢ、藩士/儒/国学) G 3 6 2 4  
 喜八郎(きはくちろう・橋本) → 敬筋(ゆきやす・橋本はしもと、幕臣/随筆) F 4 6 8 9  
 喜八郎(きはくちろう・中村) → 清旭(きよあき・中村、藩士/尊王派) N 1 6 0 4  
 喜八郎(きはくちろう・安原) → 千方(ちかた・安原やすはら、和算家) B 2 8 0 8  
 喜八郎(きはくちろう・山国) → 共昌(ともまさ・山国やまくに、藩士/天狗党) Q 3 1 5 7  
 喜八郎(きはくちろう・石尾) → 有則(ありり・石尾いしお、藩士/歌/宗教) G 1 0 9 9  
 喜八郎(きはくちろう・板津) → 吉金(よしかね・板津いたう、藩陪臣/歌) L 4 7 5 4  
 騏八郎(きはくちろう・宇野) → 貞恵(ていゑ・宇野うの、藩士/儒者) J 2 0 2 6  
 儀八郎(ぎはくちろう・川部) → 正秀(まさひで・川部/鈴木、刀工/鍛錬術) G 4 0 7 2

- 儀八郎(ぎはちろう・稲葉) → 通孝(みちたか・稲葉いなば、藩士/国学者) I 4 1 1 0  
儀八郎(ぎはちろう・田淵) → 孝修(たかのぶ・田淵たぶち、藩士/国学) X 2 6 8 9  
儀八郎(義八郎ぎはちろう・宗川) → 茂(しげる・宗川むなかわ、藩士/儒/教育) T 2 1 1 9  
紀発昭(きはつしょう、唐名) → 長谷雄(はせお・紀) 3 6 1 9
- B1671 季範(きはん・双楡軒そうゆけん)?- ? 江前期大坂談林派俳人・来山門、  
1688「浮草」編; 団水と両吟、92「きさらぎ」編
- L1681 希范(希範きはん・赤石あかい/明石あかし、字; 宋相、赤石士道男) 1785-1847 63 備前和氣北方村医者;  
1809華岡青洲門、岡山藩医、儒; 茶山門、詩文、「池田氏痘疹秘書」著、  
[希范(希範)の通称/号]通称; 巳之次/退蔵、号; 槐蔭、法号; 徹玄院澄然曠翁居士
- 基範(きはん・持明院) → 基行(もとゆき・持明院/藤原、廷臣/歌) E 4 4 5 2  
基範(きはん・藤原) → 基範(もとのり・藤原、廷臣/歌) D 4 4 7 7  
季繁(きはん・西園寺) → 実祖(さねみ・徳大寺とくだいじ/藤原/西園寺、右大臣) N 2 0 4 1  
季蕃(きはん・安倍) → 季蕃(すえいげ・安倍/東儀、楽人) F 2 3 4 4
- L1682 義範(ぎはん; 法諱、遍智院僧都、藤原如政男) 1023-88 66 肥後真言僧; 仁海/成尊門、  
醍醐山に遍智院開創、白河・堀河天皇の護持僧、1086勝覚に伝法職位を授与/東寺三長者、  
権少僧都、付法の門弟; 勝覚/懐俊/定尊/経順など、  
「弘法大師寿福伝」「景勝慧印三昧耶表白集」、1085「大仏頂私次第」著/外著多数
- L1683 義範(ぎはん; 字・佐々木ささき、法諱; 現覚) 1830-78 49 佐渡小比叡村真言僧; 養禅寺泰眼門、  
1841上京; 智積院弘現門/70佐渡蓮華峰寺住持/4智積院41世/権大教正、「俱舍論綱要」著、  
「純秘鈔私記」「阿毘達磨俱舍論玄談并私記」「光明真言和讃」「密宗安心開達記」著
- 義範(ぎはん・茂木) → 義範(よしのり・茂木もてぎ/源/小田、武将/連歌) F 4 7 7 8  
義般(ぎはん・井上) → 稻丸(いなまる・津軽稻丸・井上、俳人) B 1 1 8 2  
宜汎(ぎはん・中沢/岡田) → 兼山(けんざん・岡田おかだ、儒者/藩家老) J 1 8 2 1  
義蕃(ぎはん・秋田/津田) → 鳳堂(ほうどう・秋田/津田、和算家) C 3 9 4 1  
季飛(きび・志筑) → 忠雄(ただお・志筑しづき/中野、蘭学者) E 2 6 8 5  
季美(きび・寺田) → 季美(すえよし・寺田てらだ、歌人) I 2 3 0 2  
驥尾(きび; 字) → 日守(にっしゅ; 法諱・円興院、日蓮僧) D 3 3 9 5  
輝美(きび・守住/庄野) → 貫魚(つらな・守住もりずみ/庄野、藩絵師) E 2 9 4 2  
吉備(きび・近藤) → 春彦(はるひこ・近藤、国学者) B 3 6 7 2  
吉備(きび・青山) → 枇杷麿(枇杷丸びわまる・青山堂、書肆/狂歌) 3 7 3 2  
義比(ぎび・熊谷/熊屋) → 五右衛門(4代ごえもん・熊谷/熊屋くまや、商家/藩政) L 1 9 7 4  
義比(ぎび・位田) → 義勇(よしたけ・位田いだ/信田、歌人) E 4 7 1 9  
義比(ぎび・岡村) → 義比(よしちか・岡村おかむら、藩士/詩/書) E 4 7 5 1  
義比(ぎび・牧) → 義比(よしとも・牧まき/藤原、官人/記録) F 4 7 0 2  
義比(ぎび・平井) → 収二郎(しゅうじろう・平井、藩士/尊攘) X 2 1 5 9  
義比(ぎび・小松) → 正直(しょうじき・全亭、狂歌・読本作者) J 2 2 4 1  
義比(ぎび・青木) → 義比(よしとも・青木あおき、旗本/幕臣/歌) K 4 7 8 5  
義比(ぎび・和田) → 義比(よしちか・和田、国学者) Q 4 7 1 2  
義弥(ぎび・吉良) → 義弥(よしみつ・吉良きら/源、幕臣/高家) K 4 7 3 6  
技美(ぎび・鶴飼) → 技美(わざよし・鶴飼うかい、藩士/軍学者) 5 3 2 2  
儀備(ぎび・井上) → 石溪(せつがい・井上いのうえ、儒学/兵学) K 2 4 8 4  
吉備男(きびお) → 元義(もとよし・平賀、平尾/興津/犬丸、地誌/歌人) 4 4 2 4  
黄薇山人(きびさんじん) → 古松軒(こしょうけん・古河、地理学者) 1 9 3 3  
黍団子(きびだんご) → 鉄石(てつせき・藤本、勤王/天誅組) C 3 0 5 1
- B1672 吉備津采女(きびつのうねめ)?- ? 自殺? 近江朝? 吉備国の采女、不許婚による罪?  
人麿による挽歌; 万葉集217(長歌)-218・219(反歌)
- 吉備大臣(きびのおとど) → 真備(まきび・吉備、漢学/右大臣) 4 0 6 1  
吉備中山人(きびのなかやまさんじん) → 鉄石(てつせき・藤本、勤王/天誅組) C 3 0 5 1
- G1615 吉備麻呂(きびまろ・賀茂かも)?- ? 奈良期廷臣; 719播磨守、「播磨風土記」編纂関与?
- G1616 己百(きひやく/きはく、法諱; 日賢)?- ? 美濃岐阜の日蓮宗妙照寺の住職、俳人、

1682芭蕉を美濃に案内、1689「あら野」1句/90其門「花摘」入、92不玉「継尾集」歌仙入、  
1693荷兮「曠野後集」/98「続猿蓑」1句入、1728越人「庭竈にわかまど集」入、

[おもひかねその里たける野猫哉](続猿蓑;巻下/恋に耐えず相手の里で思いを叫ぶ)、  
[己百(;号)の別号] 秋芳軒宜白/秋芳

- 己百庵(きひやくあん) → 百庵(ひやくあん・寺町/越智、幕臣/茶/歌) E 3 7 4 3  
己百斎(きひやくさい・塾名) → 直繩(なおつな・海妻かいつま、儒/国/故実) B 3 2 6 9  
季標(きひょう・北村) → 春水(しゅんすい・北村きたむら、国学/歌人) K 2 1 0 3  
義豹(ぎひょう・川治) → 南山(なんざん・川治かわじ、儒者/詩) J 3 2 1 1  
義標(ぎひょう・高木) → 義標(よししたか・高木たかぎ、手習師匠、歌) K 4 7 5 3  
宜瓢(ぎひょう・若林) → 正方(まさかた・若林わかばやし/玉置、歌人) T 4 0 7 9  
G1617 義苗(ぎひょう・積) ? - ? 漢詩・藍水門、1780「藍水詩草」編・跋  
義苗(ぎひょう・大島) → 義苗(よししたね・大島おおしま、旗本/俳人) K 4 7 6 5  
義苗(ぎひょう・土方) → 義苗(よししたね・土方ひじかた/木下、藩主/財政再建) O 4 7 7 3  
季彬(きひん/すえあき・伊地知) → 季安(すえやす・伊地知いぢち、藩士/記録) F 2 3 7 2  
季敏(きびん・久津摩) → 季敏(すえとし・久津摩くづま、藩士/国学) I 2 3 4 4  
義敏(ぎびん・斯波) → 義敏(よしとし・斯波しば/源、武将/連歌) E 4 7 9 0  
季夫(きぶ・平尾) → 季夫(すえお・平尾ひらお、歌人) J 2 3 0 5  
基富(きぶ・園) → 基富(もととみ・園その/藤原、廷臣/連歌) D 4 4 3 2  
毅父(きぶ・堀) → 蒙齋(もうか・堀ほり/菅原、藩儒/文筆家) 4 4 4 7  
毅夫(きぶ・六角) → 重任(しげとう・六角ろっかく、医者) R 2 1 6 2  
毅夫(きぶ・明石) → 慶弘(よしひろ・明石あかし、藩士/兵法家) G 4 7 6 0  
喜舞(きぶ・歌川) → 国重(初世くにしげ・歌川うたがわ、絵師) C 1 7 7 7  
宜富(ぎぶ、俳号) → 春章(初世しゅんしょう・勝川/藤原、絵師) J 2 1 9 4  
誼夫(ぎぶ・横山) → 政孝(まさたか・横山よこやま、藩士/詩人) D 4 0 2 4  
義父(義夫ぎぶ・谷) → 維揚(いよう・谷たに、儒者) I 1 1 3 4  
義父(ぎぶ:字・長) → 鶯山(おうざん・長ちよう、儒者) C 1 4 4 3  
義夫(ぎぶ:字・緒方) → 惟勝(維勝これかつ・緒方おがた、医者) O 1 9 2 3  
義府(ぎぶ・益田) → 義府(よしもと・益田ますだ、歌人) K 4 7 8 8  
義府(ぎぶ・堤) → 義府(よしもと・堤つみ、医者/歌人) N 4 7 9 4  
義武(ぎぶ・鷹橋) → 義武(よししたけ・鷹橋たかはし、地誌家) E 4 7 1 7  
義武(ぎぶ・高橋) → 義武(よししたけ・高橋たかはし、神職/歌人) L 4 7 0 9  
G1618 枳風(きふう) ? - ? 江戸俳:其角門、1686其角と箱根行「新山家」入、  
1685風瀑「一樓賦」入/1687「続の原」3句入/98「続猿蓑」入;  
[麓より足ざはり良き木の葉哉](続猿蓑;木葉)(高地ほど落葉の感触が良い)  
B1673 沂風(きふう・塩路おじ、名;琳澄、別号;爾時じ庵/得往/方広坊) 1752-1800<sup>49</sup> 紀伊御坊の真宗僧、  
俳人;蝶夢門、1775高野山奥の院道に芭蕉碑建立、近江義仲寺無名庵6世庵主、西国行脚、  
1790蝶夢の援助で寺内に粟津文庫建設/1792母看護のため退隠、京高田道場で修業、  
1787「宰府日記」、89「まさこよせ」「祥然禅門句帖」著、94「意新能日可麗」編、  
1796蝶夢追善「萩のむしろ」、没後1801「爾時庵発句集」遺吟180句入;立川政伸跋  
G1619 其風(きふう) ? - ? 尾張の狂歌作者;永日庵其律門、1782後万載1首、  
[何千里照り渡るともけふの月ながめ尽さん目のとゞくだけ]、  
(徳和歌後万載集;262/白氏文集;三五夜中新月ノ色/二千里外古人ノ心を踏まえる)  
G1620 起風(きふう) ? - ? 俳人、1845樵風「鶏口集」編  
S1648 基楓(きふう・羽田屋) ? - ? 備後尾道の俳人、  
[うぐひすや荒磯あらいそ島を声のひま](短冊)  
其風(きふう・初山) → 清兵衛(せいべえ・初山もみやま、農業/教育) J 2 4 5 8  
沂風(きふう・服部) → 直好(なおよし・服部はつとり、藩士/兵法家) C 3 2 9 2  
紀風(きふう・村松) → 紀風(のりかぜ・村松むらまつ、本草家) E 3 5 3 7  
宜風(ぎふう・仲野) → 安雄(やすお・仲野なかの、庄屋/儒・神道) B 4 5 0 1  
義風(ぎふう・水野) → 義風(よしかぜ・水野みずの、藩士/歌人) C 4 7 5 9

- 義風(ぎふう・佐藤) → 義風(よしかぜ・佐藤さとう、国学者) N 4 7 1 4  
 其風堂(きふうどう) → 寅亮(とらすけ・田中たなか、藩士/尊王派) R 3 1 7 6  
 基福(きふく・園) → 基福(もとよし・園その/藤原、准大臣/詩歌) E 4 4 6 9  
 季福(きふく/すえとみ?・山本) → 季鷹(すえたか・賀茂かも/山本、神織/歌人) 2 3 0 6  
 季副(きふく・西池) → 季副(すえそえ・西池にいけ/賀茂、神職) F 2 3 4 6
- L1684 黄文王(きふみのおう、長屋王男、母不比等女)?-757 天武天皇曾孫/高市皇子孫、723長屋王変、  
 757奈良麻呂変:弟安宿の密告/連座
- L1685 奇文(きぶん;道号・禅才ぜんさい;法諱)1493-1571 79 相模臨濟僧;円覚寺叔悦禅懺ぜんえき門、  
 1553円覚寺154世/63炎上した円覚寺伽藍復興に尽力、  
 武蔵岩槻知楽庵創立、「円覚寺床曆」著
- B1674 亀文(きぶん・松平まつだいら/櫻井、名;忠告ただとぐ、忠名男)1742-1805 64 撰津尼崎藩主;1768襲封、  
 江戸桜田門守衛、叡山山門造営、俳人:谷素外門、江戸下屋敷内の芭蕉庵跡に碑建立、  
 「一桜井発句集」、1776「ななかまど」編/76「古今名家句撰」/87「誹諧五色梅」編、  
 「赤穂義士墳墓記事」「亀文点取帖」著、武州の水簾と交流;1803「曲直庵発句集」(水簾編)、  
 [亀文の別号]一桜井/曲直庵、法号;泰安院、忠宝[亀考]ただとみ・忠栄ただなかの父
- G1621 亀文(きぶん・大河原おおがわら、太郎右衛門2男)1773-1831 59 武蔵高麗郡飯能村菓種商;亀屋を創業、  
 和漢学を修学、国学・歌;林国雄門、詩・歌・俳諧・戯作(滑稽本・評判記など)を著述、  
 自ら[田舎の芋掘り]と称し当代の学者を揶揄;小説「学者必読妙々奇談」著、  
 「妙々奇談」「後夜の夢」「鯛の阿羅」「鳥のまごころ」「覗からくり」「春の名残」著、  
 1813「松の言葉」15「百喩談」19「亀瑞問答」23「奇品木魚説」著、  
 「見聞談海」「勢州紀行」「転輪業報奇談」「麻疹御伽草紙」外著多数、  
 [亀文(きぶん・かめふみ;号)の名/字/通称/別号]名;包章、字;夷彦、通称;文左衛門/滑平、  
 号;周滑平すこつへい/非虚陳人/賤乃屋しづのや/杵虚しよきよ陳人
- B1675 季文(きぶん・北村きたむら、通称;平吉、季春男)1778-1850 73歳 歌人/1803家督嗣;幕府5代歌学方、  
 1838法印、24「梅花百首」/32「堺之浦風」/43「詠経語百首」「墨水遊覧記」、1842「春鶯集」編、  
 「十二山海の巻」「消閑和歌」「堀河後度百首三吟」「浴恩園図並和歌」著、  
 蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、  
 [言の葉の花はおくれて行く水にはやくぞ過ぐる春のさかづき]、  
 (大江戸倭歌;春311/曲水宴)、  
 [季文(;名)の号]号;再昌院法眼/再昌院/向南亭閑人
- 希文(きぶん・田辺) → 晋斎(しんさい・田辺/上毛野、儒者/記録) E 2 2 1 6  
 季文(きぶん/すえふみ・高浜) → 龜山(きざん・高浜、藩士/儒者/詩) K 1 6 5 8  
 季文(きぶん・猪飼) → 敬所(けいしょ・猪飼いかい、儒者) 1 8 7 3  
 季文(きぶん・中野) → 竜田(りゅうでん・中野なかの、儒者) K 4 9 8 5  
 季文(きぶん・勝) → 利章(としあき・勝かつ、詩) L 3 1 9 0  
 季文(きぶん・安倍) → 季文(すえふみ・安倍あべ、楽人) L 2 3 1 8  
 季文(きぶん・中田) → 季文(すえふみ・中田/加藤、庄屋/国学) I 2 3 9 0  
 奇文(きぶん・横山) → 清暉(せいき・横山よこやま、絵師) O 2 4 4 3  
 其文(きぶん・柴垣) → 梅彦(めいひこ・四方、戯作者/狂歌) 1 2 9 3  
 基文(きぶん・石山) → 基文(もとふみ・石山いしやま/石野/姉小路、廷臣) J 4 4 2 8  
 紀文(きぶん/としふみ・田中) → 大秀(おおひで・田中たなか、国学者) 1 4 0 6  
 貴文(きぶん/たかふみ・坂川) → 暘谷(ようこく・坂川さかがわ、書家) 4 7 8 5  
 旗文(きぶん・天野) → 恥堂(ちどう・天野あまの、儒者/詩人) F 2 8 0 1  
 輝文(きぶん・星野) → 輝文(てるふみ・星野、郷土/商家/勤王) C 3 0 9 1  
 亀文(きぶん・瀬名) → 貞雄(さだお・瀬名せな、幕臣/故実家) B 2 0 7 2  
 亀文(きぶん・香西) → 亀文(かめあや・香西こうさい、藩士/歌人) U 1 5 6 6  
 義聞(ぎもん;法諱) → 義聞(ぎもん;法諱・十阿;字、浄土僧) M 1 6 1 1  
 義文(ぎぶん・倉鹿野) → 義文(よしふみ・倉鹿野くらかの、与力/歌) G 4 7 8 3  
 義文(ぎぶん・小泉) → 義文(よしふみ・小泉こいずみ、国学/歌人) M 4 7 7 1  
 宜文(ぎぶん・中村) → 宜文(よしふみ・中村なかむら、国学者) O 4 7 2 0



喜文治(きぶんじ・栗田) → 寛樹(ひろき・栗田くりた、染色業/歌人) J 3 7 4 8  
 亀文石(きぶんせき) → 蓬平(ほうへい・佐竹さたけ/野口、絵師) C 3 9 4 9  
 亀文主人(きぶんしゅじん) → 蓬平(ほうへい・佐竹さたけ/野口、絵師) C 3 9 4 9  
 亀文石(きぶんせき) → 蓬平(ほうへい・佐竹さたけ/野口、絵師) C 3 9 4 9  
 喜聞多(きぶんた・中山) → 正樹(まさき・中山なかやま/度会、神職/歌人) C 4 0 2 4  
 喜聞多(きぶんた・中山/橋村) → 正並(まさなみ・橋村はしむら/度会/中山正樹男、神職) R 4 0 6 1  
 季平(きへい・武久) → 季平(すえひら・武久たけひさ/松岡、藩士/歌) I 2 3 7 5  
 基平(きへい・源) → 基平(もとひら・源みなもと、廷臣/日記) E 4 4 0 3  
 基平(きへい・近衛) → 基平(もとひら・近衛/藤原、左大臣/歌) E 4 4 0 4  
 喜平(きへい・高島) → 秋帆(しゅうはん・高島たかしま、砲術家) I 2 1 2 2  
 喜平(きへい・前沢) → 喜平(よしひら・前沢まえさわ、国学者/歌人) P 4 7 0 4  
 喜平(きへい・山本) → 正秋(まさあき・山本やまもと、国学者/歌) T 4 0 5 5  
 儀平(ぎへい・渋谷) → 幽軒(ゆうけん・渋谷しぶや、藩士/和漢学) B 4 6 4 2  
 儀平(ぎへい・海保) → 青陵(せいりょう・海保、儒者) D 2 4 1 5  
 儀平(義平ぎへい・西依) → 成斎(せいさい・西依にしより/西、儒者) B 2 4 5 5  
 儀平(ぎへい・鴨川/松本) → 保居(やすおき・玄々堂、姓;松本、絵師) B 4 5 0 5  
 儀平(ぎへい・宇野) → 蘭斎(らんさい・宇野うの、蘭方医者) C 4 8 2 2  
 儀平(ぎへい・渡部) → 雅則(まさのり・渡部わたなべ、藩抱の金工) G 4 0 0 8  
 儀平(義平ぎへい・味池) → 修居(しゅうきよ・味池あじち、儒者) H 2 1 0 7  
 儀平(ぎへい・清家) → 信郷(のぶさと・清家せいけ、製造業/歌人) I 3 5 8 1  
 義平(ぎへい・源) → 義平(よしひら・源みなもと、義朝男/武将) G 4 7 4 8  
 義平(ぎへい・冢田) → 旭嶺(ぎよくれい・冢田つかた、医/儒者) P 1 6 4 4  
 義平(ぎへい・高橋) → 健蔵(けんぞう・高橋たかはし、書家) K 1 8 7 0  
 義平(誼平ぎへい・服部) → 大方(たいほう・服部/沢、藩士/儒者) C 2 6 2 0  
 義平(ぎへい・溝口) → 義平(よしひら・溝口みぞぐち、歌人) L 4 7 1 0  
 義平(ぎへい・小笠原) → 維韶(これあき・小笠原おがさわら、藩士/歌) Q 1 9 4 1  
 宜平(ぎへい・下村) → 由章(よしあき・下村しもむら、藩士/詩歌) B 4 7 8 8  
 宜平(ぎへい・岡崎) → 宜平(よしひら・岡崎おかざき、藩士/測量) G 4 7 5 1

L1686 **喜平治**(きへいじ・片岡かたおか、名;賢猛/字;伯虎、久兵衛男)1806-84 79 父は尾張藩米切手細工所小吏、父没後;1812(7歳)父の跡継嗣し尾張藩米切手細工所小吏となる、1829材木御用、1853勘定所吟味方/60幕命で木曾木材の伐出に功;褒賞/63目見以上/66(慶応2)金奉行、「浮世雑記」「動乱聞書」「白鳥御材木間尽改方定法」「片岡喜平治覚書」著、[喜平治の別通称]兼三郎/喜三郎/道護、法号;宝樹院

喜平次(きへいじ・向井) → 去来(きよらい・向井むかい、俳人) 1 6 5 4  
 喜平次(きへいじ・尾藤/宮川) → 長春(ちやうしゅん、宮川/尾藤、絵師) I 2 8 8 5  
 喜平次(きへいじ・松平) → 世軌(つぐのり・松平まつだいら、幕臣) G 2 9 3 8  
 喜平次(きへいじ・上杉) → 斉憲(なりのみ・上杉うえずぎ、藩主/歌) K 3 2 2 9  
 喜平治(きへいじ・金沢) → 重良(しげよし・金沢かなざわ、村役/国学/歌) O 2 1 0 6  
 喜平太(きへいた・竹村) → 好博(よしひろ・竹村/武村、藩士/和算家) G 4 7 6 8  
 喜平太(きへいた・小堀) → 重一(しげかず・小堀おはなわ、藩士/歌人) N 2 1 6 6  
 喜平太(きへいた・縄田) → 常英(つねひで・縄田なわた/源、藩士/歌人) G 2 9 1 2  
 喜兵太(きへいた・鹿又) → 次高(つぎたか・鹿又かのみた、兵法家) 2 9 5 1  
 儀平治(ぎへいじ・正村/吉田) → 正直(まさなお・吉田/正村、神道家) F 4 0 0 2  
 儀平二(ぎへいじ・三宅) → 尚斎(しょうさい・三宅/平出、儒者) S 2 2 2 9  
 喜平太(きへいた・真田) → 幸歆(ゆきよし・真田さなだ、藩士/砲術/歌) F 4 6 9 7

L1687 **喜兵衛**(きへえ・河内屋かわちや、姓;柳原、号;積玉圃)?? 1744大坂心齋橋筋書肆(屋号河内屋)、俳人、「積玉圃柳原蔵板書籍目録」著

L1688 **喜兵衛**(きへえ・八尾屋やおや、号;鶴林堂/北斎坊)?? 江後期金沢上堤町書肆、1841「北陸駅路筆」著  
 喜兵衛(きへえ・大黒屋) → 桃溪(とうけい・丹羽にわ/修姓;丹、絵師) D 3 1 1 4

- 喜兵衛(きへえ・三村) → 常和(初代じょうわ・三村みむら、絵師/歌) V 2 2 2 4  
 喜兵衛(きへえ・戸倉屋) → 生白堂(せいはいくどう、書肆) J 2 4 4 2  
 喜兵衛(きへえ・今村) → 正員(まさかず・今村/佐々木/源、兵法家) B 4 0 7 5  
 喜兵衛(きへえ・高橋) → 怒誰(どすい・高橋、藩士/俳人) O 3 1 2 7  
 喜兵衛(きへえ・間) → 光延(みつのが・間はざま、浪士/討入/歌) E 4 1 3 6  
 喜兵衛(きへえ・服部) → 嵐雪(らんせつ・服部はつとり、俳人) 4 8 0 6  
 喜兵衛(きへえ・小田切) → 直年(なおとし・小田切おだぎり、幕臣/記録) B 3 2 8 2  
 喜兵衛(きへえ・和田) → 秋郷(あきさと・和田、藩士/国学者) D 1 0 3 9  
 喜兵衛(きへえ・礪村) → 吉徳(よしのり・礪村いそむら、和算家/藩士) F 4 7 7 9  
 喜兵衛(きへえ・安藤) → 坂上竹藪(さかのえのたけやぶ、狂歌作者) G 2 0 1 8  
 喜兵衛(きへえ・世古) → 延世(のぶよ・世古せこ、酒造業/勤王) G 3 5 2 0  
 喜兵衛(きへえ・渋川屋) → 文藻(あやも・小宅おやけ、商人/国学/画) F 1 0 1 6  
 喜兵衛(きへえ・畑井/蒔田) → 暢斎(ちようさい・蒔田/田/秦/畑井、書家) I 2 8 3 7  
 喜兵衛(きへえ・深井) → 松斎(しょうさい・深井/深、藩士/儒/兵学) I 2 2 9 6  
 喜兵衛(きへえ・国枝) → 平斎(へいさい・国枝くにえだ、俳人) 2 7 3 3  
 喜兵衛(きへえ・栴屋) → 此主(こねし・清書、籠屋/狂歌) G 1 9 6 3  
 喜兵衛(きへえ・銭屋) → 而后(じこう・伊東[藤]、商人/俳人) T 2 1 4 2  
 喜兵衛(きへえ・銭屋) → 一清(いっせい・伊東[藤]、而后男/俳人) H 1 1 4 4  
 喜兵衛(きへえ・蛭田/見坊) → 景兼(かげかね・見坊けんぼう、藩士/軍術) K 1 5 8 7  
 喜兵衛(きへえ・高橋) → 正元(まさもと・高橋たかはし、藩士/歌) H 4 0 9 2  
 喜兵衛(きへえ・岡島) → 冠山(かんざん・岡島おかじま、唐話唐音学) 1 5 5 1  
 喜兵衛(きへえ・阪元) → 生字(せいう・阪元さかもと/種子田、儒者) H 2 4 4 1  
 喜兵衛(きへえ・木綿屋) → 菊二(きくじ・井口、俳人) K 1 6 0 8  
 喜兵衛(きへえ・木坂屋) → 清音楼清樹(せいおんろうきよき、狂歌作者) H 2 4 5 1  
 喜兵衛(きへえ・坂本) → 利躬(りきゆう・坂本さかもと、俳人) 4 9 5 9  
 喜兵衛(きへえ・鈴木) → 菊夫(きくふ・鈴木すずき、俳人) K 1 6 2 3  
 喜兵衛(きへえ・菅谷) → 帰雲(きうん・菅谷すがや、藩士/儒者/詩) E 1 6 9 8  
 喜兵衛(きへえ・石塚) → 盈始(みつもと・石塚いしづか、歌人) L 4 1 2 3  
 喜兵衛(きへえ・稲葉) → 英昌(ひでまさ・稲葉いなば、国学者/歌人) I 3 7 5 3  
 喜兵衛(きへえ・平野) → 昌伝(しょうでん・平野/惟任、天文/測量) L 2 2 1 1  
 喜兵衛(きへえ・松岡) → 茶山(ちやざん・松岡まつおか、俳人) F 2 8 5 4  
 喜兵衛(きへえ・座光寺) → 為忠(ためただ・座光寺ざこうじ/佐久間、領主/歌人) X 2 6 2 7  
 喜兵衛(きへえ・田端) → 年蔭(としかげ・田端たばた、大庄屋/国学) V 3 1 5 6  
 喜兵衛(きへえ・飯田) → 梁(うつぱり・飯田いいた/奥村、国学者) E 1 2 4 9  
 喜兵衛(きへえ・岡崎) → 高重(たかしげ・岡崎おかざき、国学/歌人) W 2 6 2 6  
 喜兵衛(きへえ・小川) → 休和(きゅうわ・小川おがわ、国学者) T 1 6 6 8  
 喜兵衛(きへえ・三原) → 寛敬(ひろたか・三原みはら、国学者) L 3 7 3 2  
 喜兵衛(きへえ・横田) → 定堅(さだかた・横田よこた/原、国学/歌人) P 2 0 7 7  
 喜兵衛(きへえ・大平) → 盛信(もりのぶ・大平おおひら/大井、幕臣/国学) J 4 4 5 5  
 喜兵衛(きへえ・松田) → 立敬(たつり・松田まつだ/種谷、儒/詩歌) Z 2 6 5 7  
 僖兵衛(きへえ・岡崎) → 敬喜(たかよし・岡崎おかざき、代官/歌人) W 2 6 2 7  
 僖兵衛(きへえ・森田) → 興枝(おきえだ・森田もりた、国学者/歌人) E 1 4 1 9  
 紀兵衛(きへえ・片山) → 観光(かんこう・片山かたやま、儒者) Q 1 5 4 2
- L1689 義兵衛(ぎへえ・細谷ほそや、屋号;弘文堂) ?-? 江後期浅草御門外森田町代地の書肆、  
 1843「茶花押譜」編、「安政文雅人名録」「文久文雅人名録」編
- L1690 儀兵衛(ぎへえ・津端つばた、屋号;丸茂) ?-? 江後期越後中魚沼郡外丸の縮布商、  
 江戸で越後縮布を販売;収益を道路・橋梁等修繕改築に使用、「縮見本帖」編
- 義兵衛(ぎへえ・米屋/小豆屋) → 伊助(いすけ・前原まえはら、藩士/義士) F 1 1 7 2  
 義兵衛(ぎへえ・長崎) → 賢孝(まさたか・長崎ながさき、商家/歌人) R 4 0 2 6

義兵衛(ぎへえ・赤穂屋) → 正方(まさかた・若林わかばやし/玉置、歌人) T 4 0 7 9  
 儀兵衛(ぎへえ・米川) → 操軒(そうけん・米川よねかわ、儒者) B 2 5 2 3  
 儀兵衛(ぎへえ・窪田) → 桐羽(とうう・窪田くぼた、藩士/俳人) B 3 1 1 5  
 儀兵衛(儀平衛ぎへえ・西依) → 成斎(せいさい・西依にしより/西、儒者) B 2 4 5 5  
 儀兵衛(ぎへえ・武野) → 貞孝(さだたか・武野たけの、藩士/和算家) I 2 0 3 5  
 儀兵衛(ぎへえ・武野) → 貞実(さだまね・武野、貞孝男/藩士/和算家) I 2 0 1 9  
 儀兵衛(ぎへえ・八田屋/松井) → 素輪(そりん・松井まつい、俳人) E 2 5 5 4  
 儀兵衛(ぎへえ・鬼沢) → 大海(おおみ・鬼沢おにさわ、国学者/歌) C 1 4 8 4  
 儀兵衛(ぎへえ・小田島) → 翠塙(すい・小田島/安孫子、書肆/詩) E 2 3 0 5  
 儀兵衛(ぎへえ・石川) → 慎斎(しんさい・石川、儒者/詩人) O 2 2 4 7  
 儀兵衛(ぎへえ・村田) → 桃葉(とうよう・村田むらた、庄屋/俳人) T 3 1 4 2  
 儀兵衛(ぎへえ・富永/田中) → 寅亮(とらすけ・田中たなか、藩士/尊王派) R 3 1 7 6  
 儀兵衛(ぎへえ・梅本) → 敏鎌(とがま・梅本うめもと/岡田、売薬/歌) U 3 1 3 6  
 儀兵衛(ぎへえ・喜多山) → 永隆(ながたか・喜多山きたやま、国学/兵学) L 3 2 8 5  
 儀兵衛(ぎへえ・牧野) → 義長(よしなが・牧野まさの、製菓/歌人) P 4 7 0 7  
 伎倍廼舎(きべのや) → 豊秋(とよあき・有賀ありが/菅原、国学/歌/俳) U 3 1 0 2

- L1691 **其弁**(きべん; 法諱・号; 大同房/三松、俗姓井上) 1722-91 尾張法相僧; 1736無染房妙適門、  
 密教; 道空門、法相; 1746薬師寺の其範門、京・奈良で講演著作、1752「経蔵聖教目録」著、  
 1765「大乘一切法相玄論」、71「漢語八轉声」「漢語八轉声学則」、75「異部宗論論述記導」外著多  
 L1678 **義遍**(義徧ぎへん; 法諱) 1711- ? 1774存 大納言庭田重孝猶子、天台叡山正観院僧/1774大僧正、  
 1770「北野天満宮正遷座法則」79「魚山証拠堂落慶供養無量寿如来曼荼羅供法則」著

義弁(ぎべん; 字) → 日肇(にちじょう; 法諱・大覚院、日蓮僧) C 3 3 4 9  
 義弁院(ぎべんいん) → 日堯(にちぎょう; 法諱・覚賢、日蓮僧) B 3 3 3 6  
 季保(きは/すえやす・小倉) → 実名(さねな・小倉/藤原、権大納言/歌) D 2 0 3 4  
 季保(きは・賀茂) → 季保(すえやす・賀茂かも、神職/歌人) B 2 3 5 4  
 季甫(きは・飯田) → 百川((ひやくせん・飯田いいた、書家) E 3 7 6 3  
 希甫(きは・林) → 雪篷(せっぽう・林はやし、漢学者) L 2 4 3 8  
 器甫(きは・梅津) → 六車(ろくしゃ・梅津うめづ、書家/日記) 5 2 9 0  
 基甫(きは/もとすけ・大沢/印牧かねまさ) → 君山(くんざん・大沢、儒者) D 1 7 6 4  
 基輔(きは) すべて → 基輔(もとすけ)  
 記保(きは・浅井) → 記保(のりやす・浅井あさい、庄屋/歌人) H 3 5 1 2  
 祺甫(きは・大場) → 玉泉(ぎよくせん・大場おおば、藩士/兵法) P 1 6 1 9  
 毅甫(きは・川村) → 竹坡(ちくは・川村、藩士/儒者/詩) D 2 8 7 0  
 毅甫(きは・赤松) → 大庾(だいう・赤松あかまつ/大川、儒者) C 2 6 2 5  
 毀甫(毅甫きは・玉木) → 彦介(彦助ひこすけ・玉木、藩士/日記) 3 7 6 3  
 義甫(ぎほ・谷) → 維揚(いよう・谷たに、儒者) I 1 1 3 4  
 義甫(ぎほ・山鹿) → 義甫(よしすけ・山鹿やまが、藩士/兵学者) D 4 7 7 9  
 義甫(ぎほ・高田) → 義甫(よしとし/よしすけ・高田、国学/教育) E 4 7 9 7  
 義保(ぎほ/よしやす・有井) → 浮風(ふふう・有井ありい、俳人) D 3 8 6 8  
 義保(ぎほ・千村) → 義保(よしやす・千村ちむら、文筆家) H 4 7 7 6  
 義保(ぎほ・久嶋) → 義保(よしやす・久嶋くじま、神道家) H 4 7 8 2  
 義保(ぎほ・和田) → 義保(よしやす・和田わだ、薬種商/国学) Q 4 7 1 3  
 宜保(ぎほ・松永/石原) → 玄德(げんとく・石原いしはら、医者) M 1 8 0 2

- B1677 **其鳳**(きほう・大雅舎たいがしや、姓; 佐川さがわ、通称; 了伯) ?-? 阿波の浮草子作者、実録物も著、  
 1771-82頃大阪吉文字屋市兵衛方より刊行、1771「西海奇談」「名槌古今説」著、  
 1772「敵討会稽錦」「女武者修行」「西行諸国嘶」、74「将棋会談三国志」75「珍術罌粟散国」、  
 1777「本朝三筆伝授鑑」78「月花通鑑」81「当世宗匠気質」82「太平記秘説」著、  
 [大雅舎其鳳の別号] 荻坊奥路おぎのほうおうろ

- L1692 **琦鳳**(きほう・河村かわむら/初姓; 竹内たけうち/中原) 1778-1852 75 京絵師; 河村文鳳門/女婿; 養嗣子、  
 花鳥動物・山水画、1809「禍福任筆」、24「琦鳳画譜」著、

[琦鳳(；号)の名/字/通称/別号]名；駿/俊/駿、字；五逸、通称；備前/備前目/五遊、  
別号；竹裏館

L1693 旗峰(きほう・牛尾うしお、名；徳言/字；子行/通称；加門)?-? 江後期寛政1789-1801頃大阪儒、播州人、  
「旗峰先生文録」

I1668 季鳳(きほう・勝田かつた、名；之徳/通称；新蔵、祐之男)1795-1822早世<sup>28</sup> 豊後日出藩士/医；父門、  
儒学；帆足万里門；万里ばんり十哲/亀井昭陽門、蘭学；藤林普山門、兄の死；藩医継承、  
1817「窮理小言」編、「菅玉伝」著、「勝田季鳳遺稿」

季方(きほう) → 季方(すえかた・藤原?、廷臣/歌人) B 2 3 1 0

季方(きほう/すえかた・百野/青木) → 興勝(おきかつ・青木、藩士/儒/蘭学者) C 1 4 8 7

季宝(きほう・賀茂) → 季宝(すえかた・賀茂かも/岡本、神職) F 2 3 4 8

希芳(きほう・浄勝寺) → 順藝(じゅんげい；法諱、真宗大谷派僧/歌) J 2 1 4 6

奇芳(きほう・早川) → 真学(しんがく・早川はやかわ、国学/歌人) N 2 2 7 1

其鵬(きほう・春木) → 胥山(しよざん・春木はるき/秦、篆刻家) M 2 2 3 5

基邦(きほう・藤井) → 柳所(りゅうしょ・藤井ふじい、藩儒者) E 4 9 6 0

基豊(きほう・広幡) → 基豊(もとよ・広幡ひろはた/源、廷臣/記録) D 4 4 3 6

其峯(きほう・勝部) → 景浜(かげはま・勝部かつべ、庄屋/歌人/画) U 1 5 2 9

紀豊(きほう・鈴木) → 米都(べいと・鈴木すずき、俳人・狂歌) 2 7 7 4

起鳳(きほう・今村) → 源右衛門(げんえもん・今村、阿蘭陀通詞) H 1 8 9 1

葵峯(きほう・木下) → 台定(きんさだ・木下、藩主/文教奨励) R 1 6 0 2

葵芳(きほう・岩沢) → 幸年(こうねん・岩沢いわさわ、藩士/歌人) K 1 9 8 9

鬼峯(きほう) → 秦嶺子(しんれいし、俳人) 2 2 9 5

旗峯(きほう・服部) → 栗斎(りつさい・服部はっとり、藩儒/教育) B 4 9 8 8

L1694 幾望(きぼう) ? - ? 俳人；1776樗良「月の夜」1句入

[山吹や散らすともなき春の風](月の夜:118)

基房(きぼう)すべて → 基房(もとふさ)

基望(きぼう・園) → 基衡(もとひら・園その/藤原、廷臣/歌) E 4 4 0 5

規房(きぼう・齋藤) → 規房(のりふさ・齋藤さいとう、藩士/神道家) I 3 5 6 1

喜房(きぼう・平野) → 喜房(よしふさ・平野ひらの、藩士/和算家) G 4 7 7 7

徹房(徹芳きぼう・岩佐/岡村) → 鳳水(ほうすい・岡村おかむら、絵師) B 3 9 9 4

鬼望(きぼう・赤松閣) → 徹斎(てっさい・平瀬、書肆) C 3 0 3 0

熙房(きぼう・清閑寺) → 熙房(ひろふさ・清閑寺せいかんじ、廷臣/故実) H 3 7 0 3

B1676 義宝(ぎほう；法諱) ? - ? 南北期僧；権律師/法印、

歌人；1387(至徳4)浄阿奉納[隠岐高田明神百首和歌]3首出詠、

勅撰；新後拾986、新統古436/972、

[身にあまる思ひやなほも知られまし涙は袖につつみきぬれど](新後拾遺；恋986)

[山深く家みしぬれば谷のとをいでぬよりきく鶯に声](高田明神歌；6/山家鶯)

L1695 義宝(ぎほう；法諱) ? - ? 1394存 真言僧、1380東寺西院再興落慶御影供の導師、

1390東寺長者道快(聖快しょうかい)より伝法灌頂受/東寺増長院の一代、

「摧勝述記」「密教血脈惣惋そうわん記」著

B1678 祇報(ぎほう) ? - ? 江戸町人/俳人；心祇(魚貫)門/四時観派

義方(ぎほう)訓読すべて → 義方(よしかた)

義方(ぎほう/よしかた・三谷) → 宗鎮(そうちん・三谷またに、儒者/茶人) I 2 5 4 9

義方(ぎほう/よしかた・大関) → 劍峰(けんぼう・大関おおせき、国学/儒者) M 1 8 3 1

義方(ぎほう・三浦) → 義方(よしかた・三浦みうら/田丸、医者) P 4 7 2 8

義方(ぎほう・三浦) → 義方(よしかた・三浦/円城寺、藩士/地誌) P 4 7 2 8

義方(ぎほう/よしかた・三浦) → 一舟(いっしゅう・三浦みうら、藩士/詩) H 1 1 3 1

義方(ぎほう/よしかた・山本) → 青城(せいじょう・山本、家老/儒者) C 2 4 2 6

義方(ぎほう/よしかた・雛田) → 葵亭(きてい・雛田ひなだ、神職/国学) L 1 6 5 2

義方(ぎほう/よしかた・山口) → 九腕(きゅうえん・山口やまぐち、藩士/儒者) M 1 6 3 2

義方(ぎほう・鈴木) → 義方(よしかた・鈴木すずき、商家/儒・歌) N 4 7 5 0



- 義方(ぎほう/よしかた・三輪)→ 義方(よしかた・三輪みわ、国学/歌人) C 4 7 7 7  
 義方(ぎほう・高橋) → 義方(よしかた・高橋たかはし、歌人) N 4 7 7 1  
 義法(ぎほう;出家号) → 首(意毗登おびと・大津、医/陰陽家) B 1 4 1 2  
 義芳(ぎほう・三浦) → 迂斎(うさい・三浦みづら、商家/文筆) B 1 2 0 0  
 義芳(ぎほう・中村) → 義芳(よしふさ・中村なむら、国学者) O 4 7 2 3  
 義宝(ぎほう;法諱) → 素範(そはん;号、融通念仏僧) K 2 5 3 6  
 義邦(ぎほう・大倉) → 笠山(りつざん・大倉おおくら、絵師/詩人) M 4 9 0 4  
 義豊(ぎほう/よしとよ・山名)→ 玉山(ぎよくざん・山名、幕臣/歌人) 1 6 4 0  
 義豊(ぎほう・福田) → 誠好斎(せいこうさい・福田、剣術/医/神職) I 2 4 1 3  
 義峰(義峯ぎほう・佐竹) → 義峰(義峯よしみね・佐竹さたけ、藩主) N 4 7 1 0  
 儀鳳(ぎほう・円山) → 応瑞(おうずい・円山まるやま/源、絵師) B 1 4 3 3  
 蟻鳳(ぎほう・鶴沢) → 鶴沢蟻鳳(つるさわぎほう、狂歌作者) E 2 9 7 6  
 宜豊(ぎほう・蜂谷) → 宗先(そうせん・蜂谷はちや、香道家) I 2 5 2 6
- S1638 宜房(ぎほう) ? - ? 江戸俳人;網戸組(興行組織)、1703不角「広原海わたつみ」入、  
 [若き親知らで金貸す死一倍](広原海/前句;待てば久しや待てば久しや)  
 (親が死んだ時に倍で返済の遺産目当ての高利貸/まさかこんなに若い親だったとは)
- 義房(ぎほう/よしふさ・岡田)→ 春燈斎(しゅんとうさい・岡田おかだ、銅板画) L 2 1 6 5  
 義房(ぎほう・大野) → 義房(よしふさ・大野わおの、藩士/歌人) L 4 7 9 8  
 亀房隠者(きぼういんじゃ) → 八朗(はちろう・宮本、俳人) E 3 6 9 8  
 亀峰斎(きぼうさい) → 亞提(あてい・亀峰斎、俳人) E 1 0 9 7  
 亀望亭(きぼうてい) → 益江(ますえ・松井まつい、藩士/本草/歌) S 4 0 6 1
- L1696 棋北(きほく・豊津とよつ) ? - ? 大阪雑俳人;1757律中「耳勝手」入  
 冀北(きほく・宇夫形/長尾)→ 無墨(むぼく・長尾/宇夫形、儒者/詩) C 4 2 9 9
- B1679 寄木(きぼく) ? - ? 俳人、名古屋幽居、1701「枕かけ」編
- B1680 亀卜(きぼく・思無邪園/守拙道人)?-? 上総俳人:露柱庵政二門、1855「俳道系譜」(政二の言説)編  
 亀卜(きぼく・正宗) → 直胤(なおたね・正宗まさむね、国/狂歌/俳) B 3 2 6 2  
 希璞(希樸/喜璞/喜朴きぼく・高瀬)→ 学山(がくざん・高瀬たかせ、儒者) E 1 5 6 9  
 帰牧庵(きぼくあん・肥田/河田)→ 玄清(げんせい;法諱、武士/連歌) C 1 8 4 5  
 机墨庵(きぼくあん) → 宋屋(そうおく・望月、俳人) 2 5 8 0  
 机墨庵(きぼくあん) → 文誰(ぶんすい・岡田、宋屋門俳人) F 3 8 8 4  
 戯墨庵(ぎぼくあん) → 春亭(初世しゅんてい・勝川、絵師) K 2 1 3 0  
 亀北山人(きほくさんじん) → 義近(よしちか・猿橋さるはし、書家/狂歌) E 4 7 5 0  
 戯墨堂(ぎぼくどう) → 春水(2世しゅんすい・為永、藩士/戯作者) 2 1 5 8
- T1691 幾保子(きほこ・楓井かえでい)?- 1845 伊勢津藩士楓井保定(1771-1850)の妻、  
 国学・歌人;富樫広蔭門(;夫と同門)  
 夫 → 保定(やすさだ・楓井かえでい、藩士/医/国学) F 4 5 7 3  
 義梵(ぎぼん;法諱) → 仙厓(せんがい;道号・義梵、臨済僧/禅画) F 2 4 0 1  
 帰本軒(きほんけん) → 宗仁(そうにん・むねひと・長谷川、武将/茶人) I 2 5 6 6  
 幾万(きま・松平) → 幾百(きお・松平まつだいら、歌人/不味妹) V 1 6 2 5  
 宜麻(ぎま・細井) → 宜麻(よしま・細井ほそい、町役/勸農家) G 4 7 9 2
- S1622 木枕板木(きまくらのいたき) ? - ? 狂歌作者/1787才蔵集入(;573)、  
 [こぬかとして招かるゝのを塩にしてしんたくあんへおしてこそゆけ](才蔵;十三573)、  
 (来ぬかと小糠/良い潮と漬ける塩/新宅庵と新漬沢庵/押し掛けと力で押ししてを掛る)
- L1697 喜万太(きたまた;通称・磯野いその、名;秀一)?-? 和算家・池田貞一門、1825「奉額算法」著  
 喜間太(木間太きたまた・高橋)→ 正賢(まさかた・高橋たかはし/橘、歌人) P 4 0 4 5  
 熙磨(きまろ・町原) → 熙磨(ひろまる・町原まちはら/甲斐、藩士/儒) L 3 7 0 2  
 義万(ぎまん・西垣にしがき) → 桐斎(とうさい・西垣、儒者) E 3 1 2 1  
 義満(ぎまん・足利) → 義満(よしみつ・足利/源、3代将軍/北山文化) H 4 7 5 0  
 きみ(・稲津) → 紅蘭(こうらん・梁川/修姓;張、詩) C 1 9 0 1

- 伎美(喜美<sup>きみ</sup>・棚谷/丸山)→梅子(うめこ・丸山<sup>まるやま</sup>/棚谷、歌人) E 1 2 8 9
- L1698 **公著**(<sup>きみあき</sup>・到津<sup>いとうづ</sup>、到津公峰の養嗣) 1682-1756<sup>75</sup> 豊後杵築の生/1701公峰の養嗣子；  
1702豊前宇佐神宮67代大宮司/皇室勅使奉幣を復活/社殿建設、歌、  
「菟狭の宮嶋の羽がき」著  
[公著(；名)の通称] 利喜之助/文次郎
- L1699 **公章**(<sup>きみあき</sup>・山田<sup>やまだ</sup>、初名；実之/憲之、市郎右衛門男) 1808-64**刑死**<sup>57</sup> 萩藩士/兵学者/松陰の師、  
1839密用右筆/1852古賀洞庵「海防臆測」を板行；閉門/58赦免；造船・鑄砲庶務を総管、  
1859小銃隊編成改革/60洋式軍艦庚申丸建造/国事奔走/禁門変後藩政急変；投獄刑死、  
1857?「亜墨利加使節出府叢説」編、「旗幟考証」「習練御狩御備付考証」「編史必用大年表」著、  
[公章の通称/号]通称；卯七郎/亦介/亦助、号；愛山/含章齋/杞国迂叟
- G1622 **公明**(<sup>きみあき</sup>・大草<sup>おおくさ</sup>、公弼<sup>きみすけ</sup>男) ?-? 江後期幕臣/儒官、国学、  
1827随筆「春宵茶談」、「燕川叢書」「佐藤直方言行録」「蕃山言行録」「必有文備録」、  
「擁炉偶談」「書目大要」「崎門文献録」「咬菜百做録」、1855「鈴林<sup>けんりん</sup>日知録」著、  
「南山遺稿」刊、  
[公明の通称/号]通称；大次郎/磨之助、号；振鷺<sup>しんろ</sup>
- M1600 **公明**(<sup>きみあき</sup>・河内<sup>かわうち</sup>、) 1779-1855<sup>77</sup> 甲斐富士見村医者、国学/詩歌/書/武芸に通ず、  
尊王愛国思想を抱き諸国遍歴、1845「神道廼山布美」著、  
[公明(；名)の幼名/字/通称/号]幼名；元泰、字；仲亮、通称；安平、  
号；文翁/天寿老人/言寿翁/三千年、法号天寿院
- 君章(<sup>きみあき</sup>・功刀<sup>くわのぎ</sup>) → 君章(<sup>くんしょう</sup>・功刀、藩士/詩人) B 1 7 8 8  
君明(<sup>きみあき</sup>・佐々原) → 宣明(<sup>のぶあき</sup>・佐々原<sup>ささはら</sup>、儒者/教育) I 3 5 5 2  
公篤(<sup>きみあつ</sup>・柴田) → 弘器(<sup>ひろき</sup>・竜廼屋・柴田、藩医/狂歌) F 3 7 7 5  
公篤(<sup>きみあつ</sup>・檜原) → 秀近(<sup>ひでちか</sup>・檜原<sup>ならはら</sup>、書家/歌人) K 3 7 5 0
- U1606 **公綺**(<sup>きみあや</sup>・喜多<sup>きた</sup>、) 1765-1839<sup>75</sup> 播磨印南郡の医者、歌人；香川景樹門、  
[公綺(；名)の字/号]字；舜裳<sup>しんしょう</sup>、号；順庵/松籟<sup>しょうらい</sup>/松隱  
公美(<sup>きみえ</sup>・龍) → 公美(<sup>きんよし</sup>・龍<sup>たつりゅう</sup>、草廬、詩歌) E 1 6 8 7
- M1601 **公雄**(<sup>きみお</sup>・風早<sup>かざはや</sup>、初名；公金、号；桂渚、実積男/本姓藤原) 1721-87<sup>67</sup> 廷臣/1747改名；公雄、  
1779権中納言；正三位/87正二位、歌学/画、1762「住吉浅沢沼和歌集」著
- B1681 **君雄**(<sup>きみお</sup>・小原<sup>おはら</sup>、中尾<sup>なかお</sup>維寧男/小原宗貞養嗣) 1752-1835<sup>84</sup> 近江彦根藩士/国学者/歌人；  
幼少時叡山縁珠院/嵯峨二尊院で修学、1767小原家を嗣、国学/歌；大菅中養父/本居宣長門、  
彦根藩校稽古館教授、1823騎馬徒士、書/槍術、家集「篠舎集」、「波都嘉草」「彦根近躰集」著、  
歌；本居大平「八十浦の玉」中巻；3首入、  
[朝霞いまだたたねぼうち羽ぶり鶯鳴きぬ春立つらしも](八十浦；524/鶯)、  
[君雄(；名)の字/通称/号]字；子飛、通称；八郎左衛門/春平/文平、  
号；鷓鴣舎<sup>ささぎのや</sup>/篠舎<sup>ささのや</sup>/梅月舎、印具<sup>おしずみ</sup>虎彦の師
- S1684 **公雄**(<sup>きみお</sup>・尾上<sup>おのえ</sup>) ? - ? 江後期肥後天草郡福連来村の国学者；本居大平門、  
歌；大平撰「八十浦の玉」下巻入、  
[見るめなしとすてし野山も雪ふればこともたえてぞいひもかねつる](八十浦；850)
- 君雄(<sup>きみお</sup>・藍沢) → 無濤(<sup>むまん</sup>・藍沢<sup>あいざわ</sup>、国学/俳人/教育) D 4 2 0 1  
君雄(<sup>きみお</sup>・高橋) → 静斎(<sup>せいさい</sup>・高橋<sup>たかはし</sup>、藩士/儒者) O 2 4 0 4  
公香(<sup>きみか</sup>・喜多川) → 梅俣(<sup>ばいか</sup>・喜多川[北川]、医/俳) 3 6 7 9  
君方(<sup>きみかた</sup>・佐瀬) → 主計(<sup>かづえ</sup>・佐瀬<sup>させ</sup>、藩家老/狂歌) M 1 5 0 9
- U1629 **公克**(<sup>きみかつ</sup>・桑野<sup>くわの</sup>、) ? - 1859 河内志紀郡の国学/歌；香川景樹・伴林光平門、  
[公克(；名)の字/通称/号]字；子礼、通称；喜藏、  
号；熙齋/仁堂/眉山/無事菴梅溪/喜齋/帰齋
- 公金(<sup>きみかね</sup>・風早) → 公雄(<sup>きみお</sup>・風早<sup>かざはや</sup>、廷臣/歌人) M 1 6 0 1  
公木(<sup>きみき</sup>・渋江) → 晩香(<sup>ばんこう</sup>・渋江<sup>しぶえ</sup>、教育/神職) K 3 6 2 8
- M1602 **公清**(<sup>きみきよ</sup>・福井<sup>ふくい</sup>、栗野・足代、福井末富男/本姓；度会<sup>たらい</sup>) 1766-94**早世**<sup>29</sup> 伊勢外宮神官、  
1783栗野経麻の嗣；84離縁/94足代弘臣養子；没、1771「美濃国式社考」91「伊勢国二見志」著、  
[公清の初名/通称]初名；末清/文経、通称；虎次郎/若狭/右膳/監物

- V1662 **君子**(きみこ・冷泉れいぜい、)1806-1864<sup>59</sup> 長門萩藩医冷泉古風ひさかぜの妻、歌人；[萩の歌人]入、  
[よもやけふ別るべしとはしら露の玉の消えにしゆくへかなしも](萩の歌人)
- B1682 **君子**(吉美侯きみこ・石川朝臣いしかわのあそみ、号；少郎子しょうろうし/若子)？-？ 奈良期廷臣；713従五下、  
播磨守/兵部大輔/721侍従；風流侍従と称される、724-9頃太宰少式、726従四下、  
万葉三歌人、278/247石川大夫(左注；宮麻呂か不明)/1776題/2742左注  
参考 → 宮麻呂(みやまろ・石川朝臣) G 4 1 0 2
- S1685 **喜美子**(きみこ/徽美きみこ・間部まなべ、伊東祐相女)？-？ 越前鯖江藩主間部詮実あきざね(1827-64)の室、  
歌人；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[足引の山田の氷うちとけてけさはのどけき春風ぞ吹く](大江戸倭歌；39田水解)
- T1610 **きみ子**(きみこ・荒井あらい) ？ - ？ 江後期；歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[暑さをも忘るるばかり成りにけりならず扇に秋やこもれる](大江戸倭歌；夏625/扇)
- V1622 **喜美子**(きみこ・増山ますやま、眞如院、紀伊新宮藩主水野忠啓女)1844-1904<sup>61</sup> 国学・歌人、  
伊勢長島藩主増山正同まさとも(1843-87)の正室；江戸(東京)住、1887夫没；眞如院と称す、  
娘の婿養子溝口正治が家督嗣  
公子(きみこ・東二条院)→ 公子(こうし・きみこ・東二条院ひがしにじょういん、皇后) J 1 9 4 0  
君子(きみこ・水原) → 未瑳子(みさこ・水原みずはら/山田、歌人) K 4 1 7 0
- F1660 **君子内親王**(きみこないしんのう、女三のみこ、宇多天皇第3皇女)？-902 母；橘広相女の義子、  
平安前期；893(寛平5)賀茂斎院に卜定、902(延喜2)42歳で没、  
後撰集1027；敦慶あつし親王より恋歌、  
[浮き沈み淵瀬に騒ぐ鴉鳥にほりはそこのどかにあらじとぞ思ふ]  
(後撰；恋1027敦慶あつし親王の歌/あなたの許に忍んでも心穏やかではないでしょう)
- T1654 **公幸**(きみさち・岩下いわした/本姓；藤原)1791-1879<sup>89</sup> 肥後阿蘇郡の神職、国学；高木順(紫溟)門、  
のち江戸で魚住正則・長瀬真幸門、神社に奉仕、「世上百家童蒙辨」「肥後国神祠正鑑」著、  
[公幸(；名)の通称] 陸奥守  
君実(きみざね・和智わち) → 東郊(とうこう・和智、儒者/詩) D 3 1 7 5  
君実(きみざね・古林) → 正惇(まさあつ・古林ふるばやし/高松、医者/歌) S 4 0 3 8  
君重(きみしげ・平賀) → 鷹峰(ようほう・平賀ひらが、藩士/詩/兵法) B 4 7 5 7
- B1683 **公祐**(きみすけ/きんさち・高松たかまつ、幼名；梅丸、季昵男/本姓藤原)1774-1851<sup>78</sup> 江後期廷臣；1810参議、  
1849権中納言/正二位、歌人；美仁はるひと親王門、光格天皇の勅点を受、「松葉まつば集」編、  
「高松公祐詠」「後撰和歌集抄聞書」著、季実すえざね・保実やすざねの父、笠亭仙果の師
- G1623 **公弼**(きみすけ・大草おおくさ、間宮盛時男/大草公美養子)1775-1817<sup>43</sup> 母；大草公隆女、幕臣/国学者、  
史家；南朝史研究/蔵書家、1799諸家系譜編纂員/幕府書院番、1809「南山巡狩録」「南山遺草」、  
「花かつみ」「元人来寇考」「野木瓜亭むべい随筆」「野木瓜亭漫筆」著、公明きみあき[振鷺]の父、  
[公弼の初名/字/通称/号]初名；公仲/公克、字；篤夫/徳夫、通称；熊蔵/熊吉/大次郎/太次郎、  
号；野木瓜むべ/野木瓜亭むべい、法号；光輝院
- U1640 **公弼**(きみすけ・坂口さかぐち、)1780-1853<sup>74</sup> 肥後熊本藩士、国学者；長瀬真幸まさき門、  
[公弼(；名)の字/通称]字；左内/典助、通称；大賚たいらい  
君甫(きみすけ・田中) → 有孚(ありざね・田中たなか、藩医/歌人) H 1 0 8 4  
君輔(きみすけ・浦上) → 玉堂(ぎよくどう・浦上うらがみ、詩/画/琴) D 1 6 0 7  
公輔(きみすけ・河本) → 公輔(きんすけ・河本かわもと、国学者) C 1 6 5 5  
君蔵(きみぞう・福田/蒲生)→ 君平(くんぺい・蒲生がもう、儒者/尊攘) C 1 7 0 0
- C1685 **公忠**(きみただ・二邨ふたむら)1759-1835<sup>77</sup> 美濃郡上の医者/篆刻；高芙蓉門、銅印の鑄法研究、  
「石印詳説」「刀法詳説」「十二刀法詳説」著  
[公忠(；名)の字/号]字；養圃、号；梅山/榎山ばいざん/鷹嶺ようれい/隣居
- M1603 **公忠**(きみただ・深野ふかの/小泉)？- ？ 江後期松阪職人町の書肆、  
1834刊「伊勢人物志南勢之部」編  
[公忠の通称] 利助/利介/深野屋/玄々堂/玄二堂
- U1602 **公唯**(きみただ・河本かわもと、立軒2男)1784-1842<sup>59</sup> 備前岡山の豪商の生/学問志向の兄より家督継嗣、

- 国学;兄の河本公輔きんすけ門、  
 [公唯(;)名)の初名/通称/号]初名;曾、通称;又七郎、号;訊軒  
 兄 → 公輔(きんすけ・河本かわもと、国学/歌人) C 1 6 5 5  
 公忠(きみただ)上記以外は → 公忠(きみただ)
- K1646 **公龍**(公竜きみたつ・西尾にしお) 1748-182174 近江彦根の医者/彦根藩に出仕、  
 歌人;竜公美・野村公台門、  
 [公竜(;)名)の字/通称/号]字;仲淵/子雲、通称;豊吉/宗治/隆元/隆助/隆治/元瑞、  
 号;混山/竜州
- B1684 **君足**(きみたり・若桜部朝臣わかさくらべのあそみ)?-? 奈良期万葉三・四期歌人;万葉集八1643:雪歌、  
 [天霧あまぎらし雪も降らぬかいかしろくこのいつ柴に降らまくを見む](万葉;八1643)  
 公恪(きみつむ・西四辻) → 公恪(きみつむ・西四辻にしようつじ、廷臣) R 1 6 4 3
- G1624 **君手**(きみて・和珥部[和邇部]臣わにべのおみ、丸部)?-697 廷臣;672任申乱の天武天皇側の功臣;  
 不破の道を塞ぎ近江軍を壊滅、「和珥部臣君手記」著(;釈日本紀入)
- T1673 **公俊**(きみとし・緒方おがた、別姓;内田/大神) 1816-190186 肥後山鹿郡山鹿神社祠官、  
 国学者;杉谷彝倫のり・中島広足・安田貞方門、  
 [公俊(;)名)の通称/号]通称;駿河、号;松廼舎まつのや
- T1648 **公暇**(きみとみ・到津いとうづ、) 1811-184939 豊前宇佐八幡宮71代大宮司/従四下、国学者、  
 妻;熊本藩士小笠(長岡)家の女の言子あやこ(;歌人)/公誼きみよしの父  
 君友(きみと津 公誼 (いとうづ きみよし、弘にし、医者/古医方) B 4 7 0 4  
 公虎(きみとら・河鱒/西洞院) → 時慶(ときよし・西洞院/平、廷臣/歌) 3 1 3 8  
 君虎(きみとら・桐山) → 知義(ともよし・桐山、医者/書) Q 3 1 9 7  
 公仲(きみなか・間宮/大草) → 公弼(きみすけ・大草おおくさ、幕臣/国学/史家) G 1 6 2 3  
 公長(きみなが・風早) → 公長(きみなが・風早かざはや、廷臣/歌人) G 1 6 6 1
- G1625 **公成**(きみなり・荒木田、田長男)?-? 平安初期9c初伊勢内宮禰宜/正六位上、  
 804解文「皇太神宮儀式帖」「太神宮儀式帳」著  
 公業(きみなり・西四辻) → 公業(きんなり/きんなる・西四辻にしようつじ/高松、廷臣/歌) U 1 6 9 6
- U1652 **公庭**(きみにわ・末松すえまつ、) 1839-189254 筑前鞍手郡の宗像神社禰宜、  
 神道・国学・歌;伊藤常足つねたる門  
 公信(きみのぶ・浅野/丹羽) → 仙庵(せんあん・丹羽にわ/浅野、医者) L 2 4 4 9  
 公信(きみのぶ・宇喜多) → 可為(よしため・宇喜多/藤原・豊臣、絵師) L 4 7 7 1
- M1604 **公憲**(きみのり・杉山すぎやま、盛政男) 1644-171774 桑名藩士/甲州流兵学;小幡景憲門/景憲軍家2世、  
 「軍鑑挙要」「御小荷駄備之図」「兵法の巻」「御旗本御備図」/1716「武田流兵器用法記」著
- M1605 **公紀**(きみのり・矢野やの、初名;玄紀、重威男/本姓;度会わたり) 1703-8684 叔父矢野常紀養嗣子、  
 伊勢山田の神職/御塩焼物忌父、「寛延別宮正遷宮記」「雑録」著、  
 [公紀の通称]求馬/式部/大式
- M1606 **君規**(きみのり・中野なかの、名;徴矩、千次郎男)?-1840 彦根藩士/1788家督/92寺社奉行兼町奉行、  
 1799藩校稽古館稽古奉行/1805鉄砲組物頭、詩文/兵書に精通、  
 1783「年表補正」84「戦録撮要」、「和漢歴史捷録」著、  
 [君規の通称/号]通称;斧太郎/平吉/平馬、号;容安斎
- U1693 **公效**(きみのり・永沢ながさわ、) 1831-189262 陸奥気仙沼の羽黒神社祠官、  
 歌人;本田春雄門/国学;鍋島誠(一郎)門、維新後;権少教正、  
 [公效(;)名)の通称/号]通称;弥平/安兵衛、号;梅の舎、屋号;岩井屋  
 公德(きみのり・武居) → 世平(つぐひら・武居、歌/狂歌) 2 9 8 2  
 公春(きみはる・秦) → 公春(きんはる・秦はた、廷臣/連歌) R 1 6 6 7  
 君彦(きみひこ・望月) → 鹿門(ろくもん・望月もちづき、幕府医官) B 5 2 1 1
- T1638 **公英**(きみひで・秋元あきもと、) 1774-184774 信濃福島の医者;山村代官家に出仕、詩文を嗜む、  
 歌;香川景樹門、山村蘇門出板の校訂に参加[清音楼詩鈔・暢情集附録など]、  
 [公英(;)名)の別名/通称/号]初名;文成、通称;一庵、号;玉芝  
 公英(きみひで・柏原) → 幽静(ゆうせい・柏原かじわばら/橘、藩士/剣術/詩歌) C 4 6 9 7



- 君秀(きみひで・小池) → 信貞(のぶさだ・小池こいけ、藩士/歌人) I 3 5 3 6
- V1674 公広(きみひろ・藤堂とうどう、)? - ? 江前期;上方の武士/歌人、  
1670下河辺長流[林葉累塵集]4首入、  
[さかさまに滝のゆくかと見えつるは山のかひよりのぼる白雲](林葉累塵;雑1347)
- M1607 公裕(きみひろ・孫福まごぶく/本姓;度会むらい、初名;包蒙/公寛、損斎男)1791-1853<sup>63</sup> 伊勢外宮神職、  
儒:東恒軒門、詩・書、1807「楓窓詩稿」著、  
「祭庭器物図外宮」「文政五年両宮正遷宮山口祭記」著、  
[公裕(;)名)の字/通称/号]字;孟綽、通称;内蔵、号;楓窓
- V1632 公禮(きみひろ・三宅みやげ、)1791-1837<sup>47</sup> 備中浅口郡連島村の庄屋、歌人;木下幸文たかふみ門、  
[公礼(;)名)の通称]基作/弥平次  
公礼(きみひろ・樺島) → 石梁(せきりょう・樺島かばしま/樺、藩儒/詩) 2 4 1 7  
公文(きみふみ・石山) → 瀛洲(えいしゅう・石山いしやま、医者/詩歌) C 1 3 9 2
- I1075 公正(きみまさ・由利ゆり、藩士三岡義知男)1829-1909<sup>81</sup> 越前足羽郡福井城下の生;家督嗣、  
福井藩士;三岡八郎名、国学/歌人;橘曙覧門、横井小楠の殖産興業策に触発;財政学修学、  
橋本左内らと国事奔走/藩命で藩札発行と専売制を結合した殖産興業策で藩財政再建、  
藩主慶永が幕府政事総裁職に就任;その側用人に拔擢、長州征伐の藩論対立に提携画策;  
支持なく福井で蟄居謹慎;坂本龍馬と交流、  
維新後;由利公正に改姓、五箇条御誓文起草に参画/新政府の徴士参与;金融財政担当、  
紙幣製造の事務管掌;会計事務掛・御用金穀取締/太政官札発行を推進;非難され辞職、  
1871東京府知事、72岩倉使節団に随行し米欧で議会制度を修学研究;  
1874板垣退助・江藤新平らと民撰議院設立建白書を提出、75元老院議員/90貴族院議員、  
麿香間祇候、1894京都の有隣生命保険会社初代社長、1909(明治42)脳溢血で没、  
[公正(;)名)の初名/通称/号]初名;義由、通称;石五郎/八郎(三岡)、  
号;雲軒/好々軒/方外/鍊牛てつきゅう  
公尹(きみまさ・西四辻) → 公尹(きんまさ・西四辻にょつじ、廷臣/箏) R 1 6 8 0
- B1685 君麿(きみまる・山田) ? - ? 万葉中人物、十七4015左注
- M1608 伎美麻呂(きみまろ・倉) ? - ? 奈良期漢詩人、731対策及第;経国入
- U1614 主道(きみみち・北島きたじま、通称;左門)1818-94<sup>77</sup> 武蔵御嶽山の国学者;平田鉄胤・井上頼因門
- U1665 公光(きみみつ・高野瀬たかのせ、本姓;藤原)1680-1759<sup>80</sup> 近江彦根藩士、歌人[彦根歌人伝・龜]入、  
[公光(;)名)の初名/通称]初名;宗武、通称;喜太郎  
公光(きみみつ・吉野) → 秀政(ひでまさ・吉野よしの、神職/地誌) D 3 7 8 1  
公棟(きみむね・木村) → 公棟(きんむね・木村きむら、町年寄/歌人) T 1 6 5 0
- T1658 公幹(きみもと・宇野うの、)1743- 1808<sup>66</sup> 肥後熊本藩士、歌人、多芸;剣伎・故実・茶道  
[公幹(;)名)の字/通称/号]字;貞卿、通称;甚五郎、号;河陽、法号;靈感公河陽  
君泰(きみやす・山崎) → 弘泰(ひろやす・山崎やまさき、国学者/歌) H 3 7 5 7
- U1697 公世(きみよ・蝮木になぎ、)1839-1908<sup>70</sup> 豊前宇佐郡の国学者/歌学;;物集もづめ高世門  
蝮木八衛はちえ(1834-1912)と同族(弟?)  
喜明(きみよう) → 鳥友(ちようゆう;法諱、天台僧) J 2 8 9 8
- U1699 公毅(きみよし・野沢のざわ、)1806-1893<sup>88</sup> 甲斐巨摩郡百々ど村の諏訪神社神職、  
国学・漢学;土屋新川門、家塾[堅盤塾]開設;子弟教育、維新後;野牛島やごしま小学校長、  
[公毅(;)名)の通称/号]通称;加賀介、号;方嶺ほうらい
- T1642 公敬(きみよし・天野あまの/本姓;河本)1806-60<sup>55</sup> 備前岡山の醤油製造業、国学者、  
三宅公輔の弟、妻;野田亀五郎季美2女、河本(灰屋)家9代又七郎公森の父、  
[公敬(;)名)の初名/号]初名;寅、号;静軒
- V1621 公好(きみよし・孫福まごぶく、旧姓;足代)1828-89<sup>62</sup> 伊勢度会郡の外宮別宮の神職、国学;足代弘訓門、  
[公好(;)名)の初名/字/通称/号]初名;元満、字;子遠、通称;鉄次郎/修理、  
号;楓蔭/梅痴/梅知
- T1649 公誼(きみよし・到津いとうづ、公暇きみとみ長男)1845-1901<sup>57</sup> 母;言子あやこ(歌人/旧姓;小笠)、  
代々豊前宇佐神宮宮司家;1855宇佐神宮大宮司、維新後;男爵/正四位、少教正、公熙の父、  
「到津家系譜並事蹟書」「官幣大社宇佐神宮略案内記」著、国学者、

[公誼(名)の初名/通称]初名;勝丸、通称;中務

公義(きみよし/きんよし・薬師寺)→ 元可(げんか、歌人) B 1 8 3 5  
公美(きみよし・曾禰/柳沢)→ 淇園(きえん・柳沢、藩士/詩/絵師) 1 6 0 3  
公美(きみよし・龍たつ草廬)→ 公美(きんえ・龍たつ/りゅう、詩歌) E 1 6 8 7  
公美(きみよし・横井/上条)→ 柳廬(りゅうろ・上条かみじょう/横井、官吏/儒者) F 4 9 0 8  
君美(きみよし・新井)→ 白石(はくせき・新井あらい、藩士/幕臣/儒者) 3 6 1 0  
君美(きみよし・丁野)→ 南洋(なんよう・丁野ちやうの、売薬/儒者) 3 2 4 6  
君六(きみろく・森本)→ 如平(ゆきひら・森本もりもと、商家/国学者) H 4 6 3 7  
紀民(きみん・田中/松山)→ 玄中(げんちゅう・松山/田中、医者) L 1 8 2 5

G1626 其明(きめい・秋毫亭) 1742 - 1777<sup>36</sup> 信州松代酒造家/俳人:鳥酔・白雄門、  
芭蕉追善百韻を興行、1773「帛表紙」(芭蕉「枕表帟」紹介)編;白雄跋、「鶯郵公(抱一)発句集」  
M1609 其明(きめい・小泉こいづみ/小柳、名;文恕、本間ほま作十郎男) 1761-1836<sup>76</sup> 越後新潟測量家;各地歴遊、  
南蒲原郡旅宿柏屋小柳彦八方に逗留;小柳彦兵衛を名乗り村組頭/小泉に復し里正、  
測地製図に精通:新発田藩に招聘され測量、画;五十嵐芳明門/猿絵が得意、「越佐名所記」、  
「佐渡鉦山図譜」「佐渡国山嶽海岸眞景」「越後古墟考」「四十七不思議」1818「越道しるべ」著、  
[其明の通称/別号]通称:八郎治/彦兵衛/善平、別号:白水/見石翁、蒼軒の父

季明(きめい・猿山)→ 叡麓(えいろく・猿山さやま、書家) D 1 3 4 4  
季明(きめい・大高坂)→ 芝山(しざん、大高坂おたかさか、藩儒/南学) D 2 1 7 1  
季明(きめい・大田)→ 愚溪(ぐけい・大田おた、儒者) C 1 7 3 5  
季明(きめい・細川)→ 宗春(そうしゅん・細川、医者/随筆) H 2 5 8 7  
季明(きめい・木村)→ 季明(すえあき・木村きむら/佐々木、家老/国学) I 2 3 3 6  
基明(きめい・齋藤)→ 基明(もとあき・齋藤/藤原、武家/歌人) B 4 4 9 5  
基明(きめい・野津)→ 基明(もとあき・野津のづ、藩士/軍学) B 4 4 9 9  
基明(きめい・大沢)→ 基明(もとあきら・大沢おおさわ、幕臣/侍従) J 4 4 5 2  
基明(きめい・増田)→ 基明(もとあき・増田ますだ、国学者/歌) L 4 4 3 5  
基名(きめい・齋藤)→ 基名(もとな・齋藤/藤原、武家/歌人) D 4 4 3 9  
基名(きめい・石山)→ 基名(もとな・石山いしやま/姉小路/藤原、権大納言) J 4 4 2 5  
祺明(きめい・野中)→ 祺明(よしあき・野中のなか、幕臣/歌人) O 4 7 4 4  
既明(きめい・加藤)→ 卷阿(かんな・加藤かとう、俳人) D 1 5 3 8  
貴明(きめい・丹羽)→ 貴明(たかあき・丹羽、藩家老) L 2 6 4 7  
熙明(きめい・佐藤)→ 熙明(ひろあき・佐藤さとう、藩士/儒者) J 3 7 6 5  
熙明(きめい・堀)→ 熙明(ひろあき・堀ほり、藩士/儒者) F 3 7 4 8

B1686 祇明(ぎめい・伊藤/伊東いとう、別号;莎鷄/祖泉、源兵衛男) 1697-1748<sup>52</sup> 江戸蔵前札差、俳人:祇空門、  
四時観」編纂、「五湖菴句集」編、1720「秋の暮」37「祇明発句帖」45「祇明交友録」著、  
成美の伯父、  
[入る月に蓮の巻葉のゆるみけり](青壚「たつのうら」入/有明の月に巻葉が浮葉に変わる)

G1627 岐名(ぎめい) ? - ? 狂歌、1780梅好「大津みやげ」1首入  
義明(ぎめい;字)→ 禅信(ぜんしん;法諱、真言僧/歌人) G 2 4 0 9  
義明(ぎめい/よしあき・塩路)→ 鶴堂(かくどう・塩路しおじ、絵師) K 1 5 3 0  
義明(ぎめい・大高坂)→ 義明(よしあき・大高坂おたかさか、藩儒) 4 7 8 9  
義明(ぎめい・加茂)→ 義明(よしあき・加茂かも、和算家) B 4 7 9 5  
義鳴(ぎめい・大鐘)→ 義鳴(よしなり・大鐘おおかね、藩士/歌文) F 4 7 4 2  
貴明山叟(きめいさんそう)→ 東山(とうざん・蘆野あしの、儒者/詩文) E 3 1 5 3  
熙明親王(きめいしんのう)→ 熙明親王(ひろあきらしんのう、五辻宮、歌人) F 3 7 5 0  
季茂(きも・源)→ 季茂(すえもち・源みなもと、武将/歌人) B 2 3 5 2  
基茂(きも・園)→ 基茂(もとしげ・園その/藤原、廷臣/記録) C 4 4 6 3  
基茂(きも・東園)→ 基長(もとなが・東園ひがしの/藤原、廷臣/日記) D 4 4 5 2  
義茂(ぎも・佐竹)→ 義茂(よししげ・佐竹さたけ、藩士/詩文) D 4 7 6 3  
義茂(ぎも・宮沢)→ 義茂(よししげ・宮沢みやざわ、藩士/歌人) P 4 7 4 1

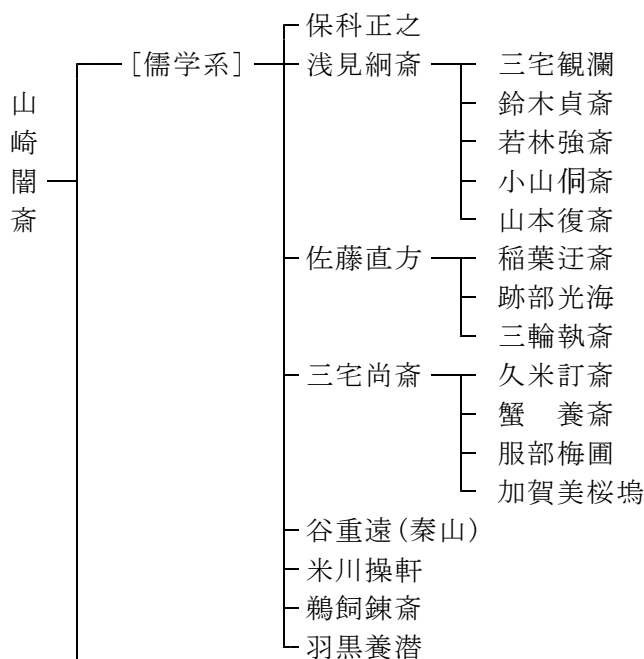
- 誼茂(ぎも・玉虫) → 誼茂(よしげ/やすげ・玉虫たまむし/荒井、藩士/儒者) D 4 7 6 8
- G1628 亀毛(きもう・桃丁[下]庵)? - ? 江中期大阪雑俳点者;至席門、  
1759至席評「場附むくの葉」編
- 亀毛(きもう・兎角亭、京伝の門人を装う) → 京伝(きょうでん・山東) 1 6 3 7
- 亀毛(きもう、俳名) → 蛻巖(ぜいがん・梁田やなだ、儒者/詩人) 2 4 0 6
- 寄猛(きもう・取田) → 寄猛(よりにげ・取田とりだ、藩士/兵法) I 4 7 9 3
- 亀毛子(きもうし:号) → 月耕(つきがけこう:道号・道稔、黄檗僧) H 1 8 0 3
- G1629 季黙(きもく;法諱) ? - ? 曹洞僧:明庵哲了の侍者、1795「明菴和尚垂誠」編  
其目(きもく) → 庸昌(つねまさ・香川、地誌/俳人) B 2 9 3 1
- M1610 宜黙(ぎもく;道号・玄契げんかい;法諱)?-? 江中期出雲曹洞僧:慈麟玄趾門、紀伊瑞竜寺住持、  
1741「禅林甌瓦」著
- 宜黙(ぎもく;通称) → 竜菴(りゅうしょう;法諱・石霜;道号、臨濟僧) E 4 9 6 7
- 胆助(きもすけ・案本) → 案本肝助(あんぼんたんすけ、随筆) G 1 0 2 1
- 鬼門(きもん・末永) → 茂世(しげつぐ・末永すえなが、藩士/歌人) Z 2 1 0 0

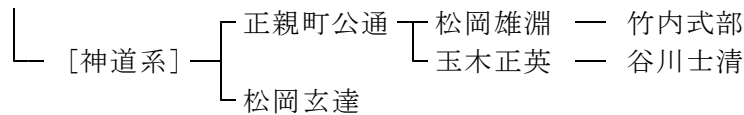
B1687 義門(ぎもん;字、俗姓;東条、妙玄寺詔鳳[伝瑞]男) 1786-1843 58 若狭真宗大谷派妙玄寺7世、  
1807相續/高倉学寮修学、国学:独学;音韻/テニヲハ研究、歌;藤井高尚門、1815「指出の磯」、  
1820「磯の州崎」35「奈万之奈(男信)なましな」41「活語指南」、「月草」「磯清水」「袖濡の日記」、  
「山口菜語略図解」「てにをは友鏡」「語聚雅俗言」「和語説略図」「白雪楼家集」外著多数、  
[義門の法諱/号] 法諱;靈伝/悦浄、号;白雪楼、法雲(ほううん)の師

M1611 義閨(ぎもん;法諱・十阿;字、号;幽居)?-? 江後期1818-44頃京浄土宗西光寺僧、  
1819「十八種物図便蒙鈔」31「浄土宗唯心訣」41「円戒俚語談」著

- 義門(ぎもん・長谷川) → 宣昭(のりあき/のぶあき・長谷川、幕臣/国学) E 3 5 2 2
- 義門(ぎもん・沢田) → 吉左衛門(きちざえもん・沢田、藩士/暦算家) L 1 6 2 6
- 義門(ぎもん・守屋) → 義門(よしかど・守屋/森屋/物部、儒/易学) C 4 7 9 3
- 義門(ぎもん・不破) → 正寛(まさひろ・不破あわ、藩士/藩政改革) L 4 0 1 7
- 義門(ぎもん・大内) → 義門(よしかど・大内おおうち、藩国老/国学) L 4 7 9 3
- 義門(ぎもん・木村) → 義門(よしかど・木村きむら、藩士/歌人) M 4 7 4 2
- 義門(ぎもん・筑紫) → 義門(よしかど・筑紫、藩士/国事奔走) C 4 7 9 7
- 義門(ぎもん・横山) → 義門(よしかど・横山よこやま、藩士/記録) K 4 7 3 3
- 義門(ぎもん・佐伯) → 義門(よしかど・佐伯さえき、本草家) C 4 7 9 5
- 宜門(ぎもん・幸田/中島) → 宜門(よしかど・中島/幸田、藩士/歌人) C 4 7 9 6

崎門学派(きもんがくは);山崎闇齋の学統;下記は主な学者(;楠本碩水編「崎門学脈系譜」入)  
→ 闇齋(あんさい・山崎、儒者/神道学) 1 0 3 7





崎門三傑(きもんさんけつ);山崎闇齋門の優れた3人の門弟(浅見綱齋・佐藤直方・三宅尚齋)

→ 闇齋(あんさい・山崎、儒者)の項参照 1 0 3 7

蟻門亭(ぎもんてい) → 之道(しどう・槐本えのもと、商人/俳人) F 2 1 2 4

義也(ぎや・野崎) → 義也(よしなり・野崎のざき、名主/国学/歌) O 4 7 4 2

幾夜庵(きやあん) → 斗醉(とすい・伊東、行脚俳人) O 3 1 2 5

幾夜庵(きやあん) → 和月(わげつ・牧野まきの、藩士/俳人) 5 3 1 9

M1612 却蜺窩(きやくいか;号、修姓;金、名;士謙/字;中益) ?-? 江中期尾張城南の本草家、  
1793「菓草略譜」、「天文略説」著

却蜺窩主叟(きやくいかしゅそう) → 却蜺窩(きやくいか、本草家) M 1 6 1 2

客子(きやくし) → 客子(かくし、従三位客子、女房歌人) G 1 5 9 8

客人(きやくじん・津守) → 客人(まろんど・津守、奈良期神職) K 4 0 3 3

M1613 逆水(ぎやくすい;道号・洞流とうりゅう;法諱、俗姓水島) 1684-1766 83 越後の曹洞僧:香積寺大濤寛海門、  
1724加賀大乘寺38世/28永平寺住持、香積寺等住持、  
「伝衣象鼻稿」1765「得度或問辨儀章」著

客遊(きやくゆう) → 客遊(かくゆう、俳人) K 1 5 5 3

亀夜叉(きやしや) → 喜阿弥(亀阿弥きあみ、田楽) 1 6 6 8

樹安麿(きやすまろ・残月庵) → 正蔭(おおかげ・中臣、歌人/狂歌) C 1 4 7 5

喜野太夫(きやたいふ) → 這季(これすえ/このすえ・中島、藩士/和算) O 1 9 4 0

其夜坊(きやぼう) → 野逸(やいつ・加藤かとう、幕臣/俳人) 4 5 0 0

黄山自惚(きやまうぬぼれ;号) → 自惚(うぬぼれ・黄山きやま、絵師/戯作) D 1 2 2 2

伽羅庵(きやらあん/めいぼくあん) → 旨原(しげん・小栗、俳人) D 2 1 4 9

伽羅庵(きやらあん) → 麻中(まちゅう・高橋たかはし、俳人) J 4 0 6 5

祇瑜(ぎゆ) → 南海(なんかい・祇園、儒/詩人) 3 2 3 0

義愈(ぎゆ・新納) → 久仰(ひさのり・新納に、藩家老) B 3 7 7 7

義諭(ぎゆ・飯尾) → 義諭(よしさと・飯尾いのお、歌人) D 4 7 4 7

G1631 季由(きゆう) ? - ? 江中期蕉門俳人、1700角呂「雪月花集」入

G1632 几右(きゆう) ? - ? 江中期伊賀の俳人、

1758鳥酔を案内(「冬扇一路」巻末「伊賀実録」入)

M1614 棄祐(きゆう、鴨/梨木) 1712 - ? 山城下賀茂社禰宜/従五上、1732「大清祓之伝」著、  
「地鎮祭之伝記」「清祓之式」「神供之式」「奉幣之式」「鴨御祖皇太神宮正官職掌記」著

G1630 璣邑(きゆう・人見ひとみ、名;黍しつ/黍しよ/恭、字;子魚/叔魚、雪江男) 1729-97 69 叔父人見貞安の養嗣、  
尾張名古屋藩士/藩主宗睦に近侍/世子侍読/60小納戸/用人/勘定奉行;農政改革/85致仕、  
儒/詩歌、「璣邑和歌集」「文艸」、「璣舜問答」;舜庵[宣長]との談話、「有雄筆録」、  
「人見黍文集附詩歌」、「人見黍詩稿」「人見璣邑感述五首」「人見翁雜記」「人見隨筆」外著多、  
[璣邑の通称/別号] 通称;大六/美喬/五郎助/弥右衛門、  
別号;竹山、法号;松谷院、 美至のりゆき弟

M1615 亀友(きゆう/かめとも・永井堂ながいどう・初名;丘作堂亀友) ?-1776? 京の俳人狂歌、浮世草子作者・氣質物、  
1770永井堂に改名、晩年大坂住、1762「風流虫合戦」63「風俗誹人氣質」70「当世銀持氣質」、  
1772「世間姑氣質」「風流行脚嘶」「赤烏帽子都氣質」74「笑談医者氣質」77「立身銀野蔓卷」著  
天満の八田氏と同一説? → 亀友(きゆう・八田はった、与力/俳人) M 1 6 1 6

M1616 亀友(きゆう・八田はった、通称;五郎右衛門、狂号;一寿亭) ?-? 大阪天満与力/1772-1830頃俳人/狂歌、  
廬陰社中、1773几董「明鳥」1句/76「続明鳥」4句入  
[月と水の中を隔つる落葉哉](あけ鳥227)  
永井堂と同一説あり → 亀友(きゆう/かめとも・永井堂ながいどう・狂歌/浮世草子) M 1 6 1 5

M1617 季遊(きゆう・佐々木ささき、名;有則) 1743-1803 61 京猪熊中御門南の商家(桔梗屋)、阿波藩の呉服所、  
俳人;嘯山門、1772几董「其雪影」73「明鳥」76「続明鳥」入、95「きまかせ」96「はるみなと」著、  
1798「風雅屋」編、 [いなづまや梟ふるふの臥すところまで](其雪影;巻尾340)、



- [季遊(；号)の通称/別号]通称;甚三郎/別号;閑空/冠芳齋かんぼうさい/寄節(ききょう;1783改号)
- M1618 **亀遊**(きゆう・蓬萊山人ほうらいさんじん)?-? 江中期1771-89頃江戸牛込の黄表紙作者、川柳作者、柳多留に蓬萊連から投句、1777「江戸最良八百八町」「敵討女鉢木」「於竹大日利生記」著、1779「古々路の鬼」著  
 [ぼた餅を喰たで首がまわるなり](柳多留二五)  
 喜三二門の亀遊と同一? → 亀遊(きゆう;自称女流黄表紙作者)M1619  
 朋誠堂喜三二と同一説あり → 岡持(おかもち・手柄、戯作/狂歌)1409  
 神屋蓬洲(蓬萊山人亀遊)との関係不詳 → 蓬洲(ほうしゅう・神屋)B3948
- M1619 **亀遊**(きゆう) ? - ? 黄表紙;喜三二[岡持おかもち]門/自称女流作家;  
 1781「嗚呼不儘世之助嘶」84「亀遊書雙昏」著  
 蓬萊山人亀遊と同一? → 蓬洲(ほうしゅう・蓬萊山人) M1618
- M1694 **亀猷**(きゆう・江見えみ、柳条[秀就1729-87]男)?-? 美作英田郡作東町鯉の俳人;父門  
 父の三回忌追善集「土まんぢう」編
- M1620 **亀友**(きゆう・可仲庵、通称;河内屋忠兵衛)?-? 江後期大阪呉服町俳人:1800「狂歌画賛玉箒」画
- M1621 **亀友**(きゆう・春河亭、井上いのうえ、通称;友三郎、淑蔭男)?-? 幕末期武州入間郡石井村俳人、  
 1861「都々美能花」編
- 希融(きゆう・懶牛) → 懶牛(らんぎゆう・希融きゆう、渡来臨濟僧) B4873  
 希由(きゆう・芥川) → 玉潭(ぎよくたん・芥川あくたがわ、藩士/儒者) I1689  
 希雄(きゆう・佐々木) → 政二(まさじ・佐々木ささき、藩士/俳人) C4064  
 季由(きゆう・菱田) → 暮蓼(ぼりよう・菱田ひしだ、俳人) E3988  
 季有(きゆう・安倍) → 季有(すえあり・安倍あべ/山井、楽人) L2317  
 季雄(きゆう・小倉) → 季雄(すえお・小倉おぐら/藤原、廷臣/歌人) B2308  
 季雄(きゆう・桑原) → 女媒(じよばい・桑原くわばら、医/俳人) C2289  
 季雄(きゆう・堀) → 季雄(ときかつ・堀、藩士/方言研究) J3105  
 季雄(きゆう・下里/下郷) → 蝶羽(ちやうう・下郷/下里、醸酒業/俳人) H2826  
 季裕(きゆう・森田) → 月瀬(げつらい・森田もりた、医/漢学者) H1840  
 季融(きゆう・京極) → 高朗(たかあきら・京極きやうごく、藩主/詩人) L2651  
 奇酉(きゆう・後藤) → 利朴(りぼく・後藤ごとう、藩士/茶道/神職) M4915  
 亀遊(きゆう・蓬萊山人、黄表紙作者とは別人) → 蓬洲(ほうしゅう・神屋、戯作) B3948  
 亀遊(きゆう・矢野) → 御蔭(みかげ・矢野やの、商家/国学/歌人) K4186  
 亀遊(きゆう・安田) → 信村(のぶむら・安田やすだ/太田、国学者) K3522  
 亀雄(きゆう・緑毛館) → 緑毛館亀雄(りよくもうかんきゆう・狂歌) J4980  
 輝雄(きゆう・正木) → 輝雄(てるお・正木、国学/俳人) C3071  
 輝雄(きゆう・芳泉堂) → 素蛾(そが・瓊舎たまのや、狂歌作者) J2534  
 暉雄(きゆう・三浦暉) → 蕭白(しょうはく・曾我そが、蛇足軒/絵師) B2220  
 紀雄(きゆう・細川) → 重賢(しげかた・細川/源、藩主/詩/武芸) C2106  
 鬼雄(きゆう・山本) → 鬼雄(おにお・山本やまもと、医者/国学) E1424  
 貴雄(きゆう・たかお・加藤) → 歩簫(ほしやう・加藤かとう、国学者/俳人) E3927  
 基有(きゆう・齋藤) → 基有(もとあり・齋藤/藤原、武家/歌人) C4407  
 基祐(きゆう・齋藤) → 基祐(もとすけ・齋藤/藤原、武家/歌人) C4469  
 基祐(きゆう・畠山) → 基祐(もとすけ・畠山はたけやま、幕府高家) L4400  
 基雄(きゆう・齋藤) → 基雄(もとお・齋藤さいとう/藤原、幕臣/歌) C4419  
 基雄(きゆう・後藤) → 基雄(もとお・後藤/藤原、武家/歌人) C4418  
 基雄(きゆう・持明院) → 基雄(もとかつ・持明院/藤原、廷臣/書家) C4438  
 基邑(きゆう・後藤) → 基邑(もとむら・後藤ごとう、郷土史家) E4441  
 規勇(きゆう・齋藤) → 規敦(のりあつ・齋藤さいとう、藩士/国学者) I3560  
 徽猷(きゆう・片山) → 北海(ほっかい・片山かたやま、儒者/詩人) 3971  
 徽猷(きゆう・小関) → 高彦(たかひこ・小関こせき/おせき、洋学者) D2654  
 九(きゆう・板倉) → 復軒(ふっけん・板倉いたくら、幕臣/儒者) D3831  
 虬(きゆう・渋江) → 長伯(ちやうはく・渋江、医/本草) J2869

- 球(きゅう・森もり) → 東門(とうもん・森、儒者) H 3 1 4 5  
 球(きゅう・山田) → 方谷(ほうこく・山田/源、商家/藩儒者) F 3 9 2 4  
 救(きゅう・本間) → 棗軒(そうけん・本間ほんま、医者) H 2 5 0 9  
 久(きゅう; 一字名) → 資枝(すけき・日野/藤原/烏丸、廷臣/歌人) C 2 3 0 3  
 久(きゅう/ひさし・高) → 充国(みつくに・高こう、医者) D 4 1 3 3  
 旧(きゅう・堀池) → 旧(ひさし・堀池ほりいけ、藩士/歌人) K 3 7 9 5  
 休(きゅう・高橋) → 徳香(とくこう・高橋たかはし、儒者) K 3 1 7 0  
 休(きゅう・大菅) → 休(やすむ・大菅おおすが/森下、藩儒) D 4 5 1 8  
 休(きゅう・金沢) → 松下亭(しょうかてい・金沢、旅宿業/詩文) H 2 2 7 9  
 休(きゅう・上田) → 一徳(かずのり・上田うねだ、藩士/国学) T 1 5 7 5  
 鳩(きゅう; 号) → 覚洲(かくしゅう; 法諱・鳩、華嚴僧) J 1 5 9 5  
 鳩(きゅう; 名・遠藤) → 元閑(げんかん・遠藤えんどう、医者/茶人) B 1 8 4 5  
 玖(きゅう; 一字名) → 植通(たねみち・九条/藤原、関白/古典) 2 6 4 5  
 玖(きゅう・横田) → 樗園(ちよえん・横田、藩士/儒/詩) K 2 8 1 8  
 糾(きゅう・井口) → 糾(ただす・井口いぐち、藩士/国学) V 2 6 3 8  
 糺(きゅう・宮川) → 経輔(つねすけ・宮川みやがわ/山部、神職/国学) G 2 9 5 2  
 M1622 義勇(ぎゆう; 法諱) ? - ? 近江山田の真宗本願寺派長教寺住職/曇竜門、  
 1817安居に「高僧和讃天親章」を付講/22副講、1822「高僧和讃講翼」、「分別六合釈聴記」著  
 義右(ぎゆう・熊谷) → 義右(よしすけ・熊谷くまがい/小林/西村、商家/藩支援) M 4 7 6 0  
 義勇(ぎゆう・位田) → 義勇(よしすけ・位田いだ/信田、歌人) E 4 7 1 9  
 義勇(ぎゆう・島) → 義勇(よしすけ・島しま、藩士/蝦夷開拓) E 4 7 2 0  
 義祐(ぎゆう・伊東) → 義祐(よしすけ・伊東いとう、戦国武将) D 4 7 7 7  
 義裕(ぎゆう・川地) → 義裕(よしひろ・川地かわち、藩士/歌人) M 4 7 3 2  
 義融(ぎゆう; 法諱) → 慧然(えねん; 法諱、真宗大谷派僧) E 1 3 1 9  
 義雄(ぎゆう/よしお・紀平) → 五位鷲丸(ごいさぎまる、狂歌作者) H 1 9 0 7  
 義雄(ぎゆう/よしかつ・奥田) → 常雄(つねかつ・奥田/橋、藩士/国学者) B 2 9 9 7  
 義雄(ぎゆう・大沢) → 深明(しんめい・大沢おおさわ、僧/歌人) U 2 2 7 1  
 義雄(ぎゆう・松田) → 義雄(よしお・松田まつだ、藩士/詩歌) P 4 7 1 4  
 義由(ぎゆう・三岡) → 公正(きみまさ・由利ゆり/三岡、藩士/財政/政治) I 1 0 7 5  
 義友(ぎゆう・清水) → 羽長(うちょう・清水しみず、名; 円) D 1 2 1 5  
 義友(ぎゆう・藤原) → 義友(よしとも・藤原ふじわら、神職) F 4 7 0 5  
 義友(ぎゆう・網野) → 義友(よしとも・網野あみの/菅原/雨宮、商家/国学) L 4 7 2 8  
 M1623 休庵(きゆうあん・山口、別号; 夕休庵) ?-? 武将: 豊臣秀頼の家臣/1613-5大坂陣の記録、  
 落城後妙心寺で自刃寸前に住持海山元珠の乞いにより赦免、「山口休庵咄」著  
 B1689 休安(きゆうあん・蔭山かげやま、名; 文明/通称; 七郎左衛門) ?-1673? 大坂天満の俳人; 貞徳門、  
 1656「ゆめみ草」編、新続犬菟入、1673西鶴?「哥仙大坂俳諧師」76西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
 [夜よはあかし日はひとまるの螢かな](哥仙; 十六番左/赤しと明石・一丸と人麿を掛る)  
 M1624 休庵(きゆうあん・熊田くまだ、名; 皞/純之、字; 嘉叟) 1794-1859 名古屋売油商; 富商、  
 儒; 奥田鷲谷門、居を繋矩けつく学舎/嘉石濃書屋と称、「休庵翁詩文稿」著、  
 [休庵の通称/別号]通称; 嘉平治、別号; 檉陰(いん)/慣翁(かいおう)、屋号; 熊野屋  
 B1688 久安(きゆうあん・蘇室そしつ) ? - ? 俳人: 蒼虻門/蕉風俳論、1864「かれ野」65「蕉風無格」、  
 1865「蕉風無格論」「蕉風談・同拾遺」、「蕉風日記」、1866?俳論「蕉風無格弁」著  
 久安(きゆうあん・小松) → 大陵(たいりょう・小松こまつ、医者) L 2 6 2 2  
 久庵(きゆうあん・小笠原) → 元長(もとなが・小笠原おがさわら、武将/故実) D 4 4 5 0  
 久庵(きゆうあん・吉田) → 光由(みつよし・吉田よしだ、和算家) F 4 1 1 4  
 休安(きゆうあん・塩川) → 久貞(ひささだ・塩川しおかわ、藩士) B 3 7 0 4  
 休庵(きゆうあん・大庭) → 宗分(そうぶん・大庭おおば、武将・歌人) C 2 5 8 6  
 休庵(きゆうあん・飯田) → 信方(のぶみち・飯田いいた/黒沢、医者) H 3 5 2 7  
 朽庵(きゆうあん・内藤) → 東甫(とうほ・内藤、藩士/絵師/俳人) H 3 1 1 1

- 汲庵(きゅうあん・福井) → 玄効(げんこう・福井ふくい、藩侍医) I 1 8 7 9  
 鳩庵(きゅうあん・横井) → 不見(ふけん・横井よこい、商家/茶道) B 3 8 7 5  
 杞憂庵(きゅうあん) → 慈英(じえい;法諱・天章;道号、臨濟僧) B 2 1 1 9  
 G1633 牛庵(ぎゅうあん) 1635 - 1688<sup>54</sup> 豊蔵坊僧;大徳寺岐庵門、江前期説話の伝承者、  
 宗珍・源幸らと「奇異雑談さいぞうだん集」共編(上巻13話・下巻18話を伝承)  
 牛庵(ぎゅうあん) → 元祥(もとよし・益田、武将/城主/国老) E 4 4 6 8  
 牛庵(ぎゅうあん・阪元) → 生字(せいう・阪元さかもと/種子田、儒者) H 2 4 4 1  
 牛庵(ぎゅうあん) → 信海(しんかい・豊蔵坊、社僧/狂歌/書) 2 2 1 8  
 牛庵(ぎゅうあん・畠山) → 光政(みつまさ・畠山はたけやま、藩医) K 4 1 0 7  
 牛庵(ぎゅうあん・畠山) → 桂花(けいか・畠山、光政男/医/歌/鑑定) F 1 8 3 4  
 宮安舎(きゅうあんしゃ) → 光重(みつげ・福武ふくたけ、国学者/故実) D 4 1 5 5  
 M1625 休意(きゅうい・増田ますだ、名;雅宅、高松藩士正宅男) 1678-1768長寿<sup>91</sup> 父改易;  
 讃岐山田郡木太で農業、讃岐に関する見聞記を執筆、菊池黄山の兄、  
 1745「翁嫗夜話」編、68「讃岐三代物語」「三代物語附録」著、「若一王子大権現縁起」著、  
 [休意(;号)の通称/別号]通称;太兵衛、別号;楳林きりん丈人  
 休意(きゅうい・賀茂) → 元久(もとひさ・賀茂かも、神職/連歌) D 4 4 9 7  
 休意(きゅうい・田中) → 知新(ちしん・田中、鍼灸医) E 2 8 4 5  
 久域(きゅういき→ひさむら・喜多村) → 綾足(あやたり・建部、俳/歌/戯作) 1 0 2 8  
 久郁(きゅういく・土岐) → 久郁(ひさか・土岐とき、和学者) K 3 7 2 4  
 G1634 九一(きゅういち・前田検校)? - 1656(or85) 一方(都方)流師堂派平曲家;高山誕一門、  
 前田流の祖、波多野検校孝一の波多野流と対抗、江戸宗匠、「西海余滴集」著?、  
 門人;麻岡検校・塙保己一など  
 G1635 休一(きゅういち・山中) ? - ? 平曲音曲家、一方流師堂派、孝一師  
 九一(きゅういち・入江) → 杉蔵(すぎぞう・入江いりえ、尊攘活動) F 2 3 9 1  
 B1690 牛一(ぎゅういち・太田、通称;又助/和泉守、法号;功源院) 1527-? 1610存 尾張春日部の生;信長臣、  
 足輕衆/1581頃近江の奉行;本能寺変で加賀に隠棲/88秀吉臣;検地奉行/秀頼臣;大阪隠棲、  
 軍記著作に専念;1600信長一代記「信長公記しんちようこうき」著、  
 「慶長記」「関原記」「関東軍記」著など  
 九一亭(きゅういちてい) → 中俵(ちゅうそう・中村、藩士/医/儒者) G 2 8 5 6  
 九一郎(きゅういちろう・野呂) → 介石(かいせき・野呂のろ、藩士/絵師) B 1 5 0 9  
 九一郎(きゅういちろう・勝田) → 鹿谷(ろっこく・勝田かつた、藩儒者/詩文) C 5 2 1 5  
 九一郎(きゅういちろう・勝田) → 正履(せいり・勝田かつた、鹿谷男/藩儒) J 2 4 7 8  
 休逸(きゅういつ・小泉) → 信盈(のぶみつ・小泉こいずみ、藩士/歌人) I 3 5 3 8  
 久胤(きゅういん・原) → 久胤(ひさたね・原はら、歌人) B 3 7 3 2  
 久蔭(きゅういん・蘆谷) → 久蔭(ひさかげ・蘆谷あしや/源、歌人) L 3 7 6 1  
 久蔭(きゅういん・杉山) → 久蔭(ひさかげ・杉山すぎやま、歌人) L 3 7 6 5  
 休隠(きゅういん・長島) → 宜青(よしはる・長島ながしま、歌人) O 4 7 2 4  
 蚯蚓(きゅういん・島崎) → 土夫(つちお・島崎しまさき、藩士/国学/歌) F 2 9 8 1  
 牛隠(ぎゅういん・小野) → 高潔(たかきよ・小野、幕臣/国学者) C 2 6 6 9  
 九隠斎(きゅういんさい) → 百池(ひやくち・寺村てらむら、商家/俳人) E 3 7 6 6  
 蚯蚓叟(きゅういんそう) → 静山(せいざん・渡辺わたなべ、藩士/俳人) I 2 4 4 8  
 旧雨(きゅうう・内田) → 周斎(しゅうさい・内田うちだ、儒者) H 2 1 4 3  
 急雨亭(きゅううてい、連歌) → 玄碩(げんせき) C 1 8 4 6  
 S1600 久永(きゅうえい) ? - ? 伊勢山田俳人、1633重頼「犬子集」1句入、  
 [しつくいが残る瓦の軒の雪](犬子集;219/瓦の雪を漆喰に見立てる)  
 S1670 久栄(きゅうえい・鞠/吉田) ? - ? 江前期上方の俳人、  
 1673西鶴「生玉万句」第十歳暮第三句(鞠久栄名)入、78西鶴「物種集」(吉田久栄名)入、  
 [御自慢の松はもとよりうたひにて](歳暮第三;庭の自慢の松を眺め雪見酒;自慢の謡も、  
 謡曲;「鉢木」;松はもとより煙にて薪となるもことわりや、  
 脇句浜田春良;興ある雪に一盃の酒)

- M1626 久永(きゆうえい) ? - ? 大阪俳人、1691賀子「蓮実」4句入  
 [世の濁り蓮はちすに愧はづる且あしたかな](蓮実;266)  
 (本歌「蓮葉の濁りにしまぬ心もてなにかは露を玉とあざむく」古今集・遍照)
- 久英(きゆうえい・磯谷) → 久英(ひさひで・磯谷いそが、藩士/兵法家) B 3 7 8 3  
 九栄(きゆうえい・梅田) → 年風(としかぜ/ねんふう・梅田、絵師/俳人) M 3 1 1 5  
 九栄(きゆうえい・梅田) → 江波(ごうは・梅田、年風男/絵師/俳人) K 1 9 9 3  
 久映(きゆうえい・松平) → 久映(ひさひで・松平まつだいら、藩士;家老) B 3 7 8 5  
 九英承菊(きゆうえいしゅうきく;号) → 太原(たいげん;道号・崇孚;法諱、臨濟僧) J 2 6 8 7  
 久益(きゆうえき;剃髮、茶人) → 景兼(かげかね・見坊けんぼう、藩士/軍術) K 1 5 8 7
- M1627 久右衛門(きゆうえもん・椀屋わんや、久兵衛、椀久)?-1676 大阪堺町筋の町人/豪商/豪遊/破産/癡狂、  
 早くから戯曲や小説に登場;1684大和屋甚兵衛の椀久狂言/85西鶴/  
 1691「椀久二世の物語」/1710海音;浄瑠璃「椀久末松山」・・・のち歌舞伎椀久物など
- M1628 久右衛門(きゆうえもん・森田もりた、名;光久/号;松柏、源兵衛光氏男) 1641-171575 土佐の陶工;  
 1658土佐藩主に招聘された久野正伯に入門、1658土佐藩焼物御用を勤める/64御目見、  
 1678三人扶持;藩主山内豊昌に随い江戸に赴く;大老酒井忠清らに細工物を供覧、  
 1664「幡多紀行」78「江戸旅日記」、「森田久右衛門日記」著
- G1636 久右衛門(きゆうえもん・正本屋、姓名;山本治重) 1669-174173 京大阪書肆、竹本座浄本刊行
- M1629 久右衛門(きゆうえもん・金田一さんだいち、名;治富、与左衛門治共男) 1693-177179 陸奥盛岡藩士、  
 1729勘定頭、1737罪を得て禄没収蟄居/43赦免/再度勘定頭/57致仕、  
 1747「風土考」、「土地考書」著
- 久右衛門(きゆうえもん・新納) → 旅庵(りょあん・新納にいろ、時宗僧/武将) F 4 9 9 4  
 久右衛門(きゆうえもん・衣笠) → 景延(かげのぶ・衣笠きぬがさ、武将/藩士/歌) U 1 5 5 1  
 久右衛門(きゆうえもん・杉木) → 正友(せいゆう/まさとも・杉木、神職/俳人) D 2 4 0 2  
 久右衛門(きゆうえもん・小山) → 素朴(そぼく・小山こやま、詩歌人) K 2 5 4 0  
 久右衛門(きゆうえもん・亀屋) → 文宝(ぶんぼう・文宝亭、狂歌) G 3 8 4 7  
 久右衛門(きゆうえもん・正本屋書肆、豊竹座浄本刊) → 一風(いつふう・西沢) 1 1 2 5  
 久右衛門(きゆうえもん・山中;変名) → 拙斎(せつさい・矢野、儒者/教育) E 2 4 2 9  
 久右衛門(きゆうえもん・丸山/芥河) → 貞佐(ていさ・芥河あくたがわ、商家/狂歌) 3 0 7 8  
 久右衛門(きゆうえもん・谷) → 通統(みちむね・谷たに、故実家/香・花道) J 4 1 7 1  
 久右衛門(きゆうえもん・伏見屋) → 之道(しどう;号・槐本えのもと、商人/俳人) F 2 1 2 4  
 久右衛門(きゆうえもん・伏見屋) → 梅従(ばいじゅう・後藤ごとう、商家、俳人) B 3 6 4 9  
 久右衛門(5代きゆうえもん・越前屋) → 政方(まさかた・村井むらい、商家/国学/歌) T 4 0 0 6  
 久右衛門(きゆうえもん・板倉) → 復軒(ふっけん・板倉いたくら、幕臣/儒者) D 3 8 3 1  
 久右衛門(きゆうえもん・葛上) → 忠昭(ただあき・葛上くずみ、家老/地誌) P 2 6 0 8  
 久右衛門(きゆうえもん・渡辺) → 富秋(とみあき・渡辺、国学者) O 3 1 7 9  
 久右衛門(きゆうえもん・伊勢屋) → 市人(いちんど・浅草、質商/狂歌) 1 1 1 8  
 久右衛門(きゆうえもん・倉田) → 葛三(かつさん・倉田くらた、俳人) C 1 5 4 4  
 久右衛門(きゆうえもん・玉田) → 歩牛(ほぎゅう・玉田/渡辺、俳人) C 3 9 8 2  
 久右衛門(きゆうえもん・伊藤) → 紅塵(こうじん・伊藤、商家/俳人) J 1 9 9 2  
 久右衛門(きゆうえもん・吉田) → 澹軒(たんけん・吉田よしだ、藩家老/財政) T 2 6 3 7  
 久右衛門(きゆうえもん・硯屋) → 千別(ちわけ・中江、国学者) J 2 8 5 5  
 久右衛門(きゆうえもん・松屋) → 来助(来輔らいすけ・松屋まつや/津打、歌舞伎作者) 4 8 6 9  
 久右衛門(きゆうえもん・天野) → 恬庵(てんあん・天野あまの、藩士/儒者) D 3 0 1 0  
 久右衛門(きゆうえもん・大橋) → 景久(かげひさ・大橋おおはし、藩士/歌人) T 1 5 9 6  
 久右衛門(きゆうえもん・築山) → 秀賢(ひでかた・伊庭/源/築山、幕臣/国学) C 3 7 9 7  
 久右衛門(きゆうえもん・福富屋) → 雅言(まさとき・広安ひろやす、商家/歌人) E 4 0 3 9  
 久右衛門(きゆうえもん・都筑) → 吉容(よしとみ・都筑つぎ/志村、商家/歌) N 4 7 2 6  
 久右衛門(きゆうえもん・小川) → 繁樹(しげき・小川おがわ、商家/国学) N 2 1 5 7  
 久右衛門(きゆうえもん・小川) → 繁彰(しげあき・小川おがわ/源、商家/国学) N 2 1 5 6



久右衛門(きゅうえもん・丸山)→ 株修(もとのぶ・丸山まるやま、宿老/書・歌) L 4 4 4 1  
 久右衛門(きゅうえもん・丸山)→ 株徳(もとのり・丸山、株修男/宿老/書歌) L 4 4 4 2  
 久右衛門(きゅうえもん・多羅尾)→ 純門(ひろかど・多羅尾たらお、代官/国学) K 3 7 0 8  
 久右衛門(きゅうえもん・加藤)→ 正国(まさくに・加藤かとう、国学/歌人) O 4 0 6 7  
 久右衛門(きゅうえもん・中井)→ 重清(しげきよ・中井なかい、国学/歌人) Z 2 1 5 4  
 久右衛門(きゅうえもん・福田)→ 和夫(にぎお・福田ふくだ、国学/神職) H 3 3 3 3  
 久右衛門(きゅうえもん・渡辺)→ 章(あきら・渡辺わたなべ、酒造業/歌人) I 1 0 8 4  
 九右衛門(きゅうえもん・吉島)→ 羽洲(うしゅう・松浦、商家/俳人) C 1 2 8 1  
 九右衛門(きゅうえもん・松本)→ 烏涯(うがい・松本まつもと、藩士/儒者) B 1 2 9 2  
 九右衛門(きゅうえもん・勝島)→ 惟徳(これのり・勝島かつしま、儒者) O 1 9 6 6  
 九右衛門(きゅうえもん・石川)→ 鳳台(ほうだい・石川いしかわ、藩士/詩人) C 3 9 2 3  
 九右衛門(きゅうえもん・竹内)→ 塊翁(かいおう・竹内、俳人) 1 5 9 0  
 九右衛門(きゅうえもん・大橋)→ 長広(ながひろ・大橋、国学/歌人) F 3 2 5 7  
 九右衛門(きゅうえもん・寺本)→ 海若(かいじやく・寺本てらもと/鈴木、書家) I 1 5 6 8  
 九右衛門(きゅうえもん・山田)→ 螻堂(かくどう・山田、儒者/詩) H 1 5 3 5  
 九右衛門(きゅうえもん・伊野辺)→ 看齋(かんさい・伊野辺/伊野部いのべ、将棋士) Q 1 5 5 2  
 九右衛門(きゅうえもん・熊谷)→ 直恭(なおやす・熊谷/鳩居堂、救貧活動) C 3 2 8 1  
 九右衛門(きゅうえもん・小島)→ 濤山(とうざん・小島/小嶋、暦算家) E 3 1 5 9  
 九右衛門(きゅうえもん・穴沢)→ 杳齋(ようさい・穴沢あなざわ、藩士/暦学) 4 7 9 1  
 九右衛門(きゅうえもん・小寺)→ 玉晁(ぎよくちよう・小寺こでら、随筆家) H 1 6 3 1  
 九右衛門(きゅうえもん・野川)→ 鷄周(けいしゅう・野川のがわ、俳人) G 1 8 0 2  
 九右衛門(きゅうえもん・伊藤)→ 久成(ひさなり・伊藤いとう/丸山、国学/国事) L 3 7 1 2  
 九右衛門(きゅうえもん・西村)→ 清臣(きよおみ・西村にしむら、藩士/歌人) U 1 6 0 5  
 九右衛門(きゅうえもん・樽井)→ 守城(もりき・樽井たるい、兵法家/歌人) F 4 4 3 4  
 九右衛門(きゅうえもん・泉屋)→ 増通(ますみち・森もり、商家/歌人) Q 4 0 1 9  
 九右衛門(きゅうえもん・竹内)→ 信均(のぶひら・竹内たけうち、藩家老/歌) J 3 5 0 1  
 九右衛門(きゅうえもん・成瀬)→ 勝紀(かつのり・成瀬なるせ/藤原、藩士/歌) V 1 5 2 8  
 九右衛門(きゅうえもん・小林)→ 業朝(のりとも・小林こばやし、駅伝問屋/国学) I 3 5 4 3  
 九右衛門(きゅうえもん・小林)→ 勝清(かつきよ・小林こばやし、大庄屋/歌) U 1 5 6 2  
 九右衛門(きゅうえもん・松元)→ 泰温(やすよし・松元まつもと、儒者/侍読) G 4 5 7 5  
 九右衛門(きゅうえもん・原)→ 重与(しげとも・原はら/井原、国学/歌) O 2 1 4 7  
 九右衛門(きゅうえもん・都筑)→ 花守(はなもり・都筑つづき、藩士/歌人) K 3 6 4 5  
 九右衛門(きゅうえもん・山県)→ 貴速(たかはや・松原まつばら/山県、藩士/神職/俳人) Z 2 6 6 2  
 玖右衛門(きゅうえもん・金子)→ 竹香(ちくこう・金子かねこ、儒者) C 2 8 9 8  
 休右衛門(きゅうえもん・平野)→ 貞則(定則さだのり・平野ひらの、藩士) J 2 0 2 9  
 休右衛門(きゅうえもん・小川)→ 繁胤(しげたね・小川おがわ、商家/国学) N 2 1 5 8  
 休右衛門(きゅうえもん・木村)→ 春秋満(鈴満すずまる・木村きむら/平、藩士/国学) I 2 3 3 5  
 休右衛門(きゅうえもん・肥田)→ 景正(かげまさ・肥田ひだ、家老/歌人) V 1 5 4 6

M1630 **九淵**(きゅうえん;道号・竜蹊りゅうちん;法諱、号;葵齋)?-1474 臨濟僧;天祥一麟門、1451遣明使随員、1454帰国/55建仁寺187世住持/67南禅寺202世/晩年は瑞淵軒に退隱、「葵齋集」「新撰分類諸家詩集」「九淵詩稿」「九淵唾稿」著、「九淵遺稿」

M1631 **岷円**(岷園きゅうえん・桂かつら、名;元盛もともり、元澄6男)1547-1637**長寿91** 長州藩士、毛利元就4男の藩主穂田元清の家臣、元清男毛利秀元を補佐、武将、元就の事業を記録/1622「桂岷園覚書」著、[岷円(;入道号)の通称] 源右衛門尉/因幡守

I1675 **九畹**(きゅうえん・齋藤さいとう、名;一興かづおき、上坂貞固男、齋藤久興養嗣子)1758-1823**66** 備前岡山藩士、1797家督/1806組頭/07勘定奉行/寺社奉行/13大目附/解任;寄合、儒者:江村北海門、詩:六如[慈周]門、1787「熊沢了介先生伝」91「草のちり」、「備前国児島古戦記」「齋草問答」、「通俗北史」「冬青園筆塵」「九畹詩稿」「九畹文稿」「九畹韻譜」著、「黄薇古簡集」編、

[九腕の幼名/字/通称]幼名;岩之助、字;文貫、通称;清右衛門

- I1669 **九淵**(きゅうえん・浦池うらいけ、名;潜ひそむ、正好男)1759-183678 備中岡田藩士/1777家督;江戸詰、1791特命で財政再建のため国元で尽力/94執政職;民政/藩校新設、儒・中根東平門、山本北山・林述斎門、佐藤一斎と親交、「九淵詩文稿」「皇政沿革論」「古史概覧」、「本朝歴史槩覧がいらん」「独断」「御当代御実録」「遺老叢談」「浦池送正斎近藤君之蝦夷」著、[九淵の字/通称]字;鱗長、通称;左五郎ぢごろう
- M1632 **九腕**(きゅうえん・山口やまぐち、名;義方、郡山こおりやま蘭腕2男)1768-183164 外祖山口家を嗣、鹿児島藩儒、家学;朱子学、藩校造士館の学事担当/記録奉行/供目付、1808近思録崩れ連座:奄美流謫、奄美島民を教導/大島で病没、「学庸説」著(書を運ぶ船沈没/消失)、[九腕の字/通称]字;有用、通称;大右衛門
- M1633 **丘焉**(きゅうえん) ? - ? 豊後別府俳人、1864「松花集」編;呉石80賀記念
- |                 |   |                          |           |
|-----------------|---|--------------------------|-----------|
| 九淵(きゅうえん・橋本)    | → | 晩翠(ばんすい・橋本、儒者)           | I 3 6 2 1 |
| 九淵(きゅうえん・谷たに)   | → | 景井(かげい・谷たに、医者/国学)        | K 1 5 7 5 |
| 九淵(きゅうえん・牧野)    | → | 貞喜(さだはる・牧野/源、藩主/諸芸)      | J 2 0 3 7 |
| 九淵(きゅうえん・江川)    | → | 担庵(たんあん・江川えがわ、幕臣/砲術)     | H 2 6 9 0 |
| 九淵(きゅうえん・伊達)    | → | 宗紀(むねただ・伊達だて、藩主/築庭/歌)    | D 4 2 5 4 |
| 九腕(きゅうえん・加地井)   | → | 高茂(たかしげ・加地井かじい、薬学者)      | M 2 6 0 4 |
| 九腕(きゅうえん・雨森)    | → | 章迪(しょうてき・雨森あめのもり、医者/書・詩) | G 2 2 1 6 |
| 汎園(きゅうえん→きえん)   | → | 玄泰(げんたい・草鹿くさか、医/詩人)      | K 1 8 9 1 |
| 及淵(きゅうえん・上田)    | → | 及淵(しきぶち・上田/平井、藩医/国学)     | Q 2 1 1 0 |
| 休園(きゅうえん・小川)    | → | 白堂(はくどう・小川おがわ/杉山、藩医/詩)   | D 3 6 7 1 |
| 休焉(きゅうえん・須藤)    | → | 如璞(じよぼく・須藤すどう、医者/俳人)     | M 2 2 8 4 |
| 繆園(きゅうえん)       | → | 守弘(もりひろ・河野/越智/石崎、国学/史家)  | G 4 4 4 1 |
| 菰園(きゅうえん・萩原)    | → | 広道(ひろみち・萩原/藤原、藩士/国学/歌)   | 3 7 2 8   |
| 九淵齋(きゅうえんさい・塩田) | → | 冥々(めいめい・塩田/佐々木、商家/俳人)    | 4 3 3 8   |
| 求焉子(きゅうえんし)     | → | 浄嚴(じょうごん;法諱・覚彦、真言律僧)     | S 2 2 2 2 |
| 九腕室(きゅうえんしつ)    | → | 樗堂(ちようどう・栗田くりた、酒造業/俳人)   | K 2 8 4 3 |
| 求焉道人(きゅうえんどうじん) | → | 浄嚴(じょうごん;法諱・覚彦、真言律僧)     | S 2 2 2 2 |
- 1626 **鳩翁**(きゅうおう・柴田しばた、名;亨/惟敬、奈良屋吉兵衛男)1783-183957 京生/江戸で種々の職業経験、1708帰京;塗物業/野史講談で成功、心学;薩埵さつた徳軒門/26布教活動;12か国巡遊講席、1727失明;剃髪;鳩翁号/巡遊講席を続行、1834「鳩翁道話」35「続鳩翁道話」著、1738「続々鳩翁道話」、「道のはなし」著、艾軒がいげんの養父、[我なしといふて体が消えて仕廻ふのではない  
おれがといふ心がなくなるのでござります] (無我の境地;鳩翁道話)  
[鳩翁の字/通称/別号]字;陽方/通称;謙蔵、別号;眉山/維鳩庵、法号;鶴巢軒鳩翁儒士
- S1689 **鳩翁**(きゅうおう・鶴殿うどの、熊倉茂寛男)1808-6962 旗本鶴殿長快の養子;1819家督嗣、幕臣;小納戸、目付;1853ペリー来航時;攘夷論主唱/54日米条約時には応対役となる、民部少輔、安政の將軍継嗣時に一橋慶喜を推す;井伊直弼により左遷処分、1863家茂上洛警護の浪士組取締役;分裂解散、維新後;静岡で没、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[露のみか秋さへふかくなりぬれば虫のねならぬ浅茅生もなし]、  
(大江戸倭歌;秋790/虫声滋)、  
[鳩翁(:号)の名/通称]名;長説/長鋭、通称;甚左衛門(;養父を継称)/民部少輔みんぶのしょう
- |              |   |                      |           |
|--------------|---|----------------------|-----------|
| 鳩翁(きゅうおう・上島) | → | 雅政(まさただ・上島うえしま、詩人)   | N 4 0 9 1 |
| 九翁(きゅうおう・中村) | → | 水竹(すいちく・中村なかむら、篆刻家)  | E 2 3 8 5 |
| 九翁(きゅうおう・樽井) | → | 守城(もりき・樽井たるい、兵法家/歌人) | F 4 4 3 4 |
| 休翁(きゅうおう)    | → | 利休(りきゅう・千せん宗易/田中、茶人) | 4 9 2 3   |
- M1634 **牛翁**(ぎゅうおう;号・長沼) ? - 1834 羽前下長井宮の文筆家、「牛之誕」著
- C1652 **休音**(きゅうおん) ? - ? 江前期京の俳人、1633重頼「犬子えのこ集」33句入、  
[春の来る時を告ぐるやとりの年](犬子集;春8/酉年の鶏の声)

- B1691 **及加**(きゅうか・高島/高橋、通称;善大夫)?-? 江前期伊勢山田の俳人、高島玄札の従弟?、不在庵加友法師門?、1657俳諧辞書「嘲哢集」編
- V1670 **休可**(きゅうか) ? - ? 江前期;歌人、1688浅井忠能[難波捨草]20余首入、浅井忠能ただり家の人か?;月次会・百首歌に参加、[月次の会に題をさぐりて松間花といふ事をよみ侍る、松のひま花の雲とは桜咲く遠山風や分きてふくらん](難波捨草;春62)
- G1637 **玖珂**(きゅうか・朝枝あさえだ/修姓晁ちよう、名;世美、伊致男) 1697-1745 49 周防岩国藩士、儒;宇都宮遯庵・圭齋門、1716上京;伊藤東涯門/京で修学/27岩国藩儒、稗官5大家の1、白話に通ず、「韓客唱和」編、「信好先生しんこうせんせい詩集」(信好先生は諡号)、[玖珂の字/通称/別号]字;徳濟、通称;源次郎/源二郎、別号;毅齋、諡号;信好先生
- F1638 **求花**(きゅうか) ? - ? 江中期俳人; 1754潘山(百子)「しぐれの碑」(;貞因[貞柳貞峨の父]25回忌・貞峨13回忌追善集)入、[鶯の子もしたふてぞ法の声](しぐれの碑/懐旧)
- M1635 **九華**(きゅうか・中島なかじま、名;徳方/篤方、敬方男) 1744-1816 73 京の儒者;父門/家学、1777真仁親王侍読、90致仕、永昌坊高倉西で講説業、「孔聖年譜異同考」編、浮山ぶざんの孫、[九華の字/通称/諡号]字;敬蔵、通称;織部/貞吉/泰志、諡号;文恭紹誨先生、
- B1693 **九華**(きゅうか・角田つのだ、仲島休治男/角田東水の養嗣) 1784-1855 72 豊後岡儒者;中井竹山門、1805脇蘭室門、岡藩士;侍読、1822江戸遊学;林述齋門、1844帰郷;藩校由学館教授/上士、1816/46「近世叢語」21「近世人鏡録」49「孔子履歴考」、「岐蘇西還記」「左伝逢原参」著、[九華(;号)の名/字/通称]幼名;国松、名;簡、字;大可/廉夫、通称;才次郎
- I1670 **九華**(きゅうか・玉乃たまの;改姓、名;惇成、森脇玄令男) 1797-1851 周防岩国藩士/医;父門、1822医儒、1826福岡;亀井昭陽門、47岩国藩校養老館初代督学/50玉乃と改姓、1840「風雅」著、「錦帯橋記」「掬水園記」「春山楼記」「養老館記」「通議評」著、「松雪洞遺稿」、[九華の字/通称/別号]字;成裕/裕甫、通称;嘉全/斗南/小太郎、別号;松雪洞
- M1636 **九華**(きゅうか・池田いけだ、別号;一丘齋/美国画史)?-1881 加賀能瀬の医者・絵師、画;田中日華門、金沢で医業、1856「九峰堂画譜」著
- M1637 **喩霞**(きゅうか・浅井あさい/本姓;杉浦、名;勝任)?-? 江後期越後村上藩士/大目付、儒学;泉豊洲[1758-1809]門、「喩霞遺稿」、[喩霞の字/通称/別号]字;子陸、通称;定右衛門、別号;休軒
- 九華(きゅうか;号・玉崗;道号)→ 瑞璵(ずいよ;法諱・玉崗、臨濟僧) F 2 3 0 8
- 九華(きゅうか・島しま) → 東呉(とうご・島しま、俳人/絵師) D 3 1 7 0
- 九華(きゅうか・匹田) → 柳塘(りゅうとう・匹田/疋田ひきだ/藤原、家老) F 4 9 3 0
- 九華(きゅうか・前田) → 直躬(なおみ・前田、藩士/歌人) C 3 2 5 2
- 九華(きゅうか・一楽子) → 義内(ぎない・林、医/儒/滑稽本) B 1 6 9 2
- 九華(きゅうか・堀内) → 匡平(まさひら・堀内、庄屋/国学/勤王) G 4 0 8 5
- 鳩窠(きゅうか・難波) → 立愿(りゅうげん・難波なんば/篠野、医者) D 4 9 6 7
- 久加(きゅうか・北郷) → 久加(ひさます・北郷きたごう、家老/歌人) J 3 7 2 6
- 久嘉(きゅうか・名) → 堯恭法親王(ぎょうきょうほうしんのう、天台僧) N 1 6 5 9
- 久嘉(きゅうか・北郷) → 久嘉(ひさよし・北郷きたごう、藩家老/国学) J 3 7 2 7
- 久稼(きゅうか・富田) → 鷗波(おうは・富田とみた、儒者) C 1 4 6 2
- S1662 **裘我**(きゅうが) ? - ? 江中期摂津の俳人、1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、[此の寒さ覚東なしや武庫風むにおろし](伊丹発句合;冬)
- M1638 **久賀**(きゅうが・勝見) ? - ? 大阪の俳人/雑俳;1757律中「耳勝手」入
- 久賀(きゅうが・島津) → 久賀(ひさか・島津しまつ、武将/家老) J 3 7 8 3
- B1694 **牛家**(ぎゅうか) ? - ? 俳人;蓼太門、1775蓼太口述「付合小鏡」著
- M1639 **牛哥**(ぎゅうか・洗耳亭、芝山男)?-? 武州比企郡福田の俳人;竹二坊門、1825「奥羽紀行」著、35師竹二坊追悼集「雪之和賀礼」編集の中心者
- 牛加(ぎゅうか・上林) → 清泉(せいせん・上林かんばやし/金森、茶師) J 2 4 0 9
- 牛歌(牛家ぎゅうか・堀田) → 沙羅(しやら・堀田ほった、幕臣/俳人) G 2 1 5 6



- 九華庵(九花庵きゅうかあん)→ 井竹(せいちく・服部、花屋庵の妻/俳人) J 2 4 2 2
- M1640 久外(きゅうがい;道号・呑良どんりょう;法諱)?-1651 曹洞僧:超山閻越門、能登永光寺住持、  
「洞谷雑書」「室中三物資料」著
- 久愷(きゅうがい・尾崎) → 久愷(ひさやす・尾崎、藩士/儒者) C 3 7 1 0
- 球外道人(きゅうがいどうじん)→ 斉泰(なりやす・前田、藩主/謡曲) E 4 0 3 8
- 九華園(きゅうかえん) → 吳山(ござん・神野、俳人) M 1 9 6 5
- G1643 休角(きゅうかく) ? - ? 江前期俳人;1692不角「千代見草」入
- 休郭(きゅうかく・関) → 五流(ごりゅう・関せき、俳人) N 1 9 9 5
- 邱壑外史(きゅうがくがいし) → 忠漸(ちゅうぜん・村井/邨井/村、儒医/和算) G 2 8 5 3
- 九鶴山樵(きゅうかくさんしょう)→ 松廬(しょうろ・野呂のろ、儒者/詩人) C 2 2 1 2
- 邱壑主人(きゅうがくしゅじん)→ 櫻宇(ていう・林、儒官/詩人) 3 0 3 1
- 九鶴堂(きゅうかくどう) → 樵山(ばいざん、俳人) B 3 6 3 2
- 九霞山樵(きゅうかさんしょう)→ 大雅(たいが・池/池野、絵;文人画) B 2 6 1 2
- 九華山人(きゅうかさんじん) → 聖瑞(しょうずい;法諱・一曇;道号、臨濟僧/文筆) T 2 2 6 8
- 九華山人(きゅうかさんじん) → 九華(きゅうか・角田) B 1 6 9 3
- 九華山人(きゅうかさんじん) → 悟心(ごしん・元明、黄檗僧) D 1 9 0 2
- 吸霞台(きゅうかだい) → 元瑞(げんずい・中西/小川、藩士/医者) K 1 8 3 5
- 久葛(きゅうかつ・藤本) → 久葛(ひさつら・藤本/度会/小島、国学者) B 3 7 4 2
- 九華亭(きゅうかてい) → 汶邨(ぶんそん・松居、藩士/俳人) G 3 8 0 8
- 休可亭(きゅうかてい) → 一幹(いっかん;号・休可亭、俳人) G 1 1 7 9
- 久花堂(きゅうかどう) → 買山(ばいざん、俳人) B 3 6 3 1
- 九華山人(きゅうかどうじん) → 悟心(ごしん;道号・元明;法諱、黄檗僧) D 1 9 0 2
- 九霞楼(きゅうかろう) → 三千雄(みちお・松田、俳/詩人) B 4 1 2 7
- 九華老人(きゅうかろうじん) → 瑞璵(ずいよ;法諱・玉崗、臨濟僧) F 2 3 0 8
- G1638 急閑(きゅうかん・憩齋けいさい)? - ? 戦国安桃期の語学者/聯句、1597「押韻おういん」(聯句用韻書)
- B1695 九蚶(きゅうかん・高野/北村、別号;百由窠ひやくゆうそ?)?-? 越後糸魚川俳人:涼菟門、  
1715「糸魚川」編、支考「越の名残」に名前
- 久寛(きゅうかん・川瀬) → 東井(とうせい・松葉軒/川瀬、武士/辞書) F 3 1 9 0
- 久寛(きゅうかん・宮坂) → 久寛(ひさひろ・宮坂みやさか、商家/国学者) L 3 7 4 3
- 久貫(きゅうかん・高島) → 祐庵(ゆうあん・高島、幕府奥医) 4 6 5 3
- 休閑(きゅうかん・高橋) → 正明(まさあき/まさあきら・高橋たかはし、茶/歌/幕臣) L 4 0 7 2
- 級官(きゅうかん) → 常子(つねこ・近衛、内親王/日記) C 2 9 0 5
- M1642 九巖(きゅうがん;道号・中達ちゅうたつ;法諱、称;栄派)?-1661 臨濟僧:古澗慈稽門、1625建仁寺300世、  
「鵝腿集」「潦水録」「九岩与朝鮮至復書契」著
- T1652 牛岩(ぎゅうがん・寺澤てらさわ、修験宝珠院柳江男)?-? 江後期;信濃木曾福島の詩人、  
詩;武居用拙(1816-92)門/書;広瀬旭窓(1807-63)門、山村良醇・松山令仙と交流、  
郷校菁莪館に出仕、武居用拙主宰の詩社[攻玉社]で活躍、  
[牛岩(;号)の字/通称]字;明甫、通称;祐倫
- 休閑齋(きゅうかんさい) → 旅庵(りょあん・新納にいろ、時宗僧/武将) F 4 9 9 4
- B1696 九起(きゅうき・北村) ? - ? 京の双林寺芭蕉堂住/俳人:梅室門、のち万寿庵朝陽堂移に住、  
1810「しぐれ集」/41「梅林茶談」編/44「名摘草」編/57「百友集」編/58「釣瓶繩」、「花供養」多数、  
[九起の別号] 朝陽堂/芭蕉堂
- 求己(きゅうき・津田) → 有栄(ありえ・津田、藩士/儒/神道) F 1 0 2 4
- 久達(きゅうき・島田) → 久達(ひさみち・島田はまだ、国学/歌人) J 3 7 8 0
- 久宜(きゅうぎ・永岡) → 久宜(ひさよし・永岡ながおか、神職/歌人) C 3 7 1 8
- 旧蟻(きゅうぎ・永岡) → 久宜(ひさよし・永岡ながおか、神職/歌人) C 3 7 1 8
- 九儀(きゅうぎ・大竹/岳) → 武陽(ぶよう・大竹/岳、漢学/講説) E 3 8 5 1
- 久菊(きゅうきく・辰岡/立岡)→ 久七(きゅうしち・天満屋、歌舞伎役/作者) G 1 6 4 2
- 九疑齋(きゅうぎさい、九疑山人)→ 沢(たく・河原、儒者/嘶本作者) E 2 6 1 6
- 九吉(きゅうきち・長倉/佐竹)→ 義根(よしね・佐竹さたけ/源/長倉、天文家) F 4 7 4 8



久輝女(きゆうきのみすめ・島津)→久輝女(ひさてるのみすめ・島津しまず、歌人) M 3 7 4 0  
 久救(きゆうきゆう・末川) → 久救(ひさひら・末川/島津、歌人) B 3 7 7 2  
 久躬(きゆうきゆう・樺山) → 久初(ひさはつ・樺山かばやま、藩家老/歌) J 3 7 0 9  
 休々庵(きゆうきゆうあん) → 野逸(やいつ・加藤かとう、幕臣/俳人) 4 5 0 0  
 九々庵(きゆうきゆうあん→くくあん)→ 閑叟(かんそう・九々庵、俳人) R 1 5 2 4  
 久々斎(きゆうきゆうさい) → 蔚明(もちあき・丸山、藩士/文運興隆) B 4 4 2 7  
 及々斎(きゆうきゆうさい) → 数也(すうや・平尾ひらお、藩茶道方茶人) F 2 3 3 2  
 休々斎(きゆうきゆうさい) → 治憲(はるのり・上杉、藩主/財政改革) G 3 6 7 1  
 九々山人(きゆうきゆうさんじん)→ 南岳(なんがく・藤沢、藩士/儒者/教育) J 3 2 9 6  
 休々山人(きゆうきゆうさんじん)→ 浪化(ろうか;号、真宗大谷派僧、俳人) 5 2 0 2

T1609 久久子(きゆうきゆうし・松崎まつさき)? - ? 江後期;歌人

歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [かげ繁き青葉の山の夕月夜このまながらにかたぶきにけり]、  
 (大江戸倭歌;夏554/山中夏月)

休々子(きゆうきゆうし) → 僧樸(そうぼく・抱質、真宗本願寺派僧) I 2 5 9 2  
 休々子(きゆうきゆうし) → 玉仲(ぎよくちゆう;道号・宗琇、臨濟僧) P 1 6 2 6  
 休々子(きゆうきゆうし) → 高般(たかかず・藤堂とうどう、詩人) L 2 6 7 1  
 九九子(きゆうきゆうし) → 玉淵(ぎよくえん・賀来かく、醸造家/儒者) O 1 6 8 0  
 九々蜃(きゆうきゆうしん) → 北斎(ほくさい・葛飾、絵師/葛飾派祖) 3 9 6 2  
 九々蜃(きゆうきゆうしん) → 北明(ほくめい・葛飾かつしか/井上、絵師) D 3 9 9 6  
 鳩居(きゆうきよ・尾崎) → 称斎(しょうさい・尾崎おさき、藩儒者/教育) S 2 2 3 2  
 鳩居(きゆうきよ・笠原) → 貞康(さだやす・笠原かさほら、藩士/国学) O 2 0 2 7

M1643 求魚(きゆうぎよ・下山しもやま)? - ? 江中期1716-36頃丹波亀山俳人/地誌、

1719「俳諧盟の魚」著

鳩節(きゆうきよう、鳩節斎)→ 瓦全(がぜん・柏原、俳人;蝶夢門) C 1 5 2 8  
 久仰(きゆうぎよう・畠山/新納)→ 久仰(ひさのり・新納にいろ、藩家老) B 3 7 7 7  
 牛郷(ぎゆうきよう・滝) → 牛郷(うしさと・滝たき/柳田、藩士・歌人) E 1 2 7 7  
 求玉(きゆうぎよく・森もり) → 東門(とうもん・森、儒者/詩) H 3 1 4 5  
 鳩居堂蓮心(きゆうきよどうれんしん)→ 直恭(なおやす・熊谷くまがい、商家/救貧活動) C 3 2 8 1  
 久近(きゆうきん・本間) → 久近(ひさちか・本間ほんま、鷺流狂言書写) B 3 7 3 3  
 久軀(きゆうく・浮田) → 秀家(ひでいえ・浮田/宇喜多うきた、武将) 3 7 0 8  
 久矩(きゆうく・葛巻) → 昌興(まさおき・葛巻かづらまき、藩士/歌) B 4 0 4 9  
 邱愚(丘愚/休愚きゆうぐ・田中)→ 冠帯(かんたい;号・田中/窪島、農政) H 1 5 7 2  
 邱隅(休隅きゆうぐ・田中)→ 冠帯(かんたい;号・田中、農政家) H 1 5 7 2  
 邱隅右衛門(丘隅右衛門きゆうぐうえもん・田中)→ 冠帯(かんたい・田中) H 1 5 7 2  
 久訓(きゆうくん・萩原) → 久訓(ひさのり・萩原ざむら/源、町役、国学) K 3 7 6 0

M1644 急溪(きゆうけい;道号・中韋ちゆうい;法諱)?-? 1400存 室町期臨濟宗僧、1400頃西芳[方]寺住持、  
 1400「西方寺縁起」著

B1697 休計(きゆうけい・厚東とう、別号;吟松軒/鼠丸堂)?-1704 撰津箕面半町村の俳人/大坂に別宅、  
 西吟と親交、1693「浪花置火燵」編、「盃集」「羽觴集」「俳諧今源氏」「俳諧正月事」編、  
 1691賀子「蓮実」1句/1702轍士「花見車」1句入、  
 [棚経たなぎやうに鯖売る声の交りけり](蓮実;289/盃蘭盆の精霊棚前の読経と中元の刺鯖)

M1645 球卿(きゆうけい・工藤くどう、長井常安男/工藤丈庵の養子) 1734-1800 67 紀州藩儒医、医;養父門、  
 儒;服部南郭門、小姓頭/出入司;政務に参与/蝦夷開拓案主張、機械製作/篆刻/割烹が得意、  
 「赤蝦夷風説考」「三国通覧補遺」、1797「救瘟袖曆」著、子平「海国兵談」序、  
 妻;桑原如璋の女、鞏卿・只野真葛の父、

[球卿の字/通称/号]字;元琳、通称;周庵/平助、号;万光、法号;觀是院相誉如実元琳

久敬(きゆうけい)すべて → 久敬(ひさたか) or 久敬(ひさいや・荒木田)  
 久敬(きゆうけい・大屋) → 士由(しゆう・大屋/沼倉、国学/俳人) G 2 1 7 0  
 久啓(きゆうけい・春田) → 久啓(ひさとお・春田/根来、幕臣/梅栽培) B 3 7 4 7

久景(きゆうけい・多)	→	久景(ひさかげ・多おの、楽人)	3 7 9 0
久景(きゆうけい・足立)	→	久景(ひさかげ・足立あだち、歌人)	L 3 7 8 2
久慶(きゆうけい・島津)	→	久慶(ひさやす・島津しまづ、藩士/記録)	C 3 7 0 9
久勁(きゆうけい・吉川)	→	全筋(ぜんせつ・吉川よしかわ、儒者)	M 2 4 7 9
久卿(きゆうけい・山崎)	→	美成(よししげ・山崎やまさき、商家/国学者)	4 7 1 2
久卿(きゆうけい・中山)	→	元常(もとつね・中山なきやま、医者/歌人)	K 4 4 8 2
求溪(きゆうけい・恒遠)	→	醒窓(せいそう・恒遠つねとお、儒者/詩)	C 2 4 5 0
鳩溪(きゆうけい)	→	源内(げんない・平賀)	1 8 2 8
鳩溪(きゆうけい)	→	源内(げんない・平賀ひらが、洋学/戯作)	1 8 2 8
救卿(きゆうけい・生田)	→	万(よろづ・生田いくた、藩士/国学/救民)	4 7 4 2
宮継(きゆうけい・道守)	→	宮継(みやつぐ・道守ちもり朝臣、廷臣/詩)	F 4 1 9 7
韭卿(きゆうけい・鈴木)	→	玄道(げんどう・鈴木すずき、医/儒者)	L 1 8 9 6
休卿(きゆうけい・萩原)	→	大麓(だいりく・萩原はざわら、漢学者)	C 2 6 4 1
休卿(きゆうけい・菅間)	→	鷲南(しゅうなん・菅間すがま、儒者)	Y 2 1 1 6
厩溪(きゆうけい・上野)	→	厩谷(きゅうこく・上野うえの、儒者)	M 1 6 5 8
久敬軒(きゆうけいけん)	→	久敬(ひさたか・浅加あさか、藩士/国学・歌)	B 3 7 2 1
吸月居士(きゆうげつこじ)	→	春流(しゅんりゅう・清水、儒者/詩/俳人)	K 2 1 6 1
休月齋(きゆうげつさい)	→	賢江(けんこう;道号・祥啓、絵師/臨濟僧)	I 1 8 6 3
笈月人(きゆうげつじん)	→	幹雄(みきお・三森みつり、俳人)	4 1 6 8
吸月堂(きゆうげつどう)	→	春流(しゅんりゅう・清水、俳人)	K 2 1 6 1
汲月堂(きゆうげつどう)	→	有稔(ありとし・山県やまがた/中村、藩士/国学)	I 1 0 6 4
吸月房(きゆうげつぼう)	→	風徳(ふうとく・小林こばやし、俳人)	3 8 9 7

B1699 及肩(きゆうけん) ? - ? 膳所俳人、蕉門、芭蕉書簡には及肩老とある、  
1690「ひさご」連衆;4句入、「あめ子」5句/「猿蓑」入、  
[夕立や檜木ひのきの臭かざの一ひとしきり](猿蓑;卷之六)

休軒(きゆうけん)	→	喩震(きゆうか・浅井、儒者)	M 1 6 3 7
求見(きゆうけん・土岐)	→	久郁(ひさか・土岐とき、和学者)	K 3 7 2 4
久顕(きゆうけん・佐藤)	→	久顕(ひさあき・佐藤/藤原、神道家)	3 7 8 1
久堅(きゆうけん/ひさかた・吉川)	→	天浦(てんぼ・吉川よしかわ、神職)	E 3 0 2 7
窮軒(きゆうけん・前田)	→	道通(どうつう・前田、医者)	G 3 1 5 5
久顕(きゆうけん/ひさあき・山崎)	→	半蔵(はんぞう・山崎やまさき、藩士/日記)	I 3 6 8 2
久元(きゆうげん・島津)	→	久元(ひさもと・島津しまづ/新納、武将/家老)	J 3 7 8 2
久元(きゆうげん・土方)	→	久元(ひさもと・土方ひじかた、藩士/政治家)	K 3 7 7 5
求玄(きゆうげん・吉田)	→	言倫(こととも・吉田よしだ、史家)	N 1 9 2 8
汲元(きゆうげん・清水)	→	汲元(くみもと・清水しみず、神職/国学)	E 1 7 2 3
躬弦(きゆうげん・安田/源)	→	躬弦(みつる・安田/源、医/国学/歌)	F 4 1 2 8
窮源(きゆうげん;法諱)	→	宗禅(そうぜん;号・窮源、律宗僧)	I 2 5 2 9

M1646 九湖(きゆうこ) ? - ? 京の書肆九湖堂主人、彫工、俳人;几董門、  
1772几董「其雪影」2句/73「あけ鳥」6句/76「続明鳥」7句入、77蕪村「夜半楽」1句入、  
1774美角「ゑぼし桶」1句/76樗良「俳諧月の夜」1句入、  
[詩に歌に口も酸くなるんめの花](其雪影;卷尾240/梅は詩歌に非常に多く詠まれる)

M1647 求古(きゆうこ・小池)	→	1830-44頃会津藩医、本草学、1839「会津歳時記」著	
旧狐(きゆうこ・松井)	→	素輪(そりん・松井まつい、俳人)	E 2 5 5 4
汲古(きゆうこ・古川)	→	躬行(みつら/みゆき・古川ふるかわ、国学/神職)	F 4 1 2 7
汲古(きゆうこ・伊勢)	→	貞宗(さだむね・伊勢/平、幕臣/故実家)	C 2 0 5 3
汲壺(きゆうこ)	→	春亭(初世しゅんてい・勝川、絵師)	K 2 1 3 0
求古(きゆうこ・蝦)	→	惟義(これよし・蝦えび、藩医者)	O 1 9 9 8
球湖(きゆうこ・新山)	→	忠(ちゅう・新山にいやま、藩士/儒者/詩人)	F 2 8 7 1
九五(きゆうご・田本)	→	安丸(やすまる・田本たもと、歌人)	G 4 5 1 8
久語(きゆうご・古谷)	→	久語(ひさつぐ・古谷ふるや、国学者)	I 3 7 0 7

- 久吾(きゅうご・肥田) → 除風(徐風じよふう・肥田ひだ、教育者) M 2 2 8 0  
 求吾(きゅうご・合田) → 強(つよし・合田ごうだ、医者/蘭方) E 2 9 3 8  
 G1639 牛後(ぎゅうご) ? - ? 嘶家、1780南畝「万の宝」連中  
 虬戸庵(きゅうこあん) → 素綾(そりょう・虬戸庵、俳人) E 2 5 5 2  
 吸古庵(きゅうこあん) → 樗影(ちよえい・針生はりお、俳人) K 2 8 1 5  
 M1648 九臯(きゅうこう・加藤かとう、名;博) 1664-1728<sup>65</sup> 武州医者、1688水戸藩医/96水戸彰考館入、  
 1720「脈位辨正」/22「医学澄源」「経哀腋けいほうえき」/25「喪礼略私註」著  
 [九臯の字/通称/別号]字;与厚、通称;宗博、別号;春風洞  
 I1671 九臯(きゅうこう・鶴原つるはら、名;韜、別号;梅庵) 1666-1710<sup>45</sup> 儒者;貝原益軒門、  
 筑前福岡藩士/藩主の侍講  
 C1600 九臯(きゅうこう・細井ほそい、名;知文、広沢男/本姓藤原) 1711-82<sup>72</sup> 武蔵の書家:父門、篆刻、  
 一時幕府に出仕、門弟指導、1775「墨道私言」、「奇勝堂印譜」「九臯草」「細井九臯手本書」著、  
 [九臯の字/通称/別号]字;天錫、通称;文三郎、別号;鶴山/籀齋ちゆうさい/沢雉道人  
 M1650 九臯(きゅうこう・鶴見つるみ) ? - ? 江中期水戸藩士;進物番/藩政関与、農政の建議、  
 「鶴見九臯遺策」著  
 M1651 九臯(きゅうこう・山崎やまざき、名;克/克明、町医の寿朴男) 1735-1810<sup>76</sup> 尾張医者;浅井東軒・凶南門、  
 儒;小出慎齋門/1785法橋/91名古屋藩寄合医師/家塾医学館教授/1802致仕、菜茹さいじよ養父、  
 1798「尾藩禁方集成」菜茹と共著、1801「黄鐘録」09「校正病因辨談」著、  
 「雨乃夜咄」「聖濟総録」著、  
 [九臯の字/通称/法号]字;士敏、通称;専三/真人(;致仕後)、法号;観照義道  
 I1672 九臯(きゅうこう・深田ふかだ、名;正益、慎齋男) 1736-1802<sup>67</sup> 尾張藩士/儒;家学、1784兄厚齋の嗣/家督、  
 国奉行/書物奉行/寺社奉行/側用人、詩歌/連歌/琵琶、「戲言」、「九臯先生文稿」著、  
 [九臯の字/通称]字;子謙、通称;彦九郎、深田正韶まさあきの父  
 M1652 丘高(きゅうこう・笹[篠]ささ、名;氏貞、武道家笹順武男/本姓;平) 1756-1817<sup>62</sup> 伊勢山田俳人:樗良門、  
 神風館13世継承、歌/書、寺子屋を開、1792「木枯庵歳旦」98「月農宿」1802「はるのこと」編、  
 1812「十三夜」16「若葉集」編、「春事帖」編、  
 [丘高の通称/別号]通称;主馬/司馬、別号;古雅堂/木枯庵/鳴讓堂/神風館13世  
 M1653 九臯(きゅうこう・後藤ごとう、名;俊実としざね) 1790-1818<sup>早世29</sup> 陸前登米郡米谷村主高泉家家臣、詩文、  
 「嚶鳴集」、「嘯梧稿」著、  
 [九臯の字] 世樸/英卿  
 I1673 九臯(きゅうこう・春田はるた、名;亨/鬻こく、道碩男) 1812-62<sup>51</sup> 遠州浜松藩士/父没;12歳で家督、小普請、  
 儒;佐藤一齋門/1855林家入門、儒臣/致仕;江戸で家塾、「苟完小稿」著、曾我耐軒の兄、  
 [九臯の字/通称/別号]字;元卿/羽高/景純、通称;六蔵/玄蔵、  
 別号;葆眞ほしん庵/眞庵、 法号玄洞院  
 弟 → 耐軒(たいけん・曾我、儒者) B 2 6 3 1  
 M1654 九江(きゅうこう・青根あおね、名;介/字;石夫)?-? 江後期京の絵師、1852「触目琳琅」編  
 M1655 岷興(きゅうこう;法諱、法名;宝蓮社善心/通称;知庵)?-? 江後期京の浄土僧;秀吉の帰依、  
 初め岷善/岷州に随従し諸国行脚、越前西方寺で説法、1858知恩寺31世、「尊問愚答記」著  
 九江(きゅうこう;号) → 樵禅(しょうぜん;道号・禅鎧;法諱、臨濟僧) K 2 2 4 4  
 九江(九臯きゅうこう・本間) → 遊清(游清ゆうせい・本間、医・国学・歌) 4 6 0 5  
 九江(きゅうこう・森) → 蘭齋(らんさい・森もり、医者/絵師) C 4 8 1 7  
 九江(きゅうこう・玉楮) → 籐榭(とうしゃ・玉楮たまかじ、彫刻師) V 3 1 7 3  
 久光(きゅうこう)すべて → 久光(ひさみつ)  
 久孝(きゅうこう)すべて → 久孝(ひさたか)  
 九臯(きゅうこう) → 沾石(せんせき、俳人) G 2 4 1 9  
 九臯(きゅうこう) → 元逸(げんいつ・鶴田、医者) H 1 8 7 4  
 九臯(きゅうこう) → 重教(しげみち・前田/菅原、藩主) S 2 1 8 0  
 九臯(きゅうこう) → 朝弘(ともひろ・庵原/廬原いおはら/いはら、家老/歌人) Q 3 1 4 3  
 九臯(きゅうこう) → 大巢(たいそう・高橋/平井、俳人) K 2 6 5 4  
 九臯(きゅうこう) → 舞巾(ぶきん・奥田おくだ、俳人) B 3 8 4 6

- 九臯(きゅうこう・疋田) → 進修(しんしゅう・疋田ひきだ/松平、藩士/儒者) V 2 2 4 4
- 九臯(きゅうこう・御菌) → 常斌(つねあき・御菌みその、鍼医) B 2 9 5 1
- 九臯(きゅうこう) → 肩吾(けんご・加藤かとう、藩医者/魯語) I 1 8 5 9
- 九臯(きゅうこう・浅井) → 正賛(まさとし・浅井、藩医者) E 4 0 5 2
- 九幸(きゅうこう・杉田) → 玄白(げんぱく・杉田すぎた子鳳、医/蘭学) 1 8 2 9
- 九鴻(きゅうこう・高橋) → 杏村(きょうそん・高橋たかはし、絵師/詩) O 1 6 2 7
- 久江(きゅうこう・鈴木) → 久江(ひさえ・鈴木すずき、藩主側室/歌人) J 3 7 9 4
- 久行(きゅうこう・多) → 久行(ひさゆき・多おの、楽人) C 3 7 1 1
- 久弘(きゅうこう・多) → 久弘(ひさひろ・多おの/豊原、楽人) L 3 7 9 9
- 久恒(きゅうこう・中川) → 久恒(ひさつね・中川なががわ、藩主/和学) K 3 7 3 5
- 久恒(きゅうこう・尼子) → 久恒(ひさつね・尼子、藩士/国事奔走) B 3 7 4 1
- 久高(きゅうこう・樺山) → 久高(ひさたか・樺山かばやま/大野、武将/家老/歌) J 3 7 0 8
- 久興(きゅうこう・北沢) → 久興(ひさおき・北沢きたざわ/喜多沢、幕臣/歌人) J 3 7 2 8
- 臼臯(きゅうこう・蓮沼) → 景正(かげまさ・蓮沼はすぬま、藩士/国学) V 1 5 4 0
- 糾綱(きゅうこう・堀内) → 匡平(まさひら・堀内、庄屋/国学/勤王) G 4 0 8 5
- 鳩節(きゅうこう、鳩節齋) → 瓦全(がぜん・柏原、俳人;蝶夢門) C 1 5 2 8
- 躬行(きゅうこう) → 幾曉(きぎょう、雲蝶、僧/俳人) 1 6 9 2
- 躬行(きゅうこう・木宮) → 躬行(みゆき・木宮きみや、国学者/歌) I 4 1 8 3
- 躬恒(きゅうこう・凡河内) → 躬恒(みつね・凡河内おほこうち、廷臣/歌) 4 1 2 7
- 躬綱(きゅうこう・前田) → 躬綱(みつな・前田まえだ、歌人) H 4 1 8 7
- M1656 牛行(ぎゅうこう) ? - ? 京の俳人;神沢杜口門、1784「山口羅人三十三回忌集」編、  
1772几董「其雪影」入;[人はまだ嵯峨に遊ばず梅きゝす](嵯峨は桜の名所)
- 九臯庵(きゅうこうあん) → 鶴鳴(かくめい、和歌山藩士、文筆家) E 1 5 7 9
- 吸江軒(きゅうこうけん;号) → 樵禅(しょうぜん;道号・禅鑑;法諱、臨濟僧) K 2 2 4 4
- 吸江軒(きゅうこうけん・伴) → 資次(すけつぐ・伴ばん、商家/歌人) J 2 3 0 0
- M1657 九臯山人(きゅうこうさんじん) ? - ? 江戸前期大阪軍記作者、1703「筑紫軍記」著
- 牛口山[散]人(ぎゅうこうさんじん) → 麦水(ばくすい・堀ほり、医/俳人) 3 6 0 9
- 九臯子(きゅうこうし) → 文鳴(ぶんめい・戸田とだ、去音門/俳人) G 3 8 5 0
- 九臯舎(きゅうこうしゃ) → 朋如(ともゆき・田中、国学) Q 3 1 8 0
- G1640 白岡先生(きゅうこうせんせい、戲名)?-? 1769洒落本「廓中奇譚」;漢文序淡海先生(作者?)/岷江画  
2 説あり → 兵庫(ひょうご・栗本、淡海三磨) F 3 7 2 2  
→ 狂斎(きやうさい・原、儒者) C 1 6 4 9  
淡海子と同一? → 淡海子(たんかいし、1771読本作) I 2 6 0 2
- 九尻亭(きゅうこうてい) → 種彦(初世たねひこ・柳亭、高屋知久、旗本/戲作) 2 6 4 3
- 九臯亭(きゅうこうてい) → 舞巾(ぶきん・奥田おくだ、俳人) B 3 8 4 6
- 九臯亭(きゅうこうてい) → 眞菅(ますが・渡辺わたなべ、神職/歌人) T 4 0 8 1
- 九臯亭鶴翁(きゅうこうていかくおう) → 紹之(つぐゆき・島村しまむら/神馬、商家/歌) F 2 9 8 3
- 九臯堂(きゅうこうどう) → 文下(ぶんか・額田、風之男/書肆/俳人) E 3 8 8 6
- 躬耕廬(きゅうこうろ) → 執斎(しつさい・三輪みわ/沢村、儒者/歌) E 2 1 8 8
- 九臯楼主人(きゅうこうろうしゅじん) → 晴軒(せいけん・広川、商家/洋学者) I 2 4 0 1
- 汲古館(きゅうこかん) → 五橋(ごきょう・田中たなか、書肆/俳人) M 1 9 1 1
- I1674 鳩谷(きゅうこく・萩野はぎの、名;伊三郎/子敏/求之、復堂男/本姓平・孔平くひら) 1717-1817長寿101歳、  
出雲松江藩士、孔子の子孫と自称/儒;萩生徂徠門、1744初出仕/松平治郷臣/江戸詰、  
博学/文章家/奇行、各種碑文を書く、千社札の元祖?  
「朱考亭真」「論語微考」「兵家必究」「七書解叢」「八経解叢」「古詩仄藻」「韻字切要」「解紛」、  
「古詩作例」「鳩谷家乗」「鳩谷濟美集」「鳩谷外集」「鳩谷先生文集抄」「百家変説」、  
「西漢真解」「先秦真解」「仄韻選藻」外著多数、  
[鳩谷の字/通称/別号]字:好古/信敏、通称;喜内/天愚孔平てんぐこうへい、  
別号;天愚老人/天愚斎/草鞋そうあい大王/万垢君ばんこうくん、法号;縦山院、信竜しんりゅう・信鳳の父
- M1658 厩谷(きゅうこく・上野うえの、勝梢男) 1797-1866 70 筑前福岡藩士、儒者:清水素堂・若槻幾斎門、



書;二川相近門、国書に精通/博識、著書百余卷、  
 傲慢多弁;衆人から狂人と看做され儒者から擯斥される、  
 「太宰府考」「筑紫琴」「静観樊籠詩鈔」「好善堂文」「著述書目録」外著多数、  
 [厩谷の名/通称/別号]名;勝従ますゆき、通称;浪江なみえ、別号;厩溪きゅうけい/眞磔

- 旧国(きゅうこく、芥室) → 大江丸(おおえまる・安井、商家/俳人) 1 4 0 3  
 久国(きゅうこく・川上) → 久国(ひさくに・川上かわかみ、藩家老/儒者) B 3 7 0 0  
 汲谷軒(きゅうこくけん) → 好春(こうしゅん・児玉、俳人) B 1 9 3 3  
 九狐斎(きゅうこさい) → 不言(ふげん・省、俳人) B 3 8 0 3  
 汲古斎(きゅうこさい) → 貞陸(さだみち・伊勢/平、幕臣/故実家) 2 0 2 5  
 求己斎(きゅうこさい) → 義故(よしもと・山崎やまさき、藩士/書家) H 4 7 6 9  
 汲古堂(きゅうどう) → 躬行(みつら/みゆき・古川、国学者) F 4 1 2 7  
 汲古堂(きゅうどう) → 道直(みちなお・野口のぐち、商家/国学者) C 4 1 0 7  
 求古堂(きゅうどう) → 肇(はじめ・寺井てらい、藩士/故実家) E 3 6 4 1  
 求古堂(きゅうどう;号) → 玉竜(ぎよくりゅう;法諱・簡隆/恵光、真宗僧) P 1 6 4 3  
 求古堂(きゅうどう) → 光時(3世みつとき・鷺田わした、金工) E 4 1 0 0  
 求己堂主人(きゅうどうしゅじん) → 景保(かげやす・高橋たかはし、幕臣/天文/シボルト事件) B 1 5 9 9  
 汲古堂主人(きゅうどうしゅじん) → 祐邦(すけくに・河津かわづ/藤原、幕臣/奉行) H 2 3 9 5  
 九五兵衛(きゅうごべえ・丸山/芥河) → 貞佐(ていさ・芥河あくたがわ、商家/狂歌) 3 0 7 8  
 九瓠坊(きゅうこぼう) → 立志(7世りゅうし、俳人) E 4 9 4 7  
 求古楼(きゅうこうろう) → 椽斎(えきさい・狩谷、国学/漢学者) 1 3 0 7  
 久五郎(きゅうごろう・撰待) → 盛武(もりたけ・撰待せつたい、藩士/故実家) F 4 4 6 0  
 久五郎(きゅうごろう・上原) → 定賀(さだよし・上原うえはら、代官/書詩歌) N 2 0 9 3  
 久五郎(きゅうごろう・松井) → 安運(やすゆき・松井まつい、里正/和学) G 4 5 6 5  
 久五郎(きゅうごろう・坂本) → 成方(しげかた/なりかた・坂本さかもと、幕臣/国学) O 2 1 6 4  
 休五郎(きゅうごろう・中村) → 扱斎(たくさい・中村なかむら、儒者/教育) N 2 6 9 8  
 宗哲(2代そうてつ・中村八郎兵衛) → 汲斎(きゅうさい・中村、千家塗師)

S1693 汲斎(きゅうさい・中村、2代宗哲/八兵衛) 1671-1706 36歳 千家十職の塗師、  
 代表作;「乱菊中棗」制作

M1659 求斎(きゅうさい・岩崎いわざき、名;安清、惟則男) 1779-1844 66 上総姫島の儒者;稲葉黙斎門/闇斎学、  
 「性善之弁」「太極与理名義異同有無弁」著、  
 [求斎の通称/法号]通称;満五郎/政右衛門、法号;聞解院育明

I1676 久斎(きゅうさい・松本まつもと、万年まんねん) 1815-80 66 幕末期医者/教育者、新聞社入、東京師範学校教授、  
 「東京新橋雑記」、「雑抄」著

- 弓斎(きゅうさい・矢吹) → 正則(まさのり・矢吹やぶさ/日笠、藩士/史家) T 4 0 3 2  
 休斎(きゅうさい・観世) → 元信(もとのぶ・観世かんぜ、小鼓方宗家5世) D 4 4 6 9  
 休斎(きゅうさい・蜂谷) → 宗悟(そうご・蜂谷はちや、香道家) H 2 5 2 6  
 休斎(きゅうさい・喜多村) → 立以(りゅうい・喜多村、俳人) 4 9 0 7  
 休斎(きゅうさい・武笠) → 宣予(のぶやす・武笠たけがさ、藩士/歌人) J 3 5 0 4  
 久斎(きゅうさい・朝岡) → 柳昌(りゅうしょう・朝岡、儒者/俳人) E 4 9 6 8  
 汲斎(きゅうさい・武田) → 吉貞(よしさだ・武田たけだ、国学者) N 4 7 8 3  
 鳩斎(きゅうさい・笠原) → 貞康(さだやす・笠原かさばら、藩士/国学) O 2 0 2 7  
 鳩斎(きゅうさい・平岡;変名) → 治房(はるふさ・北島、勤王家) G 3 6 7 9  
 救済(きゅうさい→きゅうせい) → 救済(ぐさい;法諱、天台僧/連歌師) 1 7 0 2  
 久在(きゅうざい・竹内) → 久在(ひさあり・竹内たけうち、柔道家、国学) K 3 7 1 6  
 九左衛門(きゅうざえもん・久須見) → 九左衛門(くざえもん・久須見くすみ、書肆) D 1 7 7 2

M1661 久左衛門(きゅうざえもん・川淵かわぶち)?-? 江戸前期商人、呂宋交易、1671「呂宋覚書」著

M1662 久左衛門(きゅうざえもん・西村、屋号;米沢屋)?-? 江前期京の商人、米沢藩御用達;廻米青苧の輸送、  
 1710不届のため御用没収/没落、「西村由緒書」著

V1605 久左衛門(きゅうざえもん・日野ひの、名;重堅しげかた) 1755-1807 53 信濃伊那街道松島宿の間屋;日野屋、  
 歌人;1791頃桃沢夢宅門;[手爾葉伝]を伝受、小沢亀春を新町油屋北の寺子屋師匠に招聘、

久左衛門重泰(歌人)の父/祖右衛門重儀しげのり(平田国学)の祖父、法名肝然機要居士、  
[人目せく別れながらも朝霧の立かくしたる面影ぞうき]

M1663 久左衛門(きゅうざえもん・上野うえの、名;基房、狂号:下野庵宮住しもつけあんみやずみ)1770-1834<sup>65</sup> 宇都宮質商、  
狂歌作者;京の公家衆と交流、史家:「宇都宮史」「下野風土記」「宇都宮史料」、「新和歌集」著、  
1821「古連茂姫松」編、「宇都宮宮住手簡」「宇都宮金清水」著

V1606 久左衛門(きゅうざえもん・日野ひの、名;重泰しげやす、久左衛門重堅男)1784-1855<sup>72</sup> 信濃伊那松島宿問屋、  
屋号;日野屋、歌人;桃沢夢宅門、祖右衛門重儀しげのり(平田国学)の父、  
[久方の天の岩戸のあけくれにきくもかしこき神がたり哉]

[久左衛門(;通称/父の称)の初名/別通称]初名;重広、別通称;金次郎、法名露翁遊倦居士

V1649 九左衛門(きゅうざえもん・安井やすい、)1820-86<sup>67</sup> 陸奥二本松藩士;御用人、国学者、矢内光門の師、  
[九左衛門(;通称)の名]名;時明/静枝しげえ

久左衛門(きゅうざえもん・高城/大島)→ 忠泰(ただやす・大島/島津/高城、武将/日記) R 2 6 0 5

久左衛門(きゅうざえもん・北村)→ 宗容(むねかた・北村きたむら、藩家老) D 4 2 7 6

久左衛門(きゅうざえもん・日下部)→ 勝臯(かつしか・かつたか・日下部くさかべ、幕臣/国学) N 1 5 3 7

久左衛門(きゅうざえもん・撰待)→ 盛武(もりたけ・撰待せつたい、藩士/故実家) F 4 4 6 0

久左衛門(きゅうざえもん・大金)→ 重貞(しげさだ・大金おおかね、郷土史家) R 2 1 0 1

久左衛門(きゅうざえもん・藪)→ 慎庵(しんあん・藪やぶ、藩士/儒者) D 2 2 4 5

久左衛門(きゅうざえもん・伏見屋)→ 之道(しどう;号・槐本えのもと、商人/俳人) F 2 1 2 4

久左衛門(きゅうざえもん・恵比須屋)→ 松意(しょうい・高木たかぎ、俳人) E 2 2 7 4

久左衛門(きゅうざえもん・野呂)→ 直貞(なおさだ・野呂のろ、陪臣/国学) B 3 2 2 0

久左衛門(きゅうざえもん・菊池)→ 成章(なりあき・菊池きくち、国学/歌人) G 3 2 9 6

久左衛門(きゅうざえもん・明石)→ 行憲(ゆきのり・明石あかし、藩士/歌文) F 4 6 3 0

久左衛門(きゅうざえもん・久保島)→ 若人(じゃくじん・久保島、藩士/俳人) G 2 1 2 9

久左衛門(きゅうざえもん・平清水)→ 義明(よしあき・佐久間さくま/平清水、大庄屋/国学) M 4 7 9 5

久左衛門(きゅうざえもん・博多屋)→ 路圭(ろけい・博多屋、商家/俳人) B 5 2 2 8

久左衛門(きゅうざえもん・小浜屋/竹越)→ 里桂(りけい・竹越、商家/俳人) 4 9 8 6

久左衛門(きゅうざえもん・阿波屋)→ 春曙(しゅんしよ・阿波屋、商家/俳人) L 2 1 0 4

久左衛門(きゅうざえもん・大森)→ 素筈(そじゆん・大森おおもり、庄屋/俳人) J 2 5 9 0

久左衛門(きゅうざえもん・林)→ 好雄(よしお・林はやし、国学者) O 4 7 6 1

久左衛門(きゅうざえもん・成田)→ 蒼虬(そうきゅう・成田なりた、藩士/俳人) 2 5 0 7

久左衛門(きゅうざえもん・高田)→ 備寛(びかん・高田たかた、地誌編纂) 3 7 4 8

久左衛門(きゅうざえもん・橘屋/久野)→ 其律(きりつ・永日庵、狂歌) D 1 6 7 2

久左衛門(きゅうざえもん・薬師寺)→ 種義(たねよし・薬師寺、砲術家) S 2 6 1 4

久左衛門(きゅうざえもん・戸田)→ 通元(みちもと・戸田とだ、天文家) C 4 1 6 8

久左衛門(きゅうざえもん・大槻)→ 清雄(きよお・大槻おつき、大肝入/俳/歌人) T 1 6 7 9

久左衛門(きゅうざえもん・宮川)→ 良致(よしむね・宮川みやがわ、茶道/歌) P 4 7 3 7

久左衛門(きゅうざえもん・田井)→ 宣辰(のぶとき・田井たい、庄屋/地震記録) K 3 5 4 2

九左衛門(きゅうざえもん・丸田)→ 盛次(もりつぐ・丸田まるた、藩士/砲術家) F 4 4 7 4

九左衛門(きゅうざえもん・原)→ 元寅(もとぶ・原はら、藩士/詩人) D 4 4 7 1

九左衛門(きゅうざえもん・原)→ 元慶(もとよし・原、元寅男/藩士/詩人) L 4 4 0 8

九左衛門(きゅうざえもん・久須見)→ 九左衛門(くざえもん・久須見くすみ、書肆) D 1 7 7 2

九左衛門(きゅうざえもん・梶村)→ 九左衛門(くざえもん・梶村、藩士) C 1 7 3 8

九左衛門(きゅうざえもん・山本、書肆)→ 吟雪(ぎんせつ、富川房信、草双紙) E 1 6 2 1

九左衛門(きゅうざえもん・正本屋助)→ 一鳳軒(いっぽうけん・西沢、歌舞伎作者) 1 1 2 6

九左衛門(きゅうざえもん・宇佐美/曾禰)→ 淇園(きえん・柳沢、藩士/詩/絵師) 1 6 0 3

九左衛門(きゅうざえもん・大和田)→ 気求(ききゅう・大和田、書肆/国学) 1 6 9 0

九左衛門(きゅうざえもん・河野)→ 定秀(さだひで・河野こうの、商家/国学/歌) O 2 0 4 5

九左衛門(きゅうざえもん・前田)→ 水穂(みずほ・前田まえだ/夏目、国学/歌) K 4 1 5 0

求左衛門(きゅうざえもん・竹内)→ 恭通(たかみち・竹内たけうち/古川、国学) Y 2 6 0 8

V1624 求策(きゅうさく・松沢まつざわ、号;鶴舟野史)1855-87<sup>33</sup> 信濃安曇郡等々力の醤油醸造業若松屋の生、

歌;桂園派歌人高島章貞あきさだ門の星園塾入門、1873安曇野用水堰の拾ヶ堰の堰守、伊東とめ(17歳)と結婚/1875学校の世話係/武居用拙の塾入門、77東京で民権運動修学、1878[松本新聞]主筆;自由論展開/79「民権鑑加助の面影」(主人公多田加助)を上演催、1880奨匡社を創立;東筑摩郡松本町青松寺で奨匡社結社大会開催/県会議員、1881全国各地民権家に檄文を送付;大衆扇動罪で懲役70日/八丈島住、1883長野県会議員;86代言人の試験問題漏洩事件に関与嫌疑で逮捕;87獄中に没、[思ふ事つくしてもはてずさそはれてかへらぬ旅に心のこして](辞世)

朽索(きゅうさく・和泉屋) → 橘庵(きつあん・田宮たみや、戯作者/随筆) I 1 6 6 4

久作(きゅうさく・山内) → 退斎(たいさい・山内やまうち、儒者/程朱) B 2 6 4 1

久作(きゅうさく・山崎) → 美成(よししげ・山崎やまさき、商家/国学者) 4 7 1 2

宮作(きゅうさく・桑原) → 宮作(みやつくり/みやさく・桑原、廷臣/詩) F 4 1 9 8

丘作堂亀友(きゅうさくどうきゆう) → 亀友(きゆう・永井堂ながいどう、浮世草子作者) M 1 6 1 5

抹茶軒(きゅうさけん) → 見休(けんきゆう・松本、有楽流茶人) I 1 8 4 2

久三郎(きゅうざぶろう・野間) → 重次(しげつぐ・野間のみ、幕臣/記録) M 2 1 3 3

久三郎(きゅうざぶろう・滝川) → 伯明(はくめい・滝川たきがわ、兵学者) D 3 6 9 7

久三郎(きゅうざぶろう・多羅尾) → 氏純(うじずみ・多羅尾たらお、幕臣/国学) C 1 2 4 0

久三郎(きゅうざぶろう・仁上) → 如蘭(じょらん・仁上にかみ、儒者) M 2 2 8 9

久三郎(きゅうざぶろう・加藤) → 豊年(とよとし・加藤/長坂、国学/地誌) U 3 1 6 8

久三郎(きゅうざぶろう・川喜田) → 政臣(まさおみ・川喜田かわきた/清水、商家/国学) P 4 0 0 1

久三郎(きゅうざぶろう・池田屋) → 自惚(うぬぼれ・黄山きやま、絵師/戯作) D 1 2 2 2

久三郎(きゅうざぶろう・秋山) → 広富(ひろとみ・秋山あきやま、農業/藩士/歌) L 3 7 9 6

久三郎(きゅうざぶろう・鈴木) → 光清(みつよ・鈴木すずき、国学者/歌) J 4 1 3 9

求三郎(久三郎きゅうざぶろう・齋藤) → 雅言(まさこと・齋藤さいとう/森山、藩士/神風連乱) P 4 0 9 6

九三郎(きゅうざぶろう・古山) → 則満(のりみつ・古山ふるやま、藩士/歌人) G 3 5 5 0

M1664 **休山**(きゅうざん・畠山はたけやま、名;政信、貞政男) 1591-1675<sup>85</sup> 1615京で家康に拝謁/幕臣(1624-64)、撰津に采地、武芸に長ず、「古士談話」著、[休山の通称/法号]通称;二郎四郎/民部、法号;一景

C1601 **旧山**(きゅうざん・五城房ごじょうぼう/東奥山人とうおうさんじん) ?-? 仙台俳人:宗屋そうおくと親交、1745富鈴(宋屋)と吉野行「やまとかさ」編、45「文月調」編

C1602 **丸山**(きゅうざん・松村/松邨まつむら、良猷よしり、元暢男) 1743-1822<sup>80</sup> 越前勝山藩士/医者;父門、1764事に連座免官/越前大野藩で儒・医を教授/藩主の侍医兼侍講、武技/算法/謡/詩、1811「芸園鋤莠」、「医審關医談」「痘疫論」「天民藕語」「唐宋詩論」「読経談」「有中篇」外著多、[丸山の字/通称]字;公凱、通称;栖雲、法号;瑞雲院/諡号;文忠

C1603 **丘山**(きゅうざん・岳亭がくてい・本姓;菅原/平田/八島、名;春信/定岡) ?-? 江戸幕臣平田某の妾腹の子、母(菅原氏)は出産後青山の八島家に嫁ぐ、江後期江戸の絵師;堤秋栄・魚屋北溪・北斎門、青山久保町住、狂歌;六樹園門/鹿子連、「絵本柳樽」著、[桑をとる女にほれてひよんな事](柳多留;三五)のち大阪住;戯作(読本)作者、洒落本;1807「通客一盃記言」著、読本;1830「朝悪狐伝」「俊傑神稲水滸伝」33「淀屋形金鶏新話」、「狂歌あしかなへ」外著多、[丘山の字/通称/別号]字;鳳卿/岳亭、通称;丸屋斧吉、別号;一老/黄園/岳山/岳鼎/南山/八しま翁/陽齋/神歌堂、画号;春信/定岡/兼狂歌師、狂名;堀川太郎・多楼

M1665 **休山**(きゅうざん・竹内たけのうち、名;孟斎) ?-1831 美作津山藩士/1783藩命で大阪移住/1820致仕、1826「竹内法諱年譜」27「竹内家伝」著、天劍の父

休山(きゅうざん・山崎) → 因碩(3世いんせき・井上いのうえ、棋士) 1 1 7 9

休山(きゅうざん・近藤) → 源左衛門(げんざえもん・近藤こんどう、幕臣) J 1 8 0 9

臼山(きゅうざん) → 肩吾(けんご・加藤かとう、藩医者/魯語) I 1 8 5 9

玖山(きゅうざん・九条) → 植通(たねみち・九条/藤原、関白/古典) 2 6 4 5

鳩山(きゅうざん・宮永) → 保親(やすちか・宮永/伊藤、神職/国学/歌) C 4 5 0 4

鳩山(きゅうざん・千種) → 縫(ぬい・千種ちぐさ、神職/国学/歌) 3 4 1 6



- 牛算(ぎゅうさん・熱海) → 又治(またじ・熱海あつみ、和算家/教育) J 4 0 4 4
- M1666 牛山(ぎゅうざん/ござん・香月かつき、名;則真、六郎重貞男) 1656-1740<sup>85</sup> 筑前香月の医者;貝原益軒門、鶴原玄益門、豊前中津藩士、京で医業/豊前小倉住、随筆、1699「牛山方考」「牛山活套」、1714「医学鉤玄」16「巻懐食鏡」26「蛩雪余話」30「万里神交」33「習医先入」著、34「薬籠本草」編、「長命養生訓」、「遊豊司命録」「活套機法」「活法機法」「老人必用養草」著、門人の則道を養嗣、[牛山の字/通称/別号]字;啓益、通称;貞庵、別号;医仙堂/披髮翁、法号;玄玄精舎
- M1667 牛山(ぎゅうざん・箕田みた、名;騰)?-1812 江戸書家、「書学須知」「風月楼心画一得録」、「福応齋遺稿」、[牛山の字/通称/別号]字;世竜、通称;重右衛門、別号;風月楼/福応齋
- 牛山(ぎゅうざん・土肥) → 経平(つねひら・土肥、藩士/故実家) D 2 9 5 1
- 牛山(ぎゅうざん・小堀) → 永頼(ながより・小堀、藩士/詩人) G 3 2 5 7
- 玖山公(きゅうざんこう) → 植通(たねみち・九条) 2 6 4 6
- 白山亭(きゅうざんてい) → 木公(もっこう・丹羽にわ、俳人) B 4 4 8 8
- 躬之(きゅうし) → 躬之(もとゆき、俳人) E 4 4 6 0
- 躬之(きゅうし・田中) → 躬之(みゆき・田中たなか、藩医者/国学者) G 4 1 0 4
- 九市(きゅうし・吉田) → 正恭(せいきょう・吉田よした、医者/蘭学) H 2 4 9 3
- 九肆(きゅうし・今井) → 直方(なおかた・今井、和算家) B 3 2 0 0
- 求子(きゅうし) → 日快(にっかい;法諱・竜恵、日蓮僧) D 3 3 7 7
- 求之(きゅうし・後藤) → 慕庵(ぼあん・後藤ごとう、医者) 3 9 0 6
- 求之(きゅうし・久須美くすみ/杉浦) → 梅潭(ばいたん・杉浦、幕臣/儒/詩) B 3 6 7 8
- 求之(きゅうし・萩野) → 鳩谷(きゅうこく・萩野/孔平くびら、藩士/儒) I 1 6 7 4
- C1604 久次(きゅうじ・田中たなか、別通称;伊大夫)?-? 淡路侯の侍臣/俳人:貞徳/立圃門、1652福田示植しげたね3回忌追善集「十寸鏡ますかがみ」編 [引返す余波なごりや霞む龍の髯](十寸鏡巻頭句、黄帝崩時の鼎湖龍髯の故事)
- C1605 休自(きゅうじ・曾我そが) ? - ? 江前期越後仮名草子作者、1662「為愚痴いぐち物語」著
- 丘次(きゅうじ・昌橋/奥田/玉巻) → 久助(初世きゅうすけ・福森、歌舞伎作者) 1 6 2 7
- 久次(きゅうじ・玉巻) → 久助(初世きゅうすけ・福森、歌舞伎作者) 1 6 2 7
- 久次(きゅうじ・玉木/玉巻) → 久助(3世きゅうすけ・福森、歌舞伎作者) M 1 6 7 3
- 久治(きゅうじ・吉村) → 久治(ひさはる・吉村よしむら/藤原、神職/国学) M 3 7 3 5
- 久時(きゅうじ) すべて → 久時(ひさとき)
- 玖二(久二きゅうじ・玉巻/福森) → 久助(3世きゅうすけ・福森、歌舞伎作者) M 1 6 7 3
- 致治((きゅうじ・多胡) → 致治(ながはる・多胡たご、国学/歌) N 3 2 6 9
- G1641 九思軒鱗長(九二軒鱗長きゅうしけんりんちやう)?-? 浮世草子作者; 1695「香がかほり」1718「猿源氏色芝居」著
- G1642 久七(きゅうしち・天満屋てんまや、辰岡染右衛門の養子)?-? 京の歌舞伎役者;1718初舞台/立女形、1738-43江戸で活躍/帰京:44京女方巻頭/60頃から狂言作者を兼ねる、のち作者に専念、1760「忠臣四八字蔵」64「けいせい鯉姿山」66「傾城隅田川」69「竜一夫婦鯨」外著多数、[天満屋久七の別通称/号]辰岡久菊たつおかきゅうきく/立岡久菊/天野久七、号;未覚/紫紅 息子も役/作者 → 万作(まんさく・辰岡たつおか、大阪歌舞伎役/作者) K 4 0 5 6
- 久七(きゅうしち・美濃屋/小林) → 反古(はんこ・小林こばやし、商家/俳人) H 3 6 5 4
- 久七(きゅうしち・三河屋) → 兵庫(ひょうご・栗本、両替商/塗師/劇書) F 3 7 2 2
- C1606 旧室(きゅうしつ・笠家/活井いくい) 1693-1764<sup>72</sup> 江戸俳人:初世湖十門/曲庵逸志門、1735宗因座点者、江戸談林の中興、「歳旦」編、奇行逸話「俳諧天狗話」に入、1754竹翁「俳諧童の的」点句入、[旧室の別号] 岳雨(;初号)/鰐糞/活々士/活々坊/活々井/天狗坊、大江丸の師
- 旧室(きゅうしつ・稲津) → 芳室(ほうしつ・稲津いなづ/坂上/椎本、俳人) B 3 9 2 5
- 躬質(きゅうしつ・近藤) → 躬質(ちかかた・近藤こんどう/越智、国学/歌) M 2 8 5 6
- M1668 汲実(きゅうじつ;法諱) ? - ? 僧;法師/連歌、菟玖波集1句入、 [夜をこゆる山路の月に行きつれて](菟;1640/前句;旅とあきとの心かはらず)
- 吸日窩(きゅうじつか) → 雲竹(うんちく・北向きたむき/林/野田、書家) D 1 2 9 5
- 糶舎(きゅうしや・山田) → 嘉猷(えみち・山田、国学/歌人) E 1 3 2 7



- 繆舍(きゅうしゃ・黒木) → 茂矩(しげのり・黒木くろき、神職/国学) O 2 1 3 4  
 求寂(きゅうじやく;号) → 本光(ほんこう;法諱・瞎道かつどう、曹洞僧) F 3 9 3 2  
 葵園舎(きゅうしや) → 雪袋(せつたい、俳人) L 2 4 2 0  
 久守(きゅうしゅ・荒木田) → 久守(ひさもり・荒木田/橋村・宇治、神職/国学) C 3 7 0 7  
 久受(きゅうじゅ・中西) → 久受(ひさつぐ・中西、神職/歌人) B 3 7 3 8  
 久樹(きゅうじゅ・荒木田) → 久樹(ひさき・荒木田/宇治、神職/歌人) 3 7 9 7  
 久寿(きゅうじゅ・柳生) → 久寿(ひさとし・柳生やぎゅう/菅原、幕臣/歌) I 3 7 2 7  
 久寿(きゅうじゅ・真木) → 保臣(やすおみ・真木まき、神職/勤王家) B 4 5 0 9  
 久寿(きゅうじゅ・佐善) → 月溪(げつけい・佐善さぜん、藩士/儒医) N 1 8 7 8  
 久周(きゅうしゅう・茂木) → 久周(ひさちか・茂木もてぎ、足利学校代官) B 3 7 3 4  
 久脩(きゅうしゅう・賀茂/土御門) → 久脩(ひさなが・土御門ど/安倍/賀茂、陰陽家) B 3 7 6 2  
 久秋(きゅうしゅう・山田) → 久秋(ひさあき・山田/源/岡本、藩士/国学) I 3 7 3 5  
 鳩聚(きゅうしゅう・上島) → 雅政(まさただ・上島うえじま、詩人) N 4 0 9 1  
 久重(きゅうじゅう)すべて → 久重(ひさしげ)  
 久住(きゅうじゅう・瀬戸/麻田) → 久住(ひさずみ・麻田/瀬戸、藩士/歌人) B 3 7 1 9  
 M1669 **牛秀**(ぎゅうしゅう;法諱・助給;字、立川清房男) 1524-1605<sup>82</sup> 武州の浄土僧:忍誉門/感誉存貞門、  
 滝山城主北条家の帰依;大善寺建立、日野大昌字開山、1585「説法色葉集」、「説法式要」著、  
 [牛秀の法名] 応蓮社讚誉助給/讚誉  
 九十九(きゅうじゅうきゅう) → 九十九(つくも)  
 九十谷(きゅうじゅうこく) → 作右衛門(さくえもん・伊藤、藩士) H 2 0 2 3  
 久樹舎(きゅうじゅしや) → 清音(きよね・小出こいで/大江、国学歌) U 1 6 3 1  
 宮寿丸(きゅうじゅまる) → 宮寿丸(みやずまる、連歌) H 4 1 0 9  
 久春(きゅうしゅん)すべて → 久春(ひさはる)  
 久純(きゅうじゅん→ひさずみ・宇津木) → 昆岳(こんがく・宇津木うつぎ、藩士/儒者) G 1 9 5 7  
 求順(きゅうじゅん・青木) → 柳郊(りゅうこう・青木あおき、医者/俳人) D 4 9 8 2  
 久春園(きゅうしゅんえん) → 和夫(にぎお・福田ふくだ、国学/神職) H 3 3 3 3  
 九春軒(きゅうしゅんけん) → 通亮(みちすけ・小野崎おのざき、藩士/神道) I 4 1 2 7  
 久初(きゅうしよ・樺山) → 久初(ひさはつ・樺山かばやま、藩家老/歌) J 3 7 0 9  
 M1670 **九如**(きゅうじよ・井戸いど/本多/董とう、名;弘梁、本多成賢男) 1745-1803<sup>59</sup> 井戸弘堅の養嗣/幕臣;  
 1782家督/85西丸小姓組、86本丸勤務、絵師:宋紫石門、  
 1779「宗紫石蘭譜」編、「宗紫石四君画譜」編  
 [九如(;字)の通称/号]通称;頼母/承三郎/子十郎/甚助、号;董九如/広川、法号;了義院  
 九如(きゅうじよ・三上) → 松亭(しょうてい・三上みかみ、医者/詩人) U 2 2 4 0  
 九如(きゅうじよ・石黒) → 魚淵(なぶち・石黒いしくろ、藩士/国学者) G 3 2 8 5  
 九如(きゅうじよ・土生) → 玄碩(げんせき・土生はぶ、眼科医) K 1 8 5 1  
 九如(きゅうじよ・木沢) → 天童(てんどう・木沢きざわ、藩儒) E 3 0 0 9  
 久女(きゅうじよ・五十川) → 久女(ひさじよ・五十川いそがわ、俳人) B 3 7 1 4  
 久舒(きゅうじよ・樺山) → 久舒(ひさのぶ・樺山かばやま、藩士) B 3 7 7 6  
 M1671 **牛渚**(ぎゅうしよ) ? - ? 江中期川越俳人:美濃派系、  
 1752「二見行」著、1783履仁「金蘭集」入  
 牛渚(ぎゅうしよ) → 晩得(ばんとく・佐藤さとう、藩士/俳人) I 3 6 4 4  
 牛渚(ぎゅうしよ・志賀) → 理斎(りさい・志賀しが、幕臣/漢学/狂歌) B 4 9 0 8  
 G1670 **求笑**(きゅうしゅう) ? - ? 俳人;1691不角「二葉之松」1句入、  
 [長者の子しかも美人の明盲](二葉之松;35)  
 久章(きゅうしゅう・山田) → 東海(とうかい・山田、儒者) B 3 1 9 5  
 久章(きゅうしゅう・山崎) → 久章(ひさふみ・山崎/弓削、神職/国学) B 3 7 8 8  
 久章(きゅうしゅう・中山) → 久章(ひさあき・中山なかやま、歌人) K 3 7 3 9  
 久昭(きゅうしゅう・藤堂/中川) → 久昭(ひさあき・中川、藩主/覚書) 3 7 8 2  
 久勝(きゅうしゅう)すべて → 久勝(ひさかつ)  
 糾照(きゅうしゅう・百々) → 糾照(ただてる・百々どど、藩士/医者/歌) Y 2 6 3 8

- 窮情(きゆうじょう;号) → 覚盛(かくじょう;法諱、律僧) E 1 5 7 6  
 究章院(きゆうしょういん) → 如是観(によぜかん・雲窓、真宗僧/国学) G 3 3 0 3  
 久昌院((きゆうしょういん) → 恒昌(つねまさ・奈須なす、幕府医者) D 2 9 6 6  
 鳩杖隠士(きゆうじょういんし) → 行阿(ぎょうあ、源知行、源氏研究/歌) C 1 6 1 4  
 旧松軒(きゆうしょうけん) → 孤村(こそん・池田いけだ、絵師) N 1 9 0 3
- M1672 吸松齋(きゆうしょうさい、武田たけだ、通称;清芸) ?-? 江前期歌実家;犬追物・弓馬、出家号;吸松齋、  
 1600「箆伝授」著、「魚鱗集」「十五色代」伝  
 白松齋一成(きゆうしょうさいいっせい) → 千族(ちえだ・中里なかざと、神職/歌人) N 2 8 1 5  
 鳩杖子(きゆうじょうし) → 貞柳(ていりゅう・油煙斎/鯛屋/永田、狂歌) 3 0 0 9  
 丘松樵夫(きゆうしょうしやうふ) → 豊久(とよひさ・一定いちさだ、国学/勤王) U 3 1 2 3  
 九疊仙史(きゆうじょうせんし) → 竹田(ちくでん・田能村たのむら、儒/詩/絵師) D 2 8 5 4  
 宮商洞(きゆうしょうどう) → 太祇(たいぎ・炭すみ/たん、俳人) 2 6 0 2  
 久昌堂(きゆうしょうどう) → 思斎(しさい・松本、商家/儒者/教育) T 2 1 4 8  
 鳩杖堂(きゆうじょうどう) → 専斎(せんさい・江村、医者/歌/連歌) 2 4 3 0  
 久将女(きゆうしょうのむすめ・島津) → 久将女(ひさまさのむすめ・島津しまづ、歌人) M 3 7 4 3  
 九如館鈍永(きゆうじょかんだんえい) → 鈍永(どんえい・九如館、俳/狂歌) 3 1 6 9  
 九如齋(きゆうじょさい) → 直虎(なおとら・堀ほり、藩主/桜研究) B 3 2 9 0  
 九如堂(きゆうじょどう) → 直格(なおただ・堀、藩主/文芸) B 3 2 5 7  
 久四郎(きゆうしろう・茶屋) → 久人(ひさと・高浜たかばま/南条、商家/歌) K 3 7 1 3  
 久四郎(きゆうしろう・本間) → 光丘(みつおか・本間ほんま、豪商/藩政参画) K 4 1 4 5
- T1632 久次郎(きゆうじろう・亀岡かめおか) ?- ? 江前期職人、1657明暦大火の体験談を記録  
 久次郎(きゆうじろう・夏目) → 諫圃(かんぼ・米津/夏目、俳人) R 1 5 6 3  
 久次郎(きゆうじろう・初代花屋) → 雪成(初世せつせい、書肆/俳人) E 2 4 4 7  
 久次郎(きゆうじろう・小出) → 英長(ふさなが・小出こいで、幕臣/藩主/国学) I 3 8 2 2  
 久次郎(きゆうじろう・2代花屋) → 菅裏(かんり、雪成男/書肆/川柳作者) E 1 5 2 1  
 久次郎(きゆうじろう・3代花屋) → 菅子(かんし、菅裏男/書肆/川柳作者) S 1 5 5 2  
 久次郎(きゆうじろう・平野屋) → 魚交(ぎょこう・平野屋、十八大通) P 1 6 4 9  
 久次郎(きゆうじろう・林) → 広海(ひろみ・林、国学/歌人) H 3 7 1 8  
 久次郎(きゆうじろう・磯田) → 春英(しゅんえい・勝川かつかわ、絵師) J 2 1 2 4  
 久次郎(きゆうじろう・岩井) → 半四郎(はんしろう・岩井、歌舞伎役者) I 3 6 0 5  
 久次郎(きゆうじろう・渥美) → 忠直(ただなお・高山/渥美、幕臣/和算) Q 2 6 2 4  
 久次郎(きゆうじろう・山路) → 之徴(ゆきよし・山路やまち/平、幕臣/天文) F 4 6 9 4  
 久次郎(きゆうじろう・篠田) → 仙果(せんか・笠亭りゅうてい、戯作者) F 2 4 0 0  
 久次郎(きゆうじろう・川田) → 秀穎(ひでかひ・川田かわだ、神職/国学) J 3 7 1 4  
 久治郎(久次郎きゆうじろう・長坂) → 秋名(あきな・長坂ながさか、商家/歌) I 1 0 1 7  
 久治郎(きゆうじろう・長坂) → 広文(ひろぶみ・長坂、秋名男/商家/国学) K 3 7 4 4  
 久治郎(きゆうじろう・紙屋) → 俊輔(としすけ・久藤くどう、歌人) V 3 1 0 1  
 久治郎(きゆうじろう・野沢) → 信元(のぶもと・野沢のざわ/藤原、神職/国学) J 3 5 5 4  
 久二郎(きゆうじろう・篠本) → 竹堂(ちくどう・篠本ささと/佐治、幕臣/儒) D 2 8 5 8  
 久臣(きゆうしん・檜原) → 久臣(ひさおみ・檜原ならはら、国学者) K 3 7 4 9  
 久辰(きゆうしん・川上) → 久辰(ひさとき・川上かわかみ、武将/地頭) B 3 7 5 0  
 久信(きゆうしん/ひさのぶ・松浦) → 東鷄(とうけい・松浦まつら、易占家) D 3 1 1 7  
 久信(きゆうしん/ひさのぶ、画号) → 石上(せきじょう・樹下、黄色表紙・浄作者) D 2 4 6 0  
 求信(きゆうしん・上村) → 鷲洲(ろしゅう・上村うえむら、儒者/詩文) B 5 2 7 3  
 休心(きゆうしん・戸田) → 直安(なおやす・戸田とだ/藤原、藩老/歌) N 3 2 9 4  
 休慎(きゆうしん;出家号) → 輝規(てるのり・大河内、藩主) C 3 0 8 5  
 久人(きゆうじん・高浜) → 久人(ひさと・高浜たかばま/南条、商家/歌) K 3 7 1 3  
 協真公(きゆうしんこう) → 青溪(せいけい・角田すみた/平、家老/漢学) B 2 4 1 2  
 汲深齋(きゆうしんさい・本多) → 忠徳(ただのり・本多、藩主、日記) Q 2 6 4 7  
 求心齋(きゆうしんさい) → 鶴洞(かくどう・神代かみしろ、儒者) K 1 5 2 8

- 求仁齋(きゅうじんさい) → 長安(ちょうあん・山科、医者) H 2 8 1 1
- I1609 求推(きゅうすい) ? - ? 俳人;1691不角「二葉之松」(256)入、  
[あはれ歳とし此の時よるや秋の昏くれ](二葉之松;256/ああ年取るのは秋の暮)
- 宮水(きゅうすい・亀田) → 末雅(すえもと・亀田/藤原/度会/福井/黒瀬、神職) F 2 3 3 5
- 九水漁人(きゅうすいぎょじん) → 学川(がくせん・曾谷そだに、儒者/詩/篆刻) E 1 5 8 8
- G1644 厩輔(きゅうすけ・馬屋うまや) ? - ? 天明期[1781-]狂歌作者;山道高彦編「狂歌大人墨叢」詠草入
- 1627 久助(初世きゅうすけ・福森;号、姓;金子、通称;安久) 1767-1818<sup>52</sup> 江戸本所薪問屋河内屋生/勘当、  
歌舞伎作者;玉巻恵助・桜田治助門、1785昌橋丘次名で桐座/奥田・玉巻と改姓、  
1796福森久助名で河原崎・中村・市村山で活動、1807坂東三津五郎(3世)付立作者、  
1815-16將軍家若君を憚り七助・喜宇助名、1809「其往昔恋江戸染」10「当糶八幡祭」、  
1815「四天王御江戸鐫」16「比翼蝶春曾我菊」「由縁の暦歌」18「敵討揃達者」外著多数、  
[福森久助の別号]一雄;俳名/昌橋丘次/奥田丘次/玉巻丘次/玉巻久次、  
福森七助/福森喜宇助きうすけ
- C1607 久助(2世きゅうすけ・福森) ? - ? 江後期歌舞伎作者;7代目団十郎に随従/不詳事で追放、  
1809市村座初出;成田屋助名/30立作/33福森久助襲名、所作事、浄瑠璃・長唄の作詞、  
1829「金幣猿島郡」「道成寺思恋曲者」/31「六歌仙容彩」35「雪桜詠千本」36「勢源氏貢扇」著、  
[福森久助2世の別号] 成田屋助(介)/是守屋助/性屋助/満寿美孝次/玉沢喜助、  
松本幸二(幸次・幸治)/河竹新七
- M1673 久助(3世きゅうすけ・福森) ? - ? 江後期江戸歌舞伎作者:番付、1831中村座初出、  
1844「当訥市万歳曾我」48「葬あさがお物語」49「詞花紅成盛ことばのはなみちよざかり」、  
1853「女達出入湊」「仮名祝娣娘復讐」、57「入儀曾我和取楳」著、  
[福森久助3世の別号] 玉木久次/玉巻久次(二)/玉巻玖二/福森久二(玖二)/福森喜宇助
- 久助(きゅうすけ・北村) → 季吟(きぎん・北村きたむら、俳人/古典学) 1 6 0 6
- 久助(きゅうすけ・小森) → 卓朗(たくろう・小森/正阿弥、俳人) E 2 6 3 2
- 久助(きゅうすけ・菅波) → 扶好(ふこう・菅波すがなみ/高橋/菅、茶山父/商家/俳人) B 3 8 8 6
- 久助(きゅうすけ・斎藤/富田) → 高慶(たかよし・富田とみた、藩家老/農政) E 2 6 0 8
- 久助(きゅうすけ・井桁屋) → 久亮(ひさすけ・鈴木すずき、商家/歌人) J 3 7 9 5
- 久甫(きゅうすけ・吉野屋/増田) → 敬業(けいぎょう・増田ますだ、儒者) F 1 8 4 6
- 九介(きゅうすけ・野呂) → 松廬(しょうろ・野呂のろ、儒者/詩人) C 2 2 1 2
- 休助(きゅうすけ・平野) → 貞則(定則さだのり・平野ひらの、藩士) J 2 0 2 9
- 休助(きゅうすけ・玉置) → 賢孝(よししたか・玉置たまおき/原、醸造/国学) N 4 7 8 8
- G1645 久盛(きゅうせい) ? - ? 連歌、1555「梅千句」入
- 救済(きゅうせい) → 救済(ぐさい、連歌師) 1 7 0 2
- 久清(きゅうせい・島) → 久清(ひさきよ・島しま、狂歌作者) I 3 7 0 0
- 久成(きゅうせい/ひさしげ?・大塚) → 退野(たいや・大塚おおつか、藩士/儒者) C 2 6 2 4
- 久成(きゅうせい・津島) → 恒之進(つねのしん・津島つしま、本草家) C 2 9 9 7
- 久成(きゅうせい・佐野) → 久成(ひさなり・佐野さの、藩士/神職) B 3 7 7 3
- 久成(きゅうせい・林) → 文会堂(ぶんかいどう・林、書肆/浮草子作者) 3 8 2 0
- 久成(きゅうせい・並木) → 栗水(りつすい・並木なみき、儒者/私塾) C 4 9 0 5
- 久成(きゅうせい・渡辺) → 久成(ひさなり・渡辺わたなべ/源、歌人) L 3 7 6 7
- 久成(きゅうせい・久保) → 久成(ひさなり・久保くぼ、藩士/私塾教育) J 3 7 3 3
- 久成(きゅうせい・町田) → 久成(ひさなり・町田まちだ/藤原、藩士/官僚/儒/僧) L 3 7 0 1
- 久正(きゅうせい・喜入) → 久正(ひさまさ・喜入きいれ/川上、武将/家老/国学) J 3 7 2 2
- 久政(きゅうせい・松屋/土門) → 久政(ひさまさ・松屋/土門、塗師/茶人) B 3 7 9 1
- 久誠(きゅうせい・小島/藤本) → 久葛(ひさつら・藤本/度会、国学者) B 3 7 4 2
- 久誠(きゅうせい・荒尾) → 敏樹(としき・荒尾あらお、幕臣;鉄砲奉行) U 3 1 0 0
- 久誠(きゅうせい・小野) → 久誠(ひさざね・小野おの、郡奉行/国学) I 3 7 7 0
- 久世(きゅうせい・賀茂) → 久世(ひさよ・賀茂かも、神職/歌人) C 3 7 1 3
- 九成(きゅうせい/ひさしげ・松平/徳川) → 綱条(つなえだ・徳川/松平/源、藩主) B 2 9 0 2
- 九成(きゅうせい・坂上) → 是村(これむら・坂上さかのうえ・町口、廷臣/明法家) O 1 9 9 0

- 九成(きゅうせい・彦坂) → 範善(のりよし・彦坂ひこさか/田中、藩士/和算) G 3 5 3 3  
 九成(きゅうせい・左合) → 竜山(りゅうざん・左合さごう/左、詩人/能書) E 4 9 1 4  
 九成(きゅうせい・日野) → 春靄(しゅんあい・日野/秋良/秋、医者/詩) 2 1 9 0  
 宮生居(きゅうせいきよ) → 檜園梅明(かいてんうめあき、狂歌) I 1 5 4 2  
 九成堂(きゅうせいどう) → 角呂(かくろ、俳人) E 1 5 8 3  
 九成堂(きゅうせいどう) → 永海(えいかい・佐竹さたけ、絵師) B 1 3 9 3  
 C1608 九節(きゅうせつ・屋号;内神屋うちのかみや、通称;源六) ?-1704 伊賀上野商家/俳人;蕉門、  
 窪田猿雖えんすいの姻戚、1694炭俵初出/95有磯海・鳥の道・98続猿蓑に入集  
 [ふんばるや野分のわきにむかふ柱壳](続猿蓑:巻下)  
 M1674 九折(きゅうせつ・三浦みうら/樋口、名;寛、三浦東里男) 1756-1817 62 越後水原医者;父門、  
 儒詩;萩野鳩谷/村瀬栲亭門、市島岱海と親交、「経験方」著  
 鳩拙斎(きゅうせつさい) → 貞仍(貞頼さだより・伊勢/平、幕臣/故実) C 2 0 6 7  
 C1609 汲浅(きゅうせん・大鹿おおが) ? - ? 俳人、1678書目「俳諧渡奉公たりほうこう」編:29句  
 1764発句集「東山名所記」著(散佚?)  
 U1628 汲泉(きゅうせん・黒田くろだ) 1837-1885 49 伊予松山木屋町の酒造業;若狭屋、  
 彫刻;波賀井昇齊門、茶盆・茶媒・欄間など制作、大阪で病没、  
 [汲泉(;)号]の名/通称]名;泰祖、通称;吉郎兵衛、屋号;若狭屋  
 久宣(きゅうせん・山中) → 天水(てんすい・山中、儒者/詩文) D 3 0 9 3  
 久宣(きゅうせん・多) → 久敬(ひさたか・多おの、官人/歌人) L 3 7 9 8  
 久宣(きゅうせん・関口) → 久宣(ひさのぶ・関口せきぐち、藩士/神職) K 3 7 0 2  
 久詮(きゅうせん・新納) → 久詮(ひさあき・新納にいる、領主/和学) K 3 7 5 4  
 九泉(きゅうせん・松田) → 葵亭(きいてい・松田まつだ、儒者) L 1 6 5 3  
 玖川(きゅうせん;島田) → 泰夫(やすお・島田/横山、医者) B 4 5 0 4  
 求宣(きゅうせん・増山) → 求宣(もとのぶ・増山ますやま/秦、歌人) D 4 4 7 0  
 弓箭為丸(きゅうせんためまる) → 黄山(こうざん・吉原、藩士/俳/狂歌) B 1 9 2 1  
 1628 鳩巢(きゅうそう・室むろ、名;直清、医者玄樸男) 1658-1734 77 江戸谷中儒者;順庵門/木門五先生の1、  
 1672金沢藩士/1711新井白石の推挙で幕府儒員;吉宗侍講/朝鮮通信使応接/29家重の奥儒者、  
 1703「赤穂義人録」、「近思録講義」、「論語解」、「駿台雑話」、「駿台閑話」、「駿台逸話」、「鳩巢文集」、  
 「鳩巢百韻詩」、「鳩巢絶句」、「鳩巢文漫筆」、「鳩巢不忘抄」、「政要秘談」、「室鳩巢先生文集」外著多、  
 [親をすて子をすてて出家するを真の道に入るとするこそかなしけれ]  
 (仏教批判;駿台雑話)  
 [鳩巢の字/通称/別号]字;師礼/汝玉、通称;新助、別号;滄浪/駿台/静俟せいし斎、法名;睿性  
 M1675 休叟(きゅうそう・稲垣いながき、名;豹) 1770-1819 50 大阪町人/茶人;表千家8世啐啄そたく斎宗左5世門、  
 1810「茶道聞書集」注/16「茶道筌蹄」18「見きくま」著、20「今井宗久茶湯書拔」編、  
 「華彙」、「竹浪庵松風雑話」、「竹浪庵茶会記」、「茶祖の伝」著、  
 [休叟の別号] 竹浪庵/黙々斎/松竹主人  
 M1676 鳩巢(きゅうそう・原はら、通称;謹二[次]郎、古処男) 1799-1830 32 筑前秋月儒者/詩、幼時より病弱;  
 豊前香春で没、「鳩巢詩集」、「鳩巢詩稿」著、白圭/采蘋さいひんの弟  
 九窓(きゅうそう) → 湖十(5世こじゅう・深川、俳人) C 1 9 8 6  
 鳩窓(鳩巢きゅうそう・百々) → 俊範(しゅんぱん・百々どど、医者) L 2 1 7 7  
 及叟(きゅうそう) → 数也(すうや・平尾ひらお、藩茶道方茶人) F 2 3 3 2  
 休叟(きゅうそう・玉井) → 行篤(ゆきあつ・玉井たまゐ、藩士/国学) G 4 6 9 9  
 久宗(きゅうそう・賀茂) → 久宗(ひさむね・賀茂、神職/歌人) C 3 7 0 2  
 久臧(きゅうそう・豊嶋/坎窩) → 由誓(ゆうせい・豊嶋/豊島、俳人) 4 6 1 7  
 久蔵(きゅうそう・茂山) → 英政(ひでまさ・茂山/青木、能楽;狂言方) D 3 7 8 2  
 久蔵(きゅうそう・西沢) → 敬秀(たかひで・西沢にしざわ/伊香、国学者) X 2 6 8 4  
 久蔵(きゅうそう・氏家) → 春雄(はるお・本田ほんだ、和学者) K 3 6 3 9  
 久蔵(きゅうそう・本間) → 光道(みつみち・本間ほんま、富豪/藩士/俳) K 4 1 4 6  
 久蔵(きゅうそう・黒沢) → 行業(ゆきなり・黒沢くろさわ、藩士/狂歌) G 4 6 8 0



九蔵(きゅうぞう・黒沢) → 翁濤(おきなまろ・黒沢、行業男/国学/歌) 1 4 1 2  
 九蔵(きゅうぞう・蓑内) → 可董(かとう・蓑内みのうち、俳人) O 1 5 1 6  
 九蔵(きゅうぞう・鷺津) → 毅堂(きどう・鷺津わしづ、儒者) G 1 6 0 1  
 九蔵(きゅうぞう・堀越) → 団十郎(2世だんじゅうろう・市川、歌舞伎役者) 2 6 8 9  
 九蔵(久蔵きゅうぞう・加藤) → 桃隣(4世とうりん・加藤、幕臣/俳人) I 3 1 3 7  
 九蔵(きゅうぞう・福住) → 正兄(まさえ・福住/大沢、名主/報徳思想) B 4 0 3 4  
 九蔵(きゅうぞう・黒沢) → 眞臣(まおみ・黒沢くろさわ、藩士/国学/歌) P 4 0 5 1  
 九蔵(きゅうぞう・高木) → 允胤(みつたね・高木たかぎ、和算家) D 4 1 8 3  
 宮増(きゅうぞう) → 宮増(みやます、宮増大夫、能楽師/作曲) 4 1 4 0

M1677 牛莊(ぎゅうぞう・中村なかむら、名;任/字;文淵) 1783-1869 87 長門萩藩士/儒:山田北海門、  
 1800明倫館入;繁澤豊城門/1817藩儒;30-明倫館で講義/52学頭、書画/篆刻に長ず、  
 篆刻;広江殿峰門、「中村伊助任献白」著、  
 [牛莊の通称/別号]通称;伊助、別号;止止庵

旧草堂(きゅうそうどう) → 一蝶(初世いちちょう・英はなぶさ、絵師) C 1 1 0 8  
 鳩巢楼(きゅうそうろう) → 岸駒(がんく;通称、絵師) G 1 5 2 3  
 久足(きゅうそく・小津) → 桂窓(けいそう・小津おつ、商家/詩歌人) 1 8 8 2  
 弓束((きゅうそく・山崎) → 弓束(ゆつか・山崎やまさき、国学者/歌) G 4 6 0 9

M1678 鳩邨(きゅうそん・三浦みうら、名;端、菜亭男) 1825-87 63 越後水原の医者;父門、1843江戸;佐藤一斎門、  
 1847昌平覺入/詩;梁川星巖門、新潟で医開業/後帰郷、  
 「勃鳩集」「燹後集」「客漁集」「鶏肋集」著、  
 [鳩邨の字/通称/別号]字;伯厚、通称;東作、別号;友竹斎主人、桐陰の父

久太(きゅうたい・辻) → 久大(ひさなり・辻つじ、楽人/歌) I 3 7 3 5

M1679 鳩台(きゅうだい・松下まつした、名;綱煥つなあき、明綱男) 1771-1849 79 三河岡崎藩士/漢学者;  
 儒;辻葩百濟・山本北山門、1795(寛政7)料理間番人/1814(文化11)使番兼侍読、  
 1822(文政5)儒者兼槍奉行/28(文政11)者頭、家塾継明館開設;子弟教育、国学にも通ず、  
 歌;桂園派、大田錦城・大蔵永常と交流、原田素卿・中村不磷の師、  
 随筆「山家樵談」著(三河の逸話・伝説など)/1817「東遊漫筆」、「鳩台先生詩集」著、  
 [鳩台の字/通称/別号]字;子章、通称;源之進(父の称)、別号;観古軒

久大(きゅうだい・森) → 省斎(せいさい・森もり、神職/儒者) G 2 4 9 0  
 久大(きゅうだい・辻) → 久大(ひさなり・辻つじ、楽人/歌) I 3 7 3 5  
 久大(きゅうだい・間瀬) → 久大(ひさなり・間瀬ませ、歌人) L 3 7 7 4

M1680 牛沢(ぎゅうたく;法諱、法名;灯蓮社伝譽) 1563-1641 79 河内浄土僧;寂譽/安譽虎角門、  
 堺遍照寺/西向寺住;浄源寺再興、撰津円通寺・大坂大光寺開山、1633「大原談義愚聞記」著

窮達院(きゅうたついん) → 崇廓(そうかく;法諱、真宗本願寺派学僧) G 2 5 5 9  
 久太左衛門(きゅうたさえもん・菊地) → 武美(たけよし・菊地、藩士/儒者/武術) C 2 6 9 0  
 九大夫(きゅうだゆう・鈴木) → 正三(しょうさん・鈴木/穂積、禅僧/仮名草子) S 2 2 4 7  
 九太夫(きゅうだゆう・谷) → 木因(ぼくいん・谷たに、船問屋/俳人) 3 9 6 1  
 九太夫(きゅうだゆう・末永) → 虚舟(きょしゅう・末永すえなが、藩士/地理) P 1 6 6 3  
 九太夫(きゅうだゆう・谷) → 木因(ぼくいん・谷たに、船問屋/俳人) 3 9 6 1  
 久太夫(きゅうだゆう・川喜多/菅原) → 玄無(げんむ;法諱、真言僧/歌) D 1 8 1 0  
 久太夫(きゅうだゆう・鈴木) → 重信(しげのぶ・鈴木すずき、国学者) Z 2 1 1 6  
 久太夫(きゅうだゆう・川喜田) → 重盈(しげみつ・川喜田かわきた、商家/国学) O 2 1 1 0  
 久太夫(きゅうだゆう・川喜田) → 遠里(とのおさと・川喜田かわきた/芝原、商家/国学) U 3 1 8 2  
 久太夫(きゅうだゆう・川喜田) → 政明(まさあき・川喜田、遠里男/歌人) B 4 0 1 0  
 久太夫(きゅうだゆう・川喜田) → 政豊(まさとよ・川喜田かわきた、商家/国学) P 4 0 0 0  
 久太夫(きゅうだゆう・長坂) → 秋名(あきな・長坂ながさか、商家/歌人) I 1 0 1 7  
 久太夫(きゅうだゆう・深見) → 有隣(ゆうりん/ありちか・深見、幕臣/儒学) E 4 6 0 9  
 久太夫(きゅうだゆう・菊地) → 武美(たけよし・菊地きくち、藩士/儒/武術) C 2 6 9 0  
 久太夫(きゅうだゆう・瀬戸) → 久敬(ひさたか・瀬戸せと、藩士/歌人) B 3 7 2 5  
 久太夫(きゅうだゆう・吉田) → 蔵澤(ぞうたく・吉田よしだ、藩士/絵師) L 2 5 1 4

久太夫(きゅうだゆう・服部)→ 素堂(そどう・服部はっとり、農業/儒/教育) K 2 5 2 5  
 久太夫(きゅうだゆう・堀口)→ 直好(なおよし・堀口ほりぐち、国学者) O 3 2 7 0  
 久太郎(きゅうたろう・逸見)→ 日脱(にちだつ; 法諱・一円院、日蓮僧) C 3 3 8 2  
 久太郎(きゅうたろう・上部)→ 貞多(さだかず・上部うわべ/度会、神職) H 2 0 9 1  
 久太郎(きゅうたろう・亀田)→ 末雅(すえもと・亀田/藤原/度会/福井/黒瀬、神職) F 2 3 3 5  
 久太郎(きゅうたろう・頼)→ 山陽(さんよう・頼らい、漢学/詩人) 2 0 5 8  
 久太郎(きゅうたろう・牧)→ 詩牛(しぎゅう・牧まき、詩人) Q 2 1 1 3  
 久太郎(きゅうたろう・風間)→ 年繁(としげ・風間かざま、国学者/歌人) M 3 1 6 1  
 久太郎(きゅうたろう・川喜田)→ 政豊(まさとよ・川喜田かわきた、商家/国学) P 4 0 0 0  
 久太郎(きゅうたろう・服部)→ 素堂(そどう・服部はっとり、農業/儒/教育) K 2 5 2 5  
 久太郎(きゅうたろう・服部)→ 安長(やすなが・服部はっとり、神職/国学) G 4 5 4 0  
 久太郎(きゅうたろう・片桐)→ 致知(ゆきとも・片桐かたぎり、商家/歌人) G 4 6 7 4  
 久太郎(きゅうたろう・柚木)→ 玉洲(ぎよくしゅう・柚木ゆきの、藩士/絵師) U 1 6 2 0  
 休太郎(久太郎きゅうたろう・北村)→ 湖春(こしゅん・北村、歌人/俳人) 1 9 3 2  
 休太郎(きゅうたろう・竹内)→ 恭通(たかみち・竹内たけうち/古川、国学) Y 2 6 0 8  
 旧太郎(きゅうたろう・手塚)→ 律蔵(りつぞう・手塚てつか、洋学者/訳書) C 4 9 1 0  
 久知(きゅうち・大田)→ 久知(ひさとも・大田おおた、藩士/記録) B 3 7 5 7  
 躬置(きゅうち・小原)→ 躬置(ちかやす・小原おほら/横内、教育/歌) M 2 8 2 0  
 及竹(きゅうちく)→ 長玄(ちやうげん・本間、医者) I 2 8 1 3  
 掬茶軒(きゅうちやけん)→ 見休(けんきゅう・松本、有楽茶人) I 1 8 4 2  
 久中(きゅうちゅう・林)→ 良斎(りようさい・林はやし、藩家老/陽明学) H 4 9 6 6  
 久中(きゅうちゅう・飯川)→ 寥廓(りようかく・飯川いしかわ、医者/故実) G 4 9 8 8  
 久忠(きゅうちゅう・永岡)→ 久忠(ひさただ・永岡ながおか、藩士/馬術家) B 3 7 2 9  
 久壽(きゅうちゅう)すべて→ 久壽(ひさとも)  
 久長(きゅうちやう)すべて→ 久長(ひさなが)  
 久澄(きゅうちやう・泉)→ 久澄(ひさずみ・泉/和泉いずみ、商家/歌人) B 3 7 2 0  
 久徴(きゅうちやう→ひさもと・石川)→ 桃蹊斎(とうけいさい・石川、国学/儒者) D 3 1 1 3  
 久徴(きゅうちやう→ひさなる・島津)→ 天錫(てんしゃく・島津、領主/詩) D 3 0 7 0  
 久徴(きゅうちやう・松平)→ 久徴(ひさよし・松平、藩士/記録) C 3 7 2 1  
 久徴(きゅうちやう・島津)→ 久徴(ひさなが・島津しまう、藩家老/日記) B 3 7 7 1  
 久徴(きゅうちやう・宇津木)→ 久徴(ひさもと・宇津木うつき/平、藩老/歌) I 3 7 5 8  
 久徴(きゅうちやう・瀬戸)→ 久徴(ひさもと・瀬戸せと、歌人) L 3 7 5 8  
 久徴(きゅうちやう・佃)→ 久徴(ひさもと・佃つくだ/源/黒田、歌人) K 3 7 1 9  
 級長(きゅうちやう→しななが・風早/篠原)→ 笠山(りゅうざん・篠原しのはら/風早、藩士/儒/兵学) E 4 9 2 4  
 九鳥(きゅうちやう・桂)→ 文治(上方系3世ぶんじ・桂かつら、嘶家) F 3 8 5 8  
 久鳥村舎主人(きゅうちやうそんしやしゅじん)→ 恂(じゅん・松倉、藩士/記録) 2 1 8 7  
 九直(きゅうちやく・堀田)→ 沙羅(しゃら・堀田ほつた、幕臣/俳人) G 2 1 5 6  
 久直(きゅうちやく・新庄)→ 久直(ひさなお・新庄しんじやう、藩士/国学) J 3 7 8 7

T1611 久珍(きゅうちん・辻/本姓; 源、名; ひさくに?・ひさたか?・ひさのり?・ひさよし?、通称; 久五郎)?-? 江後期; 歌人、1858蜂屋光世「集」入、

[夕風の涼しく松におとづれて夏こそことに住よしの浦](大江戸倭歌; 夏656)

久通(きゅうつう)すべて→ 久通(ひさみち)

M1681 九鼎(きゅうてい; 道号・竺重じくじゅう; 法諱、号; 錦菜)?-? 室町期嘉吉文安1441-49頃臨濟僧:

建仁寺大中庵に住; 同庵の日岩一光門; 嗣法、仲間の臨濟宗黄竜派僧と友社結成; 詩文研鑽、仲間は江西竜派・九淵竜蹊・慕哲竜攀など、撰津広厳寺/山城妙光寺に住、

「錦菜集」「蕪齋集」「九鼎重禅師疏」著

久貞(きゅうてい)すべて→ 久貞(ひささだ)

久氏(きゅうてい・丸岡)→ 久氏(ひさもと・丸岡まるおか、神職/歌人) L 3 7 2 9

仇鼎散人(きゅうていさんじん)→ 天元(てんげん・佐々木、読本作者) D 3 0 4 4

蟻遊亭主人(ぎゆうていしゅじん)→ 雪軒(せつけん・大井おおい、儒者) E 2 4 1 9

- 久伝(きゅうでん・喜満多) → 広城(ひろき・太田おた/喜満多、藩士/詩歌) I 3 7 9 0  
久棟(きゅうとう・佐甲) → 芳介(よしすけ・近藤こんどう/佐甲、国学/歌) L 4 7 7 2  
久道(きゅうどう・堀池) → 久道(ひさみち・堀池、藩士/和算家) B 3 7 9 9  
久道(きゅうどう/ひさみち・山寺) → 常山(じょうざん・山寺やまでら、藩士/儒/兵学) S 2 2 6 2  
虬洞(きゅうどう・吉見) → 幸混((ゆきむら・吉見、幸和男/神職) F 4 6 7 9  
樛堂(きゅうどう・竹村) → 悔斎(かいさい・竹村たけむら、藩士/儒者) E 1 5 3 8  
牛島庵(ぎゅうとうあん) → 晩得(ばんとく・佐藤、俳人) I 3 6 4 4  
九洞山人(きゅうどうさんじん) → 清節(せいせつ・村上むらかみ、儒者/勤王) J 2 4 0 2  
弓道人(きゅうどうじん) → 定雄(やすお・宮負みやおい、名主/農政) B 4 5 0 2  
杞憂道人(きゅうどうじん) → 徹定(てつじょう;法諱・瑞蓮社、浄土僧) C 3 0 4 4  
求道房(きゅうどうぼう;号) → 恵尋(えじん;法諱、天台・浄土僧) E 1 3 0 0  
旧徳(きゅうとく・椎本) → 才麿(さいまろ・椎本/谷、俳人) 2 0 0 6  
九徳(きゅうとく・桜田) → 澹斎(たんさい・桜田さくらだ、儒/詩人) I 2 6 7 0  
久徳(きゅうとく・川井) → 久徳(ひさよし・川井かわい、幕臣/和算家) C 3 7 2 0  
久徳(きゅうとく・菊池) → 三馬(さんば・式亭しきてい、戯作者) 2 0 5 5  
久徳(きゅうとく・遅塚) → 速叟(そくそう・遅塚ちづか、藩儒) F 2 5 1 9  
九徳斎(きゅうとくさい) → 春英(しゅんえい・勝川かつかわ、磯田、絵師) J 2 1 2 4  
旧斗堂(きゅうとどう) → 一蝶(いちせつ・初世いちちゅう・英はなぶさ、絵師) C 1 1 0 8
- G1646 **牛吞**(ぎゅうどん、米庵/貞風/徳山/牛放庵) 1723-9270 江戸俳人:貞山/米仲門、  
「古八楽庵米仲発句」編/1778「米仲追福句集」編  
九内(きゅうない・沢田) → 吉左衛門(きちざえもん・沢田、藩士/暦算家) L 1 6 2 6  
樛名麿(きゅうなまろ・岡本) → 氏臣(うじおみ・岡本おかもと/賀茂、神職/書家) C 1 2 3 4
- G1647 **牛南**(ぎゅうなん・雨森あめのもり/初姓;笹島、叔父雨森宗信の養子) 1756-181560 越前大野藩医者、  
儒/詩;山本北山門、大野藩医、1785「詩松蒲鞭」99「松蔭医談」、「牛南子」「牛南詩鈔」、  
「松蔭春秋」「冬窓呵筆」「万日記行」「姑存集」「小川藤吉郎伝」「脈候本義」「療治大概」著、  
[牛南(;号)の名/字/別号]名;宗真、字;牙卿、別号;松蔭/二翠軒  
久任(きゅうにん)すべて → 久任(ひさとう)  
久寧(きゅうねい/ひさやす・島津) → 斉敏(なりとし・池田、藩主/日記) H 3 2 7 4  
久寧(きゅうねい・大平) → 久寧(ひさやす・大平おおだいら、国学者) I 3 7 8 5  
久之丞(きゅうのじょう・深見) → 頤斎(いさい・深見ふかみ/高、書家) E 1 1 2 4  
九之丞(きゅうのじょう・浅加) → 久敬(ひさたか・浅加あさか、藩士/国学・歌) B 3 7 2 1  
求之丞(きゅうのじょう・戸田) → 忠友(ただとも・戸田とだ、藩主/国学) Y 2 6 3 6  
休之進(きゅうのしん・横山/中井) → 桜洲(おうしゅう・中井なかい、国事/詩) C 1 4 4 9  
久之進(きゅうのしん・菊池) → 東水(とうすい;号・菊池さくち、馬医) F 3 1 8 2  
久之進(きゅうのしん・中島) → 友文(ともぶみ・中島、国学/万葉研究) Q 3 1 5 2  
九之進(きゅうのしん・横田) → 俊晴(としはる・横田よこた、藩士/儒者) N 3 1 4 1  
九之助(きゅうのすけ・浅加) → 久敬(ひさたか・浅加あさか、藩士/国学・歌) B 3 7 2 1  
久之助(きゅうのすけ・衣笠) → 守由(もりよし・衣笠きぬがさ/東、絵師/歌) J 4 4 9 0  
久之助(きゅうのすけ・青山) → 忠裕(ただやす・青山あおやま、藩主/老中) R 2 6 0 7  
求之助(きゅうのすけ・九保) → 正永(まさなが・九保くぼ、幕臣/書記) F 4 0 2 0  
求之助(きゅうのすけ・萩野) → 復堂(ふくどう・萩野/孔平、藩士/医/儒) B 3 8 5 9  
樛舎(きゅうのや→とがのや) → 嘉猷(えみち・山田、国学/歌人) E 1 3 2 7
- M1682 **久巴**(きゅうは・栗田くりた、通称:処助)?-? 江中期176-36頃江戸の和算家:  
1720「新編地方算法集」24「新編地方算法後集」、「地方算法記」著  
休波(きゅうは・木戸) → 元斎(げんさい・木戸きど、武将/歌人) J 1 8 0 3  
牛背学人(ぎゅうはいがくじん) → 清節(せいせつ・村上むらかみ、儒者/勤王) J 2 4 0 2
- M1683 **丸白**(きゅうはく) ? - ? 俳人;1686「春の日」入  
[ほとゝぎすその山鳥の尾は長し](春の日;夏)  
(そのかみ山は時鳥が鳴く山城の歌枕、人麻呂歌「あしびきの山鳥の尾」を踏まえる)

- 求白(きゅうはく;号) → 祐可(ゆうか;法諱・唯浄坊、真宗僧/歌) 4 6 8 7  
 九白堂(きゅうはくどう) → 燕石(えんせき・日柳くさなぎ、詩人/勤王派) B 1 3 8 1  
 九博堂(きゅうはくどう) → 鸞太(らんたい・中村なかむら、俳人) C 4 8 8 9  
 久波紫(きゅうはし) → 千尋(ちひろ・佐々木ささき、藩士/歌人) M 2 8 5 7  
 翁坡叟(きゅうはそう) → 平洲(へいしゅう・細井、農家/藩儒/詩) 2 7 0 2  
 久八(きゅうはち・鏡) → 光照(みつてる・鏡かがみ、和算家) D 4 1 9 7  
 久八郎(きゅうはちろう・上部) → 貞雄(さだたけ・上部うわべ/度会、神職) I 2 0 4 1  
 久八郎(きゅうはちろう・竹田) → 頼明(はやあき・竹田たけだ、藩士/歌人) K 3 6 4 0  
 久八郎(きゅうはちろう・平野) → 三由(かづよし・平野ひらの、藩士/歌人) V 1 5 5 0  
 九八郎(きゅうはちろう・有沢) → 永貞(ながさだ・有沢、軍学者) D 3 2 6 5  
 九八郎(きゅうはちろう・岡井) → 嶮州(けんしゅう・岡井おかい、藩士/儒者) C 1 8 0 5  
 牛馬堂(ぎゅうばどう) → 道斎(どうさい・山本、医者/勤王派) E 3 1 4 5  
 久範(きゅうはん・五弓) → 久範(ひさのり・五弓ごきゅう/藤原、神職) B 3 7 7 9  
 久美(きゅうび/ひさよし・中島) → 範武(のりたけ・中島なかじま、国学者/歌) J 3 5 3 7  
 久備(きゅうび・北村) → 久備(ひさとも・北村/源、藩士/国学者) B 3 7 6 0  
 久微(きゅうび・本多) → 久微(ひさよし・本多ほんだ、幕臣/歌人) L 3 7 6 0  
 九美(きゅうび・中沢) → 景山(けいざん・中沢なかざわ、絵師) F 1 8 7 6  
 休美(きゅうび・山内) → 蘭洲(らんしゅう・山内やまうち、医者) C 4 8 6 2  
 丘美坊(きゅうびぼう) → 沾山(せんざん・三世内田、俳人) F 2 4 5 3  
 久憑(きゅうひょう/ひさより?・島津) → 天錫(てんしゃく・島津、領主/詩人) D 3 0 7 0  
 久品(きゅうひん・木部) → 久品(ひさかず・木部きべ、旅籠屋/歌人) J 3 7 1 9  
 久敏(きゅうびん・飯塚) → 久敏(ひさとし・飯塚、国学/歌人/教育) B 3 7 5 3  
 G1649 久富(きゅうふ) ? - ? 俳人、1691只丸「小松原」下巻歌仙入  
 旧富(きゅうふ・園原) → 旧富(ひさとみ・園原/藤原、神職/童謡) B 3 7 5 5  
 休夫(きゅうふ・井上) → 蘭沢(らんたく・井上いのうえ、藩士/儒者) C 4 8 9 4  
 久富(きゅうふ・大口) → 久富(ひさとみ・大口おおぐち、歌人) B 3 7 5 6  
 久富(きゅうふ・上田) → 久富(ひさとみ・上田うえだ、藩士/歌人) I 3 7 5 9  
 久武(きゅうぶ・桂) → 久武(ひさたけ・桂/島津、藩士/日記) B 3 7 2 7  
 M1684 岌風(きゅうふう・杉山) ? - ? 伊予松山の俳人;1690言水「新撰都曲みやこぶり」1句入、  
 [一人宛つ木の根をおりる清水哉](都曲;226/根を伝わって落ちる清水はわずか)  
 躬風(きゅうふう・谷口) → 躬風(もとかぜ・谷口、国学者/歌文) C 4 4 2 9  
 休福(きゅうふく・浮田) → 秀家(ひでいえ・浮田/宇喜多うきた、武将) 3 7 0 8  
 休復(きゅうふく・三上) → 竜山(りゅうざん・三上みかみ、藩儒) E 4 9 1 8  
 久福(きゅうふく・大口) → 久富(ひさとみ・大口、白櫃屋、歌人) B 3 7 5 6  
 久福(きゅうふく/ひさとみ?・田中) → 友鶴(ともつる・千歳軒せんざいけん、狂歌) P 3 1 8 9  
 朽仏(きゅうぶつ、俳人) → 葛三(かつさん・倉田くらた、俳人) C 1 5 4 4  
 求仏房(きゅうぶつぼう、理覚) → 求仏房(ぐぶつぼう、仁和寺僧) E 1 7 6 4  
 休文(きゅうぶん・新山/葛西) → 因是(いんぜ・葛西かさい、漢学;老荘) I 1 1 6 4  
 牛文庵(2世ぎゅうぶんあん) → 古友(こゆう・牛文庵、俳人) N 1 9 8 0  
 九平(きゅうへい・左右田) → 易重(やすしげ・左右田そうだ、兵法家) B 4 5 6 7  
 鳩平(きゅうへい・平岡;変名) → 治房(はるふさ・北畠、勤王家) G 3 6 7 9  
 久平(きゅうへい・林) → 方斎(ほうさい・林はやし、儒者/詩) 3 9 8 3  
 久平(きゅうへい・島津) → 綱久(つなひさ・島津しまつ、藩世嗣/歌人) F 2 9 8 2  
 久平(きゅうへい・北村) → 常郷(つねさと・北村きたむら、国学/歌人) F 2 9 6 1  
 久平(きゅうへい・樋口) → 嘉樹(よしき・樋口ひぐち、商人/国学/歌) O 4 7 6 9  
 久平(きゅうへい・松田) → 立敬(たつり・松田まつだ/種谷、儒/詩歌) Z 2 6 5 7  
 J1625 九兵衛(きゅうべえ・山本・正本屋) ?-? 江前期寛永期1624-44頃京の書肆、浄瑠璃本刊行  
 M1685 九兵衛(きゅうべえ・富沢とみさわ、名;清胤) 1727-1801 75 上州川戸村の名主、  
 「浅間津波記」「新事実正記」著  
 M1686 九兵衛(きゅうべえ・藤屋ふじや/田村) ?-? 江中期大阪書肆、1798「手形便覧」著



[久兵衛(;通称)の号] 文積/文淵堂

- 久兵衛(きゅうべえ・鋸屋かざりや)→柳(やなぎ・近松/並木、歌舞伎・浄瑠璃作者) D 4 5 8 9  
久兵衛(きゅうべえ・椀屋)→久右衛門(きゅうえもん・椀屋わんや、豪商/豪遊) M 1 6 2 7  
久兵衛(きゅうべえ・小島)→麦二(ばくに・小島こじま、鋳物師/俳人) D 3 6 7 8  
久兵衛(きゅうべえ・齋藤)→満永(みつなが・齋藤、俳人/狂歌) G 4 1 9 8  
久兵衛(きゅうべえ・亀田)→窮楽(きゅうらく・亀田かめだ、鍛冶屋/書家) M 1 6 9 5  
久兵衛(きゅうべえ・上村)→正之(まさゆき・上村うえむら/石黒、藩士) I 4 0 2 2  
久兵衛(きゅうべえ・小野)→愚侍(ぐじ・小野おの/高須、商家/俳人) B 1 7 3 7  
久兵衛(きゅうべえ・松本)→交山(こうざん・松本/上条、茶屋/絵師) J 1 9 3 1  
久兵衛(きゅうべえ・篠本)→竹堂(ちくどう・篠本ささもと/佐治、幕臣/儒) D 2 8 5 8  
久兵衛(きゅうべえ・亀屋)→道二(どうに・中沢なかざわ、神学者) 3 1 1 5  
久兵衛(きゅうべえ・西宮)→西馬(さいば・楽亭らくてい、書肆/戯作者) H 2 0 0 3  
久兵衛(きゅうべえ・代島)→亮長(すけなが・代島だいじま・富田、測量術) G 2 3 7 6  
久兵衛(きゅうべえ・福島)→水樹(すいじゅ・福島ふくしま、俳人) E 2 3 6 4  
久兵衛(きゅうべえ・足立)→倫里(りんり・足立あだち、俳人/父追善集) K 4 9 8 3  
久兵衛(きゅうべえ・戸田)→通元(みちもと・戸田とだ、天文家) C 4 1 6 8  
久兵衛(きゅうべえ・蒲生)→貞固(さだかた・蒲生がもう、藩士/教育者) N 2 0 4 2  
久兵衛(きゅうべえ・松井)→式部(しきぶ・巢内/須内すのうち、勤王家/歌) Q 2 1 0 9  
久兵衛(きゅうべえ・染崎)→春水(2世しゅんすい・為永、藩士/戯作者) 2 1 5 8  
久兵衛(きゅうべえ・鈴木)→義興(よしおき・鈴木すずき、村役/和学者) N 4 7 4 9  
久兵衛(きゅうべえ・高野)→眞盈(まさみつ・高野たかの、藩士/歌人) Q 4 0 7 0  
久兵衛(きゅうべえ・伊勢屋)→邦行(くにのり・池村いけむら、染物業/国学) E 1 7 0 2  
久兵衛(きゅうべえ・伊勢屋)→邦則(くにのり・池村、邦行男/染物業/国学) E 1 7 0 1  
久兵衛(きゅうべえ・十海屋)→匡直(まさなお・牧まき、石潭/儒者/歌人) S 4 0 5 4  
久兵衛(休兵衛きゅうべえ・上田)→一徳(かずのり・上田うえだ、藩士/国学) T 1 5 7 5  
久兵衛(きゅうべえ・倉沢)→弘般(ひろかず・倉沢くらさわ、国学者) J 3 7 4 7  
久兵衛(きゅうべえ・竹中)→和布麿(にぎまる・竹中たけなか、藩士/国学) H 3 3 1 3  
九兵衛(きゅうべえ)→九兵衛(くへえ) 参照  
九兵衛(きゅうべえ・脇田)→如鉄(じよてつ・よちよる・脇田、藩士/歌人) M 2 2 7 2  
九兵衛(きゅうべえ・杉)→九兵衛(くへえ・杉すぎ、歌舞伎役者) B 1 7 7 1  
九兵衛(きゅうべえ・岩脇)→正秀(まさひで・岩脇いわわき、藩士/軍学/歌) N 4 0 8 7  
九兵衛(きゅうべえ・鑰屋かざりや)→吐山(とざん、俳人) L 3 1 8 5  
九兵衛(きゅうべえ・阿部)→知義(ともよし・阿部、藩士/和算家) Q 3 1 9 3  
九兵衛(きゅうべえ・阿部)→知翁(ちおう・阿部あべ、藩士/和算家) 2 8 5 0  
九兵衛(きゅうべえ・黒崎)→祀則(としのり・黒崎、和算家) N 3 1 3 4  
九兵衛(きゅうべえ・庄田)→正守(まさもり・庄田しょうだ、藩士/歌人) Q 4 0 2 1  
九兵衛(きゅうべえ・天満屋)→正雄(まさお・川村/河村、商家/国学) B 4 0 3 9  
九兵衛(きゅうべえ・高尾)→吉(きち・高尾たかお、国学者) U 1 6 6 0  
九兵衛(きゅうべえ・小須賀)→信之(のぶゆき・小須賀こすが、武将/記録) D 3 5 6 0  
九兵衛(きゅうべえ・林)→文会堂(ぶんかいどう・林、書肆/浮草子作者) 3 8 2 0  
九兵衛(きゅうべえ・伴)→資長(すけなが・伴ばん、藩士) G 2 3 7 4  
九兵衛(きゅうべえ・伊藤)→随庸(ずいよう;名・伊藤いとう、古蹟探訪) F 2 3 1 0  
九兵衛(きゅうべえ・深見)→顔斎(いさい・深見ふかみ/高、書家) E 1 1 2 4  
九兵衛(きゅうべえ・北)→可継(よしつぐ・北きた、藩家老/詩文) E 4 7 6 6  
九兵衛(きゅうべえ・立花屋)→梅亭(ばいてい・紀、絵師/俳人) B 3 6 8 3  
九兵衛(きゅうべえ・本庄)→白川(はくせん・本庄、商人/俳人) D 3 6 5 0  
九兵衛(きゅうべえ・伊勢村)→意朔(いさく・伊勢村、俳人) C 1 1 2 5  
九兵衛(きゅうべえ・鼠屋)→大蕪(たいぶ・吹万堂、俳人) C 2 6 1 3  
九兵衛(きゅうべえ・坂井)→善庵(ぜんあん・坂井、藩士/弓術/救荒) L 2 4 5 9

九兵衛(きゅうべえ・高野) → 眞祇(さねまさ・高野たかの、藩士/歌人) Q 2 0 8 5  
 九兵衛(きゅうべえ・村上) → 石田(せきでん・村上むらかみ、篆刻家) K 2 4 4 3  
 九兵衛(きゅうべえ・竹田) → 峯秋(ほうしゅう・竹田たけだ、庄屋/俳人) G 3 9 0 6  
 九兵衛(きゅうべえ・永田) → 蘿道(らどう・永田ながた、俳人/琴) B 4 8 4 9  
 九兵衛(きゅうべえ・日下部) → 道堅(みちかた・日下部くさかべ、国学者) I 4 1 9 4  
 九兵衛(きゅうべえ・森脇) → 方純(まさずみ・森脇もりわき、藩士/歌人) T 4 0 2 7  
 九兵衛(きゅうべえ・長谷) → 延世(のぶよ・長谷ながたに、商家/歌人) J 2 5 4 0  
 九兵衛(きゅうべえ・寺内) → 頼徳(よりのり・寺内てらうち、農業/歌人) N 4 7 9 6  
 九兵衛(きゅうべえ・長坂/安倍) → 親任(ちかとう・安倍/長坂、藩士/農政/歌) B 2 8 2 5  
 九兵衛(きゅうべえ・神野) → 嘉功(よしのり・神野じんの、藩士/武術) F 4 7 9 5  
 九兵衛(きゅうべえ・宮川) → 秀嵩(ひでたか・宮川みやがわ、旅宿業/歌) L 3 7 3 9  
 休兵衛(きゅうべえ・吉島) → 斐之(あやゆき・吉島よしじま、商家/国学) I 1 0 5 6  
 九返舎一人(きゅうへんしやいつぱち) → 春馬(初世しゅんぱ・三亭、戯作者/狂歌) 2 1 6 5

- C1610 **休甫**(きゅうほ・津田つた/本姓; 宇喜多うきた) 1593?-1655? 63歳? 備前岡山の宇喜多秀家の家臣、主君の八丈島遠流に剃髪、大阪生玉に隠棲/俳人; 貞徳門/大阪俳壇の重鎮となる、「難波草」40句入、「朧夜の友」「若衆歌舞伎縁起巻」著、1673西鶴? 「哥仙大坂俳諧師」入、狂歌; 1666行風「古今夷曲集」8首入、西鶴「名残之友」に奇行逸話(; 若衆歌舞伎・遊里に關係)、  
 [休甫の別号] 江斎こうさい/谷之坊/戸斎  
 [祇園会や僉議せんぎまちまちひくの山](哥仙; 十八番右/区々と町々を掛る/山車を引く)  
 [舟ならで棹のうたてや張りてひく なぐ三味線の駒のかはゆさ](古今夷曲集; 九哀傷)  
 (飼猫の死を悼む/棹・張る・引く[弾く]・慰みは舟の縁語、かはゆさに「皮」を掛ける)
- M1687 **及甫**(きゅうほ) ? - ? 大阪俳人; 1691賀子「蓮実」1句入、  
 [芍薬に今日も来て見る小猫哉](蓮実; 216/大小の取合せ)
- M1688 **休圃**(きゅうほ・富谷とみたに/富谷とみたに/保見やすみ、別号; 亀翁/喜翁) 1769-1850 82 伊予三津浜の歌人、俳諧も嗜む/5男2女の父、のち江戸住、3男保身隆敬宅で没、「東路日記」(; 江戸への紀行)著、「休圃遺稿」(息子保身文陸刊/文陸は「いよ日記」著)  
 [思ひきや六十ち過ぬる老が身にあづまの花をかざすべしとは](東路日記・冒頭歌)
- 休甫(きゅうほ・安田) → 広治(ひろはる・安田/秦/藤本、神職/国学) G 3 7 9 5  
 及保(きゅうほ・朝枝) → 一貫(かずつら・朝枝あさえだ、藩士/歌人) T 1 5 3 9  
 躬保(きゅうほ・手塚) → 躬保(もとやす・手塚、藩士/農政) E 4 4 5 0  
 歙浦(きゅうほ; 字) → 亮衍(りょうえん; 法諱・歙浦きゅうほ、修験) M 4 9 4 5  
 九葆(きゅうほ) → 溟北(めいほく・円山/小池、藩士/儒者) 4 3 3 7  
 久甫(きゅうほ・吉野屋/増田) → 敬業(けいぎょう・増田ますだ、儒者) F 1 8 4 6  
 九圃(きゅうほ・熊野) → 弘孝(ひろたか・熊野くまの/清原、国学/茶) J 3 7 4 6  
 牛甫(ぎゅうほ; 法諱) → 田翁(でんおう; 道号・牛甫、曹洞僧) D 3 0 1 8  
 牛歩(ぎゅうほ) → 小牧牛歩(こまきのぎゅうほ、狂歌) D 1 9 3 5  
 牛歩(ぎゅうほ・飯高) → 尚寛(しょうかん; 名・飯高、農漁業/詩人) F 2 2 9 3
- M1689 **九峰**(きゅうほう; 道号・宗成そうせい; 法諱、号; 参雨道人、足利義政男松王丸か?) ?-? 1491存 臨濟僧、1463喝食; 相国寺に掛搭/1489王竜庵の侍眞/90南都遊学; 帰京/91首座、1523「宇喜多和泉守三宅能家像贊」著
- M1690 **九峰**(きゅうほう; 道号・元桂げんけい; 法諱) ?-? 1706存 黄檗僧; 1689梅嶺道雪門、1706「梅嶺禪師語録」編
- M1691 **九峰**(きゅうほう; 道号・主拙しゅせつ; 法諱、俗姓; 小山) 1731-97 67 讃岐比地村の臨濟僧; 常德寺藍田門、1750白隠慧鶴門/嗣法、1765常德寺住持/妙心寺第一座、「九峰和尚語録」著、「九峰主拙禪師遺稿」  
 [九峰主拙の号] 顧鑑室/者庵
- M1692 **九峰**(きゅうほう; 道号・為鼎いいてい; 法諱) ?-? 曹洞僧; 独産靈苗[1760没]門/法嗣、伯耆白峰寺3世、伯耆正明寺4世/定光寺28世/法幢寺2世、「独産和尚語録」編

I1677 九方(きゅうほう・相馬そうま/初姓;片山、名;肇はじめ/字;元基)1801-7979 讃岐高松藩士/儒;中山城山門、  
 韓柳文学;馬良玉門、脱藩;三備・京・江戸に遊ぶ、岸和田藩に招聘;で藩校講習館教授、  
 詩:「白香山詩鈔」1847「箋註詩韻」65「立誠堂刪余詩草」「白香山詩鈔」著、「紀効新書定本」編、  
 [九方の通称/別号]通称;一郎/富五郎、別号;逸老/立誠堂/茅海

九峯(きゅうほう;法諱・慈鼎) → 慈鼎(じてい;道号・九峯、曹洞僧)	V 2 1 2 0
九峯(きゅうほう・鎌田) → 魚妙(なたえ・鎌田かまた、藩士/刀劍鑑定)	G 3 2 6 4
九峰(きゅうほう・平) → 貴徳(たかひ・平たいら、仕官/紀行)	M 2 6 7 6
鳩峯(きゅうほう・荻てき/荻野) → 元凱(げんがい・荻野おぎの、医者)	B 1 8 4 0
鳩峯(きゅうほう・荻野) → 徳輿(とくよ・荻野おぎの、元凱男/医者)	L 3 1 5 5
鳩方(きゅうほう・岡本) → 鞆足(ともたり・岡本、左官業/郷土史)	P 3 1 7 3
久豊(きゅうほう・松平) → 久豊(ひさとよ・松平、藩家老/日記)	B 3 7 6 1
久苞(きゅうほう・内田) → 久苞(ひさしげ・内田うちだ、歌人)	I 3 7 6 2
牛放庵(ぎゅうほうあん) → 牛呑(ぎゅうどん、俳人)	G 1 6 4 6
九峰山人(きゅうほうさんじん) → 道斎(どうさい・高橋、儒者)	E 3 1 3 7
朽匏子(きゅうぼし・小野) → 蘭山(らんざん・小野おの、医者/本草家)	C 4 8 3 0
求放舎(きゅうほうしゃ) → 慎斎(しんさい・小出こいで、儒者)	E 2 2 1 7
九苞堂(きゅうほうどう) → 舎鳳(しゃほう・河合かわい、俳人)	G 2 1 5 1
九峰衲子(きゅうほうのうし) → 竹田(ちくでん・田能村たのむら、儒/詩/絵師)	D 2 8 5 4
九浦雲里(きゅうほうんり) → 皆山(かいざん・坂本さかもと、医者)	I 1 5 6 5
朽木(きゅうぼく) → 頼濟(らいさい;法諱、真言律僧)	4 8 4 5
朽木翁(きゅうぼくおう) → 烏洲(うしゅう・金井かない、儒者/絵師)	B 1 2 7 5
朽木軒(きゅうぼくけん) → 光隆(こうりゅう・村田、和算家/規矩術)	L 1 9 5 7
朽木軒(きゅうぼくけん) → 恒光(つねみつ・村田、光隆の孫/和算家)	D 2 9 9 4
朽木子(きゅうぼくし;号) → 密山(みつざん;道号・道頭、曹洞僧)	D 4 1 5 1
求馬(きゅうま・広瀬) → 淡窓(たんそう・広瀬、儒/詩人)	2 6 9 3
求馬(きゅうま・牛込) → 重忝(しげのり・牛込うしごめ、幕臣/文筆家)	S 2 1 0 3
求馬(きゅうま・狩野) → 春笑(しゅんしょう・狩野かのう、絵師)	L 2 1 0 3
求馬(きゅうま・矢野) → 公紀(きみのり・矢野やの、神職)	M 1 6 0 5
求馬(きゅうま・檜垣) → 貞盈(さだみつ・檜垣ひがき/度会、神職)	J 2 0 8 1
求馬(きゅうま・渡辺) → 始興(しこう・渡辺わたなべ、絵師)	D 2 1 5 8
求馬(きゅうま・中垣) → 謙斎(けんさい・中垣なかがき、藩士/儒者)	I 1 8 9 7
求馬(きゅうま・屋代) → 忠良(ただかた・屋代/堀田、幕臣/文筆)	P 2 6 3 2
求馬(きゅうま・檜垣) → 貞舎(さだいえ・檜垣/度会、神職)	H 2 0 7 5
求馬(きゅうま・亀田) → 佳彦(よしひこ・亀田/度会/松木、神職)	G 4 7 1 9
求馬(きゅうま・設楽) → 滴水(てきすい・設楽しだら、医者)	C 3 0 0 4
求馬(きゅうま・横山) → 隆章(たかあきら・横山、藩家老/記録)	L 2 6 5 2
求馬(きゅうま・荒木田) → 久守(ひさもり・荒木田/橋村・宇治、神職/国学)	C 3 7 0 7
求馬(きゅうま・栗田) → 土満(ひじまる・栗田、神職/国学/歌)	3 7 0 7
求馬(きゅうま・戸次) → 求馬(もとめ;通称・戸次べつき、藩士/地誌)	E 4 4 4 2
求馬(きゅうま・尾関) → 当補(とうほ・尾関おぎき、藩家老/儒者)	3 1 2 1
求馬(きゅうま・林) → 良斎(りょうさい・林はやし、藩家老/陽明学)	H 4 9 6 6
求馬(きゅうま・溝口) → 幽軒(ゆうけん・溝口みぞぐち、藩士/詩歌)	B 4 6 4 4
求馬(きゅうま・藤田) → 安貞(やすさだ・藤田/北川、藩士/奉行)	B 4 5 4 7
求馬(きゅうま・藤田) → 安尪(やすずみ・藤田ふじた、安貞男/藩士)	B 4 5 8 0
求馬(きゅうま・藤田) → 安定(やすさだ・藤田ふじた、藩士/日記)	B 4 5 5 1
求馬(きゅうま・疋田) → 松塘(しょうとう・疋田ひきた/藤原、藩家老/詩文)	R 2 2 5 5
求馬(きゅうま・服部) → 菅雄(すげお・服部/富田、国学/歌)	B 2 3 6 1
求馬(きゅうま・安藤) → 親重(ちかしげ・安藤、神職/国学/故実)	2 8 9 7
求馬(きゅうま・大島) → 武好(たけよし・大島、商家/廷臣/地誌家)	O 2 6 8 9
求馬(きゅうま・樋口) → 三生(さんせい・樋口ひぐち/日野、医者)	N 2 0 4 8

- 求馬(きゅうま・田内) → 董史(董文ただふみ・田内たうち、教育者) Q 2 6 7 6  
 求馬(きゅうま・藤川) → 三溪(さんけい・藤川ふじかわ、藩士/尊攘) M 2 0 0 8  
 求馬(きゅうま・大井) → 菅麻呂(すがまろ・大井/源、神職/国学) F 2 3 8 8  
 求馬(きゅうま・石河) → 勝通(かつとお・石河いしこ、幕臣/国学) T 1 5 6 7  
 求馬(きゅうま・狩野) → 保村(やすむら・狩野かのう、神職/国学者) F 4 5 7 1  
 求馬(きゅうま・大住) → 雅綱(まさつな・大住おおすみ、神職/歌人) O 4 0 3 2  
 求馬(きゅうま・中根) → 正言(まさとき・中根なかね/平、幕臣/歌) M 4 0 6 3  
 求馬(きゅうま・渡辺) → 隼雄(はやお・渡辺わたなべ、神職/国学者) K 3 6 9 9  
 求馬(きゅうま・匂坂) → 千足(ちたる・匂坂こうざか、国学) M 2 8 5 5  
 求馬(きゅうま・武藤) → 良由(ながよし・武藤むとう、修験/国学/教育) P 3 2 0 2  
 久馬(きゅうま・佐藤) → 久馬(くま・佐藤さとう、暦算家) D 1 7 4 1  
 久馬(きゅうま・土生) → 玄碩(げんせき・土生はぶ、眼科医) K 1 8 5 1  
 久馬(きゅうま・竹内) → 信生(のぶお・竹内たけうち、藩家老/歌人) J 3 5 0 0  
 久馬之助(きゅうまのすけ・吉田) → 重信(しげのぶ・吉田よしだ、弓術家) R 2 1 9 3  
 求馬助(きゅうまのすけ・松平) → 乗良(のりよし・松平まつだいら、幕臣/和学) K 3 5 0 6  
 久馬丸(きゅうままる・中大路) → 義氏(よしうじ・中大路なかおおじ/賀茂、神職) C 4 7 2 2  
 久磨(きゅうまろ)すべて → 久磨(ひさまろ)  
 鬮麻呂(きゅうまろ・玉虹舎) → 時成(ときなり・若井、戯作者) J 3 1 6 6  
 九万(きゅうまん・山上/竹内) → 雲濤(うんとう・竹内たけうち、詩人) B 1 2 5 7  
 九万(きゅうまん・池原) → 香釋(かわか・池原いけはら、医者/国学) T 1 5 6 3  
 弓満(きゅうまん・荒木) → 弓満(ゆみまる・荒木あらかき、歌人) G 4 6 3 1  
 休民(きゅうみん・武重) → 正重(まさしげ・武重たけしげ/児玉、国学者) L 4 0 8 8  
 求明(きゅうめい・田中) → 訥言(とつげん・田中、土佐派絵師/狂歌) O 3 1 4 6  
 M1693 牛鳴(ぎゅうめい・菅すが/初姓; 田中、屋号; 須賀屋) ?-? 江末期伊勢松阪の儒者; 詩・易/書; 韓天寿門、  
 一絃琴、梁川星巖・菊池五山と交遊、「白首吟草」「周易筮度凶式抄」著、  
 [牛鳴の通称/別号] 通称; 茂平、別号; 碩果園  
 久明親王(きゅうめいしんのう) → 久明親王(ひさあきらしんのう、将軍/歌人) 3 7 0 4  
 S1667 休夢(きゅうむ・平野ひらの) ?-? 江前期; 大阪?の俳人、  
 1673西鶴「生玉万句」節分千句発句入、  
 [煎豆や打つにも集すく除夜の鬼](生玉万句; 節分発句)  
 鳩夢(きゅうむ) → 篤好(あつよし・五十嵐、測量/国学/歌) 1 0 2 5  
 求女(きゅうめ・石河) → 勝通(かつとお・石河いしこ、幕臣/国学) T 1 5 6 7  
 久明(きゅうめい・小野) → 久明(ひさあき・小野おの、廷臣/故実家) 3 7 8 0  
 久明(きゅうめい・町田) → 松和(しょうわ・町田まちだ、製紙業/俳人) M 2 2 1 3  
 久命(きゅうめい・内田) → 久命(ひさなが・内田、藩士/和算家) B 3 7 7 0  
 久命(きゅうめい・島津/南部) → 信順(のぶゆき・南部なんぶ/島津、藩主) G 3 5 7 6  
 休明(きゅうめい・鷺見) → 休明(保明やすあきら・鷺見すみ、藩士/歌人) 4 5 8 8  
 宮門(きゅうもん・沢村) → 西陂(西坡せいはい/せいひ・沢村、藩士/儒) C 2 4 7 6  
 宮門(きゅうもん・海賀) → 宮門(みやと・海賀かいが、武術/勤王家) G 4 1 0 0  
 牛門(ぎゅうもん・秋月) → 橘門(きつもん・秋月、儒者) I 1 6 6 6  
 牛門迂夫(ぎゅうもんうぶ) → 櫟洲(れきしゅう・清水、儒/武術/故実) 5 1 7 8  
 牛門四友(ぎゅうもんしゆう) ・ ・ 江戸牛込住の4人の熱中詩人; 1767高木芳洲編「牛門四友集」に所収、  
 卷一; 岡部四溟(23歳)/卷二; 菊池衡岳(21歳)/卷三; 大田南畝(19歳)/卷四; 大森華山(17歳)、  
 → 四溟(しめい・岡部、1745-1814) F 2 1 8 6  
 → 衡岳(こうがく・菊池、1747-1805) 1 9 8 5  
 → 南畝(なんぼ・大田、1749-1823) 3 2 3 3  
 → 華山(かざん・大森、1751-?) F 1 5 0 6  
 C1611 玖也(きゅうや; 号・松山まつやま) 1623-7654 大阪の俳人・休甫・重頼門/のち宗因門、  
 宗因の縁で1668から磐城平に3度の旅; 城主内藤風虎・露沾親子の厚遇を受、季吟と交流、



大坂俳壇の重鎮、1666元隣「歌仙ぞろへ」入、72風虎「桜川」参加/跋、1667「八嶋紀行」著、  
紀行；「松山坊秀句」「東下り富士一見記」「八嶋紀行」著、狂歌；1666行風「古今夷曲集」入  
1666可玖(吉竹)「遠近をちこ集」入/69季吟「百五十番誹諧発句合」左方入、  
「玖也追善百韻」(；宗因七百韻所収)、

[天衣なでし岩城や千世のはる](百五十番誹諧発句合)

- 休也(きゅうや；俳諧大悟物狂入)→ 玖也(きゅうや・松山まつやま、俳人) C 1 6 1 1  
休也(きゅうや・大高坂) → 芝山(しざん・大高坂、1647-1713藩儒/南学) D 2 1 7 1  
久也(きゅうや・高島) → 祐啓(ゆうけい・高島たかしま、幕府医官) B 4 6 3 7  
久弥(きゅうや・鈴木) → 房政(ふさまさ・鈴木すずき、国学/歌人) I 3 8 3 7  
久悠(きゅうゆう・大縄) → 念斎(ねんさい・大縄おこなわ、藩士/詩人) 3 4 6 4  
久有(きゅうゆう・多) → 久有(ひさあり・多おの、楽人) 3 7 8 4  
久有(きゅうゆう・森脇) → 久有(ひさあり・森脇もりわき、国学者/歌) M 3 7 0 9  
久圀(きゅうゆう・神谷) → 松見(しょうけん・神谷かみや、茶人/儒者) I 2 2 4 7  
久宥(きゅうゆう・安楽院) → 太呂(たいりよ・安楽院、修験僧/俳人) L 2 6 2 0  
久雄(きゅうゆう・松田) → 朴斎(ぼくさい・松田まつだ、藩儒/詩) D 3 9 1 5  
久与(きゅうよ・永岡) → 久与(ひさとも・永岡ながおか/平、神職) K 3 7 4 2  
久容(きゅうよう/ひさかた?・島津) → 天錫(てんしゃく・島津、領主/詩人) D 3 0 7 0  
久要(きゅうよう・佐甲) → 芳介(よしすけ・近藤こんどう/佐甲、国学/歌) L 4 7 7 2  
久雍(きゅうよう・加倉井) → 砂山(さざん・加倉井かくらい、儒者/教育) B 2 0 6 1  
九陽亭(きゅうようてい、戯作者) → 鼻山人(はなさんじん・細川浪次郎、幕臣) F 3 6 4 5  
久頼(きゅうらい・山本) → 久頼(ひさより・山本、槍術師範) C 3 7 2 3  
久頼(きゅうらい・新岡) → 旭宇(きよくう・新岡にいおか、書家) O 1 6 7 9  
鳩来庵(きゅうらいあん) → 風谷(ふうこく・金沢、俳人) 3 8 6 4  
G1650 窮楽(きゅうらく) ? - ? 江中期俳人・野坡門、1739「伊都岐島八景」跋  
亀田窮楽と同一? → 窮楽(きゅうらく・亀田かめだ、鍛冶屋/書家) M 1 6 9 5  
M1695 窮楽(きゅうらく・亀田かめだ、名；曳尾) 1690-1758 69 江中期京の鍛冶屋/書家として大成、  
売茶翁高遊外と親交、「趙銭帖」「南天帖」「四季千字文」/1746「永字八法解」著、  
[窮楽の通称/別号]通称；久兵衛、別号；無悶子/哄々  
久覧(きゅうらん・藤) → 広則(ひろのり・藤とう/藤原、暦算家) G 3 7 8 8  
M1696 牛蘭(ぎゅうらん・浅利あさり、浅利勝頼の妹婿) 1543-1613 71 秋田生/秋田八木橋城主；内紛後上京、  
織田・蒲生氏に出仕/のち秋田の佐竹義宣言に鷹匠として出仕、「鷹飼養法」著  
牛欄舎(ぎゅうらんしゃ) → 式磨(しきまろ・喜多川・東海林、絵師) Q 2 1 1 1  
久利(きゅうり・仙石) → 久利(ひさとし・仙石せんごく、藩主/騒動/歌) I 3 7 4 9  
九里香園(きゅうりこうえん) → 宕陰(とういん・塩谷しおのや、儒官/詩人) 3 1 0 3  
M1697 休柳(きゅうりゅう・池上いけがみ、字；継隆) ?-? 幕末期信州の紙屋；内藤藩御用達、絵師；狩野休真悶、  
江戸で漢学；北原安貞門、俳諧/歌、1866「松柳問答」著、秀花の父/秀畝の祖父、  
[休柳の通称/別号]通称；庄八、別号；青楊斎/青陽斎  
九竜(きゅうりゅう・杉山) → 篤信(あつのぶ・杉山すぎやま、廷臣/医者) E 1 0 7 3  
久隆(きゅうりゅう・喜多川) → 久隆(ひさたか・喜多川きたがわ、俳人) I 3 7 2 0  
九柳十橋逸史(きゅうりゅうじゅうしきょういっし) → 玉江(ぎよくこう・行徳ぎょうとく、絵師/篆刻) O 1 6 9 2  
M1698 鳩陵(きゅうりょう・衣笠きぬがさ/修姓；蓋、名；延寿) ?-? 江後期江戸儒者；井上金峨門、  
駒込吉祥寺門前住；経史講説、「鳩陵文艸」著、  
[鳩陵の字/通称]字；康伯/通称；六蔵  
丘陵(きゅうりょう・細川) → 頼直(よりなお・細川ほそかわ、郷士/暦算家) J 4 7 2 5  
久亮(きゅうりょう・谷川) → 竜山(りゅうざん・谷川たにがわ、医者/易占) E 4 9 2 0  
久亮(きゅうりょう・鈴木) → 久亮(ひさすけ・鈴木すずき、商家/歌人) J 3 7 9 5  
久綾(きゅうりょう・為貞) → 久綾(ひさあや・為貞ためさだ、神職/歌人) L 3 7 9 2  
九良治(きゅうりょうじ・福住) → 正兄(まさえ・福住/大沢、名主/報徳思想) B 4 0 3 4  
久良親王(きゅうりょうしんのう) → 久良親王(ひさよしんのう、歌人) C 3 7 2 2  
M1699 求林(きゅうりん・村井むらい、名；規正のりまさ/宗矩/宗宇) 1755-1817 63 大阪瓦町東横堀の昆布問屋、

代々昆布屋伊兵衛を襲名、初め鴻池に奉公修行；草間直方(1753-1831/和算家)と親友、  
 和算学；坂正永まさなが門；1781正永編「算数学海」の校訂、  
 のち会田あいだ安明門；最上流を修学；高弟、歌学；権大納言の芝山持豊門、  
 「算数演段」「雑題」著、「三遊儀」(測遠機)発明、  
 晩年；養子に家督譲渡；自適生活、1817(文化14)没、  
 草間直方への年賀；[おいらくの身につみそへむもえ出る草間の春の千代の若菜を]、  
 [求林の通称] 七兵衛/昆布屋伊兵衛、法号；宗讚

久林(きゅうりん・上柳) → 久林(ひさしげ・上柳うえやなぎ/関島、国学) I 3 7 6 0  
 九鱗(きゅうりん/くりん・広田) → 憲寛(のりひろ・広田、藩士/蘭学者) F 3 5 6 6  
 求林斎(きゅうりんさい・西川) → 如見(恕見じよけん・西川/源、暦算家) C 2 2 4 0  
 鳩嶺(きゅうれい) → 信海(しんかい・豊蔵坊、社僧/狂歌/書) 2 2 1 8  
 九齡(きゅうれい・加藤) → 忠俊(ただとし・加藤、里正/国学/歌人) F 2 6 9 6  
 九齡(きゅうれい・大畑) → 赤水(せきすい・大畑おおはた、藩士/儒者) K 2 4 2 4  
 鳩嶺舎(きゅうれいしゃ) → 蘆平(あしひら・大平おだいら/鎮西、神職/詩歌) H 1 0 2 5  
 久連(きゅうれん・佐川) → 久連(ひさつら・佐川さがわ、藩士/歌人) B 3 7 4 3  
 九蓮社(きゅうれんしゃ) → 結誉(けつよ・九蓮社、天台僧、謡抄注釈参加) B 1 8 1 5  
 九蓮社(きゅうれんしゃ) → 奉誉(ほうよ・九蓮社、天台僧、謡抄注釈参加) C 3 9 6 3  
 宮蓮社商誉(きゅうれんしゃしょうよ) → 良義(りょうぎ；法諱、浄土僧) H 4 9 0 5  
 吸露庵(きゅうろあん・涼袋) → 綾足(あやたり・建部たけべ、国学/俳/歌) 1 0 2 8  
 吸露庵(2世きゅうろあん) → 涼宇(りょうう・根岸ねざし、商家/綾足門俳人) G 4 9 2 8  
 久老(きゅうろう・荒木田) → 久老(ひさおゆ・荒木田/度会/橋村、神職/国学) 3 7 0 5  
 九老(きゅうろう→くろう) → 梅亭(ばいてい・紀、画/俳人) B 3 6 8 3  
 牛籠(ぎゅうろう/うしごめ・田畑) → 吉正(よしまさ・田畑/源、幕臣/系譜) H 4 7 0 8  
 久魯翁(きゅうろうお) → 如則(じよそく・桑原くわばら、藩医/文学) M 2 2 6 7  
 旧路館(きゅうろかん、狂歌) → 魚丸(うおまる・佐藤、浄瑠璃作者) 1 2 0 1  
 久六(きゅうろく・打保屋/清水) → 竹母(ちくぼ・清水、商家/俳人) D 2 8 7 7  
 久六(きゅうろく・竹内) → 信生(のぶお・竹内たけうち、藩家老/歌人) J 3 5 0 0  
 久六(きゅうろく・竹内) → 信均(のぶひら・竹内たけうち、藩家老/歌人) J 3 5 0 1  
 牛露軒(ぎゅうろけん) → 一雪(いつせつ・椋梨/成田、俳人/実録) B 1 1 5 4  
 求驢斎(きゅうろさい) → 富天(富天ふてん・浦川、俳人) D 3 8 4 8

B1612 休和(きゅうわ・稲垣いながき) ? - ? 江前期備後俳人；貞門系/1671不三/宜久「難波草」入  
 T1667 休和(きゅうわ・前村まえむら) ? - ? 江前期撰津住人/狂歌；1666行風「古今夷曲集」入、  
 T1668 休和(きゅうわ・小川おがわ、通称；喜兵衛) ?-?嘉永1848-54頃没 江後期美濃郡上八幡の国学者  
 九和(きゅうわ・斎藤) → 方策(ほうさく・斎藤さいとう、蘭方医者) 3 9 9 3

N1600 喜世(きよ・勝田かつた、名；輝子てるこ、住職勝田玄哲女) 1685-1752 68 母；和田治左衛門女、  
 江戸浅草の唯念寺(父が住職)林昌軒の生、京極家に出仕/次に戸田家出仕、  
 4代将軍徳川家綱乳母矢島局の養子矢島治太夫の養女；1704(宝永元)大奥桜田御殿に出仕、  
 6代将軍家宣の側室(正室は近衛熙子)；西丸に住/1709鍋松(家宣4男・家継)の母、  
 左京の局(三のお部屋様)と称される、間部詮房と親交、1712(正徳2)家宣没；  
 落飾し月光院と号す/従三位、歌人；冷泉為村門、「惠玉集」、「月光院様御集」著、  
 歌；霞関集入、  
 [かばかりの老となるまでうきたびにいけらん身とも思はざりしを](霞関；老述懐)、  
 [別通称]別通称；お喜世/三の御部屋；左京の局、三位尼君、  
 法号；月光院(吹上御所住)

幾世(きよ・中村) → 幾世(きせ・中村なかむら/河村、歌人) U 1 6 9 2  
 きよ(・松平) → 彪子(せい・松平まつだいら/伊達、藩主室/歌) O 2 4 4 7  
 きよ(起代・岩間) → 溶々(ようよう・岩間、俳人) B 4 7 5 9  
 きよ(・田本/深川) → 秋色(2世しゅうしき・田本/深川、俳人) H 2 1 5 6  
 清(きよ・宮下/河野) → 清(きよ・河野/宮下、歌人) L 2 0 6 0

- 清(きよ・三木) → 初瀬(はつせ・佐竹さたけ/三木、藩主妻/歌) J 3 6 4 6  
清(きよ・西郷) → 艶(えん・山川やまかわ/西郷、育児/歌人) U 1 3 1 0  
清(きよ・沼田) → 宇野(うの・沼田ぬまた、詩歌人) E 1 2 8 3  
喜与(きよ・沢田/高橋) → 龜台(きだい、恵厚尼、俳人) L 1 6 1 4  
希璵(きよ・生源寺) → 希璵(まるとも・生源寺しょうげんじ/祝部、神職/歌) Q 4 0 2 0  
拳(きよ・源) → 拳(こぞる・源、廷臣/順したごう・頼たのむの父) F 1 9 7 6  
魚(ぎよ・上杉/長沢) → 蘆雪(あせつ・長沢ながさわ、絵師) C 5 2 0 1
- N1601 **清秋**(きよあき・豊原とよはら、豊秋男)1260-130748 楽人;笙/左近将監、「鳳笙古譜」伝、兼秋・竜秋の父
- N1602 **浄明**(きよあき・酒井さかい) ? - ? 江前期;元禄1688-1704頃常陸歌人、「御法楽和歌」著
- V1602 **清章**(きよあき・浜島ろはまじま、旧姓;高橋)1773-182856 京の廷臣(官吏);浜島等庭ともにわの養嗣、右京権亮/志摩守/駿河守  
[清章(;)名)の通称]駿河守
- U1658 **清秋**(きよあき・田代たしろ、通称;太郎太)1820-7758 薩摩鹿兒島の国学者/桂園派歌人、国学・歌;山田清安きよやす・香川景樹・八田知紀・香川景恒門/桂園派歌人、枚岡神社・湊川神社の神職/石上神宮少宮司
- N1603 **静頭**(きよあき・藤木ふじき、通称近江守、篤平男)1821-? 典薬寮医官/1855近江守/56権鍼博士/従五下、「藤木静頭御用日記」著
- N1604 **清旭**(きよあき・中村、字;日九、儀右衛門男)1828-64斬首37 長門萩藩士;明倫館入/吉田松陰門、1853尊王派/58藩命で上京/帰藩;密用方右筆/参政、64国司信濃の参謀;禁門変で敗北帰郷、藩政方針転換;入獄/斬殺、1855「大訓衍義」著、  
[清旭(;)名)の通称/号]通称;喜八郎/喜一郎/道太郎/九郎、号;白水山人/淡海/槐堂、  
変名;中河内主水/泉嵐蔵/中清全人
- U1649 **清明**(きよあき・ト田しめだ、)1832-189362 淡路三原郡の国学者、  
[清明(;)名)の通称/号]通称;牛之丞/魯平、号;トの門しめのと
- N1605 **清晃**(きよあきら・星川ほしかわ、初名;賢直/幼名鉄之助、清山きよたか男)1830-9465 庄内藩士;1840家督、普請方/1847磯部守常に従い出府/国学;鈴木重胤門/語学・歌;志田義貫門/画;了斎門、戊辰戦で新庄秋田に転戦、「安良居文集」著、1874重胤「日本書紀伝」を照井長柄らと校訂、  
[清晃の通称/号]通称;文八、号;安良居/了雪斎/信僊
- G1651 **清厚**(きよあつ・河崎かわさき/本姓;度会)1788-184659 伊勢山田神職/国学;荒木田久老、1813本居春庭門、本居大平/足代弘訓門、伊勢神宮中心の古学研究/画、1830「両宮撰末社独案内」/1835辞書「雅言童諭」、「日本紀歌俗解」「古語小解」、「癸未年歌合」著、  
[清厚の通称/号]通称;惣大夫/宗大夫/総大夫/惣太郎/外記、号;此君園しくんえん
- U1678 **清厚**(きよあつ・筒井つひ、初名;直津/通称;修平)?-1886 筑後三潞郡の国学者、国学;船曳磐主いぬし(鉄門かたと)門、維新後;三潞県出仕
- U1698 **清篤**(きよあつ・糠沢ぬがさわ、)1831-190979 陸奥安達郡の郷土の家/1856(26歳)仙台の薬屋に奉公、二本松で薬種業/のち本宮に移転;大店[糠沢薬店]を構える、歌人;仙台藩医師千柳亭綾門;号;千檀園綾尚、のち県会議員  
天王下八坂神社三十六歌仙絵馬の書執筆(画は文岳)、  
[清篤(;)名)の通称/号/屋号]通称;直之丞、号;檀園綾尚、屋号;糠沢屋
- 清篤(きよあつ・大鐘) → 篤(あつし・大鐘おおかね/印田、商家/国学) H 1 0 2 2
- N1606 **清在**(きよあり・喜早きそ/本姓;度会、清忠男)1682-173655 伊勢山田神職、儒・漢学;1700伊藤固庵門、伊藤東涯と親交、神道;出口(度会)延経・黒瀬益弘門、外宮高宮玉串内人/国典の講義、1716「客神社祭奠式」/17「陽復記衍義」34「困炉閑談」「茶物語」「山田故実集」「榊葉」、1736「杉落葉」、「大国辨夜話」「神領昔物語」「度会清在集書」「喜早先生私記」外著多数、  
[清在の通称/号]通称;因幡/平馬、号;納斎/立軒/木曾立軒、清生きよりの父
- N1607 **虚庵**(きよあん;道号・普観ふかん;法諱)1670-173667 肥前曹洞僧;天竜寺天海門/諸国行脚、月舟宗胡・絶学了為門、越中頭陀林/近江白蓮寺開山、志賀万松寺開祖、「虚庵普観禅師語録」著

- N1608 **虚庵**(きょあん・渋川じぶかわ/一時; 萬里小路/修姓; 王、板部堅忠男) 1718-1809長寿92 肥前鹿島の生、鹿島藩家老の父が讒言により改易/15歳で得度/上洛して絵画美術を修得/青蓮院宮出仕、万里小路韶房の養子/山県大武らの謀議に関与: 信州諏訪に隠棲; 変名、1782信州高島藩騒動の際に功; 藩主の厚遇を得て作画に専念; 1803藩校長善館設立に尽力、絵: 葡萄画を得意/詩/篆刻、1797「蒲桃画譜」、「蕉鹿編」「蒲桃画」画、[虚庵(;号)の名/法諱/字/通称/別号/変名]名; 瑾、法諱; 末了、字; 公瑜、通称; 貫之つらゆき、別号; 天竜道人/蕉鹿/蕉鹿園/氷湖観/草竜子、変名; 竜造寺主膳/竜造寺山城守/成瀬翁
- 渠庵(きょあん・渡辺) → 不誰(すい・渡辺わたなべ、文筆家) H 3 8 6 2  
 漁庵(ぎょあん;号) → 宗沅(そうげん;法諱・南江なんこう;道号、臨濟僧) B 2 5 2 9
- N1609 **喜代井**(きよい・池田いけだ、小島久雄女) 1812-4231 出羽(羽前)鶴岡の生、1824(文政7/13歳)で出羽庄内の池田源兵衛(;歌人玄斎男)の妻、歌人/文筆に長ず、1841(天保12)「温海の記」著
- 御依(ぎよい・大伴) → 三依(御依みより・大伴宿禰、廷臣/歌人) 4 1 4 4  
 御依(ぎよい・紀) → 御依(みより・紀き、廷臣/漢詩人) H 4 1 0 7
- C1612 **清家**(きよいえ・藤原、範永男/母能通女の但馬)?-? 平安後期廷臣; 後冷泉天皇皇后宮大進、伊賀守/1100相模守/加賀守/正四下、永実の父、歌人; 1056皇后宮寛子春秋歌合; 参加(左方念人)、後拾遺121、続詞花集入、[吉野山八重たつ峰の白雲にかさねて見ゆる花桜かな](後拾遺; 春121/遠山桜の心)[後冷泉院おはしまさで(1025-68)のち 九月十三夜四条宮(後冷泉天皇皇后)に参りて、式部命婦(後冷泉院出仕)と夜一夜昔の事など申して、よもすがら思ひやいづるいにしへにかはらぬ空の月をながめて(続詞花; 837)、返し(式部命婦)、雲のうへの月の光はかはらねどみかしの影は猶やこひしき(同; 938)]
- きよいこ(清子・鶴殿) → 余野子(よのこ・鶴殿、歌人) 4 7 3 1  
 清子命婦(きよいこのみょうぶ) → 清子(せいし・いさぎよいこ、歌人) B 2 4 7 7  
 居逸(きよいつ・善) → 清行(きよゆき・三善みよし、廷臣/漢学) 1 6 4 9
- G1652 **清稻**(きよいね・尾張連おりのむらじ)?-? 平安前期: 古記収集; 874述作「尾張熱田太神宮縁起(清稻縁起/寛平縁起/村相むらぎ縁起)」(890藤原村相が校正)
- V1636 **清和**(きよいね・水沢みずさわ,) 1831-9262 代々信濃佐久郡碓氷峠の熊野皇大神社社司、国学者、[清和(;名)の初名/通称]初名; 清海、通称: 讃岐
- 拳因(きよいん・植木) → 惺斎(せいさい・植木、儒者) I 2 4 1 7  
 居員(きよいん・森/小川) → 松蘿(しょうら・小川おがわ/森、俳人) L 2 2 8 6
- N1610 **漁隠**(ぎょいん・大井おおい/本姓平、名; 潜/字; 文鱗) 1781-1868?88? 土佐藩士; 据物役人/1832家督嗣、1838陶吏(能茶山焼管理)、「陶山記事」/1860「四老唱和小稿」著、[漁隠の通称/別号]通称; 仲介、別号; 竹坡/雪篷楼せつほうろう主人
- 漁隠(ぎょいん・蓑笠) → 馬琴(ばきん・曲亭・滝沢、読本作者) 3 6 0 7  
 漁隠(ぎょいん・松島) → 巴山(はざん・高橋、儒者) E 3 6 3 3  
 御蔭(ぎょいん・岡村) → 御蔭(みかげ・岡村、神職/歌人) H 4 1 4 1  
 御蔭(ぎょいん・矢野) → 御蔭(みかげ・矢野やの、商家/国学/歌人) K 4 1 8 6
- N1611 **幾葉**(きよう) ?-? 俳人; 1691北枝「卯辰集」3句入、[村雨や見る見る沈む沢桔梗](卯辰集; 三383/沼水の増水で花が沈む)
- N1612 **岐陽**(きよう・仲子なかのこ、名; 由基/字; 子路) 1722-6645 萩藩士/儒者; 藩校明倫館都講/近侍、「学則集詁評語」著、[岐陽の通称] 丈右衛門
- N1613 **箕陽**(きよう・山室やまむろ/初姓; 土屋、名; 恭) 1739-8749 備後深津郡市村庄屋の生/山室時敏養嗣子、1762家督; 福山藩士/77儒者見習; 伊藤梅宇・斎木坦窩・林東溟門、医; 亀井南冥門、1786藩校弘道館文学教授、「雪聡録」著、[箕陽の字/別号]字; 子安、別号; 如斎、基庸(きよう・山本) → 基庸(もとつね・山本やまもと、藩士/書家) D 4 4 1 7



- 季曄(きよ・古賀) → 侗庵(とうあん・古賀こが、儒者/詩人) 3 1 0 2  
岐陽(きやう・毛利) → 元蕃(もとみつ・毛利もうり/大江、藩主/歌) E 4 4 4 0  
岐庸(きやう・奥沢) → 軒中(けんちゆう・奥沢おくさわ、医;産科医) L 1 8 1 6  
希繇(きよ・解良) → 榮綿(よしつら・解良けら、国学/榮重の父) K 4 7 3 8  
希膺(きよ;法諱) → 雲居(うんご;道号・希膺、臨濟僧) B 1 2 1 2  
晞陽(きやう・畑) → 柳啓(柳敬りゆうけい・畑はた/南山、医者) D 4 9 5 4  
器川(きやう・宮竹) → 良順(りやうじゆん・宮竹/今井、医者/儒) I 4 9 0 1  
龜陽(きやう・松平) → 定通(さだみち・松平まつだいら、藩主/教育) J 2 0 7 7  
I1638 恭(きやう・窪田くぼた) ? - ? 江中期医者、伊藤聖訓(清田儋叟の甥)の友人、  
1767清田儋叟せいだんそう「孔雀楼筆記」校正(伊藤聖訓・堀栄吉・高田潤と)  
S1687 競(きやう・福知ふくち/本姓;源、通称;右太郎)? ? 江後期幕臣、1864(元治元)日光警護隊歩兵差図役、  
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、  
[宵のまに霞と見しはそらめにて花おもげなる今朝の春雨](大江戸倭歌;199/春雨)  
[藻汐草かりふく蛸あまが磯屋まで白浪よする海づらの里](現存百人一首;50)  
恭(きやう・後藤) → 柏園(はくえん・後藤、豪農/儒者/詩文) C 3 6 6 7  
恭(きやう・塩尻) → 梅宇(ばい・塩尻しおじり、藩士/儒者) 3 6 5 9  
恭(恭きやう・鈴木) → 白藤(はくとう・鈴木すずき/紀、幕臣/蔵書) D 3 6 6 6  
恭(きやう・鈴木/木) → 小蓮(しょうれん・鈴木/木、儒者/詩文) M 2 2 0 4  
恭(きやう・久野) → 繁山(はんざん・久野くの、医者) H 3 6 7 8  
恭(きやう・児島) → 頤齋(いさい・児島こじま、医者) F 1 1 4 4  
恭(きやう・福田) → 渭水(いすい・福田ふくだ/ふた、儒/砲術) E 1 1 3 7  
恭(きやう・松本) → 烏涯(うがい・松本まつもと、藩士/儒者) B 1 2 9 2  
恭(きやう・檜林) → 榮建(えいけん・檜林ならばやし、医者;種痘) C 1 3 7 0  
恭(きやう・北畠、須原屋4世) → 恪斎(かくさい・北圃きたばたけ/北畠、書肆) J 1 5 8 2  
恭(きやう・赤沼) → 筋山(せつざん・赤沼あかぬま、漢学者) E 2 4 3 8  
恭(きやう・中村) → 梁山(りやうざん・中村/中邨なかむら、藩儒) H 4 9 7 3  
恭(きやう・人見) → 璣邑(きゆう・人見ひとみ、藩士/随筆/歌) G 1 6 3 0  
恭(きやう・土屋/山室) → 箕陽(きやう・山室やまむろ、藩士/儒者) N 1 6 1 3  
恭(きやう・小林) → 北臯(ほっこう・小林こばやし、儒者) E 3 9 6 4  
恭(きやう・鳥海) → 松亭(しょうてい・鳥海とりのうみ、医/老荘学) U 2 2 3 9  
恭(きやう・岡) → 敬安(けいあん・岡おか、医者) F 1 8 2 2  
恭(きやう・内田) → 五観(ごかん・いつみ・内田うちだ、和算/天文) F 1 9 5 2  
恭(きやう・山口) → 太乙(たいおつ・山口、商家/俳人) J 2 6 3 3  
恭(きやう・竹内) → 恭通(たかみち・竹内たけうち/古川、国学) Y 2 6 0 8  
恭(きやう・井川) → 東海(とうかい・井川いかわ/松田、儒者) B 3 1 9 2  
恭(享/亨きやう・吉田/武居) → 筋庵(せつあん・武居/武井/吉田、藩士/詩人) K 2 4 6 9  
恭(きやう・宮城) → 完(ひろし・宮城みやぎ、藩医者/歌人) L 3 7 4 2  
恭(きやう・竹中) → 蒼竜(そうりゆう・竹中たけなか/源、医者/詩) J 2 5 1 4  
恭(きやう・鈴木) → 抱山(ほうざん・鈴木すずき、蘭方医者) B 3 9 1 7  
恭(きやう・小池) → 恭(たかし・小池こいけ、藩医/国学) W 2 6 9 6  
京(きやう/みさと・帆足) → 京(みさと・帆足ほあし/岡、詩歌人) 4 1 8 3  
享(きやう・白井) → 義謙(ぎけん・白井しらい、藩士/武道家) K 1 6 3 0  
享(きやう・小室) → 元貞(げんてい・小室こむろ、医者/俳人) L 1 8 6 0  
享(きやう・石原) → 桂園(けいえん・石原いしはら、医者/儒者) F 1 8 2 9  
喬(きやう・広橋) → 兼勝(かねかつ・広橋、廷臣/歌/連歌) C 1 5 7 3  
喬(きやう/たかし・日置/今枝) → 直方(なおかた・今枝、家老/国学/詩) 3 2 8 8  
喬(きやう/たかし・原田) → 復初(ふくしよ・原田はらだ、藩士/儒者) B 3 8 5 7  
喬(きやう/たかし・松本) → 賀慶(がけい・松本まつもと、和算家) K 1 5 7 8  
喬(きやう/たかし・野々村) → 喬(たかし・野々村ののむら、医者) L 2 6 9 5  
喬(きやう・味木/沢) → 喬(たかし・沢さわ/味木、藩士/書画) L 2 6 9 6

喬(きょう・益)	→	喬(たかし・益ます/井上、医者/神職)	Z 2 6 5 0
喬(きょう・湯谷)	→	喬(たかし・湯谷ゆや、国学者)	2 7 2 4
僑(きょう・岡田)	→	鴨里(おうり・岡田おかだ、儒者)	C 1 4 1 7
僑(きょう・片山)	→	童観(どうかん・片山かたやま、医/儒者)	C 3 1 3 8
矯(きょう・永井)	→	千船(ちふね・永井ながい、藩士/歌人)	N 2 8 2 0
匡(きょう・市川)	→	鶴鳴(かくめい・市川匡磨たずまる、儒者)	B 1 5 7 5
叶(きょう・市川)	→	叶(かのう・市川いちかわ、考証家)	P 1 5 1 4
協(きょう・富田)	→	正路(まさみち・富田とみた/岩沢、藩士/歌)	R 4 0 0 9
珣(きょう・陳)	→	元賛(げんいん/げんびん・陳、儒者/製陶/拳)	B 1 8 2 7
教(きょう・安倍/阿部)	→	完堂(かんだう・安倍/阿部、儒者/詩人)	R 1 5 5 6
教(きょう・小林/佐藤)	→	西山(せいざん・佐藤/小林、儒者/北辺警備)	I 2 4 5 0
強(きょう・鈴木)	→	春山(しゅんざん・鈴木すずき、藩医/兵学)	J 2 1 7 7
強(きょう・合田)	→	強(つよし・合田ごうだ、医者/蘭方)	E 2 9 3 8
強(きょう・月田)	→	蒙斎(もうさい・月田つきだ、藩儒;崎門学)	4 4 5 4
興(きょう・戸川)	→	安清(やすすみ・戸川とがわ、幕臣/書/歌人)	B 4 5 7 6
兢(きょう・原/寺島)	→	静斎(せいさい・寺島/原、藩士/藩政改革)	I 2 4 2 4
兢(きょう・鬼丸)	→	親臣(ちかおみ・鬼丸おにまる、神職/神風連)	M 2 8 3 1
競(きょう・吉田)	→	平陽(へいよう・吉田、藩士/儒者/詩)	2 7 8 3
競(きょう・小笠原)	→	競(きそう・小笠原おがさわら/奥瀬、藩士/国学)	T 1 6 6 5
疆(きょう/つよし・林はやし)	→	洞海(どうかい・林、蘭医)	C 3 1 0 6
龔(恭きょう・広瀬)	→	元恭(げんきょう・広瀬、医者/砲術)	I 1 8 6 0
龔(きょう・中島)	→	黄山(こうざん・中島なかじま、儒者/書)	J 1 9 3 5
龔(きょう・松平)	→	親恭(ちかやす・松平まつだいら、儒者)	C 2 8 1 2
龔(きょう・林)	→	士謙(しけん・林はやし、儒者/詩)	T 2 1 2 0
龔(きょう・関)	→	赤城(せきじょう・関せき、漢学者/地誌家)	D 2 4 5 8
岐陽(ぎよう;道号・方秀)	→	方秀(ほうしゅう;法諱・岐陽、臨濟僧)	3 9 5 5
義曜(ぎよう・村上)	→	義曜(よしあき・村上むらかみ、名主/歌人)	P 4 7 5 2
祇庸(ぎよう・湯浅)	→	祇庸(やすつね・湯浅あさ、藩士/国学)	H 4 5 0 0
仰(ぎよう・樋口)	→	雪汀(せつてい・樋口ひぐち/菅原、藩士/儒)	E 2 4 5 9
凝(ぎよう・源)	→	凝(こごる・源、歌人)	C 1 9 5 6
顒(ぎよう・川上)	→	東山(とうざん・川上、儒詩/史学)	E 3 1 5 7
業(ぎよう・十時)	→	梅厓(ばいがい・十時とき、儒者/書画)	3 6 8 2
業(ぎよう・平井)	→	澹所(たんじよ・平井ひらい、儒/藩校総督)	I 2 6 3 5

C1614 **行阿**(ぎょうあ;法名・鳩杖隠士、俗名;源みなもと知行ともゆき、源義行[聖覚]男)1292?-? 南北期廷臣;

阿波守/五位、1314父より家学;河内家の源氏物語研究を継承、  
勅命で家書「源氏物語」証本を书写献上、1364祖父親行「原中最秘抄」編刊/奥書、  
親行「仮名文字遣」を補筆完成、1365良基に源氏物語奥義伝授、出家;行阿、  
歌;勅撰4首(すべて源知行名);続後拾遺(926)新千載(780/1274)新拾遺(1393)、  
[恋ひわぶる涙のひまはなきものをなど逢ふ事のとだ初めけん](続後拾;恋926)  
連歌;菟玖波3句入(連歌の行阿は別人[高階行氏]説もある)

N1614 **行阿**(ぎょうあ;法諱、別諱;日賢、字;賢存、号;法成就院、俗姓菅原)1804-7572 江戸当山派修験学僧、  
浅草阿光房行智門、深川利益院住僧、当山派修験の諸国総学頭、1858醍醐寺法成院僧正、  
連歌;1853柳営御連歌御連衆、1831「修験十二箇条当山方」57「験門摘要」66「信心感応鈔」著、  
「般若心経直譚」「雑問秘答」「三宝院法流血脈」「自誓受戒儀」「十二因縁話談鈔」外著多数、  
歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[心なきあやしの賤もおのづからあはれ知るらん秋の夜の月](大江戸倭歌;秋837)、  
[露もさぞ所せきまで置きつらんなき世をしのぶ袖の涙は](同;雑1893)

C1615 **暁阿**(ぎょうあ;法諱・遊行寺上人)?-? 時宗僧/連歌;救済門?、1355文和ぶんな千句(良基撰)連衆、  
菟玖波集入、

[須磨近き浦は明石の泊舟とまりぬ] (文和千句; 第一百韻二裏7、源氏物語「明石」のおもかげ、前句; 二条良基; 夢にかへたる月をこそみれ)

堯阿(ぎょうあ) → 堯尋(ぎょうじん、仁和寺僧) C 1 6 7 0  
堯阿(ぎょうあ) → 堯尋(ぎょうじん; 法諱、真言僧/歌人) C 1 6 7 0  
暁阿(ぎょうあ) → 了輔(りょうほ・野村のむら、俳人) J 4 9 4 3  
行阿(ぎょうあ・等蓮社) → 貞巖(ていこん; 法諱、浄土僧) 3 0 7 6  
行阿(ぎょうあ・常蓮社) → 大基(だいき; 法諱、浄土僧) J 2 6 5 7  
教愛(きょうあい・矢盛) → 教愛(のりちか・矢盛やもり、儒/国学) F 3 5 0 4

1629 杏庵(きょうあん・堀ほり、名; 正意、医者徳印男/本姓菅原) 1585-1642<sup>58</sup> 近江安土生/父に従い京住、漢学; 梅心正悟門/医学; 曲直瀬(まなせ)正純門/儒; 藤原惺窩門、1611和歌山藩主浅野家侍医、1619広島移封/22尾張藩儒/26法眼、36朝鮮通信使と唱和、42幕命で「寛永諸家系図伝」編纂; 編纂途中没、惺窩門四天王、「杏陰集」「杏庵文集」「杏庵紀行」「中山日録」「有馬温湯記」外著多、[杏庵(;号)の字/通称/別号]字; 敬夫/孟敬、通称; 与十郎/大貳、別号; 杏陰/杏隱/敬庵/蘇巷/茅山山人

N1615 恭庵(きょうあん・安陪/安部あべ、名; 惟親(これちか、今村屋治郎兵衛男) 1734-1808<sup>75</sup> 鳥取医者; 医; 吉岡怨翁・仁庵門、儒・易学; 河田東岡門、古医方; 吉益東洞門/鳥取で開業医、1786鳥取藩医; 侍医となる、俳諧、郷土史家、1795「因幡史」、「因幡史神社考」「葉那枝濃多根普久部はなしのたねふくべ」著、[恭庵の字/別号]字; 主善、別号; 李山/魚声閣

G1653 恭安(きょうあん・山岡(やまおか)/本姓大伴、字; 守全/号; 竹酔子) ?-? 江中期尾張医者/伊勢・京住、海量法師と親交、1778「本草正正譌」98「百二十石」、「怪談犬打杖」「本草和産考」著

N1627 杏庵(きょうあん; 通称・舟木(ふなき)/北山、名; 信通/字; 伯裳) 1762-94<sup>33</sup> 河内東瓜破村の医者、北山橘庵[1731-91]門/一時北山姓; 復姓、医業/詩文、1789「橘庵先生詩鈔」編、「杏庵詩稿」「採菟吟草」「撰遊吟草」「南遊紀行」著

N1616 杏庵(きょうあん・河野(こうの)/本姓; 越智/修姓; 越、藩医竹中玄暢男) 1794-1849<sup>56</sup> 陸前仙台藩士、藩医河野緝庵の養嗣子/医者; 実父・養父門、仙台藩医学館/助教/1833学頭/藩主侍医、「解剖存真図腋弁駁」「先君子遺稿」著、「杏庵先生遺稿」、[杏庵(;通称)の名/字/号]名; 公奕/奕、字; 廷举/延举、号; 槐蔭/東里

N1617 杏庵(きょうあん・金子(かねこ)、名; 典従) ?-? 江後期越後の医者; 独学で賀川玄迪「産論翼」等修得、1831「産科撮要」、33「奇妙撮要前」編

杏庵(きょうあん・林) → 広海(ひろみ・林、国学/歌人) H 3 7 1 8  
杏庵(きょうあん・千村) → 拙庵(せつあん・千村(ちむら)、医者) K 2 4 6 5  
杏庵(きょうあん・長谷川) → 杏所(きょうしよ・長谷川(はせがわ)、医者) O 1 6 0 2  
杏庵(きょうあん・松村) → 篁雨(こうう・松村(まつむら)、医/俳人) H 1 9 3 7  
杏庵(きょうあん・熊谷) → 恕(ひろし・熊谷(くまがい)、陪臣/国学/歌) J 3 7 4 5  
享庵(きょうあん・楓井) → 保定(やすさだ・楓井(かえい)、藩士/医/国学) F 4 5 7 3  
恭安(きょうあん・賀屋) → 澹園(たんえん・賀屋(かや)、藩士/医者) T 2 6 1 9  
狂庵(きょうあん・河瀬) → 太宰(ださい・河瀬(かゑ)、戸田、儒/勤王家) O 2 6 9 2  
匡安(きょうあん・桃沢) → 匡好(まさよし・桃沢(ももさわ)/大沢、国学/歌) T 4 0 2 1  
行安(ぎょうあん・野間) → 行安(こうあん・野間(のま)、狂歌) G 1 9 8 2  
暁庵(ぎょうあん・平田) → 文明(ぶんめい・平田、酒造業/俳人) G 3 8 5 2  
仰杏齋(ぎょうあんしゃ) → 其律(きりつ・永日庵(えいじつあん)、狂歌/俳人) D 1 6 7 2  
狭庵碧城(きょうあんへきじょう) → 日人(かつじん・遠藤(とんとう)/木村、藩士/俳人) 5 3 5 1

1631 慶意(きょうい/けい; 法諱、藤原章輔男/母; 源季随女) 1006-67<sup>62</sup> 平安中期天台叡山僧; 慶円・良円門、1032高陽院法華三十講の講師/66最勝講の講師/叡山権律師; 三昧院住、歌; 後拾遺集733、[頼めしを待つに日ごろの過ぎぬれば玉の緒弱み絶えぬべき哉](後拾遺; 恋733)、(頼みけるわらはの久しう見え侍らざりければ詠み侍りける)

N1618 恭畏(きょうい; 法諱・号; 金光院法印) 1565-1630<sup>66</sup> 京真言僧; 1581広隆寺乘全門、南都で修学、三論/華嚴/戒律/唯識を修得、1596嵯峨法輪寺住、追贈権僧正、1607「厳島願文和解」、「宝珠鈔」「求聞持口伝鈔」「弘法大師伝」「曆算書」「真言行道之事」、1629「偽書論」外著多数

- 共惟(きょうい・山国) → 共惟(ともこれ・山国やまくに、藩士/天狗党) P 3 1 4 2  
 恭依(きょうい・二木) → 秀枝(ひでえ・二木ふたき/にき、商家/歌人) K 3 7 8 9  
 匡威(きょうい・土田/永井) → 星岬(せいこう・永井ながい/土田、俳人) I 2 4 1 2  
 教怡(きょうい・仙田) → 教怡(のりやす・仙田せんだ、和学者/歌人) I 3 5 8 4
- C1616 行意(ぎょうい・山科僧正、名;良親/良観/良円、関白藤原基房男) 1171-1217 47 天台園城寺僧、  
 寺門僧正覺尊門/1193一身阿闍梨/97伝法受/大峯・那智・笙窟で修験/天皇の護持僧、  
 1215園城寺長吏/崇福寺別当:権僧正、歌人;1215建保名所百首/16内裏百番歌合参加、  
 1216後鳥羽院百首参加/17右大将家歌合参加、万代集・雲葉集(9首)入、  
 勅撰28首;新勅撰(4首343/557/1142/1270)続後撰(5首209/541/1065/1197/1315)、  
 続古(7首403/902/912/1040/1186/1623/1905)続拾(32/817)新後撰(2首)以下、  
 [我が宿はかつちる山のもみぢ葉に朝ゆく鹿の跡だにもなし](新勅;秋343)  
 兄弟;左大臣隆忠/内大臣師家/天台座主承円/興福寺別当実尊
- G1654 堯以(ぎょうい) ? - ? 室町期僧;室町末期の注釈書「万葉集目安」著  
 G1655 強異軒(きょういけん) ? - ? 1780洒落本「弁蒙通人講釈」、「狸の穴這入」著  
 恭懿先生(きょういせんじょう) → 整斎(せいさい・田辺/上毛野、藩儒/記録) B 2 4 5 2  
 匡逸(きょういつ・桃沢) → 匡逸(まさはや・桃沢ももさわ、名主/国学/歌) T 4 0 2 0  
 行一(ぎょういつ) → 行一(こういつ、俳人) E 1 9 2 8  
 行一(ぎょういつ) → 日礼(にちれい/にちらい・仏性院、日蓮僧) D 3 3 7 0
- C1617 経因(きょういん;法諱、波多野義通男/本姓藤原)?-? 平安後期歌僧;法師、内供奉十禅師、千載1029、  
 [はかなしな憂き身ながらも過ぎぬべきこの世をさへも忍びかぬらん]、  
 (千載;雑1029/もう生きる限界にきている)
- N1619 杏陰(きょういん・六車むぐるま、名;久敬、藩医六車雨嶽男)?-1833 讃岐寒川郡富田医者/高松藩表医師、  
 詩/書/画、「諸家伝記集」「羽床復讐」著、  
 [杏陰の字/通称]字;士行、通称;謙篤、杏翁の父
- N1620 杏陰(きょういん・小泉こいずみ/初姓;村尾、名;玄常/玄讓) 1794-1856 63 歴代医業/萩藩に出仕、  
 周防上関に住、医学;能美玄順門/詩文;亀井南冥門、頼杏坪を師友とす:「静観楼記」撰、  
 「偷閑録」著、  
 [杏陰の字/通称]字;守節、通称;梅五郎  
 杏陰(杏隠きょういん・堀) → 杏庵(きょうあん・堀ほり、医者/儒者) 1 6 2 9  
 杏陰(きょういん・東尾) → 美雄(よしお・東尾ひがしお、国学者/歌) O 4 7 7 1
- C1618 行胤(ぎょういん;法諱・法眼行济男、俗姓源)?-? 鎌倉後期1312-21頃真言仁和寺僧;法眼、  
 歌人、続千載1752/続後拾遺846/新千載2068、昭訓門院小督ごうの兄、  
 [嵐吹く嶺にかかれる浮き雲のはるる方よりいづる月影](続千;雑1752)  
 堯寅(ぎょういん・浅井) → 舜臣(みつおみ・浅井、詩人) D 4 1 1 7  
 杏隠居士(きょういんこじ) → 政方(まさみち・関/関藤、医/国学/歌) 4 0 0 6  
 杏蔭斎(きょういんさい) → 元棟(げんとう・吉原、拳法/整骨医) L 1 8 8 2  
 行胤法師妹(ぎょういんほうしのいもうと) → 小督(ごう・昭訓門院、女房歌人) C 1 9 5 0
- G1656 堯胤法親王(ぎょういんほうしんのう、名号;梶井宮、伏見宮貞常親王男) 1458-1520 63歳 梶井門跡、  
 母;源盈子(庭田重有女)、伏見宮邦高親王の弟、  
 1468義承の資として梶井(三千院)円融房入室/1493天台座主、  
 1499焼失の比叡山の再建に尽力、「華厳滝記」、後花園法会記「魚山の御のり」著、  
 「宇賀神秘念誦」「堯胤親王御記」著、  
 歌;宮中歌会参、1503三六番歌合など参加、「永正二年百首」、連歌;新菟4句入、  
 [影ふけぬ木の間わづかに置く霜のおのれ移ろふ短夜の月](三六番歌合;  
 樹蔭夏月二番右)  
 [堯胤法親王の俗名/法号]俗名;高平、法号;後寿量院/円融坊、
- N1621 杏雨(きょうう) ? - ? 江前期美濃岐阜俳人;1689「あら野」8句入、  
 [嬉しさや寐入かいらぬ先のほとゝぎす](あら野;卷一)
- C1619 杏雨(きょうう・山崎やまざき、名;浄偉、青陽堂) 1687-1764 78 筑前福岡藩医/俳人・野坡門、  
 1728「水僊伝」43「誹諧松之中」編



- N1622 杏雨(きょうう・帆足ほし、名;遠、帆足統度[茶什]男)1810-8475 生家;豊後大分郡戸次の酒造業、  
絵師;田能村竹田門/儒;帆足万里・広瀬淡窓門、上京;浦上春琴門、自己の画風確立、  
杏花春雨村莊を建、「杏雨印譜」著、「耶馬溪図」画(ウィーン万博出品)、  
「聴秋閣模古式」「自画題語」著、  
[杏雨の幼名/字/通称/別号]幼名;熊太郎、字;致大、通称;庸平、別号;聴秋/半農/鷗村  
杏雨(京雨きょうう) → 波響(はきょう・蠣崎/松前、家老/絵師) C 3 6 4 6
- N1623 暁鳥(ぎょうう) ? - ? 俳人;1698「続猿蓑」2句入  
[蟬啼くや布織る窓の暮れ時分](続猿蓑:巻下)
- J1626 暁雨(ぎょうう・大口屋治兵衛)?-? 蔵前札差/十八大通の1/俳人、伊勢屋に暁雨号を譲る、  
1753「新撰武蔵曲」入、61心祇の門人編「三部集」入
- C1620 暁雨(2世ぎょうう・通称;伊勢屋宗四郎)?-? 江戸浅草蔵前の札差、江戸十八大通の1、  
俳人;祇空門、1753初世暁雨(大口屋)より号譲渡、1753「新撰武蔵曲」編、「二百里の月」編、  
[暁雨2世の別号]全吏/望雲亭  
暁雨館(ぎょううかん) → 時風(ときかぜ・山中やまなか、俳人) J 3 1 0 1  
暁雨窓(ぎょううそう) → 文母(ぶんぼ・小林こばやし、俳人) G 3 8 4 2
- N1624 慶雲(きょううん・岡本おかもと、通称;七之助)?-? 1588存 加賀藩士・前田利家臣/致仕;越前織田に幽居、  
福井藩士長見右衛門の請で末森合戦の顛末を記録、「末森記」「賀越取合記」「加越登記」著  
慶運(きょううん) → 慶雲(けいうん、天台僧/歌人) 1 8 0 2  
狂雲(きょううん;号) → 宗純(そうじゆん;法諱・一休;道号、臨濟僧) 2 5 1 1  
狂雲(きょううん) → 玄昌(げんしょう;法諱・文之、臨濟僧/詩) C 1 8 1 7  
教雲(きょううん;字) → 沢良(たくりょう;法諱、浄土僧) O 2 6 1 9  
峽雲(きょううん・阿蘇) → 惟治(これほる・阿蘇あそ/宇治、神職/勤王) O 1 9 7 4  
峽雲(きょううん・山県) → 信任(のぶとう・山県やまがた、藩士/国学者) K 3 5 2 5
- S1664 暁雲(ぎょううん) ? - ? 江前期江戸俳人;1682(天和2)「錦どる」百韻参加、  
1685風瀑「一楼賦」入、  
[芭蕉葉に箴いしきす女心かな](一楼賦;箴いし/しんし[伸子]は洗張り用の竹針)  
暁雲(ぎょううん;法名) → 持為(もちため・冷泉[下冷泉祖]、歌人) 4 4 0 8  
暁雲(ぎょううん、暁雲堂) → 一蝶(初世いちちょう・英はなぶさ、絵師) C 1 1 0 8  
暁雲(ぎょううん・黒田) → 一利(かずとし・黒田くろだ、藩士/歌人) M 1 5 3 0  
行雲(ぎょううん) → 一方(いっぽう・北川、俳人) H 1 1 8 9  
仰雲軒(ぎょううんけん) → 貞兼(ていけん・藤谷、俳人) 3 0 6 6  
喬雲斎(ぎょううんさい) → 東子(とうし、竹塚たけのつか、合巻/俳人) 3 1 1 4  
暁雲斎(ぎょううんさい・速水) → 春暁斎(2世しゆんぎょうさい・速水、絵師) M 2 1 7 4  
狂雲子(きょううんし;号) → 宗純(そうじゆん;法諱・一休;道号、臨濟僧) 2 5 1 1  
狂雲堂(きょううんどう) → 一蝶(初世いちちょう・英はなぶさ、絵師) C 1 1 0 8  
杏雲楼(きょううんろう) → 伯琳(はくりん、詩人) E 3 6 1 1
- N1625 堯恵(ぎょうえ;法諱・善偉ぜんい;号)?-1395 浄土宗西山派深草流僧;円福寺頓乗門、  
のち円福寺住職、「阿弥陀経私集抄」1390「往生礼讃堯慧鈔」91「往生論註私集鈔」著
- 1632 堯恵(ぎょうえ;法諱・藤の坊;号)1430-1498?69? 天台僧;加賀白山や青蓮院と関係深い、  
歌人;彭林・堯孝門、1494昇殿;古今集・愚問賢注等講義、家集「下葉和歌集」、「愚問賢注抄」、  
「吾妻道記」「東国紀行」「北国紀行」「善光寺紀行」「法印堯恵歌書」、1492「古今血脈抄」著、  
[堯恵の通称] 岩蔵の藤の坊/加賀の藤坊  
行恵(ぎょうえ;法名) → 道家(みちいゑ・九条/藤原、摂政関白/歌) B 4 1 1 7
- G1657 京英(きょうえい・花笠はながさ、玉川堂)?-? 江後期伊勢の浄土僧、人情/読本作者;花笠文京門、  
1851「敵討勝山草紙」著/60?「春色梅の旭」著(京楽の序)  
共英(きょうえい・梅小路) → 資方(すけかた・三室戸/藤原/梅小路、廷臣) G 2 3 1 8  
教英(きょうえい;字) → 日奥(にちおく;法諱、日蓮僧) 3 3 8 4  
匡衛(きょうえい・桃沢) → 夢宅(むたく・桃沢ももさわ、名主/歌人) 4 2 8 6  
行栄(ぎょうえい・立田) → 行栄(こうえい・立田たつた、狂歌) P 1 9 4 4  
暁栄(ぎょうえい・暁歎房) → 暁歎(ぎょうかん;法諱、修験僧) N 1 6 5 7

- 狂詠舎春暁(きやうえいしやしゆんざう)→春暁(しゆんざう・為永、人情本作者) J 2 1 3 9  
 共益(きやうえき・梅小路) → 共方(ともかた・梅小路うめがこうじ、廷臣/日記) P 3 1 3 0
- C1621 京右衛門(きやうえもん・山下やました) 1652-1717 66 京の歌舞伎役者、やつし事、一座運営  
 強右衛門(きやうえもん→すねえもん・鳥居)→勝商(かつあき・鳥居とりい、戦国期武人) T 1 5 4 4  
 鑄右衛門(きやうえもん・米倉)→ 長昌(ながまさ・米倉よねくら/源、幕臣/歌) K 3 2 1 3
- N1626 慶円(きやうえん・けいえん;法諱、後三昧座主、藤原尹文or永頼男) 944-1019 76 播磨生/天台叡山僧;  
 三昧院喜慶門、台密;円賀門、1003婁子内親王を加持;鼻中の双六の賽を取り出す、  
 1011一条天皇臨終時の念仏勤仕;権僧正/13大僧正、  
 1014天台座主、「護摩抄」、1017「後三昧座主慶円大僧正書」著
- C1623 教円(きやうえん;法諱、東尾房、藤原孝忠男) 978or9-1047 70/69 天台叡山僧;花山法皇・陽生・実因門、  
 東尾房住、法印大僧都/1038寺門派の座主をめぐる騒動;39天台座主、歌:後拾遺1159
- G1658 教縁(きやうえん、源俊頼の孫、源俊重男) 1154-79 26 早世 興福寺僧;別当/大僧正、通称;松林院僧正、  
 歌人;1124「奈良花林院歌合」入:俊頼が代作?、万代集入、  
 [沖つ波たかしの浦に風立ちぬはやこぎかへれあまのつりぶね](万代;雑3273)
- C1624 経円(きやうえん;法諱、世尊寺[藤原]伊経男) 1188-? 法相興福寺僧;円玄門?、1221僧都/権大僧都、  
 法印権僧正、1229最勝講の講師/1234後堀河院葬儀に勤仕、定家と交流、明月抄に入、  
 1202「後三違決」、「円光鈔」「一因違四」「一因違四比量」「薬師寺縁起」著、  
 歌:新勅撰1191、1237素俊撰[檜葉ならのは集]12首入、  
 行能(従三位)・禎快(権僧都)・能経・伊子の兄弟、  
 [法の道教へし山は霧こめて踏みみしあとになほやまどはむ](新勅撰;雑1191)  
 [雪はなほふるすながらのうぐひすのなみだをかけて春はきにけり](檜葉;春2)
- N1628 教円(きやうえん;法諱) ? - ? 僧侶・連歌作者:菟玖波1句入、  
 [優婆塞は鬼すむ峰に行ひて](菟;1935/前句;いのる来むよはいまもおそろし)
- 杏園(きやうえん・安代) → 敬(けい・安代あじろ、医者) D 1 8 3 3  
 杏園(きやうえん・森) → 玉岡(ぎよくう・森もり、医者/詩人) O 1 6 9 1  
 協園(きやうえん・三浦) → 益徳(ますり・三浦みづら、藩士/国学者) J 4 0 1 4  
 教遠(きやうえん・四辻) → 季継(すえつぐ・四辻よつじ/藤原、大納言/連歌) B 2 3 8 5  
 教円(きやうえん;初法諱) → 日相(にっそう;法諱・是心、久成院、日蓮僧) E 3 3 8 6  
 薑園(きやうえん) → 東雄(あずまお・飯島/佐久良、歌人) 1 0 5 0  
 檀園(きやうえん・木村) → 定良(さだよし・木村/藤原、幕臣/歌人) C 2 0 6 5  
 檀園(きやうえん) → 常成(つねなり・鳥越/柏野、藩士/国学/歌) C 2 9 9 6  
 匡遠(きやうえん・小槻) → 匡遠(ただとお・小槻おぎ・壬生、廷臣/歌人) P 2 6 9 7  
 鏡円(きやうえん;字、鏡円阿闍梨)→ 日台(にちだい;法諱、日蓮僧) C 3 3 7 8
- C1625 行円(ぎやうえん;法諱) ? - ? 1019存(70余歳) 豊後速見邑の天台僧;999在京;布教、  
 1004行願寺(革堂こうどう)開基、05法華八講/08釈迦講/10法華経などの供養/15釈迦堂建立、  
 1016栗田山路修復/18行願寺万灯会四部講催、歌;玉葉2216/2637、いつも鹿の革を着用、  
 [山里の心しづかにすみよきはとふ人もなし待つ事もなし](玉葉集;十六2216)  
 [行円の通称] 革聖かわひじり/皮仙/革上人/卓上人
- N1629 行縁(ぎやうえん、法師) ? - ? 平安後期叡山僧;阿闍梨/歌人、  
 1062無動寺和尚賢聖院歌合参加;左方(比叡山延暦寺塔頭無動寺で檢校広算主催)、  
 [檜葉集](1237刊)入、  
 [年を経て老ひそふ宿の竹見れば行末までに千代ぞこめたる](賢聖院歌合;十番左19)
- N1630 行宴(ぎやうえん;法諱、惣在行俊男) 1130-1200 71 真言僧;1172菩提院有真門;伝法灌頂受、  
 1187守覚法親王にも灌頂を受、「灌頂記」「曼陀羅集」「結縁灌頂夜次第」著、付法;禅覚ら  
 [行宴の初法諱/通称]初法諱;行延、称;少輔法眼
- V1691 堯淵(ぎやうえん;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、  
 歌人;1237刊[檜葉集]入、  
 [山家の心をよみ侍りける、  
 ふみわくるあとこそみえね足引のあらしはかよふ松の下道](檜葉;雑936)

- C1626 **行円**(ぎょうえん;法諱、松葉法師、二階堂[藤原]行宗、行忠男)1246-8641 鎌倉幕臣;  
丹後守/左衛門尉、1278引付衆政所執事/84出家;沙弥、高弁(明恵)と交流、歌人、  
1261(弘長元)「將軍宗尊親王家百五十番歌合」右方参加、  
勅撰3首;続後撰1243、続拾695/1395、  
[世の中はまどろまで見る夢なれやいかに醒めてかうつつなるべき](続後撰;雑1243)
- C1627 **幸円**(ぎょうえん・こうえん) ? - ? 天台僧?・権律師、歌:1384成立「新後拾遺」1490、  
[うへもなく頼む日吉のかげなれば高き峰とやまづ照すらん]、  
(新後拾;釈教1490/花嚴経の心)
- C1622 **堯淵**(ぎょうえん・大納言僧正、冷泉政為男)?-? 1533存 歌人・連歌、鞠、1501-4歌合参、1533山口住
- N1631 **堯円**(ぎょうえん;法諱、初諱;一雅、大納言僧正、阿野実頭男)1570-163667 今出川晴季の猶子、  
真言東寺僧;堯雅門、伝法職位を受け松橋流第二十祖、1626東寺長者法務/大僧正、  
「奉幣事」「松橋伝授目録」著
- N1632 **行円**(ぎょうえん;法諱、誓光寺円浄の養子)1799-1825早世27 石見天河内満行寺の生、  
周防柳井の誓光寺住職、梵曆研究;普聞門、「立世阿毘曇曆」著  
業延(ぎょうえん・大谷) → 栄庵(えいあん・大谷、天台僧/書/記録) C 1 3 4 9  
堯円(ぎょうえん;法諱/仏光寺僧) → 蓮教(れんきょう;法諱、本願寺僧) 5 1 9 8  
凝烟舎(ぎょうえんしゃ→すのや) → 泰足(安足やすたり・村田、藩士/国学) B 4 5 9 6  
凝烟舎(ぎょうえんしゃ・村田) → 良風(よしかぜ・村田、泰足門/藩士/歌人) P 4 7 5 5
- N1633 **堯延親王**(ぎょうえんしんのう、俗名;周慶、霊元天皇皇子)1676-171843 妙法院門跡、1684妙法院堯怒門、  
1639以降三度の天台座主/1718一品、1698「十不二門指要鈔詳解私記」1710「蟬研記」著
- N1634 **恭翁**(きょうおう;道号・運良うんりょう;法諱)1267-134175 臨濟・曹洞僧;了然法明門/曹洞瑩山紹瑾門、  
臨濟無本覚心門;嗣法、加賀大乘寺住持/加賀伝灯寺・越中興化寺など開山、  
「見性鈔」「正法眼蔵語」「禅戒正伝血脈相承説」「仏林慧日禅師語録」著、  
[恭翁運良の諡号] 仏林慧日禅師/仏慧禅師
- G1659 **叶翁**(きょうおう・坂井、名;一調、別号;灌山)?-? 加賀俳人:麦水門、1788「根なし草」著  
教応(きょうおう;号) → 巖蔵(がんざう;法諱、真宗大谷派僧) G 1 9 9 3  
教応(きょうおう;僧名) → 慊堂(こうどう・松崎、儒者) 1 9 1 7
- U1695 **慶応**(きょうおう;法諱・西野にしの、)1814?-188370? 加賀金沢の真宗本願寺派派西勝寺住職、  
[慶応の号] 雀庵  
敬雄(きょうおう、僧名) → 敬雄(けいゆう・金竜道人、天台僧/詩人) D 1 8 6 5  
亨翁(きょうおう→こうおう・頼) → 亨翁(こうおう・頼、歌人、春水らの父) H 1 9 7 2  
杏翁(きょうおう・東条) → 通庵(つうあん・東条、医者) 2 9 1 9  
杏翁(きょうおう・頼) → 杏坪(きょうへい・頼らひ、儒者/史家) 1 6 3 8  
杏翁(きょうおう・河野) → 杏村(きょうそん・河野こうの/かわの、儒/詩) I 1 6 8 0  
筇翁(きょうおう・蘆沢) → 長卿(ながのり・蘆沢あしざわ/玉井、藩士) K 3 2 8 3  
鳧翁(きょうおう・関) → 政方(まさみち・関せき/関藤、医/国学/歌) 4 0 0 6  
驚翁(きょうおう・里村) → 祖白(そはく・里村さとむら、連歌師) K 2 5 3 3
- N1635 **行応**(ぎょうおう;道号・玄節げんせつ;法諱、俗姓井上)1756-183176 伊予矢野庄大島の臨濟僧;10歳出家、  
1774豊後中津自性寺提州門/のち海門禅恪・峨山慈棹門;嗣法、  
1794竜潭寺住持/1802宇和島等覚寺住持、「心鑑賞録」著、  
[行応玄節の号] 棲神叟/煨芋子わいじ、諡号;心鑑慈照禅師  
暁応(ぎょうおう;号) → 巖蔵(がんざう;法諱、真宗大谷派僧) G 1 9 9 3  
暁応(ぎょうおう) → 朶年(だねん・伊藤、俳人) S 2 6 1 7  
鞏黄斎(きょうおうさい) → 茶村(ちやそん・宮本、儒者/庄屋/詩人) F 2 8 5 8  
教王上人(きょうおうじょうにん;号) → 覚敷(かくこう;法諱、真言僧) J 1 5 7 9  
教王房(きょうおうぼう;僧号) → 賢暹(けんせん・天台僧) C 1 8 4 9  
鏡屋(きやうおく・鈴木) → 常明(つねあき・鈴木、国学/医者) B 2 9 5 4
- N1636 **敬恩**(きょうおん;法諱) ? - ? 越後真宗僧:本願寺派、1745「安楽集唯浄記」著
- N1637 **慶恩**(きょうおん;法諱・諡号;継興院)1782-184867 熊本真宗本願寺派善正寺住職、東光寺環中門  
1841勸学/44員外勸学、「法事讃聴記」「選択集聴記」「高僧和讃天親章聴記」著



- 教音(きょうおん;字) → 覺翁(かくおう;法諱・教音、真言僧) J 1 5 5 7  
 教恩(きょうおん;字) → 源長(げんちやう;法諱・教恩、真言僧) L 1 8 3 6
- U1616 堯恩(ぎやうおん;法諱) 1732-1820<sup>88</sup> 伊予浮穴郡浄瑠璃寺村の庄屋井口家の生、  
 幼少より仏門修行/1761(宝暦11/30歳)浄瑠璃寺中興11世住職;30年務める、  
 1792(寛政4)浮穴郡拜志村法蓮寺に移住、岩屋寺から松山に至る間の架橋を決意;  
 托鉢僧となり各地遍歴し浄財を集め久万川・久谷川・石手川に8か所の架橋実現、  
 特に立花橋の架橋に苦心;岩国錦帯橋を参考に2年かけ1819完成/翌年(文政3)没、  
 堯恩(ぎやうおん;字) → 日寛(にちかん;法諱・要玄院、日蓮僧) B 3 3 0 8  
 堯温(ぎやうおん;字) → 良譽(りやうよ;法諱・堯温、真言僧) J 4 9 6 3  
 教恩院(きょうおんいん;諡号、蓮如男)→実如(じつにょ;号・光兼、真宗本願寺9世) F 2 1 1 3
- N1638 鏡河(きやうか・伊藤いとう/初姓;田近、名;幸猛/字;寛叔) 1752-1829<sup>78</sup> 豊後儒者;唐橋君山(世濟)門、  
 伊東家養子/儒;柴山鳳来門/経義;本田莊蔵門/詩;安達文仲門、1776豊後岡藩督学、  
 江戸藩邸で公子教育/藩主近習物頭、剣術、1804君山「豊後国志」校刊、  
 藩主中川家家譜「公室年譜」共編(古田含章と)、  
 [鏡河の通称/別号]通称;文蔵/作内左衛門、別号;環翠園/鏡湖  
 鏡花(きやうか・玉置) → 万齡(ばんれい・玉置たまき、造酢業/文筆) I 3 6 7 1
- C1628 興雅(きやうが・こうが、愛代丸、三条実博男?) ?-1387 真言僧;法印大僧正/安祥寺21世:20世隆雅門、  
 南北期歌人、15歳頃私撰集「安撰あんせん和歌集」撰(安祥寺の児に愛代丸名)、新後拾遺587、  
 [踏み分けし昨日の野辺の雪まより今日もえいづる若菜をぞ摘む](新後拾;春587)  
 教雅(きやうが・飛鳥井/二条)→ 教雅(のりまさ・飛鳥井/藤原、鞠/歌) F 3 5 7 4  
 恭雅(きやうが・中村) → 重政(初世しげまさ・北尾きたお/中村、絵師) 2 1 1 5
- G1660 行過(ぎやうか、行過大人ゆきすぎのうし?) ?-? 江後期俳人、  
 1834「(俳諧者流)奇談夢之棧」著(俳人關更梅室蒼虬等逸話)
- C1629 行賀(ぎやうが;法諱、俗姓;上毛野) 729-803<sup>75</sup> 奈良期大和広瀬の法相僧/法相六祖の1、752入唐、  
 法相天台を修学し経疏五百卷携行帰国、784少僧都/791興福寺別当/796大僧都、  
 「法華弘贊」「法華論釈」「成唯識論義精」「成唯識論義暉」「顯唯識論義精」「顯唯識論義暉」著
- C1630 行雅(ぎやうが;法諱) ? - ? 大僧正、歌人、1439成立「新続古今」2127  
 [これも又ちりにまじはる影なれば月にも神のめぐみをぞ見る](新続古今;二十2127)  
 行雅(ぎやうが;法名) → 実経(さねつね・一条/藤原/九条、一条祖/関白・摂政/歌) D 2 0 2 1
- I1316 教懐(きやうかい;法諱、迎接房、左近中将藤原教行男) 1001-93<sup>長寿93</sup> 平安期京の生;  
 興福寺で法相を修学、興福寺の別所の山城小田原に隠棲/70歳頃高野山に入;  
 20余年両界法を修練、阿弥陀真言を主唱し真言念仏集団組織;のち高野聖の祖と称される、  
 不動図像数百体を模写開眼、衆僧の念仏の中で没、  
 [教懐の通称] 小田原迎接房おだわらごうしょうぼう/小田原聖人
- N1639 經海(きやうかい;法諱、藤原宣秀男) ?-? 鎌倉中期天台僧;俊範門、1247延暦寺法華会の探題、  
 宮中で後嵯峨天皇に止観を説く/僧正、叡山横川妙観院住、「座禅用心鈔」「本懐抄」著
- N1640 慶海(きやうかい) ? - ? 若狭真宗大谷派光久寺住職、慧琳門、  
 1789「御文成語考」/1801「教行信証御自釈助字考」、「蕉蔭二筆」著、「帖外御文拾遺」編  
 景戒(きやうかい・きやうがい) → 景戒(けいかい、法相僧/靈異記編纂) 1 8 3 8  
 匡解(きやうかい・野村) → 匡解(まさとき・野村のむら、藩士/歌人) R 4 0 5 2
- N1641 行海(ぎやうかい;法諱/初諱:寛什かんじゅう、三位律師、大藏卿源みなもと行宗男) 1109-80<sup>72</sup> 真言僧;寛信門、  
 1166法眼/70法印/72権大僧都/東寺二長者、勸修寺慈尊院を開く、  
 「長承元(1132)年灌頂記」「行海記」「勸流諸師印信大事集」「悉曇体文講義」著
- N1642 凝海(凝戒ぎやうかい;法諱、光忍こうにん;字) 1522-99<sup>78</sup> 関東の律宗僧;律師、鎌倉東勝寺に住、  
 西大寺寺務、1588招提寺58世(中興38世)、「表無表章法苑選集抄」、1599「表無表章起因」著
- N1643 行快(ぎやうかい、酒井/松平、名;末麿/季麿、鞠山藩主酒井忠稠男) ?-? 越前鞠山出身の社僧、  
 1705-64?祇園社宝寿院の社務執行を継承、祇園社の古記録/文書を編集、  
 1726?「祇園社記」編/「祇園社記続録」「祇園社記雑纂」編
- N1644 行界(ぎやうかい;法諱・曇蔵どんぞう;字、号;復古堂) 1727-74<sup>48</sup> 長州岩永村真宗本願寺派明巖寺住職、  
 : 宗乗・余乗;智暹門、1767宗義論争で師智暹を支援、73周防禅僧昇導と宗論、



- 「奉教磨方篇」「蓄妻瞰肉辨惑問編」著
- B1611 **堯海**(ぎょうかい;法諱) ? - ? 江中期江戸本所浄土宗清光寺住職、  
1743「日徒繫珠録之返破」著
- N1645 **堯海**(ぎょうかい;法諱) ? - ? 叡山竜城院住僧:1839頃大僧都、  
1813「後桜町院尊儀般舟院御中陰記」31「南谷交衆記」、「輪王寺宮御在洛中入用并日次記」著
- N1646 **行誠**(ぎょうかい;法諱・姓;福田ふくだ、初法諱;大堂) 1806or09-8883or80 武州豊島郡浄土僧:  
1811(6歳)伝通院寛淳門/1821伝通院玄順門/24嵯峨正定院立道門/25伝通院鸞洲門、  
1848伝通院学頭/回向院住職、1876伝通院住職/77増上寺法主/87知恩院76世/浄土宗管長、  
仏教学修学、「塞林集」「いり日の光」「徳本行者伝」「をみなへし」「随喜他善義」著、  
歌人;1863「於知葉おちば集」「後落葉集」著、  
[行誠の法名] 建蓮社玄誉晋阿、玄誉/晋阿
- 堯戒(ぎょうかい;号) → 定泉(じょうせん;法諱、真言律学僧) K 2 2 4 7  
杏花園(きょうかえん) → 南畝(なんぼ・大田、狂歌/狂詩) 3 2 3 3  
杏花園(きょうかえん) → 泥尾(でいび・棚橋たなはし、天文家) B 3 0 5 9  
狂歌園(狂花園きょうかえん) → 蝶二(ちようじ・市原、俳人) I 2 8 5 6  
暁花園(ぎょうかえん) → 只狂(じきょう/しきょう・土屋、俳人) B 2 1 6 5  
澆花園(ぎょうかえん) → 玉嶼(ぎよくしよ・柚木ゆのき、藩士/書家) U 1 6 1 9
- C1631 **孝覚**(きょうかく/こうかく、己心院、九条師教男/関白九条房実の猶子) 1319-6850 南北期法相僧;  
興福寺大乘院門跡、大僧正、1343/47/68興福寺別当(3度)、  
1340(暦応3)「大乘院門跡孝覚置文」著、歌:新拾遺1733、  
[与謝の浦入海かけて見渡せば松原とほき天の橋立](新拾遺;十九1733)
- N1647 **教覚**(きょうかく;法諱、徳大寺実盛男) 1424-? 1479存 母;持明院基親女、将軍義教の猶子、  
天台座主妙法院門跡、堯仁親王門、1455天台座主/護持僧/1471准三宮、  
1446「梵天」「北斗供」/49「止雨供」51「文殊五字法」52「薬師法」、「帝釈法未再治」著
- R1651 **梟角**(きょうかく) ? - ? 江前期の俳人;1694不角「うたたね」入、  
[お御無事といらぬ所におを付けて](うたたね/敬語の使用法はいつの代も笑いの対象)
- C1632 **教覚**(きょうかく・梅之房) ? - ? 亀戸天神社僧・1854幕府御連歌始執筆、  
1860「有米廼記うめのみ」編;連歌作者部類、「連歌年立」著  
松本亀岳と同一? → 亀岳(きがく・松本、教覚/梅之房、絵師1814-62) J 1 6 8 6  
教覚(きょうかく・松本) → 亀岳(きがく・松本まつもと、絵師) J 1 6 8 6  
教覚(きょうかく・松本) → 亀岳(きがく・松本まつもと、絵師) J 1 6 8 6  
教学(教覚きょうかく;字) → 性心(しょうしん;法諱、真言学僧) J 2 2 9 5  
京鶴(きょうかく・関亭かんてい/山月庵) → 恒成(つねなり・瀬川、戯作者) C 2 9 9 5  
恭恪(きょうかく;諡号) → 櫻宇(ていう・林はやし、幕府儒官) 3 0 3 1  
鞏革(きょうかく・合田/三宅) → 鞏革斎(きょうかくさい・三宅みやけ、儒者) G 1 6 6 3  
経覚(きょうかく;号) → 師重(もろしげ・北畠/源、権大納言/歌) H 4 4 2 6
- G1662 **経覚**(きょうかく;法諱、関白九条経教男) 1395-147379 法相僧;1407出家(13歳)/10大乘院門跡、  
1426興福寺別当/27長谷寺・薬師寺別当/33大僧正;政治活動/44筒井勢と争;安位寺に逃亡、  
金春禅竹と交流、「経覚私要鈔」「天王寺執行政所引付」「田楽御頭段銭到来引付」著、  
[経覚の号] 後五大院、安位殿
- 行覚(ぎょうかく、法名) → 道長(みちなが・藤原、政治家/歌) 4 1 1 3  
行覚(ぎょうかく) → 後伏見天皇(ごふしみてんのう、歌人) D 1 9 6 8  
行覚(ぎょうかく・赤石) → 浄心(じょうしん・赤石あかい、藩士/儒;韻;易) K 2 2 0 5  
暁覚(ぎょうかく;法名) → 政為(まさため・冷泉/藤原、廷臣/歌人) 4 0 1 0
- N1648 **仰岳**(ぎょうかく・恩田おんだ、名;利器としのり、利久男) 1809-91 駿河田中の漢学;石井繩斎/市川梅巖門、  
昌平鬢出/1833田中藩儒/軍学師範/勘定奉行/御勝手頭、藩主転封;安房長尾白浜住、  
長尾藩権少参事/致仕;開塾;漢学を教授、「講武津梁」、1865「孫子纂注」著、  
[仰岳の字/通称/別号]字;大用、通称:為いそし/恭太郎/豹太、別号:豹隠  
行学院(ぎょうかくいん) → 日億(にちおく;法諱、日蓮僧) 3 3 9 2

- 行学院(ぎょうがくいん) → 日朝(にっしょう;法諱・鏡澄、日蓮僧) F 3 3 1
- G1663 鞏革斎(きょうかくさい・三宅みやげ/本姓清原、名;昌/道乙、合田円斎男) 1614-7562 京儒者:三宅寄斎門、  
三宅寄斎の婿養子、那波活所門、詩/書/画/史学、岡山藩主池田光政に出仕;書物方、  
「大遺斎詩集」「大遺斎文集」、「資治通鑑綱目」に訓点;[道乙どうおつ点]、  
「大遺斎和歌集」「道乙大学考」「慎修筆記」著、  
[鞏革斎(;号)の字/通称/別号]字;子燕、通称;忠兵衛、  
別号;鞏革/大遺斎/研山しやくざん樵夫[人]/日研山樵/研山樵夫
- 杏花郵舎(きょうかそんしゃ) → 業広(なりひろ・神原かんばら、商家/国学) L 3 2 8 0
- 狂[杏]花村舎主人(きょうかそんしゃしゅじん・澗水隠士) → 杏村(きょうそん・河野、儒/詩) I 1 6 8 0
- 京月(敬月/鏡月/教月きょうがつ) → 京月(きょうげつ、天台僧/歌・連歌) C 1 6 3 9
- 杏花亭(きょうかてい) → 友扇(ゆうせん・佐藤さとう、俳人) D 4 6 2 0
- 京華亭(きょうかてい) → 八束(やつか・鈴木すずき、国学/歌人) G 4 5 0 5
- 狂華亭(きょうかてい) → 春蝶(しゅんちよう・為永ためなが、人情本作者) K 2 1 2 7
- 狂歌堂(きょうかどう) → 真顔(まがお・鹿都部しかつべの、戯作/狂歌) 4 0 0 1
- 狂歌堂(きょうかどう) → 頼徳(よりのり・相良さがら、藩主/真顔門狂歌) J 4 7 4 6
- 狂画堂(きょうがどう) → 蘆国(あしくに・浅山、絵師) C 1 0 2 8
- 狂歌堂礎石(きょうかどうそせき) → 源八(げんぱち・菅原、村役/救民/俳人) M 1 8 1 5
- 狂歌堂島人(きょうかどうとうじん) → 頼徳(よりのり・相良さがら、藩主/狂歌) J 4 7 4 6
- N1649 筈花尼(きょうかに、志村むら、射代子)?-1838 大阪女流歌人:賀茂季鷹門/京住、1840「枕臂集」著
- 狂歌房(きょうかぼう) → 米人(こめんど・酒月、商人/狂歌) D 1 9 9 5
- 鏡花坊(きょうかぼう) → 如達(にょたつ、儒/本草/俳論) G 3 3 0 6
- 鏡花坊(きょうかぼう・如達;号) → 智洞(ちどう;法諱、本願寺派僧/唱導本) E 2 8 9 3
- N1650 鏡観(きょうかん;法諱・上人)?- ? 僧/連歌作者:1356成立「菟玖波集」2句入、  
[一声も十声もおなじ弥陀の名に](菟;釈教667/前句;うてなの花ぞ品しなを分けたる)
- N1651 鏡寛(きょうかん;法諱) ? - ? 江中期武州浄土僧:鴻巣正法寺尊竜門、  
1711「魚山私鈔梵唄」13「光明眞言得道安心鈔」著
- N1652 慶観(きょうかん;法諱) ? - ? 江中期安芸真宗僧:智暹門、明和論争時は師側で学林と論戦、  
1767「鞆之間論議」著
- N1653 恭寛(きょうかん・和田わだ、通称豊次郎)?-? 1839存 宮城流和算家:越野為之進門、宮城流七伝と称す、  
「宮城流算術伝書」著、門人;朝倉義方ら
- 恭観(きょうかん;字) → 義超(ぎちよう;法諱・恭観、真言僧) U 1 6 0 9
- 匡寛(きょうかん・久保、幕臣) → 文々舎蟹子丸(初世ぶんぶんしゃかにこまる、狂歌) G 3 8 3 8
- C1633 行観(ぎょうかん、敦明あつあきら親王男/三条天皇の孫) 1013-7361 平安後期;天台園城寺僧;定基門、  
行円に灌頂を受、近江滋賀郡の錦織荘にしじりのしょう尊勝院入;源頼義・義家父子の帰依を受、  
1065(治暦元)僧正/通称;錦織にしじりの僧正、1073(延久5)没、  
勅撰2首;続千載1757、新続古1773、  
[滋賀の海士のつりする袖に月冴えて雲吹きかへす比良の山風](続千載;雑1757)  
☆袋草紙に;行観に出仕の童[錦織八郎]と公円僧都の逸話入
- G1664 行寛(ぎょうかん;法諱、大進法印)?-? 鎌倉期1225-34頃真言仁和寺静(浄)定院住僧、  
はじめ隆暁法印付法;大進と称される/1225(嘉禄元)高弁明恵を援ける;  
高山寺鎮守として白光神・善妙神・春日明神勸請、道助親王側近か?、  
歌人:屢々定家を訪問(明月記入)、1225道助法親王家十首和歌出詠、明恵上人歌集3首入;  
元仁元(1224)七月廿六日明恵と九条道家との贈答歌を見て明恵に贈る歌、  
[忘るなよ生まれず死なぬ友の内に洩らすなとこそ契り置きしか]、  
(明恵歌集;67/あなたが九条殿に生死を超えた真如の世界で友となろうと言われた、  
その友の中に私をお洩らしになるなと約束されたことを忘れてくださるなよ)、  
[返し(明恵の返歌)、  
もろともに生まれず死なぬ身とならば我も忘れじ君も忘るな](同;68)
- N1654 行寛(ぎょうかん、法印任宗男)?- ? 大蔵卿/真言仁和寺坊官/法眼、  
連歌:1356成立「菟玖波集」2句入、

[さらぬだに山の深きに雪ふりて](菟;558/前句;柴の庵の通路かよひちもなし)

- N1655 **行観**(ぎょうかん;称・覚融;法諱、鶉ノ木の行観、俗姓秦)1241-1325<sup>85</sup> 山城浄土宗西山派僧;観智門、西谷光明寺浄音門/1278観智に従い武蔵鶉ノ木光明寺住/宝幢院創建/京東山禅林寺19世、「破謬鈔」「散疑鈔」「往生礼讚秘鈔」「往生礼讚私記」「浄土西山秘要鈔」著
- N1656 **行観**(ぎょうかん;法諱・良山りょうざん;字、号;真光院)1685-1734<sup>50</sup> 大阪融通念仏僧:大念仏寺融観門、華嚴/天台を修学、奈良法徳寺・郡山円融寺住職/1732大念仏寺学頭、「円門草録」「融通円門章私記」「華嚴五教章講録」「聖皇本記」著
- I1610 **行感**(ぎょうかん;法諱・信暁房しんぎょうぼう;号)?-? 江中期1690-1736頃真宗木辺派の学匠、近江野洲木部の本山錦織寺の二宗兼学の宗義に反駁;1694「錦織寺辨正翻迷記」著 1725「錦織寺縁起亀鏡鈔」、「観経義聞書」「往生論註忘己鈔」「定善義忘己鈔」著
- N1657 **暁歎**(ぎょうかん;法諱、水落みずおち吉左衛門男)1731-98<sup>68</sup> 佐渡相川柴町松樹山和光院4世善栄の養子、修験僧、1752大峯入山/諸国諸山で修業/大先達法印に推挙;黒衣直綴を許可、三宝院に招聘され学識となる;法論数種著述、数年後帰国、「破邪論」「山伏真俗分段」著、  
[暁歎の号] 暁歎房修栄/暁栄/一印
- 行観(ぎょうかん、法名) → 道長(みちなが・藤原、政治家/歌) 4 1 1 3  
行簡(ぎょうかん) → 蘭室(らんしつ・神保、儒者) C 4 8 4 5  
行簡(ぎょうかん・中矢) → 行簡(ゆきひろ・中矢なかや、国学) F 4 6 5 0
- S1627 **仰巖**(仰岩ぎょうがん;道号・元尊;法諱)?-1744 黄檗僧;慧極道明門/河内法雲寺・萩東光寺住持、1722「慧極明和尚行状」著
- N1671 **行願**(ぎょうがん;法諱・号;大進庵/如意庵)?-? 江中期宝永1751-63頃真言僧/常陸筑波月輪院住、江戸隅田川畔に大進庵を結ぶ/山城小野宝持院に住/僧正、1753「花間笑話」58「堪忍袋」61「万年草」、「大進夜話」「梵漢韻学須知」「靈水辨疑」著、「青表紙」「文鏡秘府論冠註」「註阿字義」著
- 京間内則(きょうかんなそく) → 京間内則(きょうまのうちり、狂歌作者) H 1 6 0 1  
教季(きょうき・今出川・菊亭) → 教季(のりすえ・今出川いまでがわ、左大臣) E 3 5 7 1  
郷喜(きょうき・三上) → 郷喜(くによし・三上みかみ/源、藩医/歌人) E 1 7 5 3
- G1665 **教義**(きょうぎ;法諱) ? - ? 奈良期天平頃真言宗大安寺の三綱の1、742大般若四処十六会図像・華嚴七処九会図像を大安寺に施入、747「大安寺伽藍縁起并流記資財帳」霊仁・尊耀と共編、
- 茨岐(きょうぎ・坂野) → 致知(むねとも・坂野さかの、商家/歌人) B 4 2 8 9  
郷義(郷誼きょうぎ・山崎) → 郷義(さとよし・山崎/源、藩士/捕縄術) K 2 0 5 8  
匡儀(きょうぎ・永井) → 士前(しぜん・永井ながい、庄屋/俳人) U 2 1 1 8
- C1634 **行基**(ぎょうき;法名、高志才智男/母;蜂田古爾比売)668-749<sup>82</sup> 王仁の後裔;高志・蜂田は渡来系、河内蜂田郷の生/682出家;704生家を家原寺とし民間伝道に従う;717詔により布教禁止、731解禁、社会施設建造;橋/池/寺院等、743東大寺大仏造営に参加/行基菩薩の称、745(天平17)大僧正/149天皇皇后の戒師を務める、「印仏伝」「国府記」、738「隆池院縁起」著、「大和葛城宝山記」「印仏塔法造功德积迦諸伝」著、「行基菩薩起文遺戒状」「行基菩薩遺誡」、歌人:勅撰7首;拾遺1346/1347/1348・新古1919・新勅576・続後撰583・玉葉2627  
[百もくさに八十やそくさ添へて賜ひてし乳房の報むくひ今日ぞ我がする](拾;哀傷1347)、(母の報恩会の詠/くさは石く;生育には母乳百八十石飲むという)  
[山鳥のほろほるとなくこゑきけば父かとぞおもふ母かとぞおもふ](玉葉集2627)  
[行基の別法名] 法行、称;行基菩薩
- U1684 **堯熙**(ぎょうき;法諱・常磐井とさかい、近衛忠熙7男))1844-1919<sup>76</sup> 京生/有栖川宮熾仁養子(第2王子)、1854(嘉永7)伊勢一身田の真宗専修寺に入/1861(文久元)円禧の後継;専修寺住職、派内の異議問題を鎮定;[高田派]と公称、常磐井を名乗る、歌人、1876(明治9)真宗四派連合管長;近代真宗の興隆に尽力、兄近衛忠房3男の堯猷を養嗣子、歌;[さみだれ集][千代のみどり]佐々木弘綱[明治開花和歌集]入、  
[堯熙の名/法名]名;規宮、法名;円禪えんし
- 教久(きょうきゅう・賀茂) → 教久(のりひさ・賀茂、神職/歌人) F 3 5 4 7  
教久(きょうきゅう・黒須) → 教久(のりひさ・黒須くろす/大竹、藩士/歌) I 3 5 3 2



- 教久(きょうきゅう・黒須) → 教久(のりひさ・黒須くろす、藩士/歌人) I 3 5 3 3  
 匡久(きょうきゅう・隈江) → 匡久(まさひさ・隈江くまゑ/大蔵、武家/連歌) G 4 0 5 4
- V1694 経慶(きょうぎょう・法師) ? - ? 鎌倉期;僧/法師、歌人;1253-4成立[雲葉集]入、  
 [ありあけの月はいづれとあともなしまだ人こえぬ峰の白雪](雲葉;冬845/暁雪の心)
- N1658 経亮(きょうぎょう;法諱、俗姓;鳥居小路/高階、経玄法眼男)?-1472 大蔵卿、1434家督/47青蓮院庁務、  
 天台僧;1449頃大成院執行/61法印/65四天王寺惣目代/71日吉神人奉行、「古今口決」著  
 慶経(きょうぎょう) → 慶経(けいきょう、天台僧、歌人) F 1 8 4 5
- G1666 行教(ぎょうきょう;法諱、大安寺和尚、山城守紀魚弼or兼弼男)?-863? 平安期備後僧;法相/三論、  
 大和大安寺行表門/伝灯大法師位、859宇佐八幡三所の神霊を山城男山に勧請、  
 石清水八幡宮の開基、雅楽「喜春楽」作?、「石清水八幡宮護国寺縁起」「同略記」著
- C1635 行経(ぎょうきょう;法諱、源みなもと行胤男)?-? 二条為明の猶子、真言宗仁和寺僧/法橋/法眼、  
 大蔵卿、歌人;1352法仁法親王(後醍醐天皇皇子)没時の詠歌/63覚誉法親王家五十首参加、  
 勅撰3首;新千載(2252)新拾遺(435・978)、  
 [立ちそひてともに行くべき道ならば煙とならむ身をも惜しまじ](新千載;哀傷2252)、  
 (法仁法親王[1325-1352]没頃詠む)
- 行馨(ぎょうきょう) → 行馨(ぎょうけい、僧/歌人) N 1 6 6 4  
 驍々閣(ぎょうぎょうかく) → 艶二(えんじ・塩屋しおや、洒落本/狂歌) 1 3 9 8  
 狂教人(きょうきょうじん) → 三千風(みちかぜ・大淀、三井、商家/俳人) 4 1 0 3  
 狂々生(きょうきょうせい) → 湖山(こさん・小野/横山、詩人) C 1 9 6 9  
 行恭先生(ぎょうきょうせんせい) → 筠圃(いんぼ・宮崎みやざき、儒者/書画) E 1 1 7 0  
 挟橋亭(きょうきょうてい) → 梅尺(ばいしゃく・一樗庵、俳人) B 3 6 4 2
- N1659 堯恭法親王(ぎょうきょうほうしんのう、俗名久嘉、霊元天皇皇子)1717-6448 母;右衛門佐局(松室重篤女)、  
 1719(享保4)天台妙法院入(3歳)、27親王宣下;得度/34護持僧/1736(元文元)天台座主;4度、  
 1755一品、「諸尊名香記」、1732-37「堯恭法親王御日記」48「爾所録」52「三倉」、「語印類纂」著、  
 「語印日纂」「熙々堂日纂」著、  
 [堯恭法親王の法号] 法号;三摩地院
- 匡琴(きょうきん・毛利) → 匡琴(まさこと・毛利もうり/大江、国学/歌) T 4 0 1 7  
 教具(きょうぐ・北畠) → 教具(のりとも・北畠、武将/連歌) F 3 5 2 1  
 観具院(きょうくいん) → 日諦(にったい;法諱・隆察、日蓮僧) F 3 3 0 3
- C1636 境空(きょうくう;法諱、左大臣洞院実泰or太政大臣公賢男/本姓藤原)?-1394? 南北期僧、  
 浄土宗西山派僧?、二尊院住寺/竹林寺住職、上人、  
 歌人;1362-8進玉津島社三十首出詠、  
 勅撰3首;新拾遺(879)新続古今(1131/1839)、  
 [思はずよ夜半の煙とのぼるまで独ひとり立ちそふ契りありとは](新拾遺;哀傷879)、  
 (中園入道前太政大臣洞院公賢没後二尊院での法要に独りで送った際の歌)  
 [境空の号] 法位上人/遣迎院
- 竟空(きょうくう・出家号) → 公明(きんあき・正親町おおぎまち、廷臣/記録) Q 1 6 6 3
- N1660 慶遇(きょうぐう;法諱・眞弁しんべん;字、真証男)1743-9957 伊勢安濃津の真宗高田派上宮寺住職、  
 権少僧都法眼/講師となる、「教開信者考」著、  
 [慶遇の号] 靈溪/本乘院
- G1667 行空(ぎょうくう) ? - ? 平安期長谷寺三綱の1(;慧義・円詮と)
- N1661 行空(ぎょうくう;法諱、号;法本房/法宝房)?-? 鎌倉前期浄土僧:源空(法然)門、  
 1205一念義を唱え興福寺から非難;06捕縛/師源空から破門、「選択集見聞」著
- 行空(ぎょうくう) → 植通(たねみち・九条、歌人・和学) 2 6 4 6  
 行空(ぎょうくう) → 良実(よしざね・二条/藤原/九条、関白/歌) D 4 7 4 9  
 行空(ぎょうくう;号) → 勤超(ごんちゆう;法諱・行空;号、浄土僧) G 1 9 9 6  
 行空(ぎょうくう;号) → 竜堂(りゆうどう;法諱・行空、浄土西山派僧) F 4 9 3 1  
 堯空(ぎょうくう) → 実隆(さねたか・三条西、歌人・古典学) 2 0 4 0  
 暁空(ぎょうくう;法名) → 持為(もちため・冷泉[下冷泉祖]、歌人) 4 4 0 8  
 恭薫(きょうくん;法諱) → 南源(なんげん・恭薫、臨濟僧) I 3 2 8 9



- 教訓亭(狂訓亭//嬌訓亭/嬌勲亭きょうくんてい)→春水(初世しゅんすい・為永、人情本作者) 2 1 6 1  
 教訓亭(きょうくんてい) → 通笑(つうしょう・市場、戯作者) 2 9 0 1  
 狂訓亭主人(きょうくんていしゅじん)→春水(しゅんすい・為永、人情・合卷) 2 1 6 1  
 鏡華(きやうげ;号) → 慈空(じくう;法諱、真宗本願寺派僧) Q 2 1 3 5
- G1668 鞏卿(きやうけい・工藤くどう、別名;元輔、球卿きゅうけい男)1772-1807<sup>36</sup> 仙台藩儒医、和漢学・詩歌、  
 1799「白石手簡」編、「雑記」著、只野真葛まくなげの弟、  
 [鞏卿の幼名/字/通称]幼名;源四郎、字;公強、通称;周庵、養嗣子;周庵しゅうあん
- N1662 恭卿(きやうけい・杉田すぎた、名;梅松/靖、伯元男)1794-1814<sup>早世21</sup> 江戸の蘭学者;  
 馬場貞由の蘭学塾三新堂に修学、師貞由「和蘭文範摘要」の編刊に協力、「瘍医方範」訳、  
 [恭卿(;字)の号] 松鶴/蘭園、法号;鶴林院
- G1669 狂溪(きやうけい・道中) ? - ? 俳人、1839二峰にほう「潮来図誌」序
- T1622 恭敬(きやうけい・朽木くちき) ? - ? 江後期;歌人、藩士?or幕臣?、  
 1868蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [夕さればあすの鳥立のあらましを心にしめてかへるたか人]、  
 (大江戸倭歌;冬1244/鷹狩、たか人は鷹匠)
- 教経(きやうけい・平) → 教経(のりつね・平、武将) F 3 5 1 2  
 教経(きやうけい・栗田口) → 教経(のりつね・栗田口あわたぐち、廷臣/歌) F 3 5 1 3  
 教景(きやうけい・石井) → 樟斎(しょうさい・石井いし、儒者/書家) I 2 2 9 8  
 恭卿(きやうけい・荏戸) → 政以(まさもち・荏戸のぞき、藩士/実学) H 4 0 8 2  
 恭卿(きやうけい・中茎) → 暘谷(ようこく・中茎なかぐき/茎、医/国学) 4 7 8 6  
 恭卿(きやうけい・二渡) → 信経(のぶつね・二渡ふたたり、歌人) J 3 5 9 1  
 恭慶(きやうけい・久郷) → 恭慶(たかよし・久郷ひささと、被官/歌人) Z 2 6 2 2  
 喬卿(きやうけい・井上/南宮) → 大湫(たいしゅう・南宮なんぐう/井上、儒者) B 2 6 5 3  
 喬卿(きやうけい・谷口) → 遷(うつる・谷口たにぐち、医者/歌人) E 1 2 7 8  
 慶経(きやうけい) → 慶経(けいきやう、天台僧、歌人) F 1 8 4 5  
 匡卿(きやうけい・池辺) → 蘭陵(らんりやう・池辺いけべ、藩士/儒者) D 4 8 2 5  
 匡卿(きやうけい・小野寺) → 丹元(たんげん・小野寺おのでら、医者) T 2 6 4 2  
 匡敬(きやうけい・毛利) → 重就(しげたか/しげなり・毛利/大江、藩主/歌) R 2 1 1 9
- C1637 行慶(ぎやうけい;法諱、白河天皇皇子)1101<sup>or05?</sup>-1165<sup>65/61</sup> 母;楽人源政長女、天台園城寺で修業、  
 1128法眼/1129一身阿闍梨/35天王寺別当/52園城寺代30代長吏/54僧正;崇福寺別当、  
 1156法務大僧正、近衛後白河二条三代の護持僧/後白河法皇に両部大法等伝授、  
 「雑談鈔」6話?、歌人;1165清輔[続詞花集]4首入(前大僧正名)、  
 勅撰4首;千載348/新古今64(小宮本では行尊)/玉葉29・2100、行尊と混同され易い、  
 [雪ならばまがきにのみは積らじと思ひとくにぞ白菊の花](千載;秋348/籬菊如雪の心)  
 [天王寺へ参り侍りける時暮れかかるほどになにはを過ぐとてよみ侍りける、  
 ゆふぐれになにはわたりを見渡せばただうすずみのあしでなりけり]、  
 (続詞花;旅727/葦手;文字の戯れ書き;水辺に葦などの生えた風景を文字で絵画化)、  
 [行慶の称] 櫻井僧正/狛僧正/平等院宮
- N1663 堯慶(ぎやうけい;号) ? - ? 1507<sup>存</sup> 室町期歌人:堯智門(常光院堯孝流)、  
 1507源景泰のため「松緑集」著(初心者指導書)
- C1638 堯慶(ぎやうけい・高井/本姓藤原、別号;松雪院、堯恵ぎやうえの孫)?-? 1550<sup>存</sup> 室町後期廷臣/従五下、  
 兵部大輔/内蔵頭、歌人;堯恵の後継者;常光院(堯孝)流正統を標榜、1532下野日光住、  
 上京;三条西実隆に伊勢物語を学ぶ;1537「伊勢物語聞書」著、小田原城出仕、「藤河百首」注
- N1664 行馨(ぎやうけい/ぎやうきやう) ? - ? 江後期越前城崎碧岑寺の僧、  
 歌人;1804-18頃家集「布山の落葉」著
- 行経(ぎやうけい) → 行経(ぎやうきやう;法諱、真言僧/歌人) C 1 6 3 5  
 行景(ぎやうけい・立田) → 行景(こうけい・立田たつた、狂歌) P 1 9 4 5  
 行啓(ぎやうけい・柚木) → 玉洲(ぎよくしゅう・柚木ゆきの、藩士/絵師) U 1 6 2 0  
 堯景(ぎやうけい→たかかげ・里村)→昌休(しょうきゅう・里村さとむら、連歌師;家祖) S 2 2 0 3  
 業卿(ぎやうけい・藤堂) → 高基(たかもと・藤堂、藩士、詩/兵法) N 2 6 4 3

- 恭敬齋(きょうけいさい・神村)→ 正鄰(まさちか・神村かみむら、国学/神道家) D 4 0 7 5  
 恭敬先生(きょうけいせんせい:諡)→ 東里(とうり・伊藤、儒者/詩人) I 3 1 1 4  
 仰継堂(ぎょうけいどう) → 鹿里(ろくり・伊藤いとう、儒者/巷説) B 5 2 1 7  
 C1639 京月(敬月/鏡月/教月きょうげつ・きょうがつ;法諱)?-? 1246存 鎌倉期天台宗清水寺僧、  
 歌人・連歌作者;花下連歌の指導者、続拾遺502/菟玖波6句入、  
 [ながらへて八十やそぢの春にあふ事は花見よとての命なりけり](続拾遺;春502)  
 鏡月(きょうげつ・北行ほっこう、田辺)→ 豊矩(とよのり・田辺、富士講神道) R 3 1 4 5  
 J1642 暁月(ぎょうげつ/ぎょうがつ、暁月坊)?-? 鎌倉期伝説的狂歌作者;狂歌の祖とされる、  
 新撰狂歌集/1666古今夷曲集4首入、  
 [暁月きやうぐはつに毛のむくむくと生えへよかしさるものの子と人にいはれん](古今夷曲集)  
 後世;法名暁月から冷泉為守[1265-1328]に比定される、  
 参照 → 為守(ためもり・冷泉/藤原) H 2 6 5 6  
 B1610 暁月(ぎょうげつ・野呂瀬のろせ、名;つな、字;くに、藩士野呂瀬自堅[桃鳥]女)1830-1909<sup>80</sup> 名古屋歌人、  
 服部秋風しゅうふう(1829-55/野呂瀬自堅の養嗣)の妻、歌:桂園派、国学:植松茂岳/尾崎穴夫門  
 夫 → 秋風(しゅうふう・野呂瀬のろせ、藩士/歌人) I 2 1 2 4  
 暁月(ぎょうげつ;法師) → 為守(ためもり・冷泉れいせい、歌人) H 2 6 5 6  
 驚月庵(きょうげつあん) → 公軌(こうき/きんり・打它うだ/うつだ、歌人) E 1 9 9 4  
 暁月庵(ぎょうげつあん) → 盛信(もりのお・葦名あしな、邑主/歌人) G 4 4 1 8  
 橋月齋一慶(きょうげつさいいつけい)→ 敬喜(たかよし・岡崎おかざき、代官/歌人) W 2 6 2 7  
 狂月舎(きょうげつしゃ) → 梅彦(めいひこ・四方、戯作者/狂歌) 1 2 9 3  
 行月坊(ぎょうげつぼう) → 文暁(ぶんぎょう;法諱・藁井、真宗僧/俳人) F 3 8 0 4  
 暁月楼(ぎょうげつろう) → 黄石(こうせき・岡野、儒者/詩人) K 1 9 0 8  
 V1683 慶憲(きょうけん;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、  
 歌人;1237刊[檜葉集]入、  
 [暁の花の心を、  
 よは(夜半)はなほ残ると思ふに山の端のしらむや花のこずゑなるらむ](檜葉;春49)  
 V1685 教賢(きょうけん;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、  
 歌人;1237刊[檜葉集]2首入、  
 [須摩のあまの藻塩の煙たちこめてたがひにふかき浦の夕霧](檜葉;秋226)  
 V1689 経賢(きょうけん;法諱) ? - ? 鎌倉期;南都の僧/法師、  
 歌人;1237刊[檜葉集]入、  
 [ふる里のまがきのうちのつぼすみれこぞもことしも我のみぞつむ](檜葉;雑787)  
 G1671 慶賢(きょうけん・真言阿闍梨)?-? 高野板開版・1289「三教指帰」開版  
 C1641 経賢(きょうけん;法諱、妙法院法印/按察僧都、頓阿男)?-? 1387存 南北期末期僧;権律師、  
 1364新玉津社別当/1372父没後常光院・蔡花園を伝領、法院権少僧都/法印権大僧正、  
 歌人、1364父と「新拾遺集」編纂を助成、1336年中行事/67新玉津社歌合参加、  
 1387(至徳4)浄阿五代奉納[隠岐高田明神百首和歌]3首出詠、  
 勅撰19首;新千載(1317)新拾遺(512/1173)新後拾(535/608/1340)新続古(13首)、  
 [涙河袖にかけつつしがらみのせかぬ逢ふ瀬もなどよどむらむ](新千;恋1317)  
 [滝の上のあさのの雉子きぎすあらはれてかくろひかぬる春の若草](高田百首;13)  
 教頭(きょうけん・藤原) → 教頭(のりあき・藤原、歌人) E 3 5 1 9  
 教兼(きょうけん・冷泉) → 教兼(のりかね・冷泉/本姓藤原、歌人) E 3 5 4 3  
 共建(きょうけん・奥山) → 華嶽(かがく・奥山/藤、藩士/儒者) H 1 5 2 1  
 恭軒(きょうけん・藤塚) → 知直(ともなお・藤塚ふじつか、神道家) Q 3 1 0 0  
 恭軒(きょうけん・吉見) → 幸和(よしかず・吉見/菅原/源、神職/国学) 4 7 0 6  
 恭憲(きょうけん・二木) → 秀幹(ひでもと・二木ふたき/にき、商家/歌人) K 3 7 9 0  
 薑堅(きょうけん・坂倉) → 澹翠(たんすい・坂倉さくら、詩人) I 2 6 9 1  
 享軒門(きょうけん・菊池) → 淡雅(たんが・菊池/大橋、商家/儒者) T 2 6 2 1  
 V1695 教源(きょうげん;法諱) ? - ? 平安後期僧;律師、1165清輔[続詞花集]入、

[年ごろ御導師にて侍るに人の申し侍りければ、  
のぶしにておほくのとしはへぬれどもまだこそふれぬをみなへしには]、  
(続詞花;戯咲964/野伏;山野に野宿する修行僧)

N1665 敬彦(きょうげん;法諱・実幢じつとう;字、俗姓奥村)1807-6054 大津天台僧:1819心源印純称門、  
園城寺敬長門;蘿月院住/園城寺法明院を継承、  
「蘿月漫録」「越溪道蹟」「毘沙門類聚」外著多数  
[敬彦の号]号;恭堂/蘿月/守黒軒

慶源(きょうげん・けいげん) → 慶深(きょうじん;法諱、僧/歌人) C 1 6 6 9

恭彦(きょうげん・脇坂) → 恭彦(たかひこ・脇坂わかさか、医者/歌人) 2 7 3 5

教言(きょうげん・山科) → 教言(のりとき・山科/藤原、廷臣/連歌) F 3 5 2 0

教嚴(きょうげん;法諱) → 教嚴(ぎょうげん;法諱、法印/歌人) V 1 6 9 3

郷彦(きょうげん・三浦) → 郷彦(くにひこ・三浦みづら/源、藩医/歌) E 1 7 5 4

C1640 行賢(ぎょうけん;法諱、下総守源有通男)?-? 鎌倉初期真言仁和寺僧/御室庁務/法眼/法印、  
大蔵卿、歌;新勅撰1180、  
[つくづくと暮るる空こそかなしけれあすもきくべき鐘のおとかは](新勅撰;雑1180)

C1642 行顯(ぎょうけん;法諱、藤原為継男)?-? 鎌倉期天台叡山僧;法印/権少僧都、伊信・継尊の弟、  
歌人、新千載1750、新拾遺1859、  
[いとひてもなほ生ける世は空蟬の身をかへながらねこそなかるれ](新千;雑1750)

C1643 堯憲(ぎょうけん;法諱、称;三省、清水谷公知男/堯孝養嗣子)?-? 1502存 室町中期僧・歌;堯孝門、  
師の養子;常光院継承/長祿1457-60頃室町殿月次会参加/65和歌所開闢/77越前一乗谷住、  
1493「和歌深秘抄」著、95上洛し橋本公夏に「古今集」講義/98小御所で「伊勢物語」講義、  
清水谷実久の弟/堯盛の父

S1628 行謙(ぎょうけん;法諱、号;黙庵)1688-? 京天台僧:金蓮寺住/多武峯に住、  
1726「阿弥陀経顕宗鈔」「天台四教儀集解講録」、「天台四教儀新註」「観経疏妙宗鈔講録」著

G1672 堯憲(ぎょうけん;法諱、権大納言園その基音男)?-? 江前期天台僧;京竹林院/日嚴院住、探題大僧正、  
1682後水野尾院37回忌・85後西院27回忌経供養、大阿闍梨/談山学頭、  
1664「梨耶一念要文」71「大会探題愚記」82「御経供養法則」85「御経供養法則」著、  
1695堯恕法親王「逸堂集」卷末に「師子吼院堯恕親王行状」堯憲撰、1706「降魔大師縁起」著

N1666 行玄(ぎょうげん;法諱、俗名;藤原良実、師実男)1097-115559 母;藤原忠俊女、天台僧;寛慶門、  
叡山の良祐に灌頂受/青蓮院門跡の初祖/法務・法性寺座主/1138(保延4)天台座主、  
1145(久安元)大僧正となる、  
「三戒」、1118「降三世極秘密法要」著

行源(ぎょうげん) → 行深(ぎょうじん、真言僧/歌人) C 1 6 6 8

行源(ぎょうげん;法名) → 土御門天皇(つちみかどてんのう、配流/歌人) 2 9 0 9

堯言(ぎょうげん・山科) → 堯言(たかとき・山科やましな、廷臣/日記) M 2 6 4 0

業元(ぎょうげん・水足) → 博泉(はくせん・水足みずたり、儒者) D 3 6 5 1

狂言綺語堂(きょうげんきぎどう) → 一鳳軒(いっぽうけん・西沢、歌舞伎作者) 1 1 2 6

仰見千古書屋(ぎょうけんせんこしよおく) → 眞守(まもり・後藤/枚岡、国学/神職) K 4 0 1 3

恭俊先生(きょうげんせんせい:諡、松永尺五せきご) → 昌三(しょうぞう・松永) 2 1 8 9

狂言亭(きょうげんてい;戯作号) → 春雅(しゅんが・為永、噺家/戯作者) J 2 1 2 9

N1667 狂言堂(きょうげんどう・近松ちかまつ、中川なかがわ、名;泰造/高輔)1784?-?1855後没 浄瑠璃研究/著述、  
京で儒・心学修学/近松門左衛門に私淑;上方で百回忌法要催/江戸で顕彰碑建立、  
京阪で著述活動;浄瑠璃・図会・雑俳、1826「貧富太平記」30「浄瑠璃節秘伝抄」著、  
1842「浄瑠璃大系図」44「春屋五雑記」48「人心百物語」49「三界一心記図会」著、  
1849「浪花十二月画譜」55「十一面観音陀羅尼経図絵」著、55/56「東海道五十三次柳樽」編、  
[狂言堂の別号]心庵/蝶々子/緋月(斎)/近松春屋軒(春翠軒)緋月(斎)/近松(屋)門左衛門、  
近松門三郎春翠/中川初学堂/はるのや(春の屋/春屋)/樗翁/藤原為絢/真脱庵、  
まぬけ庵不調法師

狂言堂(きょうげんどう) → 如臯(2世じょう・瀬川せがわ、歌舞伎作者) 2 2 1 0

狂言堂左交(きょうげんどうさこう) → 治助(初世じすけ・桜田、歌舞伎作者) 2 1 2 3



- 狂言堂左交(きやうげんどうさく)→ 治助(3世じすけ・桜田、歌舞伎作者) I 2 1 1 5  
 狂言日本一黍団子(きやうげんにつぼんいちきびだんご)→ 眞守(まもり・後藤/枚岡、国学/神職) K 4 0 1 3
- N1668 鏡湖(きやうこ・竜りゅう、名;世文/字;子章/通称二郎、草廬そうろう男)?-?夭逝 江中期近江彦根の儒者/詩、  
 ;父門、1778「竜廬盧先生南遊艸」編、「鏡湖遺稿」、玉淵(1751-1821)の弟
- G1673 鏡湖(きやうこ・高田たかた) ? - ? 江後期儒者、1794「合注諺解孔子家語」著  
 鏡湖(きやうこ・伊藤) → 鏡河(きやうか・伊藤いとう、儒者) N 1 6 3 8  
 鏡湖(きやうこ・尾崎) → 称斎(しょうさい・尾崎おさき、藩儒者/教育) S 2 2 3 2  
 鏡湖(きやうこ・賀古) → 清廉(きよかど・賀古かこ、藩士/文筆家) O 1 6 7 3  
 鏡子(きやうこ・戸田) → 鏡子(けいこ・戸田とだ/稲葉、藩主室/歌) N 1 8 8 4  
 京子(きやうこ・帆足) → 京(みさと・帆足ほあし/岡、詩人) 4 1 8 3  
 京吾(きやうご・岡内) → 幸盛(ゆきもり・岡内おかうち/平、医者/歌) G 4 6 7 0  
 暁湖(ぎやうこ・多紀) → 元所(もとあき・多紀、医者/詩人) C 4 4 0 0  
 仰古(ぎやうこ・加藤) → 行虎(みちたけ・加藤/柴田、医者/歌人) B 4 1 7 4
- G1674 堯午(ぎやうご) ? - ? 連歌作者、1475「因幡千句」連衆
- N1669 暁颯(ぎやうご) ? - ? 江前期名古屋俳人;1689「あら野」3句入  
 [一色ひといろや作らぬ菊のはなざかり](あら野:卷四暮秋)
- N1670 暁悟(ぎやうご;法諱) 1810 - 186152 近江大津の真宗大谷派福賢寺生/学僧:徳童・普門門、  
 ししば講筵:子弟教育、「正信偈曼多羅絵伝」著  
 鏡湖庵(きやうこあん) → 瑞石(ずいせき、俳人) E 2 3 7 5
- N1672 経孝(きやうこう;法諱、俗姓;鳥居小路/本姓高階、経乘法印男) 1545-162076 代々青蓮院の庁務、  
 天台僧/青蓮院尊朝/尊純に勤仕、大蔵卿、1579鞍馬寺別当/95法印、  
 1599「鞍馬出入日記」著、  
 [経孝の初諱/号/法号]初諱;経存、号;運光院、法号;運光院法印大和尚位経孝
- J1634 共光(きやうこう) ? - ? 京の俳人、淡々門、1728柳岡「万国燕」4句入、  
 [老い鹿の嵐を送る夜明哉](万国燕;6/妻を求め一晚中啼き嵐を見送るように峰に立つ)  
 共綱(きやうこう・清閑寺) → 共綱(ともつな・清閑寺せいかんじ、廷臣/日記) P 3 1 8 2  
 恭光(きやうこう・渡辺/戸田) → 茂睡(茂妥もすい・戸田/渡辺、歌人) 4 4 0 5  
 恭光(きやうこう・裏松) → 恭光(ゆきみつ・裏松うらまつ/藤原、大納言) F 4 6 7 5  
 恭公(きやうこう;諡号) → 頼元(よりもと・松平/徳川、藩主/歌人) J 4 7 8 4  
 恭公(きやうこう;諡号) → 純昌(すみまさ・すみよし・大村、藩主/藩政改革) D 2 3 9 7  
 恭厚(きやうこう・菅野) → 恭厚(やすあつ・菅野かんの、儒者) 4 5 9 1  
 経厚(きやうこう) → 経厚(けいこう/きやうこう、天台僧/古典学) 1 8 5 1  
 教広(きやうこう・滋野井) → 教広(のりひろ・滋野井しげい/藤原、廷臣/歌) I 3 5 6 9  
 教弘(きやうこう・入道) → 教弘(のりひろ・大内/多々良、連歌) F 3 5 6 0  
 教弘(きやうこう/のりひろ・天野) → 宗歩(そうほ・天野あまの/平、棋士) I 2 5 8 7  
 教興(きやうこう・土肥) → 教興(のりおき・土肥どひ、藩士/歌人) J 3 5 2 7  
 卿公(きやうこう) → 天目(てんもく;法諱・浄法房、日蓮僧) E 3 0 3 8  
 郷孝(きやうこう・山崎) → 郷孝(さとたか・山崎やまさき、藩士/捕縄術) K 2 0 5 5  
 郷高(きやうこう・青地/源) → 慶安(けいあん・青地あおち/源、俳/歌人) D 1 8 3 4  
 匡好(きやうこう・桃沢) → 匡好(まさよし・桃沢もまさわ/大沢、国学/歌) T 4 0 2 1  
 匡衡(きやうこう・大江) → 匡衡(まさひら・大江、廷臣/漢学/詩歌) 4 0 1 8  
 匡衡(きやうこう・佐藤) → 匡衡(まさひら・佐藤さとう、文筆家) G 4 0 8 3  
 匡幸(きやうこう・増山) → 正賛(まさよし・増山ましま/藤原、藩主) I 4 0 5 4
- N1673 経豪(きやうこう;法諱、五辻いつじ宣経男)?-1309 初め叡山修学;法印/曹洞僧:道元・詮慧門、  
 正法眼蔵研究、「正法眼蔵仏性巻抄」「釈尊讚歎説法詞」、1302-8「正法眼蔵抄」著  
 経豪(きやうこう;法諱/仏光寺僧) → 蓮教(れんきやう;法諱、本願寺僧) 5 1 9 8
- C1644 堯孝(ぎやうこう;法諱、堯尋男/頓阿の曾孫) 1391-145565 法印;権大僧都/二条派歌学者/歌人、  
 1432「富士紀行」33「伊勢紀行」著、33新続古今集撰進の和歌所開闢かこう、  
 1434「堯孝新玉津島社法楽詠三十首和歌」/35「堯孝百首」著、  
 1443一条兼良家歌合/50後崇光院催[仙洞歌合]参加、1448歌学「桂明抄」著、



1448(文安5)賢良[畠山匠作亭詩歌]参加、家集「慕風愚吟集」「堯孝集」著、  
「堯孝一夜百首」「愚問賢註抄」「堯孝法印日記」著、  
勅撰;新続古今7首168/311/472/688/962/1216/2138、堯慧/東常縁じょうえんの師、  
[鳥はいまねぐらをしむる梢にも花はとまらぬ春風ぞ吹く](新続古;168、  
新玉津島社三十首歌/夕落花)、  
[露になびき風にともなふ萩をめで萩をうらやむ秋の夕暮]、  
(匠作亭詩歌;16萩叢萩花/対するは雲章一慶の詩)、

[堯孝の号/通称] 号;常光院/満願院、通称;和歌所旧老法印/和歌所老拙法印

N1674 行康(ぎょうこう;法諱・俗姓;今小路いまこうじ/三善、法眼行忠男)1552-1616<sup>65</sup> 妙法院宮坊官/天台法印、  
連歌:1596慶長元十月何木百韻/十二月六日百韻(宗白らと)、1605慶長十年山何百韻

業広(ぎょうこう/なりひろ・大谷)→ 永庵(えいあん・大谷、天台僧/書家) C 1 3 4 7

業広(ぎょうこう/なりひろ・木下)→ 韓村(いそん・木下、儒者/詩人) E 1 1 1 2

業広(ぎょうこう/なりひろ・山田)→ 椿庭(ちんてい・山田、医者/詩) K 2 8 9 2

業広(ぎょうこう・神原) → 業広(なりひろ・神原かんばん、商家/国学) L 3 2 8 0

業広(ぎょうこう・小西) → 業広(なりひろ・小西こにし、国学者/歌) M 3 2 1 0

暁碧(ぎょうこう・日野) → 鼎哉(ていさい・日野ひの、医者/種痘) 3 0 8 6

堯侯(ぎょうこう・大島) → 芙蓉(ふよう・高こう/大島、篆刻家) E 3 8 4 7

行豪(ぎょうごう) → 源豪(げんごう;法諱・大仙房、天台僧) I 1 8 8 5

敬興院(きょうこういん) → 堯仁(ぎょうにん;法諱・光教、真宗/天台僧) O 1 6 4 3

敬興院(きょうこういん) → 光円(こうえん;法諱・良如、真宗本願寺派僧) H 1 9 6 3

鞏黄斎(きょうこうさい) → 茶村(ちやそん・宮本、儒者/詩人) F 2 8 5 8

T1625 鏡光尼(きょうこうに) ? - ? 江後期;歌人、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[ますかがみ君が姿を見てしよりいとどくもるは心なりけり](大江戸倭歌;恋1612)、

[うきときにくれし袂のいかなればうれしきにさへかわかざるらん]、

(同;雑1973/憂喜同涙)

行光房(ぎょうこうぼう) → 円俊(えんしゅん;法諱、天台僧) E 1 3 9 1

行光房(ぎょうこうぼう) → 智観(ちかん;法諱、行光房、天台僧) C 2 8 3 3

行光坊(ぎょうこうぼう) → 堯真(ぎょうしん;法諱、天台僧) O 1 6 1 2

仰高院(ぎょうこういん;法号)→ 隆尊(りゅうそん;法諱、法相僧/大僧正) F 4 9 0 7

堯光房(ぎょうこうぼう・伝信)→ 興円(こうえん;法諱、天台僧) H 1 9 6 1

G1675 番谷(きょうこく) ? - ? 江中期岩城の俳人;沾徳門、

1716宗瑞編「江戸筏」天巻に独吟歌仙入、

[おほぞらを菜種に聞けり罌子けしの花](江戸筏えどいかだ:天・第五の発句)

(下を向く罌子の蕾が自分より先に天を向いて咲く菜種に空の様子を尋ねている)

教国(きょうこく・滋野井しげのい)→ 教国(のりくに・滋野井、廷臣/歌/連歌) E 3 5 4 6

共穀(きょうこく・横田) → 政徳(まさのり・横田よこた、商家/歌人) T 4 0 6 6

C1646 京極(きょうごく・後白河院、藤原俊成女)?-1181? 平安後期歌人、藤原成親妻、1181出家、新勅623

[西の海いる日をしたふ門出して君の都に遠ざかりぬる](新勅撰;十623)

(老いて天王寺に籠もっているときの歌)

C1645 京極(きょうごく、大納言藤原[近衛]基良女)?-? 鎌倉中期歌人、新後撰528・1149

[暮れはてて今はかざりと行く年のみちふりかくせ夜のしら雪](新後撰集;六冬528)

N1675 京極(きょうごく・宗良親王家女房)?-? 南北期歌:新葉入741/970/1158

[恋ひしねとするわざならば夢とりもうつつにひとめ見ゆべきものを](新葉;十二恋741)

崎陽国学の三雄(きょうこくがくのさんゆう);長崎の3人の著名な国学者(「崎陽」は長崎の中国風呼び名)

→ 光輔(みつすけ・近藤)1781-1841 D 4 1 6 7

→ 永章(えいしょう・青木)1787-1845 1 3 3 5

→ 広足(ひろたり・中島)1792-1864 3 7 2 1

京極北政所(きょうごくきたのまんどころ)→ 麗子(れいし/よし・源みなもと/藤原、師実室/歌) 5 1 3 2

- 京極前関白太政大臣(きょうごくさきのかんぱくだいじょうだいじん)→師実(もろざね・藤原)H 4 4 2 4  
 京極殿(きょうごくどの/京極太閤)→師実(もろざね・藤原ふじわら、摂政関白/歌)H 4 4 2 4  
 京極殿(きょうごくどの) → 麗子(れいし/よしこ・源みなもと/藤原、師実室/歌)5 1 3 2  
 京極院侂子(きょうごくいんのきし)→侂子(きし、京極院、龜山天皇皇后)F 1 6 9 1
- N1676 京極院内侍(きょうごくいんのないし、皇后宮内侍こうごうのみやのないし、藤原頼資女)?-? 鎌倉中期女房歌人、  
 龜山天皇の后侂子の女房、勅撰3首;続古989/続拾遺418/940、  
 [しられじなたえず心にかかるともいはでのやまのみねのしらくも](続古今;十一恋989)
- N1677 京極贈左大臣(きょうごくぞうさだいじん)?-? 南朝の臣、歌人:新葉3首369/974/1087、  
 [寢覚めして夜寒をわぶる人もあらば聞けとや賤が衣うつらん](新葉;369)  
 日野資朝説あり→資朝(すけとも・日野、後醍醐天皇側近)C 2 3 5 7  
 京極右府(きょうごくのうふ)→公基(きんもと・西園寺、右大臣/歌)E 1 6 7 8  
 京極黄門(きょうごくのこうもん)→定家(さだいえ/ていか・藤原、廷臣/歌人)2 0 1 6  
 京極前関白家肥後(きょうごくのさきのかんぱくけのひご)→肥後(ひご・歌人)3 7 5 1  
 京極前関白太政大臣(きょうごくのさきのかんぱく-)→師実(もろざね・藤原)H 4 4 2 4  
 京極太政大臣(きょうごくのだいじょうだいじん)→宗輔(むねすけ・藤原、廷臣/舞・笛)B 4 2 4 4  
 京極大納言(きょうごくのだいなごん)→雅俊(まさとし・源、権大納言/歌)E 4 0 4 1  
 京極中納言(きょうごくのちゅうなごん)→兼輔(かねすけ・藤原、廷臣/歌人)1 5 3 0  
 京極中納言(きょうごくのちゅうなごん、黄門)→定家(さだいえ・藤原、廷臣/歌人)2 0 1 6  
 京極宮(きょうごくのみや)→文仁親王(あやひとしんのう、靈元皇子、歌)F 1 0 1 3
- C1647 京極御息所(きょうごくのみやすどころ、名;褒子よしこ/ほうし、藤原時平女)?-? 宇多天皇讓位後の妃;御息所、  
 921春日社供奉、元良もとなが親王と恋/醍醐天皇女御として入内の夜宇多法皇に奪われた話/  
 法皇と共寝の際源融の霊が出た話/志賀寺上人の恋の話等逸話が多い(俊頼髓脳・古事談)、  
 宇多法皇との間に雅明・載明・行明の3親王を産んだが出家後なので醍醐天皇の子とした、  
 法皇没[931(承平元)]後は尼となり仁和寺で戒を受ける、  
 歌;921「京極御息所歌合」主催(判者藤原忠房)、元良親王と親交;大和物語入、後撰集1404、  
 [墨染めの濃きも薄きも見る時は重ねて物ぞかなしかりける](後撰;哀傷1404)、  
 (宇多法皇の喪[931承平元]に濃い鈍にび色の喪服を作った余り布に書いて贈った歌、  
 死者との関係で喪服の濃淡に違いがある)
- 京極御息所一条の君(きょうごくのみやすどころのいちじょうのみきみ)→一条(いちじょう・貞平親王女)G 1 1 2 5  
 仰古軒(ぎょうこけん)→広運(ひろゆき・柿沼かきぬま、神職/国学)J 3 7 0 1  
 鏡古亭(きょうこてい)→仲敬(なかつか・山田やまだ/西巻、商家/儒/歌)P 3 2 1 8  
 鏡古堂(きょうこどう)→半仙(はんせん・山田、仲敬男/商家/儒/歌)K 3 6 9 3  
 況軀洞(きょうこどう)→南溪(なんけい・名越なごや、藩士/儒者)I 3 2 8 3  
 教悟房(きょうごぼう;字)→幸明(こうみょう;法諱・教悟房、真言僧)L 1 9 2 9  
 鏡湖楼(きょうころう)→保躬(やすみ・下沢しもざわ、藩士/国学/歌)G 4 5 0 0  
 恭五郎(きょうごろう・小笠原)→競(きそう・小笠原おがさわら/奥瀬、藩士/国学)T 1 6 6 5  
 喬五郎(きょうごろう・佐藤)→永忠(ながただ・佐藤さとう、藩士/歌人)M 3 2 2 0  
 鏡湖楼花蔭(きょうころうかいん)→保躬(やすみ・下沢しもざわ、藩士/国学/歌)G 4 5 0 0
- V1693 教巖(ぎょうがん;法諱、伊賀守藤原仲教男)?-? 母;大江広元(1148-1225)女、鎌倉期;僧、  
 喜巖法眼門/六条若宮(六条左女牛若宮/六条八幡宮)別当;法印、  
 定承(法印)・定澄・聖禪・行禎・覚誉の父、歌;雲葉集入、  
 [月すめばつがはぬをし(鴛鴦)もなかりけり波の枕に影をならべて](雲葉;冬806)
- V1612 慶言(きょうごん;法諱・姓;藤ふじ、号;真阿/神阿)1823-9472 近江伊香郡古保利村の妙覚寺23世、  
 真宗大谷派僧、歌人;[鴉のうみ]入
- N1678 行巖(ぎょうがん;法諱・仏頂房;字)1043-112381 天台叡山僧;頼昭門/池上流、のち仏頂流を開く、  
 1116権律師、「口秘決」「口秘聞」「穴太決」著  
 堯巖(ぎょうがん;法名)→尚実(なおざね・九条、門跡/撰政/日記)B 3 2 2 4  
 行巖(ぎょうがん;字)→宥信(ゆうしん;法諱・行巖、真言僧)C 4 6 7 1  
 行巖(ぎょうがん;号)→雲歩(うんぽ;法諱・行巖、曹洞僧/仮名草子)B 1 2 6 0  
 行巖(ぎょうがん;法名)→師員(もろかず・中原、廷臣;明経博士/歌)H 4 4 1 1

- 行庵院(ぎょうあんいん;号) → 亮海(りょうかい;法諱・行庵院、天台僧) G 4 9 7 9  
 堯佐(ぎょうさ・門田) → 樸斎(朴斎ぼくさい・門田もんでん/山手、儒者) D 3 9 1 6
- N1679 恭斎(きょうさい・根市ねいち、名;政徳、田鎖たぐさり[根城]光豊男) 1671-1737 67 盛岡藩士/儒:昌平覺入、  
 林鳳岡門、藩命で根市に改姓、藩校稽古所教授/書物奉行、「南昌山記」著、  
 [恭斎の通称/別号]通称;半蔵/権四郎、別号;(剃髪後)安養/安節
- C1650 強斎(きょうさい・若林わかばやし、名;正義/進居ゆきやす、鍼医正印男) 1679-1732 54 京の儒者:  
 浅見綱斎門・三傑の1、1711綱斎の学統継承;京堺町に開塾、垂加神道;玉木正英門、  
 崎門学の統一;闇斎学を継承、歌人/勤王思想、  
 「神道大意」、「たむけの説」、「三科祓説」、語録「雑話筆記」、詩歌「強斎先生遺草」、  
 「若林子語録」「神道夜話」「風葉拾遺」「強斎語録」、「強斎先生集」「強斎遺稿」外著多数、  
 [強斎の通称/別号]通称;新七/進七、別号;寛斎/守中翁/自牧/守中、家塾名;望桶軒
- N1680 強斎(きょうさい・井沢いざわ、名;剛中) 1705-55 51 播州高砂の儒者;三宅尚斎門/朱子学・詩文、  
 諸藩の招聘を不受、1751「明倫堂記」著、墓碑銘は岡白駒の執筆、  
 [強斎の字/通称]字;子悦、通称;三郎兵衛/遠治
- C1649 狂斎(きょうさい・原はら、名;公逸/字;飛卿) 1735-90 56 代々阿波徳島藩洲本城代稲田家家臣、  
 1755(21歳)致仕、儒/折衷学;井上金峨門、江戸駒込で講説業/射術騎法精通、  
 晩年;剃髪し参禅;修真名、  
 「師友談録」「諸友贈答詩文」「狂斎類定録」「狂斎集」「狂斎雑録」「学庸私衡」「修身語録」著、  
 「原子」「周易彙考統紹」「周易啓蒙図説」、1782「狂斎録」「藝海蠹」著、「修真道人遺稿」、  
 [狂斎の通称/別号]通称;沖蔵/豹蔵、別号;修真道人/修真道人
- I1678 彊斎(きょうさい・菅野すげの、名;景知/字;子行) 1766-1830 65 播磨西構村医者;家学/儒;西山拙斎門、  
 1824姫路藩郷校教授/竜野藩儒;世子の侍読、詩文、茶山・山陽と交流/明石駅舎で客死、  
 1808「私定傷寒論」「葭玉篇」、「経説文論」「天職説并和解」著、「彊斎先生文集」、  
 [彊斎の通称/別号]通称;岱立、別号;維新庵/鷄肋山人、子泉の父
- N1681 恭斎(きょうさい・鈴木すずき、名;讓/字;文讓) ?-? 江戸後期秋田の儒者:朝田善庵門/1818高崎住、  
 聿脩堂開塾;門弟指導、1825「藤蔭叢話」著、
- N1682 恭斎(きょうさい・市河いちかわ、名;三千、稲毛いなげ屋山おくざん男/市河米庵養子) 1796-1833 38 讃岐書家、  
 書/詩;米庵門/米庵妹と結婚、篆刻、1831「米菴先生百絶」編  
 [恭斎の字/通称/別号]字;桃翁、通称;三千太郎、別号;古学庵
- I1679 況斎(きょうさい・岡本おかもと、名;孝たかし/保孝やすたか、旗本若林包貞男) 1797-1878 82 幕臣岡本保修養子、  
 養父困窮;節儉、国学;清水浜臣門/儒:狩谷椽斎門/1870大学中博士/編輯寮で「語彙」編纂、  
 「況斎雑話」「難波江」「耳袋」「長秋詠藻備攷」「またるる声」、「況斎叢書」「況斎随筆」「雑著」著、  
 [況斎(;)号)の字/通称/別号]字;子戒、通称;縫殿助ぬいすけ/勘右衛門、  
 別号;順台/歳計堂/拙誠堂/戒得居士/麻志天之屋、法号;栄寿院
- S1614 彊斎(きょうさい・青木あおき、名;定志/通称;理蔵、定位[渙斎]男) 1834-80 47 羽後角館儒者/秋田藩士、  
 1862学館教授並/63軍事方の砲術訓練指導、平田国学;吉川忠行・忠安門/戊辰戦争で負傷、  
 神職;北秋田郡七座神社祠官、「辨山狐論」著
- N1683 拱斎(きょうさい・青山あおやま、名;思道ともみち/字;子黙/通称黙蔵) ?-? 江戸後期江戸下谷の儒者、  
 幕臣勘定方、「拱斎詩稿」著
- 檀斎(きょうさい・鳥越) → 常成(つねなり・鳥越、藩士/国学・歌) C 2 9 9 6  
 杏斎(きょうさい・八角) → 高遠(たかとお・八角、医者) M 2 6 3 8  
 杏斎(きょうさい・新村) → 美英(よしひで・新村にいむら、医者/歌人) O 4 7 3 1  
 享斎(きょうさい・水谷) → 民彦(たみひこ・水谷/日比野、商家/国学) S 2 6 2 8  
 恐斎(きょうさい・堀田) → 之岳(ゆきむら・堀田ほつた/紀、神職) F 4 6 7 8  
 箴斎(きょうさい・皆川) → 淇園(きえん・皆川みながわ、儒者) 1 6 0 4  
 狂斎(きょうさい・河鍋) → 晧斎(ぎょうさい・河鍋、絵師) N 1 6 8 5  
 狂斎(きょうさい・滝沢) → 馬琴(ばきん・曲亭きよてい、読本作者) 3 6 0 7  
 拱斎(きょうさい) → 北溪(ほつげい・魚屋ととや、魚商/絵師) E 3 9 6 0  
 境斎(きょうさい・檜崎) → 貞輪(かづもと・檜崎ならさき、歌人) V 1 5 2 7  
 矯斎(きょうさい・尾崎) → 久愷(ひさやす・尾崎、藩士/儒者) C 3 7 1 0



- 喬齋(きょうさい・森川) → 頼(たのむ・森川もりかわ、楽人/国学/歌) 2702  
鏡齋(きょうさい) → 豊熙(とよてる・山内、藩主) R3133  
鏡齋(きょうさい・増田) → 垂穂(たるほ・増田ますだ、神職/郷土史家) T2605  
恭齋(きょうさい・日尾) → 荊山(けいざん・日尾ひお、儒者/詩人) 1805  
恭齋(きょうさい・浅野) → 文童(ぶんりゅう・浅野あさの/丹羽、医者) G3868  
恭齋(きょうさい・黒瀬) → 元礼(もとみや・黒瀬くろせ、商家/国学者) J4493  
恭齋(きょうさい・浜中) → 良亮(よしすけ・浜中はまなか/源、名主/国学) O4757  
興齋(きょうさい・狩野) → 探信(たんしん・狩野かのう、絵師) I2686  
強哉(きょうさい・藤井) → 竹外(ちくがい・藤井、藩士/鉄砲/詩人) C2878
- C1648 行濟(ぎょうさい/ぎょうせい; 法諱・俗姓三条/源、法印覺宗or法眼行任男)?-? 鎌倉期仁和寺御室坊官、真言僧; 法眼/性助法親王に出仕、歌; 「性助法親王家五十首」/為世勸進「春日社三十首」参、続現葉入、勅撰22首・続拾(903)新後撰(1071/1541/1548)続千6首/続後拾3首/新千6首以下、法眼行胤ぎょういん・昭訓門院小督ごうの父、  
[頼むぞよいひしばかりを契にて有明までの長月の空](続拾遺; 恋903/親王家五十首)
- N1684 翹齋(ぎょうさい・海老名えびな、名; 綱けい/敬、字; 叔尚/周輔)?-? 江後期1818-44頃奥州の儒者、江戸根岸中通住、安積良齋と親交、1821「遊囊日録」著
- N1685 暁齋(ぎょうさい・河鍋かくなべ、名; 洞郁/字; 陳之、河鍋[甲斐]喜右衛門男)1831-8959 下総古河の生、江戸住/絵師; 1837歌川国芳門/狩野洞白門/1849絵師として独立、1860「狂齋画譜」、1861「能狂百図二編」67「能画図式」、「狂言艸」「狂齋百図」「惺々狂齋画譜」、「暁齋楽画」画、  
[暁齋の通称/別号]通称; 周三郎、別号; 周曆/狂齋/酒乱齋雷酔/酔雷坊/猩々庵/惺々庵、惺々しょうじょう、(剃髮後;) 是空道人/如空にょく居士、法号; 本有院
- 堯載(ぎょうさい・田中) → 政徳(まさのり・田中、名主/文学/暦算) G4009  
暁齋(ぎょうさい・福田) → 半香(はんかう・福田ふくた、絵師) H3659  
業齋(ぎょうさい・清水) → 羽長(うちょう・清水しみず、名; 円) D1215  
恭三郎(きょうざぶろう・福田) → 半香(はんかう・福田ふくた、絵師) H3659
- S1601 慶算(きょうさん/けいさん; 法諱・筑紫法眼、源俊通男)1138-? 1213存 宇治大納言源隆国の5代の孫、天台園城寺僧、宿曜師/1185法橋/1203法眼/1213法印、1187頃叡山関係の事件に関与、歌人: 私撰「狂言集」(散佚)、新古568・新勅571、算明・良算の父、定豪じょうごう(東大寺別当)の兄弟or従兄弟、  
[時しもあれ冬は葉守はもりの神無月まばらになりぬ森の柏木](新古今; 冬568)、(葉守の神がないので木枯に散ってしまう)
- S1629 慶算(きょうさん/けいさん; 法諱・野宮忠長男)1625or30-9470/65 江前期天台僧/法曼流台密を修学、大僧正に至る、  
「瑜伽口決」、1682「天和二年瑜祇御加行条々消息」/83「輪王寺守全親王御灌頂記」著、  
[慶算の号] 円満坊/用源院、法号; 自性院
- 鏡算(きょうさん; 通称) → 純瑜(じゅんゆ; 法諱・朝純; 字、真言僧) K2152  
教算(きょうさん; 字) → 尊祐(そんゆう; 法諱、真言僧) F2579
- N1686 教山(きょうざん; 法諱) ? - ? 安桃・江戸初期京の浄土僧/誓願寺長老、連歌; 1599慶長四年紹巴教山何船百韻/1600慶長五年紹巴他阿等懐旧百韻連中参加
- N1687 慶山(きょうざん; 法諱) ? - ? 江前期真宗大谷派僧、1702「一枚起請魯編鈔」、「本願寺十四代伝」「聖人伝絵掬滯集」「教行信証螢耀鈔追加待譬集」「三部略談記」著
- N1689 喬山(きょうざん・深沢ふかざわ、名; 茂屋、藩家老茂邦男)?-?80余歳存 江中期播州三日月藩士/儒/歌、三代の藩主に出仕、陽明学; 中江藤樹に私淑、国学/歌、「鶴山遺稿」著、君山くんざんの祖父、  
[喬山の通称] 小十郎/又兵衛/十太夫
- 1633 京山(きょうざん・山東さんとう、本姓; 岩瀬、伊勢屋伝左衛門男)1769-1858長寿90 江戸深川質商の家、1791叔母鵜飼家養子; 丹波篠山藩主家出仕/99致仕; 旧姓/1804頃佐野東洲の婿養子; 離縁、江戸京橋住/篆刻業; 益田勤齋門、石州流茶道、兄京伝に倣い1807合巻「復讐妹背山物語」、1816兄没; 兄家に移住/長男筆之助が2世京伝屋蔵として京伝店継承/合巻160余最大部数、1836越後滞在; 鈴木牧之「北越雪譜」刊行を援助/馬琴と感情的対立、38剃髮(涼仙の号)、短編合巻; 1819「隅田春芸者容気」/長編合巻; 38-56「竹取物語」39-59「大晦日曙草紙」、



1846-58「教草女房形質」47-59「琴声美人録」48-54「朝顔物語」52-61「善知鳥物語」、  
読本;1809「小桜姫風月奇観」、随筆;1846「蜘蛛の糸巻」47「歴世女装考」49「高尾考」、外多数、  
[山東京山(;)号)の名/字/通称/別号/変名]名;百樹、字;鉄梅/鍊梅、

通称;相四郎/利一郎/利市郎、

別号;京山人/山東庵/覽山/鑾山/涼仙/鉄筆堂/方半居士/八十二翁、

一時名;鶉飼助之丞/佐野栄助、法号;栄隆院、京伝の弟、よね(黒鷲式部)の兄

喬山(きょうざん・水野) → 政和(まさかず・水野、鑄物師/和算家) B 4 0 7 7

鏡山(きょうざん・古野) → 元軌(げんき・古野ふるの、藩士/儒者) B 1 8 4 9

鏡山(きょうざん・野々口) → 生白(せいぱく・野々口、立圃男/俳人) C 2 4 7 9

匡山(きょうざん・伊藤) → 長秋(ながあき・伊藤、書家) D 3 2 0 9

樞山(きょうざん・楠瀬) → 小枝(さえ・楠瀬くすのせ、医者/歌人) O 2 0 3 4

S1602 曉山(ぎょうざん) ? - ? 江戸の雑俳点判者、1702「あかゑぼし」入、  
1693?幸佐「一番船」滑稽和漢入

V1661 樂山(ぎょうざん;法諱、通称;徳之助、西田半蔵3男)1810-46<sup>37</sup> 和泉堺の僧;8歳で出家;  
河内丹南郡平尾村融通念仏宗正念寺入;義明門、12歳;師と離縁;富田林村浄谷寺章山門、  
晃山を名乗る/20歳;河内若江郡木戸村清慶寺12世;荒廃した寺の再興、  
大和稗田の詮海上人門;樂山に改名;念仏求法専心、1839(天保10)融通念仏勸進を開始、  
地蔵菩薩を安置活動;大坂玉造稻荷/枚方茄子作本尊掛松/本山大念仏寺など6万人勸進、  
尊崇され[八尾のお上人]と称される、独特の[六字名号]を多く残す、  
1846(弘化3)新清和門院(光格天皇皇后)の病を加持祈祷で平癒、樂山自身同年に病没、

仰山(ぎょうざん・鈴木) → 祥正(さちまさ・鈴木すずき、儒者/詩文) K 2 0 4 5

堯山(ぎょうざん) → 保光(やすみつ・柳沢、藩主/諸芸/歌人) D 4 5 1 6

堯山(ぎょうざん) → 日輝(にちき;法諱・優陀那院、日蓮僧) B 3 3 1 8

暁山(ぎょうざん・青蓮社) → 亮徹(りょうてつ;法諱、浄土僧) L 4 9 5 5

京山人(きょうざんじん) → 慎庵(しんあん・藪やぶ、藩士/儒者) D 2 2 4 5

京山人(きょうざんじん) → 京山(きょうざん・山東、京伝弟/戯作) 1 6 3 3

狂散人(きょうざんじん) → 三千風(みちかぜ・大淀、三井、商家/俳人) 4 1 0 3

G1676 仰山先生(ぎょうざんせんせい、柳浦頓馳奇やぼのどんちき)?-? 江後期の通人;俳諧/狂詩/狂歌/狂文作者、  
狂詩;1832「浪華狂吟」35「浪華酔咏なにわすいゑい」(柳浦頓馳奇編)、35「天保山百首」著

仰山亭(ぎょうざんてい) → 支百(しひやく・五宝ごほう、俳人) F 2 1 5 4

仰山亭(ぎょうざんてい) → 眞風流(まふうりゅう・高寺たかでら、国学/歌) Q 4 0 6 6

樞山坊(きょうざんぼう) → 小枝(さえ・楠瀬くすのせ、医者/歌人) O 2 0 3 4

N1690 教子(きょうし・二条、関白左大臣二条教基女)?-? 長慶天皇の妃/世泰親王の母、従二位、  
南朝歌人;新葉集1390(後龜山天皇皇子世泰親王を後如意輪寺に葬った翌年、  
同寺に参籠の時に天皇より贈歌ありその返歌)、  
[思はずよ松は千歳の友ならで絶えぬ歎きのかげとみんとは](新葉;1390/返歌)、  
(長慶天皇の贈歌;松蔭を思ひやるこそ悲しけれ千代もといひし君が心を)

G1677 夾始(きょうし;号、井手い)? - ? 尾張藩士/俳人・露川門、1698「記念題」松星と共編

教子(きょうし・安斎) → 教子(のりこ・安斎あんざい/北野、歌人) H 3 5 1 9

教嗣(きょうし・九条) → 教嗣(のりつぐ・九条/藤原、廷臣) F 3 5 0 6

教嗣(きょうし・二条) → 教頼(のりより・二条、南朝廷臣/歌) G 3 5 3 6

教之(きょうし・山名) → 教之(のりゆき・山名、武将/連歌) G 3 5 0 9

共之(きょうし・森) → 共之(ともゆき・森もり、医者/漢学) Q 3 1 7 9

共之(きょうし・佐久間) → 義方(よしかた・佐久間さくま、儒者) C 4 7 6 5

恭之(きょうし・吉沢) → 尺童(せきりゅう・吉沢、国学/俳人) D 2 4 9 6

恭之(きょうし・小島) → 蕉園(しょうえん・小島こじま、医者) F 2 2 5 2

匡子(きょうし) → 匡子(まさこ、藩邸侍女/方言集著) C 4 0 4 5

匡之(きょうし・白井) → 匡之(まさゆき・白井しらい、医者/国学) Q 4 0 2 4

興詩(きょうし・金谷) → 興詩(おきりた・金谷かなや、儒/国学/歌人) C 1 4 8 6

C1653 清氏(きょうじ・細川ほそかわ、初名;元氏、和氏男/本姓源)?-1362戦死 武将;左近将監/阿波守、

尊氏家臣;戦功あり;1354幕府評定衆・引付頭人、執事;諸將に反感を買い南朝へ走る、  
従兄頼之と戦闘;隠岐で討死、

歌人;新千載集奏覧本の箱を津守家に代わり調達、新千載4首(613/1008/1359/1741)、  
[音だにも秋にはかはる時雨かな木の葉ふるそふ冬や来ぬらん](新千載;冬613)

[清氏の通称/法名/道号] 通称;弥八/阿波将監、法名;祐晟、道号;道白

- F1613 教二(きょうじ・岩井い) ? - ? 泉州堺住人、狂歌;1666行風「古今夷曲集」6首入、  
[昼飯は食はずとゆかむみよしのの花のしたにて飢ゑ死ぬるとも](古今夷曲集;一春歌)  
(西行「願はくは」の歌を踏まえている)

- C1656 狂爾(きやうじ・佐保川)? - ? 酒楽本作者、1790「文選もんぜん臥坐」に狂示作「東北の雲談」入、  
文選坐臥(京伝序)には他に蒼竜闕そりゅうけつ湖舟・梅暮里谷峨の作品がある

恭治(きやうじ・藤原) → 友衛(ともえ・藤原、藩士/文筆家) P 3 1 2 1

喬治(きやうじ・福沢) → 喬治(たかはる・福沢ふくざわ、国学者) Z 2 6 3 0

慶字(きやうじ/けいじ;法諱) → 顕窓(けんそう;道号・慶字、曹洞僧) K 1 8 6 7

- C1654 業子(ごうし/なりこ・日野ひの、時光女) 1351-1405<sup>55</sup> 足利義満の室/義持の准母、准三宮/従一位、  
歌人;新後拾遺5首(92/325/933/1018/1094)、

[あかみする心を知らば桜花なれよいく世の春もかはらで](新後拾;春92)

[業子の法号] 定心院大喜性慶禅定尼

翹之(ごうし・荒木) → 素履(もとむ・荒木あらき、国学/歌) J 4 4 1 1

行二(ごうじ・二階堂) → 政行(まさゆき・二階堂、幕臣/歌/連歌) I 4 0 1 7

行慈(ごうじ) → 上覚(浄覚じょうかく;法諱、真言僧) F 2 2 8 6

京識(きやうしき;字) → 秀算(しゅうざん;法諱・京識;字、真言僧) X 2 1 3 8

凝式(ごうしき・高木) → 凝式(なりり・高木たかぎ、商家/儒・歌) N 3 2 7 1

行志斎(ごうしさい・吉岡) → 鶴巢(じやくそう・吉岡/葛西、医者/俳人) W 2 1 0 5

境持院(きやうじいん) → 日通(にっつう・普明、日蓮僧) F 3 3 2 7

- V1687 慶実(きやうじつ;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧;法橋、

歌人;1237刊[檜葉集]入、

[慈林院にてあしたのうぐひすといへる事をよめる、

くれたけのよのまに谷やいでつらむふしながらきく鶯のこゑ](檜葉;雑749)、

☆藤原定綱男の東寺大僧都[慶実]とは別人?

教実(きやうじつ) すべて → 教実(のりざね)

- V1690 堯実(きやうじつ;法諱、) ? - ? 鎌倉期;南都(興福寺?)の僧;法師、

歌人;1237刊 [檜葉集]入、

[宇智郡の(御霊社?)歌合、

月影のおきまどはせる初霜にうらがれそむるをかのくずはら](檜葉;雑836)

狂而堂(きやうじどう) → 其角(きかく・榎本、俳人) 1 6 0 5

教寂(きやうじやく;道号) → 藝訓(げいくん;法諱・教寂、曹洞僧) B 1 8 5 3

暁寂(きやうじやく;法名) → 紀光(もとみつ・柳原/藤原、詩歌/記録) E 4 4 3 9

凝寂堂(ごうじやくどう) → 信景(さだかげ・天野あまの、藩士/国学者) 2 0 1 8

教守(きやうしゅ・岡村) → 教邦(のりくに・岡村おかむら、藩士/国学) H 3 5 0 6

- G1678 敬首(きやうじゅ;法諱・祖海そかい;字、俗姓佐々木) 1683-1748<sup>66</sup> 江戸神田浄土僧;1696増上寺岸了門、  
京の法然院忍徴・近江安養寺恵堅門、武蔵花又正受院開山/下谷瓔洛庵に隠棲、

「典籍概見」「阿弥陀経玄義」「阿弥陀経玄談」、1716「普勸念仏文」33「説戒随聞記」外著多数、  
[敬首の法名/号]号;瓔洛よりく庵/真如院/随縁道人/無名子、法名;白蓮社宣誉祖海/宣誉

- N1691 鏡樹(きやうじゅ・岩城) ? - ? 大阪雑俳人;1757律中「耳勝手」入

- C1657 享寿(きやうじゅ/ゆきひさ・竹内たけうち、榎えのき浄門男) 1812-65<sup>54</sup> 竹内慶寿の養子/京の東寺の公人、法眼、  
中綱職の長/歌;1828香川景樹門、書/典故、「桂園拾葉」、家集「箭園和歌集」1855「歌学式」著、  
[享寿の通称/号]通称;備後/越中/淡路、号;箭園やまぶきその、

喬樹(きやうじゅ・野口) → 喬樹(たかしげ・野口のぐち、藩士/歌人) M 2 6 0 5

喬樹(きやうじゅ・大橋) → 喬樹(たかき・大橋おおはし、国学者) W 2 6 1 8

峽樹(きやうじゅ・堀内) → 憲時(のりとき・堀内ほりうち、神職/国学) J 3 5 9 5

- 狂寿(きやうじゆ; 綽名) → 寿阿弥(じゆあみ・長島、長唄/浄瑠璃作者) G 2 1 6 5  
 恭壽(きやうじゆ・千本松) → 恭壽(やすなが・千本松せんぼんまつ/菅原、国学) G 4 5 1 3  
 行寿(ぎやうじゆ; 出家号) → 順仲(よりなか・五辻いつじ/源、廷臣) J 4 7 2 8  
 恭寿院(きやうじゆいん) → 日耕(にっこう; 法諱・智静院、日蓮僧) D 3 3 8 8  
 教樹院(きやうじゆいん) → 久免(くめ・稲葉、吉宗側室/歌人) D 1 7 4 4  
 N1692 鏡洲(きやうしゅう、今井いまい、名; 子履)?-1809 越後柏崎の詩人、古文辞学; 寺沢石城門、儒; 昌平鬻出、  
 宋学修得/帰郷; 竜門舎開塾、1806「竜門舎詩集」著、  
 [鏡洲の字/通称/別号]字: 元吉、通称: 助之進、別号: 申申楼  
 教秀(きやうしゅう・勸修寺) → 教秀(のりひで・勸修寺かじゅうじ、廷臣/詩歌) F 3 5 5 4  
 教秀(きやうしゅう・蒲生) → 氏郷(うじさと・蒲生がもう、武将/城主/歌) 1 2 3 1  
 鷗洲(きやうしゅう→れいしゅう) → 鷗洲(れいしゅう・寺崎/三木/木、儒/詩) 5 1 3 7  
 N1693 協従(きやうじゆう、亀井かめい/本姓源/修姓; 亀、名; 重幸) 1759?-? 武州渋谷村の本草家/博物学、  
 画; 狩野派/動植物図、1800巡見使に随行; 北越踏査、  
 1791「績麻録」1800「北越志」、「夏木譜」著  
 教重(きやうじゆう・平) → 教成(のりしげ・平たいら、廷臣/歌) E 3 5 6 2  
 教重(きやうじゆう・山田) → 教重(のりしげ・山田やまだ、歌人) K 3 5 6 2  
 恭従(きやうじゆう・小島/膝) → 橘洲(きつしゅう・唐衣からごろも、幕臣/狂歌) 1 6 2 2  
 恭重(きやうじゆう・鈴木) → 恭重(ゆきしげ・鈴木すずき、歌人) G 4 6 3 0  
 恭重(きやうじゆう・中川) → 恭重(ゆきしげ・中川ながわ、医者/歌人) H 4 6 0 3  
 N1694 堯州(ぎやうしゅう; 道号・宗寛そうかん; 法諱) 1718-8770 摂津臨濟僧; 斗山宗枢門、1767大徳寺379世、  
 のち江戸品川東海寺輪番、「追哭和韻」著  
 行秀(ぎやうしゅう; 法名) → 元行(もとゆき・中島/二階堂、武将/軍記) E 4 4 5 7  
 凝洲(ぎやうしゅう・橋本) → 晚翠(ばんすい・橋本はしもと、儒者) I 3 6 2 1  
 堯重(ぎやうじゆう、平) → 堯重(たかしげ、平たいら、連歌) C 2 6 8 1  
 境修院日桓(きやうしゅういんにつかかん) → 一瓢(いっぴょう・川原、日蓮僧/俳人) B 1 1 6 3  
 行輔斎(ぎやうしゅうさい) → 沾洲(せんしゅう・貴志きし、俳人) F 2 4 8 8  
 競秀亭(きやうしゅうてい) → 東溪(とうせき・松浦、詩/記録蒐集) D 3 1 1 2  
 行輔坊斎(ぎやうしゅうぼう) → 沾山(せんざん・内田、俳人) F 2 4 5 1  
 興宗明教禪師(きやうしゅうみやうきやうぜんじ) → 周鳳(しゅうほう; 法諱・瑞溪; 道号、臨濟僧) 2 1 4 9  
 京十郎(きやうじゅうろう・男女川みなのがわ) → 幸四郎(しよしろう・松本、歌舞伎役者) B 1 9 4 0  
 享叔(きやうしゅうく・芝原) → 恒久(つねひさ・芝原しばら/岡、国学者) F 2 9 7 8  
 杏樹軒(きやうじゆけん) → 玄瑞(げんずい・近藤こんどう、医者) K 1 8 3 3  
 恭述(きやうじゆつ・宮崎/上田) → 續明(つぐあき・上田/宮崎、藩士/教育) 2 9 6 5  
 N1695 慶俊(けいしゆん; 法諱、俗姓; 藤井)?-778? 奈良期河内の僧; 大安寺道慈門、  
 三論/法相/華嚴修学、求聞持法; 勤操より伝受、大安寺・法華寺住/756律師/770少僧都、  
 781愛宕山に道場を開く、「因明論文軌疏記」「一乘仏性究竟論記」著  
 S1630 慶俊(けいしゆん; 法諱、大法房得業)?-? 平安末期文治建久1185-99頃の華嚴宗東大寺の僧、  
 1186重源の伊勢神宮大般若経転読に従事した伴僧60人の1; 上座第三位/薬師寺に住、  
 1186「俊乘上人奉納大般若伊勢神宮記」、「俊乘房参宮記」著  
 N1696 教舜(きやうしゆん; 法諱、民部卿僧都/播磨僧都) 1233-? 1287存 播磨真言僧/醍醐寺学匠、僧都、  
 報恩院憲深/宝池院定済から受法、  
 「三摩耶戒式」1263「胎蔵界口伝抄」87「灌頂教舜記」外著多数  
 N1688 経舜(きやうしゆん; 法諱・正顕しょうけん; 字、正願房)?-? 鎌倉期弘安1278-87頃撰津の律宗僧; 浄因門、  
 具足戒; 1262円照門、山城八幡善法寺住; 真言修学; 醍醐松橋流、  
 「理趣経末聞書」「釈論通玄鈔聞書」著  
 S1653 慶俊(けいしゆん; 法諱) ? - ? 室町期; 寛政文正1460-67頃の僧/連歌作者  
 心敬らと一座; 1466(寛正7)「何人百韻」心敬・宗祇と参加、  
 [待てともいはぬ我が中なかぞうき](何人百韻; 初裏6、  
 後朝の別に今宵も待てと言わずに帰ったあの人の面影だけが頼り; 二人の仲は憂し、  
 前句; 能通; 別れては佛おかげのみや頼ままし)



- N1697 **慶俊**(きやうしゆん;法諱) ? - ? 1587存 戦国期;京太秦の真言宗広隆寺西定坊僧/僧都、太秦催行の連歌/和歌会に参;山科言継らと同席、1587「天正十五年紹巴慶俊懐旧百韻」参  
慶舜(きやうしゆん) → 慶舜(けいしゆん、室町期天台僧) 1 8 6 9  
杏春(きやうしゆん・池田) → 京水(きやうすい・池田いげだ、医者) O 1 6 1 3  
教春(きやうしゆん;法諱) → 亮貞(りやうてい;法諱・自春、真言僧) I 4 9 9 7
- N1698 **杏順**(きやうじゆん・中野なかの、名;貞実、設楽じだら時清男/中之杏台養子) 1689-1758 岩代二本松藩医、1816「医言漫録」、「水飲發揮」、「養貞一家得」、「傷寒愚得」著、中之順吉の父/元興げんよの祖父、[杏順の別通称] さい寿先生
- N1699 **教遵**(きやうじゆん;法諱・桂巖けいがん;字) 1703-7876 撰津小曾根真宗本願寺派常光寺住職、華巖の鳳潭・天台の義瑞門、宗学;月釜門、聞;富日休門、1764光闡の命で「真宗法要」編、1767学林と智暹の争論鎮静に功、「往生成仏」、「往生成仏同異辨」、「論譚評論」、「六字対釈」著、[教遵の号] 古香/滄鴻ほうこう道人  
杏順(きやうじゆん・中野、杏順貞実の孫) → 元興(げんよ・中野、医者) M 1 8 6 9  
教順(きやうじゆん;字) → 良尊(りやうそん;法諱・教順、真言僧) I 4 9 7 1  
教順(きやうじゆん;名) → 弘阿(こうあ;法諱・小笠原、僧/歌) Q 1 9 7 3  
教純(きやうじゆん・皆川) → 教純(のりずみ・皆川みながわ、藩士/記録) E 3 5 7 6
- 01600 **行春**(ぎやうしゆん) ? - ? 1333存 播磨の天台宗円教寺住僧/権律師、1333醍醐天皇行幸の先達、1333「書写山行幸記」、「書写山旧記」著
- 01601 **行順**(ぎやうじゆん;法諱・成就房;号、美作守行康男) 1265-133369 天台園城寺僧/台密:円順/円頭門、伝法大阿闍梨/法印、「行次鈔」、「胎藏界行次鈔」、「役行者講法則」、1522「護摩行次鈔」著  
行順(ぎやうじゆん・朝倉) → 行順(こうじゆん・朝倉あさくら、狂歌) P 1 9 4 6  
堯順(ぎやうじゆん;字) → 日遠(にちおん;法諱、日蓮僧) 3 3 7 4  
慶順眼鏡房(きやうじゆんがんきやうぼう) → 慈鏡(じきやう;法諱、真言僧/声明) Q 2 1 2 6
- C1658 **杏所**(きやうじよ・立原たちばら、名;任、字;子遠/遠卿、翠軒男) 1785-184056 水戸藩士/1803進士/扈從頭、絵師:四条派小泉檀山門/南蘋なんびん派宮部雲錦門/文晁の影響、「琴学考」、「立原杏所雑記」、「近世画人録」、「近世書画年表」、「聿脩録叙」、「墨談評」、「儒家耆旧説話」、「璇璣図記」、「集帖」画、[杏所の通称/別号]通称;任太郎、別号;東軒/玉琿舎ぎよくそうしゃ/香案小史、法号;一法了貫居士
- 01602 **杏所**(きやうじよ・長谷川はせがわ誠/字;誠之/通称;杏庵、松軒男) 1814-8976 越後新発田藩士、医:本庵門、儒(経史);丹羽思亭門、京で医業、治方;福井丹州/水原三折門、帰藩;侍医/医学教授、「医事筆叢」、「救児験方」、「傷寒雑病講義」著、[杏所の別号] 敬亭/松湖/柳外/雲樵  
喬緒(きやうじよ・沢/沢野) → 喬緒(たかお・沢野さわの、詩人) L 2 6 6 0  
教如(きやうじよ → きやうじよ) → 光寿(こうじゆ;法諱、東本願寺創建;祖) J 1 9 4 8  
強恕(きやうじよ・武石) → 道生(どうせい・武石たけいし、医/歌人) F 3 1 9 6
- 1634 **行助**(ぎやうじよ;法諱・惣持坊/惣持院) 1405-6965 山名氏家臣/出家;天台叡山東塔惣持坊の住僧、法印/大僧都、連歌・宗砌門、1444「文安千句」64?盛長「熊野千句」参加、論書「連歌口伝抄」、1454/66「行助句集」、心敬らと百韻多数;1461独吟百韻/61何路・64何水・65何人・66何人等、[青柳のあさけのけぶり江に晴れて](新撰菟玖波集;一春上、前句;夜よる船近き春の山もと)
- 01603 **堯助**(ぎやうじよ;法諱、内大臣万里小路までのこうじ秀房男) 1536-160166 醍醐寺延命院僧;理性院殿助門、理性院院務/1562より大元帥護摩/95大僧正、「太上法皇御灌頂記」著、義演の師  
堯恕(ぎやうじよ) → 堯恕法親王(ぎやうじよほつしんのう、僧/詩人) C 1 6 6 5  
境徐院(きやうじよいん) → 是真(ぜじん;法諱・遵教、日蓮僧/歌) K 2 4 6 1
- C1659 **慶政**(きやうじやう/けいせい;法諱・証月房;号、九条良経男/本姓藤原) 1189-126880 幼時に乳母の過失;身障者となり仏門ぶ入る/天台園城寺僧;能舜・延朗・慶範・行慈門/上覚・高弁(明恵)門、1208西山に草庵結/1217入宋/18帰国;西山住、1219より往生伝類書写、1226頃西山法花山寺創建、1222説話集「閑居友」編、26「法花山寺縁起」39「比良山古人霊託」著、「知死期法」、「漂到琉球国記」、「証月上人渡唐日記」著、明恵上人歌集2首入、歌人、勅撰22首;続古今(849/1456/1482)続拾(1373)玉葉(5首)風雅(10首)以下、



[もろこしもなほ住みうくはかへりこむ忘れなはてぞやへの潮風](続古今;離別849)、  
(渡宋の折の家隆への返歌)、  
(家隆の贈歌;厭ふとは照る日のもとに聞きしかど唐土迄は思はざりしを)、  
[慶政の号] 証月房(勝月房/松月房/照月房)

- U1617 **教祥**(きょうしょう;法諱) ? - 1850 近江犬上郡河瀬村の真宗本願寺派誓念寺住職、  
国学者/歌人;[鳩のうみ]入  
共昌(きょうしょう・平賀) → 鷹峰(ようほう・平賀ひらが、藩士/詩/兵法) B 4 7 5 7  
共昌(きょうしょう・山国) → 共昌(ともまさ・山国やまくに、藩士/天狗党) Q 3 1 5 7  
教証(きょうしょう・三田村) → 栗所(栗所りつしよ・三田村/藤原/坪井、儒者/詩) C 4 9 0 3  
喬松(きょうしょう・大高坂) → 芝山(しざん・大高坂、藩儒/南学) D 2 1 7 1  
喬松(きょうしょう・河井) → 継之助(つぐのすけ・河井、藩家老/儒者) 2 9 7 7
- C1660 **経乘**(きょうじょう;法諱、宰相法印、花山院[藤原]宣経男)?-? 真言仁和寺僧;阿闍梨/法印、  
勝尾寺に隠居、歌人:1218「道助法親王五十首和歌」参加/33定家宅に新勅撰入集を懇願、  
続後撰1076/新後撰1502、  
[片糸がいとよるなく虫の織るはたに涙の露のぬきやみだれん](続後撰;雑1076)
- C1661 **経乘**(きょうじょう;法諱、俗姓;鳥居小路/高階、経厚法印男)1511-49<sup>39</sup> 代々青蓮院庁務、尊鎮に出仕、  
大蔵卿/1525得度/43四天王寺惣目代/48法印/49庁務致仕、歌:堯恵門、1524「慈鎮追善歌」、  
1536「詠日吉新御塔法楽一夜百首和歌」、「経乗百首和歌」著
- S1631 **教乘**(きょうじょう;法諱) ? - 1773 京六条真宗本願寺派光隆寺住職、讃岐了空と宗義論争、  
1768安居の講師;選撰本願念仏集を講義、「似是決」「讃陽問答」「破邪義」「斥異辨」著  
共常(きょうじょう/ともつね・竹内/松永) → 薊斎(けいさい・沖、藩士/儒者) E 1 8 6 9  
恭讓(きょうじょう・田上) → 恭讓(やすのり・田上たがみ、幕臣/和算家) C 4 5 6 8
- G1681 **暁勝**(ぎょうしょう;法諱、法師)?- ? 津守家出身の僧、歌人、「津守集」入、新後拾遺1109、  
[帰るさのよその恨みを待ちあかす身のたぐひとはおかが思はむ](新後拾;恋1109)
- G1682 **行生**(ぎょうしょう;法諱・俗名;齋藤基行/本姓;藤原、基種[寂意]男)?-? 廷臣;太郎左衛門尉/兵衛尉、  
出家;法師、利基・利政の父、歌人:新後撰1417・玉葉2147、  
[おろかなる心をいかに慰めてうきはむくいと思ひわかまし](新後撰;雑1417)
- C1663 **幸清**(ぎょうしょう・こうせい;法諱、号;竹/田中、俗姓紀、石清水別当成清男)1177-1235<sup>59</sup> 母;宗俊女土佐、  
真言仁和寺守覚法親王門/1189権上座/91法眼/1204法印大和尚位/07石清水八幡33代別当、  
1213権大僧都、待宵小御侍従の甥、「宇佐石清水宮以下縁起」著、  
歌人;1218-9道助法親王家五十首/1200・32石清水若宮歌合参加、1229三十首歌勸進、  
1209頃「明恵上人歌集;遣心和歌集」2首入/為家[中院詠草]2首入、  
勅撰10首;新古(611/1476)新勅(526/812/920)続後撰(385)新千(574)新拾(1407)新続古2首、  
[片敷かたしきの袖をや霜にかさぬらん月に夜離ぶるゝ宇治の橋姫](新古;611/橋上/霜)、  
(独り寝の袖を霜に重ねる、  
本歌;さむしろに衣かたしき今宵もやわれを待つらん宇治の橋姫/古今;読み人しらず)
- C1664 **行清**(ぎょうしょう;法諱、俗姓紀、石清水八幡別当宗清男)1229-79<sup>51</sup> 社僧;石清水39代別当検校、  
1236出家/法眼/42権別当/47法印/54権大僧都/76検校、  
歌人/勅撰3首;続古今(723)続拾遺(1140/1414)、  
[ちはやぶる神代に植ゑしはこぎきの松は久しきしるしなりけり]、  
(続古今;723/筑前国管崎宮のしるしの松を詠む)  
[行清の号] 田中法印/園御堂
- 01604 **行昭**(ぎょうしょう;法諱・常住院、九条道家男/本姓藤原)1231-1303<sup>73</sup> 天台園城寺常住院僧/護持僧、  
大僧正/1283園城寺長吏、修験者:1294熊野三山・新熊野検校、大峯那智の岩屋に籠る、  
「峯中修行記」著
- 01605 **行照**(ぎょうしょう;法諱・穎川いせん;号、銭屋徳十郎男)1794-1862<sup>69</sup> 越中富山出身の真宗本願寺派僧、  
富山新屋村の明光寺行忠の養子、宗義;柔遠・充賢門、上京し天台;雅竜門/華巖;経歴門、  
性相;恢麟門、美濃岐阜の願誓寺住職、寺内に学寮設置;子弟教育/1844勸学職、  
「観念法門記」「浄土論講録」「阿弥陀経聴記」「吉水抄弘化録」著、  
1849「安楽集記」57「一枚起請文聴記」外著多数、諡;了達院

- 行勝(行証・ぎょうしょう) → 宗尊親王(むねたかしのう) 4 2 0 5  
 行証(ぎょうしょう;法名) → 師忠(もろただ・二条、関白/歌人) H 4 4 3 7  
 行性(ぎょうしょう;字) → 成雄(せいおう;法諱・字;行性、真言僧) H 2 4 4 8  
 堯性(堯昌ぎょうしょう;字) → 玄宥(げんゆう;法諱・堯性、真言僧) M 1 8 6 0  
 堯章(ぎょうしょう・春木) → 煥光(あきみつ・春木はるき、神職/本草家) D 1 0 9 8  
 堯盛(ぎょうしょう) → 堯盛(ぎょうせい・ぎょうしょう、律師/歌人) C 1 6 7 3
- C1662 行乘(ぎょうじょう;法諱・澄如ちようじよ;号)?-? 1328存 鎌倉期二条派歌僧;法師、  
 1314法印定為・27為世より「古今聞書」相伝を受、  
 勅撰4首;続千載(1952)新千載(1440/1994)新拾遺(1041)、  
 [見しままの影だに残れ夜半の月秋は昔の秋ならずとも](続千載;雑1952)
- 01606 行乘(ぎょうじょう;法諱・觀輪かんりん;道号、板垣藤次郎2男) 1826-96 71 仙台の人;  
 1833(8歳)父が自刃し菩提弔うため出家、学問;1840(15歳)藩儒進藤良治門、諸国行脚、  
 鳥取の黄檗僧良忠如隆門;以後随従、1861(文久元)正宗寺住持、69尾張春日井大竜寺住、  
 のち再び正宗寺住/1884(明治17)黄檗宗大本山万福寺40世、黄檗宗管長に選出/大教正、  
 「枯柴集」「觀輪和尚語録」著、  
 [觀輪行乗の号] 甘露道人/楽哉、通称;多々羅
- 行乘(ぎょうじょう;法名) → 隆行(たかゆき・四条/藤原、廷臣/記録) N 2 6 5 9  
 業常(ぎょうじょう・岡本) → 業常(なりつね・岡本おかもと/石上、藩士/歌) L 3 2 5 0  
 暁松庵(ぎょうしょうあん) → 波文(はぶん・山本、旅宿業/俳人) F 3 6 6 2  
 仰松軒(ぎょうしょうけん) → 元賛(げんいん/げんびん・陳、儒者/製陶/拳) B 1 8 2 7  
 仰松軒(ぎょうしょうけん) → 政樹(まさき・内藤、藩主/算学/俳) C 4 0 2 1  
 暁松舎(ぎょうしょうしゃ) → 雪貢(せつこう・小野田、町吏/俳人) K 2 4 8 9  
 喬松女(きやうしょうじよ) → 維佐子(いさこ・大高坂おたかさか、和漢学/女訓書) 1 1 8 4
- T1626 久照尼(きやうしょうに/くしょうに)?-? 江後期;尼僧/歌人、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [山寺の鐘の響きのなかりせばうき世の夢のいかで覚めまし](大江戸倭歌;雑1746)
- G1683 郷食山人(きやうしょくさんじん)?-? 狂詩、1834玉崖「半可山人詩鈔」入
- 01607 行助親王(ぎょうじしんのう、後光厳天皇皇子) 1360-86 早世 27 円満院門跡、園城寺長吏/天王寺別当、  
 「当流伝受記四度」著
- C1665 堯恕法親王(ぎょうじよほつしんのう、完敏さだとし親王、号;逸堂、後水尾天皇皇子) 1640-95 56 妙法院門跡、  
 堯然門、181代天台座主、詩;「逸堂集」(3百余首、卷末に堯憲撰「師子吼院堯恕親王行状」)、  
 「五部大乘経捷徑録」「僧伝排韻」著
- 堯恕(ぎょうじよ) → 堯恕法親王(ぎょうじよほつしんのう、僧/詩人) C 1 6 6 5  
 恭四郎(きやうしろう・小林) → 筋堂(せつどう・小林こばやし、儒者) L 2 4 3 3  
 恭二郎(きやうじろう・土屋) → 信義(のぶよし・土屋、和算家) E 3 5 0 2  
 恭次郎(きやうじろう・西村) → 次右衛門(じえもん・西村、家老/日記) P 2 1 6 7  
 恭次郎(きやうじろう・本居) → 春村(はるむら・小西こにし/本居、商家/国学) K 3 6 1 7  
 仰止楼(ぎょうしろう) → 嵩雪(すうせつ・佐脇さわか、絵師) F 2 3 3 0
- G1684 敬信(きやうしん) ?-? 平安期の尼僧、歌人、  
 典侍てんじ因香よるかの母or小野千古の母か?、  
 古今885(文武期慧子皇女あきらけいのひめみこが母の過で齋院を交替されかけ事止んだ時の詠)、  
 [大空を照り行く月し清ければ雲かくせども光消けなくに](古今集;雑885)  
 参考 娘 → 因香(よるか・藤原、源能有妻/女官/歌人) K 4 7 0 0
- V1682 経眞(きやうしん;法諱、) ?-? 平安鎌倉期;僧/法橋(興福寺住?)、  
 歌人;1237刊[檜葉集]2首入、  
 [となりとてのきやはちかき山里は又人ありとおもふばかりぞ](檜葉;雑937)
- G1689 敬心(きやうしん/けいしん、法師)?-? 南北期前の連歌師、「俳諧連歌抄」著、菟玖波集8句入、  
 [小車にはなを嵐の吹きかけて](菟;1062/前句;網代の上も浪ぞよせくる)
- 01608 経親(きやうしん;法諱・鳥居小路といこうじ/本姓高階、法印経隆男) 1772-1820 49 坊官;法印経重の嗣、  
 青蓮院尊真に勤仕、1786法橋/93(寛政5)法眼/大蔵卿、1807位記を返上、

- 1796「談山神社遷宮逗留私記」99「洞中庭儀曼供記」、「日吉社正遷宮雜記」著  
 教親(きょうしん・一色) → 教親(のりちか・一色いっしき、武将/歌人) F 3 5 0 3  
 教親(きょうしん/のりちか・井上) → 鶴洲(かくしゅう・井上いづえ、易占家) H 1 5 3 0  
 教眞(きょうしん;天台僧名) → 教名(きょうみょう;法諱、真宗僧) O 1 6 5 4  
 教信(きょうしん・狩野) → 教信(たかのぶ・狩野かのう/洞庭、絵師/歌) U 2 6 7 8  
 恭信(きょうしん・石井) → 恭信(よしのぶ・石井いし、藩士/歌人) L 4 7 5 2  
 慶信(きょうしん) → 慶信(けいしん/きょうしん、天台僧/歌人) G 1 8 1 4  
 匡津(きょうしん;法諱) → 巨海(こかい;道号・匡津、曹洞僧) L 1 9 8 3
- 01609 教尋(きょうじん;法諱/別諱;永尋・宝生坊;通称、俗姓;平)?-1141 平安期大和僧;天台園城寺僧、  
 1069真言仁和寺で伝法灌頂受/高野山入山/覚鑿(かくばん)らの教学の師、大伝法院学頭、  
 「五音声論」「五音九弄十紐図」「顕密差別問答鈔」「大日経顕密問答鈔」著
- C1666 慶尋(きょうじん・けいじん、通称;駿河律師、平(たいら)業任男)?-? 平安期天台叡山僧、歌:後拾遺407、  
 [来(こ)し道(みち)も見(み)えず雪(ゆき)こそ降(ふ)りにけれ今(いま)やとくると人(ひと)は待(まち)つらん](後拾遺;冬407)、  
 ([解(と)く]と[と来(き)る]を掛(か)る)
- V1684 慶深(きょうじん;法諱、天台法印弁覚[1094?-?]男)?-? 平安後期;叡山天台僧、父は説法の名手、  
 実禅の父、歌人;1237刊素俊撰[檜葉集]入、  
 [みよしのやたかねの花をさそひくる風にもくもる春の夜の月](檜葉;春75)
- C1667 経深(きょうじん;法諱) 1325 - 1379<sup>55</sup> 天台園城寺上乘院住職、清頭/泉恵/朝幸/泉尊/良禅門、  
 聖護院宮執事/権大僧都/1371大阿闍梨、法印権僧正、頓阿と交流、  
 「体達抄」「篇目抄」「経緯抄」著、  
 歌人:勅撰4首;新千載(1594)新拾遺(883/1839)新後拾遺(780)、  
 [おのづから思(おも)ひやしるとうたみしはなほ身を頼(たの)む心なりけり](新千;恋1594)、  
 [経深の通称] 岡崎法印/上乘院法印
- C1669 慶深(きょうじん・けいじん;法諱・別諱;慶源(けいげん)?-? 僧;法印、歌人、1439成立「新統古今集」1526  
 [かはるてふたねとしならば忘草(わす)れてもまた人のとへかし](新統古;十五恋1526)
- C1671 経尋(きょうじん;法諱、関白九条尚経男)1498-1526<sup>早世</sup>29 母;三条西実隆女保子、  
 法相宗大乘院門跡、興福寺別当/大僧正/薬師寺長谷寺別当、歌人、  
 「経尋記」「大乘院経尋詠草」「薬師寺別当日記」「諸庄修理段銭日記」「興福寺維摩会記略」著、  
 [経尋の法号] 後大喜院
- 01610 行信(ぎょうしん;法諱) ? - ? 751<sup>存</sup> 法相僧:元興寺/法隆寺修学;745律師、  
 746-748勅命で法隆寺修造/49大僧都、「仁王般若経疏」著、751経疏出納帳に自署あり
- C1668 行深(ぎょうしん;法諱・別諱;行源、法印行任男)?-? 1299<sup>存</sup> 真言仁和寺坊官、大藏卿/法印、  
 歌人:1299故深性法親王を偲(しの)び禅助に贈歌、勅撰4首;玉葉(2611)続千(695/1290/2053)、  
 [いかなればつらき昔(むかし)と思(おも)へどもなほしのぼるるならひなるらん](玉葉;雑2611)
- G1690 堯深(ぎょうしん;法諱、法師)? - ? 1466諏訪上社にて「大塔物語」模写
- 01611 堯真(ぎょうしん;法諱、中納言律師)?-? 安桃期真言醍醐寺成身院僧/義堯門、  
 連歌;1579時宗僧文閑(もんかん)らと「何船百韻」
- 01612 堯真(ぎょうしん;法諱・行光坊)1729-? 1771<sup>存</sup> 天台叡山護心院僧/1770大僧都、  
 「談山叡覽回章記」著
- V1641 行眞(ぎょうしん;法諱・宮崎(みやざき)、号;繁昌院)1828-99<sup>72</sup> 備前赤坂郡黒木村の妙音寺の修験僧、  
 和漢学・歌;平賀元義門、美泉定山の一族
- 堯真(ぎょうしん;法名) → 宣阿(せんあ・香川、梅月堂、藩士/歌人) 2 4 2 2  
 堯真(ぎょうしん;法名) → 重熙(しげひろ・庭田/源、大納言/歌人) C 2 1 9 3  
 堯臣(ぎょうしん・松崎) → 観瀾(かんらん・松崎(まつざき)、家老/儒詩) G 1 5 7 0  
 暁心(ぎょうしん・黒田) → 溥整(ひろなり・黒田/加藤、家老/連歌) G 3 7 7 5  
 行眞(ぎょうしん) → 覚法法親王(かくほうほっしんのう、真言僧/歌) B 1 5 7 4  
 行眞(ぎょうしん) → 後白河天皇(ごしろかわてんのう、今様/歌) 1 9 5 6
- C1670 堯尋(ぎょうじん;法諱・堯阿とも、常光院、経賢男)?-? 1428<sup>存</sup> 頓阿の孫、真言仁和寺常光院僧、  
 1384権律師/のち権大僧都、歌:1387浄阿5代奉納[隱岐高田明神百首]出詠、  
 1407内裏九十番歌合参加、1428足利将軍家歌合参加、



勅撰11首;新後拾遺(877)新続古今(10首;47/252/312以下)、

[里まではまだはるかなるうつの山夕みる雲に宿やとはまし](新後拾;877/羈旅)

鏡心院(きやうしんいん) → 植元(たねもと・朽木くつき、藩主/国学) W 2 6 8 8

暁心院(きやうしんいん;法号)→ 実治(さねはる・三条/転法輪三条、左大臣) L 2 0 2 6

行信僧亮(きやうしんそうりやう)→ 僧亮(そうりやう;法諱、真宗本願寺派僧) J 2 5 2 0

G1691 慶心坊(きやうしんぼう) ? - ? 室町期;撰津長宝寺比丘尼、  
1439以後「平野よみがへりの草紙」著(御伽草紙)

行心房(きやうしんぼう;字) → 頼豪(らいごう;法諱・行心房、真言僧) 4 8 4 3

堯仁法親王(きやうじんほつしんのう)→ 堯仁法親王(きやうにんほつしんのう、天台座主) C 1 6 7 9

C1672 橋水(きやうすい・内田うちだ、名;英貞)?-? 長崎俳人:南元順門、宗因と交流、  
1678撰集「筑紫海つきのうみ」編(長崎最初の俳諧集)

[橋水の通称/別号]通称;次郎左衛門、別号;薪休、法号;即安薪休居士

G1692 杏酔(きやうすい) ? - ? 大阪俳人、「京の曙」「新湊」編、  
1691賀子「蓮の実」両吟半歌仙発句入;[蓮の実や星の影うつ池の音](「蓮の実」第三発句)

G1693 峡水(きやうすい) ? - ? 江戸俳人;不卜門?、  
1682(天和2)千春「武蔵曲」入;「錦どる」(麩崎び発句)百韻;桃青・素堂・千春らと一座、  
1691不角「二葉之松」3句入、1694不角「蘆分船」連句入、「蛙合」「虚栗」「続虚栗」入  
[臍の緒の数ほめでたき土用干し](二葉之松;110)

J1613 鏡水(きやうすい・日根野ひね、名;弘言/弘享、弘祥男)1786-185469 土佐藩士/大小姓/留守目付、  
1825藩校教授館学頭、和漢学;脇田東川門/詩/帰郷;漱玉吟社を開;門弟多数、  
「鏡水詩稿」「四書国字解」「大学口義」「平語二十絶」著、1830「漱玉吟社絶句」編、  
[鏡水の字/通称/別号]字;大卿、通称;恵右衛門/修平、別号;夕佳園

01613 京水(きやうすい・池田いけだ、名;大淵/字;可澄、池田玄俊信卿男)1786-183651 京生/伯父錦橋の養子、  
江戸住;養母に憎まれ廃嫡、町医;名医の声望/1820医学館出仕、1825「痘科挙要」著、  
1825「痘科健会通」1831「護痘挙法」、「晚痘瘡論」「翁米分解」「痘疹方選」「翁朱分解」著、  
[京水の通称/別号]通称;瑞英/善直、別号;杏春/酔醒/生醒道人

S1603 京水(きやうすい・山東さんとう、岩瀬いわせ、名;百鶴、京山男)1816-6752 江戸京橋銀座の絵師;喜多武清門、  
1830「熱海温泉図彙」著、37牧之「北越雪譜」画、  
[京水の字/通称]字;梅朔、通称;梅作

蛭水(きやうすい;号) → 月珠(げつしゆ;字・覚了、真宗僧) H 1 8 0 6

恭随(きやうずい・福井/山本)→ 達所(たつしよ・山本/福井、典薬寮医者) R 2 6 6 2

01614 暁水(きやうすい) ? - ? 京俳人;1690言水「新撰都曲」1句入、  
[鶉舟うぶね哉かな独ひとり乗せたる宮古人](都曲;354)

01615 暁水(きやうすい) ? - ? 越後柏崎の俳人;1690言水「新撰都曲」4句入、  
[丈たけ降らで雪舟そりなき花の都哉](都曲;373/北越には1丈の積雪と橇りがある)

暁翠(きやうすい・日野) → 鼎哉(ていさい・日野ひの、医者/種痘) 3 0 8 6

01616 凝翠(きやうすい;法諱) ? - ? 江中期1716-44頃播磨真宗本願寺派光勝寺住職、法霖門、  
1732安居知事/1743安居に大経を付講、「御文撮要記」「御文信受記」「観無量寿経真宗訣」著

G1694 京助(京輔/京介きやうすけ・築やな)?-? 江中期京の歌舞伎作者:中村座などで1743-66活動、  
1743「嫁入大嶋台」44「傾城千引鐘」46「富館鸚鵡辞」/47「名剣黄金作」「大矢数四十七本」著

01617 恭輔(きやうすけ・加門かもん、名;篤、隆徳たかのり男)?-? 江後期1830-48頃備前和気郡香登村の医者;父門、  
京で修学、郷里で父の医業継承、「人参私考」著、  
[恭輔の号] 鴨沼/遊斎

01618 京助(きやうすけ・方井かたい、名;直徹、黒沢伝五郎男/方井直治養嗣)1785-186379 信州佐久八重原生、  
剣術/信濃松代藩士:1820砲術師見習:27江戸の江川太郎左衛門に入門/中島流砲術も修得、  
直徹なおつ流砲術創設、1842「星山菅一伝流砲術目録」/59「直徹流目録免許」著

京助(きやうすけ・村井) → 茂兵衛(もへい・村井むらい/鍵屋、豪商) E 4 4 9 4

京助(きやうすけ・津打) → 園二(そのじ・津打つうつ/つうち、歌舞伎作者) E 2 5 1 4

杏介(きやうすけ・林) → 広海(ひろみ・林、国学/歌人) H 3 7 1 8

強介(強助きやうすけ・児島)→ 葦原(いげん・児島、憂国志士/詩歌) 1 1 8 2



- 強介(きょうすけ・柚木崎) → 正因(まさより・柚木崎ゆきさき、郷土/国学) T 4 0 6 2  
 共輔(きょうすけ・松原) → 恕行(ひろゆき・松原まつばら、藩医/歌人) H 3 7 6 4  
 恭甫(きょうすけ・西尾/芝田) → 温(はる・芝田/西尾にしお、儒者) F 3 6 9 4  
 恭助(きょうすけ・藤森) → 弘庵(こうあん・藤森、儒者) 1 9 0 3  
 恭助(きょうすけ・岡田) → 小篁(しょうこう・岡田おかだ、藩士/儒者) I 2 2 7 7  
 恭輔(恭助きょうすけ・松井) → 美澄(みはる・松井/源、藩医/国学者) F 4 1 7 4  
 恭輔(京助/喬輔きょうすけ・柳田) → 美郷(よしさと・森寺もりでら/柳田やなぎだ、歌人) D 4 7 4 6  
 匡輔(きょうすけ・根本) → 常南(じょうなん・根本ねもと、絵師) L 2 2 2 7  
 郷助(きょうすけ・山崎) → 蒼江(かんこう・朱楽あけら、幕臣/狂歌/川柳) 1 5 4 7  
 郷助(きょうすけ・富田) → 省斎(せいさい・富田とみだ、藩士/書家) I 2 4 1 8  
 鞏助(きょうすけ・野城) → 広助(広介ひろすけ・野城のしろ、国学/勤王) K 3 7 5 8  
 行祐(ぎょうすけ・高妻) → 秀馨(ひでか・高妻こうづま、儒者/教育者) J 3 7 5 7
- 01619 慶成(きょうせい) ? - ? 南北室町期の法印/権大僧都、歌人;  
 1407(応永14)「内裏九十番歌合」参加、  
 [白雪の降るかひありて和歌の浦の松にや千世のあとを残さむ](内裏九十番;五一番右)  
 共井(きょうせい・大原) → 景寛(かげひろ・大原おほら、農業/国学) T 1 5 9 7  
 恭正(きょうせい・野田) → 恭正(たかまさ・野田のだ、国学者) Y 2 6 8 9  
 教正(きょうせい・吉田) → 教正(のりまさ・吉田よしだ、神職/国学) K 3 5 3 7  
 教成(きょうせい・平) → 教成(のりしげ・平たいら、廷臣/歌) E 3 5 6 2  
 郷成(きょうせい・佐野) → 郷成(くになり・佐野さの、国学者) D 1 7 0 5  
 狂生(きょうせい・赤坐) → 正直(まさなお・赤坐あかさ、藩士) N 4 0 0 4
- 01620 行政(ぎょうせい、源みなもと政隆男)?-? 平安期僧; 律師、歌; 姉妹の集「四条宮下野集」入、  
 姉妹に瑠璃女御もいる  
 行濟(ぎょうせい) → 行濟(ぎょうさい; 法諱、真言僧、歌人) C 1 6 4 8  
 行生(ぎょうせい) → 行生(ぎょうしょう; 法諱、僧/歌人) G 1 6 8 2  
 行誓(ぎょうせい、僧名) → 尾頭(びとう、蕉門俳人) E 3 7 1 1  
 仰誓(ぎょうせい) → 仰誓(ごうせい; 法諱、真宗本願寺派僧) B 1 9 5 2
- C1673 堯盛(ぎょうせい・ぎょうしょう・中納言律師、堯憲男) 1467-? 室町期歌人、  
 1483(文明15)上洛/1486「殿中十五番歌合」参加(将軍足利義尚の殿中で催/栄雅判)、  
 [すむ月の桂の里の秋風やところからなほ雲払ふらむ](十五番歌合; 八番右)  
 境政院(きょうせいいん) → 日暉(にちき; 法諱・白蓮華院、日蓮僧) B 3 3 1 9  
 暁晴翁(ぎょうせいおう) → 鐘成(かねなり・暁あかつき、読本作者/絵師) C 1 5 9 3  
 恭靖先生(きょうせいせんせい、諡号) → 順庵(じゅんあん・木下、儒官/教育) 2 1 5 4
- G1695 暁夕寥(ぎょうせきりょう) ? - ? 江前期俳人、  
 1680松意「談林軒端の独話」・「東日記」入
- 01621 恭節(きょうせつ・鈴木すずき/初姓; 鶴沢/本姓藤原、鶴沢うざわ近義男) 1762-1830 69 上総清名幸谷の儒者、  
 : 稲葉黙齋門/のち幸田誠之・久米訂齋門、1789上州館林藩出仕/近侍/教授/侍講、  
 「黙齋先生大学講義」著、[恭節の通称/諡号]通称; 長蔵、諡号; 齋全院  
 橋雪(きょうせつ・南部) → 利敬(としり・南部なんぶ、藩主) N 3 1 3 6  
 恭節先生(きょうせつせんせい) → 好義齋(こうぎさい・伊藤/伊東、儒者) I 1 9 2 4
- G1696 杏仙(きょうせん・武田たけだ、道安男)?-? 漢学者/医者、1652季吟「大和物語抄」跋文
- 01622 橋泉(きょうせん・西鷺軒さいろけん)?-? 江前期備後黄檗僧/浮世草子作者; 西鶴門、知足と交遊、  
 1686「近代艶隠者きんだいやさいんじゃ」著(; 西鶴序)
- 01623 橋泉(きょうせん) ? - ? 長崎俳人; 「西海集」編、1691江水「元禄百人一句」目録入
- 01624 杏川(きょうせん; 号) ? - ? 江中期熊本俳人・野坡と交流、1731「木之葉桜集」
- 01625 喬遷(きょうせん・川田かわだ、名; 良熙/字; 宗仲)?-? 江中期遠州相良藩士/儒者、  
 1781「弄華辨」94「論語古説」95「初学辨惑志」96「大学軌説」著  
 杏仙(きょうせん・武田) → 兼山(けんざん・武田たけだ、医者) J 1 8 2 0  
 杏仙(きょうせん・小幡) → 太室(たいしつ・小幡おぼた、医者/儒・詩) K 2 6 1 2

- 杏仙(きょうせん・加納) → 諸平(もろひら・加納/夏目、国学者/歌) 4 4 3 5  
 杏仙(きょうせん・松井) → 直寛(なおひろ・松井まつい/須田、藩医/歌) O 3 2 8 1  
 享先(きょうせん・並河) → 寒泉(かんせん・並河なみかわ/なびかわ、儒者) G 1 5 4 7  
 喬宣(きょうせん・竹村) → 喬宣(たかのぶ・竹村たけむら/野村、歌人) Y 2 6 1 0  
 慶暹(きょうせん) → 慶暹(けいせん、天台僧、歌人) 1 8 7 7
- R1966 行専(ぎょうせん;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;僧/法師、  
 1233刊[御裳濯集]3首入、  
 [世を逃れて修行に出でて年を経て春頃もと住み侍りける所をみてよみ侍りける、  
 たちかへり春になぐさむ心こそよにふるさとのなごりなりけれ](御裳濯集;春132)
- G1697 行仙(ぎょうせん;法諱) ? - 1278 鎌倉期、上州山上の真言僧:静遍門、  
 高野山でも修業;念仏の行者、「念仏往生伝」編
- W1600 行宣(ぎょうせん;法諱) ? - ? 鎌倉期叡山横川の僧、近江坂本の北の仰木あふき住、  
 歌・音楽(音階)に通ず、  
 頓阿[井蛙抄]卷六雑談入;弁内侍が老後仰木に籠り亀山院七夕会に出詠の逸話を追憶、  
 徒然草199段入;[唐土は呂の国・和国は単律の国]と音楽の違いを語る
- C1674 堯全(ぎょうぜん;法諱、堯仁とも)?-? 天台僧;法印、1424「叡山霊所巡礼次第」著、  
 歌人、新続古今2126、  
 [八十まで七の社につかへきて祈るも君が御かげなりけり](新続古今;神祇2126)
- 狂仙亭春笑(きょうせんていしゅんしょう)→春水(2世しゅんすい・為永、藩士/戯作者) 2 1 5 8  
 教禅房(きょうぜんぼう) → 琳弘(りんこう・教禅房、僧/朗詠) K 4 9 2 0  
 行泉房(ぎょうせんぼう;号) → 静明(じょうみょう;法諱、天台僧/臨濟禅法) L 2 2 6 7  
 行全坊(ぎょうぜんぼう;通称)→ 成運(せいうん;法諱、叡山僧/歌人) 2 4 6 3  
 行祚(ぎょうそ;法名) → 実経(さねつね・一条/藤原/九条、一条祖/関白・摂政/歌) D 2 0 2 1
- C1675 慶宗(きょうそう・けいそう、菅原時登男?)?-? 1323存 鎌倉後期僧:法眼、歌:続現葉入、続千載904、  
 [みな人のたのみをかけて神がきに祈ればなびく松の白ゆふ](続千載集;九神祇904)
- 亨宗(きょうそう/こうそう) → 祖覚(そかく;法諱・亨宗こうそう、臨濟僧) J 2 5 3 6  
 杏叟(きょうそう・頼) → 杏坪(きょうへい・頼らい、儒者/史家) 1 6 3 8  
 恭三(きょうぞう・安江) → 正美(まさみ・安江やすえ、文迪/医者/歌) T 4 0 3 3  
 恭蔵(きょうぞう・川上) → 東巖(とうがん・川上、儒者) C 3 1 3 3  
 恭造(興蔵きょうぞう・宮下)→ 宗恭(むねたか・宮下みやした、医者/歌) B 4 2 5 0  
 経蔵(きょうぞう・正宗) → 雅教(まさあつ・正宗まさむね、国学者/狂歌) B 4 0 1 6  
 鏡蔵(きょうぞう・松沢) → 信義(のぶよし・松沢まつざわ、藩士/和算家) E 3 5 0 4  
 鏡三(きょうぞう・尾崎) → 吉従(よしゆき・尾崎おさき、藩士/歌人) L 4 7 8 6  
 喬蔵(きょうぞう・武田) → 豊城(とよき・武田たけだ、藩士/歌人) T 3 1 5 2  
 郷蔵(きょうぞう・小島) → 言行(ことゆき・小島こじま、藩士/歌人) Q 1 9 7 0  
 興三(きょうぞう・中村) → 尚輔(ひさすけ/なおすけ・中村、藩士/国学者) B 3 7 1 7  
 慶増(きょうぞう) → 慶増(けいぞう/きょうぞう;法諱、天台僧/歌) G 1 8 3 2  
 教蔵院(きょうぞういん) → 日生(にっしょう;法諱・春陽、日蓮僧) E 3 3 1 8  
 慶蔵坊(きょうぞうぼう) → 盛巖(じょうごん;法諱、天台修験僧) I 2 2 9 1
- C1676 経尊(きょうそん;法諱、稻荷法橋)?-? 1275存 鎌倉期真言宗金剛王院流の僧;深草稻荷山に隠棲、  
 法橋、言語学;1268語源辞書「名語記」著(10卷)
- O1626 教存(きょうそん;法諱・快行かいぎょう;字、号;風牀)1779-183153 讃岐寺家村真言僧;1789備中教範門、  
 高野山修業/備中倉敷観竜寺住職/法印、1819「風牀小詩」27「風牀詩稿」30「続聯珠詩格」著
- G1698 杏村(きょうそん・垣内、孝友[淡斎]男/菊池海莊の弟)?-? 漢学、1829海莊「秀餐楼初集」編
- O1627 杏村(きょうそん・高橋たかはし、名;九鴻/字;景羽、直吉男)1804-6865 叔父孝吉の養嗣、美濃安八郡絵師、  
 上京;中林竹洞門(南宋画)/詩書:山陽門、1844頃家塾鉄鼎学舎を創設;漢学・画法を教授、  
 「鷗社詩集」著、  
 [杏村の通称/別号]通称;友吉/総右衛門、別号;爪雪かせつ/鉄鼎てつてい/塵遠草堂
- I1680 杏村(きょうそん・河野こうの/かわの、名;逸)1811-7767 淡路儒者;大阪で開塾/詩文、1854「履霜録」編、  
 「履霜録刪語」「杏村詩集」「杏村文稿」「杏花村舎詩文集」「杏翁醉話」「建囊録」「渭津外記」著、

[杏村の通称/別号]通称;逸平、別号;杏翁/澗水隠士狂[杏]花村舎主人

経存(きょうそん;初諱) → 経孝(きょうこう;法諱、天台僧) N 1 6 7 2

- 1635 行尊(ぎょうそん;法諱・通称;平等院大僧正/円満院大僧正、源基平男) 1055-1135 81 母;藤原良頼女、1066天台宗園城寺出家;明行親王門/大峰熊野の台密修験道修業/1079頼豪より灌頂受、山伏修験の無双の行者と称される、1107法眼和尚位権少僧都/16園城寺第26代長吏、熊野三山検校/23第44代天台座主、1125法務大僧正、園城寺金堂再建;寺門中興の祖、琵琶/書に堪能、歌;三井の歌仙と称せらる、西行に影響を与えた、自撰家集「行尊大僧正集」、1117「十八道」著、1128「南宮歌合」判、1091宗通歌合・1128顯仲住吉歌合参加、後葉集(4首)・続詞花集6首・御裳濯集・雲葉集入、勅撰49首:金葉(Ⅱ10首54/228/521以下、Ⅲ7首53/以下)詞(2首260/363)千(482)

新古(11首/;64は小宮本は行尊なるも行慶と考えられる)新勅(1141)以下、

[もろともにあはれと思へ山桜花よりほかに知る人もなし](金葉;521)

- V1608 曉邨(暁村ぎょうそん・星ほし、) 1816(or13-15)-1900 81or87? 陸奥会津融通町の商家、絵師/歌人、絵画;遠藤香村門/四条派を修学、歌;野矢常方・千種有文門、平山茂承げつぐの歌の師、絵師;1847(弘化4)江戸湾防備の相模・伊豆・房総の佳境の画、1858(安政5)仁和寺法親王に画奉納、法橋を受、歌人香川景嗣・大田垣蓮月と交流、1861(元治元)藩領標津番屋に絵師で派遣、遠藤香村没後;継嗣;秋鮭漁や加工の様子を写実的な技法で描く、戊辰戦争時;海老名リンの自刃を説得し止める、詠歌千余首、師の野矢常方遺詠集「蓼の落穂」著、[花みつつかすみ酌むまのひと時はうき世の外の我世なりけり](飯盛山の彰恩碑)[曉邨(;名)の号] 董園/朗董園/朗薰園

- 01628 堯尊親王(ぎょうそんしんのう、諡号;即応院、貞敦親王男)?-1559 母;三条実香の女藤香子、妙法院門跡、覺胤親王門/1550天台座主、1539「大威徳法」著

- 1636 暁台(きょうたい・加藤かとう/岸上まきのうえ、名;周挙、岸上林右衛門男) 1732-92 61 加藤仲右衛門の養子、尾張藩士/1757江戸詰/59致仕亡命;改姓;久村/行脚、俳人:武藤巴雀・白尼門、蕉風を慕う、1774蕪村一派と交流、1763「蛙啼集」「蛙文集」、66「太郎集」、70奥羽行脚「しをり萩」、1772「秋の日」75「熱田三歌仙」82「風羅念仏」/88「夜のはしら」、「暮雨句集」「暮雨叟句集」、「暮雨巷連句集」「幽蘭集」「佐渡日記」「幣袋」著、「暁台句集」(臥央編/遺吟1153句入)、[日のすぢや落葉面うつ夕眺][落葉おちかさなりて雨雨をうつ](暁台句集)、門人;臥央/士朗/都貢など、[暁台の通称/別号]通称;平兵衛/五一、

別号;他朗/買夜子/白一居/暮雨巷/暮雨叟/暮雨亭/龍門、法号;春光院

- G1699 鏡台(きょうだい) ? - 1808 俳人・蓼太の妻  
業乃(ぎょうだい・冢田) → 旭嶺(ぎよくれい・冢田つかだ、医/儒者) P 1 6 4 4  
堯達(ぎょうたつ・川上) → 不白(ふはく・川上かわかみ、茶人/俳人) D 3 8 6 3  
境達院(きょうたついん) → 日順(にちじゆん;法諱、日蓮僧) C 3 3 2 9  
行田耄翁(ぎょうだもうおう) → 耄翁(もうおう・行田ぎょうだ、地誌家) 4 4 4 4  
京太夫(きょうだゆう・野口) → 文菴(ぶんりゆう・野口のぐち/橘、文筆家) G 3 8 7 1  
京太郎(きょうたろう) → 月守(つきもり・神田、俳人) 2 9 6 3  
郷太郎(きょうたろう・贅川) → 正興(まさおき・贅川にえかわ、歌人) L 4 0 1 0  
郷太郎(きょうたろう・伊藤) → 鳳山(ほうざん・伊藤いとう、漢学者) B 3 9 1 4  
恭太郎(きょうたろう・恩田) → 仰岳(ぎょうがく・恩田おんだ、藩士/漢学者) N 1 6 4 8

- 01629 杏壇(きょうだん・采々堂) ? - ? 三河の俳人/雑俳点者:

1752「俳諧いもせ山」「藻塩の煙」編、1752「菊あはせ」編

鏡男(きょうだん・宇都宮) → 鏡男(かがみお・宇都宮うつのみや、神職) T 1 5 7 4

- 01630 堯端(ぎょうたん;法諱、清水谷実栄の猶子) 1719-1806 88 僧;13歳で得度/叡山東塔覚林坊に住、正観院院主、1785(天明5)大僧正に至る、「直雑論題」/1765「鎮将夜叉根本印明」著

狂痴(きやうち・永田) → 格庵(かくあん・永田ながた、儒者/詩人) J 1 5 4 2

教知(きやうち・梅沢) → 教知(のりとも・梅沢うめざわ、藩士/神職) H 3 5 5 2



- 教智(きょうち; 律師房) → 少輔君(しょうのみ、天台僧/歌人) S 2 2 6 3
- J1627 堯智(きょうち; 法諱・常光院; 号)?-? 真言僧; 常光院繼承/歌学; 堯孝or堯憲門、  
和歌所法印、1509「古今集読人不知考」著
- C1677 行智(ぎょうち; 法諱・慧日; 字、行弁男) 1778-1841 64 江戸修験宗当山派山伏、悉曇学修得、  
浅草銀杏八幡宮別当覚吽(かくん)院住僧/総学頭・法印大僧都、冷泉派歌人、持明院流書、  
「童謡集」編、修験「木葉衣」、「悉曇字記真釈」「諸家悉曇」「丈堂随筆」「理源大師御年譜」、  
1809「伊勢物語直解」10「行智歌集」23「翻訳名義集目安」35「帰宇要詞解」36「踏雲録事」著、  
[行智の号] 円明院/阿光房、法号; 梵学興隆沙門行智
- 行智(ぎょうち; 法諱・花溪; 道号) → 尚経(ひさつね・九条/藤原、関白/記録) B 3 7 3 9
- 業智(ぎょうち・中山) → 業智(なりさと・中山、平曲/随筆) H 3 2 3 5
- 業知(ぎょうち・荻野) → 荻野検校(おぎのけんぎょう、鍼医/平曲) 1 4 4 4
- 鏡池庵(きょうちあん・老鼠) → 湖十(5世こじゅう・深川、俳人) C 1 9 8 6
- 共竹軒(きょうちくけん) → 常和(初代じょうわ・三村みむら、絵師/歌) V 2 2 2 4
- 疆蟄斎(きょうちつさい・三田村) → 定虎(さだとら・三田村、藩士/弓術) I 2 0 9 5
- 堯智房(ぎょうちぼう; 号) → 良重(りょうじゅう; 法諱、真言金剛峯寺検校) H 4 9 8 8
- 鏡智法明禅師(きょうちほうみやうぜんじ) → 古旻(ことう; 道号・周勝、臨濟僧) P 1 9 6 4
- C1678 慶忠(きょうちゅう; 法諱) 1137 - 1226 長寿90 平安後期/鎌倉期僧; 1199(正治元)法橋、  
1206権少僧都/法印、歌: 定家と親交、新勅撰601・1085、  
[法りのため身をしたがへし山びとにかへりて道のしるべをぞする](新勅撰; 釈教601)
- 教忠(きょうちゅう・葉室) → 教忠(のりただ・葉室、廷臣/武将/連歌) E 3 5 9 3
- 教忠(きょうちゅう・三浦) → 教忠(のりただ・三浦、和算家) E 3 5 9 8
- 教忠(きょうちゅう・藤波) → 教忠(のりただ・藤波/大中臣、神職) E 3 5 9 9
- 教忠(きょうちゅう・二条) → 教頼(のりより・二条、南朝廷臣/歌) G 3 5 3 6
- 教忠(きょうちゅう・小坂) → 呂叟(ろそう・小坂こさか、俳人) C 5 2 0 8
- 教中(きょうちゅう・菊池) → 澹如(たんじょ・菊池、難民救済、詩) I 2 6 8 4
- 恭忠(きょうちゅう・瀬戸/拝崎) → 琴台(きんだい・拝崎はいざき、藩士/儒者) R 1 6 3 5
- 恭忠(きょうちゅう・菅野) → 恭忠(やすただ・菅野すがの、音韻学者) B 4 5 9 0
- 恭仲(きょうちゅう・秦) → 恭仲(よしなか・秦はた、神職/国学) O 4 7 5 1
- S1632 堯忠(ぎょうちゅう; 法諱・光明院)?-? 1465 存 真言東寺光明院住/権大僧都/法印/1451東寺別当、  
1465執事、1462「法印堯忠寛正二年記」著
- 01631 行忠(ぎょうちゅう; 法諱/俗姓; 武田、徳栄男) 1817-90 74 越後水原真宗本願寺派無為信寺住職、  
1853高倉学寮/48学寮司・のち講師、詩歌/書画、「御文管絃秘曲」1853「唯識三類境聴記」  
[行忠の号] 片雲/竹逸/醉月/香涼院
- 行中(ぎょうちゅう) → 行中(こうちゅう、俳人) F 1 9 2 8
- 業忠(ぎょうちゅう・吉田) → 業忠(なりただ・吉田よしだ、歌人) P 3 2 3 2
- 鏡澄(きょうちゅう; 字) → 日朝(にっちょう; 法諱・行学院、日蓮僧) F 3 3 1 4
- 匡長(きょうちゅう・祝部) → 匡長(まさなが・祝部ほうりべ/はふりべ、神職/歌) F 4 0 1 4
- 行澄(ぎょうちゅう) → 高信(こうしん; 法諱、順性房、華嚴教学) B 1 9 4 3
- 行澄(ぎょうちゅう・東) → 行澄(ゆきずみ・東、武将/連歌) G 4 6 3 3
- 行澄(ぎょうちゅう) → 宗尊親王(むねたかしのう) 4 2 0 5
- 業朝(ぎょうちゅう・小林) → 業朝(のりとも・小林こばやし、駅伝問屋/国学) I 3 5 4 3
- 狂蝶子文麿(きょうちゅうしうふみまる) → 文麿(ふみまる・狂蝶子、狂歌/読本) E 3 8 0 5
- 橋長水清処(きょうちゅうすいせいじょ) → 茂世(しげつぐ・末永すえなが、藩士/歌) Z 2 1 0 0
- 喬直(きょうちよく・玉置) → 喬直(たかなお・玉置たまき、書家/歌人) M 2 6 5 3
- 喬直(きょうちよく・土屋) → 喬直(たかなお・土屋つちや、幕臣/旗本) Y 2 6 3 1
- 匡直(きょうちよく・牧) → 匡直(まさなお・牧まき、石潭/儒者/歌人) S 4 0 5 4
- 匡勅(きょうちよく・野中/田辺) → 築斎(らくさい・田辺/野中、藩儒) B 4 8 1 3
- 教智律師房(きょうちりっしぼう) → 少輔君(しょうのみ、天台僧/歌人) S 2 2 6 3
- 01633 堯珍(ぎょうちん; 法諱、通称; 与利下野)?-? 1494 存 天台宗青蓮院待法師/法橋、



- 連歌:1482「何人百韻」88「宗祇花下開百韻」94「何路百韻」連中参加、新菟玖波4句入  
 堯陳(ぎょうちん・杉山) → 清一(せいいち・杉山、幕臣/金沢文庫研究) 2 4 5 8  
 行珍(ぎょうちん;法名) → 行朝(ゆきとも・二階堂/藤原、幕臣/歌) F 4 6 0 7  
 教通(きょうつう→のりみち・河野/越智) → 通直(みちなお・河野こうの、武将/城主/連歌) C 4 1 0 6  
 恭通(きょうつう・梅溪) → 行通(ゆきみち・梅溪うめたに/源、廷臣/日記) F 4 6 6 8  
 恭通(きょうつう・竹内) → 恭通(たかみち・竹内たけうち/古川、国学) Y 2 6 0 8  
 恭通(きょうつう・鈴木/木) → 小蓮(しょうれん・鈴木/木、儒者/詩文) M 2 2 0 4
- 01634 恭庭(きょうてい・山本やまと、名;惟允)?-? 医者:中国最古の病理学書「諸病源候論」の誤謬訂正、  
 1821「医觸いけい」、「諸病源候論解題」著  
 香亭(きょうてい・中根) → 香亭(こうてい/きょうてい・中根、幕臣/史家) F 1 9 3 1  
 教定(きょうてい・飛鳥井) → 教定(のりさだ・飛鳥井/二条/石山、廷臣/歌) E 3 5 4 8  
 教定(きょうてい・津村) → 涼庵(そうあん・津村/円、商家/隨筆/歌) 2 5 4 7  
 教定(きょうてい・黒須) → 教定(のりさだ・黒須くろす、藩士、儒学・歌) I 3 5 3 1  
 教貞(きょうてい・保崎) → 教貞(のりさだ・保崎ほさき、藩士/歌人) J 3 5 9 3  
 崎陽亭(きょうてい) → 重春(しげはる・柳斎・梅丸斎・滝川・烽山/山口、絵師) C 2 1 8 6  
 業亭(ぎょうてい) → 行成(ゆきなり、人情本作者) F 4 6 1 7  
 行貞(ぎょうてい) → 行貞(こうてい、俳人) B 1 9 7 7  
 業亭行成(ぎょうていゆきなり) → 行成(ゆきなり・業亭ぎょうてい、人情本作者) F 4 6 1 7  
 恭定靈神(きょうていれいしん) → 容頌(かたのぶ・松平、藩主/改革) N 1 5 0 5
- S1633 行徹(ぎょうてつ;法諱) ? - ? 江中期曹洞僧/心越興儔(しんえつこうちゅう1639-95)の侍者、  
 1692「心越禪師開堂語録」編  
 慶典(きょうてん) → 慶典(けいてん、真言僧/連歌) 1 8 8 6
- 1637 京伝(きょうでん・山東、姓;岩瀬いわけ、名;田蔵/醒さむる、伊勢屋伝左衛門男)1761-1816<sup>56</sup> 江戸深川質商、  
 浮世絵;重政門/北尾政演まさのぶ名、1778画工、80戯作者;黄表紙・洒落本作/寛政改革時筆禍、  
 のち読本・合巻作者、考証隨筆、1793銀座に煙草入店開業、  
 著作;黄表紙;1780「娘敵討故郷錦」「米饅頭始」、1782「御存商売物」、「江戸生艶気樺焼」など、  
 洒落本;「通言総籙」など、読本;「忠臣水滸伝」「桜姫全伝曙草紙」など、  
 [山東京伝(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;甚太郎、字;酉星/有濟/有儕、通称;京屋伝蔵、  
 別号;山東庵/山東人/山東亭/山東軒/山東窟/山東居、醒斎/醒世/醒々斎/菊軒/菊亭、  
 葦斎せいさい/宝山/素后/甘谷/鶏告、画号;北尾葦斎政演/珊瑚洞散士/洛橋陳人、  
 狂号;身軽折輔[織輔]/躰下逸人/鼯鼠翁/醒世老人、法号;弁譽智海京伝信士  
 妻; 初妻 おきく(吉原扇屋の遊女菊園)  
 後妻 百合(吉原弥八玉屋の遊女玉の井)  
 弟 → 京山(きょうざん・山東、戯作者) 1 6 3 3  
 妹;よね → 黒鷲式部(くるとひしきぶ、岩瀬よね、黄表紙作者) B 1 7 8 4
- H1600 京伝(きょうでん・川東かわひがし)?-? 名古屋の洒落本作者:  
 1800大野屋惣八編「軽世界けいせいかい四十八手」のうちの「易やすひ手」著  
 教典(きょうでん;字) → 日典(にちでん;法諱・実成院、日蓮僧) C 3 3 9 4  
 慶伝(きょうでん;字) → 日眞(にっしん;法諱、東光院/発星院、日蓮僧) E 3 3 4 5  
 教伝房(きょうでんぼう) → 恵照(えしょう;法諱・心鏡、真言学僧) D 1 3 9 7  
 橋東(きょうとう・小泉) → 蒼軒(そうけん・小泉こいづみ、地誌/測量家) H 2 5 0 8
- D1645 杏堂(きょうどう・浜田/初姓;名和、名;世憲)1766-1814<sup>49</sup> 大阪の医者;浜田家の養子、  
 絵師;福原五岳門/山水人物画/能書家;特に行書、「墨竹図」等、  
 [杏堂(;号)の字/別号]字;子徴、別号;希庵  
 共堂(きょうどう・豊由) → 周斎(しゅうさい・豊由とよよし、和算家) X 2 1 3 6  
 鏡堂(きょうどう・覚円;法諱) → 覚円(かくえん・鏡堂、臨濟僧) B 1 5 3 6  
 恭堂(きょうどう;道号・元髓) → 元髓(げんずい;法諱・恭堂、黄檗僧) K 1 8 3 0  
 恭堂(きょうどう;号) → 敬彦(きょうげん;法諱・実幢じつとう、天台僧) N 1 6 6 5  
 恭堂(きょうどう・田中) → 綏猷(すいぎ・田中/小森、儒者/勤王) E 4 5 6 6

- 矯堂(きやうどう・長野) → 芳斎(ほうさい・長野/月形、藩士/儒者) 3 9 8 4  
 矯堂(きやうどう・仙石) → 政固(まさかた・仙石せんごく/土岐、藩知事/歌) C 4 0 0 1  
 教導(きやうどう;号) → 琢典(たくてん・教導、浄土宗西山派僧) O 2 6 1 3  
 匡道(きやうどう・広橋/交野) → 時雍(ときちか・交野かたの、廷臣/記録) J 3 1 2 8  
 01635 行道(ぎやうどう;法諱/別諱;五行、明満みょうまん、伊藤六兵衛男) 1718-1810長寿93 甲斐古関村遊行僧、  
 1739相模大山不動参籠、古義真言僧と師弟の契/1762常陸羅漢寺で木食観海に受戒、  
 1773から廻国修業と千体仏造(木食仏彫刻)を発願、蝦夷江差～九州まで遍歴;木彫仏奉納、  
 栃木栃窪薬師堂薬師三尊/日向国分寺五智如来像/甲斐永壽庵五智如来像などが現存、  
 三界無庵無仏を信条、故郷丸畑に四国堂建立;88体彫像安置(1801完成)、  
 「四国堂心願鏡」著  
 [行道の通称] 木喰五行もくじきぎやう/木食上人/行道上人/五行菩薩  
 01636 先導(ぎやうどう;法諱・随庸;字、幼名;椿丸/椿麿、仏光寺経海男) 1634-8956 山城仏光寺19世、  
 真宗学;杳然親王門、1667権僧正、「渋谷勸章」「仏光寺御書」著  
 01637 暁堂(ぎやうどう;号・道収どうしゅう;法諱、叟玄とうげん;道号、俗姓林) 1634-166633 福建より渡来/黄檗僧、  
 隠元隆琦・慧門恕沛門、1661慧門の命で高泉らと長崎渡来;万福寺隠元に随従、  
 詩書、「雲濤続集」編/「暁堂禅師夢遊漫六」著  
 暁堂(ぎやうどう;字) → 邦諫(ほうかん;法諱・暁堂、浄土僧) 3 9 3 0  
 仰道(ぎやうどう・大蔵) → 延年(のぶとし・大蔵おおくら、宿業/教育) H 3 5 6 6  
 経道院(きやうどういん) → 日因(にちいん;法諱、日蓮僧) 3 3 4 7  
 凝島軒(ぎやうとうけん) → 芳房(よしふさ・朝山あさやま/勝部、神職/歌) G 4 7 7 4  
 供道斎(きやうどうさい・くどうさい) → 宗範(むねのり/そうはん・辻つじ、茶道家/歌) D 4 2 9 9  
 行道上人(ぎやうどうしやうじん、木食上人) → 行道(ぎやうどう・明満、遊行僧) O 1 6 3 5  
 V1688 教督(きやうとく;法諱) ? - ? 鎌倉期;興福寺の法師/歌;1237刊[檜葉集]入、  
 [禅定院]尊者と百番歌合し侍りける中に、  
 うちいづるあさひの影のてりくもりきゆればこほる雪のした水] (檜葉;雑752)  
 01638 敬徳(きやうとく;法諱・桜井さくらい、名;広孝、井上広堅男) 1830-8556 尾張知多郡西阿野村の天台僧;  
 尾張松栄寺の観智門/旭順より受戒、1849(嘉永2)知多玉泉寺住寺/50園城寺法明院敬彦門、  
 1853近江美濃武蔵を巡歴/54再び敬彦門;58三井流秘法を受/師没後;法明院住職、  
 1864尾張長栄寺実戒より具足戒を受/1870祐玉より伝法灌頂を受、  
 この間教導職;各地巡回、フェノロサ・ピゲローに戒を授ける、「台学専注」著、  
 [敬徳の字/別諱]字;順道、別諱;順広/戒忍、法名;順慶  
 教徳(きやうとく・川瀬) → 教徳(のりなり・川瀬かわせ、藩士/奉行) F 3 5 3 8  
 恭徳(きやうとく・栗田) → 恭徳(たかのり・栗田くりた、商家/歌人) M 2 6 8 6  
 供徳(きやうとく) → 供徳(ともりのり・歌人) T 3 1 8 3  
 恭徳院(きやうとくいん) → 幸哉(ゆきちか・青山あおやま、藩主/蘭学) E 4 6 8 6  
 亨徳院(きやうとくいん/こうとくいん) → 一溪(いっけい・曲直瀬まなせ、医者) G 1 1 9 4  
 仰徳大明神(ぎやうとくだいみょうじん) → 元就(もとなり・毛利/大江、武将/連歌) D 4 4 6 1  
 経徳堂(きやうとくどう) → 莘陽(しんやう・富永/長深/神墨、陽明学) 2 2 9 0  
 01639 狹南(きやうなん・大久保おおくぼ/修姓;膝、名;忠休ただやす、忠寅男) 1737-180973 武蔵多摩儒者/幕臣、  
 儒;宇佐美瀧水しんすい/大内熊耳門、1755家督;幕臣/56書院番士/96家慶付き西丸伺候、  
 1797「武蔵八景」編/1805「狹南集」/08「むさし野八景」著、  
 母;谷辺焉長の女/妻;永井直賢女、  
 [狹南(;名)の幼名/字/通称/別号]幼名;次郎吉、字;明夫、通称;三十郎/五郎兵衛、  
 別号;名斎/狹南山人  
 01640 嶠南(きやうなん・平部ひらべ、名;俊良、和田重寛男/平部俊寧の養子) 1815-9076 日向宮崎郡清武の生、  
 儒者;安井滄洲・息軒門/1833平部家養子/江戸;古賀侗庵とうあん門、34帰郷;飢肥藩校講師、  
 1838藩校振徳堂教授/44江戸藩邸副留守居/側用人/中老/67家老、  
 1844「日向私史」編、67「肥向纂記」著、「日向地誌」編/「嶠南日記」「六隣荘日記」著、  
 [嶠南の字/通称/別号]字;温卿、通称;良介/良助、別号;抱膝庵/六隣荘  
 嶠南居(きやうなんきよ) → 沾洲(せんしゅう・貴志、俳人) F 2 4 8 8

- 教二(きょうに・岩井) → 教二(きょうじ・岩井、狂歌) F 1 6 1 3  
 I1694 行日(ぎょうにち) ? - ? 鎌倉期僧;沙彌、歌人;  
 1261(弘長元)「宗尊親王百五十番歌合」参加、  
 [み吉野の山は雪降りさゆれども春の光のしるくも有るかな](宗尊歌合;十四番右28)  
 教如(きょうにょ;号) → 光寿(こうじゅ;法諱、東本願寺創建) J 1 9 4 8  
 01641 狂人(きやうにん) ? - ? 京俳人;1690言水「新撰都曲」入[禪寺や淡雪消えて松寒し]  
 01642 慶忍(きやうにん;法諱/別諱;性叡しやうい・姓;田丸たまる、雲西寺乘願男) 1816-8368 豊前上津村真宗僧、  
 1844豊前三保村長久寺芳慶の養子/53本願寺派長久寺住職/姓相;宝雲門・宗乘;月珠門、  
 1858助教/67司教/74勸学、「斥邪篇」「六書訓蒙篇」「唯識二十論略解」著  
 慶任(きやうにん;法諱) → 慶任(けいにん、天台僧/歌人) G 1 8 5 0  
 01643 堯仁(ぎやうにん;法諱・光教こうきやう;字、関白二条持基6男/本姓;藤原) 1430-150374 真宗僧、  
 山城仏光寺13世、1456性善上人門;法嗣/57天台学;天台座主教覺門;得度/法眼/法灯継承、  
 1457法印大僧都/1465(寛正6)後土御門天皇により門跡/69退隱/隱棲、没後;権僧正  
 1503「正信偈聞書」著、  
 [堯仁の号] 敬興院きやうこういん、諡号;無量寿院  
 堯仁(ぎやうにん) → 堯全(ぎやうぜん;法諱、天台僧/歌人) C 1 6 7 4  
 教忍房(きやうにんぼう) → 訓円(くんえん、法相僧) D 1 7 5 9  
 堯仁房(ぎやうにんぼう) → 以久(もちひさ/ゆきひさ・島津、藩主) B 4 4 5 7  
 01644 教仁法親王(きやうにんほつしんのう・俗名弘保/幼名健宮かたみや、孝仁親王男) 1819-5133 天台妙法院門跡、  
 光格天皇養子、1837二品/41天台座主/51一品、「教仁法親王日記」「両界曼供表白」  
 C1679 堯仁法親王(ぎやうにんほつしんのう/ぎやうじん、後光厳天皇皇子) 1363-143068 妙法院門跡、良憲僧正門、  
 母;崇賢門藤仲子(勘解由小路兼綱女)/後円融天皇の弟、1348・1411天台座主/護持僧、  
 「伝法日記」、歌;1407内裏九十番歌合参加、新続古3首;87/299/2122  
 01645 行念(ぎやうねん) ? - ? 平安後期1178「別雷社歌合」参加;既に沙彌、  
 藤原頼保(1179没)と同一?、北条時村とは別人?  
 C1680 行念(ぎやうねん;法諱、北条時村、北条時房男)?-1225 鎌倉期武士/1218父と後鳥羽院蹴鞠会参加、  
 1220出家(弟資時[眞昭]と);法師、歌人;藤原定家門、東撰和歌六帖入、  
 勅撰16首;新勅(5首1036/1096/1120/1196/1263)続後撰(496/965)続古今(2首)以下、  
 [梅が香の誰たがさとわかず匂ふ夜はぬしさだまらぬ春風ぞ吹く](新勅;雑1036)、  
 [行念の通称] 相模次郎  
 C1681 凝然(ぎやうねん;法諱・示観しかん;字、諡号;示観国師、俗世藤原) 1240-132182 伊予越智郡高橋郷の生、  
 越智氏出身、1255(16歳)比叡山延暦寺で菩薩戒を受く、  
 1257(18歳)東大寺戒壇院主円照門;沙弥戒を受/59通受戒を受、  
 律;証玄・泉涌寺の浄因門/密教;聖守門/華嚴;東大寺別当宗性門、史・孔老諸子百家に精通、  
 1277円照没;戒壇院主・金剛山寺・唐招提寺などで講經、1307後宇多天皇に菩薩戒を授く、  
 国師号を賜/1316唐招提寺を管す/戒壇院で没、著述は膨大で120余部1,200余巻に及ぶ、  
 1276「雲雨鈔」93「内典十宗秀句」1307「律宗綱要」08「華嚴經品釈」11「三国仏法伝通縁起」、  
 1214「華嚴宗要義」、「華嚴探玄記洞幽鈔」「律令瓊鑑章」「十住心論義批」「拾要記」、  
 「太子法華疏惠光」「心要義鑑」「八宗綱要」外著多数  
 歌;1330北野宝前和歌入(没後入集)、  
 [袖の香に昔をのこせ吹く風にはなたちばなの花はちるとも](北野和歌;20/庭橘散風)  
 行念(ぎやうねん;法名) → 頼保(よりやす・藤原ふじわら、廷臣/歌人) J 4 7 8 6  
 狂念居士(きやうねんこじ) → 南溟(なんめい・亀井、儒医/詩人) 3 2 3 7  
 01646 堯然法親王(ぎやうねんほつしんのう、名;常嘉/幼名六宮、後陽成天皇9皇子) 1602-6160 妙法院門跡、  
 1616得度、母;権大納言典侍基子(持明院基孝女孝子)、1640天台座主(3度)、  
 歌人;後水尾天皇の弟;兄より古今伝授を受、書画/花/茶/香に通ず、1661(寛文元)没、  
 「堯然法親王着到百首」「禁苑春来早同詠和歌」「堯然法親王書状」「堯然法親王御消息」著、  
 1638後鳥羽院四百年忌御会参加、  
 [降りうづむ枝より風の吹きいでてひとりぞはらふ松の白雪](後鳥羽院忌;62/雪)  
 京之進(きやうのしん・千磐) → 大枝(おおえ・千磐ちわや、藩士/国学/歌) E 1 4 0 0



- 教之助(きょうのすけ・植木)→ 環山(かんざん・植木うえき、儒者) Q 1 5 8 2  
 恭之介(きょうのすけ・井伊)→ 中頭(なかあき・井伊い/中野/藤原、藩士/歌) L 3 2 0 2  
 興之助(きょうのすけ・中村)→ 尚輔(ひさすけ/なおすけ・中村、藩士/国学者) B 3 7 1 7  
 C1682 卿内侍(きょうのないし・済子さいし/なりこ、姉小路あねがこうじ基綱もとな女) 1483-1543 61 室町戦国期歌人、  
 1501内侍;宮内卿内侍、「卿内侍集」著  
 杏皠(きょうは・頼) → 杏平(きょうへい・頼、儒/藩士/詩) 1 6 3 8  
 恭伯(きょうはく・宮城) → 完(ひろし・宮城みやぎ、藩医者/歌人) L 3 7 4 2  
 恭伯(きょうはく・脇坂) → 恭彦(たかひこ・脇坂わかさか、医者/歌人) 2 7 3 5  
 C1683 教範(きょうはん・高倉/本姓;藤原、高倉範継or範春男?)?-? 1283存 真言仁和寺の僧/法印権僧正、  
 静仁法親王(熊野三山検校)に出仕、藤原為信と親交、歌人、安嘉門院を悼む歌など詠む、  
 勅撰7首;続拾遺(1202)新後撰(452/545/1324/1358)玉葉(1153)続千(2049)、風雅(1998詞)  
 [身の程のうきをも知らでつれなきはなほながらふる命なりけり](続拾;雑1202)  
 慶範(きょうはん・叡山僧) → 慶範(けいはん・歌人、11ct初頭天台僧) 1 8 8 8  
 慶範(きょうはん・東林坊) → 慶範(けいはん、12-13ct天台僧) G 1 8 5 5  
 経範(きょうはん、東寺僧) → 経範(けいはん・11ct中葉真言僧) G 1 8 5 4  
 匡範(きょうはん・大江) → 匡範(まさのり/まさひら・大江、廷臣/歌人) F 4 0 8 8  
 業蕃(ぎょうばん・祝部) → 業蕃(なりしげ・祝部はふりべ/ほうりべ/生源寺、神職/歌) H 3 2 4 0  
 教美(きょうび/のりよし・大館)→ 氏晴(うじはる・大館おおだち、故実家) C 1 2 6 0  
 郷美(きょうび・山崎) → 郷美(さとよし・山崎/源、藩士/和算家) K 2 0 5 9  
 匡弼(きょうひつ/ただすけ・大江)→ 文坡(ぶんば・大江/江、神道/戯作) G 3 8 3 1  
 教品(きょうひん・太田) → 教品(たかしな・太田、藩士/兵学/古学) M 2 6 0 9  
 恭品(きょうひん・石原) → 恭品(たかひこ・石原いしはら、幕臣/歌) H 4 5 1 1  
 恭敏公(きょうびんこう) → 慶寧(よしやす・前田まえだ/藤原、藩主/歌) H 4 7 8 5  
 狂夫(きょうぶ・本間) → 菊堂(きくどう・本間ほんま、儒者) K 1 6 2 0  
 01647 京武(きょうぶ;名・真島ましま、通称;左京)?-? 江初期江戸医者;馬島流眼科、1601「両目秘伝書」著  
 業夫(ぎょうぶ・小原) → 梅坡(ばいは・小原おばら正修、儒者) B 3 6 9 4  
 業夫(ぎょうぶ・佐原) → 豊山(ほうざん・佐原さわら、儒者/欧州視察) B 3 9 1 6  
 堯夫(ぎょうぶ・源) → 世昭(せいしょう・源みなもと、儒者/詩人) I 2 4 7 7  
 堯敷(ぎょうぶ・森) → 堯敷(たかのぶ・森もり/藤原、藩士/国学者) Z 2 6 9 8  
 仰府(ぎょうぶ・石井) → 重崇(しげたか・石井いし、商家/歌) N 2 1 3 3  
 刑部(ぎょうぶ・多賀) → 直昌(なおまさ・多賀たが、藩士/茶道) C 3 2 4 4  
 刑部(ぎょうぶ;字) → 日導(にちどう;法諱・勸持院、日蓮僧) C 3 3 9 8  
 刑部(ぎょうぶ・松下) → 重長(しげなが・松下、幕臣/系譜研究) R 2 1 8 3  
 刑部(ぎょうぶ・堤) → 盛徴(もりずみ・堤/荒木田、神職/国学者) F 4 4 5 2  
 刑部(ぎょうぶ・堤) → 盛員(もりかず・堤/荒木田、盛徴男/神職/国学者) F 4 4 2 8  
 刑部(ぎょうぶ・堤) → 盛尹(もりただ・堤、盛員男/神職/国学者) K 4 4 6 1  
 刑部(ぎょうぶ・堤) → 盛章(もりあき・堤つみ/高田、神職/国学者) K 4 4 6 2  
 刑部(ぎょうぶ・前田) → 信片(のぶかた・前田、藩士/文筆) B 3 5 2 2  
 刑部(ぎょうぶ・布施) → 定安(さだやす・布施ふせ、藩士/文筆家) K 2 0 0 3  
 刑部(ぎょうぶ・飯田) → 忠彦(ただひこ・飯田/里見、史家) F 2 6 6 7  
 刑部(ぎょうぶ・鎌田) → 正純(まさずみ・鎌田かまた、藩士/日記) D 4 0 0 8  
 刑部(ぎょうぶ・橋本) → 実盛(さねもり・橋本、神職/神典/書) L 2 0 4 5  
 刑部(ぎょうぶ・柴田) → 千町(ちまち・柴田しばた、神職/歌人) M 2 8 6 8  
 刑部(ぎょうぶ・葦名) → 盛信(もりのぶ・葦名あしな、邑主/歌人) G 4 4 1 8  
 刑部(ぎょうぶ・葦名) → 盛倫(もりとも・葦名あしな、邑主/国学者) J 4 4 0 8  
 刑部(ぎょうぶ・土屋) → 喬直(たかなお・土屋つちや、幕臣/旗本) Y 2 6 3 1  
 刑部(ぎょうぶ・菅沼) → 貞主(さだぬし・菅沼/源、藩士/文筆家) J 2 0 1 2  
 刑部(ぎょうぶ・檜垣) → 常代(つねよ・檜垣ひがき/度会/久志本、神職) G 2 9 2 0  
 刑部(ぎょうぶ・植村) → 家貴(いえたか・植村うえむら、藩主/歌) J 1 1 5 4  
 刑部(ぎょうぶ・青山) → 忠朝(ただとも・青山あおやま、藩主) V 2 6 0 8



刑部(ぎょうぶ・池田) → 博忠(ひろただ・池田いけだ、家老/歌人) L 3 7 1 5  
行風(ぎょうふう・生白堂) → 行風(こうふう・生白堂せいはいくどう・朝倉、狂歌) B 1 9 8 9  
仰風軒(ぎょうふうけん) → 清将(きよまさ・高田たかだ、藩士/歌人) Q 1 6 3 3  
刑部右衛門(ぎょうぶえもん・津田) → 朝常(ともつね・津田つた、藩士/歌人) P 3 1 8 6  
刑部卿(ぎょうぶきょう) → 泰延(たいえん:法諱、天台宗坊官) J 2 6 2 0  
刑部卿(ぎょうぶきょう) → 慶喜(よしのぶ・徳川/一橋、最後の将軍) F 4 7 7 4

S1634 恭副(きょうふく;法諱) 1742 - ? 1798存 天台叡山僧;行光坊住/法印/大僧都、  
1787「赤山社頭大般若経供養法則」著

刑部権少輔(ぎょうぶごんのしょう) → 俊徳(としのり・北小路きたのこうじ/大江、諸大夫/歌) U 3 1 9 8  
刑部権大輔(ぎょうぶごんのだいぶ) → 政時(まさとき・柴田しばた、神職) Q 4 0 1 4  
刑部左衛門(ぎょうぶざえもん・薬丸) → 兼陳(かねのぶ・薬丸やくまる、藩士/劍客) W 1 5 0 1  
刑部左衛門(ぎょうぶざえもん・薬丸) → 兼福(かねとみ・薬丸、兼陳男/藩士/劍客) W 1 5 0 2  
刑部左衛門(ぎょうぶざえもん・津田) → 朝常(ともつね・津田、歌人) P 3 1 8 6  
刑部卿法眼(ぎょうぶきょうのほうげん) → 宗仁(そうにん・むねひと・長谷川、武将/茶人) I 2 5 6 6  
刑部大輔(ぎょうぶだいぶ) → 教通(のりみち・河野こうの、武将/連歌) G 3 5 4 4  
刑部大輔(ぎょうぶだいぶ) → 貞秀(さだひで・蒲生/藤原/和田、豪族/歌・連歌) G 2 0 1 1  
刑部大輔(ぎょうぶだいぶ・吉良) → 範英(のりひで・吉良きら/今川、幕臣) F 3 5 5 5  
刑部大輔(ぎょうぶだいぶ・河野) → 通宣(みちのぶ・河野こうの、武将/連歌) H 4 1 1 0  
刑部大輔(ぎょうぶだいぶ・森) → 盈久(みつひさ・森もり/伊関/賀茂、神職) E 4 1 5 6  
刑部大輔(ぎょうぶだいぶ・宗) → 義真(よしざね・宗そう/平、藩主) D 4 7 5 1  
刑部太夫(ぎょうぶたゆう・内海) → 政雄(まさお・内海うちみ、神職/国学者) O 4 0 0 0  
刑部少輔(ぎょうぶのしょう/-せふ) → 清円(きよのぶ・佐分さぶり/眞清田ますみだ、神職/国学) Q 1 6 1 0  
刑部少輔(ぎょうぶのしょう) → 繁世(しげよ・横手よこて/源、武将/連歌) D 2 1 2 8  
刑部少輔(ぎょうぶのしょう) → 信資(のぶもと・荷田かだ/羽倉、神職) D 3 5 5 2  
刑部少輔(ぎょうぶのしょう) → 兼尚(かねひさ・山本やまと/賀茂、諸大夫/和学) W 1 5 1 2  
刑部少輔(ぎょうぶのしょう) → 乘興(のりおき・松平まつだいら、幕臣/和学) K 3 5 0 4  
刑部丞(ぎょうぶのじょう) → 文躬(ふみちか・朴木ほおのき、武士/連歌) D 3 8 8 8  
恭文(きょうぶん・細田) → 恭文(やすふみ・細田ほそだ、農/養蚕/和算) C 4 5 9 1  
行文(ぎょうぶん・消奈) → 行文(ぎょうもん・消奈しょうな/背奈せな、博士/詩歌) C 1 6 8 6  
堯文(ぎょうぶん・斎藤) → 方策(ほうさく・斎藤さいとう、蘭方医者) 3 9 9 3  
狂文亭(きょうぶんてい) → 春江(しゅんこう・為永ためなが、人情本作者) 2 1 5 6  
興文堂(きょうぶんどう・こうぶんどう) → 徳恒(とくこう・高橋、書肆/俳人) K 3 1 6 9

1638 杏坪(きょうへい・頼らい、名;惟柔ただなご、亨翁こうおう男) 1756-1834? 安藝竹原生/儒;兄春水と混沌社参、  
江戸;闇齋学派服部栗齋門/1785広島藩儒、藩学興隆に尽力、1811郡奉行、甥山陽を教導、  
藩史編纂/詩/書/歌、母;道工仲子、春水春風の弟、1825「芸藩通史」編纂、1777「遊石稿」、  
1790「原古編」、1805「唐桃集」「稲むしろ」、10「宿景園仮名記」24「食禄箴」29「勸孝論俗要言」、  
「杏坪文集」「杏坪詩集」「林泉集」「春草堂詩集」「春草堂秘録」「一得録」「春草遺集」著、  
[杏坪(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;阿万、字;千祺せんき/季立、通称;万四郎/阿万、  
別号;春草/杏皞きょうは/杏翁/杏叟/南老人/南翁/春草堂  
頼家系図 → 春水(しゅんすい・頼らい)の項 2 1 6 0

01648 強平(きょうへい・寺地てらち、名;豊/束、幸助男) 1809-75? 備後福山藩士/蘭医;坪井信道門、  
同門緒方洪庵・川本幸民と親交、1837帰郷;医開業;種痘普及/蘭学教授、  
藩校誠之館に欧学科創設;教授、  
1854-藩命で東蝦夷沢捉巡見、1856「蝦夷紀行」著、57「大磯たいはい使用軌範」訳、  
[強平(;通称)の字/号]字;子亭/子享、号;舟里

杏坪(きょうへい・山守) → 玉秋(たまき・磯田/山守、医/国学者) K 2 6 3 7  
教平(きょうへい・鷹司) → 教平(のりひら・鷹司たかつかさ、廷臣/詩歌) F 3 5 5 9  
恭平(きょうへい・青木) → 海嶠(かいきょう・青木あおき、儒者/詩) I 1 5 5 5  
恭平(きょうへい・藤井) → 宗雄(むねお・藤井ふじい、商家/神道家) B 4 2 1 0  
恭平(きょうへい・西山) → 惟寛(これひろ・西山にしやま、藩侍医/国学) R 1 9 1 0

- 恭平(龔平きょうへい・十河)→ 筋堂(せつどう・十河そごう、篆刻家) L 2 4 3 2  
 京平(恭平きょうへい・徳永)→ 秀之(ひでゆき・徳永とくなが、陪臣/尊攘家) K 3 7 3 1  
 共平(きょうへい・小崎/下河辺)→ 長流(長竜ちやうりゅう・下河辺しもこうべ、国学/歌) 2 8 2 8  
 共平(きょうへい/ともひら・竹内/松永)→ 蒯斎(けいさい・沖、藩士/儒者) E 1 8 6 9  
 匡平(きょうへい・堀内) → 匡平(まさひら・堀内、庄屋/国学/勤王) G 4 0 8 5  
 享平(きょうへい・尾池) → 松湾(しょうわん・尾池おいけ、藩医/儒/詩) M 2 2 1 4  
 教兵衛(きょうへい・佐野屋/菊池)→ 澹如(たんじょ・菊池、儒者/難民救済) I 2 6 8 4  
 暁碧(ぎょうへい・日野) → 鼎哉(ていさい・日野ひの、医者/種痘) 3 0 8 6  
 01649 経弁(きやうべん;法諱・恵林上人) 1246-? 1318存 京梅尾高山寺閼伽井坊住華嚴僧:空達房定真門、  
 仁眞の付法、1278-經典仏書の書写、1299-1305「伝授類聚鈔」、「調支分作法私」著  
 亨弁(きやうべん・習古庵) → 亨弁(こうべん、日蓮僧/歌人) B 1 9 9 0  
 教弁(きやうべん;字) → 日全(にちぜん;法諱・唯誠院、日蓮僧) C 3 3 6 8  
 C1684 行遍(ぎやうへん;法諱・三河僧正、俗姓;源、任尊or行範男)1181-1264<sup>84</sup> 真言仁和寺出家;行延門、  
 1206道法親王より灌頂受/1248東寺大僧正/東寺一長者、歌;定家と交流、  
 定家[明月記]元久元1204年6月6日条に[熊野行遍法橋]の記事、  
 「参語集」「瑜祇経鈔」著、新古今集4首;843/1290/1550/1839、  
 [見し人は世にもなぎさの藻塩草かきおくたびに袖ぞしほるゝ](新古;哀傷843)、  
 (詞書;なくなりたる人の数を卒都婆に書きて詠む/無きと渚・搔きと書きの掛詞)  
 [行遍の号] 尊勝院/菩提院  
 V1697 行遍(ぎやうへん;法諱) ? - ? 鎌倉南北期;僧/法師、  
 歌;1334(建武元)[度会朝棟亭八月十五夜歌会]参加(3首)、  
 [宮川や波のよるよるかぞへ来て月も今夜の秋やしるらん](朝棟亭歌会;106)、  
 [思ひ出のなしとはいはじうき身にもいく夜か秋の月をみつらん](同;108)  
 堯辺(ぎやうへん;字) → 日栖(にっせい;法諱・唯性院、日蓮僧) E 3 3 6 6  
 I1681 行弁(ぎやうべん・上見坊) ? - 1256 高山寺観海院華嚴僧:明恵門、歌:「明恵集」入  
 堯弁(ぎやうべん;字) → 日透(にっとう;法諱・観如院、日蓮僧) F 3 3 4 1  
 教遍房(きやうへんぼう) → 伝雄(でんゆう・教遍房、真言僧) E 3 0 4 7  
 01650 敬輔(きやうほ;法諱) ? - ?1766前没 浄土僧:義山門、法眼、「大経曼荼羅開壇記」画  
 01651 杏圃(きやうほ・池口いけぐち、名;福綏/字;履甫/通称;一雄)1828-57<sup>30</sup> 丸亀藩士/儒者;中清泉門、詩文、  
 1857江戸住、剣術/拳法、1861「杏圃遺稿」  
 恭甫(きやうほ・皆川) → 梅翁(ばいおう・皆川みながわ、藩士/儒者) 3 6 7 0  
 共甫(きやうほ・宇津木) → 静斎(せいさい・宇津木うつき、儒者) I 2 4 3 1  
 鏡浦(きやうほ・山田) → 官司(かんじ・山田やまだ、武芸者) I 1 5 7 9  
 堯甫(ぎやうほ・浅井) → 貞庵(ていあん・浅井、医者/詩人) 3 0 2 6  
 業甫(ぎやうほ・松前) → 崇広(たかひろ・松前、藩主/兵庫開港) N 2 6 1 1  
 共方(きやうほう・梅小路) → 共方(ともかた・梅小路うめがこうじ、廷臣/日記) P 3 1 3 0  
 恭豊(きやうほう・山内) → 豊雍(とよちか・山内やまのうち、藩主/歌) R 3 1 2 6  
 恭豊(きやうほう・岩室/室) → 子饒(しじょう・岩室いわむろ、醸造家/詩) L 2 1 0 0  
 恭豊(きやうほう・二木) → 恭豊(たかとよ・二木ふたき、国学/歌)) Z 2 6 3 7  
 教邦(きやうほう・岡村) → 教邦(のりくに・岡村おかむら、藩士/国学) H 3 5 0 6  
 教方(きやうほう・三須) → 教方(のりかた・三須みす、藩士/歌人) K 3 5 0 8  
 喬房(きやうぼう・手島) → 堵庵(とあん・手島てじま、心学者) 3 1 0 1  
 共房(きやうぼう・清閑寺) → 共房(ともふさ・清閑寺せいかんじ、廷臣/日記) Q 3 1 5 0  
 匡房(きやうぼう・大江/江) → 匡房(まさふさ・大江/江、漢学者/詩歌人) 4 0 1 9  
 01652 行室(ぎやうぼう;法諱) ? - ? 鎌倉期の僧;権少僧都/歌人;  
 1295以前「伊勢新名所絵歌合」参加(;為世判)、  
 [春といへば月の光も花の香もおぼろに匂ふさくら木の里](新名所絵歌;三番左)  
 I1682 暁峰(ぎやうほう・奥宮おくみや、名;正路/礼、藩士正樹男)1819-93<sup>75</sup> 土佐土居町の書家;中西半隠門、  
 藩家老深尾家臣;江戸で儒・山口菅山門、陽明学;佐藤一斎・安積良斎門、易;若山勿堂ぶつどう門、  
 土佐藩校致道館教官、維新後教務省勤務、「土佐存古録」「日省録」「帰省録」「伝習録抄」著、

- [暁峰の字/通称/別号]字;和卿、通称;卯之助/右之助、別号;存齋
- 仰峰(ぎょうほう;号) → 僧鎔(そうよう;法諱、真宗本願寺派僧) J 2 5 0 8
- 挾芳園(きょうほうえん) → 孝幹(たかもと・里井、廻船問屋/国学) N 2 6 4 2
- 岐陽方秀(ぎょうほうしゅう) → 方秀(ほうしゅう;法諱・岐陽、臨濟僧) 3 9 5 5
- P1657 喬木(きょうぼく) ? - ? 江前期俳人;1692不角「千代見草」入、  
[せつかれて念仏をかき順の舞](千代見草/座興舞の順番に手を合わせ無芸を詫びる)
- 喬木(きょうぼく・神内) → 謙(けん・神内じんない、医者/詩文) H 1 8 5 1
- 喬木(きょうぼく→たかき・志賀) → 異軒(そんけん・志賀/杉森、藩儒/教育) E 2 5 7 8
- 喬木園(きょうぼくえん) → 貞喜(さだはる・牧野/源、藩主/諸芸) J 2 0 3 7
- 恭穆先生(きょうぼくせんせい) → 敬儀(たかのり・田山たやま、歌人) D 2 6 4 7
- 檀木堂(きょうぼくどう) → 荷兮(かへい・山本、俳人) 1 5 1 0
- 喬木堂(きょうぼくどう) → 友親(ともちか・天川あまかわ/赤松、郷土史家) P 3 1 7 7
- 喬木尼(きょうぼくに) → 大橋(おおはし、栗原律、歌/書画) C 1 4 8 2
- 行本(ぎょうほん;法名) → 宗友(そうゆう・石井、連歌) D 2 5 0 6
- 境本院(きょうほんいん) → 日鎖(にっちゃん;法諱・桓随、日蓮僧) F 3 3 2 4
- H1601 京間内則(きょうまのうちり) ? - ? 狂歌作者、1782「徳和歌後万載集」3首入、  
[世の中にたえて青葉のなかりせば衣更へをや何とせんにな](後万載;129/夏)、  
(仙人は木の葉を衣とする/古今・業平の歌のもじり)
- H1602 慶曼(きょうまん;法諱) ? - ? 僧、漢詩、士俣「友山録」編
- 01654 教名(きょうみょう;法諱) 1189 - ? 1239存 天台延暦寺で出家/真宗:1218親鸞門、  
越後長岡西願寺開山、「真宗授要篇」著、「親鸞聖人御法語」編、  
[教名の法諱] 教眞(;天台)/教養(;真宗)/教名(;1239親鸞から受)
- 01655 堯明(ぎょうみょう) 1741 - ? 天台日巖院僧/1761大僧都/法印、57「法則」著
- U1618 行妙(ぎょうみょう;法諱/通称;日戒) 1791-1850 60 江戸の僧/上野前橋の法華宗養行寺15世/歌人、  
利根川水害供養の大石塔建立、  
[行妙の号] 梅然(ばいねん)/行妙院
- 境妙院(きょうみょういん) → 日宗(にっそう;法諱・叡桓、日蓮僧) E 3 3 8 7
- 行妙院日戒(ぎょうみょういんにつかい) → 行妙(ぎょうみょう;法諱、法華僧) U 1 6 1 8
- 教明房(きょうみょうぼう;号) → 蔵俊(ぞうしゅん;法諱・教明房、法相学僧) H 2 5 9 4
- 01656 堯民(ぎょうみん・修竹庵) ? - ? 中世の歌人、  
「類聚和歌互尔乎波」「修竹庵雑々記」著、「新撰蔵月和歌鈔」編(全4冊;総数8062首)
- 01657 堯民(ぎょうみん・荒川あらかわ/初姓;湯浅ゆあさ、名;恒之)?-1788 阿波徳島藩医;井後宗俊門、  
1762「釈古文学」「病機大要」「医学論」「釈論語」著、  
[堯民(;字)の別字/号]別の字;中和、号;知言齋/峨眉山人
- T1657 堯珉(ぎょうみん・宇都宮うつのみや、) 1820-66 斬首 47 豊前英彦山奉行職、歌人;千種有功・原田種信門、  
彦山座主高千穂教有の命で攘夷祈祷;1863英彦山修験者を集め義挙;事前に発覚、  
捕縛され小倉の獄/1866(慶応2)長豊戦争中に同志と共に斬首/維新後;正五位贈与、  
[堯珉(;名)の通称]通称;本覚坊英山
- 堯民(ぎょうみん・荒井) → 晴湖(せいこ・荒井あらい、儒者) I 2 4 0 5
- 堯民(ぎょうみん・新井) → 潭北(たんぼく、常盤ときわ/渡辺、医/俳人) I 2 6 5 9
- 堯民(ぎょうみん・三谷) → 葵陵(きりょう・三谷みたに、藩士/儒者) Q 1 6 5 4
- 堯民(ぎょうみん・柚木) → 太淳(たいじゅん・柚木ゆきの、医者) K 2 6 2 9
- 堯民(ぎょうみん・竹内) → 堯民(たかたみ・竹内、国学者) Y 2 6 0 7
- 01658 橋夢(きょうむ・牧田また、通称伊兵衛)?-? 江後期遠州和地村俳人;白輅より連歌秘伝書受、  
1801「なみのおと」編  
[橋夢の別号] 自笑庵/春曙亭
- 暁夢(ぎょうむ/暁夢生) → 半香(はんこう・福田ふくだ、絵師) H 3 6 5 9
- 驚夢山人(きょうむさんじん) → 長英(ちやうえい・高野たかの、蘭学者/医者) H 2 8 3 9
- 暁夢楼(ぎょうむろう・高野) → 長英(ちやうえい・高野、蘭医) H 2 8 3 9
- 教名(きょうめい) → 教名(きょうみょう;法諱、真宗僧) O 1 6 5 4



- 教明(きょうめい) → 鳳千(鳳泉ほうせん;法諱、真宗学僧) C 3 9 0 9  
 教明(きょうめい→のりあき・毛利)→敬親(たかちか・毛利もうり/大江、藩主/維新推進) D 2 6 0 0  
 強明(きょうめい・饒田) → 西疇(せいちゆう・饒田にぎた、儒者/崎門学) J 2 4 2 3  
 恭明(きょうめい・竹田) → 三益(さんえき・竹田、藩医者) L 2 0 7 9  
 喬明(きょうめい/たかあき・児玉)→ ト胤(ぼくいん・児玉こだま、神職/俳人) C 3 9 8 9  
 竟滅(きょうめつ;号) → 正澄(しょうちゆう;法諱、清拙;道号、渡来臨濟僧) U 2 2 2 4  
 恭黙齋(きょうもくさい) → 思恭(しきやう・関せき/伊藤、書家/藩士) B 2 1 6 2  
 S1620 今日茂遊人(きょうもゆうじん)? - ? 狂歌作者;1787「才蔵集」1首入、  
 [つれて降る木葉衣のほころびてあらはにみゆる雨の足腰](才蔵;256/落葉混雨)  
 橋門(きょうもん・今井) → 道安(みちやす・今井いまい、医者/歌人) I 4 1 1 2  
 C1686 行文(ぎょうもん・ゆきふみ・消奈しょうな/背奈せな、姓かばね、君きみ、福徳男)?-? 奈良初期武州高麗郡出身、  
 消奈は高句麗五部の消奴部に由来する姓/続日本紀では肖奈、高麗こま福信の伯父、  
 721明経博士/722従五下、長屋王の時に宿儒、懐風藻2首;62歳、  
 万葉三期歌人;十六3836(佞人を誇る歌)、  
 [奈良山のこのて柏の両面ふたおもてに かにもかくにも佞人之友](万葉集;十六3836)  
 C1687 慶有(きょうゆう・けいゆう;法諱)?- ? 1387存 南北期;僧/権少僧都/歌人、  
 1387浄阿5代奉納[隠岐高田明神百首和歌]出詠、勅撰;新後拾遺1521;  
 [梅宮の立柱:さらに今花咲く梅の宮柱たててぞ千代のさかりをもみん](新後拾;1521)  
 [ゆふしでのなびくとみえて禊する杜の下風秋に吹くなり](高田明神歌;35/杜夏祓)  
 慶融(きょうゆう) → 慶融(けいゆう、鎌倉期歌人) 1 8 9 1  
 教有(きょうゆう・安楽院) → 太呂(たいりよ・安楽院、修験僧/俳人) L 2 6 2 0  
 恭雄(きょうゆう・飯田) → 恭雄(たかお・飯田いいた、神職/国学) V 2 6 5 7  
 O1659 行祐(ぎょうゆう;法諱) ? - ? 南北期僧;法印、歌:新葉集1038、  
 [石上いそのかみふるき都に咲く花は昔の春や思ひいづらん](新葉;雑1038)  
 C1688 行祐(ぎょうゆう;法諱) ? - ? 天台僧;山城愛宕山西之坊威徳院住職;法印、  
 「法華経品釈」著、連歌・紹巴/明智光秀と交流、1575紹巴らと「何船百韻」参加、  
 1578紹巴より「連歌新式追加并新式今案等」を受、  
 1582. 5. 24本能寺襲撃前夜「光秀張行愛宕百韻」参加(場所は自院)、  
 [水上みなかみまさる庭の夏山](愛宕百韻;脇句/五月雨により川上から流れる水音が高い、  
 愛宕山の自院の眼前の庭の光景、発句光秀;ときは今天あまが下しる五月哉)  
 U1601 堯祐(ぎょうゆう・川辺かべ、号;三宝庵)?-1848 上総市原郡の天台宗光明寺住職、  
 国学;平田常満・黒川眞頼まより(1829-1906)門  
 行雄(ぎょうゆう;法名) → 実経(さねつね・一条/藤原/九条、一条祖/関白・摂政/歌) D 2 0 2 1  
 堯祐(ぎょうゆう;法名) → 重条(しげだ・庭田/源、大納言/日記) Q 2 1 6 6  
 響誉(きょうよ・音蓮社) → 弁瑞(べんずい;法諱、浄土僧/アイヌ教化) B 2 7 3 1  
 叶誉(きょうよ・心蓮社) → 西尊(ゆうそん;法諱、浄土僧) D 4 6 3 4  
 C1689 行誉(ぎょうよ;法諱) ? - ? 室町期京の観勝寺真言学僧、「長谷寺靈験記」写、  
 1446「塙囊鈔あいのうしやう」編(大円「塵袋」に倣う)  
 行誉(ぎょうよ・正蓮社) → 学信(がくしん;法諱・敬阿、浄土僧) K 1 5 0 9  
 暁誉(ぎょうよ・星蓮社) → 源栄(げんえい;法諱・暁誉、浄土僧) H 1 8 8 6  
 暁誉(ぎょうよ・還阿) → 位産(いさん;法諱、浄土僧) F 1 1 5 5  
 教養(きょうよう) → 教名(きょうみやう;法諱、真宗僧) O 1 6 5 4  
 O1660 堯庸(ぎょうよう;法諱・髓如ずいによ;号、准秀男) 1641-1721 山城真宗仏光寺20世;1673仏光寺法嗣、  
 堯恕法親王により得度、左大臣二条光平の猶子、1676大僧都/81権僧正法印/85僧正、  
 「渋谷勸誘章」「新御書」著、諡号;竜秀院  
 T1676 清浦(きょうら・大津おおつ、通称;八十次郎) 1838-1905 武蔵府中の国学者;猿渡容盛門  
 清浦(せいほ・大津) → 清浦(きょうら・大津おおつ、国学者) T 1 6 7 6  
 教頼(きょうらい・二条) → 教頼(のりより・二条、南朝廷臣/歌) G 3 5 3 6  
 狂雷堂(きょうらいどう) → 其角(きかく・榎本、俳人) 1 6 0 5  
 狂雷堂(きょうらいどう) → 岩松(がんしょう、俳人) R 1 5 0 7



- H1603 **京楽**(きょうらく・立亭りゅうてい、姓;富岡、通称;仙蔵)?-? 江末期人情本作者:花笠文京門、  
1846「百轉福等雀」著、60?京英「春色梅の旭」序、  
[立亭京楽の別号] 錦里山人/清齋  
享楽院(きょうらくいん;法号)→ 利以(としもち・土井、藩主/歌/茶人) N 3 1 9 1  
狂懶(きょうらん・小保内) → 定身(さだみ・小保内おぼない、神職/教育) O 2 0 0 7
- H1604 **杏里**(きょうり) ? - ? 俳人、1746風竹「百轉ももさえずり」入  
恭理(きょうり・青木) → 弘安(こうあん・青木あおき、儒者) H 1 9 2 5  
恭里(きょうり・中川) → 千町(ちまち・宝田、中川泰重、藩士/合巻) F 2 8 4 2  
教利(きょうり・猪熊) → 教利(のりとし・猪熊いのくま/四辻/高倉、廷臣/猪熊事件) H 3 5 1 3  
喬利(きょうり・山田) → 喬利(たかとし・山田やまだ、藩士/歌人) 2 7 1 3  
鏡裏庵梅年(きょうりあんばいねん)→ 北斎(ほくさい・葛飾、絵師) 3 9 6 2  
彊立(きょうりつ・大塚/田宮)→ 如雲(じょうん・田宮/大塚、藩士/藩政改革) M 2 2 1 5  
行栗(ぎょうりつ・久野) → 二栗(じりつ・久野くの、篆刻家) M 2 2 9 7  
教隆(きょうりゅう・清原) → 教隆(のりたか・清原、儒者/源語研究) E 3 5 7 9  
響流(興隆きょうりゅう:字)→ 僧音(そうおん:法諱、真宗本願寺派学僧) G 2 5 4 0  
行隆(ぎょうりゅう;法名) → 師忠(もろただ・二条、関白/歌人) H 4 4 3 7  
興柳堂(きょうりゅうどう) → 智角(知角ちかく・渡辺、俳人) 2 8 8 4  
京陵(きょうりょう・田川、京陵山人)→ 鳳朗(ほうろう・田川/永井、俳人) 3 9 5 8  
橋梁(きょうりょう・仁井田)→ 碓嶺(たいれい・仁井田にいだ、俳人) C 2 6 3 6  
樞寮(きょうりょう・川村) → 碩布(せきふ・川村、豪商/名主/俳人) 2 4 1 1  
樞寮(2世?きょうりょう) → 青荷(せいか、碩布門、俳人) H 2 4 6 0  
杏林(きょうりん・木下) → 順齋(じゅんさい・木下/藤原、医者) K 2 1 7 4  
杏林庵(きょうりんあん) → 医生(いせい・杏林庵、医者) F 1 1 7 9  
暁隣軒蟻士(きょうりんげんぎし)→ 元造(げんぞう・井上、鍼医/俳諧) K 1 8 7 9  
杏林堂(きょうりんどう) → 良安(りょうあん・寺島、医者/和漢学) G 4 9 0 5  
杏林堂三光(きょうりんどうさんこう)→ 忠幹(ただもと・村上むらかみ、藩医/歌人) Z 2 6 8 9  
杏林逋客(きょうりんほかく) → 道通(どうつう・前田、医者/家塾) G 3 1 5 5  
恭礼(きょうらい・山崎) → 恭禮(たかひろ・山崎やまさき、藩士/尊攘運動) 2 7 1 1
- 01661 **経歴**(きょうれき;法諱・十誉じゅうよ;号)1740-1810? 下総大須賀村の浄土僧;聞誉門/増上寺修学、  
三河大樹寺住;宗乗研修、京聖光寺で講義/1783藤田寺を興す、熊本往生院住職、  
諸国に遊化講義、1799「識知浄土論私記」1800「指要鈔私解」03「大原問答管見記」外著多数
- V1699 **堯蓮**(ぎょうれん;法諱・俗姓;三浦)?-? 関東(三浦?)のすぐれた武士/出家・僧、  
京の悲田院の住僧:徒然草141段にその見識と奥ゆかしさの説話入
- C1690 **行蓮**(ぎょうれん;法諱・俗名;惟宗これむね良俊、経俊男)?-? 鎌倉末南北期廷臣;下野権守:従五下、  
出家;法師、歌人:勅撰4首;新後撰1158/続千1975/新千2273/新拾遺1278、  
[かはらじと契りしまゝの仲ならば命の後や人にわかれむ](新後撰;恋1158)  
堯蓮(ぎょうれん・飯尾) → 堯蓮(たかつら・飯尾いのお、室町幕臣/故実) M 2 6 3 2  
教蓮社(きょうれんしゃ、聖誉)→ 貞安(ていあん、退魯、浄土僧) 3 0 2 2
- C1691 **杏廬**(きょうろう) ? - ? 江中期大阪俳人;野坡門、浪速無名庵住、  
撰集1780「続寒菊」編  
匡廬(きょうろう・菊池/関口)→ 衡岳(こうがく・菊池、藩儒/詩人) 1 9 8 5  
匡廬(きょうろう・西山) → 拙斎(せつさい・西山/坂本、医儒/詩歌) E 2 4 3 0  
郷老(きょうろう・海保) → 漁村(ぎょそん・海保かいほ、儒者) D 1 6 2 8  
狂六堂(きょうろくどう) → 才麿(さいまろ・椎本/谷、俳人) 2 0 0 6  
御雲(ぎょうん;字・吉岡) → 鶴巢(じやくそう・吉岡/葛西、医者/俳人) W 2 1 0 5
- H1605 **清江**(きよえ・大津) ? - ? 江中期土佐の歌人、谷真潮まほ「北溪歌集」乾坤編  
居英(きよえい・森) → 直樹(なおき・森もり、酒造業/国学/歌) K 3 2 1 4  
居易(きよえき・南里) → 有隣(ありちか・南里なんり、藩士/国学者) F 1 0 4 2  
居易館(きよえきかん) → 実敏(さねとし・大松沢おまつざわ/藤原、藩士) L 2 0 0 4  
居易齋(きよえきさい) → 素庵(そあん、桂井かつらい、郷士/儒者) F 2 5 8 2

- 居易齋(きよえきさい) → 道形(みちかた・黒沢/二階堂、郷土史家) B 4 1 3 4  
 居易堂(きよえきどう) → 竜淵(りゅうえん・桜井さくらい、儒者/詩歌) D 4 9 0 2  
 居易堂主人(きよえきどうしゅじん) → 秀実(しゅうじつ・渡辺わたなべ、絵師) X 2 1 5 0
- H1606 抛遠(きよえん・無為亭/清友舎)?-? 福井俳人、1734廬元坊を迎え唱和;35「卯花笠」六枳らと編、  
 福井藩家老本多重武と同一か?
- H1607 魚淵(ぎょえん・村上) ? - ? 講釈師「伊達騒動」の実講  
 魚淵(ぎょえん・吉村/佐藤) → 魚淵(なぶち・佐藤/吉村、医/俳人) G 3 2 8 4  
 魚淵(ぎょえん・石黒) → 魚淵(なぶち・石黒、国学/歌人) G 3 2 8 5  
 魚焉(ぎょえん、俳号) → 秋成(あきなり・上田、国学/読本作者) 1 0 0 9  
 魚鳶(ぎょえん;画号) → 大必(たいひつ・橋中庵/梶山、藩士/俳) T 2 6 7 4  
 御園(ぎょえん・橋/宮島) → 御園(みその・橋たちばな/宮島、藩士/歌人) H 4 1 5 0  
 御園(ぎょえん・岸) → 御園(みその・岸きし、藩士/国学/歌) I 4 1 8 8  
 居円堂(きょえんどう) → 慧鑑(えかん;法諱・法明、真言僧) D 1 3 5 7  
 虚円道人(きょえんどうじん) → 慧光(えこう;法諱・戒琛がいちん、真言僧) D 1 3 8 3
- T1689 清雄(きよお・土生はぶ、旧姓;三浦)?-1733 筑前福岡藩士、国学者  
 [清雄(;名)の通称]嘉平太/嘉兵衛
- T1679 清雄(きよお・大槻おおつき、茂根男)1740-1802<sup>63</sup> 陸奥磐井郡の大肝入;父を継嗣、  
 俳人・歌人、胆沢郡大肝入の鈴木常雄と交流、  
 [清雄(;名)の通称/号]通称;専左衛門/久左衛門、号;菊山
- S1683 清雄(きよお・松室まつむろ/本姓;秦)1770-1822<sup>53</sup> 京知恩院緒大夫、国学;本居大平門、  
 真雄まさおの父、大平撰「八十浦の玉」下巻入、  
 [馬なべてわが見にくれば高円たかまどの野辺の秋萩咲きてにほへり](八十浦;803/萩)、  
 [清雄(;名)の通称]大和介/美濃守
- H1608 清雄(きよお・川原塚かわらづか、通称;小左衛門)?-? 江後期1830-44頃江戸芝の国学者、  
 1832「五節句略考」36「二荒の道記」著
- 01662 清雄(きよお・水野みずの、通称弥大夫/号;菅廼舎)?-?1868頃没 岩代会津藩士/国学者、土津神社宮司、  
 「越後日記」、「松島日記」著
- U1623 潔雄(きよお・倉手くらて、)1817-1868<sup>52</sup> 飛騨高山の和漢学;富田節斎(礼彦)門、  
 [潔雄(;名)の通称/号]通称;利八、号;露石  
 清生(きよお・木場) → 清生(きよお/きよお・木場こは、藩士/歌人) U 1 6 3 3  
 虚応(きよおう・小笠原) → 長直(ながなお/おきなお・小笠原、幕臣) F 3 2 0 1  
 虚甕(きよおう・高平) → 眞藤(まふじ・高平たかひら、藩士/地誌) N 4 0 4 4  
 居翁(きよおう・狩野) → 永納(えいのう・狩野、絵師) 1 3 4 4  
 漁翁(ぎょおう・玉川) → 南畝(なんぼ・太田) 3 2 3 3  
 漁翁(ぎょおう・鈴木) → 星海(せいかい・鈴木、天文/易学家) H 2 4 6 9
- 01663 清岡(きよおか・菅原、古人男)?- ? 平安前期漢学/詩人、清公きよとも[770-842]清人の弟、経国集入
- 01664 清興(きよおき・町田まちだ、字;孝通/子孝、三右衛門貞英男)1743-1806<sup>64</sup> 上州吾妻郡沢田村の農家、  
 儒者;僧鉄翁・平沢旭山門/書家・沢田東江門、蘭亭帖の模写8千紙に及ぶ、金沢藩主に講義、  
 「世尊寺法書」編、「上毛帖」「詩経小識」著、1806(文化3)没;64歳(1755生・52歳説有り)、  
 [清興の通称/号]通称;十五郎/重五郎、号;延陵/烟霞堂/般若窟/毘耶離園
- H1609 清興(きよおき・奥川おくがわ) ? - ? 儒・大田錦城門、1804錦城「九経談」校
- 01665 清興(きよおき・多田ただ、通称;順益、景明男)?-1856 石見邇摩郡波積本郷の儒者/歌人、  
 1855「当世百歌仙」編  
 清興(きよおき・宮道) → 清興(きよおき・宮道みやち、歌人) C 1 6 9 5
- V1653 清臣(きよおみ・山下やました、)? - 1855 加賀金沢の国学者/歌人;田中躬之みゆき門、  
 加賀藩士大音家の家臣、一時失錯あり金沢を脱走、名を方介と改称;上京し大國隆正門、  
 のち近江蒲生郡八幡に住;1855(安政2)没  
 [清臣(;名)の通称/号]通称;徳左衛門/方介/一作、号;蒲園ほえん
- U1666 清臣(きよおみ・高橋たかはし、旧姓;穴井)1809-66<sup>58</sup> 豊前下毛郡の神職高橋出雲を継嗣、  
 豊前玖珠郡田野の白鳥神社祠官、国学;平田鍊胤門、尊攘を主唱:

1866(慶応2)花山院家理いゝりを擁し倒幕のため挙兵計画;大坂で捕縛;  
護送中に伊予灘で投身自殺、  
[清臣(;名)の通称] 采女/伊賀守

- U1605 **清臣**(きよおみ・西村にしむら、)1812-1879<sup>68</sup> 伊予松山藩士、幼にして文武修学、儒者/国学者、歌人;石井義郷門、江戸の香川景樹・海野遊翁門、蟻の歌を遊翁に添削を請い嘆賞される、師の義郷と共に松山の双璧と称、絵画彫刻にも通ず、「西村清臣家集」著、井手真棹の父、維新後:1873京都の皇学所助教/中講義、のち出雲大社権禰宜、[ひなのてぶり]に27首入、[かげ移る朝日もはなのほひにてひかりまばゆき山桜かな]、(西山の姥桜を詠;南江戸の山内神社境内の碑)、  
[清臣(;名)の通称/号]通称;専之助/平吉/弥四郎/九右衛門、号;公鑑/醉亭/雲岫<sup>うんしゅう</sup>
- V1620 **清臣**(きよおみ・前野まへの、旧姓;竹中)1822-74<sup>64</sup> 紀伊田辺の国学者・歌人;能代繁里門  
[清臣(;名)の通称/号]通称;富三郎、号;香嵐/訥言/宗祇庵3世
- T1669 **清臣**(きよおみ・小川おがわ、真澄男)1823-1909<sup>87</sup> 備中浅口郡の歌人;父門、  
[清臣(;名)の通称/号]通称;泉太郎/権四郎(父の称継嗣)、号;竹窓/陳老/梅処
- O1666 **清臣**(きよおみ・佐藤さとう/岩井、佐藤憲澄男)1833-1910<sup>78</sup> 美濃大垣新田藩江戸藩邸の生、小姓・馬廻役/浪人、江戸国学;篤胤没後門、勤王派志士活動;諸国遍歴/神社の学師、維新後は愛知稲橋で教師・神官、「真澄廼舎歌文稿」「伊那の松風」著、  
[清臣(;通称)の名/別通称/号/変名]名;昌信/政信、別通称;恵五郎/雲霍磨/倭文雄/鞆負、号;神琴/真澄廼舎、変名;三浦秀波<sup>ほなみ</sup>/岩井清臣/神道三郎/高橋/大関/藤原
- U1637 **清臣**(きよおみ・近藤こんどう、旧姓;小林)1846-1905<sup>60</sup> 信濃飯田の国学者/歌人、国学・歌;岩崎長世・平田鉄胤門、歌;橋道守・海上胤平門、  
[清臣(;名)の通称] 三郎/貞輔/貞三
- H1610 **去何**(きよか・渡辺わたなべ、名;栄/朗、字;明夫)1750-1816<sup>67</sup> 近江高田村速水の村長/国;伴蒿蹊門、俳諧;蝶夢門、書、医者蘅園<sup>こうえん</sup>の父、1807蝶夢13回忌追善「ひとよふね」編、「仏生集」、1816「後かなし」、「廿日月集」著、「古巢俳諧集」編、見聞録「たそがれ随筆」(南兮著)に入、南兮<sup>なんけい</sup>の師、  
[去何の通称/別号]通称;甚介、別号;古巢園/如意庵、法号;禅定院、
- O1667 **清香**(きよか・今尾いまお/奥河内/古志、医者祐庵篤信男)1805-73<sup>69</sup> 下野足利の国学/歌;橋守部門、1832江戸より帰郷;足利で開塾;歌/書道の門弟多数、1849「賤環歌集」51「葦芽集」編、「倭瞿麦やまとなでしこ」「足利職人尽歌合」「忍山紀行」著、  
[清香(;号)の通称/別号]通称;逸平、別号;瞿麦園<sup>くぼくえん</sup>
- U1604 **清香**(きよか・木原きはら、旧姓;永安)1823-1901<sup>79</sup> 長門藩士、国学・歌人;近藤芳樹・仲田顕忠門、のち尾張名古屋住;郡長、  
[清香(;名)の通称/号]通称;勝太郎、号;素誠軒/梅堂
- T1675 **清香**(きよか・大谷おおたに、)1842-75<sup>34</sup> 陸奥二本松藩士、国学者、  
[清香(;名)の別名/通称]別名;亘/武、通称;金平/元次
- |                     |   |                         |           |
|---------------------|---|-------------------------|-----------|
| 清香(きよか・七条)          | → | 文堂(ぶんどう・七条/藤原、医者/歌)     | G 3 8 3 0 |
| 去華(きよか・竹村)          | → | 悔斎(かいさい・竹村たけむら、藩士/儒者)   | E 1 5 3 8 |
| 御夏(ぎよか・輿石)          | → | 御夏(みなつ・輿石こいし、歌人)        | F 4 1 3 6 |
| 巨海(きよかい・良達:法諱)      | → | 巨海(こかい・良達、曹洞僧)          | L 1 9 8 1 |
| 巨海(きよかい・宗如そうじよ:法諱)  | → | 巨海(こかい・宗如、臨濟僧)          | L 1 9 8 2 |
| 巨海(きよかい・匡津きやうしん:法諱) | → | 巨海(こかい・匡津、曹洞僧)          | L 1 9 8 3 |
| 巨海(きよかい・東流:法諱)      | → | 巨海(こかい・東流、曹洞僧)          | L 1 9 8 4 |
| 巨海(きよかい)            | → | 巨海(こかい、俳人)              | P 1 9 3 8 |
| 巨海(きよかい・小田)         | → | 海僊(かいせん・小田おだ、絵師)        | I 1 5 8 5 |
| 巨海(きよかい・小泉)         | → | 信盈(のぶみつ・小泉こいずみ、藩士/歌人)   | I 3 5 3 8 |
| 巨介(きよかい・千村)         | → | 重琦(しげかた・千村ちむら、本陣/歌人)    | Q 2 1 7 5 |
| 居晦(きよかい・植木)         | → | 玉厓(ぎよくがい・植木うえき、幕臣/詩/狂詩) | C 1 6 9 8 |
- H1611 **去角**(きよかく・鈴木すずき、名;昌宣、万古亭)?-? 尾張藩士/俳人、1759子礼「伊良胡崎」跋、白尼と親交、1764「蟬時雨」編;巴雀(白尼の父)13回忌追善集

- 1647 **清蔭**(きよかげ・源みなもと、陽成天皇皇子/母;紀君)884-95067 平安前期廷臣;925参議/賜姓臣籍降下、948大納言;勅勘/49赦免、大和に逸話、歌:日本紀竟宴和歌参加/夫木抄入、勅撰8首;後撰(114/666/959/963)拾遺(721/740)新古(1177)新勅(1213)、  
[立ち寄らぬ春の霞を頼まれよ花のあたりと見ればなるらん](後撰;春114;返歌)、  
(傍に立寄らないのは花[あなた]の邪魔をしないため;遠慮する霞[私]を頼りなさい)  
(贈歌;我をこそ訪ふにうからめ春霞花につけても立ち寄らぬ哉;読人しらず)  
妻も歌人(贈答歌)→ 忠房女(ただふさのむすめ・藤原) F 2 6 7 9
- T1698 **清蔭**(きよかげ・楠瀬くすのせ、)1743-179048 土佐高知藩士、国学者・歌;谷真潮門、  
曆学;川谷薊山けいざん門、歌・画を能くす/砲術にも通ず、1766(明和3)藩役所筆役、  
奉行の谷真潮を助け藩財政運営に貢献;勘定頭に昇進、大枝おえ・小枝さえの父、  
[清蔭(;)名]の別名/字/通称/号]別名;安信/正信、字;子樹、  
通称;兼太郎/重右衛門/六郎左衛門、号;南溟
- 01668 **清蔭**(きよかげ・杉本すぎもと、池田屋4代目幸十郎男)1788-186780 土佐長岡郡種崎浦の商家、  
質屋兼手繰船仕入業;1823池田屋5代目;新漁業法紹介に尽力、  
歌:鹿持雅澄・藤井高尚門/1852本居内遠門、  
「清蔭歌集」「木積屋記」著、  
[清蔭(;)名]の通称/号]通称;吉三郎/正三郎/正五郎/孝十郎/幸十郎、  
号;木積屋こずみのや/千代垣内、屋号;池田屋
- S1694 **清蔭**(きよかげ・若泉わかづみ)?- ? 江後期歌人;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
1860鋤柄助之「現存百人一首」入、  
[山里はおのづからなる春なれやそとの小松門のゆづる葉](大江戸倭歌;春33)、  
[世の中を思ひつづけてながむれば夕べの雲に秋風ぞ吹く](現存百人一首;78)
- S1695 **清蔭**(きよかげ・山口やまぐち)?- ? 江後期歌人;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[乗る駒のかげより外にくまもなし佐野のわたりの秋の夜の月](大江戸倭歌秋884/渡月)
- T1663 **清蔭**(きよかげ・榎本えのもと)1810-188071 因幡鳥取藩士、のち長田神社祠官、  
国学・歌人;飯田秀雄門、  
[清蔭(;)名]の別名/通称]別名;有政/寛陰、通称;正右衛門/一郎左衛門/一路
- V1623 **清蔭**(きよかげ・松井まつい、)1837-189761 尾張名古屋の商家/歌人;氷室長翁ながとし門  
[清蔭(;)名]の通称/号]通称;金之助、号;残月堂、屋号;板長  
清蔭(きよかげ・藤原) → 清隆(きよたか・藤原ふじわら、廷臣/歌人) H 1 6 4 5  
清蔭(きよかげ・丸尾) → 俊夫(敏夫としお・木下、歌人) M 3 1 0 9  
清蔭(きよかげ・上木) → 蔭尋(かげたず・上木うわぎ/源、商家/国学) T 1 5 8 1  
清蔭(きよかげ・木村) → 清蔭(せいん・木村きむら、商家/詩歌) H 2 4 4 0  
居画斎(きよがさい) → 玄鶴(げんかく・大野おおの、医者/地誌) I 1 8 2 7
- T1686 **清風**(きよかぜ・加藤かとう、)1682-176382 江戸の国学者/薩摩藩に出仕、  
[清風(;)名]の通称/号]通称;権兵衛、号;家鴨
- T1677 **清風**(きよかぜ・大塚おおつか、通称;林左衛門)?-? 江後期;伊予大洲藩士、  
歌人;前田夏蔭(1793-1864)門
- U1655 **清風**(きよかぜ・曾根そね、)1785- 183652 伊予喜多郡の医者、歌人、  
[清風(;)通称]の名/号]名;穆、号;静斎
- U1661 **清風**(きよかぜ・高塩たかしお、)1831-189666 下野塩谷郡の喜連川神社社司/今宮神社社掌も兼務、  
国学;平田鍬胤門、数麿の父、  
[清風(;)名]の通称/号]通称;周防守、号;渚
- 01669 **淳風**(きよかぜ・橋村はしむら、正兌まさとき男/本姓;度会わたらい)1834-190168 伊勢山田の神職/1835権禰宜、  
1871皇太神宮主典/75致仕、国学・歌;足代弘訓・中島広足・井上文雄・八田知紀門、  
20歳で眼病を患う;歌作に専念、「古登曾岐廼舍集」「淳風長歌集」「淳風歌集まどのすさび」、  
「狩場の山」「袖の露」「呼子鳥考」「橋村淳風日記」著、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[松蔭や涼しさとめて杯もあらばまほしき苔清水かな](大江戸倭歌;夏638)  
[淳風(;)名]の幼名/通称/号]幼名;天五郎、通称;弾正、  
号;百船舎/ことそぎの舎や/古登曾岐廼舍



- U1641 **清風**(きよかぜ・先光さきみつ、名;五十連)1837-1900<sup>64</sup> 駿河府中の駿河浅間神社祠官、  
 国学・歌人;富樫広蔭・鈴木茂嶺いね門、本居豊・梅村宣雄・江刺恒久・金子元臣等と交流、  
 1868勤王派神官らで結成の赤心隊(隊長は富士宮浅間神社宮司富士亦八郎)に参加、  
 晩年中風を患い大磯にて客死
- T1643 **清風**(きよかぜ・池袋いけぶくろ、)1847-1900<sup>54</sup> 日向都城の国学者;祖父池袋清芳きよよし門、  
 歌;大館晴勝・鎌田政夫門、1880京の同志社入学;英語・神学を修学/のち同志社女学校教師、  
 同志社図書館長、案山子廼舎社結社;作歌と指導;桂園派和歌復興尽力、池袋清景の従兄、  
 1888「和歌概論」、「和歌沿革史」「新体詩批評」著、撰集「浅瀬の波」、  
 論説多数;和歌尊重論を主唱、家集「かかしのや集」著(門人正宗敦夫編刊)、1895帰郷、  
 大西祝・三輪長行・湯浅吉郎・佐藤惟昇・岸本能武太・正宗敦夫・安藤直紀なおりの師、  
 [清風(;)名)の幼名/号]幼名;宗允むねかず、号;案山子/案山子廼舎/松濤窟/夢山  
 清風(きよかぜ・広瀬) → 台山(たいざん・広瀬、藩士/画/詩歌) K 2 6 0 7  
 清風(きよかぜ・中野) → 清風(きよとお・中野、国学者) P 1 6 9 5  
 清風(きよかぜ・福住) → 清風(せいふう・福住ふくずみ/長瀬、歌人) J 2 4 5 3
- 01670 **清堅**(きよかた・字仁に、通称;道統/号;謙斎、初名;森田広平)?-1755 伊勢の儒者・臼田竹老門、  
 「南勢事略」著
- 01672 **清方**(きよかた・金原きんばら、字;内蔵助くらのすけ、通称;主膳/主計かづえ)?-? 江後期遠州浜松八幡神社司、  
 国学;内山真竜(1740-1821)門/歌人;宣長(1730-1801)門、「四十八番歌合」参加
- 01671 **清謙**(きよかた・大岡おおおか、織田信由男/大岡勇三郎の養子)1813-63<sup>51</sup> 幕臣;小姓組番頭/書院番頭、  
 1860講武所奉行/62病で致仕、「扇考考」著/1856「明君昌言録」編  
 [清謙(;)名)の通称/号]通称;兵庫/中務/豊後守、号;知足庵
- T1672 **清賢**(きよかた・小野おの、)1826- 1892<sup>67</sup> 伊勢津藩士/国学者/歌人;山本素問門、  
 [清賢(;)名)の通称/号]通称;治兵衛、号;梅坡
- V1629 **清謙**(きよかた・丸尾まるお、)1832-1896<sup>65</sup> 遠江城東郡の国学者・歌人;石川依平門、  
 維新後政治家;衆議院議員、  
 [清謙(;)名)の通称/号]通称;春次郎/文太夫/文六、号;松斎  
 清方(きよかた・大幸) → 岱峽(たいげん・大幸おおさか/児玉、漢学;古学) T 2 6 9 4
- 01673 **清廉**(きよかた・賀古かこ、字;伯操、清安男)?-1818 1790家督;加賀藩士、定番御番頭/組外御番頭、  
 儒者;伊藤石台門、「石台詩想草」「雪牖せつゆう独談」編/「加越能三州古城考」著、  
 [清廉(;)名)の通称/号]通称;八郎太夫/群吾郎、号;鏡湖
- V1664 **斎門**(きよかた・渡辺わたなべ、号;旭桜)1827-1901<sup>75</sup> 周防佐波郡高井の剣つるぎ神社祠官、  
 神道・国学・歌;鈴木直道門
- C1693 **清兼**(きよかね・きよかね・源みなもと、親長男)?-? 鎌倉期廷臣;土佐守/従四位、歌:続現葉・松花集入、  
 勅撰7首;新後撰(586)玉葉(548)続千(619/1065/1773)続後拾(945)新千(585)、  
 [よこ雲は峰に分れて逢坂の関路せきぢのとり声ぞ明けぬる](新後撰;羈旅586)
- T1693 **清兼**(きよかね・蒲がま、)1693 - 1748<sup>56</sup> 遠江長上郡神立村蒲神明宮の祠官/検校職、  
 国学・歌;杉浦国頭くにあきら門、神明宮の修復・造営に功績、  
 [清兼(;)名)の通称]内記/大蔵
- U1626 **清兼**(きよかね・黒田くろだ/本姓;源、)1838-1915<sup>78</sup> 薩摩鹿兒島の神職、国学;平田鉄胤門、  
 維新後;教部大録/氷川神社宮司/鹿兒島神宮宮司、黒田清輝の父、  
 [清兼(;)名)の通称]彦左衛門
- H1612 **清上**(きよかみ・大戸おおへ/阿倍、834良枝宿禰;改称)?-839 河内生/836京住、  
 唐楽作曲;「応天楽」「胡飲酒こんじゅ」等、第17次遣唐使船の音声長;帰途南海漂着/殺害さる
- 1639 **清河**(きよかわ・藤原朝臣;北家、河清かせい;唐名、房前ふささき男)?-779?長安没 母;片野朝臣の女、  
 鳥養・永手・真楯の弟、魚名の兄、廷臣;749参議/750遣唐大使、  
 752入唐(副使胡麻呂・真備らと)、  
 753帰国途中難破;安南漂着(仲麻呂らと)/唐朝出仕、832贈従二位、  
 万葉四期歌人;2首十九4241/4244(4240・4264題)、続古今717、  
 [春日野に斎いつく三諸みもろの梅の花栄えてあり待て帰り来るまで](万葉;4241)
- H1621 **清川組**(きよかわぐみ;組連) ? - ? 江中期江戸小船町の雑俳の組連、

取次:1738「収月評万句合」入/取次例;[是これ己おれは爰この客衆きやくしゆか見てくれい]、  
(万句合/前句めつそうな事々々/忘れられた客のせりふ)

清川山住(きよかわやまづみ)→ 山住(やまづみ・清川きよかわ、戯作者) E 4 5 1 2

01674 巨岩(きよがん) ? - ? 江前期大阪の俳人:1691賀子「蓮実」1句入、  
[青からぬ雲井みにくし春の空](蓮実:172/春の朧の美を逆に言う)

H1613 巨岸(きよがん) ? - ? 大阪俳人:鳥酔門、1757鳥酔「夏炉一路」入

H1648 魚竿(ぎよかん) ? - ? 江前期俳人、1687一昌「丁卯ていぼう集」入、  
[師の机梅見るたびの涙かな](丁卯集:師の恩)

01675 魚冠(ぎよかん・聴潮庵主人)?- ? 江中期俳人:初世沾山[?-1758]門、「折華集」編

01676 魚宦(魚官ぎよかん) ? - ? 江中期京の俳人;蕪村[1716-83]門、  
1783維駒「五車反古ごしやほうぐ」1句入、  
[罔両かげしの襟かき合す夜寒かな](五車反古;403/闇に浮かぶ人影)

魚貫(ぎよかん/なつら・天池斎)→ 心祇(しんぎ・轍、俳人) D 2 2 7 6

魚貫(2世ぎよかん) → 魚貫(2世なつら/ぎよかん、俳人) I 3 2 4 3

魚貫(ぎよかん・神山かみやま)→ 魚貫(なつら・神山、歌人) G 3 2 7 4

H1614 魚眼(魚岸/魚丸/漁岸ぎよかん・中村なかむら)?-? 難波新地の茶屋中村屋主人、浄瑠璃作者;

1789豊竹座で菅専助の助作/1801-18頃執筆活動、1789「有職鎌倉山」「博多織恋鏑こいのおもに」、  
1793「蝶花形名歌島台」97「忠義墳盟約大石」99「唐土織日本手利」1816「絵本有曇華物語」著

魚顔(ぎよかん・浜木綿屋)→ 長穂(ながほ・安田/梅坊/佐伯、歌人) F 3 2 6 6

居簡斎(きよかんさい) → 南溪(なんけい・名越なごや、藩士/儒者) I 3 2 8 3

C1694 清樹(きよき・橘たちばな、数雄男)?-899 平安前期廷臣;877大宰少監/886叙爵従五下、  
896阿波守、歌;古今655

[泣き恋ふる涙に袖のそほちなば脱ぎかへがてら夜こそは着め](古今:十三恋655)  
(女からの「恋死したら喪服をどうしよう」という歌への反歌;夜だけ喪服を着よう)

C1695 潔興(清樹/清材/潔樹きよき・宮道/宮路みやじ、弥益男)?-? 平安前期廷臣;六位/898内舍人、  
900内膳典膳ないぜんじょう、907越前少掾/皇太子保明親王の帯刀を懈怠のため解任、  
歌:古今966、

[筑波嶺の木このもごとくに立ちぞ寄る春のみ山の蔭を恋ひつつ](古今:十八雑966)

(907延喜4年の解任時に復職活動のために知人に送った歌;春の御山は東宮を指す)

清樹(きよき) → 清音楼清樹(せいおんろうきよき、大坂屋喜兵衛/狂歌) H 2 4 5 1

清酒(きよき・岩下) → 花足(かそく・岩下/金井、藩士/弓/俳人) M 1 5 8 2

巨規(きよき・伊東) → 秋酒屋颯々(あきのやさつさつ、鍛冶職/狂歌) C 1 0 2 4

清公(きよき・菅原) → 清公(きよとも・菅原、廷臣/詩人) D 1 6 4 2

清君(きよき・鷹司) → 新朔平門院(しんさくへいもんいん、女御/歌) O 2 2 6 1

許九(きよきゅう・奈越江) → 木導(もくどう・奈越江なおえ/上松、俳人) B 4 4 0 4

01677 魚京(ぎよきょう・別号;南浜人)?- ? 江中期江戸霊岸島の戯作者、  
1780「初葉南志」「契情徳嘶」著

御郷(ぎよきょう・稲垣) → 御郷(みさと・稲垣いながき/源、歌人) I 4 1 0 9

居業楼主人(きよきょうろうしゅじん) → 蘭斎(らんさい・立花たちばな、儒者) C 4 8 2 3

漁々翁(ぎよきょうおう) → 文山(ぶんざん・新井/林、儒/詩文/藩士) F 3 8 4 2

虚々斎(きよきょうさい/ここさい) → 蓬平(ほうへい・佐竹さたけ/野口、絵師) C 3 9 4 9

希翊(きよき・榊原) → 篁洲(こうしゅう・榊原さかきばら、漢学者/詩) 1 9 1 1

曲(きよく;一字名) → 為景(ためかげ・冷泉[下冷泉]/藤原、歌人) G 2 6 6 9

曲(きよく・山本) → 良寛(りょうかん;法諱・大愚、曹洞僧/詩歌) 4 9 1 7

曲(きよく;一字名) → 隆豊(たかとよ・七条しちじょう、廷臣/歌人) D 2 6 2 9

旭(きよく;一字名) → 道房(みちふさ・九条/藤原、摂政/記録) C 4 1 4 2

旭(きよく・柳河) → 春三(しゅんさん・柳河/西村/栗本、洋学者) K 2 1 2 1

昴(きよく・つとむ・中尾) → 猷祖(ゆうそ・中尾/藤原/奥沢、医官) D 4 6 2 9

H1615 曲阿(きよくあ) ? - ? 俳人、1815由誓ら「鼠の道行」百韻入

01678 旭庵(きよくあん・吉田よしだ) ? - ? 江戸の俳人:玄武坊門、1792「獅子門」編、

1800師3周忌「玄武庵発句集」編、04「おぼろ影」17「玄二坊発句集」、「旭庵発句集」著、  
[旭庵の別号] 鷹一/玄二坊/紅白仙/文化房

吉田山路と同一? → 山路(さんろ・吉田、旭庵/俳人) M 2 0 8 7

旭庵(きょくあん・吉田) → 隆見(りゅうけん・吉田よした、医者) D 4 9 6 2

曲庵(きょくあん;号) → 有和(ゆうわ;道号・寿筠;法諱、臨濟僧/聯句) E 4 6 1 6

曲庵(棘庵/局庵きょくあん・木村) → 逸志(いつし・木村・笠家、俳人) B 1 1 4 3

曲庵(きょくあん・田代) → 正足(まさたり・田代たしろ/藤原、国学/歌) Q 4 0 0 1

H1616 玉意(ぎょくい) ? - ? 雑俳点者、1702瀟蛙「俳諧口三味線」前句付入

玉隠(ぎょくいん;道号) → 英瑛(永瑛えいよ;法諱・玉隠、臨濟僧) 1 3 4 9

玉筠(ぎょくいん;道号) → 宗瓦(そうが・武野/武田、紹鷗男/茶人) G 2 5 4 3

01679 旭宇(きょうう・新岡にいおか、九郎兵衛男) 1835-1904 70 陸奥弘前書家:父門、蘭学;藩校で修学、  
上田流書;工藤彦四郎門、1847江戸寛永寺で衆僧に書教授、1866「墨場彙宝」、「墨場錦囊」編、  
[旭宇(;号)の幼名/名/字/通称/別号]幼名;虎八郎、名;久頼、字;公徴、通称;衛、  
別号;大海/静斎/玉翁、法号;天爵居士

F1682 玉蘊(ぎょくうん/ぎょくおん・平田ひらた、新太郎[五峰]女) 1787-1855 69 備後尾道木綿問屋福岡屋の生、  
豪商の家、画;福原五岳門、四条派女流絵師、頼山陽との悲恋、襖絵「美人船遊図」画

玉雲翁(ぎょくうんおう) → 信海(しんかい・豊蔵坊、社僧/狂歌/書) 2 2 1 8

玉雲軒月洞(ぎょくうんげんげつどう) → 月洞軒(げつどうげん・黒田、幕臣/狂歌) B 1 8 1 4

玉雲斎(ぎょくうんさい・貞右) → 貞右(ていゆう・玉雲斎、狂歌) 3 0 0 2

玉雲亭(ぎょくうんてい) → 玉蘭斎(ぎょくらんさい・橋本貞秀、絵師) D 1 6 1 1

H1617 玉栄(ぎょくえい・花屋かおく、近衛植家たけい女、慶福院尼) 1526-? 1602 存 安桃期;源氏物語研究者、  
1594「花屋かおく抄」、1602「玉栄集」著(卷名由来/歌の語句や背景/語句注釈)、前久さきひさの姉

C1696 玉栄(ぎょくえい) ? - ? 江中期俳人、俳諧選集1743「枝若葉」編

玉英(ぎょくえい;号) → 照珍(しょうちん;法諱・宝圃、天台僧) K 2 2 9 4

玉英(ぎょくえい・新井) → 玉英(たまてる・新井、刀匠) S 2 6 2 5

玉英(ぎょくえい・橋本) → 政宣(まさのぶ・橋本はしもと/藤原、国学者) R 4 0 7 5

玉瑛(ぎょくえい・西村) → 真斎(しんさい・西村にしむら、藩医/詩人) O 2 2 4 9

玉暎(ぎょくえい・堀田) → 幾千女(きちぢよ・堀田ほつた/松平、歌・書) V 1 6 1 6

玉暎(ぎょくえい・小西) → 茂善(しげよし・小西にし、町役/歌人) O 2 1 3 8

棘園(きょくえん;号) → 妙喜(みょうき;道号・宗績;法諱、臨濟僧) G 4 1 2 9

01680 玉淵(ぎょくえん・賀来かく、名;元竜、惟政男) 1716-84 豊前中津の醸酒業/町年寄;銀鈔事従事、  
儒;藤田敬所門、三浦梅園と親交、1749「二豊唱和録」(梅園との唱和)/54「采葑録さいほうろく」著、  
[玉淵の字/通称/別号]字;子登、通称;吉右衛門、別号;九九子/彩雲

C1697 玉淵(ぎょくえん・石田) ? - ? 江中期語学者;1756「俚諺拾遺」著

I1683 玉淵(ぎょくえん・小国おぐに、名;融/字;継明) ?-1831 長門須佐の儒者;亀井南冥・皆川淇園門、  
萩藩須佐領主益田家邑監、私塾を開;子弟教育、「船石集」「玉淵集」著、  
[玉淵の通称/別号]通称;融蔵、別号;船石

玉淵(ぎょくえん・三宅) → 濟美(みちよし・三宅みやけ、幕臣/詩文) C 4 1 8 6

玉淵(玉園ぎょくえん・増山) → 正賢(まさかた・増山ましやま、藩主/書画) B 4 0 9 0

玉淵(ぎょくえん・松平) → 頼学(よりさと・松平まつだいら、藩主/詩歌) P 4 7 2 0

玉淵(ぎょくえん・竜) → 世華(つぐあき・せいか・竜たつ、藩儒/歌人) F 2 9 9 9

玉淵(ぎょくえん・三島) → 玉温(たまはる・三島みしま/越智、神職/国学) Z 2 6 6 9

玉鴛(ぎょくえん・石原) → 橋子(はしこ・石原いしはら/日下、歌人) J 3 6 7 1

玉園(ぎょくえん・青木) → 永章(えいしょう・青木、神職/歌人) 1 3 3 5

玉腕(ぎょくえん;道号) → 梵芳(ぼんぼう;法諱・玉腕/玉桂、臨濟僧) F 3 9 5 7

旭園(ぎょくえん・阿保) → 邦彪(くにたけ・阿保あほ/中川、国学者) D 1 7 9 3

玉縁斎(ぎょくえんさい) → 亀好(きこう・玉縁斎、狂歌) F 1 6 3 2

玉縁斎(ぎょくえんさい) → 寿好(じゅこう・玉縁斎、亀好の兄弟/狂歌) I 2 1 6 7

玉淵子(ぎょくえんし・柴田) → 弘器(ひろき・竜廼屋、医/狂歌) F 3 7 7 5



- 王淵堂(ぎょくえんどう) → 竜眠(竜珉りゅうみん・正木まさき、商/書家) F 4 9 7 4
- W1606 玉淵坊(ぎょくえんぼう) ? - ? 江戸初期;日蓮宗の僧、作庭家;小堀遠州門、京の妙蓮寺住、小堀遠州の異母弟小堀正春の作庭に協力、普門寺[観音補陀落山の庭]作(大阪高槻)、桂離宮庭園作庭に関与か/本妙院など妙蓮寺山内の塔頭に玉淵坊系の庭あり
- 旭応(きょくおう;字) → 澹空(たんくう;法諱・旭応;字、浄土僧) T 2 6 2 9
- 旭桜(きょくおう・檜山) → 隆膺(たかむね・檜山ならやま、国学/歌人) N 2 6 3 4
- 旭桜(きょくおう・渡辺) → 斎門(きよかど・渡辺わたなべ、神職/国学) V 1 6 6 4
- 旭翁(きょくおう・千村) → 峯陽(とうよう・千村ちむら/木曾、儒者/詩) H 3 1 8 7
- 極翁(きょくおう・長谷川) → 寛(ひろし・長谷川はせがわ、和算家/教育) F 3 7 8 8
- 玉翁(ぎょくおう;号) → 澹空(たんくう;法諱・旭応;字、浄土僧) T 2 6 2 9
- 玉翁(ぎょくおう;道号) → 徳泉(とくこう;法諱・玉翁、臨濟僧) K 3 1 6 7
- 玉翁(ぎょくおう・曲直瀬) → 正琳(しょうりん・曲直瀬/一柳、医者/連歌) L 2 2 9 6
- 玉翁(ぎょくおう・新岡) → 旭宇(きょくう・新岡にいおか、書家) O 1 6 7 9
- 玉翁(ぎょくおう・河村) → 秀世(ひでよ/ひでつぐ・河村、藩士/歌人) E 3 7 0 8
- 玉翁(ぎょくおう・橋本) → 玉蘭斎(ぎょくらんさい・橋本貞秀、絵師) D 1 6 1 1
- 玉桜(ぎょくおう、玉桜楼) → 芳年(よしとし・月岡/歌川、吉岡、絵師) E 4 7 9 6
- 玉甌道人(ぎょくおうどうじん) → 季茲(すえしげ・久保くぼ/源、幕医/国典) B 2 3 1 9
- 玉屋(ぎょくおく・日比野) → 良為(よしなり・日比野ひびの/源、商家/和算) 4 7 2 2
- 玉屋山人(ぎょくおくさんじん) → 西陵(せいらう・菅沼すがぬま/阮、儒者) J 2 4 8 2
- 01681 玉温(ぎょくおん) ? - ? 1885存 尾張高針の俳人:小沢列根門、1850「嚶々集」著
- 玉温(ぎょくおん・三島) → 玉温(たまはる・三島みしま/越智、神職/国学) Z 2 6 6 9
- 玉蘊(ぎょくおん・平田) → 玉蘊(ぎょくおん・平田ひらた、絵師) F 1 6 8 2
- 01653 旭雅(きょくが;法諱・恵浄えじょう;字、俗姓;内田/佐伯、内田熊三郎男) 1828-9164 阿波真言僧;1839(12歳)出家、京で諸学修得/善通寺佐伯家の養嗣、維新後;護法のため奔走、「釈論玄譚」「唯識論名所雑記」著、[旭雅の号] 雲洞うんどう、諡号;月輪大師
- 01682 玉珂(ぎょくか・吉原よしはら、名;和前) 1730-1820長寿91 相模厚木の俳人:梅明/星布尼/白雄門、道彦と親交、「四季の句集」、「四川観玉珂翁句集」著、[玉珂の通称/別号]通称;伊兵衛、別号;湘川/四川観、屋号;桜川、法号;讓翁良温居士
- 01683 玉峨(ぎょくが) ? - ? 江中期俳人;超波門、1756超波追善絵俳書「わかかな」共編;大一・桑也らと
- H1618 玉峨(ぎょくが・梅暮里うめぼり、別号;銀亭)?-? 人情本作者;2世梅暮里谷峨こくが門、1858「春色連理梅」の五編校正
- H1619 旭海(ぎょくかい、園城寺大僧正)?-? 天台僧/俳人、1715雲鈴「笈之若葉」入
- 01684 玉海(ぎょくかい・安田やすだ、字;定之、孝節男) 1818-43早世26 代々備中酒津村の医者、医;父と共に上田公鼎門、1840肥後天草の師公鼎が上京途中に玉海の自邸で客死;1842師の説を編纂し「眼科一家言」刊、[玉海の通称/別号]通称;敬太郎、別号;公斎
- 玉海(ぎょくかい) → 大雅(たいが・池/池野、絵;文人画) B 2 6 1 2
- 玉海(ぎょくかい・箕作みつくり) → 省吾(しょうご・箕作/佐々木、洋学/地理) J 2 2 7 2
- 玉海(ぎょくかい・大田) → 晴斎(せいさい・大田おおた、儒者) I 2 4 3 6
- C1698 玉厓(ぎょくがい・植木うえき、名;飛/巽/晃、与力福原就寿男) 1781-183959 与力植木彦右衛門の養子、儒;昌平黌出/幕臣二条城在番、詩・狂詩、幕臣詩人古賀精里・野村篁園・友野霞舟と交友、「狂詩妙絶」、1808?牛門社結社;「西馭竹枝詞」、34「半可山人詩鈔」37「忠臣蔵狂詩集」、「植木玉厓詩」「植木玉厓先生手批詩稿」「植木玉厓御試辨書」著、儒者福原瀨水はけいの弟、[玉厓の字/通称/別号]字;子健/居晦、通称;八三郎、別号;鑾峰らんぼう/桂里、狂名;半可山人
- 01685 玉崖(ぎょくがい;道号・受環じゅかん;法諱)?-1459 臨濟僧:南江宴洪門、南禅寺190世、「仏語心論鈔」著
- J1635 玉角(ぎょくかく) ? - ? 俳人、1691不角「二葉之松」5句入、[むら鳥がらす君に添ひ寝の夢戻せ](二葉之松;215)
- I1639 玉角(ぎょくかく・讃州;狂名)?- ? 真言高野山僧、狂詩、1815雅仏「毒玉集」上巻入



- 玉岳(ぎよくがく) → 寿好(じゅこう・玉縁斎/塩屋、白縁斎男/狂歌) I 2 1 6 7  
 曲額仙(きよくがくせん) → 葛路(かつろ・伊藤、俳人) O 1 5 0 5  
 玉華亭(ぎよくかてい) → 梅仏(ばいぶつ・湊屋、俳人) C 3 6 0 5  
 玉河亭(ぎよくかてい) → 与清(ともきよ・小山田/高田、国学者) 3 1 6 0  
 玉花坊友斎(ぎよくかぼうゆうさい) → 沾山(6世/7世せんざん・内田うちだ、俳人) F 2 4 5 7  
 玉幹(ぎよくかん;号) → 雪鼎(せつてい;号・恵美;法諱、真宗大谷派僧) E 2 4 5 7  
 玉函(ぎよくかん・木村) → 梅軒(ばいけん・木村きむら、儒者/詩) B 3 6 0 7  
 玉澗(ぎよくかん・元寔) → 元寔(げんじやく;法諱・玉澗、臨濟僧/詩) K 1 8 0 7  
 玉澗(ぎよくかん;号) → 英瑛(永瑛えいよ;法諱・玉隠、臨濟僧) 1 3 4 9  
 玉澗(ぎよくかん;道号) → 稽洲(けいしゅう;法諱・古澗、臨濟僧) G 1 8 0 1  
 玉澗(ぎよくかん・須賀) → 亮斎(りょうさい・須賀すが、藩儒) H 4 9 6 0  
 01686 玉巖(ぎよくがん・太田おた、通称;金右衛門/屋号;和泉屋)?-? 江後期江戸両国の書肆、唐和本/仏書、  
 「玉巖堂随筆」「清名家著述目録」「唐土歴代名家著述目録」、1863「玉巖堂製本頒行書目」著  
 玉巖(ぎよくがん・鈴木) → 房政(ふさまさ・鈴木すずき、国学/歌人) I 3 8 3 7  
 跼驥(きよくき・和田) → 廉(れん・和田わだ/中台、藩士/儒者) 5 1 0 9  
 玉亀(ぎよくき・大高坂) → 南海(なんかい・大高坂おたかさか/山本、藩士/詩/画) O 3 2 9 4  
 玉弓楼江声(ぎよくきゅうろうこうせい) → 直格(なおたか・堀、藩主/文芸) B 3 2 5 7  
 玉虚(ぎよくきよ) → 信海(しんかい・豊蔵坊、社僧/狂歌/書) 2 2 1 8  
 玉郷(ぎよくきょう・笹木) → 祐雄(すけお・笹木ささき、神職/国学) I 2 3 5 6  
 玉琴亭主人(ぎよくきんていしゅじん) → 橋彦(橋比古はしひこ・村田、国学者) E 3 6 3 7  
 01687 曲溪(きよくけい・菅原すがわら、名;陳之) 1778-1832 55 陸前塩釜の書肆、詩歌/俳諧/書画、「奥羽名所」、  
 1816「陸奥名碑略」19「奥州塩釜松島舟中一覽」編(奥羽名勝地の画・詩歌・俳諧)、  
 「塩釜名所古跡辨」/「菅原曲溪習作帖」画、  
 [曲溪の字/通称/別号]字;子徳/通称;前田屋茂三郎、別号;茂林斎  
 曲溪(きよくけい・山中) → 幸忠(ゆきただ・山中やまなか、歌人) E 4 6 7 7  
 玉桂(ぎよくけい;道号・梵芳;法諱) → 梵芳(ぼんぼう;法諱・玉腕ぎよくえん、臨濟僧) F 3 9 5 7  
 玉桂(ぎよくけい・柳/柳沢) → 淇園(きえん・柳沢やなぎさわ、儒詩/画) 1 6 0 3  
 玉桂(ぎよくけい・清風軒) → 欽治(ながはる・多胡たこ、国学/歌) N 3 2 6 9  
 玉礮(ぎよくけい;号) → 宗瑛(そうゑ;法諱、僧/歌人) K 2 5 9 9  
 玉卿(ぎよくけい・児玉) → 南柯(なんか・児玉こだま、儒者) I 3 2 5 6  
 旭敬(ぎよくけい→あさいや・飯田/橘) → 守部(もりべ・橘、国学者/歌人) 4 4 2 8  
 玉桂坊(ぎよくけいぼう) → 沾山(せんざん・初世、内田、俳人) F 2 4 5 1  
 旭健(きよくけん・藤崎) → 義顕(よしあき・木曾きそ/入江、藩士/国学) M 4 7 3 7  
 玉絃(ぎよくげん;字) → 恵鑑(えとう;法諱・玉絃、本願寺僧派) E 1 3 1 3  
 玉鉉(ぎよくげん・喜多村) → 鼎(かなえ・喜多村きたむら、藩士/医者) O 1 5 2 5  
 玉彦靈社(ぎよくげんれいしゃ) → 政文(正文まさふみ・大竹、藩士/神道学者) H 4 0 2 5  
 S1639 玉賈(ぎよくこ) ? - ? 江戸の俳人;雑俳点者/1733山之「雨の落葉」点句入  
 玉壺(ぎよくこ・木下) → 蘭阜(らんこう・木下、儒者、詩人) B 4 8 9 8  
 玉壺(ぎよくこ・朝比奈) → 玄洲(げんしゅう・朝比奈あさいな、藩士/儒者) E 1 8 8 9  
 R1687 曲肱(きよくこう) ? - ? 俳人;1695不角「昼礫ひるつがて」入、  
 [急病に医者勿体もつたいも持病也](昼礫/急病患者を前に勿体ぶるのは持病だ)、  
 (諺;医者勿体/医者玄関)  
 01688 曲江(きよくこう・小池こいけ、名;惟則/字;子翼) 1758-1847 長寿 90 陸前塩釜の絵師/仙台藩士、  
 画:松林瑤江門、王叔明・沈南蘋の画法/顔真卿の書法を修得、諸国歴遊、仙台4大家の1、  
 歌;賀茂季鷹門、「名山勝境」画、「山水画伝」「曲江山水画譜」1837「莫逆ばくげき閑友」著、  
 [曲江の通称/別号]通称;周蔵/与八郎、別号;甘眠堂  
 I1690 旭江(きよくこう・淵上ふちかみ、名;禎/字;白亀)?-? 江後期1800-18頃備中児島山田の絵師;大西酔月門、  
 13歳から23年間全国行脚;名勝写生、沈南蘋の画風;没骨法の花弁写生画、大阪江戸堀住、  
 1800「北陸奇勝」「山水奇観」/12「東のつと」、「禽虫花石帖」「和撰百人一首」画

- 曲江(きょくこう・岸) → 汝裕(じょゆう・岸きし/吉田、幕臣/詩文) M 2 2 8 6  
 曲肱(きょくこう・古田) → 広計(ひろかず・古田ふるた、藩士/歌人) F 3 7 6 8  
 曲肱(きょくこう・沢田) → 良敬(りょうけい・沢田さわだ、医者) H 4 9 2 3  
 曲肱(きょくこう・大槻) → 茂根(しげね・大槻おおつき、大肝入、国学) N 2 1 7 6  
 旭岡(きょくこう・池田) → 貞一(さだかず・池田/紀、幕臣/和算家) H 2 0 9 4  
 旭岡(きょくこう・井上) → 常之(つねゆき・井上/小原、端木/商家/歌/画) E 2 9 1 5  
 旭香(きょくこう・美甘) → 政和(まさとも・美甘みかも、神職/国学) S 4 0 9 0  
 I1684 **玉岡**(ぎょくこう・山本やまもと、名;礼/字;文進、日下男)1763-1809 47 土佐高知の儒者:  
 1788土佐郷校名教館学頭、「仁道論辨」「答猪飼敬所示鬼神説書」著、「玉岡遺稿」  
 01689 **玉江**(ぎょくこう・環たまき) ? - ? 江後期大阪南鍋屋町の絵師、1800刊「絵本胆太郎夢物語」画  
 01690 **玉江**(ぎょくこう・大内おおうち、名;正敬、重政男)1784-1854 71 常陸久慈郡留村の農民、  
 儒;小宮山楓軒門、1831水戸藩郡方に勤務/43彰考館入/45弘道館訓導/47歌道方兼任、  
 1848水戸藩士;小十人組列、1835「常陸名家譜」45「精慎録」、「筑波紀行」「静窓随筆」著、  
 「おもいで草」「玉江全集」「北遊唱和」著、  
 [玉江の字/通称]字;子行、通称;与一郎  
 01691 **玉岡**(ぎょくこう・森もり、名;謙/字;子謙)1798-1853 56 江戸市ヶ谷医者/詩人、1850「玉岡百絶」著、  
 晩年は武蔵埼玉郡羽生に隠居、  
 [玉岡の通称/別号]通称:陶斎、/別号:杏園/小自在庵/笠翁  
 01692 **玉江**(ぎょくこう・行徳ぎょうとく、名;貫/直貫、行徳周文男/本姓平)1828-1901 74 大阪絵師/篆刻、  
 儒詩;篠崎小竹・広瀬旭莊門/画;鼎金城・貫名海屋門/篆刻;吳北渚門、  
 「停雲吟草」「風人余芸」、「玉江画譜」著、  
 [玉江の字/通称/別号]字;仁卿、通称;元慎、別号;檜園/九柳十橋逸史、法号;南宗院  
 玉江(ぎょくこう・溝口) → 幽軒(ゆうけん・溝口みぞぐち、藩士/詩歌) B 4 6 4 4  
 玉虹(ぎょくこう・駒井) → 朝温(ともあつ・駒井こまい、幕臣/歌) T 3 1 7 2  
 玉岡(ぎょくこう;道号) → 如金(じよきん;法諱・玉岡、曹洞僧/詩) M 2 2 2 8  
 玉岡(ぎょくこう・高橋) → 景保(かげやす・高橋たかはし、幕臣/天文/シボルト事件) B 1 5 9 9  
 玉崗(ぎょくこう;道号・瑞璵) → 瑞璵(ずいよ;法諱・玉崗、臨濟僧) F 2 3 0 8  
 玉衡(ぎょくこう・草加) → 驪川(りせん・草加くさか、儒者) B 4 9 3 8  
 曲肱庵(きょくこうあん) → 忠宴(ただよし・梅津うめづ、兵法家) R 2 6 2 6  
 曲肱庵(きょくこうあん) → 柳泓(りゅうおう・鎌田、医/心学者) D 4 9 8 0  
 玉臯院(ぎょくこういん) → 田鶴子(たづこ・上条かみじょう、国学/歌) W 2 6 5 8  
 曲江園(きょくこうえん) → 我竟(がきょう・寺西てらにし、俳人) J 1 5 3 7  
 玉香園(ぎょくこうえん) → 香園(こうえん・加藤、書肆/儒) H 1 9 6 9  
 玉江漁隠(ぎょくこうぎょいん) → 橘庵(きつあん・田宮仲宣、儒者、洒落本) I 1 6 6 4  
 曲肱斎(きょくこうさい) → 芦鶴(ろかく、俳人) 5 2 5 5  
 玉虹舎鬮磨呂(ぎょくこうしやくきゅうまろ) → 時成(ときなり・若井、戯作者) J 3 1 6 6  
 玉光舎占正(ぎょくこうしやうらまさ) → 占正(うらまさ・玉光舎、彫工/狂歌) D 1 2 4 7  
 玉香主人(ぎょくこうしゅじん) → 香園(こうえん・加藤、書肆/儒) H 1 9 6 9  
 曲肱亭(きょくこうてい) → 恵空(えくう、天台学僧/随筆) 1 3 6 0  
 曲江亭(きょくこうてい) → 桃睡(とうずい、唐水とうずい、俳人) F 3 1 7 7  
 玉河亭(ぎょくこうてい) → 与清(ともきよ・小山田/高田、国学者) 3 1 6 0  
 玉皎洞(ぎょくこうどう) → 心祇(しんぎ・轍、俳人) D 2 2 7 6  
 曲肱楼(きょくこうろう) → 如毛(じよう・岡崎おかざき、酒造業/俳人) M 2 2 8 5  
 玉虹楼一泉(ぎょくこうろういつせん) → 一泉(いつせん・玉虹楼、戯作) H 1 1 5 0  
 玉壺山人(ぎょくこうさんじん) → 蘭臯(らんこう・木下/豊臣/木、藩士/漢学) B 4 8 9 8  
 玉壺亭(きょくこうてい) → 不肩(ふけい・立羽たちば、俳人) B 3 8 7 4  
 01693 **極斎**(きょくさい・山本やまもと、名;隆貞)?-1837 江戸日本橋釘棚の和算家;恒川徳高・小出兼政門、  
 1824阿波山城谷村庄屋深川源兵衛の招聘で開塾、宮城流恒川徳高八世を名乗る、  
 1831「古今極数題解除伝」校訂/32「神壁算法起源解」著、  
 [極斎の通称/別号]通称;恒川徳高8世、別号;柳貞/柳亭/無一/無斎

- C1699 **曲齋**(きょくさい・原田はらだ、名;重吉しげよし/通称金助、号;瓢子ひょうし) 1817-7458 周防徳山小間物書籍商、俳人;美濃派の嚮化・右麦門、家業を弟吉兵衛(麦園瓢廬)に譲り俳諧研究と著述に専念、正風復古主唱;嚮化に俳諧革新の書を送り美濃派を破門;著書発禁処分、平田派国学、七草吟社創立、1857右麦追善「彼岸桜」編、「翁忌」編、1853「発願文註釈」55「蕉門通鑑」編、1859俳論「貞享式海印録」60「七部婆心ばしん録」、「言葉の袖鏡」著、辞世[暁や水みづ観かんずれば蓮の音]
- 旭齋(きょくさい/ぎょくさい・田辺)→ 石庵(せきあん・田辺たなべ/村瀬、儒者) D 2 4 3 3
- 01694 **玉齋**(ぎょくさい・千賀ちが/一字姓;賀が、名;璋) 1633(1642?)-8250/41 江戸の生;8歳で父に死別、儒者;12歳で林貞毅(読耕齋)門/のち林鷺峰門、鷺峰の随い「本朝通鑑」編纂に参加、1666鷺峰の推薦で若狭小浜藩主酒井忠直の侍講/のち藩儒;150石、1671「向若録」著、1682郷土誌「若耶群談」著(遺稿)、[玉齋(;号)の字/通称/別号]字;男載、通称;源右衛門、別号;賀が十玉齋じゅうぎょくさい
- 01695 **玉齋**(ぎょくさい・高橋たかはし、名;以敬/通称;与右衛門) 1686-176378 仙台藩儒/儒;遊佐木齋ぼくさい門、木門4傑の1、侍講/1736藩校明倫館初代主立(督学)、仙台藩教育の基礎を築く、「通俗封内名跡志」「封内名蹟志」著
- 玉齋(ぎょくさい・堀田) → 花山亭笑馬(かざんていしょうま/-しょうば、戯作) F 1 5 0 8
- 玉齋(ぎょくさい) → 玉鳳(ぎょくほう、玉齋、絵師) H 1 6 3 3
- 01696 **旭山**(きょくざん/ぎょくざん・戸田とだ、名;齋、藩士鈴木氏の男、母方戸田姓を嗣) 1696-176974 岡山の医者、大阪鰻谷箒屋町で開業医/本草;津島如蘭門/物産(薬物)会開催、平賀源内の師、「医学名数」「増続中条流産書」「病名補遺」、「文会録」編、「浪華物産会目録」「小成漫録」、[旭山の通称/別号]通称;齋宮、別号;無悶子/百卉ひゃつき園/百草園
- S1658 **旭山**(きょくざん/ぎょくざん) ? - ? 江中期河内柏原の俳人  
1754潘山(百子)「しぐれの碑」(;貞因25回忌・貞峨[紀海音]13回忌追善集)入、[寐ぬ菅や昔をしたふ遠時雨](しぐれの碑/発句)
- 01697 **旭山**(きょくざん/ぎょくざん・千手せんじゅ、名;興成、廉齋男) 1789-185971 日向高鍋藩士/儒;父門、のち京三条西洞院東で闇齋学を講説、1852「中庸講説」、「旭山集」「旭山文集」「旭山晩集」、[旭山の字/通称]字;立叔/立淑、通称;春三/謙治/謙齋
- 01698 **旭山**(きょくざん/ぎょくざん・村上むらかみ、名;知永) ?-? 江戸期江戸和算家、「算法天元術」編、「関流七伝」編
- 旭山(きょくざん/ぎょくざん・山本)→ 常朝(つねとも・山本やまもと、藩士/学者) C 2 9 7 2
- 旭山(きょくざん/ぎょくざん・平沢)→ 元愷(げんがい・平沢、儒者) B 1 8 3 9
- 旭山(きょくざん/ぎょくざん・斎藤)→ 尚仲(しょうちゅう・斎藤、和算家) K 2 2 8 5
- 旭山(きょくざん/ぎょくざん・松平)→ 信発(のぶおき・松平、藩主/記録) B 3 5 0 5
- 旭山(きょくざん/ぎょくざん・宮坂)→ 信近(のぶちか・宮坂、藩士/文筆) C 3 5 0 1
- 旭山(きょくざん/ぎょくざん・浪合)→ 胤凭(たねより・浪合なみあい、里正/国学) Y 2 6 7 5
- 旭山(きょくざん/ぎょくざん・斎藤)→ 宜長(のぶなが・斎藤、農業/和算家) C 3 5 5 4
- 旭山(きょくざん/ぎょくざん・尾崎)→ 員昌(かずまさ・尾崎、和算家) M 1 5 5 0
- 旭山(きょくざん/ぎょくざん・鈴木)→ 定寛(さだひろ・鈴木、医者) J 2 0 5 6
- 玉棧(ぎょくざん・数江) → 尚準(ひさのり・数江かずえ/脇坂、国学/歌) J 3 7 0 3
- 1640 **玉山**(ぎょくざん・山名やまな、名;光豊/義竜/義頼/義豊よしとよ、豊政3男/本姓源) 1623-9472 幕臣/旗本;書院番/小普請、母;大沢基宿女/従弟に戸田茂睡、歌人;本多重世/清水宗川門、茂睡と共に堂上歌学排撃の先駆、出家入道、私撰集編纂を発意;没後茂睡が[鳥の迹]編、1686「花葉集」著、生涯の詠歌2万5千首以上という、[一とせの花や紅葉の色までもけさ立籠めてかすむ空かな](鳥の迹;冒頭歌/春2)、[玉山(;号)の通称/別号]通称;左京/隼人、別号;光常、法号;日台
- L1628 **玉山**(ぎょくざん) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」(316)入、[その日過ぎ借りて利くはじ身の五つ](二葉之松;316)(その日暮しだが天から借りた五体には利子はつかない)
- 1641 **玉山**(ぎょくざん・秋山あきやま/修姓;秋、中山定勝男/秋山需庵養子) 1702-6362 熊本藩士儒、儒;伯父水足屏山門/昌平黌;林鳳岡門、藩学問指南役/藩校時習館創設尽力、教授/督学、1755時習館学規制定、1754「玉山詩集」55「富嶽記」、「秋山玉山詩稿」著、「玉山先生遺稿」、

高野蘭亭・服部南郭と交流、片山兼山/千葉芸閣/古屋愛日らの師、  
[玉山(;)号)の名/字/通称/別号]名;儀ぎ/定政、字;子羽、通称;儀右衛門、  
別号;青柯/時習館、法号;清鏡院

- D1600 **玉山**(ぎょくざん・岡田おかだ、名;尚友/字;子徳)?-1808 大阪絵師:月岡雪鼎・蔀関月門、法橋、  
上方絵本挿画の第一人者、戯作・図絵・実用書の挿絵/肉筆人物・花鳥画、石田玉山の師、  
1789「女有職艶文箱」93「絵本黄昏艸」95「住吉名勝図会」97-1802「絵本太閤記」98「漫遊記」、  
1801「婦人養草」02「実語教画本」12「教訓女今川操草」「桜木物語」、「琉球軍記」外画多数、  
[玉山の通称/別号]通称;友助、別号;金陵斎
- D1601 **玉山**(ぎょくざん・石田いしだ、名;修徳)?-? 大阪の絵師:岡田玉山門/戯作読本・女訓書の挿画、  
1807「安達原」10「葦牙草紙」「長柄長者黄鳥墳」/23確斎「画本室之八島むろのやしま」、  
1826「怪談雨の燈」35「錦葉抄」、「四天王寺再建伽藍之図会」「錦百人一首色紙箱」外画多数、  
[玉山の別号] 石峰/玉峰/蓼華斎/揚輝斎
- 玉山(ぎょくざん:道号) → 玄提(げんてい:法諱・玉山、臨濟僧) L 1 8 5 2  
玉山(ぎょくざん:俳名) → 十次郎(じゅうじろう・浅尾、歌舞伎役者) H 2 1 6 9  
玉山(ぎょくざん・三宅) → 友信(とものぶ・三宅、蘭学者) Q 3 1 2 2  
玉山(ぎょくざん・駒井) → 晚翠(ばんすい・駒井、儒者) I 3 6 1 9  
玉山(ぎょくざん・飯田) → 正紀(まさのり・飯田いしだ、神職/国学/歌) N 4 0 4 9  
玉山(ぎょくざん・野口) → 千賀(ちか・野口のぐち/松村、絵師) N 2 8 2 6
- 1642 **曲山人**(きょくさんじん、名;仙吉)?-1836?早世 江戸人情本作者:初め馬琴の筆耕、1829「恋の萍」著、  
1831/34「仮名文章娘節用」34「娘消息」、「女大学」「清談若緑」著、  
「娘太平記操早引」(37/39刊、松亭金水の補筆;著者の短命を悼む序)、  
[曲山人の別号] 司馬山人/三文舎自楽/画号;筑波仙橋/紫嶺斎泉橋、  
可志丸[磨]/墨浜の漁夫
- 玉山人(ぎょくさんじん) → 一瓢(いっぴょう・川原、日蓮僧/俳人) B 1 1 6 3  
玉山堂(ぎょくさんどう) → 佐兵衛(さへい・山城屋、稲田・西村、書肆) L 2 0 5 6
- H1620 **瑣子**(さくし、万秋門院ばん[まん]しゅうもんいん、撰政一条実経女)1268-1338?71 鎌倉南北期上級女官、  
母;平成俊女(中納言典侍)、後二条天皇に出仕/1303尚侍/従三位/1308天皇の死後出家、  
1320准三宮/院号宣下、一条家経・実家・家房・慈信らの姉妹、女房に一条・少将ら、  
歌人;1303嘉元仙洞御百首参加、続現葉・臨永・松花集入、  
勅撰31首;新後撰(6首144/370/834/1016以下)玉葉(150/953/1708)続千(7首97/388以下)、  
続後拾(209/584/922)風雅(636)新千(4首)新拾(2首)新後拾(1首)新続古(4首)  
[山吹のまがきに花の咲くころやみでの里人春を知るらむ](新後撰;春144/藤原瑣子名)
- O1699 **旭志**(きょくし) ? - ? 江戸俳人;1702轍士「花見車」入、  
[あてなきもあらん月見の人通り](花見車;200/月見の夜にただ単に歩く人)
- C1692 **曲糸**(きょくし) ? - ? 安藝竹原の俳人;  
1707「曲糸亭八景」共著;春好らと、1702芙蓉「駒撮こまざらえ」入
- P1600 **玉子**(ぎょくし) ? - ? 俳人;1690之道「江鮭子あめご」入、  
[竹の子の塩出す秋の夕べかな](江鮭子200;塩漬けを塩出しする季節)
- I1602 **玉枝**(ぎょくし) ? - ? 京の俳人;淡々門、1728柳岡「万国燕」1句入、  
[氍毹せん浅き小田原口の坂迎ひ](万国燕;淡々「はたまきや」百韻11句目)、  
(前句;箏箏届きますする又味噌/又味噌は自慢の手前味噌、旅人を出迎え小宴;下手な音楽)
- P1601 **玉之**(ぎょくし・黒川くろがわ、別号;浄山/烏川客うせんかく)?-? 江中期伊勢四日市俳人:1743京で出家、  
1743「青ふくべ」編、乙由追善「秋のかぜ」「水のさま」入
- P1602 **玉芝**(ぎょくし・山柴やましば、名;長太郎/通称;治右衛門)1768-1845?78 越後魚沼郡三俣の農業/医者、  
国学:山田信濃門、黒田玄鶴と伊勢参、戯作/画、「庄屋の噂」「天保晰題書」「百姓口説」著
- P1603 **玉后**(ぎょくし・生方うぶかた) ? - 1860? 江後期上州群馬郡上白井の俳人:白雄門、  
「和嘉連志母」著
- 玉芝(ぎょくし・瀬下) → 敬忠(のぶただ・瀬下せしも、国学・俳/史家) B 3 5 8 3  
玉芝(ぎょくし・宮崎) → 鯨思(げいし・宮崎みやざき、儒者/教育) F 1 8 9 1  
玉芝(ぎょくし・秋元) → 公英(きみひで・秋元あきもと、医者/詩歌文) T 1 6 3 8



- 玉之(ぎょくし・田中) → 式如(のぶゆき・田中/松浦、神道家) D 3 5 6 3  
 玉枝(ぎょくし;字) → 宗珮(そうぶ;法諱、僧/歌人) K 2 5 9 9  
 玉枝(ぎょくし・茶屋) → 玉条(たまえだ・茶屋ちやや、儒者/歌人) Y 2 6 2 5  
 玉芝園(ぎょくしえん) → 守俊(もりとし・水野みずの、藩士/文筆家) F 4 4 9 3  
 玉枝軒(ぎょくしけん) → 桐茂(とうも・富田、俳人) H 3 1 3 9  
 玉枝齋(ぎょくしさい・玉田) → 弘文(ひろふみ・三矢田、神道講釈) H 3 7 0 8  
 玉笥山人(ぎょくしさんじん) → 祇空(ぎくう・稲津いなづ、俳人) 1 6 9 4
- P1604 曲室(きょくしつ) ? - ? 大阪俳人;1772几董「其雪影」2句入、  
 [あり明けの月も浮葉や蓮の上](其雪影;巻尾292)  
 玉室(ぎょくしつ;道号) → 宗珀(そうはく;法諱・玉室、臨濟僧) I 2 5 7 0  
 玉質(ぎょくしつ;道号) → 宗樸(そうぼく;法諱・玉質、臨濟僧) I 2 5 9 0  
 旭舎(きょくしや・山田) → 衛居(もりい・山田やまだ/石田、神職/国学) L 4 4 8 2
- V1671 玉手(ぎょくしゅor姓;たまて?) ? - ? 江前期;和泉堺の出家隠遁者/歌人、  
 飛鳥井雅章に歌の指導を受ける;1688浅井忠能[難波捨草]に4首入、  
 [忠能の勧誘《なれもとへそれぞと今は白波の同じながれの和歌のうら人》の返歌、  
 思ひきやもくづにまじることの葉を和歌の浦波かけん物とは、  
 又、  
 ことの葉に心の色のしるければまだみぬ人のむつまじきかな](難波捨草;783/784)
- 玉樹(ぎょくじゅ・中) → 天游(てんゆう・中なか、医者/蘭学者) E 3 0 4 5  
 玉樹(ぎょくじゅ・安原) → 久子(ひさこ・安原やすはら/中原、歌人) M 3 7 1 2  
 棘樹院(きょくじゅいん) → 光映(こうえい;法諱・竹林坊、天台僧) H 1 9 5 7  
 曲洲(きょくしゅう) → 秀根(ひでね・河村、国学;紀典学) D 3 7 5 4  
 曲洲(きょくしゅう) → 訥庵(とつあん・大橋/清水/酒井、儒者/詩) O 3 1 4 1  
 曲秀(きょくしゅう) → 長隠(ちやういん・山田、俳人) H 2 8 2 5
- P1605 玉周(ぎょくしゅう;法諱・号;円巖えんがん/退室、称;円融) ?-? 1698存 京律宗僧;法金剛院觀景門、  
 のち雲竜如周門、1674法金剛院主/86唐招提寺主、92東大寺で1万人の大会催、  
 1698唐招提寺で唱導、「律門伝法略記」著
- P1606 玉洲(ぎょくしゅう・岩井いわい/修姓;祝しゆく、名;春和、屋号;今利屋) 1729-6941 土佐の唐物薬種商;富商、  
 儒;朱子学;富永惟安門/徂徠学に転向、詩文/書家、中山高陽と親交、「吸江志」著、  
 [玉洲の字/通称/別号]字;子雨、通称;庄平/小平、別号;眉卿/眉公/墨泉/蟾蜍園せんじょえん
- D1602 玉洲(ぎょくしゅう・桑山くわやま/修姓;桑そう、名;嗣燦/文爵/士幹) 1746-9954 紀州和歌浦の文人絵師、  
 江戸;桜井山興門/京;池大雅門、「若浦函巻」「蘭玉帖」、1790「玉洲画趣」99「絵事鄙言」著、  
 [玉洲(;号)の字/通称/別号]字;明夫/子淺しせん、通称;新太郎/茂平治/左内、  
 別号;玉峰/雀麓かくろく/聴雨室/珂雪堂/幽興堂/鶴跡園/勸耕舎/需激じゆれん漁夫/  
 明光居士/清瀨子せいれんし
- P1607 玉洲(ぎょくしゅう・安井やすい、名;敬英のりひで/字;世昌) ?-? 江戸期紀伊漢学者、長じて聴力を喪失、  
 「韓非子国字訳解」「玉洲集」著、加賀で没
- U1620 玉洲(ぎょくしゅう・柚木ゆのき、玉嶼ぎょくしよ男) 1825-190177 備中浅口郡玉島村の生、備中松山藩士、  
 漢書;山田方谷門/絵師、1838備中松山藩主板倉家の表小姓/大小姓格、  
 1854(嘉永7)父の家督を継嗣;禄90石、1879開業第八十六国立銀行(本店高梁)創立者の1、  
 1893取締役、詩人/南画絵師;墨竹画/茶道;蕨内流皆伝、  
 玉島団平町に私塾「有餘館」を開設;鎌田玄溪を招聘、久我久米くめ(玉粹)の兄、  
 久我小年の父、養嗣子;方啓、  
 [玉洲(;号)の名/字/通称/別号]名;行啓ぎょうけい、字;子篤、通称;久太郎/廉平、  
 別号;竹叟
- 玉舟(ぎょくしゅう;道号) → 宗璠(そうはん;法諱・玉舟、臨濟僧) I 2 5 7 4  
 玉州(ぎょくしゅう・福武) → 光重(みつげ・福武ふくとけ、国学者/故実) D 4 1 5 5  
 玉洲(ぎょくしゅう;道号) → 大泉(だいせん;法諱・玉洲、曹洞僧) K 2 6 4 9  
 玉洲(ぎょくしゅう;道号) → 海琳(かいりん;法諱・玉洲、曹洞僧) J 1 5 1 4

- 玉洲(ぎょくしゅう・谷井) → 敬英(のりひで・谷井、医/儒者) F 3 5 5 7  
 玉秋(ぎょくしゅう・山守/磯田) → 玉秋(たまき・磯田、医/国学者) K 2 6 3 7  
 玉集庵(ぎょくしゅうあん) → 利正(としまさ・南部、藩主/俳人) N 3 1 7 1  
 玉洲外史(ぎょくしゅうがいし) → 延年(えんねん・長谷川、剣術/篆刻家) B 1 3 3 1  
 玉洲山西主人(ぎょくしゅうさんせいしゅじん) → 旭亭主人(ぎょくていしゅじん) H 1 6 3 2  
 旭洲洞(ぎょくしゅうどう) → 貞屋(ていおく・熊谷/能谷/金原、俳人) 3 0 4 0  
 玉樹階(ぎょくじゅかい) → 利正(としまさ・南部、藩主/俳人) N 3 1 7 1  
 玉樹軒(ぎょくじゅけん) → 岷江(珉江みんごう・橋たちばな、絵師) G 4 1 8 0  
 玉樹軒(ぎょくじゅけん) → 石燕(せきえん・鳥山とりやま/鳥、絵師) D 2 4 3 5  
 玉樹軒(ぎょくじゅけん) → 遠影(とのかげ・丁野ちようの、藩士/官吏/歌) V 3 1 7 5  
 玉樹斎千広(ぎょくじゅさいちひろ・村上) → 千広(ちひろ・玉樹斎/源、華道) F 2 8 2 4  
 玉洲山西主人(ぎょくしゅうさんせいしゅじん) → 旭亭主人(ぎょくていしゅじん、洒落本) H 1 6 3 2  
 玉春(ぎょくしゅん・岡田) → 鍵子(かぎこ・岡田おかだ、国学者) U 1 5 0 1  
 玉純(ぎょくじゅん; 字) → 日精(にっせい; 法諱・天受院、日蓮僧) 3 3 6 9  
 極春園(ぎょくしゅんえん) → 守約(もりかね・藺田そのだ/中川、神職) K 4 4 2 0  
 玉潤堂(ぎょくじゅんどう) → 道雲(どううん・池永、書/篆刻) B 3 1 2 7
- U1619 **玉嶋**(ぎょくしよ・柚木ゆきの、武哲男) 1801-5151 備中玉島新田村柚木家4代目/1816備中松山藩士、  
 小姓格/1824家督嗣/馬廻役/吟味役; 禄百石/奉行格、書家; 顔魯公(顔眞卿)書法、  
 玉洲(藩士/絵師)・玉粹(久我久米くめ/絵師/歌人)の父、  
 [玉嶋(;号)の名/字/通称/別号]名; 満啓(みつひろ)、字; 子発、通称; 弥策、別号; 澆花ぎようか園  
 玉書(ぎょくしよ・梁川) → 紅蘭(紅鸞こうらん・梁川/修姓; 張、詩) C 1 9 0 1  
 玉嶋(ぎょくしよ・水野) → 忠光(ただあきら・水野みずの、藩主/和学) Z 2 6 7 4
- P1608 **旭昌**(ぎょくしやう; 法諱・殷山; 道号) ?-? 江戸中期下野曹洞宗芳全寺12世/岩代須賀川長松院12世、  
 俳諧、「粥飯日用鉢式」著
- P1609 **玉蕉**(ぎょくしやう・高橋たかはし、名; 滝たき/多喜/多禧) 1802-6867 仙台の商家の女/詩歌; 富松逸斎門、  
 江戸住; 儒者/詩人; 女儒として知名、伊達藩主夫人に経史を講授、夫人に随従帰国、  
 1849「玉蕉百絶」62「玉蕉詩稿」著、  
 [玉蕉の字/別号]字; 水竜/白華、別号; 松菊書屋、法号; 空本妙禅信女
- B1654 **玉章**(ぎょくしやう・川端かわばた、蒔絵師左兵衛男) 1842-191372 京の絵師; 中島来章・小田海僊門、  
 江戸住; 東京美術学校教授/川端画学校設立、1860「墨水画塵」著、  
 [玉章(;号)の字/通称/別号]字; 子文、通称; 滝之助、別号; 敬亭/璋翁、法号; 玉林院  
 玉章(ぎょくしやう) → 玉章(たまざさ・花山麓がざんろく、川柳作者) T 2 6 0 8  
 玉章(ぎょくしやう・村井) → 政方(まさかた・村井むらい、越前屋久右衛門、商/歌学) T 4 0 0 6  
 玉昭(ぎょくしやう・三島) → 玉昭(たまあき・三島みしま/越智、神職) Z 2 6 6 8  
 旭松(ぎょくしやう・茶室) → 康哉(やすなり・茶室ちやしつ、暦算家/歌人) C 4 5 4 7
- P1610 **玉成**(ぎょくじやう; 道号・慈璇(じせん); 法諱) ?-? 室町後期臨濟僧; 希三[1561没]門、  
 「玉成和尚筆録」著
- 玉城(ぎょくじやう・久野) → 純固(すみかた・久野くの、藩家老/詩歌) D 2 3 8 8  
 玉条(ぎょくじやう・茶屋) → 玉条(たまえだ・茶屋ちやや、儒者/歌人) Y 2 6 2 5  
 玉篠(ぎょくじやう・二川) → 瀧子(たきこ・二川ふたがわ、玉篠/絵師) Z 2 6 3 6  
 玉蕉庵(ぎょくしやうあん) → 芝山(しざん、白川しらかわ/白、絵師/俳人) D 2 1 7 5  
 玉照庵(ぎょくしやうあん) → 柳条(りゅうじやう・江見えみ、俳人) E 4 9 7 0  
 玉疊庵(ぎょくじやうあん) → 杉羽(杉雨さんう・馬場ばば、藩士/俳人) L 2 0 7 6  
 玉松蔭(ぎょくしやういん) → 利蔭(としかげ・荒巻あらまき/黒田/本居、歌人/邦楽) U 3 1 0 1  
 玉鏘翁(ぎょくしやうおう) → 秀条(ひでえだ・高木たかぎ、神道/歌人) L 3 7 7 3  
 旭松下(ぎょくしやうか・佐久間) → 信満(のぶみつ・佐久間/三浦、謡曲) D 3 5 4 8  
 曲松居士(ぎょくしやうこじ) → 為篤(ためあつ・葛山かつらやま/坂、藩士/地誌/歌) S 2 6 3 1  
 旭松斎(ぎょくしやうさい) → 宗一(そういつ; 名・瀬井せい、華道家) G 2 5 0 0  
 玉松子(ぎょくしやうし) → 立愿(りゅうげん・難波なんば/篠野、医者) D 4 9 6 7

- 玉松山叟(ぎょくしょうさんそう)→ 篁園(こうえん・野村のむら、儒者/詩人) 1978  
 玉松子(ぎょくしょうし) → 立愿(りゅうげん・難波なんば/篠野、医者) D4967  
 玉章宿(ぎょくしょうしゃ/たまざきよなど)→ 義睦(よしあき・錦織にしごり、商家/庄屋/日記) O4736  
 旭松井(ぎょくしょうせい) → 春章(2世しゅんしょう・勝川/勝宮川、絵師) J2195  
 玉松之戸(ぎょくしょうのど) → 啓(ひらく・鳥山とりやま/田所、藩士/教育) K3704  
 玉女山樵(ぎょくじょさんしょう)→ 佩川(珮川はいせん・草場、儒者/詩/画) B3670  
 S1673 玉親(ぎょくしん・野澤のざわ) ? - ? 江前期上方の俳人、  
 1678西鶴「物種集」入、  
 [上あがり膳骨は野外やぐわいに埋むとも](物種集/上り膳;食べ荒した膳、  
 前句;敵がたきをねらふあはれ乞食こつじき)  
 P1611 玉振(ぎょくしん:法諱) 1745 - 181470 安藝吳の真宗本願寺派僧:漢学/詩文、宗義;慧雲門、  
 諸国布教/安藝牛田安楽寺住職、1814「安楽集随聞記」著  
 旭信(ぎょくしん・狩野) → 梅春(ばいしゅん・狩野かのう、絵師) B3652  
 旭岑(ぎょくしん:道号・瑞泉)→ 瑞泉(ずいこう:法諱・旭岑、臨濟僧) 2353  
 玉振(ぎょくしん・金) → 岳陽(がくよう・金こん、藩士/儒者) H1580  
 玉信(ぎょくしん・狩野) → 玉楽(ぎょくらく・狩野かのう/藤原、絵師) P1639  
 玉塵園雪住(ぎょくじんえんせつじゅう)→ 雪住(せつじゅう・玉塵園、茶番芸) L2407  
 曲津上(きょくしんじょう) → 天姥(てんぼ・宮本みやもと、農業/俳人) E3025  
 P1612 玉真堂(ぎょくしんどう) ? - ? 江戸中期三河広瀬の薬種商:家伝胃腸薬即功丸を販売、  
 江戸から長崎まで取次店拡大、1756「松実雑話」著  
 P1613 曲水(きょくすい) ? - ? 江中期江戸雑俳点者、1702「冠独歩行」「赤苧ぼし」入、  
 1714「俳諧媒口なこうどぐち」入  
 1643 曲翠(きょくすい・菅沼すがぬま、名;定常)1660-1717自刃58 近江膳所藩士、  
 俳人;芭蕉門/師と親密;書簡多数、細道の旅後に幻住庵(伯父幻住老人の旧居)を提供、  
 師没後は藩務精励;不正の家老を殺害/自刃/息子内記も江戸で死を賜る、  
 1687「続虚栗」/90「ひさご」/91「猿蓑」入、93頃から曲翠、93「深川」18句入、  
 1694「炭俵」/98「続猿蓑」入、  
 [何事も黙ってゐるか墓ひきがる]、  
 [曲翠の通称/別号]通称;外記、別号;曲水(初号)/馬指堂、  
 妻も蕉門俳人→ 破鏡尼(はきょうに、蕉門俳人/琴) C3647  
 曲水(きょくすい・清岡) → 正道(まさみち・清岡きよおか、郷士/国学/勤王) P4034  
 H1622 玉翠(ぎょくすい、鳥酔男?) ? - ? 1745?「けふの時雨」餞別句入  
 I1685 玉水(ぎょくすい・村士すむり、名;宗章/元章、淡斎たんさい男)1729-7648 江戸儒者:家学/稻葉迂斎門、  
 礼書/長沼流兵学に精通、備後福山藩江戸藩邸で講説、江戸小川町私塾信古堂で講説、  
 「迂斎先生学話」、「玉水文章」「敦行葦」「玉水問話」「浜見録」「文会社約」、「一斎先生雅言」著、  
 [玉水の字/別号]字;行蔵/剛蔵、別号;一斎  
 P1614 玉水(ぎょくすい・桐井軒) ? - ? 江中期三河の雑俳点者、1555「嶋台」編、「前句附集帖」編  
 P1615 玉水(ぎょくすい・黒川くろかわ)? - ? 江後期京の絵師:岡田玉山門、1834「絵本一休問答」、  
 1858「極楽道中双六」、「絵本春の詠」「鈍字集」画  
 玉水(ぎょくすい・西尾) → 喜宣(よしのぶ・西尾にしお、藩士/和算家) F4766  
 玉粹(ぎょくすい・柚木ゆきの)→ 久米(くめ・久我くが/柚木、絵師/歌人) E1714  
 玉翠(ぎょくすい・井上) → 長秋(ながあき・井上いのうえ/藤原、神職/判事) L3204  
 玉垂園(ぎょくすいえん) → 楚諾(そたく・大原おほはら、郡代/俳人) C2530  
 玉水館(ぎょくすいかん) → 橘庵(きつあん・田宮たみや、戯作者/随筆) I1664  
 玉井(ぎょくせい;号) → 中蓮(ちゅうれん;法諱・西庵;道号、臨濟僧) H2800  
 玉世(ぎょくせい・新井) → 玉世(たまよ・新井あらい、絹商/狂歌師) V2630  
 玉成(ぎょくせい・春苑) → 玉成(たまなり・春苑はその、陰陽師) C2607  
 玉成(ぎょくせい;字・玄瑞;法諱)→ 月僊(げんせん/月仙;号、浄土僧/絵師) B1811  
 玉成(ぎょくせい→ぎょくじょう)→ 玉成(ぎょくじょう:道号・慈璇じせん、臨濟僧) P1610

- 玉成(ぎょくせい・岡島) → 冠山(かんざん・岡島おかじま、唐話唐音学) 1 5 5 1  
 玉成(ぎょくせい・井上) → 経行(つねゆき・井上いのうえ、藩医/歌人) F 2 9 1 7  
 玉成(ぎょくせい・唐崎) → 常陸介(ひたちのすけ・唐崎、神職/尊王) C 3 7 6 1  
 玉倩(ぎょくせい・阿部) → 縑州(けんしゅう・阿部あべ、篆刻家) J 1 8 5 2  
 玉井院(ぎょくせいん) → 為統(ためつぐ・相良さがら、武将/連歌) S 2 6 5 1  
 玉井軒(ぎょくせいけん) → 美隆(よししたか・岩崎いわさき、里正/歌人) E 4 7 0 9  
 曲青舎雨洗(きょくせいしやうせん) → 仲和(なかかず・岩神いわがみ、俳人) D 3 2 3 7  
 玉青堂(ぎょくせいどう) → 廬山(ろざん・深見ふかみ、博物蒐集家) B 5 2 5 9  
 H1624 玉夕(ぎょくせき) ? - ? 俳人、1681言水「東日記」4吟歌仙入  
 局躑楼(きょくせきろう) → 棗庵(そうあん・長沢、医者/里正/救荒) F 2 5 9 4  
 D1603 玉屑(ぎょくせつ;号・観応;法諱)1752-182675 熊本?真言僧/淡路常隆寺・普濟寺・播磨神宮寺住職、  
 俳人;青羅門/師の遺風顕彰、二条家俳諧花御会を勤める、近畿江戸奥州を行脚、  
 1789「うらあふぎ」91「水の月」編、93「扇塚後縁集」、94「散波南ちるはな」97「青羅発句集」編、  
 1796「きくの主集」1803「後菊集」04「失鶴集」06「驢鳴篇」18「湯の波南集」編、外著多数  
 [玉屑の別号] 無夜庵/栗本くりのもと2世  
 D1604 玉雪(ぎょくせつ) ? - ? 江前期元禄1688-1704頃江戸俳人:友雅門、  
 1703「俳諧桃の日」撰、03「一句合江戸友雅勝句」編  
 玉雪(ぎょくせつ・間部) → 詮勝室(あきかつのしつ・間部まなべ、松平康任女、歌) G 1 0 6 0  
 玉屑山人(ぎょくせつさんじん) → 藤長(ふじなが・田口、藩士/絵師/狂歌) C 3 8 5 5  
 P1616 曲川(きょくせん・山内やまな、名;嘉一郎、長右衛門男)1817-190387 出雲松江の骨董商/茶事茶器鑑定、  
 俳人;万籟門、国学;大国隆正門、1852奥州行脚/58帰郷、52「をくるま」編、  
 1859「筆くさ」61「およひこし」62「ともすゝめ」編、「たけうま」著、  
 [曲川の別号] 釣年ちやうねん庵/十牛庵/月の坊/蛙石あせき坊/鼎室でしつ/沙窓/茶窓/月之げし  
 H1626 玉暹(ぎょくせん) ? - ? 連歌、1573幽斎「大覚寺千句」参加  
 P1617 玉泉(ぎょくせん;号) ? - ? 江前期華道家、立花秘伝公開、1676「立花初心抄」著  
 I1686 玉川(ぎょくせん・股野またの、名;充美、竜溪男)1730-180677 播磨竜野藩儒/儒;藤江熊陽・伊藤東涯門、  
 1755家督嗣;2代/闇斎学;玉田黙翁の虎溪精舎入門、江戸藩邸で脇坂家世子侍読、門弟多数、  
 1771「竜野四孝伝」72「孝婦鳴盛編」、80「脇坂家譜」編、「選詩類材」「玉川文集」「玉川随筆」、  
 「群玉古稀編」「幽蘭堂詠草」「幽蘭堂詩稿」「幽蘭堂随筆」「幽蘭堂雑著」「幽蘭堂年譜」著、  
 [玉川の字/通称/別号]字;才介、通称;七太郎、別号;楽翁/幽蘭堂、 順軒の父  
 父 → 竜溪(りゅうけい・股野またの、藩儒者/教育) D 4 9 4 7  
 P1618 玉蟾(ぎょくせん・入江いりえ) ? - ? 江中期下総葛飾の華道家;滝川維舟門、  
 千家入江流の祖、折入の花留を考案、1767「插花千筋の麓」1768「生花百競」著  
 P1619 玉泉(ぎょくせん・大場おおば、名;維景/字;祺甫)1750-182677 水戸藩士/1767進仕/1818致仕、文学、  
 諸国歴遊:山鹿流兵法・松田流兵器製造法修得、1794「富岳遊記富岳真図」、「富士記」著、  
 [玉泉の通称/別号]通称;弥右衛門、別号;(致仕後)玄賞斎  
 I1688 玉川(ぎょくせん・百川ももかわ、名;平章)1775-180531 陸奥弘前藩儒/1796藩校稽古館助教/学士、  
 折衷学・大田錦城門、1803解任、「籠鳥集」著、  
 [玉川の字/通称]字;達夫、通称;順助/屯助  
 P1620 玉川(ぎょくせん・小町おまち、名;成)1775-183864 武州多摩郡和泉の農業/出奔、江戸で儒;亀田鳳斎門、  
 関東遊歴後江戸で儒・詩文講説、1827井伊家儒臣、1813「玉川百詩」28「自修編」35「てみやげ」  
 [玉川の通称] 甚蔵/雄八  
 I1687 玉川(ぎょくせん・金谷かなや、名;英/信英、藩医金谷柳仙男)1759-9941 紀州藩儒、儒;松崎観海門、  
 藩校学習館の講官、詩文、「松蔭客話」「玉川小稿」著、「玉川遺稿」、  
 [玉川の字/通称]字;世雄、通称;英蔵、法号;弄覚院  
 P1621 旭川(ぎょくせん/きょくせん・藤原ふじわら)?-? 江後期1818-30頃仙台の和算家、1817「点竄集成」著  
 J1610 旭川(ぎょくせん/きょくせん・大賀おおが、名;賢励)1819-190688 伊勢藩儒、儒;淡窓門、僧、「旭川詩鈔」著  
 旭川(ぎょくせん/きょくせん・林) → 方斎(ほうさい・林はやし、藩士/儒者) 3 9 8 3  
 旭川(ぎょくせん・久米) → 淡斎(たんさい・久米くめ、儒者/詩歌) W 2 6 7 0  
 旭泉(きょくせん;法諱) → 竜重(りゅうちゆう;道号・旭泉、曹洞僧) E 4 9 9 0



- 玉川(ぎょくせん・狩野) → 元信(もとのぶ・狩野かのう、幕府絵師) D 4 4 6 8  
 玉川(ぎょくせん、俳名) → 菊之丞(3世きくのじょう・瀬川、歌舞伎役者) 1 6 9 9  
 玉川(ぎょくせん・狩野) → 養信(おさのぶ・狩野かのう、晴川、幕府奥絵師/歌) D 1 4 7 2  
 玉川(玉泉ぎょくせん・小田野) → 直武(なおたけ・小田野おだの、絵師) B 3 2 5 2  
 玉川(ぎょくせん・細井) → 広沢(こうたく・細井ほそい/辻、儒/書家) 1 9 1 4  
 玉川(ぎょくせん・島本) → 誠(まこと・島本しまもと、医者/蘭学) 4 0 7 9  
 玉泉(ぎょくせん・徳永) → 宥(ゆう・徳永とくなが、儒者) 4 6 4 7  
 玉泉(ぎょくせん・香川) → 景達(かげとう・香川かがわ、藩士/国学者) U 1 5 1 1  
 玉沾(ぎょくせん・清藍戸) → 頼錦(よりかね・金森かなもり、藩主/俳人) I 4 7 5 7  
 玉筌(ぎょくせん・西岡、玉筌子) → 玉全(ぎょくぜん・西岡、暦算/相法家) P 1 6 2 3  
 玉僊(ぎょくせん・森) → 高雅(たかまさ・森もり、絵師) N 2 6 2 0  
 玉蟾(ぎょくせん・村井) → 蕉雪(しょうせつ・村井むらい、藩医/絵師) K 2 2 3 4
- D1605 玉全(ぎょくぜん) ? - ? 江中期俳人、選集1714「芋の子」編、「鎌倉紀行」著
- P1622 玉善(ぎょくぜん; 法諱・知覚; 字、俗姓中井) 1797-1860<sup>64</sup> 美作上加茂村の真言僧; 山城醍醐寺修業、  
 帰郷; 金竜寺住職、私塾; 子弟教育/能筆、「知賀侯草」著、  
 [玉善の号] 朝松亭/明応院、諡号; 筆道先生
- P1623 玉全(ぎょくぜん・西岡にしおか、名; 玄春) ?-? 江後期京の暦算/相法家、1809「撰輯暦」15「三才精義」、  
 1816「風水秘録」、「家相玄機略」、「地租秘奥判断」、「地租奥秘口伝集」著、  
 [玉全の別号] 玉筌ぎょくぜん/玉筌子
- 玉禅(ぎょくぜん・山本) → 梅逸(ばいつ・山本やまもと、絵師) 3 6 5 3  
 玉泉軒成久(ぎょくせんけんしゅうきゅう) → 成久(しゅうきゅう、玉泉軒、俳人) G 2 2 0 5  
 曲川斎(きょくせんさい) → 猿左(えんさ・戸谷とや、俳人) B 1 3 7 4  
 玉泉子(ぎょくせんし) → 宗知(そうち・県あがた、茶人) I 2 5 4 1
- D1606 玉泉堂(ぎょくせんどう) ? - ? 江中期1769-71頃浄瑠璃作者/江戸肥前座・外記座の立作、  
 1769「時代世話女節用」70「神霊矢口渡」「往昔模様亀山染」(合作)/71「関取一鳥居」著
- 玉川堂(ぎょくせんどう) → 京英(きやうえい・花笠、浄土僧/戯作者) G 1 6 5 7  
 玉泉堂(ぎょくせんどう) → 金助(かねすけ・荒井、石狩樺太開拓) O 1 5 5 5  
 玉禅堂(ぎょくせんどう) → 梅逸(ばいつ・山本やまもと、絵師) 3 6 5 3  
 玉泉道士(ぎょくせんどうし; 修験号) → 清河(せいが・安達、修験/儒者/詩文) 2 4 8 0  
 玉泉坊(ぎょくせんぼう) → 宗範(そうはん; 号、天台比叡山僧/連歌) I 2 5 7 3  
 玉泉坊(ぎょくせんぼう) → 日宏(にちこう; 法諱、日蓮僧) B 3 3 7 6
- 1644 旭荘(きょくそう・広瀬ひろせ、名; 謙、三郎右衛門貞恒[桃秋]男) 1807-63<sup>57</sup> 豊後日田の儒者; 兄淡窓門、  
 1823亀井昭陽門/25樺島石梁門/27菅茶山・頼杏坪門、詩、豊前浮殿に開塾、  
 1831淡窓咸宜かんぎ園塾政/日田代官に弾圧され出奔/36和泉堺で開塾/38大坂船場移設、  
 1842肥前大村藩招聘で藩士に講学/江戸大阪など各地で教授、61帰郷開塾/撰津池田で没、  
 「梅墩詩鈔」「梅墩文鈔」「梅墩漫筆」「旭荘文録」「塗説」「録海」「淡巷集」「梅墩叢書」著、  
 [旭荘の字/通称/別号] 字; 吉甫、通称; 謙吉、別号; 秋村/梅墩ばいとん、  
 諡号; 文敏先生、林外の父、
- 極蔵(きょくぞう・杉浦) → 桐村(とうそん・杉浦、音曲家/絵師) 3 1 4 3
- H1627 玉藻(ぎょくそう・水原みずはら、玉藻隠士) ?-? 江末期大阪の読本作者/絵師: 岡田玉山門、  
 1848-49「繡像復讐えほんかたきうち岩見英雄録」前編5巻7冊・後編7巻7冊著作と画(三編以後別人)、  
 1857「絵本復仇英雄録」画
- 玉藻(ぎょくそう・岡本) → 稚川(ちせん・岡本、儒者、詩人) E 2 8 5 6  
 玉藻(ぎょくそう/玉藻舎) → 百年(ひやくねん・溪たに、儒/兵学者) E 3 7 7 2  
 玉叢(ぎょくそう; 号) → 宗斌(そうびん; 法諱、僧/歌人) K 2 5 9 9  
 玉掃庵(ぎょくそうあん) → 内新好(ないしんこう/うち-、俳人/戯作者) 3 2 5 3  
 玉藻隠士(ぎょくそういんし) → 玉藻(ぎょくそう・水原みずはら、絵師/読本) H 1 6 2 7  
 玉瑠舎(ぎょくそうしゃ) → 杏所(きやうしよ・立原たちばら、藩士/絵師) C 1 6 5 8  
 玉藻舎(ぎょくそうしゃ) → 百年(ひやくねん・溪たに/河田、儒者/兵学) E 3 7 7 2

- 玉藻亭主人(ぎよくそうていしゅじん)→百年(ひゃくねん・溪(たに)/河田、儒者/兵学) E 3 7 7 2
- S1679 玉窓尼(ぎよくそうに) ? - ? 江中期歌人、幕臣高井鍋之助(小納戸役)の母、  
歌;1798刊石野広通「霞関集」入、  
[あひみてし夜半もかはらぬ月影の涙にくもる独り寝の床](霞関;恋888/寄月恋)
- 玉藻甫人(ぎよくそうぼじん)→ 甫人(ぼじん・玉藻ぎよくそう、読本作者) E 3 9 3 2
- P1624 玉諦(ぎよくたい;法諱・覚円;字、岡田浅五郎男) 1818-99<sup>82</sup> 備中後月郡主村農家/1830出家;  
玉勝門、漢学;山田方谷門、真言僧:1838高野山修学/奈良で華嚴奥義研究、  
大覚寺門跡/東寺長者、  
「華嚴宗六相辨」「華嚴縁起性起二門綱要」「華嚴雜記」著
- 玉台院(ぎよくだいいん)→ 徳子(のりこ・伊達だて、玉台院/藩主室) I 3 5 9 2
- H1629 旭岱子(きよくたいし、海処閑人、錦洞館)?-? 江後期;1830-54叢書「墨海山筆」編
- H1630 玉端(ぎよくたん) ? - ? 江中期臨濟僧、1757「盤珪仏智弘濟禪師御示開書」著
- P1625 玉潭(ぎよくたん;法諱) 1722 - 1782<sup>61</sup> 越中婦負郡真宗本願寺派妙覚寺住職/泰巖門、  
叔父暹鎧らと「真宗法要」編纂、私塾善解室開設:学生教育、  
「安楽集伝灯録」「安楽集信手録」「大経和讃録」「文類正信偈録」「御伝鈔録」「疑惑讃録」著
- I1689 玉潭(ぎよくたん・芥川あくたがわ、名;希由/字;子轍、思堂男) 1787-1842<sup>56</sup> 越前鯖江藩儒/儒;父門、書、詩、  
1807家督継嗣/14藩校進徳館創設に尽力、「玉潭詩文集」「越知山紀行」著
- 玉池庵(ぎよくちあん、玉池翁)→ 素外(そがい・谷(たに)/池田、商家/俳人) D 2 5 4 0
- 玉池斎(ぎよくちさい/玉池堂)→ 弥白(やはく・梅村うめむら、書肆) D 4 5 9 5
- 玉池仙史(ぎよくちせんし)→ 湖山(こざん・小野/横山、詩人) C 1 9 6 9
- P1626 玉仲(ぎよくちゆう;道号・宗琇(そうしゅう);法諱) 1522-1604<sup>83</sup> 日向櫛間院の臨濟僧:春林宗俣門;嗣法、  
1570大徳寺入/大徳寺112世;黄梅院・天瑞寺創建、堺禅通寺中興2世、  
1581正親町天皇より禅師号、「春林和尚行実」1604「禅林肯訣」著、「玉仲遺文」、  
[玉仲宗琇の号] 闍提子(せんだいし/休々子、仏機大雄禅師
- H1631 玉晁(ぎよくちやう・小寺こでら/木村、名;広治/広路/広道、小寺広政の養子) 1800-78<sup>79</sup> 名古屋随筆家、  
尾張諸家に出仕/一時木村広之の養子;別家小寺家を立てる、雑学;絵画/俳諧/香道/謡など、  
貧困:貸本屋大惣等の筆耕で生計、耽古連八天狗(趣味家の集い)に参加;平出延齡と交流、  
「連城亭随筆」「桜田紅雪録」「見世物雑誌」「玉晁叢書」「連城文庫書籍目録」「人物図会」著、  
「玉水集」「玉晁小歌集」「鳥廼巢集」「落馬集」「尾張芝居雀」外著多数、  
[玉晁の字/通称/別号]字;好古、通称;富次郎/九右衛門/第八郎/第八、  
別号;連城亭/続学舎/対硯斎/珍文館/古楽園嘉来/随筆園/東杉舎/蔵書園/  
戯呂健館/戯道人/城東館/西亞/許六/由之/万丸
- 玉釣(ぎよくちゆう・田中)→ 湖翠(こすい・田中たなか、俳人) M 1 9 8 4
- 玉長老(ぎよくちやうろう)→ 潤甫(じゅんぼ;道号・周玉;法諱、臨濟僧/歌/狂歌) K 2 1 4 5
- 曲直庵(きよくちよくあん)→ 亀文(きぶん、松平忠告ただつぐ、藩主/俳人) B 1 6 7 4
- 曲直庵(きよくちよくあん)→ 木之(ぼくし・落合おちあい、藩士/俳人) D 3 9 3 4
- F1658 玉椿(ぎよくちん) ? - ? 江前期俳人;1693不角「二息」入
- 蕨亭(くさき亭きよくてい)→ 路圭(ろけい・博多屋、商家/俳人) B 5 2 2 8
- 玉底(ぎよくてい;法名)→ 宗砌(そうせい、高山/源、武家/連歌) 2 5 1 3
- 玉諦(ぎよくてい)→ 玉諦(ぎよくたい;法諱・覚円;字、真言僧) P 1 6 2 4
- P1627 玉亭光娥(ぎよくていこうが、姓;西村)?-? 江戸書肆/戯作者、  
1820「奇哉男一家」、「敵討浅草利生記」著
- 玉亭子(ぎよくていし・滝沢)→ 馬琴(ばきん・曲亭きよくてい、読本作者) 3 6 0 7
- H1632 旭亭主人(きよくていしゅじん、玉洲山西主人)?-? 江中期;1796洒落本「天岩戸」著(田楽画)
- 曲亭馬琴(きよくていばきん)→ 馬琴(ばきん・曲亭きよくてい、読本作者) 3 6 0 7
- 玉典(ぎよくてん・香山)→ 崇峰(すうほう・香山かやま、儒者/詩) B 2 3 0 3
- 玉転(ぎよくてん・室)→ 美勝(よしかつ・室むろ友甫、茶人) P 4 7 5 7
- 玉田(ぎよくてん;道号)→ 永鋈(えいき;法諱・玉田、渡来臨濟僧) B 1 3 9 5
- 玉田散人(ぎよくてんさんじん)→ 立斎(りつさい・高野たかの、藩士/天文家) B 4 9 8 5
- 旭天舎(ぎよくてんしゃ)→ 寄潮(きちゆう・渡辺わたなべ、藩士/俳人) L 1 6 3 3

- 玉田夫(ぎょくてんふ) → 岩松(がんしゅう、俳人) R 1 5 0 7  
 玉斗庵素石(ぎょくとあんそせき) → 高厚(たかあつ・山鹿、剣術家/狂歌/俳) L 2 6 5 3  
 旭堂(きょくどう・池本) → 鴨眠(おうみん・池本いけもと、庄屋/歌人) C 1 4 7 0  
 P1628 玉東(ぎょくとう) ? - ? 江中期大阪の俳人、1773几董「あけ鳥」入、  
 [降るうちに降り出す音や五月雨さつきあめ](あけ鳥;238/急に激しくなり気づく)  
 D1607 玉堂(ぎょくどう・浦上うらがみ/本姓;紀、宗純男)1745-182076 儒者/詩・文人画家、  
 書家/琴、備前鴨方藩士;1794脱藩、京住、「玉堂琴士集」「玉堂琴譜」「玉堂詩稿」「玉堂集」、  
 「山水画」「東雲篩雪図」「琴僊画集」「焦尾集」「無弦集」「止仁禄」「絵事小談」「奇事小誌」著、  
 [玉堂(;号)の名/字/通称/別号]幼名磯之進、名;弼/孝弼、字;君輔、通称;兵右衛門、  
 別号;玉堂琴士/穆齋ぼくさい、法号;峰山玉堂居士  
 玉堂(ぎょくどう・斯波) → 義輝(よしまさ・斯波しば、武将/歌人) G 4 7 9 6  
 玉堂(ぎょくどう・植木) → 環山(かんざん・植木うえき、儒者) Q 1 5 8 2  
 玉堂(ぎょくどう・戸沢) → 正令(まさなり・戸沢とざわ、藩主/国学/歌) G 4 0 2 4  
 玉堂(ぎょくどう・年梅) → 昌之(まさゆき・年梅ねばい、接骨医/国学) R 4 0 4 6  
 玉堂琴士(ぎょくどうきんし) → 玉堂(ぎょくどう・浦上うらがみ、詩/画/琴) D 1 6 0 7  
 玉島山人(ぎょくとうさんじん) → 東江(とうこう・沢田/平/源、書家/詩) 3 1 1 0  
 玉兔園澄丸(ぎょくとえんすみまる) → 青洋(せいよう、桂有彰、商家/絵師/狂歌) J 2 4 6 9  
 巖徳院(ぎょくとくいん) → 忠成(ただあきら・水野みずの、老中/日記) F 2 6 4 4  
 玉兔齋(ぎょくとさい) → 天老(てんろう・小見山、医/俳人) E 3 0 6 2  
 曲取主人(きょくとりしゅじん) → 文京(ぶんきょう・花笠、合巻/歌舞伎作者) F 3 8 0 2  
 P1629 清邦(清国さよくに・藤原ふじわら、有貞男/経邦弟)?-? 平安期廷臣;従五下甲斐守/元眞もとざねの父  
 P1630 清邦(きよくに・松野まつの、字;子直、清隆男)1768-182154 伊勢神戸藩士/1798家督/1803家老、  
 詩文/俳諧/紀行文、「酔月館詩稿」著、  
 [清邦の通称/号]通称;得三郎/茂八郎/三郎右衛門/佐五右衛門、号;酔月館  
 清邦(きよくに・金子) → 得処(とくしよ・金子、藩士/儒者) K 3 1 9 5  
 清国(きよくに・田村) → 顕国(あきくに・田村たむら、国学者/神道) H 1 0 8 6  
 D1608 曲坡(きょくは・桐茅庵) ? - ? 江後期大阪の雑俳点者、  
 雑俳選集1814「冠附かんむりつけ鏡磨かがみみがき」撰/1818「冠附水加減」撰(;藤屋徳兵衛板)  
 玉葩(ぎょくは・福永) → 祐功(すけり・福永ふくなが、歌人) J 2 3 1 6  
 玉佩(ぎょくはい・梅辻) → 秋漁(しゅうぎよ・梅辻/琴、神職/儒者) W 2 1 9 0  
 玉馬峯(ぎょくばほう) → 雪哉(雪齋せつさい・森田もりた、俳人) K 2 4 9 7  
 P1631 曲阜(きょくふ・照顔齋、姓;梶、通称大和田屋金兵衛)?-1874 摂津伊丹の商家/俳人;宗匠、  
 1856二条家より官服の免許、1844「照顔集」/55「照顔道の記」59「いとうみ」61「みちしるべ」編、  
 1865「有岡古続語」「有岡発句百人逸士伝」編、「照顔齋俳諧」「照顔齋見聞録」「折々草」著  
 P1632 玉斧(ぎょくふ) ? - ? 俳人;1691北枝「卯辰集」3句入  
 [川涼みさてもちいさき扇子せんすかな](卯辰集;卷二257)  
 D1609 玉父(玉斧ぎょくふ・J 庵へつほつあん2世、玉麻父翁、麻父まふ男)?-? 越中富山俳人;父(富山藩士)門、  
 1775父追善「J 庵集」編、81「春興」「名月」著  
 玉芙(ぎょくふ、俳人) → 久照(ひさてる・仙石、旗本/俳人) B 3 7 4 4  
 P1633 曲浦(きょくほ・近藤こんどう、通称;与平)?-1783? 越前勝山の俳人;廬元坊門、1741美濃へ旅、  
 1773「二度の花」著、  
 [曲浦の別号] 松隠/市燕閣/旅泊坊  
 P1634 玉甫(ぎょくほ;道号・紹琮じょうそう;法諱、初号;良室、三淵晴員男)1546-161368 細川元常の養子、  
 細川幽齋舎弟/臨濟:東福寺出家(;良室名)/大徳寺古溪宗陳門/嗣法、1586大徳寺130世、  
 1588大徳寺総見院2世/高桐院開山、利休と交流、「玉甫録」「半泥集」著、  
 [玉甫紹琮の号] 半泥子、諡号;大悲広通禪師  
 玉浦(ぎょくほ・石崎) → 融濟(ゆうせい・石崎いしざき、絵師) D 4 6 0 0  
 P1635 旭芳(きょくほう) ? - ? 江前期;大津俳人;1690之道「江鮭子あめご」入  
 [明月や雪に名をとる山の上](あめ子;186/山は比叡山)

- T1688 **旭峰**(きよくほう・狩野かのう、間齋男)1832-1925 母;水子(美津)、出羽大館佐竹西家の秋田藩士、  
良知の弟、1849(嘉永2)江戸で漢学修学;塩谷宏陰・古賀謹一郎・藤森弘庵・田口江村門、  
久保田(秋田)藩江戸邸の学問所知館の教授、維新後;遐邇新聞創刊に参画;編集長、  
山形新聞主筆/秋田魁新報(旧遐邇新聞)に復帰;県史編纂主任、私塾酔経学舎初代学長、  
文芸誌[棗華ていか]・[先憂文編]を刊行、東北のジャーナリストを育成、  
「出羽風土記」「戊辰出羽戦史」「秋田温故史談」「雄鹿名勝誌」著  
参照 → 水子(みづこ・狩野かのう、歌人) I 4 1 6 5
- P1636 **玉鳳**(ぎよくほう・永井ながい/奥田おくた、名;仲雄なかお、奥田貞久男)1671-1743/73 佐渡相川の人;  
永井知次の養嗣子、佐渡の州吏;月番役/1737致仕、郷土史/俳諧;許六門、  
「山先旧地の記」著、  
[玉鳳の通称/別号]通称;四郎兵衛、別号;異芳軒/天真居士
- P1637 **玉鳳**(ぎよくほう;道号・元鸞げんらん;法諱)?-? 江中期黄檗僧;法源道印門/1718嗣法、  
「禅余記聞」「毘耶藁」著
- P1638 **玉峰**(ぎよくほう・田中たなか、名;為則/為即)1745-1814or2770/83 江戸日本橋木原店の書家/俳人、  
1800刊「文林摘葉」編  
[玉峰の字/通称]字;子翼、通称;収蔵
- H1633 **玉鳳**(ぎよくほう、玉斎) ? - ? 絵師、1816真酔(増井)「滑稽祇園守」画  
玉豊(玉鳳ぎよくほう・今村)→ 玉豊(たまよ・今村いまむら、絵師/歌人) V 2 6 7 1  
玉峯(ぎよくほう;道号・光磷)→ 光磷(こうりん;法諱・玉峯、臨濟僧) L 1 9 6 1  
玉峯(ぎよくほう;道号) → 持元(もちもと・細川/源、武将/歌人) B 4 4 7 3  
玉峯(ぎよくほう;道号・等蓮;法名)→ 豊道(とよみち・久我こが、右大臣/連歌) R 3 1 6 4  
玉峰(ぎよくほう;道号) → 正琳(しょうりん;法諱・玉峰、臨濟僧) B 2 2 9 9  
玉峰(ぎよくほう・蓼華斎) → 玉山(ぎよくざん・石田いしだ、絵師) D 1 6 0 1  
玉峰(ぎよくほう・丹羽) → 光重(みつしげ・丹羽にわ、藩主) D 4 1 5 3  
玉峰(ぎよくほう・安部弘忠)→ 石斎(せきさい・黒沢/安部/与村、藩儒) D 2 4 4 8  
玉峰(ぎよくほう桑そう/桑山)→ 玉洲(ぎよくしゅう・桑山、絵師) D 1 6 0 2  
旭峯(ぎよくほう・松平) → 定信(さだのぶ・松平、老中/歌人) 2 0 2 2  
旭峯(ぎよくほう・新妻) → 文沖(ぶんちゅう・新妻にいづま/井上、藩医) G 3 8 1 8  
旭峰道人(ぎよくほうどうじん)→ 祐誠(ゆうじょう;法諱・字;玄明、修験僧) C 4 6 6 2  
玉民(ぎよくみん・尾池) → 松湾(しょうわん・尾池おいけ、藩医/儒/詩) M 2 2 1 4  
玉民(ぎよくみん・浜田) → 康次(やすつぐ・浜田はまだ、藩士/文武) G 4 5 4 4  
玉葉館(ぎよくようかん) → 東寓(とうぐう・森、俳人) C 3 1 9 4  
玉来(ぎよくらい・三村) → 崑山(こんざん・三村みむら、儒者) G 1 9 1 5  
玉来居(ぎよくらいきよ) → 崑山(こんざん・三村みむら、儒者) G 1 9 1 5  
玉来居士(ぎよくらいこじ) → 鷗雨(おうう・岩崎いわさき、儒者/詩) C 1 4 3 2  
玉来山人(ぎよくらいさんじん)→ 芝山(しざん・後藤ごとう、藩儒/詩人) 2 1 2 0
- P1639 **玉榮**(ぎよくらく、狩野かのう/本姓藤原、名;玉信/字;宗祐)?-? 1558-70頃絵師;狩野元信門、  
北条氏政の抱え絵師;相模小田原住、「尾形翹集」著、殊牧・宗陳の弟
- D1610 **玉蘭**(ぎよくらん・谷口、通称;甚三郎/別号;湖中園)?-1734 佐渡相川の俳人;里紅/百阿門、  
美濃派、京に客死、1729「五月雨山」編
- P1640 **玉瀾**(ぎよくらん・徳山とくやま/池、名;町まち、別号;松風)1728-84/57 京の祇園社鳥居そばの茶屋女主人、  
母;百合女ゆりじよ、池大雅の妻、南画絵師;大雅門、歌人;冷泉為村門、  
家集「白芙蓉」「便面画卷」著、  
[玉瀾(;号)の通称/別号]通称;祇園町子/祇園町女まちじよ、別号;葛覃居かつたんきよ/松風  
家族は歌人で祇園三女(ぎおんさんじよ)と呼ばれる  
母 → 百合女(ゆりじよ、町女の母) G 4 6 1 6  
母の養母 → 梶女(かじじよ、祇園の梶) C 1 5 0 8
- P1641 **玉蘭**(ぎよくらん・立花たちばな/矢島、立花茂之[道印]の女)?-1794 筑後山門郡中山村の詩人、  
柳河藩主立花貞俣の姪、詩;武宮謙叔・大潮門/服部南郭の添削を受ける、



1751頃藩士矢島行崇と結婚、「岩屋懐古詩集」/1764「中山詩稿」著、  
[玉蘭の字/法号]字;蘊香うんこう、法号;貞松院

- P1642 **玉蘭**(ぎょくらん・奥村おくら、名;保全/源、字;淵伯)1761-182868 博多中島町醤油醸造業、  
儒・亀井南冥/昭陽門、画:佐伯岸岱門、「筑前名所図絵」画、  
[玉蘭の通称/別号]通称;源之丞、別号;玉蘭堂

玉瀾(ぎょくらん・増山) → 正賢(まさかた・増山まじやま、藩主/書画) B 4 0 9 0

玉藍(ぎょくらん・青方) → 運善(ゆきよし・青方あおかた、家老/記録) 4 6 2 8

玉覽(ぎょくらん) → 種彦(2世たねひこ・柳亭、高橋、初世笠亭仙果、戯作者) 2 6 4 4

- D1611 **玉蘭齋**(ぎょくらんさい・橋本はしもと、通称;兼次郎/謙)1807-78?72? 江戸亀戸天神前の絵師;  
歌川国貞(3世豊国)門、美人画/武者絵/風景画/団扇絵を画く、鳥瞰式精密の一覧図が得意、  
1866(慶応3)パリ万博浮世絵師の総代、天保1830-44の後期に合巻を著作、  
1819「赤穂義士随筆」30「嗚呼忠臣楠子由来」36「落咄年中行事」44「たとへ草咄大全」画、  
「里見八犬伝」挿絵、1850「絵本鎌倉実記」57「和漢百人一首」59「横浜絵図」画/外面多数、  
[玉蘭齋の別号] 橋本貞秀さだひで・歌川貞秀/松亭寿山/玉雲亭/玉翁/  
(戯作号;)大海舎金竜/丹頂庵鶴丸

玉蘭堂(ぎょくらんどう) → 玉蘭(ぎょくらん奥村、醸造業/儒/画) P 1 6 4 2

玉蘭堂(ぎょくらんどう) → 孫七郎(まごしちろう・杉/植木、藩士/日記) 4 0 7 2

- J1636 **玉立**(ぎょくりつ) ? - ? 京の俳人;淡々門、1728柳岡「万国燕」29句入  
[鈴と絵ふさつけてやりたし後帯うしろおひ](万国燕;136/後帯は若い娘の風俗)  
(外出する娘に猫のように鈴と首輪をつけてやりたい親心)

- P1643 **玉竜**(ぎょくりゅう;法諱・字;単隆/恵光、号;求古堂)?-1756 紀伊有田郡真宗本願寺派安楽寺9世、  
大乘小乗学・外学に精通、「幾難鉤解」(儒教に反駁)、「安楽集講義」「正信偈講録」著

- D1612 **玉粒**(ぎょくりゅう・晋米斎しんべいさい、姓;藍庭、名;林信、通称晋兵衛)1775-182753 江戸馬喰町の筆耕業、  
大伝馬町新道で戯作;合巻・狂歌、1824剃髪/25全交2世を名乗る、1816「困碁白石話」、  
1819「化物念代記」22「古今雛二対鴛鴦」23「新撰富士詣」25「仮名手本増補忠臣蔵」外著多数、  
[晋米斎玉粒の別号]藍亭/楽亭山寿/楽斎山寿/芝[司馬]全交2世/万扇堂、歌川国景の父

玉竜(ぎょくりゅう・片桐) → 宗猿(そうえん・片桐かたざり、信方、茶人) G 2 5 3 5

旭柳庵(きょくりゅうあん) → 景山(けいざん・大野、俳人) 1 8 5 8

玉柳斎(ぎょくりゅうさい) → 重春(しげはる・柳斎・梅丸斎・滝川・烽山/山口、絵師) C 2 1 8 6

玉柳亭(ぎょくりゅうてい) → 重春(しげはる・柳斎・梅丸斎・滝川・烽山/山口、絵師) C 2 1 8 6

玉竜亭一山(ぎょくりゅうていいちざん) → 市兵衛(いちべえ・徳野、講釈師) D 1 1 6 3

- S1604 **玉琳**(ぎょくりん) ? - ? 京の俳人、1633重頼「犬子集」311、  
[鳥の年はいなずにもがな帰る鴈か](犬子集;一311/酉年)

玉琳(ぎょくりん→たまりん) → 琳阿(りんあ、連歌・曲舞作者) J 4 9 9 4

玉琳(ぎょくりん・河田) → 小竜(しょうりゅう・河田/土生、絵師) B 2 2 9 6

玉墨(ぎょくろい・山村) → 良斎(たかてる・山村やまむら、藩代官/俳人) M 2 6 3 4

- P1644 **旭嶺**(ぎょくれい・冢田つかだ、名;行宜/行宣、医者冢田宗善男)1698-176770 信州水内郡長野村の儒者、  
1713(16歳)江戸に出て儒;室鳩巢・新井白石・雨森芳洲門、父病のため1720帰郷;  
長野で儒学教授、傍ら医を祖父に学び医を業とす;善光寺大勧進の侍医を務める、  
「桜邑閑語」「信濃小志稿草」「詩文捷法」「御定法」著、「旭嶺遺稿」、  
妻;矢島千賀子ちかこ、子常・大峯・慈延の父、  
[旭嶺(;号)の字/通称/別号]字;延美、通称;慧一/善助/義平/梅翁、  
別号;玉嶺/克仙/長沢/業乃ぎょうだい

玉嶺(ぎょくれい) → 旭嶺(ぎょくれい・冢田つかだ、医/儒者) P 1 6 4 4

玉嶺(ぎょくれい・出納) → 尚堅(しょうけん・出納すいのう/納、漢学者) I 2 2 5 1

- H1634 **玉簾**(ぎょくれん) ? - ? 雑俳点者、1780川柳評「川傍柳」入

旭蓮社(きょくれんしゃ) → 澄円(ちやうえん、浄土僧) 2 8 4 6

旭蓮社(きょくれんしゃ) → 良順(りょうじゅん;法諱、浄土名越派僧) H 4 9 9 8

旭連舎(ぎょくれんしゃ) → 万立(ばんりつ/まんりつ・東条とうじょう、俳人) J 3 6 1 0

玉蓮社淵蒼(ぎょくれんしゃえん) → 託竜(たくりゅう;法諱・性雲、浄土僧) E 2 6 3 1

- 玉蓮社震譽(ぎょくれんしゃしんよ)→ 大順(だいじゆん;法諱、浄土僧) K 2 6 3 1
- P1645 玉蔭(ぎょくゐ;号・珍榮ちんえい;法諱、俗姓伊藤)?-1826 上州渋川の僧/俳人;岱路門、師岱路追善「俳諧三とせぶり」編
- 玉露(ぎょくろ;号) → 隆慶(りゅうけい;法諱、真言僧/国学/歌) M 4 9 3 6
- H1635 曲廬庵主人(きょくろあんしゅじん)?- ? 歌舞伎中村座関係者/1803歌舞伎劇書「三座例遺誌」著
- P1646 玉楼花紫(ぎょくろうかし、通称;花紫はなむらさき)?-? 新吉原玉山三郎抱の遊女、1824-30「梓物語」著
- 旭朗井(ぎょくろうせい) → 春章(初世しゅんしょう・勝川/藤原、絵師) J 2 1 9 4
- 旭和(きょくわ) → 松旭(しょうぎょく・知足館、読本作者) G 2 2 1 1
- H1636 玉和軒(ぎょくわけん・登与島とよしま)?-? 江後期大阪浄瑠璃作者:竹田芝居で活動、1852「花雲佐倉曙」佐久間松長軒と合作
- P1647 玉腕子(ぎょくわけし・安部)?- ? 江戸中期京の絵師、1771「当世かもし雛形」画
- 魚君(ぎょくん) → 蕪村(ぶそん・与謝・谷口、俳人/絵師) 3 8 1 1
- T1603 魚群(ぎょぐん・なむれ?・小池こいけ)?- ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、[からさをの音聞ゆなりかた岡の畑のわさ麦今や刈るらん](大江戸倭歌;夏493/麦秋)、[塵つもる枕の山は宵々になげきのみこそ生ひまさりけれ](現存百人一首;37)
- 去敬(きょけい・長谷川) → 木海(もっかい・長谷川、俳人) B 4 4 8 2
- 居敬(きょけい・森田) → 梅礪(ばいかん・森田もりた、儒者/詩) 3 6 9 1
- 居敬(きょけい・小畑) → 詩山(しざん・小畑おぼた、医者/詩人) D 2 1 7 7
- 居敬(きょけい・沢井) → 穿石(せんせき・沢井さわい、書家) M 2 4 7 7
- 居敬(きょけい・津阪) → 木長(ぼくちよう・津坂/津阪、藩士/俳人) D 3 9 7 3
- 居敬(きょけい・西山) → 居敬(やすたか・西山にしやま、歌人) E 4 5 9 8
- 居敬(きょけい・宮原) → 居敬(やすたか・宮原みやはら、歌人) F 4 5 0 6
- 居敬(きょけい・藤本) → 居敬(やすたか・藤本ふじもと、国学者) G 4 5 5 3
- 鋸溪(きょげい・井土) → 学圃(がくほ・井土いど/喜多岡、藩儒) H 1 5 3 7
- 魚卿(ぎょけい・高橋) → 巾山(きんざん・高橋たかはし、儒者) R 1 6 0 9
- 魚卿(ぎょけい・堀内) → 元鑑(げんがい・堀内ほりうち、医者/文章家) I 1 8 1 6
- 魚卿(ぎょけい・松田) → 三千雄(みちお・松田、酒造業/俳/詩) B 4 1 2 7
- 御形宣旨(ぎょけいせんじ) → 御形宣旨(みあれのせんじ・平安期歌人) 4 1 5 0
- 居敬堂(きょけいどう) → 詩山(しざん・小畑、医/儒、詩人) D 2 1 7 7
- P1648 拳賢(きょけん・三村みむら、通称;伝左衛門)1755-181460 常陸水戸藩士;1791(寛政3)進仕、「智理安久多ちりあくた」著
- 居謙(きょけん・飯田) → 楽軒(がくけん・飯田いいた、藩士/儒者) J 1 5 7 6
- 居顕(きょけん・賀茂/山口) → 行厚(ゆきあつ・山口/紀/賀茂、廷臣/書家) E 4 6 2 6
- 巨源(きょげん・櫛田) → 琴山(きんざん・櫛田くした、儒者) H 1 6 8 9
- 漁軒(ぎょけん・水/水足) → 屏山(へいざん・水足みずたり/水、藩儒) 2 7 3 8
- 魚彦(ぎょげん・楫取) → 魚彦(なひこ・楫取/伊能、名主/歌人) 3 2 2 4
- 御言(ぎょげん・久世) → 御言(みり・久世くぜ、国学者) I 4 1 9 0
- T1678 清子(きよこ・大塚おおつか、藩士文左衛門女)1756-72夭逝17歳 近江彦根の歌人;海老江元庸もつね門、1764(9歳)海老江元庸につれられ上京/1771(16歳)明竹寺の院主の側近;翌年没、能書家/詩人、歌;彦根歌人伝・亀入
- S1682 清子(きよこ・山本やまと) ?- ? 撰津難波今橋の歌人;本居大平門、山本某の妻、大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌「吉野山」・短歌入、[としのはにまつつ見てしか花ぐはし名ぐはし山の花の盛りを](八十浦;747/反歌)
- T1605 喜代子(清子きよこ・上田うねだ、号;琴波、光逸みつはや・菊子[琴風]の女)1807-6559 周防吉敷郡歌人、父光逸・祖父光陳みつのはは吉敷郡台道村の大庄屋/母は絵師、綾木村の中村孫助と結婚、別に上田家を立てる、書画・歌を嗜む、光美みつよし(郷土/近藤芳樹門歌人)の姉、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入の喜代女きよじよと同一?
- U1672 清子(きよこ・辰馬たつま、)1809-1901長寿93歳 撰津武庫郡の生(神職の家?)、歌人;辻胤子門
- U1651 清子(きよこ・須田すだ、名;留女とめじよ、村瀬克貞[楽波]女)1829-191284 信濃飯田の歌人;父門、

歌;三輪栖鳳・松波資之門、東京の堀芳子に出仕

清子(きよこ・上杉) → 清子(せい・上杉/足利、尊氏の母/歌) B 2 4 8 0

清子(きよこ/きよい・鶴殿) → 余野子(よのこ・鶴殿・瀬川、歌人) 4 7 3 1

清子(きよこ・土井) → 藤女(ふじよ・多羅尾たらお/土井、国学) I 3 8 4 1

廉子(きよこ・源) → 廉子(れんし・源、女房/歌人) B 5 1 1 1

許虹(きよこう;誤字) → 汙虹(こう・高橋/信杖房、俳人) M 1 9 3 9

居行(きよこう・西村) → 遠里(とのおさと・西村にしむら、商家/暦算家) I 3 1 5 9

D1613 魚江(ぎょこう・田中、看翠堂)?-1750 大阪雑俳:紹廉門、1729笠付会所本「田植笠たうへがさ」竜山と両評、前句付会所本「さゞれむめ」「雀のおどり」入、蟬衣「銀かわらけ」入、「奉納柿本大明神秀吟百番」評

D1614 漁光(ぎょこう・竹越) ? - ? 陸奥西津軽深浦の回船問屋小浜屋を経営/俳人、里桂りかい父、1750「ちとり塚」編、50句集「津軽反古」(大高千円と共編刊)、65深浦宝泉寺に里桂と翁塚建立

P1649 魚交(ぎょこう・平野屋久次郎)?- ? 安永天明期1772-89頃江戸豪商/十八大通の1

魚光(ぎょこう;号) → 鉄翁(てつとう・;道号・祖門そもん;法諱、臨濟画僧) F 3 0 1 6

御行(ぎょこう・大伴) → 御行(みゆき・大伴宿禰、廷臣/歌人) G 4 1 0 3

御綱(ぎょこう・木村) → 御綱(みつな・木村きむら、藩士/国学者) E 4 1 0 9

虚光庵真月居士(きょこうあんしんげつこじ、色道大祖) → 箕山(きざん・藤本・畠山) 1 6 1 3

H1637 虚谷(きょこく) ? - ? 俳・其角門?、1696岩翁「若葉合」入

虚谷(きょこく・水原) → 慈音(じおんに:法諱・水原、真宗勤王僧) Z 2 1 9 0

P1650 虚斎(きょさい・茅原ちはら、名;定/玄定/玄常/元常) 1774-1840 67 長門美禰郡大嶺の医者、1780京で開業、和漢学/本草学に精通、1806「東藩日記」08「詩経名物集成」24「長崎雜藻」著、1829「茅窓漫録」、「瓊浦道之記」「和漢風土記」「卯花園随筆」「飛鳥寺銘并三貨由来」著、「古今諱諛考」「古音通」「明詩拾語」「正楽譜」「正俗楽譜」「傷寒論大全」「外科名義」著、「日本名医図」「源氏ツマコエ」「載史実録」「歴代地震考」「文章軌範標記」外著多数、[虚斎(;)号)の字/通称/別号]字;叔同、通称;丈助、別号;長南/茅窓ぼうそう

P1651 虚斎(きょさい・小室むろ、名;崇/通称;十内) 1789-1861 73 羽後横手の儒者/詩人:金岳陽門、横手で習遠堂塾を開、「虚斎詩集」「虚斎随筆」「聖学約説」著

踞斎(きょさい・小沢) → ト尺(ぼくせき・小沢おざわ、名主/俳人) D 3 9 5 4

虚斎(きょさい・茅原ちはら) → 茅窓(ぼうそう・茅原、医/儒/本草) C 3 9 1 4

D1615 清先(きよさき・小寺こでら、清統男/本姓源) 1741-1820 80 代々備中笠岡神島神社(笠岡稻荷)の祠官、国学/歌:澄月門、神道;ト部主親門、1799病のため長男清之に家督を譲る;郷校で講義、1792備中神島こうのほま天神社(島の天神)で菅茶山・西山拙斎・僧道光と詩を賦す、「檜園ならぞの集」「檜園問答」「国光録」「神道政要」「玉箒」「本教拾遺」「四玉循環説」外著多数、[清先の通称/号]通称;常陸介、号;雲斎/檜園、清之きよゆき・顕之あきゆきの父

P1652 喜代作(きよさく・川村かわむら、庄九郎男) 1796-1862 67 土佐安芸野根村の庄屋;

森林開発・新田造成の尽力、のち不正を追及され庄屋を罷免、「川村喜代作因果物語」著

清作(きよさく・山野) → 定泰(さだやす・山野やまの、神職/国学) P 2 0 7 3

D1616 清貞(きよさだ・多治比/丹墀たじひ、姓;真人)?-839 廷臣;820従五下/833右少弁・左少弁/834伊勢守;任地赴任の際殿上で御襖子を賜る/838従四下、詩人、凌雲2首、文華秀麗79(1首)

P1653 清定(きよさだ・藤原ふじわら、清実男)?-? 鎌倉期廷臣;伊勢守/従五下、歌人;

1231日吉社撰歌ひえのやしるせんか合;2首入、

[こし秋は数さへ見えし月影を霞になしてかへるかりがね](日吉社撰;五番左9)

H1638 清貞(きよさだ・宮田みやた、通称;半左衛門)?-? 江前期常陸水戸藩士、

1701「桃源遺事とうげんいじ(西山遺事)」(:光圀伝)共編(三木の幹ゆきもと・牧野和高と)

V1669 清貞(きよさだ・小幡おぼた、本姓;源)?-? 江前期;武士/歌人;1688忠能[難波捨草]多数入、[みるに猶あかぬ色かはたが為の春に咲きぬるさくらなるらん](難波捨草;春37)

V1610 清定(きよさだ・福島ふくしま、通称;吉左衛門) 1703-51 49 近江彦根藩士/歌人:[彦根歌人伝・亀]入

P1654 清貞(きよさだ・可畑/本姓;源、安節堂)?-? 江後期京の歌人:賀茂季鷹門、

1830「讚行日記」、「清貞詠草」「清貞漫筆」「清貞古体梅の歌」著

P1655 清貞(きよさだ・村上) ? - ? 江後期兵学者;有沢系甲州流兵学、



1830「甲陽軍鑑軍配品目秘抄」著

- S1697 **清貞**(きよさだ・中野なかの/本姓;藤原、通称;又左衛門)?-? 江後期;歌人、  
(尾張半田の酒造家中野又左衛門や刀劍の藤原清貞との関係不詳)、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[等閑の心ならじと梅もさは知りてや袖に香をとどむらん]、  
(大江戸倭歌;春125/梅留袖、等閑とうかん/なほざり)
- U1663 **清貞**(きよさだ・高田たかだ、) ? - 1867 尾張名古屋藩士、国学・歌;富樫広蔭門、  
1801(享和元)藩校明倫館教授、  
[清貞(;名)の通称/号]通称;平十郎/権之丞、号;有鶴/閉戸先生
- V1630 **清貞**(きよさだ・丸尾まるお、通称;良益)?-? 江後期;遠江城東郡の医者、  
国学/歌;本居春庭(1763-1828)門、  
清定(きよさだ・竹田) → 出雲(2世いずも・竹田、浄瑠璃作者) 1 1 1 2  
清定(きよさだ・佐野) → 紹益(じょうえき・佐野/本阿弥、商家/歌) F 2 2 4 6  
清定(きよさだ・西村) → 筋(せつ・西村にしむら/橘、国学者) O 2 4 3 8
- V1673 **浄貞女**(きよさだのむすめ・玉井たまのい、)?-? 江前期;上方の歌人、  
1670下河辺長流[林葉累塵集]17首入、  
[梅の花まだ咲きやらぬ山里は春をたどれる鶯のこゑ](林葉累塵;春37)、  
[世の中をうむじて尼にならばやの心ふかうしてよめる(うむじは【倦んず】の連用形)、  
黒髪の色にころもをそめかへて世のうきことに思ひみだれじ](同集;1185)
- V1604 **清郷**(きよさと・原はら、通称;与助)?-1870 陸奥会津藩士、和学・歌;阿部井武氏門、  
日新館和学所出仕、野矢常方の師  
[うるほへる法の恵も花の上にかけてしらるるつゆの白菊]、  
(1850[嘉永3]松平容敬を迎えての天寧寺「十三番扇合」で詠)
- U1659 **清真**(きよざね・田村たむら、顕行あきゆき長男) 1682-1758<sup>77</sup> 陸奥仙台藩の国学者、顕国の兄、  
[清真(;名)の通称]内蔵允くらのすけ(父の称)/平次郎/平三郎/卯平次/図書(父の称)
- D1617 **喜世三郎**(幾代三郎きよさぶろう・嵐;初世)?-1713 歌伎役;2世三右衛門門、若女方、  
当り役;八百屋お七  
喜代三郎(きよさぶろう・杉本) → 良承(よしつぐ・杉本すざもと、藩士/国学) N 4 7 4 7  
喜代三郎(きよさぶろう・竹田) → 佳孝(よしたか・竹田たけだ、歌人) N 4 7 8 0
- P1656 **巨山**(きよざん・足立あだち、臨川亭)?-? 但馬高瀬村俳人;青蘿門、但馬俳壇の指導者、  
1783「木曾紀行」1822「あだち草紙」著  
巨山(きよざん・蘆野) → 持僚(もちとも・蘆野あしの、儒者/詩文) B 4 4 5 0  
拳山(きよざん・直江) → 金石(きんせき・荻原おざわら/直江、俳人) R 1 6 2 9  
居山(きよざん;法諱) → 宗玄(しゅうげん;道号・居山、曹洞僧) X 2 1 1 3
- H1639 **漁産**(ぎよざん・豊果亭ほうかてい)?- ? 江中期上方狂歌;木端門、  
1777嘉栗(紀上太郎)「狂歌なたひの岡」入/98朝省等撰「狂歌栗葉集」入、  
[潮干瀉うら吹かへす春の風おまへのさきに貝や見ゆらん](狂歌なたひの岡)  
魚山大僧都(ぎよざんだいそうず) → 幸雄(こうゆう;法諱、天台僧) L 1 9 3 9
- V1628 **清**(きよし・松本まつもと/本姓;源、) 1602-78<sup>77</sup> 大坂の医者、歌人、  
[清(;名)の通称/号]通称;次郎、号;空庵/性壽
- D1618 **清**(きよし・山根やまね、別名;之清、五郎左衛門男) 1694/7-1771<sup>78/75</sup> 代々萩藩領周防三田尻警固方、  
叔父七郎左衛門喜勝の婿養子、儒/古義学;伊藤東涯門、古文辞学;山県周南門、1717藩校入学、  
1759萩藩校明倫館教授/学頭祭酒、1767「御家誠」校閲、69「華陽先生文集」、「華陽先生詩集」著、  
[清の幼名/字/通称/号]幼名;久八郎、字;子濯、通称;七郎左衛門、号;華陽かよう
- V1665 **清**(きよし・渡辺わたなべ、) 1778 - 1861<sup>84</sup> 尾張名古屋の絵師;吉川英信・土佐光貞門、  
大和絵;田中訥言門、国学;植松有信(版木師)門、故実に精通、精緻な画風、  
藩主徳川斉温に採用され殿中の襖絵を画く、  
[清(;名)の通称/号]通称;疇吉/大助、号;雪朝斎/周溪
- P1658 **藩**(きよし・兵藤ひょうどう、大垣藩士民右衛門男) 1799-1847<sup>49</sup> 美濃大垣儒者;水野陸沈門/1812家督嗣、  
関流和算を修得;1817秘伝を受、1822(文政5)大垣藩郡庁主簿/簿長に昇進、藩校主事となる、



「見聞録」「見聞雑章録」著、  
[瀨の通称] 喜代太郎/源九郎、法号;達明信士

- H1640 清(きよし・岡田おかだ、字;讓、嘉祐男)1807-7872 安藝広島藩士/国学・歌;近藤芳樹門/地誌を修学、藩校の皇学教授/私塾柳廼舎で漢学・和学を教授、維新後;東京で神祇官、1842「厳島図会(厳島名所図会)」編(春峰画)、近藤芳樹と交流、[清の通称/号]通称;清太郎/小右衛門、号;柳処/柳廼舎やなどのや
- P1659 潔(きよし・峯みね、曆学者峯みね厚[卯右衛門]男)1824-9168 肥前大村藩士/天文;渋川助右衛門門、日月食観測;日蝕推歩の免許受/1855家督/56藩の地誌「郷村記」改訂参加(測量方担当)、1862幕府派遣船千歳丸に便乗し清国情勢視察/63鉄砲組頭/65代官役、「官名解控」著  
[潔の通称] 佐代治/伝治/源助
- P1660 清石(きよし・近藤こんどう、別名;正麗/忠曄、大玉新右衛門男)1833-191684 萩藩士近藤源右衛門養子、萩藩士/藩校明倫館で修学/国学;近藤芳樹門/漢学;土屋蕭海門、藩の史官;古記録調査、妻;近藤余年よ(1833-1919/国学/歌人)、維新後;神宮教尋職;社家を指導、1862「宋胡澹庵小伝」63「成蘭録」、「防長風土記」著、[清石の字/通称/号]字;白華、通称;小十郎/虎十郎/四郎/登一郎、号;巨四/巨芝/霜堤
- U1603 淨(きよし・神戸かんべ)1834?-1887?54 備前岡山藩士、国学・歌;武藤手束たつか門
- J1604 清(きよし・佐々木ささき、通称;喜左衛門)?-? 幕末期和算家;国分高広門/仙台藩士伊達藤五郎家臣、「算法初学」著

- 清(きよし・本城) → 素堂(そどう・本城、藩士/勤王派/処刑) K 2 5 2 6  
清(きよし・氏家) → 竜溪(りゅうけい・氏家うじいえ、藩士/語学) D 4 9 5 6  
清(きよし・吉田) → 鷺湖(がこ・吉田よしだ、藩士/儒詩) H 1 5 8 1  
清(きよし・石川) → 滄浪(そうろう・石川いしかわ、儒者) D 2 5 2 5  
清(きよし・藤原/川辺) → 橋亭(きつてい・川辺かわべ、藩士/漢学者) L 1 6 5 0  
清(きよし・松浦) → 静山(せいざん・松浦まつら、藩主/儒/詩歌) B 2 4 7 6  
清(きよし・三好) → 俊平(しゅんぺい・三好みよし、文筆家) L 2 1 8 3  
清(きよし・菅) → 順長(よりなが・菅すが、藩士/国学者) N 4 7 4 4  
清(きよし・福住) → 清年(きよとし・福住ふくずみ、国学者) V 1 6 1 1  
清(きよし・横浜) → 庭能(にわよし・横浜よこはま、国学者/歌人) H 3 3 3 5  
清志(きよし・奈良原) → 舎幸(いえずき・奈良原、国学者) K 1 1 4 8  
昶(きよし・田中/加藤) → 雀庵(じゃくあん・加藤/田中/加田、俳/隨筆) G 2 1 0 5  
潔(きよし・菅野) → 白華(はくか・菅野すがの、儒者) C 3 6 8 1  
潔(きよし・広瀬/細川) → 林谷(りんこく・細川ほそかわ/広瀬、篆刻家/詩人) K 4 9 2 7  
潔(きよし・安西) → 惟明(これあき・安西あんざい、国学/歌人) Q 1 9 2 6  
巨四(巨芝きよし・近藤) → 清石(きよし・近藤こんどう、藩士/国学) P 1 6 6 0  
虚子(きよし・越智) → 通輔(みちすけ・越智おち、藩士/歌人) I 4 1 3 1  
挙子(きよし・小山) → 挙子(たかこ・小山こやま/小田、歌人) X 2 6 0 3  
喜代治(きよじ/きよはる・中島) → 学廼門悟章(がくのもんごしょう、狂歌) K 1 5 3 8  
喜代治(きよじ/きよはる・富田) → 弘実(ひろざね・富田とみだ、藩士/兵法) H 3 7 8 1

- P1661 魚児(ぎよじ) ? - ? 1688不卜「続つぎの原」2句入  
[笹分けて袖に飛込む雲雀かな](続の原:九番左)
- D1619 清重(きよしげ・中原なかはら、光重男)?-? 1196存? 平安末鎌倉期廷臣;左衛門少尉/六位、歌人;1186経房家歌合/91若宮歌合参加、言葉集・月詣集入集、千載2首;820・1248、[涙にや朽ちはてなましから衣袖のひるまと頼めざりせば](千載;恋820/契日中恋)、(干る間と昼間を掛る)
- D1620 清重(初世きよしげ・鳥居とりい、別号;清朝軒)?-? 江中期1751-72頃絵師;初世清信門/江戸小網町住、漆絵・紅摺絵の役者・武者絵/黒・青本挿絵、「風流二人妻」「赤染衛門」「化物忠臣蔵」、「朝日太平記」「浦島七世孫」「風流日高川」「武勇法花房」「よしつね鳴わたり」外多数画
- V1667 清重(きよしげ・大岡おおおか、清政2男)1631-9060 旗本/幕臣;1656父の遺跡継嗣;歩頭/目付、1680(延宝8)勘定奉行/82加増され禄3700石、従五下/備前守、83幕命で畿内治水の再点検、1687(貞享4)勤務悪しとして勘定奉行罷免;逼塞、89赦免、90(元禄3)没;実弟清純が家督嗣、

妻;水野近之女/娘5人;永井元頼妻・三枝守仍妻・小出英勝妻・星合顕行妻・服部信解妻、  
[清重(;)名)の通称]傳三郎/五郎左衛門

- H1641 **清茂**(きよしげ・岡本おかも/賀茂かも/中大路、賀茂清冷きよりの男)1679-1753<sup>75</sup> 母;賀茂清昌女章子、  
上賀茂社社家、加賀守/右京権大夫、儒;伊藤仁斎門/故実;平田[中原]職資もとけ門、  
神道・国学;出雲路信直門、神事復興に尽力、1702三手文庫創設、1716-36神葬祭を復活、  
「賀茂群記類鑑」編/1710-11「清茂県主日記」著、  
[清茂の幼名/通称/号]幼名;鶴福/家丸、通称;加賀守、号;温古齋/退翁/潮翁
- T2606 **清茂**(きよしげ・飯田いだ、通称;小源太/剃髮号;香橋)?-? 幕臣;与力、出家;香橋と号す、  
歌人;冷泉家入門、1798刊石野広通「霞関集」入、  
[峰つづき咲きそふ中に立ちまじる松を晴間の花の白雲](霞関集;春120)
- V2658 **清樹**(きよしげ・山本やまもと、)? - 1836 但馬出石の出身/京の新町綾小路南に住、  
広橋家に出仕/歌人;香川景樹(1768-1843)門/門下生に指導、亀を愛し[亀園先生]の称、  
辞世[いつれよりまつ散こそははかなけれ残る紅葉も色はなけれと]、  
[清樹(;)名)の通称/号]通称;図書/伊織、号;亀園、法名;浄心院観養清樹居士
- V1614 **清重**(きよしげ・星野ほしの、通称;仲次郎、旧姓;新倉)1845-1921<sup>77</sup> 武蔵入間郡の生、  
多摩郡清瀬の山王日枝神社社家、神道・歌;猿渡さわたり盛愛もりえ門/国学;井上頼囀門  
虚室(きよしつ→きつ) → 希白(きはく・虚室きしつ、臨濟僧) L 1 6 7 8
- D1621 **魚日**(ぎよじつ・西沢にしざわ、通称;玄丹、別号;観瀾堂)?-1753 伊賀上野俳人;蕉門、  
1691「猿蓑」・95浪化「有磯海」・98「続猿蓑」・1717「西国曲」などに入集;  
[薄雪や梅の際きはまで下駄の跡](続猿蓑;巻下)  
虚実庵(きよじつあん) → 春路(しゅんろ・虚実庵、藩士/俳人) P 2 1 4 8  
虚実軒(きよじつけん) → 正勝(まさかつ・岡田おかだ、幕臣/軍学者) C 4 0 0 8  
虚実軒(きよじつけん) → 正良(まさよし・室田むろた、幕臣/正勝門/軍学) I 4 0 5 5  
虚室生白(きよしつせいはいく) → 生白(せいはいく・虚室きしつ、医者/仏教) C 2 4 8 1
- D1622 **清島**(きよしま・本居もとおり/本姓;平/小林、大平2男)1789-1821<sup>早世33</sup> 伊勢松阪国学者(家学);父門、  
建正の弟、1809父と紀伊和歌山に移住/歌人、古学、「竹の小枝」「月前友」「源氏物語聞書」、  
「寄道祝故郷月」「源氏物語天仁袁波てには部類」「ゆくてのつみ草」、「清島集」「清島随筆」著  
父大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌入、  
[藤浪の花開きにほひ夏くれればほととぎすはた鳴きて来ぬべし](八十浦;776反歌)  
[清島(;)名)の幼名/通称]幼名;千枝松、通称;兵馬/左衛士、  
漁者(ぎよしや・長沢) → 蘆雪(ろせつ・長沢ながさわ/上杉、絵師) C 5 2 0 1  
魚尺(ぎよしやく) → 魚尺(ぎよせき、俳人) D 1 6 2 5  
居射室(きよしやむろ) → 隆正(たかまさ・大国/山本/野之口/今井、国学/歌) 2 6 1 7  
巨樹(きよじゆ・上杉) → 篤興(あつおき・上杉うえすぎ、庄屋/国学者) H 1 0 0 6
- P1663 **虚舟**(きよしゆう・末永すえなが、名;景順、景辰男)1635-1729<sup>長寿95</sup> 筑前久留米出身、  
1649(15歳)福岡藩主黒田忠之に出仕;嗣子光之付き/のち支藩直方藩主黒田長清に出仕、  
程朱学・地理学;貝原益軒門、1709筑前地理書「筑前早鑑」編纂;本藩黒田綱政に献上、  
[虚舟の通称/別号]通称;九太夫/十兵衛/為左衛門、別号;了仲
- D1623 **居秀**(きよしゆう・水溪) ? - ? 江戸期国学、1719「仮字遣秘解」序
- P1664 **巨洲**(きよしゆう・伊東、羨江楼、通称勘三郎、矩州くしゅうの子孫?)?-? 大津俳人;雲裡・暁台門、  
幻住庵社中、1784初懐紙入、1783維駒「五車反古」入  
[背戸口に砥汁とじる流るゝ菖蒲あやめ哉](砥汁は米の磨ぎ汁、五車反古235)
- H1642 **虚舟**(きよしゆう・平田) ? - ? 江後期漢学者、西川春洞の師、  
1863「蘇文忠公詩集」校・刊行/「蘇東坡詩集」校点
- P1665 **虚舟**(きよしゆう・前川まえかわ、名;利渉)?-? 江後期大阪篆刻家;高芙蓉門、儒詩;中井竹山門、  
細字が得意、「鑿竅さくきょう印譜」編/「稽古印史」著、  
[虚舟(;)字)の通称/号]通称;一右衛門、号;石鼓/石鼓館  
虚舟(きよしゆう;号) → 古欄(こかん;法諱、浄土僧/絵師) L 1 9 9 5  
虚舟(きよしゆう・佐尾/山田) → 道瑞(どうずい・有岡ありおか、茶人/俳人) F 3 1 8 5  
虚舟(きよしゆう) → 洪川(こうせん;道号・宗愨そうん;法諱、臨濟僧) K 1 9 2 1

- 虚舟(きょしゅう;号) → 了尊(りょうそん;法諱、本願寺派僧/記録) I 4 9 7 4  
虚舟(きょしゅう;初道号) → 千岳(せんがく;道号・道止;法諱、黄檗僧) L 2 4 9 6  
虚舟(きょしゅう・杉田) → 順正(よりまさ・杉田すざた、故実・文筆家) J 4 7 7 5  
虚舟(きょしゅう) → 赤城(せきじょう・清水しみず、兵学者/随筆) D 2 4 5 7  
虚舟(きょしゅう・山中) → 幸忠(ゆきただ・山中やまなか、歌人) E 4 6 7 7  
居州(きょしゅう・横道) → 居州(やすくに・横道よこみち、国学者) H 4 5 0 1  
拳周(きょしゅう・大江) → 拳周(たかちか・大江、漢学者/詩人) C 2 6 9 6  
巨州(きょしゅう・大国) → 盛業(もりなり・大国/荒木田、国学/歌) G 4 4 1 5  
巨洲(きょしゅう・伊東) → 矩州(くしゅう・那須/伊東、権本3世、俳人) 1 7 4 8
- P1666 漁舟(ぎょしゅう・桃江舎とうこうしゃ)?-? 江中期大阪上福島の女教訓書作者、  
1741「女用玉手箱」「女要訓和歌文庫」/44「女訓万要品鏡」「女教訓宿直袋」「女中雨夜品定」著  
虚舟斎(きょしゅうさい) → 日言(にちごん;法諱・取要院、日蓮僧) B 3 3 9 8  
虚舟斎(きょしゅうさい) → 利綱(としな・斎藤/土岐/藤原、武将/歌) M 3 1 8 8  
虚舟子(きょしゅうし) → 家熙(いえひろ・近衛、廷臣/書画) 1 1 5 9  
拳樹園(きょじゅえん) → 眞彦(まひこ・河喜多/藤原、国学/歌) G 4 0 5 1  
巨舜(きょしゆん;字) → 日治(にちじ;法諱・一眞院、日蓮僧) C 3 3 0 5
- P1667 魚春(ぎょしゆん) ?-? 加賀小松俳人;1776樗良「月の夜」5句/77江涯「仮日記」入  
[梅が香にほつほつ昼の咄はなしかな](仮日記;50)
- P1668 魚筭(ぎょじゆん) ?-? 加賀俳人;1774美角「ゑぼし桶」入  
[染めかねて尾上の松の下もみち](ゑぼし桶;102)  
(源氏・若菜下;「松の下紅葉など音にのみも秋を聞かぬがほなり」を踏まえる)  
御楯(ぎょじゆん・川辺) → 御楯(みたて・川辺かわべ/古賀、藩士/絵師) I 4 1 7 2
- T1662 清女(きよじよ・内田うちだ) ?-185780余歳没 江戸の生/紀伊牟婁郡の富豪内田小次郎の妻、  
歌人
- T1607 喜代女(きよじよ) ?-? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
周防吉敷郡の上田喜代子(1807-65/上田菊子の娘/上田光陳みつるの孫)と同一?、  
[五月雨もかぎりあるらし雲晴れてなごりの露を風はらふなり](大江戸倭歌;夏514)
- T1627 潔女(きよじよ・大久保おおくぼ)?-? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[黒髪の乱れし筋もなきものをさも人言のこちたきやなぞ](大江戸倭歌;雑1814)  
清女(きよじよ・河野) → 清(きよ/きよ・河野こうの/宮下、伊那三才女) L 2 0 6 0  
清女(きよじよ・岩間) → 溶々(ようよう・岩間、俳人/歌?) B 4 7 5 9
- V1675 巨常(きょじょう・ひろつね?/しげつね?・西田にしだ、)?-? 江前期;上方の歌人、  
1670下河辺長流[林葉累塵集]2首入、  
[都よりまづきかむとて山里は猶待ちまさる郭公かな](林葉累塵;夏253)  
巨城(きょじょう・源) → 巨城(おおき・源、廷臣/歌人) C 1 4 7 7  
御牆(ぎょじょう・布施) → 御牆(みかき・布施ふせ、藩士/典故) 4 1 5 4  
御杖(ぎょじょう・富士谷) → 御杖(みつえ・富士谷ふじたに、国学/歌学) 4 1 2 3
- H1643 居辰(きよしん・張葛ちようかつ、号;金栗/東海陳人)?-? 洒落本作者:1750「烟華漫筆」著、  
書家の松下烏石[1699-1777]の匿名か?  
→ 烏石(うせき・松下、東海陳人/金栗) B 1 2 7 7
- D1624 許人(きよじん・椎名いな、伊予・兵庫、葉二、椎名兵庫男) 1693-175563 江戸御用鋳物師、俳人、  
紀逸の兄、「御撰集」点者、「許人追善集」紀逸編、  
弟 → 紀逸(初世きいつ・慶、俳人) 1 6 0 1
- P1669 魚心(ぎょしん、通称;美濃屋正兵衛、別号;子丑)?-? 江後期1804-18頃越中富山俳人、  
1804「蠅はらひ」-07「ふか沓」編  
漁人(ぎょじん・大江) → 庭鐘(ていしゅう・都賀、医/儒/読本作者) B 3 0 2 0  
漁人(ぎょじん・西) → 周(あまね・西にし、洋学者) F 1 0 0 8  
虚心斎(きょしんさい・木畑こばた) → 定直(さだなお・木幡/木畑、医/俳人) C 2 0 1 3  
虚心斎(きょしんさい) → 西河(せいか・永田ながた、儒者・書家) H 2 4 5 3  
虚心堂(きょしんどう) → 慧光(えこう;法諱・戒琛かいちん、真言僧) D 1 3 8 3



- 清季(きよせき・今出川) → 公詮(きんあき・今出川、廷臣/日記) Q 1 6 6 2
- 1645 清輔(きよすけ・藤原ふじわら、初名;隆長、顯輔男) 1104-7774 母;高階能遠女、廷臣;官位昇進は遅い; 1151(48歳)従五上、60?頃皇太后宮大進、正四下/官位不遇、歌人・歌学者として活躍、顯方・重家・顯昭・季経の兄弟、1150頃初著作「奥儀抄」を崇徳院に献上/父顯輔と不仲、六条家歌学を継承、古典研究、1156頃「牧笛集」著(詞花集批判の寂超「後葉集」に反駁)、1159「袋草紙」著(二条天皇に献上)、「続詞花集」撰(二条帝崩御で勅撰にならず)、1169「和歌初学抄」著(摂政藤原基房に献上)、九条兼実家の歌会歌合の指導、歌会主催7回/歌合判者14回、「和歌秀逸物語」著、家集「清輔朝臣集」、号;六条、1150久安百首参/後葉集(6首)・雲葉集7(10首)入/菟玖波集入、勅撰89首;千載(20首35/58以下)新古(12首34/264/以下)新勅(10首218/417以下)以下、[水隠みごりに芦の若葉や萌えぬらん玉江の沼をあさる春駒](千載;春35、崇徳院百首歌/玉江は摂津三島江の沼)
- J1617 清相(きよすけ・大岡おおおか、清純男/本姓源) 1679-171739 幕臣;1694家督/小普請/1705御目付、従五下、書院番/使番/目付/1709西ノ丸御留守居/備前守、1711長崎奉行;海舶互市新例、妻;川窪信亮女、「崎陽群談」編、1717(享保2)没  
[清相の通称]五郎三郎/五郎右衛門、戒名;清耀
- V1635 清相(きよすけ・美代みしろ、?)-1766 薩摩鹿兒島藩士;御馬方、歌人;中院通躬門、薩摩6代藩主島津宗信の抱守だきもり、絵師木村探元(1679-1767)の歌友、[清相(;名)の通称]六郎兵衛/六郎左衛門
- P1670 清相(きよすけ・田中) ? - ? 江中期和算家;津久井義年門、1770「算学津梁」校  
清助(清介きよすけ・足立) → 稻直(いなお・足立あだち、国学/書) D 1 1 1 0  
清助(清介きよすけ・神林) → 復所(ふくしょ・神林かんばやし、藩士/儒者) B 3 8 5 8  
清助(きよすけ・大隈) → 言道(ことみち・大隈おおくま、歌人) 1 9 3 8  
清介(きよすけ・香川) → 家継(いえつぐ・香川かがわ、武将/連歌) K 1 1 1 0  
清介(きよすけ・安部井) → 磐根(いわね・安部井あべい/源、藩士) J 1 1 7 5  
喜代輔(きよすけ・滝口) → 美顔(よしみね・滝口たきぐち/紀、神職/歌人) H 4 7 5 4
- V1666 清純(きよすみ・大岡おおおか/本姓;源、通称;寿禄、清政5男) ?-? 江前中期;江戸の旗本/幕臣、兄清重(1631-90)が1690(元禄3)没;その養子となり;家督嗣、従五下備前守、3700石、清相(きよすけ・1679-1717)の父、歌人、  
[花ちりし同じ梢にふくかぜを恨みしほどぞ袖に嬉しき](茂睡[鳥の迹]夏275)
- V1668 清純(きよすみ・有馬ありま、康純長男) 1644-170259 母;阿部忠秋養女、日向延岡3代藩主;父を継嗣、晴信系有馬家4代、従五下左衛門佐/周防守、1690(元禄3)領内で一揆発生;92無城大名、転封;越後糸魚川藩主さらに1695越前丸岡藩主、歌人、正室;岡部行隆女/継室;世伊(坂安政女)/側室;須賀子(皆吉家)、1702(元禄15)没;嫡男一準(真純)が家督嗣、  
[空さむみ降るとはすれど初雪の積りもあへぬ庭のおもかな]、(茂睡[鳥の迹]冬472/有馬周防守永純名)、  
[清純(;名)の別名]大吉(幼名)/永純(初名)、戒名;華岳院
- P1671 清純(きよすみ・吉田よしだ、字;蘭臯) ?-1780 薩摩藩士/御記録奉行/御使番、詩;服部南郭門、1760「地誌要略」編  
[清純の通称/号]通称;用右衛門、号(隠居号);浦雪、法名;字参玄明庵主
- H1644 清澄(きよすみ・塵外楼じんがいろう、石川雅望男) 1786-183449 江戸の狂歌作者、「比玉集」編、追善集「十符の菅薦」(;縁樹園編)  
参考 → 縁樹園(りよくじゅえん・小林、狂歌) J 4 9 7 7
- P1672 清純(きよすみ・石川いしかわ、通称;彦右衛門) ?-? 江戸期常陸竜崎の歌人、「船橋紀行」
- 1689 清澄(きよすみ・伊藤いとう、字;伯瀟/通称定太/号;氷湖) 1842-191170 信州諏訪中洲村和算家、点竄術;後藤庄五郎/矢沢鶴五郎門、和算;1861長谷川弘門/67帰郷開塾/土地測量、「元利累乗除率」/1648「諸算書起源」、「算法自在」/「算法利率新書」著  
清澄(きよすみ・石川) → 眞清(ますみ・石川いしかわ/源、商家/国学) J 4 0 2 8
- S1681 清瀬(きよせ;女房名) ? - ? 三河刈谷藩主土井予守信利信(1728-78)家の老女(局)、



歌;賀茂真淵門、本居大平「八十浦の玉」入、利信室の久米子・その侍女外山とやまも真淵門、  
[春來ぬと池の氷のとけにけりわかへりゆく影も見えなむ]、

(八十浦;上22/1758[宝暦8]真淵家宴歌参加)

虚齋(きょさい;号) → 浄嚴(じょうごん;法諱・覚彦、真言律僧) S 2 2 2 2

魚声閣(ぎょせいかく) → 恭庵(きょうあん・安陪/安部、医/史家) N 1 6 1 5

虚静菴(きょせいせい) → 正武(まさたけ・大国/野々口長手、国学者) D 4 0 4 1

P1673 巨石(きよせき・関本せきもと、名;直為、与右衛門男)1736-180570 会津耶麻郡小田付村の学者、  
和漢学/能書/俳人:会津俳壇の興隆尽力、「しのぶやま」「雪あかり」「湯の村温泉紀行」著、  
[巨石の通称/別号]通称;与次兵衛、別号;六種庵/六種園、屋号;越前屋

P1674 魚赤(ぎょせき) ? - ? 京の俳人:几董門/春夜楼の一員、  
1773几董「明鳥」6句/82蕪村「花鳥篇」3句/維駒「五車反古」入  
[灰汁桶あくおけの輪も入れかへんころもがへ](あけ鳥;夏四月歌仙の発句)

D1625 魚尺(ぎょせき) ? - ? 江中期江戸俳人:万葉庵平砂門、1787「作り取」編  
P1675 巨川(きよせん、五百住いおずみ)?- ? 江後期甲州上高砂村の漢学者、1852私塾;子弟教育、  
「大日本史系図」著

巨川(きよせん・大久保) → 忠舒(ただのぶ・大久保、幕臣、趣味家) F 2 6 5 6

巨川(きよせん・福島) → 末濟(すえなり・福島/度会、神職/漢学) F 2 3 5 4

拳扇(きよせん・加藤) → 泰衍(やすみち・加藤かとう、藩主) D 4 5 0 6

J1621 漁川(ぎょせん) ? - ? 俳人/江戸住、1690北枝「卯辰集」13句入  
[山は富士野は武蔵にて年とりぬ](「卯辰集」10)

P1676 魚川(ぎょせん) ? - ? 江中期1716-36頃京建仁寺町の俳人:淡々門、  
1726付句集「春秋閑」編、28柳岡「万国燕」入/76樗良「俳諧月の夜」入  
[春の月筏に乗て見る夜哉](月の夜;119)

D1626 魚川(ぎょせん・吉田) ? - 1761? 江戸日本橋彫工;俳書の板木彫刻/出版、俳人、  
1734「桜鏡さくらかみ」編(吉原遊女の桜の吟句を収集)

P1677 魚潜(ぎょせん;号・仙舟せんしゅう;法諱)1738-? 1808存 但馬和田山浄土宗法樹寺住職/俳人、  
青蘿と親交、1777「後の真」編(;40の賀)、93「花塚集」編

D1627 魚潜(ぎょせん・柳津やないづ) ? - ? 江中期俳人;芭蕉研究:1766「冬の日付合考」著、  
「曠野ひさご猿蓑附合考」「七部集附合考」著

魚仙(ぎょせん・奥倉) → 辰行(たつゆき・奥倉、商家/絵師) R 2 6 6 8

巨川常熙(きよせんじょうき;法名) → 時熙(ときひろ・山名/源、武将/歌人) J 3 1 9 3

拳扇堂(きよせんどう) → 静栄(せいえい・拳扇堂きよせんどう、俳人) 2 4 6 8

J1622 魚素(ぎょそ) ? - ? 加賀俳人、1690北枝「卯辰集」9句/90之道「あめ子」入、  
[行ゆく雲のうつり替れる残暑かな](あめ子;182/卯辰集;307)

漁叟(ぎょそう・中洲) → かね延(かねのぶ・おほ家、随筆) C 1 5 9 5

漁叟(ぎょそう・松井) → 直寛(なおひろ・松井まつい/須田、藩医/歌) O 3 2 8 1

漁叟(ぎょそう・古海/宇都宮) → 正顕(まさあき・宇都宮うつのみや/古海、庄屋) N 4 0 9 0

喜代蔵(きよぞう・福住) → 貞固(さだかた・福住ふくずみ/川上、商家/歌) P 2 0 2 2

P1678 漁村(ぎょそん・中川なかがわ、名;韓い/韓か、小原君雄男)1796-185459 叔父中川斐雄の養子、彦根藩士、  
儒・漢学;平尾芹水(西郷路卿)門、長崎で西洋事情を見聞、  
1842藩主井伊直亮により藩校弘道館儒官/46世子教育、  
「菊蕘之言」(直亮の座右書となる)、「漁村詩文集」「三諫録」「籌辺惑問」「西洋一覽」著、  
[漁村の字/通称]字;子鄂、通称;禄郎/禄

D1628 漁村(ぎょそん・海保かいば、名;元備/紀之、恭斎男)1798-186669 上総武射郡の儒者/経書;父門、  
1821江戸で大田錦城門、57幕府医学館の儒学教授/開塾;教育、島田篁村・渋沢栄一らの師、  
「漁村文話」「漁村筆記」「漁村雑記及遊戯三昧」「西上録」「叩盆集」「心太平庵漫抄」、  
「しのぶ草」「堅瓠録」「硯北筆記」「国語考」「煙草続録」「学庸記聞」「伝経廬叢鈔」外著多数、  
[漁村の字/通称/別号]字;純卿/郷老/春農、通称;章之助、別号;伝経廬、法号;養源院  
漁村(ぎょそん・茂呂) → 何丸(なにまる・茂呂もろ一元、俳人) G 3 2 8 0

- P1679 **清田**(きよた・島田/嶋田しまだ、姓;臣/824朝臣、島田村作男)779-85577 平安前期廷臣;  
漢学;紀伝道に修学、文章生、大学少属/827大外記/宮内少輔/伊賀守/851従五上、  
「日本後期」編纂参加、経国入  
清田(きよた・佐分) → 清円(きよのぶ・佐分さぶり/眞清田ますみだ、神職/国学) Q 1 6 1 0  
清太(きよた・大島) → 藍涯(らんがい・大島おおしま、儒;藩校助教) B 4 8 6 6  
魚大(ぎよだい・佐藤) → 水石(みづいせき・佐藤さとう、絵師) E 2 3 7 3  
驢台毫叟(ぎだいはうそう) → 柳湾(りゅうわん・館たち/小山、役人/詩人) F 4 9 9 3
- H1645 **清隆**(きよたか・藤原ふじわら、別名;清蔭、経清男)?-? 1320存 鎌倉後期廷臣;民部権大輔/内蔵権頭、  
五位、歌人;1320「八月十五夜同詠月十首和歌」、勅撰2首;玉葉1803/続千1141、  
[うらみかね今はとはじと思ふより我も心のかはりそめぬる](玉葉;恋1803)
- P1680 **清龐**(きよたか・鹿子田かのこた、通称;荒尾、清広男)1801-? 武蔵川越藩士/国学;1834平田篤胤門、  
1858「葛乃葉」著、今村息長やすながの兄
- P1681 **清濠**(きよたか・大喜だいき/本姓;守部、通称;豊前守)?-? 1857存 江後期尾張熱田社の大内人、  
「熱田皇太神宮火鎮盗難除由来」著
- T1687 **清孝**(きよたか・加藤かとう、通称;瑞軒/号;夕塘)?-? 江後期;佐渡新穂の医者、歌人、  
国学/歌;両津熱串神社祠官中村晴彦(1807-85)門/1865頃佐渡奉行鈴木重嶺げね門、  
[荻告秋;言に出でていふとはなしにこの朝げ秋いちじるきをぎの上風]
- V1637 **清隆**(きよたか・水沢みずさわ、)1823-187957 信濃佐久郡の神職;碓氷峠の熊野神社人、国学、  
[清隆(;名)の通称]力之進/左衛/佐渡  
清崇(きよたか・大槻) → 磐溪(ばんけい・大槻、儒者/詩人/洋学) 3 6 4 0  
清孝(きよたか・竹田) → 近江(2世おしみ・竹田、初世男/浄瑠璃) C 1 4 6 7  
清隆(きよたか・岩城) → 隆韶(たかつぐ・岩城いわき、藩主/学問/歌) V 2 6 7 2
- S1642 **清滝**(きよたき;組連) ? - ? 江中期下野の雑俳の組連/取次;1748「筑丈評万句合」入;  
取次例;[名斗なばかりは皆強うそうな角力取](万句合/前句;いろいろか有り々)、  
(名に負ける者も多いという皮肉)  
清滝(きよたき) → 定能(さだよし・藤原、廷臣/神楽) C 2 0 6 4  
清滝(きよたき) → 初瀬(はつせ・佐竹さたけ/三木、藩主妻/歌) J 3 6 4 6
- P1682 **清武**(きよたけ・松平まつだいら/越智おち、初名;吉忠/清宣、徳川綱重男)1663-172462 上野館林藩主、  
母;田中勝守女(越智喜清と結婚;出産)/幼名熊之助、将軍家宣の弟、越智家相続;1704寄合衆、  
1707松平姓;越智松平の祖/藩主の時;築城と財政窮乏による館林騒動、玄蕃/民部/右近将監、  
「館林盛衰記」著、[清武の字/通称/法号]字;之政、通称;平四郎、法号;本賢院
- P1683 **清武**(きよたけ・土居どい、別名;清健)?-? 江後期和歌山藩士/徳川治宝に出仕、  
1824「戸山枝折」/28「鏡花水月」/「明鏡止水」著  
清竹(きよたけ・神林) → 復所(ふくしょ・神林かんばやし、藩士/儒者) B 3 8 5 8
- 1646 **清正**(きよただ・藤原ふじわら、兼輔男)?- 958 廷臣;930蔵人/従五上/蔵人頭/左近少将/956紀伊守、  
雅正・守正と兄弟、歌;屏風歌/955「内裏紅葉合」参/「天曆御時前栽歌合」/「中宮歌合」参加、  
古今六帖・和漢朗詠集入、家集「清正集」、36歌仙の1、忠見集・袋草紙に還昇歌代作の逸話、  
勅撰30首;後撰(9首335/336/673下)拾遺(3首57/332下)新古(4首709下)以下、  
[貫ぬきとむる秋しなれば白露の千種ちくさに置ける玉もかひなし](後撰集;六秋335/露)
- D1629 **清忠**(きよただ・佐伯さえき) ? - ? 平安中期廷臣/歌人、拾遺503;  
六位左近衛番長(舎人の長)の時に二条右大臣藤原道兼に召されて不遇を訴嘆する歌を詠む、  
[限りなき涙の露にむすばれて人のしもとはなるにやあるらん](拾遺集;八503)  
(しもは下と霜とを掛けている)  
拾遺集1325の[すけきよ佐清]と同一か? → 佐清(すけきよ・佐伯?) C 2 3 0 5
- D1630 **清忠**(きよただ・坊門ぼうもん、俊輔男/本姓;藤原)1283-133856 廷臣;1328参議/34従二位、36湊川敗戦、  
1337南朝に奔る/吉野で没、歌;1325内裏七夕歌会/36探題月三十首歌会参加、  
拾遺現藻集・臨永・松花集入集、新葉2首392/853、続千載828、  
[照りまさる月のかつらにならふらししぐれぬさきの秋のもみぢば](新葉集;五秋392)、  
(延元三年[1338]九月十三夜内裏三十首歌・月前紅葉;右大弁清忠名)

- V1618 **清忠**(きよただ・堀家ほりけ、旧姓;吉見)1827-7145 備中賀陽郡の吉備津神社社家、国学者、  
[清忠(;)名]の別名/通称]別名;清職、通称;右衛門大夫/慰  
清忠(せいちゆう・堀家) → 清忠(きよただ・堀家ほりけ/吉見、神職/国学) V 1 6 1 8  
清忠(きよただ・加藤) → 景澄(かげずみ・加藤かとう、地役/国学者) U 1 5 0 6  
清公(きよただ・菅原) → 清公(きよとも・菅原、廷臣/漢学/詩人) D 1 6 4 2  
浄忠(きよただ・原) → 守孝(もりたか・原はら、陪臣/国学) L 4 4 0 9
- D1631 **清正母**(きよただのはは、藤原ふじわら、藤原兼輔かねすけ[877-933]の妻、定方女?)?-? 平安前期歌人、  
後撰集676、  
[ふりとけぬ君が雪げの雫しづくゆへ袂たもとにとけぬ氷しにけり](後撰集;恋676)、  
(降り溶けぬと古り遂げぬを掛る/流す涙も袂で凍る/兼輔集では兼輔への返歌)
- D1632 **清正女**(きよただのむすめ・藤原ふじわら)?-? 平安中期歌人(父;清正?-958)、拾遺817、  
[ながめやる山辺はいとゞ霞みつゝおぼつかなさのまさる春哉](拾遺集;恋817)、  
(詞書;冬より比叡の山に登りて春まで音せぬ人のもとに/霞む山辺は物思いの心象風景)
- P1684 **清胤**(きよたね・大中臣おおなかとみ)?-? 南北期;廷臣、  
1344尊氏勸進[高野山金剛三昧院奉納和歌]参加/のち南朝歌人、新葉1274、  
[つひにまた心の月のはれやせんしばし迷ひてかかる浮雲](金剛三昧院歌;55つ)  
[厭はでもさてややみなん世の中の憂きことわりを思ひ知らずは](新葉集;十八雑1274)
- I1693 **清胤**(きよたね・千葉ちば、)1681- 174565 陸奥栗原郡の和学者  
[清胤(;)名]の初名/通称/号]初名;精胤、通称;茂助、号;正然庵
- P1685 **清胤**(きよたね・栗津あわづ/本姓;中原、水谷みづたに浄春男)1729-? 1774存 栗津清生の養嗣、廷臣、  
大蔵少丞/右兵衛大尉/1766従五下/74官位停止、1762「土栗津清胤記」著
- T1621 **淨胤**(きよたね/じよういん・川村かわむら、歌人)?-? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、島原藩士河野秋景(1831-1918)の師、  
[さし捨てし小船も氷る冬川にわたりをよぶは千鳥なりけり]、  
(大江戸倭歌;冬1211/渡千鳥)
- P1686 **清種**(きよたね・鳥居とりい/本姓;徳田とくだ、通称;亢三)1830-9061 医家生;家業好まず/江戸絵草紙屋、  
絵師:鳥居清峯(2世清満)門/鳥居姓を許されず密かに称す、芝居絵本など、「宝入船」画  
清胤(きよたね・中御門/鳥丸)→光胤(みつたね・鳥丸/藤原、廷臣/歌人) D 4 1 8 2
- D1633 **清民**(きよたみ・石川いしかわ) ? - ? 江前期;万葉集研究、1660「檜山拾葉」編
- U1643 **清民**(きよたみ・里見さとみ、)1800-187879 阿波板野郡の事代主ことしろぬし神社の祠官、  
国学者/神職大半おおなか尹房これふきの師、  
[清民(;)名]の通称/号]通称;平兵衛、号;白柏舎、屋号;阿古屋
- T1694 **清民**(きよたみ・蒲がま、八十村やそむら3男)1848-191063 飛騨吉城郡の商家、国学者;山崎弓雄門、  
幸言ゆきのぶの弟、  
[清民(;)名]の通称/号]通称;得郎、号;田面舎(父の号)/小蝶亭長夢(祖父の号を嗣)  
清民(きよたみ・伊藤) → 圭介(けいすけ・伊藤、医者/植物学者) 1 8 7 9
- P1687 **清為**(きよたみ・中大路なかおじ/本姓;賀茂、賀茂清種男)1561-161050 上賀茂社神主/従四下、  
左兵衛尉、智仁親王の知遇を得て連歌会参加/秀吉より別朱印地を受、  
連歌;1591-1603百韻9度;1591重郡と山何百韻・94之昌と何船百韻・  
1603智仁親王と何船百韻など、「中臣祓」著、  
[清為の通称] 甚介/菊増
- D1634 **浄足**(清足きよたり・田中たなか朝臣)?-? 奈良期・大学博士/詩人、渡来系、700律令選定/734従五下、  
懐風藻入;66(長屋王の宴席での詩;当時備前守)
- P1688 **清足**(きよたり・賀茂かも/岡本おかもと、幼名新丸、清茂きよしげ長男)1712-9180 山城愛宕郡上賀茂社社家、  
出雲守/正四下、国学者、「目代々勤役秘記」「清足翁聞書秘記」著  
[清足(;)名]の通称] 下野守/出羽守
- S1688 **清足**(きよたり・葉若はわか/本姓;藤原、通称;釧蔵がそう?)?-? 江後期国学者、御穂神社社祠、神学者、  
宮中御歌所寄人、静岡学問所国学教授、長沢雄楯の師、大井菅麿「三等神葬祭文」校訂、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[流れ行く水の鏡にうつしてや柳の眉はつくりそめけん](大江戸倭歌;春155/水辺柳)



☆1860鋤柄助之「現存百人一首」入の[葉茗清足]と同一?

[何事もひらけゆくめる世にあひて野辺は狭くもなりにけるかな]、  
(現存百人一首;52/葉茗清足)

T1639 **清足**(きよたり・浅井あさい/旧姓;菊地、)1819-7658 伊予宇和郡の生/八幡浜庄屋浅井保記のりやすの女婿、  
国学;二宮正禎/本居内遠門、養父継嗣;庄屋/代官、  
歌;1854-58半井梧庵「鄙のてぶり」3首入、

[四拾番歌合(八幡浜歌人歌合)](判者;近田八東)に12首入、

[いとひつる嵐はなぎて霞む夜の月にをりをり散る桜かな](歌合)

[清足(;)名)の別名/通称]別名;記定のりさだ、通称;重兵衛/左内

清足(清太理きよたり・千家)→豊広(とよひろ・千家せんげ/出雲臣、国学/歌) C 3 1 4 2

清足(きよたり・山中) → 霜解(しもとけ・初世千種庵ちぐさあん、書肆/狂歌) F 2 1 9 5

喜代太郎(きよたろう・兵藤)→ 澁(きよし・兵藤ひょうどう、藩士/儒/和算) P 1 6 5 8

喜世太郎(きよたろう・市川)→ 助五郎(すけごろう・初世市山、歌舞伎役作者) C 2 3 1 4

P1689 **清親**(きよちか・日置へき、通称;徳右衛門/号;友尽斎)?-? 江前期京の画工;宮崎友禅門、  
師の友禅染めの大成に尽力、1688刊「友禅ひいながた」画

漁竹庵(ぎょちくあん) → 露厚(路考ろこう・佐伯さえき、俳人) B 5 2 4 5

H1646 **虚中**(きよちゆう・空有軒) ? - ? 俳人、1684其角「蠹集しみしゅう」歌仙入

居中(きよちゆう→ごちゆう・嵩山:道号)→ 嵩山(すうざん・居中、臨濟僧) F 2 3 2 6

居中(きよちゆう→ごちゆう・江田)→ 居中(やすなか・江田えだ、藩士/歌人) F 4 5 4 6

居中(きよちゆう;俳号) → 隆興(たかおき・横山よこやま、和漢学/実業家) 2 7 2 9

魚沖(ぎよちゆう→なほき・伊藤)→ 常足(つねたる・伊藤、神職/国学/歌人) C 2 9 4 7

御中(ぎよちゆう・松原) → 御中(三中みなか・松原まつばら/蔵田、国学/歌) I 4 1 9 9

居中庵(きよちゆうあん) → 順蔵(じゆんぞう・児玉こだま、医者/蘭学) L 2 1 3 0

魚長(ぎよちゆう:粹名) → 春海(はるみ・村田、商家/国学/歌) 3 6 3 6

漁長(ぎよちゆう・勝部) → 眞楯(またて・勝部かつべ/佐々木、国学者/神職) O 4 0 9 1

虚直(きよちよく・小泉) → 棲眞窩(せいしんか・小泉こいずみ、医者/詩) I 2 4 9 4

魚継(ぎよつひ・横川) → 直胤(ただたね・横川よこかわ、和算家/史家) P 2 6 7 9

玉角(ぎよっかく) → 玉角(ぎよっかく、俳人) J 1 6 3 5

玉角(ぎよっかく・讃州) → 玉角(ぎよっかく、狂詩) I 1 6 3 9

P1690 **清承**(きよつぐ・竹内たけうち、通称;甚右衛門、軌当男)?-1834 弘前藩士;近習小姓/暦学;高屋定助門、  
吉田鞆負・高橋至時門、1796藩校稽古館初代天文暦学学頭、1809物頭代;蝦夷宗谷へ見分、  
郡奉行兼勘定奉行、1795「九章門掃除術」1806「弘前分間絵図」著

U1687 **清世**(きよつぐ・富和とみわ、通称;昌)1820-190283 播磨山崎の国学者/歌:藩医稲岡秋平門

清継(きよつぐ) → 清繩(きよなわ・大伴、万葉歌人) D 1 6 4 6

清次(きよつぐ・結崎・泰) → 観阿弥(かんあみ・能役・作者) 1 5 4 5

曲江(きよこう・小池) → 曲江(きよこう・小池・絵師) O 1 6 8 8

旭岡(きよこう・池田) → 貞一(さだかず・池田/紀、幕臣/和算家) H 2 0 9 4

玉岡(ぎよこう) すべて→ 玉岡(ぎよこう)

玉江(ぎよこう) すべて→ 玉江(ぎよこう)

玉壺山人(ぎよっこさんじん) → 蘭阜(らんこう・木下/豊臣/木、藩士/漢学) B 4 8 9 8

D1635 **清綱**(きよつな・佐々木ささき、秀清男/本姓;源)?-? 母;法印実性じしゅうの女、南北期武家、隠岐守、  
従五下、歌人;1364?「一万首作者」入、新千載1195、

[いかにせん夕波あるる湊舟おもひよるべきたよりだになし](新千載;恋1195)

U1627 **清綱**(きよつな・黒田くろだ/本姓;源、清直男)1830-191788 薩摩鹿兒島藩士/王政復古運動に奔走、  
歌人;八田知紀門、滝園社を開設;教育、維新後政治家;東京府大参事/元老院議官、  
枢密顧問官、黒田清輝の養父、明治・大正両天皇の歌道の師、「滝園歌集」「滝のしぶき」著、

[清綱(;)名)の通称/号]通称;新太郎/嘉右衛門、号;滝園/清叟/慕楠堂

清綱(きよつな・大伴) → 清繩(きよなわ・大伴、万葉歌人) D 1 6 4 6

清綱女(きよつなのむすめ・藤原) → 有教母(ありのりのは・藤原、金葉歌人) B 1 0 8 8



- D1636 **清経**(きよつね・源、西行の外祖父)?-? 今様・鞠、梁塵秘・蹴鞠口伝集に名あり
- T1697 **清常**(きよつね・川口いかむぐち、) 1725-80 56 近江彦根藩士/国学・歌人;石尾洋方ひろかた門、  
歌;[彦根歌人伝・続寿]入、  
[清常(;)名)の通称/号]通称;彦八、号;大文
- D1637 **清経**(きよつね・鳥居とりい、通称;大次郎/餅十、版元中島伊左衛門男?)?-? 江中期1764-81頃江戸絵師、  
:初世清満門、紅摺の役者絵・美人画/挿絵/芝居絵本、1768紅摺絵「娘独婿八人」、  
1775「善知鳥物語」76「桃太郎手柄咄」77「恋濃弓張月」78「縁草有馬藤」79「朝顔姫」外多数
- U1688 **潔常**(きよつね・豊田とよた、) 1836-1903 68 筑後久留米の国学者、  
[潔常(;)名)の通称/号]通称;豊二郎/純平、号;米洲/芋水庵ちよすいあん
- H1647 **清貫**(きよつら・藤原ふじわら、保則男) 867-930 落雷死 64 母;在原業平女、平安前期廷臣;910参議、  
921大納言/民部卿、925-7藤原忠平らと「延喜式」編纂完成、930. 6. 26清涼殿落雷;死没、  
「延喜交替式」著、歌;913亭子院歌合:右方人、
- P1691 **清列**(きよつら・青木あおき) ? - ? 1648 存 伊達藩士、祖先は奥州大崎家臣、  
「中新田大崎実記」著
- P1692 **清連**(きよつら・大槻おつぎ、通称;五郎助) 1739-1804 66 仙台藩士/甲州流兵法家;本郷直興門、  
「甲州流総書名目」「鎧雑記」「信玄流軍法師説妙算」、1803「軍法發揮」著、  
歌;宮城百人一首入
- 居貞(きよてい・市川) → 梅客(ばいかく・市川/福原、幕臣/儒者) 3 6 8 5  
居貞(きよてい・水野) → 魯庵(ろあん・石川いしかわ/水野、藩儒) 5 2 1 3  
居貞(きよてい・中島/雲井) → 竜雄(たつお・雲井、藩士/詩人) G 2 6 1 7  
居貞斎(きよていさい) → 長収(ちやうしゅう・有賀あるが、歌学者) I 2 8 7 3  
居貞斎(きよていさい) → 景範(かげのり・加藤かとう、儒/歌学者) B 1 5 9 0  
居貞親王(きよてい→おきさだしのう) → 三条天皇(さんじょうてんのう、歌人) E 2 0 4 4
- S1650 **清凭**(きよてる・鎮西ちんぜい、清浜きよはま男) 1763-1825 63 信濃伊那郡鎮西野村の大山田神社祠官、  
国学;内山真竜・山住助太夫門、  
妻;近藤銀ざん、鎮西清宣きよのぶ(靱の屋もみのや)・木沢津多つたの父、清行の孫、  
妻 → 銀(ざん・鎮西ちんぜい/近藤、歌人) U 1 6 7 6  
息子 → 靱の屋(もみのや、鎮西清宣きよのぶ、神職/国学) E 4 4 9 6  
息女 → 津多(つた・木沢きざわ、歌人) 2 9 0 8
- T1612 **清照**(きよてる・岡見おかみ) ? - ? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[吹く風もとほさぬ蟬の羽衣を涼しと見るはよそめなりけり](大江戸倭歌;夏678/夏衣)
- U1686 **清輝**(きよてる・富永とみなが、通称;三郎) 1854-76 戦死 23 肥後熊本の神職;山本郡六殿神社神職、  
1876(明治9)敬神党(神風連)の乱に参加;本隊(砲兵営襲撃部隊)で活動;戦死  
清輝(清照きよてる・久野) → 正頼(まさよりくの、藩士/歌人) I 4 0 8 5  
虚恬(きよてん・葛巻) → 昌興(まさおき・葛巻かざりまき、藩士/歌) B 4 0 4 9  
清人(きよと・香川/宮庄) → 親輔(ちかすけ・宮庄みやしょう、藩家老/歌) B 2 8 0 3  
清人(きよと・南小柿) → 寧一(やすかず・南小柿みながき/南、藩医) B 4 5 1 2  
清人(きよと・仲居) → 光徳(みつりの・仲居なかい/高橋、国学/歌) J 4 1 9 6
- P1693 **巨橙**(きよとう・加藤かとう、名;正峰、正臣[志宣]男) 1705-70 66 尾張佐屋宿本陣五左衛門家5代目、  
俳人;露川門、佐屋俳壇常連/「あらい旧記」著、3回忌追善集「さとの梅」里遊編
- D1638 **裾道**(きよどう) ? - ? 江前期近江膳所俳人;蕉門、1691「猿蓑」入、  
1694「枯尾花」に師追悼句、[渋柿をながめて通る十夜かな](猿蓑巻二)  
(十月お十夜頃に渋柿をゆがき甘くする)
- D1639 **挙堂**(きよどう) ? - ? 江前期俳人、1697俳諧作法書「真木柱」著、  
1709「新武者物語」著
- P1694 **虚堂**(きよどう・都築/都筑つぎ、名;或い) 1778-1832 55 備後三原の浅野家の家臣、  
儒者;荻野斃己斎へいさい門、古今書史に通ず/詩;1833「落花三十律」著、  
[虚堂の字/通称/別号]字;寧文、通称;九郎右衛門、別号;蘇門  
挙堂(きよどう・鍋島) → 直正(なおまさ・鍋島なべしま、藩主/詩歌) C 3 2 4 7

- 虚洞(きょどう) → 虚洞(派洞こう、俳人) P 1 9 7 0  
 虚洞(きょどう) → 蕪村(ぶそん・与謝・谷口、俳人/絵師) 3 8 1 1  
 虚堂(きょどう→こう;号) → 実融(じつゆう;法諱、天台僧;僧正) V 2 1 1 4  
 虚堂(きょどう・こう) → 忠寛(ただひろ・大久保おおくぼ、一翁、幕臣) U 2 6 3 9  
 巨洞(きょどう・片桐) → 春一(はるいち・片桐、藩士/軍学/国学) F 3 6 9 8
- S1656 魚洞(ぎょどう) ? - ? 江中期俳人、  
 1754潘山(百子)「しぐれの碑」(;貞因[貞柳貞峨の父]25回忌・貞峨13回忌追善集)入、  
 [上手かな不生不滅の冬の花](しぐれの碑)  
 魚堂(魚道ぎょう・内田) → 内新好(ないしんこう/うち、俳人/戯作者) 3 2 5 3
- J1644 清遠(きよとお・藤原、惟岳男)?- ? 平安中期廷臣;左馬頭、倫寧ともやすの弟、歌人、  
 966内裏前裁合(;讃岐権介)/977三条左大臣頼忠家前裁歌合(;左馬頭)入  
 [水のおもになにはのものも流るるをいかでか月の影をとまれる](頼忠家前裁歌合;49)
- U1680 清遠(きよとお・寺田てらだ、) 1815-1867 53 越前府中の国学・歌人;橘曙覧門、  
 [清遠(;名)の字/通称]字;景正、通称;吉太郎/弥兵衛  
 清遠(きよとお・桂川) → 国寧(くにやす・桂川/6世、蘭医) D 1 7 3 1
- P1695 清風(きよとお・中野なかの) 1820- 1873 54 尾張愛知郡二村山沓懸の国学者;橘元輔・石川依平門、  
 1857「二村山古歌集」編、「あゆちの水」編  
 [清風きよとお(;名)の通称/号]通称;覚右衛門、号;梅廼舎うめのや/可月堂
- D1640 清時(きよとき・北条ほうじょう/大仏、北条時直男/本姓平)?-? 鎌倉期武将;五位右馬助/安藝守、  
 歌人;1261宗尊百五十番参加、続拾遺307・933、  
 [契りおく後をまつべき命かはつらきかぎりのけさの別れに](続拾遺;十三恋933契別恋)  
 [清時の通称] 遠江太郎、時遠の兄
- T1661 清辰(きよとき・上西うえにし/本姓;藤原、) 1829-88 60 陸奥白石住の仙台藩士;白石片倉家家臣、  
 国学;平田鉄胤門(篤胤没後門)、主君の暴政を諫めて捕縛;のち伊達家評定所にて赦免、  
 伊達氏軍政方、維新後帰郷;片倉家再興に尽力、  
 [清辰(;名)の通称]勇吉/甚蔵  
 清時(きよとき・平田) → 黒山(くろざん・平田ひらた、歌人) Q 1 9 1 5
- I1691 清俊(きよとし・葛西がさい、字;子英/通称;善太)?-1811 陸奥弘前藩士/儒;山崎蘭洲門、  
 1794藩校稽古館創設御用掛/経学学頭/副督学、1809昌平覺修学、藩の学制樹立、  
 1805「蘭洲先生行状」、詩文;「葛西氏詩文稿」著
- V1638 清敏(きよとし・水沢みずさわ、) 1770-1843 74 代々信濃佐久郡碓氷峠の熊野皇大神社社司、  
 国学者;平田篤胤門、  
 [清敏(;名)の通称]上野亮こうげのすけ
- U1669 清老(きよとし・柳下やなぎた、通称;与兵衛) 1787-1852 66 越後蒲原郡の歌人;香川景樹門、  
 館たち源右衛門の師、
- T1602 清俊(きよとし・小原おはら、号;芳浪)?-? 江後期;歌人、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [はなとりに心尽しの春も今限りなればや入あひの鐘](大江戸倭歌;春371/春欲暮)
- U1664 清年(きよとし・高田たかた、通称;為次郎、小山田与清男) 1807-24 夭逝 18 江戸の商家、国学者;父門  
 宗碩「佐野のわたり」の校訂
- P1696 清俊(きよとし・丸山まるやま、高祖男) 1821-97 77 信濃小県郡滋野村の郷土史家、  
 1856宿村興復世話方一人扶持、維新後に国史編輯掛;史誌編集、蔵書は丸山文庫、  
 「諏訪祭神考」「滋野親王考」「信濃国地誌略」「ひとりごと」著
- P1697 清年(きよとし・田村たむら、通称;安藝/出雲)?-? 江末期周防佐賀神社の神主、「麻幣帛論」
- V1611 清年(きよとし・福住ふくずみ、春年男) 1830-97 68 信濃飯田の国学者、春海はるみ(1858-1932)の父、  
 [清年(;名)の別名]清/知孝  
 清敏(きよとし・高平) → 眞藤(まふじ・高平たかひら、藩士/地誌) N 4 0 4 4
- P1698 清富(きよとみ・御巫みかんなぎ、中野なかの益直男/御巫清房の養嗣) 1761-1822 伊勢宮後の神職、  
 造営二頭代職、能楽/葛野流大鼓、「伊勢造営日記」「御造営杉乃落葉」「御造営日記抜書」著、

- [清富の通称] 栄十/矢柄
- T1620 **清富**(きよとみ・長谷川はせがわ) ?- ? 江後期;旗本/幕臣;禁裏付守護、肥前守、歌人;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[夜嵐に杜の木の葉や散りぬらんあらはに月の影ぞ見えぬる](大江戸倭歌;冬1184)
- D1641 **清友**(浄友きよとも・橘たちばな、奈良麻呂男/仁明天皇の外祖父) 758-789<sup>32</sup> 奈良期廷臣;正五下内舍人、贈;正一位太政大臣、嵯峨天皇皇后嘉智子の父、歌:古今125左注、  
[かはづ鳴く井手ぬでの山吹散りにけり花のさかりにあはましものを](古今125;伝清友作)
- D1642 **清公**(きよとも/きよぎみ/きよただ・菅原すがわら、古人男) 770-842<sup>73</sup> 奈良末平安前期廷臣;文章生、798対策及第、802遣唐判官;804渡唐/05帰国、812従五下大学頭/主殿頭/阿波守、819正五下文章博士、左京大夫/弾正大弼/825左京大夫/831正四下/839従三位非参議;牛車参内を聴される、その間天皇の侍読;文選・後漢書を講読、勅撰詩:三集(凌雲・経国・文華秀麗集)編纂に参加、「令義解」編纂参、凌雲4首/経国11首/文華秀麗7首、清人/清岡の兄、善主/是善の父、孫;菅原道真
- P1699 **清友**(きよとも・青木あおき、別名;善誠) 1820-97<sup>78</sup> 佐渡畑野村小倉の俳人、「題林一寸鏡」著  
[清友の通称/号]通称;宗五郎/竜丸、号;起雲軒
- T1629 **清倫**(きよとも・松平まつだいら/本姓;源、通称;主水、松平大炊男) ?-? 江後期旗本幕臣、松平清良の養嗣、竹谷松平家18代当主;三河宝飯郡竹谷を知行5千石;蒲形かまがら陣屋、交代寄合、室;信濃飯山藩六代藩主本多助賢女、養子;敬信、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[万代もさかゆく松のふかみどりなほ幾春か色まさるらん](大江戸倭歌;雑2045)
- U1647 **清靱**(きよとも・潮見しほみ、) 1832-1879<sup>48</sup> 周防熊毛郡室積の早長八幡宮の社司、国学;岩政信比古さねひに門、幕末の藩の活動に参加、1867(慶応3)長崎で捕縛され山口に連行の隠れキリシタンに藩命で神道を説き棄教促す、維新後;教部省出仕;大講義を兼る/神宮禰宜、3女タカ子は潮見琢磨の妻(茂樹の母)、  
[清靱(;名)の通称/号]通称;勝平、号;檀園  
巨都雄(きよとゆう・津) → 善雄(よしお・仲科なかしな宿禰、続日本紀) C 4 7 3 2
- Q1600 **清豊**(きよとよ・賀茂かも/岡本、幼名亀介、清生男) 1647-1708<sup>62</sup> 母;賀茂氏見女、右近衛将監、神職、「両部神道秘書」伝
- V1609 **清魚**(きよな・広田ひろた/本姓;度会、宇治/荒木田久老[1746-1804]4男) 1790-1854<sup>65</sup> 伊勢神職、広田助侑すけなみの養嗣子、外宮権禰宜、国学;父久老門・養父助侑門、  
[清魚(;名)の初名/通称/号]初名;正師、通称;卯三郎/越後、号;橘園
- V1603 **清名**(きよな・早川はやかわ、旧姓;井内) 1811-87<sup>77</sup> 阿波徳島藩士、国学;本居大平門、のち大麻比古神社禰宜、  
[清名(;名)の通称/号]通称;庸吉/庸太郎、号;志那園
- T1636 **清名**(きよな・野山のやま、通称;石見) 1813-? 江後期;美作苦東郡久保神社社祠、歌人;1849平賀元義の美作楯之舎塾入門、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入
- U1600 **清魚**(きよな・河合かわい、通称;斎一郎) 1839-1910<sup>72</sup> 飛騨吉城郡古川の神官、歌;蒲八十村やそむら門、国学者/歌人、歌;[明治佳調集]5首入
- V1639 **清苗**(きよなえ・水沢みずさわ、) 1810-1874<sup>65</sup> 代々信濃佐久郡碓氷峠の熊野皇大神社社司、国学者、[清苗(;名)の通称]河内
- Q1601 **浄尚**(きよなお・園村そのむら、通称;惣之丞そのすけ、景尚養子) ?-? 江中期土佐藩士、神道;谷川士清門、「古伝口授秘問」問
- Q1602 **清直**(きよなお・井上いのうえ、内藤吉兵衛男/井上新右衛門養子) 1809-67<sup>59</sup> 幕臣;評定所/勘定吟味役、1855下田奉行;56ハリスと応接/58初代外国奉行;英国等と条約締結/直弼と不仲・左遷、晩年は町奉行、1846-52「井上清直日記」著、  
[清直の通称/法号]通称;松吉/新右衛門、法号;修誠院
- D1643 **清直**(きよなお・御巫みかんなぎ、杉原光基男) 1812-94<sup>83</sup> 従祖父御巫清富きよとみの養嗣、母;松橋武重女、伊勢禰宜/1838豊受大神宮御巫内人/44高宮権玉串内人/53正六上/養子清生に家督譲渡、国学;本居春庭・足代弘訓門/歌、1827「宇たひかへ」37「花月漫吟」38「輯古帖」39「彳工独語」、1838-41「耳袋」42「御巫内人次第」49「歌合画題新名所」60「松杉和歌集」(長量と共編)外多数、



[清直(；名)の幼名/通称/号]幼名；寿之助/光直、通称；権之亮ごんのすけ/志津摩/穂積臣/尚書、号；棒園

- T1690 **清直**(きよなお・貝塚かいづか/本姓；平、通称；久吉)1827-190478 出羽秋田郡の国学者/歌人、国学/歌；前田夏蔭・吉川忠行・平田鉄胤門、「貝塚清直日記」著
- V1615 **清直**(きよなお・細貝ほそがい)1838-187437 越後頸城郡の国学者；平田鉄胤門、高田藩学校教授  
[清直(；名)の通称/号]通称；彦五郎、号；南涯  
清直(きよなお・戸部) → 一愍齋(いっかんさい・戸部とべ、黄檗僧/史家)G 1 1 8 3  
清直(きよなお・白土) → 恵堂(けいどう・白土しらと/しらつち、藩士/儒者)G 1 8 4 7  
清尚(きよなお・観世) → 鍊之丞(初世てつじょう・観世かんぜ、能楽師)C 3 0 5 8
- Q1603 **清長**(きよなが・姓不詳) ? - ? 平安期；歌；1091左近権中将宗通朝臣歌合参加、[あふさかの関まで聞かんほととぎす心とどめて鳴きやわたると](宗通歌合；四番右)、藤原清長か？(；清兼男、高陽院かやのいん泰子[1095-1155]家蔵人/太皇太后宮大進/従五下)大中臣清長(空仁)とは別人(空仁より年長)→ 空仁(くうにん) 1 7 3 8
- Q1604 **精長**(きよなが・河辺かわべ/本姓；大中臣、初名；清長、仁清男)1601-168888 伊勢山田の生、幼時に仏門；1613還俗、伊勢大宮司河辺辰長の家僕(喜左衛門と称)/神職；1653神宮大宮司、両宮摂社の修復再興、1673致仕(称；河辺前司)/従四下、「万治内宮御炎上記」/「伊勢祭主沙汰文」編/「言上書」著、  
[精長(；名)の通称/号]通称；喜左衛門、仏門の号；慶順、長春ながはる/故長ひさながの父
- Q1605 **清永**(きよなが・高屋たかや、通称；豊前)?-? 江前期寛文1661-73頃津軽藩主信政の家臣、藩命で藩主の歴史編纂、「東日流記」/「東日流後記」著
- V1698 **清長**(きよなが・布川ぬのかわ)?-? 江中期；歌人；宮川松堅門、1722松堅[倭謡五十人一首]入/顕紀[同追加]2首入、  
[残りなく木の葉散りぬる山の端ははれ行くときと月や出づらむ]、(倭謡五十人一首；30/はれ行くときと；障害が取り除かれた時とばかり)、  
[秋霧の立ち隔てても山風のすゑに数みる雁のひとつら]、(倭謡五十人一首追加；山中秋興)
- 1650 **清長**(きよなが・鳥居とりい家4代目、書肆関せき市兵衛男)1752-181564 相模浦賀阿波屋甚右衛門の女婿、江戸で絵師；鳥居家3代目初世清満門(明和1764-72頃)、1785鳥居家継承、錦絵/看板絵、美人画三大代表作；「当世遊里美人合」/「風俗東之錦」/「美南見十二候」、1777「糸桜本町育」、1777「末広源氏」80「絹川物語」81「思事夢濃枕」83「頼朝一代記」85「嘘八百温故新知」外多数、  
[鳥居清長(；号)の通称]市兵衛/新助、屋号；白子屋、法号；長林英樹信士
- V1652 **清長**(きよなが・山崎やまざき/本姓；源、)1760-185192 陸奥刈田郡の国学者；平田鉄胤(1799-1880)門、  
[清長(；名)の通称/諡]通称；万五郎、諡；健巖幸老翁  
清長(きよなが・大中臣) → 空仁(くうにん、平安期僧/歌人) 1 7 3 8  
清長(きよなが・村井) → 親長(ちかなが・村井、藩士/儒者) B 2 8 4 1  
清長(きよなが→せいちょう・森) → 清長(せいちょう；号、森もり、俳人) C 2 4 6 2  
清長(きよなが・齋藤) → 正(ただし・齋藤さいとう、修験/神職) X 2 6 3 3  
清漪(きよなみ・蜂屋) → 茂橋(もきつ・蜂屋はちや/源、幕臣/随筆) 4 4 6 2
- Q1606 **清成**(きよなり・内藤ないとう、通称；弥三郎、竹田宗仲男/内藤忠政の養子)1555-160854 三河岡崎生、遠州浜松の家康家臣、1580秀忠の傳/95修理亮/幕臣；関東奉行/1602処罰籠居、1590「天正日記」、内藤清成日記著、法号；孤光院
- Q1607 **清成**(きよなり・上木うわぎ/本姓；源、初名；重膺)1797-186266 飛弾高山酒造業、国学；田中大平門、家集「倭文舎集」(清根編)、  
[清成の通称/号]通称；清九郎/甚四郎、号；春翁/倭文舎しづのや、諡；巖彦千別大稜大人
- U1662 **清矣**(きよなり・高島たかしま、旧姓；一井)1799-186062 讃岐高松藩士；番頭、国学者、清平の父、  
[清矣(；名)の通称/号]通称；清兵衛/登守、号；茂松/茂松琴士
- U1630 **清就**(きよなり・桑原くわばら、通称；与平次)?-1892 上野勢多郡多那村の神官、国学者、権大講義
- U1622 **清也**(きよなり・倉沢くらさわ、義徳男)1832-1921長寿90 信濃伊那郡小野村の庄屋、読書；小沢和徳門、



経書;1849須田慶順門、1851(嘉永4)平田篤胤の武学論に啓発され遠藤五平太門;一刀流、1863足利三代木像梟首事件で逃亡の角田忠行を自邸に匿う(4年間)、国学;平田鉄胤門、1865(慶応元)上京し神祇伯白川家門(父が用人)/多数の志士と交流;敬神愛国を主唱、1868再度上洛;父に代り白川家の用人兼会計役、改名;清也、71伊那県戸長/74筑摩県戸長、1872郷社二宮弥彦神社祠官、1881松本開産社社長、東京住  
[清也(;)名)の別名/字/通称/号]幼名;鎌之助、初名;義随よしゆき、字;桑野、通称;甚五兵衛、号;翠軒

- P1662 **清生**(きよなり・御巫みかなぎ/福井/秦、杉原丹蔵男)1842-191144 伯父御巫清直きよなおの養嗣、伊勢山田の神職、神道を修学/詩;竜三瓦門、1871皇太神宮主典/神宮権禰宜/三重県官吏、詩歌文/雅楽/散学/囲碁を嗜む、「西行法師伊勢事蹟考」著、  
[清生の幼名/通称/号]幼名;隆次郎、通称;親衛/光名、号;春塘/雞園  
清成(きよなり) → 清成(しょうじょう、法印検校/歌人) N 2 1 7 0  
清生(きよなり・喜早) → 清主(きよぬし・喜早きそ/度会、神職/国典) Q 1 6 0 8  
清生(きよなり・木場) → 清生(きよふ/きよお・木場こば、藩士/歌人) U 1 6 3 3  
清成(きよなり・菅谷) → 帰雲(きうん・菅谷すがや、藩士/儒者/詩) E 1 6 9 8
- D1644 **清成女**(きよなりのむすめ、姓不詳)?-? 平安前期歌人、後撰714(;)きよなりが女)、  
[夢かとも思ふべけれどおぼつかな寝ぬに見しかばわきぞかねつる](後撰;恋714)  
(詞書;人のもとにつかはしける わきかぬは判別しかねる意)
- D1646 **清綱**(きよなわ/きよつな・大伴)?-? 万葉四期歌人、卷八1482、  
万葉・十九4262-3左注にある歌を伝承した大伴清継と同一説あり?  
[皆人の待ちし卯の花散りぬとも鳴くほととぎす我忘れめや](万葉集;八1482)
- D1647 **去尼**(きよに・雲裡房) ?-? 江中期俳人、1739俳諧作法書「俳諧小かがみ」著  
嘘吟(きよにゅう・吉岡) → 鶴巢(じやくそう・吉岡/葛西、医者/俳人) W 2 1 0 5
- Q1608 **清主**(きよぬし・喜早きそ、本姓;度会わたらい、清在きよあり2男)1714-7865 伊勢度会郡山田の神職;  
伊勢外宮高宮玉串内人、神道・国典;父門、「玉串抄」「八重榊」「日記」著、  
[清主の別名/字/通称/号]別名;清生きよなり、字;農夫、通称;因幡/平馬、号;淳城ていじょう  
清主(きよぬし・千家) → 俊信(としざね・千家せんげ、国学者) M 3 1 5 6  
清主(きよぬし・紀) → 俊尚(としひさ・紀きの、神職/国学) U 3 1 9 5
- U1631 **清音**(きよね・小出こいで/本姓;大江、)1777-185276 阿波徳島の国学/歌;太田豊年門、直城なおきの父、  
[清音(;)名)の初名/通称/号]初名;直幹なおもと、通称;加一兵衛、号;久樹舎
- U1667 **清音**(きよね・高島たかばたけ、初名;勝/通称;敬吾)?-1841 京の高島式部(1785-1881)の再婚の夫、  
岡山藩隠士、廷臣千種家の鍼医、和学者/歌人;芝山持豊門、1841(天保12)没
- Q1609 **清音**(きよね・窪田くぼた/本姓;源、勝英男)1789-186678 幕臣/旗本、故実;土井利往門、  
国学/歌;岡田真澄門、田宮流居合;平野匠八門/久保田派を称す、「剣尺記」「清音随筆」、  
1814「海路湊港記」39「剣法略記」、「剣法用意集」「剣法全記」「兵法実記」外著多数、  
歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、  
[今ははや待ちしほどこそ恋しけれうたても花に風ぞ吹きける]、  
(大江戸倭歌;春261/風前花)、  
[有りし世をしのぶ涙に袖ぬれて秋もおぼろに見ゆる月影](同;雑1890/寄月懐旧)、  
[清音(;)名)の別名/通称/法号]初名;勝栄かつなが、通称;助太郎/助太夫/源太夫、法号;清音院  
清根(きよね→すがね・松園坊) → 清根(すがね・菅原すがわら/山本、社僧/国学) F 2 3 8 6  
御年(ぎよねん・田所) → 千秋(ちあき・田所/三輪、藩士/国学) 2 8 0 0  
御年(ぎよねん・木内) → 御年(みとし・木内きうち、国学者) F 4 1 3 4  
御年(ぎよねん・仲田) → 御年(みとし・仲田なかた/藤原、国学/歌) H 4 1 7 5  
居然亭(きよねんてい) → 直員(なおかず・世継よつぎ、商家/絵師/歌) P 3 2 2 4  
清式部(きよのしきぶ) → 絵式部(えのしきぶ、女房歌人) C 1 3 2 5  
喜代之助(きよのすけ・寺村) → 成相(しげみ・寺村てらむら、藩士/歌人) S 2 1 7 3
- D1648 **清宣**(きよのぶ・賀茂かも、通称;初有大夫、清成男)?-? 鎌倉期神職/四位/雅楽頭/下野守、  
歌人、新後拾918  
[夢ながらむすび捨てつる草枕幾夜になりぬ野辺のかりぶし](新後拾遺集;十羈旅918)

- 1651 **清信**(初世きよのぶ・鳥居とりい家初代、通称;庄兵衛、鳥居清元[庄七]男)1664-1729<sup>66</sup> 大阪生;  
1687女形役者の父と江戸住/絵師:諸派の画風を採用し鳥居派の祖、父と芝居看板/番付、  
挿絵/狂歌、1697「本朝二十四孝」1700「風流四方屏風」04「夕かほ利生草」外多数の画
- Q1610 **清円**(きよのぶ・佐分さぶり/眞清田ますみだ/平、横井時峯男)1680-1765<sup>86</sup> 尾張名古屋の生、  
尾張一宮の眞清田社神主佐分清福の養嗣子、1702眞清田ますみだ神社神主となる;  
社殿造営・遷宮を実施/1736隠居、  
国学・歌;姉小路実紀門、語学・歌;多田義俊、神道;吉見幸和よしかげ門、  
「眞清探桃集」「美濃国古蹟考」「尾張海那濃利蘇和歌集」「尾張国歌枕名所拾遺集」著、  
[清円の幼名/通称/諡号]幼名;寧清、通称;右京/式部/式部少輔/刑部少輔/宮内少輔、  
隠居後;清田、 諡号;富彦幾与多臣
- Q1611 **清信**(2世きよのぶ・鳥居とりい、初世清信男)1699?-1752?<sup>54?</sup> 江戸絵師:父門、漆・紅摺の役者絵、挿絵、  
1749「天神記」、「安部の安名物語」「さるかに」「将門一代記」「熊谷安左衛門」「定家」画、  
[2世鳥居清信の通称] 庄兵衛/弟四郎
- Q1612 **清信**(きよのぶ・松岡まつおか、通称;常八/定八郎、能一男)?-? 江後期大阪和算家;家学/宅間流算学、  
父の職を継承;大坂御城附京橋組同心、1799「宅間流角術」編
- V1619 **清敷**(きよのぶ・堀家ほりけ、通姓;美濃守)1756-1826<sup>71</sup> 備中賀陽郡の吉備津神社社家頭、国学者
- T1601 **清延**(きよのぶ・中野なかの/本姓;藤原)?-? 江後期歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[吹く風によらるる糸や元ゆひの色のゆかりに匂ふ藤なみ](大江戸倭歌;春348)
- T1616 **清信**(きよのぶ・羽鳥) ? - ? 江後期歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[吹きわたる秋風見えて武蔵野やなびく尾花につづく富士のね]、  
(大江戸倭歌;秋1024/秋眺望)
- U1632 **清庸**(きよのぶ・小山こやま/本姓;忌部、旧姓;安倍)1820-70<sup>51</sup> 信濃諏訪郡の国学者;平田篤胤門、  
[清庸(;名)の通称] 丹宮
- 清信(きよのぶ・狩野) → 永伯(えいほく・狩野、絵師) D 1 3 3 1  
清宣(きよのぶ・花輪) → 伝兵衛(でんべゑ・花輪はなわ、和算家) E 3 0 2 2  
清宣(きよのぶ・鎮西) → 叔の屋(もみのや、鎮西ちんぜい清宣、神道・国学) E 4 4 9 6  
清宣(きよのぶ・越智/松平) → 清武(きよたけ・松平/越智、藩主) P 1 6 8 2  
清廻家(きよのや) → 伴雄(ともお・長沢、藩士/故実/国学/歌) P 3 1 2 3  
清廻舎主人(きよのやしゅじん) → 弘記(ひろぶみ・近藤こんどう、神職/国学) J 3 7 6 2
- H1649 **清鑿**(きよのり・葛井ふじい) ? - ? 平安前期;漢学者/歌人、  
906「延喜六年日本紀竟宴和歌」入
- W1603 **清則**(きよのり・橘たちばな、清信男)?-? 平安後期廷臣;従五下出羽守、1147(久安3)蔵人、  
内匠頭たくみのかみ、石見守国房の外孫、袋草紙に清輔との対話入、  
橘成季なりすえ(古今著聞集の著者)の父
- D1649 **清範**(きよのり・藤原ふじわら、範康男)?-? 平安末鎌倉期後鳥羽院期蔵人/側近:隠岐同行、  
和歌所寄人、1201和歌所影供歌合参加/続後撰2首;492/1092、  
[空さゆるかつらの里のかはかみに契りありてや月もすむらん]、  
(続後撰;492/元久二年1205冬の月の夜和歌所の男達と大井河で河辺寒月を詠む)
- Q1613 **清令**(きよのり・賀茂/岡本、幼名鶴福、清善男)1635-1711<sup>77</sup> 山城愛宕郡の神職;新宮社祝/大膳大夫、  
正四下、1668「岡本清令日記」、「賀茂流神道三科前行次第」著、清茂きよかげの父  
[清令(;名)の通称]通称;隼人正/大膳大夫
- H1650 **清規**(きよのり・大沢おおさわ、春朔)?-? 上田秋成[1734-1809]の友人、1808「秋成書簡集」編、  
「文反古」編、秋成が井戸に捨てた原稿を拾い集めたという逸話がある
- Q1614 **清命**(きよのり・出浦いでうら、通称;正左衛門)?-? 江後期信濃の郷土史家、  
1800「甲越五戦記考正」、「信濃州郡郷沿革考」「更級少将村上源府君年譜」著
- T1659 **清憲**(きよのり・上杉うえすぎ、清常男)1792-1857<sup>66</sup> 母;きぬ子(歌人)?/備後沼隈郡鞆浦の商家;  
豪商大坂屋第9代/酢の調整・販売、歌人;1829(文政12)香川景樹門、熊谷直好と交流、

[清憲(；名)の通称/号]通称；平左衛門、号；閑鷗/対仙醉楼/望僊亭ぼうせんてい、

屋号；大阪屋、法名；養性望僊居士、清章きよあきみの父

H1651 **清矩**(きよりの・小中村こなかむら/本姓；紀、原田次郎八男)1821-9575 両親早世：

江戸商家小中村春矩の養子、1834改名；清矩/38家督、詩；置賜鼎斎・西島蘭溪門、歌・俳諧・茶、1852家督を子に譲渡、学問専念；儒；亀田鶯谷門/国学；村田春野・伊能穎則門、1855本居内遠門、1857紀州藩に招聘；61古学館頭取/63和学所勤務、「古事類苑」編纂委員長、1861「記紀歌類語」、「陽春廬やすむろ雑考」類聚国史統貂」著、維新後；東京大学教授、「鈴屋翁霊祭歌集」共作(作者7人の1/猿渡容盛ひろもり・小出宗之助・三輪義方らと)丹鶴叢書編纂参加、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[うかれめがうつし植ゑける桜花やがてあだなる名をや散らさん](大江戸倭歌；春296、吉原の遊びめが浅草観世音の御堂のあたりへ桜を多く植ゑけるを)、

[大原や雪に越ゆれば炭竈すみまに立つるけぶりも頼もしきかな](大江戸倭歌；冬1307)

[清矩(；名)の幼名/通称/号]幼名；栄之助、通称；金四郎/金右衛門/勘次郎/将曹、

号；東洲/陽春廬やすむろ

清則(きよりの・岩井) → 笠沢(りゅうたく・岩井いらい/源、儒者) F 4 9 1 3

清憲(きよりの・林) → 単山(たんざん・林はやし、儒者/詩) I 2 6 2 0

Q1615 **魚波**(ぎよは) ? - ? 俳；1773几董「明鳥あけがらす」1句入、

[花散て今やつゝじの吉野山](あけ鳥；233)

許梅(きよばい・高市) → 許梅(こめ・高市たけち/県主、壬申乱で託宣) F 1 9 8 9

1652 **拳白**(きよはく・草壁) ? - 1696 江前期俳人；芭蕉門、江戸住、奥州出身？、

1689師の細道旅に餞別吟；武隈松の句、89「四季千句」編、「馬蹄二百韻」編、

1683「虚栗」86「蛙合」入、88「続の原」3句入、[武隈の松見せ申せ遅桜](ほそ道；餞別吟)

Q1616 **虚白**(きよはく・柴田しばた、通称；忠四郎、別号；一鷗斎)?-1798 遠州白須賀の俳人；蝶夢の支持者、

1786蝶夢「遠江の記」入

D1650 **虚白**(きよはく；号、松堂；道号・恵喬えきょう；法諱)1773-184775 近江土山村臨濟僧；1778淡嶺門

1791諸国行脚；17年後帰郷/京東福寺・南禅寺住、東福寺住職、

俳諧；闌更門、「蔭涼園虚白句集」「蔭涼虚白家集」「東海東山日記」著、「梅林紀遊」編、

[巢の蜂やさはらばささん身の構へ](虚白句集)、

[虚白の別号] 蔭涼園/煨芋軒わいいうけん

虚白(きよはく；号) → 浄嚴(じょうごん；法諱・覚彦、真言律僧) S 2 2 2 2

虚白(きよはく；号) → 仙厓(せんがい；道号・義梵；法諱、臨濟僧/禅画) F 2 4 0 1

虚白(きよはく) → 曙庵(しやあん・神野、美濃派俳人) G 2 2 4 3

虚白(きよはく) → 南化(なんか；道号・玄興；法諱、臨濟僧) I 3 2 5 5

虚白軒(きよはくけん) → 宗室(そうしつ・島井、豪商/日記) H 2 5 6 6

虚白斎(きよはくさい) → 宗室(8世そうしつ・千せん、茶人/裏千家11世) H 2 5 6 8

虚白斎(きよはくさい) → 一窓(いっそう・鎌田かまた、心学者) D 1 1 7 8

虚白山人(きよはくさんじん、虚白上人) → 一蝶(いちぢやう・英、絵師) C 1 1 0 8

拳白堂(きよはくどう) → 長嘯子(ちやうしやうし・木下、武将/歌人) 2 8 2 3

虚白堂(きよはくどう) → 浄嚴(じょうごん、真言学僧) S 2 2 2 2

虚白堂(きよはくどう) → 蘇守(そもり・伊藤、棟燕閣/俳人) 2 5 8 1

巨璞堂(きよはくどう) → 市貢(しこう・吹山/次山、俳人) P 2 1 3 8

儀与八(ぎよはち・植木) → 無窮(むきゆう・植木うえき、詩人) 4 2 4 0

U1675 **清浜**(きよはま・鎮西ちんせい、清行きよゆき長男)1734-180875 信濃伊那郡鎮西野村の大山田神社祠官、

国学・歌；内山真竜門、歌人、

[清浜(；名)の通称]浄之助/大炊/大和守

☆神職鎮西家；清行一清浜一清凭きよてる一清宣(靱の屋)、

T1695 **清逸**(きよはや・川合かわい、)1819- ? 越後頸城郡直江津今町の国学者/茶人、

茶；庸軒流/子弟指導、殿村洗心の流れを汲む、数学；小林百嘯ひゃつぱ門、

[清逸(；名)の初名/通称/号]初名；祐貞、通称；和二郎、号；清逸せいいつ



- D1651 **清春**(きよはる・藤原・清業男/清隆の孫)?-? 南北期廷臣;正五下/丹後守/右馬助/女院藏人、歌人;新後拾集1071、  
[いつはりと思ひなせども言の葉やしばしも残る命なるらむ](新後拾遺;十二恋1071)
- H1652 **清春**(きよはる・近藤こんどう、通称;助五郎/助吾郎)?-? 江中期1704-36頃浮世絵師;音曲正本の版下、赤本咄本の版下/挿絵など、狂歌本/赤本を著作、1728「金之揮きんのざい」29「象のはなし」、1829「鼠の花見」「どうけ百人一首」/29赤本「ねこ鼠大友のまとり」31「酒餅論」外多数
- V1626 **清春**(きよはる・松宮まつみや、)1734-1756**早世23** 近江彦根藩士、和漢学・詩歌;竜公美きんえ門、歌;[彦根歌人伝・続寿]入、  
[清春(;)名)の字/通称/号]字;雲容、通称;五平、号;八枝
- Q1617 **清春**(きよはる・菱川ひしかわ、岩瀬/小野、名;広隆/可隆、字;文可)1808-77**70** 京役者/のち絵師、風俗画、田中訥言/浮田一蕙いっけい門/1833書肆高市志友の招きで和歌山住/同所松竹山房で没、「紀伊国名所図会」「四谷怪談」「一休諸国物語図絵」「変宅論」「天神記図会」「太平記図会」画、1832白雪山人「竹実記」画  
[菱川清春の通称/別号] 通称;俊蔵/彦三郎/魯七郎/彦三、菱川師宣5世を自称、別号;菱川清晴/半夢/睡斎/青陽斎/青楊斎/雪艇/仲昭/蕙泉いせん斎/林屋/白雲/竹石/米年/昭年/海響/桜塙/琴泉/鞠園/春窓/蕙崖/菊園/延年/文峰/碧田/蕙谷/梅軒/松溪/琴屋/琴谷/黄萃/汀海/雨山/鉄鑿/鉄幹/董庵/風外/水鏡山房/松竹山房/黄心居静幽(きよはる・富永) → 幸陽(しんよう・富永/長深/神墨、陽明学) 2 2 9 0
- Q1618 **炬範**(きよはん;法諱・浣溪かんけい;号)1645-1725**81** 浄土宗西山派西谷流;京東山禅林寺50世、「炬範法師詠草」「浄土論註直箋」、1721「無量寿経略箋」著  
巨帆(きよはん・児玉) → ト胤(ぼくいん・児玉こたま、神職/俳人) C 3 9 8 9
- H1653 **魚坂**(ぎよはん・金雨軒・堺屋四郎兵衛)?-? 狂歌、1729貞柳「家づと」編;桑魚跋
- U1613 **清彦**(きよひこ・菊池わきくち/旧姓;宇野、)1812-83**72** 豊後大分郡の国学者、尊攘家毛利空桑と交流、維新後;長野村の庄屋菊池家を継嗣;官林の民有化・用水路の開削など公共事業に尽力、日田県小属/西寒多ささむた神社禰宜、  
[清彦(;)名)の通称/号]通称;司馬平、号;五橋/西山外史
- T1635 **清彦**(きよひこ・前川まにかわ/難波)1836-1902**67** 備前児島郡の神職/権少教正上田及淵門/歌;平賀元義門、天神社神主前川清広(元義門)の同族、師の平賀元義は清彦を訪う途中に溝に落ち凍死したという  
清彦(きよひこ;名) → 尊鎮親王(そんちんしんのう、天台座主/書家) E 2 5 9 7  
清彦(きよひこ・須佐) → 建眞(たてざね・須佐すき、神職/国学者) X 2 6 6 3  
清彦(きよひこ・田村/照井) → 長柄(ながら・照井てるい、医/神/国学) G 3 2 6 0  
清彦(きよひこ・光石/中川) → 寛(ひろし・中川なかがわ/光石、神職/歌人) L 3 7 8 5
- H1625 **清久**(きよひさ) ? - ? 室町期尾張熱田神宮の神職、連歌;1423「熱田法楽連歌」連衆(1句)、  
[ひとり寝の物かと袖の露おきて](熱田法楽;二表7/秋の暁鳥の声の中の独り寝の涙、前句;建照;鳥こそさそへ秋のたまくら)
- U1645 **清久**(きよひさ・志水しみず) ? - ? 安桃江戸初期;山城綴喜郡の戦国武将、1569(永禄12)細川藤孝(幽斎/1534-1610)に出仕/歌人;幽斎門、豊前住、細川興元の勘気を蒙り息子達と一時加藤清正門/1602(慶長7)帰参;2千石/中津城を預る、細川家重臣、志水家の始祖、元五(伯耆/草辺与介)・九左衛門・要善院日富の父、  
[清久(;)名)の通称/号]通称;新之允/雅楽之助うたのすけ/伯耆、号;宗加(入道号)/幸斎
- Q1619 **清久**(きよひさ・鳥居とりい) ? - ? 江中期江戸日本橋小松町絵師;初世鳥居清満門、1751-72頃紅摺絵の役者絵/黒本挿絵、1752「男作三国志」62「倭歌須磨昔」画
- V1655 **清壽**(きよひさ・山田やまだ、)1810-1876**67** 信濃伊那郡の医者、国学;平田鏡胤門、  
[清壽(;)名)の通称/号]通称;治平/精蔵/文或ぶんいく/文郁、号;樗邑/樗園
- V1607 **清古**(きよひさ・平川ひらかわ、藩医田中宗恕5男)1816-83**68** 平川泰継の養子、肥後熊本藩士、儒者;横井小楠門、国学・歌;長瀬真幸まさき・林有通門、1840(天保11)藩校時習館寮生員、周礼を研究;朱子学偏狭学風を嘆く;「周礼考」著/藩校に洋学新設を主唱;「海防策」著、



維新後;1870藩主の侍講(藩儒)、

[清古(;名)の通称/号]通称;駿太、号;韓水/埴翁けんおう/埴翁たんおう

清久(きよひさ・金井) → 宗斎(そうさい・金井かない、歌人/連歌) K 2 5 9 3

清古(きよひさ・永井) → 精古(せいこ/あきひさ/きよひさ・永井ながい、神職/国学) B 2 4 3 4

T1681 清秀(きよひで・太田おた、通称;清兵衛、) ?-1730 筑後久留米の国学者

Q1620 清秀(きよひで・鳥居とりい、清満男?) ?- ?1772頃早世 江中期江戸絵師:初世清満門、「心げしょう」、  
1764「仇討武道物語」「車塚曾我物語」、「児もゝ太郎」「猫また又々珍説」「鼠桃太郎」著

清秀(きよひで・矢幡) → 太刀彦(たちひこ・矢幡やわた、神職/国学) 2 7 0 6

清英(きよひで・竹田) → 近江(3世おうみ・竹田、浄瑠璃) C 1 4 6 8

D1652 淨人(きよひと・県犬養宿禰あがたいぬかいのすくね) ?-? 755下総国防人部領使少目しょうさかん/万葉22首進歌

D1653 清人(きよひと・紀朝臣きのおそみ、国益男) ?-753 奈良期廷臣;文章博士/武蔵守、従六上、  
714(和銅7)2月10日詔により「国史」を三宅藤麻呂と共に選録(続日本紀六;元明期入)、  
721学業師範として賜賞、万葉四期歌3923(;746年元正太上天皇肆宴応詔賀歌)、  
[天の下すでに覆ひて降る雪の光を見れば貴くもあるか](万葉集;十七3923)

Q1621 清人(きよひと・菅原すがわら、古人男) ?-? 清公きよとも[770-842]の弟/平安初期廷臣;811従五下、  
大内記/主殿頭/大学頭、嵯峨天皇の親王時代の侍読、漢学/詩、経国集入

清人(きよひと・南小柿) → 寧一(やすかず・南小柿みながき/南、藩医) B 4 5 1 2

D1654 清仁親王(きよひとしんのう、花山天皇皇子)998?-103033? 父出家後誕生;冷泉院六皇子に擬す、  
母;平祐忠女、四品弾正尹/1028出家、1029詩会催、「神道心地相伝」著、歌;後拾遺847、  
[板間いたまあらみあれたる宿のさびしきは心にもあらぬ月を見るかな](後拾;847)、  
(詞書;月の夜中納言定頼がもとにつかはしける/定頼集入)

虚瓢(きよひょう) → 青人(あおんど・上島、俳人) 1 0 5 4

虚瓢(きよひょう・松下) → 為運(ためゆき・松下まつた、藩士/和学) Z 2 6 5 6

巨瓢子(きよひょうし) → 随斎(ずいさい・塩田、藩士/儒者/詩) 2 3 5 9

D1655 清衡(きよひら・藤原ふじわら、経清男)1056-112873 陸奥の豪族、平泉文化の基礎、中尊寺建立

U1663 清平(きよひら・高島たかしま、清矣きよなり男)1817-187862 讃岐高松藩士、国学者、

[清平(;名)の通称]通称;逸太郎

V1648 精平(きよひら・矢沢やざわ、通称;東平) ?-1879 信濃伊那郡阿島陣屋の旗本知久家家臣、  
国学者・歌人;遠山長嶺門

V1657 清平(きよひら・山根やまね、通称;斎宮/号;社園)1834-189562 石見美濃郡の神職、  
神道・歌;田中広道(貢)門/国学;福羽美静門、豊田村の柿本神社祠官

清平(きよひら・藤原) → 精古(せいこ/あきひさ/きよひさ・永井、神職/国学) B 2 4 3 4

清平(きよひら・石川) → 滄浪(そうろう・石川いしかわ、儒者) D 2 5 2 5

清平(きよひら・吉松) → 萬齡(かづなが・吉松よしまつ、藩士/国学) W 1 5 1 6

Q1622 清広(きよひろ・鳥居とりい、通称七之助) ?-?1776頃 江中期江戸堺町絵師:初世清満門、紅摺絵/挿絵、  
1755「伊勢参宮御利生」58「名月ひめ恋歌物語」、「みはへふんたん」「吉原源氏」「勘介嶋」著

V1656 清広(きよひろ・山田やまだ、通称;辰次、旧姓;日比) ?-1845 土佐の生/江戸の国学者

Q1623 清簡(清閑きよひろ・奥瀬おくせ、鹿内与吉郎男)1790-186071 奥瀬惣左衛門の養子/弘前藩士、  
勘定奉行/留守組番頭格用人/開港貿易論主張;1840津軽順承により排斥;塾居、  
儒詩;藩校稽古館の句読師/俳諧、「雲竜問答」「海備囊」著、

[清簡(;名)の字/通称/号]字;一学、通称;和次郎、号;龍洲/鶴友

T1634 清広(きよひろ・前川まえかわ、通称;左仲) ?-? 江後期;備前上道郡天神社神主、  
歌人;平賀元義の楯の舎塾入門、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入、  
児島の前川清彦(元義門)と同族

V1660 清恕(きよひろ・行友ゆきとも、)1824-190986 安藝佐伯郡の神職;豊田郡榊山八幡宮神職/国学者、  
[清恕(;名)の通称/号]通称;廉三、号;耻堂ちどう/橘里

清寛(きよひろ・中山) → 和清(かづきよ・中山なかやま、藩士/兵学者) M 1 5 1 7

U1633 清生(きよお/きよお・木場こば、)1817-189175 薩摩鹿兒島藩士、仕官前は私塾開設、  
大久保利通・西郷隆盛らと交遊;西郷の奄美配流の時は島詰目付として世話をする、

藩士;大坂藩邸留守居、維新後;宮内権大録/大阪府大参事、賀茂御祖かもみや神社宮司、歌人;八田知紀門、

[清生(;)名)の初名/通称/号]初名;貞信、通称;伝内/八郎、号;天湊てんそう

漁父(ぎよふ・南海) → 良経(よしの・藤原、詩歌) 4 7 1 6

D1656 虚風(きよふう) ? - ? 大阪俳人、雑俳・前句付、

1691江水「元禄百人一句」目録入/97閑水「ぬれがさ」入、

Q1624 御風(ぎよふう・高樹たかはし) ? - ? 大阪雑俳人;1757律中「耳勝手」入

Q1625 御風(ぎよふう・浅見あさみ、烏角斎)?-? 伏見の俳人;田鶴樹たづき[?-1778]門、

1776几董「続明烏」2句入

[わりなしや瘦せて餌え運ぶ親雀](続明烏;春之部147)

H1655 御風(ぎよふう・秋山あきやま、名;宇吉) 1795-1866 72 秋田藩士/町奉行、俳諧:渭虹門、

1819「俳諧法華」編/51「豊雪集」編、「鶴の雛集」著、

[御風の別号] 応齋/虫二房5世/俳聖堂/樸齋/逍遙亭、法号;松音院

御風(ぎよふう・荷田、羽倉) → 御風(のりかぜ・荷田かだ、国学) E 3 5 3 6

御風楼(ぎよふうろう) → 子琴(しきん・葛かつ/橋本/葛城、医/詩) B 2 1 6 9

御風楼(ぎよふうろう) → 言足(ことたり・大隈/大熊、商家/歌人) N 1 9 2 6

Q1626 清房(きよふさ・飯尾いお) ? - ? 武士/室町幕府奉行人/歌人、

1473雅康歌会/47甘露寺親長催「公武歌合」/87親長歌会参加、益田家への書状あり、

[にほの海や志賀の山風吹きおちて月のみふねをよするさゝ波](公武歌合;一番右)

H1656 清房(きよふさ・松木まつき) ? - ? 江前期伊勢神道家;神宮神職、1650「三社託宣鈔」著

T1646 清房(きよふさ・宮沢みやざわ) 1779-1864 86 信濃小県郡前山村大宮大明神社司/塩野神社神職、

国学・歌;本居宣長門、石井蔭信・斉藤眞蔭の師、

[清房(;)名)の別号/通称]別号;高建/正彦、通称;豊丸/盛助/中務/大膳/伊勢亮

Q1627 清房(きよふさ・山田やまだ、通称;泰助、号;静齋) 1811-80 70 上州馬山村和算家:市川行英門、

1829「奉納改正算法」、「初学算法」、「雑集算法」著

V1633 清房(きよふさ・三好よし、清明男) 1815-68 自害 54 母;菅生助六女もと、陸奥仙台藩士;学問修学、

1855(安政2)出入司兼公義使に抜擢;伊達慶邦の側近、蝦夷地警備責任者;

1859蝦夷地警護で失態;閉門、赦免;1862(文久2)若年寄;但木土佐ら佐幕派を支持;

尊攘派と対立;藩内政争の一因、大政奉還時に仙台藩軍勢を率い上洛;のち新政府に帰順、

帰藩後;新政府帰順・会津征伐を主唱;裏切りとして但木土佐ら佐幕派により糾弾、

1868(慶応4)自害、

[清房(;)名)の字/通称/号]字;顕民、通称;武三郎/監物、号;閑齋/不倚齋ふいさい

清房(きよふさ・藤原/坊門) → 信雅(のぶまさ・藤原/坊門、廷臣/歌人) D 3 5 2 5

清房(きよふさ・竹田) → 近江(初世おのみ・竹田、浄瑠璃) 1 4 0 8

清房(きよふさ・鎮西) → 初の屋(もみのや、鎮西ちんざい清宣、神職/国学) E 4 4 9 6

Q1628 清藤(きよふじ・上杉うえすぎ、清定男/本姓;藤原)?-? 1334 存 廷臣;後醍醐天皇に近侍、蔵人/内舍人、

正六位/式部大丞兼兵庫助/1334蔵人判官、歌;1330元徳二年八月御会参加、

清房・清春・清英の兄弟/業清の父、

連歌;菟玖波集入(後醍醐院節会に劍喪失;付句は紀宗基、重頼「犬子えのこ集」2581にも入)、

[御佩刀おんはかせたれつかの間にとりつらむ](菟;1454/付句;身をはいづくにおきつ白浪)

[さけばかつ光ぞまさる白露のたましく庭の秋萩の花](元徳御会;15)

T1637 清淵(きよぶち・中川なかがわ、通称;弾正) 1836-? 江後期;美作英多郡荒木田村林野庄の神官;神主2男、

巖いおの弟?、歌人;1857平賀元義の楯之舎塾入門、1857-58大沢深臣「巨勢総社千首」入

D1657 清文(きよふみ・大中臣おおなかとみ、敦清男)?-? 平安後期歌人、千載686、五位勾当、

[落つれども軒に知られぬ玉水は恋のながめのしづくなりけり](千載;恋686/涙の雫)

U1634 清文(きよふみ・児島こじま、) 1751-1821 71 播磨加古郡の絵師、国学;大国隆正門、

[清文(;)名)の字/通称/号]字;辻言(つじとき?)、通称;弥三郎/六蔵、号;蔵六

Q1629 清章(きよふみ・上杉うえすぎ、清憲男) 1813-1847 35 備後隈郡鞆浦の富商大坂屋10代目;酢の調製販売、

歌人;香川景樹門、「清章詠草」著、

- [清章の通称/号]通称;平左衛門、号;通仙、法号;仁嶽宗義居士(墓;頼勝音寺)  
 U1646 **清史**(きよふみ・塩谷/塩治しおのや、) 1832-9059 周防岩国藩士、国学・歌人;上林諸史門、  
 [清史(;名)の通称/号]通称;武四郎、号;雨香
- D1668 **魚文**(魚汶ぎよぶん・三級亭)?- ? 江中期1764-81頃江戸俳人:蓼太門、  
 1771「遅八刻」著、「立圃花見記」編、  
 [三級亭魚文の別号] 魚汶ぎよぶん/玄峯堂
- 居平(きよへい・坂井) → 居平(やすひら・坂井さかい、庄屋/国学/歌) F 4 5 9 3  
 魚平(ぎよへい・武笠) → 資建(すけたけ・武笠たけがさ、藩士/歌人) I 2 3 7 4  
 魚米庵(ぎよまいあん) → 振鷺亭(しんろてい・猪狩貞居) 2 2 3 2  
 居保(きよほ・菅原) → 居保(すえやす・菅原すがわら、馬術家) F 2 3 7 1  
 魚輔(ぎよほ) → 紹廉(しょうれん・小野、俳人) C 2 2 0 5  
 巨宝(きよほう・呉/五十嵐) → 竹紗(ちくさ・五十嵐/修姓;呉、絵師) D 2 8 0 2  
 鉦豊(きよほう;名・吉田) → 自休(じきゅう・吉田よしだ、外科医者) Q 2 1 1 5
- Q1630 **魚坊**(ぎよぼう・中島なかしま、英三男) 1725-9369 石見大田の歌人;広瀬晴信門/俳諧;田中五竹坊門、  
 出雲坂田村庄屋勝部家の食客/剃髪;美濃信濃行脚、京で芭蕉百回忌法要催(勝部家の支援)、  
 能書家、「しのぶ庵歌集」「唐詩五絶白挽歌」著、1779「夢のあした」編、  
 [魚坊の通称/別号] 通称;直五郎/茂平次、  
 別号;英川/英川/浄愚/鬪草子/徒然庵/しのぶ庵/潜魚庵/隣江庵/猿中/橘皮、
- 漁房(ぎよぼう・中西) → 大梅(だいまい・中西、伊勢屋、商家/俳人) K 2 6 9 5  
 去法師(きよほうし) → 去法師(さるほうし・南都、俳人) E 2 0 0 2  
 魚棚生(ぎよぼうせい) → 義右(よしすけ・熊谷くまがい/小林/西村、商家/藩支援) M 4 7 6 0  
 魚甫迂台(ぎよほうだい) → 迂斎(うさい・三浦みづら、商家/文筆) B 1 2 0 0  
 御牧(ぎよぼく・草野) → 御牧(みまき・草野/大神、藩士/歌人) F 4 1 8 1  
 巨木蔭(きよぼくいん・小島屋) → 正茂(まさもち・蒲がま、商家/国学/者) O 4 0 9 7  
 巨木蔭(きよぼくいん・小島屋) → 八十村(やそむら・蒲がま、正茂男/商/国学/歌) F 4 5 7 7  
 魚米庵(ぎよまいてい) → 振鷺亭(しんろてい・猪狩いかり、戯作者) 2 2 3 2
- D1658 **清雅**(きよまさ・鷹司たかつかさ、定長男/本姓藤原) 1284-? 1333存 母;中将忠雅女、廷臣;1308参議、  
 1316権中納言/正二位、前期京極派歌人、1303(嘉元元)歌合/伏見院三十首/05歌合に参加、  
 勅撰4首;玉葉259/2140風雅248/686、  
 [のどかなるいりあひの鐘は響き暮れて音せぬ風に花ぞ散りくる](玉葉;春259/夕落花)
- Q1631 **清正**(きよまさ・加藤かとう、清忠男) 1562-161150 尾張中村の武将;秀吉臣、熊本を居城に多くの戦功、  
 三成と不仲:東軍に味方/肥後熊本藩主、文芸/茶道;服部道巴を抱える、  
 「加藤清正掟書」「加藤清正書状」「朝鮮征伐記」/1599「朝鮮書簡」著、  
 1609昌琢と「漢和聯句」、  
 [清正の幼名/通称/法号]幼名;鬼若/夜叉丸、通称;虎之助、法号;浄池院
- H1657 **清正**(きよまさ・守部もりべ) ?- ? 江前期熱田神宮大内人、俳人、  
 1637熱田神宮法楽「熱田万句」頭人
- Q1632 **清昌**(きよまさ・石谷いしがや、幼名佐内、清全男) 1715-178268 母;海野治部右衛門女、旗本幕臣;  
 1731(享保16)將軍吉宗に出仕、1733小納戸;布衣許可/吉宗の放鷹の時鳥を射落;褒美、  
 1744(延享元)小姓;従五下備後守、家督継嗣/45西城勤務/1751吉宗没;解任/寄合、  
 1752西城小十人頭、53西城御目付/56佐渡奉行/59(宝暦9)勘定奉行/62長崎奉行兼任、  
 1767長崎より帰途に摂津河内の水害地域を巡検;畿内の収納を沙汰、  
 1770長崎奉行解任;下野都賀郡に300石の領地加算/75將軍家治日光参詣の宿場監視、  
 1775田安家家老を兼任/79(安永8)勘定奉行辞任;留守居/82致仕;寄合、  
 妻;新見正言女/後妻;森野の養女(大奥の侍女)、多門・清定・磯野政典妻・石谷因清妻の父、  
 1774「石谷備後守上書評議演説録」著、  
 [清昌(;名)の別名/法号]別名;左内、法号;日壽  
 ☆蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入集の[清昌]と同一?、  
 [袖がさにしのびし夜半も思ひ出でて老の寝覚に時雨をぞ聞く](大江戸倭:冬1065)



- U1671 **清正**(きよまさ・立神たつかみ、通称;佐渡守)1722-8261 備中笠岡の笠神社祠官/別当兼任/国学者
- Q1633 **清将**(きよまさ・高田たかだ) ? - 1788 尾張藩士/歌学:平間長雅門:望月長孝流を修学、  
1761「詠歌三儀秘訣」、「和歌詞心伝」編/「かなつかひ大概」著、  
[清将の通称/号]通称;林左衛門、号;仰風軒、法号;籌山良居士  
清正(きよまさ・藤原) → 清正(きよただ・藤原、廷臣/歌人) 1 6 4 6  
清正(きよまさ・藤原) → 肥前掾(ひぜんのかみ)・豊竹、浄瑠璃太夫/座本) C 3 7 5 2  
清政(清正きよまさ・藤原) → 肥前掾(ひぜんのかみ)・江戸、浄瑠璃太夫) C 3 7 5 1  
清雅(きよまさ・井上) → 寒鳥(かんう・井上いづえ、俳人) G 1 5 0 9  
清正母(きよただのはは) → 清正母(きよただのはは、藤原、歌人) D 1 6 3 1  
清正女(きよただのむすめ) → 清正女(きよただのむすめ・藤原、歌人) D 1 6 3 2
- D1659 **清倍**(初世きよまさ・鳥居とりい)?- ? 1715存 絵師、黒摺絵・役者・美人画、「象引」画
- D1660 **清倍**(2世きよまさ・鳥居とりい家2代目)1706?-63?58? 江戸芳町絵師、初世清信の女婿、初世清満の父、  
漆・紅摺絵の役者絵、門弟多数、1745挿絵「風流鱗魚退治」50「金平化け物たいぢ」画、  
1752「中昔犬の手柄」「男色鑑」/58「仇敵打出小槌」「清盛名所盃」/「班女が扇」「吉備大臣」画、  
[2世清倍の通称]半三郎/平三郎/四郎/弟四郎、法号;清巖院  
喜代松(きよまさ・梶原) → 景審(かげあきら・梶原かじわら、神職/国学) U 1 5 2 5
- T1596 **清丸**(きよまる・川合かわい)、1848-191770 伯耆河村郡の太一垣神社祠官;父を嗣、  
国学;加須屋武文門、維新後;1873大神山神社権宮司、  
神仏分離問題で東京へ;信仰・道徳心荒廃の風潮を嘆き宗教学を修学、禅;鳥尾小弥太門、  
宗教学思想家として神道・禅・儒学の三道を融合し日本の国教確立を企画、  
山岡鉄舟の援助で1888鳥尾小弥太・本莊宗武と[日本国教大道社]を設立、  
機関誌[大道叢誌]を執筆;反欧化主義・国家主義の一大勢力となる、  
著多数;「川合清丸全集」(橋本五雄編)に纏められている、  
[清丸(名)の字/号]字;子徳、号;山陰道士/加々/一如/穆々/惺々/無々道人
- D1661 **清麻呂**(きよまる・美努みの連むらじ)?- ? 藤原期廷臣:705従五下/706遣新羅大使/707帰国、  
708遠江守、大学博士、詩人;懐風藻1首;24
- 1653 **清麻呂**(浄万呂きよまる・中臣朝臣なかとみのあそみ/大中臣朝臣、意美麿おみまる男)702-78887 奈良期廷臣;  
743従四下神祇大副/751従五上/754左中弁/文部大輔参議/左大弁兼撰津大夫、  
神祇伯兼中納言/765従三位/771右大臣/正二位/781致仕、光仁天皇より信頼、  
長岡京遷都後も旧平城京右京二条坊に住、  
歌人;万葉四期歌5首:4258(;伝誦歌)/4296/4498/4499/4504/4508、  
[天雲あまぐもに雁そ鳴くなる高円の菽の下葉はもみち敢あへむかも](万葉;廿4296)、  
(天平勝宝五年753八月壺酒を掲げ高円の野に遊ぶ;大伴池主・家持と)
- D1662 **清麻呂**(きよまる・和気け朝臣、乎麻呂男)733-79967 備前藤野郡(和気郡)出身/廷臣;757頃兵衛、  
766従五下右兵衛少尉/近衛将監/宇佐八幡宮使;769宇佐神託事件で道鏡の皇位を阻止、  
そのため一時大隅に配流;別部穢麻呂と称す、称徳天皇没、  
光仁天皇即位により召還重用;民部卿;平安遷都奏上/造宮大夫・水利に功績、「和気譜」著、  
[清麻呂の別姓/別名]別姓;磐梨別公/藤野別真人/吉備藤野別真人、配流名;別部穢麻呂
- L1644 **清麿**(きよまる・山浦やまうら、信友2男)1813-54自害42 信濃小県郡赤岩村の郷士/名主の家、眞雄の弟、  
兄を慕い刀工、江戸住;[四ツ谷正宗]の称を得る、1854(安政元/42歳)突如自刃、  
[清麿(名)別名] 環たまき/正行
- U1673 **清麿**(きよまる・玉置たまおき、)? - ? 佐度賀茂郡武井の漢学者:円山溟北門、  
国学・歌;鈴木重嶺(1814-98)門、郷土の子弟教育、和漢学・語学に通ず、  
佐渡曼荼羅寺の若林秀直と並称される  
清麿(清丸きよまる・長嶺) → 将統(まさつぐ・長嶺ながみね、絵師/俳人) D 4 0 9 5  
清麿(きよまる・平岡) → 好貞(よしさだ・平岡ひらおか、神職/国学) O 4 7 7 6
- T1685 **清覧**(きよみ・興津おきつ、忠通男)1781-184767 江戸の幕臣、国学;清原雄風門、  
[清覧(名)の別名/通称]別名;忠美、通称;亥四郎/兵左衛門ひょうざえもん  
浄三(きよみ・文室ぶんや) → 智努(ちぬ、智努王/仏足石造/万葉歌) 2 8 1 5



- V1663 **清見女**(きよみじよ・吉田よしだ、)1779-184062 近江彦根の医者、歌人;[彦根歌人伝・続寿]入  
清水寺上綱(きよみずでらのじょうこう)→清範(せいはん・しょうはん;法諱、法相学僧) J 2 4 4 4  
清水堂主人(きよみずどうしゅじん)→友山(ゆうざん・川瀬/河瀬/菅原、神職/孝道) C 4 6 0 4  
清水律師(きよみずのりし) → 清範(せいはん・しょうはん;法諱、法相学僧) J 2 4 4 4  
清水理[利]太夫(きよみずりだゆう)→ 義太夫(ぎだゆう・竹本、浄瑠璃太夫) 1 6 1 8
- D1663 **きよみち**(朝臣・人物不祥)?- ? 平安前期廷臣;913亭子院歌合右方人で参加、
- Q1634 **清通**(清道きよみち・五島ごとう;号・本姓;増田、通称;勘蔵)?-? 大坂東町奉行付同心/天満南同心町住、  
戯作者/読本:1813「螢狩宇治奇聞」「和漢乃染分」著
- T1618 **清通**(きよみち・阿野あ/本姓;越智、通称;長十郎)?-? 江後期;歌人、藩士?、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[入江漕ぐ舟もさはらず枯れふして朝霜寒き蘆のしをれ葉](大江戸倭歌;冬1137/寒蘆)
- V1640 **清光**(きよみつ・水口みなくち/本姓;身人部むとべ、清之2男)1675-174470 京の廷臣;従五下/隨身、  
左近将監/隼人正、歌人;冷泉家入門、  
[清光(;名)の通称]左将監/隼人正
- Q1635 **清充**(きよみつ・水島みずしま、通称;石見守)?-? 江中期相模林郷三社神主、1735「中臣祓辨記」著
- D1665 **清満**(初世きよみつ・鳥居とりい家3代目、2世清倍きよます男)1735-8551 江戸難波町絵師;父門、紅摺絵、  
役者絵/挿絵、1752「猿塚物語」57「役者名物略姿」58「東伽羅夫」63「沖石水魚の筆始」、  
1765「佐々木三郎藤戸日記」67「鬼戯」70「京水染桜」78「奈良都八重桜」、「秀郷竜宮巡」外多数  
[初世鳥居清満の通称]亀次郎/半三、法号;広善院
- D1666 **清満**(2世きよみつ・鳥居とりい、鳥居家5代目、上絵師松屋亀次郎男)1787-186882 江戸の絵師;  
鳥居清長門、初世清満きよみつの孫(母;清満女えい)、1815清満襲名/鳥居家継承、  
錦絵/挿絵/看板絵(家業)、  
1806「朧月猫の嫁入」10「糸桜本朝文粹」11「本調子直糸筋」14「皿屋敷浮名染著」外面多数、  
[2世鳥居清満の通称/別号]通称;庄之助/亀次郎/亀次、初号;鳥居清峯きよみね、  
別号;清竜軒/言唇窩、法号;栄昌院
- 清光(きよみつ・小寺) → 清之(きよゆき・小寺こでら、神職/国学/歌) H 1 6 5 8  
清峯(きよみね・鳥居) → 清満(2世きよみつ・鳥居、絵師) D 1 6 6 6  
魚妙(ぎよみょう・鎌田) → 魚妙(なたえ・鎌田かまた、藩士/刀剣鑑定) G 3 2 6 4  
巨妙子(きよみょうし) → 大心(だいしん;道号・義統;法諱、臨濟僧) K 2 6 4 1  
御民(ぎよみん・泉) → 御民(みたみ・泉いずみ、歌人) B 4 1 0 0  
御民(ぎよみん・天野) → 御民(みたみ・天野あまの/藤原/冷泉、藩士) B 4 1 0 2  
御民(ぎよみん・秋元) → 安民(やすたみ・秋元/藤原、藩士/国学) B 4 5 9 5  
虚無斎(きよむさい) → 不角(ふかく・立羽たちば/山崎、江戸書肆) 3 8 0 3  
魚目道人(ぎよもくどうじん) → 高文(たかふみ・藤堂、藩国老/漢学者) D 2 6 6 9  
清基(きよもと・坊門) → 基輔(もとすけ・坊門ぼうもん/藤原、廷臣/歌人) C 4 4 6 8  
清元延寿太夫(きよもとえんじゅだゆう)→延寿太夫(えんじゅだゆう・清元初代) B 1 3 0 5  
清元延寿太夫(きよもとえんじゅだゆう)→延寿太夫(えんじゅだゆう・清元二代) B 1 3 0 6  
清元千年太夫(きよもとちとせだゆう)→芳勝(よしかつ・歌川うたがわ、絵師) C 4 7 8 9
- D1667 **清盛**(きよもり・平たいら、忠盛男)1118-8164 武将;保元平治乱で一門の地位確立/廷臣;1160参議、  
1167従一位太政大臣/68出家後も権力、娘徳子を入内/外戚権勢;専横、福原遷都・宋貿易、  
1164「平家納経」編(願文を付)、菟玖波集入  
[清盛の称/法名]称;平相国/浄海入道/平禅門/六波羅殿/六波羅入道、法名;清蓮/静[浄]海  
清盛女(きよもりのむすめ) → 建礼門院徳子(けんれいもんいんとくこ) D 1 8 2 8  
魚汶(魚文ぎよもん) → 魚文(魚汶ぎよぶん・三級亭、俳人) D 1 6 6 8
- Q1636 **鉦野**(きよや・牧野まきの、名;履)1768-182760 豊前大野井の農家/儒;片山北海・井上四明門、  
江戸芝赤羽橋で教授、詩人、1807「総常紀行」08「琉球百韻」書、14「鉦野詩集」、「庚午漫采」著、  
[鉦野の通称/別号]通称;泰輔、別号;芙蓉楼/松竹園、妻;市河米庵女、息子;桂叟
- D1669 **清安**(きよやす・山田やまだ、通称;一郎左衛門、二三次男)1794-1849自刃56 鹿兒島藩士、歌学;景樹門、  
国学/考証学;伴信友門、1841広敷用人/44京藩邸留守居役/47町奉行格;物頭役、  
藩主後継問題関与;露顕し自刃、「山田清安家集」「徳之島紀行」「阿知末佐考」「薩摩日考」、

- 「高千穂考証」「襲之高千穂二上峯考」「高野山紀行」「阿知末佐考」著、「作樂園遺稿」、  
 [清安の号] 秋園/桜園/作樂園さくらえん、  
 後妻 歌子 → 歌子(うたこ・山田やまだ/町田、桂園派歌人) D 1 2 0 1
- Q1637 清安(きよやす・鳥居とりい、通称;虎次郎/虎次)?-? 江後期文政天保1818-44頃江戸住吉町の絵師;  
 2世清満(清峯)門、肉筆画、俳書の挿絵、1837(天保8)「柳のかり植」著
- U1621 清保(きよやす・久保くぼ、)1797-1885 89 讃岐高松の国学者/歌人;友部方升まさのり門、  
 [清保(;名)の通称]斎兵衛/新八郎  
 清廉(きよやす・小松) → 帯刀(たてわき・小松、家老/日記) R 2 6 7 3
- Q1638 虚雄(きょゆう・小林、東風庵)?- ? 江後期上州新田郡徳田郷の俳人、1859「時鳥集」  
 許友(きょゆう・出島) → 天山(てんざん・出島、俳人) D 3 0 5 8  
 抛遊館(きょゆうかん) → 庵郊(りゅうこう・上田うえた、儒者/教育) D 4 9 8 5
- 1648 清行(きよゆき・安倍/阿部あべ、安仁男)825-900 76 廷臣;従四上蔵人/播磨・陸奥・讃岐守、  
 讃岐(歌人)の父、歌;小野小町と贈答(奥義抄)、袋草紙に歌学「清行式」あり(散佚)、  
 [およそ和歌は花を先とし実を後とし(中略)ただ花の中に花を求め玉の中に玉を扱ふ、  
 長く瓦礫の辞を抛て風月の思ひを先とす 云々](袋草紙;清行の和歌式)、  
 古今2首(456/556)、  
 [包めども袖にたまらぬ白玉は人を見ぬめの涙なりけり](古今;十二恋556)  
 (導師真静しんせい法師の話した法華経の白玉の語句を踏まえて小野小町に贈った歌)  
 女(娘) → 讃岐(さぬき、古今歌人) C 2 0 7 8
- 1649 清行(きよゆき・三善みよし、字;三耀、氏吉男)847-918 72 平安前期廷臣;873文章生/877越前権少目、  
 883対策/大内記/900文章博士:900-01「善相公辛酉勘文」(改元を求める)/901大学頭、  
 914式部大輔/従四上/「意見十二箇条」著、917(延喜17)参議/918宮内卿/播磨権守;没、  
 詩/算学/陰陽道、900「善家集」902「智証大師伝」1007「浄土寺念仏縁起」「藤原保則伝」著、  
 「革命勘文集」/「延喜格」編纂参、詩;扶桑・和漢朗詠・和漢兼作集等に20余首/文粹に7首入、  
 母;佐伯氏(嵯峨天皇孫娘?)、  
 [清行の幼名/通称/法名]幼名;文雄、通称;善居逸/善相公(善は一字姓)、法名;妙音、
- Q1639 清行(きよゆき・宮城みやぎ/初姓柴田/本姓藤原)?-? 江前期1688-1704頃京和算家;孝和門/破門?、  
 独自に宮城流創立、1689「明元算法」1695「和漢算法大成」著、「方円算経」編、  
 [清行の通称]理右衛門/外記、持永豊次・大橋宅清らの師
- U1674 清行(きよゆき・鎮西ちんぜい、)1698-1777 80 信濃伊那郡鎮西野村の大山田神社祠官、  
 神道;山住助太夫(遠江の山住神社宮司)門、歌人、  
 [清行(;名)の通称]伝之助/平右衛門/豊前  
 ☆神職鎮西家;清行一清浜きよはま一清凭きよてる一清宣(粃の屋)、
- U1694 清以(きよゆき・二宮にのみや/本姓;平、)1737-1801 65 薩摩鹿児島(薩摩)の国学者、歌;二階堂孝行たかゆき門、  
 [清以(;名)の通称]直右衛門
- H1658 清之(きよゆき・小寺こでら、別号;清光/字;光海、清先きよさき男)1770-1843 74 代々備中笠岡稻荷の祠官、  
 1781上京し神祇管領ト部氏に謁/99父に代わり祠務、国学・歌、1804江戸堀田家で紀を進講、  
 1806福山藩主に招聘;進講、「百人一首雪の朝」著、1815「備中名勝考」編/18「神職考」著、  
 1822清先「檜園集」編刊/37「老牛余喘初編」、「小寺清之和歌集」「備後名所考」「備中志」著、  
 [清之の通称/号]通称;敬蔵/主馬/監物、号;棟園/悠照居主人、顕之あきゆきの兄
- T1655 清行(きよゆき・岩間いわま、藤助宣安[理右衛門]男)?-1831 陸奥(陸中)盛岡藩士、岩間藤助家;  
 1816(文化13)家督継嗣、文政10二人加扶持/十駄四人扶持;大更新田奉行、  
 国学者/三輪派歌人、1831(天保2)没/宣道のりみち(平作/忠助理右衛門)が家督嗣、  
 [清行(;号)の通称]通称;忠助/宣将のりまさ
- U1691 清之(きよゆき・中川なかがわ、通称;才次、号;幸乃屋)?-1895 伊勢桑名の国学者・歌;富樫広蔭門  
 清行(きよゆき・大城/森田) → 桂園(けいえん・森田もりた、幕臣/儒者) F 1 8 3 0  
 渠陽(きよよう・山厩) → 洪(こう・山厩やまざし、医者) H 1 9 1 3
- D1670 清良(きよよし・長野ながの/本姓;源、通称;靱負ゆげい)?-? 江後期;江戸の田安家家臣;御用人、  
 国学;賀茂真淵(1697-1769)・田安宗武(1715-71)門、万葉研究、  
 1780「万葉集中六首歌画解」90「荒良言」1810「万葉集」、「花かつみ考」「常磐日記」著

- T1645 **清芳**(きよよし・池袋いけぶくろ、号;睡鷗)1793-186775 日向都城の国学者/清風きよかぜの祖父、歌人
- T1664 **清良**(きよよし・遠藤えんどう、)1822-189170 陸奥(陸前)志田郡松山町の僧/権大僧都/法印、  
のち神官/中講義、歌人
- U1679 **清禪**(きよよし・坪内つぼうち、)1831-188252 阿波徳島藩士;中老、国学;本居内遠門、  
[清禪(;)名]の別名/通称/号]別名;定衡/重岡、通称;主水/助平、号;冬蛙
- U1689 **清良**(きよよし・奈島なしま、)1839- ? 丹波桑田郡の大原神社神官、  
国学・神道;藤木保受(出雲神社禰宜/宮司)門、  
[清良(;)名]の初名/号]初名;有恒、号;心斎  
清宜(きよよし・竹田) → 出雲(3世いづも・竹田、浄瑠璃作者) B 1 1 0 1  
精義(きよよし・山本) → 青城(せいじょう・山本、家老/儒者) C 2 4 2 6
- U1639 **清因**(きよより・佐分利/佐分さぶり、通称;新右衛門)1812-8776 尾張一宮の里正/国学者、茂女の父
- 1654 **去来**(きよらい・向井むかい、名;兼時/幼名慶千代、医者元升男)1651-170454 肥前長崎の生、  
母方の久米升頭の養子、武道修学、1658上京;甲州軍学(弓馬)・神道・故実・陰陽道を修学、  
俳諧;芭蕉門、86嵯峨落柿舎住、篤実で師の信頼が厚い/1694芭蕉の看病/葬送に尽力、  
1691「猿蓑」編/94「吹寄の記」97「青根が峯」、99「旅寐論」「篇突論」著/1702「渡鳥集」編、  
「俳諧情」「青根が峯」「難陳抄」「去来抄」「去来三部集」「去来伊勢紀行」「去来文」著、  
「俳諧問答」著、追善「誰身の秋」(玄察編)、  
[花守はなもりや白き頭かしらをつき合わせ](1693巴水「薦獅子集」入)  
[去来の字/通称/別号]字;元淵、通称;喜平次/平次郎/平二郎/治郎太夫、  
別号;義焉子/落柿舎/大井里睡壁民  
兄;元端(げんたん、震軒)/弟;元成(げんせい、魯町)・牡年(ぼねん、久米利文)/妻;可南女(かなじょ)も俳人
- Q1640 **居来**(きよらい) ? - ? 江中期越中生地の俳人;1776樗良「月の夜」1句入、  
[山沢や水に涼しき女郎花](月の夜;72)  
去来庵(きよらいあん) → 宗賛(そうさん・去来庵、俳人) H 2 5 4 6  
去来庵(きよらいあん) → 漣々(初世れんれん・大久保、俳人) B 5 1 3 5  
魚楽(ぎょらく・藤岡) → 近方(ちかまさ・藤岡ふじおか、藩士/国学) N 2 8 4 0  
魚籃先生(ぎょらんせんせい) → 蒼人(ほうじん・鹿柴らくさい、漢文・狂文) B 3 9 8 4  
許六(きよろく) → 許六(きよろく・森川、藩士/詩画/俳人) 1 6 5 5  
巨立(きよりつ・福隣堂) → 湖鯉鮒(こりふ・便々館、狂歌) E 1 9 0 2
- H1659 **去留**(きよりゅう・津田つだ) ? - ? 江前中期の若狭小浜の俳人;信徳門、  
「青葉山」編、1776「風月集」留倫と共編、1690言水「新撰都曲」4句入、  
1691江水「元禄百人一句」1句/賀子「蓮実」1句入、  
[吹雪だつ我に笠なし山桜](百人一句;84/桜吹雪をまともに受ける)
- Q1641 **去留**(きよりゅう) ? - ? 江戸俳人;旨原[1725-78]門、1774美角「ゑぼし桶」入、  
[朝霜や鼠のかぢる舟の底](ゑぼし桶;51)  
去留(きよりゅう・池田/松平) → 冠山(かんざん・松平、藩主/和漢学/文筆) D 1 5 8 0
- H1660 **魚立**(ぎょりゅう、草軽楼、勝部) ? - ? 俳人・淡々門、青魚と同族  
魚竜(ぎょりゅう) → 玄碩(げんせき・里村、連歌) C 1 8 4 6  
御柳園(ぎょりゅうえん) → 亀洞(きどう・下郷/千代倉、学海、醸酒業/俳人) B 1 6 5 7  
魚寮(ぎょりょう) → 大潮(だいちよう;道号・元皓、黄檗僧/詩) B 2 6 8 8
- J1637 **居林**(きよりん) ? - ? 京の俳人;淡々門、1728柳岡「万国燕」7句入、  
[由良の戸を渡る目の関耳の関](万国燕;315/恋の道は人の目耳の関で行方も知らず)
- Q1642 **魚鱗**(ぎょりん・一本亭、植田うえだ重定) ? - 1824 大阪狂歌作者/挿花、1821「狂歌玉葉日記」編  
巨霊堂(きよれいどう) → 東鷲(とうしゅう・坂倉、俳人) E 3 1 9 0  
居歴(きよれき・山田) → 燧斎(ぞうさい・山田やまだ、儒者) B 2 5 5 7
- Q1643 **去暦女**(きよれきのむすめ・山田、通称;おあん) ? - ? 寛文1661-73頃没 80余歳 雨森儀右衛門の妻、  
[父山田去暦は初め石田光成家臣/家康の手習いの師;関ヶ原戦後派山内一豊家臣]、  
父と共に土佐住;雨森氏と結婚/夫没後は甥山田嘉助により支援を受、晩年子孫に体験談;  
「おあん物語」著



- H1661 **去路**(きよろ) ? - ? 江中期大和柳本の俳人、  
1763涼袋「古今俳諧明題集」62句入  
居路(きよろ・南部) → 居路(おきみち・南部なんぶ、歌人) D 1 4 0 1  
籩廬(きよろ) → 桃林(とうりん・籩廬きよろ、俳人) I 3 1 3 4
- 1655 **許六**(きよろく/きよりく・森川もりかわ、名;百仲ももなか、重宗男)1656-1715<sup>60</sup> 近江彦根藩士/1689家督、  
槍術/劍術、詩/画;狩野安信門;狩野派絵師、俳人;季吟門流・のち談林の田中常矩つねり門、  
尚白通じ其角・嵐雪門/1692江戸出府の際に芭蕉門;師より「柴門之辞」受/芭蕉の絵の師、  
1696「韻塞いんふたぎ」李由と共編、98「篇突へんつき」編、1706「風俗文選」「本朝文選」編/「雅楽集」、  
1712「正風彦根躰」編、去来と「俳諧問答」、「五老井発句集」「菊阿全集」、「俳諧許六伝」著  
[旅は風雅の花 風雅は過客かかくの魂 西行宗祇の見残しは皆俳諧の情なり](本朝文選)  
[十団子とをだごも小粒になりぬ秋の風](韻塞/五老井発句集/宇津の山を過ぎて)、  
[許六の字/通称/別号] 字;羽官、通称;五介ごすけ、  
別号;五老井ごろうせい・蘿月堂・風狂堂・黄檗堂・曇華台・巴東楼・是非斎・如石斎・碌々庵・  
黄斜庵・菊阿仏さくあぶつ・無々居士むむこじ・潜居士・婆樂樹林・一維道人
- Q1644 **鉅鹿**(きよろく・目々沢めめざわ、名;広生/字;子坤、樗軒男)1768-1848<sup>81</sup> 陸前佐沼邑主亙理家家老、  
儒;昌平黌入学;紫野栗山・尾藤二洲門/昌平黌舎長、  
「吟草」「安明什」「毛詩集疏」「鉅鹿吟草」「鉅六百首」「鉅鹿文稿」「東海漁唱」著、  
[鉅鹿の通称/別号]通称;勇/新右衛門、別号;百一翁  
許六(きよろく/きよりく・小寺)→ 玉晁(ぎよくちやう・小寺こでら、随筆家/俳)H 1 6 3 1  
鉅鹿(きよろく・宮本) → 元甫(元甫げんぼ・宮本/田結たゆい、蘭医)M 1 8 2 7  
虚路里(きよろり・忍岡) → 忍岡虚路里(しのぶがおかきよろり、狂歌) F 2 1 4 4
- T1680 **清別**(きよわけ・沖おき/大野おの、旧姓;三上/和気)1819-70<sup>52</sup> 備前岡山藩士、国学;大国隆正門、  
歌人;萩原広道・平賀元義門、古風の詠歌、  
[清別(;名)の通称] 市兵衛/十兵衛/左馬之丞  
清藁科河(きよわらのしながわ)→ 道雄(みちお・新庄/藤原、商家/国学者)B 4 1 2 6  
耆菜(きらい・藤原) → 明衡(あきひら・藤原、廷臣/詩文) 1 0 1 1  
熙頼(きらい・毛利) → 熙頼(ひろより・毛利もうり、藩士/記録) H 3 7 7 4  
宜来(ぎらい) → 蓼太(りょうた・大島/吉川、俳人) 4 9 2 0  
義頼(ぎらい/よしより・山名)→ 玉山(ぎよくざん・山名、幕臣/歌人) 1 6 4 0
- H1662 **淇楽**(きらく・鷺見屋さきみや)? - ? 大阪洒落本作者/狂歌/茶道、  
1794「廓回粹通鑑しまめぐりすいつがん」「臍のすじ書」、1816狂文「馬鹿文集」、「打納婚礼象戯」著、  
[鷺見屋淇楽の別号] 池のへ鷺見/古月庵(;俳号)
- Q1645 **喜楽**(きらく・佐々木ささき、)1752-1838<sup>87</sup> 伊予長浜の郷土史家、年寄役を勤める、  
隠居後;大洲領内で旧記・古事を調査・蒐集、1821(文政4)「積塵邦語」著、  
[喜楽(;号)の名/通称/別号]名;義行、通称;源三兵衛、/別号;立山亭
- H1663 **其楽**(きらく・楠里亭なんりてい、姓;小林こばやし、名;貞/字;高悦)1782-1860<sup>79</sup> 江戸の生、  
戯作;初め南仙笑楚満人そまひと門、1813(文化10)頃大阪で著述;大阪の播磨屋喜兵衛の養子?、  
1817南米屋町・難波新地三町の町代、読本作者、  
1817「懷宝万年暦」18「打出の浜」20「復讐美鳥林みどりのはやし」22「絵本二十四孝」24「英雄図会」、  
1830「忠孝二見浦」31「撰陽奇観天保山の部」34「大坂袖鑑」42「増補大坂町鑑」、「南窓野話」著、  
[楠里亭其楽(;号)の通称/別号]字;季六、  
別号;南地亭金楽/万器堂ばんきどう/陽木市隠/江陵山人
- K1643 **其楽**(きらく) ? - ? 江後期安藝阿賀の俳人;  
[いつまでもこの礎や庭の梅](短冊)  
喜楽(きらく・浮世) → 徳瓶(とくべい・橋本、筆耕/合巻作者) L 3 1 3 4  
亀楽(きらく・我家) → 我家亀楽(わがいえのきらく、狂歌作者) 5 3 6 7  
亀楽(きらく・馬淵) → 彰壽(てるひさ・馬淵まぶち、歌人) F 3 0 2 4  
其楽(きらく・坪内) → 平右衛門(へいえもん・坪内、藩士/文筆) 2 7 1 3  
其楽(きらく・吉井) → 直道(なおみち・吉井、礼法/地歴) C 3 2 5 7  
其楽(きらく・小川) → 為美(ためよし・小川おがわ、煎茶人/歌人) V 2 6 9 7



帰楽(きらく・田辺) → 整斎(せいさい・田辺/上毛野、藩儒/記録) B 2 4 5 2  
 季楽庵(きらくあん) → 幾世風(きせいふう・季楽庵、俳人) B 1 6 3 9  
 喜楽庵(きらくあん) → 幾千女(きちぢよ・堀田ほつた/松平、歌・書) V 1 6 1 6  
 棋楽庵碁甫(きらくあんらくほ) → 秀時(ひでとき・赤堀あかぼり、藩士/歌) L 3 7 9 3  
 其楽園(きらくえん) → 親審(ちかしば・堀、藩主/天保改革) 2 8 9 8  
 毅楽斎(きらくさい) → 直治(なおはる・堀尾ほりお、歌人) O 3 2 6 9  
 喜楽斎(きらくさい・浮世) → 浮世喜楽斎(うきよきらくさい、絵師) C 1 2 1 5  
 寄楽斎(きらくさい) → 今村寄楽斎(いまむらきらくさい、狂歌) D 1 1 9 9  
 喜楽坊(きらくぼう) → 蓮成(れんじょう;法諱、日蓮僧/歌人) B 5 1 5 3  
 鬼拉(きらち・自然亭) → 正岑(まさみね・宮下/源/宮/堀越、名主/歌人) H 4 0 7 4  
 鬼拉亭(きらつてい→きろうてい) → 力丸(りきまる・鬼拉亭/鬼粒亭、大阪狂歌師) 4 9 5 7  
 吉良助(きらのすけ・久世) → 御言(みり・久世くぜ、国学者) I 4 1 9 0

D1671 **鬼卵**(きらん・栗杖亭りつじょうてい、名;伊奈文吾/大須賀周蔵/平昌房/中山周蔵) 1744-1823 80 戯作者、  
 美濃加納藩領河内茨田郡佐太の陣屋の武士(伊奈文吾名);絵画/連歌/狂歌/俳諧に遊ぶ、  
 1779三河吉田住(大須賀周蔵名);三河俳壇(一瓢庵鬼卵号)/91幕領伊豆葦山代官の手代、  
 駿府住/遠州日坂宿に定住;煙草屋経営/絵師・読本作者として活動、長松院密仙に参禅、  
 1774「佐太のわたり」1803「東海道人物志」07「蟹猿奇談」08「蜻蛉巻」「浪華侠夫伝」、  
 1809「竹篋しつべい太郎」10「貞烈勇婦伝」「長柄長者黄鳥墳ながらちようじゅうぐいすつか」/12「今昔庚申譚」、  
 1813「初瀬物語」15「寄生木草紙」18「謡曲春栄物語」21「絵本更科草紙」外著多数、  
 [格言;世の中の人とたばこの善し悪しは煙となりて後にこそ知れ]、  
 [栗杖亭鬼卵(;号)の別号]栗杖亭鬼卵/一瓢庵鬼卵/陶山とうざん/陶山平知白/知白/仏卵、  
 法号;栗翁陶山居士

Q1646 **其瀾**(きらん・小川おがわ、名;肅/万) 1839-1862 早世 24 伊勢志摩儒者;和気太仲・松井万・齋藤拙堂門、  
 江戸で安積良斎・羽倉簡堂門/昌平饗入学;早世、「其瀾遺稿」、  
 [其瀾の字/別号]字;寛卿/万甫、別号;城山

Q1647 **祇蘭**(ぎらん・下野屋しもつけや、通称;十兵衛) ?-? 安永天明期1772-89頃江戸の札差、  
 二三治「十八大通」入

其瀾亭(きらんでい) → 必観(ひつかん・其瀾亭、俳人) C 3 7 6 7

Q1648 **熙利**(きり/ひろとし?・山名やまな、通称;左京亮さきょうのすけ) ?-? 戦国期武士/連歌;  
 1437自連歌合「宗砌判五十番連歌合」編

霧(きり;一字名) → 政家(まさいえ・近衛/藤原、関白/日記/歌) B 4 0 2 9  
 吉理(きり) → 吉理(きちり、連歌) L 1 6 3 7  
 季理(きり・藤原) → 季理(すえまさ・藤原ふじわら、連歌作者) B 2 3 4 5  
 喜理(きり・田辺) → 喜理(よしただ・田辺、家臣録編纂) E 4 7 2 8  
 基理(きり・園) → 基理(もとまさ・園その、廷臣/記録) E 4 4 3 1  
 基理(きり・米元) → 基理(もとまさ・米元よねもと、国学者) L 4 4 9 1  
 義里(ぎり・畠山) → 義里(よしさと・畠山はたけやま/源、奥高家) O 4 7 5 2  
 義理(ぎり・岡村) → 義理(よしさと・岡村、家老/軍事改革) D 4 7 4 3  
 義利(ぎり/よしとし・木下) → 台定(きんさだ・木下、藩主/文教奨励) R 1 6 0 2  
 義利(ぎり・千萱) → 義利(よしとし・千萱ちがや、神職/国学者) E 4 7 9 2

U1683 **桐子**(きりこ・戸塚とづか、旧姓;宇津木) 1697-1749 53 近江彦根藩家老戸塚勝正の妻、  
 歌人;[彦根歌人伝・鶴]入

S1643 **きりしま**(;組連) ? - ? 江戸牛込大久保の雑俳の組連、  
 取次;1766「錦桂評万句合」入、  
 取次例;[後家はまず蚊帳の広さを淋しがり](66錦桂評万句合/前句;まゝならぬ事々々)、  
 (伝千代女「起きて見つ寝て見つ蚊屋の広さかな」の句[実は長崎遊女作]と同想)

桐嶋筒治(きりしまとうじ) → 内新好(ないしんこう、俳人/戯作) 3 2 5 3

Q1649 **桐太郎**(きりたろう・佐々倉ささくら/初姓;結城、名;義行) 1830-75 46 浦賀奉行与力佐々倉家の養子、  
 幕臣、1853ペリーの応接方/55海軍伝習生;長崎留学/57軍艦操練所教授方/60遣米使随員、

咸臨丸運用方担当/帰国後1868軍艦役、1846「亜美利駕船渡来雑記」著

- D1672 **其律**(きりつ・永日庵えいじつあん、姓;久野くの、名;正貞) 1720-6041 江中期尾張名古屋の狂歌作者、油商橘屋の生、狂歌;秋園齋米都門/俳諧、1740-51頃名古屋文壇で活躍、桃縁齋貞佐・木端と交流、1746「狂歌秋の花」、「狂歌秋の月」「狂歌四季の花」編、「狂歌白川関」著、1751狂歌を捨てる、[永日庵其律の字/通称/別号]字;廉卿、通称;久左衛門/与四郎、別号;仰杏齋/蟠霜舎/兀齋

季立(きりつ・頼) → 杏平(きょうへい・頼、儒/藩士/詩) 1 6 3 8

- H1665 **義栗**(ぎりつ・円果亭えんかてい)?-? 江中後期大阪狂歌作者;栗柯亭木端門、1781「狂歌軒の松」編/82「絵本慰美草」/92「狂歌三の浜」95「狂歌蘆分船」編

義立(ぎりつ・奈良) → 松荘(しょうそう・奈良なら、詩人) K 2 2 5 6

桐乃院(きりのいん) → 広治(ひろはり・栗田あわた、神職/国学/歌) M 3 7 0 5

霧岡散人(きりのおかさんじん) → 道生(どうせい・武石たけいし、医/歌人) F 3 1 9 6

霧廼舎(きりのや) → 眞垣(まがき・湯田ゆた、国学者/歌人) T 4 0 6 3

桐廼舎(きりのや) → 兼善(かねよし・余目あまるめ、国学者・歌) P 1 5 1 0

梧之屋(きりのや) → 桐斎(とうさい・井上、儒/国学/詩歌) E 3 1 2 9

梧屋(きりのや) → 永平(ながひら・神谷かみや、製造業/国学) F 3 2 5 2

桐麿(きりまろ) → 桐斎(とうさい・井上、儒/国学/詩歌) E 3 1 2 9

桐麿(きりまろ) → 矩州(くしゅう・権本、俳人) 1 7 4 8

伎里之家(ぎりのや) → 悟庵(悟庵ごあん・半井なからい、医/歌学) 1 9 0 0

- H1666 **キ柳**(きりゅう) ?-? 江前期俳人:1694酒堂「市の庵」50韻入

- H1668 **亀柳**(きりゅう) ?-? 江前期俳人、1694泥足「其便」半歌仙入

- H1667 **嬉柳**(きりゅう) ?-? 江中期俳人、

1754潘山(百子)「しぐれの碑」(;貞因[貞柳貞峨の父]25回忌・貞峨13回忌追善集)入、[跡ともに時雨ぞ洗ふ故人の碑](しぐれの碑/墓参)

- D1673 **其流**(きりゅう) ?-? 下野野州黒羽の俳人、1793「茂々代草」編

- Q1650 **其竜**(きりゅう・牧原まさきはら、名;勝則/通称;奎三郎もくさぶろう)?-? 江後期大坂城門衛の騎士、俳人;月居門、焼画、1836「月居追善」編/36「漢和一篇」著、[其竜の別号] 五葉亭/如竜

紀隆(きりゅう/のりたか?・鈴木) → 桃鯉(とうり・鈴木、俳人) I 3 1 0 3

紀隆(きりゅう/のりたか?・長谷川) → 千四(せんし・長谷川、浄瑠璃作者/俳人) 2 4 3 1

紀隆(きりゅう・三好) → 紀隆(のりたか・三好、郷土史家) E 3 5 8 2

紀隆(きりゅう・福嶋) → 紀隆(のりたか・福嶋ふくしま、神職) E 3 5 8 3

紀流(きりゅう・葛上) → 忠昭(ただあき・葛上くずがみ、藩家老/地誌) P 2 6 0 8

起竜(きりゅう;唐名) → 盛命(せいめい・識名しきな/伊野波/毛、琉球三司官) D 2 4 0 0

起竜(きりゅう・向) → 朝置(ちようち・護得久ごえく、琉球廷臣/詩人) J 2 8 4 5

季竜(きりゅう・志筑) → 忠雄(ただお・志筑しづき/中野、蘭学者) E 2 6 8 5

季竜(きりゅう・松平) → 直克(なおかつ・松平まつだいら/有馬、藩主/国学) O 3 2 8 8

季隆(きりゅう・藤原) → 資隆(すけたか・藤原ふじわら、廷臣/歌人) C 2 3 2 9

季隆(きりゅう・本間) → 季隆(すえたか・本間ほんま、和算家) F 2 3 4 9

季隆(きりゅう・手島) → 季隆(すえたか・手島てしま、兵法家) B 2 3 8 0

喜隆(きりゅう・村上) → 喜隆(よしたか・村上むらかみ、和算家) E 4 7 0 0

基隆(きりゅう・後藤) → 基隆(もとか・後藤/藤原、武家/歌人) C 4 4 7 6

基隆(きりゅう・園) → 基隆(もとか・園その/藤原、廷臣/歌人) C 4 4 7 7

基隆(きりゅう・児島) → 基隆(もとか・児島こじま、絵師/神職/歌) J 4 4 9 6

暉隆(きりゅう・西郷) → 暉隆(てるたか・西郷さいごう、藩士/歌人) C 3 0 7 8

鬼柳(きりゅう・小川) → 好幸(よしゆき・小川おがわ、神職/国学) L 4 7 7 9

窺竜(きりゅう;号) → 亮衍(りょうえん;法諱・歙浦きゅうほ、修験) M 4 9 4 5

- Q1651 **義竜**(ぎりゅう;法諱・別諱;慧鏡えきやう/慧暁、如実庵) 1736-8247 和泉堺真宗大谷派専称寺住職、

- 1770高倉寮擬講、「御文幽意」「正信偈句義発隠」「選撰集録」、1779「阿弥陀経選要」著
- Q1652 **宜竜**(義隆ぎりゅう;法諱・慧彦えげん;字)1741-1821 81 真言律僧:筑後東林寺7世、河内教興寺兼務、沙彌戒:17641東林寺5世觀泉門/比丘戒:湯島靈雲寺光海門、1783「東林寺創立記」著
- Q1653 **義柳**(ぎりゅう;法諱・空誓くうよ;号)?-1829 京小松谷浄土宗正林寺住職、鎮西派円頓戒を弁ず、浄土律を批判、1787「向阿上人伝」編、「戒学先路」「浄土戒学織路」「円頓戒初開導」著
- 義竜(ぎりゅう/よしたつ・山名)→ 玉山(ぎよくざん・山名、幕臣/歌人) 1 6 4 0
- 義隆(ぎりゅう・大内) → 義隆(よしたか・大内/多々良、武将/歌/連歌) D 4 7 9 1
- 義隆(ぎりゅう・佐竹) → 義隆(よしたか・佐竹さたけ、/岩城、藩主) D 4 7 9 4
- 義隆(ぎりゅう・松平) → 義隆(よしたか・松平まつだいら/源、幕臣/和学) P 4 7 1 6
- 義隆(ぎりゅう・白石) → 義隆(よしたか・白石しらいし、国学/歌人) N 4 7 3 6
- 宜隆(ぎりゅう・三倉) → 宜隆(よしたか・三倉みくら、歌人) K 4 7 7 1
- 其流斎(きりゅうさい) → 亀貫(きかん・其流斎、俳人;雑俳) 1 6 8 8
- 杞柳斎(きりゅうさい) → 舞雪(ぶせつ・滝沢たきざわ、俳人) C 3 8 9 7
- 鬼粒亭(きりゅうてい/きろうてい) → 力丸(りきまる、大阪狂歌師) 4 9 5 7
- D1674 **其梁**(きりょう・水元みづもと、菴亭こうてい)?-? 和泉堺の俳人:淡々門、1768立几、1752「琴歌集」/62「淡々追悼集抄」編/68「続安達太良根」撰/73「四季俳諧集」著、追善集「其梁追善集」(;同門の里雄編)
- H1669 **其両**(きりょう・久野ひさの/のち平井ひらい)1724-93 70 筑前福岡藩士/1748(25歳)平井家の養嗣子、山目付・御開地奉行/郡目付など歴任/1788(天明8)致仕隠退、筑前篠栗俳人:浮風門/のち蝶夢門、諸九尼と親交、「諸九尼続発句集」編、飛梅下俳諧を主催、1784?「昔の小篋集」編、3回忌追善「さゝ栗の露」息未両・其朝編、[其両(;号)の名/通称/別号]名;一快/一庸、通称;清太郎、別号;其竜/壺長人、久野不容、法号;善寿院
- 息 → 未両(みりょう・平井一益、俳人) 4 1 4 8
- 其朝(きちょう・磯辺/平井、俳人) L 1 6 3 4
- Q1654 **葵陵**(きりょう・三谷みたに、名;堯民/通称兵助)?-1846 讃岐丸亀藩儒:加藤梅崖/巖村南里門/詩文、江戸藩邸集義館助教、「備魯西亜策」著
- 葵陵(きりょう・樋口) → 赤陵(せきりょう・樋口ひぐち、藩儒/詩文) K 2 4 5 4
- 季良(きりょう・安倍) → 季良(すえはる・安倍、楽人) F 2 3 5 6
- 季良(きりょう・大谷木) → 醇堂(じゅんどう・大谷木おおやぎ、儒者/随筆) K 2 1 3 4
- 季梁(きりょう・林) → 毛川(もうせん・林はやし、藩士/藩政改革) 4 4 5 9
- 気良(きりょう・土岐) → 道喜(どうき:法名、武人/法師) C 3 1 5 4
- 亀陵(きりょう;号) → 恵琳(えりん;法諱、真宗大谷派僧) E 1 3 3 6
- 希亮(きりょう/まれすけ・田鎖) → 鶴立斎(かくりゅうさい・田鎖たぐさり、藩士/絵師) K 1 5 5 9
- 基良(きりょう・栗田口) → 基良(もとよし・栗田口あわたぐち/藤原、廷臣/歌人) E 4 4 6 5
- 基量(きりょう・東園) → 基量(もとかず・東園ひがしぞの/藤原、廷臣/故実) C 4 4 2 6
- 輝良(きりょう・一条) → 輝良(てるよし・一条、廷臣/関白左大臣) D 3 0 0 6
- U1611 **義亮**(ぎりょう;法諱、月峯男)1800-65 66 京の画僧;洛東天台宗双林寺住僧(住持)、画;父(大雅堂月峯、池大雅門)門/山水・人物画、国学者;歌/俳諧を能くす、1832(天保3)頼山陽門;山陽(32歳)の肖像画を描く、[義亮の号]来青/長喜庵/大雅堂(;父の号)
- 義良(ぎりょう/のりなが;親王) → 後村上天皇(ごむらかみてんのう、南朝/歌人) D 1 9 9 1
- 義良(ぎりょう → よしすけ・斯波) → 義寛(よしひろ・斯波しば/源、武将/系譜) G 4 7 5 4
- 義亮(ぎりょう・松平) → 義亮(よしすけ・松平まつだいら/源、幕臣/歌) P 4 7 1 5
- 義亮(ぎりょう・里見) → 義亮(よしすけ・里見さとみ/石城、国学者) N 4 7 2 2
- 義稜((ぎりょう;法諱) → 祖稜(そりょう;法諱・伯師;道号、臨濟僧) E 2 5 5 3
- 祇良(ぎりょう・近藤) → 浩斎(こうさい・近藤こんどう、藩士/儒者) I 1 9 9 2
- 亀林(きりん・石井) → 暮四(ぼし・石井、俳人) E 3 9 1 9
- 貴林(きりん・安形) → 讚岐(さぬき・安形あがた、神道家) K 2 0 6 6
- 紀林(きりん・石井) → 文竜(ぶんりゅう・石井いい、俳人) G 3 8 6 9

- 鬼隣(きりん・小泉) → 友賢(ともかた・小泉こいずみ、医者/地誌) P 3 1 2 9
- S1635 義隣(ぎりん;法諱) ? - ? 1730存 天台叡山吉祥院僧/法印/1727大僧都、  
1727「東福門院尊儀五十回御懺法講記」、「宝永五年中堂正遷座次第記」著
- 義林(ぎりん・四方) → 春翠(しゅんすい・四方よも/源、書肆/絵師) L 2 1 2 1
- 義倫(ぎりん・中沢) → 義倫(よしとも・中沢なかざわ/源、幕臣/歌) G 4 7 6 2
- 義倫(ぎりん・小川) → 義倫(よしひと・小川おがわ、神職/皇典) G 4 7 4 5
- 義倫(ぎりん・佐竹) → 義遵(よしゆき・佐竹さたけ、藩士;城代) I 4 7 0 0
- 義隣(ぎりん・佐久間) → 義隣(よしちか・佐久間さくま、農業/国学) M 4 7 9 6
- 義鄰(ぎりん・杉本) → 義鄰(よしちか・杉本すぎもと、藩士/報告録) E 4 7 4 8
- 義鄰(ぎりん・近藤) → 峨眉(がび・近藤こんどう/藤原、儒者/書) P 1 5 2 0
- 愷林丈人(きりんじょうじん) → 休意(きゅうい・増田ますだ、農業/文筆家) M 1 6 2 5
- 義林房(ぎりんぼう;号) → 喜海(きかい;法諱・義林房、華嚴僧) F 1 6 0 7
- 義類(ぎるい/よしとも?・三浦) → 一舟(いっしゅう・三浦みうら、藩士/詩) H 1 1 3 1
- J1643 亀令(きらい) ? - ? 江戸俳人、沾州座点者、1754竹翁「董の的」8句入
- Q1655 亀齡(きらい・木村きむら) 1700 - 177475 江中期備後府中俳人;野坡門流、野橋やきつ兄、  
1764「ひらひつえ」/71「山岡紀行」著、芦道の伯父
- Q1656 箕嶺(きらい・梯かけはし、名;隆恭、久留米藩医牛島玄洞2男) 1768-181952 筑後の儒者;亀井南冥門、  
梯権助の養嗣/1788久留米藩校修道館教官/96明善堂で子弟教育/江戸藩邸で藩主の伴読、  
詩人、「孫子提要」「節会文字鎖註」著、「箕嶺遺稿」、  
[箕嶺の字/通称]字;季礼、通称;八百吉/伝
- 季礼(きらい・牛島/梯) → 箕嶺(きらい・梯かけはし、藩士/漢学者) Q 1 6 5 6
- 亀齡(きらい・竹林) → 万年(まんねん・竹林、商家/書家) K 4 0 8 1
- 亀齡(きらい・野津) → 基明(もとあき・野津のう、藩士/軍学) B 4 4 9 9
- 亀齡(きらい・小川) → 金義(かねよし・小川おがわ、藩士/歌人) T 1 5 8 3
- 亀嶺(きらい・万寿堂) → 雅敦(まさあつ・正宗まさむね、国学者/狂歌) B 4 0 1 6
- 義礼(ぎらい・堀野) → 松洲(しょうしゅう・堀野ほりの、儒者) J 2 2 5 6
- 義靈(ぎらい;字) → 道応(どうおう;法諱・義靈;字、真言僧) B 3 1 6 3
- 亀齡軒(きらいけん・莎来) → 莎来(さらい・亀齡軒、華道家) L 2 0 6 2
- 亀齡軒(3世きらいけん・斗遠) → 斗遠(とえん・亀齡軒、華道家) I 3 1 5 5
- J1624 亀齡洞(きらいどう・姓;雪松) ? - ? 大和法隆寺の人、俳人、1690言水「新撰都曲」4句入、  
[武蔵野や茅花つばな離るゝ朝雲雀](都曲;309)
- 亀齡道人(きらいどうじん) → 定雄(やすお・宮負みやおい、名主/農政) B 4 5 0 2
- 希烈(きれつ・梅辻/生源寺) → 希烈(まれつら・梅辻、神官/歌人) K 4 0 2 5
- 季連(きれん・小槻) → 季連(すえつら・小槻/壬生、廷臣/記録) B 2 3 8 7
- 季連(きれん・福崎) → 季連(すえつら・福崎ふくざき、藩士/歌人) J 2 3 1 1
- 季廉(きれん・藤井) → 懶斎(らんさい・藤井ふじい、藩医/儒者) 4 8 0 8
- 基廉(きれん・東園) → 基楨(もとえだ・東園ひがしぞの、廷臣/日記) C 4 4 1 7
- 義連(ぎれん・最上/井上/源) → 義連(よしつら・最上もがみ/源/井上、幕臣) K 4 7 8 3
- 義璉(ぎれん・壺井) → 義璉(よしつら・壺井つばい、里正/和学者) N 4 7 9 5
- 希魯(きろ・大脇) → 自笑(じしゅう・大脇おおわき/織田、幕臣) T 2 1 8 5
- 亀魯(きろ) → 南冥(なんめい・亀井) 3 2 3 7
- Q1657 宜路(ぎろ) ? - ? 俳;1773几董「あけ鳥」入  
[溜たまり水股またぐかけてや雲の峰](あけ鳥;202/踏み込んだ俄雨の水溜りに映る入道雲)
- 義路(ぎろ/よしみち・安田/山本) → 帯刀(たてわき・山本、藩家老/兵法) R 2 6 7 4
- 義路(ぎろ・綺田) → 義路(よしみち・綺田きだ/源/谷屋、藩士/歌) M 4 7 4 4
- 義路(ぎろ・佐竹) → 義路(よしみち・佐竹さたけ/源、藩士/歌) K 4 7 9 0
- 義路(ぎろ・生熊) → 義路(よしみち・生熊いくま、歌人) K 4 7 6 7
- 義路(ぎろ・大友) → 義路(よしみち・大友おとも/源/久世、旗本/歌) K 4 7 9 9
- 義路(ぎろ・黒瀬) → 義路(よしみち・黒瀬くろせ、商家/国学) M 4 7 6 4
- 義路(ぎろ・服部) → 義路(よしみち・服部はっとり、藩士/歌人) O 4 7 5 5



- 義路(ぎろ・熊野御堂) → 義路(よしみち・熊野御堂くまのみどう/高、国学)M 4 7 6 2  
 義路(ぎろ・高橋) → 義路(よしみち・高橋たかはし、歌人) N 4 7 7 2  
 喜老庵(寄老庵きろうあん) → 柏奚(はくけい・長江屋、俳人) C 3 6 9 9  
 鬼拉亭力丸(きろうていりきまる/鬼粒亭) → 力丸(りきまる、大阪狂歌師) 4 9 5 7
- H1670 騏六(きろく・武田/初姓;竹田、名;載紹、通称;笹屋長兵衛)?-1811 尾州清洲酒造業/俳人・暁台門、  
 1768「秋の日」7句入・序/校(自家秘蔵の荷兮かけい自筆七吟歌仙を中心)、  
 1790二条家より花の本宗匠を受、1792「ふくさかひ」1810「わらつと」編、  
 [騏六の別号] 福田舎/灌園かんえん、法号;諦教院たいきょういん
- 喜六(きろく・佐河田) → 昌俊(まさとし・佐河田さかわた、藩士/歌人) 4 0 1 5  
 喜六(きろく・三田) → 葆光(かほみつ・三田さんだ、幕臣/歌人) O 1 5 9 8  
 喜六(きろく・山本) → 北山(ほくざん・山本やまもと、儒者/詩人) 3 9 6 4  
 喜六(きろく・壺井) → 益春(ますはる・壺井つばい/山本、役人/国学)Q 4 0 9 8  
 喜六(きろく・宮崎) → 豊水(ほうすい・宮崎みやざき、坊官/記録) B 3 9 9 1  
 喜六(きろく・竹内) → 守命(もりのぶ・竹内たけうち/藤岡、神職/国学)K 4 4 4 5  
 亀六(きろく・畑井/蒔田) → 暢斎(ちやうさい・蒔田/田/秦/畑井、書家) I 2 8 3 7  
 亀六(きろく・菅野) → 恭厚(やすあつ・菅野かんの、儒者) 4 5 9 1  
 季六(きろく・小林) → 其楽(きらく・楠里亭なんりてい、戯作者) H 1 6 6 3  
 紀六(其六きろく・堀田) → 六林(ろくりん・堀田、恒山、詩/俳人) B 5 2 1 8  
 幾六(きろく・拾井/木内) → 石亭(せきてい・木内きくのうち/拾井、本草/愛石家)D 2 4 7 4  
 喜六郎(きろくろう・西山) → 昌秀(まさひで・西山にしやま、幕臣/和学) R 4 0 4 3  
 亀六郎(きろくろう・大島) → 為寵(ためちか・大島おおしま、藩士/歌人) W 2 6 1 4  
 驥六郎(きろくろう・高橋) → 顕(あきら・高橋、藩士/歌) E 1 0 2 1
- Q1659 義六郎(ぎろくろう・横山よこやま、元儀もとのり)?-? 加賀金沢藩士:「横山義六郎居屋敷拝領願等写」著  
 輝和(きわ・大河内) → 輝和(てるやす・大河内/松平、藩主/歌) D 3 0 0 3  
 季和(きわ/すえかず・賀来) → 飛霞(ひか・賀来かく、医者/本草家) 3 7 4 0  
 季和(きわ・北村) → 季和(すえかず・北村/源、歌人) L 2 3 1 0  
 宜和(ぎわ・高田) → 宜和(よしかず・高田たかた、国学/勸農家) C 4 7 5 4  
 義和(ぎわ・松平) → 明矩(あきのり・松平、藩主/学芸/詩) D 1 0 7 6  
 義和(ぎわ・松平) → 義和(よしより・松平/徳川、藩主/日記) I 4 7 0 5  
 義和(ぎわ・山本) → 通春(道春みちはる・山本やまもと、詩人) C 4 1 2 9  
 義和(ぎわ・佐竹) → 義和(よしまさ・佐竹、藩主/藩政改革) H 4 7 0 9  
 義和(ぎわ/よしかず・新田/佐久間) → 洞巖(とうがん・佐久間、儒/画/書家)C 3 1 3 1  
 義和(ぎわ・高田) → 義和(よしかず・高田たかた、国学者) C 4 7 5 5  
 義和(ぎわ・大鐘) → 義和(よしかず・大鐘おおかね、歌人) K 4 7 9 2  
 義和(ぎわ・奈良井) → 義和(よしまさ・奈良井ならい、歌人) O 4 7 1 0  
 義和(ぎわ・矢野) → 義和(よしかず・矢野やの/藤井、商家/藩士/国学)P 4 7 7 4
- Q1660 季麓(きわく・佐伯さえき、名;樸)?- ?1796前没 越中富山藩士/儒者:佐伯北溟・江村北海門、  
 詩人;1796「芙蓉楼詩鈔」著、  
 [季麓(;字)の通称/号]通称;八兵衛、号;芙蓉楼
- Q1661 きを(きお・浅井あさい、浅井喜太郎の妻)?-? 江戸の心学者・中沢道二どうに門、大奥女中に進講、  
 道二の教えを関東一円に広める、1789「道二翁前訓」著
- きん(下平) → きさ(象きさ・下平しもひら/片桐/林/小木曾、歌人)U 1 6 5 0  
 均(きん・安富) → 国民(くにたみ・安富やすとみ、国学者) C 1 7 8 7  
 均(きん・小神) → 富春(とみはる・小神おがみ、神職/歌人) O 3 1 9 3  
 均(きん・井田) → 澹泊(たんぱく・井田いだ、藩士/儒者) I 2 6 5 7  
 均(きん・安藝) → 眉山(びざん・安藝あき、医者) C 3 7 2 9  
 欣(きん・窪津) → 貞庵(ていあん・窪津/久保津/窪わ、医者) 3 0 2 4  
 勤(きん・魚住) → 勤(いそし・魚住うおずみ、藩士/国学者) F 1 1 8 7  
 勤(きん・村上) → 中所(ちゅうしよ・村上、儒者) G 2 8 2 7  
 勤(きん・加藤) → 天山(てんざん・加藤、藩校総司/儒者) D 3 0 6 0

勤(きん・川崎)	→	道民(どうみん・川崎、医者/写真術)	H 3 1 3 2
勤(きん・建部/杉田)	→	伯元(はくげん・杉田、蘭医者)	D 3 6 0 2
勤(きん・多湖)	→	貫斎(かんさい・多湖たこ、儒者)	Q 1 5 6 3
勤(きん・池野)	→	大雅(たいが・池/池野、絵;文人画)	B 2 6 1 2
勤(きん・村上)	→	中所(ちゅうしょ・村上むらかみ、藩儒)	G 2 8 2 7
勤(きん・飯川)	→	寥廓(りょうかく・飯川いいかわ、医者/故実)	G 4 9 8 8
勤(きん・谷)	→	勤(いそし・谷たに、藩士/神職/歌人)	K 1 1 4 2
瑾(きん・板部/渋川)	→	虚庵(きょあん・渋川/板部/万里小路/王、絵師)	N 1 6 0 8
謹(きん・富山)	→	方亭(ほうてい・富山とみやま、医者/詩人)	C 3 9 3 5
謹(きん・中)	→	石水(せきすい・中なか、書家)	K 2 4 2 9
謹(きん・水谷)	→	川柳(6世せんにゅう、5世男/川柳作者)	2 4 4 4
謹(きん・寺門)	→	先行(せんこう・寺門てらかど、藩士/儒者)	M 2 4 2 7
欽(きん・大森)	→	快庵(かいあん・大森おおもり、儒者/詩人)	H 1 5 1 2
欽(きん・荒井/矢田部)	→	卿雲(けいうん・矢田部/荒井、蘭学)	F 1 8 2 7
欽(きん・岡田/岡田)	→	煌亭(こうてい・岡田/岡田おかだ、儒者)	G 1 9 4 0
欽(きん・唐崎)	→	広陵((こうりょう・唐崎からさき、儒者/詩人)	G 1 9 4 4
欽(きん・佐久間)	→	熊水(ゆうすい・佐久間さくま、儒者/詩人)	C 4 6 8 1
欽(きん・渡辺)	→	昌亭(しょうてい・渡辺わたなべ、医者)	K 2 2 9 7
琴(きん・山本)	→	氏之(うじひき・賀茂/山本、神職)	C 1 2 6 1
琴(きん・柴山)	→	老山(ろうざん・柴山/菅原/菅、儒/詩)	5 2 3 1
琴(きん・大堀)	→	琴(こと・大堀おおほり、歌人)	Q 1 9 5 6
琴(きん・原)	→	琴(こと・原はら/佐々木、歌人)	R 1 9 1 8

U1676 銀(ぎん・鎮西ちんぜい、旧姓;近藤) 1771-1847 77 信濃伊那郡の生、歌人、

鎮西野村大山田神社祠官鎮西清凭きよてるの妻/鎮西清宣きよのぶ(靱の屋)・木沢津多つたの母、

夫 → 清凭(きよてる・鎮西ちんぜい、神職/国学/歌) S 1 6 5 0

息子 → 靱の屋(もみのや、鎮西清宣きよのぶ、神職/国学) E 4 4 9 6

息女 → 津多(つた・木沢きざわ、歌人) 2 9 0 8

H1671 金阿(きんあ) ? - ? 連歌、1452「宝徳千句」第七発句何木

吟阿(ぎんあ・阪) → 昌功(しょうこう・阪/坂さか;4代目、連歌師) S 2 2 1 6

U1644 公允(きんあえ・三条西さんじょうにし、通称;徳丸、季知男) 1841-1904 64 京の廷臣;左近衛権少将、国学者、安政勤王八十八廷臣の1、伯爵/東京住、大島神社大宮司

D1675 公顕(きんあき・今出川いまでがわ/本姓藤原、菊亭、西園寺実兼男) 1274-1321 48 母;花山院師継女、西園寺家の今出川殿を伝領、廷臣;1290(正応3)従四上参議;左中將・皇后宮権大夫兼任、1291従三位権中納言/93正三位/96従二位/97正二位/98権大納言;1312辞職、1315従一位新院琵琶秘曲御伝受賞/16内大臣/17右大臣;18辞職、琵琶;後伏見院に秘曲伝奏、「公顕卿記」著、西園寺公衡の弟/兼季の兄、歌人;京極派、1303嘉元百首/20文保百首/15京極為兼[詠法華経和歌]参加、藤葉集3首入、勅撰24首;新後撰(303/437/1061下5首)続千(7首)風(2首)新千(2首)新拾・新続古(各1首)、[たちこむる霧の籬の朝明けに庭のま萩の花ぞしをるる](新後撰;秋303)

[文保三年(1319)百首歌奉りけるとき、

ふるとしの雪けぬめりいましこそ若菜つむらめ春日野の原]、

(文保百首705/藤葉;春15)、

妻も歌人 → 公顕室(きんあきのしつ今出川、歌人) D 1 6 7 6

Q1662 公詮(きんあき/きんり・今出川いまでがわ/本姓藤原、菊亭、初名;清季、伊季男) 1696-1731 36 廷臣、

兄公香没後家督、1723権大納言/28春宮大夫/29正二位、

1729「伊勢一社奉幣次第」、「公詮卿記」著

Q1663 公明(きんあき・正親町おぎまら、実連男/本姓;藤原) 1744-1813 70 廷臣/母;広幡豊忠女、

公通の孫、1768参議/72賀茂伝奏/76大歌所別当/79権大納言/90院別当/1803致仕出家、

「公明卿記」「公明雑記」「伊勢外六冊」「唱和二詠」「詠御遊具和歌」著、

1761「賀茂祭使記」73「春日祭参行記」著、

[公明(；名)の初名/号]初名；公功、出家号；竟空、法号；恵明院

- D1676 **公顯室**(きんあきのしつ・今出川いまでがわ、源具守女) ?-? 鎌倉期歌人、今出川右大臣の室/従二位、  
勅撰2首；続千載1979/風雅1401、西華院の妹？、  
[いまさらに捨つとも何か惜をしからんもとより世にもある身ならねば](続千；1979)
- S1659 **公明**(きんあきら・藤原ふじわら、周防守行能男) ?-? 平安前期廷臣、母；良貞女or良真女、有実の孫、  
従五下/伯耆守、涼風の父、父行能ゆきよは921[醍醐御時菊合]参加の歌人、  
歌人；956坊城右大臣師輔歌合参加、  
[女郎花をみなへし常より色のことなるは野辺の草ばも心あるらし](師輔歌合；女郎花左)
- D1677 **公明**(きんあきら・三条/正親町三条おおぎまちさんじょう/九条、実仲男/本姓藤原) 1281-1336<sup>56</sup> 鎌倉後期廷臣、  
母；藤原経俊女、1296若狭権守/97左少将/1316修理大夫/18蔵人頭/19参議/22勘解由長官、  
1324権中納言・侍従/正二位/31元弘乱で捕縛/32還任；兵部卿/34大藏卿/36権大納言、  
歌人；徳治百首/1323亀山殿百首(24首)/24石清水社歌合参、小倉実教[藤葉集]4首入、  
徒然草103；医者丹波忠守を謎にする逸話入、菟玖波集；2句入、  
勅撰12首；続千載(607/1508)続後拾(299/1011)新千(111/464/1055/1369/1851)以下、  
[神無月吹くや嵐の山高み雲にしぐれて散る木の葉かな](続千；冬607)、  
[元徳二年(1330)八月十五夜内裏五首歌に、  
くるるより心も空にまたるるは秋のなかばの山の端の月](藤葉；秋224)、  
[公明の初名/法号]初名；公忠、法号；定心院対鏡道円  
娘も歌人 → 公明女(きんあきらのむすめ、歌人)
- V1678 **公明女**(きんあきらのむすめ・三条/正親町三条/藤原、) ?-? 鎌倉南北期；権大納言公明(1281-1336)女、  
歌人；1345小倉実教[藤葉集]入、  
[そま川の浅き瀬にこそうき人の心もひかぬくれは見えけれ](藤葉；恋481)
- D1679 **公篤**(きんあつ・名越なごえ/家名；北条、名越篤時あつとき男/本姓；平) ?-1333 武家；遠江守、時見ときみの弟、  
歌；「柳風和歌抄」入、玉葉集1923、  
[つれなくぞ待つばかりける郭公ねぬ夜の月の明がたの空](玉葉；1923)
- D1678 **公敦**(きんあつ・三条/正親町三条おおぎまちさんじょう、実音さねおと男/本姓藤原) ?-1409 室町期廷臣；右中將、  
1395(応永2)正四下参議/99権中納言；従三位/1405権大納言；辞任/06正三位/07従二位、  
歌；1407後小松天皇主催「内裏九十番歌合」参加、1400菊葉集；5首入、  
[今ははや露をば霜におきかへてあらぬ宿りの月の影かな](九十番歌合；五番右)
- Q1664 **公敦**(きんあつ・三条/転法輪三条、実量さねかず男/本姓藤原) 1439-1507<sup>69</sup> 廷臣；1477従一位79右大臣、  
1481周防で出家；大内政弘で歌道指導、自邸で歌会催、「三条公敦五十首和歌」著、  
連歌；宗祇/兼載/雪舟等と交遊、新撰菟玖波集11句(発句4)入  
[公敦の号/法名] 号；大虚/槐下桑門、 法名；祥空、法号；竜翔院
- T1619 **公篤**(きんあつ・河口かわぐち) ? - ? 江後期；歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[神無月しぐれしあとの庭たづみ落葉をとちて氷初めけり]、  
(大江戸倭歌；冬1157/氷初結)、  
[涼しげに見えこそわたれ白鷺のみの毛ふかるる加茂の河風](同；雑1790)
- 金阿弥(きんあみ・梅津) → 政景(まさかげ・梅津/藤原、藩家老/日記) B 4 0 6 9  
公有(きんあり) → 公有(きんあり・藤原/清水谷、歌人) E 1 6 5 1  
近安(きんあん・春木) → 近安(ちかやす・春木はるき、神職/国学者) N 2 8 3 4  
菫庵(きんあん) → 春甫(しゅんぽ・村松、俳人/絵師) K 2 1 4 4  
菫庵(きんあん) → 世平(つぐひら・武居たけい、歌人/狂歌) 2 9 8 2  
芩庵(きんあん・小野) → 職愨(もとよし・小野おの、本草家) E 4 4 8 0
- H1672 **菫庵退二**(きんあんだいじ) ? - ? 美濃大垣の狂歌作者、1785「後万載」87「才蔵集」入、  
鴉山「撃壤歌集」入、  
[貧民の飢えたる腹へほどこしのかゆい所へ手のとゞく慈悲](徳和歌後万載集；雑686)、  
(詞書；なりはひあしきとし粥の撰待するを見侍りて)
- 欣為(きんい・贅川) → 良以(よしもち・贅川にえかわ、儒/地誌家) O 4 7 3 2  
錦衣(きんい・菊池) → 長良(ながよし・菊池きくち、和算家) G 3 2 4 6  
錦衣山人(きんいさんじん) → 夏繁(なつげ・前田まへだ、幕臣/国学者) G 3 2 6 7

- 吟市(ぎんいち・金子) → 楚常(そじょう・金子かねこ、俳人) D 2 5 8 7
- U1654 **金一郎**(きんいちろう・関島せきじま、) 1839-70 処刑 31歳 信濃伊那郡の農民、尊攘派志士、  
国学・歌・神道;権田直助門、国学・神道;京で神祇伯白川家入門、太政官出仕、  
1869(明治2)長州藩士神代直人らと京都三条木屋町の宿舎に大村益次郎を襲撃、  
1870(明2.12月)処刑(梟首)  
[金一郎(名)の通称]通称;初弥/徳右衛門
- 金一郎(きんいちろう・肥田) → 春安(はるやす・肥田ひだ、神職/蘭医/歌) K 3 6 6 9
- 謹一郎(きんいちろう・古賀) → 茶溪(さけい・古賀こが、幕府儒官) G 2 0 1 4
- 欽一郎(きんいちろう・内藤) → 忠周(ただちか・内藤ないとう/藤原、幕臣/歌) U 2 6 5 3
- Q1665 **公純**(きんいと・徳大寺とくだいじ、鷹司たかつかき輔熙男/本姓藤原) 1821-83 63 母;醍醐輝久女の信子、廷臣、  
徳大寺実堅の養嗣子、1857議奏/63右大臣/従一位、安政大獄で嫌疑;致仕/62国事御用掛、  
公武合体派中心/72隠居、「改元難陳類聚」編、「公純公記」著、実則の父
- 欽尹(きんいん・篠田/土岐) → 霞亭(かてい・土岐とき/武、医者/詩文) H 1 5 5 0
- 近殷(きんいん・大和) → 篤(あつし・大和だいわ、藩士/歌人) H 1 0 9 2
- 近院大臣(きんいんのおとど) → 能有(よしあり・源みなもと、右大臣、歌人) 4 7 0 2
- 近院右大臣(きんいんのみぎのおほいまうちぎみ) → 能有(よしあり・源、右大臣、歌人) 4 7 0 2
- H1673 **琴宇**(きんう) ? - ? 尾張の俳人;暁台門、1768-72暁台「秋の日」6句入、  
1774美角「ゑぼし桶」1句入、  
[隈くまによりてくまなき月に歩むかな](ゑぼし桶;89/物陰を選びつつ曇りない月を眺)
- 権宇(きんう・昌谷) → 千里(せんり・昌谷さかや、藩士/儒者) G 2 4 8 0
- 吟雨(ぎんう・堀田) → 正高(まさたか・堀田/紀、藩主/本草家) D 4 0 1 8
- 金雨軒(きんうけん) → 魚坂(ぎよはん、狂歌) H 1 6 5 3
- 金羽山人(きんうさんじん) → 米庵(べいあん・市河、儒者/詩/書家) 2 7 0 0
- Q1666 **公氏**(きんうじ・三条/正親町三条、実房男) 1182-1237 56 正親町三条家の祖/廷臣;1211参議、  
1223正二位/31権大納言、1213「公氏卿記」17「西郊外記」「健保五年雜記目録」、  
[公氏の通称] 三条大納言
- 銀雨亭(ぎんうてい) → 翠兄(すいけい・杉野すぎの、俳人) 2 3 4 4
- 金雲(きんうん・森谷) → 倭雲(わうん・森谷もりたに、神職/国学者) 5 3 9 0
- Q1667 **公兄**(きんえ・三条/正親町三条おおきまちさんじょう、法名;紹空、実望男) 1494-1578 85 廷臣;1518参議、  
1551正二位、1554内大臣:出家、  
和漢聯句;1551「天文十九年入道前右大臣入道宮等漢和聯句」参加
- E1687 **公美**(きんえ/きみえ・きんよし・龍りゅう/たつ/たつの、別名;美/元亮、本姓;武田) 1714/5-92 79/78 山城伏見の人、  
学問に志、儒/詩;宇野明霞門、1738京烏丸に開塾、1750-74彦根藩士;文学/74致仕;  
京に詩社幽蘭社結、国学/歌;40歳頃真淵門、1748「仄韻礎」53-95「草廬集」54「金蘭詩集」、  
1769「草廬辞略」75「典詮」78「草廬峯の残」79「艸廬木每廼花」「ならの葉」/83「草廬路之記」  
1787「詩文玉藻」編、91「鳳鳴館詩集」、「草廬和文集」「草廬和歌集」「問ひ答へ」「北遊草」、  
「南海草」「昼錦集」「幽蘭琴譜」「あますて草」「かりそめ草」「草廬いそのたまも」外著多数、  
[公美(;名)の字/通称/号]字;君玉/子明/子宝、通称;衛門/元二郎/彦二郎、  
号;草廬そうろ/竹隠、吳竹翁/明々窓/緑蘿洞、鳳鳴/松菊主人
- 忻恵(きんえ;法名) → 行春(ゆきはる・二階堂/藤原、武家/歌) F 4 6 3 2
- 金英(きんえい・牧野) → 貞喜(さだはる・牧野/源、藩主/諸芸) J 2 0 3 7
- 琴影鏡光書院(きんえいきやうこうしやいん) → 遠影(ととおかげ・丁野ちやうの、藩士/歌) V 3 1 7 5
- 金英社(きんえいしゃ) → 梅七(ばいしち、俳人) B 3 6 4 1
- 欽英書屋(きんえいしよおく) → 重春(しげはる・渡辺、神職/国学・歌学) C 2 1 8 7
- 金衛門(きんえもん・今井) → 紐蘭(ちゆうらん・今井、藩奉行/俳人) G 2 8 9 2
- 金右衛門(きんえもん・岡野) → 放水(ほうすい・岡野、赤穂浪士/討入/俳) B 3 9 8 9
- 金右衛門(きんえもん・永原/竹田) → 昌忠(まさただ・竹田/永原、藩士/儒) D 4 0 4 9
- 金右衛門(きんえもん・柴田) → 紫秋(ししゅう・柴田しばた、儒者/兵法家) D 2 1 8 2
- 金右衛門(きんえもん・杉山) → 宜衰(よしなが・杉山すぎやま、家老/郷土史) F 4 7 3 0
- 金右衛門(きんえもん・北川) → 正種(まさたね・北川きたがわ、藩士/歌人) L 4 0 6 2



金右衛門(きんえもん・稲毛屋)→ 東作(とうさく・平秩へつ、戯作/狂歌) 3 1 1 3  
 金右衛門(きんえもん・和泉屋)→ 玉巖(ぎよくがん・太田おた、書肆/目録) O 1 6 8 6  
 金右衛門(きんえもん・海老屋)→ 鳳石(ほうせき・海老屋、俳人) C 3 9 0 3  
 金右衛門(きんえもん・山本)→ 昌預(まさやす・春日かすが/山本/加藤、町役/歌) P 4 0 6 9  
 金右衛門(きんえもん・鈴木)→ 由儀(ゆうぎ・鈴木すずき、俳人) B 4 6 1 2  
 金右衛門(きんえもん・立川)→ 政峯(まさみね・立川たちかわ、歌人) Q 4 0 8 3  
 金右衛門(きんえもん・岩窪/呉)→ 北溪(ほっけい・魚屋ととや、商家/絵師) E 3 9 6 0  
 金右衛門(きんえもん・原田)→ 清矩(きよのり・小中村こなかむら、国学者) H 1 6 5 1  
 金右衛門(きんえもん・立川)→ 従(まさる・立川たちかわ/たち、心学/歌人) Q 4 0 8 5  
 金右衛門(きんえもん・下里)→ 知足(ちそく・下里しもさと、醸酒業/俳人) E 2 8 6 1  
 金右衛門(きんえもん・時田)→ 流翠(りゅうすい・時田ときた、商家/俳人) E 4 9 8 7  
 金右衛門(きんえもん・遠藤)→ 時影(ときかげ・遠藤えんどう、射芸指南) I 3 1 9 9  
 金右衛門(きんえもん・古森)→ 厚茂(あつしげ・古森こもり/秦/河崎、神職/歌) H 1 0 5 1  
 金右衛門(きんえもん・柴田)→ 貞晧(さだあき・柴田しばた、歌人) O 2 0 6 6

1656 **公条**(きんえだ・三条西さんじょうにし/西三条、実隆男/本姓藤原) 1487-1563 77 母; 勤修寺教秀女、廷臣、兄公順が僧籍のため家督; 1504参議/42右大臣/正二位/44出家、歌学古典学; 父門、後奈良天皇に古今・源氏を進講、1517「宇槐記抄」53「高野参詣記」「吉野詣記」著、1555「石山月見記」「伊勢物語抄」「公条公記」著、歌; 「称名院集」「称名院三百首」「新式和歌」著、連歌; 1551義隆「宮島千句」参加; 発句、1555源氏講釈竟宴「石山千句」参加/和漢聯句多数、[公条の一字名/法名/諡号]一字名; 蒼/雲/都、法名; 仍覚、諡号; 称名院

Q1668 **金右衛門**(きんえもん・山西やまにし)?-? 江中长期崎唐通事、清人と交遊; 中国式料理研究、1761「八僊卓燕式記」著

Q1669 **近右衛門**(きんえもん・手島てしま) 1760-1841 82 上野勢多郡佐鳥村の手習の師匠、「いろは尽し」「国尽し」著

金右衛門(きんえもん・恩田)→ 敬休(たかやす・恩田おんだ、儒者) N 2 6 5 4  
 金右衛門(きんえもん・野村)→ 野渡(やと・野村のむら、俳人) D 4 5 8 4  
 金右衛門(きんえもん・立川)→ 政峯(まさみね・立川たちかわ、農業/歌人) Q 4 0 8 3  
 金右衛門(きんえもん・立川)→ 曾秋(そしゅう・立川、政峯男/農/俳/心学) L 2 5 0 5  
 近右衛門(きんえもん・飯室)→ 天目(てんもく・飯室いむら、儒者) E 3 0 3 9

U1635 **錦園**(きんえん・合田ごうだ、通称; 治部/昌蔵)?-? 京の伏見宮貞敬さだよし親王(1775-1841)家諸大夫、国学; 富士谷成章(1738-79)門、儒者; 皆川淇園門

錦園(きんえん・戸沢)→ 正令(まさのり・戸沢とざわ、藩主/国学/歌) G 4 0 2 4  
 錦園(きんえん・松井)→ 美澄(みはる・松井/源、藩医/国学者) F 4 1 7 4  
 錦園(きんえん・沢田)→ 盛忠(もりただ・沢田さわだ/小川、藩士) F 4 4 6 3  
 琴園(きんえん・松木)→ 直秀(なおひで・松木まつき、国学/歌人) C 3 2 2 4  
 菫園(きんえん)→ 世平(つぐひら・武居たけい、歌人/狂歌) 2 9 8 2  
 菫園(きんえん)→ 浦子(うらこ・小田切おだぎり/渡辺、歌人) E 1 2 5 6  
 菫園(きんえん)→ 晧邨(ぎょうそん・星ほし、絵師/歌人) V 1 6 0 8  
 菫園(きんえん・高木)→ 凝式(なりのり・高木たかぎ、商家/儒・歌) N 3 2 7 1

D1680 **公雄**(きんお・小倉おぐら、洞院とういん実雄2男/本姓藤原) 1243?-? 1325(83歳?) 存 母; 藤原頼氏女、小倉家の祖、廷臣; 侍従/左中将/1261(弘長元)従三位/62正三位/皇后宮権大夫、1266(文永3)参議、67権中納言/68従二位/70正二位/72(文永9)出家; 顕覚、歌人; 1265亀山五首歌合・白河殿七百首参加/1315為世[花十首寄書]/19文保百首参加、1321外宮北御門歌合判者、23亀山殿七百首(62首入)/24石清水歌合参加、「聖徳太子和讃」「花十首寄書」「頓覚百首」著、弘安・1303嘉元・文保・正中各百首入、現葉集入/藤葉集11首入、勅撰110首; 続古今(373/1891)続拾(5首)新後撰(13首)玉(9首)続千(20首)風(8首)以下、[吹く風もわきて身にしむ時ぞとは誰がならはしの秋の夕暮](続古今; 秋373/左中将)[正中二年(1325)百首歌奉りける時、

おもかげはまづさきだちて白雲のたな引く山に花を待つかな] (藤葉; 春47)  
[公雄の法名] 顕覚/歌号; 頓覚、洞院公宗・公守きんもりのの異母兄弟、実教さねのりの父  
息女 → 公雄女(きんおのむすめ・小倉季子、歌人) D 1 6 8 1

- S1607 吟鶯(ぎんおう) ? - ? 俳人、1686西吟「庵桜いぼぐら歌仙」入  
吟応(ぎんおう・三蓮社) → 称念(しょうねん; 法諱、浄土僧; 捨世派祖) L 2 2 3 2
- Q1670 公興(きんおき・今出川いまでがわ/本姓藤原、菊亭、初名; 公尚、教季男) 1446-1514 69 廷臣; 1489右大将、  
内大臣/1495従一位/96右大臣/1497-1505左大臣、歌; 伏見宮五十首和歌参加、  
1503(文龜3)三六番歌合参加、連歌; 「連歌の心得」著、  
[茂りあふ木の間を分くる小夜風やもりくる月の光なるらむ]、  
(三六番歌合; 樹蔭夏月4番右)  
金屋(きんおく・遠藤) → 文石(ぶんせき・遠藤えんどう、商家/俳人) F 3 8 9 6  
琴屋(きんおく・長川ながかわ) → 東明(とうめい・長川、儒者) H 3 1 3 8  
琴屋(きんおく・金森かなもり) → 得水(とくすい・金森、国学/茶道) L 3 1 0 8  
琴屋(きんおく・一見) → 直樹(なおき・一見/市見いちみ、国学者) L 3 2 1 9  
琴屋(きんおく・岩瀬/小野) → 清春(きよはる・菱川、絵師) Q 1 6 1 7  
琴屋(きんおく・興野) → 成信(なりのぶ・興野おきの、藩士/歌人) L 3 2 5 1  
琴屋(きんおく・金森) → 得水(とくすい・金森かなもり、国学者/茶人) L 3 1 0 8
- Q1671 公修(きんおさ・きんなが・三条/転法輪三条、実起男/本姓藤原) 1774-1840 67 江後期廷臣、  
母; 蜂須賀宗鎮女(井伊直幸養女)、1784従三位/1820(文政3)内大臣/22従一位、実方の父、  
歌; 香川景樹門、「公修公詠草」「公修公記」1808「見聞随筆」1812「愚詠」外著多数、  
[公修(;名)の通称/法号]通称; 後己心院前内大臣/転法輪大臣、法号; 後己心院のちのこしんいん
- Q1672 公音(きんおと・四辻よつじ、季経すえつね男/本姓; 藤原) 1481-1540 60 四辻実仲養子/廷臣; 1508参議、  
1526正二位/28権大納言/30致仕、書; 後柏原院流、連歌: 1539「天文八年何船百韻」参加
- Q1673 公音(きんおと・押小路おしこうじ/本姓; 藤原) ?-1716 押小路家の祖、儒/歌; 蕃山門下4天王、  
押小路実岑[さねたか1679-1750]の父
- D1681 公雄女(きんおのむすめ・小倉おぐら、名; 季子) ?-? 鎌倉後期歌人、母; 九条良平女、後二条院の乳母、  
従兄弟洞院とういん実泰さねやすの室、太政大臣洞院公賢きんかたの母、新後撰328・1063  
[かはらじと言ひしはいつの契にてよがるる床に月をみるらむ](新後撰; 十三恋1063)  
父 → 公雄(きんお・小倉、中納言/歌人) D 1 6 8 0  
母 → 良平女(よしひらのむすめ・九条、女房/歌人)
- 1657 金華(きんか・平野ひらの/修姓; 平、名; 玄中/玄沖/玄仲) 1688-1732 45 磐城三春医者/儒; 1711徂徠門、  
三河刈谷藩書記; 朝鮮使応対掛; 詩唱和/磐城守山藩儒、護園けんえん社で詩才發揮、  
1728詩集「金華稿刪」、「金華雜譚」「古学範」、「文莊先生遺集」著、戸崎允明の師、  
[金華の字/通称]字; 子和、通称; 源右衛門、諡号; 文莊先生、玄幹げんかんの父
- V1643 公香(きんか・武者小路むしやのこうじ/本姓; 藤原、実建さねたけ男) 1828-76 49 京の廷臣; 従三位左近権少将、  
和学者/歌人、実世の父、  
[公香(;名)の通称] 義丸  
金華(きんか; 号) → 景三(けいさん; 法諱・横川おうせん; 道号、臨濟僧/五山文学) 1 8 0 4  
金華(きんか; 号) → 大圭(だいけい; 道号・宗价; 法諱、臨濟僧) J 2 6 7 6  
金華(きんか; 号) → 周南(しゅうなん; 道号・円旦; 法諱、臨濟僧) Y 2 1 1 5  
金華(きんか・佐藤) → 祐之(すけゆき・佐藤さとう、和算・天文家) H 2 3 2 3  
金華(きんか・二宮) → 兼善(かねよし・二宮、藩士/和算/地誌) P 1 5 0 9  
金菓(きんか・森) → 高樹(たかしげ・森もり/橘/露木、国学者) Z 2 6 9 9  
錦霞(きんか・佐藤) → 武雄(たけお・佐藤さとう/山口、里正/歌) X 2 6 2 4  
錦窠(きんか・伊藤) → 圭介(けいすけ・伊藤、医者/植物学者) 1 8 7 9  
槿花(きんか・二条) → 尹房(ただふさ・二条にじょう、関白/日記) F 2 6 7 5  
槿花(きんか・山崎) → 義故(よしもと・山崎やまさき、藩士/書家) H 4 7 6 9
- Q1658 琴雅(きんが) ? - ? 江前期俳人; 1691不角「二葉之松」2句入、  
[長殿ながどのの御髭おひげ汚さん濁り醜ざけ](二葉之松; 202)  
(前句題; 八ツものなりとうたふ百姓もくさ/豊年で農民が祝う; 役所の主人に酒を贈ろう)

- 1658 **金峨**(きんが・井上いおうえ/修姓;井、名;立元)1732-84<sup>53</sup> 祖父喜庵が常陸笠間藩侍医/江戸藩邸の生、儒;川口熊峰・井上蘭台門、折衷学を主唱/門人多数、医学館躋寿館学頭/1780頃輪王寺宮侍読、1756「孝経集説」67「易学辨疑」、「辨微録」「論語集説」「中庸古義」、76「金峨先生匡正録」、1778「大学古義」82「考槃堂漫録」、「考槃堂詩集」「病間長語」「金峨先生焦余稿」外著多数、[金峨の字/通称/別号]字;純卿、通称;文平、別号;考槃翁[堂]/柳塘閑人/金峨道人
- D1682 **琴我**(きんが) ? - ? 文化1804-18頃川柳作者、「小石川鹿の子連」著、柳樽入
- Q1674 **琴峨**(きんが・谷たに、名;大絃/字;其声/別号;濤斎)?-? 江後期文政1818-30頃;越後篆刻家、新発田で藩医黒川杏窓に篆刻を教授、「北沼魚戯」著
- D1683 **金鷺**(金峨きんが・梅亭ばいてい、姓;吉田/瓜生、名;政和/和晴、吉田勝之丞男)1821-93<sup>73</sup> 御家人/剣道、1845御家人瓜生うりゅう家養子、戯作;松亭金水門;滑稽本/人情本作者、1826-52「膝磨毛」、1848「梅亭茶番」/50「落ばなし」編/51「鬼笑福茶釜」65「春色野咲廻梅」、「花鳥風月」著、「柳横櫛」「処女七種」著、「南朝外史武勇伝」編/明治に雑誌「团团珍聞まるまるちんぷん」主筆、[梅亭金鷺の通称/別号]通称;熊三郎、別号;吾妻男一丁(3世)/榎亭主人/白山人/梅亭化叟/鶯溪隠士/吾妻雄菟子、橋爪錦蔵/松亭鶴仙/文福茶釜蚊/白山化三/竹亭緑水/迂流、法号;清受院
- 金鷺(きんが・福島) → 地栄(つちひで・福島ふくしま、商家/歌人) G 2 9 2 4
- 金峨(きんが・古市) → 献(けん・古市ふるいち/千葉、絵師) N 1 8 9 4
- 欣雅(きんが・久米) → 通礼(みちひろ・久米くめ、庄屋/国学/歌) I 4 1 9 2
- 銀河(ぎんが・北川) → 正種妻(まさたねのつま・北川きたがわ、歌人) L 4 0 7 4
- 銀鷺(ぎんが・酒井) → 忠以(ただかね・酒井、藩主/歌/俳) F 2 6 0 8
- H1623 **錦海**(きんかい・船越ふなこし、名;晋)?-?1848-54頃没 江後期伯耆米子の人;幼時父と死別/商家奉公、黴瘡罹病;大阪で治療/黴瘡専門医を志望;錦小路家入門/長崎で蘭方修学、大阪で開業、黴瘡医として有名;研究書や啓蒙絵本を刊行、1827「妙薬奇覧」38「絵本黴瘡軍談」著、1843「黴瘡茶談」「黴瘡治験」、「黴瘡秘録」著、[錦海の字] 敬祐/啓祐けいすけ/敬助
- 琴海(きんかい・柴田) → 義董(ぎとう・柴田しばた、絵師) G 1 6 0 2
- 錦街居士(きんがいこじ) → 若冲(じゃくちゆう・伊藤、商家/絵師) G 2 1 3 3
- 銀海堂(ぎんかいどう) → 礪山(れいざん・寺田てらだ、観月/俳人) 5 1 3 1
- 銀河隠士(ぎんがいんし) → 巖男(いざお/よしお・広瀬、商家/国学者) F 1 1 7 1
- 金花園(きんかえん) → 滋古(しげふる・若山わかやま、国学/歌人) a 2 1 1 2
- 金花翁(槿花翁きんかおう) → 鬼貫(おにつら・上島うえじま、俳人) 1 4 2 4
- 槿花翁(きんかおう) → 越人(えつじん・越智、俳人) 1 3 1 0
- H1675 **琴鶴**(きんかく) ? - ? 草双紙作者:1747「花重窟内裏」著(浄瑠璃「小野道風硯」)
- Q1675 **琴鶴**(きんかく・松浦まつら、名;純逸、東鶏男)?-? 江後期1830-44頃大阪の易占家;父門/観相を業、1840「家相秘伝集」/51「名諱考鑑」/66「九星起原録」/「仮名字集」「年暦即鑑」外著多数、[琴鶴の通称/別号]通称;筑後、別号;観濤閣、星洲・茂斎の兄弟
- 琴鶴(きんかく・黒田) → 直邦(なおくに・黒田、藩主/文筆家) B 3 2 1 4
- I1695 **琴壑**(きんがく・佐野さの、名;元璋、元悦男)?-1811 代々備中岡田藩儒/儒;湯浅常山・林述斎門、1780帰郷;子弟教育/95藩校敬学館教授、「視聴雑録」「尚古斎雑録」「水滸伝武渉伝註解」著、[琴壑の字/通称]字;世瑞、通称;大介、琴嶺きんれいの祖父
- 金嶽(きんがく;号) → 曇彦(どんりゆう;法諱、真宗本願寺派僧) S 3 1 4 9
- 金嶽(きんがく・榎内) → 文友(ふみとも・榎内かしうち、医者) D 3 8 9 4
- 金岳(きんがく・松平) → 頼該(よりかね・松平まつだいら、藩士/宗教家) I 4 7 5 4
- J1638 **吟角**(ぎんかく) ? - ? 俳人、1691不角「二葉之松」5句入  
[色食しきじきの二ツは人の気の主君](二葉之松;225/人間の心は色欲食欲に支配される)
- 金岳翁(きんがくおう) → 篤信(あつのぶ・中川ながわ、漢学/神道) I 1 0 1 0
- 琴鶴堂(きんかくどう) → 毅堂(こくどう・古賀こが、藩士儒家/詩人) C 1 8 3 9
- 琴鶴老人(きんかくろうじん) → 梅顛(ばいてん・八谷やたがい、藩士/詩文) B 3 6 8 6
- D1684 **公景**(きんかげ・大江おおえ、公盛男)?-? 1204存 廷臣;正五下/隼人正/左兵衛尉、



歌人;1186経房歌合/91若宮歌合/1201-3影供歌合参加、千載2首1014/1144、  
[真柴まはふく宿のあられに夢さめて有明がたの月を見る哉](千載;雑1014、  
山家暁霰という心を詠)

- D1685 **公蔭**(きんかげ・正親町おぎまち、初名;忠兼/実寛、実明男/本姓;藤原)1297-1360<sup>64</sup> 母;松殿兼嗣女、  
鎌倉末南北期廷臣、京極為兼養子/伏見院出仕;頭中將/1315為兼失脚;小倉公雄の猶子、  
1330従三位;正親町復籍、光厳院の信頼;1346権大納言/正一位、52光厳院落飾;出家、  
法名;空静、1360(延文5/正平15)没、妻;北条種子(北条久時女)、  
歌人;風雅集の撰集寄人、1342両度の持明院歌合判、貞和・延文百首入、藤葉入、  
勅撰44首;玉葉(1978)風雅(24首68/92113以下)新千(8首429/460以下)新拾(8首)以下、  
[花の春はあだし色にもうれへにき月見る秋ぞ物思ひもなき](玉葉;1978/忠兼名)  
改名;正親町忠兼→京極忠兼→小倉実寛→正親町公蔭→空静(法号)  
兄弟;守子・広義門院廊御方・公蔭・実子・慈能・一条局・後伏見院対御方・陽徳門院西御方・  
宣光門院廊御方・花園院女房対御方

子 ;弁耀・忠季・実文・徽安門院きあんもんいんの一条(→一条/歌人)

公蔭(きんかげ・徳大寺) → 公清(きんきよ・徳大寺とくだいじ、内大臣/歌) D 1 6 8 9

公景(きんかげ・三条) → 公豊(きんとよ・三条/正親町三条、歌) E 1 6 4 3

公蔭女(きんかげのむすめ・正親町) → 一条(いちじょう・徽安門院きあんもんいん、女房歌人) B 1 1 2 1

金花山(きんかざん・土井) → 敬文(あつふみ・土井とい、国学) I 1 0 0 0

金華三愛主(きんかさんあいしゅ) → 滄洲(そうしゅう・津野つゐ、商家/詩人) B 2 5 8 5

錦華主人(きんかしゅじん) → 隆志(りゅうし・北村、俳人) E 4 9 4 0

金華主人(きんかしゅじん) → 滄洲(そうしゅう・津野つゐ、商家/詩人) B 2 5 8 5

- D1686 **公麗**(きんかづ・滋野井しげのい・羽林、実全男/本姓;藤原)1733-81<sup>49</sup> 廷臣;1758(宝暦8)参議/従三位、  
1768(明和5)権大納言/正二位;辞任、1776大宰権帥致仕、有職故実;祖父公澄門、  
「滋草拾露」「公麗卿記」「官員要覧」、「女院伝」編、1765「女院号類聚」著、  
1776「禁秘御抄階梯」「公事根元鈔階梯」79「諒闇和抄」、「諒闇装束之事」「装束著用図」著、  
「彗星出現年紀」「嫁娶之事」「簾中備忘抄」「滋野井公麗雑記」外著多数、伊形質すなおの師、  
[公麗(;名)の号] 五松亭、法号;歓喜心院、柳原紀光「閑窓自語」に逸話

- Q1676 **公万**(きんかづ・四辻よつづじ、初名;実駿、公亨きんみち男/本姓藤原)1757-1824<sup>68</sup> 母;上山藩主松平信通女、  
廷臣;1787参議/94正二位/99権大納言/大歌所別当/1804致仕、1819「催馬楽御譜」著

公量(きんかづ・三条) → 公冬(きんふゆ・三条/転法輪三条、歌) E 1 6 6 4

- H1676 **公方**(きんかた・惟宗これむね、直本なおもと男)?-? 平安中期明法博士、主計助/民部少輔/左衛門権佐、  
958奏上の勘文に疑義;大藏権大輔に左遷/のち美濃介/正五下、930-46「本朝月令がつりょう」編

- 1659 **公賢**(きんかた・洞院とういん、実泰男/本姓藤原)1291-1360<sup>70</sup> 母;藤原公雄女季子、廷臣;138従三位、  
1309(延慶2)参議/左大弁、1418(文保2)後醍醐天皇即位;権大納言/1330内大臣;33復任、  
1335(建武2)右大臣;従一位/南北分裂;北朝に残る/1343左大臣/48(貞和4)太政大臣、  
1350致仕、1351(正平6)正平一統のまとめ役;53南朝太政大臣にもなる/59出家、  
学才あり故実家、日記「園太暦」、「園太別記」「御会記部類」「歴代皇紀」著、  
「拾介抄」編、外記録多数、詩人;家集「中園相国集」、  
1314詩歌合;左方詩参加、30元徳二年八月御会参加、延文百首/貞和百首入、  
1345?小倉実教[藤葉集]6首入/50為世十三回忌和歌参加/56延文百首参加、  
勅撰49首;続千(532/603/1224)続後拾(298)風(10首177/441-)新千載(15首)以下、  
[夕時雨過ぎゆく山のたかねより村雲分けていづる月影](続千載六冬603)、  
[かれ残るしのの小笹のよもすがら置きそふ霜にさゆる月影]、  
(藤葉;冬328/左のおほいもうち君名)、

[公賢の称/法名] 中園入道相国なかののいゆうどうしやうこく/遍昭光院、法名;空元/崇元

公賢男;実世(南朝左大臣)・実夏(内大臣)・慈宗(権大僧都)・道守(法印権僧都)・

慈守(法印)・桓恵(大僧正)・境空(二尊院2世)・実縁(大僧都)・慈昭(法成寺座主)・

梶守(石山座主)・尋源(権僧正)・賢実・頼弁・示鏡・桓忠・守快

公賢女;徳大寺公清室・女(綸子)・吉子(師平室)・比丘尼5人・実俊室・道嗣室

→ 公清室(きんきよのしつ・徳大寺とくだいじ、歌) D 1 6 9 0



- 吉子(きつし・洞院とういん・従三位、歌人) B 1 6 5 2
- 公方(きんかた・藤原) → 公方(きんまさ・藤原、高堪[綱]男、歌人) R 1 6 7 9
- 公器(きんかた・小県) → 清庵(せいあん・小県おがた、藩医) H 2 4 1 9
- D1687 公勝(きんかつ・一条いちじょう/家名;清水谷、実材さねき男/本姓;藤原) 1321-8969 母;中御門経宣女、  
南北期廷臣;1381正三位/82権中納言、  
「恵心僧都絵巻」「弘法大師行状記」書/「公勝卿記」、新後拾遺737
- Q1677 公遂(きんかつ・姉小路あねがこうじ、公聡男) 1794-185764 江後期廷臣;兄公春の嗣/1831参議、32右中将、  
1833権中納言/46正三位、「姉小路公遂東行記」著
- H1677 槿花亭(きんかてい) ? - ? 俳人、1780梅好「大津みやげ」入  
琴霞亭(きんかてい、柳川桂子けいし) → 耕雪亭(こうせつてい、黄表紙作者) B 1 9 5 6  
均下亭(きんかてい) → 雨律(うりつ・均下亭、俳人) D 1 2 4 8  
銀河亭(ぎんがてい) → 布磧(ふせき・浦野うらの/内藤、俳人) C 3 8 9 2  
唸花堂(きんかどう) → 晩山(ばんざん・爪木、俳人) H 3 6 8 5  
金花堂(きんかどう) → 佐助(さすけ・須原屋すはらや、書肆) H 2 0 5 4  
金峨道人(きんがどうじん) → 金峨(きんが・井上/井、儒;折衷学者) 1 6 5 8
- D1688 公兼(きんかね・西園寺さいおんじ、実俊男/本姓藤原)?-1417 南北期廷臣;1379権大納言/98正二位、  
歌人、新後拾遺714、実敦(参議左中将/1401没/早世)・実光(大納言)・良守(石山座主)の父、  
[露だにもまだ置きあへぬ朝明に風こそ秋をつげのをまくら]、  
(新後拾;秋/告げと黄楊を掛る;黄楊の小枕)
- 槿花坊(きんかぼう) → 祇尹(ぎいん・小笠原おがさわら、幕臣/俳人) 1 6 7 8  
金花楼(金華楼きんかりう) → 知明(ともあき・藤塚ふじつか、神道家) P 3 1 1 0  
金花楼(きんかりう) → 澹庵(たんあん・畑中はたなか、詩/書家) T 2 6 1 4  
近寛(きんかん・狛) → 近寛(ちかひろ・狛こま/辻、楽人) B 2 8 7 2  
欽願(きんがん;字) → 仰誓(ごうせい;法諱、真宗本願寺派僧) B 1 9 5 2
- H1678 金鴈堂本虎(きんがんどうほんとら、中島、通称;儀介) 1784-184259 大阪の本屋/落語;桂文治門・遊芸;俄、  
幕末期大坂俄師の代表者の1、1832/41「風流俄天狗」編、「滑稽独俄集」著
- 近義(きんぎ) すべて → 近義(ちかよしorちかより)
- 近宜(きんぎ・木代) → 近宜(ちかよし・木代きしろ/藤原、藩士/歌) M 2 8 3 9  
金義(きんぎ・小川) → 金義(かねよし・小川おがわ、藩士/歌人) T 1 5 8 3  
金亀園(きんきえん) → 文堂(ぶんどう・七条/藤原、医者/歌) G 3 8 3 0  
金菊酔漢(きんきくすいかん) → 鉄石(てつせき・藤本、勤王/天誅組) C 3 0 5 1  
金菊洞(きんきくどう) → 八水(はつすい・梨守庵、俳人) F 3 6 2 5
- H1654 金吉(きんきち・柴田しばた、初世哥沢芝金) 1828-7447 俗曲うた沢節;歌沢大和大掾やまどのだいじょう門、  
寅派に対抗し芝派を樹立;哥沢の初代
- 対抗 → 寅右衛門(とらえもん・歌沢、歌沢初代;寅派) S 3 1 8 4
- 金吉(きんきち→かねよし・石部) → 石部金吉(いしべのかねよし、狂歌) D 1 1 4 4  
謹吉(きんきち・福島) → 地栄(つちひで・福島ふくしま、商家/歌人) G 2 9 2 4  
欣吉(きんきち・中垣) → 謙斎(けんさい・中垣なががき、藩士/儒者) I 1 8 9 7  
金亀堂(きんきどう、金亀堂一泉) → 篤助(とくすけ・初世奈河、歌舞伎作者) 3 1 4 0  
錦丘(きんきゅう・玉川) → 春庵(しゅんあん・玉川/中津川、医者/詩文) 2 1 9 6  
金牛山人(きんぎゅうさんじん) → 何用(かげい・立林たてばやし、絵師) F 1 5 7 7
- D1689 公清(きんきよ・徳大寺とくだいじ、初名;公蔭、実孝男/本姓藤原) 1312-6049 母;徳大寺公相女、廷臣;  
1327参議/右近大将/46内大臣/従一位、1324賀茂勅使、実時(大政大臣)・実敦(侍従)の父、  
「公清公記」著、歌;自邸歌会催、1350「為世十三回忌和歌」/56延文百首出詠、藤葉集2首入、  
勅撰11首;風雅(685/819)新千(5首175/323/1467-)新拾(247/1250)新後拾(198/1133)、  
[日陰さへいまひとしほを染めてけり時雨のあとの峰の紅葉ば](風雅;秋685/内大臣名)、  
[しみづくむ松の木陰に立ちよれば夏も家路も忘れぬるかな](藤葉;夏165/右近大将名)、  
[公清の称/法号] 後野宮内大臣のちののみやないだいじん、  
妻; → 公清室(きんきよのしつ・徳大寺、洞院公賢女/風雅集歌人) D 1 6 9 0  
公清(きんきよ・福井) → 公清(きんきよ・福井、神官) M 1 6 0 2

- D1691 **金魚**(きんぎょ・田螺たにし・田水・茶にし、鈴木ずき位庵)?-? 江戸神田白壁町の医者、  
1775-87頃洒落本作者、1777「妓者呼子鳥」/78「一事千金」「契情買虎之巻」著、  
1778「淫女皮肉論」「十八大通百手枕」/80「多荷論」87「妓者虎の巻」著、  
[田螺金魚の別号] 田にし金魚/茶にし金魚/田水金魚
- D1692 **琴魚**(きんぎょ・櫟亭れきてい、殿村とのむら/本姓大神、名;精吉)1788-1831<sup>44</sup> 伊勢松阪富豪殿村家の分家、  
京の殿村家の店の手代/1818頃大坂堂島の銀座所十/江戸で読本作者:滝沢馬琴門、  
1817「窓螢余譚」、18「犬夷評判記」校、20「小桜姫風月後記」「刀筆青砥石文」著、  
[櫟亭琴魚の字/通称/法名/別号]字;守親、通称;定四郎、法名;道香、  
別号(狂名);鈴留森近、法号;櫟亭道香居士  
金魚逸人(きんぎょいつじん) → 蘭薫亭薫(らんくんていかおる、間庭、藩士/狂歌) B 4 8 7 8
- Q1679 **錦橋**(きんきょう・池田いけだ、名;独美/幼名幾之助、正明男)1735-1816<sup>82</sup> 周防岩国の医者;桑原玄忠門、  
安藝宮島の痘疫流行の際家伝の秘訣により治療効果;大阪・京で痘疹研究;治痘術成功、  
1797幕府医学館入/98教授、1806「痘疹戒草」11「痘科弁要」、「痘科枢要秘訣」「痘瘡大極伝」、  
「池田瑞仙治痘論」著、「唇舌図録」編、曾祖父;嵩山/祖父;信之、一時甥京水を養子(廃嫡)、  
[錦橋の字/通称/別号]字;善卿、通称;瑞仙、別号;蟾翁せんおう
- Q1678 **金竟**(きんきょう・梶山かじやま、名;政盈/通称;相模守)1737-1811<sup>75</sup> 安藝川尻の神官、俳人、  
筑紫紀行「月日貝」著、1799芭蕉塚「薫風塚」を川尻町に建立(俳人東舛とうせんと)
- Q1680 **琴橋**(きんきょう・香川かがわ、名;徽、北川五助男)1794-1849<sup>56</sup> 安藝の人/実父に従い大阪住、  
香川子硯の養子、儒者;劉琴溪門、家塾開設、1849「浪華名勝帖」刊、  
[琴橋の字/通称/別号]字;公琴、通称;一郎、別号;桐処/古桐/楽群書屋/琴松漁人  
錦喬(きんきょう・朝間/森) → 文作(ぶんさく・森/朝間、書家/寺子屋) F 3 8 3 6  
金橋(きんきょう・井上) → 充仲(みつなか・井上いのうえ、神職/詩人) L 4 1 1 5  
銀郷散人(ぎんきょうさんじん) → 貞丈(さだたけ・伊勢/平、牧神/故実家) B 2 0 9 5  
吟狂叟(ぎんきょうそう) → 丈山(じょうざん・石川、儒者/詩人) S 2 2 5 7  
琴玉(きんぎょく・島津) → 華山(かざん・島津しまう、儒者/詩) H 1 5 4 5
- D1690 **公清室**(きんきよのしつ・徳大寺とくだいじ、洞院公賢女)?-? 鎌倉南北期歌人、実敦の母?、  
1345小倉実教[藤葉集](右近大将公清室名)入、風雅集1331/1908(;内大臣室名)、  
[朝日かげ出でぬとみつる時のまに時雨れてかはるうき雲のそら](藤葉;冬300)  
[おのづから逢ふよありやと待つほどに思ひしよりもながらへにける](風雅;恋1331)
- H1679 **金錦佐恵流**(きんきんさえる、金錦先生)?-? 洒落本、1773「当世風俗通・後編風俗通」著、  
(2説) → 春町(はるまち・恋川、黄表紙作者) 3 6 3 5  
→ 岡持(おかもち・手柄、朋誠堂喜三二) 1 4 0 9  
槿々堂(きんきんどう) → 金治(初世きんじ・篠田、歌舞伎作者/戯作) E 1 6 0 8
- S1605 **公国**(きんくに・藤原、実家男/母;憲方女)1165-? 忠親「山槐記」入(3・15)
- D1693 **公国**(きんくに・三条西さんじょうにし、円智院、実枝男)1556-87<sup>32</sup> 安桃期歌人、幽斎より古今還し伝授
- I1698 **金溪**(きんけい・桂かつら、名;道坦/希言、覚右衛門男)1740-1811<sup>72</sup> 信州上田藩士/道信の孫、  
儒者;家学を受、のち安原貞平・竜淵門、藩の郡奉行、1797学問師範、  
1789「緇門訓蒙」1807「封内孝行民伝」1808「封内異行伝」著、  
「鸚鵡集」「聖学原論」「農家事略」「金溪雜誌」著、  
[金溪の字/通称/別号]字;有中/士寛、別号;蝸殻
- Q1681 **金桂**(きんけい) ? - ? 江中期1751-72頃江戸雑俳点者・  
江戸で毎年下半期に万句合興行を催、1764「金桂東馬評万句集」/64・66「金桂評万句合」編
- H1680 **金溪**(きんけい・南川みなみかわ、名;維遷、字;士長/文璞ぶんぱく/文伯、竜味男)1732-81<sup>50</sup> 伊勢菰野の農家、  
儒;竜崎致斎門/医;堀元厚門/儒・詩;竜草廬門、朝鮮通信使と筆語唱和/1766頃菰野藩侍講、  
家塾開、1770「閑散余録」、「金溪詩抄」「金溪雑話」「閑散雑録」「閑散余録異聞」「閑散遺草」著、  
蔣山の父 → 蔣山(しょうざん・南川みなみかわ、藩儒/医) S 2 2 5 3
- Q1682 **琴溪**(きんけい・中神なかがみ、名;孚)1744-1833<sup>長寿90</sup> 近江山田村の農業家/医家中神家の養嗣子、  
吉益東洞門/大津で医開業/1791京堺町四条で開業;門弟三千人、近江扁鵲と称される、  
諸国遊歴/山城和東郷に隠居、1796「生生堂医譚」98「生々堂襟記」1804「生々堂治驗」著、  
1806「生々堂塾経」07「生々堂養生論」20「生々堂傷寒約言」、「生々堂丸散方」著、

[琴溪の字/通称/別号]字;以隣、通称;右内、別号;生々堂

D1694 **琴溪**(きんけい・劉りゅう、姓;田村/田西、名;元高)1752-1824<sup>73</sup> 安藝山県郡大朝村儒者;福山鳳洲門、古文辞学修得/広島藩国老上田家儒臣、1781-1801郷校講学所の教授/私塾静文堂で講説、致仕後;撰津平野村住、「大学啓蒙」、「文鐘詩集」、1819「静文館詩集」著、  
[劉琴溪の字/通称/別号]字;伯大、通称;七蔵、別号;静文堂/劉跛子/劉陳波

1660 **金鶏**(金雞きんけい・奇々羅、姓;畑はた/赤松/本姓;平)1767-1809<sup>43</sup> 上州七日市藩前田家医者、狂歌:唐衣橘洲門、1802(36歳)藩医を致仕;諸国遍歴/江戸浅草で結庵、狂歌/戯作に専念、1783「網雑魚」/89「絵本百轉」編/90「絵本吾妻遊」91「闇雲愚抄やみくもぐしょう」1800「金鶏医談」著、1800「燭夜文庫くたかけふんこ」著、「狂歌五百題」編、「狂歌来由」著、1787「才蔵集」入、  
[今もまた雪にうたるゝ近江路や栗津が原の松のきそ殿](才蔵集)

[奇々羅金鶏(;号)の名/通称/別号]名;秀竜、通称;道雲、

別号;燕石楼/観奕道人/三足道人/東天紅廬主人

息: → 銀鶏(きんけい・平亭/畑、医/狂歌) D 1 6 9 5

孫: → 鉄鶏(てつけい・畑、医/絵師) C 3 0 2 6

Q1683 **琴溪**(きんけい・渡部わたなべ/渡辺、名;賁)1804-77<sup>74</sup> 出羽庄内藩儒/儒:坂尾清風門、1840藩校致道館助教/44-58舎長、詩文、「古文類苑」「琴溪文藁」「詩興漫稿」著、  
[琴溪の字/通称/別号]字;文思/文恩、通称;吉太郎、別号;任好/泛叟はんそう

H1681 **芹溪**(きんけい・樺島) ? - ? 漢詩・淡窓門、1854「宜園百歌詩二編(6巻)」編

琴卿(きんけい・川田) → 雄琴(ゆうきん・川田、藩儒/陽明・朱子学) B 4 6 2 6

芹溪(きんけい・渡辺) → 巖(いわお・渡辺わたなべ、神職/詩文) K 1 1 7 8

錦溪(きんけい・柳河) → 春三(しゅんさん・柳河/西村/栗本、洋学者) K 2 1 2 1

錦鶏(錦溪きんけい・金井) → 之恭(ゆきやす・金井かない、勤王家/書家) F 4 6 9 0

均卿(きんけい・芳村) → 正秉(まさもち・芳村よしむら/大中臣、神道) T 4 0 7 4

Q1684 **金猊**(きんげい;道号・浄踞じょうきょ;法諱、俗姓本貫)1759-1826<sup>68</sup> 撰津黄檗僧;梅峰門、1774梯超寺住持、1795伊勢円福寺・1803遠州宝泉寺住持/22万福寺27世、「宝泉寺金猊禅師開堂録」著

訓芸(きんげい;法諱) → 訓芸(くんげい;法諱、法師/歌人) E 1 7 6 3

D1695 **銀鶏**(銀雞ぎんけい・平亭、姓;畑はた/本姓;平、名;時倚ときより、畑金鶏男)1790-1870<sup>81</sup> 上州七日市藩医、国学;高田与清・清水浜臣・石川雅望門、狂歌;父門、和学/滑稽本作者、1832-60「書画薈萃」著、大阪遊歴;1835「街能噂ちまたのうわさ」「浪花夢」「南柯廼夢」/54「異国張春之色」58「街廼夢」著、1861「井蛙問答」「酒取物語」、「銀鶏雜記」「養生教草」「時雨廼袖」「天之浮橋」外著多、鉄鶏の父、  
[平亭銀鶏の字/通称/別号]字;毛義、通称;数馬、別号;燕石楼/文盲散人/田中庵

H1682 **金鶏庵**(きんけいあん) ? - ? 俳人、1797「つたの落葉」(蘿葉集補遺)編

金猊園(きんげいえん) → 戒定(かいじょう;法諱・定恵、真言僧) I 1 5 7 7

金桂館(きんけいかん) → 茂景(しげかげ・栗原くりはら/角井、神職/歌) O 2 1 3 2

金溪山人(きんけいさんじん) → 黙斎(もくさい・桑原/山根、宿場取締/史家) 4 4 8 5

金鶏子(きんけいし) → 鉄卵(てつらん・上島、俳人) C 3 0 6 6

錦溪舎(きんけいしゃ) → 琴路(きんろ・白崎、酒造業/俳人) I 1 6 3 7

錦溪主人(きんけいしゅじん) → 長秋(ながあき・帆足ほあし、神道/歌学) D 3 2 1 0

金溪陳人(金鶏陳人きんけいちんじん) → 行休(こうきゅう・篠田/関口、書家) I 1 9 2 5

錦綱堂(きんけいどう) → 義鳴(よしなり・大鐘おおがね、藩士/歌文) F 4 7 4 2

琴月園(きんげつえん) → 忠旧(ただひさ・小川おがわ、神職/国学) V 2 6 9 6

吟月主人(ぎんげつしゅしん) → 秋香(しゅうこう・前川まえがわ、漢学/蘭学) X 2 1 2 1

金原亭馬生(きんげんていばしょう) → 馬生(初世ばしょう・金原亭、落語家) E 3 6 5 6

→ 馬生(2世ばしょう・金原亭、落語/講談) E 3 6 5 7

→ 馬生(3世ばしょう・金原亭、落語家) E 3 6 5 8

Q1685 **錦謙**(きんけん・金森かなもり、通称:建策、号;鳶巢)?-? 備中の生?/長崎で蘭学/1831頃江戸へ、坪井信道の日習堂入門/蘭書の翻訳など著述活動/1849出雲松江藩の蘭学師範、1853「威遠譚筆」著、56「鉄煩鑄鑑」訳、「魯西亞航到聞見録」編/「百幾山新識」著、「竹島図説」補



- 金言(きんげん・萱生) → 玄順(玄淳げんじゅん・萱生かよう、医/儒者) E 1 8 9 5  
 近源子(きんげんし) → 千之(せんし・望月/大原、商家/俳人) F 2 4 6 5  
 勤憲先生(きんけんせんせい) → 蘭溪(らんけい・西島/下条、儒者/詩人) B 4 8 8 7
- T1633 謹子(きんこ・阿部あべ、謹姫;越前藩主松平治好2女) 1822-5231 備後福山藩主阿部正弘の妻(正室)、  
 歌人
- V1647 琴子(きんこ・森田もりた、号;無絃/秋花園、高槻藩士小倉藤左衛門男) 1826-9671 摂津の学者、  
 幼時に痘瘡を患う/儒;大坂の藤沢東暎門;内弟子、漢学・学問研究、  
 1854(29歳)尊攘思想の儒者森田節斎(44歳)と詩で交換し結婚;大和五条で開塾、  
 節斎の門弟が天誅組の乱に関与;幕府は節斎を扇動者とし追及;  
 夫と備中倉敷に逃亡;開塾し教育/門弟の扱いで夫と争論;離婚、  
 息子を夫に預け大坂で開塾、節斎は幕府の追及から逃亡生活;放浪、  
 維新後;紀伊那賀郡で夫と復縁;間もなく1868夫没、  
 「地震物語」「呉竹一夜話」著
- 訓子(きんこ・酒井) → 訓子(のりこ・酒井さかい、嘉代、藩主妻/歌人) G 3 5 7 5  
 欽子(きんこ・久松) → 欽子(きんし・久松ひさまつ、伊予歌人) T 1 6 8 4  
 金庫(きんこ・平山) → 茂承(しげつぐ・平山ひらやま、歌人) Z 2 1 7 7
- Q1686 金吾(きんご・細井ほそい/本姓藤原、名;三千代麻呂/昭常/充実) 1754-9542 細井広沢の裔、福岡藩士、  
 儒;亀井南冥門/藩校甘棠館教授、国学;小篠敏・内山真竜門/1793本居宣長門、  
 槍・剣術/歌、「漢倭奴国王金印考」著、  
 [金吾(;通称)の別通称/号]別通称;判事、号;涼風亭/東園
- Q1687 琴栞(きんご、県あがた、名;朗/字;晴峰/通称鏗二郎こうじろう)?-? 江後期1830-40頃儒者、  
 1836「蓋臣瑣談じんしんさだん」著
- 金吾(きんご・源/今川) → 貞世(さだよ・今川了俊、幕臣/歌/連歌) 2 0 2 8  
 金吾(きんご・結城) → 政勝(まさかつ・結城ゆうき、武将/城主) C 4 0 0 3  
 金吾(きんご・篠崎) → 東海(とうかい・篠崎、儒/国学/故実) 3 1 0 5  
 金吾(きんご・森本) → 一瑞(いちずい・森本もりもと、藩士/軍学) G 1 1 2 8  
 金吾(きんご・唐崎) → 広陵((こうりょう・唐崎からさき、儒者/詩人) G 1 9 4 4  
 金吾(きんご・松本) → 忠英(ただひで・松本、和算家) Q 2 6 6 0  
 金吾(きんご・桜井) → 節義(とよよし・桜井、和算家) Q 3 1 9 8  
 金吾(きんご・佐伯) → 貞中(さだなか・佐伯、酒造業/俳・歌人) J 2 0 0 3  
 金吾(きんご・山口) → 石室(せきしつ・山口やまぐち、篆刻家) K 2 4 1 3  
 金吾(きんご・常松) → 菊畦(きくけい・常松つねまつ、大庄屋/詩文) K 1 6 0 7  
 金吾(きんご・楠瀬) → 小枝(さえ・楠瀬くすのせ、医者/歌人) O 2 0 3 4  
 金吾(きんご・中西) → 邦孚(くにさね・中西ななし、幕臣/天文家) C 1 7 7 5  
 金吾(きんご・狩谷) → 鷹友(たかとも・狩谷かりや、国学者/歌人) M 2 6 4 8  
 金吾(きんご・中林) → 竹溪(ちくけい・中林なかばやし、絵師) C 2 8 8 9  
 金吾(きんご・柏村/波多野) → 眞臣(まねおみ・広沢/柏村/波多野、藩士/日記) E 2 0 8 6  
 金吾(きんご・荻野) → 重道(しげみち・荻野おぎの、藩士/歌人) D 2 1 0 1  
 金吾(きんご・小田村) → 素彦(もとひこ・楫取/松島/小田村、藩士) D 4 4 9 5  
 金吾(きんご・間瀬/日比野) → 白圭(はっけい・日比野ひびの、間瀬、絵師) F 3 6 1 8  
 金吾(きんご・田中/千葉) → 正中(まさなか・千葉ちば/田中、庄屋/林業/歌) Q 4 0 8 9  
 金吾(きんご・野沢) → 信元(のぶもと・野沢のざわ/藤原、神職/国学) J 3 5 5 4  
 金吾(きんご・杉浦) → 盛樹(しげき・杉浦さざうら、陪臣/歌人) Z 2 1 0 1  
 金吾(きんご・森川) → 常倫(つねとも・森川もりかわ、藩士/和学者) G 2 9 6 2  
 金吾(きんご・星野) → 千之(かづゆき・星野ほしの、幕臣/奉行) V 1 5 6 2  
 金吾(きんご・平山) → 敬忠(よしただ・平山らやま/黒岡、幕臣/神道) O 4 7 8 0  
 欽吾(きんご・只野) → 克巳(かつみ・只野ただの、国学者) V 1 5 0 0  
 欽吾(謹吾きんご・原) → 信好(のぶよし・原はら/秦、国学/歌/官吏) J 3 5 6 9  
 謹五(きんご・水谷) → 川柳(6世せんりゅう、5世男/川柳作者) 2 4 4 4  
 謹吾(きんご・桂) → 誉恕(たかひろ・桂かつら/平、神職/国学) W 2 6 5 3



- S1677 吟子(ぎんこ・小浜) ? - ? 江中期;幕臣小姓組小浜吉之丞の母、  
歌;1798石野広通「霞関集」入、  
[水の面も見えわかぬまで雪と散る花にせかれし春の山川](霞関;春165/花浮水)
- Q1688 金岡(きんこう;道号・用兼ようけん;法諱、俗姓;戸田)1436-? 1515存 讃岐の曹洞僧;1446出家、  
大庵須益門、為宗仲心門/嗣法、安藝厳島洞雲寺・周防長福院・阿波丈六寺など開山、  
永平寺伽藍復興勸縁に尽力、1515;11月行脚;行方不明、  
「丈六寺開山金岡大禪師法語」著
- S1671 金公(きんこう・堀金ほりかね) ? - ? 江前期上方の俳人、  
1673西鶴「生玉万句」第三花発句入、  
[聞くなかせ花を滝とはうその川](花発句/うその川;嘘の皮のもじり)
- H1683 芹江(きんこう) ? - ? 江中期俳人;鳥酔門、  
1745雨竹坊と師を連れ箱根湯治;「湯山紀行」撰
- D1696 琴好(きんこう・石部いへ、姓;松崎、通称;仙右衛門)?-? 江戸本所亀沢町の商家;幕府御用達、  
黄表紙、1789「笑の種蒔」「碑文谷嘶」著、  
1789佐野善左衛門政言の田沼意知刺殺事件(天明事件)翻案「黒白水鏡」により手鎖江戸払
- 1661 錦江(きんこう・成島なるしま/修姓;島・鳴、名;鳳卿/信遍のぶゆき、平井宣休男)1689-1760? 岩代白河儒者、  
幕府表坊主成島道雪の養子、1719幕臣(吉宗に寵愛);奥茶坊主、1723御書物部屋預、  
紅葉山文庫を閲覧/吉宗の推進する古式復興(曲水宴・流鏑馬・法華八講等)に貢献、  
1737御同朋格、儒;服部南郭/荻生徂徠門、歌;冷泉為綱門、江戸冷泉派歌人とし幕府で活躍、  
1745致仕;以後重鎮とし歌人養成に尽力、1732(享保17)「曲水宴詩歌」編/37[飛鳥山碑]撰、  
1739芥川寸艸[飛鳥山十二景詩歌]入(;鶴台秋月こうのだいのしうげつ)、1745「八講私記」、  
歌集「三世みよの浪」、「芙蓉楼全集」「春曙百首歌」著、1756忠篤「千首和歌」参加、  
「曲水宴集」「成島信遍のぶゆき集」「御園の露」「飛鳥山碑文」著外編著多数、先哲叢談入、  
広通「霞関集」入(息子和鼎かざかねと入集)、  
[老の身のたぐひとぞ見る桜花外の散りにし後の色香は](霞関;夏210/残花)、  
[晴るゝ夜の真間の入江に汐みちて月さしのぼる岡のべの松]、  
(十二景歌;鶴台は国府台/飛鳥山からの岡遠望;さらに真間の手児奈へ移る)、  
[錦江(号)の字/通称/別号]字;帰徳/子陽、通称;巳之助/忠八郎、別号;道筑/芙蓉道人、  
法号;祐妙院  
☆飛鳥山十二景 → 榴岡(りゅうこう・林はやし) D4978
- J1612 錦江(きんこう・徳田とくだ、名;庸/字;子疇)1710-71? 常陸の儒者・安積澹泊門、1731水戸藩士、  
1742彰考館総裁/世子傳兼侍講/66彰考館総裁再任、「仏事志」、「錦江集」「錦江文集」著、  
1751「富田年譜」53「徳田庸筆記」、「復古会詩集」「安積先生澹泊齋行実附墓碑銘略譜」著、  
[錦江の通称/別号]通称;儀七/五左衛門、別号;汶江ぶんこう/薛荔園せつれいえん
- S1640 琴公(きんこう) ? - ? 江戸の俳人/雑俳点者;1737「琴公評万句合」編
- Q1689 錦江(きんこう) ? - ? 江中期1751-72頃江戸の雑俳点者、  
江戸で毎年下半期に万句合興行を催、1766「錦江評万句集」編/1767「春楽三評」の点者、  
「誹風柳多留拾遺」に選句入、[ひょうばんのたわらをはしへ出てたのみ](柳多留二〇)
- Q1690 琴考(きんこう) ? - ? 近江大津の俳人;1777江涯こうがい「仮日記」1句入、  
[見返へれば山門高し雉きじの声](仮日記;81/雉の声と山門の高さ)
- Q1691 芹江(きんこう・小林こばやし、2世麦穂庵、初世麦穂庵村水男)1757-1819? 相模荻野村村水の刃物研業、  
俳人;五柏園社中、書も嗜む、1812「うめこよみ」編
- H1684 錦江(きんこう・春日部かかべ、屋号;桑名屋)?-? 江戸牛込原町の薬種商、狂歌・橘州門/小石川連、  
南畝と親交、1782橘州「狂歌若菜集」/85赤良「徳和歌後万載集」5首入、1787「才蔵集」入、  
[七夕のひとよねまきのあかつきをうらみてかへすかし小袖かな](後万載集;三217)、  
[春日部錦江(:号)の通称/別号]通称;桑名屋与左衛門/与右衛門、  
別号;婆阿ばあ/ばあ、婆阿上人ばあしょうにん、剃髪の号;道甫
- Q1692 金篋(きんこう) ? - ? 京俳人;蕪村と交流、1782蕪村「花鳥篇」2句入、  
[ゆく春の逡巡として遅ざくら](花鳥篇;23/蕪村の代作?;蕪村句集に[行く春や・])

[うしろより雨の迫来る焼野哉](花鳥篇;104/芽生えの春の雨)

- Q1693 **錦江**(きんこう・中田なかた、名;驥/字;千里、石井樟斎男)1798-1869 羽後十二所生/大館の中田家嗣、秋田藩士/経学・医;藩校明德館で修学/儒学;大窪詩仏・朝川善庵門、帰郷後子弟教育、勤王派;戊辰戦従軍、「戦国策考」、[錦江の通称] 万治/新兵衛
- D1697 **錦江**(きんこう・馬場ばば/本姓源、名;正統、8世其日庵蔡々[正督]男)1801-60 幕臣;小十人組番士、1844家督、儒;経義/史料/文章;古賀侗庵門、和算と俳諧;父門;1843其日庵継承、俳諧研究、俳諧;「葛可津羅集」「芭蕉翁桃青伝」「葛飾正風」「葛飾正統図」「猿みの集解」「葛可津羅集」、  
「俳諧六義伝」1829「梅の枝折」34「俳諧稽古早道」45「蔡々翁句集」58「奥の細道通解」、  
詩歌;「蓮池百首」「蓮池和詩集」「蓮池雑談」、和算;「円内累円術続編」「算法奇賞」、  
「算法自約術大全」「精要算法解」「真積算梯解義」「真積算梯後編」、  
「自讃愚鈔」外著多数、  
[錦江の字/通称/別号] 字;貫卿、通称;小太郎、別号;桃所、其日庵9世(葛飾派)、  
蔡咖/紅日庵/桃葉庵2世/竹庭/絢星楼/練水舎2世/蓮池翁3世/一馬園/玲瓏閣、  
陪仙郎/葛長者/秒光斎/引考堂/膝六丈人/向旭楼、法号;誠諦院
- H1685 **近行**(きんこう・南条なんじょう)? - ? 幕臣/儒者;考証学、1821-42屋代弘賢「古今要覧稿」編纂  
錦江(錦考きんこう;俳名)→ 幸四郎(こうしろう・四世松本、歌伎役者) B 1 9 4 0  
錦江(きんこう;俳名) → 幸四郎(こうしろう・五世松本、歌伎役者) B 1 9 4 1  
錦江(きんこう・重松/張) → 篤太夫(とくだゆう・重松、藩士/記録) L 3 1 1 7  
錦江(きんこう・高野) → 正実(まさざね・高野たかの、藩士/歌人) Q 4 0 6 8  
錦江(きんこう・稲次) → 眞年(まとし・稲次いねぐ、国学/歌) K 4 0 8 6  
錦江(きんこう・中山) → 俊彦(としひこ・中山なかやま、神職/国学) V 3 1 9 4  
錦江(きんこう・今井) → 成忠(しげただ・今井いまい、代官/国学者) N 2 1 4 3  
錦岡(きんこう・座光寺) → 為巳(ためみ・座光寺ざこうじ/石尾、領主/歌人) X 2 6 2 6  
金江(きんこう・三宅) → 英斎(えいさい・三宅みやけ、絵師) C 1 3 7 8  
近光(きんこう・勘解由小路) → 近光(ちかみつ・勘解由小路かでのこうじ、廷臣/記録) B 2 8 9 4  
均光(きんこう・柳原) → 均光(なみつ・柳原、廷臣/歌人) C 3 2 6 6  
欽公(きんこう;諡・松平) → 頼起(よりおき・松平らつだいら、藩主/和学) P 4 7 1 8  
琴岡(きんこう・柴田) → 花守(はなもり・柴田しばた、神道家) F 3 6 5 0
- I1692 **吟交**(ぎんこう) ? - ? 俳人;1691不角「二葉之松」(163)入、  
[亡き夫つまのゆひ初髪そめがみと削そらぬ情じやう](二葉之松;163)、  
(亡骸の髪を剃るとき結婚当初から結ってやってきた髪を剃り捨てられない妻の情)
- H1686 **吟江**(ぎんこう・夏目なつめ、通称;井筒屋庄兵衛、井筒屋八郎右衛門宗成男)?-1783 江戸蔵前の札差、1782兄成美から家督を受;翌年急逝、俳人;成美の弟、伯父祇明/父宗成門、「行雲日記」、1773「年のつほみ」76「こころの花」、78「推敲日記」、79「糞汰瓶じんたがめ」;兄成美と共編、1780「ゆめうら」「何とも」編、83維駒これこま「五車反古」1句入、  
[身をすばめ行ゆくや桜の散る木の間](五車反古;142/散る桜と身を歎く生涯)、  
[吟江の別号] 加之舎/陽子よし
- S1652 **吟香**(ぎんこう・岸田きしだ、名;作良さくら/桜、修治郎男)1833-1905 美作久米北条郡埴和が村の農家、儒学;1845安藤善一(簡斎)門/53津山藩儒昌谷精溪門;その紹介で林凶書頭門、1855三河挙母藩出仕;中小姓/大郎(大郎左衛門)と改名;病気で致仕帰郷、1856大阪の藤沢東暎門/57藤森天山門;58安政大獄で天山(弘庵)が追放処分、1859連座を恐れ伊香保へ避難、61挙母藩の儒官;脱藩/江戸深川住;妓楼・湯屋の下働き、暮しを振り[ままよの吟]と称す/銀次と称す;銀公と呼ばれ吟香と号す、妓楼主人となる、1863眼病となりへボンを訪問;へボン「和英語林集成」編纂に参画、英語;ジョセフ・ヒコ門、1864日本初の新聞「新聞紙」発刊/65横浜住/66へボンと上海へ;美華書館でカナ活字作製、1867「和英語林集成」刊/へボン処方目薬「精錡水」を販売、1868「横浜新報・もしほ草」創刊、1871氷室商会創設;氷販売/83東京日日新聞主筆/以後は薬業界の実業家として活躍、  
[吟香(;号)の名/通称/別号]名;作良さくら/桜/大郎/大郎左衛門/達蔵/称子磨呂、  
通称;銀次/銀次郎/ままよ/墨江/墨江岸国華/墨江桜/墨江岸桜/小林屋銀次/  
京屋銀治郎/桜井銀治郎など、  
別号;東洋/桜草/吟道人、岸田劉生の父

- 銀巷(ぎんこう・栗田) → 寛(ひろし・栗田、国学者) F 3 7 9 5  
 近行遠通(きんこうえんつう) → 道印(どういん・遠近おちこち、藤井、藩医/測量) B 3 1 1 0  
 錦江鷗史(きんこうおうし) → 古堂(こどう・松本、儒者/勤王) D 1 9 4 3  
 D1698 錦江女(きんこうじよ・原田はらだ、原田正心の妻) ?-? 俳人、蕉門、大津住、1747蕪村「玉藻集」入  
 琴岡亭(きんこうてい) → 吉憲(よしのみ・小町谷こまちや/林、歌人) F 4 7 9 0  
 錦香亭(きんこうてい) → 栖鳳(せいほう・三輪みわ/原、歌人) O 2 4 0 8  
 琴後翁(きんごおう/ことじりのおきな) → 春海(はるみ・村田、商家/国学/歌) 3 6 3 6  
 D1699 金谷(きんこく・荻生おぎゅう/本姓;物部/修姓;物、名;道濟・叔道、伯達男) 1703-7674 江戸の儒者、  
 叔父徂徠の女婿;護園げんえん2世、大和郡山藩儒/藩校総稽古所の教授、「唐音考経」「金谷文集」、  
 「漢宮図譜」「漢儒伝径図」「読易草」「読野語」「南遊紀行」「楽律考証」「異邦服制」外著多数、  
 [金谷の字/通称]字;大寧、通称;伊三郎/惣右衛門  
 I1697 金谷(きんこく・石川いしかわ、名;貞) 1737-7842 伊勢菰野(or河内)の儒者;南宮大湫門、京で開塾、  
 招聘され膳所藩教授、日向延岡藩出仕;致仕/大炊御門おおいのみかど家の侍読、詩人、  
 「論語正文唐音付」/1758「唐詩函」編/64「問槎余響」70「游焉社常談」71「居家雜儀俗解」著、  
 1763「大湫先生集」跋文、  
 [金谷の字/通称]字;太乙たいいつ/太一たいいち、通称;頼母たのも  
 E1600 金谷(きんこく・島田しまだ) ? - ? 洒落本作者、1784「狂訓彙軌本紀」著  
 中井董堂[1758-1821]説あり → 董堂(どうどう・中井、詩・書・狂歌) G 3 1 7 8  
 E1601 金谷(きんこく・横井よこい) 1760- 183273 江後期近江栗太郡下笠村の絵師、初め浄土僧、  
 修験者山伏として諸国行脚、画;蕪村に私淑;近江蕪村と称、1822坂本に常楽房を結庵、  
 「金谷上人御一代記」著(滑稽旅行記)  
 Q1694 金谷(きんこく・鈴木/鱸すずき、名;重時、重遠男) 1815-5642 常陸水戸藩士/蘭学;青地林宗・幡崎鼎門、  
 1852藩命で地球儀作成/53大船製造掛/ロシア艦ディアナ号応接掛/56旭日丸建造中没、  
 蘭書翻訳、1838「火攻新語」48「測量捷法図」51「万国地理細図」「万国旗章図譜」著、  
 [金谷の字/通称/別号]字;奉卿、通称;半次郎/半兵衛、別号;露川  
 琴谷(きんこく・岩瀬/小野) → 清春(きよはる・菱川、絵師) Q 1 6 1 7  
 琴谷(きんこく・岸田) → 月窓(げつそう・岸田きしだ、詩文) H 1 8 1 9  
 T1653 公言(きんこと・今出川いまでがわ/本姓;藤原、誠季男) 1738-7639 母;今出川公詮女、京の菊亭家、  
 廷臣;侍従/左近衛権少将/1753従三位右近中将/56権中納言/正三位、  
 尊王の志;1760宝暦事件で幕府の弾圧により出家、養子実種が家督嗣、  
 国学:竹内敬持門、勸修寺良顕室の父/養子;実種、没後;贈従二位、法号;松阜、  
 E1602 公説(きんこと・四辻よつじ、公万きんかざ男/実は祖父公亨きんみち男?/本姓藤原) 1780-184970 母;源政直女、  
 廷臣;1809(文化6)従三位・参議/21正二位/24権大納言/大歌所別当、法号;覚性院、  
 1804「心づくし」15「指月抄」、「指月話」「雅楽譜」著  
 欽古堂亀祐(きんこどうかめすけ) → 亀祐(かめすけ・土岐/中村、陶工) 1 5 4 2  
 金吾入道(きんごにゅうどう) → 基俊(もととし・藤原ふじわら、廷臣/歌人) 4 4 1 7  
 公維(きんこれ・久我/徳大寺) → 公維(きんつな・徳大寺、内大臣/歌) E 1 6 3 4  
 公伊(きんこれ・三条西) → 公福(きんとみ・三条西/西三条、歌人) E 1 6 4 1  
 Q1695 金五郎(きんごろう・伊藤いとう、伊藤家6代宗看男) ?-? 江戸末期将棋士6段、1836「御将某所」編  
 金五郎(きんごろう・楠部) → 肇(はじめ・楠部くすべ、郷土史家) E 3 6 3 9  
 金五郎(きんごろう・水野) → 忠精(ただきよ・水野、藩主/老中/歌人) F 2 6 0 3  
 金五郎(きんごろう・林) → 為成(ためなり・林はやし、幕臣/歌人) U 2 6 0 7  
 金五郎(きんごろう・北川) → 素白(そはく・北川きたがわ、藩士/俳人) K 2 5 3 5  
 金五郎(きんごろう・久野) → 純固(すみかた・久野くの、藩家老/詩歌) D 2 3 8 8  
 金五郎(きんごろう・野沢) → 信元(のぶもと・野沢のざわ/藤原、神職/国学) J 3 5 5 4  
 金悟郎(きんごろう・鹿島) → 天翁(てんおう・鹿島、俳人) D 3 0 1 7  
 琴左(きんさ) → 五竹坊(ごちくぼう、俳人) D 1 9 2 6  
 H1687 勤斎(きんさい・益田ますだ、名;濤/字;万頃) 1764-183370 江戸下谷の篆刻家;浄碧居派、曾根寸斎の師、  
 書画/古器、「勤斎印存」著、養嗣子;遇所ぐうしよ、  
 [勤斎の通称/別号]通称;重蔵、別号;雲遠/浄碧、法号;行誉永律勤斎居士



- I1698 **勤齋** (きんさい・小亀こがめ/初姓;新山・津高、名;益英ますひで) ?-? 江前期1661-81頃京の書肆/韻学研究、  
仮名草子作者/俳諧、1669「由来物語」「韻鏡秘事称」/70「韻鏡診解」「韻鏡秘事大全」著、  
1675「女五経」/79「韻鏡秘事大成」「韻鏡診解大成」/80「韻鏡秘録」、「因果経」「正字韻鏡」著、  
[勤齋の字/通称/別号]字;叔華、通称;三左衛門、別号;嘉琴/益奥
- I1699 **欽齋** (きんさい・宮沢みやざわ、名;安重、磯野渙齋[昌純]男) 1735-97<sup>63</sup> 尾張の磯野氏支族の宮沢家継承、  
儒;闇齋学;中村習齋門/蟹が養齋門、伊勢桑名で開塾/伊勢長島藩儒臣、1775名古屋で医業、  
1796尾張藩家老の招聘;郷校時習館創設/学頭、1765「浅野四十六士論」編/67「中庸説」著、  
1797「正俗要務」、「壇誌略」「時習館学制」「諸経伝講義」「中庸筆記」著、  
[欽齋の通称/別号]通称;清三郎/懶夫、別号;南溟
- Q1696 **芹齋** (きんさい・松田まつだ、名;就/字;将卿) ?-? 江後期加賀の医者・杉田立卿門、「芹齋稿」著、  
1816師の訳著「眼科新書」編刊(製煉器図説・薬剤製煉法等を輯録)
- Q1697 **均齋** (きんさい・加藤かとう、名;誠之/字;子固) 1805-62<sup>58</sup> 京三条暦算家/和算;三木松齋・小島典膳門、  
暦学;出兼政門;和田円理学兼天文暦術を伝授された、一家を創設;七流兼学算儒と自称、  
「為善額暦」「点竄術初門」「具注千秋暦」1832「諸約術」43「測地新篇」56「新術測地解義」著、  
[均齋の通称/別号]通称;政助、別号;為善堂/淡水
- J1600 **謹齋** (きんさい・平元ひらもと、名;重徳/徳、字;恒卿、重福男) 1810-76<sup>67</sup> 秋田の儒者;黒沢四如門、  
秋田藩国学書記/国学準教授/評定奉行/藩校明徳館教授/藩主侍読、軍事/兵法/刀槍修得、  
1855蝦夷巡視/63軍事方、戊辰戦争で佐幕派/免職塾居/69隠居、画;中山孤山門、詩歌、  
「論語考」「周易考」「易私説」「春秋説」「随徳録」「予防録」「鶏肋集」著、「謹齋先生詩文稿」著、  
[謹齋の通称/別号]通称;貞治/正、別号;颯堂ごどう/一齋/孤柳/梅花書屋
- 金齋 (きんさい・大畑) → 春国(はるくに・大畑おおはた、藩士/国学者) G 3 6 3 2  
 勤齋 (きんさい・亀井) → 茲監(これみ・亀井かめい、藩主/歌) E 1 9 5 1  
 槿齋 (きんさい・西村) → 有年(ありとし・西村にしむら/藤原、藩士/歌) I 1 0 2 2  
 謹齋 (きんさい・鹿田) → 正明(まさあき・鹿田しかた、洋式兵学/藩士) B 4 0 0 9  
 謹齋 (きんさい・浅野) → 讓(ゆずる・浅野あさの、医者/歌人) G 4 6 0 6  
 欽齋 (きんさい・名越) → 時行(ときゆき・名越なごや/なごえ、民俗研究) K 3 1 2 9  
 欽齋 (きんさい・桜田) → 虎門(こもん・桜田さくらだ、藩士/儒者) F 1 9 9 0  
 近齋 (きんさい・山口) → 菅山(かんだん・山口、藩士/儒者) G 1 5 3 0  
 芹齋 (きんさい・沢) → 甘令(かんれい・沢さわ、俳人) I 1 5 2 7  
 芹齋 (きんさい・伊吹) → 正邦(まさくに・伊吹いぶき/源、藩士/歌人) N 4 0 4 3  
 均齋 (きんさい・山本) → 雪亭(せつてい・山本やまもと、棋士;碁) L 2 4 2 5  
 錦菜 (きんさい;号) → 九鼎(きゅうてい;道号・竺重、臨濟僧) M 1 6 8 1  
 琴齋 (きんさい・村井) → 琴山(きんざん・村井/邨井、医者/詩文) J 1 6 0 1  
 琴齋 (きんさい・柳川) → 重信(初世しげのぶ・柳川/鈴木、絵師) C 2 1 7 4  
 琴齋 (きんさい・三井) → 高敏(たかとし・三井みつゐ、商家/国学) D 2 6 2 1  
 琴齋 (きんさい・新井) → 政毅(まさかた・新井あらい、歌人/蔵書家) N 4 0 2 3  
 琴齋 (きんさい・横道) → 居州(やすくに・横道よこみち、国学者) H 4 5 0 1
- Q1698 **閻齋** (げんさい・桜木さくらぎ、名;千之、大木[桜木]祐意男) 1725-1804<sup>80</sup> 上総東金町儒者;幸田子善門、  
稲葉迂齋門、松平定信命で長崎聖堂教授、晩年迂齋に背く/伴部安崇蔵書購入;垂加神道派、  
1793「長崎在勤日記」、「大学講義」「書経講義」「大学章句講義」「五常訓」「道話」「閻齋雜録」著、  
[閻齋の字/通称]字;剛中、通称;助右衛門/清十郎
- 銀齋 (ぎんさい) → 鯤齋(こんさい・磯辺いそべ、儒者/易/茶) P 1 9 2 0  
 菫菜園 (きんさいえん) → 泰郷(やすさと・佐藤さとう、国学・歌) F 4 5 5 2  
 欽哉亭 (きんさいてい) → 読耕齋(どこうさい・林、儒者) O 3 1 4 8
- Q1699 **金左衛門** (きんざえもん・高島たかばたけ) ?-? 江中期:金沢藩士/産物方御用主付、  
1735「能登国産物之内別ニ書出候帳面」37「加能越産物書上帳」著
- R1600 **金左衛門** (きんざえもん・大田おおた) ?-? 江戸後期・三河新城の間屋役、「山湊馬浪」著
- R1601 **金左衛門** (きんざえもん・清水しみず、良右衛門男) 1823-88<sup>66</sup> 信州上塩尻の蚕種製造販売業、  
養蚕研究:養蚕製種技で農家指導、乾湿計考案;窮理製造所設置、1847「養蚕教弘録」著  
 金左衛門 (きんざえもん・久保) → 正貞(まささだ・久保くぼ、幕臣/書記) C 4 0 5 4



- 金左衛門(きんざえもん・伴)→ 信近(のぶちか・伴ぼん、国学者/歌) C 3 5 0 0  
 金左衛門(きんざえもん・太田)→ 白雪(はくせつ・太田、庄屋/俳人) D 3 6 4 8  
 金左衛門(勤左衛門きんざえもん・位田)→ 義勇(よしだけ・位田いだ、歌人) E 4 7 1 9  
 金左衛門(きんざえもん・内藤)→ 忠正(ただまさ・内藤ないとう、幕臣/和学) Y 2 6 4 7  
 金左衛門(きんざえもん・沢崎)→ 実備(さねなが・さねとも・沢崎、藩士/史家) L 2 0 1 4  
 金左衛門(きんざえもん・石河)→ 正養(まさかい・石河いしこ/越智、藩士/国学) B 4 0 6 6  
 金左衛門(きんざえもん・立花)→ 勝映(かつてる・立花たちばな、国学者) V 1 5 0 2  
 金左衛門(きんざえもん・川村)→ 碩布(せきふ・川村、豪商/名主/俳人) 2 4 1 1  
 金左衛門(きんざえもん・室田)→ 正良(まさよし・室田むろた、幕臣/軍学) I 4 0 5 5  
 金左衛門(きんざえもん・小原)→ 躬置(ちかやす・小原おはら/横内、教育/歌) M 2 8 2 0  
 金左衛門(きんざえもん・福島)→ 地栄(つちひで・福島ふくしま、商家/歌人) G 2 9 2 4  
 金左衛門(きんざえもん・平野)→ 長興(ながおき・平野ひらの、藩士/歌人) O 3 2 5 3  
 謹左衛門(きんざえもん・浅野)→ 讓(ゆずる・浅野あさの、医者/歌人) G 4 6 0 6  
 吟左衛門(きんざえもん・村沢)→ 布高(のぶたか・村沢むらさわ、天文曆算) B 3 5 7 3
- H1688 **金作**(きんさく・竹柴たけしば) ? - ? 江後期歌舞伎作者; 1865黙阿弥「処女評判善悪鏡」番付  
 金作(金策きんさく・千屋)→ 孝成(たかしげ・千屋ちや、医者/勤王派) M 2 6 0 8  
 金作(きんさく・狩谷) → 鷹友(たかとも・狩谷かりや、国学者/歌人) M 2 6 4 8  
 金作(きんさく・春日) → 守樹(もりき・春日かすが、国学者) J 4 4 6 9  
 金作(きんさく・川村) → 正臣(まさおみ・川村かわむら、藩士/神職) P 4 0 0 4  
 金作(きんさく・北沢) → 正教(まさのり/まさとし・北沢きたざわ、神職) P 4 0 2 7
- E1603 **公定**(きんさだ・藤原ふじわら、経家長男) 1049-99 51 平安後期廷臣; 藤原北家小野宮流、1063侍従、  
 1066少納言/72正四下春宮権亮/83藏人頭/86(応徳3)参議、皇太后宮権大夫/昇進遅滞、  
 1092従三位/97(承德2)正三位、99(承德3)没、1089「公定卿記」著、  
 歌; 1075(承保2)白河天皇催「殿上歌合」参加、  
 [をぐら山嵐の音のさびしさにかれがれ鹿の声ぞなり行く](殿上歌合; 一番左1)  
 [公定(;名)の通称/異名]通称; 高松宰相、異名; 無月宰相
- E1604 **公定**(きんさだ・洞院とういん、実夏男) 1340-99 60 母; 持明院保藤女(花園院按察典侍)、南北期廷臣、  
 1395従一位右大臣/96左大臣/98致仕、学識者、「尊卑分脈」の原撰、「諸源氏系図」著、  
 「大嘗会部類」編、「洞院公定日次記」著(太平記作者小島法師の記事あり)、  
 [公定の通称] 後中園左大臣、法名; 元貞げんてい、祖父; 公賢、猶子; 実信・満季
- R1602 **台定**(きんさだ・木下きのした、利貞男) 1653-1730 78 備中足守藩主、母; 金森重頼女、1679家督相続、  
 文教奨励; 藩校追琢館創立、1680丹後宮津の城番/1701播州赤穂城の城受取、果樹栽培奨励、  
 領内18社寺の縁起書作成、1729致仕、書/詩/連歌、謡曲「菊の下水」作、  
 1706「詞源乗槎」、1706「桑華蒙求」著、  
 [台定の別名/字/通称/号]別名;(初名;)利春としはる/義利/利庸としゆ/国定、字; 讓甫、  
 通称; 熊之助/宮内、号; 葵峯きぼう、法号; 観翁慧定敬文院
- 公貞(きんさだ・宇都宮) → 綱世(つなよ・宇都宮うつのみや/藤原、武将/歌) G 2 9 8 1  
 公祐(きんさち・高松) → 公祐(きみすけ/きんさち・高松、廷臣/歌人) B 1 6 8 3  
 公知(きんさと) → 公知(きんとも・姉小路、歌人) E 1 6 4 2
- E1606 **公誠**(きんさね/きんまさ・平たいら、元平男) ?-? 1012存 平安期周防守/従五下、大嘗祭御禊の前駆、  
 花山院別当、歌人; 玄々集入、勅撰5首; 拾遺89/624/1051/1192/(金Ⅲ431)/詞花252、  
 [卯の花を散りにし梅むめにまがへてや夏の垣根に鶯の鳴く](拾遺集; 二89)、  
 [あふことや涙の玉の緒なるらんしばしたゆればおちて乱る](詞花; 恋252/玄々104)
- E1605 **公実**(きんさね・藤原ふじわら、実季さねすえ男) 1053-1107 55 母; 藤原経平女の睦子、廷臣; 1080参議、  
 1100権大納言、1103正二位春宮大夫(妹茨子しが鳥羽天皇母); 権勢を振う/07出家、  
 閑院流の祖、歌人; 自邸歌合を催/俊頼・基俊を庇護、1075殿上歌合/78内裏歌合参加、  
 内裏艶書合/堀河両度百首参加、「堀河百首」勸進、  
 「公実集」(断簡のみ存)/「公実卿御歌」「類題十四首和歌」著、後葉集・続詞花・雲葉集入、  
 勅撰57首; 後拾(31/249)金(Ⅱ25首2/8/13下Ⅲ15首解1首)詞(4首)千(7首)新古(1首494)以下、  
 [君が代にひきくらぶれば子日する松の千歳も数ならぬかな](後拾遺集; 一31/内裏歌合)、

[公実の通称] 三条大納言/藤大納言

妹 → 茨子(じし、以子/苴子い、堀河天皇女御) D 2 1 8 2  
妻 → 藤原隆方女光子(堀河/鳥羽両天皇の乳母)  
→ 藤原基貞女(師実妾中納言とは姉妹)  
男 → 実隆(さねたか・藤原、中納言/歌人) D 2 0 1 2  
→ 実行(さねゆき・三条祖、太政大臣/歌人) D 2 0 7 5  
→ 通季(みちすえ・西園寺祖、中宮大夫) B 4 1 6 3  
→ 実能(さねよし・徳大寺祖、左大臣/歌人) D 2 0 7 6  
女 → 有仁室(ありひとのしつ・源、歌人) B 1 0 9 1  
→ 璋子(しょうし・待賢門院、鳥羽天皇妃) N 2 1 1 3

金三郎(きんざぶろう・下曾根[禰]) → 信敦(のぶあつ・下曾根、幕臣/砲術) 3 5 9 2  
金三郎(きんざぶろう・太田) → 白雪(はくせつ・太田、庄屋/俳人) D 3 6 4 8  
金三郎(きんざぶろう・下里/下郷) → 蝶羽(ちょうう・下郷/下里、醸酒業/俳人) H 2 8 2 6  
金三郎(きんざぶろう・下郷) → 亀世(かめい・下郷もさと/千代倉、造酒業/俳人) B 1 6 3 4  
金三郎(きんざぶろう・土屋) → 廉直(ただなお・土屋つちや、幕臣/記録) Q 2 6 2 3  
金三郎(きんざぶろう・深津/土岐) → 朝旨(ともむね・土岐/深津、幕臣/文筆) Q 3 1 7 0  
金三郎(きんざぶろう・吉田) → 元卓(げんたく・吉田よしだ、医者) K 1 8 9 5  
金三郎(きんざぶろう・土屋) → 温直(よしなお・土屋つちや、幕臣/文筆家) F 4 7 1 8  
金三郎(きんざぶろう・武田) → 友信(とものぶ・武田たけだ、藩士/記録) Q 3 1 2 4  
金三郎(きんざぶろう・松沢) → 青荘(せいそう・蒲坂ほさか、漢学者) C 2 4 4 9  
金三郎(きんざぶろう・森田) → 維種(これたね・森田もりた、国学者) R 1 9 4 3  
金三郎(きんざぶろう・大坂屋) → 言智(こととも・林はやし、商家/歌人) R 1 9 1 6  
金三郎(きんざぶろう・飯島/都筑) → 峰重(みねしげ・都筑/都築、幕臣/記録) F 4 1 4 7  
銀三郎(ぎんざぶろう・奥野) → 昌綱(まさつな・奥野/竹内、幕臣/キリスト教伝道) E 4 0 0 1  
銀三郎(ぎんざぶろう・唐木) → 春雄(はるお・唐木からき、商家/国学/歌) J 3 6 9 7  
銀三郎(ぎんざぶろう・唐木) → 善武(よしたけ・唐木、春雄男/国学/歌) M 4 7 2 7

R1604 金山(きんざん; 道号・明昶みょうちやう; 法諱、俗世; 藤原) 1349-1413<sup>65</sup> 安藝臨濟僧、東福寺70世、  
「金山和尚語録」著、

[金山明昶の別道号/別法諱]別道号; 金峰きんぼう、初法諱; 明根みょうとう

R1605 琴山(きんざん) ? - ? 京の俳人; 1690言水「新撰都曲みやこぶり」1句入、  
[人貞ひとがほやへちで涼しき川社かはやしる](都曲; 138)

(六月夏越なごし祓の川辺の仮社に集まる人々; 涼しい社のはずれの方が賑わう)

H1689 琴山(きんざん・櫛田くしだ、名; 涉/字; 巨源、祐友男) 1675-1742<sup>68</sup> 福岡藩儒/儒; 鶴原九臯門、  
1719朝鮮通信使の接待; 唱酬、「半隠堂集」「藍島唱和集」「緑蓑堂集」著、  
可憫からんの弟、菊潭の父、

[琴山の通称/別号]通称; 平次、別号; 水南/半隠堂/宜秋堂/餐菊館

R1606 琴山(きんざん・戸田とだ、名; 養恬) ?-? 江中期伊予の儒者、1733「尚使撮要」著

J1601 琴山(きんざん・村井/邨井むらい、名; 杵ちゆん、字; 大年、見樸男) 1733-1815<sup>83</sup> 肥後熊本藩医/侍医、  
失明した父を助け医学校再春館を再建/上京し古医方; 吉益東洞門、帰郷; 古医方を実践、  
古文辞学; 秋山玉山門、詩文/琵琶/琴に親しむ、庭園叢桂園に菊舎尼を招く、  
「医道眼目」編、「扁鵲伝考」「古医薬量考」「万病一毒之論」「毒薬論」著、  
「琴山詩文集」「琴斎詩集」「琴斎文集」「琴山随筆」外著多数、

[琴山の通称/別号]通称; 椿寿ちんじゅ、別号; 琴斎/子琴/原診館/六清真人/清福道人

R1607 琴山(きんざん・香川かがわ、) 1762-1836<sup>75</sup> 安藝香川家末裔/周防岩国領吉川家の家臣; 家老職、  
藩財政悪化、宮庄親徳らと藩政改革; 1806(文化3)今津・室の木沖干拓推進(麻里布開作)、  
1821致仕、和漢学修学; 経史/詩人、国学/歌; 香川景柄かげもと門、書(藤生の松巖院に書あり)、  
熊谷直好と交遊、「琴山集」「流芳漫録」著、景達かげとうの父

[琴山(;号)の名/字/通称]名; 景晃かげあき・けいちやう/晃、字; 子光、通称; 舍人

R1608 金山(きんざん・青木あおき、名; 督暢/字; 士条) 1781-1818<sup>38</sup> 佐渡の儒者; 山本北山門、書画を嗜む、  
「山林余響」著、

- [金山の通称/別号]通称;晋平/清九郎、別号;無琴道人/無不可齋/午晴/泉石
- R1609 **巾山**(きんざん・高橋たかはし、名;湛/字;魚卿/通称;唯右衛門)1826-84<sup>59</sup> 安藝豊田郡儒者:石井豊洲門、安藝竹原の住;子弟教育/のち京住、「賀茂郡志」著、「巾山遺稿」
- 琴山(きんざん・古筆) → 了佐(りょうさ・古筆こひつ、平沢、古筆家祖) H 4 9 5 6
- 琴山(きんざん・古筆) → 了音(りょうおん・古筆こひつ/6世、鑑定家) G 4 9 6 2
- 琴山(きんざん・古筆) → 了延(りょうえん・古筆こひつ/7世、鑑定家) G 4 9 5 6
- 琴山(きんざん・古筆) → 了意(りょうい・古筆こひつ/9世、鑑定家) G 4 9 2 1
- 琴山(きんざん・大鳥居) → 信賢(しんけん・大鳥居/菅原/高辻、社僧/連歌) O 2 2 1 4
- 琴山(きんざん・宮崎) → 興道(おきみち・宮崎みやさき、医者) D 1 4 0 0
- 金山(きんざん・青木) → 緬崱(かんたん・青木あおき、医者) R 1 5 3 2
- R1603 **銀傘**(ぎんさん) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入(410)、  
[返り花終つひに御幸のためしなき](二葉之松;410/冬の返り花は綺麗でも御幸なし)
- E1607 **吟山**(ぎんざん・佐藤さとう、通称彦右衛門、別号;鳴風館)1703-76<sup>74</sup> 尾張佐屋の郷土/俳人:露川門、佐屋連衆として活躍、也有と交流、1726「此原」編/35「水鶏塚」編
- R1610 **忻子**(きんし・藤原ふじわら、皇太后宮、公能女)1134-1209<sup>76</sup> 後白河天皇皇后、女房に;若水[大進]
- H1691 **近之**(きんし、土岐とき、一曲子)?- ? 尾張俳人、1666一雪「洗濯物・洗濯礎せんたくきぬた」入、  
1695土芳蓑虫庵五歌仙参加(;'雪の五歌仙)入)
- H1692 **近之**(きんし) ? - ? 雑俳:1702瀞蛙「俳諧口三味線」前句付入
- H1674 **琴之**(きんし) ? - ? 大阪俳人/1775「笠の露」編(風律序)
- H1690 **金四**(きんし・吉田) ? - ? 江後期;人形遣い、浄瑠璃作者;  
1836案山子「梅魁苔八総はなのあにつぼみのやつふさ」合作
- T1684 **欽子**(きんし・久松ひさまつ) ? - ? 江後期;伊予の歌人、久松胖吾の妻、  
半井忠見(梧庵)編「ひなのてぶり」に17首入、  
[夜を寒みおくるる雁のひとつらは霜の衣や重ねきぬらむ](鄙のてぶり)
- 金芝(きんし・小林、金芝園) → 辰(たつ・小林こばやし、医者) R 2 6 5 2
- 近思(きんし・西郷) → 近思(ちかもと・西郷、藩家老/儒/国学) C 2 8 0 5
- 近子(きんし・井上) → 近子(ちかこ・井上いづえ、歌人) M 2 8 0 1
- 近子(きんし・菊池) → 近子(ちかこ・菊池きくち、国学/歌人) M 2 8 4 4
- 近之(きんし・中神) → 近之(ちかゆき・中神ながみ/小沢、歌人) N 2 8 1 3
- 欣子(きんし) → 新清和院(しんせいわいん、光格天皇皇后) P 2 2 0 9
- 琴子(きんし・小野) → 琴子(ことこ・小野おの、歌人) Q 1 9 4 5
- 謹子(きんし・阿部) → 謹子(きんこ・阿部あべ/松平、歌人) T 1 6 3 3
- 観子(きんし) → 宣陽門院(せんようもんいん、後白河天皇皇女/歌) G 2 4 7 5
- H1693 **近次**(きんじ) ? - ? 俳・梅盛門、1663梅盛「早梅集」入、  
1663木玉千句参加;倫員「木玉集」所収
- H1694 **琴而**(きんじ・斎藤さいとう、名;和用/通称徳兵衛、河上和宣[文化]男)1769-1832<sup>64</sup> 羽前鶴岡の酒屋;  
斎藤徳兵衛[荷暁]養嗣/俳人:養父荷暁門、庄内俳壇第一人者;病弱のため副宗匠格、  
1825「めくるあき」編、29「俳諧正語抄」著、  
[琴而の別号] 泉響園/泉風園/玄々堂、法号;宏流院
- E1608 **金治**(初世きんじ・篠田しのだ、姓;野々山、旗本野々山大膳男)1768?-1819<sup>52?</sup> 江戸生;放蕩放逐、  
1805頃歌舞伎作者;並木五瓶門/12市村座二枚目作者/16中村座立作者/17都座二枚格、  
1818五瓶襲名、合巻滑稽本も著す、1813「愛敬紺屋娘」/15「梅籬霞帯曳」/「復讐朝顔鏡」著、  
1817「頃桜曾我湊」/「睦女夫義経」/18「帯文雪空解」/「深山桜及兼樹振」/19「夢合返魂香」外多数、  
[初世篠田金治(;号)の名/通称/別号]名;正三郎、通称;正二、  
別号;篠田金次/2世並木五瓶/権々堂/葛葉山人正二/鳳凰軒正二/万寿亭正二
- R1611 **欽次**(きんじ・林はやし、菊地きくち秋庭3男/母方;林姓)1824?-96<sup>73?</sup> 摂津西成郡中島新田の生、  
磐城泉藩士;本多忠紀に出仕、フランス語;村上英俊門/蕃書調所仏学教授手伝、母方姓を名乗、  
開成所教授職並/維新後名古屋藩洋学校教師/のち東京にフランス語塾を開設、  
「仏蘭西歩兵操練書」訳/「木馬之書」訳  
[欽次(;名)の通称/法号]通称;正十郎、法号;広林院



- 金治(2世金次きんじ・篠田)→ 五瓶(3世ごへい・並木、歌舞伎作者) 1 9 4 2  
 金治(3世金次きんじ・篠田)→ 五柳(ごりゅう・並木/4世五瓶、歌舞伎作者) E 1 9 0 6  
 金治(金次きんじ・並木)→ 五柳(ごりゅう・並木/4世五瓶、歌舞伎作者) E 1 9 0 6  
 金治(きんじ・川井/川合/河井)→ 其堂(きどう・常盤井ときわい、歌舞伎作者) L 1 6 5 9  
 金治(きんじ・梅津)→ 忠至(ただり・梅津うめづ、藩士/国学者) F 2 6 6 1  
 金治(きんじ・富岡)→ 知明(ともあき・富岡、藩右筆) P 3 1 0 8  
 金次(きんじ・鶴岡)→ 蘆水(ろすい・鶴岡つるか、絵師) B 5 2 9 6  
 欽治(きんじ・三上)→ 超順(ちようじゆん;法諱、三上/住職/隊長) M 2 8 9 2  
 錦次(きんじ・瀬川)→ 幸四郎(四世こうしろう・松本、歌舞伎役者) B 1 9 4 0  
 琴二(きんじ・赤松)→ 香雨(こう・赤松あかまつ、商家/鑑定家) H 1 9 3 9
- H1695 **吟市**(ぎんじ;法諱) ? - ? 紀伊真言宗高野山阿蓮華寺住僧/俳人:  
 1672元隣「諸国独吟集」「俳諧当世男」入/1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
 [名や三鉢さん真言門の饅かざり松](手鑑/三鉢;密教修法用の三股の金剛杵)
- R1612 **銀獅**(ぎんし、文鳥舎) ? - 1811 大阪の俳人:1777蕪村「夜半楽」1句入、  
 1780以降几董初懐紙入/1782蕪村「花鳥篇」2句入、83維駒「五車反古ごしゃほく」2句入、  
 [春雨や隣づからの小豆飯](夜半楽;47/近所付合のよしみで赤飯が届く;何か祝い事か)  
 銀次(ぎんじ・小林屋/岸)→ 吟香(ぎんこう・岸田きしだ、新聞/薬業家) S 1 6 5 2
- E1609 **公重**(きんじげ・藤原ふじわら、稍少将/紀伊少将、通季男) 1118/9?-1178 61/60 母;藤原忠教女、  
 徳大寺実能の猶子、廷臣;紀伊守/右近少将/1165正四下、  
 歌人;崇徳院歌壇から高倉天皇歌壇にかけ活躍、  
 1160清輔家歌合/66重家家歌合/70実国家歌合/70住吉社歌合に参加、  
 治承三十六人歌合撰入、「風情集」編、後葉・続詞花・今撰・玄玉集等に入集、  
 勅撰6首;詞花(350)千載(369・1085)新勅(386)風雅(921・924)、  
 [昔見し雲みを恋ひて蘆鶴あしたづの沢辺に鳴くや我が身なるらん](詞花集;雑350)、  
 (四位で殿上をおりた頃の詠/鶴鳴阜さほ)
- E1610 **公重**(きんじげ・西園寺さいおんじ・号;竹林院、実衡さねひら男/本姓藤原) 1317-67 51 廷臣;1339内大臣、  
 正二位、1353南朝へ祇候;太政大臣?、64出家、  
 歌:勅撰10首;風雅(7首190/275/535下)新拾(692)新続古(2首)、新葉9首68/266/523以下、  
 [越えやらであかずこそみれ春の日のながらの山の花の下道](風雅;春190/百首歌の詠)  
 公重(きんじげ・三条)→ 実忠(さねただ・三条/転法輪三条、内大臣/歌) 2 0 4 1  
 公成(きんじげ・藤原)→ 公成(きんなり・藤原/閑院、廷臣/歌人) E 1 6 5 0  
 公茂(きんじげ・藤原/三条)→ 公茂(きんもち・三条/転法輪三条、歌) E 1 6 7 7
- S1609 **公重女**(きんじげのむすめ・藤原ふじわら、高倉院帥局) ?-1179 功子内親王の母、「山槐記」入
- R1613 **公重女**(きんじげのむすめ・西園寺さいおんじ) ?-? 1377 存 長慶天皇[1343-94]中宮、権僧正行悟の母、  
 南朝歌人;1369吉野在住;百首歌詠、新葉15首(26/49/67以下)入(中宮名)  
 [さほ姫の袖しの浦の朝がすみたちかさねても見ゆる春かな](新葉集;一春26)
- 勤子斎(きんしさい・有馬)→ 頼永(よりとお・有馬ありま、藩主/詩文) J 4 7 1 3  
 近思斎(きんしさい・半井)→ 瑞直(みずなお・半井なからい、医者/歌俳人) J 4 1 9 9  
 琴詩酒書画禅道人(きんししゅうしょがぜんどうじん)→ 松江(しょうこう・小西、商家/詩人) I 2 2 7 6  
 金七(きんしち・鳥羽/鈴木)→ 貞斎(ていさい・鈴木、儒者) 3 0 8 2  
 銀七(吟七ぎんしち・須那)→ 蔭文(かげぶみ・須那すな、商家/歌人) U 1 5 7 8  
 金七郎(きんしちろう・松田)→ 秀任(ひでとう・松田まつだ、兵法家) D 3 7 2 8  
 金七郎(きんしちろう・岩瀬)→ 六斎(ろくさい・岩瀬いわせ、撚糸業/狂歌) 5 2 8 2  
 樞室(きんしつ・大野)→ 一貫(いっかん・大野、藩士/兵術/故実) G 1 1 8 0  
 近日庵(きんじつあん)→ 紹廉(しょうれん・小野、俳人/茶人/香) C 2 2 0 5  
 琴枝亭(きんしてい)→ 律友(りつゆう・萩野はぎの、俳人) C 4 9 1 7  
 近市亭橘子叔(きんしていきつしゆく)→ 恰(ゆたか・飯塚/平元、藩士/歌/狂詩) G 4 6 0 7  
 勤思堂(きんしどう)→ 古巖(こがん・村井/邑井/邨井むらい、書賈/国学) G 1 9 7 5
- H1696 **均子内親王**(きんしなないしんのう/ひとときこのみこ、宇多天皇皇女;女一宮) 890-910 早世 21 母;七条后温子、  
 異母兄の敦慶親王の妃、歌;後撰集1298、



[我も思ふ人も忘るなありそ海の浦吹く風の止む時もなく](後撰:十八1298)

閑院五御子と同一説あり→ 閑院五御子(かんいんのこのみこ、古今歌人;成立年が不合)D 1 5 4 3

- E1612 **勤子内親王**(きんしなしいしんのう・いそこのみこ、醍醐天皇皇女、女四のみこ)904-938<sup>35</sup> 母;更衣周子(源唱女)、934藤原師輔もろすけの妻(内親王降嫁の最初)、源順に「倭名類聚抄」撰述を命、歌;後撰集754、[葦田鶴あしたづの雲るにかゝる心あらば世を経て沢に住まずあらまし](後撰;754/返歌)(雲上にかける心とかかる心[私を思う心]を掛る/沢に住まず私の所に来るはず)(右大臣師輔の贈歌;葦たづの沢辺に年は経ぬれども心は雲の上のみこそ)
- E1611 **欣子内親王**(きんしなしいしんのう、号;鷲尾、後醍醐天皇皇女)?? 母;藤原為子(為世女)or遊義門院一条、南北期歌人/嵯峨今林で出家、勅撰9首;続後拾676/風雅1852/1977新千877新拾1491以下、[思ひ河人の心の浅き瀬にわが浮き名さへ流れぬるかな](続後拾遺:恋676) 観子内親王(きんしなしいしんのう)→ 宣陽門院(せんようもんいん、後白河天皇皇女/歌)G 2 4 7 5
- E1613 **芹舎**(きんしゃ・八木やぎ/本姓;種山)1805-90<sup>86</sup> 京四条洞院の俳人;蒼虬門、二条家より花の本宗匠、1839「藍川集」46「一掬集二篇」49「類題発句百川集」50「くさむすひ」53「あしまふね」編、1864「泮水園句集」、「ゆきふくろ」「君水集初編」編、「笈よそひ」「をはりの家つと」著、[芹舎の別号] 泮水園/伴水園/藍川社
- 琴舎(きんしゃ) → 秀成(ひでなり・堀、国学;音韻) D 3 7 5 2
- 琴舎(きんしゃ・村上) → 正雄(まさお・村上むらかみ、藩士/国学者) T 4 0 0 8
- 琴舎(きんしゃ・ことや・守田) → 旁通(まさみち・守田もりた、国学者/歌人) T 4 0 2 2
- 欽若(きんじやく・山本) → 清溪(せいけい・山本/藤原、有職故実家) B 2 4 1 1
- 欽若(きんじやく・阿野/随朝) → 若水(じやくすい・随朝ずいちょう/阿野、和算/漢学) G 2 1 2 7
- 近守(きんしゆ・水野) → 近守(ちかもり・水野、国守) C 2 8 0 8
- S1606 **近周**(きんしゆう・老沼いぬま、通称;又左衛門)?? 伊勢山田俳人、1633重頼「犬子えの集」入773・812 [目に見えぬ鬼百合なれや草隠くさぐれ](犬子集;三773/古今序を踏まえる)
- H1697 **琴秀**(きんしゆう・岡田、文溪堂)?? 江戸書肆丁子屋2代目、1813玉山「外題鑑」編
- H1698 **琴州**(きんしゆう・相良さがら、通称;周右衛門)?? 江後期薩摩鹿児島俳人;士朗門、1808「みのむし」編/10「庚午花鳥楽事」著
- 金洲(きんしゆう;字) → 良雄(りょうゆう;法諱・徳母、大谷派僧) J 4 9 5 9
- 金繡(きんしゆう・鎌田) → 政和(まさかず・鎌田かまた、陪臣/国学者) O 4 0 9 6
- 琴洲(きんしゆう・榊原) → 芳野(よし・榊原さかきばら、国学者) F 4 7 5 2
- 錦秋(きんしゆう・後藤) → 文右衛門(ぶんえもん・後藤、名主/隧道建設) E 3 8 8 3
- 金重(きんじゆう・新井) → 金重(かねしげ・新井あらい、歌人) T 1 5 2 1
- 金鷲菩薩(きんしゆう→こんしゆぼさつ) → 良弁(ろうべん、華嚴僧) C 5 2 5 7
- 近習婢(きんじゆうのまかたち) → 佐為王近習婢(さいのおおきみのきんじゆうのまかたち) B 2 0 0 2
- 金十郎(きんじゆうろう・中川) → 長定(ながさだ・中川、藩士/記録) D 3 2 6 8
- 金十郎(きんじゆうろう・土屋) → 信名(のぶな・土屋つちや/源/近藤、幕臣/歌) G 3 5 6 3
- 金十郎(きんじゆうろう・上田) → 仲敏(なかつし・上田、藩士/砲術/歌) E 3 2 7 6
- 金十郎(きんじゆうろう・牛田/大岡) → 雲峯(うんぼう・大岡おおおか、絵師) E 1 2 0 5
- 金十郎(きんじゆうろう・戸塚) → 忠栄(ただひで・戸塚とつか、幕臣/奉行/歌) U 2 6 4 4
- 金十郎(きんじゆうろう・西山) → 慈誠(ちかのぶ・西山にしま、藩士/国学者) N 2 8 2 4
- 金十郎(きんじゆうろう・大野) → 正武(まさたけ・大野おおの、庄屋/歌人) O 4 0 3 8
- 金十郎(きんじゆうろう・倉田) → 秋満(あきみつ・倉田くらた、商家/国学) H 1 0 4 5
- 金重郎(きんじゆうろう・河野) → 通重(みちしげ・河野こうの、和算家) B 4 1 6 1
- 銀十郎(ぎんじゆうろう・鳥山) → 時驕(ときなが・鳥山とりやま、藩士/詩文) J 3 1 5 9
- H1699 **琴樹園**(きんじゆうえん・二喜)?? 江戸下谷忍川狂歌、1827長根「狂歌人物誌」催・蔵版
- R1615 **昕叔**(きんしゆく;道号・顕暉けんたく;法諱、仏性本源国師、日野輝資[唯心]男)1580-1658<sup>79</sup> 臨濟僧;1588相国寺鹿苑院入/93得度/鹿苑院主/相国寺94世/鹿苑院僧録46代(最後)、詩「歌題十首詩」、聯句;慶長11年12月17日和漢聯句・元和7年12月9日聯句、「東山長好閣記」「鹿苑日記」著
- 琴叔(きんしゆく;道号) → 景趣(けいしゆ;法諱・琴叔、臨濟僧/詩) 1 8 6 8
- 近俊(きんしゆん・牧田) → 近俊(ちかつし・牧田まきた、郷土史家) B 2 8 2 9

- E1614 **琴所**(きんじょ・沢村さわむら/修姓; 沢、名; **維顕**これあき、沢村左平太之章男) 1686-1739<sup>54</sup> 彦根の生、1693藩主近侍、江戸で心疾/1702致仕、京で儒者; 伊藤東涯門、彦根城南の松寺村に松雨亭を開設; 子弟教育、門人; 野村公台・五十嵐道教・河窪周辰など、詩歌/兵学、「彦陽和歌集」「軍国富強録」「軍国要覧」「富強録」「諸家人物誌」1735「閑窓集」著、「井家新書」「八陣本義」「吾藩譜牒政蹟」著  
[琴所(;)号]の字/通称/別号]字; 伯楊/伯陽、通称; 九内/宮内、別号; 松雨亭
- 錦所(きんじょ・山田) → 以文(もちづみ・山田/藤とう、神職/故実) B 4 4 6 3  
 琴書(きんじょ・久保) → 季茲(すえいげ・久保くぼ/源、幕医/国典) B 2 3 1 9  
 琴渚(きんじょ) → 海荘(かいそう・菊池/垣内、詩人/窮民救済) 1 5 8 5  
 琴緒(きんじょ・柴田) → 義董(ぎとう・柴田した、絵師) G 1 6 0 2  
 琴緒(きんじょ・弾) → 琴緒(ことお・弾だん/団、漢学/歌人) R 1 9 0 2
- R1616 **金女**(きんじょ/きんにょ) ? - ? 撰津住吉の俳人/もと堺の遊女?;  
 のち住吉のあられの松原付近に隠棲、1684西鶴「俳諧女哥仙にょかせん」入;  
 [仏名を唱ふる役と口のうち](女哥仙; 26/過去現在未来三世の三千仏の名号を唱える)
- 近女(きんじょ・宮本) → 池臣(いけおみ・宮本/毛呂もろ、神職/国学) F 1 1 3 8  
 琴女(きんじょ)すべて → 琴女(ことじょ)  
 錦所(きんじょ・山田) → 有孝(ありたか・山田、故実家) F 1 0 3 8  
 琴如(きんじょ・峯) → 貉丘(かくきゅう・峯かね、医者) J 1 5 6 6
- E1615 **錦裳**(きんじょう・飯山) ? - ? 浮世草子、1708「風流呉竹男くれたけおとこ」著、忍岡やつがれと同一? [穎原説] → やつがれ(忍岡しのぶがおか) D 4 5 7 7
- R1617 **金升**(きんじょう・杉亭さんてい) ? - ? 江後期江戸戯作者: 松亭金水門、梅亭金鶴と親交、1853「権八小紫一代葉那志」、「如意慢禄」「夢廻跡吉野文庫」著
- 近韶(きんじょう・松平) → 近韶(ちかつぐ・松平まつだいら、幕臣/奉行/歌) L 2 8 6 6  
 錦升(金升きんじょう、俳名) → 幸四郎(五世こうしろう・松本、歌舞伎役者/合巻) B 1 9 4 1  
 錦升(きんじょう、俳名) → 幸四郎(六世こうしろう・松本、歌舞伎役者) B 1 9 4 2  
 金松(きんじょう/かねまつ・本間) → 菊堂(きくどう・本間ほんま、儒者) K 1 6 2 0  
 金床(きんじょう・今井) → 道安(みちやす・今井いまい、医者/歌人) I 4 1 1 2
- 1662 **錦城**(きんじょう・大田おおた、名; 元貞もとさだ、藩医榎田かじだ[大田]玄覚男) 1765-1825<sup>61</sup> 加賀大聖寺の生、医者; 父門、漢学; 皆川淇園門・江戸で山本北山門、意に沿わず独学; 1787足利学校蔵書閲覧、浅草で開塾、1811三河吉田藩で講説/豊橋藩儒、22金沢藩儒、「論語大疏」「中庸考」「孟子解」「荀子考」「老子妙畷みょうきょう」「大学総論」、「春草堂詩集」、「梧窓漫筆」「錦城百律」「錦城詩稿」「錦城文録」「錦城茶話」「錦城漫筆」「多稼軒全書」、「錦城先生自詠詩歌集」「多稼軒目耕」「大田氏家譜」「寒潭晴月」「赤城梅花記」、「重遊墨田川記」「後樂園記」、「白湯集」「鳳鳴集」「瓶花菴集」外著多、  
[錦城の字/通称/別号]字; 公幹、通称; 才佐、別号; 春草堂/多稼軒
- J1602 **金城**(きんじょう・長崎ながさき、名; 弼、伝左衛門男) 1787-1859<sup>73</sup> 弘前藩儒; 藩校稽古館副督学、昌平黌に修学、林述斎/佐藤一斎門、藩主侍講、「金城詩文集」著、  
[金城の字/通称] 字; 子直、通称; 慶助
- R1618 **金城**(きんじょう・米谷こめたに、名; 寅、平尾英昇男) 1758-1824<sup>67</sup> 山城伏見の商家/息子に平尾家を継承、自らは米谷を名乗る、儒者; 皆川淇園門、晩年京で子弟教育、「春秋存疑」「藝林鳴慤」著、「虚子続解」「春秋論」「莊子論」「助字詳解」「礼記訳解」「詞華府」「雜器略名考」「二経要領」著、  
[金城の字/通称/別号]字; 子虎、通称; 大坂屋治郎八、別号; 桃邱/似月
- V1642 **金綱**(きんじょう・宮崎みやざき、) 1809-1890<sup>82</sup> 上野群馬郡の国学者; 吉田圭順門
- R1619 **金城**(きんじょう・鼎かねえ、名; 鉉、鼎春嶽しゅんがく男) 1811-63<sup>53</sup> 生後すぐ父と死別; 戸田家の養子、旧姓を使用、大阪天満福島絵師; 岡田半江・金子雪操門、経岳・詩; 広瀬旭荘門、画; 「梅竹争妍図」など、「金城遺稿」(25回忌追善; 行徳玉江編)、森琴石の師、  
[金城の字/通称/別号]字; 子玉、通称; 平作、別号; 受菜堂/澱水
- 金城(きんじょう・黒田) → 玄鶴(げんかく・黒田くろだ、医者/詩文) I 1 8 2 6  
 金城(きんじょう・千葉) → 武悦(ぶえつ・千葉ちば、和算家) B 3 8 1 9  
 錦城(きんじょう・川村) → 壽庵(じゅあん・川村/河村/川、医者) W 2 1 4 8

- 錦城(きんじょう・細川) → 治年(はるとし・細川ほそかわ、藩主) G 3 6 5 7
- S1675 吟松(ぎんしょう・宮辺みやべ) ? - ? 江前期江戸の俳人、  
1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
[蓬生の宿のはな也普賢象ふげんざう](手鑑/普賢象;櫻の一種で花白く大で象の鼻に比す、  
花・端・鼻を掛る)
- I1600 吟松(ぎんしょう・奥田おくだ・初姓;中村なかむら、別号;花月庵/菜庵)?-1745 京の俳人;淡々門、  
「追善百花発句」、1680言水「江戸弁慶」入、1728柳岡「万国燕」12句入/29隆志「俳諧草結」入、  
[さしむかひ指の啄つばむ盤の上](万国燕;430/へぼ将棋の風景;差向いで食合う)
- E1616 吟照(闇笑ぎんしょう・服部はっとり)?-? 国語学者、1740「仮名遣問答抄」著(1741刊)
- S1692 吟松(ぎんしょう・富岡とみおか、名;徳章/別号;嘯月庵)?-? 江後期;伊勢の呉服商の長女、詩人、  
菊舎尼と交流
- 吟松(ぎんしょう・黒田) → 増熊(ますくま・黒田/立花、藩家老/歌) I 4 0 9 7
- 吟松(ぎんしょう・荏戸) → 政共(まさとも・荏戸のぞき、藩士/和学者) R 4 0 5 3
- 吟松(ぎんしょう・室谷) → 賀弘(よしひろ・室谷むろたに、商家/詩歌/茶人) P 4 7 5 8
- 今宵庵(きんしょうあん) → 林紅(りんこう・土屋つちや、俳人) K 4 9 2 3
- 吟松庵(ぎんしょうあん) → 菊貫(きくつら・真田幸弘、藩主/歌/俳) 1 6 9 8
- 金鐘行者(きんしょうぎょうじゃ→こんしゅぎょうじゃ) → 良弁(ろうべん、華厳僧) C 5 2 5 7
- 琴松漁人(きんしょうぎょじん) → 琴橋(きんきょう・香川かがわ、儒者) Q 1 6 8 0
- 吟嘯軒(ぎんしょうけん) → 一才(いっさい・内山、俳人) D 1 1 0 2
- 吟松軒(ぎんしょうけん) → 賀世(よしつぐ・室谷むろたに、商家/国学者) E 4 7 6 9
- 吟松軒(ぎんしょうけん) → 休計(きゅうけい・厚東ことう、俳人) B 1 6 9 9
- 欣賞齋(きんしょうさい) → 正志齋(せいしさい・会沢、儒/詩人) B 2 4 9 1
- 吟松齋(ぎんしょうさい・車屋) → 道晰(どうせつ・鳥養とりかい、書家/謡本整版) G 3 1 0 4
- I1601 錦城齋典山(きんじょうさいてんざん)?-? 江戸末期講釈師、貞山派の祖、「伊賀の水月」著、  
一竜齋貞山の師
- 琴松舎(きんしょうしゃ・竹田) → 峯秋(ほうしゅう・竹田たけだ、庄屋/俳人) G 3 9 0 6
- 琴松亭(きんしょうてい) → 演徴(のぶあきら・由比ゆい、藩士/歌人) 3 5 8 6
- 琴松亭(きんしょうてい) → 演義(のぶよし・由比、演徴男/藩士/歌) E 3 5 0 6
- 金勝入道(きんしょうにゅうどう→こんぜにゅうどう、俳話) → 慶安(けいあん・青地あおち/源、俳/歌人) D 1 8 3 4
- 琴書堂文英(きんしどうぶんえい) → 敬雄(たかお・羽田野はたの、神職/国学者) C 2 6 5 4
- 琴書楼(きんしろう) → 松齋(しょうさい・山田、儒者;農事改善) J 2 2 0 1
- 近市亮(きんしりょう) → 恰(ゆたか・飯塚/平元、藩士/歌/狂詩) G 4 6 0 7
- I1603 金四郎(きんしろう・遠山とおやま、名;景元かげもと、金四郎景晋かげみち男)?-?(1853-1866)没 幕臣:町奉行、  
左衛門尉、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、名奉行として歌舞伎・講釈に脚色、  
[けふのみは四方の訴うたへもたえはてて塵なき庭に春は来にけり]、  
(大江戸倭歌;町奉行勤めの年始)
- R1620 金四郎(きんしろう・浜田はまだ、小林こばやし藤之助男)1826-? 江戸生;浜田三次郎の養嗣/幕臣、  
1858大御番/64学問所取締役、「学問所日記」著
- 金四郎(きんしろう・遠山景晋) → 景晋(かげみち・遠山、景元父/幕臣) L 1 5 3 3
- 金四郎(きんしろう・原田) → 清矩(きよのり・小中村こなかむら、国学者) H 1 6 5 1
- 金四郎(きんしろう・茶室) → 康哉(やすなり・茶室ちやしつ、暦算家/歌人) C 4 5 4 7
- 金四郎(欽四郎きんしろう・唐崎) → 広陵((こうりょう・唐崎、儒者/詩人) G 1 9 4 4
- 金二郎(きんじろう・高木) → 芳洲(芳州ほうしゅう・高木、家老/儒者) B 3 9 4 2
- 金次[二]郎(きんじろう・島崎) → 多田人成(ただのひとなり、南畝弟、狂歌) F 2 6 5 1
- 金次郎(きんじろう・小堀) → 政方(まさみち・小堀こぼり、藩主) H 4 0 4 4
- 金次郎(きんじろう・河野) → 通喬(みちたか・河野こうの、幕臣) B 4 1 7 0
- 金次郎(きんじろう・柴村) → 盛方(もりみち・柴村しばむら、幕臣/随筆) G 4 4 5 8
- 金次郎(きんじろう・鈴木) → 貞齋(ていさい・鈴木、儒者) 3 0 8 2
- 金次郎(きんじろう・松平) → 定寅(さだとら・松平まつだいら、幕臣/園芸) I 2 0 9 6
- 金次郎(きんじろう・茶屋) → 七五三助(初世しめすけ・奈河、歌舞伎作者) 2 1 3 5



- 金次郎(きんじろう・高山) → 畏齋(いさい・高山たかやま、儒者) E 1 1 2 5  
 金次郎(きんじろう・伊藤) → 可慶(かけい・十寸見ますみ、河東節太夫) K 1 5 7 3  
 金次郎(きんじろう・太田) → 国輝(初世くにてる・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 9 8  
 金次郎(きんじろう・二宮) → 尊徳(そんとく/たかのり・二宮にのみや、農政家) F 2 5 0 1  
 金次郎(きんじろう・板倉/坂本) → 種員(たねかず・柳下亭、長編合巻作者) 2 6 4 2  
 金次郎(きんじろう・日野) → 久左衛門(きゅうざえもん・日野ひの、商家/歌) V 1 6 0 6  
 金次郎(きんじろう・杉本) → 幹之(みきゆき・杉本すぎもと/堀川、藩士/歌) J 4 1 3 6  
 金次郎(きんじろう・山田) → 千疇(知宇禰/千有年ちうね・山田、国学者) 2 8 3 9  
 金次郎(きんじろう・長谷川) → 元寛(もとひろ・長谷川、役人/戯作研究) E 4 4 1 8  
 金次郎(きんじろう・桑名) → 淳素(あつもと・桑名くわな、国学者) H 1 0 4 7  
 金次郎(きんじろう・都筑) → 道雄(みちお・都筑つづき、指物業/歌人) J 4 1 7 5  
 金次郎(きんじろう・磯部) → 春馬(初世しゅんば・三亭、戯作者/狂歌) 2 1 6 5  
 欽次郎(きんじろう・吉田) → 拙藏(せつぞう・吉田よしだ、藩士/儒・蘭学) L 2 4 1 8  
 欽次郎(きんじろう・春山) → 弟彦(おとひこ・春山はるやま/安曇、国学) E 1 4 0 6  
 欣次郎(きんじろう・矢野) → 幸賢(ゆきやす・矢野やの、藩老/国学) H 4 6 4 0  
 謹二郎(謹次郎きんじろう・原) → 鳩巢(きゅうそう・原はら、詩人) M 1 6 7 6  
 謹治郎(きんじろう・吉田) → 好信(よしのぶ・吉田よしだ、儒者/歌/神職) Q 4 7 0 5
- R1621 **銀次郎**(ぎんじろう・佐波さば、通任、藤井政香男) 1825-9167 下総佐倉藩主堀田正睦の家臣、蘭学者、手塚律蔵塾生、幕府神奈川奉行、1862(文久2)「万国図誌」訳  
 銀次郎(ぎんじろう・松林) → 飯山(はんざん・松林まつばやし、儒者) H 3 6 8 4  
 銀次郎(ぎんじろう・戸田) → 忠敏(ただたか・戸田、藩政改革/歌人) F 2 6 2 4  
 銀次郎(銀治郎ぎんじろう・岸田/京屋) → 吟香(ぎんこう・岸田きしだ、新聞/薬業家) S 1 6 5 2  
 銀次郎(ぎんじろう・潮田) → 藻苅(もがり・潮田うしおだ、藩士/国学) J 4 4 3 6  
 銀次郎(ぎんじろう・山崎) → 篤利(あつとし・山崎やまさき/平/山口、商家/国学) I 1 0 6 7  
 銀次郎(ぎんじろう・宮下) → 正宜(まさよし・宮下みやした、国学者/歌) T 4 0 0 1  
 銀次郎(ぎんじろう・八木) → 雕(あきら・八木やぎ、藩士/官僚/詩歌) I 1 0 5 7  
 吟次郎(ぎんじろう・小島) → 充均(みつただ・小島/小嶋/源、役人/地図) D 4 1 8 1
- I1604 **金絲楼主人**(きんしろうしゅじん)?- ? 江後期大阪の茶番芸演者・作者、1863友戯・64此道好人「今様茶番硝子鏡いまようちやばんがらすかがみ」の選者(作品入)  
 近真(きんしん・狛) → 近真(ちかざね・狛こま、楽人) 2 8 9 2  
 近信(きんしん・賀島) → 近信(ちかのぶ・賀島かしま、本草家) B 2 8 5 6  
 近仁齋薪翁(きんじんさいしんおう) → 薪翁(しんおう・近仁齋、芸談) N 2 2 4 9  
 錦森堂軒東(きんしんどうけんとう) → 軒東(けんとう・錦森堂、書肆/戯作) L 1 8 6 6
- R1622 **近水**(きんすい) ? - ? 丹後切畑俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入  
 R1623 **均水**(きんすい) ? - ? 江前期美濃の俳人;1698「続猿蓑」入、  
 [木この芽だつ雀がくれやぬけ参り](続猿蓑;3082/雀ならぬ人間達が人目隠れに伊勢詣)  
 (親や雇主の許可なく出かける伊勢参りが流行)
- R1624 **琴水**(きんすい) ? - ? 江中期越中生地の俳人;1776樗良「月の夜」1句入、  
 [暮の秋いつの暁あつきよりかなし](俳諧月の夜;74/晩秋の朝ほどの明け方よりも悲し)
- 1663 **金水**(きんすい・松亭しょうてい、姓;中村、名;保定/経年) 1797-186266 江戸筆耕業;谷金川門/手跡指南、為永春水の浄書;自らも人情本執筆/読本作者、1831合巻「二十四孝稚教訓」、人情本;1832「恋の花染」「沉魚伝ちんぎょでん」/35「錦廻桂」36「花廻志満台」39「閑情末摘花」、1841「花筐はながたみ」56「鶯塚千代廻初声」62「毬唄てまりうた」/読本;1839「源氏一統志」など、他者の嗣作;京伝「善知鳥安方とうやすかた忠義伝」2/3輯、馬琴「朝夷巡島記」7/8編など、随筆;1849「積翠閑話」50「松亭漫筆」、「狂歌問答」「俳諧糸衣」「女実語教」「身延紀行」外多数、[松亭金水の通称/別号]通称;源八/源八郎、別号;積翠道人/拙作堂/女好庵主人/木公亭法号;了悟院
- J1603 **芹水**(きんすい・平尾ひらお、西郷さいごう員栄3男/母;平尾姓) 1764-183774 近江彦根の儒者;種村箕山門、大菅南坡門;徂徠学を修学/1820藩主井伊直中に会見/21藩儒;直中・直亮の侍読、音韻/詩、中川漁村の師、「国語考」「雨夜の灯」「芹水詩文集」「校正逸周書」著、



[芹水(；号)の名/字/通称/別号]名；義/義本よしもと、字；路卿、通称；弁次郎、  
別号；沂水きすい/独楽亭

- R1625 **錦水**(きんすい・秋吉あきよし、名；質)1786-1860 75 豊後の医者；京で修業/法眼/西洋医学も修得、  
「錦水文稿」「快雪堂秘書」「銀海發揮」「金鮮新書」「蘇荭南鍼そがいなんしん」1848「温疫論私評」著、  
[錦水の字/通称/別号]字；文卿/雲桂、通称；雲庵、別号；、紫海/快雪堂
- R1626 **琴水**(きんすい・小野原おのらはら/初姓；田中/井上、田中善右衛門3男)1810-73 64 豊前の豪農の生、  
豊前千束藩士井上吉兵衛の養嗣子/儒者；広瀬淡窓・会沢正志斎門、千束藩校教授/致仕、  
小野原に隠棲；小野原に改姓/1860藩主侍読/致仕；郷里に開塾；郷校督学、藩政改革を建議、  
「琴水詩鈔」「琴水文鈔」「小野原善言詩録」著、  
[琴水(；号)の名/字/別号]初名；種次郎/丹治、名；善言、字；奉徳、別号；鬼丘
- 芹水(きんすい・小埜) → 重一(しげかず・小埜おはなわ、藩士/歌人) N 2 1 6 6  
芹水(きんすい・東条) → 直記(なおのり・東条とうじょう、神職) N 3 2 9 6  
琴吹(きんすい・小野) → 東為坊(とういぼう・小野、俳人) B 3 1 0 3  
錦水(きんすい・島津) → 天錫(てんしゃく・島津、領主/詩) D 3 0 7 0  
錦水(きんすい・半井) → 瑞直(みずなお・半井なからい、医者/歌俳人) J 4 1 9 9  
錦水(きんすい・横地) → 長重(ながしげ・横地よこち、神職/国学) P 3 2 2 6  
錦推(きんすい・；諡号) → 信言(のぶこと・荷田/羽倉、神職/詩) B 3 5 4 1  
金翠(きんすい・大口屋八兵衛) → 空翠(くうすい・大口屋、十八大通/札差/俳人) 1 7 3 6
- J1639 **吟水**(ぎんすい・若月わかつき) ? - ? 出羽最上左沢の俳人；調和門、1691不角「二葉之松」10句入、  
[世をいとふ身には風雅も愚に返れ](二葉之松；45)
- R1627 **吟睡**(ぎんすい) ? - ? 江前期京の俳人；1691江水「元禄百人一句」目録入
- S1660 **吟水**(ぎんすい) ? - ? 江前中期京の俳人、  
1714月尋「伊丹発句合」；四季発句入、  
[焼野かな乳をのむ駒の奥歯まで](伊丹発句合；春)
- 芹水軒(きんすいけん) → 恒徳(つねのり・大塚おつか、藩士/歌人) F 2 9 3 8  
近水楼主人(きんすいろうしゅじん) → 文蔵(ぶんぞう・青柳あおやぎ、医者/貿易) G 3 8 0 5
- E1617 **公季**(きんすえ・藤原、閑院太政大臣、師輔男・母；醍醐皇女康子内親王)957-1029 73 閑院流の祖、  
三条家の始祖、983参議/997内大臣/1021従一位太政大臣、贈正一位、「公季公記」著、  
[公季の号] 甲斐公、諡号；仁義公  
公資(きんすけ・大江) → 公資(きんより/きんすけ・大江おおえ、廷臣/歌) E 1 6 8 8
- E1618 **公相**(きんすけ・西園寺さいおんじ、初名；忠輔/公輔、実氏男/本姓；藤原)1223-67 45 廷臣；1236左中將、  
1237正三位/38権中納言/39従二位権大納言/41正二位/42中宮大夫兼任/春宮大夫、  
1250右近大將兼任/52内大臣/53左大將兼任/54右大臣/57従一位；辞任/59左大臣、  
1261太政大臣；62辞任、「今出川相国記」「冷泉公相公記」著、実兼・実俊の父、  
増鏡に事蹟入、徒然草114段；牛飼い賽王丸の技量を信賴する逸話入、  
歌：1248宝治百首入、47後嵯峨歌合/51影供歌合参、65龜山五首歌合参、菟玖波集5句入、  
勅撰47首；続後撰(6首168/313/-)続古(10首99/264-)続拾(6首)新後撰(2首)以下、  
[たちかはる今日は卯月の初めとや神のみむろに榊とるらん](続後撰；夏168)  
[公相の称]今出川(自邸を今出川第と称す)/冷泉/  
冷泉太政大臣れいぜいのだいじょうだいじん(；玉葉以下は前さきのが付く)、
- I1606 **金助**(きんすけ・柿木かきのき) ? - ? 柿野村出身伝説盗人、  
1711-6 夙で金鯢鱗を盗む；歌舞伎の題材として脚色
- C1655 **公輔**(きんすけ・河本かわもと/三宅、立軒長男)1775-1832 58 岡山の豪商の生、学問を志向；  
家督を弟訊軒(公唯さみただ)に譲渡；  
京に永住、歌；賀茂季鷹(雲錦)門・国学(古学)；本居大平門、書/歌に通ず、  
延之のぶゆき(歌人)・安原正敏の父、一時三宅姓を名乗る、  
1815「名字辨」20「竹取物語管見」26「南朝略系図」著、「石川年足卿銅牌考」編、  
「文禰麻呂忌寸墓誌考」著  
[公輔の字/通称/号]字；会、通称；忠五郎/文太郎、号；子洲/法号；山菅亭徳阿子淵居士

公資(きんすけ・大江) → 公資(きんより・大江おえ、廷臣/歌人) E 1 6 8 8  
 公祐(きんすけ) → 公祐(きみすけ・高松、歌人) B 1 6 8 3  
 公輔(きんすけ・藤原) → 公時(きんとき・滋野井/藤原、廷臣/歌) E 1 6 3 6  
 公輔(きんすけ・藤原) → 公行(きんゆき・藤原、廷臣/歌人) E 1 6 8 3  
 公輔(きんすけ・高向) → 湛契(たんけい; 法諱・義学; 字、天台僧/廷臣) T 2 6 3 2  
 公輔(きんすけ・周布/麻田) → 政之助(まさのすけ・周布すふ、藩政改革) F 4 0 4 8  
 公弼(きんすけ) → 公弼(きみすけ・大草、歴史学) G 1 6 2 3  
 金介(金助きんすけ・松前/蠣崎) → 波響(はきょう・蠣崎かきざき、藩家老/絵師) C 3 6 4 6  
 金助(きんすけ・荒井) → 金助(かねすけ・荒井、石狩/樺太開拓) O 1 5 5 5  
 金助(きんすけ・市野) → 茂喬(しげたか・市野いちの、和算家) R 2 1 2 4  
 金助(きんすけ・川村) → 碩布(せきふ・川村、豪商/名主/俳人) 2 4 1 1  
 金助(きんすけ・武沢) → 緑毛館亀雄(りよくもうかんきゆう・狂歌) J 4 9 8 0  
 金助(きんすけ・三橋) → 弘光(ひろみつ・三橋みつはし、尊攘派天狗党) H 3 7 4 2  
 金助(きんすけ・万福屋) → 重吉(しげよし・原田はらだ、商家/俳人) Z 2 1 7 5  
 公資女(きんすけのむすめ) → 永縁母(えいえんのはは、大江公資女) 1 3 1 5

I1607 **公澄**(きんずみ・滋野井しげのい/本姓藤原・羽林、高倉永敦男) 1670-1756<sup>87</sup> 1681滋野井実光の養嗣子、  
 廷臣; 1704参議/20権大納言/正三位/31出家、国学; 吉見幸和よしかげ門/故実家; 有職四天王、  
 霊元院の評定衆、「松蔭拾葉」「羽林類葉抄」「簾中装束抄」「元服部類」「女房飴抄」著、  
 「滋野井公澄日記」「賀茂祭部類記」「元禄七年日記」外著多数、  
 妻; 甘露寺方長女、実全・正親町三条実彦・堀河冬輔室・直子(京極宮文仁親王室)の父、  
 [公澄(;名)の初名/号/法名]初名; 兼成、号; 五松軒、法名; 良覚  
 ☆有職四天王; 他の3人; 東園基量・平松時方・野宮定基

S1610 **公澄**(きんずみ・正親町おおぎまち、正親町[裏辻]実秀男/本姓藤原) 1430-70<sup>41</sup> 兄持季の養子、  
 廷臣; 1453参議、左大弁/従二位/1470権大納言、  
 歌: 1450後崇光院催[仙洞歌合]参加(右近少将名; 5首)、「半臂図説」著  
 [有明の月も出見いでみの浜風にこゑ澄みのぼる千鳥鳴くなり]、  
 (仙洞歌合; 三十番右60/[出で見]と浜の名を掛る、  
 [出見の浜]; 万葉七に入; 難波住吉の浜か?)

R1628 **近正**(きんせい) ? - ? 伊勢山田俳、1691江水「元禄百人一句」目録入

金生(きんせい・土屋) → 金生(かなお・土屋つちや、藩士/測量術) O 1 5 2 9  
 金生(きんせい・小金丸) → 金生(かねお・小金丸こがねまる/澄川、国学/歌) U 1 5 6 1  
 金成(きんせい・方十園) → 金成(かねなり・方十園、狂歌) H 1 5 8 8  
 芹生(きんせい・中村) → 漆翁(しつおう・3代中村宗哲、千家塗師/俳人) F 2 1 1 1  
 琴声(きんせい・赤堀) → 秀時(ひでき・赤堀あかぼり、藩士/歌) L 3 7 9 3  
 琴成(きんせい・稲垣) → 琴成(琴也ことなり・稲垣いながき、神職/歌) Q 1 9 3 4  
 琴生(きんせい・勝) → 信義(のぶよし・勝かつ、国学/歌人) H 3 5 9 2  
 近正(きんせい・間人) → 近正(ちかまさ・間人はしうと、近直男/歌人) N 2 8 3 0  
 近青庵(きんせいあん) → 北溟(ほくめい・西郡にしごり、俳人) D 3 9 9 2  
 金西館(きんせいかん) → 寿好(じゅこう・玉縁斎/塩屋、白縁斎男/狂歌) I 2 1 6 7  
 金星軒(きんせいけん・柴田) → 弘器(ひろき・竜廻屋・柴田、藩医/狂歌) F 3 7 7 5  
 琴生糸(きんせいし) → 士清(ことすが・谷川、医者/神道/語学) 1 9 3 6  
 欽靖先生(きんせいせんせい) → 柳谷(りゅうこく・西島/西嶋、儒; 講説) D 4 9 9 4  
 銀井堂(ぎんせいどう) → 一斎(いっさい・井筒、歌舞伎作者) C 1 1 7 9

R1629 **金石**(きんせき・荻原おぎわら/直江なおえ、名; 幹、荻原清八男) 1825-83<sup>59</sup> 直江兼続の後裔として自称、  
 信州牟礼の人/10歳頃父と佐久白田に移住、俳人; 月邦・白峯門/葛古門、諸国遊歴、  
 江戸の為山門、孤立し不遇で没、「笛吹集」著、遺稿「秋田百歌仙」、  
 [金石の通称/別号]通称; 庄蔵、別号; 閑外/造化庵/拳山/春海/蘭山

E1619 **吟夕**(ぎんせき・富松とみまつ、名; 可住、別号; 修琴斎) ?-? 播磨生、阿波徳島住の俳人、徳島の代表俳人、  
 1692「眉山まゆやま」編、「四国猿」入

E1620 **吟夕**(ぎんせき・森田) ? - ? 江前中期俳人、浮世草子、

1706「宇津山小蝶物語」、「愛楽毬八代物語」著

- R1630 **襟雪**(きんせつ) ? - ? 江前期美濃岐阜俳人;1689「あら野」入
- I1608 **琴雪**(きんせつ) ? - ? 江戸俳人;1729「雲の台」編:雲鼓1周忌追善  
 公説(きんせつ・四辻) → 公説(きんこと・四辻よつじ、廷臣/雅楽) E 1 6 0 2  
 近節(きんせつ・上うえ) → 真節(さねたけ・上うえ/狛こま、雅楽) K 2 0 9 0  
 謹節(きんせつ・西村) → 謹節(のりとき・西村にしむら、茶商/歌人) J 3 5 5 1
- E1621 **吟雪**(ぎんせつ・富川とみかわ、山本九左衛門)?-? 1761-77頃江戸大伝馬町の絵草紙書肆;地本問屋、  
 草双紙(黒本青本)作者;作品2百余、絵師;西村重長・鳥居清満・清信門?、  
 1761「須磨浦青葉笛」72「浮世栄花枕」「さのさの金毘羅節」、「赤つきん」「初春福寿草」外著多、  
 [吟雪の通称/別号/屋号]通称;九左衛門、別号;房信、屋号;暁鶏堂/正本屋/丸屋  
 吟雪庵(ぎんせつあん) → 康高(やすたか・三宅みやげ、藩主/茶人) G 4 5 8 1  
 金川(きんせん・谷、版下書) → 千町(ちまち・宝田たからだ、合巻作者) F 2 8 4 2  
 金仙(きんせん・号) → 速満(そくまん:法諱、真宗本願寺派僧) J 2 5 5 3  
 琴川(きんせん・杉浦) → 正職(まさもと・杉浦さざうら、幕臣/琴曲) H 4 0 9 0  
 琴川(きんせん;号) → 方秀(ほうしゅう;法諱・岐陽さよう、臨濟僧) 3 9 5 5  
 琴川(きんせん・川関楼) → 惟充(これみつ・川関かわせき、戯作者) O 1 9 8 9  
 琴仙(きんせん・今泉) → 千春(ちはる・今泉、歌人) F 2 8 1 8  
 琴泉(きんせん・菱川) → 清春(きよはる・菱川、絵師) Q 1 6 1 7  
 吟泉(ぎんせん・山田) → 弁道(べんどう・山田やまだ、修験/国学) S 2 7 5 7
- E1622 **吟蟬**(ぎんぜん) ? - ? 俳人、1730雑俳「俳諧塵塚ちりつか」撰;自序(東武宗匠点集)  
 金仙院(きんせんいん) → 隆衡(たかひら・四条・藤原、廷臣/歌人) D 2 6 6 2  
 近仙居(きんせんきょ) → 嶺南(れいなん・保岡/安岡やすおか、藩儒官) 5 1 6 0  
 錦川居(きんせんきょ) → 光次(みつぐ・若井わかい、漆器/国学) K 4 1 9 6  
 琴仙堂(きんせんどう) → 時章(ときあき・平松/平、廷臣/歌人) I 3 1 8 9  
 董宋(きんそう・新倉にいくら) → 兎国(とこく・新倉、農業/俳人) L 3 1 7 3  
 琴窓(きんそう・毛利) → 勅子(とくこ・毛利もうり、家老室/歌人) W 3 1 6 9
- I1611 **琴蔵**(きんぞう) ? - ? 俳人・一品門、1685風瀑「一楼賦」入、  
 1687一品「丁卯集」首巻入、  
 [花さくら美人生まれぬ先にあり][蝙蝠の音を問ふ夜の清水哉](一楼賦)
- R1632 **金蔵**(きんぞう・中山なかやま) ? - ? 江前期京の歌舞伎役者;中山系/作者:早雲・大和山・嵐座付、  
 世話物;1715「曾根崎手向初雪」16「曾我鎌倉飛脚」「阿漕が浦倂の石」21「女将門七人化粧」著
- I1612 **金造**(きんぞう・葛飾かつしか) ? - ? 江後期歌舞伎作者:  
 1821四世南北「三賀荘曾我島台」番付作者  
 金造(きんぞう・西村) → 貞堯(さだたか・西村にしむら、歌人) I 2 0 3 6  
 金蔵(きんぞう・水谷) → 川柳(5世せんにゅう) 2 4 4 3  
 金蔵(きんぞう・水谷) → 川柳(6世せんにゅう、5世男) 2 4 4 4  
 金蔵(きんぞう・岡島) → 豊清(とよきよ・歌川、絵師) R 3 1 1 3  
 金蔵(きんぞう・砂山) → 抱亭五清(ほうていごせい、絵師) C 3 9 3 6  
 金蔵(きんぞう・伊東) → 藍田(らんてん・伊東いとう/東/菱田、儒者) D 4 8 0 4  
 金蔵(きんぞう・堀) → 季雄(ときかつ・堀ほり、藩士/詩歌/国学) J 3 1 0 5  
 金蔵(きんぞう・大郷) → 信斎(しんさい・大郷おおごう、藩士/儒者) E 2 2 1 8  
 金蔵(きんぞう・京屋) → 永世(ながよ・富田とみた、国学/史家) G 3 2 3 0  
 金蔵(きんぞう・岡田) → 啓(けい・岡田おかだ、藩士/国学/地歴) D 1 8 3 2  
 金蔵(きんぞう・河野) → 小石(しょうせき・河野かわの、藩儒) T 2 2 8 5  
 金蔵(きんぞう・柳沢) → 光被(みつひ・柳沢やなぎさわ、藩主) H 4 1 7 0  
 金蔵(きんぞう・稲垣) → 重一(しげかず・稲垣いながき、歌人) N 2 1 4 1  
 金蔵(きんぞう・川名) → 安之(やすゆき・川名かわな、藩士/国学者) F 4 5 7 7  
 錦蔵(きんぞう・橋爪) → 金鶯(きんが・梅亭、吉田/瓜生、幕臣/戯作) D 1 6 8 3  
 欽蔵(きんぞう・桂/樋口) → 東里(とうり・樋口ひぐち、医/儒者) I 3 1 0 9  
 吟叟(ぎんそう・老梅舎) → 真琴(まこと・宮永みやなが、神職/和漢学) T 4 0 0 2

- 銀蔵(ぎんぞう・斎藤) → 雀志(じやくし・斎藤さいとう、俳人) G 2 1 1 7
- 銀蔵(ぎんぞう・加藤) → 雄山(ゆうざん・加藤かとう、肝煎/神道家) B 4 6 9 6
- 銀蔵(ぎんぞう・諏訪) → 頼篤(よりあつ・諏訪すわ、幕臣) I 4 7 3 8
- 吟蔵(ぎんぞう・松山) → 筋亭(せつてい・松山まつやま、儒者/詩文) L 2 4 2 4
- 錦莊翁(きんそうおう) → 棕隠(そういん・中島なかじま、漢学/詩人) 2 5 0 4
- 吟叟居士(ぎんそうこじ;法号) → 長流(ちやうりゆう・下河辺しもこうべ、国学/歌) 2 8 2 8
- 芹草斎(きんそうさい) → 黒露(くろろ・山口やまぐち、俳人) C 1 9 4 0
- 擒藻斎(きんそうさい) → 重靖(しげのぶ・前田まえだ、藩主/詩歌) R 2 1 9 6
- 琴窓亭(きんそうてい) → 演義(のぶよし・由比ゆい、藩士/歌人) E 3 5 0 6
- 金粟(きんぞく;号) → 巨海(こかい・道号・東流;法諱、曹洞僧) L 1 9 8 4
- 金粟(きんぞく・江馬) → 元齡(げんれい・江馬えま、医者/詩人) N 1 8 1 3
- 金粟(きんぞく) → 烏石(うせき・松下まつした、書家) B 1 2 7 7
- 金粟(きんぞく) → 居辰(きよしん・張葛ちやうかつ、洒落本) H 1 6 4 3
- 金粟居士(きんぞくこじ;禪門号) → 高門(たかかど・京極、幕臣/禪門/歌人) C 2 6 6 3
- J1605 錦村(きんそん・青木あおき、名;先孝/字;思孝、勇吉男) 1817-1874<sup>58</sup> 上州の儒者;寺門静軒門、1857江戸浅草に開塾、69高崎藩校助教、63「西征詩鈔」著、[錦村の通称/法号]通称;敬蔵、法号;顕成院  
錦村(琴村きんそん・金子) → 教孝(のりたか・金子/川瀬、藩士/勤王) E 3 5 8 5
- R1633 金太(きんた・種樹家うえきや) ?-? 江戸後期江戸青山権太原の植木屋/種芸・造庭、本草家坂本浩然こうねん[1800-53]と親交、1824「草木奇品家稚見」編、[金太の別通称/号]別通称;金太郎、号;繁亭/種樹家  
錦堆(きんたい・関) → 鉄之介(てつすけ・関、藩士/桜田門外変) C 3 0 5 9
- R1634 琴台(きんだい・山内やまのうち、名;広邑/字;士英、毛利広規男) 1724-46<sup>早世</sup> 23 萩藩士/山内家を嗣、儒者;徂徠学・文筆家、「御当家旧事記」著、毛利広漢ひろくにの弟
- R1635 琴台(きんだい・拝崎はいさき/初姓;瀬戸、名;恭忠、字;相恕、蕃臣しげおみ) ?-? 江中期越後高田藩士、儒者;伊藤蘭嶋門、748「韓館唱和」、「琴台問槎録」、「蔵文記」編
- E1623 琴台(きんだい・佐々木ささき/初姓;田中/本姓源、名;世元) 1744-1800<sup>57</sup> 代々近江の兵法家、漢学者、近江源氏の嫡流として佐々木に復す、宋学/詩人、儒;松永淵斎/村士一斎門、京江戸で教授、「仁里文稿」「仁里詩説稿」「仁里書説稿」「仁里雜筆」、「易象起源」「反易弁」「孫子合契」外著多、[琴台の字/通称/別号]字;長卿、通称;源三郎/良輔/帯刀、別号;仁里/彩瀾
- R1636 琴台(きんだい・明石あかし、名;等伯、別号;湖青庵) ?-1775 讃岐医者;京で修学/のち備前邑久山田住、俳人;高松の周雨・岡山の池田白翁門、1771「まさ木のかつら」編
- R1637 琴台(きんだい・高成田たかなりた、名;頼亮よりすけ) 1747-1813<sup>67</sup> 仙台藩士/儒(經学);富田王屋門、王屋門四傑の1、劍法;目黒資安門/詩、1790「伊達系譜」「世臣家譜」の編纂着手、右筆/1794江戸儒役・小納戸、1800「家譜」完成/09致仕、易象に精通、「琴台詩文集」「日本仙史」「多賀城碑考」「経伝独断」「周易官占考」「唐詩正声註」著、[琴台の字/通称/別号]字;君明、通称;甚十郎、別号;逋僊(はせん)、頼寧の父
- I1613 琴台(きんだい・諸葛もろぐず、名;蠡/字;君測) 1747/8-1813<sup>67/66</sup> 下野那須郡湯津上村の儒者、日光輪王寺宮の侍読/播磨姫路藩儒/度量の学に精通、「諸葛書伝」「諸葛詩伝」「諸葛劄記」、「涵月楼雜著」「涵月楼印譜」「鬢髮山人集」「蕉窓易話」「津量全編」「津量合編」「墨子箋」外著多、[琴台の通称/別号]通称;次郎太夫じろだゆう、別号;鬢髮しんはつ山人/鳳棲園、帰春きしゅんの父
- J1606 琴台(きんだい・渡辺わたなべ、名;成憲/市郎助、字;君彝、俊徳男) 1764-1828<sup>65</sup> 熊本儒者;宮崎雲台門、西垣桐斎門/有馬白嶼・古屋愛日斎門、藩家老松井家3代に出仕/八代郷校伝習堂文学師範、「琴台詩集」「雪月楼集」「琴台漫録」「消間漫録」「消日斎詩集」著、[琴台の通称/別号]通称;文次、別号;消日斎
- E1624 琴台(きんだい・東条とうじょう/一時平尾姓、名;信耕/耕、東条享哲男) 1795-1878<sup>84</sup> 江戸の儒者;伊藤藍田/大田錦城/亀田鵬斎門、1817美濃岩村藩士の平尾他山の養子;離縁、1824林家入門、1832林家除籍/47越後高田藩儒、48「伊豆七島図考」著;幕府の忌諱/江戸藩邸幽閉/49赦免、1866高田藩校修道館教官/68江戸;神祇官、畑銀鷗・寺門静軒と校友、花笠文京(戯作)の弟、「先哲叢談後篇」「先哲叢談続篇」編、「芸海印叢」「琴台雁信」「琴台漫筆」「文苑雜誌」外著多数、



[琴台の幼名/字/通称/別号]幼名;義藏/幸藏、字;子臧じろう、通称;文左衛門/源右衛門、別号;吞海翁/無得斎/無得志斎/掃葉山房、法号;貫学院

公台(きんだい→こうだい) → 東臯(とうこう・野村、儒/詩人) 3 1 0 9  
金台(きんだい・松平) → 勝当(かつまさ・松平まつだいら、藩主/武芸) N 1 5 8 8  
琴台(きんだい・近松) → 茂矩(しげのり・近松/松、藩士/兵法/俳人) C 2 1 8 2  
琴台(きんだい・土屋) → 縷直(ただなお・土屋つちや/源、幕臣/歌) U 2 6 0 6  
琴台(きんだい・岡村) → 義比(よしひか・岡村おかむら、藩士/詩/書) E 4 7 5 1  
琴台(きんだい・上田) → 光賢(みつたか・上田うねだ、国学・歌) H 4 1 7 8

R1638 銀岱(ぎんたい・久保田/中野) 1818-8366 信濃高島藩士の家/中野家嗣、俳人;若人・得蕪門、吉野・北陸・近江歴遊/曾良を慕いほそ道の跡を旅、1846「つゑのあと」48「海山集」55「ゆきゆき集」編、「草まくら」編、

[銀岱の通称/別号]通称;茂七郎、別号;雪真斎、法号;宗誉銀岱居士

銀台(ぎんたい・三宅) → 興道(おきみち・三宅みやけ、藩士/日記) C 1 4 9 9

銀台侯(ぎんたいこう) → 重賢(しげたか・細川/源、藩主/詩/武芸) C 2 1 0 6

錦袋舎為一(きんたいしゃいいち、前北斎・不染居)→北斎(ほくさい・葛飾、絵師/葛飾派祖) 3 9 6 2

金胎房(きんたいぼう/こんたいぼう)→覚禅(かくぜん;法諱、真言僧) B 1 5 6 4

E1626 公孝(きんたか・徳大寺とくだいじ、実基男) 1253-130553 母;鷹司頼平女、廷臣;1267参議/1300従一位、1302太政大臣/04辞任/05(嘉元3)没、歌人;1289和歌会参加、1278「公孝公記」「正月三席御会記」著、徒然草23段に[内侍所の御鈴の音]の発言入、勅撰4首;新後撰339/463玉葉214続千載602、通称;後徳大寺前太政大臣、[山の端の横ぎる雲にうつろひて出でぬと見ゆる秋の夜の月](新後撰;秋339/太政大臣名)

公隆(きんたか・武者小路)→公隆(きんなが・武者小路むしやのこうじ/藤原/三条西、廷臣/歌) V 1 6 4 4

E1627 公孝女(きんたかのむすめ・徳大寺とくだいじ、通称;後徳大寺前太政大臣女) ?-? 鎌倉期歌人、玉葉集1698、[さまざまに行末かけしかねごともただ時のまのなさけなりけり]、(玉葉;恋1698/予言かねごとは約束の言葉)

E1628 公忠(きんただ・三統みむね) ? - 949 平安前期廷臣;936少外記/938大外記/信濃権介、備後権介、946村上天皇即位に正五下となり悠紀国司を勤める、歌人;921醍醐御時菊合/937日本紀竟宴和歌に参加、勅撰2首;後撰516/続後撰571、[思ひやる心はつねに通へども相坂あぶさかの関越えずもある哉]、(後撰;恋516/心は通っているが直接は逢えない)

1664 公忠(きんただ・源みなもと、滋野井弁しげのいのかみ、国紀男) 889-94860 光孝天皇の孫/廷臣;918蔵人、卓越する鷹・香の才を生かし醍醐天皇に近侍、大宰大貳/近江守兼右大弁/従四下、歌、922内裏菊合参/日本紀竟宴和歌参、金玉集・和漢朗詠集・万代集・雲葉集入集、家集「公忠集」、菟玖波集2句入、36歌仙の1、源信明さねあきらの父、勅撰21首;後撰(1123/1316)拾(106/283/1055/1207)新古(89/1444)以下、[いとせめて恋しきたびの唐衣ほどなくかへす人もあらなん]、(後撰;羈旅1317/他国に旅立つ女に贈る/度と旅を掛る/女を他国から帰す人を望む)、(本歌;古今/小野小町;いとせめて恋しき時はむばたまの夜の衣を返してぞ着る)(女の返歌;唐衣たつ日をよそに聞く人はかへすばかりのほども恋ひじを)

I1640 公忠(きんただ・巨勢こせ、金岡かなおか2男) ?-? 平安中期10ct 宮廷絵師;大和絵様式の形成、949(天暦3)勅命で「御屏風八帖」を画く(;日本紀略)、相覧そうみの弟、公望きんもちの兄or父

E1629 公忠(きんただ・三条/転法輪三条、実忠男/本姓藤原) 1324-8360 母;徳大寺公直女、廷臣;持明院統、1337従三位左中将/1340正三位/43権中納言/46従二位/47権大納言/55正二位/1360内大臣、1362大臣辞任;従一位、故実家、日記「後愚昧記」著、歌人/書家;1346貞和百首清書、1356-79頃歌壇活動;1367新玉津島歌合参加、[公忠公装束鈔][押小路内府抄][公事諮問抄]著、「一遍上人絵伝」書、勅撰17首;新千載(4首542/795/1207/1881)新拾(5首147-)新後拾(2首)新続古(6首)、[秋風になびくよりなほ浅茅生あさぢみの色ことなる今朝の初霜](新千載;秋542)[公忠の称] 後押小路内大臣のちのおしこうじないだいじん、実冬さねふゆの父

V1659 公尹(きんただ・山本やまもと/本姓;藤原、実富男) 1675-174773 京の廷臣;権大納言/正二位、歌人

山本実観・高松実逸・実豪の父

- R1639 **公董**(きんだだ・正親町おおぎまち/本姓;藤原、中山忠能2男)1839-79<sup>41</sup> 権大納言正親町実徳の養嗣、  
廷臣;1857正四下/63国事寄人、尊攘;堂上急進派/1863の政変で蟄居/67赦免、  
1868有栖川熾仁親王の参謀、69陸軍少将/従三位、1863「正親町公董旅中日記」著  
[公明の初名/法号]初名;公忠、法号;定心院対鏡道円  
公忠(きんだだ・三条) → 公明(きんあきら・三条/正親町三条、歌) D 1 6 7 7  
公忠(きんだだ・二邨) → 公忠(きみただ・二邨ふたむら、医者/篆刻家) C 1 6 8 5  
君達(きんだち/くんだつ・山崎) → 玄東(げんとう・山崎やまさき、蘭学/蘭医) L 1 8 8 4  
君達(きんだち・長尾/恵美えみ) → 大笑(たいしょう・恵美えみ/長尾、医者) K 2 6 3 4  
君達(きんだち・石川/関藤) → 藤陰(とういん・関藤せきとう、藩儒/蝦夷踏査) B 3 1 0 7  
君達(きんだち・狩野) → 良知(りょうち・狩野かのう、藩士/儒者) I 4 9 8 6  
公達(きんだち・工藤) → 工十(こうじゅう・工藤くどう、俳人/連歌) J 1 9 5 5
- R1640 **公種**(きんだね・三条さんじょう/正親町三条、実蔭男/本姓藤原)?-? 1271<sup>存</sup> 鎌倉期廷臣;右中将/正四下、  
1265「羽林秘抄」71「亀山院六条殿行幸記」著、法号;受心院
- E1630 **公種**(きんだね・小倉おぐら、実名男/本姓藤原)?-1444 室町期廷臣;1411参議/28権大納言正二位、  
1428足利満詮没の際出家(法名;性脩)、正親町実右の養父、歌:1407「内裏九十番歌合」参、  
1434永享百首/35「赤松満政母33回忌和歌」参加、新続古649、  
[風寒み夜をへて霜も岡のべに残る尾花の色ぞすくなき]、  
(新続古;冬649/百首歌;寒草/永享百首586;岡のべや・・・)
- R1641 **公胤**(きんだね・徳大寺とくだいじ、実淳さねあつ男/本姓藤原)1487-1526<sup>40</sup> 戦国期廷臣;1497左中将、  
1501従三位、1504(永正元)参議/05正三位/06権中納言/14権大納言従二位/17正二位、  
1518右大将兼任/19左大将、21内大臣/23(大永3)左大臣/26従一位;左大臣辞任/病气出家、  
法名;藤継、実通さねみちの父、  
歌:1525頃聖廟法楽三十首和歌(北野社三十首)参加、1526「公胤公記」著、  
[公胤の通称/法名]通称;後野宮、法名;藤継、  
金太夫(きんだゆう・村田) → 栄清(ひできよ・村田むらた、和算家) D 3 7 0 3  
金太夫(きんだゆう・橋本) → 安居(やすい・橋本はしもと、神職/国学者) 4 5 9 4  
金太夫(きんだゆう・橋本) → 実盛(さねもり・橋本、安居男/神職/書) L 2 0 4 5  
金太夫(きんだゆう・野村) → 野渡(やと・野村のむら、俳人) D 4 5 8 4  
金太夫(きんだゆう・都) → 三中(さんちゅう・都みやこ、浄瑠璃一中節太夫) G 2 0 0 2
- I1614 **金太楼**(きんたろう・桃尻散人)?- ? 大阪の滑稽本作者:1807「一文塊いちもんになぎょう」、  
1807「綾繰戯あやくりげ」著、1817雑俳「滑稽発句類題集初編」編・序(大坂奈良屋長兵衛刊)  
金太楼(きんたろう・木田) → 万翁(まんおう・木田/鉄屋、商家/俳人:1712-85) K 4 0 4 0  
金太郎(きんたろう・小牧) → 徳方(のりかた・小牧、儒者;経史学) E 3 5 4 0  
金太郎(きんたろう・種樹家) → 金太(きんた・種樹家うえきや、植木屋) R 1 6 3 3  
金太郎(きんたろう・長沢) → 赤城(せきじょう・長沢ながさわ、藩士/馬術) K 2 4 2 1  
金太郎(きんたろう・榊原) → 芳野(よし・榊原さかきばら、国学者) F 4 7 5 2  
金太郎(きんたろう・清水) → 古博(ひさひろ・清水しみず、国学/歌) L 3 7 9 7  
金太郎(きんたろう・勝部) → 兼方(かねまさ・勝部かつべ、大庄屋/歌人) U 1 5 3 1  
謹多楼(きんたろう) → 北敬(ほくけい・春陽斎、絵師) D 3 9 0 2  
金太楼主人(きんたろうしゅじん) → 蘭洲(らんしゅう・伊東/伊藤/修姓東、漢学者/戯作) C 4 8 6 0  
錦壇(きんだん・越智/河野) → 鉄兜(てつとう・河野、医/儒/詩歌) C 3 0 5 7
- I1615 **近知**(きんち) ? - ? 俳人;政由門、1662政由(松堅)「俳集良材」入  
近知(きんち・持田) → 近知(ちかとも・持田もちだ/平、国学者) N 2 8 6 7  
近知(きんち/ちかとも・榊原) → 寄園(きえん・榊原さかきばら、絵師) J 1 6 7 3
- V1692 **公親**(きんちか・大中臣おおなかとみ、親範男)?-? 平安鎌倉期;廷臣/従五下、祖父;親仲(造内宮使)、  
歌;1233刊[御裳濯集]入、範隆(1183没)の弟/宣親(権少副/造外宮使)の父、  
[夜をかさねまつらの山のほととぎす心づくしのあけぼのの声](御裳濯集;夏209)  
☆大中臣公義男の[公親(弟公隆は伊勢守/1150没)]とは別人
- E1631 **公親**(きんちか・三条/転法輪三条、実親男/本姓藤原)1222-92<sup>71</sup> 母;西園寺公経女、実重さねいげの父、

鎌倉期廷臣;1234左中將/36正四下/37從三位/39正三位權中納言/41從二位/47兼中宮大夫、  
1250正二位權大納言/55兼右大將/59大納言/61内大臣;62大臣辞任/86出家/法名;親阿、  
実重(太政大臣)・実禅・実承・実辨・深圓・房子(久明親王母)・中宮御匣(永尊親王母)の父、  
1257「御室記」、「後三条内相府記」著、  
勅撰16首:続後撰(972)続古今(586/1866)続拾(67/1008/1147/1429)新後撰(4首)以下、  
[つれなしといひても今はあり明の月こそ人のかたみなりけれ](続後撰;972/内大臣名)、  
[公親の号/法名] 号;後三条/白川、三条入道内大臣、 法名;親阿

銀竹軒(ぎんちくけん) → 光方(みつかた・田中、俳人) D 4 1 2 2  
 銀竹堂(ぎんちくどう) → 紹簾(しょうれん・小野、俳人) C 2 2 0 5  
 金忠(きんちゅう・梅津) → 金忠(かねただ・梅津うめづ、藩士/軍学) O 1 5 6 0  
 近儔(きんちゅう・松平) → 近儔(ちかとも・松平、藩主/俳人) B 2 8 3 4  
 金猪(きんちゅう・尾池) → 春道(はるみち・尾池おいけ、藩士/武術/歌) J 3 6 8 3

M1649 琴調(きんちよう) ? - ? 江前期俳人;1692不角「千代見草」入  
 [妻の帯夜は心の蛇(あしまたひ)](千代見草/前句;寝巻を卒度ぬけて出にけり/寝巻はかいまき)  
 (他の女の所に忍んでいこうとすると妻のほどけた帯が大蛇に見える/蛇はここは蛇)

金朝(きんちよう・茂呂) → 金朝(かねとも・茂呂もろ、絵師/歌) O 1 5 7 4  
 近長(きんちよう・狛/上) → 近長(ちかなが・狛こま/上、楽人) B 2 8 4 0  
 近長(きんちよう・朝日/源) → 近長(ちかなが・朝日あさひ/源、歌人) L 2 8 5 4  
 錦腸(きんちよう・杉田) → 立卿(りゅうけい・杉田すぎた、玄白男/蘭医) B 4 9 6 8  
 勤超(きんちよう) → 勤超(ごんちよう;法諱・行空;号、浄土僧) G 1 9 9 6

R1642 銀釣(ぎんちよう) ? - ? 江戸俳人、1691江水「元禄百人一句」目録入

R1631 闇朝(あんちよう) ? - ? 俳人;1729隆志「俳諧草結」入、  
 [こゝろぞし深見草かな冬構(ふゆがまへ)](俳諧草結;252/深見草は牡丹、冬囲中でも志は深い)

吟鳥(ぎんちよう) → 素雲(そうん・佐治さじ、商家/俳人) D 2 5 3 1  
 錦頂子(きんちようし) → 文流(ぶんりゅう・錦にしき、俳/浄瑠璃・浮世草子) 3 8 2 7  
 錦朝楼(きんちようろう) → 芳虎(よしとら・歌川うたがわ/永島、絵師) F 4 7 1 1  
 近直(きんちよく・杉本) → 近直(ちかなお・杉本すぎもと、商家/国学) M 2 8 7 1  
 近直(きんちよく・間人) → 近直(ちかなお・間人はしうど、回漕業/歌) N 2 8 2 9  
 近陳(きんちん・大給) → 近陳(ちかのぶ・大給だいぎゅう/松平、藩主) M 2 8 1 8  
 金槌(きんつい・紅林) → 梅処(ばいしょ・紅林くればやし/吳/境田、藩儒) B 3 6 5 4  
 琴通舎(初世きんつうしゃ) → 英賀(えいが・初世琴通舎、狂歌/茶番) B 1 3 9 2  
 琴通舎(2世きんつうしゃ) → 雅海(がかい・2世琴通舎、狂歌/茶番) E 1 5 8 5

E1632 公継(きんつぐ・徳大寺とくだいじ、初名;公嗣、実定さねさだ男/本姓藤原) 1175-1227 53 母;上西門院備後、  
 平安末鎌倉期廷臣;1189從四上右中將/1190(建久元)參議正四下/91從三位/95正三位、  
 1198權中納言/99從二位/1202正二位/04權大納言/06大納言兼春宮大夫/09内大臣、  
 1211右大臣;15辞任/21右大臣再任/24左大臣/25從一位/27病により辞任;没、  
 「宮槐記」「宮槐節会記」「節会部類記」「公継公記」著、  
 歌:1191経房歌合/99御室五十首参加、1201千五百番歌合参加、閑月集・雲葉集入集、  
 勅撰17首;新古(5首257/519/536/1097/1874)続古(971)続拾(2首)新後撰(763)以下、  
 [窓近きいさゝむら竹風吹けば秋におどろく夏の夜の夢](新古;257/1201年当座御会)  
 [公継の通称] 野宮左大臣のみやのさだいじん

E1633 公綱(きんつな・三条/正親町三条おさぎまちさんじよう、公雅きんまさ男/本姓藤原) 1422-71 50 兄実雅の猶子、  
 廷臣;1446參議、1453權大納言/56正二位/65足利義政執奏;寛正勅撰集寄人(中絶)、從一位、  
 歌;1437室町殿行幸和歌御・50仙洞歌合・55内裏歌合・58幕府歌会参加、新続古1715、  
 [暮れわたる峰の松原ほのぼのと木このま知られて月ぞいざよふ]、  
 (新続古;雑1715/石清水社に奉納歌;松月幽)

E1634 公維(きんつな/きんふさ/きんこれ・徳大寺とくだいじ/本姓藤原、久我こが通言みちのぶ男) 1537-88 52 徳大寺実通養子、  
 戦国安桃期廷臣;1580内大臣;致仕/85從一位、歌書を写、歌;「公維百首」著、  
 1579重陽御会参加、1574-85「公維公記」78「神宮奏事初記」86「正親町天皇御讓位次第」著、  
 連歌;1564「連歌聞書」、連歌諸抄、82「二条御所和漢聯句」参加



- T1600 **公維**(きんつな・染谷そめや) ? - ? 江後期; 歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[かげうかぶ花も散るやと忘れては心うごかす池のさざ波](大江戸倭歌; 春280/池上花)  
[はかなしやおなじうきねの鳥すらもつひの妹背は有りけるものを](同; 雑1984/遊女)
- I1635 **公経**(きんつね・藤原、宮内少輔の成尹男)?-1099 母; 源元忠女、中納言藤原重尹の養子、  
平安後期廷臣; 従四下/越中守・河内守、少納言/主殿頭、裸子は内親王家家司、  
能書家; 1051永承6内裏根合の左清書; この時の心境について袋草紙に;  
[土御門右府記に云はく; 遺産配分の件で検非違使庁に呼出前で落着かないか云々]、  
歌人; 1091宗通歌合参加、後拾遺105、続詞花集(765)入、  
[花見てぞ身のうきことも忘らるゝ春はかぎりのなからましかば](後拾遺; 春105)
- E1635 **公経**(きんつね・西園寺さいおんじ、実宗男/本姓藤原) 1171-1244 母; 藤原基家女、廷臣; 1198参議、  
鎌倉幕府と親密; 1221承久乱に事前通報/乱後権勢を得/22太政大臣/従一位、31出家、  
准三宮、定家の有力庇護; 姉が定家の妻、晩年北山に別荘西園寺(のちの鹿苑寺)造営、  
琵琶/書、歌; 「小鷹譚六十六首」「小鷹五十首」「鷹百首」「鷹三百首」「鷹秘歌廿八首」著、  
1200院当座歌合/01千五百番歌合参加、1201「藤代王子和歌会」催/1218順徳中殿御会参加、  
勅撰114首; 新古(10首72/156/216下)新勅(30首61/116下)続後撰(14首)以下、菟13句入、  
雲葉集5首入(西園寺入道前太政大臣名)、明恵上人歌集入; 夫妻共に明恵に帰依、  
[花さそふ嵐の庭の雪ならでふりゆくものはわが身なりけり]  
(新勅撰; 十六雑1052; 西園寺入道前太政大臣名)  
[公経の通称/法名]通称; 巴(鞍絵)大将/一条/大宮/今出川/北山、法名; 覚空[覚勝]
- T1682 **公積**(きんつむ・正親町三条おおぎまちさんじょう/本姓; 藤原、実彦男) 1721-77 57 廷臣; 侍従/左近衛少将、  
春宮権亮/左近衛中将、1743(寛保3)参議/権中納言/大宰権帥/1754(宝暦4)権大納言、  
従二位/近習、神道; 竹内式部門、尊王思想/1758(宝暦8)竹内式部追放の宝暦事件に連座;  
徳大寺公城(きんむら)・烏丸光胤・坊城俊逸らと共に近習職・官位停止/永蟄居、  
1760出家/没後; 贈従一位、  
妻; 三条西公福女、実同・実章・周子(皇后欣子内親王付女房)の父、  
[公積(;名)の号]杯水
- R1643 **公恪**(きんつむ/きみつむ・西四辻にしようつじ、公尹(きんまさ)男) 1812-73 62 母; 裏松光世女、廷臣; 1855正二位、  
1858幕府の日米条約勅許奏請に勅諭案改刪を要請、1867「御用樂所留」著  
父 → 公尹(きんまさ・西四辻にしようつじ、廷臣/箏) R 1 6 8 0
- R1644 **公貫**(きんつら・三条さんじょう/正親町三条おおぎまちさんじょう、実蔭男) 1238-1315 78 母; 法印道寛女、  
廷臣、1275参議/88正二位/99権大納言/1303出家; 法名; 空円、  
「公貫卿記拔書」著
- R1645 **公連**(きんつら・洞院とういん、西園寺さいおんじ実遠男/本姓藤原)?-? 1501存 公教で断絶の洞院家継承、  
戦国期廷臣; 1482侍従/左近中将/93正三位/1501出家、連歌; 新菟2句入
- T1670 **公連**(きんつら・小倉おぐら/本姓; 藤原、初名; 公代(きんよ)、実起男) 1647-84 38 京の廷臣、歌人、  
参議/右中将/従三位、父とともに佐渡に配流
- R1646 **公陳**(きんつら・河鱈(かわがはた)、実祐男/本姓藤原) 1773-1819 47 廷臣; 1792左近権少将/1805非参議、  
1815参議/左近権中将/正三位/16致仕/石清水放生会参加/17従二位、  
1807「恵仁親王祇候申渡覚悟記」08/9「恵仁親王御用日記」09「恵仁親王近習留」著
- I1605 **僅締**(きんてい) ? - ? 江前期俳人; 1691不角「二葉之松」入、  
[御手おて届く花のはしごに肩献(かた)あげて](二葉之松; 50/前句; しびれ来る迄(いた)かしまりけり)  
(花見で花を折ろうとする主人に肩を貸す)
- R1647 **琴亭**(きんてい・武田たけだ、名; 大)?-? 1751-89頃大阪儒者/卜筮、1764-72頃京で著述、  
「三教舎学範圍」、1762/86「大和三教論」著、  
[琴亭の字/通称]字; 有文/仲天、通称; 右京  
琴亭(きんてい・津軽) → 寧親(やすちか・津軽つがる、藩主/俳人) G 4 5 2 7  
近貞(きんてい・中村) → 浄心(じょうしん; 法名・中村、文筆家) K 2 2 0 4  
近禎(きんてい・松平) → 近禎(ちかよし・松平まつだいら、藩主/歌人) N 2 8 8 4  
金定(きんてい・野呂) → 金定(かねさだ・野呂のろ、儒者/医/歌人) V 1 5 3 5



- 錦汀(きんてい・武谷) → 成章(しげあき・武谷たけや、医者/詩人) Q 2 1 4 6  
 銀亭玉峨(ぎんていぎよくが) → 玉峨(ぎよくが・梅暮里、人情本作者) H 1 6 1 8  
 近亭三七(きんていさんしち) → 天明老人(てんめいろうじん、狂歌) E 3 0 3 7  
 I1617 錦亭鳴虫(きんていなきむし) ? - ? 絵師、1819山鳥滑稽本「丘釣話」画  
 琴亭文彦(きんていふみひこ) → 風来(・河原、戯作者) B 3 8 0 8  
 錦天山房(きんてんさんぼう) → 霞舟(かしゅう・友野とも、幕臣/詩人) C 1 5 1 1  
 衾天楼(きんてんろう) → 春三(しゅんさん・柳河/西村/栗本、洋学者) K 2 1 2 1  
 1665 公任(きんとう・藤原・四条大納言、関白頼忠男/母;代明親王女巖子女王)966-104176 廷臣;980侍従、  
 983左近権中将/985正四下/989蔵人頭/992参議/995左兵衛督・皇后宮大夫、  
 996右衛門督・檢非違使別当/998勘解由長官/999従三位/1000(長保2)皇太后宮大夫、  
 1001中納言・左衛門督・正三位/1005従二位/1009(寛弘6)権大納言、  
 1012太皇太后宮大夫;正二位/19按察使/1024致仕、1025(万寿2)長谷籠居/26解脱寺に出家、  
 一条期が最盛期(四納言の1);小野宮流藤家は九条流に押され政治的に不遇/撰録ならず、  
 漢学/詩歌/管弦/故実、一条朝四納言の1;一条歌壇の中心、室;昭平親王女、定頼の父、  
 「三十六人撰」編(歌仙の礎)、歌学「新撰髓脳」「和歌九品」著、「歌仙抄」「拾遺抄」「北山抄」編、  
 「深窓秘抄」「後十五番歌合」編、家集「公任集」、「金玉集」「如意宝集」撰、  
 歌謡「和漢朗詠集」撰、「四条大納言歌枕」(散佚)、「歌論議」(散佚)、「古今集注」(散佚)著、  
 玄々集(5首/四条大納言名)・後葉集(6首)・続詞花集(4首)・雲葉集入、  
 勅撰92首;拾遺(15首210/230/256/340/449/1015/1022/1065/1069以下)、  
 後拾(19首52/56/257/268/359以下)詞花(139/168/206/392)千載(11首269/477以下)、  
 新古(6首546/666/800/1004以下)新勅(1104)続後撰(83/600/908)以下/金葉(Ⅲ3首)、  
 [滝の音は絶えて久しくなりぬれど名こそながれてなほ聞こえけれ](拾遺449)、  
 [父殿(頼忠924-989)うせ給ひて、  
 いにしへをこふる心にくらされておぼろに見ゆる秋の夜の月](玄々集56)、  
 同母の姉に → 遵子じゆんし; J 2 1 8 0、  
 異母妹に → 四条中宮誕子し; E 2 1 1 4  
 I1619 金糖(きんとう・大白庵だいはくあん)? - ? 江後期大阪狂歌、1826「略画職人尽」入  
 R1649 金塘(きんとう・福田ふくだ/藤原、名;復/字;徳本、福田太兵衛男)1807-5852 大阪の商家/暦算家、  
 和算;坂正永・武田眞元門/暦学;小出兼政門、大坂今橋に開塾/1843司天台師範代、  
 1816「諸家算題」31「立題初門」編/32「測円術初門」41「両替便覧」54「算法対数表」編外多数、  
 [金塘の通称/別号]通称;直七郎/直之進/直之助、別号;貫通斎/嘉当/当嘉/美濃正  
 法号;運旋院、妻は白井為賀ためし(易学者)女  
 R1650 金堂(きんどう;道号・良菊りょうきく;法諱、別諱;妙菊)1408-7770 初め天台僧/曹洞僧;中山良用門;  
 嗣法、陸奥黒石の正法寺5世/大祥寺・瑞徳寺住寺、大祥寺に没、「月泉良印禅師行状記」著  
 S1613 琴堂(きんどう) ? - ? 江戸俳、1783維駒これま「五車反古」1句入、  
 [初しぐれ濡れて淋しき羽織哉](五車反古;416/芭蕉句;旅人と我名よばれん初しぐれ)  
 R1648 琴堂(きんどう・加部かべ、名;嘉重よしげ)1829-9466 上州吾妻郡大戸村の名主;上毛三富豪の1、  
 俳人;枕山・綾瀬・西馬門、交友諸国に亘る/神道修成派大講義、晩年破産;高崎に客死、  
 「穂長集」「翫月紀行」「月まかせ」著  
 [琴堂(;号)の通称/別号]通称;安左衛門、号;一籟居/風月太郎/屏山/停雲  
 R1652 金洞(きんどう・井田いだ、名;日爽/幼名富蔵、兵右衛門男)1830-190778 佐渡出身日蓮僧;12歳剃髪、  
 江戸;日旭・日薩・慧澄門、谷中長善寺/甲州立正寺住、詩;遠山雲如・大沼枕山門、  
 「鶯里集」「詠物詩抄」「詠物詩選」著、  
 [金洞の字/通称/別号]字;智仙/大愚、通称;智朗、別号;純円院  
 琴堂(きんどう;俳名) → 寿助(寿輔じゆすけ・宝田、歌舞伎作者) I 2 1 7 6  
 琴堂(きんどう・市野) → 天籟(てんらい・市野いちの/安井、儒/詩) E 3 0 5 5  
 琴堂(きんどう・春木) → 煥光(あきみつ・春木はるき、神職/本草家) D 1 0 9 8  
 琴堂(きんどう;号) → 幽真(ゆうしん;法諱、真言僧/詩歌) C 4 6 7 7  
 槿堂(きんどう/あさがおどう) → 蕉雨(しょうう・櫻井さくらい、商家/俳人) F 2 2 3 0

- 謹堂(きんどう・古賀) → 茶溪(さけい・古賀こが/劉、幕府儒官) G 2 0 1 4  
 金道(きんどう・山中/森) → 玄黄斎(げんおうさい・森、商家/画工) I 1 8 0 0  
 金洞(きんどう・金井) → 之恭(ゆきやす・金井かない、勤王家/書家) F 4 6 9 0  
 錦童(きんどう・月岡) → 雪鼎(せつてい・月岡つきおか/木田、絵師) E 2 4 6 0  
 緊堂(きんどう;号) → 師準(しじゆん;法諱・尚隆;字、臨濟僧/歌) D 2 1 9 7  
 近道(きんどう・藤井) → 近道(ちかみち・藤井ふじい、神職/国学) N 2 8 3 9  
 I1618 吟桃(ぎんとう) ? - ? 江戸蕉門俳人、1680芭蕉「桃青門弟独吟二十歌仙」入  
 錦洞館(きんどうかん) → 旭岱子(きよくたいし、叢書編纂) H 1 6 2 9  
 欣堂間人(きんどうかんじん) → 寿助(すけすけ・宝田、歌舞伎作者) I 2 1 7 6  
 銀塘居(ぎんとうきよ) → 浮生(ふしょう・北藤、俳人/俳論) C 3 8 8 6  
 金洞山人(きんどうさんじん) → 米庵(べいあん・市河、儒者/詩/書家) 2 7 0 0  
 吟道人(ぎんどうじん) → 吟香(ぎんこう・岸田きしだ、新聞/薬業家) S 1 6 5 2  
 銀塘幽客(ぎんとうゆうきゃく) → 浮生(ふしょう・北藤、俳人/俳論) C 3 8 8 6  
 R1653 公遠(きんとお・四辻よつじ、季遠すえとお男/本姓藤原) 1540-9556 母;女官得選、廷臣;1555左近中将、  
 1563参議/70権中納言;従三位/79権大納言/80正二位/87致仕、歌;79天正内裏歌合参加  
 E1638 金時(公時きんとき・坂田/酒田さかた、幼名;金太郎) ?-? 平安中期相模足柄山の山姥と赤竜との子、  
 伝説上武士、21歳のとき源頼光に見出され頼光の四天王の1、今昔物語等に逸話、  
 酒呑童子征伐など/その童子姿は強と武勇の象徴として五月人形となる、  
 歌舞伎では怪童丸の名で登場  
 E1636 公時(きんとき・滋野井しげのい/本姓;藤原、初名;公雅/公輔、実国男) 1157-122064 母;藤原家成女、  
 廷臣;右中将/1189(文治5)参議正三位;95辞任/98従二位/1209出家、  
 歌;1178別雷社/86・95経房家/1200若宮歌合参加、月詣・玄玉・和漢兼作集入集、  
 勅撰4首;千載(63/293)新後拾(493)新続古(983)、  
 [年を経ておなじ桜の花の色をそめますものは心なりけり]、  
 (千載;春63/賀茂社歌合に/今年色が増すように感じるのは自分の心の思い入れ)  
 [公時の通称/法名]通称;榎並中将、法名;寂澄、 滋野井実宣の父  
 E1637 公時(きんとき・三条西さんじょうにし/西三条、三条実継男/本姓藤原) 1339-8345 母;三条公明女、  
 三条西家祖、廷臣;蔵人頭右中将/足利義満の寵臣、1370正四上参議/71従三位/73正三位、  
 1374権中納言;侍従/81従二位、83権大納言;没、歌人;1369応安二年内裏和歌参加、  
 歌人;勅撰3首;新拾遺(1257)新続古今(1574/1941)、  
 [つひに又いかなるせにか絶えはてん山下水の浅き契は](新拾;恋1257)、  
 [しるべせよまだふみそめぬ春日野におどろの道の秋の月影](応安二年内裏和歌;40)  
 近恵(きんとく・西郷/保科) → 近恵(ちかのり・保科ほしな/西郷、藩家老/神職) B 2 8 6 5  
 近徳(きんとく・辻) → 近徳(ちかのり・辻つじ/狛、楽人) N 2 8 0 0  
 金徳(きんとく・上江州) → 由訓(ゆくん・上江州うえざう/李、廷臣/歌) G 4 6 5 9  
 E1639 公敏(きんとし・洞院とういん、実泰男) 1292-135261 母;小倉公雄女季子、廷臣;1311参議/19正二位、  
 1325権大納言;後醍醐天皇廷臣/1331笠置に従軍後出家、北朝に投降;32下野配流、  
 赦免後;閑居、公賢の弟/公泰・実守の兄/実清の父、「公敏公記」著、  
 歌人;1330元徳二年八月御会参加、続現葉・臨永集入/藤葉集3首入、  
 勅撰8首;続千載(1437)新千(546/712/1116)新拾(631/1820)新後拾(898)新続古(694)、  
 [うつりゆく人の心の秋の色に昔ながらのことはぞなき](続千載;恋1437)、  
 [さざ浪やしがのうらわもさむからし雪吹きおくるひらの山風](藤葉;冬362/按察使名)、  
 [公敏の通称]通称;按察入道、法名;宗肇そうちよう  
 E1640 公俊(きんとし・徳大寺とくだいじ、実時さねとき男/本姓藤原) 1371-142858 廷臣;1386参議/1419左大将、  
 1420太政大臣/従一位;出家、1417「後野宮相国記」、歌;1407内裏90番参加/新続古971、  
 [公俊の通称/法名]通称;後野宮のちののみや入道前太政大臣(:新続古)、法名;常俊  
 [それとしも越えゆく程は見えわかで過ぎつる跡は峰のしら雲](新続古今;十羈旅971)  
 F1620 公聡(きんとし・姉小路あねがうじ、公文男) 1749-9446 江中期廷臣/1780参議・87権中納言/92権大納言、  
 従二位、「安永八年剣璽渡御倚廬渡御記」著  
 E1641 公福(きんとみ・三条西さんじょうにし/西三条、初名;公伊、実教男/本姓藤原) 1697-174549 廷臣;1718参議、

1727権大納言/36正二位、歌、「新類題和歌集」共編、「公福卿集」著、39「雲上名所和歌集」編、1740「十五首和歌」、「將軍家所望之和歌」著、連歌；昌琢と七吟百韻、22「公福記」著、  
実称さねなの父

[公福の法号] 乘雲院円常大空

- E1642 **公知**(きんとも/きんさと・姉小路あねがこうじ、公前男/本姓藤原) 1839-63暗殺<sup>25</sup> 江後期宮廷尊攘派の中心、1858侍従/日米条約勅許に反対；安政大獄で追求/62島津久光の公武合体建言指示、国事奔走中刺客に暗殺、歌・「泣血集」正風編、「日野資愛姉小路公知大谷光勝尺牘」著、
- E1643 **公豊**(きんとよ・三条/正親町三条、初名；公景、実継さねつぐ男/本姓；藤原) 1333-1406<sup>74</sup> 母；三条公明女、廷臣；1355参議/正二位/95内大臣/出家、「槐御抄」編/「行幸雜要」1380「公豊卿記」著、「殿上淵酔記」著、歌；1367新玉津島社歌合・70宮中歌会/御遊参加、78「三十首歌会」主催、勅撰8首；新拾遺(1626)新続古今(7首74/465/951/1230/1352/1809/1971)、  
[深ふけゆけば雲も嵐もをさまりて夜わたる月の影ぞのどけき](新拾；雑1626)、  
[公豊の法名/通称] 通称；後三条内大臣/権中納言(新拾遺)/称名院入道内大臣(新続古)、  
法名；皓空、法号；称名院皓空、三条西公時きんときの兄、実豊の父、  
謹敦(きんとん・南部) → 利剛(としひさ・南部なんぶ、藩主/国学/歌) T 3 1 7 7  
金墩居(きんとんきよ) → 華山(かざん・渡辺、藩士/絵師/蘭学) 1 5 8 3
- E1644 **公名**(きんな・西園寺さいおんじ、実永男/本姓藤原) 1410-68<sup>59</sup> 母；持明院基親女、廷臣；左近中将、1420参議/21従四上/22正四下/25正三位権中納言/28権大納言/29従二位、1433大歌所別当/兼右近大将/37左大将に転ず/38内大臣/39正二位/41大臣辞任、1450従一位/55(享徳4)太政大臣/57出家、「管見記」「公名公記」1430「撰政直廬除目竟夜記」著、詩；1446文安詩歌合参加、歌；1434永享百首入集、新続古(3首682/1282/1834)、新撰菟玖波集2句入、  
[風さむみ玉とくだけで滝の上のあさ野の草に散る霰かな]、  
(新続古今；冬682/永享百首618/霰)、  
[公名の法名/道号]法名；永存、道号；菊畹きくえん/観音寺
- E1645 **公直**(きんなお・今出川いまでがわ[家号；菊亭]/本姓；藤原、実尹男) 1335-96<sup>62</sup> 母；二条為基女、南北期廷臣；1378内大臣/81従一位/94右大臣/95左大臣/出家、「公直卿記」著、1369「踏歌節会記」83「啄木調」著、歌；菊葉集主要歌人；119首(入道前左大臣名)、妻；公行母きんゆきのはは(歌人)、  
[白雪のまだ降る年に梓弓おしても春の立ちにけるかな](菊葉集；春1/入道前左大臣)  
[公直の通称] 今出川入道前左大臣いまでがわにゆうどうさきのさだいじん、法号；素懷
- R1654 **公正**(きんなお・清水谷しみずたに、実揖男/本姓藤原) 1809-83<sup>75</sup> 廷臣(羽林家)；1834右近権中将/62参議、1865権中納言/大歌別当代(豊明外辨)/正三位/踏歌外辨/68松尾祭上卿、歌人、1858繁里「類題和歌清渚せいしよ集」序
- E1646 **公直母**(きんなおのは・今出川いまでがわ、藤原為基女、今出川実尹の室) ?-1378 南北期歌人；  
1367將軍義詮催「新玉津社歌合」参/70-6頃百番歌合参、70-1仙洞歌合参加、勅撰4首；風雅(481/1199/1697)新千載(2327)、  
[ひとしほり雨は過ぎぬる庭の面おもに散りてうつろふ萩が花摺はなずり](風雅；秋481)
- W1601 **公仲**(きんなか・大江おおえ、おじ広経養子/公資きんよりの孫) ?-? 1130以前没 平安後期廷臣/代々歌人、1095(嘉保2)不慮に事に坐し隠岐に配流；3年後恩赦で帰京、能因法師集；祖父公資の親友能因より[数奇給へ すきぬれば歌はよむ]と忠告される、京内に3箇所の宅地と相模早河莊を所領；没後娘仲子と養子有経との間で遺産争い生ず
- E1647 **公長**(きんなが・大中臣おおなかとみ、公定男) 1071-1138<sup>68</sup> 神職；1122伊勢神宮祭主/27斎宮大別当、1131神祇大副/従三位、1138(保延4)殺人事件の関与詮議；職務停止/同年病没、定俊・定登・定尋・定親の兄弟/藤原宗長(致康男)の養父、歌人、御裳濯集7首入、勅撰；金葉集5首；22/48/253/277/414(金Ⅲ25/48、金解27)、  
[春日野の子の日の松はひかてこそ神さびゆかんかげにかくれめ]、  
(金葉；春22/春日野の松は残し大樹になったら陰に身を寄せよう/藤原氏繁栄と恩恵)
- E1648 **公脩**(きんなが/-みち・小倉おぐら・家名；富小路、小倉実教さねのり男/本姓藤原) 1294-1337<sup>44</sup> 廷臣；



1314従三位/15(正和5)参議、左中将/1317(文保元)権中納言/28正二位、父に先だち没、歌：1314詩歌合八十番35内裏千首参加、父撰[藤葉集]5首入集、実名・実敦の父、勅撰7首；続千載(1430)続後拾(813)新千(269/328/725)新拾(1340)新続古(446)、[色かはる人の心の浅茅原いつより秋の霜はおくらん](続千；恋1430)

- R1655 **公長**(きんなが・西園寺さいおんじ/本姓；藤原、実長男?)?-? 南朝廷臣；左近大将/権大納言、歌人、1375住吉社三百六十番歌合/75南朝五百番歌合参加、新葉集4首；240/449/903/937、[せきとむるいは井の清水底きよみ夏のよそなる松の下陰](新葉；240/内裏五十番歌合)
- G1661 **公長**(きんなが・風早かざはや/本姓；藤原、実種男)1666-172358 廷臣；1669従五位下/78従五位上、1678左京大夫/83正五下侍従/84右近衛少将/87従四下/88左近中将/91従四上/95正四下、1700従三位/06正三位/1711(正徳元)参議/19従二位、実積おむの父、歌人、1692「公長卿記」1706(宝永3)「雲上和歌集」1713「京都千句」、「改元記」著[公長(；名)の別名]初名；公寛・別名；公前
- V1644 **公隆**(きんなが・武者小路むしやのこうじ/本姓；藤原、三条西実称男)1785-185571 京の廷臣；武者小路実純さねとの養子、1822(文政5)従三位/参議/権大納言/正二位、和学者・歌人；飛鳥井雅光門、[公隆(；名)の通称]岩丸  
公修(きんなが・三条) → 公修(きんおさ・三条/転法輪三条、内大臣)Q1671
- R1656 **公夏**(きんなつ・八条はちじょう/本姓藤原、按察使中納言、八条実次男?)?-? 1365存 南朝廷臣；1356参議、按察使/権大納言/歌；1365正平廿年点取三百首和歌(於住吉行宮)参(；按察使中納言名)、新葉14首(41/154/223/341/379/406/579/739/850/915/933/1170/1258/1401)、[青柳のみどりうつろふ川の瀬になびく玉藻も数やそふらん]、(新葉；春41/正平十六年[1361]内裏百首歌・柳)
- E1649 **公夏**(きんなつ・橋本はしもと/本姓藤原、清水谷実久男)1454-153885 橋本公国の養子、廷臣；1482参議、1489権中納言/90正三位、備中播磨に下向/1520播磨で出家、能書/歌；歌合主催、「通知和漢の両道」と評された(「梅庵古筆伝」、1526「うたたね」編、「うきぎ(浮木)」著、「白馬節会次第」「十花千句註」著、「橋本公夏筆朗詠並和歌」書、連歌；新菟2句入
- E1650 **公成**(きんなり/きんしげ・藤原/閑院、藤原実成男)999-104345 母；藤原陳政女、祖父公季の猶子、廷臣；頭中将/兵衛督/1026参議/38従二位/43権中納言、実季・茂子(白河天皇の生母)の父、歌；1035賀陽院水閣歌合参加；左方念人、小式部内侍と親交、後拾遺622、[雲の上にはさばかり射しし日影にも君がつらゝはとけずなりにき](後拾遺；恋622)、(五節の舞に世話する女に贈る/つららは女の冷たい心/日影は雲・射し・つららの縁語)、[公成の通称] 滋野井しげのいの別当/滋野井の中将
- E1651 **公有**(きんなり・一条いちじょう/家名；清水谷、実連男/本姓藤原)1296-135257 母；藤原公重女、鎌倉末建武期廷臣、1332従三位権中納言/停止/38復職；権中納言/46正二位、歌；1350為世十三回忌和歌参加、新千載1972、藤葉集2首入、[かきつくる昔の跡を見る度に及ばぬ身こそねはなかりけり](新千載；雑1972)、[山端に朝ある雲のたえだえに日影もり来て空ぞしぐるる](藤葉；冬301)
- I1620 **公業**(きんなり・阿野あ、幼名；也、実頭男/本姓藤原)1599-168385 母；藤原兼治女、廷臣；1637左近中将/1644参議；従三位/49権中納言；正三位/致仕/61権大納言/62正二位；致仕、万葉研究、1677西本願寺本を書写(阿野本)、歌；1638[後鳥羽院四百年忌御会]参加(父阿野実頭・弟山本勝忠と)、[立ちかへり我のみいまは音ねをぞなく鳥も一夜のあふ坂のせき]、(後鳥羽院忌；65/遇不逢恋あうてあはざるこひ)、[公業の法号] 恢超かいちょう/廓誉
- R1657 **公迪**(きんなり/きんみち・徳大寺とくだいじ、実祖男/本姓藤原)1771-181141 廷臣；1800権大納言/正二位、歌；香川景柄・景樹門、1802日記「公迪卿記」、「享和革命政元記」「鼎足鈔」著、[公迪の法号] 後大機院伯空啓浄
- U1696 **公業**(きんなり/きんなる・西四辻にしよつじ、中納言高松公祐男)1838-9962 京の廷臣西四辻公恪の養子、歌人；実父は二条派の歌道の宗匠家、1858(安政5)88卿列参に参加；外交の幕府委任に反対、1866(慶応2)朝政刷新を奏上；蟄居、維新後；大阪府知事；教育に尽力；多数の小学校創設、



のち侍従/天皇の歌道師範、御歌所参候、

[公業(；名)の通称] 茂丸

公成(きんなり・荒木田) → 公成(きみなり・荒木田) G 1 6 2 5

公成(きんなり・正親町) → 実垂(さねたる・正親町おおぎまち/藤原、廷臣) K 2 0 9 6

公濟(きんなり・七五三) → 長斎(ちようさい・七五三しめ、国学/俳人) I 2 8 3 8

V1601 **公燕**(きんなる・花園はなぞの/本姓;藤原、実章さねふみ男) 1781-184060 母;穂波尚孝女、廷臣;美作権介、  
1812侍従/正四下/20近衛権中将/従三位/24正三位/38参議/従二位、歌人、

[公燕(；名)の通称]美作権介、堀田貞子(津島社司の妻/桂园派歌人/1795-1875)の兄

公業(きんなる・西四辻) → 公業(きんなり/きんなる・西四辻にしようじ/高松、廷臣/歌) U 1 6 9 6

公縄(きんなわ→きんりのり・阿野) → 公縄(きんりのり・阿野あの、廷臣/文筆) R 1 6 6 2

琴二(きんに・赤松) → 香雨(こうう・赤松あかまつ、商家/鑑定家) H 1 9 3 9

R1658 **闇如**(ぎんによ) ? - ? 美濃真宗僧/俳人;1698「続猿蓑」入

[煤すすはきやわすれて出いづる鉢ひらき](続猿蓑)

(煤掃すすはきは年末の大掃除の日、鉢ひらきは托鉢僧)

R1659 **闇如**(ぎんによ) 1730 - 180475 越前坂井郡嵩村の真宗高田派僧;松樹院住職、

1765伊勢専修寺安居に本講を務める/准講師、「安楽集演義略述」「安楽集開蔵記」著

近任(きんにん・狛/辻) → 近任(ちかとう・狛こま/辻、楽人) B 2 8 2 6

V1645 **公野**(きんの・武者小路むしやのこうじ/本姓;藤原、実陰男) 1688-174456 京の廷臣;1721従三位、  
従二位/権中納言、和学/歌人、実岳さねおかの父、

[公野(；名)の通称]重丸

董能屋(きんのうや・村松) → 春甫(しゅんぽ・村松むらまつ、俳人/画) K 2 1 4 4

金之丞(きんのじょう→きんのすけ)

金之丞(きんのじょう・山路) → 彰常(あきつね・山路やまち、幕臣/天文) D 1 0 5 7

金之丞(きんのじょう・河村) → 秀根(ひでね・河村、藩士/国学者/歌人) D 3 7 5 4

金之丞(きんのじょう・西山/八田) → 則休(のりやす・西山、藩士/武道家) G 3 5 0 6

金之丞(きんのじょう・浅野) → 梅堂(ばいどう・浅野、幕臣/和学) B 3 6 9 2

金之丞(きんのじょう・佐原) → 良屋(かたすえ・佐原さわら、幕臣) M 1 5 9 6

金之丞(きんのじょう・増島) → 澧水(れいすい・増島/増嶋ますじま/平、幕臣/儒者) 5 1 4 2

金之丞(きんのじょう・増島) → 蘭園(らんえん・増島/平/増、澧水男/幕臣儒官) B 4 8 5 9

金之丞(きんのじょう・島津/末川) → 久救(ひさひら・末川/島津、歌人) B 3 7 7 2

金之丞(きんのじょう・室田) → 正良(まさよし・室田むらた、幕臣/軍学) I 4 0 5 5

金之丞(きんのじょう・飯島/都筑) → 峰重(みねしげ・都筑/都築、幕臣/記録) F 4 1 4 7

欣之丞(欽之丞きんのじょう・稲垣) → 見年(ちかとし・稲垣いながき/源、幕臣/歌) L 2 8 4 7

金之助(きんのすけ・河村) → 秀世(ひでよ/ひでつぐ・河村、藩士/歌人) E 3 7 0 8

金之助(きんのすけ・鷹見) → 保具(やすとも・鷹見たかみ、宿場本陣/歌) C 4 5 3 2

金之助(きんのすけ・河村) → 秀根(ひでね・河村、藩士/国学者/歌人) D 3 7 5 4

金之助(きんのすけ・河村) → 殷根(しげね・河村、秀根男/国学者) C 2 1 6 6

金之助(きんのすけ・鈴木) → 寿来(じゅらい・宝田たからだ、歌舞伎作者) J 2 1 0 9

金之助(きんのすけ・池野) → 祐寿(すけひさ・池野いけの、商家/歌人) L 2 3 3 8

金之助(きんのすけ・大久保) → 忠寛(ただひろ・大久保おおくぼ、一翁、幕臣) U 2 6 3 9

金之助(きんのすけ・橘) → 道守(みちもり・橘たちばな/吉田、佳人) I 4 1 0 5

金之助(きんのすけ・太田) → 三弥(さんや・太田おた/水谷、藩士/歌) O 2 0 1 8

金之助(きんのすけ・鈴木) → 泰輔(やすすけ・鈴木すずき/水野、国学/歌) G 4 5 0 6

金之助(きんのすけ・松井) → 清蔭(きよかげ・松井まつい、歌人) V 1 6 2 3

金之允(きんのすけ・服部) → 正弼(まさすけ・服部はっとり/長沼、家老/歌) R 4 0 7 9

金之允(きんのすけ・服部) → 正名(まさな・服部、正弼男/家老/歌) R 4 0 8 0

欣之助(きんのすけ・長坂/松森) → 胤保(たねやす・松森/長坂、藩士/博学) S 2 6 1 1

錦之助(きんのすけ・坂井) → 政治(まさはる・坂井さかい/藤原、歌人) M 4 0 6 5

銀之助(ぎんのすけ・井伊) → 利義(としのり・土井どい、藩主/詩人) N 3 1 3 5

銀之助(ぎんのすけ・荒井) → 景樹(かげき・香川、歌人) 1 5 1 2

- 銀之允(ぎんのすけ・鈴木) → 桜溪(おうけい・鈴木すざき、藩士/儒者) C 1 4 3 6
- E1652 **公信**(きんのぶ・藤原ふじわら、為光男/母;藤原伊尹女)977-1026<sup>50</sup> 兄齊信猶子、廷臣;一条天皇の蔵人、蔵人頭/内蔵頭/1013参議/檢非違使別当/1021左兵衛督/1021従二位/22権中納言、敦成・敦良親王(後朱雀天王)の東宮大夫、歌人;1011一条天皇葬送挽歌、1024高陽院駒競べ竟宴和歌参加、玄玉集・万代集入集、後拾遺914、[朝な朝な起きつゝ見れば白菊の霜にぞいたくうつろひにける](後拾:914)  
(文通していた実方の女が橘行資と逢っていると聞き詠む、  
女の情が他の男にうつろってしまったことを問い詰める)  
[朝ぼらけくらしとなどて思ひけんひとりも死出の山はこえけり](袋草紙;逝去後の歌)
- W1604 **公信**(きんのぶ・藤原ふじわら、備後守実信男)?-1151 平安後期廷臣;正四下/大蔵卿/右京大夫、祖父は権中納言保美;その妻が頭綱女であり公信に[古今集証本陽明門院御本]が相伝;しかし公信の許で焼失
- E1653 **公信**(きんのぶ・源みなもと、公衡男?)?-? 廷臣:五位(勅撰作者部類説)/歌人、新拾遺1360  
[かはらじと契りし末をたのみけるわがはかなさぞ今はくやしき](新拾遺;十五恋1360)  
公信(きんのぶ・宇喜多) → 可為(よしため・宇喜多/藤原・豊臣、絵師) L 4 7 7 1  
公延(きんのぶ・三条西/西三条) → 実隆(さねたか・三条西、歌/古典学) 2 0 4 0
- E1654 **公教**(きんのり・三条・転法輪三条/本姓;藤原、太政大臣三条实行男)1103-60<sup>58</sup> 母;藤原顕季女、藤原実能猶子、平安後期廷臣;1133(長承2)参議/正四下/45正二位/57内大臣、笛に長ず、1118/41「公教公記」、「叙玉秘抄」、「宸筆八講記」/48「贈后供養八講記」、「鳥羽殿南殿御講記」著、歌人;1157「内大臣公教歌合」主催、1128神祇伯頭仲西宮歌合参加、寂超「後葉ごよう集」1首/続詞花集・雲葉集入、勅撰9首;金葉(Ⅱ415/601/Ⅲ417/591)詞花(61)千載(3首380/607/1258)続後撰(73)以下、  
[うたゝねに逢ふと見つるが現うつにてつらきを夢と思はましかば]、  
(金葉;415/詞書;つれなかりける人のもとに逢ふよしの夢を見てつかはしける)  
[公教の通称] 後三条内大臣/三条内大臣/三条内府、左大臣実房さねふさの父、  
母顕季女 → 公教母(きんのりのはは・三条、歌人) E 1 6 5 5
- R1660 **公宣**(きんのり・三条さんじょう、右大臣実冬男/本姓;藤原)?-1410 廷臣;左近中将/1399非参議、1400正三位/02権中納言;従二位/03権大納言;正二位、歌;1407後小松天皇催「内裏九十番歌合」参加、  
[吹き払ふ雲は嵐にとどまらで空に冴えゆく冬の夜の月](内裏九十番;十二番左23)
- R1661 **公規**(きんのり・今出川いまでがわ/本姓藤原、菊亭、後徳大寺公信男)1638-97<sup>60</sup> 今出河経季の養子、廷臣、1664権大納言/83内大臣/92右大臣/従一位、1666「薫物合様」67「公規公記」75「江戸下向雑々覚」「江戸道中自分心得」著
- R1662 **公綱**(きんのり・阿野あ、実惟さねただ男/本姓藤原)1728-81<sup>54</sup> 廷臣;左近中将/1760参議/66権中納言、1779(安永8)権大納言/正二位、「善福寺記」、1764「近江国風土記事註進状」著
- R1663 **公則**(きんのり・正親町三条おおざまちさんじょう/本姓;藤原、実同男)1774-1800<sup>早世27</sup> 母;家女房、廷臣;1792左近中将、1796参議/99権中納言;正三位/春日祭上卿、歌人;上田秋成門/歌会催、1800秋成「万葉集櫓の柚」に追悼歌;献呈予定であった  
公軌(きんのり・打它) → 公軌(こうき・打它うだ/うだ、歌人) E 1 9 9 4  
公詮(きんのり・今出川) → 公詮(きんあき・今出川、廷臣/日記) Q 1 6 6 2  
公德(公乗きんのり・関) → 元洲(げんしゅう・関せき、藩士/儒者) D 1 8 8 4
- E1655 **公教母**(きんのりのはは・三条、藤原顕季女、太政大臣三条实行室)?-? 三条公教[1103-60]の母、平安後期歌人;1116「参議实行歌合」参加、金葉3首;9/363/376、  
[朝まだきかすめる空の気色にや常磐の山は春をしるらん]、  
(金葉;9/少将公教母名/实行卿家歌合に霞の心を詠む/常磐は常緑のイメージ)
- S1611 **公教女**(きんのりのむすめ・三条さんじょう、後白河院女御舒子よし)1145-? 平安後期;1173出家;29歳、「吉記きつき」(藤原経房著)入
- S1612 **公教女**(きんのりのむすめ・三条さんじょう、三条実房の姉妹)?-1178 「顕広王記」(白川顕広あきひろの日記)入
- R1664 **金馬**(きんば・国谷、名;綱以)1745-1826<sup>82</sup> 羽後横手の俳人:常世田長翠/吉川五明門、横手に小野小町の化粧の清水を探索;1806藩主に請い免租地とし「梅の清水」と称す、

「梅清水」編、1797「俳諧自弁抄」著、1809「卯月衣」、「春の駒」「青つづら」著、俳人雪濤の父、  
[金馬の通称/別号]通称;才右衛門/九十郎/源五兵衛、別号;松風庵/子孫庵

- J1607 **芹坡**(きんば・田中たなか、名;栄/君美、葉舖鶴屋某男?) 1815-8268 彦根橋本町の儒者;中川漁村門、  
古文辞学/京;猪飼敬所門/江戸:松崎慊堂こうどう門、1868彦根藩士/のち藩校弘道館教頭、  
詩文、1650「白鷗莊詩鈔」61「新知吟草」編、「続新知吟草」「芹坡詩鈔」「芹坡詩草」著、  
「芹坡文稿」著、  
[芹坡の字/通称/別号]字;子順、通称;秀次郎、別号;湖東/白鷗莊  
金馬(きんば・立川、嘶家)→ 夢羅久(むらく・2世) D 4 2 1 3  
琴波(きんば・上田) → 喜代子(清子きよこ・上田うねだ、歌人) T 1 6 0 5  
錦波(きんば、無芭蕉堂5世)→ 公成(こうせい・河村/仁壁、俳人) B 1 9 5 0
- I1621 **銀馬**(ぎんば・立川たてかわ)?- ? 江後期江戸亀井町の嘶家/戯作者:烏亭焉馬門、  
咄本編纂、1801「笑嘉登」14「おとし譚ばなし富久喜多留ふくきたる」著、  
[立川銀馬の別号] 談語楼だんごろう銀馬/亀井庵英夫  
金馬仙(きんばせん) → 松雨(しょうう・佐々木ささき、町役/俳人) F 2 2 2 8
- E1656 **金八**(初世きんぱち・増山ますやま・金井、号;呉山)?-? 江中期1762頃-97歌舞伎作者:金井三笑門、作詞、  
1762江戸中村座番付/74森田座立作/上方でも活動、1784半四郎の作者、1798以後は不明、  
時代・世話門;1779「其倂浅間嶽」80「其姿秋七種」84「大商蛭小嶋」92「大船盛蝦顔見勢」著、  
1793「時鳥夢路恋」94「時鳥花有里」96「色盞紅葉顔」97「江戸春吉例曾我」外著多数
- R1665 **金八**(2世きんぱち・増山ますやま)?-1826 江後期江戸歌舞伎作者:4世鶴屋南北門、1808市村座、  
1817南北4世「櫻姫東文章」番付/22五世半四郎取立てで金八を襲名;森田座立作者、  
磐津/清元の作詞も手掛けた、1822「江戸紫浪花色揚」「花櫓和国凱」/23「陸奥千鳥女白浪」、  
1823「大和い手向五字」「柴田兵衛憤しはたひょうえのさく」、1819「いろは仮名随筆」22「おとづれ」著、  
[2世増山金八の初名号]初名号;槌井瓢七/槌井兵七、号;呉山
- E1657 **錦八**(きんぱち・青林亭せいりんてい)?- ? 江後期江戸の書肆/嘶本版元、芸人の落咄を収集、  
1837「字加礼奇人集」著  
金八(3世きんぱち・増山ますやま)→ 豊作(ほうさく・槌井つちい、5世南北門歌舞伎作者) 3 9 9 5  
銀八(ぎんぱち・伴) → 信近(のぶちか・伴はん、国学者/歌) C 3 5 0 0  
金八郎(きんぱちろう・近藤)→ 義休(よしやす・近藤こんどう、幕臣/地誌家) H 4 7 7 7  
金八郎(きんぱちろう・久貝)→ 蓼湾(りょうわん・久貝くがい、幕臣/詩人) J 4 9 6 9  
金八郎(きんぱちろう・余語)→ 勝賢(かつかた・余語よご/菅原、歌人) S 1 5 9 7
- R1666 **公敬**(きんぱや・滋野井しげのい、実古男/本姓藤原) 1768-184376 母;僧正常順の女、廷臣;1803参議、  
1810権大納言/正二位、故実家、「新嘗祭備忘」「新嘗祭雨儀備忘」「賀茂伝奏雑記」著
- R1667 **公春**(きんはる/きみはる・秦はた)? - 1153 平安期廷臣;近衛の番長/府生、左大臣藤原頼長の隨身、  
強力で評判;頼長家の雑色長、連歌;菟玖波入(507;頼長と連歌)、「本朝世紀」入、  
[沓の上にも飛ぶ千鳥かな](菟;507/頼長大将の時沓のしきみに千鳥を書いたのを見て)、  
(頼長の付句;難波瀉葦の入り江やさむからじ)  
錦葩楼(きんぱろう・国景) → 国景(くにかげ・錦葩楼、絵師) C 1 7 6 8  
琴阪(きんぱん・伏屋)→ 素狄(そてき・伏屋ふせや/吉村、医者) K 2 5 1 4
- I1622 **銀帆**(ぎんぱん) ? - ? 江前期九州の俳人、1693長水「白川集」入  
琴坂楼(きんぱんろう) → 素狄(そてき・伏屋ふせや/吉村、医者) K 2 5 1 4
- R1668 **公尚**(きんひさ・滋野井しげのい、初名;冬成、実前さねさき男/本姓藤原) 1305-134440 鎌倉南北期廷臣、  
1339従三位/40(暦応3)参議、1342「公尚卿記」著
- R1669 **公壽**(きんひさ・清水谷しみずたに/本姓藤原、別名;兼邦、卜部うらべ良延男) 1759-180143 母;本多忠統女、  
清水谷実栄(妻;卜部良延女、義兄)の養子、廷臣;1794参議/98権中納言/正三位、  
「公壽朝臣記」「節会参議要記」著、実母さねおきの養父  
公尚(きんひさ・今出川) → 公興(きんおき・今出川/菊亭、左大臣/歌) Q 1 6 7 0
- E1658 **公秀**(きんひで・三条/正親町三条、実躬さねみ男/本姓藤原) 1285-136379 母;僧聖海女、廷臣;1307参議、  
1314正二位/52内大臣/53出家、「公秀公記」1307「白馬節会記」「殿上淵酔次第」著、  
歌:1315為兼「詠法華経和歌」/35内裏千首/50為世十三忌和歌参加、  
勅撰6首;新千251/2229/新拾(3首)/新続古2001、



[さぞなげに花橘もにほふらん昔にかへるももしきの庭]、  
(新千載;夏251/建武二年1335内裏に千首歌を詠む/さぞなげに;いかにもそのよに)、  
[公秀の通称/法名]通称;八条入道前内大臣はちじょうにゆうどうさきのないだいじん、法名;綽空/禪定  
公秀の息子;実数さねかず/実継さねつぐ/実音さねおと、公秀の息女;陽祿門院藤秀子(光厳天皇妃)

公英(きんひで・秋元) → 公英(きみひで・秋元あきもと、医者/詩歌文) T 1 6 3 8

E1659 **公仁親王**(きんひとしんのう、京極宮家仁いへひと親王男) 1733-7038 京極宮[桂宮]8代/桃園天皇猶子、  
歌:父門/光胤門、「公仁親王詠草」「公仁親王歌稿」など詠草多数、1752「五十賀歌」、  
1753「桂別業に遊ぶの記」59「詞花方盛集」67「長岡社法楽和歌」、「京極宮家当座会和歌」編  
公仁親王妃室子(きんひとしんのうひしし、直仁親王女) → 室子女王(しじまおう) E 2 1 9 2

R1670 **公仁親王妃壽子**(きんひとしんのうひじゆし、幼名載姫、徳川宗直女) 1743-8947 歌:父門、  
1760年代「桂の別業に遊ぶの記」著、「玉津島社法楽十首」詠  
謹姫(きんひめ・松平) → 謹子(きんこ・阿部あべ、歌人) T 1 6 3 3

E1660 **公衡**(きんひら・藤原ふじわら、公能男/母;藤原俊忠女[俊成妹]) 1158?-9336? 兄実守の養子、  
廷臣;1189左近中将、従三位/周防権守、実定・実家・実守・多子の弟、歌;定家・慈円と親交、  
「三位中将公衡集」、1178別雷社/84賀茂社/86経房家歌合参加、  
1187殷富門院大輔百首題和歌入、月詣集・御裳濯集・雲葉集等入集、  
勅撰26首;千載(5首64/175/776/808/1136)新古(4首688/1339/1511/1770)新勅(8首)以下、  
[花ざかりよもの山辺にあくがれて春は心の身にそはぬかな](千載;一春64)

E1661 **公衡**(きんひら・西園寺さいおんじ、実兼男/本姓藤原) 1264-131552 母;中院通成女頭子、鎌倉期廷臣、  
1276従三位/99右大臣;関東申次/1301従一位/09左大臣/11出家;徒然草83段入、  
妻;藤原経任女経子(実衡母/歌人)、  
「公衡公記」「管見記」「衛生至要鈔」/1289「亀山院御落飾記」98「伏見上皇庁始記」著、  
1305「亀山院崩御記」、「飴馬一覽類句」外著多数、  
歌;勅撰3首;玉葉1059/風雅1947/新続古今775、  
[桜花おのがにほひもかひありてけふにしあへる春やうれしき](玉葉;賀1059)、  
(正応二年[1289]鳥羽殿行幸;花添春色/入道前左大臣名)、

[公衡の法名/号]法名;静勝、号;竹林院入道前左大臣/竹中(自邸;竹中第)

T1683 **公平**(きんひら・岡沢おかざわ、通称;要、定省男)?-? 江戸後期信濃飯田藩士/歌人;家風を修学、  
岡沢定秋(1747-1824)の孫、歌;加藤千蔭・村田春海・1818服部菅雄門(;祖父と友に修学)、  
野村良言・島地衡平・三浦在藻・岩沢幸年・村沢徳風らと交遊

E1662 **公平女**(きんひらのむすめ・橘たちばな)?-? 平安前期歌人、県あがたの井戸(一条北東洞院西角)住、  
後撰104(藤原治方への贈歌)/大和物語に逸話;父公平は大膳大夫(橘氏系図にはない)、  
[みやこ人来ても折らなんかはづ鳴くあがたの井戸の山吹の花](後撰集;三春104)  
[橘公平女には3人]=大和物語 この公平女は誰か不明

①長女;醍醐帝中宮穩子女房「少将御」

②二女;詳細不明

③三女;源信明/藤原庶正らと交渉

R1671 **公衡女**(きんひらのむすめ・西園寺)?-? 南北期歌人;1367新玉津島社歌合参(;西園寺内大臣女名)、  
[波遠く行きかふ船もほのぼのとみどりに霞む和歌の浦松](新玉津島;浦霞十五番左)

V1679 **公熙**(きんひら・小倉おぐら・家名;富小路、小倉実教さねのり男/本姓藤原)?-? 鎌倉南北期;廷臣/歌人、  
公脩きんなが(1294-1337)・季雄(権中納言)の弟、父撰[藤葉とうよう集]入、  
[ちらばうし忍ぶの岡の下紅葉したにこがれておもふこころを](藤葉;恋391)

R1672 **公広**(きんひろ・松前まつまえ、初名;茂広/武広、盛広男) 1598-164144 母;下国直季女、蝦夷松前藩主、  
父早世のため1617祖父慶広の家督相続/砂金場開発・城下町設営・交易等の藩政施策、  
1637居城福山城焼失/39修造、仏道/兵学/諸芸/連歌;1635昌琢と「何木百韻」、  
[公広の幼名/通称/法号]幼名;竹松丸、通称;甚五郎/志摩守、法号;公広院  
金夫(きんぶ・新妻) → 双嶽(そうがく・新妻にいづは、医者/詩人) G 2 5 6 3

E1663 **琴風**(きんぷう・柳川/生玉いくたま/河東) 1667-172660 大阪生玉俳人/のち江戸住;不卜・芭蕉・其角門、  
1717奥州行脚、1691「俳諧瓜作」1709「豊牛鼻」33「奥の紀行」、「琴風句集」著、  
1688不卜「続の原」4句入、追善集「春の水」、



[瓜作召されむ人の口はいざ](俳諧瓜作)、

[琴風の別号] 白鶴堂はこうどう/絮羅架、

- I1623 **金風**(きんぷう) ? - ? 江中期伊丹の俳人、1714月尋「伊丹発句合」参加、  
[卯の花に聞きとる琴の一手かな](伊丹発句合;九番)  
琴風(きんぷう・上田) → 菊子(きくこ・上田うえだ、琴風、絵師) T 1 6 0 5
- I1634 **吟風**(ぎんぷう) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入(412)、  
[手の内にすへたる虫の息斗ばかり](二葉之松;412/前句;霜にかぢけし草哀あはれさよ)
- R1614 **唸風**(んぷう・庄司しょうじ、名;喜久/通称;為之助)1834-190572 羽後阿仁前田俳人;祖父文螭ぶんち門、  
漢学;中川勝定門、俳諧;御風/主鈴門、外艦防備の五人組頭;戊辰戦に農兵引率、  
1851「豊笛集」/55「松の寿」編/64「松柏集」「弄月園百家選」編、「唸風家集」著、  
[唸風の別号] 馬山/弄月園ろうげつえん、法号;弄月院  
琴風軒(きんぷうけん/川草子) → 松意(しょうい・高木たかぎ、俳人) E 2 2 7 4  
琴風軒(きんぷうけん) → 途興(みちおき・齋藤さいとう、名主/歌人) J 4 1 1 5  
琴風舎(きんぷうしゃ) → 豊曆(豊丸とよまる・歌川うたがわ、絵師) R 3 1 6 3  
金風亭(きんぷうてい) → 永世(ながよ・富田とみた、国学/史家) G 3 2 3 0  
吟風亭(ぎんぷうてい) → 利忠(としただ・梅津うめづ、藩士/兵法家) M 3 1 6 9  
公福(きんぷく・三条西) → 公福(きんとみ・三条西、歌人) E 1 6 4 1  
公維(きんぷゐ・久我/徳大寺) → 公維(きんつゐ・徳大寺、内大臣/歌) E 1 6 3 4
- R1673 **公藤**(きんぷじ・清水谷しみずたに、実有男/本姓藤原)1235-8147 母;平義時女、公持きんもち弟、  
廷臣;右近中将、従二位/1260参議;左中将/62正二位/64中納言/68権大納言/81出家、  
「駒競行幸絵詞」書
- R1674 **公藤**(きんぷじ・西園寺さいおんじ、実遠さねとお男/本姓藤原)1455-151258 室町期廷臣;1501内大臣/正二位、  
1506右大臣、実宣の父、「公藤公記」「管見記」著、「人鏡論」序文の筆者か?、連歌;新菟3句入
- T1641 **公文**(きんぶん・姉小路あねがこうじ、実武男)1713-177765 母;家女房、廷臣;1732右中将/37蔵人頭、  
1741(寛保元)正四上参議/42従三位/43伊予権守/44東照宮奉幣使/46近江権守/47正三位、  
1748(寛延元)権中納言/50賀茂伝奏/1751(宝暦元)権大納言/52従二位/53神宮上卿、  
1754春日祭上卿/55一品宣下上卿/56正二位;大納言辞任/本座/60(宝暦10)武家伝奏、  
1776(安永5)従一位、歌人
- R1675 **公冬**(きんふゆ・今出川いまでがわ/本姓藤原、菊亭、実頭男)1330-80前?51前? 廷臣;北朝の左中将、  
1348参議、1351南朝に移る/53北朝で免職/南朝の権大納言/左大将/正二位、  
1376出家;嵯峨浄金剛院住、  
1375「六箇秘音」著、歌;1350為世十三回忌和歌入/新葉集8首(50/119/393/677/1103以下)、  
[百敷や衛士ゑのたく火のけぶりさへ霞そへたる春の夜の月]、  
(新葉;春50/正平廿年1365内裏三百六十首歌;禁中春月/前左近大将名)
- E1664 **公冬**(きんふゆ・三条さんじょう/転法輪三条、実冬2男/本姓;藤原)1391-145969 室町期廷臣、1412従三位、  
左中将/1412正三位非参議/13(応永20)従二位権中納言/15権大納言/16正二位、  
1417公光に改名、1420内大臣・右大臣/22従一位/23(応永30)大臣辞任/31公冬に改名、  
1455出家(65歳)、歌;1434永享百首参、1350「為世十三回忌和歌」出詠、新続古今294/1232、  
[かたしきの袖ほしわびて五月雨のはれぬ日数や宇治の橋姫]、  
(新続古;夏294/左大臣足利義教催[新玉津島社三十首歌]に)、  
[公冬(;)名)の初名/通称]初名;公量/公光、通称;後白川入道前右府、実量さねかぎの父
- E1665 **勤文**(きんぶん・勝木かつき/富田?、名;四郎右衛門/別号;余力堂)?-1727 能登七尾の俳人;信徳門、  
1700「珠洲[寿々]海すずのうみ」編、1690言水「新撰都曲」1句/91北枝「卯辰集」1句入、  
[曙の惜しや春たつ夷えぞがしま](卯辰集;春9/蝦夷では春の曙を賞でる人もなかるう)  
欣文(きんぶん・一色/向山) → 黄村(こうそん・向山むこうやま/一色、幕臣/詩人) G 1 9 6 6  
近文(きんぶん・大宅/高屋) → 近文(ちかぶみ・高屋/大宅、国学者) B 2 8 7 8  
錦文(きんぶん → かねぶん・金森) → 頼興(よりおき・金森かなもり/源、幕臣) I 4 7 4 5  
欽文(きんぶん・堀) → 利熙(としひろ・堀ほり、幕臣/海防・交渉) N 3 1 6 2  
欽文霊神(きんぶんれいしん) → 容衆(かたひろ・松平まつだいら、藩主/紀行) N 1 5 0 7  
金瓶(きんべい・竹葉舎一瓢) → 竹葉舎金瓶(ちくようしゃきんべい、人情本) D 2 8 8 3

- 金平(きんぺい・鵜飼) → 鍊齋(れんさい・鵜飼うかい、儒;彰考館総裁) B 5 1 0 6  
 金平(きんぺい・石野) → 雲嶺(うんれい・石野、儒者) E 1 2 1 5  
 金平(きんぺい・植村) → 正路(まさみち・植村うゑむら、幕臣/歌人) N 4 0 9 4  
 金平(きんぺい・沢村) → 高助(2世たかすけ・助高屋、歌舞伎役者) C 2 6 9 1  
 金平(きんぺい・大谷) → 清香(きよか・大谷おおたに、藩士/国学者) T 1 6 7 5  
 金平(きんぺい・北沢) → 正教(まさのり/まさとし・北沢きたざわ、神職) P 4 0 2 7  
 金平(きんぺい・佐々) → 眞武(まさたけ・佐々ささ、藩士/国学/応変隊) P 4 0 8 1  
 金平(きんぺい・鷹見) → 保利(やすとし・鷹見たかみ/南条、商家/歌) G 4 5 2 2  
 金平(きんぺい・二渡) → 信経(のぶつね・二渡ふたたり、歌人) J 3 5 9 1  
 近平(きんへい・小崎) → 長流(ちやうりゆう・下河辺しもこうべ、国学/歌) 2 8 2 8  
 均平(きんへい・伊藤) → 正明(まさあき・伊藤いとう、庄屋/歌人) N 4 0 4 1  
 欽平(きんぺい・宮崎) → 興道(おきみち・宮崎みやさき、医者) D 1 4 0 0  
 錦屏山人(きんぺいさんじん) → 白石(はくせき・新井、儒者/幕政参画) 3 6 1 0  
 金瓶先生(きんぺいせんせい) → 輝星(くわいせい・松井まつい、易占家) B 1 6 3 6  
 金兵衛(きんべえ・中川) → 千町(ちまち・宝田、中川泰重、藩士/合巻) F 2 8 4 2  
 金兵衛(きんべえ・伊庭) → 一貫堂(いっかんどう・伊庭いば、儒者) G 1 1 8 6  
 金兵衛(きんべえ・平川) → 親忠(ちかただ・平川ひらかわ、郷土史家) B 2 8 1 7  
 金兵衛(きんべえ・水野) → 守俊(もりとし・水野みずの、藩士/文筆家) F 4 4 9 3  
 金兵衛(きんべえ・八木) → 美庸(よしつね・八木やぎ、大庄屋/歌人) P 4 7 6 9  
 金兵衛(きんべえ・八木) → 美穂(よしほ・八木、美庸男/国学者/和漢学) 4 7 2 7  
 金兵衛(きんべえ・成沢) → 雲帯(うんたい・成沢なるさわ、商家/俳人) D 1 2 9 1  
 金兵衛(きんべえ・石河) → 正養(まさかい・石河いしこ/越智、藩士/国学) B 4 0 6 6  
 金兵衛(きんべえ・小野) → 化石(かせき・小野おの、商家/俳人) U 1 5 8 7  
 金兵衛(きんべえ・大和田屋) → 曲阜(きよくふ・照顔齋/梶、俳人) P 1 6 3 1  
 金兵衛(きんべえ・下郷) → 亀章(きしょう・下郷しもさと、医者/俳人) K 1 6 9 1  
 閻平(ぎんぺい・丸尾/木下) → 俊夫(敏夫としお・木下/丸尾/榛葉、歌) M 3 1 0 9
- R1676 琴浦(きんぼ・仁科にしな、名;貞/字;正夫/通称;雲太夫) 1756-1814<sup>59</sup> 備前邑久郡虫明の儒者、  
 初め池田藩老臣伊木家の臣;倉庫破り事件で讒言され捕縛、  
 赦免後江戸で漢学: 亀田鵬齋門、帰郷し子弟教育、「琴浦詩文集」/1813「老子解」著  
 琴浦(きんぼ) → 徹定(てつじょう;法諱・瑞蓮社、浄土僧) C 3 0 4 4  
 金甫(きんぼ・古田) → 重然(しげなり・古田織部、武将/茶人) 2 1 1 1  
 金浦(きんぼ・堀口) → 松庵(しょうあん・堀口ほりぐち、地役人/書家) V 2 2 1 3  
 謹保(きんぼ・南部) → 利義(としとも・南部なんぶ、藩主) N 3 1 0 6  
 堇浦(きんぼ・山本) → 杉芽(さなが・山本やまと、開国説/俳人) L 2 0 8 7
- E1666 均朋(きんぼう・長倉ながくら、屋号;亀屋)?-? 大阪談林俳人、1677「難波千句」入、  
 1678友雪「大坂檀林桜千句」西鶴「物種集」/80「大坂八百韻」4吟百韻(益翁/正猛/一礼と)入  
 1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、  
 [御調物みつぎもの何も見る事御ざらぬぞ](物種集/前句;人だかりする瀬田の長橋、  
 風雅集;2202平兼盛;みつぎもの絶えずそなふる東路の瀬田の長橋音もとゞろに)
- I1625 琴峰(きんぼう) ? - ? 俳人、1736句集「志紀の貴師」編: 廻文
- I1626 金峯(きんぼう・宮田みやた、名;明/字;子亮) 1718-83<sup>66</sup> 大和郡山の儒者;太宰春台門/郡山藩儒官、  
 江戸浅草住、「観海先生集校」/1783「老子特解」著、  
 [金峯の通称/別号]通称;三右衛門/宇右衛門、別号;迂斎
- S1698 金峰(きんぼう・巨勢こせ、通称;六左衛門、利和としより男?)?-? 江後期幕臣/歌人、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(利和と共に入集)、戸田鏡子(1838-1908)の師、  
 [身はひとつ心はちぢにあくがれぬ野山おしなべ桜咲く頃](大江戸倭歌;春226)
- I1627 金峰(きんぼう・田中たなか、名;楽美なりよし/字;君安/通称右馬三郎、華城男) 1844-62<sup>天逝</sup> 19歳 大阪詩人、  
 詩文;父門、63「大阪繁昌詩」(漢詩130首入);父華城刊行、  
 「金峰文集」「金峰絶句類選」「金峰漫録」「金峰雑体詩」「金匱要略正義」著
- I1624 錦峰(きんぼう・林やはし、名;信敬、富田明親2男/林信徴[鳳潭]の養子) 1767-93<sup>早世</sup> 27 幕府儒官、

大学頭、1787家督;90林家7世当主として幕府より寛政異学の禁令を受、  
「賢聖障子名臣冠服考証」著、「林祭酒上書」/1791「林大学頭信敬願書」著、  
「寛政三年新造内裏記事」編、92「諸儒賀表」著

[錦峰の字/通称/別号]字;士行、通称;大吉、別号;潤齋、述齋の養父

琴峰(きんぼう) → 高朗(たかあきら・京極、藩主/詩人) L 2 6 5 1  
金峰(きんぼう;別道号) → 金山(きんざん;道号・明昶みょうちよう;法諱、臨濟僧) R 1 6 0 4  
金峯(きんぼう;号) → 鳳洲(ほうしゅう;法諱、金峯、真宗僧) B 3 9 3 6  
近方(きんぼう・西郷) → 近方(ちかかた・西郷、藩家老/神道家) 2 8 7 1  
近方(きんぼう・春木) → 胥山(しよざん・春木はるき/秦、篆刻家) M 2 2 3 5  
近方(きんぼう・藤岡) → 近方(ちかまさ・藤岡ふじおか、藩士/国学) N 2 8 4 0  
近房(きんぼう・西郷) → 近房(ちかふさ・西郷さいごう、藩家老) B 2 8 7 5  
近房(きんぼう・小沢) → 近房(ちかふさ・小沢おざわ、歌人) N 2 8 1 2

R1677 吟望(ぎんぼう) ? - ? 京の俳人、1690言水「新撰都曲みやこぶり」4句入、  
[捨て炭や花の歌書く人やどり]、

(都曲;313/粗末な宿に燃えさしの炭で花の歌を書く風流人が泊っている)

錦鳳堂永雄(きんぼうどうながお・狂歌) → 永雄(ながお・錦鳳堂) D 3 2 2 9

錦鳳堂永雄妻(きんぼうどうながおのつま・狂歌) → 月花永女(げつかえいじよ) G 1 8 9 2

R1678 金墨(きんぼく・玄光亭げんこうてい) ? - ? 江後期江戸湯島の骨董商/戯作者、  
1816「色紙短冊名歌重宝」18「恋奴女行列」「二世の浦島」/23「藤屋染寝巻暁雲」著

金木(きんぼく・山本) → 金木(かねき・山本やまもと、神職/雲見講) O 1 5 4 2

E1667 吟墨(ぎんぼく・大西おおにし、通称;半左衛門) ?-1722 讃岐笠岡の庄屋、俳人:蕉門、朱拙と交流、  
病気のため弟亀石に家督譲渡;遊歴、1709「既望いざよい」編(;芭蕉「やすやすと」の堅田発句)

R1679 公方(きんまさ・藤原ふじわら、高堪[綱]男) ?-? 平安前期廷臣;肥前掾/左衛門佐/文章博士、  
歌;957(天曆十一/二月)村上天皇蔵人所歌合(蔵人所衆歌合)参加、  
[うつつまの春の夕暮さまらばれ夢にも見てむ花はあくまで](蔵人所歌合;左1)、

(さまらばれ;さもあらばあれ)

E1668 公雅(きんまさ・三条/正親町三条おごぎまちさんじよう、実豊男/本姓藤原) 1384-1427 44 廷臣;右中將、  
1406参議/11権中納言・大宰権帥/18権大納言/正二位/贈内大臣(称;紹宏院贈内大臣)、  
歌;1407内裏九十番歌合参加、

1412仙洞三積御会参加、22「名号和歌」23「七首和歌」詠、新続古今3首336/636/791、

[眼に見えぬ秋やかよひて夕暮の松に涼しき軒の下風したかぜ](新続古;夏336)、

[公雅の号] 号;紹宏院、法名;祐戒、実雅・公綱きんつなの父

R1680 公尹(きんまさ/きみまさ・西四辻にしよつじ、公碩男) 1789-1851 63 廷臣;1826正三位、家業;箏で出仕、  
1827「文政十年任太政大臣御祝儀楽之記」著、公恪の父、

[公尹の法号] 瑞章院通誉鶴心月峽

息子 → 公恪(きんつむ・西四辻にしよつじ、廷臣) R 1 6 4 3

公誠(きんまさ・平、元平男) → 公誠(きんざね/きんまさ・平、歌人) E 1 6 0 6

公雅(きんまさ・藤原) → 公時(きんとき・滋野井/藤原、廷臣/歌) E 1 6 3 6

公正(きんまさ・清水谷) → 公正(きんなお・清水谷、歌人) R 1 6 5 4

公正(きんまさ・渋江) → 松石(しょうせき・渋江しぶえ、儒者/教育) T 2 2 8 4

R1681 公益(きんます・西園寺さいおんじ、一字名;松、右大臣実益男/本姓藤原) 1582-1640 59 廷臣;1613従三位、  
1617権大納言/31内大臣/35従一位、1599, 5, 11「慶長四年底相雲甫等和漢聯句」参加、

[公益の法号] 真空院西岸寂閭

金満(きんまん・関山) → 金満(かねみつ・関山せきやま、国学/歌人) U 1 5 8 3

君美(きんみ・新井) → 白石(はくせき・新井あらい、藩士/幕臣/儒者) 3 6 1 0

E1669 公通(きんみち・藤原ふじわら/西園寺、通季男/母;藤原忠教女) 1117-73 57 西園寺家祖、廷臣;1150参議、  
1161権大納言/64正二位、「管見記」「公通卿記」「二条天皇遷幸儀」、公重の兄/実宗の父、  
歌;1172「十首会」催、70建春門院北面歌合/72広田社歌合参加、和漢兼作・続詞花集3首入、  
勅撰12首;千(148)新古(206/826/1890)新勅(2首)続後撰(228)続拾(55)玉(2首)新拾(2首)、  
[郭公待つはひさしき夏の夜を寝ぬに明けぬと誰かいひかむ]、



(千載;夏148/仁和寺の御子覚性法親王のもとで詠む/按察使名)  
[新院の御時(崇徳天皇在位1123-41)藤為松花といふことを、  
上のをのこどもによませ給ひけるに、  
松が枝にかかれる藤は君が代に千代へてさける花かとぞみる](続詞花;賀337)、  
[公通の通称] 閑院按察、閑院大納言

- R1682 **公亨**(きんみち・四辻よつじ、初名;実胤さねたね、実長男/本姓藤原) 1728-88 61 廷臣;1754参議、  
1763右衛門督兼使別当/1765正二位/66権大納言、1770「有馬八景」「絃譜」「箏譜」著、  
[公亨の字/号]字;嘉卿、号;南溟、公万きんかずの父
- M1641 **公道**(きんみち・森もり、公達)? - ? 江前中期;河内日下村の歌人/唯心尼の親族、  
上田秋成の河内日下村正法寺滞在時の友人、秋成[藤篋冊子つらぶみ]入(寛政10年花合参)、  
[誰をかも待つ木陰の花すゝき招く袂にかよふ秋風](藤篋冊子;雨かはづ/花合;薄)、  
[かきつ機ばた手折る袂の露にさへ濃き紫の色にうつろふ](同;かきつばた)  
公通(きんみち・正親町おおぎまち、神道・狂歌) → 白玉(はくぎょく・風水軒) 3 6 0 8  
公通(きんみち・石川) → 艇斎(ていさい・石川いしかわ、藩士/儒者) 3 0 8 7  
公迪(きんみち・徳大寺) → 公迪(きんなり・徳大寺、歌人) R 1 6 5 7  
公脩(きんみち・小倉) → 公脩(きんなが・小倉・富小路、廷臣/歌) E 1 6 4 8
- E1670 **公光**(きんみつ・藤原ふじわら、季成男/母;藤原頭頼女) 1130-78 49 廷臣;1158参議/60権中納言、  
1163従二位、1166解任、和琴/神楽/詩/歌に通ず、  
歌林苑の歌人と交遊、玄玉・万代・言葉・和漢兼作集入集、  
勅撰8首;千載(6首55/164/253/437/470/1078)続古(1336)玉葉(1573)、高倉三位成子の弟、  
[みな人の心にそむる桜花いくしほ年に色まさるらん](千載;春55/俊成家十首歌?の詠)
- R1683 **公光**(きんみつ・滋野井しげのい、実宣男/本姓藤原) 1223-55 33 母;藤原基宗の女従二位宗子、  
鎌倉期廷臣、1240参議/50中納言/正二位、「陽竜記」著、実冬さねふゆの父
- R1684 **公充**(きんみつ・三条/転法輪三条、実治男/本姓藤原) 1691-1726 36 廷臣;1713従二位/17権大納言、  
1712-24「公充卿記」著、法号;霊明院  
公光(きんみつ・三条) → 公冬(きんふゆ・三条/転法輪三条、歌) E 1 6 6 4
- R1685 **公睦**(きんむつ・三条/転法輪三条、実万さねむつ男/本姓藤原) 1828-54 早世 27 母;山内豊策女、廷臣;  
1832非参議右中将/52権中納言/53神宮上卿/54致仕/正二位、「公睦卿記」「公睦詠草」、  
故実;「職方要書」「白馬宴参仕之記」「隨身袴要抄」「無人隨身袴色勘例」外著多数
- E1671 **公宗**(きんむね・洞院とういん、実雄男/本姓藤原) 1241-63 早世 23 母;法印公審女、廷臣;左近中将、  
皇后宮大夫、1258(正嘉2)従三位非参議/東宮権大夫/59正三位/62権中納言/63従二位;  
同年3月病没、歌:1259西園寺一切供養歌会参加/59後嵯峨院[正嘉三年北山行幸和歌]入、  
勅撰2首;続古今1121、玉葉1057、小倉公雄きんお・洞院公守きんもりの兄、  
[つれなさのつもる月日を数へてもいまさらつらき年の暮かな](続古;恋1121/歳暮恋)
- E1672 **公宗**(きんむね・西園寺さいおんじ、内大臣実衡さねひろ長男/本姓;藤原) 1310-35 誅殺 26 鎌倉南北期廷臣、  
母;昭訓門院春日(二条為世女)、1325従三位/権中納言/30(元徳2)権大納言/正二位、  
持明院統の重臣、1335(建武2)後醍醐天皇に叛す;捕縛;誅殺、西園寺の正統/琵琶に通ず、  
歌:続現葉集・臨詠集・松花集・藤葉集入、  
勅撰17首;続後拾(830)風雅(8首102/311以下)新千(5首)新拾遺(96)新後拾(2首)、  
[よそにだにゆふつけ鳥は鳴くものをつれなく人の何いそぐらん](続後拾;恋830/別恋)  
(世騒乱の際鶏に木綿を付け都の四関で祓えのため鳴かせたことから鶏をさす)  
[公宗の号] 北山/後常磐井のちのときわい、妻;日野名子(竹向;資名女)、実俊の父  
参考 母 → 公宗母(きんむねのはは・西園寺さいおんじ、歌) E 1 6 7 3  
妻 → 竹向(たけむき、日野資子/名子、日記) 2 6 2 2  
息 → 実俊(さねとし・西園寺、右大臣/歌人) D 2 0 3 1
- T1650 **公棟**(きんむね・木村きむら、) ? - 1772 播磨宍粟郡山崎の商家/町年寄役、  
歌人;山崎八幡神社に50首詠和歌を奉納、  
[公棟(;名)の通称] 但馬屋理平  
公宗一女(きんむねのいちじよ・西園寺) → 公宗女(きんむねのむすめ・西園寺、歌人) E 1 6 7 4  
公宗室(きんむねのしつ・西園寺) → 竹向(たけむき、日野名子、実俊母、日記) 2 6 2 2



- E1673 **公宗母**(きんむねのは・西園寺、二条為世女、西園寺実衡の室)?-? 昭訓門院瑛子(龜山天皇妃)女房、女房名;春日かすが、1335公宗処刑後;遺児実俊とその母名子(竹向)とを庇護、歌人;1319文保百首参加、1321安福殿十五夜歌合/46貞和百首参加、続現葉集・臨永集・松花集・藤葉集(3首)など入集、勅撰39首;続千載(6首338/526/1046以下)続後拾(5首)風雅(6首)新千(7首)新拾(4首)以下、[わきてまた涼しかりけりみたらしや襖みそぎにふくる夜半の河風]、(続千;夏338/昭訓門院春日名)  
[文保百首歌奉りける時(1318)、よさの海や霞みわたれる夕なぎにたえだえみゆる天の橋立](藤葉;春22・海→浦)、広義門院対御方および「竹向が記」の二位殿と同一か?、二条為藤・為冬・為子らの姉妹
- E1674 **公宗女**(きんむねのむすめ・西園寺、公宗一女きんむねのいちじよ)?-? 南北期歌人;1343院六首歌合参加、1349光厳院三十六番歌合・1350仙洞御会参加/1364頃貞治一万首作者に入集、勅撰8首;風雅(5首160/708/1166/1183/1215)新千載(3首796/1375/1938)、実俊の姉妹  
[秋の雨の窓うつ音にききわびてねぞむるかべにともし火のかげ](風雅集;七秋708)
- E1675 **公宗三女**(きんむねのさんじよ・西園寺)?-? 南北期歌人、実俊の姉妹  
新千載1166(;中宮大夫公宗三女名)  
[うき人の心の関にうちもねで夢ぢをさへぞゆるさざりける](新千載;十二恋1166)
- E1676 **公宗二女**(きんむねのにじよ・西園寺)?-? 南北期歌人、1343院六首歌合作者(;権大納言公宗卿二女名)、  
[いく千代ぞこけむしにける松がねの変らぬいろをやどに契りて](院六首;七十六番右)
- R1686 **公城**(きんむら・徳大寺とくだいじ、実憲さねのり男/本姓藤原) 1729-8254 母;加藤泰常女、廷臣;1748従三位、学問;堀正義門、1754権大納言、57従二位/桃園天皇の近習、竹内たけのうち式部門;  
他の近習らと神学・儒書を受講;式部に桃園天皇へも進講させる、朝幕安定を図る関白一条道香により京都所司代に提訴;  
1758(宝暦8)竹内式部追放の宝暦事件に連座;  
正親町三条公積・烏丸光胤・坊城俊逸らと共に近習職・官位停止/永蟄居、1760出家;法名巒溪/1778赦免、1754「神宮上卿記」/1757-60「徳大寺公城手記」著、  
[公城の法名] 法名;巒溪、法号;金剛心院  
謹明(きんめい→のりあき・南部)→ 利濟(としただ・南部なんぶ、藩主) M 3 1 7 2
- W1605 **欽明天皇**(きんめいてんのう、継体天皇第3皇子) 509-57163 母;手白香皇女たしろかのひめみこ(仁賢天皇皇女)、在位539-571;在世中に仏教伝来・任那日本府滅亡、皇后;石姫皇女いしひめのひめみこ(宣化天皇皇女)、敏達・用命・崇峻・推古天皇・聖徳太子の父、  
[諡号]天国押波流岐広庭天皇(記)・天国排開広庭天皇(紀)・志埴嶋天皇・斯埴斯麻天皇
- I1628 **金毛**(きんもう・芳沢よしざわ) 1667-174680 江前中期京の俳人;方山・言水門、口語調、1723言水一周忌追福集「海音かいおん集」編、1702轍士「花見車」/03月尋「とてしも」入、1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、1729隆志「俳諧草結」入、  
[山王さんかうの桜は白し帆かけ舟](花見車;151/大津坂本日吉大社の桜と湖上の帆船)、  
[金毛(;号)の別号] 方設/芦充翁/芳充斎、言水堂2世
- R1688 **金毛**(きんもう;道号・元猊げんげい;法諱)?-? 江前期黄檗僧;法源門、1699嗣法、  
「法源禅師初山録」編  
金毛(きんもう・高島) → 尉之介(じょうのすけ・高島/高嶋、医者/俳) L 2 2 3 5  
金毛老人(きんもうろうじん) → 忍激(にんちやく;法諱、浄土僧) G 3 3 7 0  
金目大師(きんもくだいし) → 瀬平(せへい・林はやし/伊筒屋、錦織名手) L 2 4 4 2
- I1629 **公望**(きんもち・矢田部やたべ/姓;宿禰)?-? 平安中期廷臣;904-6紀伝学生;尚復/932大外記、  
従五下/阿波介・山城権守/936-43講博士;日本紀講書の講義、904「延喜公望私記」、936-43「日本紀承平私記」著、日本紀竟宴和歌に参加
- S1608 **公望**(公茂きんもち・巨勢こせ、金岡3男or公忠男)?-? 平安前期絵師;大和絵様式形成;公忠と共同、源氏物語絵合巻に[斎宮の伊勢下向に当り大極殿の議式の様を)公茂が仕うまつれる]、巨勢深江の父/広貴ひろたかの祖父
- R1689 **公持**(きんもち・清水谷しみずたに、号;柳原、実有男/本姓藤原) 1228-6841 母;平義持女、公藤きんぶじの兄、  
廷臣;1239左中将/42従三位権中納言/52権大納言/53正二位、「石清水行幸次第」著

- E1677 **公茂**(きんもち・きんしげ・三条/転法輪三条、太政大臣実重男/本姓藤原) 1284-1324<sup>41</sup> 母;中院通成女、1296従三位/1317内大臣、1319従一位、1303「公茂公記」、「恒明親王御降誕記」著、歌:勅撰4首;続千1480/1486/1885新千1559、  
[はかなくもこの世ばかりを契りけるまた逢ふまでも知らぬ命に](続千載;恋1480)  
[公茂の通称] 押小路内府、勅撰;押小路前内大臣の名  
公望(きんもち・小田村) → 麿山(ろくざん/ふざん・小田村/山本、儒者) 5 2 8 4
- R1690 **公基**(きんもと・藤原ふじわら、保家男) 1022-75<sup>54</sup> 母;菅原敦頼女、平中後期廷臣;1058(天喜6)正四下、内蔵頭、周防守/丹後守、歌人、妻;藤原範永女(和歌六人党の1)、伊家(1048-84)の父、1063(康平6)「丹後守公基朝臣歌合」主催(判者;範永のりなが)、  
[秋の野に玉とみえつつ白露の貫きかけぬ草のまぞなき](康平六年公基朝臣歌合;14)
- E1678 **公基**(きんもと・西園寺さいおんじ、実氏さねうじ男/本姓藤原) 1220-74<sup>55</sup> 母;典侍藤幸子(藤原親雅女)、後嵯峨廷臣;1236参議/42正一位/57右大臣、龜山上皇の後院別当、歌;百三十番歌合参、1251影供歌合参加、勅撰13首;続後撰(201/537/969)続古(4首287/569/962/1689)以下、  
[人知れず待たれしものを五月雨の空にふりぬるほととぎすかな](続後撰;201)、  
[公基(;名)の号] 京極右府/万里小路までのこうじ
- R1691 **公幹**(きんもと・深谷ふかや/ふかたに) 1741-89<sup>49歳</sup> 遠江相良藩士/田沼意次の家老、歌;冷泉家門、1764「駁斥非」著、長谷川安卿と交流、広通「霞関集」入、  
[散らさじと折りぞわづらふ垣根より咲きこぼれたる露の山吹](霞関;春193/折歌)、  
[公幹(;名)の通称] 一郎右衛門
- E1679 **公守**(きんもり・洞院とういん/正親町、洞院実雄男/本姓藤原) 1249-1317<sup>69</sup> 母;法印公審女従二位栄子、廷臣;1270権中納言/83権大納言/90内大臣/96従一位/99太政大臣/致仕/1305出家、「公守公上表記」著、歌人;1277五首歌会参加/1300内裏詩歌会始参加、勅撰24首;続拾遺(3首77/247/1050)新後撰(7首72/687/以下)玉(2首)続千(6首)以下、  
[折る袖もうつりにけりな桜花こぼれてにほふ春の朝露](続拾;春77/権中納言名)  
(山階入道左大臣家十首歌;寄露花)、  
早歌;1296?「宴曲集;雪」作詩(洞院前大相国家名)[吉田東伍説]  
[公守の通称]通称;山本相国、法名;素元、公宗・小倉公雄の弟/実泰の父、  
謹衛(きんもり・伊東) → 祐賢(すけかた・伊東いとう、藩士/教育) L 2 3 2 8
- E1680 **公守女**(きんもりのむすめ・洞院/入道前太政大臣[1249-1317]女、太政大臣実重の室)?-? 鎌倉後期歌人、勅撰8首;玉葉(3首1598/1709/1744)続千載(310/1649)風雅(1182/1754/2088)  
[あさみどり草の若葉と見し野辺のはや夏ふかく茂る比ころかな](続千載;夏310)、  
(作者名;山本入道前太政大臣女やまもとのにゅうどうさきのだいじょうだいじんのむすめ)
- R1692 **公師**(きんもろ・藪やぶ、保秀[季庸]男/本姓藤原) 1775-1821 母;広橋勝胤女、右近権中将/正四下、「公師朝臣記」「文政元年大嘗会」「文政度大嘗会記」著
- R1693 **金弥**(きんや・片山かたやま、名;正重/字;厚卿/号;静窓) 1788-1851<sup>64</sup> 岡山藩士/天文暦数;原田茂嘉門、経史;和田蘭石・万波醒廬門、1812読書師役雇/小姓/36藩命で幕府天文官渋川景佑門、天文暦学免許皆伝/幕命;景佑の助手、「極数術起源」「算法外秘録」「算法叢書」「時習算法」著  
金弥(きんや・岩井) → 笠沢(りゅうたく・岩井いらい/源、儒者) F 4 9 1 3  
金也(きんや・畑中) → 建得(たけり・畑中はたなか/齋藤、藩士/連歌) Y 2 6 9 9  
君弥(きんや・恵川) → 景雄(かげお・恵川えがわ、藩士/和算) K 1 5 8 1  
琴也(きんや・長島) → 琴成(ことなり・稲垣いながき、神職/歌) Q 1 9 3 4  
銀弥(ぎんや・阿久沢) → 篤行(あつゆき・阿久沢あくさわ、藩士/歌人) G 1 0 8 4
- S1665 **公保**(きんやす・藤原ふじわら/徳大寺、左大臣実能3男) 1131-76<sup>46</sup> 母;藤原通季女、平安後期廷臣、右大臣公能きんよし(1115-61)の弟、1149正五下右近権少将/51左近権少将/従四上/55正四下、1156右近権中将兼皇太后宮権大夫/57(保元2)非参議/58右兵衛督/正三位/60参議、1162右衛門督/65権中納言/大宮大夫/67(仁安2)従二位権大納言/70正二位/76出家;没、実保の父、歌;1155-56寂超「後葉ごよう集」/1165清輔[続詞花集]入(右衛門督名)、  
[結ぶ手も涼しかりけり水無月の岩間いほの水に秋やかよへる](後葉集;108、  
新院[崇徳天皇]にて人々歌を奏上のとき泉の辺に涼み詠)
- E1681 **公泰**(きんやす・洞院とういん、実泰男/本姓藤原) 1305-? 1359<sup>存</sup> 廷臣;1321参議/従三位/34権大納言、

1340致仕、1351南朝に参仕；大納言/右大臣/59出家、  
歌人、貞和百首入（；冷泉入道前右大臣名）、1345?小倉実教[藤葉集]3首入、  
1350「為世十三回忌和歌」出詠、  
勅撰12首；続後拾(683)風雅(4首349/871/931/1783)新続古(7首)、新葉45首（；4/11以下）、  
[もらさじと思へば袖に余るかな涙はつらきものにぞ有りける]、  
(続後拾；恋683/左衛門督公泰名)  
[うつろふもあだなる花のかり衣さのみ心をいかでそむらん](藤葉集；春66)

[公泰の通称/法名]通称；冷泉大納言、法名；覚元/覚玄、母；藤原兼頼女、公賢・公敏の弟

- E1682 **公保**(きんやす・三条西さんじょうにし/西三条、三条公豊男/本姓藤原、三条西実清養子) 1398-1460<sup>63</sup> 廷臣、  
1418参議/28権大納言/50内大臣/従一位/55出家、将軍義教寵臣、和歌所寄人、「武廂記」著、  
歌人；1434永享百首/50仙洞歌合参加(按察使名)、新続古4首113/789/1017/2108、  
連歌；新菟句波入、実隆の父、  
[あやなくや雲にまがへん見ずもあらずみもせぬ花に山路くらして](新続古；春113)、  
(新玉津島社三十首入/按察使公保名)

[公保の法名/通称]法名；縁空、通称；武者小路、法号；後称名院

近友(きんゆう・) → 近友(ちかとも、隨身/馬術) O 2 8 0 9  
近祐(きんゆう・曾我) → 近祐(ちかすけ・曾我/平、幕臣/書札) B 2 8 0 2  
琴雄(きんゆう・須佐) → 建眞(たてざね・須佐すさ、神職/国学者) X 2 6 6 3  
金雄津(きんゆうしん) → 雄津(ゆうしん・金きん、詩人) C 4 6 7 0

- E1683 **公行**(きんゆき・藤原ふじわら、初名；公輔、実行男/母；藤原頭季女) 1105-48<sup>44</sup> 廷臣；1137参議/42従三位、  
右兵衛督/播磨権守/越前権守、崇徳院近臣、今鏡に逸話、歌人；後葉集3首・続詞花集5首入、  
勅撰5首；詞花(10)千載(87/1077)新勅撰(160/314)  
[梅の花匂ひを道のしるべにてあるじも知らぬ宿にきにけり](詞花；春10/後葉；22)  
[新院(崇徳院)御時(在位1123-40)上の人々に歌よませさせ給ひけるに、  
嵐ふくしがの山べの桜花ちれば雲みにさざ波ぞ立つ](続詞花；春71)

- E1684 **公行**(きんゆき・今出川いまでがわ/本姓；藤原/菊亭、実直男) 1365-1421<sup>57</sup> 廷臣；左中將  
1381(永徳元)従三位/83参議/正三位/84従二位/備後権守/88(嘉慶2)権中納言/92南北合一、  
1395(応永2)正二位権大納言/98叙位執筆/99右大将兼任/1402内大臣/03(39歳)右大臣、  
1409(応永16)従一位/1411(応永18/47歳)左大臣；18(応永25)辞任、  
伏見宮貞成親王(後崇光院)を養育、琵琶；「公行公琵琶秘曲伝授之事」著、  
歌人；1406名所百番歌合/07内裏九十番歌合参加、後崇光院伏見殿歌合の常連、  
1400頃「菊葉和歌集」編纂(息子実富と共編か?)；60余首入、新続古集782、  
母(公行母)・妻(実富母)も歌人(菊葉集入)、実富・僧正円尋の父、  
[いく世ともかぎりはいはじ君がへむよはひをちぎれ庭の松が枝](新続古；賀782)、  
[公行の通称] 後今出川前左大臣のちのいまでがわさきのさだいじん、

- V1677 **公行母**(きんゆきのはは・今出川いまでがわ) ?-? 南北期；歌人/今出川実直(1342-96)の妻、  
[後愚昧別当記]には安藝守護武田信奉女(永和3[1377]実直室)、公行きんゆきの父、  
息子公行編[菊葉集]に12首入、  
[待ちわびてふけぬる夜半のかなしきは身をやうらみん人やかこたん](菊葉；恋1340)

- E1685 **公世**(きんよ・藤原、実俊男) ?- 1301 鎌倉期廷臣；1293従二位/侍従、箏の一流正統の嫡流、  
母；佐々木定綱女の春花門院大進、「従二位公世卿状箏伝来の事」、  
歌；勅撰4首；続拾遺(1180/1274)新後撰(257/502)、  
[たらちねの親のいさめのかたみとてならひし琴のねをのみぞなく](続拾遺；十八1274)

I1630 **琴誉**(きんよ・泰蓮社) ? - ? 1600?「謡抄」宗教注釈に参加

I1631 **欣誉**(きんよ) ? - ? 僧、1747盤察「小夜中山靈鏡記」序・補

公世(きんよ・三条西/西三条) → 実隆(さねたか・三条西、歌/古典学) 2 0 4 0

公代(きんよ・小倉) → 公連(きんつら・小倉おぐら/藤原、廷臣/歌) T 1 6 7 0

欽繇(きんよう・武田) → 梅菴(ばいりゅう・武田/篠田、儒者) C 3 6 2 0

- E1686 **公能**(きんよし・藤原ふじわら/徳大寺、実能男) 1115-61<sup>47</sup> 母；藤原頭隆あきたか女、平安後期廷臣；1138参議、  
1141従三位/48正一位、60(永暦元)右大臣、管絃・朗詠に長ず、父実能旧家人の西行と交流、



歌人;1131中殿御会/32内裏十五首歌会参加、1161(応保元)里内裏となり「詩歌会」催、  
1150久安百首・後葉集(2首)・続詞花集・今撰集・月詣集・万代集・秋風集・和漢兼作集入集、  
勅撰33首;詞花(194)千載(10首21/120/209/283/331/391/397/511/627/650)新古(1114)、  
新勅(156/253/738/996/1358)続後撰(631)続後拾(112/177)新千(124/2134)以下、  
[なぐさむるかたもなくてややみなまし夢にも人のつれなかりせば](詞花;恋194)、  
(崇徳天皇[1123-41在位]が殿上人を召し[寢覚の恋]を詠ませた際の詠/後葉332)  
[さをしかもひとりふしみの里にては物さびしとや鳴きあかすらむ](久安百首;秋146)、  
息子;実定・実家・実守・公衡、息女;多子(近衛天皇皇后)・忻子(きんし・後白河天皇中宮)、  
[公能の通称] 大炊御門右大臣おおいのみかどのうだいじん

V1696 **公良**(きんよし・菅原すがわら、為長男/公輔猶子) 1195-1260 66 母;中原師茂女、鎌倉期廷臣;  
1217文章得業生/右衛門少尉/中宮少進/1230左京権大夫/大内記/34長門守/39従四上、  
1242正四下/43大学頭/44文章博士/50(建長2)従三位非参議/正三位式部権大輔/氏長者、  
後深草・龜山天皇の侍読、1260(文応元)没、長貞・高長・長明・長円の兄弟/公長の父、  
詩人;1253(建長5)定家13回忌追善詩歌(為家勸進)に詩入、  
[火宅猶如三界道 露車遂頭一乘門](辟喩品/定家追善詩歌二十八品并九品;7)

I1632 **公好**(きんよし・藤原ふじわら) ? - ? 江前期;廷臣?/歌人;河瀬菅雄門、  
1682菅雄「麓の塵」37首入、  
[鳩の海や志賀の山本霞みけりさざ波こえて春やきぬらん](麓の塵;春9)、  
[子をうしなひ侍るに人のとぶらひければ、  
諸ともに是もあはれの数にきけ子を思ふやみのよはの友づる](麓の塵;哀傷552)

T1644 **公社**(きんよし・池永いけなが) 1821-1898 78 豊前宇佐八幡宮祠官;従四位、儒者/歌、  
[公社(;名)の通称/号]通称;伯耆守、号;貞山

公美(きんよし・龍たつりゅう) → 公美(きんえ・龍たつりゅう、詩歌) E 1 6 8 7

公義(きんよし、薬師寺) → 元可(げんか、武人/真言僧/歌人) B 1 8 3 5

E1689 **公頼**(きんより・橘たちばな、広相ひろみ男/母;惟風王の女) 877-941 65 平安前期廷臣;899叙爵/927参議、  
935大宰権帥/939中納言、高麗笛、歌;898宇多上皇獵競に右方参加/後撰637、新勅1282、  
[天雲に鳴きゆく雁の音にのみ聞き渡りつゝあふよしもなし](後撰;恋637)、  
兄弟;公材/公統、姉妹;宇多天皇女御義子、息子;敏仲/敏通/敏貞ら

E1688 **公資**(きんより/きんすけ・大江おおえ、清言男) ?-1040? 母;藤原伊周家女房?、  
叔父以言もちとき/よしとき(文章博士/歌人)の養子、平安中期廷臣;従四下1020相模守、妻:相模、  
1032頃遠江守;恋人を伴い赴任/妻相模と破局、後妻;中原奉平女、式部少輔/兵部大輔、  
広経(伊勢守)・永縁母の父、能因と交流/歌人;1035頼通歌合/35賀陽院水閣歌合参加、  
勅撰7首;後拾遺195/267/399金葉II 174/351/649千載1063、続詞花集入、  
[東路あづまぢの思ひいでにせんほととぎす老曾おその森の夜半のひとこゑ](後拾;夏195)、  
(1020相模守に赴任中近江老曾の森の時鳥を聞き詠む/妻相模を同道)  
[和泉式部が家につねづね方違へにまかれりけるに 出したる枕をあしたに返すとて、  
たびごとにかるもうるさし草枕手枕ならでかへさざらまし](続詞花;雑809)、

前妻 → 相模(さがみ、乙侍従、歌人) 2 0 1 1

男 → 広経(ひろつね・大江、廷臣/後拾遺歌人)

女 → 永縁母(えいえんのはは/ようえん、藤原永相ながすけ妻) 1 3 1 5

V1680 **公頼**(きんより・佐藤さとう/本姓;藤原、通称;左衛門) ?-? 鎌倉南北期廷臣/歌人;藤葉集入、  
[おもへども人にはいはぬ忍びねの枕にもるるなみだなるらん](藤葉;恋407)

R1694 **公頼**(きんより・三条/転法輪三条、実香さねか男/本姓;藤原) 1498-1551 54 廷臣;1514権中納言、  
1546(天文15)左大臣、従一位、  
1551周防山口にて陶隆房の襲撃;大内義隆に殉ず(二条尹房らと)、  
1523「伏見宮家続百首和歌」27「公頼公記」、「大永八年改元記」著、  
「後竜翔院前左大臣殿御記」著、  
[公頼の通称] 後竜翔院左大臣

公頼(きんより・高階) → 春帆(しゅんぱん・高階たかしな、漢学/詩人) K 2 1 4 1

公資女(きんよりのむすめ・大江) → 永縁母(えいえんのはは/ようえん、歌人) 1 3 1 5



- J1640 **金羅**(きんら・東とう/内田うちだ、通称;伝右衛門) 1744-9451 江戸俳人;楼川門、江戸貞山座点者、  
「追福四季句集」「山中庵自亭掛額四季混題折句集」、「吾妻童」編、「月並句集」編、  
[金羅(;号)の別号] 夜雪庵/峨眉山人/芳草林/田沙/桜風
- I1633 **琴雷**(きんらい・五橋亭、角田すみだ庄兵衛)?-? 江戸本所五ツ目渡船場の株主、  
初世歌川国貞(くにさだ、3世豊国/絵師)の父  
琴籟(きんらい・平出) → 延基(ながもと・平出ひらで、医者/国学) G 3 2 0 4  
琴籟(きんらい・石川) → 豊翠(じょうすい・石川、藩士/詩・書) T 2 2 7 0  
琴雷舎(きんらいしゃ) → 国貞(初世くにさだ・歌川、3世豊国/絵師) 1 7 2 9  
金楽(きんらく・南地亭、読本作者) → 其楽(きらく・南里亭) H 1 6 6 3
- E1690 **金埒**(きんらち・馬場ばば・銭屋) 1751-180757 江戸数寄屋橋外の両替商大坂屋主人、狂歌;元木網門、  
のち真顔と狂歌スキヤ連を結成、飯盛・真顔・頭光と共に狂歌四天王、1795「仙台百首」編、  
「芦荻集」「狂歌猿百首」「金埒狂歌集」編、「滄州楼家集」著、1782橘州「若葉集」20首入;  
[今更にくひてかへらぬ初鯉酔ふて天窓あたまもうづき朔日](狂歌若葉集)  
[金埒の通称/別号]通称;大坂屋甚兵衛、別号;銭屋金埒/物事明輔ものごとのあけすけ、  
黒羽二亭/滄洲楼/日頭庵、法号;釈浄清信士
- R1695 **金蘭**(きんらん・主しゅ) ? - ? 平安期漢学、「対策文二篇」経国(827成立)入  
金蘭斎(きんらんさい) → 蘭斎(らんさい・金こん、医/老荘思想家) C 4 8 1 3  
金蘭舎(きんらんしゃ) → 兄彦(えひこ・加賀かが/加藤、藩士/神職) U 1 3 0 6  
錦藍亭(きんらんてい) → 明之(てるゆき・香取、狂歌師) D 3 0 0 4
- S1668 **金利**(きんり・三谷みたに) ? - ? 江前期上方の俳人、  
1673西鶴「生玉万句」第七新酒第三句/第四子規発句等入、  
[外聞の挑灯ちやうちんともす月更けて](生玉万句;新酒第三句/月夜に提灯は世間への見栄、  
脇句一任;夜も長座敷祭客人)  
[是子規これきの一声送る風もがな](子規発句;これぐらいのほととぎすの声)
- E1691 **錦里**(きんり・伊藤いとう、名;縉/字;君夏、竜洲男) 1710-7263 儒;家学/福井藩儒;経書講説、詩、  
「邀翠館ようすいかん詩集」「邀翠館雑記」「尋山草」「尋海草」「香炉記」「越前世譜」「師心亭記」著、  
北海・僮叟の兄;伊藤三珠樹と称された、  
[錦里の通称/別号]通称;莊治/宗太郎、別号;鳳陽、法号;徳誉文恪宗玄居士
- R1696 **錦里**(きんり・真田さなだ、字;採蕭) ? - ? 江後期京高倉竹屋町の本草家、「本草薬名彙」著、  
[錦里の通称] 通称;平之助、滋野幸隆  
錦里(きんり・木下) → 順庵(じゅんあん・木下/平、幕府儒官/教育) 2 1 5 4  
錦里(きんり・藤田) → 貞栄(さだひで・藤田ふじた、暦算家) J 2 0 4 9  
琴里(きんり・丸山) → 株修(もとのぶ・丸山まるやま、宿老/書・歌) L 4 4 4 1  
近里(きんり) → 政明(まさあき・川喜田かわきた、歌人) B 4 0 1 0
- R1697 **吟里**(ぎんり) ? - ? 江中期1751-64頃羽前最上俳人;美濃派、  
1751蟬塚建立に壺中と尽力、51「せみ塚」編  
錦里山人(きんりさんじん) → 京楽(きょうらく・立亭りゅうてい、人情本) H 1 6 0 3
- J1608 **金竜**(きんりゅう・安井やすい、名;儀ぎ、維允男) 1742/8-9756/50 福岡藩儒;父門/長野一徳門、  
1777藩文学、1783藩校修猷館訓導/86支藩秋月黒田長舒の侍読/90福岡藩主斉隆の侍読、  
1792近侍班頭、「祭儀学則」著、「金竜遺稿」、  
[金竜の字/通称/別号]字;民則、通称;三蔵、別号;蓋山  
金竜(きんりゅう) → 昌周(しょうしゅう・阪/坂、幕府連歌師) S 2 2 9 1  
金竜(きんりゅう・大海舎;戯作、橋本貞秀;画) → 玉蘭斎(ぎょくらんさい) D 1 6 1 1  
金竜(きんりゅう・為永、講釈師) → 春水(しゅんすい・為永、人情本作者) 2 1 6 1  
琴流(きんりゅう・横井) → 時成(ときなり・横井よこい、藩士/俳人) J 3 1 6 5  
金竜庵(きんりゅうあん) → 鳥酔(ちようすい・白井、俳人) 2 8 2 4  
金竜院(きんりゅういん) → 斉広(なりなが・前田まえだ、藩主/謡曲) H 3 2 8 8  
金竜山下隠士(きんりゅうさんかいんし) → 振鷺亭(しんろてい、戯作者) 2 2 3 2  
金竜山人(きんりゅうさんじん) → 春水(しゅんすい・為永、戯作者) 2 1 6 1

- 金竜山人(きんりゅうさんじん) → 谷峨(2世こくが・梅暮里うめぼり、戯作/音曲) C 1 9 3 5  
 金竜寺宮(きんりゅうじのみや) → 恒助法親王(こうじよほっしんのう、円満院門跡) B 1 9 3 9  
 金竜叟(きんりゅうそう) → 水月(すいげつ:号、僧/歌人) E 2 3 4 1  
 金竜亭主人(きんりゅうていしゅじん) → 春水(初世しゅんすい・為永、人情本作者) 2 1 6 1  
 金竜洞閑人(きんりゅうどうかんじん) → 苔翁(初世たいおう・古寿衣、俳人) B 2 6 0 5  
 金竜道人(きんりゅうどうじん) → 敬雄(けいゆう・きょうおう;法諱・韶鳳;字、天台僧/詩人) D 1 8 6 5
- E1692 金陵(きんりょう・半井なからい、別号;後々栄軒蓄伝/壮健翁)?-? 江中期大阪周防町の浮世草子作者、芝居通、町人用教訓書/実用書も執筆、1769「敵討天神利生記」「名玉天地説」著、1770「世間化物気質」71「分限玉の礎」72「財宝速蓄伝」「世間自慢顔」/77「当世芝居気質」著
- R1698 謹良(きんりょう) ? - ? 京の俳人;1777江涯こうがい「仮日記」入、[岩面いはつらや段々落つる春の水](仮日記;95/雪解け水が岩肌を流れ落ちる)
- R1699 金陵(きんりょう・末包すえかね、名;時亮/字;君卿)?-? 江中期讃岐の儒者、後藤芝山と交遊、1844「国語解附国語十二律注正誤」、「金陵雜記」「論語解」「春秋左氏伝解」「辨語断」著
- E1693 金陵(きんりょう・芳野よし、名;世育/育、字;叔果、南山男)1802-7877 下総松崎の儒者;亀田綾瀬りょうらい門、1826江戸浅草に開塾、1847駿河田中藩儒員;老中に海防論建言/財政・教育改革、62昌平黌儒官、「金陵文鈔」「金陵詩鈔」「譚故書余」「拾遺未定伝」「村松藤吉郎復讐始末」著、復堂/桜陰の父、[金陵の通称/別号] 通称;愿三郎/立蔵、別号;匏宇ほうう
- S1615 金陵(きんりょう・奥山おくやま、名;家憲、神田かんだ松斎男)1807-6660 伊勢山田の医者;竹中南峯/華岡清洲門、開業医、経書;松本愚山門/詩文;広瀬淡窓門/画;藤本鉄石門、「医事漫録」編、[金陵の字/通称/別号]字;叔章、通称;中書、別号;桃陰/閑窓
- I1636 琴凌(きんりょう・宝井) ? - ? 講釈師:「国定忠次」「天保水滸伝」など創作
- 金良(きんりょう・藤田) → 惇斎(じゅんさい・藤田ふじた、書家) K 2 1 7 5  
 金陵(きんりょう・蒔田) → 暢斎(ちやうさい・蒔田/田/秦/畑井、書家) I 2 8 3 7  
 錦陵(きんりょう・志津野) → 拙三(せつぞう・志津野しづの、藩士/神職) O 2 4 1 6  
 菫陵(きんりょう・近藤) → 順衡(のぶひら・近藤こんどう、藩士/歌人) I 3 5 4 9  
 謹良(きんりょう・大鶴) → 定香(さだか・大鶴おおつる、医者/詩人) H 2 0 8 6  
 錦綾閣(きんりょうかく) → 助叟(じょそう・片山かたやま、俳人) C 2 2 7 6  
 金陵斎(きんりょうさい) → 玉山(ぎょくざん・岡田、絵師) D 1 6 0 0  
 錦綾室(きんりょうしつ) → 大圭(大径たいけい・児島こじま、俳人) B 2 6 2 7
- J1609 金鱗(きんりん・児玉こたま、名;宝/利貞)1668-174881 薩摩出水郡市来の人/儒;深見玄岱門、能書、詩学、鹿児島藩士/藩主侍講、「梅花百詠」、「梅庵詩稿」著、[金鱗の字/別号]字;宗因、別号;梅庵/霽月堂せいげつどう、法号;不二庵膳山梅門庵主
- 金鱗舎(きんりんしゃ) → 士前(しぜん・永井ながい、庄屋/俳人) U 2 1 1 8  
 金廩堂(きんりんどう) → 元知(もととも・佐藤、藩士/兵学/心学) D 4 4 3 5
- I1641 琴嶺(きんれい・佐野さの、名;元方、琴台男/琴壑きんかく孫)?-1862 備中岡田藩士/漢学;神吉東郭門、安積良斎門/祖父の跡継承;藩校敬学館教授、兵学(越後流兵法);深川惣右衛門門、1862藩主伊東長裕の招きで江戸赴任中駿河吉原で客死、「掌中名物箋」「西帰贅言」「蒙語」、「伊勢物語評註」「孫子講義」「孫子国字解大概」「韓非子私考」1841「西帰紀行」著、[琴嶺の字/通称]字;子順、通称;小介/元一
- 金嶺(きんれい・滝沢、宗伯、馬琴男) → 興継(おきつぐ・滝沢、医者) B 1 4 4 4  
 金嶺(きんれい・上田/紀) → 千風(ちかぜ・上田/紀、材木商/国学/歌) B 2 8 0 7  
 金令(きんれい・金令舎) → 道彦(みちひこ・鈴木/村上、医者/俳人) 4 1 1 5  
 近礼(きんれい・秋山) → 富南(ふなん・秋山あきやま、郷土/地誌) D 3 8 5 7  
 近嶺(近隣きんれい・沢) → 近嶺(ちかね・ちかみね・沢/谷沢、商家/歌文) B 2 8 5 0  
 金嶺(きんれい・上田/紀) → 千風(ちかぜ・上田/紀、国学) B 2 8 0 7  
 金令閣(きんれいかく) → 梅壽(ばいじゅ・梅沢うめざわ、書肆/俳人) B 3 6 4 4  
 金令舎(きんれいしゃ) → 応々(おうおう・金令舎、鈴木、俳人) 1 4 0 0

- 琴嶺舎(きんれいしゃ) → 興継(おきつぐ・滝沢宗柏、医者/文筆) B 1 4 4 4  
 銀鈴亭(ぎんれいしゃ) → 半九(はんく・五返舎ごへんしゃ、戯作者) H 3 6 4 3  
 吟蓮社竜誉(ぎんれいしゃりゅうよ) → 靈雲(れいうん;法諱、浄土僧) 5 1 1 3  
 金翎堂(きんれいどう) → 正阿(しょうあ/せいあ・河合、医者/俳人) Q 2 2 7 0
- I1637 **琴路**(きんろ・白崎、幼名;源次郎) 1716-9075 越前敦賀の酒造業/問屋、俳人:二柳門、  
 素竜清書「ほそ道」原本を師に披見、「落柿舎記」所有、1755自宅で俳席催、61「白頭鴉集」編、  
 [琴路の通称/別号]通称;庄次郎/瀬兵衛、別号;錦溪舎/白鳥はく山人/序睡、法号;応声院
- J1646 **琴呂**(きんろ) ? - ? 江中期江戸俳人、1742「続の筏」編  
 琴驢(きんろ・節亭、馬琴門読本作者) → 山鳥(さんちよう・岡) E 2 0 5 7  
 近路行者(きんろぎょうじゃ) → 庭鐘(ていしょう・都賀つが、医/儒者/読本) B 3 0 2 0  
 金六(きんろく・伊野部) → 広門(ひろかど・伊野部いのべ、国学者) L 3 7 0 9
- R1687 **吟和**(ぎんわ) ? - ? 江前期俳人、1691不角「二葉之松」入(441)  
 [世を捨てて住まん喜撰が跡屋敷](二葉之松;441/喜撰法師にあやかりたい)